

目 次（ 2025年度専門科目 ）

<岡山キャンパス>

日本語表現Ⅰ〔BC留学生用〕	1
日本語表現Ⅰ〔秋留学生〕	2
日本語表現Ⅱ〔BC秋入学用〕	3
日本語表現Ⅱ〔BC留学生用〕	4
統計学基礎	5
日本国憲法	7
現代企業論	8
労働法規	9
労働安全衛生法	10
法学概論	11
基礎ゼミナールⅠ〔通年〕PS用	12
非認知能力育成Ⅱ	13
次世代教育学〔FC〕	15
保育原理	16
保育者論	18
教育の思想と原理	19
英語科教育法Ⅰ(基礎)	20
英語科教育法Ⅱ(応用)	21
社会的養護Ⅰ	22
社会的養護Ⅱ	24
特別活動の指導法〔FE用〕	25
特別活動の指導法〔FE用〕	26
特別活動の指導法〔FC,PP,PS組用〕	27
英語科教育法Ⅲ(発展)	28
英語科教育法Ⅳ(実践)	29
道德教育の理論及び指導法〔PP2331組用〕	30
道德教育の理論及び指導法〔PP2332組用,FC用〕	33
道德教育の理論及び指導法〔PP2333組用,FC用〕	36
道德教育の理論及び指導法〔FE2321組用〕	39
道德教育の理論及び指導法〔FE2322組用〕	42
総合的な学習の時間の指導法〔FC,PP,PS組用〕	45
総合的な学習の時間の指導法〔FE2422組用〕	46
総合的な学習の時間の指導法〔FE2421組用〕	47
教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)〔FC用〕	48
教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)〔FE用〕	50
教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)〔PP用〕	52
器楽演習Ⅰ〔FC2521〕	54
器楽演習Ⅰ〔A〕	56
器楽演習Ⅰ〔B〕	58
器楽演習Ⅰ〔C〕	60
器楽演習Ⅰ〔A〕	62
器楽演習Ⅰ〔B〕	64
器楽演習Ⅰ〔C〕	66
器楽演習Ⅱ〔A〕	68
器楽演習Ⅱ〔B〕	69
器楽演習Ⅱ〔C〕(不開講)	70
器楽演習Ⅱ〔A〕	71
器楽演習Ⅱ〔B〕	72
器楽演習Ⅱ〔C〕	73
器楽演習Ⅱ〔FC2422〕	74
器楽演習Ⅱ〔FC2421〕	76
器楽演習Ⅲ〔FC〕	78
器楽演習Ⅳ〔FC〕	80
図画工作Ⅱ	82
図画工作〔FC2521〕	83
図画工作〔FC2522〕	84
衣・食・住の理解〔FE2431組用〕	85
衣・食・住の理解〔他学科用〕	87
衣・食・住の理解〔FE2432組用〕	89
衣・食・住の理解〔FE2433組用〕	91
美術の理解〔FE2433組用〕	93
美術の理解〔FE2431組用〕	94
美術の理解〔FE2432組用〕	95
音楽の理解〔FE2433組用〕	96
音楽の理解〔FE2431組用〕	97
音楽の理解〔FE2432組用〕	98
数の理解	99
言葉の理解〔FE2522組用〕	100
言葉の理解〔FE2521組用〕	102

目 次（ 2025年度専門科目 ）

自然の理解 [FE2532組用]	104
自然の理解 [FE2531組用]	106
自然の理解 [他学科]	108
自然の理解 [FE2533組用]	110
社会の理解 [FE2531組用]	112
社会の理解 [FE2532組用]	113
社会の理解 [FE2533組用]	114
生活の理解	115
運動・健康の理解 [FE2422組用]	116
運動・健康の理解 [FE2421組用]	117
英語の理解 [FE2522組用]	118
英語の理解 [FE2521組用]	119
発達心理学	120
教育社会学	121
教育心理学	123
教育相談(初等)	124
教育相談(中等)	126
自立活動実践論	128
特別支援教育	130
知的障害児の心理・生理・病理《連続》	132
肢体不自由児の心理・生理・病理	133
病弱児の心理・生理・病理《連続》	134
知的障害児教育Ⅰ	136
知的障害児教育Ⅱ	138
発達障害児教育総論 [FE用]	140
発達障害児教育総論 [他学科]	141
肢体不自由児教育	143
病弱児教育	145
重複障害児教育総論	147
障害児教育相談と心理アセスメント	148
教育の諸問題	150
社会学概論	151
時事英語	153
異文化コミュニケーション論	154
異文化コミュニケーション	156
英語文学	158
英語文学史	159
英語文法 [英語教員希望者限定]	160
比較文化論	161
国際関係論	162
上級英語文法 [英語教員希望者限定]	163
アジア太平洋のビジネス環境	164
上級オーラルコミュニケーション	165
体育原理 [PP1年生以外用]	166
体育原理 [PP用]	168
健康科学概論	170
体育心理学 [PP/PH4年生用]	171
体育心理学 [PP/PH4年生用]	172
発育と発達	173
体育行政学	174
体育社会学	176
スポーツバイオメカニクス [A]	178
スポーツバイオメカニクス [B]	180
スポーツバイオメカニクス	182
スポーツ栄養学 [PS用]	184
スポーツ栄養学 [トレーナー資格取得予定者]	185
スポーツ栄養学	186
体育史	187
運動生理学	189
運動生理学	191
スポーツ文化論	193
スポーツ生理学	194
運動生理学演習Ⅰ	195
運動生理学演習Ⅱ	196
英語学概論	197
4技能統合型英語Ⅰ（基礎）	198
解剖学Ⅰ [PH2025年度生用]	199
生理学Ⅰ [再履修用]	201
公衆衛生学Ⅰ	202
基礎柔道整復学Ⅰ(総論)	203
基礎柔道整復学Ⅱ(骨折)	204
病理学Ⅰ	205
運動学特論A	206
基礎柔道整復学Ⅲ(脱臼)	207
基礎柔道整復学Ⅳ(捻挫)	208
運動学特論B	209
柔道整復解剖生理演習Ⅰ	210
柔道整復解剖生理演習Ⅱ	211

目 次（ 2025年度専門科目 ）

柔道整復解剖生理演習Ⅳ [不開講]	212
基礎柔道整復学Ⅴ (保存療法)	213
経営学概論	214
経済学概論	215
マーケティング総論	216
簿記入門	218
世界経済論	219
ビジネスデータ分析	220
プロジェクト研究	222
SDGs入門	224
都市計画論	226
プロジェクト・ゼロ	228
地域政策論 [2・3・4年生用]	230
ビジネス心理学	232
データサイエンス入門 [BC用]	234
スポーツデータサイエンス入門 [PS用]	235
スポーツデータサイエンス入門 [PP用]	236
映画とテレビの英語	237
英語のリズムとイントネーション	238
特別支援教育論	240
英語教授法特論	241
教育評価	242
学校経営と学校図書館	243
学校図書館メディアの構成	244
学習指導と学校図書館	245
読書と豊かな人間性	246
情報メディアの活用	247
算数科教育法 [FE2433組用]	248
算数科教育法 [FE2431組用]	249
算数科教育法 [FE2432組用]	250
算数科教育法 [他学科B]	251
算数科教育法 [他学科A]	252
社会科教育法 [FE2432組用]	253
社会科教育法 [FE2433組用]	254
社会科教育法 [FE2431組用]	255
社会科教育法 [他学科A]	256
社会科教育法 [他学科B]	257
音楽科教育法 [FE2332組用]	258
音楽科教育法 [FE2331組用]	260
音楽科教育法 [FE2333組用]	262
音楽科教育法 [他学科用]	264
国語科教育法 [他学科A]	266
国語科教育法 [他学科B]	268
国語科教育法 [FE2432組用]	270
国語科教育法 [FE2433組用]	272
国語科教育法 [FE2431組用]	274
理科教育法 [FE2431組用]	276
理科教育法 [FE2433組用]	278
理科教育法 [他学科3年水3]	280
理科教育法 [他学科3年水4]	282
理科教育法 [FE2432組用]	284
家庭科教育法 [他学科A]	286
家庭科教育法 [他学科B]	288
家庭科教育法 [FE2333組用]	290
家庭科教育法 [FE2331組用]	292
家庭科教育法 [FE2332組用]	294
生活科教育法 [FE2331組用]	296
生活科教育法 [FE2332組用]	298
生活科教育法 [FE2333組用]	300
生活科教育法 [他学科A]	302
生活科教育法 [他学科B]	304
体育科教育法 [FE2332組用]	306
体育科教育法 [FE2331組用]	308
体育科教育法 [FE2333組用]	310
体育科教育法 [他学科]	312
図画工作科教育法 [他学科A]	313
図画工作科教育法 [他学科B]	314
図画工作科教育法 [FE2333組用]	315
図画工作科教育法 [FE2332組用]	316
図画工作科教育法 [FE2331組用]	317
小学校英語科教育法 [FE2333組用]	318
小学校英語科教育法 [FE2332組用]	320
小学校英語科教育法 [FE2331組用]	322
小学校英語科教育法 [他学科B]	324
小学校英語科教育法 [他学科A]	326
教育実践学Ⅰ（青年教師塾）	328
教育実践学Ⅱ（応用）（青年教師塾）	329
理科実験の指導法Ⅰ（理科教師塾）	330

目 次（ 2025年度専門科目 ）

理科実験の指導法Ⅱ（理科教師塾）	331
子ども家庭支援の心理学	332
幼児心理学Ⅰ	333
幼児心理学Ⅱ	334
幼児心理学Ⅲ	335
保育内容総論	336
子どもとマルチメディア [A]	338
子どもとマルチメディア [B]	339
社会福祉学	340
乳児保育Ⅰ	341
乳児保育Ⅱ [A]	342
乳児保育Ⅱ [B]	343
子ども子育て教育相談	344
保育内容「健康」指導法	345
保育内容「言葉」指導法	347
保育内容「人間関係」指導法	348
保育内容「環境」指導法	350
保育内容「身体表現」指導法	352
保育内容「造形表現」指導法 [FC2421組用]	353
保育内容「造形表現」指導法 [FC2422組用]	354
保育内容「音楽表現」指導法 [FC2422組用]	355
保育内容「音楽表現」指導法 [FC2421組用]	356
幼児と健康	357
幼児と言葉	358
幼児と人間関係	360
幼児と環境	361
幼児と表現	362
子どもの理解と援助	363
子ども家庭福祉	365
障害児保育	366
子どもの食と栄養 [FC]	367
子どもの保健	369
子ども家庭支援論	370
運動学	372
スポーツメンタルトレーニング論	373
トレーニング論Ⅰ(基礎)	374
トレーニング論Ⅱ(応用)	375
スポーツ心理学 [PP/PH1～3年生用]	376
スポーツ心理学 [PP/PH1～3年生用]	377
スポーツ心理学 [PS用]	378
スポーツ心理学 [PP4年生以上かつAT希望者用]	379
スポーツアナリティクスⅠ	380
スポーツアナリティクスⅡ	381
スポーツバイオメカニクス実習	382
スポーツマネジメント演習	383
スポーツマネジメント実践論	385
スポーツ科学入門 [PS用]	386
スポーツ科学入門 [PP用]	388
スポーツ経営学入門	390
スポーツ健康演習	391
スポーツ産業論	392
コーチング論	393
トレーナー論	394
健康管理概論〔抽選あり〕	395
公衆衛生学	396
生理学	398
解剖生理学	399
病理学	400
解剖・生理学実習Ⅰ	401
解剖・生理学実習Ⅱ	402
スポーツ健康実習〔健康運動実習PH4年生用〕	403
トレーニング指導実習	404
サービ斯拉ーニングⅠ	405
サービ斯拉ーニングⅡ	406
サービ斯拉ーニングⅢ	407
サービ斯拉ーニングⅣ	408
アスリートキャリアI(クロスオーバースキル)	409
競技スポーツアナリティクス演習A（レース分析）	410
競技スポーツアナリティクス演習B（ゲーム分析）	412
競技スポーツ栄養学演習A(体調管理)	413
競技スポーツ心理学演習A(競技能力心理検査)	414
障害者スポーツ論	415
スポーツイベント論〔eスポーツ〕	416
スポーツ経営学	417
スポーツメディア論 [BC用]	418
レクリエーション論	420
スポーツマーケティング論	421
スポーツ施設論	422

目 次（ 2025年度専門科目 ）

総合型地域SC運営演習	423
保健体育科指導法Ⅱ(応用) [再履修者用+他学科]	424
保健体育科指導法Ⅱ(応用) [PP]	426
学校保健 [A]	427
学校保健 [B]	428
保健体育科指導法Ⅲ(発展) [PP]	429
保健体育科指導法Ⅲ(発展) [PP]	431
保健体育科指導法Ⅳ(実践) [PP]	433
保健体育科指導法Ⅳ(実践) [PP+他学科]	434
保健体育科指導法Ⅳ(実践) [PP+他学科]	436
スポーツのリスクマネジメント	438
武道指導論 [柔道]	440
武道指導論 [剣道]	441
武道指導演習Ⅰ(基礎)	442
武道指導演習Ⅱ(応用)	444
日本語教育概論Ⅰ	446
日本語教育概論Ⅱ	447
文章作成	449
総合日本語Ⅰ(基礎) [BC留学生用]	451
総合日本語Ⅱ(応用) [BC秋入学生用]	453
総合日本語Ⅱ(応用) [BC留学生用]	455
日本ビジネス事情	457
言語学	458
日本語学Ⅰ	459
日本語学Ⅱ	460
社会言語学	461
日本語教授法Ⅰ	462
日本語教授法Ⅱ	463
日本語評価法	464
生理学Ⅱ [再履修用]	465
公衆衛生学Ⅱ	466
臨床柔道整復学Ⅰ(骨折Ⅰ)	467
外科学Ⅰ	469
外科学Ⅱ	470
内科学Ⅰ	471
内科学Ⅱ	472
臨床柔道整復学Ⅱ(骨折Ⅱ)	473
臨床柔道整復学Ⅲ(脱臼)	474
病理学Ⅱ	475
整形外科学Ⅰ	476
整形外科学Ⅱ	477
リハビリテーション医学Ⅰ	478
リハビリテーション医学Ⅱ	480
関係法規	482
臨床柔道整復学Ⅳ(捻挫)	483
臨床柔道整復学Ⅴ(軟部組織Ⅰ)	484
臨床柔道整復学Ⅵ(軟部組織Ⅱ)	485
臨床柔道整復学Ⅶ(臨床応用)	486
臨床柔道整復学演習Ⅰ	487
臨床柔道整復学演習Ⅱ	488
臨床柔道整復学演習Ⅲ	490
柔道整復治療学	492
経営組織論	493
経営戦略論	495
中小企業論	496
人的資源論	497
国際経営論	499
イノベーション論	500
ベンチャー企業論	501
経営情報論	502
企業経営実践論Ⅰ	504
企業経営実践論Ⅱ	506
ビジネス特別講義Ⅰ	508
ビジネス特別講義Ⅱ	510
ミクロ経済学	512
マクロ経済学	513
国際経済学	514
経済政策論	516
応用ミクロ経済学	517
応用マクロ経済学	518
地方自治論	519
公共経営セミナー	521
公共経営論	522
行政法Ⅰ	524
行政法Ⅱ	525
行動経済学	526
経済情報処理	528
簿記演習	530

目 次（ 2025年度専門科目 ）

工業簿記	531
原価計算	532
管理会計	533
財務会計	534
金融論	535
簿記論Ⅰ	536
簿記論Ⅱ	537
会計演習Ⅰ	538
流通論	539
民法Ⅰ	540
民法Ⅱ	541
消費者行動論	542
マーケティング特論	543
マーケティングリサーチ	545
会社法	547
企業取引法	548
情報分析論	549
ブランド戦略論	551
税法	553
社会調査法	555
社会調査法 [FE用]	556
ダンスⅠ (基礎) [PH・PP・PS女子用]	557
ダンスⅠ (基礎) [PP・PS男子用]	558
ダンスⅠ (基礎) [PP・PS男子用]	559
ダンスⅠ (基礎) [PP・PS男子用]	560
ダンスⅠ (基礎) [他学科用]	561
バスケットボールⅠ (基礎)	562
バスケットボールⅠ (基礎)	563
バスケットボールⅠ (基礎)	564
バスケットボールⅠ (基礎)	565
バレーボールⅠ (基礎) [他学科+PP3年以上用]	566
バレーボールⅠ (基礎) [PP・PS用]	567
バレーボールⅠ (基礎) [PP・PS用]	568
バレーボールⅠ (基礎) [他学科+PP3年生以上]	569
バレーボールⅠ (基礎) [PP・PS用]	570
ハンドボールⅠ (基礎)	571
ハンドボールⅠ (基礎)	572
陸上Ⅰ (基礎) [他学科+PP2年生以上]	573
陸上Ⅰ (基礎) [PP男子用]	574
陸上Ⅰ (基礎) [PP女子用、他学科+PP2年生以上]	575
陸上Ⅰ (基礎) [PS用]	576
陸上Ⅰ (基礎) [PP男子用]	577
柔道Ⅰ (基礎) [PP・PS男子用]	578
柔道Ⅰ (基礎) [PP・PS男子用]	580
柔道Ⅰ (基礎) [次世代女子・PP女子・PS女子用]	582
柔道Ⅰ (基礎) [PP・PS女子用]	584
柔道Ⅰ (基礎) [PP・PS男子用]	586
柔道Ⅰ (基礎) [PH男子用]	588
柔道Ⅰ (基礎) [PH女子用]	590
柔道Ⅰ (基礎) [次世代男子用]	592
剣道Ⅰ (基礎) [PP1年生男子用]	594
剣道Ⅰ (基礎) [2年生以上男子用]	596
剣道Ⅰ (基礎)	598
水泳Ⅰ (基礎) [PH用]	600
体づくり運動 [2年用以上]A	601
体づくり運動 [2年用以上]B	602
体づくり運動 [2年用以上]C	603
サッカー [PP・PS男子用]	604
サッカー [PP・PS男子用]	605
サッカー [PP・PS女子用]	606
サッカー [PP・PS女子用]	607
ソフトボール [PP・PS男子用]	608
ソフトボール [PP・PS男子用]	610
ソフトボール [PP・PS男子+他学科男子]	612
ソフトボール [PP・PS男子+他学科男子]	614
ソフトボール [PP・PS女子+他学科女子用]	616
ソフトボール [PP女子+他学科女子用]	618
器械運動Ⅰ (基礎)	620
器械運動Ⅰ (基礎)	621
器械運動Ⅰ (基礎)	622
器械運動Ⅰ (基礎)	623
器械運動Ⅱ (応用)	624
バレーボールⅡ (応用)	625
ハンドボールⅡ (応用)	626
陸上Ⅱ (応用)	627
柔道Ⅱ (応用) [PP・PS男子用]	629
柔道Ⅱ (応用) [PP・PS女子用]不開講	630
柔道Ⅱ (応用) [PH男子用]	631

目 次（ 2025年度専門科目 ）

柔道Ⅱ(応用) [PH女子用]	632
柔道Ⅱ(応用) [PP・PS男子用]	633
剣道Ⅱ(応用)	634
整復学実技Ⅶ(総合)	635
剣道Ⅲ(発展)	637
雪上スポーツ [不開講]	639
インクルーシブスポーツ [アダプテッドスポーツ]	640
インクルーシブスポーツ [レスキュースノーケラー用]	642
スタジオエクササイズ	643
防災キャンプ	644
教育実習Ⅰ(幼稚園)	646
教育実習Ⅱ(幼稚園)	647
教育実習Ⅰ(小学校)《通年》	648
教育実習Ⅰ(中学校・高等学校) [英語]	649
教育実習Ⅰ(中学校・高等学校) [保健体育]	650
教育実習Ⅱ(中学校) [英語]	651
教育実習Ⅱ(中学校) [保健体育]	652
教育実習Ⅱ(小学校)《通年》	653
介護等体験実習 《通年》	654
教育実習事前・事後指導(幼稚園)	655
教育実習事前・事後指導(英語)《通年》	656
教育実習事前・事後指導(保健体育)	657
日本語教育実習Ⅰ	659
日本語教育実習Ⅱ	660
日本語教育演習Ⅰ	661
日本語教育演習Ⅱ	662
特別支援教育実習事前・事後指導	663
特別支援教育実習	665
保育実習Ⅱ(保育所)	666
保育実習Ⅲ(施設)	667
保育実習指導Ⅰ A(保育所)	668
保育実習指導Ⅰ B(施設)	669
保育実習Ⅰ A(保育所)	670
保育実習Ⅰ B(施設)	671
保育実習指導Ⅱ(保育所)	672
保育実習指導Ⅲ(施設)	673
海外研修	674
国際交流実習Ⅰ(基礎)	675
国際交流実習Ⅱ(応用) [秋入学生用]	677
国際交流実習Ⅱ(応用) [秋入学生用]	678
学校支援ボランティア [小学校ボランティア]	679
学校支援ボランティア [小学校ボランティア]	681
インターンシップ [PP]	683
インターンシップ [FC]	684
キャンプ実習 [PP1年生用]	685
キャンプ実習 [PP3年生以上用]	686
キャンプ実習 [PS1年生用]	687
健康運動実習 [健康運動指導士用]	689
健康運動実習 [PH用]	690
アスレティックトレーナー実習Ⅰ [PP・PS用]	692
アスレティックトレーナー実習Ⅰ [PH用]	694
アスレティックトレーナー実習Ⅱ [PH2025年度生]	696
アスレティックトレーナー実習Ⅱ [PH用]	698
アスレティックトレーナー実習Ⅱ [PP・PS用]	700
アスレティックトレーナー実習Ⅲ	702
アスレティックトレーナー実習Ⅳ	703
特別講義Ⅰ [大学院向け]	705
フィールドワーク	706
インターンシップⅠ [FE]	708
インターンシップⅠ [BC]	709
幼児体育指導法Ⅰ	711
幼児体育指導法Ⅱ	712
幼児体育指導法Ⅲ	713
保育マネジメント演習Ⅲ	715
保育マネジメント演習Ⅳ	717
教職実践演習 [幼保]	718
教職実践演習 [中高保体]	719
教職実践演習 [小学校]	720
教職実践演習 [中高英語]	721
フィールドラーニングⅠ	722
資格検定対策Ⅰ(語学系) [BC留学生用]	723
資格検定対策Ⅰ(語学系) [BC日本人生用]	724
資格検定対策Ⅰ(語学系) [BC日本人生用]	725
資格検定対策Ⅱ(情報系)	726
資格検定対策Ⅴ (ICTスキル系)	727
現代経営実践演習基礎Ⅰ	728
現代経営実践演習基礎Ⅱ	729
現代経営実践演習基礎Ⅲ	730

目 次（ 2025年度専門科目 ）

卒業研究 [FE]	731
卒業研究 [BC]	732
卒業研究 [BC]	733
卒業研究 [BC]	734
卒業研究 [BC]	735
卒業研究 [BC]	736
卒業研究 [BC]	737
卒業研究 [BC]	738
卒業研究 [BC]	739
卒業研究 [BC]	740
卒業研究 [BC]	741
卒業研究 [BC秋入学生用]	742
ゼミナールⅠ (基礎)	743
ゼミナールⅠ (基礎)	744
ゼミナールⅠ (基礎)	745
ゼミナールⅠ (基礎)	746
ゼミナールⅠ (基礎)	747
ゼミナールⅠ (基礎)	748
ゼミナールⅠ (基礎)	749
ゼミナールⅠ (基礎)	750
ゼミナールⅠ (基礎)	751
ゼミナールⅠ (基礎)	752
ゼミナールⅠ (基礎)	753
ゼミナールⅠ (基礎)	754
ゼミナールⅠ (基礎)	755
ゼミナールⅠ (基礎) [秋入学生用]	756
ゼミナールⅡ (応用)	757
ゼミナールⅡ (応用)	758
ゼミナールⅡ (応用)	759
ゼミナールⅡ (応用)	760
ゼミナールⅡ (応用)	761
ゼミナールⅡ (応用)	762
ゼミナールⅡ (応用)	763
ゼミナールⅡ (応用)	764
ゼミナールⅡ (応用)	765
ゼミナールⅡ (応用)	766
ゼミナールⅡ (応用)	767
ゼミナールⅡ (応用) [秋入学生用]	768
課題研究Ⅰ 《通年》	769
課題研究Ⅰ 《通年》	770
課題研究Ⅰ 《通年》	771
課題研究Ⅱ 《通年》	772
課題研究Ⅱ 《通年》	773
課題研究Ⅱ 《通年》	774
課題研究Ⅱ 《通年》	775
トレーニング演習 [PH用]	776
スポーツ健康論	777
運動障害と予防および救急処置 [資格取得希望者]	778
運動障害と予防および救急処置 [資格取得希望者]	779
トレーニング演習Ⅰ (基礎) [PP2521組用]	780
トレーニング演習Ⅰ (基礎) [PP2522組用]	781
トレーニング演習Ⅰ (基礎) [A]	782
トレーニング演習Ⅰ (基礎) [B]	783
トレーニング演習Ⅰ (基礎) [2025年生PH用]	784
トレーニング演習Ⅱ (応用) [PS用]	785
トレーニング演習Ⅱ (応用) [トレーナー用]	787
スポーツ・レクリエーション演習	789
トレーニング科学Ⅰ (基礎)	790
トレーニング科学Ⅱ (応用)	791
アスレティックトレーナーの役割	792
運動器の解剖と機能	794
健康管理とスポーツ医学 [PP/PH用]	796
健康管理とスポーツ医学 [BC用]	797
検査・測定と評価	799
予防とコンディショニングⅡ	800
救急処置 [AT資格希望者用]	801
救急処置法 [AT資格希望者PS用]	802
リコンディショニングⅠ	803
リコンディショニングⅡ	805
リコンディショニングⅢ	806
スポーツ外傷・障害の予防Ⅰ	807
スポーツ外傷・障害の予防Ⅱ	809
スポーツ医学Ⅰ	810
スポーツ医学Ⅱ	811
人体の解剖と機能	812
フィットネスプログラム論	813
スポーツ相談の実際	814
レクリエーション演習	815

目 次（ 2025年度専門科目 ）

公務員と法	816
実践英文法（基礎）	817
実践英文法（応用）	818
リーディング・スキル（基礎）[英語教員希望者限定]	819
リーディング・スキル（応用）[英語教員希望者限定]	820
ライティング・スキル[英語教員希望者限定]	821
スピーキング・スキル	822
リーディング・スキル(実践)[英語教員希望者限定]	824
キャリアマネジメントⅠ [中高保体教員]	825
キャリアマネジメントⅠ [公務員]	826
キャリアマネジメントⅠ [企業]	827
キャリアマネジメントⅡ [中高保体教員]	829
キャリアマネジメントⅡ [公務員A]	831
キャリアマネジメントⅡ [公務員B]	832
キャリアマネジメントⅢ [公務員A]	833
キャリアマネジメントⅢ [公務員B]	834
キャリアマネジメントⅢ [中高保体教員]	835
キャリアマネジメントⅣ [公務員]	837
公務員と法Ⅱ	838
ゼミナールⅠ (BC秋入学生用)	839
ゼミナールⅠ (BC秋入学生用)	840
ゼミナールⅡ (BC秋入学生用)	841
ゼミナールⅡ (BC秋入学生用)	842
キャリアディベロップメント [通年]PS用	843
基礎ゼミナールⅡ [通年]PS用	845
基礎ゼミナールⅡ [通年]PS用	847
基礎ゼミナールⅡ [通年]PS用	849
基礎ゼミナールⅡ [通年]PS用	851
基礎ゼミナールⅡ [通年]PS用	853
基礎ゼミナールⅡ [通年]PS用	855
次世代教育学 [FE+ 他学科小学校免許希望者]	857
スポーツ栄養学実習 [不開講]	859
解剖学Ⅰ [再履修用]	861
音楽表現指導理論・実習Ⅰ(基礎)	863
音楽表現指導理論・実習Ⅱ(応用)	865
音楽表現指導理論・実習Ⅲ(発展)	867
音楽表現指導理論・実習Ⅳ(実践)	869
体力学実習	871
ハイパフォーマンススポーツ演習Ⅰ	873
ハイパフォーマンススポーツ演習Ⅱ	875
競技スポーツパフォーマンス実習Ⅰ	877
競技スポーツパフォーマンス実習Ⅱ	879
解剖学Ⅱ [再履修用]	881
整復学実技Ⅰ(包帯法Ⅰ)《連続》	883
整復学実技Ⅱ(包帯法Ⅱ)《連続》	885
整復学実技Ⅲ(上肢・固定法Ⅰ)《連続》	887
整復学実技Ⅳ(上肢・固定法Ⅱ)《連続》	889
整復学実技Ⅴ(下肢・固定法Ⅰ)《連続》	891
整復学実技Ⅵ(下肢・固定法Ⅱ)《連続》	893
アスレティックトレーナー実習Ⅴ	895
整復臨床実習Ⅰ 《通年》	897
整復臨床実習Ⅱ 《通年》	899
特別講義Ⅱ [知的財産管理技能]	901
特別演習Ⅰ 《通年》[WEBデザイン]	903
特別演習Ⅱ 《通年》[ビジネス実務マナー]	905
特別演習Ⅲ 《通年》[社会調査士系]	907
整復臨床実習Ⅲ 《通年》	909
整復臨床実習Ⅳ 《通年》	911
インターンシップ(企業) [BC]	913
インターンシップ（公務員） [BC]	915
インターンシップ（スポーツビジネス） [BC]	917
卒業研究 [FC]	919
卒業研究 [FC]	921
卒業研究 [FC]	923
卒業研究 [FC]	925
卒業研究 [FC]	927
卒業研究 [FC]	929
卒業研究 [FC]	931
卒業研究 [PP]	933
卒業研究 [PP]	935
卒業研究 [PP]	937
卒業研究 [FE]	939
卒業研究 [FE]	941
卒業研究 [FE]	942
卒業研究 [FE]	943
卒業研究 [FE]	944
卒業研究 [PP]	945
卒業研究 [PP]	947

目 次（ 2025年度専門科目 ）

卒業研究 [PP]	949
卒業研究 [PP]	951
卒業研究 [PH]	953
卒業研究 [PH]	955
卒業研究 [PH]	957
卒業研究 [PH]	959
卒業研究 [PH]	961
卒業研究 [PH]	963
卒業研究 [PP]	965
卒業研究 [PP]	967
卒業研究 [FE]	969
卒業研究 [FE]	971
卒業研究 [FE]	973
卒業研究 [FE]	975
卒業研究 [PP]	977
卒業研究 [PP]	979
卒業研究 [PP]	981
卒業研究 [PP]	983
卒業研究 [PP]	985
卒業研究 [PP]	987
卒業研究 [PP]	989
卒業研究 [PP]	991
卒業研究 [PP]	993
卒業研究 [FE]	995
卒業研究 [PP]	997
卒業研究 [PP]	999
卒業研究 [PP]	1001
ゼミナールⅠ (基礎)	1003
ゼミナールⅠ (基礎)	1005
ゼミナールⅠ (基礎)	1007
ゼミナールⅠ (基礎)	1009
ゼミナールⅠ (基礎)	1011
ゼミナールⅠ (基礎)	1013
ゼミナールⅠ (基礎)	1015
ゼミナールⅠ (基礎)	1017
ゼミナールⅠ (基礎)	1019
ゼミナールⅠ (基礎)	1021
ゼミナールⅠ (基礎)	1023
ゼミナールⅠ (基礎)	1025
ゼミナールⅠ (基礎)	1027
ゼミナールⅠ (基礎)	1029
ゼミナールⅠ (基礎)	1031
ゼミナールⅠ (基礎)	1033
ゼミナールⅠ (基礎)	1035
ゼミナールⅠ (基礎)	1037
ゼミナールⅠ (基礎)	1039
ゼミナールⅠ (基礎)	1041
ゼミナールⅠ (基礎)	1043
ゼミナールⅠ (基礎)	1045
ゼミナールⅠ (基礎)	1047
ゼミナールⅠ (基礎)	1049
ゼミナールⅠ (基礎)	1051
ゼミナールⅠ (基礎)	1053
ゼミナールⅠ (基礎)	1055
ゼミナールⅠ (基礎)	1057
ゼミナールⅠ (基礎)	1059
ゼミナールⅠ (基礎)	1061
ゼミナールⅠ (基礎)	1063
ゼミナールⅠ (基礎)	1065
ゼミナールⅠ (基礎)	1067
ゼミナールⅠ (基礎)	1069
ゼミナールⅠ (基礎)	1071
ゼミナールⅠ (基礎)	1073
ゼミナールⅠ (基礎)	1075
ゼミナールⅠ (基礎)	1077
ゼミナールⅠ (基礎)	1079
ゼミナールⅠ (基礎)	1081
ゼミナールⅠ (基礎)	1083
ゼミナールⅠ (基礎)	1085
ゼミナールⅠ (基礎)	1087
ゼミナールⅠ (基礎)	1089
ゼミナールⅠ (基礎)	1091
ゼミナールⅠ (基礎)	1093
ゼミナールⅠ (基礎)	1095
ゼミナールⅡ (応用)	1097
ゼミナールⅡ (応用)	1099
ゼミナールⅡ (応用)	1101
ゼミナールⅡ (応用)	1103

目 次（ 2025年度専門科目 ）

ゼミナールⅡ (応用)	1105
ゼミナールⅡ (応用)	1107
ゼミナールⅡ (応用)	1109
ゼミナールⅡ (応用)	1111
ゼミナールⅡ (応用)	1113
ゼミナールⅡ (応用)	1115
ゼミナールⅡ (応用)	1117
ゼミナールⅡ (応用)	1119
ゼミナールⅡ (応用)	1121
ゼミナールⅡ (応用)	1123
ゼミナールⅡ (応用)	1125
ゼミナールⅡ (応用)	1127
ゼミナールⅡ (応用)	1129
ゼミナールⅡ (応用)	1131
ゼミナールⅡ (応用)	1133
ゼミナールⅡ (応用)	1135
ゼミナールⅡ (応用)	1137
ゼミナールⅡ (応用)	1139
ゼミナールⅡ (応用)	1141
ゼミナールⅡ (応用)	1143
ゼミナールⅡ (応用)	1145
ゼミナールⅡ (応用)	1147
ゼミナールⅡ (応用)	1149
ゼミナールⅡ (応用)	1151
ゼミナールⅡ (応用)	1153
ゼミナールⅡ (応用)	1155
ゼミナールⅡ (応用)	1157
ゼミナールⅡ (応用)	1159
ゼミナールⅡ (応用)	1161
ゼミナールⅡ (応用)	1163
ゼミナールⅡ (応用)	1165
ゼミナールⅡ (応用)	1167
ゼミナールⅡ (応用)	1169
ゼミナールⅡ (応用)	1171
ゼミナールⅡ (応用)	1173
ゼミナールⅡ (応用)	1175
ゼミナールⅡ (応用)	1177
ゼミナールⅡ (応用)	1179
ゼミナールⅡ (応用)	1181
ゼミナールⅡ (応用)	1183
ゼミナールⅡ (応用)	1185
ゼミナールⅡ (応用)	1187
ゼミナールⅡ (応用)	1189
課題研究Ⅰ 《通年》	1191
課題研究Ⅰ 《通年》	1193
課題研究Ⅱ 《通年》	1195
課題研究Ⅱ 《通年》	1197

＜東京キャンパス＞

英語Ⅰ 〔①〕	1199
英語Ⅰ 〔①〕	1200
英語Ⅰ 〔②〕	1201
英語Ⅰ 〔②〕	1203
英語Ⅰ 〔③〕	1205
英語Ⅰ 〔③〕	1206
英語Ⅰ 〔④〕	1207
英語Ⅰ 〔④〕	1208
英語Ⅱ 〔③〕	1209
英語Ⅱ 〔③〕	1211
英語Ⅱ 〔①〕	1213
英語Ⅱ 〔①〕	1215
英語Ⅱ 〔②〕	1217
英語Ⅱ 〔②〕	1219
英語Ⅱ 〔④〕	1221
英語Ⅱ 〔④〕	1223
TOEICⅠ 〔①〕	1225
TOEICⅠ 〔①〕	1226
TOEICⅠ 〔②〕	1227
TOEICⅠ 〔②〕	1229
TOEICⅡ 〔①〕	1231
TOEICⅡ 〔①〕	1232
TOEICⅡ 〔②〕	1233
TOEICⅡ 〔②〕	1235
経営学概論	1237
経営学概論	1238
経済学概論	1239
経済学概論	1240
マーケティング総論	1241

目 次（ 2025年度専門科目 ）

マーケティング総論	1243
簿記入門Ⅰ〔①〕	1245
簿記入門Ⅰ〔①〕	1246
簿記入門Ⅰ〔②〕	1247
簿記入門Ⅰ〔②〕	1248
簿記入門Ⅰ〔③〕	1249
簿記入門Ⅰ〔③〕	1250
簿記入門Ⅱ〔①〕	1251
簿記入門Ⅱ〔①〕	1252
簿記入門Ⅱ〔②〕	1253
簿記入門Ⅱ〔②〕	1254
簿記入門Ⅱ〔③〕	1255
簿記入門Ⅱ〔③〕	1256
SDGs入門	1257
SDGs入門	1259
ビジネス心理学	1261
ビジネス心理学	1263
アジア太平洋のビジネス環境	1265
アジア太平洋のビジネス環境	1266
VR・AR入門概論	1267
VR・AR入門概論	1268
eSports産業概論	1269
eSports産業概論	1271
簿記演習	1273
簿記演習	1274
流通論	1275
流通論	1277
経営組織論	1279
経営組織論	1280
マーケティング戦略論	1281
マーケティング戦略論	1283
経営戦略論	1285
経営戦略論	1288
統計学入門(統計とデータ利用)	1291
統計学入門(統計とデータ利用)	1293
ホスピタリティ論	1295
ホスピタリティ論	1296
ホスピタリティ・マネジメント論	1297
ホスピタリティ・マネジメント論	1298
現代経営実践演習基礎Ⅰ〔キャリア系〕	1299
現代経営実践演習基礎Ⅰ〔キャリア系〕	1301
現代経営実践演習基礎Ⅱ〔キャリア系〕	1303
現代経営実践演習基礎Ⅱ〔キャリア系〕	1305
フィールドワーク	1307
フィールドワーク	1309
資格検定対策Ⅱ(情報系)	1311
資格検定対策Ⅱ(情報系)	1313

科目コード	10106				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	日本語表現Ⅰ [BC留学生用]				担当者名	小宮 さおり			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目では、学生に異なる文化的背景を持つ人々とコミュニケーションができ、世界の中で主体的に行動していくために必要な「語学力」を求めている。特に留学生にあっては、日本文化を理解した上で、日本語を使ったコミュニケーションを取れるようにすることを目標としている。本授業では、留学生を対象に、日本語の基礎を復習しつつ、日常生活や大学で留学生が直面する様々な場面において、学習した日本語を使って円滑なコミュニケーションを取れるようにするための練習を行う。

### <授業の到達目標>

日本語の基礎科目で学んだことをさらに伸ばし、より高度な日本語表現や日本人とのコミュニケーションの中で必要になる日本文化や習慣について理解することを目標としている。さらに、テーマについて学生同士が意見を交換することでお互いを高めあい、多様な意見があることを理解する。

### <授業の方法>

15回の授業で、4つのテーマを扱い、それぞれに関して、語彙・文法・表現・読解の学習を通じてそのテーマについて内容を深める。語彙や文法については自宅で予習しておき、授業では運用力や応用力を伸ばす。表現では、学習した内容を用いて他者に問いかけ、他者の発言を聞いてそれに適切に応えられるようにする。読解では日本の文化についても考える。本科目ではアウトプットすることを重視し、最終的にはそのテーマについて自分の意見が言えるようにする。毎回漢字の課題を課し、語彙力の向上を図る。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、ディスカッション、グループワーク、発表などのアクティブラーニングを取り入れ、学生が主体的に学べる環境を提供する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：予め指示された文法項目や単語の確認をしておく。（30分程度）復習：練習した文型や会話を覚え、実践できるように練習する。（30分程度）復習課題、漢字の練習課題。（30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度：30% 提出課題：40% 小テスト：20% 復習テスト：10%課題のフィードバックは授業内で行う。

### <教科書>

平井悦子・三輪さち子 中級を学ぼう 中級前期 スリーエーネットワーク

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要と評価方法に関する説明レベル判定試験
2	第1課 音と音楽の効果 (1)	導入
3	第1課 音と音楽の効果 (2)	内容理解と意見交換
4	作文・会話 (1)	作文と会話
5	第2課 いい数字・悪い数字 (1)	導入
6	第2課 いい数字・悪い数字 (2)	内容理解と意見交換
7	作文・会話 (2)	作文と会話
8	第3課 「面白い」日本 (1)	導入
9	第3課 「面白い」日本 (2)	内容理解と意見交換
10	作文・会話 (3)	作文と会話
11	第4課 くしゃみ (1)	導入
12	第4課 くしゃみ (2)	内容理解と意見交換
13	作文・会話 (4)	作文と会話
14	まとめテスト	まとめテスト
15	フィードバックと総復習	フィードバックと総復習
16		

科目コード	10106				区 分	専門基礎科目			
授業 科目名	日本語表現Ⅰ [秋留学生]				担当者名	小宮 さおり			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目では、学生に異なる文化的背景を持つ人々とコミュニケーションができ、世界の中で主体的に行動していくために必要な「語学力」を求めている。特に留学生にあっては、日本文化を理解した上で、日本語を使ったコミュニケーションを取れるようにすることを目標としている。本授業では、留学生を対象に、日本語の基礎を復習しつつ、日常生活や大学で留学生が直面する様々な場面において、学習した日本語を使って円滑なコミュニケーションを取れるようにするための練習を行う。

### <授業の到達目標>

日本語の基礎科目で学んだことをさらに伸ばし、より高度な日本語表現や日本人とのコミュニケーションの中で必要になる日本文化や習慣について理解することを目標としている。さらに、テーマについて学生同士が意見を交換することでお互いを高めあい、多様な意見があることを理解する。

### <授業の方法>

15回の授業で、4つのテーマを扱い、それぞれに関して、語彙・文法・表現・読解の学習を通じてそのテーマについて内容を深める。語彙や文法については自宅で予習しておき、授業では運用力や応用力を伸ばす。表現では、学習した内容を用いて他者に問いかけ、他者の発言を聞いてそれに適切に応えられるようにする。読解では日本の文化についても考える。本科目ではアウトプットすることを重視し、最終的にはそのテーマについて自分の意見が言えるようにする。毎回漢字の課題を課し、語彙力の向上を図る。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、ディスカッション、グループワーク、発表などのアクティブラーニングを取り入れ、学生が主体的に学べる環境を提供する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：予め指示された文法項目や単語の確認をしておく。（30分程度）復習：練習した文型や会話を覚え、実践できるように練習する。（30分程度） 復習課題、漢字の練習課題。（30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度：30% 提出課題：40% 小テスト：20% 復習テスト：10%課題のフィードバックは授業内で行う。

### <教科書>

平井悦子・三輪さち子 中級を学ぼう 中級前期 スリーエーネットワーク

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要と評価方法に関する説明レベル判定試験
2	第1課 音と音楽の効果 (1)	導入
3	第1課 音と音楽の効果 (2)	内容理解と意見交換
4	作文・会話 (1)	作文と会話
5	第2課 いい数字・悪い数字 (1)	導入
6	第2課 いい数字・悪い数字 (2)	内容理解と意見交換
7	作文・会話 (2)	作文と会話
8	第3課 「面白い」日本 (1)	導入
9	第3課 「面白い」日本 (2)	内容理解と意見交換
10	作文・会話 (3)	作文と会話
11	第4課 くしゃみ (1)	導入
12	第4課 くしゃみ (2)	内容理解と意見交換
13	作文・会話 (4)	作文と会話
14	まとめテスト	まとめテスト
15	フィードバックと総復習	フィードバックと総復習
16		

科目コード	10107				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	日本語表現Ⅱ [BC秋入学用]				担当者名	小宮 さおり			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目では、学生に異なる文化的背景を持つ人々とコミュニケーションができ、世界の中で主体的に行動していくために必要な「語学力」を求めている。特に留学生にあっては、日本文化を理解した上で、日本語を使ったコミュニケーションを取れるようにすることを目標としている。本授業では、留学生を対象に、日本語の基礎を復習しつつ、日常生活や大学で留学生が直面する様々な場面において、学習した日本語を使って円滑なコミュニケーションを取れるようにするための練習を行う。

### <授業の到達目標>

日本語の基礎科目で学んだことをさらに伸ばし、より高度な日本語表現や日本人とのコミュニケーションの中で必要になる日本文化や習慣について理解することを目標としている。さらに、テーマについて学生同士が意見を交換することでお互いを高めあい、多様な意見があることを理解する。

### <授業の方法>

15回の授業で、4つのテーマを扱い、それぞれに関して、語彙・文法・表現・読解の学習を通じてそのテーマについて内容を深める。語彙や文法については自宅で予習しておき、授業では運用力や応用力を伸ばす。表現では、学習した内容を用いて他者に問いかけ、他者の発言を聞いてそれに適切に応えられるようにする。読解では日本の文化についても考える。本科目ではアウトプットすることを重視し、最終的にはそのテーマについて自分の意見が言えるようにする。毎回漢字の課題を課し、語彙力の向上を図る。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、ディスカッション、グループワーク、発表などのアクティブラーニングを取り入れ、学生が主体的に学べる環境を提供する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：予め指示された文法項目や単語の確認をしておく。（30分程度）復習：練習した文型や会話を覚え、実践できるように練習する。（30分程度）復習課題、漢字の練習課題。（30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度：30% 提出課題：40% 小テスト：20% 復習テスト：10%課題のフィードバックは授業内で行う。

### <教科書>

平井悦子・三輪さち子 中級を学ぼう 中級前期 スリーエーネットワーク  
佐藤尚子・佐々木仁子

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要と評価方法に関する説明レベル判定試験
2	第5課 私の町 (1)	導入
3	第5課 私の町 (2)	内容理解と意見交換
4	作文・会話 (1)	作文と会話
5	第6課 この日に食べなきゃ! (1)	導入
6	第6課 この日に食べなきゃ! (2)	内容理解と意見交換
7	作文・会話 (2)	作文と会話
8	第7課 お相撲さんの世界 (1)	導入
9	第7課 お相撲さんの世界 (2)	内容理解と意見交換
10	作文・会話 (3)	作文と会話
11	第8課 第一印象 (1)	導入
12	第8課 第一印象 (2)	内容理解と意見交換
13	作文・会話 (4)	作文と会話
14	まとめテスト	まとめテスト
15	フィードバックと総復習	フィードバックと総復習
16		

科目コード	10107				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	日本語表現Ⅱ [BC留学生用]				担当者名	小宮 さおり			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目では、学生に異なる文化的背景を持つ人々とコミュニケーションができ、世界の中で主体的に行動していくために必要な「語学力」を求めている。特に留学生にあっては、日本文化を理解した上で、日本語を使ったコミュニケーションを取れるようにすることを目標としている。本授業では、留学生を対象に、日本語の基礎を復習しつつ、日常生活や大学で留学生が直面する様々な場面において、学習した日本語を使って円滑なコミュニケーションを取れるようにするための練習を行う。

### <授業の到達目標>

日本語の基礎科目で学んだことをさらに伸ばし、より高度な日本語表現や日本人とのコミュニケーションの中で必要になる日本文化や習慣について理解することを目標としている。さらに、テーマについて学生同士が意見を交換することでお互いを高めあい、多様な意見があることを理解する。

### <授業の方法>

15回の授業で、4つのテーマを扱い、それぞれに関して、語彙・文法・表現・読解の学習を通じてそのテーマについて内容を深める。語彙や文法については自宅で予習しておき、授業では運用力や応用力を伸ばす。表現では、学習した内容を用いて他者に問いかけ、他者の発言を聞いてそれに適切に応えられるようにする。読解では日本の文化についても考える。本科目ではアウトプットすることを重視し、最終的にはそのテーマについて自分の意見が言えるようにする。毎回漢字の課題を課し、語彙力の向上を図る。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、ディスカッション、グループワーク、発表などのアクティブラーニングを取り入れ、学生が主体的に学べる環境を提供する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：予め指示された文法項目や単語の確認をしておく。（30分程度）復習：練習した文型や会話を覚え、実践できるように練習する。（30分程度）復習課題、漢字の練習課題。（30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度：30% 提出課題：40% 小テスト：20% 復習テスト：10%課題のフィードバックは授業内で行う。

### <教科書>

平井悦子・三輪さち子 中級を学ぼう 中級前期 スリーエーネットワーク  
佐藤尚子・佐々木仁子

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要と評価方法に関する説明レベル判定試験
2	第5課 私の町 (1)	導入
3	第5課 私の町 (2)	内容理解と意見交換
4	作文・会話 (1)	作文と会話
5	第6課 この日に食べなきゃ! (1)	導入
6	第6課 この日に食べなきゃ! (2)	内容理解と意見交換
7	作文・会話 (2)	作文と会話
8	第7課 お相撲さんの世界 (1)	導入
9	第7課 お相撲さんの世界 (2)	内容理解と意見交換
10	作文・会話 (3)	作文と会話
11	第8課 第一印象 (1)	導入
12	第8課 第一印象 (2)	内容理解と意見交換
13	作文・会話 (4)	作文と会話
14	まとめテスト	まとめテスト
15	フィードバックと総復習	フィードバックと総復習
16		

科目コード	10303				区 分	専門基礎			
授業科目名	統計学基礎				担当者名	岡田 健志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

日常生活で「このデータ、信じていいのかな?」と思ったことはないだろうか? ニュースで「〇〇の満足度80%!」と聞いても、本当に正しいのか、どんな調査方法だったのか、疑問に思うこともあるはずだ。本授業では、統計を使って「データを正しく読み解く力」を身につける。データの整理や分析方法を学び、情報に対して批判的に吟味する練習をする。難しい計算ばかりではなく、実際のニュースやアンケート調査など、身近な事例から「普段使える統計学」を学ぶ。

### <授業の到達目標>

本授業を通じて、受講者は以下のスキルやリテラシーを身につけることを目指す。(1) 数値データやグラフの意味を正しく読み取ることができ、適切な判断ができる。(2) データを表やグラフに整理し、誤解を招かない正しい可視化手法を選択できる。(3) 基本的な平均・中央値・標準偏差などの統計指標を計算し、意味を理解できる。(4) 仮説検定や相関分析を実施し、統計的に妥当な結論を導ける。(5) 統計の誤用やバイアスを見抜き、批判的に考察できる。

### <授業の方法>

授業内の演習でMicrosoft Excelを適宜利用するため、パソコンを毎回持参すること。講義の記録や自らが理解したことをメモする以外にも、クラス内での議論やインタビューメモのため必ず筆記用具を持参すること。毎回、必ず身近な課題について議論を行う。発言・対話・議論に積極的に参加することが期待される。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングはほぼ毎回の授業で行う。具体的には、ペアワーク・ディスカッション・企画立案実践・プレゼンテーション・相互レビューである。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として次回授業で扱う基本事項の整理と事前課題を課す(想定学習時間: 約60分)。理解を深めるための復習課題を毎回課す(想定学習時間: 約60分)。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2(経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 40%、毎回の課題提出 40%、最終課題 20%を目安に評価する。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス: 統計学とは何か	授業の進め方、評価方法について説明する。統計はどんな場面で役立つのか? 「データ」とは何か? 身の回りにある統計データを考えながら、今後の授業内容について説明する。
2	データの種類と特徴	データにはさまざまな種類があり、それぞれ適した分析方法がある。アンケートの回答、テストの点数、身長、年齢など、異なるデータの特徴を理解し、適切に活用することが重要である。この回では、データの種類を整理し、どのような場面でどのデータが使われるのかを学ぶ。
3	データの整理と可視化	データを単に並べるだけでは、その特徴は見えてこない。表やグラフを使って「見える化」することで、データの傾向や違いを直感的に把握できるようになる。本回では、実際にデータを集め、さまざまなグラフを作成し、それぞれの特徴を比較しながら、効果的な可視化の方法を考える。
4	代表値と散布度	データの中心を示す指標には、平均値、中央値、最頻値があるが、それぞれ異なる特徴を持つ。また、データのばらつきを考慮することで、より詳細な分析が可能となる。同じ「平均点」でも、成績が安定しているクラスとばらつきが大きいクラスがあるのはなぜかを考え、データの散布度の重要性を学ぶ。
5	データの歪みと外れ値	データの分布には「偏り」があることが多い。例えば「年収の平均」を見ると、一部の高収入の人が全体の数値を押し上げることがある。この回では、データの歪みや外れ値(極端に異なる値)がどのように影響を与えるのかを学び、データの解釈にお

6	データの標準化と偏差値	<p>いて注意すべき点を考える。</p> <p>異なる集団のデータを比較する際、単なる平均値の比較では不十分である。標準化や偏差値を用いることで、公平な比較が可能になる。本回では、テストの点数を全国の生徒と比べる方法を学び、実際に自分の偏差値を計算することで、データの標準化の意義を理解する。</p>
7	データ収集の方法	<p>信頼できるデータを得るには、適切な方法で収集することが必要である。アンケート調査、インタビュー、観察といった手法の違いを学び、目的に応じた調査方法を選択する力を身につける。実際に簡単なアンケートを作成し、データを集める演習も行う。</p>
8	調査の設計とデータの信頼性	<p>適データの集め方を誤ると、結果が偏り、正しい結論を導き出せない。「この商品は好きですか?」といった質問の仕方によって、回答が誘導されることもある。この回では、調査の設計やサンプリング（標本抽出）の方法について学び、データの信頼性を確保する方法を考える。</p>
9	調査データの整理	<p>集めたデータをそのまま分析するのではなく、誤りや抜け漏れを修正する作業が必要となる。データのクリーニングを行うことで、分析の精度が向上する。本回では、実際のアンケートデータを整理し、適切な分析の準備を進める。</p>
10	データの分析入門	<p>データを集めて整理したら、次は分析を行う。例えば「運動時間が長い人ほど成績が良いのか?」といった関係性を調べる方法を学ぶ。データを分類したり、比較したりする基本的な分析手法を学び、実際のデータを使って演習を行う。</p>
11	相関と因果関係の区別	<p>「アイスクリームの売上が増えると、熱中症の人が増える」というデータがあった場合、それは単なる相関関係なのか、それとも因果関係があるのか。本回では、データの相関関係を分析し、相関と因果関係の違いを理解するとともに、「データの読み違い」に注意する方法を学ぶ。</p>
12	データ分析の実践	<p>これまで学んだ統計の知識を活用し、実際にデータを分析する。各自が興味のあるテーマを選び、データを集め、分析し、その結果を考察する。データを正しく読み解く力を実践的に身につけることを目的とする。</p>
13	データの解釈とレポート作成	<p>データ分析の結果をどのように伝えるかが重要である。良いグラフやレポートの作り方を学び、相手に伝わりやすい形でデータをまとめる練習を行う。説得力のあるプレゼンテーションを作成するための、効果的なデータの使い方を考える。</p>
14	統計の落とし穴とデータの誤用	<p>統計データは客観的なように見えても、意図的に操作されたり、誤った解釈をされたりすることがある。本回では、データの悪用事例を学び、誤ったデータに惑わされないための視点を養う。</p>
15	総括と発表	<p>授業の総まとめとして、自分でデータを集め、分析し、発表する。統計を使った考え方を実際に応用することで、今後の生活や学習にどのように活かせるかを考える。統計リテラシーの習得を確認する場とする。</p>
16		

科目コード	13101				区 分	コア			
授業 科目名	日本国憲法				担当者名	松井 春樹			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

「憲法と法律の違いは何か分かりますか。憲法は何のためにありますか。」この問いに答えるある方の授業を聞いて、私は弁護士を目指すことを決めました。本講義は、日本国憲法の解釈論の基本を学ぶとともに、先ほどの問いが示すような立憲的なものの見方を習得することを目指します。憲法の講義は法律科目の中では扱うテーマが抽象的になりがちなのですが、なるべく具体的なケースに引き寄せて分かりやすく理解していただけるように心がけます。また、筆者は現役の弁護士で司法試験始め試験勉強にはかなり向き合ってきたので、その経験も活かして各種公務員試験対策も視野に入れた内容と出来ればと考えています。

### <授業の到達目標>

①憲法の基本的な考え方を踏まえて、立憲的な観点で社会を見れるようになることと、②各種公務員試験等の勉強を進める上での基本的な素養を獲得していることを目標とします。

### <授業の方法>

授業は、演習と授業を組み合わせた形式で行います。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

講師の用意した具体的なケースを授業時間内に検討してもらった上で、そのケースを素材に参加者の発言も求めながら、話を進めていく予定です。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

集中講義ですので、予習復習は不要です。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験（70％）、出欠及び授業態度（30％）により成績評価を行います。

### <教科書>

芦?部信喜編・高橋和之補訂（2023年9月） 芦?部信喜編・高橋和之補訂（2023年9月） 岩波書店

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義概要および教材説明
2	日本国憲法の成立と基本原理	憲法とはなにか、立憲的なものの考え方について学びます。
3	天皇と国民主権	天皇制と国民主権について学びます。
4	平和主義	我が国の平和主義の歴史的沿革や意義について学びます。
5	基本的人権	基本的人権とは意義および内容について学びます。
6	個人の尊重と幸福追求権	個人の尊重と幸福追求権の内容について学びます。
7	法の下での平等	近代憲法の基本原則である法の下での平等とはなにかについて学びます。
8	自由権①表現の自由	各種自由権の内容・制限について学びます。
9	自由権②経済的自由	各種自由権の内容・制限について学びます。
10	社会権	社会権の内容、制限について学びます。
11	参政権・国務請求権	国民が国の政治に直接・間接に参与できる権利について学びます。
12	国会・内閣・裁判所	統治機構の全体像について学びます。
13	地方自治	地方公共団体の政治が国の関与によらず住民の意思に基づいて行われることを学びます。
14	全体総括	これまでの授業内容の要点およびまとめ
15	試験および講評	これまでの理解度を評価するために試験を行い、出題意図などについて講評を行います。
16		

科目コード	13106				区 分	専門基礎			
授業科目名	現代企業論				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

アントレプレナーシップについて、基礎的な知識を得るとともに、起業家のリレー講義を通じて、起業のプロセスや課題を学ぶ。

#### <授業の到達目標>

アントレプレナーシップについて基礎的な知識を習得し、起業についての具体的なイメージを獲得する。

#### <授業の方法>

オムニバス形式の講義

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

ディスカッションを取り入れる。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

最初の講義で指示する。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

最初の講義で指示する。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	授業の目的と進め方の説明。現代のビジネス環境の変化について。（小堀学科長）
2	日本の業界動向の分析（講義：荒賀先生）	企業の業界分析の重要性。日本の主要産業の現状と課題。
3	日本の市場動向と成長分野（講義：荒賀先生）	各業界の最新市場動向。成長分野と注目のビジネストrend。国内外の競争環境と今後の展望。
4	オンデマンド授業日	冒頭3回の講義についてレポート
5	AI技術の応用と企業戦略（講義：荒賀先生）	AIの産業別活用事例。企業のAI導入戦略。AIによる競争優位性の確立。
6	AI技術で社会を変革する（講演：松本勇信先生／株式会社EraX）	EraXの事業内容とミッション。「Bet Technology」に込めた思いと今後の展望、など。
7	営業戦略の基本（講義：荒賀先生）	営業の役割と重要性。BtoB/BtoC営業の違いと戦略。最新の営業手法とテクノロジー活用。
8	営業戦略の実践（講演：平崎歩先生／tabiji）	旅行・観光業界における営業手法。営業活動の成功事例。実際の営業現場での課題と解決策。
9	調整中	調整中
10	スポーツビジネスの市場分析（講義：荒賀先生）	スポーツビジネスの現状と市場規模。スポーツ業界のマネタイズ手法。
11	スポーツ×デジタルの最新動向（講演：（株）ookami）	デジタル技術が変えるスポーツ業界。データ活用とファンエンゲージメント。新たなビジネスチャンス。
12	デジタル戦略とビジネス変革（講義：荒賀先生）	デジタル技術の進化と市場への影響。DX推進の成功事例。企業が取り組むべきデジタル戦略。
13	データ活用と企業変革（講義：荒賀氏、星山雄史氏）	データドリブン経営の重要性。ビッグデータとAIの活用事例。DX推進のためのデータ戦略。
14	DXと組織変革（講演：星山雄史氏／株式会社LTS）	企業におけるDX推進の課題と解決策。DX時代に求められる組織マネジメント。変革を成功させるためのポイント。
15	総括・未来の起業家へ（講義：荒賀先生）	これまでの講義の振り返り。未来のキャリア形成と自己実現。
16		

科目コード	13206				区 分	コア科目			
授業科目名	労働法規				担当者名	栗坂 節子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

職業生活において生じる労働法規に関する問題を、就職から退職までの時間の流れに沿って紹介することにより、労働法規を概観するとともに、労働災害の補償および労働災害防止に関する法規についても解説する。

#### <授業の到達目標>

労働者と使用者による対等の立場で労働条件の形成、および最低労働基準法定の意義について理解するとともに、事業所において労働者または使用者として職業生活を送っていくうえで必要となる労働法規の知識を修得する。あわせて、第1種衛生管理者の資格取得のために必要な知識を修得する。

#### <授業の方法>

本授業では、労基法の意義と内容、労災保険法や労働安全衛生法の概要と諸手続などについて解説する。あわせて、第1種衛生管理者の資格取得に対応することも講義の主たる目標としている。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

労働法規に関する情報を新聞やインターネットなどで予習・復習すること。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 30%、期末テスト 70%

#### <教科書>

労働調査会出版局 改訂11版 チャート労働基準法 労働調査会  
中央労働災害防止協会 衛生管理（下）《第一種用》 中央労働災害防止協会

#### <参考書>

加藤雅章 いちばんやさしい労働安全衛生法 中央労働災害防止協会

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	労働基準法・労働安全衛生法・労災保険法概説	労働時間 休憩・休日・年次有給休暇 賃金 年少者・女性労働 労働条件の変更 行政組織の組織と役割
2	労働契約・就業規則・労働協約	
3	労働条件の規整1	
4	労働条件の規整2	
5	労働条件の規整3	
6	労働条件の規整4	
7	労働条件の規整5	
8	労働関係紛争処理手続	
9	労働行政の機能	
10	労働災害の補償・労災保険制度	
11	安全配慮義務・労災保険給付と損害賠償の調整	
12	労働災害の認定1	
13	労働災害の認定2	
14	事業者等の責務・安全衛生の基準・規制	
15	労働安全衛生管理体制・履行の確保等	
16		期末テスト

科目コード	13207				区 分	コア科目			
授業科目名	労働安全衛生法				担当者名	栗坂 節子			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

労働衛生関係の中心法令である安衛法では、労働災害防止計画の策定、労働衛生管理を組織的に行う安全衛生管理体制のマンパワー（衛生管理者や産業医等）の選任、衛生委員会の設置を定めている。労働者の危険又は健康障害を防止するための措置や、機械及び有害物に関する規制もある。健康の保持増進関係では作業環境測定の実施、作業管理、健康診断、健康の保持増進指針の公表、快適な職場環境の形成の措置がある。また労働災害の防止や安全活動、実際の労働衛生管理については企業等の事例から学ぶ。

### <授業の到達目標>

労働安全衛生法（安衛法）は労働基準法と相まって、働く人々の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進することを目的としている。

### <授業の方法>

本授業では、労働災害の防止基準の確立、責任体制の明確化及び自主的活動の促進等の総合的計画的な対策を推進するための方策について安衛法を中心に、具体的内容を定めている施行令、規則、省令さらに密接な関係がある作業環境測定法、じん肺法などについて学ぶ。また実際の労働現場での労働衛生管理体制、作業環境管理、作業管理、健康管理、健康保持増進活動について認識を深める。更に安全衛生に関する世界各国の動きにも眼を向け広い視野を養う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

労働法規に関する情報を新聞やインターネットなどで予習・復習すること。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 30%、定期試験 70%

### <教科書>

小島彰（監修） 「改訂新版 労働安全衛生法のしくみ」（図解で早わかり） 三修社  
中央労働災害防止協会 衛生管理（下）《第一種用》 中央労働災害防止協会

### <参考書>

加藤雅章 いちばんやさしい労働安全衛生法 中央労働災害防止協会

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	労働安全衛生法制定の背景および意義	労働災害の定義および最近の動向、労働災害防止計画の策定 総括安全衛生管理者、安全管理者、衛生管理者、産業医、安全衛生委員会
2	労働基準法との関係、適用、法的性質等	
3	総則：目的、定義、事業者等の責務等	
4	労働災害防止計画：	労働災害の定義および最近の動向、労働災害防止計画の策定 総括安全衛生管理者、安全管理者、衛生管理者、産業医、安全衛生委員会
5	安全衛生管理体制：	
6	労働者の危険または健康障害を防止するための措置：事業者・特定元方事業者の講ずべき措置	
7	機械・有害物に関する規制：	機械・有害物に関する規制、製造等の禁止・許可、表示等 安全衛生教育、就業制限 作業環境測定、結果の評価、健康診断、健康の保持増進のための指針の公表
8	労働者の就業にあたっての措置：	
9	健康の保持増進：	
10	快適な職場環境の形成のための措置	総則、作業環境測定士、作業環境測定機関等
11	じん肺法：健康管理、政府の援助等	
12	作業環境測定法：	
13	労働安全衛生関連法令1	労働災害防止活動、および健康増進活動等の実際
14	労働安全衛生関連法令2	
15	企業における労働安全衛生管理	
16		

科目コード	13300				区 分	コア			
授業科目名	法学概論				担当者名	山本 満理子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

「社会あるところ法あり」という言葉が表すように、人間が集まり一定の社会が形作られるとそこには一定のルールが必要になります。また、社会と一口に言っても、家庭、学校、職場（労働）、経済取引、医療現場、スポーツなど、様々な部分的な社会の場面が考えられます。この講義では、そのような具体的な場面を例に取りながら、実際に生活の中でどのように法が関わっているのかを学び、学生がこの先社会生活を営む中で役に立つ知識を涵養し、それらを活かすことができるように考える力を身につけていきます。また、公務員行政職（上級）で課される専門試験にも対応できるよう、法学分野の基礎固めをすることを目的にしています。

#### <授業の到達目標>

- ①学生が社会生活を営む中で直面しうる問題を認識できる。②それらに対して法的にどのように対応しうるのかを知り、理解できる。③これらの知識を別の事例にも応用していく能力を身につける。

#### <授業の方法>

シラバスの予定に沿い、教科書を参照しながら講義形式で進行する予定ですが、この限りではありません。毎回教科書の指定範囲をあらかじめ通読して臨みましょう。ディスカッションやディベート、Google Classroomを使用した小テストをや振り返りシートやレポート等を行う予定です。※教科書を指定しますが、他の基本書を持っている学生は相談してください。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有（模擬裁判やグループに分かれてのディスカッション・ディベートの実施を予定）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回事前に指定された教科書の該当範囲を通読し、概要を頭に入れておく（30分）復習：授業ノートをまとめ、振り返りレポートを作成（30分）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・課題レポート・小テスト 50%、定期試験 50%により総合的に成績評価

#### <教科書>

高橋 雅夫（2020年3月） Next教科書シリーズ 法学 弘文堂

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	法の学び方	教科書p1～p10
2	法の概念	教科書p11～p22
3	法の目的・機能	教科書p23～p34
4	法の存在形式（法源論）	教科書p35～p44
5	法の分類	教科書p45～p54
6	法の解釈と適用	教科書p55～p66
7	日本国憲法	教科書p67～p106
8	家族と法	教科書p107～p126
9	財産と法	教科書p127～p150
10	犯罪と刑罰(1)	教科書p151～p159
11	犯罪と刑罰(2)	教科書p160～p170
12	裁判と法(1)	教科書p213～p232
13	裁判と法(2)	模擬裁判
14	行政と法	教科書p233～p256
15	まとめ	試験と総括
16		

科目コード	14100				区 分	コア科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]PS用				担当者名	品田 直宏			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

### <授業の概要>

陸上競技は、走・跳・投・歩の運動から構成され、内容的には体力的・技術的・精神的な多くの要素を含んでいる。競技や練習を行う上では多面性が要求され、計画的・継続的に行う必要がある種目である。本授業では、特に教員採用試験で出題されるであろう基礎的な種目に照準をあて、五種競技を中心に授業を進める。

### <授業の到達目標>

陸上競技の専門的なトレーニング方法や技術に関する知識の習得、および陸上競技における安全管理の方法を理解した上で、走跳投種目（800m、ハードル走、走幅跳、走高跳および砲丸投）の模範を示すことができる。

### <授業の方法>

対面授業による実技のため教科書は使用しないが、雨天時にはGoogle Classroomを用いたオンデマンド授業とし、各種目の歴史やルール・指導上の留意点に関する理解を深めると共に、レポート課題、小テストを行う。履修上限は70名とする。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

運動習慣のない者、また体力に自信のない者は、自主練習等を行い授業に臨むことがことが望ましい。参考図書（陸上競技入門）やルールブックを熟読の上、授業に参加すること。（所要時間：1時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験 50%，レポート課題20%，受講態度・学習意欲 30%

### <教科書>

### <参考書>

関岡康雄 陸上競技入門 ベースボールマガジン社  
日本陸上競技連盟 陸上競技ルールブック ベースボールマガジン社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、陸上競技の概要	受講上の注意、陸上競技のウォーミングアップ、軸を意識した姿勢作り、ウォーキング&ジョギング
2	短距離走	短距離走の走り方、ウォーミングアップ実践し、100m走の記録測定
3	走高跳①	走高跳のウォーミングアップ実践、曲線助走の方法、踏切
4	走高跳②	踏切～背面跳、記録の測定
5	ハードル走①	ハードルドリル、ハードルクリアランス、アプローチ
6	ハードル走②	インターバル間の走り、記録の測定
7	走幅跳①	走幅跳のウォーミングアップ実践、助走の合わせ方、助走～踏切
8	走幅跳②	助走の確認、記録の測定
9	砲丸投①	砲丸投げのウォーミングアップ実践、立ち投げ
10	砲丸投②	グライド投法、記録の測定
11	800m走	800m走のウォーミングアップ実践、ペース配分、記録の測定
12	跳躍種目の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
13	ハードル走の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
14	砲丸投の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
15	800m走の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
16		

科目コード	14209				区 分	専門基礎			
授業 科目名	非認知能力育成Ⅱ				担当者名	小川 正人			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

経済経営学部現代経営学科の学生を対象とした授業である。本科目においては、様々なビジネスシーンを想定し、数多くの演習に取り組み、スライドや資料の作成・実演を通して、プレゼンターとしてのトレーニングをくり返し行う。

### <授業の到達目標>

1. 受講生はビジネスプレゼンテーションの、方法論としての在り方を理解し、効果的な提案力を習得する。 2. 多くのプレゼンテーションで使用されるパワーポイントを作成する力を身に付ける。 3. プレゼンテーションの様々な方法についての知識を得ることにより、パワーポイントに頼らない提案力を身につける。

### <授業の方法>

1. 授業は教員、受講生、ゲストを交えたディスカッションおよびプレゼンテーションで構成する。2. 課題は中間プレゼンテーション、ファイナルプレゼンテーションの2つに加えて授業に応じて提出を求める。 3. 授業は毎回、前週までに講義、またはユニバーサルパスポートやGoogle Class Room を介して配布されるテーマを元に行う。 4. Microsoft Powerpoint/Google Slideがインストールされたラップトップコンピュータを持参することが必須。 5. 提出物・グループワーク・プレ

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本科目ではアクティブラーニングの手法であるプレゼンテーションを主とするが、プレゼンテーションの企画・準備においてはディスカッションやグループワークなどの手法も取り入れていく。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業での討論や活動に備えて、決められた課題を事前に調べ、勉強しておくこと。授業の予習・復習にはそれぞれ最低1時間は使って欲しい。授業外ではTEDなどを視聴し、「人を魅了する」プレゼンテーションに触れる機会を設けてほしい。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は現代経営学科専門基礎科目のディプロマポリシーDP2（広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力の養成）とディプロマポリシーDP4（社会や企業活動、経済活動に必要な情報を収集し、課題解決のため意見を交わし提案するコミュニケーション能力の養成）に対応している。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加・態度（30％）授業課題（50％）最終課題（20％）課題については1週間程度の期間を設ける。提出期限を過ぎた場合は、採点・成績の対象とはならないので注意してほしい。課題提出をもって出席とし、課題未提出や期限後の提出は欠席となるので十分に気をつけて欲しい。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	コース概要・目的・評価方法の説明、及びグループの設定
2	プレゼンテーションとは？	プレゼンテーションの目的と効果について具体例を交えながら学習する。
3	ゲストスピーカー	オンデマンドにてゲストの登壇を予定
4	PREP法	伝えたい情報を相手にわかりやすく効果的に伝えるための論理的展開の手法（PREP法）を学ぶ
5	アイデア生成とPRER法	プレゼンテーションを構成するアイデアの作り方とPRER法を効果的に活用することで、秩序だった構造、論理的ストーリー構成を学習する...
6	マンダラチャートとPRER法の結び付け	マンダラチャートを使ったブレインストーミングの方法を学習し、生成されたアイデアをPREP法に基づいて構成するワークショップ
7	マンダラチャートをテーマにしたディスカッション	第5回で学習をしたマンダラチャートをベースにクラス内でディスカッションを行う
8	プレゼンテーションデザインの基本	プレゼンテーションデザインの基本原則、プレゼンテーションソフトの操作方法の基本的学習を行う
9	プレゼンテーションデザインの応用①	プレゼンテーションの目的にそぐわない無駄を省くことでより効果的な提案ができることを学習する。
10	プレゼンテーションデザインの応用②とプレゼンテーション作成の準備	第8回講義を中心にディスカッション。残りの時間はプレゼンテーション準備
11	プレゼンテーションデリバリーとグラフの作成	プレゼンテーションでの話し方とプレゼンテーションの準備方法、グラフ作成について学ぶ
12	全体のおさらい	途中講評・スライド作成の技術的ポイントのおさらい

13	ファイナルプレゼンテーション発表	対面の場合はプレゼンテーション発表の時間に利用
14	ファイナルプレゼンテーション発表	対面の場合はプレゼンテーション発表の時間に利用
15	ゲストスピーカー	オンデマンドにてゲストの登壇を予定
16		

科目コード	20305				区 分	専門基礎			
授業 科目名	次世代教育学 [FC]				担当者名	後藤 由佳			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「次世代教育学」は、国家資格である保育士資格、幼稚園教諭一種免許状取得における必修科目、さらにこども発達学科の卒業必修科目である。本授業では、次代の社会を担い、自立して課題解決能力を持つ子どもを育てることができる資質・能力を培い、保育士・幼稚園教諭等の養成と地球的視野から持続可能なグローバル社会の発展と構築へ貢献できる国際人の育成を目的とする。

### <授業の到達目標>

1. 豊かな人間性を保持し、乳幼児や児童との関わりを持てるようになる。 2. 保育・教育への情熱と関心を持ち、日々学び続けられるようになる。

### <授業の方法>

準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタルツール(Classroom)を活用する。課題発見のため、アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク等)を取り入れ、授業を進める。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有(ディスカッション、グループワークの方法) グループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ発表を行う。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外で、授業に必要な資料や教材、用具を準備してください。また授業内に作品が完成しない場合は、前回の授業内容の作品や課題に取り組む等、次回の授業までに準備学習を求めます。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2(保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、授業課題や作品発表(プレゼンテーションの内容と方法・技術) 50%、定期試験・レポート 20%

### <教科書>

平成29年3月告示 幼稚園教育要領

平成29年3月告示 保育所保育指針

平成29年3月告示 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	・ 幼児期の表現の重要性と特徴の概観・オペレッタの概要と意義の紹介・オペレッタ上演の目標と学習成果の明確化
2	幼児の表現の姿と発達	・ 幼児期の感性や創造性の発達段階の理解・身体表現、造形表現、音楽表現などの幼児の表現形式の特性と相互関係の考察
3	オペレッタの基本構成要素	・ オペレッタの構成要素と役割の解説・台本の読み解きと役割分担の設定
4	オペレッタの役作りと表現指導	・ 役柄に対する理解と感情表現の指導法・声の使い方や表情のトレーニング
5	ダンスと振付けの基礎	・ ダンスの基本姿勢と動きの基礎・オリジナル振付けの考案と練習
6	舞台演出と演技練習	・ 舞台上での位置取りと動きの確認・シーンごとの練習と指導
7	オペレッタの音楽とリハーサル	・ 音楽の基本的な要素とオペレッタの楽曲の解説・音楽と歌のリハーサル
8	舞台セットと衣装の準備	・ 舞台セット(舞台背景、大道具、小道具)の設計と製作の基礎・衣装のデザインと制作の手順
9	プロップスの活用	・ 小道具の選定と使い方の指導・オペレッタに必要なプロップスの準備と活用法
10	全体リハーサルと調整	・ 全体の動きや表現の調整と練習・音楽と歌、演技の統合
11	最終リハーサルと評価	・ 最終リハーサルの実施と振り返り・グループ内評価と改善点の特定
12	公演準備と舞台セッティング	・ 公演の準備と舞台のセッティング・公演日程とチケットの販売・配布
13	公演日: オペレッタ上演	・ 実際の公演を行い、幼児とその保護者に向けてパフォーマンスを披露
14	公演後の振り返りと評価	・ 公演の反省と成果の評価・個人的な学びやグループの成長についての振り返り
15	全体総括と学習成果の確認	・ 振り返りと学習成果の評価・幼児の表現力向上に向けた今後の取り組みの提案
16	定期試験	

科目コード	21106				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	保育原理				担当者名	橘高 真紀子			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

保育の基本理念・歴史・制度・実践について学び、保育者としての基礎的な知識を身につける。講義およびグループワークを取り入れた授業を行う。

#### <授業の到達目標>

1. 保育の理念や基本原則を説明できる。2. 子どもの発達と保育の関係について理解できる。3. 保育者の役割と求められる資質について考え、自らの姿勢を明確にできる。4. 保育に関する課題をグループで議論し、考察できる。

#### <授業の方法>

・授業テーマに即したワークやグループディスカッションを行う（全てにおいてワークシートを配布する）。・各自、またグループで発表を行いそれぞれの考えを共有し、学びを深める。・まとめの講義を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション等を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説を読んでおく。・幼児教育、子どもに関する時事ニュースに関心を持っておく。・リアクションペーパーの作成時において、授業内容を振り返り、理解を深めるようにする。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・受講態度、グループディスカッションの参加態度（30%）・リアクションペーパーの提出（適切な着眼点の意見や感想）（30%）・最終レポート（40%）※リアクションペーパーは、クラスルームに提出。〆切は翌日までとする。質問等のフィードバックについては次回授業で行う。※最終レポートのテーマは、授業内容に即したものを提示する。指定された期日までに提出すること。

#### <教科書>

随時資料配布

#### <参考書>

幼稚園教育要領解説/フレーバル館 保育所保育指針解説/フレーバル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説/フレーバル

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・オリエンテーション・保育の理念と概念	・授業計画説明 ・養護と保育の一体化・保育内容領域・幼児教育保育の社会における役割
2	・子どもの発達をふまえた保育①	・0～2歳児について
3	・子どもの発達をふまえた保育②	・3～5歳児について
4	・さまざまな幼児教育保育形態	オンデマンド：・施設形態 ・子どもの保育施設での一日（延長保育、一時保育、病児保育等々）・自由保育、一斉保育、縦割り保育、等々
5	・環境による保育	・保育所保育指針より・子どもが主体的に関わることでできる環境を保育者が計画的に準備することの重要性について。
6	・保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育保育要領に基づく教育保育	・保育所保育指針の概要 ・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿・育みたい資質、能力
7	・PDCAに基づく保育	・保育計画の必要性・それぞれの計画の役割・評価の方法
8	・子育て支援、連携	・子育て支援が求められる背景と必要性
9	・保幼小の連携	・保幼小連携の意義や課題
10	・子どもの安全をふまえた保育	・保育施設における安全防災対策・子どもの虐待防止と保育
11	保育所保育指針の考え方（5）保育のねらいと内容	・保育施設における安全防災対策・子どもの虐待防止と保育
12	・諸外国の保育の思想と歴史②	・グループごとに前回まとめたものを発表し、質疑応答する
13	・日本の保育の思想と歴史①	・グループワーク：グループごとに日本の教育学者、思想家等について調べまとめる
14	・日本の保育の思想と歴史②	・グループごとに前回まとめたものを発表し、質疑応答する
15	・日本の保育の現状と課題	・子ども子育て支援制度・家庭教育環境の現状と課題（貧困、虐待）・保育士のキャリアアップ研修・レポートテーマを伝える



科目コード	21107				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	保育者論				担当者名	橘高 真紀子			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

保育者論は、保育士をはじめ幼稚園教諭、保育教諭など多様化する保育者像を見すえ、子どもの育ちと保護者の子育てを支える保育者の専門性について学ぶことを目的としている。保育士養成カリキュラムに準じて授業内容を設定し、保育者の役割と責務について具体的に学ぶ。目指す学習成果は、保育者の役割、保育者の倫理、保育者の資格と責務、保育士の専門性、保育者の協働と連携、保育者のキャリア形成などについてである。

### <授業の到達目標>

1. 保育者の役割と責任について説明できる。2. 保育者としての倫理観に基づいた判断ができる。3. 保育者としての自己理解を深め、専門性を高める意識を持つ。

### <授業の方法>

・授業テーマに即したワークやグループワークを行う。・各自、またグループで発表を行いそれぞれの考えを共有し、学びを深める。・まとめの講義を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション等を行う

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説を読んでおく。・幼児教育、子どもに関する時事ニュースに関しを持っておく。・リアクションペーパーの作成時において、授業内容を振り返り、理解を深めるようにする。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・受講態度、グループディスカッション（発表）の参加態度（30%）・リアクションペーパー（適切な着眼点の意見や感想、質問）（30%）・最終レポート（40%） ※リアクションペーパーは、クラスルームに提出。べ切は翌日までとする。質問等のフィードバックについては次回授業で行う。 ※最終レポートのテーマは、授業内容に即したものを提示する。指定された期日までに提出すること。

### <教科書>

随時資料配布

### <参考書>

幼稚園教育要領解説/フレーバル館 保育所保育指針解説/フレーバル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説/フレーバル

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・オリエンテーション・保育者を目指すにあたって：自己理解	・授業計画説明・ワークおよびグループワーク
2	・保育者の役割と責任	・グループワーク
3	・保育者の倫理観	・グループワーク
4	・法律から見た保育者	・免許や資格・日本版DBP
5	・保育者の連携と協働	・保育者のチームワーク・ハウレンソウ(報告・連絡・相談)、カクレンボウ(確認・連絡・報告)・関係機関との連携
6	・子どもの思いや育ちに寄り添う保育者	・ワークおよびグループワーク
7	・保護者対応	・ワークおよびグループワーク
8	・保育を発信する力 ICTの活用①	・グループワーク：（学校）紹介動画の作成
9	ゲストスピーカー：現役保育者を迎えて	現役保育者の話を聞き、質疑応答の時間を設ける
10	・保育を発信する力 ICTの活用②	・グループごとに動画発表
11	・デザイン思考を用いた問題解決	・グループワーク
12	・ケーススタディ：保育現場における倫理的ジレンマ	・ワークおよびグループワーク
13	・新しい時代の保育とは①	・グループワーク
14	・新しい時代の保育者とは②	・グループワーク発表
15	・保育者として学び続ける・保育者の専門性とは	・授業のまとめの講義・レポートテーマを伝える
16		

科目コード	21116				区 分	専門基礎			
授業 科目名	教育の思想と原理				担当者名	酒井 健太郎			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

この授業は「教育原理」と「教育思想」の両側面から成る。教育原理とは、端的に言えば教育の「そもそも」を考えるものである。「子ども」や「学校」を代表とする教育の必要不可欠な構成要素が「そもそも」いかなることを意味するのか。これはそれほど簡単な問ではない。他方、教育思想については、読んで字の如く教育についての思想を、特にその歴史（思想史）を学ぶものである。およそ2500年前の古代ギリシア以来、教育思想家と呼ばれる人々は多く存在する。彼らの思想をただ点として記憶するのではなく線として有機的に理解することが肝要となる。これら両側面の学習を並行して進めていくことで、教育の「思想と原理」を十全に把握することが可能になるだろう。というのも、特定の教育原理の背景にはそれについて論じた思想家が存在し、思想家たちの見解はその原理に関する議論の文脈のうちで提唱されたものだからである。それゆえ本授業では、教育原理における「子ども」「教員」「学校」「社会」の4つのトピックについて、それらを考察した教育思想家たちの見解を参照しつつ考察する。このような学習を通じて「教育とは何か」という問題に自分なりの答えを提出することで、優れた教師になるための第一歩を踏み出してもらいたい。教育原理なき教育思想は空虚であり、教育思想なき教育原理は盲目である。

<授業の到達目標>

①教育思想家たちの思想を理解し、現代の観点からその有用な点と受け入れられない点を説明できる。②「子ども」「教員」「学校」「社会」などのキーワードを自身の言葉で説明できる。③「教育とは何か」という問題に関する自身の答えを示すことができる。

<授業の方法>

教科書に基づいたオンデマンド授業。Google Classroomで授業資料と課題を配信する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有。受講生には教科書の内容への習熟はもとより、自身で様々な文献や資料を読みこなすことが求められる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書の指定された箇所を熟読する（1時間）復習：教科書の指定された箇所に関連する文献を参照する（1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験（50%）、事後課題（50%）

<教科書>

酒井健太郎（2024年4月20日） 教育の思想と原理―古典といっしょに現代の問題を考える 晃洋書房

<参考書>

勝野正章、庄井良信（2022年12月20日） 問いからはじめる教育学 改訂版 有斐閣  
 岩下誠、三時眞貴子、倉石一郎、姉川雄大（2020年10月20日） 問いからはじめる教育史 有斐閣  
 汐見稔幸、伊東毅、高田文子、東宏行、増田修治（2011年4月30日） よくわかる教育原理 ミネルヴァ書房

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	導入	「教育とは何か」（教科書序章）
2	子ども（1）	子どもと家族（ルソー、ケイ、アリエス）（教科書第1章）
3	子ども（2）	遊び（ロック、ホイジンガ、カイヨワ）（教科書第2章）
4	子ども（3）	保育（フレーベル、倉橋惣三、モンテッソーリ）（教科書第3章）
5	教員（1）	教育の方法（ペスタロッチ、ヘルバルト、ヴィゴツキー）（教科書第4章）
6	教員（2）	教養（イソクラテス、サン・ヴィクトルのフーゴー、ニーチェ）（教科書第5章）
7	教員（3）	教えないことによる教育と学習（ソクラテス、ルソー、デューイ）（教科書第6章）
8	幕間	教育思想と教育原理の連続性
9	学校（1）	教育カリキュラム（プラトン、コメニウス、フンボルト）（教科書第7章）
10	学校（2）	道徳的発達（アリストテレス、貝原益軒、ギリガン）（教科書第8章）
11	学校（3）	場としての学校（アリストテレス、デューイ、イリイチ）（教科書第9章）
12	社会（1）	国と教育（プラトン、福沢諭吉、デュルケーム）（教科書第10章）
13	社会（2）	宗教と教育（アウグスティヌス、トマス、ルター）（教科書第11章）
14	社会（3）	メリトクラシー（プラトン、イソクラテス、アリストテレス、ヤング、サンデル）（教科書第12章）
15	総括	「教育とは何か」再考（教科書終章）
16		

科目コード	21204				区 分	専門基礎科目			
授業 科目名	英語科教育法 I (基礎)				担当者名	井上 聡			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業の目的は、英語科教育の過去と現在について理解を深め、これからの英語教育の方向性について自身の教育観を醸成することです。そのような資質を高めるため、本授業では、グループワークを軸として、英語教育理論、言語活動、教育実践に関する討論・発表が中心となります。事前課題の「問い」を通して問題を発見し、他者との意見交換を通して問題を解決し、プレゼンテーションや相互評価を通して、英語教師としての資質・能力を高めます。学修成果としては、協働性、批判的思考力、省察力、デジタル活用力を求めます。なお、この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCまたはタブレットを持参の上、臨んでください。中高英語免許取得を主専攻とする学生はもちろん、副専攻とする学生を力強く支援します。

### <授業の到達目標>

1. 英語科教育の専門用語を深く理解し、体系化できる。2. 協同学習に主体的に参加し、多様な役割を担いつつ、グループ・ワークに貢献できる。3. 未来の英語教師として、自身の意見を適切かつ的確に発信できる。

### <授業の方法>

グループ討論（30分）解説（30分）プレゼンテーション（30分）※授業はすべてGoogle Classroom上で行います。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク（事前課題の教えあい、模擬授業）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：問いに対する回答（ノートのスクリーンショットを提出）（90分程度）復習：理解度確認テスト（30分程度）＋意見交換（10分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%, 理解度確認テスト 30%, プレゼンテーション 20%, 意見交換 20%

### <教科書>

JACET教育問題研究会（2017年11月30日） 行動志向の英語科教育の基礎と実践-教師は成長する- 三修社

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	シラバスの説明、シミュレーション（事前課題、グループワーク）
2	外国語教育の目的と意義	日本の外国語教育の方向性、CEFRの言語教育観
3	英語教育課程	教育課程と学習指導要領、日本の英語教育課程の今後の方向性
4	第二言語習得と教授法	SLA研究からの知見、教授法
5	学習者論	言語習得とは、自律と自立、学習者要因、英語学習に成功する学習者
6	英語教師論	教員として求められる資質・能力、言語教師の役割、英語教師の成長
7	まとめ	復習テスト
8	リスニングリーディング	基本概念とリスニング指導基本概念とリーディング指導
9	スピーキングライティング	基本概念とスピーキング指導基本概念とライティング指導
10	技能統合型の指導：インタラクション	基本概念、協同学習
11	文法指導語彙指導	基本概念と文法指導基本概念と語彙指導
12	文法指導語彙指導	基本概念と文法指導基本概念と語彙指導
13	PPPF演習（1）	指導案の作成（概案）
14	PPPF演習（2）	指導案の作成（概案）
15	プレゼンテーション	私が目指す英語教師像
16		

科目コード	21205				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	英語科教育法Ⅱ(応用)				担当者名	伊藤 仁美／竹下 厚志			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業は、英語の授業づくりに必要な基礎的な技能を育成することを主な目的とします。具体的には小学校英語および中学校1年生に絞って、どのような英語が学ばれているのかについて教科書分析を行い、文法導入、内容理解や文字指導の方法について学びます。また、英語トレーニングによって英語コミュニケーション力の育成を図ります。さらに海外交流に必要な英語表現を身につけます。

### <授業の到達目標>

1. 中学校レベルの英語を流暢に活用することができる。
2. 中学校1年生を対象にした模擬授業をスムーズにすることができる。
3. 海外交流に必要な基本的な話題をもとに英語によるやりとりをすることができる。

### <授業の方法>

英語トレーニング、ペア・グループワーク、プレゼンテーション、音読・リテリング等に関する指導

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり。ペア・グループワーク、プレゼンテーション

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：音読・暗唱（毎日1時間）、復習：導入や模擬授業に関する練習（毎日30分程度）、英語トレーニング（毎日2時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加度（発言、活動に対する意欲） 30%、模擬授業・プレゼンテーション 40% 英語力 30%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要と進め方、英語トレーニング、テスト
2	小学校英語 1	小学校5年生の教科書を使った言語活動
3	小学校英語 2	小学校6年生の教科書を使った言語活動
4	中学校1年生導入 1	中学校1年生の教科書を使った導入の仕方（文字・文法） 1
5	中学校1年生導入 2	中学校1年生の教科書を使った導入の仕方（文字・文法） 2
6	本文の扱い方 1	中学校1年生の教科書を使った本文の扱い方（導入、発問、理解、定着） 1
7	本文の扱い方 2	中学校1年生の教科書を使った本文の扱い方（導入、発問、理解、定着） 2
8	海外交流 1	海外交流に必要な英語の準備 1
9	海外交流 2	海外交流に必要な英語の準備 2
10	海外交流 3	海外交流に必要な英語の準備 3
11	模擬授業 1	学んだことを活用した模擬授業 1
12	模擬授業 2	学んだことを活用した模擬授業 2
13	模擬授業 3	学んだことを活用した模擬授業 3
14	模擬授業 4	学んだことを活用した模擬授業 4
15	まとめ	振り返り
16		

科目コード	21212				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	社会的養護 I				担当者名	小倉 毅			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

この授業は、保育士資格取得者のための授業となっている。本講義では、社会的養護の基本原則を習得することを目的としている。社会的養護の歴史の変遷をふまえながら、制度体系、児童福祉施設の役割、機能、現状といった基礎学習を通して、その意義を明らかにする。また、今日の児童を取りまく社会の変動や家族機能の変化を把握し、養護問題の現状や背景について理解を深める。さらに、施設養護の実際と今後の課題について検討し、児童福祉援助者としての保育者の役割や援助のあり方を考える。この講義は保育実習 I B(施設)に向けての知識を学ぶ重要な科目である。

#### <授業の到達目標>

現代社会における社会的養護の意義と歴史変遷を踏まえた上で、社会的養護の制度や実施体系について理解する。また、社会的養護における児童の権利について「学び、権利擁護や自立支援の在り方について理解することを目標とする。

#### <授業の方法>

レジメを中心に講義を行います。適宜講義課題について小レポート作成及び小テストを行います。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング有（事例をもとにグループワークを実施し理解を深める）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

受講前には予習として必ず指定テキストを熟読（45分以上）、受講後は指定テキストとレジメをつかって、講義内容を整理すること（45分以上）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 2（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価は、定期試験60%、レポート20%、授業態度 20%で行う。

#### <教科書>

松中 典子 潮谷 光人 今井 慶宗編著 社会的養護 I・II 改訂版 翔雲社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	社会的養護の理念と概念	社会的養護とは何かを基本的理念、原理、基盤づくりについて
2	社会的養護の歴史の変遷	現在の社会的養護の理解を深めるために、社会がどのような児童を養護してきたのかを理解する。
3	子どもの人権擁護と社会的養護	子どもの人権を社会権、生存権を柱とした受動的権利の保障と、自由権を中心とした能動的権利の保障について理解する
4	社会的養護の基本原則	家庭養育優先原則の根拠となる法律や条約等の理解と、アイデンティティ形成の観点から養育環境を理解する
5	社会的養護における保育士等の理論と責務	社会的養護にかかわる専門職の倫理と責務について理解する
6	社会的養護の制度と法体系	措置制度とその背景原理、児童福祉法の概要、関連法規について学び、日本の社会的養護の制度と法体系について理解する
7	社会的養護のしくみと実施体系	児童相談所から社会的養護の各施設や里親家庭に至るソーシャルワーク過程、各施設の目的と概要と課題について理解する
8	社会的養護とファミリーソーシャルワーク	ファミリーソーシャルワークについての基本的な視点を理解し、社会的養護におけるソーシャルワークの展開方法を理解する
9	社会的養護の対象と支援のあり方	社会的養護の対象となる子どもや家庭について理解を深めるとともに、予防的支援、在宅措置、代替養育を必要とする子どもたちや家族がどのようなニーズを抱えているかを理解する
10	家庭養護と施設養護	社会的養護の動向や里親、ファミリーホームといった家庭養護と施設養護の現状と課題、共通点と相違点を理解する
11	社会的養護にかかわる専門職	現場で働く専門職や実施者の業務内容、求められる専門性について理解する
12	社会的養護に関する社会的状況	社会的養護で暮らす子どもたちの背景・社会的養護の位置づけを学び、養子縁組を含む社会的養護のあり方、存在意義について理解する。
13	施設等の運営管理の現状と課題	子どもの最善の利益、すべての子どもを社会全体で育むという基本的理念に基づ

14	被措置児童等の虐待防止の現状と課題	き、社会的養護施設等がどのように運営されていくのかを理解する
15	社会的養護と地域福祉の現状と課題	被措置児童等の虐待とは何かを理解した後、被措置児童等の虐待防止の経緯を概観し発生要因と課題について理解する。
16		地域福祉とは何かを理解するとともに、児童福祉施設の機能としての地域支援、地域貢献のあり方を理解する。

科目コード	21213				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	社会的養護Ⅱ				担当者名	小倉 毅			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

2016年に児童福祉法の理念が改正され、子どもは「児童の権利に関する条約」の精神にもとづく権利を有すると明記された。これにより、子どもは、今まで以上に安定した環境で養育を受けること、健全な成長と発達のために自立に向けての支援を受けることが明確になった。そこで本科目は、保育士等の倫理・責務の基本理念を理解するとともに、親がいても養育に欠ける児童、あるいは知的障害、重複障害、情緒障害、非行などのために親や家庭では養育でいていない子どもの援助・支援を行うために必要な専門的知識・技術を理解し、家庭機能の代替としての役割と子どもの心身の成長や発達保障の権利擁護を学ぶ。

### <授業の到達目標>

児童とその権利擁護を支援するために、援助者としての倫理とその基本的理念を理解する。また、それにふさわしい専門知識と技術を身に付ける。

### <授業の方法>

教科書に基づいて、社会的養護内容に関する専門知識を理解し、その内容について事例研究、グループ討議、ロールプレイ、ディベートを使って体得することを目的としている。またそれぞれのレポートを作成する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング有（グループ討議、ロールプレイ、ディベート）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

①予習：次回のテーマに関する記事を検索、子どもが生活する施設概要を理解しておく。（90分）②復習：グループで討議した事例を俯瞰的視点で捉えることができるよう整理し理解する。（90分）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 60%、レポート20%、講義受講態度等 20%

### <教科書>

小宅理沙 監修中 典子 潮谷光人 今井慶宗 編著 社会的養護Ⅰ・Ⅱ 翔雲社（2020年度改訂版）

### <参考書>

2014.4 「施設実習の手引き」 岡山県保育士養成協議会

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	児童福祉施設の援助者	援助者の種類と役割、援助者に求められる基本
2	児童養護の体系と児童福祉施設の概要	児童福祉施設入所の意義、児童福祉施設における社会的養護
3	家庭養護の実際①	里親による養育について
4	家庭養護の実際②	ファミリーホームによる養育について
5	施設養護の実際①	乳児院での乳児の支援について
6	児童養護施設の暮らし①	児童養護施設での子どもの支援について
7	児童養護施設の暮らし②	児童心理治療施設の子どもの支援について
8	児童養護施設の暮らし③	児童自立支援施設の子どもの支援について
9	児童養護施設の暮らし④	母子生活支援施設の子どもと親の支援について
10	障害のある子どもの養育方法①	肢体不自由のある子どもの療育と支援について
11	障害のある子どもの養育方法②	障害児通所支援事業所での療育と支援について
12	障害者への支援方法について①	障害者支援での利用者支援について
13	障害者への支援方法について②	障害福祉サービス事業所での支援について
14	児童福祉施設における社会的養護の課題	虐待を受けた子どもへの援助
15	子どもの「生きる力」とは	援助者の倫理と責務・専門性の考察
16		

科目コード	21214				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	特別活動の指導法 [FE用]				担当者名	藤井 健太郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

教育課程の一つとして、学校教育の中に「特別活動」が存在する意義・目標・内容構成等を概説する。また、道徳科、総合的な学習の時間、学級経営、生徒指導との関連を考えると同時に、特別活動の歴史、および特別活動を支える学習集団の理論等について考察する。そして、特別活動の現代的な意義について理解を深めていく。

### <授業の到達目標>

教育課程における特別活動の位置付けと、特別活動の目標・内容構成を説明することができる。そして、その教育機能を理論的に説明できることを目標とする。また、学級活動の指導計画を立てるという実践力の育成も目指す。

### <授業の方法>

「学習指導要領解説 特別活動編」の内容についてポイントを確認し、具体的な実践例の紹介や各回のテーマに関する重要事項について説明を行う。また、デジタルツールを活用するとともに、児童生徒がICT機器を使うことができるよう指導方法を考える。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）4、5人のグループに分かれ、テーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次時の授業に関連する「学習指導要領解説 特別活動編」のページに目を通しておく。 復習として、本時の授業内容について整理し、理解を深めるよう努める。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加態度30%、レポート（学習指導案等）20%、試験50%

### <教科書>

藤井健太郎 教職科目 特別活動の指導法テキスト 三恵社

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	特別活動とは（オリエンテーション）	特別活動について想起し、授業の概要を把握する。
2	特別活動の歴史の変遷	特別活動の教育課程上の位置づけとその歴史の変遷を理解する。
3	特別活動の基礎理論	特別活動の背景にある理論と方法原理を理解する。
4	特別活動の内容構成	特別活動を構成する学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の概要を理解する。
5	学級活動の目標と内容	学級活動の目標と内容構成を理解する。
6	児童会活動、クラブ活動と学校行事の目標と内容	児童会活動、クラブ活動と学校行事の目標と内容構成を理解する。
7	特別活動と教科指導の関係	特別活動と教科指導の関係を理解する。
8	特別活動と道徳教育	特別活動と道徳教育の関係を理解する。
9	特別活動と総合的な学習の時間	特別活動と総合的な学習の時間の関係を理解する。
10	特別活動と学級経営・生徒指導	特別活動と学級経営および生徒指導の関係を理解する。
11	特別活動の指導計画と評価	特別活動の指導計画と評価のあり方を理解する。
12	学級活動の事例検討（1）	具体的な実践事例をもとに、学級集団づくりの考え方を理解する。
13	学級活動の事例検討（2）	具体的な実践事例をもとに、学級における話し合い活動をより良く進める考え方を理解する。
14	学級活動の学習指導案作成（1）	学習指導案作成の基本的な考え方と方法を理解し、学級活動の指導計画を構想するための考え方を理解する。
15	学級活動の学習指導案作成（2）	各自が作成した学級活動の学習指導案を練り上げ、より良いものに仕上げる。
16		

科目コード	21214				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	特別活動の指導法 [FE用]				担当者名	藤井 健太郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

教育課程の一つとして、学校教育の中に「特別活動」が存在する意義・目標・内容構成等を概説する。また、道徳科、総合的な学習の時間、学級経営、生徒指導との関連を考えると同時に、特別活動の歴史、および特別活動を支える学習集団の理論等について考察する。そして、特別活動の現代的な意義について理解を深めていく。

### <授業の到達目標>

教育課程における特別活動の位置付けと、特別活動の目標・内容構成を説明することができる。そして、その教育機能を理論的に説明できることを目標とする。また、学級活動の指導計画を立てるという実践力の育成も目指す。

### <授業の方法>

「学習指導要領解説 特別活動編」の内容についてポイントを確認し、具体的な実践例の紹介や各回のテーマに関する重要事項について説明を行う。また、デジタルツールを活用するとともに、児童生徒がICT機器を使うことができるよう指導方法を考える。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）4、5人のグループに分かれ、テーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次時の授業に関連する「学習指導要領解説 特別活動編」のページに目を通しておく。 復習として、本時の授業内容について整理し、理解を深めるよう努める。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加態度30%、レポート（学習指導案等）20%、試験50%

### <教科書>

藤井健太郎 教職科目 特別活動の指導法テキスト 三恵社

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	特別活動とは（オリエンテーション）	特別活動について想起し、授業の概要を把握する。
2	特別活動の歴史の変遷	特別活動の教育課程上の位置づけとその歴史の変遷を理解する。
3	特別活動の基礎理論	特別活動の背景にある理論と方法原理を理解する。
4	特別活動の内容構成	特別活動を構成する学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の概要を理解する。
5	学級活動の目標と内容	学級活動の目標と内容構成を理解する。
6	児童会活動、クラブ活動と学校行事の目標と内容	児童会活動、クラブ活動と学校行事の目標と内容構成を理解する。
7	特別活動と教科指導の関係	特別活動と教科指導の関係を理解する。
8	特別活動と道徳教育	特別活動と道徳教育の関係を理解する。
9	特別活動と総合的な学習の時間	特別活動と総合的な学習の時間の関係を理解する。
10	特別活動と学級経営・生徒指導	特別活動と学級経営および生徒指導の関係を理解する。
11	特別活動の指導計画と評価	特別活動の指導計画と評価のあり方を理解する。
12	学級活動の事例検討（1）	具体的な実践事例をもとに、学級集団づくりの考え方を理解する。
13	学級活動の事例検討（2）	具体的な実践事例をもとに、学級における話し合い活動をより良く進める考え方を理解する。
14	学級活動の学習指導案作成（1）	学習指導案作成の基本的な考え方と方法を理解し、学級活動の指導計画を構想するための考え方を理解する。
15	学級活動の学習指導案作成（2）	各自が作成した学級活動の学習指導案を練り上げ、より良いものに仕上げる。
16		

科目コード	21214				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	特別活動の指導法 [FC,PP,PS組用]				担当者名	藤井 健太郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

教育課程の一つとして、学校教育の中に「特別活動」が存在する意義・目標・内容構成等を概説する。また、道徳科、総合的な学習の時間、学級経営、生徒指導との関連を考えると同時に、特別活動の歴史、および特別活動を支える学習集団の理論等について考察する。そして、特別活動の現代的な意義について理解を深めていく。

### <授業の到達目標>

教育課程における特別活動の位置付けと、特別活動の目標・内容構成を説明することができる。そして、その教育機能を理論的に説明できることを目標とする。また、学級活動の指導計画を立てるという実践力の育成も目指す。

### <授業の方法>

「学習指導要領解説 特別活動編」の内容についてポイントを確認し、具体的な実践例の紹介や各回のテーマに関する重要事項について説明を行う。また、デジタルツールを活用するとともに、児童生徒がICT機器を使うことができるよう指導方法を考える。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）4、5人のグループに分かれ、テーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次時の授業に関連する「学習指導要領解説 特別活動編」のページに目を通しておく。 復習として、本時の授業内容について整理し、理解を深めるよう努める。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加態度30%、レポート（学習指導案等）20%、試験50%

### <教科書>

藤井健太郎 教職科目 特別活動の指導法テキスト 三恵社

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	特別活動とは（オリエンテーション）	特別活動について想起し、授業の概要を把握する。
2	特別活動の歴史の変遷	特別活動の教育課程上の位置づけとその歴史の変遷を理解する。
3	特別活動の基礎理論	特別活動の背景にある理論と方法原理を理解する。
4	特別活動の内容構成	特別活動を構成する学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の概要を理解する。
5	学級活動の目標と内容	学級活動の目標と内容構成を理解する。
6	児童会活動、クラブ活動と学校行事の目標と内容	児童会活動、クラブ活動と学校行事の目標と内容構成を理解する。
7	特別活動と教科指導の関係	特別活動と教科指導の関係を理解する。
8	特別活動と道徳教育	特別活動と道徳教育の関係を理解する。
9	特別活動と総合的な学習の時間	特別活動と総合的な学習の時間の関係を理解する。
10	特別活動と学級経営・生徒指導	特別活動と学級経営および生徒指導の関係を理解する。
11	特別活動の指導計画と評価	特別活動の指導計画と評価のあり方を理解する。
12	学級活動の事例検討（1）	具体的な実践事例をもとに、学級集団づくりの考え方を理解する。
13	学級活動の事例検討（2）	具体的な実践事例をもとに、学級における話し合い活動をより良く進める考え方を理解する。
14	学級活動の学習指導案作成（1）	学習指導案作成の基本的な考え方と方法を理解し、学級活動の指導計画を構想するための考え方を理解する。
15	学級活動の学習指導案作成（2）	各自が作成した学級活動の学習指導案を練り上げ、より良いものに仕上げる。
16		

科目コード	21306				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	英語科教育法Ⅲ(発展)				担当者名	竹下 厚志／伊藤 仁美			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本授業では、英語科教育知識への理解を深めること、学習者の言語技能を向上させるために教材分析力および英語コミュニケーション力を高めながら、授業力を高めることに取り組めます。実際の模擬授業や指導案の作成を通して、1授業を構成する力を養成します。また海外交流に必要なリサーチベースに基づくプレゼンテーション力の育成も目指します。PCを持参のうえ臨んでください。

#### <授業の到達目標>

(1) 英語科教育知識を深めることができる。(2) 英語授業に必要な英語コミュニケーション力を身につけることができる。(3) 1授業の指導案を作成できる。(4) 学習した内容に基づきスムーズな模擬授業ができる。(5) リサーチベースのプレゼンテーションができる。

#### <授業の方法>

(1) 講義（教員による解説と問いの提示）(2) グループワーク（学習内容に関する教え合い）(3) ディスカッション（模擬授業を対象とした問いに対する回答）(4) 省察活動（まとめと発表）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり。プレゼンテーション ディスカッション グループワーク

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容の事前学習（1時間程度）、模擬授業の準備（2時間程度）復習：英語トレーニング（毎日2時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業での取り組み・意欲 30%、模擬授業・プレゼンテーション 40%、指導案作成 30%

#### <教科書>

#### <参考書>

特に指定なし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要および進め方、英語トレーニング
2	授業づくり1	授業構成および観点別評価の考え方について学ぶ
3	授業づくり2	導入の仕方および表現活動の仕方を学ぶ
4	リーディング指導1	教科書本文の扱い方を学ぶ1
5	リーディング指導2	リーディング指導の発表
6	パラフレーズトレーニング1	主に教科書を使ったパラフレーズトレーニング
7	パラフレーズトレーニング2	インターアクションを通じたパラフレーズトレーニング
8	海外交流1	海外交流に必要なリサーチ1
9	海外交流2	海外交流に必要なリサーチ2
10	海外交流3	海外交流に必要なリサーチ3
11	指導案作成	1授業における本時案の作成
12	模擬授業1	学んだことを生かした模擬授業1
13	模擬授業2	学んだことを生かした模擬授業2
14	模擬授業3	学んだことを生かした模擬授業3
15	まとめ	授業全体の振り返り
16		

科目コード	21307				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	英語科教育法Ⅳ(実践)				担当者名	竹下 厚志／伊藤 仁美			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本授業では、英語科教育知識への理解を深めること、学習者の言語技能を向上させるために教材分析力および英語コミュニケーション力を高めるながら「授業づくり」のコアを学んでいきます。実際の模擬授業や指導案の作成を通して、1授業・1単元を構成する力を養成します。また海外交流に必要なリサーチベースのプレゼンテーション力の育成も目指します。PCを持参のうえ臨んでください。

#### <授業の到達目標>

(1) 英語科教育知識を深めることができる。(2) 英語授業の導入・展開・まとめに応じた活動を実践することができる。(3) 授業の全体像を把握できる指導案を作成できる。(4) リサーチベースのプレゼンテーションおよびディスカッションができる。

#### <授業の方法>

講義（教員による解説と問いの提示）、グループワーク（学習内容に関する教え合い）、ディスカッション（模擬授業を対象とした問いに対する回答）、省察活動（まとめと発表）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。グループによるディスカッション、プレゼンテーション

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容の事前学習（1時間程度）、模擬授業の準備（2時間程度）復習：英語トレーニング（毎日2時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業での取り組み・意欲 30%、模擬授業 40%、指導案作成 30%

#### <教科書>

#### <参考書>

特に指定なし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要および進め方、英語トレーニング
2	発問づくり1	4つの観点から発問を作成する1
3	発問づくり2	4つの観点から発問を作成する2
4	オーラルイントロダクション1	オーラルイントロダクションの手法を学ぶ
5	オーラルイントロダクション2	実際にオーラルイントロダクションを使って実演する
6	指導案作成1	指導案作成について学ぶ
7	指導案作成2	指導案を作成する
8	海外交流1	海外交流に必要なリサーチ1
9	海外交流2	海外交流に必要なリサーチ2
10	海外交流3	海外交流に必要なリサーチ3
11	模擬授業1	学んだことを生かした模擬授業1
12	模擬授業2	学んだことを生かした模擬授業2
13	模擬授業3	学んだことを生かした模擬授業3
14	模擬授業4	学んだことを生かした模擬授業4
15	まとめ	授業全体の振り返り
16		

科目コード	21329				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	道徳教育の理論及び指導法 [PP2331組用]				担当者名	木野 正一郎			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業では、初等・中等学校における道徳教育の内容や指導法について理論的に理解し、初等・中等学校の教員として確実に道徳教育の実践を行うために必要な資質・能力（コンピテンシー）を育成することをめざす。現代社会は価値の多様化社会とも呼ばれ、自分の生き方や他者との関係の在り方等がきわめて不明確となりやすい傾向にある。それだけに、初等・中等学校における道徳教育はきわめて重要な課題であり、豊かな人間性を育成するための指導力の向上は不可欠なものであると考える。（注）「学校のエデュケーション全体で行う道徳教育」ならびに「特別の教科 道徳」については、その設置の背景から「考え議論する道徳」へのパラダイムシフトが求められており、文部科学省のモデルコア・カリキュラムの要請に従う必要がある。ゆえに、理論編では、カリキュラム・歴史学・発達心理学・社会心理学等も含めて幅広い分野から学習する。また、実践編では、次世代型道徳教育を探究するので、従来型の道徳教育の在り方については指導書などで研鑽してほしい。

### <授業の到達目標>

「特別の教科 道徳」を要として、「学校のエデュケーション全体を通じて行う道徳教育（学習指導要領「第1章総則」の2）」の意義と目標を踏まえ、道徳教育や道徳科の内容と方法について基礎的な知識を学ぶだけでなく、学習指導要領の作成や模擬授業の実施等に取り組むことによって、実践的指導力を培うことができるようにする。めざす姿は、子ども自らが主体的・対話的に仲間と共に「考え議論する」ような道徳科の探究的な学習を授業設計し、その評価を効果測定によって自己分析できるようにすることである。本講義では、従来型の「徳目主義」・「読み物道

### <授業の方法>

課題や資料は、授業時に配布する（欠席者・実習参加者にも課題を課すため、Googleクラスルームでも配信する。著作権法・肖像権法の関係で他に流出しないように注意すること）。授業では、「学校のエデュケーション全体で行う道徳教育」の概要や「特別の教科 道徳」の指導方法について理解したことを、ミニレポートにまとめたり、グループワークで伝えあったりしながら理解を深める（両者ともに課題として評価する）。また、実践的指導力の向上を図るために「特別の教科 道徳」の学習指導案（オリジナルの問題解決型学習）を授業設計する。さらに、自

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングあり<内容>・理論編では、随時、ペアワーク、グループワークを行う。・実践編では、担当教員の実践事例を学生が行う際に、心情分析、SWOT分析、マトリックス分析、イメージマップ分析等のワークショップを行う。・授業設計編では、学習指導案（すべての講義内容を反映させたオリジナルの問題解決型学習を設計）の制作を演習的に行う。・授業分析編では、自ら作成したオリジナル指導案を仲間を紹介し、相互評価を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

<事前>講義内容の概要を自分なりに把握する努力を行うと同時に、疑問点などを探しておく。<事後>講義内容についての課題を出すので、自分の経験と結びつけて回答する（所用時間は1時間程度／400字～600字／\*評価の観点・基準は下記参照）。<事中>①授業中は、集中力を高めるためメモを取ることを勧める（ノートやメモ点はハイクオリティなものは毎回の点数に+1～+2点で評価）。②実践編で行う各種ワークショップに参加する（\*評価の観点・基準は下記参照）。③授業設計編では学習指導案制作を行い、授業紹介時には授業分析を行

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

<評価対象>①毎回の課題（必須）... 毎回10点で評価する（最終的に評点70点分の算定基礎とする）。②毎回のノート、メモ（任意）... クオリティの高いものは、毎回の課題点に+1～+2点加算する。③アクティブラーニングの参加状況（必須）... 実践編のアクティブラーニングでの参加意欲、発言内容等を、毎回10点で評価（最終的に評点70点分の算定基礎とする）。④オリジナルの問題解決型学習指導案のクオリティ（必須）... すべての講義で学んだ理論・社会背景などを加味した内容になっているかを30点分で評価する（最終的に評点70

### <教科書>

木野正一郎著（2016年）『新発想！道徳のアクティブ・ラーニング型授業はこれだ』 みくに出版株式会社  
文部科学省（平成29年7月）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳編：平成29年7月』 あかつき教育図書

### <参考書>

押谷由夫（2011年）『道徳性形成・徳育論』 NHK出版（一般財団法人 放送大学教育振興会）  
柳沼良太著（2019年）『プラグマティズム、公共、道徳』 株式会社 あいり出版  
柳沼良太・梅澤真一・山田誠著（2018年）『「現代的な課題」に取り組む道徳授業』 株式会社 図書文化社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
---	-----	---------

1	・ガイドランス・道徳教育とは何か ー道徳教育の理論と実践を学ぶにあたってー	アリストテレスの「人間はポリスの動物である」という問いから、社会になぜ道徳教育が必要なのか、その理由を考える。(キーワード: アリストテレスの中庸論、道と徳、仏教の八正道、カントの実践理性と自由意志論(第2回に回る可能性あり))
2	・道徳教育の現状と課題 ーいのちの尊厳を守る道徳教育ー	なぜ「特別の教科 道徳」が設置されたのかを、いのちの尊厳を守るという視点との関連で考える。(キーワード: 大津いじめ事件、いじめ防止対策推進法、情報モラル教育、「学校」の教育活動全体で行う道徳教育と「特別の教科 道徳」)
3	・学習指導要領の理解Ⅰ ー「学校の教育活動全体で行う道徳教育」「特別の教科道徳」の目標・内容・指導上の留意点ー	学習指導要領「特別の教科 道徳」が設置された意味の面からその理念を理解し、道徳教育のカリキュラム的な構造を理解する。各教科・各領域の中で行う道徳教育を構想する。(キーワード: 「要」規定、価値の葛藤(モラル・ジレンマ)、考え議論する道徳、道徳性の三側面形成理論)
4	・学習指導要領の理解Ⅱー道徳的価値の内容項目・全体計画・指導計画ー	道徳的価値の内容項目(最大で22項目)を、項目ごとに「考え議論する道徳」を構想する。学習指導要領の解説を見て、道徳的価値の内容項目から単元や授業の目標を作る。(キーワード: 道徳的価値の内容項目(低学年19項目、中学年20項目、高学年22項目、中学生22項目)、道徳教育推進教諭、全体計画、指導計画、評価の在り方)
5	・道徳教育の歴史と課題Ⅰ ー古代思想から近世までー	日本における道徳教育の変遷史を儒教や商人倫理との関係でおさえ、時代ごとに要請された道徳教育観(道徳的価値の生成過程)を学ぶ。(キーワード: 諸子百家の思想(儒家・墨家・道家・法家)、商人倫理、朱子学)
6	・道徳教育の歴史と課題Ⅱ ー近世から現代までー	日本における道徳教育の変遷史を、日本の近代化から現代の道徳教育の範囲で学ぶ。(キーワード: 翻訳道徳、教学聖旨、元田永孚、教育勅語、修身科、戦後の教育改革・民主化、社会科道徳、「学校」の教育活動全体で行う道徳教育、道徳の時間、「特別の教科 道徳」)
7	・道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理Ⅰ ー発達心理学編ー	発達心理学の理論を学び、発達段階に応じた道徳教育の在り方を考える。(キーワード: 発達心理学、ピアジェ、認知発達理論、エリクソン、アイデンティティの確立、アイデンティティの危機)
8	・道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理Ⅱ ー道徳性の発達心理学・社会心理学編ー	発達心理学の理論を学び、道徳性の発達を加味した道徳教育の在り方を考える。(キーワード: コールバーグ、6段階道徳性発達理論、デュルケム、社会心理学、アノミ)
9	・道徳教育の理論と方法Ⅰ<実践の体験> ー「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験するー	教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科 道徳」が道徳教育の要として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。(キーワード: 道徳性の三側面形成理論、問題解決型道徳、教科で行う道徳教育、心情理解ワークショップ、長短分析ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング)、実生活ブレイクダウン・ワークショップ、道徳はがき新聞)
10	・道徳教育の理論と方法Ⅰ<実践の体験> ー「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験するー(つづき)・道徳教育の理論と方法Ⅱ<実践の体験> ーSDGsや国際理解教育に関連する「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験するー	・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科 道徳」が道徳教育の要として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。(キーワード: 道徳性の三側面形成理論、問題解決型道徳、教科で行う道徳教育、心情理解ワークショップ、長短分析ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング)、実生活ブレイクダウン・ワークショップ、道徳はがき新聞)・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科 道徳」が道徳教育の要として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合さ
11	・道徳教育の理論と方法Ⅱ<実践の体験> ーSDGsや国際理解教育に関連する「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験するー(つづき)	・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科 道徳」が道徳教育の「要」として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。(注)ここでは、「国際理解・国際親善」という道徳的価値を教えるための素地を学修する。(キーワード: 問題解決型道徳、総合探究型道徳、ソクラテスの対話、SWOT分析ワークショップ、ミニ国連ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング)、SDGs、「SDGs探究」道徳はがき新聞)
12	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅰ<指導案制作の体験> ー小学校高学年のある教材を研究するー	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育(徳目主義・読み物道徳)を理解した上で、「特別の教科 道徳」が求めている「考え議論する道徳」(問題解決型道徳、総合探究型道徳)を作る。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。(作業行程: 教材の把握⇒従来型の方法論理解⇒「考え議論する道徳」のアイディアづくり⇒単元目標づくり⇒三観点・評価軸づくり(つづく))
13	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅱ<指導案制作の体験> ー小学校高学年のある教材をもとに指導案に落とし込むー	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育(徳目主義・読み物道徳)を理解した上で、「特別の教科 道徳」が求めている「考え議論する道徳」(問題解決型道徳、総合探究型道徳)を作る。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。(作業行程: ⇒教材観づくり(小単元ユニットに挑戦する人は単元観づくり)⇒指導上の留意点づくり⇒授業目標づくり⇒「考え議論する道徳」のオリジナル授業の展開づくり(つづく))
14	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅲ<指導案制作の体験> ー小学校高学年のある教材をもとに指導案を完成させるー	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育(徳目主義・読み物道徳)を理解した上で、「特別の教科 道徳」が求めている「考え議論する道徳」(問題解決型道徳、総合探究型道徳)を完成させる。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。(作業行程: ⇒教材観づくり(小単元ユニットに挑戦する人は単元観づくり)⇒指導上の留意点づくり⇒授業目標づくり⇒「考え議論する道徳」のオリジナル授業の展開づくり(完成))
15	・問題解決型道徳、総合探究型道徳のマ	自分が制作した「考え議論する道徳」(問題解決型道徳、総合探究型道徳)のマイク

16	<p>イクロ模擬授業ないし発表＜マイクロ模擬授業の体験＞・講義のまとめ 一次世代型道德教育のすゝめー</p>	<p>ロ模擬授業ないし発表をグループの仲間に紹介して、相互分析・相互評価を行う。最後に、全15回で学修した新しい次世代型道德教育の理論や指導法をまとめる。（作業工程：仲間にマイクロ模擬授業ないし発表⇒相互分析⇒相互評価）</p>
----	--	--

科目コード	21329				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	道徳教育の理論及び指導法 [PP2332組用,FC用]				担当者名	木野 正一郎			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業では、初等・中等学校における道徳教育の内容や指導法について理論的に理解し、初等・中等学校の教員として確実に道徳教育の実践を行うために必要な資質・能力（コンピテンシー）を育成することをめざす。現代社会は価値の多様化社会とも呼ばれ、自分の生き方や他者との関係の在り方等がきわめて不明確となりやすい傾向にある。それだけに、初等・中等学校における道徳教育はきわめて重要な課題であり、豊かな人間性を育成するための指導力の向上は不可欠なものであると考える。（注）「学校の教育活動全体で行う道徳教育」ならびに「特別の教科 道徳」については、その設置の背景から「考え議論する道徳」へのパラダイムシフトが求められており、文部科学省のモデルコア・カリキュラムの要請に従う必要がある。ゆえに、理論編では、カリキュラム・歴史学・発達心理学・社会心理学等も含めて幅広い分野から学習する。また、実践編では、次世代型道徳教育を探究するので、従来型の道徳教育の在り方については指導書などで研鑽してほしい。

### <授業の到達目標>

「特別の教科 道徳」を要として、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育（学習指導要領「第1章総則」の2）」の意義と目標を踏まえ、道徳教育や道徳科の内容と方法について基礎的な知識を学ぶだけでなく、学習指導要領の作成や模擬授業の実施等に取り組むことによって、実践的指導力を培うことができるようにする。めざす姿は、子ども自らが主体的・対話的に仲間と共に「考え議論する」ような道徳科の探究的な学習を授業設計し、その評価を効果測定によって自己分析できるようにすることである。本講義では、従来型の「徳目主義」・「読み物道

### <授業の方法>

課題や資料は、授業時に配布する（欠席者・実習参加者にも課題を課すため、Googleクラスルームでも配信する。著作権法・肖像権法の関係で他に流出しないように注意すること）。授業では、「学校の教育活動全体で行う道徳教育」の概要や「特別の教科 道徳」の指導方法について理解したことを、ミニレポートにまとめたり、グループワークで伝えあったりしながら理解を深める（両者ともに課題として評価する）。また、実践的指導力の向上を図るために「特別の教科 道徳」の学習指導案（オリジナルの問題解決型学習）を授業設計する。さらに、自

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングあり<内容>・理論編では、随時、ペアワーク、グループワークを行う。・実践編では、担当教員の実践事例を学生が行う際に、心情分析、SWOT分析、マトリックス分析、イメージマップ分析等のワークショップを行う。・授業設計編では、学習指導案（すべての講義内容を反映させたオリジナルの問題解決型学習を設計）の制作を演習的に行う。・授業分析編では、自ら作成したオリジナル指導案を仲間を紹介し、相互評価を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

<事前>講義内容の概要を自分なりに把握する努力を行うと同時に、疑問点などを探しておく。<事後>講義内容についての課題を出すので、自分の経験と結びつけて回答する（所用時間は1時間程度／400字～600字／\*評価の観点・基準は下記参照）。<事中>①授業中は、集中力を高めるためメモを取ることを勧める（ノートやメモ点はハイクオリティなものは毎回の点数に+1～+2点で評価）。②実践編で行う各種ワークショップに参加する（\*評価の観点・基準は下記参照）。③授業設計編では学習指導案制作を行い、授業紹介時には授業分析を行

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

<評価対象>①毎回の課題（必須）... 毎回10点で評価する（最終的に評点70点分の算定基礎とする）。②毎回のノート、メモ（任意）... クオリティの高いものは、毎回の課題点に+1～+2点加算する。③アクティブラーニングの参加状況（必須）... 実践編のアクティブラーニングでの参加意欲、発言内容等を、毎回10点で評価（最終的に評点70点分の算定基礎とする）。④オリジナルの問題解決型学習指導案のクオリティ（必須）... すべての講義で学んだ理論・社会背景などを加味した内容になっているかを30点分で評価する（最終的に評点70

### <教科書>

木野正一郎著（2016年）『新発想！道徳のアクティブ・ラーニング型授業はこれだ』 みくに出版株式会社  
文部科学省（平成29年7月）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳編：平成29年7月』 あかつき教育図書

### <参考書>

押谷由夫（2011年）『道徳性形成・徳育論』 NHK出版（一般財団法人 放送大学教育振興会）  
柳沼良太著（2019年）『プラグマティズム、公共、道徳』 株式会社 あいり出版  
柳沼良太・梅澤真一・山田誠著（2018年）『「現代的な課題」に取り組む道徳授業』 株式会社 図書文化社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・ガイダンス・道徳教育とは何か ―道徳教育の理論と実践を学ぶにあたって―	アリストテレスの「人間はポリスの動物である」という問いから、社会になぜ道徳教育が必要なのか、その理由を考える。(キーワード: アリストテレスの中庸論、道と徳、仏教の八正道、カントの実践理性と自由意志論(第2回に回る可能性あり))
2	・道徳教育の現状と課題 ―いのちの尊厳を守る道徳教育―	なぜ「特別の教科 道徳」が設置されたのかを、いのちの尊厳を守るという視点との関連で考える。(キーワード: 大津いじめ事件、いじめ防止対策推進法、情報モラル教育、「学校」の教育活動全体で行う道徳教育と「特別の教科 道徳」)
3	・学習指導要領の理解Ⅰ ―「学校の教育活動全体で行う道徳教育」「特別の教科道徳」の目標・内容・指導上の留意点―	学習指導要領「特別の教科 道徳」が設置された意味の面からその理念を理解し、道徳教育のカリキュラム的な構造を理解する。各教科・各領域の中で行う道徳教育を構想する。(キーワード: 「要」規定、価値の葛藤(モラル・ジレンマ)、考え議論する道徳、道徳性の三側面形成理論)
4	・学習指導要領の理解Ⅱ―道徳的価値の内容項目・全体計画・指導計画―	道徳的価値の内容項目(最大で22項目)を、項目ごとに「考え議論する道徳」を構想する。学習指導要領の解説を見て、道徳的価値の内容項目から単元や授業の目標を作る。(キーワード: 道徳的価値の内容項目(低学年19項目、中学年20項目、高学年22項目、中学生22項目)、道徳教育推進教諭、全体計画、指導計画、評価の在り方)
5	・道徳教育の歴史と課題Ⅰ ―古代思想から近世まで―	日本における道徳教育の変遷史を儒教や商人倫理との関係でおさえ、時代ごとに要請された道徳教育観(道徳的価値の生成過程)を学ぶ。(キーワード: 諸子百家の思想(儒家・墨家・道家・法家)、商人倫理、朱子学)
6	・道徳教育の歴史と課題Ⅱ ―近世から現代まで―	日本における道徳教育の変遷史を、日本の近代化から現代の道徳教育の範囲で学ぶ。(キーワード: 翻訳道徳、教学聖旨、元田永孚、教育勅語、修身科、戦後の教育改革・民主化、社会科道徳、「学校」の教育活動全体で行う道徳教育、道徳の時間、「特別の教科 道徳」)
7	・道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理Ⅰ ―発達心理学編―	発達心理学の理論を学び、発達段階に応じた道徳教育の在り方を考える。(キーワード: 発達心理学、ピアジェ、認知発達理論、エリクソン、アイデンティティの確立、アイデンティティの危機)
8	・道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理Ⅱ ―道徳性の発達心理学・社会心理学編―	発達心理学の理論を学び、道徳性の発達を加味した道徳教育の在り方を考える。(キーワード: コールバーグ、6段階道徳性発達理論、デュルケーム、社会心理学、アノミー)
9	・道徳教育の理論と方法Ⅰ<実践の体験> ―「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する―	教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科 道徳」が道徳教育の要として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。(キーワード: 道徳性の三側面形成理論、問題解決型道徳、教科で行う道徳教育、心情理解ワークショップ、長短分析ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング)、実生活ブレイクダウン・ワークショップ、道徳はがき新聞)
10	・道徳教育の理論と方法Ⅰ<実践の体験> ―「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する― (つづき)・道徳教育の理論と方法Ⅱ<実践の体験> ―SDGsや国際理解教育に関連する「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する―	・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科 道徳」が道徳教育の要として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。(キーワード: 道徳性の三側面形成理論、問題解決型道徳、教科で行う道徳教育、心情理解ワークショップ、長短分析ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング)、実生活ブレイクダウン・ワークショップ、道徳はがき新聞)・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科 道徳」が道徳教育の要として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合さ
11	・道徳教育の理論と方法Ⅱ<実践の体験> ―SDGsや国際理解教育に関連する「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する― (つづき)	・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科 道徳」が道徳教育の「要」として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。(注)ここでは、「国際理解・国際親善」という道徳的価値を教えるための素地を学修する。(キーワード: 問題解決型道徳、総合探究型道徳、ソクラテスの対話、SWOT分析ワークショップ、ミニ国連ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング)、SDGs、「SDGs探究」道徳はがき新聞)
12	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅰ<指導案制作の体験> ―小学校高学年のある教材を研究する―	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育(徳目主義・読み物道徳)を理解した上で、「特別の教科 道徳」が求めている「考え議論する道徳」(問題解決型道徳、総合探究型道徳)を作る。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。(作業行程: 教材の把握⇒従来型の方法論理解⇒「考え議論する道徳」のアイディアづくり⇒単元目標づくり⇒三観点・評価軸づくり(つづく))
13	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅱ<指導案制作の体験> ―小学校高学年のある教材をもとに指導案に落とし込む―	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育(徳目主義・読み物道徳)を理解した上で、「特別の教科 道徳」が求めている「考え議論する道徳」(問題解決型道徳、総合探究型道徳)を作る。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。(作業行程: ⇒教材観づくり(小単元ユニットに挑戦する人は単元観づくり)⇒指導上の留意点づくり⇒授業目標づくり⇒「考え議論する道徳」のオリジナル授業の展開づくり(つづく))
14	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅲ<指導案制作の体験> ―小学校高学年のある教材をもとに指導案を完成させる―	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育(徳目主義・読み物道徳)を理解した上で、「特別の教科 道徳」が求めている「考え議論する道徳」(問題解決型道徳、総合探究型道徳)を完成させる。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。(作業行程: ⇒教材観づくり(小単元ユニットに挑戦する人は単元観づくり)⇒指導上の留意点づくり⇒授業目標づくり⇒「考え議論する道徳」のオリジナル授業の展開づくり(完成))

15	・問題解決型道徳、総合探究型道徳のマイクロ模擬授業ないし発表＜マイクロ模擬授業の体験＞・講義のまとめ 一次世代型道徳教育のすゝめー	自分が制作した「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳）のマイクロ模擬授業ないし発表をグループの仲間に紹介して、相互分析・相互評価を行う。最後に、全15回で学修した新しい次世代型道徳教育の理論や指導法をまとめる。（作業工程：仲間にマイクロ模擬授業ないし発表⇒相互分析⇒相互評価）
16		

科目コード	21329				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	道徳教育の理論及び指導法 [PP2333組用,FC用]				担当者名	木野 正一郎			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業では、初等・中等学校における道徳教育の内容や指導法について理論的に理解し、初等・中等学校の教員として確実に道徳教育の実践を行うために必要な資質・能力（コンピテンシー）を育成することをめざす。現代社会は価値の多様化社会とも呼ばれ、自分の生き方や他者との関係の在り方等がきわめて不明確となりやすい傾向にある。それだけに、初等・中等学校における道徳教育はきわめて重要な課題であり、豊かな人間性を育成するための指導力の向上は不可欠なものであると考える。（注）「学校の教育活動全体で行う道徳教育」ならびに「特別の教科 道徳」については、その設置の背景から「考え議論する道徳」へのパラダイムシフトが求められており、文部科学省のモデルコア・カリキュラムの要請に従う必要がある。ゆえに、理論編では、カリキュラム・歴史学・発達心理学・社会心理学等も含めて幅広い分野から学習する。また、実践編では、次世代型道徳教育を探究するので、従来型の道徳教育の在り方については指導書などで研鑽してほしい。

### <授業の到達目標>

「特別の教科 道徳」を要として、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育（学習指導要領「第1章総則」の2）」の意義と目標を踏まえ、道徳教育や道徳科の内容と方法について基礎的な知識を学ぶだけでなく、学習指導要領の作成や模擬授業の実施等に取り組むことによって、実践的指導力を培うことができるようにする。めざす姿は、子ども自らが主体的・対話的に仲間と共に「考え議論する」ような道徳科の探究的な学習を授業設計し、その評価を効果測定によって自己分析できるようにすることである。本講義では、従来型の「徳目主義」・「読み物道

### <授業の方法>

課題や資料は、授業時に配布する（欠席者・実習参加者にも課題を課すため、Googleクラスルームでも配信する。著作権法・肖像権法の関係で他に流出しないように注意すること）。授業では、「学校の教育活動全体で行う道徳教育」の概要や「特別の教科 道徳」の指導方法について理解したことを、ミニレポートにまとめたり、グループワークで伝えあったりしながら理解を深める（両者ともに課題として評価する）。また、実践的指導力の向上を図るために「特別の教科 道徳」の学習指導案（オリジナルの問題解決型学習）を授業設計する。さらに、自

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングあり<内容>・理論編では、随時、ペアワーク、グループワークを行う。・実践編では、担当教員の実践事例を学生が行う際に、心情分析、SWOT分析、マトリックス分析、イメージマップ分析等のワークショップを行う。・授業設計編では、学習指導案（すべての講義内容を反映させたオリジナルの問題解決型学習を設計）の制作を演習的に行う。・授業分析編では、自ら作成したオリジナル指導案を仲間を紹介し、相互評価を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

<事前>講義内容の概要を自分なりに把握する努力を行うと同時に、疑問点などを探しておく。<事後>講義内容についての課題を出すので、自分の経験と結びつけて回答する（所用時間は1時間程度／400字～600字／\*評価の観点・基準は下記参照）。<事中>①授業中は、集中力を高めるためメモを取ることを勧める（ノートやメモ点はハイクオリティなものは毎回の点数に+1～+2点で評価）。②実践編で行う各種ワークショップに参加する（\*評価の観点・基準は下記参照）。③授業設計編では学習指導案制作を行い、授業紹介時には授業分析を行

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

<評価対象>①毎回の課題（必須）... 毎回10点で評価する（最終的に評点70点分の算定基礎とする）。②毎回のノート、メモ（任意）... クオリティの高いものは、毎回の課題点に+1～+2点加算する。③アクティブラーニングの参加状況（必須）... 実践編のアクティブラーニングでの参加意欲、発言内容等を、毎回10点で評価（最終的に評点70点分の算定基礎とする）。④オリジナルの問題解決型学習指導案のクオリティ（必須）... すべての講義で学んだ理論・社会背景などを加味した内容になっているかを30点分で評価する（最終的に評点70

### <教科書>

木野正一郎著（2016年）『新発想！道徳のアクティブ・ラーニング型授業はこれだ』 みくに出版株式会社  
文部科学省（平成29年7月）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳編：平成29年7月』 あかつき教育図書

### <参考書>

押谷由夫（2011年）『道徳性形成・徳育論』 NHK出版（一般財団法人 放送大学教育振興会）  
柳沼良太著（2019年）『プラグマティズム、公共、道徳』 株式会社 あいり出版  
柳沼良太・梅澤真一・山田誠著（2018年）『「現代的な課題」に取り組む道徳授業』 株式会社 図書文化社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・ガイダンス・道徳教育とは何か ―道徳教育の理論と実践を学ぶにあたって―	アリストテレスの「人間はポリスの動物である」という問いから、社会になぜ道徳教育が必要なのか、その理由を考える。（キーワード：アリストテレスの中庸論、道と徳、仏教の八正道、カントの実践理性と自由意志論（第2回に回る可能性あり））
2	・道徳教育の現状と課題 ―いのちの尊厳を守る道徳教育―	なぜ「特別の教科 道徳」が設置されたのかを、いのちの尊厳を守るという視点との関連で考える。（キーワード：大津いじめ事件、いじめ防止対策推進法、情報モラル教育、「学校」の教育活動全体で行う道徳教育と「特別の教科 道徳」）
3	・学習指導要領の理解Ⅰ ―「学校の教育活動全体で行う道徳教育」「特別の教科 道徳」の目標・内容・指導上の留意点―	学習指導要領「特別の教科 道徳」が設置された意味の面からその理念を理解し、道徳教育のカリキュラム的な構造を理解する。各教科・各領域の中で行う道徳教育を構想する。（キーワード：「要」規定、価値の葛藤（モラル・ジレンマ）、考え議論する道徳、道徳性の三側面形成理論）
4	・学習指導要領の理解Ⅱ―道徳的価値の内容項目・全体計画・指導計画―	道徳的価値の内容項目（最大で22項目）を、項目ごとに「考え議論する道徳」を構想する。学習指導要領の解説を見て、道徳的価値の内容項目から単元や授業の目標を作る。（キーワード：道徳的価値の内容項目（低学年19項目、中学年20項目、高学年22項目、中学生22項目）、道徳教育推進教諭、全体計画、指導計画、評価の在り方）
5	・道徳教育の歴史と課題Ⅰ ―古代思想から近世まで―	日本における道徳教育の変遷史を儒教や商人倫理との関係でおさえ、時代ごとに要請された道徳教育観（道徳的価値の生成過程）を学ぶ。（キーワード：諸子百家の思想（儒家・墨家・道家・法家）、商人倫理、朱子学）
6	・道徳教育の歴史と課題Ⅱ ―近世から現代まで―	日本における道徳教育の変遷史を、日本の近代化から現代の道徳教育の範囲で学ぶ。（キーワード：翻訳道徳、教学聖旨、元田永孚、教育勅語、修身科、戦後の教育改革・民主化、社会科道徳、「学校」の教育活動全体で行う道徳教育、道徳の時間、「特別の教科 道徳」）
7	・道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理Ⅰ ―発達心理学編―	発達心理学の理論を学び、発達段階に応じた道徳教育の在り方を考える。（キーワード：発達心理学、ピアジェ、認知発達理論、エリクソン、アイデンティティの確立、アイデンティティの危機）
8	・道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理Ⅱ ―道徳性の発達心理学・社会心理学編―	発達心理学の理論を学び、道徳性の発達を加味した道徳教育の在り方を考える。（キーワード：コールバーグ、6段階道徳性発達理論、デュルケム、社会心理学、アノミ）
9	・道徳教育の理論と方法Ⅰ<実践の体験> ―「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する―	教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科 道徳」が道徳教育の要として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（キーワード：道徳性の三側面形成理論、問題解決型道徳、教科で行う道徳教育、心情理解ワークショップ、長短分析ワークショップ（マトリックス法・イメージマッピング）、実生活ブレイクダウン・ワークショップ、道徳はがき新聞）
10	・道徳教育の理論と方法Ⅰ<実践の体験> ―「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する―（つづき）	・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科 道徳」が道徳教育の要として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（キーワード：道徳性の三側面形成理論、問題解決型道徳、教科で行う道徳教育、心情理解ワークショップ、長短分析ワークショップ（マトリックス法・イメージマッピング）、実生活ブレイクダウン・ワークショップ、道徳はがき新聞）
11	・道徳教育の理論と方法Ⅱ<実践の体験> ―SDGsや国際理解教育に関連する「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する―（つづき）	・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科 道徳」が道徳教育の「要」として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（注）ここでは、「国際理解・国際親善」という道徳的価値を教えるための素地を学修する。（キーワード：問題解決型道徳、総合探究型道徳、ソクラテスの対話、SWOT分析ワークショップ、ミニ国連ワークショップ（マトリックス法・イメージマッピング）、SDGs、「SDGs探究」道徳はがき新聞）
12	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅰ<指導案制作の体験> ―小学校高学年のある教材を研究する―	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科 道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳）を作る。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：教材の把握⇒従来型の方法論理解⇒「考え議論する道徳」のアイディアづくり⇒単元目標づくり⇒三観点・評価軸づくり（つづく））
13	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅱ<指導案制作の体験> ―小学校高学年のある教材をもとに指導案に落とし込む―	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科 道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳）を作る。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：⇒教材観づくり（小単元ユニットに挑戦する人は単元観づくり）⇒指導上の留意点づくり⇒授業目標づくり⇒「考え議論する道徳」のオリジナル授業の展開づくり（つづく））
14	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅲ<指導案制作の体験> ―小学校高学年のある教材をもとに指導案を完成させる―	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科 道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳）を完成させる。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：⇒教材観づくり（小単元ユニットに挑戦する人は単元観づくり）⇒指導上の留意点づくり⇒授業目標づくり⇒「考え議論する道徳」のオリジナル授業の展開づくり（完成））

15	・問題解決型道徳、総合探究型道徳のマイクロ模擬授業ないし発表＜マイクロ模擬授業の体験＞・講義のまとめ 一次世代型道徳教育のすゝめー	自分が制作した「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳）のマイクロ模擬授業ないし発表をグループの仲間に紹介して、相互分析・相互評価を行う。最後に、全15回で学修した新しい次世代型道徳教育の理論や指導法をまとめる。（作業工程：仲間にマイクロ模擬授業ないし発表⇒相互分析⇒相互評価）
16		

科目コード	21329				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	道徳教育の理論及び指導法 [FE2321組用]				担当者名	木野 正一郎			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業では、初等・中等学校における道徳教育の内容や指導法について理論的に理解し、初等・中等学校の教員として確実に道徳教育の実践を行うために必要な資質・能力（コンピテンシー）を育成することをめざす。現代社会は価値の多様化社会とも呼ばれ、自分の生き方や他者との関係の在り方等がきわめて不明確となりやすい傾向にある。それだけに、初等・中等学校における道徳教育はきわめて重要な課題であり、豊かな人間性を育成するための指導力の向上は不可欠なものであると考える。（注）「学校の教育活動全体で行う道徳教育」ならびに「特別の教科 道徳」については、その設置の背景から「考え議論する道徳」へのパラダイムシフトが求められており、文部科学省のモデルコア・カリキュラムの要請に従う必要がある。ゆえに、理論編では、カリキュラム・歴史学・発達心理学・社会心理学等も含めて幅広い分野から学習する。また、実践編では、次世代型道徳教育を探究するので、従来型の道徳教育の在り方については指導書などで研鑽してほしい。

### <授業の到達目標>

「特別の教科 道徳」を要として、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育（学習指導要領「第1章総則」の2）」の意義と目標を踏まえ、道徳教育や道徳科の内容と方法について基礎的な知識を学ぶだけでなく、学習指導要領の作成や模擬授業の実施等に取り組むことによって、実践的指導力を培うことができるようにする。めざす姿は、子ども自らが主体的・対話的に仲間と共に「考え議論する」ような道徳科の探究的な学習を授業設計し、その評価を効果測定によって自己分析できるようにすることである。本講義では、従来型の「徳目主義」・「読み物道

### <授業の方法>

課題や資料は、授業時に配布する（欠席者・実習参加者にも課題を課すため、Googleクラスルームでも配信する。著作権法・肖像権法の関係で他に流出しないように注意すること）。授業では、「学校の教育活動全体で行う道徳教育」の概要や「特別の教科 道徳」の指導方法について理解したことを、ミニレポートにまとめたり、グループワークで伝えあったりしながら理解を深める（両者ともに課題として評価する）。また、実践的指導力の向上を図るために「特別の教科 道徳」の学習指導案（オリジナルの問題解決型学習）を授業設計する。さらに、自

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングあり<内容>・理論編では、随時、ペアワーク、グループワークを行う。・実践編では、担当教員の実践事例を学生が行う際に、心情分析、SWOT分析、マトリックス分析、イメージマップ分析等のワークショップを行う。・授業設計編では、学習指導案（すべての講義内容を反映させたオリジナルの問題解決型学習を設計）の制作を演習的に行う。・授業分析編では、自ら作成したオリジナル指導案を仲間を紹介し、相互評価を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

<事前>講義内容の概要を自分なりに把握する努力を行うと同時に、疑問点などを探しておく。<事後>講義内容についての課題を出すので、自分の経験と結びつけて回答する（所用時間は1時間程度／400字～600字／\*評価の観点・基準は下記参照）。<事中>①授業中は、集中力を高めるためメモを取ることを勧める（ノートやメモ点はハイクオリティなものは毎回の点数に+1～+2点で評価）。②実践編で行う各種ワークショップに参加する（\*評価の観点・基準は下記参照）。③授業設計編では学習指導案制作を行い、授業紹介時には授業分析を行

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

<評価対象>①毎回の課題（必須）... 毎回10点で評価する（最終的に評点70点分の算定基礎とする）。②毎回のノート、メモ（任意）... クオリティの高いものは、毎回の課題点に+1～+2点加算する。③アクティブラーニングの参加状況（必須）... 実践編のアクティブラーニングでの参加意欲、発言内容等を、毎回10点で評価（最終的に評点70点分の算定基礎とする）。④オリジナルの問題解決型学習指導案のクオリティ（必須）... すべての講義で学んだ理論・社会背景などを加味した内容になっているかを30点分で評価する（最終的に評点70

### <教科書>

木野正一郎著（2016年）『新発想！道徳のアクティブ・ラーニング型授業はこれだ』 みくに出版株式会社  
文部科学省（平成29年7月）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳編：平成29年7月』 あかつき教育図書

### <参考書>

押谷由夫（2011年）『道徳性形成・徳育論』 NHK出版（一般財団法人 放送大学教育振興会）  
柳沼良太著（2019年）『プラグマティズム、公共、道徳』 株式会社 あいり出版  
柳沼良太・梅澤真一・山田誠著（2018年）『「現代的な課題」に取り組む道徳授業』 株式会社 図書文化社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
---	-----	---------

1	・ガイドランス・道德教育とは何か ー道德教育の理論と実践を学ぶにあたってー	アリストテレスの「人間はポリスの動物である」という問いから、社会になぜ道德教育が必要なのか、その理由を考える。(キーワード: アリストテレスの中庸論、道と徳、仏教の八正道、カントの実践理性と自由意志論(第2回に回る可能性あり))
2	・道德教育の現状と課題 ーいのちの尊厳を守る道德教育ー	なぜ「特別の教科 道德」が設置されたのかを、いのちの尊厳を守るという視点との関連で考える。(キーワード: 大津いじめ事件、いじめ防止対策推進法、情報モラル教育、「学校」の教育活動全体で行う道德教育と「特別の教科 道德」)
3	・学習指導要領の理解Ⅰ ー「学校の教育活動全体で行う道德教育」「特別の教科 道德」の目標・内容・指導上の留意点ー	学習指導要領「特別の教科 道德」が設置された意味の面からその理念を理解し、道德教育のカリキュラム的な構造を理解する。各教科・各領域の中で行う道德教育を構想する。(キーワード: 「要」規定、価値の葛藤(モラル・ジレンマ)、考え議論する道德、道德性の三側面形成理論)
4	・学習指導要領の理解Ⅱー道德的価値の内容項目・全体計画・指導計画ー	道德的価値の内容項目(最大で22項目)を、項目ごとに「考え議論する道德」を構想する。学習指導要領の解説を見て、道德的価値の内容項目から単元や授業の目標を作る。(キーワード: 道德的価値の内容項目(低学年19項目、中学年20項目、高学年22項目、中学生22項目)、道德教育推進教諭、全体計画、指導計画、評価の在り方)
5	・道德教育の歴史と課題Ⅰ ー古代思想から近世までー	日本における道德教育の変遷史を儒教や商人倫理との関係でおさえ、時代ごとに要請された道德教育観(道德的価値の生成過程)を学ぶ。(キーワード: 諸子百家の思想(儒家・墨家・道家・法家)、商人倫理、朱子学)
6	・道德教育の歴史と課題Ⅱ ー近世から現代までー	日本における道德教育の変遷史を、日本の近代化から現代の道德教育の範囲で学ぶ。(キーワード: 翻訳道德、教学聖旨、元田永孚、教育勅語、修身科、戦後の教育改革・民主化、社会科道德、「学校」の教育活動全体で行う道德教育、道德の時間、「特別の教科 道德」)
7	・道德性の発達理論を踏まえた道德教育の編成原理Ⅰ ー発達心理学編ー	発達心理学の理論を学び、発達段階に応じた道德教育の在り方を考える。(キーワード: 発達心理学、ピアジェ、認知発達理論、エリクソン、アイデンティティの確立、アイデンティティの危機)
8	・道德性の発達理論を踏まえた道德教育の編成原理Ⅱ ー道德性の発達心理学・社会心理学編ー	発達心理学の理論を学び、道德性の発達を加味した道德教育の在り方を考える。(キーワード: コールバーグ、6段階道德性発達理論、デュルケム、社会心理学、アノミー)
9	・道德教育の理論と方法Ⅰ<実践の体験> ー「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道德」を体験するー	教科で行う道德教育を受けて、「特別の教科 道德」が道德教育の要として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。(キーワード: 道德性の三側面形成理論、問題解決型道德、教科で行う道德教育、心情理解ワークショップ、長短分析ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング)、実生活ブレイクダウン・ワークショップ、道德はがき新聞)
10	・道德教育の理論と方法Ⅰ<実践の体験> ー「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道德」を体験するー(つづき)・道德教育の理論と方法Ⅱ<実践の体験> ーSDGsや国際理解教育に関連する「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道德」を体験するー	・教科で行う道德教育を受けて、「特別の教科 道德」が道德教育の要として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。(キーワード: 道德性の三側面形成理論、問題解決型道德、教科で行う道德教育、心情理解ワークショップ、長短分析ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング)、実生活ブレイクダウン・ワークショップ、道德はがき新聞)・教科で行う道德教育を受けて、「特別の教科 道德」が道德教育の要として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合さ
11	・道德教育の理論と方法Ⅱ<実践の体験> ーSDGsや国際理解教育に関連する「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道德」を体験するー(つづき)	・教科で行う道德教育を受けて、「特別の教科 道德」が道德教育の「要」として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。(注)ここでは、「国際理解・国際親善」という道德的価値を教えるための素地を学修する。(キーワード: 問題解決型道德、総合探究型道德、ソクラテスの対話、SWOT分析ワークショップ、ミニ国連ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング)、SDGs、「SDGs探究」道德はがき新聞)
12	・問題解決型道德、総合探究型道德の構想Ⅰ<指導案制作の体験> ー小学校高学年のある教材を研究するー	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道德教育(徳目主義・読み物道德)を理解した上で、「特別の教科 道德」が求めている「考え議論する道德」(問題解決型道德、総合探究型道德)を作る。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。(作業行程: 教材の把握⇒従来型の方法論理解⇒「考え議論する道德」のアイディアづくり⇒単元目標づくり⇒三観点・評価軸づくり(つづく))
13	・問題解決型道德、総合探究型道德の構想Ⅱ<指導案制作の体験> ー小学校高学年のある教材をもとに指導案に落とし込むー	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道德教育(徳目主義・読み物道德)を理解した上で、「特別の教科 道德」が求めている「考え議論する道德」(問題解決型道德、総合探究型道德)を作る。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。(作業行程: ⇒教材観づくり(小単元ユニットに挑戦する人は単元観づくり)⇒指導上の留意点づくり⇒授業目標づくり⇒「考え議論する道德」のオリジナル授業の展開づくり(つづく))
14	・問題解決型道德、総合探究型道德の構想Ⅲ<指導案制作の体験> ー小学校高学年のある教材をもとに指導案を完成させるー	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道德教育(徳目主義・読み物道德)を理解した上で、「特別の教科 道德」が求めている「考え議論する道德」(問題解決型道德、総合探究型道德)を完成させる。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。(作業行程: ⇒教材観づくり(小単元ユニットに挑戦する人は単元観づくり)⇒指導上の留意点づくり⇒授業目標づくり⇒「考え議論する道德」のオリジナル授業の展開づくり(完成))
15	・問題解決型道德、総合探究型道德のマ	自分が制作した「考え議論する道德」(問題解決型道德、総合探究型道德)のマイク

16	<p>イクロ模擬授業ないし発表＜マイクロ模擬授業の体験＞・講義のまとめ 一次世代型道德教育のすゝめー</p>	<p>ロ模擬授業ないし発表をグループの仲間に紹介して、相互分析・相互評価を行う。最後に、全15回で学修した新しい次世代型道德教育の理論や指導法をまとめる。（作業工程：仲間にマイクロ模擬授業ないし発表⇒相互分析⇒相互評価）</p>
----	--	--

科目コード	21329				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	道徳教育の理論及び指導法 [FE2322組用]				担当者名	木野 正一郎			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業では、初等・中等学校における道徳教育の内容や指導法について理論的に理解し、初等・中等学校の教員として確実に道徳教育の実践を行うために必要な資質・能力（コンピテンシー）を育成することをめざす。現代社会は価値の多様化社会とも呼ばれ、自分の生き方や他者との関係の在り方等がきわめて不明確となりやすい傾向にある。それだけに、初等・中等学校における道徳教育はきわめて重要な課題であり、豊かな人間性を育成するための指導力の向上は不可欠なものであると考える。（注）「学校の教育活動全体で行う道徳教育」ならびに「特別の教科 道徳」については、その設置の背景から「考え議論する道徳」へのパラダイムシフトが求められており、文部科学省のモデルコア・カリキュラムの要請に従う必要がある。ゆえに、理論編では、カリキュラム・歴史学・発達心理学・社会心理学等も含めて幅広い分野から学習する。また、実践編では、次世代型道徳教育を探究するので、従来型の道徳教育の在り方については指導書などで研鑽してほしい。

### <授業の到達目標>

「特別の教科 道徳」を要として、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育（学習指導要領「第1章総則」の2）」の意義と目標を踏まえ、道徳教育や道徳科の内容と方法について基礎的な知識を学ぶだけでなく、学習指導要領の作成や模擬授業の実施等に取り組むことによって、実践的指導力を培うことができるようにする。めざす姿は、子ども自らが主体的・対話的に仲間と共に「考え議論する」ような道徳科の探究的な学習を授業設計し、その評価を効果測定によって自己分析できるようにすることである。本講義では、従来型の「徳目主義」・「読み物道

### <授業の方法>

課題や資料は、授業時に配布する（欠席者・実習参加者にも課題を課すため、Googleクラスルームでも配信する。著作権法・肖像権法の関係で他に流出しないように注意すること）。授業では、「学校の教育活動全体で行う道徳教育」の概要や「特別の教科 道徳」の指導方法について理解したことを、ミニレポートにまとめたり、グループワークで伝えあったりしながら理解を深める（両者ともに課題として評価する）。また、実践的指導力の向上を図るために「特別の教科 道徳」の学習指導案（オリジナルの問題解決型学習）を授業設計する。さらに、自

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングあり<内容>・理論編では、随時、ペアワーク、グループワークを行う。・実践編では、担当教員の実践事例を学生が行う際に、心情分析、SWOT分析、マトリックス分析、イメージマップ分析等のワークショップを行う。・授業設計編では、学習指導案（すべての講義内容を反映させたオリジナルの問題解決型学習を設計）の制作を演習的に行う。・授業分析編では、自ら作成したオリジナル指導案を仲間を紹介し、相互評価を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

<事前>講義内容の概要を自分なりに把握する努力を行うと同時に、疑問点などを探しておく。<事後>講義内容についての課題を出すので、自分の経験と結びつけて回答する（所用時間は1時間程度／400字～600字／\*評価の観点・基準は下記参照）。<事中>①授業中は、集中力を高めるためメモを取ることを勧める（ノートやメモ点はハイクオリティなものは毎回の点数に+1～+2点で評価）。②実践編で行う各種ワークショップに参加する（\*評価の観点・基準は下記参照）。③授業設計編では学習指導案制作を行い、授業紹介時には授業分析を行

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

<評価対象>①毎回の課題（必須）... 毎回10点で評価する（最終的に評点70点分の算定基礎とする）。②毎回のノート、メモ（任意）... クオリティの高いものは、毎回の課題点に+1～+2点加算する。③アクティブラーニングの参加状況（必須）... 実践編のアクティブラーニングでの参加意欲、発言内容等を、毎回10点で評価（最終的に評点70点分の算定基礎とする）。④オリジナルの問題解決型学習指導案のクオリティ（必須）... すべての講義で学んだ理論・社会背景などを加味した内容になっているかを30点分で評価する（最終的に評点70

### <教科書>

木野正一郎著（2016年）『新発想！道徳のアクティブ・ラーニング型授業はこれだ』 みくに出版株式会社  
文部科学省（平成29年7月）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳編：平成29年7月』 あかつき教育図書

### <参考書>

押谷由夫（2011年）『道徳性形成・徳育論』 NHK出版（一般財団法人 放送大学教育振興会）  
柳沼良太著（2019年）『プラグマティズム、公共、道徳』 株式会社 あいり出版  
柳沼良太・梅澤真一・山田誠著（2018年）『「現代的な課題」に取り組む道徳授業』 株式会社 図書文化社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
---	-----	---------

1	・ガイドランス・道徳教育とは何か ー道徳教育の理論と実践を学ぶにあたってー	アリストテレスの「人間はポリスの動物である」という問いから、社会になぜ道徳教育が必要なのか、その理由を考える。(キーワード: アリストテレスの中庸論、道と徳、仏教の八正道、カントの実践理性と自由意志論(第2回に回る可能性あり))
2	・道徳教育の現状と課題 ーいのちの尊厳を守る道徳教育ー	なぜ「特別の教科 道徳」が設置されたのかを、いのちの尊厳を守るという視点との関連で考える。(キーワード: 大津いじめ事件、いじめ防止対策推進法、情報モラル教育、「学校」の教育活動全体で行う道徳教育と「特別の教科 道徳」)
3	・学習指導要領の理解Ⅰ ー「学校の教育活動全体で行う道徳教育」「特別の教科 道徳」の目標・内容・指導上の留意点ー	学習指導要領「特別の教科 道徳」が設置された意味の面からその理念を理解し、道徳教育のカリキュラム的な構造を理解する。各教科・各領域の中で行う道徳教育を構想する。(キーワード: 「要」規定、価値の葛藤(モラル・ジレンマ)、考え議論する道徳、道徳性の三側面形成理論)
4	・学習指導要領の理解Ⅱー道徳的価値の内容項目・全体計画・指導計画ー	道徳的価値の内容項目(最大で22項目)を、項目ごとに「考え議論する道徳」を構想する。学習指導要領の解説を見て、道徳的価値の内容項目から単元や授業の目標を作る。(キーワード: 道徳的価値の内容項目(低学年19項目、中学年20項目、高学年22項目、中学生22項目)、道徳教育推進教諭、全体計画、指導計画、評価の在り方)
5	・道徳教育の歴史と課題Ⅰ ー古代思想から近世までー	日本における道徳教育の変遷史を儒教や商人倫理との関係でおさえ、時代ごとに要請された道徳教育観(道徳的価値の生成過程)を学ぶ。(キーワード: 諸子百家の思想(儒家・墨家・道家・法家)、商人倫理、朱子学)
6	・道徳教育の歴史と課題Ⅱ ー近世から現代までー	日本における道徳教育の変遷史を、日本の近代化から現代の道徳教育の範囲で学ぶ。(キーワード: 翻訳道徳、教学聖旨、元田永孚、教育勅語、修身科、戦後の教育改革・民主化、社会科道徳、「学校」の教育活動全体で行う道徳教育、道徳の時間、「特別の教科 道徳」)
7	・道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理Ⅰ ー発達心理学編ー	発達心理学の理論を学び、発達段階に応じた道徳教育の在り方を考える。(キーワード: 発達心理学、ピアジェ、認知発達理論、エリクソン、アイデンティティの確立、アイデンティティの危機)
8	・道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理Ⅱ ー道徳性の発達心理学・社会心理学編ー	発達心理学の理論を学び、道徳性の発達を加味した道徳教育の在り方を考える。(キーワード: コールバーグ、6段階道徳性発達理論、デュルケム、社会心理学、アノミ)
9	・道徳教育の理論と方法Ⅰ<実践の体験> ー「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験するー	教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科 道徳」が道徳教育の要として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。(キーワード: 道徳性の三側面形成理論、問題解決型道徳、教科で行う道徳教育、心情理解ワークショップ、長短分析ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング)、実生活ブレイクダウン・ワークショップ、道徳はがき新聞)
10	・道徳教育の理論と方法Ⅰ<実践の体験> ー「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験するー(つづき)	・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科 道徳」が道徳教育の要として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。(キーワード: 道徳性の三側面形成理論、問題解決型道徳、教科で行う道徳教育、心情理解ワークショップ、長短分析ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング)、実生活ブレイクダウン・ワークショップ、道徳はがき新聞)
11	・道徳教育の理論と方法Ⅱ<実践の体験> ーSDGsや国際理解教育に関連する「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験するー(つづき)	・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科 道徳」が道徳教育の「要」として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。(注)ここでは、「国際理解・国際親善」という道徳的価値を教えるための素地を学修する。(キーワード: 問題解決型道徳、総合探究型道徳、ソクラテスの対話、SWOT分析ワークショップ、ミニ国連ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング)、SDGs、「SDGs探究」道徳はがき新聞)
12	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅰ<指導案制作の体験> ー小学校高学年のある教材を研究するー	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育(徳目主義・読み物道徳)を理解した上で、「特別の教科 道徳」が求めている「考え議論する道徳」(問題解決型道徳、総合探究型道徳)を作る。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。(作業行程: 教材の把握⇒従来型の方法論理解⇒「考え議論する道徳」のアイディアづくり⇒単元目標づくり⇒三観点・評価軸づくり(つづく))
13	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅱ<指導案制作の体験> ー小学校高学年のある教材をもとに指導案に落とし込むー	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育(徳目主義・読み物道徳)を理解した上で、「特別の教科 道徳」が求めている「考え議論する道徳」(問題解決型道徳、総合探究型道徳)を作る。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。(作業行程: ⇒教材観づくり(小単元ユニットに挑戦する人は単元観づくり)⇒指導上の留意点づくり⇒授業目標づくり⇒「考え議論する道徳」のオリジナル授業の展開づくり(つづく))
14	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅲ<指導案制作の体験> ー小学校高学年のある教材をもとに指導案を完成させるー	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育(徳目主義・読み物道徳)を理解した上で、「特別の教科 道徳」が求めている「考え議論する道徳」(問題解決型道徳、総合探究型道徳)を完成させる。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。(作業行程: ⇒教材観づくり(小単元ユニットに挑戦する人は単元観づくり)⇒指導上の留意点づくり⇒授業目標づくり⇒「考え議論する道徳」のオリジナル授業の展開づくり(完成))
15	・問題解決型道徳、総合探究型道徳のマ	自分が制作した「考え議論する道徳」(問題解決型道徳、総合探究型道徳)のマイク

16	<p>イクロ模擬授業ないし発表＜マイクロ模擬授業の体験＞・講義のまとめ 一次世代型道德教育のすゝめー</p>	<p>ロ模擬授業ないし発表をグループの仲間に紹介して、相互分析・相互評価を行う。最後に、全15回で学修した新しい次世代型道德教育の理論や指導法をまとめる。（作業工程：仲間にマイクロ模擬授業ないし発表⇒相互分析⇒相互評価）</p>
----	--	--

科目コード	21330				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	総合的な学習の時間の指導法 [FC,PP,PS組用]				担当者名	藤井 健太郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

総合的な学習の時間の特徴は、各学校において目標・内容を定める。このことは、教師一人一人がカリキュラムを開発する力が求められていることでもある。本科目では、「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」をもとに、総合的な学習の時間の特徴や目標及び内容などについて具体的な実践例を紹介しながら、全体計画や単元指導計画を作成する手順や単元を展開するにあたっての指導方法のポイントを理解できるようにする。また、受講者が新たな単元を開発し、カリキュラムデザイナーとしての力をつけられるようにする。

### <授業の到達目標>

総合的な学習の時間においては、教師にカリキュラム開発する力と探究的な学習を行う指導力が求められる。そこで、次の点を修得することを目指す。①総合的な学習の時間のカリキュラムを理解し、単元を開発することができる。②探究的な学習過程を理解し、指導計画を立てることができる。③授業における情報通信機器の活用法を身に付けることができる。

### <授業の方法>

「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」の内容についてポイントを確認し、課題をもとにした活動等を行う。そして、具体的な実践例の紹介や各回のテーマに関する重要事項の説明をする。最後に、本時の授業の内容を振り返る。また、児童生徒がICT機器を使うことができるよう指導方法を考える。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）4、5人のグループに分かれ、テーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次時の授業に関連する「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」のページに目を通しておく。復習として、本時の授業内容について整理し、理解を深めるよう努める。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加度30%、レポート（学習指導案等）20%、試験50%

### <教科書>

藤井健太郎 教職科目 総合的な学習の時間の指導法テキスト 三恵社

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	総合的な学習の時間とは（オリエンテーション）	総合的な学習の時間の系譜や特徴について理解し、授業の概要を把握する。
2	総合的な学習の時間の目標・内容	総合的な学習の時間における目標及び内容について理解する。
3	総合的な学習の時間の指導計画	総合的な学習の時間の指導計画の特徴について理解する。
4	総合的な学習の時間の全体計画・年間指導計画の作成	総合的な学習の時間の全体計画及び年間指導計画について理解し、作成にあたってのポイントをつかむ。
5	総合的な学習の時間の単元計画	総合的な学習の時間の単元計画について理解する。
6	総合的な学習の時間の学習指導	総合的な学習の時間の学習指導について理解する。
7	総合的な学習の時間の評価	総合的な学習の時間の評価と評価方法について理解する。
8	総合的な学習の時間の体制づくり	総合的な学習の時間の体制づくりについて理解する。
9	総合的な学習の時間と学級づくり	実践事例をもとに総合的な学習の時間と学級づくりとの関連について理解する。
10	総合的な学習の時間と教育課題	実践事例をもとに総合的な学習の時間による教育課題への対応について理解する。
11	総合的な学習の時間と校種間交流	実践事例をもとに総合的な学習の時間による校種間の関わりについて理解する。
12	総合的な学習の時間のカリキュラム開発	総合的な学習の時間のカリキュラム開発を理解するとともに、指導案の作成方法を理解する。
13	総合的な学習の時間の教材研究	デジカメやプレゼンテーションソフトの操作を理解し、授業での活用方法を考える。
14	総合的な学習の時間の指導案の作成	単元計画を踏まえて総合的な学習の時間の指導案を作成する。
15	総合的な学習のカリキュラム改善	PDCAを意識したカリキュラム改善について理解する。
16		

科目コード	21330				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	総合的な学習の時間の指導法 [FE2422組用]				担当者名	藤井 健太郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

総合的な学習の時間の特徴は、各学校において目標・内容を定める。このことは、教師一人一人がカリキュラムを開発する力が求められていることでもある。本科目では、「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」をもとに、総合的な学習の時間の特徴や目標及び内容などについて具体的な実践例を紹介しながら、全体計画や単元指導計画を作成する手順や単元を展開するにあたっての指導方法のポイントを理解できるようにする。また、受講者が新たな単元を開発し、カリキュラムデザイナーとしての力をつけられるようにする。

### <授業の到達目標>

総合的な学習の時間においては、教師にカリキュラム開発する力と探究的な学習を行う指導力が求められる。そこで、次の点を修得することを目指す。①総合的な学習の時間のカリキュラムを理解し、単元を開発することができる。②探究的な学習過程を理解し、指導計画を立てることができる。③授業における情報通信機器の活用法を身に付けることができる。

### <授業の方法>

「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」の内容についてポイントを確認し、課題をもとにした活動等を行う。そして、具体的な実践例の紹介や各回のテーマに関する重要事項の説明をする。最後に、本時の授業の内容を振り返る。また、児童生徒がICT機器を使うことができるよう指導方法を考える。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）4、5人のグループに分かれ、テーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次時の授業に関連する「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」のページに目を通しておく。復習として、本時の授業内容について整理し、理解を深めるよう努める。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加度30%、レポート（学習指導案等）20%、試験50%

### <教科書>

藤井健太郎 教職科目 総合的な学習の時間の指導法テキスト 三恵社

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	総合的な学習の時間とは（オリエンテーション）	総合的な学習の時間の系譜や特徴について理解し、授業の概要を把握する。
2	総合的な学習の時間の目標・内容	総合的な学習の時間における目標及び内容について理解する。
3	総合的な学習の時間の指導計画	総合的な学習の時間の指導計画の特徴について理解する。
4	総合的な学習の時間の全体計画・年間指導計画の作成	総合的な学習の時間の全体計画及び年間指導計画について理解し、作成にあたってのポイントをつかむ。
5	総合的な学習の時間の単元計画	総合的な学習の時間の単元計画について理解する。
6	総合的な学習の時間の学習指導	総合的な学習の時間の学習指導について理解する。
7	総合的な学習の時間の評価	総合的な学習の時間の評価と評価方法について理解する。
8	総合的な学習の時間の体制づくり	総合的な学習の時間の体制づくりについて理解する。
9	総合的な学習の時間と学級づくり	実践事例をもとに総合的な学習の時間と学級づくりとの関連について理解する。
10	総合的な学習の時間と教育課題	実践事例をもとに総合的な学習の時間による教育課題への対応について理解する。
11	総合的な学習の時間と校種間交流	実践事例をもとに総合的な学習の時間による校種間の関わりについて理解する。
12	総合的な学習の時間のカリキュラム開発	総合的な学習の時間のカリキュラム開発を理解するとともに、指導案の作成方法を理解する。
13	総合的な学習の時間の教材研究	デジカメやプレゼンテーションソフトの操作を理解し、授業での活用方法を考える。
14	総合的な学習の時間の指導案の作成	単元計画を踏まえて総合的な学習の時間の指導案を作成する。
15	総合的な学習のカリキュラム改善	PDCAを意識したカリキュラム改善について理解する。
16		

科目コード	21330				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	総合的な学習の時間の指導法 [FE2421組用]				担当者名	藤井 健太郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

総合的な学習の時間の特徴は、各学校において目標・内容を定める。このことは、教師一人一人がカリキュラムを開発する力が求められていることでもある。本科目では、「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」をもとに、総合的な学習の時間の特徴や目標及び内容などについて具体的な実践例を紹介しながら、全体計画や単元指導計画を作成する手順や単元を展開するにあたっての指導方法のポイントを理解できるようにする。また、受講者が新たな単元を開発し、カリキュラムデザイナーとしての力をつけられるようにする。

### <授業の到達目標>

総合的な学習の時間においては、教師にカリキュラム開発する力と探究的な学習を行う指導力が求められる。そこで、次の点を修得することを目指す。①総合的な学習の時間のカリキュラムを理解し、単元を開発することができる。②探究的な学習過程を理解し、指導計画を立てることができる。③授業における情報通信機器の活用法を身に付けることができる。

### <授業の方法>

「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」の内容についてポイントを確認し、課題をもとにした活動等を行う。そして、具体的な実践例の紹介や各回のテーマに関する重要事項の説明をする。最後に、本時の授業の内容を振り返る。また、児童生徒がICT機器を使うことができるよう指導方法を考える。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）4、5人のグループに分かれ、テーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次時の授業に関連する「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」のページに目を通しておく。復習として、本時の授業内容について整理し、理解を深めるよう努める。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加度30%、レポート（学習指導案等）20%、試験50%

### <教科書>

藤井健太郎 教職科目 総合的な学習の時間の指導法テキスト 三恵社

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	総合的な学習の時間とは（オリエンテーション）	総合的な学習の時間の系譜や特徴について理解し、授業の概要を把握する。
2	総合的な学習の時間の目標・内容	総合的な学習の時間における目標及び内容について理解する。
3	総合的な学習の時間の指導計画	総合的な学習の時間の指導計画の特徴について理解する。
4	総合的な学習の時間の全体計画・年間指導計画の作成	総合的な学習の時間の全体計画及び年間指導計画について理解し、作成にあたってのポイントをつかむ。
5	総合的な学習の時間の単元計画	総合的な学習の時間の単元計画について理解する。
6	総合的な学習の時間の学習指導	総合的な学習の時間の学習指導について理解する。
7	総合的な学習の時間の評価	総合的な学習の時間の評価と評価方法について理解する。
8	総合的な学習の時間の体制づくり	総合的な学習の時間の体制づくりについて理解する。
9	総合的な学習の時間と学級づくり	実践事例をもとに総合的な学習の時間と学級づくりとの関連について理解する。
10	総合的な学習の時間と教育課題	実践事例をもとに総合的な学習の時間による教育課題への対応について理解する。
11	総合的な学習の時間と校種間交流	実践事例をもとに総合的な学習の時間による校種間の関わりについて理解する。
12	総合的な学習の時間のカリキュラム開発	総合的な学習の時間のカリキュラム開発を理解するとともに、指導案の作成方法を理解する。
13	総合的な学習の時間の教材研究	デジカメやプレゼンテーションソフトの操作を理解し、授業での活用方法を考える。
14	総合的な学習の時間の指導案の作成	単元計画を踏まえて総合的な学習の時間の指導案を作成する。
15	総合的な学習のカリキュラム改善	PDCAを意識したカリキュラム改善について理解する。
16		

科目コード	21331				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む) [FC用]				担当者名	内田 仁志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・グループディスカッション・グループワーク	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講座は、小中学校の教員を対象に、授業の方法と技術について体系的に学べる内容となっています。授業デザインの基礎から、板書・ノート指導、発問の技術、話し合い活動の指導方法など、実践的な技術を詳しく解説します。また、アクティブ・ラーニングやICTの活用、評価の工夫、学級経営との関係なども取り上げ、授業力向上を多角的に支援します。さらに、特別支援教育や教師の専門性向上、未来の教育の展望にも触れ、継続的な授業改善を促します。

<授業の到達目標>

・国語科の授業設計の基礎を理解し、学習指導案を作成できるようになる。・板書・発問・言語活動・ICT活用などの指導技術を身につけ、実践的な授業ができるようになる。・模擬授業やリフレクションを通じて授業力を向上させ、継続的な授業改善の方法を学ぶ。

<授業の方法>

講義と対話的学習の組み合わせ：基礎概念は講義で説明し、学生同士の意見交換を取り入れる。実践的ワークショップ：板書・発問・ノート指導などを模擬授業形式で練習する。授業設計演習：学習指導案を作成し、相互にフィードバックを行う。事例研究：優れた授業実践の映像や教材を分析し、改善点を議論する。ディスカッション活動：話し合い活動や議論指導の技術を実際に体験する。ICT活用演習：デジタル教材やループリック評価を実際に作成・活用する。授業観察とリフレクション：授業映像を視聴し、良い点や課題を振り返る。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

次のアクティブラーニングを取り入れます。ケースメソッド：実際の授業場面を事例として分析し、解決策を議論する。模擬授業とリフレクション：学生が短時間の模擬授業を実施し、自己評価と他者評価を通じて改善点を探る。グループディスカッション：発問やノート指導の工夫についてグループで考え、意見をまとめる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次週のテーマに関して予習する時間を取りましょう。予習としてはテーマで扱う教育方法など自分の体験したことを想起し、効果を考えておくと授業にスムーズに入れます。また、毎回の授業後に、ミニレポートを提出する時間を取ります。そのレポートを見直す時間を取りましょう。さらに教科書と参考図書を示します。これらは教員になったら毎日の授業で役立つ情報満載なので実際に教員になったときに手元に持っておくとよいでしょう。また教育実習に行く前に読んでおくともとても勉強になります。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回実施するミニレポート30％、授業に対する態度20％、最終レポート50％ ※ミニレポートの内容について、疑問点やさらに深い議論につながると思われる記述があれば、次回授業で取り上げることがあります。

<教科書>

内田 仁志(2024年8月) 国語教師のための『反論の技術入門』 論理的思考力を育成する学年別訓練法 明治図書

<参考書>

平沢 茂 三訂版 教育の方法と技術 図書文化社  
吉永幸司（編） 京女式ノート指導術 小学校国語 教育の方法と技術（教育技術mook） 小学館  
吉永幸司（編） 考える子どもを育てる京女式板書・発問術 小学校国語 1・2・3年（教育技術MOOK） 小学館  
4・5・6年 小学館

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションと国語授業の意義	授業の目的・進め方を説明し、国語教育における授業方法と技術の重要性を考える。「わかる・できる」授業とは何か、学習者の視点に立った授業設計のポイントを議論する。

2	国語科の資質・能力と授業設計	国語科で育成する資質・能力について解説し、それを授業にどのように組み込むかを考える。具体的な授業の流れを示し、学習指導案作成の基礎を学ぶ。
3	学習指導案の作成プロセス	学習指導案の基本構成（目標・展開・評価）を学び、実際の指導案を分析する。グループで単元計画を立てる演習を行い、教材研究の視点を養う。
4	国語科の板書の基本	板書の役割や構成のポイントを解説し、効果的な板書の例を提示する。模擬板書の演習を行い、学習者に伝わりやすい板書技術を身につける。
5	ノート指導の工夫と実践	児童・生徒の理解を深めるノート指導の工夫について学ぶ。板書とノートの関連性を考え、実際のノートを分析しながら、効果的な指導方法を検討する。
6	発問の基本と役割	発問の目的や種類を学び、思考を深める発問の技術を考える。実際の授業映像を分析し、適切な発問の設計についてグループワークを行う。
7	読解指導と発問の実践	発問を活用した読解指導について学ぶ。教材を用いた発問の設計を行い、模擬授業を通して実践的な技術を身につける。
8	音読指導と表現指導	音読の意義や指導方法を学び、表現力を高める音読活動を実践する。グループ活動を取り入れた音読指導の工夫について検討する。
9	作文・記述指導の基礎	作文指導の基本を学び、「書く力」を育てる具体的な指導方法を考える。児童・生徒の記述力向上のためのルーブリック評価についても扱う。
10	言語活動を活用した授業設計	国語授業における言語活動の重要性を理解し、児童・生徒の表現力を引き出すための指導方法を検討する。模擬授業を通じて実践的な学びを深める。
11	議論指導の基礎と実践	国語科における議論指導の必要性を学び、効果的な議論の進め方を実践する。話し合い活動を活用した授業設計の演習を行う。
12	ICT活用と情報活用能力の育成	ICTを活用した国語授業の実践例を紹介し、授業でのICT活用方法を考える。情報活用能力の育成について議論し、実際に教材作成を行う。
13	授業改善のためのリフレクション	授業の振り返り方法を学び、継続的な授業改善のためのポイントを整理する。自身の模擬授業を録画・分析し、改善点を考察する。
14	模擬授業とフィードバック	これまで学んだ技術を活かし、グループで模擬授業を実施する。相互評価を行い、実践的な改善点を共有する。
15	総括と今後の授業づくり	学習内容の振り返りを行い、今後の授業力向上のための課題を整理する。教育現場で実践できる授業方法と技術についてディスカッションを行い、学びを深める。
16		

科目コード	21331				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む) [FE用]				担当者名	内田 仁志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・グループディスカッション・グループワーク	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本講座は、小中学校の教員を対象に、授業の方法と技術について体系的に学べる内容となっています。授業デザインの基礎から、板書・ノート指導、発問の技術、話し合い活動の指導方法など、実践的な技術を詳しく解説します。また、アクティブ・ラーニングやICTの活用、評価の工夫、学級経営との関係なども取り上げ、授業力向上を多角的に支援します。さらに、特別支援教育や教師の専門性向上、未来の教育の展望にも触れ、継続的な授業改善を促します。

＜授業の到達目標＞

・国語科の授業設計の基礎を理解し、学習指導案を作成できるようになる。  
・板書・発問・言語活動・ICT活用などの指導技術を身につけ、実践的な授業ができるようになる。  
・模擬授業やリフレクションを通じて授業力を向上させ、継続的な授業改善の方法を学ぶ。

＜授業の方法＞

講義と対話的学習の組み合わせ：基礎概念は講義で説明し、学生同士の意見交換を取り入れる。実践的ワークショップ：板書・発問・ノート指導などを模擬授業形式で練習する。授業設計演習：学習指導案を作成し、相互にフィードバックを行う。事例研究：優れた授業実践の映像や教材を分析し、改善点を議論する。ディスカッション活動：話し合い活動や議論指導の技術を実際に体験する。ICT活用演習：デジタル教材やループリック評価を実際に作成・活用する。授業観察とリフレクション：授業映像を視聴し、良い点や課題を振り返る。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

次のアクティブラーニングを取り入れます。ケースメソッド：実際の授業場面を事例として分析し、解決策を議論する。模擬授業とリフレクション：学生が短時間の模擬授業を実施し、自己評価と他者評価を通じて改善点を探る。グループディスカッション：発問やノート指導の工夫についてグループで考え、意見をまとめる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次週のテーマに関して予習する時間を取りましょう。予習としてはテーマで扱う教育方法など自分の体験したことを想起し、効果を考えておくと授業にスムーズに入れます。また、毎回の授業後に、ミニレポートを提出する時間を取ります。そのレポートを見直す時間を取りましょう。さらに教科書と参考図書を示します。これらは教員になったら毎日の授業で役立つ情報満載なので実際に教員になったときに手元に持っておくとよいでしょう。また教育実習に行く前に読んでおくともとても勉強になります。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー 2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回実施するミニレポート 30％、授業に対する態度 20％、最終レポート 50％ ※ミニレポートの内容について、疑問点やさらに深い議論につながると思われる記述があれば、次回授業で取り上げることがあります。

＜教科書＞

内田 仁志(2024年8月) 国語教師のための『反論の技術入門』 論理的思考力を育成する学年別訓練法 明治図書

＜参考書＞

平沢 茂 三訂版 教育の方法と技術 図書文化社  
吉永幸司（編）京女式ノート指導術 小学校国語 教育の方法と技術（教育技術mook） 小学館  
吉永幸司（編）考える子どもを育てる京女式板書・発問術 小学校国語 1・2・3年（教育技術MOOK） 小学館  
4・5・6年 小学館

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションと国語授業の意義	授業の目的・進め方を説明し、国語教育における授業方法と技術の重要性を考える。「わかる・できる」授業とは何か、学習者の視点に立った授業設計のポイントを議論する。

2	国語科の資質・能力と授業設計	国語科で育成する資質・能力について解説し、それを授業にどのように組み込むかを考える。具体的な授業の流れを示し、学習指導案作成の基礎を学ぶ。
3	学習指導案の作成プロセス	学習指導案の基本構成（目標・展開・評価）を学び、実際の指導案を分析する。グループで単元計画を立てる演習を行い、教材研究の視点を養う。
4	国語科の板書の基本	板書の役割や構成のポイントを解説し、効果的な板書の例を提示する。模擬板書の演習を行い、学習者に伝わりやすい板書技術を身につける。
5	ノート指導の工夫と実践	児童・生徒の理解を深めるノート指導の工夫について学ぶ。板書とノートの関連性を考え、実際のノートを分析しながら、効果的な指導方法を検討する。
6	発問の基本と役割	発問の目的や種類を学び、思考を深める発問の技術を考える。実際の授業映像を分析し、適切な発問の設計についてグループワークを行う。
7	読解指導と発問の実践	発問を活用した読解指導について学ぶ。教材を用いた発問の設計を行い、模擬授業を通して実践的な技術を身につける。
8	音読指導と表現指導	音読の意義や指導方法を学び、表現力を高める音読活動を実践する。グループ活動を取り入れた音読指導の工夫について検討する。
9	作文・記述指導の基礎	作文指導の基本を学び、「書く力」を育てる具体的な指導方法を考える。児童・生徒の記述力向上のためのルーブリック評価についても扱う。
10	言語活動を活用した授業設計	国語授業における言語活動の重要性を理解し、児童・生徒の表現力を引き出すための指導方法を検討する。模擬授業を通じて実践的な学びを深める。
11	議論指導の基礎と実践	国語科における議論指導の必要性を学び、効果的な議論の進め方を実践する。話し合い活動を活用した授業設計の演習を行う。
12	ICT活用と情報活用能力の育成	ICTを活用した国語授業の実践例を紹介し、授業でのICT活用方法を考える。情報活用能力の育成について議論し、実際に教材作成を行う。
13	授業改善のためのリフレクション	授業の振り返り方法を学び、継続的な授業改善のためのポイントを整理する。自身の模擬授業を録画・分析し、改善点を考察する。
14	模擬授業とフィードバック	これまで学んだ技術を活かし、グループで模擬授業を実施する。相互評価を行い、実践的な改善点を共有する。
15	総括と今後の授業づくり	学習内容の振り返りを行い、今後の授業力向上のための課題を整理する。教育現場で実践できる授業方法と技術についてディスカッションを行い、学びを深める。
16		

科目コード	21331				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む) [PP用]				担当者名	内田 仁志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・グループディスカッション・グループワーク	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本講座は、小中学校の教員を対象に、授業の方法と技術について体系的に学べる内容となっています。授業デザインの基礎から、板書・ノート指導、発問の技術、話し合い活動の指導方法など、実践的な技術を詳しく解説します。また、アクティブ・ラーニングやICTの活用、評価の工夫、学級経営との関係なども取り上げ、授業力向上を多角的に支援します。さらに、特別支援教育や教師の専門性向上、未来の教育の展望にも触れ、継続的な授業改善を促します。

### <授業の到達目標>

・国語科の授業設計の基礎を理解し、学習指導案を作成できるようになる。・板書・発問・言語活動・ICT活用などの指導技術を身につけ、実践的な授業ができるようになる。・模擬授業やリフレクションを通じて授業力を向上させ、継続的な授業改善の方法を学ぶ。

### <授業の方法>

講義と対話的学習の組み合わせ：基礎概念は講義で説明し、学生同士の意見交換を取り入れる。実践的ワークショップ：板書・発問・ノート指導などを模擬授業形式で練習する。授業設計演習：学習指導案を作成し、相互にフィードバックを行う。事例研究：優れた授業実践の映像や教材を分析し、改善点を議論する。ディスカッション活動：話し合い活動や議論指導の技術を実際に体験する。ICT活用演習：デジタル教材やループリッック評価を実際に作成・活用する。授業観察とリフレクション：授業映像を視聴し、良い点や課題を振り返る。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

次のアクティブラーニングを取り入れます。ケースメソッド：実際の授業場面を事例として分析し、解決策を議論する。模擬授業とリフレクション：学生が短時間の模擬授業を実施し、自己評価と他者評価を通じて改善点を探る。グループディスカッション：発問やノート指導の工夫についてグループで考え、意見をまとめる。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次週のテーマに関して予習する時間を取りましょう。予習としてはテーマで扱う教育方法など自分の体験したことを想起し、効果を考えておくと授業にスムーズに入れます。また、毎回の授業後に、ミニレポートを提出する時間を取ります。そのレポートを見直す時間を取りましょう。さらに教科書と参考図書を示します。これらは教員になったら毎日の授業で役立つ情報満載なので実際に教員になったときに手元に持っておくとよいでしょう。また教育実習に行く前に読んでおくとも勉強になります。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回実施するミニレポート 30%、授業に対する態度 20%、最終レポート 50% ※ミニレポートの内容について、疑問点やさらに深い議論につながるとされる記述があれば、次回授業で取り上げることがあります。

### <教科書>

内田 仁志(2024年8月) 国語教師のための『反論の技術入門』 論理的思考力を育成する学年別訓練法 明治図書

### <参考書>

平沢 茂 三訂版 教育の方法と技術 図書文化社  
吉永幸司（編）京女式ノート指導術 小学校国語 教育の方法と技術（教育技術mook） 小学館  
吉永幸司（編）考える子どもを育てる京女式板書・発問術 小学校国語 1・2・3年（教育技術MOOK） 小学館  
4・5・6年 小学館

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションと国語授業の意義	授業の目的・進め方を説明し、国語教育における授業方法と技術の重要性を考える。「わかる・できる」授業とは何か、学習者の視点に立った授業設計のポイントを議論する。

2	国語科の資質・能力と授業設計	国語科で育成する資質・能力について解説し、それを授業にどのように組み込むかを考える。具体的な授業の流れを示し、学習指導案作成の基礎を学ぶ。
3	学習指導案の作成プロセス	学習指導案の基本構成（目標・展開・評価）を学び、実際の指導案を分析する。グループで単元計画を立てる演習を行い、教材研究の視点を養う。
4	国語科の板書の基本	板書の役割や構成のポイントを解説し、効果的な板書の例を提示する。模擬板書の演習を行い、学習者に伝わりやすい板書技術を身につける。
5	ノート指導の工夫と実践	児童・生徒の理解を深めるノート指導の工夫について学ぶ。板書とノートの関連性を考え、実際のノートを分析しながら、効果的な指導方法を検討する。
6	発問の基本と役割	発問の目的や種類を学び、思考を深める発問の技術を考える。実際の授業映像を分析し、適切な発問の設計についてグループワークを行う。
7	読解指導と発問の実践	発問を活用した読解指導について学ぶ。教材を用いた発問の設計を行い、模擬授業を通して実践的な技術を身につける。
8	音読指導と表現指導	音読の意義や指導方法を学び、表現力を高める音読活動を実践する。グループ活動を取り入れた音読指導の工夫について検討する。
9	作文・記述指導の基礎	作文指導の基本を学び、「書く力」を育てる具体的な指導方法を考える。児童・生徒の記述力向上のためのルーブリック評価についても扱う。
10	言語活動を活用した授業設計	国語授業における言語活動の重要性を理解し、児童・生徒の表現力を引き出すための指導方法を検討する。模擬授業を通じて実践的な学びを深める。
11	議論指導の基礎と実践	国語科における議論指導の必要性を学び、効果的な議論の進め方を実践する。話し合い活動を活用した授業設計の演習を行う。
12	ICT活用と情報活用能力の育成	ICTを活用した国語授業の実践例を紹介し、授業でのICT活用方法を考える。情報活用能力の育成について議論し、実際に教材作成を行う。
13	授業改善のためのリフレクション	授業の振り返り方法を学び、継続的な授業改善のためのポイントを整理する。自身の模擬授業を録画・分析し、改善点を考察する。
14	模擬授業とフィードバック	これまで学んだ技術を活かし、グループで模擬授業を実施する。相互評価を行い、実践的な改善点を共有する。
15	総括と今後の授業づくり	学習内容の振り返りを行い、今後の授業力向上のための課題を整理する。教育現場で実践できる授業方法と技術についてディスカッションを行い、学びを深める。
16		

科目コード	21400				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅰ [FC2521]				担当者名	高崎 展好			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

保育・教育現場に必要とされるピアノ弾き歌い技術習得に向け、音楽のルールを学び、音楽の基礎知識や楽譜に記された記号や用語を理解し、ピアノ演奏に必要な読譜力、視唱力、コード（和音）伴奏の習得を目指します。本授業では、音楽の理解を深めるとともに、基本的な発声、ソルフェージュ、歌唱作品を通じて音楽の3要素であるメロディー、ハーモニー、リズムを体感し、楽譜を理解することから音楽の楽しさを会得します。すべての課題レポートについては、Google Classを使用するため、PCを準備の上、望んでください。※幼稚園教諭Ⅰ種免許状取得希望者及び、幼稚園教育実習に参加する場合、器楽演習Ⅰ・Ⅱの単位を修得済みであること（教職の手引き「教育実習履修内規より」）

### <授業の到達目標>

①楽譜の読み書きを含めた基礎的な音楽基礎力を身に付ける。②ピアノ旋律演奏に必要な読譜力、ピアノ技術を身に付ける。③歌唱に必要な基本的発声、柔軟体操、表現力を身に付ける。④ピアノ・コード伴奏に必要な和音（コード）を学習し、簡単な伴奏法の習得を目指す。また読譜力習得に向けたリズム・ソルフェージュを行い視唱力、初見力を高める。コードネームを用いて「子どもの歌」の伴奏付けができることを目標とする。

### <授業の方法>

音楽理論を中心とした講義を中心に読譜のためのリズム・ソルフェージュ、歌唱指導、ピアノ技術指導の演習を交えながら授業を行う。講義では教科書、教材を中心に学習を進めるが、練習問題や楽譜等の資料を配布することが多いため、各自ファイルを準備することが好ましい。各テーマ（単元）で小テスト、実技テストを実施し習熟度を測る。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

ピアノ演奏技能習得及び、発声法、歌唱指導の演習を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業計画に従って予習し、講義、演習で学んだ内容は必ず復習すること。特にピアノ未経験者や音楽や読譜に不安を抱いている学生は、予習45分、復習45分を行い、授業に望むこと。ピアノ技術、読譜力の習得は毎日の積み重ねが非常に重要です。自宅に電子ピアノや電子キーボードがあることが好ましい。※自宅にピアノが無い場合は、芸術センターピアノ独習室の活用、または、貸し出し用キーボードを活用の上、研鑽を積むこと。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 20%、小テスト 30%、実技テスト30%、提出物 20%

### <教科書>

高崎展好 編著（発行2018年3月） わかりやすい！学びやすい！コードでかんたん！保育のうた 環太平洋大学  
坪野春枝 著（発行2021年3月15日） 最もわかりやすい楽典の入門【改訂版】＊応用問題＊解答付 有限会社ケイ・エム・ピーkmp

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方の確認歌唱指導
2	楽譜の仕組み1	発声、リズム学習、歌唱指導譜表
3	楽譜の仕組み2	発声、リズム学習、歌唱指導音符と休符
4	楽譜の仕組み3	発声、リズム学習、歌唱指導階名と音名、フラッシュ読譜演奏
5	楽譜の仕組み4	発声、リズム学習、歌唱指導拍子、調号と臨時記号、フラッシュ読譜演奏
6	楽譜の仕組み5	発声、リズム学習、歌唱指導様々な記号：発想記号、速度記号、省略記号
7	楽譜の仕組み6	発声、リズム学習、歌唱指導、ピアノ基礎練習課題、フラッシュ読譜演奏
8	楽典と演習1	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「ちょうちょう」
9	楽典と演習2	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「チューリップ」
10	楽典と演習3	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「ぶんぶん」

11	楽典と演習4	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「こぎつね」
12	楽典と演習5	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「おべんとう」
13	楽典と演習6	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「かたつむり」
14	楽典と演習7	音楽理論の復習及び、確認テスト
15	総括・試験	模擬保育形式によるピアノ弾き歌い確認テスト（課題曲2曲より選択）振り返り、まとめ
16		

科目コード	21400				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習 I [A]				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

この授業ではピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノ・歌唱・読譜能力を中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける。

### <授業の到達目標>

1. バイエル30番程度のピアノ演奏をできる技術を身につける。2. 小学校共通教材の低学年曲（1，2年生）を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。3. 上記程度の読譜能力を身につける。

### <授業の方法>

1. ピアノを用いてグルーブレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き語りを授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

### <教科書>

標準バイエルピアノ教則本 全音楽譜出版社  
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	ピアノの弾き方	ピアノの弾き方、指の形、姿勢、指の動かし方
3	バイエル12～14番を使ったレッスン	バイエルを使ったピアノ基礎練習
4	バイエル15番を使ったレッスン	バイエルを使った左右の手の動きが違う曲での基礎
5	バイエル17番（前半）、弾き歌い、カタツムリ	左右の手の動きが違う曲のレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（左手）
6	バイエル17番（後半）、弾き歌い、カタツムリ(2)	左右の手の動きが違う曲のレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（両手）
7	バイエル19番（前半）、弾き歌い、日のまる	バイエル19番（前半）を使ったレッスン、日のまるを使った弾き歌いの練習（左手）
8	バイエル19番（後半）、弾き歌い、日のまる(2)	バイエル19番（後半）を使ったレッスン、日のまるを使った弾き歌いの練習（両手）
9	バイエル20番（前半）、弾き歌い、海	バイエル20番（前半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（左手）
10	バイエル20番（後半）、弾き歌い、海(2)	バイエル20番（後半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（両手）
11	バイエル21番（前半）、弾き歌い、春が来た	バイエル21番（前半）を使ったレッスン、春が来たを使った弾き歌いの練習（左手）
12	バイエル21番（後半）、弾き歌い、春が来た(2)	バイエル21番（後半）を使ったレッスン、春が来たを使った弾き歌いの練習（両手）
13	バイエル31番（前半）、弾き歌い、夕やけこやけ	バイエル31番（前半）を使ったレッスン、夕やけこやけを使った弾き歌いの練習（左手）
14	バイエル31番（後半）、弾き歌い、夕やけ	バイエル31番（後半）を使ったレッスン、夕やけこやけを使った弾き歌いの練習（両手）

	こやけ(2)	手
15	総括	これまでのレッスンの内容を総括する
16		

科目コード	21400				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習 I [B]				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

この授業ではピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノ・歌唱・読譜能力を中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける。

### <授業の到達目標>

1. バイエル30番程度のピアノ演奏をできる技術を身につける。2. 小学校共通教材の低学年曲（1，2年生）を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。3. 上記程度の読譜能力を身につける。

### <授業の方法>

1. ピアノを用いてグルーブレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き語りを授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

### <教科書>

標準バイエルピアノ教則本 全音楽譜出版社  
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	ピアノの弾き方	ピアノの弾き方、指の形、姿勢、指の動かし方
3	バイエル12～14番を使ったレッスン	バイエルを使ったピアノ基礎練習
4	バイエル15番を使ったレッスン	バイエルを使った左右の手の動きが違う曲での基礎
5	バイエル17番（前半）、弾き歌い、カタツムリ	左右の手の動きが違う曲のレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（左手）
6	バイエル17番（後半）、弾き歌い、カタツムリ(2)	左右の手の動きが違う曲のレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（両手）
7	バイエル19番（前半）、弾き歌い、日のまる	バイエル19番（前半）を使ったレッスン、日のまるを使った弾き歌いの練習（左手）
8	バイエル19番（後半）、弾き歌い、日のまる(2)	バイエル19番（後半）を使ったレッスン、日のまるを使った弾き歌いの練習（両手）
9	バイエル20番（前半）、弾き歌い、海	バイエル20番（前半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（左手）
10	バイエル20番（後半）、弾き歌い、海(2)	バイエル20番（後半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（両手）
11	バイエル21番（前半）、弾き歌い、春が来た	バイエル21番（前半）を使ったレッスン、春が来たを使った弾き歌いの練習（左手）
12	バイエル21番（後半）、弾き歌い、春が来た(2)	バイエル21番（後半）を使ったレッスン、春が来たを使った弾き歌いの練習（両手）
13	バイエル31番（前半）、弾き歌い、夕やけこやけ	バイエル31番（前半）を使ったレッスン、夕やけこやけを使った弾き歌いの練習（左手）
14	バイエル31番（後半）、弾き歌い、夕やけ	バイエル31番（後半）を使ったレッスン、夕やけこやけを使った弾き歌いの練習（両手）

	こやけ(2)	手
15	総括	これまでのレッスンの内容を総括する
16		

科目コード	21400				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習 I [C]				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

この授業ではピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノ・歌唱・読譜能力を中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける。

### <授業の到達目標>

1. バイエル30番程度のピアノ演奏をできる技術を身につける。2. 小学校共通教材の低学年曲（1，2年生）を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。3. 上記程度の読譜能力を身につける。

### <授業の方法>

1. ピアノを用いてグルーブレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き語りを授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

### <教科書>

標準バイエルピアノ教則本 全音楽譜出版社  
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	ピアノの弾き方	ピアノの弾き方、指の形、姿勢、指の動かし方
3	バイエル12～14番を使ったレッスン	バイエルを使ったピアノ基礎練習
4	バイエル15番を使ったレッスン	バイエルを使った左右の手の動きが違う曲での基礎
5	バイエル17番（前半）、弾き歌い、カタツムリ	左右の手の動きが違う曲のレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（左手）
6	バイエル17番（後半）、弾き歌い、カタツムリ（2）	左右の手の動きが違う曲のレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（両手）
7	バイエル19番（前半）、弾き歌い、日のまる	バイエル19番（前半）を使ったレッスン、日のまるを使った弾き歌いの練習（左手）
8	バイエル19番（後半）、弾き歌い、日のまる（2）	バイエル19番（後半）を使ったレッスン、日のまるを使った弾き歌いの練習（両手）
9	バイエル20番（前半）、弾き歌い、海	バイエル20番（前半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（左手）
10	バイエル20番（後半）、弾き歌い、海（2）	バイエル20番（後半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（両手）
11	バイエル21番（前半）、弾き歌い、春が来た	バイエル21番（前半）を使ったレッスン、春が来たを使った弾き歌いの練習（左手）
12	バイエル21番（後半）、弾き歌い、春が来た（2）	バイエル21番（後半）を使ったレッスン、春が来たを使った弾き歌いの練習（両手）
13	バイエル31番（前半）、弾き歌い、夕やけこやけ	バイエル31番（前半）を使ったレッスン、夕やけこやけを使った弾き歌いの練習（左手）
14	バイエル31番（後半）、弾き歌い、夕やけ	バイエル31番（後半）を使ったレッスン、夕やけこやけを使った弾き歌いの練習（両手）

	こやけ(2)	手
15	総括	これまでのレッスンの内容を総括する
16		

科目コード	21400				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習 I [A]				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

この授業ではピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノ・歌唱・読譜能力を中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける。

### <授業の到達目標>

1. バイエル30番程度のピアノ演奏をできる技術を身につける。2. 小学校共通教材の低学年曲（1，2年生）を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。3. 上記程度の読譜能力を身につける。

### <授業の方法>

1. ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き語りを授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

### <教科書>

標準バイエルピアノ教則本 全音楽譜出版社  
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	ピアノの弾き方	ピアノの弾き方、指の形、姿勢、指の動かし方
3	バイエル12～14番を使ったレッスン	バイエルを使ったピアノ基礎練習
4	バイエル15番を使ったレッスン	バイエルを使った左右の手の動きが違う曲での基礎
5	バイエル17番（前半）、弾き歌い、カタツムリ	左右の手の動きが違う曲のレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（左手）
6	バイエル17番（後半）、弾き歌い、カタツムリ(2)	左右の手の動きが違う曲のレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（両手）
7	バイエル19番（前半）、弾き歌い、日のまる	バイエル19番（前半）を使ったレッスン、日のまるを使った弾き歌いの練習（左手）
8	バイエル19番（後半）、弾き歌い、日のまる(2)	バイエル19番（後半）を使ったレッスン、日のまるを使った弾き歌いの練習（両手）
9	バイエル20番（前半）、弾き歌い、海	バイエル20番（前半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（左手）
10	バイエル20番（後半）、弾き歌い、海(2)	バイエル20番（後半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（両手）
11	バイエル21番（前半）、弾き歌い、春が来た	バイエル21番（前半）を使ったレッスン、春が来たを使った弾き歌いの練習（左手）
12	バイエル21番（後半）、弾き歌い、春が来た(2)	バイエル21番（後半）を使ったレッスン、春が来たを使った弾き歌いの練習（両手）
13	バイエル31番（前半）、弾き歌い、夕やけこやけ	バイエル31番（前半）を使ったレッスン、夕やけこやけを使った弾き歌いの練習（左手）
14	バイエル31番（後半）、弾き歌い、夕やけ	バイエル31番（後半）を使ったレッスン、夕やけこやけを使った弾き歌いの練習（両手）

	こやけ(2)	手
15	総括	これまでのレッスンの内容を総括する
16		

科目コード	21400				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習 I [B]				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

この授業ではピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノ・歌唱・読譜能力を中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける。

### <授業の到達目標>

1. バイエル30番程度のピアノ演奏をできる技術を身につける。2. 小学校共通教材の低学年曲（1，2年生）を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。3. 上記程度の読譜能力を身につける。

### <授業の方法>

1. ピアノを用いてグルーブレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き語りを授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

### <教科書>

標準バイエルピアノ教則本 全音楽譜出版社  
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	ピアノの弾き方	ピアノの弾き方、指の形、姿勢、指の動かし方
3	バイエル12～14番を使ったレッスン	バイエルを使ったピアノ基礎練習
4	バイエル15番を使ったレッスン	バイエルを使った左右の手の動きが違う曲での基礎
5	バイエル17番（前半）、弾き歌い、カタツムリ	左右の手の動きが違う曲のレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（左手）
6	バイエル17番（後半）、弾き歌い、カタツムリ(2)	左右の手の動きが違う曲のレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（両手）
7	バイエル19番（前半）、弾き歌い、日のまる	バイエル19番（前半）を使ったレッスン、日のまるを使った弾き歌いの練習（左手）
8	バイエル19番（後半）、弾き歌い、日のまる(2)	バイエル19番（後半）を使ったレッスン、日のまるを使った弾き歌いの練習（両手）
9	バイエル20番（前半）、弾き歌い、海	バイエル20番（前半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（左手）
10	バイエル20番（後半）、弾き歌い、海(2)	バイエル20番（後半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（両手）
11	バイエル21番（前半）、弾き歌い、春が来た	バイエル21番（前半）を使ったレッスン、春が来たを使った弾き歌いの練習（左手）
12	バイエル21番（後半）、弾き歌い、春が来た(2)	バイエル21番（後半）を使ったレッスン、春が来たを使った弾き歌いの練習（両手）
13	バイエル31番（前半）、弾き歌い、夕やけこやけ	バイエル31番（前半）を使ったレッスン、夕やけこやけを使った弾き歌いの練習（左手）
14	バイエル31番（後半）、弾き歌い、夕やけ	バイエル31番（後半）を使ったレッスン、夕やけこやけを使った弾き歌いの練習（両手）

	こやけ(2)	手
15	総括	これまでのレッスンの内容を総括する
16		

科目コード	21400				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習 I [C]				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

この授業ではピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノ・歌唱・読譜能力を中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける。

### <授業の到達目標>

1. バイエル30番程度のピアノ演奏をできる技術を身につける。2. 小学校共通教材の低学年曲（1，2年生）を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。3. 上記程度の読譜能力を身につける。

### <授業の方法>

1. ピアノを用いてグルーブレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き語りを授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

### <教科書>

標準バイエルピアノ教則本 全音楽譜出版社  
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	ピアノの弾き方	ピアノの弾き方、指の形、姿勢、指の動かし方
3	バイエル12～14番を使ったレッスン	バイエルを使ったピアノ基礎練習
4	バイエル15番を使ったレッスン	バイエルを使った左右の手の動きが違う曲での基礎
5	バイエル17番（前半）、弾き歌い、カタツムリ	左右の手の動きが違う曲のレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（左手）
6	バイエル17番（後半）、弾き歌い、カタツムリ(2)	左右の手の動きが違う曲のレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（両手）
7	バイエル19番（前半）、弾き歌い、日のまる	バイエル19番（前半）を使ったレッスン、日のまるを使った弾き歌いの練習（左手）
8	バイエル19番（後半）、弾き歌い、日のまる(2)	バイエル19番（後半）を使ったレッスン、日のまるを使った弾き歌いの練習（両手）
9	バイエル20番（前半）、弾き歌い、海	バイエル20番（前半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（左手）
10	バイエル20番（後半）、弾き歌い、海(2)	バイエル20番（後半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（両手）
11	バイエル21番（前半）、弾き歌い、春が来た	バイエル21番（前半）を使ったレッスン、春が来たを使った弾き歌いの練習（左手）
12	バイエル21番（後半）、弾き歌い、春が来た(2)	バイエル21番（後半）を使ったレッスン、春が来たを使った弾き歌いの練習（両手）
13	バイエル31番（前半）、弾き歌い、夕やけこやけ	バイエル31番（前半）を使ったレッスン、夕やけこやけを使った弾き歌いの練習（左手）
14	バイエル31番（後半）、弾き歌い、夕やけ	バイエル31番（後半）を使ったレッスン、夕やけこやけを使った弾き歌いの練習（両手）

	こやけ(2)	手
15	総括	これまでのレッスンの内容を総括する
16		

科目コード	21401				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ [A]				担当者名	中家 淳悟／三好 啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

この授業を通してピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノを中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける演習科目である。器楽演習Ⅰの内容を発展させた器楽演奏能力（ピアノ）を身につける。

#### <授業の到達目標>

1. 小学校共通教材の6年生までの曲を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。2. 上記程度の読譜能力を身につける。

#### <授業の方法>

1. ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き語りを授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

#### <教科書>

坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	虫の声	虫の声を使った弾き歌い
3	茶つみ	茶つみを使った弾き歌い
4	ふじ山	ふじ山を使った弾き歌い
5	春の小川	春の小川を使った弾き歌い
6	とんび	とんびを使った弾き歌い
7	まきばの朝	まきばの朝を使った弾き歌い
8	もみじ	もみじを使った弾き歌い
9	こいのぼり	こいのぼりを使った弾き歌い
10	スキーの歌	スキーの歌を使った弾き歌い
11	冬げしき	冬げしきを使った弾き歌い
12	おぼろ月夜	おぼろ月夜を使った弾き歌い
13	ふるさと	ふるさとを使った弾き歌い
14	われは海の子	われは海の子を使った弾き歌い
15	総括	試験曲の確認、レッスン
16		

科目コード	21401				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ [B]				担当者名	中家 淳悟／三好 啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

この授業を通してピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノを中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける演習科目である。器楽演習Ⅰの内容を発展させた器楽演奏能力（ピアノ）を身につける。

#### <授業の到達目標>

1. 小学校共通教材の6年生までの曲を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。2. 上記程度の読譜能力を身につける。

#### <授業の方法>

1. ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き語りを授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

#### <教科書>

坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	虫の声	虫の声を使った弾き歌い
3	茶つみ	茶つみを使った弾き歌い
4	ふじ山	ふじ山を使った弾き歌い
5	春の小川	春の小川を使った弾き歌い
6	とんび	とんびを使った弾き歌い
7	まきばの朝	まきばの朝を使った弾き歌い
8	もみじ	もみじを使った弾き歌い
9	こいのぼり	こいのぼりを使った弾き歌い
10	スキーの歌	スキーの歌を使った弾き歌い
11	冬げしき	冬げしきを使った弾き歌い
12	おぼろ月夜	おぼろ月夜を使った弾き歌い
13	ふるさと	ふるさとを使った弾き歌い
14	われは海の子	われは海の子を使った弾き歌い
15	総括	試験曲の確認、レッスン
16		

科目コード	21401				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ [C] (不開講)				担当者名	中家 淳悟／三好 啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

この授業を通してピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノを中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける演習科目である。器楽演習Ⅰの内容を発展させた器楽演奏能力（ピアノ）を身につける。

#### <授業の到達目標>

1. 小学校共通教材の6年生までの曲を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。2. 上記程度の読譜能力を身につける。

#### <授業の方法>

1. ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き語りを授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

#### <教科書>

坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	虫の声	虫の声を使った弾き歌い
3	茶つみ	茶つみを使った弾き歌い
4	ふじ山	ふじ山を使った弾き歌い
5	春の小川	春の小川を使った弾き歌い
6	とんび	とんびを使った弾き歌い
7	まきばの朝	まきばの朝を使った弾き歌い
8	もみじ	もみじを使った弾き歌い
9	こいのぼり	こいのぼりを使った弾き歌い
10	スキーの歌	スキーの歌を使った弾き歌い
11	冬げしき	冬げしきを使った弾き歌い
12	おぼろ月夜	おぼろ月夜を使った弾き歌い
13	ふるさと	ふるさとを使った弾き歌い
14	われは海の子	われは海の子を使った弾き歌い
15	総括	試験曲の確認、レッスン
16		

科目コード	21401				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ [A]				担当者名	三好 啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

この授業を通してピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノを中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける演習科目である。器楽演習Ⅰの内容を発展させた器楽演奏能力（ピアノ）を身につける。

#### <授業の到達目標>

1. 小学校共通教材の6年生までの曲を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。2. 上記程度の読譜能力を身につける。

#### <授業の方法>

1. ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き語りを授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

#### <教科書>

坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	虫の声	虫の声を使った弾き歌い
3	茶つみ	茶つみを使った弾き歌い
4	ふじ山	ふじ山を使った弾き歌い
5	春の小川	春の小川を使った弾き歌い
6	とんび	とんびを使った弾き歌い
7	まきばの朝	まきばの朝を使った弾き歌い
8	もみじ	もみじを使った弾き歌い
9	こいのぼり	こいのぼりを使った弾き歌い
10	スキーの歌	スキーの歌を使った弾き歌い
11	冬げしき	冬げしきを使った弾き歌い
12	おぼろ月夜	おぼろ月夜を使った弾き歌い
13	ふるさと	ふるさとを使った弾き歌い
14	われは海の子	われは海の子を使った弾き歌い
15	総括	試験曲の確認、レッスン
16		

科目コード	21401				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ [B]				担当者名	三好 啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

この授業を通してピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノを中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける演習科目である。器楽演習Ⅰの内容を発展させた器楽演奏能力（ピアノ）を身につける。

#### <授業の到達目標>

1. 小学校共通教材の6年生までの曲を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。2. 上記程度の読譜能力を身につける。

#### <授業の方法>

1. ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き語りを授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

#### <教科書>

坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	虫の声	虫の声を使った弾き歌い
3	茶つみ	茶つみを使った弾き歌い
4	ふじ山	ふじ山を使った弾き歌い
5	春の小川	春の小川を使った弾き歌い
6	とんび	とんびを使った弾き歌い
7	まきばの朝	まきばの朝を使った弾き歌い
8	もみじ	もみじを使った弾き歌い
9	こいのぼり	こいのぼりを使った弾き歌い
10	スキーの歌	スキーの歌を使った弾き歌い
11	冬げしき	冬げしきを使った弾き歌い
12	おぼろ月夜	おぼろ月夜を使った弾き歌い
13	ふるさと	ふるさとを使った弾き歌い
14	われは海の子	われは海の子を使った弾き歌い
15	総括	試験曲の確認、レッスン
16		

科目コード	21401				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ [C]				担当者名	三好 啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

この授業を通してピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノを中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける演習科目である。器楽演習Ⅰの内容を発展させた器楽演奏能力（ピアノ）を身につける。

#### <授業の到達目標>

1. 小学校共通教材の6年生までの曲を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。2. 上記程度の読譜能力を身につける。

#### <授業の方法>

1. ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き語りを授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

#### <教科書>

坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	虫の声	虫の声を使った弾き歌い
3	茶つみ	茶つみを使った弾き歌い
4	ふじ山	ふじ山を使った弾き歌い
5	春の小川	春の小川を使った弾き歌い
6	とんび	とんびを使った弾き歌い
7	まきばの朝	まきばの朝を使った弾き歌い
8	もみじ	もみじを使った弾き歌い
9	こいのぼり	こいのぼりを使った弾き歌い
10	スキーの歌	スキーの歌を使った弾き歌い
11	冬げしき	冬げしきを使った弾き歌い
12	おぼろ月夜	おぼろ月夜を使った弾き歌い
13	ふるさと	ふるさとを使った弾き歌い
14	われは海の子	われは海の子を使った弾き歌い
15	総括	試験曲の確認、レッスン
16		

科目コード	21401				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ [FC2422]				担当者名	高崎 展好／三好 啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業では、「器楽演習Ⅰ」で習得した音楽の基礎知識およびピアノ弾き歌いの技術を基盤とし、保育・教育実習に必要とされるピアノ弾き歌いの技能向上を目指します。音楽の基礎理論や楽譜に記された記号・用語の理解を深めながら、読譜力、視唱力、コード（和音）による伴奏法の習得を目的としたグループレッスンをを行います。また、基本的な発声やソルフェージュ、歌唱作品を通じて、音楽の三要素であるメロディー・ハーモニー・リズムを体感し、楽譜を理解することによって、音楽を楽しむ力を育みます。すべての課題提出にはGoogle Classroomを使用しますので、パソコンを準備の上、授業に臨んでください。後期15回の授業終了後、定期試験期間にピアノ弾き歌い実技試験を実施します。※保育士資格および幼稚園教諭免許の取得を希望する学生は、必ず本授業を履修してください。※幼稚園実習に参加するには、「器楽演習Ⅰ」および「器楽演習Ⅱ」の単位を修得済みであることが条件となります。

### <授業の到達目標>

①楽譜の読み書きを含む、ピアノ演奏に必要な音楽基礎力を身につける。②ピアノによる旋律演奏に必要な読譜力および演奏技術を習得する。③歌唱に必要な基本的な発声法、柔軟体操、表現力を身につける。④ピアノによるコード伴奏に必要な和音（コード）の知識を学び、簡単な伴奏法を習得する。また、リズム練習やソルフェージュを通して読譜力を高め、視唱力・初見力を養う。⑤コードネームを用いて、「こどもの歌」に相応しい伴奏を自らつけられるようになることを目標とする。⑥人前で演奏することに慣れることを目的に、定期試験期間にピアノ弾き

### <授業の方法>

音楽理論に関する講義を中心に、読譜力を養うためのリズム・ソルフェージュ、歌唱指導、ピアノ技術指導などの演習を組み合わせさせて授業を行う。講義では教科書や教材を用いて学習を進めるが、練習問題や楽譜などの補助資料を配布することが多いため、各自でファイルを準備してください。また、各テーマ（単元）ごとに小テストや実技テストを実施し、習熟度を確認する。本授業はグループレッスンを中心に、必要に応じて個人レッスンを併用して行う。各授業時間内に模擬保育形式での発表を行い、実践力を養うことを目指す。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

ピアノ弾き歌い演奏技能習得のためのピアノ実技、歌唱等の演習を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ピアノは毎日の積み重ねが重要です。必ず予習、復習を行いレッスンに臨むこと。次週課題（事前予告）予習 90分以上、これまで学習した課題の復習 90分以上※芸術センター・ピアノ独習室を活用し研鑽を積むこと。※自宅にピアノが無い場合は、貸し出し用キーボードもありますので活用してください。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

こども発達学科のディプロマ・ポリシー「豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、多面的な子ども理解とその支援ができる専門性を身に付け、次世代の発展と構築に貢献する、国際的でグローバルな保育者・教育者・指導者の養成」のための基礎科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度、参加意欲 20％ピアノ弾き歌いレポートリー及びバイエル40％実技テスト 40％※定期試験期間中にピアノ弾き歌い実技試験を実施。事前に発表された課題曲5曲より当日抽選で2曲演奏する。

### <教科書>

坪野 春枝 著 最もわかりやすい楽典入門 ケイ・エム・ピー

### <参考書>

高崎展好 編著（発行2018年3月） わかりやすい！学びやすい！コードでかんたん！保育のうた 環太平洋大学

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション発声法・ピアノ弾き歌い演習	授業概要と課題の説明、発声指導、ソルフェージュ、リズムの学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノ弾き歌い「かたつむり」
2	楽典と演習1	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
3	楽典と演習2	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
4	楽典と演習3	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
5	楽典と演習4	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い

6	楽典と演習5	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
7	楽典と演習6	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
8	楽典と演習7	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
9	楽典と演習8	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
10	楽典と演習9	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
11	楽典と演習10	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
12	楽典と演習11	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
13	楽典と演習12	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
14	楽典と演習13	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
15	楽典と演習14	音楽理論確認テスト、振り返り、まとめ※ピアノ弾き歌い実技試験の連絡
16	定期試験	ピアノ弾き歌い実技試験実施事前に発表された課題曲5曲より当日抽選で2曲演奏

科目コード	21401				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ [FC2421]				担当者名	高崎 展好／三好 啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業では、「器楽演習Ⅰ」で習得した音楽の基礎知識およびピアノ弾き歌いの技術を基盤とし、保育・教育実習に必要とされるピアノ弾き歌いの技能向上を目指します。音楽の基礎理論や楽譜に記された記号・用語の理解を深めながら、読譜力、視唱力、コード（和音）による伴奏法の習得を目的としたグループレッスンをを行います。また、基本的な発声やソルフェージュ、歌唱作品を通じて、音楽の三要素であるメロディー・ハーモニー・リズムを体感し、楽譜を理解することによって、音楽を楽しむ力を育みます。すべての課題提出にはGoogle Classroomを使用しますので、パソコンを準備の上、授業に臨んでください。後期15回の授業終了後、定期試験期間にピアノ弾き歌い実技試験を実施します。※保育士資格および幼稚園教諭免許の取得を希望する学生は、必ず本授業を履修してください。※幼稚園実習に参加するには、「器楽演習Ⅰ」および「器楽演習Ⅱ」の単位を修得済みであることが条件となります。

### <授業の到達目標>

①楽譜の読み書きを含む、ピアノ演奏に必要な音楽基礎力を身につける。②ピアノによる旋律演奏に必要な読譜力および演奏技術を習得する。③歌唱に必要な基本的な発声法、柔軟体操、表現力を身につける。④ピアノによるコード伴奏に必要な和音（コード）の知識を学び、簡単な伴奏法を習得する。また、リズム練習やソルフェージュを通して読譜力を高め、視唱力・初見力を養う。⑤コードネームを用いて、「こどもの歌」に相応しい伴奏を自らつけられるようになることを目標とする。⑥人前で演奏することに慣れることを目的に、定期試験期間にピアノ弾き

### <授業の方法>

音楽理論に関する講義を中心に、読譜力を養うためのリズム・ソルフェージュ、歌唱指導、ピアノ技術指導などの演習を組み合わせさせて授業を行う。講義では教科書や教材を用いて学習を進めるが、練習問題や楽譜などの補助資料を配布することが多いため、各自でファイルを準備してください。また、各テーマ（単元）ごとに小テストや実技テストを実施し、習熟度を確認する。本授業はグループレッスンを中心に、必要に応じて個人レッスンを併用して行う。各授業時間内に模擬保育形式での発表を行い、実践力を養うことを目指す。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

ピアノ弾き歌い演奏技能習得のためのピアノ実技、歌唱等の演習を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ピアノは毎日の積み重ねが重要です。必ず予習、復習を行いレッスンに臨むこと。次週課題（事前予告）予習 90分以上、これまで学習した課題の復習 90分以上※芸術センター・ピアノ独習室を活用し研鑽を積むこと。※自宅にピアノが無い場合は、貸し出し用キーボードもありますので活用してください。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

こども発達学科のディプロマ・ポリシー「豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、多面的な子ども理解とその支援ができる専門性を身に付け、次世代の発展と構築に貢献する、国際的でグローバルな保育者・教育者・指導者の養成」のための基礎科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度、参加意欲 20％ピアノ弾き歌いレポートリー及びバイエル40％実技テスト 40％※定期試験期間中にピアノ弾き歌い実技試験を実施。事前に発表された課題曲5曲より当日抽選で2曲演奏する。

### <教科書>

坪野 春枝 著 最もわかりやすい楽典入門 ケイ・エム・ピー

### <参考書>

高崎展好 編著（発行2018年3月） わかりやすい！学びやすい！コードでかんたん！保育のうた 環太平洋大学

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション発声法・ピアノ弾き歌い演習	授業概要と課題の説明、発声指導、ソルフェージュ、リズムの学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノ弾き歌い「かたつむり」
2	楽典と演習1	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
3	楽典と演習2	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
4	楽典と演習3	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
5	楽典と演習4	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い

6	楽典と演習5	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
7	楽典と演習6	発声指導、ソルフエージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
8	楽典と演習7	発声指導、ソルフエージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
9	楽典と演習8	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
10	楽典と演習9	発声指導、ソルフエージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
11	楽典と演習10	発声指導、ソルフエージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
12	楽典と演習11	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
13	楽典と演習12	発声指導、ソルフエージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
14	楽典と演習13	発声指導、ソルフエージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
15	楽典と演習14	音楽理論確認テスト、振り返り、まとめ※ピアノ弾き歌い実技試験の連絡
16	定期試験	ピアノ弾き歌い実技試験実施事前に発表された課題曲5曲より当日抽選で2曲演奏

科目コード	21402				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅲ [FC]				担当者名	高崎 展好／三好 啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

器楽演習Ⅰ・Ⅱで習得した音楽基礎知識、ピアノ基礎技術と弾き歌いの内容を発展・強化することを目的とする。保育教育者に必要とされるピアノ演奏技術（弾き歌いを含む）と表現力を養うため、発声指導、ソルフェージュ、合唱を取り入れたレッスンをおこなう。保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の採用試験に向け、必要なピアノ基礎技術と演奏表現力を身につけることを目指す。子どもたちや、人前で演奏することに慣れるため授業終了後に発表会を実施する。※保育実習、幼稚園教育実習履修者は、履修していることが望ましい。

#### <授業の到達目標>

ピアノ奏法、ピアノ弾き歌いに関する知識と技術の習得。採用試験対策として、演奏レパートリーを増やすことを目指す。また、人前で演奏することに慣れることを目的に授業終了後に公開試験（発表会）を実施する。

#### <授業の方法>

グループレッスンと個人レッスンの併用で行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

主にピアノ技能習得、歌唱指導による演習

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ピアノ演奏技術を身に付けるためには、毎日の積み重ねが重要です。必ず予習、復習を行いレッスンに臨むこと。授業は予習を前提として行うものとする。次週課題（事前予告）の予習 90分以上、これまでに学習した課題の復習 90分以上※芸術センター・ピアノ独習室を活用し研鑽を積むこと。※自宅にピアノがない場合は、貸出用キーボードもあるので活用してください。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の意欲・態度 20%、ピアノ弾き歌い課題（10曲）20%、バイエル教則本課題（5曲）10%、実技試験 50%（中間20%、期末30%）※15回授業終了後にピアノ演奏発表会を実施。発表会参加を以って単位認定とする。

#### <教科書>

坂井康子・岡林典子・南夏世・佐野仁美編著（2021年5月10日 改定第9版 第17刷発行） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア  
標準バイエルピアノ教則本 全音楽譜出版社  
高崎展好編著（2018年3月発行） わかりやすい！学びやすい！コードでかんたん！保育のうた 環太平洋大学次世代教育学部こども発達学科

#### <参考書>

ブルグミュラー25の練習曲 全音楽譜出版社

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションレッスン1	授業概要と課題の説明発声指導、歌唱指導ピアノ弾き歌い課題曲「やまのおんがくか」「※おはよう」ピアノ課題曲「バイエルNo. 44（連弾）」※「教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー」
2	レッスン2	発声指導、歌唱指導前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「思い出のアルバム」「※おべんとう」ピアノ課題曲「バイエルNo. 52」※「教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー」
3	レッスン3	発声指導、歌唱指導、読譜法※前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「※はをみがきましょう」「※せんせいとおともだち」ピアノ課題曲「バイエルNo. 55」※「教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー」
4	レッスン4	発声指導、歌唱指導、読譜法前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「あわてんぼうのサンタクロース」「※おかたづけ」ピアノ課題曲「バイエルNo. 59」※「教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー」
5	レッスン5	発声指導、歌唱指導、読譜法※前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「※うれしいひなまつり」ピアノ課題曲「バイエルNo. 78（前半）」※「教育・保育現場で毎日

6	レッスン 6	日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー」 発声指導、歌唱指導、読譜法※前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「ハッピー・バースデー・トゥ・ユー」ピアノ課題曲「バイエルNo. 78（後半）」
7	レッスン 7 確認（中間）テスト	レッスン1～6までのピアノ弾き歌い課題2曲（自由選択）による確認（中間）テスト（模擬保育形式）
8	レッスン 8	発声指導、歌唱指導、読譜法ピアノ弾き歌い課題曲「やまのおんがくか」ピアノ課題曲「バイエルNo. 86（連弾）」
9	レッスン 9	発声指導、歌唱指導※前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「ふしぎなポケット」ピアノ課題曲「バイエルNo. 86（連弾）テンポアップ」
10	レッスン 10	発声指導、歌唱指導（合唱）、読譜法前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「ミッキーマウス・マーチ」ピアノ課題曲「バイエルNo. 88」
11	レッスン 11	発声指導、歌唱指導（合唱）、読譜法前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「さんぽ」ピアノ課題曲「バイエルNo. 90」
12	レッスン 12	発声指導、歌唱指導（合唱）、読譜法前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「※ともだちになるために」※「教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー」
13	レッスン 13	発表会、試験に向けた個人指導①
14	レッスン 14	発表会、試験に向けた個人指導②
15	レッスン 15 確認（期末）テスト	レッスン8～11までのピアノ弾き歌い課題3曲（自由選択）による確認（中間）テスト（模擬保育形式）
16	発表会への参加※実施日程については別途連絡	ピアノ学習の集大成としてピアノ発表会へ参加する。履修者及び、その他聴衆の前でピアノ作品の演奏を行う。

科目コード	21403				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅳ [FC]				担当者名	高崎 展好／三好 啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

器楽演習Ⅲで修得したピアノ基礎技術と弾き歌いの集大成となるよう演奏表現における応用能力の強化を図ることを目的とする。保育士、幼稚園教諭、小学校教諭に必要とされる即応性のある演奏能力と、音楽指導に必要な表現能力を身につけるために、個人レッスンを中心とした授業を実施する。これまで習得した器楽演習Ⅰ・Ⅱ弾き歌い復習課題の確認も行う。※保育士資格、幼稚園教諭免許取得希望者、保育・教育実習参加希望者は、履修していることが望ましい。

#### <授業の到達目標>

ピアノ奏法、弾き歌いに関する知識と技術の修得、及び豊かな感性や創造性を伸ばし表現することの楽しさを味わい自己表現力を高める。採用試験対策として演奏レパートリーを増やし、指導者の観点から音楽指導ができるようになることを目指す。また子どもたちや、人前で演奏することに慣れることを目的に授業終了後に公開試験（発表会）を実施する。

#### <授業の方法>

グループレッスンと個人レッスンを併用する。※個人レッスンについては、個人の実技レベルに合わせ、ブルグミュラー25の練習曲または、ソナチネアルバム（1）より任意の課題に取り組む。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

主にピアノ技能習得、歌唱指導による演習

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ピアノ演奏技術を身に付けるためには、毎日の積み重ねが重要です。必ず予習、復習を行いレッスンに臨むこと。授業は予習を前提として行うものとする。※芸術センター・ピアノ独習室を活用し研鑽を積むこと。次週課題（事前予告）の予習 90分、これまで学習した全課題曲の復習 90分

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の意欲・態度 20%、弾き歌い課題曲（10曲）20%、弾き歌い復習課題（10曲）10%、実技試験25%（中間10%、期末15%）発表会用作品25%※15回授業終了後にピアノ演奏発表会を実施。発表会参加を以って単位認定とする。

#### <教科書>

星山麻木 編著、板野和彦 著（発行2015年8月10日 初版第1刷） 一人一人を大切にするユニバーサルデザインの音楽表現付録「親子あそびや音楽ワークショップで使える！子どものうた100」「表現B」授業使用テキスト チャイルド本社  
坂井康子・岡林典子・南夏世・佐野仁美編著（発行2008年9月20日 初版） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア  
ブルグミュラー25の練習曲 全音楽譜出版社

#### <参考書>

ソナチネ アルバム（1）〔標準版〕 全音楽譜出版社

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションレッスン1	授業概要と課題の説明ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題「ドレミのうた」※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
2	レッスン2	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題「おにのパンツ」※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
3	レッスン3	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題「もりのくまさん」※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
4	レッスン4	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題「アイスクリームのうた」※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
5	レッスン5	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題「おばけなんてないさ」※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
6	レッスン6	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題「あめふりくまのこ」※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
7	レッスン7、確認（中間）テスト	レッスン1～6までのピアノ弾き歌い課題2曲（自由選択）による確認（中間）テスト

		(模擬保育形式)
8	レッスン 8	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題「犬のおまわりさん」※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
9	レッスン 9	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題「ドロップスのうた」※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
10	レッスン 10	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題「ぼくのミックスジュース」※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
11	レッスン 11	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題「にじ」※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
12	レッスン 12	ピアノ弾き歌い復習課題課題：挨拶・行事・季節の歌
13	レッスン 13	発表会、試験に向けた個人指導①
14	レッスン 14	発表会、試験に向けた個人指導②
15	レッスン 15、確認（期末）テスト	レッスン8～11までのピアノ弾き歌い課題3曲（自由選択）による確認（中間）テスト（模擬保育形式）
16	発表会※実施日程については別途連絡	ピアノ学習の集大成としてピアノ発表会へ参加する。履修者及び、その他聴衆の前でピアノ作品の演奏を行う。

科目コード	21407				区 分	専門基礎科目			
授業 科目名	図画工作Ⅱ				担当者名	後藤 由佳			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

「図画工作Ⅱ」は、こども発達学科 専門基礎科目区分の選択科目である。本演習では、製作・鑑賞活動を軸として、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術、造形表現の表現活動に関する基礎的専門知識と技術を習得することを目的とする。

#### <授業の到達目標>

実社会で通用する保育士・幼稚園教諭を養成するため、保育実習や教育実習をはじめ、保育現場で求められる子どもの造形表現に関する基礎的専門知識と技術を身に付けている。

#### <授業の方法>

準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタルツール(Classroom)を活用する。アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク等)を取り入れつつ、子どもの造形表現に係る教材の製作、及び鑑賞により授業を進める。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有(ディスカッション、グループワークの方法) 作品について意見をまとめ発表を行う。

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外で、授業に必要な資料や教材、用具を準備してください。また授業内に作品が完成しない場合は、作品や課題に取り組む等、準備学習を求めます。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2(保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲(教材、用具等事前準備)50%、作品とその発表、鑑賞50%、作品の未完了は認められません。必ず、授業時間と準備学習で作品を完成させましょう。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	演習の流れ、授業の到達目標と注意事項、成績評価法の説明
2	造形表現の教材研究(1)	ケッチブックシアターの製作①
3	造形表現の教材研究(2)	ケッチブックシアターの製作②
4	造形表現の教材研究(3)	ケッチブックシアターの製作③
5	造形表現の教材研究(4)	ケッチブックシアターの製作④
6	造形表現の教材研究(5)	ケッチブックシアターの製作⑤
7	造形表現の教材研究(6)	ケッチブックシアターの製作⑥
8	造形表現の教材研究(7)	ケッチブックシアターの製作⑦
9	造形表現の教材研究(8)	ケッチブックシアターの製作⑧
10	造形表現の教材研究(9)	ケッチブックシアターの製作⑨
11	造形表現の教材研究(10)	ケッチブックシアターの製作⑩
12	造形表現の教材研究(11)	ケッチブックシアターの製作⑪
13	造形表現の教材研究(12)	ケッチブックシアターの製作⑫
14	まとめと作品鑑賞	演習の振り返り
15	全体総括	作品発表とその鑑賞
16		

科目コード	21408				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	図画工作 [FC2521]				担当者名	後藤 由佳			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

「図画工作」は、国家資格である保育士資格取得における選択科目である。本演習では、製作・鑑賞活動を軸として、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術、造形表現の表現活動に関する基礎的専門知識と技術を習得することを目的とする。

### <授業の到達目標>

実社会で通用する保育士・幼稚園教諭を養成するため、保育実習や教育実習をはじめ、保育現場で求められる子どもの造形表現に関する基礎的専門知識と技術を身に付けている。

### <授業の方法>

準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタルツール(Classroom)を活用する。アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク等)を取り入れつつ、子どもの造形表現に係る教材の製作、及び鑑賞により授業を進める。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有(ディスカッション、グループワークの方法) 4～5人のグループに分かれ、作品について意見をまとめグループごとに発表を行う。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外で、授業に必要な資料や教材、用具を準備してください。また授業内に作品が完成しない場合は、前回の授業内容の作品や課題、次回の授業までにポートフォリオの製作に取り組む等、準備学習(45分程度)を求めます。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2(保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲(教材、用具等事前準備) 30%、作品のまとめ(ポートフォリオ2種類) 50%、作品鑑賞と定期試験(レポート) 20%、授業課題やポートフォリオ等、作品の未完成は認められません。必ず、授業時間と準備学習で作品を完成させましょう。

### <教科書>

### <参考書>

村田夕紀 楽しい”造形”がいっぱい2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ ひかりのくに

村田夕紀 低年齢児が夢中になる遊びがいっぱい! 0・1・2歳児の造形あそび実践ライブ ひかりのくに

村田夕紀 3・4・5歳児の楽しく絵を描く実践ライブ ひかりのくに

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	演習の流れ、授業の到達目標と注意事項、成績評価法の説明
2	造形表現の教材研究(1)	平面造形①鉛筆での描画
3	造形表現の教材研究(2)	平面造形②水彩絵の具での着彩(背景)
4	造形表現の教材研究(3)	平面造形③水彩絵の具での着彩(細部)
5	造形表現の教材研究(4)	平面造形④水彩絵の具での着彩(細部)
6	造形表現の教材研究(5)	平面造形⑤ポートフォリオの表紙に水彩画を貼り、接着剤付き透明フィルムで補強
7	造形表現の教材研究(6)	壁面製作①構図を決める
8	造形表現の教材研究(7)	壁面製作②土台パーツを切る
9	造形表現の教材研究(8)	壁面製作③パーツを貼る
10	造形表現の教材研究(9)	壁面製作④ポートフォリオの表紙に壁面造形を貼り、接着剤付き透明フィルムで補強
11	造形表現の教材研究(10)	造形遊び①リュックでお出かけ!
12	造形表現の教材研究(11)	造形遊び②焼きそば&お好み焼きを作ろう!
13	造形表現の教材研究(12)	授業課題やポートフォリオのまとめ
14	まとめと作品鑑賞	演習の振り返り、作品鑑賞
15	全体総括	レポート作成とその提出
16		

科目コード	21408				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	図画工作 [FC2522]				担当者名	後藤 由佳			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

「図画工作」は、国家資格である保育士資格取得における選択科目である。本演習では、製作・鑑賞活動を軸として、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術、造形表現の表現活動に関する基礎的専門知識と技術を習得することを目的とする。

### <授業の到達目標>

実社会で通用する保育士・幼稚園教諭を養成するため、保育実習や教育実習をはじめ、保育現場で求められる子どもの造形表現に関する基礎的専門知識と技術を身に付けている。

### <授業の方法>

準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタルツール(Classroom)を活用する。アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク等)を取り入れつつ、子どもの造形表現に係る教材の製作、及び鑑賞により授業を進める。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有(ディスカッション、グループワークの方法) 4～5人のグループに分かれ、作品について意見をまとめグループごとに発表を行う。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外で、授業に必要な資料や教材、用具を準備してください。また授業内に作品が完成しない場合は、前回の授業内容の作品や課題、次回の授業までにポートフォリオの製作に取り組む等、準備学習(45分程度)を求めます。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2(保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲(教材、用具等事前準備) 30%、作品のまとめ(ポートフォリオ2種類) 50%、作品鑑賞と定期試験(レポート) 20%、授業課題やポートフォリオ等、作品の未完成は認められません。必ず、授業時間と準備学習で作品を完成させましょう。

### <教科書>

### <参考書>

村田夕紀 楽しい”造形”がいっぱい2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ ひかりのくに

村田夕紀 低年齢児が夢中になる遊びがいっぱい! 0・1・2歳児の造形あそび実践ライブ ひかりのくに

村田夕紀 3・4・5歳児の楽しく絵を描く実践ライブ ひかりのくに

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	演習の流れ、授業の到達目標と注意事項、成績評価法の説明
2	造形表現の教材研究(1)	平面造形①鉛筆での描画
3	造形表現の教材研究(2)	平面造形②水彩絵の具での着彩(背景)
4	造形表現の教材研究(3)	平面造形③水彩絵の具での着彩(細部)
5	造形表現の教材研究(4)	平面造形④水彩絵の具での着彩(細部)
6	造形表現の教材研究(5)	平面造形⑤ポートフォリオの表紙に水彩画を貼り、接着剤付き透明フィルムで補強
7	造形表現の教材研究(6)	壁面製作①構図を決める
8	造形表現の教材研究(7)	壁面製作②土台パーツを切る
9	造形表現の教材研究(8)	壁面製作③パーツを貼る
10	造形表現の教材研究(9)	壁面製作④ポートフォリオの表紙に壁面造形を貼り、接着剤付き透明フィルムで補強
11	造形表現の教材研究(10)	造形遊び①リュックでお出かけ!
12	造形表現の教材研究(11)	造形遊び②焼きそば&お好み焼きを作ろう!
13	造形表現の教材研究(12)	授業課題やポートフォリオのまとめ
14	まとめと作品鑑賞	演習の振り返り、作品鑑賞
15	全体総括	レポート作成とその提出
16		

科目コード	22102				区 分	専門基礎			
授業 科目名	衣・食・住の理解 [FE2431組用]				担当者名	岡 礼子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

アクティブ・ラーニングの深い学びの鍵である「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくか」という視点や考え方で、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を身に付ける。また、小学校家庭科を指導するに当たって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族に関する基礎的・基本的な知識及び技能について学ぶ。

<授業の到達目標>

小学校家庭科は、家庭生活の基礎となる能力と実践的な態度を育成する視点から、中学校技術・家庭科との体系化が図られ、「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」の3つの内容で構成されている。それぞれの内容が、中学校へどう接続されているか。自分だったらどのような題材を使って、どのような授業を展開したいかなどを考えながら、小学校で取り扱う内容の実践を通して、子供と教師の両方の思いや立場で創意工夫した授業構想が立てられることを目標としている。

<授業の方法>

小学校で指導する衣食住や家族・家庭生活に関する基礎的・基本的事項をしっかりと身に付けるために、デジタル教科書を活用して基礎縫いの仕方、ご飯とみそ汁の作り方、ミシンの操作等を説明した後、フェルトの小物づくりやエコバッグの製作、インターネットを活用しての食事バランスガイドのチェックや五大栄養素の学習等、教師として必要な知識・技能について学修する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

家庭科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業の構想・題材など内容や時間のまとまりを見直して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること、その際、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、知識を生活経験等と関連付けてより深く理解するとともに、日常生活の中から問題を見いだして様々な解決方法を考え、他者と意見交換し、実践を評価・改善して、新たな課題を見いだす過程を重視した学習の充実を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

小学校で指導すべき具体的事項を確実に習得するために、事前に配布する講義予定表に、毎回の授業内容と該当する小学校と中学校の教科書のページを記載している。授業前に毎時間予習をし、授業後に毎時間復讐として必ず目を通して授業に臨む。 フェルトの小物づくりでは、Webサイトを利用して、事前に作りたい物を調べておく。また、五大栄養素については、インターネットの中にある食事バランスガイドを活用して、自分の食事がバランスの良い物であるかどうかをチェックし、日々の食生活の改善に努める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技製作(基礎縫い・フェルトの小物・エコバッグ)30%、期末試験(レポートを含む)70%実技作品については、上手にできている点や直す所などをコメントカードに書き、評価もして返却する。

<教科書>

文部科学省(2017年) 「小学校学習指導要領解説 家庭編」 東洋館出版社  
 鳴海多恵子他(2024年) 「わたしたちの家庭科5・6」 開隆堂

<参考書>

文部科学省(2017年) 「小学校学習指導要領解説 総則編」 東洋館出版社  
 佐藤文子・志村結美他(2021年) 新しい技術・家庭 家庭分野 東京書籍

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	家庭科教育の目標と内容	家庭科学習と学習指導要領の趣旨及び各領域の目標・内容について
2	A 家族・家庭生活(1)	家庭生活と仕事生活時間とマネジメント
3	B 衣食住の生活(1)	子どもの学びを高めるICTの活用(コンピューター活用)
4	B 衣食住の生活(2)	ソーイングははじめの一步①(基礎縫い)
5	B 衣食住の生活(3)	ソーイングははじめの一步②(基礎縫いとボタン付け)
6	B 衣食住の生活(4)	生活に役立つ物の製作①手縫い(フェルトの小物づくり)
7	B 衣食住の生活(5)	生活に役立つ物の製作②手縫い(フェルトの小物づくり)
8	B 衣食住の生活(6)	生活に役立つ物の製作③手縫い(フェルトの小物づくり)
9	B 衣食住の生活(7)	生活に役立つ物の製作④手縫い(フェルトの小物づくり)
10	B 衣食住の生活(8)	食べて元気にご飯とみそ汁の作り方の説明と実習計画

11	B 衣食住の生活(9)	献立を工夫してごはんのみそ汁ともう一品の調理実習
12	C 消費生活・環境(1)	ミシンで楽しくソーイング①ミシン縫い(エコバッグの製作)
13	C 消費生活・環境(2)	ミシンで楽しくソーイング②ミシン縫い(エコバッグの製作)
14	C 消費生活・環境(3)	ミシンで楽しくソーイング③ミシン縫い(エコバッグの製作)
15	小学校家庭科の総括	小学校家庭科のまとめとエコバック製作の予備日
16	期末試験	期末試験

科目コード	22102				区 分	専門基礎			
授業 科目名	衣・食・住の理解〔他学科用〕				担当者名	岡 礼子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

アクティブ・ラーニングの深い学びの鍵である「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくか」という視点や考え方で、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を身に付ける。また、小学校家庭科を指導するに当たって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族に関する基礎的・基本的な知識及び技能について学ぶ。

#### <授業の到達目標>

小学校家庭科は、家庭生活の基礎となる能力と実践的な態度を育成する視点から、中学校技術・家庭科との体系化が図られ、「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」の3つの内容で構成されている。それぞれの内容が、中学校へどう接続されているか。自分だったらどのような題材を使って、どのような授業を展開したいかなどを考えながら、小学校で取り扱う内容の実践を通して、子供と教師の両方の思いや立場で創意工夫した授業構想が立てられることを目標としている。

#### <授業の方法>

小学校で指導する衣食住や家族・家庭生活に関する基礎的・基本的事項をしっかりと身に付けるために、デジタル教科書を活用して基礎縫いの仕方、ご飯とみそ汁の作り方、ミシンの操作等を説明した後、フェルトの小物づくりやエコバッグの製作、インターネットを活用しての食事バランスガイドのチェックや五大栄養素の学習等、教師として必要な知識・技能について学修する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

家庭科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業の構想・題材など内容や時間のまとまりを見直して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること、その際、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、知識を生活経験等と関連付けてより深く理解するとともに、日常生活の中から問題を見いだして様々な解決方法を考え、他者と意見交換し、実践を評価・改善して、新たな課題を見いだす過程を重視した学習の充実を図る。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

小学校で指導すべき具体的事項を確実に習得するために、事前に配布する講義予定表に、毎回の授業内容と該当する小学校と中学校の教科書のページを記載している。授業前に毎時間予習をし、授業後に毎時間復讐として必ず目を通して授業に臨む。フェルトの小物づくりでは、Webサイトを利用して、事前に作りたい物を調べておく。また、五大栄養素については、インターネットの中にある食事バランスガイドを活用して、自分の食事がバランスの良いものであるかどうかをチェックし、日々の食生活の改善に努める。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技製作（基礎縫い・フェルトの小物・エコバッグ）30%、期末試験（レポートを含む）70%実技作品については、上手にできている点や直す所などをコメントカードに書き、評価もして返却する。

#### <教科書>

文部科学省(2017年) 「小学校学習指導要領解説 家庭編」 東洋館出版社  
 鳴海多恵子他(2024年) 「わたしたちの家庭科5・6」 開隆堂

#### <参考書>

文部科学省(2017年) 「小学校学習指導要領解説 総則編」 東洋館出版社  
 佐藤文子・志村結美他(2021年) 新しい技術・家庭 家庭分野 東京書籍

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	家庭科教育の目標と内容	家庭科学習と学習指導要領の趣旨及び各領域の目標・内容について
2	A 家族・家庭生活(1)	家庭生活と仕事生活時間とマネジメント
3	B 衣食住の生活(1)	子どもの学びを高めるICTの活用(コンピューター活用)
4	B 衣食住の生活(2)	ソーイングははじめの一步①(基礎縫い)
5	B 衣食住の生活(3)	ソーイングははじめの一步②(基礎縫いとボタン付け)
6	B 衣食住の生活(4)	生活に役立つ物の製作①手縫い(フェルトの小物づくり)
7	B 衣食住の生活(5)	生活に役立つ物の製作②手縫い(フェルトの小物づくり)
8	B 衣食住の生活(6)	生活に役立つ物の製作③手縫い(フェルトの小物づくり)
9	B 衣食住の生活(7)	生活に役立つ物の製作④手縫い(フェルトの小物づくり)
10	B 衣食住の生活(8)	食べて元気にご飯とみそ汁の作り方の説明と実習計画

11	B 衣食住の生活(9)	献立を工夫してごはんのみそ汁ともう一品の調理実習
12	C 消費生活・環境(1)	ミシンで楽しくソーイング①ミシン縫い(エコバッグの製作)
13	C 消費生活・環境(2)	ミシンで楽しくソーイング②ミシン縫い(エコバッグの製作)
14	C 消費生活・環境(3)	ミシンで楽しくソーイング③ミシン縫い(エコバッグの製作)
15	小学校家庭科の総括	小学校家庭科のまとめとエコバック製作の予備日
16	期末試験	期末試験

科目コード	22102				区 分	専門基礎			
授業 科目名	衣・食・住の理解 [FE2432組用]				担当者名	岡 礼子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

アクティブ・ラーニングの深い学びの鍵である「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくか」という視点や考え方で、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を身に付ける。また、小学校家庭科を指導するに当たって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族に関する基礎的・基本的な知識及び技能について学ぶ。

<授業の到達目標>

小学校家庭科は、家庭生活の基礎となる能力と実践的な態度を育成する視点から、中学校技術・家庭科との体系化が図られ、「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」の3つの内容で構成されている。それぞれの内容が、中学校へどう接続されているか。自分だったらどのような題材を使って、どのような授業を展開したいかなどを考えながら、小学校で取り扱う内容の実践を通して、子供と教師の両方の思いや立場で創意工夫した授業構想が立てられることを目標としている。

<授業の方法>

小学校で指導する衣食住や家族・家庭生活に関する基礎的・基本的事項をしっかりと身に付けるために、デジタル教科書を活用して基礎縫いの仕方、ご飯とみそ汁の作り方、ミシンの操作等を説明した後、フェルトの小物づくりやエコバッグの製作、インターネットを活用しての食事バランスガイドのチェックや五大栄養素の学習等、教師として必要な知識・技能について学修する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

家庭科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業の構想・題材など内容や時間のまとまりを見直して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること、その際、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、知識を生活経験等と関連付けてより深く理解するとともに、日常生活の中から問題を見いだして様々な解決方法を考え、他者と意見交換し、実践を評価・改善して、新たな課題を見いだす過程を重視した学習の充実を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

小学校で指導すべき具体的事項を確実に習得するために、事前に配布する講義予定表に、毎回の授業内容と該当する小学校と中学校の教科書のページを記載している。授業前に毎時間予習をし、授業後に毎時間復讐として必ず目を通して授業に臨む。 フェルトの小物づくりでは、Webサイトを利用して、事前に作りたい物を調べておく。また、五大栄養素については、インターネットの中にある食事バランスガイドを活用して、自分の食事がバランスの良い物であるかどうかをチェックし、日々の食生活の改善に努める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技製作（基礎縫い・フェルトの小物・エコバッグ）30%、期末試験（レポートを含む）70%実技作品については、上手にできている点や直す所などをコメントカードに書き、評価もして返却する。

<教科書>

文部科学省(2017年) 「小学校学習指導要領解説 家庭編」 東洋館出版社  
 鳴海多恵子他(2024年) 「わたしたちの家庭科5・6」 開隆堂

<参考書>

文部科学省(2017年) 「小学校学習指導要領解説 総則編」 東洋館出版社  
 佐藤文子・志村結美他(2021年) 新しい技術・家庭 家庭分野 東京書籍

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	家庭科教育の目標と内容	家庭科学習と学習指導要領の趣旨及び各領域の目標・内容について
2	A 家族・家庭生活(1)	家庭生活と仕事生活時間とマネジメント
3	B 衣食住の生活(1)	子どもの学びを高めるICTの活用(コンピューター活用)
4	B 衣食住の生活(2)	ソーイングははじめの一步①(基礎縫い)
5	B 衣食住の生活(3)	ソーイングははじめの一步②(基礎縫いとボタン付け)
6	B 衣食住の生活(4)	生活に役立つ物の製作①手縫い(フェルトの小物づくり)
7	B 衣食住の生活(5)	生活に役立つ物の製作②手縫い(フェルトの小物づくり)
8	B 衣食住の生活(6)	生活に役立つ物の製作③手縫い(フェルトの小物づくり)
9	B 衣食住の生活(7)	生活に役立つ物の製作④手縫い(フェルトの小物づくり)
10	B 衣食住の生活(8)	食べて元気にご飯とみそ汁の作り方の説明と実習計画

11	B 衣食住の生活(9)	献立を工夫してごはんのみそ汁ともう一品の調理実習
12	C 消費生活・環境(1)	ミシンで楽しくソーイング①ミシン縫い(エコバッグの製作)
13	C 消費生活・環境(2)	ミシンで楽しくソーイング②ミシン縫い(エコバッグの製作)
14	C 消費生活・環境(3)	ミシンで楽しくソーイング③ミシン縫い(エコバッグの製作)
15	小学校家庭科の総括	小学校家庭科のまとめとエコバック製作の予備日
16	期末試験	期末試験

科目コード	22102				区 分	専門基礎			
授業 科目名	衣・食・住の理解 [FE2433組用]				担当者名	岡 礼子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

アクティブ・ラーニングの深い学びの鍵である「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくか」という視点や考え方で、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を身に付ける。また、小学校家庭科を指導するに当たって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族に関する基礎的・基本的な知識及び技能について学ぶ。

<授業の到達目標>

小学校家庭科は、家庭生活の基礎となる能力と実践的な態度を育成する視点から、中学校技術・家庭科との体系化が図られ、「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」の3つの内容で構成されている。それぞれの内容が、中学校へどう接続されているか。自分だったらどのような題材を使って、どのような授業を展開したいかなどを考えながら、小学校で取り扱う内容の実践を通して、子供と教師の両方の思いや立場で創意工夫した授業構想が立てられることを目標としている。

<授業の方法>

小学校で指導する衣食住や家族・家庭生活に関する基礎的・基本的事項をしっかりと身に付けるために、デジタル教科書を活用して基礎縫いの仕方、ご飯とみそ汁の作り方、ミシンの操作等を説明した後、フェルトの小物づくりやエコバッグの製作、インターネットを活用しての食事バランスガイドのチェックや五大栄養素の学習等、教師として必要な知識・技能について学修する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

家庭科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業の構想・題材など内容や時間のまとまりを見直して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること、その際、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、知識を生活経験等と関連付けてより深く理解するとともに、日常生活の中から問題を見いだして様々な解決方法を考え、他者と意見交換し、実践を評価・改善して、新たな課題を見いだす過程を重視した学習の充実を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

小学校で指導すべき具体的事項を確実に習得するために、事前に配布する講義予定表に、毎回の授業内容と該当する小学校と中学校の教科書のページを記載している。授業前に毎時間予習をし、授業後に毎時間復讐として必ず目を通して授業に臨む。 フェルトの小物づくりでは、Webサイトを利用して、事前に作りたい物を調べておく。また、五大栄養素については、インターネットの中にある食事バランスガイドを活用して、自分の食事がバランスの良い物であるかどうかをチェックし、日々の食生活の改善に努める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技製作(基礎縫い・フェルトの小物・エコバッグ)30%、期末試験(レポートを含む)70%実技作品については、上手にできている点や直す所などをコメントカードに書き、評価もして返却する。

<教科書>

文部科学省(2017年) 「小学校学習指導要領解説 家庭編」 東洋館出版社  
鳴海多恵子他(2024年) 「わたしたちの家庭科5・6」 開隆堂

<参考書>

文部科学省(2017年) 「小学校学習指導要領解説 総則編」 東洋館出版社  
佐藤文子・志村結美他(2021年) 新しい技術・家庭 家庭分野 東京書籍

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	家庭科教育の目標と内容	家庭科学習と学習指導要領の趣旨及び各領域の目標・内容について
2	A 家族・家庭生活(1)	家庭生活と仕事生活時間とマネジメント
3	B 衣食住の生活(1)	子どもの学びを高めるICTの活用(コンピューター活用)
4	B 衣食住の生活(2)	ソーイングははじめの一步①(基礎縫い)
5	B 衣食住の生活(3)	ソーイングははじめの一步②(基礎縫いとボタン付け)
6	B 衣食住の生活(4)	生活に役立つ物の製作①手縫い(フェルトの小物づくり)
7	B 衣食住の生活(5)	生活に役立つ物の製作②手縫い(フェルトの小物づくり)
8	B 衣食住の生活(6)	生活に役立つ物の製作③手縫い(フェルトの小物づくり)
9	B 衣食住の生活(7)	生活に役立つ物の製作④手縫い(フェルトの小物づくり)
10	B 衣食住の生活(8)	食べて元気にご飯とみそ汁の作り方の説明と実習計画

11	B 衣食住の生活(9)	献立を工夫してごはんのみそ汁ともう一品の調理実習
12	C 消費生活・環境(1)	ミシンで楽しくソーイング①ミシン縫い(エコバッグの製作)
13	C 消費生活・環境(2)	ミシンで楽しくソーイング②ミシン縫い(エコバッグの製作)
14	C 消費生活・環境(3)	ミシンで楽しくソーイング③ミシン縫い(エコバッグの製作)
15	小学校家庭科の総括	小学校家庭科のまとめとエコバック製作の予備日
16	期末試験	期末試験

科目コード	22103				区 分	専門基礎科目			
授業 科目名	美術の理解 [FE2433組用]				担当者名	村上 尚徳			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本授業では、美術に関する基礎的な知識や技法などについての理解を深めるとともに、造形指導能力の育成を目的とします。授業においては、色彩や構成、美術文化などに関する基礎的な知識と、絵の具などの技法や技能を身に付けるとともに、美術教育の意義や役割などについて学習をします。美術や美術教育に関する知識と、児童に指導できる基礎的な技能を身に付けることを、学習成果とします。

#### <授業の到達目標>

1. 色彩や構成などに関する知識、絵の具の技法、絵を描く技術などを身に付けることができる。2. 生活の中の美術や美術文化、美術や美術教育に関する考え方について理解を深めることができる。

#### <授業の方法>

1. 資料の読解や作品鑑賞、美的体験を基にした、グループワーク。2. 美術や美術教育に関する基礎的知識を理解するための講義。3. 実技による技法や技能の習得、作品の制作及び発表。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループによる鑑賞活動等

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 授業前は、事前の資料読解と指示された準備物（資料、材料、用具等）の用意を行う。（1時間程度）2. 授業後は、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること。（1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作品及びレポート 80%、授業への積極的参加態度 20%

#### <教科書>

配布資料により授業を進める。

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	美術とは何か①	美術作品の価値について
2	美術とは何か②	ピカソの表現と子供の美術
3	美術とは何か③	絵画の役割
4	形と色彩による表現(1)	造形要素・造形原理の理解（色彩、構成美の要素）
5	形と色彩による表現(2)	絵の具の扱い（絵の具の水加減、色相環の作成）
6	形と色彩による表現(3)	モダンテクニックの技法の理解
7	形と色彩による表現(4)	モダンテクニックを用いた感情表現（作品の制作）
8	鉛筆による描画の基礎	鉛筆で人物や手を描く
9	水彩絵の具の使い方(1)	水彩絵の具の着色の基礎
10	水彩絵の具の使い方(2)	水彩絵の具による作品制作
11	美術の幅広い理解（1）	プロダクトデザイン、ことのデザインの理解（グループワーク）
12	美術の幅広い理解（2）	日本の美術の理解（屏風絵、浮世絵）（グループワーク）
13	工作の基礎（1）	飛び出すカードの仕組みの理解
14	工作の基礎（2）	飛び出すカードの制作
15	美術の教育と美術による教育	生活や社会の中の美術や美術文化の理解
16		

科目コード	22103				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	美術の理解 [FE2431組用]				担当者名	村上 尚徳			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本授業では、美術に関する基礎的な知識や技法などについての理解を深めるとともに、造形指導能力の育成を目的とします。授業においては、色彩や構成、美術文化などに関する基礎的な知識と、絵の具などの技法や技能を身に付けるとともに、美術教育の意義や役割などについて学習をします。美術や美術教育に関する知識と、児童に指導できる基礎的な技能を身に付けることを、学習成果とします。

#### <授業の到達目標>

1. 色彩や構成などに関する知識、絵の具の技法、絵を描く技術などを身に付けることができる。2. 生活の中の美術や美術文化、美術や美術教育に関する考え方について理解を深めることができる。

#### <授業の方法>

1. 資料の読解や作品鑑賞、美的体験を基にした、グループワーク。2. 美術や美術教育に関する基礎的な知識を理解するための講義。3. 実技による技法や技能の習得、作品の制作及び発表。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループによる鑑賞活動等

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 授業前は、事前の資料読解と指示された準備物（資料、材料、用具等）の用意を行う。（1時間程度）2. 授業後は、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること。（1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作品及びレポート 80%、授業への積極的参加態度 20%

#### <教科書>

配布資料により授業を進める。

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	美術とは何か①	美術作品の価値について
2	美術とは何か②	ピカソの表現と子供の美術
3	美術とは何か③	絵画の役割
4	形と色彩による表現(1)	造形要素・造形原理の理解（色彩、構成美の要素）
5	形と色彩による表現(2)	絵の具の扱い（絵の具の水加減、色相環の作成）
6	形と色彩による表現(3)	モダンテクニックの技法の理解
7	形と色彩による表現(4)	モダンテクニックを用いた感情表現（作品の制作）
8	鉛筆による描画の基礎	鉛筆で人物や手を描く
9	水彩絵の具の使い方(1)	水彩絵の具の着彩の基礎
10	水彩絵の具の使い方(2)	水彩絵の具による作品制作
11	美術の幅広い理解（1）	プロダクトデザイン、ことのデザインの理解（グループワーク）
12	美術の幅広い理解（2）	日本の美術の理解（屏風絵、浮世絵）（グループワーク）
13	工作の基礎（1）	飛び出すカードの仕組みの理解
14	工作の基礎（2）	飛び出すカードの制作
15	美術の教育と美術による教育	生活や社会の中の美術や美術文化の理解
16		

科目コード	22103				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	美術の理解 [FE2432組用]				担当者名	村上 尚徳			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本授業では、美術に関する基礎的な知識や技法などについての理解を深めるとともに、造形指導能力の育成を目的とします。授業においては、色彩や構成、美術文化などに関する基礎的な知識と、絵の具などの技法や技能を身に付けるとともに、美術教育の意義や役割などについて学習をします。美術や美術教育に関する知識と、児童に指導できる基礎的な技能を身に付けることを、学習成果とします。

#### <授業の到達目標>

1. 色彩や構成などに関する知識、絵の具の技法、絵を描く技術などを身に付けることができる。2. 生活の中の美術や美術文化、美術や美術教育に関する考え方について理解を深めることができる。

#### <授業の方法>

1. 資料の読解や作品鑑賞、美的体験を基にした、グループワーク。2. 美術や美術教育に関する基礎的な知識を理解するための講義。3. 実技による技法や技能の習得、作品の制作及び発表。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループによる鑑賞活動等

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 授業前は、事前の資料読解と指示された準備物（資料、材料、用具等）の用意を行う。（1時間程度）2. 授業後は、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること。（1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作品及びレポート 80%、授業への積極的参加態度 20%

#### <教科書>

配布資料により授業を進める。

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	美術とは何か①	美術作品の価値について
2	美術とは何か②	ピカソの表現と子供の美術
3	美術とは何か③	絵画の役割
4	形と色彩による表現(1)	造形要素・造形原理の理解（色彩、構成美の要素）
5	形と色彩による表現(2)	絵の具の扱い（絵の具の水加減、色相環の作成）
6	形と色彩による表現(3)	モダンテクニックの技法の理解
7	形と色彩による表現(4)	モダンテクニックを用いた感情表現（作品の制作）
8	鉛筆による描画の基礎	鉛筆で人物や手を描く
9	水彩絵の具の使い方(1)	水彩絵の具の着彩の基礎
10	水彩絵の具の使い方(2)	水彩絵の具による作品制作
11	美術の幅広い理解（1）	プロダクトデザイン、ことのデザインの理解（グループワーク）
12	美術の幅広い理解（2）	日本の美術の理解（屏風絵、浮世絵）（グループワーク）
13	工作の基礎（1）	飛び出すカードの仕組みの理解
14	工作の基礎（2）	飛び出すカードの制作
15	美術の教育と美術による教育	生活や社会の中の美術や美術文化の理解
16		

科目コード	22104				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	音楽の理解 [FE2433組用]				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

この授業の目的は以下の3点である。小学校の音楽の授業を実施するにあたり必要な音楽知識（楽典）を学ぶ。記譜法、長音階と短音階、音程、和音、コードネームなど、実際に教壇に立った際に必要不可欠な音楽に関する理解を深める。教員になった際に実際に使用することができる具体例などを紹介し、基本的な音楽知識を授業で利用できる能力を身につける。

#### <授業の到達目標>

1. 音符・休符、リズムを理解でき楽譜を読めるようにする。2. 楽典の基礎を理解する。3. コードネームを理解する。4. 様々な楽曲について理解を深める。

#### <授業の方法>

1. グループワーク（予習した取り扱い曲に関する教えあい）2. 討論（曲についての感想、作曲家の意図等、各自の感じたことを発表する）3. 講義（教員による解説）4. 楽典（音楽の基礎知識を学ぶ）\*受講には五線紙ノートが必要。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎授業内で取り扱った曲についての感想から他者の意見を尊重し、自分の意見を発表・共有することにより多様な考え方への理解を深めることをアクティブラーニングの要素とする。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の内容のテーマ・キーワードの下調べ、取り扱う曲について事前学習。（毎回30分程度）復習：講義の内容をノートにまとめる。（毎回30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題提出、意見交換、試験 70%、授業態度（授業態度、授業貢献度） 30%とする。

#### <教科書>

小谷野謙一（2014年2月10日） よくわかる楽典の教科書 株式会社ヤマハミュージックメディア

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方の確認、音楽の理解についての説明。
2	楽譜の基本①	楽譜を読む・書くのに必要となる基礎知識を学ぶ。
3	楽譜の基本②	変化記号、音部記号、音名、譜表について学ぶ
4	音符	様々な音符・休符について学び、それらを使い読譜する。
5	リズムと拍①	拍と拍子、拍子記号、単純拍子、複合拍子について学ぶ。
6	リズムと拍②	拍子のカウント、変拍子、強起と弱起、シンコペーションについて学ぶ。
7	音程①	度、完全・長・短の音程について学ぶ
8	音程②	増音程、減音程、単音程、複音程について学ぶ。
9	音階と調①	音階、調、調号について学ぶ。
10	音階と調②	長音階と短音階、調の関係、五音音階、音名と階名の違いについて学ぶ。
11	和音①	和音の種類、三和音、七の和音
12	和音②	付加六の和音、九の和音、様々な和音について学ぶ。
13	コードネーム	コードネームについて学ぶ
14	コードネーム演習	コードネームを使用した伴奏法の基本を学ぶ。
15	まとめ	復習と総括
16		

科目コード	22104				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	音楽の理解 [FE2431組用]				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

この授業の目的は以下の3点である。小学校の音楽の授業を実施するにあたり必要な音楽知識（楽典）を学ぶ。記譜法、長音階と短音階、音程、和音、コードネームなど、実際に教壇に立った際に必要不可欠な音楽に関する理解を深める。教員になった際に実際に使用することができる具体例などを紹介し、基本的な音楽知識を授業で利用できる能力を身につける。

#### <授業の到達目標>

1. 音符・休符、リズムを理解でき楽譜を読めるようにする。2. 楽典の基礎を理解する。3. コードネームを理解する。4. 様々な楽曲について理解を深める。

#### <授業の方法>

1. グループワーク（予習した取り扱い曲に関する教えあい）2. 討論（曲についての感想、作曲家の意図等、各自の感じたことを発表する）3. 講義（教員による解説）4. 楽典（音楽の基礎知識を学ぶ）\*受講には五線紙ノートが必要。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎授業内で取り扱った曲についての感想から他者の意見を尊重し、自分の意見を発表・共有することにより多様な考え方への理解を深めることをアクティブラーニングの要素とする。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の内容のテーマ・キーワードの下調べ、取り扱う曲について事前学習。（毎回30分程度）復習：講義の内容をノートにまとめる。（毎回30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題提出、意見交換、試験 70%、授業態度（授業態度、授業貢献度） 30%とする。

#### <教科書>

小谷野謙一(2014年2月10日) よくわかる楽典の教科書 株式会社ヤマハミュージックメディア

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方の確認、音楽の理解についての説明。
2	楽譜の基本①	楽譜を読む・書くのに必要となる基礎知識を学ぶ。
3	楽譜の基本②	変化記号、音部記号、音名、譜表について学ぶ
4	音符	様々な音符・休符について学び、それらを使い読譜する。
5	リズムと拍①	拍と拍子、拍子記号、単純拍子、複合拍子について学ぶ。
6	リズムと拍②	拍子のカウント、変拍子、強起と弱起、シンコペーションについて学ぶ。
7	音程①	度、完全・長・短の音程について学ぶ
8	音程②	増音程、減音程、単音程、複音程について学ぶ。
9	音階と調①	音階、調、調号について学ぶ。
10	音階と調②	長音階と短音階、調の関係、五音音階、音名と階名の違いについて学ぶ。
11	和音①	和音の種類、三和音、七の和音
12	和音②	付加六の和音、九の和音、様々な和音について学ぶ。
13	コードネーム	コードネームについて学ぶ
14	コードネーム演習	コードネームを使用した伴奏法の基本を学ぶ。
15	まとめ	復習と総括
16		

科目コード	22104				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	音楽の理解 [FE2432組用]				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

この授業の目的は以下の3点である。小学校の音楽の授業を実施するにあたり必要な音楽知識（楽典）を学ぶ。記譜法、長音階と短音階、音程、和音、コードネームなど、実際に教壇に立った際に必要不可欠な音楽に関する理解を深める。教員になった際に実際に使用することができる具体例などを紹介し、基本的な音楽知識を授業で利用できる能力を身につける。

#### <授業の到達目標>

1. 音符・休符、リズムを理解でき楽譜を読めるようにする。2. 楽典の基礎を理解する。3. コードネームを理解する。4. 様々な楽曲について理解を深める。

#### <授業の方法>

1. グループワーク（予習した取り扱い曲に関する教えあい）2. 討論（曲についての感想、作曲家の意図等、各自の感じたことを発表する）3. 講義（教員による解説）4. 楽典（音楽の基礎知識を学ぶ）\*受講には五線紙ノートが必要。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎授業内で取り扱った曲についての感想から他者の意見を尊重し、自分の意見を発表・共有することにより多様な考え方への理解を深めることをアクティブラーニングの要素とする。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の内容のテーマ・キーワードの下調べ、取り扱う曲について事前学習。（毎回30分程度）復習：講義の内容をノートにまとめる。（毎回30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題提出、意見交換、試験 70%、授業態度（授業態度、授業貢献度） 30%とする。

#### <教科書>

小谷野謙一(2014年2月10日) よくわかる楽典の教科書 株式会社ヤマハミュージックメディア

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方の確認、音楽の理解についての説明。
2	楽譜の基本①	楽譜を読む・書くのに必要となる基礎知識を学ぶ。
3	楽譜の基本②	変化記号、音部記号、音名、譜表について学ぶ
4	音符	様々な音符・休符について学び、それらを使い読譜する。
5	リズムと拍①	拍と拍子、拍子記号、単純拍子、複合拍子について学ぶ。
6	リズムと拍②	拍子のカウント、変拍子、強起と弱起、シンコペーションについて学ぶ。
7	音程①	度、完全・長・短の音程について学ぶ
8	音程②	増音程、減音程、単音程、複音程について学ぶ。
9	音階と調①	音階、調、調号について学ぶ。
10	音階と調②	長音階と短音階、調の関係、五音音階、音名と階名の違いについて学ぶ。
11	和音①	和音の種類、三和音、七の和音
12	和音②	付加六の和音、九の和音、様々な和音について学ぶ。
13	コードネーム	コードネームについて学ぶ
14	コードネーム演習	コードネームを使用した伴奏法の基本を学ぶ。
15	まとめ	復習と総括
16		

科目コード	22105				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	数の理解				担当者名	上ヶ谷 友佑			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

＊小学校算数科の各領域構成の詳細を提示し、小学校算数科の内容の数学的背景とそれに関わる数学の基礎知識について述べる。＊各講義の中で具体的な算数科教材を提示し、その算数教育的価値を考察する場を提供する。

#### <授業の到達目標>

＊小学校算数科の内容の数学的背景とそれに関わる数学の基礎知識を理解し、小学校算数科の各領域構成を体系的に説明することができる。＊次の2つを副次的な目標として講義を行う。・子どもたちの数学的思考を涵養する力の育成（指導力・授業力）・算数科の教材を開発する力の育成（教材開発力）

#### <授業の方法>

講義形式（アクティブ・ラーニング）授業内小テストを実施する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有り。授業中の発問や演習内容について周囲と意見交換したり、調べたりする。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

返却された小テストを復習する。（1.5時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

3日間毎日、最後に小テストを設ける形で、1日目30%，2日目30%，最終日40%

#### <教科書>

文部科学省〔編〕（2018） 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編 日本文教出版（備考：以下のURLから電子ファイルをダウンロードすることが可能です。https://www.mext.go.jp/a\_menu/shotou/new-cs/1387014.htm ★）

#### <参考書>

鈴木将史〔編著〕（2018） 小学校算数科教育法 建帛社（備考：算数科の指導内容が体系的にまとめられているので、日々の学習の際に参考書として用いることを推奨する。★講義に持参する必要はありません。）

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションおよび数の概念（整数、小数、分数）	オリエンテーションおよび数の概念（整数、小数、分数）を数学的活動を通して学習する。
2	計算の意味（加法、減法）	計算の意味（加法、減法）を数学的活動を通して学習する。
3	計算の意味（乗法、除法）、概数と見積り	計算の意味（乗法、除法）、概数と見積りを数学的活動を通して学習する。
4	式の表現と読み、四則に関して成り立つ性質	式の表現と読み、四則に関して成り立つ性質を数学的活動を通して学習する。
5	図形概念（平面図形、立体図形）	図形概念（平面図形、立体図形）を数学的活動を通して学習する。
6	図形の構成・分解	図形の構成・分解を数学的活動を通して学習する。
7	図形の性質	図形の性質を数学的活動を通して学習する。
8	角および中間テスト	角を数学的活動を通して学習する。中間テストは全体の30%
9	図形の計量（面積・体積）	図形の計量（面積・体積）を数学的活動を通して学習する。
10	量の概念（長さ、重さなど）、量の大きさの比較、量の単位、量の測定	量の概念（長さ、重さなど）、量の大きさの比較、量の単位、量の測定を数学的活動を通して学習する。
11	単位量当たりの大きさ、速さ	単位量当たりの大きさ、速さを数学的活動を通して学習する。
12	割合、比、比例、反比例	割合、比、比例、反比例を数学的活動を通して学習する。
13	測定値の平均	測定値の平均を数学的活動を通して学習する。
14	表、グラフ	表、グラフを数学的活動を通して学習する。
15	総復習	第1回から第14回までの内容を数学的活動を通して学習する。
16		

科目コード	22200				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	言葉の理解 [FE2522組用]				担当者名	内田 仁志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義 グ ループワ ーク 演 習	卒業要件	本授業の単位を取得するためには、以下の要件を満たす必要がある。授業への参加（全15回の授業のうち、3分の2以上の出席が必須）課題の提出（以下の課題を期限内に提出すること）教材分析レポート（読解指導・記述指導・議論指導のいずれか）授業リフレクション（各回の学びを振り返り記述）期末レポートの提出（授業で学んだ指導法を踏まえ、国語科指導に関する考察を2000字以上で記述）上記の要件をすべて満たした場合に、単位が認定される。

#### <授業の概要>

この講座では、小学校国語教育の基礎から実践的な指導技術までを学びます。授業では、国語授業の目標設定や板書技術、指示方法、発問技術など、実際の授業に役立つ具体的な方法を取り上げます。特に、子どもたちの思考を引き出す発問や、表現力を育む音読指導に重点を置きます。また、国語授業の計画や進行に役立つ理論的背景も紹介し、実際の授業を想定した具体的な指導法を学びます。授業を通じて、実践力を高め、授業の質を向上させることを目指します。

#### <授業の到達目標>

1 小学校国語教育における基本的な指導技術（板書、発問、音読など）を理解し、実践できるようになること。2 国語授業の計画や指導案を作成し、授業の目標に合った授業設計を行えるようになること。3 子どもの表現力や思考力を引き出すための発問技術や指導法を習得し、効果的に活用できるようになること。

<授業の方法>

講義アクティブラーニングジグソー法   ピアインストラクション   フィッシュボールディスカッション等

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション学生を小グループに分け、特定の国語授業に関する課題を議論させます。例えば、「音読指導の重要性」についての意見交換を行い、発表させることで、理解を深めるとともに、他者の視点を取り入れることができます。ロールプレイ具体的な授業シーンを再現するロールプレイを行います。学生が教師役と児童役を交代で行い、授業で使用する発問や指示の方法を実際に試すことで、実践力を養います。ピアレビュー学生同士で学習指導案や授業計画をレビューし合います。意見交換やフィードバックを通じて、授業設計における改善点を

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教科書はよく読んでおいて下さい。学年別に履修できるようになっています。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加とアクティブラーニングの成果（30%）グループディスカッション、ロールプレイ、ピアレビューなど、授業内での積極的な参加と成果を評価します。発言内容や協働態度、他の学生との意見交換の質を基に評価します。小テスト（20%）授業の内容を確認するための小テストを実施します。各回の学習内容に基づき、国語教育の基礎知識を測る問題を出題します。授業計画（30%）学習指導案や授業計画の作成を評価します。特に、実際に小学校での授業を想定した内容かつ、学習目標や方法が適切に設定されているかを評価します。期末レポート（

<教科書>

内田仁志(2024年8月) 国語教師のための『反論の技術』入門 論理的思考力を育成する学年別訓練法 明治図書

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	国語学の概要と教育への意義	国語学の基本的な概念を学び、国語教育における役割や重要性を理解します。国語教育の目的とその社会的・文化的背景についても触れます。
2	国語授業の基本と目標設定	国語の授業を行う際の基本的な考え方と、授業の目標を設定する方法について学びます。具体的な授業の目標をどのように決め、計画するかを実例を通して考えます。
3	板書の基本と活用方法	板書の基本的な技術を学び、実際の小学校国語の授業でどのように活用するかを考えます。板書を通して学びの整理や視覚的サポートを行う方法を紹介します。
4	指示の仕方と学習の進め方	小学校での授業指示を分かりやすく伝える方法を学びます。子どもたちが迷わずに学習を進められるような、具体的な指示の出し方を実践的に学びます。
5	発問技術と子どもの思考を引き出す方法	子どもたちが考える力を養うための発問技術を学びます。発問を通じて、子どもたちの思考を深め、授業の中で活発な発言を引き出す方法を実践的に学びます。
6	音読指導と表現力の育成	小学校の国語授業における音読指導の重要性と方法について学びます。音読を通じて、表現力や理解力を高める具体的な指導法を紹介します。
7	言語活動と言語技術の育成	国語授業における言語活動の重要性を学び、表現力を引き出す言語技術の指導方法を考察します。効果的な言語活動の設計を学びます。
8	記述指導の実践(児童の作文を用いた指導法)	・実際の児童作文を分析し、指導のポイントを考える・作文の推敲指導(加筆・修正の指導法)・文章表現力を高める授業の工夫
9	議論指導の基本(反論の仕方を学ぶ)	・議論とは何か(議論の目的とルール)・反論の技術(論拠を明確にする、意見を整理する)・教科書『国語教師のための反論の技術』を活用し、反論の型を学ぶ
10	議論指導の実践(反論を取り入れた話し合い活動)	・テーマを設定し、児童役になって議論を体験・反論を活かしたディスカッションの実践・話し合い活動の振り返りと改善点の検討
11	教材研究の重要性と実践的な進め方	・教材研究の方法(教科書の活用・副教材の選定)・単元構成と発問の工夫・教材研究の事例分析
12	伝統的な言語文化・文学教材の指導法	・古典や和歌をどのように教えるか・音読、リズムを活かした指導の工夫・現代の子どもたちに伝統的な言語文化を楽しく学ばせる方法
13	読み聞かせと多様な読書活動の推進	・読み聞かせの効果と技術(声のトーン、間の取り方)・学級文庫の活用と読書活動の広げ方・児童の興味を引き出すブックトークの実践
14	指導案作成の実践と模擬授業①(準備)	・模擬授業の準備(指導案の作成、授業展開のシミュレーション)・ペアワークによる指導案のブラッシュアップ・発問と児童の活動のバランスを考える
15	指導案作成の実践と模擬授業②(実践と振り返り)	・模擬授業の実施(ペアまたはグループでの授業実践)・相互評価と改善点の共有・教員としての指導技術の向上を目指す
16		

科目コード	22200				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	言葉の理解 [FE2521組用]				担当者名	内田 仁志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義 グ ループワ ーク 演 習	卒業要件	本授業の単位を取得するためには、以下の要件を満たす必要がある。授業への参加（全15回の授業のうち、3分の2以上の出席が必須）課題の提出（以下の課題を期限内に提出すること）教材分析レポート（読解指導・記述指導・議論指導のいずれか）授業リフレクション（各回の学びを振り返り記述）期末レポートの提出（授業で学んだ指導法を踏まえ、国語科指導に関する考察を2000字以上で記述）上記の要件をすべて満たした場合に、単位が認定される。

#### <授業の概要>

この講座では、小学校国語教育の基礎から実践的な指導技術までを学びます。授業では、国語授業の目標設定や板書技術、指示方法、発問技術など、実際の授業に役立つ具体的な方法を取り上げます。特に、子どもたちの思考を引き出す発問や、表現力を育む音読指導に重点を置きます。また、国語授業の計画や進行に役立つ理論的背景も紹介し、実際の授業を想定した具体的な指導法を学びます。授業を通じて、実践力を高め、授業の質を向上させることを目指します。

#### <授業の到達目標>

1 小学校国語教育における基本的な指導技術（板書、発問、音読など）を理解し、実践できるようになること。2 国語授業の計画や指導案を作成し、授業の目標に合った授業設計を行えるようになること。3 子どもの表現力や思考力を引き出すための発問技術や指導法を習得し、効果的に活用できるようになること。

<授業の方法>

講義アクティブラーニングジグソー法   ピアインストラクション   フィッシュボールディスカッション等

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション学生を小グループに分け、特定の国語授業に関する課題を議論させます。例えば、「音読指導の重要性」についての意見交換を行い、発表させることで、理解を深めるとともに、他者の視点を取り入れることができます。ロールプレイ具体的な授業シーンを再現するロールプレイを行います。学生が教師役と児童役を交代で行い、授業で使用する発問や指示の方法を実際に試すことで、実践力を養います。ピアレビュー学生同士で学習指導案や授業計画をレビューし合います。意見交換やフィードバックを通じて、授業設計における改善点を

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教科書はよく読んでおいて下さい。学年別に履修できるようになっています。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加とアクティブラーニングの成果（30%）グループディスカッション、ロールプレイ、ピアレビューなど、授業内での積極的な参加と成果を評価します。発言内容や協働態度、他の学生との意見交換の質を基に評価します。小テスト（20%）授業の内容を確認するための小テストを実施します。各回の学習内容に基づき、国語教育の基礎知識を測る問題を出題します。授業計画（30%）学習指導案や授業計画の作成を評価します。特に、実際に小学校での授業を想定した内容かつ、学習目標や方法が適切に設定されているかを評価します。期末レポート（

<教科書>

内田仁志(2024年8月) 国語教師のための『反論の技術』入門 論理的思考力を育成する学年別訓練法 明治図書

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	国語学の概要と教育への意義	国語学の基本的な概念を学び、国語教育における役割や重要性を理解します。国語教育の目的とその社会的・文化的背景についても触れます。
2	国語授業の基本と目標設定	国語の授業を行う際の基本的な考え方と、授業の目標を設定する方法について学びます。具体的な授業の目標をどのように決め、計画するかを実例を通して考えます。
3	板書の基本と活用方法	板書の基本的な技術を学び、実際の小学校国語の授業でどのように活用するかを考えます。板書を通して学びの整理や視覚的サポートを行う方法を紹介します。
4	指示の仕方と学習の進め方	小学校での授業指示を分かりやすく伝える方法を学びます。子どもたちが迷わずに学習を進められるような、具体的な指示の出し方を実践的に学びます。
5	発問技術と子どもの思考を引き出す方法	子どもたちが考える力を養うための発問技術を学びます。発問を通じて、子どもたちの思考を深め、授業の中で活発な発言を引き出す方法を実践的に学びます。
6	音読指導と表現力の育成	小学校の国語授業における音読指導の重要性と方法について学びます。音読を通じて、表現力や理解力を高める具体的な指導法を紹介します。
7	言語活動と言語技術の育成	国語授業における言語活動の重要性を学び、表現力を引き出す言語技術の指導方法を考察します。効果的な言語活動の設計を学びます。
8	記述指導の実践(児童の作文を用いた指導法)	・実際の児童作文を分析し、指導のポイントを考える・作文の推敲指導(加筆・修正の指導法)・文章表現力を高める授業の工夫
9	議論指導の基本(反論の仕方を学ぶ)	・議論とは何か(議論の目的とルール)・反論の技術(論拠を明確にする、意見を整理する)・教科書『国語教師のための反論の技術』を活用し、反論の型を学ぶ
10	議論指導の実践(反論を取り入れた話し合い活動)	・テーマを設定し、児童役になって議論を体験・反論を活かしたディスカッションの実践・話し合い活動の振り返りと改善点の検討
11	教材研究の重要性と実践的な進め方	・教材研究の方法(教科書の活用・副教材の選定)・単元構成と発問の工夫・教材研究の事例分析
12	伝統的な言語文化・文学教材の指導法	・古典や和歌をどのように教えるか・音読、リズムを活かした指導の工夫・現代の子どもたちに伝統的な言語文化を楽しく学ばせる方法
13	読み聞かせと多様な読書活動の推進	・読み聞かせの効果と技術(声のトーン、間の取り方)・学級文庫の活用と読書活動の広げ方・児童の興味を引き出すブックトークの実践
14	指導案作成の実践と模擬授業①(準備)	・模擬授業の準備(指導案の作成、授業展開のシミュレーション)・ペアワークによる指導案のブラッシュアップ・発問と児童の活動のバランスを考える
15	指導案作成の実践と模擬授業②(実践と振り返り)	・模擬授業の実施(ペアまたはグループでの授業実践)・相互評価と改善点の共有・教員としての指導技術の向上を目指す
16		

科目コード	22201				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	自然の理解 [FE2532組用]				担当者名	川村 康文			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義と実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

身の回りの自然には、私たちが気付いていないだけで不思議で神秘的な現象があふれている。授業では観察・実験を通して、現象を発見したり楽しんだりしながら、自らの手で探究する面白さに気付く。これらの活動は、小学校の理科やプログラミングを指導するときの基本であり、そのために必要な知識や技能の習得と理解を進める。

#### <授業の到達目標>

1. いろいろな観察・実験を行って、自然の不思議さや面白さに気付く。2. 身の回りの自然を理科の観点で見直し、学習するねらいや考え方に気付く。3. 指導者としての知識や技能を身に付け、観察・実験の方法を習得する。4. 指導の着眼点や重点などを見付けられるようになる。

#### <授業の方法>

1. 自分たちで話し合っ、自立的に、学びを進めて下さい。それを支援する授業を行います。2. 探究する心を、仲間と育てて下さい。それを支援する授業を行います。3. スマホ、タブレット、PCなどICTも活用しましょう。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングあり各班ごとに、実験を行った結果、どのようなことに気付いたかをプレゼンすることで、クラス全体で気づきを共有する。受身の授業ではなく、みなさんの主体的・能動的活動を期待します。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・テーマを手掛かりに、科学への興味・関心を高める。自己評価をして下さい。・授業中の疑問や気づきをまとめたり、発展課題に取り組んでみて下さい。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲（平常点や課題への取り組むを含む）40%、模擬授業40%、振り返り（レフレクション）20%等で評価する。

#### <教科書>

川村康文・前田譲治・小林尚美（2021.4） はじめてみようSTEAM教育—小学生からの実験とプログラミング オーム社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オンデマンド 科学的素養を育てる教育メソッド	オンデマンド教科書を読んで、課題に取り組んで下さい。ネットで検索を行いながら課題に取り組んでもいいです。課題モンテッソーリ教育やシュタイナー教育など、いくつかの幼児教育でも科学的態度の養成についてもめざしています。子どもたちは自然をどのように理解しているのでしょうか？要点を整理し、整理したものを個人名を明記して提出して下さい。
2	対面 自然の理解とは	対面自然を理解する授業の進め方の説明、班決め、また各班が取り組むテーマの決定
3	オンデマンドScratchにふれてみよう	オンデマンド教科書を読んで、Scratch で プログラミングをしてみましょう。自分たちで話し合っ、自立的に、学びを進めて下さい。簡単なプログラムでいいので、班でプログラムを組み、何ができたかを動画で撮影(時間内に終わらなかった場合は途中経過でもいいです)して、当日出席している班員の名前と顔がわかるようにして、1分程度以内の短い動画に編集して提出して下さい。
4	オンデマンド 発電1	オンデマンド 自然観察や実験のためには、現在では電気が必要です。電気を自分で作ってみましょう。教科書を読んで、次の授業の時間、班でどんな発電実験をするかを話し合っ、次回にその発電実験を発表できるように準備して下さい。話し合っている様子を動画で撮影して、当日出席している班員の名前と顔がわかるようにして、1分程度以内の短い動画に編集して提出して下さい。例、竹炭電池、備長炭電池、なんでも電池（バナナ電池など、教科書に載っていないものも可）や手回し発電の製作
5	対面 発電2	対面前回、班で話し合っ決めた発電実験を、みなさんに披露して下さい。基本、

		教科書に掲載されている実験でお願いしますが、発展的な内容でも結構です。例、竹炭電池、備長炭電池、なんでも電池（バナナ電池など、教科書に載っていないものも可）や手回し発電の製作
6	オンデマンド モーター 1	オンデマンド 電気をつくる、つまり発電について、みなさんは理解を深めたと思います。それでは、教科書を読んで、次の授業の時間、班でどんなモーターを工作してみせるかを話し合っ、次回に発表できるように準備して下さい。話し合っている様子を動画で撮影して、当日出席している班員の名前と顔がわかるようにして、1分程度以内の短い動画に編集して提出して下さい。例、クリップモーターやリニアモータなどがあります。
7	対面 モーター 2	対面前回、班で話し合って決めたモータの工作実験を、みなさんに披露して下さい。基本、教科書に掲載されている実験でお願いしますが、発展的な内容でも結構です。例、クリップモーターやリニアモータなどがあります。
8	対面 音の科学 1	対面教科書を読んで、次の授業の時間、班でどんな音の実験をするかを話し合っ、次回にその音の実験を発表できるように準備して下さい。例、弦の楽器（ギターなど）、管の楽器（笛など）、打楽器（太鼓など）いろいろありますね。 音速の測定方法（NHKのEテレ・ベーシックサイエンスより）・が - ガ - 声のガス
9	オンデマンド 音の科学 2	オンデマンド 前回、班で検討した弦の楽器や管の楽器、打楽器などを実際に作成し、その楽器の音をスマホなどで録音し、無料アプリをさがしDLし、音の波形をみてみましょう。実験を実際に行い、音の波形を動画で撮影して、当日出席している班員の名前と顔がわかるようにして、1分程度以内の短い動画に編集して提出して下さい。
10	対面 光の科学 1	対面 分光つつを作っ、省エネルギーについて考えます。SDG s の活動にみなさんひとりひとりが関われ、地球環境を地球の自然を守っていく活動に参加できることを体感してもらいます。
11	オンデマンド 光の科学 2	オンデマンド教科書を読んで、班で、光の不思議な現象を調べて、どうしてそんな現象が生じているのかを、班のみんなでパワーポイントを作成して提出して下さい。必ず、表紙に出席者の名前を入れて提出して下さい。
12	対面 光の科学 3	対面光の合成（ニュートンの色変わりコマ）、ベンハムのコマ、大王のコマなどの実験を体験してもらいます。
13	オンデマンド 自然界の不思議なたち	オンデマンド教科書を読んで、各班で、円周と円の面積のどちらかを選択し、どうして演習の公式や円の面積を求める公式がそうになっているのか説明するパワーポイントを班員みんなで作成し提出して下さい。必ず、表紙に出席者の名前を入れて提出して下さい。
14	対面 IPUのなかの自然	対面教室を飛び出して、IPUのなかの自然を、広くしてもらえるような動画を各班作成しましょう。当日出席している班員の名前と顔がわかるようにして、1分程度以内の短い動画に編集して提出して下さい。
15	オンデマンド リフレクション	オンデマンドこの授業を受けて、自分たちは、どのようなことを学べたのかを、各班で動画にまとめて提出して下さい。当日出席している班員の名前と顔がわかるようにして、1分程度以内の短い動画に編集して提出して下さい。
16		

科目コード	22201				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	自然の理解 [FE2531組用]				担当者名	川村 康文			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義と実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

身の回りの自然には、私たちが気付いていないだけで不思議で神秘的な現象があふれている。授業では観察・実験を通して、現象を発見したり楽しんだりしながら、自らの手で探究する面白さに気付く。これらの活動は、小学校の理科やプログラミングを指導するときの基本であり、そのために必要な知識や技能の習得と理解を進める。

#### <授業の到達目標>

1. いろいろな観察・実験を行って、自然の不思議さや面白さに気付く。2. 身の回りの自然を理科の観点で見直し、学習するねらいや考え方に気付く。3. 指導者としての知識や技能を身に付け、観察・実験の方法を習得する。4. 指導の着眼点や重点などを見付けられるようになる。

#### <授業の方法>

1. 観察・実験結果の考察を個人でまとめ、各班で共有する。2. スマホ、タブレットPC、プロジェクタを活用する。3. 半期の授業をととして、プログラミング学習としてのプログラムも含む。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングあり各班ごとに、実験を行った結果、どのようなことに気付いたかをプレゼンすることで、クラス全体で気づきを共有する。各班で作成した、プログラミング学習としてのプログラムをプレゼンする。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・テーマを手掛かりに、科学への興味・関心を高める。自己評価をして下さい。・授業中の疑問や気づきをまとめたり、発展課題に取り組んでみて下さい。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲（平常点や課題への取り組むを含む）40%、模擬授業40%、振り返り（レフレクション）20%等で評価する。

#### <教科書>

川村康文・前田譲治・小林尚美（2021.4） はじめてみようSTEAM教育—小学生からの実験とプログラミング オーム社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オンデマンド 科学的素養を育てる教育メソッド	オンデマンド教科書を読んで、課題に取り組んで下さい。ネットで検索を行いながら課題に取り組んでもいいです。課題モンテッソーリ教育とシュタイナー教育など、いくつかの幼児教育がめざす、科学的態度の養成について要点を整理し、整理したものを個人名を明記して提出して下さい。
2	対面 自然の理解とは	対面自然を理解する授業の進め方の説明、班決め、また各班が取り組むテーマの決定
3	オンデマンドScratchにふれてみよう	オンデマンド教科書を読んで、Scratch で プログラミングをしてみよう簡単なプログラムでいいので、班でプログラムを組み、何ができたかを動画で撮影して、当日出席している班員の名前と顔がわかるようにして、1分程度以内の短い動画に編集して提出して下さい。
4	オンデマンド 発電1	オンデマンド 自然観察や実験のためには、現在では電気が必要です。電気を自分で作ってみましょう。教科書を読んで、次の授業の時間、班でどんな発電実験をするかを話し合っ、次回にその発電実験を発表できるように準備して下さい。話し合っている様子を動画で撮影して、当日出席している班員の名前と顔がわかるようにして、1分程度以内の短い動画に編集して提出して下さい。例、竹炭電池、備長炭電池、なんでも電池（バナナ電池など、教科書に載っていないものも可）や手回し発電の製作
5	対面 発電2	対面前回、班で話し合って決めた発電実験を、みなさんに披露して下さい。基本、教科書に掲載されている実験でお願いしますが、発展的な内容でも結構です。例、竹炭電池、備長炭電池、なんでも電池（バナナ電池など、教科書に載っていないもの

6	オンデマンド モーター 1	も可) や手回し発電の製作 オンデマンド 電気をつくる, つまり発電について, みなさんは理解を深めたと思います。それでは, 教科書を読んで, 次の授業の時間, 班でどんなモーターを工作してみせるかを話し合って, 次回に発表できるように準備して下さい。話し合っている様子を動画で撮影して, 当日出席している班員の名前と顔がわかるようにして, 1分程度以内の短い動画に編集して提出して下さい。例, クリップモーターやリニアモータなどがあります。
7	対面 モーター 2	対面前回, 班で話し合って決めたモータの工作実験を, みなさんに披露して下さい。基本, 教科書に掲載されている実験でお願いしますが, 発展的な内容でも結構です。例, クリップモーターやリニアモータなどがあります。
8	対面 音の科学 1	対面教科書を読んで, 次の授業の時間, 班でどんな音の実験をするかを話し合って, 次回にその音の実験を発表できるように準備して下さい。例, 弦の楽器(ギターなど), 管の楽器(笛など), 打楽器(太鼓など)いろいろありますね。音速の測定方法(NHKのEテレ・ベーシックサイエンスより)・が-ガ-声のガス
9	オンデマンド 音の科学 2	オンデマンド 前回, 班で検討した弦の楽器や管の楽器, 打楽器などを実際に作成し, その楽器の音をスマホなどで録音し, 無料アプリをさがしDLし, 音の波形をみてみましょう。実験を実際に行い, 音の波形を動画で撮影して, 当日出席している班員の名前と顔がわかるようにして, 1分程度以内の短い動画に編集して提出して下さい。
10	対面 光の科学 1	対面 分光つつを作って, 省エネルギーについて考えます。SDGsの活動にみなさんひとりひとりが関われ, 地球環境を地球の自然を守っていく活動に参加できることを体感してもらいます。
11	オンデマンド 光の科学 2	オンデマンド教科書を読んで, 班で, 光の不思議な現象を調べて, どうしてそんな現象が生じているのかを, 班のみんなでパワーポイントを作成して提出して下さい。必ず, 表紙に出席者の名前を入れて提出して下さい。
12	対面 光の科学 3	対面光の合成(ニュートンの色変わりコマ), ベンハムのコマ, 大王のコマなどの実験を体験してもらいます。
13	オンデマンド 自然界の不思議なたち	オンデマンド教科書を読んで, 各班で, 円周と円の面積のどちらかを選択し, どうして演習の公式や円の面積を求める公式がそうなっているのか説明するパワーポイントを班員みんなで作成し提出して下さい。必ず, 表紙に出席者の名前を入れて提出して下さい。
14	対面 IPUのなかの自然	対面教室を飛び出して, IPUのなかの自然を, 広くしてもらえらるような動画を各班作成しましょう。当日出席している班員の名前と顔がわかるようにして, 1分程度以内の短い動画に編集して提出して下さい。
15	オンデマンド リフレクション	オンデマンドこの授業を受けて, 自分たちは, どのようなことを学べたのかを, 各班で動画にまとめて提出して下さい。当日出席している班員の名前と顔がわかるようにして, 1分程度以内の短い動画に編集して提出して下さい。
16		

科目コード	22201				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	自然の理解 [他学科]				担当者名	川村 康文			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義と実習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

身の回りの自然には、私たちが気付いていないだけで不思議で神秘的な現象があふれている。授業では観察・実験を通して、現象を発見したり楽しんだりしながら、自らの手で探究する面白さに気付く。これらの活動は、小学校の理科やプログラミングを指導するときの基本であり、そのために必要な知識や技能の習得と理解を進める。

### <授業の到達目標>

1. いろいろな観察・実験を行って、自然の不思議さや面白さに気付く。2. 身の回りの自然を理科の観点で見直し、学習するねらいや考え方に気付く。3. 指導者としての知識や技能を身に付け、観察・実験の方法を習得する。4. 指導の着眼点や重点などを見付けられるようになる。

### <授業の方法>

1. 自分たちで話し合っ、自主的に、学びを進めて下さい。それを支援する授業を行います。2. 探究する心を、仲間と育てて下さい。それを支援する授業を行います。3. スマホ、タブレット、PCなどICTも活用しましょう。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングあり各班ごとに、実験を行った結果、どのようなことに気付いたかをプレゼンすることで、クラス全体で気づきを共有する。受身の授業ではなく、みなさんの主体的・能動的活動を期待します。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・テーマを手掛かりに、科学への興味・関心を高める。自己評価をして下さい。・授業中の疑問や気づきをまとめたり、発展課題に取り組んでみて下さい。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲（平常点や課題への取り組みを含む）40%、模擬授業40%、振り返り（レフレクション）20%等で評価する。

### <教科書>

川村康文・前田譲治・小林尚美（2021.4） はじめてみようSTEAM教育—小学生からの実験とプログラミング オーム社

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オンデマンド 科学的素養を育てる教育メソッド	オンデマンド教科書を読んで、課題に取り組んで下さい。ネットで検索を行いながら課題に取り組んでもいいです。課題モンテッソーリ教育やシュタイナー教育など、いくつかの幼児教育でも科学的態度の養成についてもめざしています。子どもたちは自然をどのように理解しているのでしょうか？要点を整理し、整理したものを個人名を明記して提出して下さい。
2	対面 自然の理解とは	対面自然を理解する授業の進め方の説明、班決め、また各班が取り組むテーマの決定
3	オンデマンドScratchにふれてみよう	オンデマンド教科書を読んで、Scratch で プログラミングをしてみましょう。自分たちで話し合っ、自主的に、学びを進めて下さい。簡単なプログラムでいいので、班でプログラムを組み、何ができたかを動画で撮影(時間内に終わらなかった場合は途中経過でもいいです)して、当日出席している班員の名前と顔がわかるようにして、1分程度以内の短い動画に編集して提出して下さい。
4	オンデマンド 発電1	オンデマンド 自然観察や実験のためには、現在では電気が必要です。電気を自分で作ってみましょう。教科書を読んで、次の授業の時間、班でどんな発電実験をするかを話し合っ、次回にその発電実験を発表できるように準備して下さい。話し合っている様子を動画で撮影して、当日出席している班員の名前と顔がわかるようにして、1分程度以内の短い動画に編集して提出して下さい。例、竹炭電池、備長炭電池、なんでも電池（バナナ電池など、教科書に載っていないものも可）や手回し発電の製作
5	対面 発電2	対面前回、班で話し合っ決めた発電実験を、みなさんに披露して下さい。基本、

		教科書に掲載されている実験でお願いしますが、発展的な内容でも結構です。例、竹炭電池、備長炭電池、なんでも電池（バナナ電池など、教科書に載っていないものも可）や手回し発電の製作
6	オンデマンド モーター 1	オンデマンド 電気をつくる、つまり発電について、みなさんは理解を深めたと思います。それでは、教科書を読んで、次の授業の時間、班でどんなモーターを工作してみせるかを話し合っ、次回に発表できるように準備して下さい。話し合っている様子を動画で撮影して、当日出席している班員の名前と顔がわかるようにして、1分程度以内の短い動画に編集して提出して下さい。例、クリップモーターやリニアモータなどがあります。
7	対面 モーター 2	対面前回、班で話し合って決めたモータの工作実験を、みなさんに披露して下さい。基本、教科書に掲載されている実験でお願いしますが、発展的な内容でも結構です。例、クリップモーターやリニアモータなどがあります。
8	対面 音の科学 1	対面教科書を読んで、次の授業の時間、班でどんな音の実験をするかを話し合っ、次回にその音の実験を発表できるように準備して下さい。例、弦の楽器（ギターなど）、管の楽器（笛など）、打楽器（太鼓など）いろいろありますね。音速の測定方法（NHKのEテレ・ベーシックサイエンスより）・が - ガ - 声のガス
9	オンデマンド 音の科学 2	オンデマンド 前回、班で検討した弦の楽器や管の楽器、打楽器などを実際に作成し、その楽器の音をスマホなどで録音し、無料アプリをさがしDLし、音の波形をみてみましょう。実験を実際に行い、音の波形を動画で撮影して、当日出席している班員の名前と顔がわかるようにして、1分程度以内の短い動画に編集して提出して下さい。
10	対面 光の科学 1	対面 分光つつを作っ、省エネルギーについて考えます。SDG s の活動にみなさんひとりひとりが関われ、地球環境を地球の自然を守っていく活動に参加できることを体感してもらいます。
11	オンデマンド 光の科学 2	オンデマンド教科書を読んで、班で、光の不思議な現象を調べて、どうしてそんな現象が生じているのかを、班のみんなでパワーポイントを作成して提出して下さい。必ず、表紙に出席者の名前を入れて提出して下さい。
12	対面 光の科学 3	対面光の合成（ニュートンの色変わりコマ）、ベンハムのコマ、大王のコマなどの実験を体験してもらいます。
13	オンデマンド 自然界の不思議なたち	オンデマンド教科書を読んで、各班で、円周と円の面積のどちらかを選択し、どうして演習の公式や円の面積を求める公式がそうになっているのか説明するパワーポイントを班員みんなで作成し提出して下さい。必ず、表紙に出席者の名前を入れて提出して下さい。
14	対面 IPUのなかの自然	対面教室を飛び出して、IPUのなかの自然を、広くしてもらえらるような動画を各班作成しましょう。当日出席している班員の名前と顔がわかるようにして、1分程度以内の短い動画に編集して提出して下さい。
15	オンデマンド リフレクション	オンデマンドこの授業を受けて、自分たちは、どのようなことを学べたのかを、各班で動画にまとめて提出して下さい。当日出席している班員の名前と顔がわかるようにして、1分程度以内の短い動画に編集して提出して下さい。
16		

科目コード	22201				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	自然の理解 [FE2533組用]				担当者名	川村 康文			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義と実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

身の回りの自然には、私たちが気付いていないだけで不思議で神秘的な現象があふれている。授業では観察・実験を通して、現象を発見したり楽しんだりしながら、自らの手で探究する面白さに気付く。これらの活動は、小学校の理科やプログラミングを指導するときの基本であり、そのために必要な知識や技能の習得と理解を進める。

#### <授業の到達目標>

1. いろいろな観察・実験を行って、自然の不思議さや面白さに気付く。2. 身の回りの自然を理科の観点で見直し、学習するねらいや考え方に気付く。3. 指導者としての知識や技能を身に付け、観察・実験の方法を習得する。4. 指導の着眼点や重点などを見付けられるようになる。

#### <授業の方法>

1. 自分たちで話し合っ、自立的に、学びを進めて下さい。それを支援する授業を行います。2. 探究する心を、仲間と育てて下さい。それを支援する授業を行います。3. スマホ、タブレット、PCなどICTも活用しましょう。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングあり各班ごとに、実験を行った結果、どのようなことに気付いたかをプレゼンすることで、クラス全体で気づきを共有する。受身の授業ではなく、みなさんの主体的・能動的活動を期待します。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・テーマを手掛かりに、科学への興味・関心を高める。自己評価をして下さい。・授業中の疑問や気づきをまとめたり、発展課題に取り組んでみて下さい。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲（平常点や課題への取り組むを含む）40%、模擬授業40%、振り返り（レフレクション）20%等で評価する。

#### <教科書>

川村康文・前田譲治・小林尚美（2021.4） はじめてみようSTEAM教育—小学生からの実験とプログラミング オーム社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オンデマンド 科学的素養を育てる教育メソッド	オンデマンド教科書を読んで、課題に取り組んで下さい。ネットで検索を行いながら課題に取り組んでもいいです。課題モンテッソーリ教育やシュタイナー教育など、いくつかの幼児教育でも科学的態度の養成についてもめざしています。子どもたちは自然をどのように理解しているのでしょうか？要点を整理し、整理したものを個人名を明記して提出して下さい。
2	対面 自然の理解とは	対面自然を理解する授業の進め方の説明、班決め、また各班が取り組むテーマの決定
3	オンデマンドScratchにふれてみよう	オンデマンド教科書を読んで、Scratch で プログラミングをしてみましょう。自分たちで話し合っ、自立的に、学びを進めて下さい。簡単なプログラムでいいので、班でプログラムを組み、何ができたかを動画で撮影(時間内に終わらなかった場合は途中経過でもいいです)して、当日出席している班員の名前と顔がわかるようにして、1分程度以内の短い動画に編集して提出して下さい。
4	オンデマンド 発電1	オンデマンド 自然観察や実験のためには、現在では電気が必要です。電気を自分で作ってみましょう。教科書を読んで、次の授業の時間、班でどんな発電実験をするかを話し合っ、次回にその発電実験を発表できるように準備して下さい。話し合っている様子を動画で撮影して、当日出席している班員の名前と顔がわかるようにして、1分程度以内の短い動画に編集して提出して下さい。例、竹炭電池、備長炭電池、なんでも電池（バナナ電池など、教科書に載っていないものも可）や手回し発電の製作
5	対面 発電2	対面前回、班で話し合っ決めた発電実験を、みなさんに披露して下さい。基本、

		教科書に掲載されている実験でお願いしますが、発展的な内容でも結構です。例、竹炭電池、備長炭電池、なんでも電池(バナナ電池など、教科書に載っていないものも可)や手回し発電の製作
6	オンデマンド モーター 1	オンデマンド 電気をつくる、つまり発電について、みなさんは理解を深めたと思います。それでは、教科書を読んで、次の授業の時間、班でどんなモーターを工作してみせるかを話し合っ、次回に発表できるように準備して下さい。話し合っている様子を動画で撮影して、当日出席している班員の名前と顔がわかるようにして、1分程度以内の短い動画に編集して提出して下さい。例、クリップモーターやリニアモータなどがあります。
7	対面 モーター 2	対面前回、班で話し合って決めたモータの工作実験を、みなさんに披露して下さい。基本、教科書に掲載されている実験でお願いしますが、発展的な内容でも結構です。例、クリップモーターやリニアモータなどがあります。
8	対面 音の科学 1	対面教科書を読んで、次の授業の時間、班でどんな音の実験をするかを話し合っ、次回にその音の実験を発表できるように準備して下さい。例、弦の楽器(ギターなど)、管の楽器(笛など)、打楽器(太鼓など)いろいろありますね。音速の測定方法(NHKのEテレ・ベーシックサイエンスより)・が-ガ-声のガス
9	オンデマンド 音の科学 2	オンデマンド 前回、班で検討した弦の楽器や管の楽器、打楽器などを実際に作成し、その楽器の音をスマホなどで録音し、無料アプリをさがしDLし、音の波形をみてみましょう。実験を実際に行い、音の波形を動画で撮影して、当日出席している班員の名前と顔がわかるようにして、1分程度以内の短い動画に編集して提出して下さい。
10	対面 光の科学 1	対面 分光つつを作っ、省エネルギーについて考えます。SDG sの活動にみなさんひとりひとりが関われ、地球環境を地球の自然を守っていく活動に参加できることを体感してもらいます。
11	オンデマンド 光の科学 2	オンデマンド教科書を読んで、班で、光の不思議な現象を調べて、どうしてそんな現象が生じているのかを、班のみんなでパワーポイントを作成して提出して下さい。必ず、表紙に出席者の名前を入れて提出して下さい。
12	対面 光の科学 3	対面光の合成(ニュートンの色変わりコマ)、ベンハムのコマ、大王のコマなどの実験を体験してもらいます。
13	オンデマンド 自然界の不思議なたち	オンデマンド教科書を読んで、各班で、円周と円の面積のどちらかを選択し、どうして演習の公式や円の面積を求める公式がそうになっているのか説明するパワーポイントを班員みんなで作成し提出して下さい。必ず、表紙に出席者の名前を入れて提出して下さい。
14	対面 IPUのなかの自然	対面教室を飛び出して、IPUのなかの自然を、広くしてもらえるような動画を各班作成しましょう。当日出席している班員の名前と顔がわかるようにして、1分程度以内の短い動画に編集して提出して下さい。
15	オンデマンド リフレクション	オンデマンドこの授業を受けて、自分たちは、どのようなことを学べたのかを、各班で動画にまとめて提出して下さい。当日出席している班員の名前と顔がわかるようにして、1分程度以内の短い動画に編集して提出して下さい。
16		

科目コード	22202				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	社会の理解 [FE2531組用]				担当者名	鉦 悠介			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

小学校社会科の学習指導要領変遷と目的・内容、それを踏まえた教科の特質の概要、社会科授業者として授業実践するための基本的素養を身に付ける。そのために教材内容や社会的な見方・考え方について、学習指導要領や教科書の具体的記述や実践事例等から学びを深める。また、現代的な課題として社会科教育に求められる内容を取り扱う。学習成果については、授業への参加意欲、社会的な見方・考え方をういた論理的思考力や表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

### <授業の到達目標>

小学校社会科の学習指導要領変遷と目的・内容、それを踏まえた学習内容と教科としての特質の理解、社会科の授業者として教材研究を深めるための基本的素養を身に付け、社会科の学習指導に主体的に取り組むことができるようになる。

### <授業の方法>

教科書や学習指導要領解説社会編、提示する資料を活用して、社会科教育についての幅広い考えをもてる授業を目指す。また、学生の着想を生かした教材開発等をまとめることを通して、社会科教育への関心・意欲を醸成するとともに、社会科授業実践の基礎となる知識・技能の獲得を目指す。尚、ICT活用の観点から、個人パソコンの持参を必須とする。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。グループディスカッション、スライド作成、Take a Standなど。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業計画の説明や毎時間の課題提示を踏まえて、資料収集等を行い、目的意識、課題意識をもって授業に臨むようにすること。また講義後に自己の学びを振り返り、振り返りフォームの記入等、自己の学びを整理するため30分程度取り組むようにする。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内に設定する毎回のレポート(80%)，及び中間レポートと最終レポート(20%)

### <教科書>

文部科学省 小学校学習指導要領解説社会編

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとチーム分け	授業の概要（目的や内容、成績評価等）の説明，グループ作り
2	目標・内容・方法	目標・内容・方法を区別すること，つなげて考えること
3	目標の多様性	社会科の目標の多様性を知ること
4	問い（1）	問いを中心に授業を構成すること，問いの価値を判断すること
5	問い（2）	問いを構造化すること
6	指導案作成（1回目）	第5回までの学習内容に基づき指導案を作成する
7	資料（1）	人文・社会諸科学と社会科の関連性
8	資料（2）	アクセスしうる資料の場所について
9	資料（3）	資料の加工の方法と重要性について
10	評価（1）	目標に準拠した評価について
11	評価（2）	多様な背景を持つ子どもとの関連の観点から評価を考える
12	指導案作成（2回目）	第11回目までの学習内容をもとに指導案をブラッシュアップする
13	社会科のはじまりについて	社会科の成立経緯や諸論点について
14	社会科の今後	社会科授業づくりに関する今後の諸論点について
15	最終レポート作成	授業の総括と最終レポート作成に向けた準備
16		

科目コード	22202				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	社会の理解 [FE2532組用]				担当者名	鉦 悠介			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

小学校社会科の学習指導要領変遷と目的・内容、それを踏まえた教科の特質の概要、社会科授業者として授業実践するための基本的素養を身に付ける。そのために教材内容や社会的な見方・考え方について、学習指導要領や教科書の具体的記述や実践事例等から学びを深める。また、現代的な課題として社会科教育に求められる内容を取り扱う。学習成果については、授業への参加意欲、社会的な見方・考え方をういた論理的思考力や表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

### <授業の到達目標>

小学校社会科の学習指導要領変遷と目的・内容、それを踏まえた学習内容と教科としての特質の理解、社会科の授業者として教材研究を深めるための基本的素養を身に付け、社会科の学習指導に主体的に取り組むことができるようになる。

### <授業の方法>

教科書や学習指導要領解説社会編、提示する資料を活用して、社会科教育についての幅広い考えをもてる授業を目指す。また、学生の着想を生かした教材開発等をまとめることを通して、社会科教育への関心・意欲を醸成するとともに、社会科授業実践の基礎となる知識・技能の獲得を目指す。尚、ICT活用の観点から、個人パソコンの持参を必須とする。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。グループディスカッション、スライド作成、Take a Standなど。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業計画の説明や毎時間の課題提示を踏まえて、資料収集等を行い、目的意識、課題意識をもって授業に臨むようにすること。また講義後に自己の学びを振り返り、振り返りフォームの記入等、自己の学びを整理するため30分程度取り組むようにする。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内に設定する毎回のレポート(80%)，及び中間レポートと最終レポート(20%)

### <教科書>

文部科学省 小学校学習指導要領解説社会編

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとチーム分け	授業の概要（目的や内容、成績評価等）の説明，グループ作り
2	目標・内容・方法	目標・内容・方法を区別すること，つなげて考えること
3	目標の多様性	社会科の目標の多様性を知ること
4	問い（1）	問いを中心に授業を構成すること，問いの価値を判断すること
5	問い（2）	問いを構造化すること
6	指導案作成（1回目）	第5回までの学習内容に基づき指導案を作成する
7	資料（1）	人文・社会諸科学と社会科の関連性
8	資料（2）	アクセスしうる資料の場所について
9	資料（3）	資料の加工の方法と重要性について
10	評価（1）	目標に準拠した評価について
11	評価（2）	多様な背景を持つ子どもとの関連の観点から評価を考える
12	指導案作成（2回目）	第11回目までの学習内容をもとに指導案をブラッシュアップする
13	社会科のはじまりについて	社会科の成立経緯や諸論点について
14	社会科の今後	社会科授業づくりに関する今後の諸論点について
15	最終レポート作成	授業の総括と最終レポート作成に向けた準備
16		

科目コード	22202				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	社会の理解 [FE2533組用]				担当者名	鉦 悠介			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

小学校社会科の学習指導要領変遷と目的・内容、それを踏まえた教科の特質の概要、社会科授業者として授業実践するための基本的素養を身に付ける。そのために教材内容や社会的な見方・考え方について、学習指導要領や教科書の具体的記述や実践事例等から学びを深める。また、現代的な課題として社会科教育に求められる内容を取り扱う。学習成果については、授業への参加意欲、社会的な見方・考え方をういた論理的思考力や表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

#### <授業の到達目標>

小学校社会科の学習指導要領変遷と目的・内容、それを踏まえた学習内容と教科としての特質の理解、社会科の授業者として教材研究を深めるための基本的素養を身に付け、社会科の学習指導に主体的に取り組むことができるようになる。

#### <授業の方法>

教科書や学習指導要領解説社会編、提示する資料を活用して、社会科教育についての幅広い考えをもてる授業を目指す。また、学生の着想を生かした教材開発等をまとめることを通して、社会科教育への関心・意欲を醸成するとともに、社会科授業実践の基礎となる知識・技能の獲得を目指す。尚、ICT活用の観点から、個人パソコンの持参を必須とする。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。グループディスカッション，スライド作成，Take a Standなど。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業計画の説明や毎時間の課題提示を踏まえて、資料収集等を行い、目的意識、課題意識をもって授業に臨むようにすること。また講義後に自己の学びを振り返り、振り返りフォームの記入等、自己の学びを整理するため30分程度取り組むようにする。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内に設定する毎回のレポート(80%)，及び中間レポートと最終レポート(20%)

#### <教科書>

文部科学省 小学校学習指導要領解説社会編

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとチーム分け	授業の概要（目的や内容、成績評価等）の説明，グループ作り
2	目標・内容・方法	目標・内容・方法を区別すること，つなげて考えること
3	目標の多様性	社会科の目標の多様性を知ること
4	問い（1）	問いを中心に授業を構成すること，問いの価値を判断すること
5	問い（2）	問いを構造化すること
6	指導案作成（1回目）	第5回までの学習内容に基づき指導案を作成する
7	資料（1）	人文・社会諸科学と社会科の関連性
8	資料（2）	アクセスしうる資料の場所について
9	資料（3）	資料の加工の方法と重要性について
10	評価（1）	目標に準拠した評価について
11	評価（2）	多様な背景を持つ子どもとの関連の観点から評価を考える
12	指導案作成（2回目）	第11回目までの学習内容をもとに指導案をブラッシュアップする
13	社会科のはじまりについて	社会科の成立経緯や諸論点について
14	社会科の今後	社会科授業づくりに関する今後の諸論点について
15	最終レポート作成	授業の総括と最終レポート作成に向けた準備
16		

科目コード	22203				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	生活の理解				担当者名	三堀 仁			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

生活科は「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを目指す」教科である。ここでは生活科誕生の経緯を押さえつつ、生活科の教科特性を理解するとともに、学習指導要領に示されている内容（１）から内容（９）について、実際使われている教科書を参考にしながら各内容を正しく理解し、授業で扱うポイントをつかむことを目指す。この科目は教員免許取得を目的とする学生には適しているが、教職を目指さない学生には適さない。したがって現代経営学科等の学生の履修はお断りする。

### <授業の到達目標>

生活科は低学年児童の発達の段階や特性を踏まえた上で見通しをもって学習指導を行わなければならない教科である。したがって以下の点を修得することを目指す。１．生活科の教科特性を理解し、説明できる。２．生活科の９つの内容を理解し、説明できる。３．生活科の内容を踏まえた授業場面での指導すべき内容を理解し、説明できる。

### <授業の方法>

学習指導要領の文面の解説や実践事例の事例紹介を基本として進める。受講者が自らが実感をもって気付き、理解するようにする。また、児童が実際に使用している教科書のページを見ながら、具体的なさし絵や言葉などから、授業のねらいや展開について、解説したり意見を求めたりして思考を深める。その際、教科書のデジタルコンテンツを実際に体験し、ICTの活用方法についても考える。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

授業の途中にワークを取り入れ自分なりの考えを持って後半の学習につなげるようにする。授業の終わりに学習の振り返りを行い学びを確かなものにできるようにする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：課題として指示されたテキストのページに目を通し、疑問点は整理しておく（１時間程度）。 復習：本時の授業内容について、整理したり理解を深めたりする（１時間程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度（課題提出）40%、学習状況（課題・意見の内容）30%、レポート30%

### <教科書>

田村学ほか 2024年 あたらしいせいかつ 上 東京書籍

田村学ほか 2024年 新しい生活下 東京書籍

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	生活科とは	生活科の教科特性を理解する。
2	生活科の目標・内容	生活科の目標と内容について理解する。
3	生活科とスタートカリキュラム	幼児教育との接続、スタートカリキュラムについて理解する。
4	生活科の内容１・２・３について（解説）	学習指導要領解説をもとに内容１・２・３を理解する。
5	生活科の内容１・２・３について（教科書より）	生活科の内容１・２・３について教科書を参考に理解を深める。
6	生活科の内容４・５について（解説）	学習指導要領解説をもとに内容４・５を理解する。
7	生活科の内容４・５（教科書より）	生活科の内容４・５について教科書を参考に理解を深める。
8	生活科の内容６について（解説）	学習指導要領解説をもとに内容６を理解する。
9	生活科の内容６（教科書より）	生活科の内容６について教科書を参考に理解を深める。
10	生活科の内容７について（解説）	学習指導要領解説をもとに内容７を理解する。
11	生活科の内容７（教科書より）	生活科の内容７について教科書を参考に理解を深める。
12	生活科の内容８・９について（解説）	学習指導要領解説をもとに内容８・９を理解する。
13	生活科の内容８・９（教科書より）	生活科の内容８・９について教科書を参考に理解を深める。
14	指導計画の作成と内容の取扱い	学習指導要領解説をもとに指導計画の作成と内容の取り扱いについて理解する。
15	授業のまとめ	これからの学校教育における生活科の役割等について理解する。授業のまとめをする。
16		

科目コード	22204				区 分	専門基礎			
授業科目名	運動・健康の理解 [FE2422組用]				担当者名	中 安 翼			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本授業の概要は、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するための基本的な考え方を小学校学習指導要領解説体育編に基づいて学んでいく。

#### <授業の到達目標>

本授業の目標は、小学校学習指導要領解説体育編に示されている小学校体育科の目標、内容、各運動領域における指導上の留意点などを理解した上で、体育の授業を構成していく為の考え方や技術を修得することを目的としている。

#### <授業の方法>

授業では、テーマに沿って理論と実践を並行して行い、レポートにまとめていく。実技に関しては、必ず運動に適した服装（シューズを含む）で受講。安全面からアクセサリなどの装着は厳禁とする。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでのディスカッション

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次時に講義される事柄について教科書を読み、下調べをし自ら積極的に理解を深めておく。復習：本時の授業内容を自分の意見も含め、レポートにまとめて提出する。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

自ら学び修得しようとする意欲、態度、姿勢 50%、レポート50%

#### <教科書>

文部科学省 平成30年2月 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編」 東洋館出版社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション（講義）	本授業のオリエンテーションとし、目標、計画、内容、指導方法、到達目標等の理解を深める。
2	小学校体育における基本的な考え方（実技）	小学校体育における基本的な考え方を実技を通して体験する。
3	小学校体育科の目標と内容、体づくり運動領域の考え方（講義）	小学校体育科の目標と内容について理解を深める。体づくり運動領域の指導内容について理解を深める。
4	体づくり運動領域（実技）	体づくり運動領域の基本的な考え方を実技を通して体験する。
5	器械運動領域・陸上運動領域（講義）	器械運動領域・陸上運動領域の指導内容について理解を深める。
6	器械運動領域（実技）	器械運動領域の基本的な考え方を実技を通して体験する。
7	陸上運動領域（実技）	陸上運動領域の基本的な考え方を実技を通して体験する。
8	ゲーム・ボール運動領域（講義）	ゲーム・ボール運動領域の指導内容について理解を深める。
9	ゲーム・ボール運動領域（実技）①	ゲーム・ボール運動領域（鬼遊び）の基本的な考え方を実技を通して体験する。
10	ゲーム・ボール運動領域（実技）②	ゲーム・ボール運動領域（ネット型）の基本的な考え方を実技を通して体験する。
11	ゲーム・ボール運動領域（実技）③	ゲーム・ボール運動領域（ゴール型）の基本的な考え方を実技を通して体験する。
12	表現運動領域・水泳運動領域（講義）	表現運動領域・水泳運動領域の指導内容について理解を深める。
13	表現運動領域（実技）	表現運動領域の基本的な考え方を実技を通して体験する。
14	保健領域（講義）	保健領域の指導内容について理解を深める。
15	まとめ（講義）	最終回は本授業を振り返り成果と課題について反省、実践と理論の両面から各自が得た「学び」を確認し、その学びを言語化していく。
16		

科目コード	22204				区 分	専門基礎			
授業科目名	運動・健康の理解 [FE2421組用]				担当者名	中安 翼			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本授業の概要は、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するための基本的な考え方を小学校学習指導要領解説体育編に基づいて学んでいく。

#### <授業の到達目標>

本授業の目標は、小学校学習指導要領解説体育編に示されている小学校体育科の目標、内容、各運動領域における指導上の留意点などを理解した上で、体育の授業を構成していく為の考え方や技術を修得することを目的としている。

#### <授業の方法>

授業では、テーマに沿って理論と実践を並行して行い、レポートにまとめていく。実技に関しては、必ず運動に適した服装（シューズを含む）で受講。安全面からアクセサリなどの装着は厳禁とする。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでのディスカッション

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次時に講義される事柄について教科書を読み、下調べをし自ら積極的に理解を深めておく。復習：本時の授業内容を自分の意見も含め、レポートにまとめて提出する。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

自ら学び修得しようとする意欲、態度、姿勢 50%、レポート50%

#### <教科書>

文部科学省 平成30年2月 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編」 東洋館出版社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション（講義）	本授業のオリエンテーションとし、目標、計画、内容、指導方法、到達目標等の理解を深める。
2	小学校体育における基本的な考え方（実技）	小学校体育における基本的な考え方を実技を通して体験する。
3	小学校体育科の目標と内容、体づくり運動領域の考え方（講義）	小学校体育科の目標と内容について理解を深める。体づくり運動領域の指導内容について理解を深める。
4	体づくり運動領域（実技）	体づくり運動領域の基本的な考え方を実技を通して体験する。
5	器械運動領域・陸上運動領域（講義）	器械運動領域・陸上運動領域の指導内容について理解を深める。
6	器械運動領域（実技）	器械運動領域の基本的な考え方を実技を通して体験する。
7	陸上運動領域（実技）	陸上運動領域の基本的な考え方を実技を通して体験する。
8	ゲーム・ボール運動領域（講義）	ゲーム・ボール運動領域の指導内容について理解を深める。
9	ゲーム・ボール運動領域（実技）①	ゲーム・ボール運動領域（鬼遊び）の基本的な考え方を実技を通して体験する。
10	ゲーム・ボール運動領域（実技）②	ゲーム・ボール運動領域（ネット型）の基本的な考え方を実技を通して体験する。
11	ゲーム・ボール運動領域（実技）③	ゲーム・ボール運動領域（ゴール型）の基本的な考え方を実技を通して体験する。
12	表現運動領域・水泳運動領域（講義）	表現運動領域・水泳運動領域の指導内容について理解を深める。
13	表現運動領域（実技）	表現運動領域の基本的な考え方を実技を通して体験する。
14	保健領域（講義）	保健領域の指導内容について理解を深める。
15	まとめ（講義）	最終回は本授業を振り返り成果と課題について反省、実践と理論の両面から各自が得た「学び」を確認し、その学びを言語化していく。
16		

科目コード	22205				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	英語の理解 [FE2522組用]				担当者名	羽田 あずさ			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

英語を聞く、話す、読む、書く活動を通して、英語運用能力を高める。特に、外国語活動・外国語科の授業を進める上で必要な言語材料や表現を適切に運用できるようにする。授業実践に必要な英語運用能力と英語に関する専門的な知識（音声・語彙・文法・正書法など）や第二言語習得・児童文学（絵本・子ども向けの歌や詩など）・異文化理解に関する基礎的な知識を、授業場面を意識しながら体験的に学習する。

#### <授業の到達目標>

1. 小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な英語運用能力を身につける。2. 英語に関する専門的な知識（音声・語彙・文法・正書法など）や第二言語習得・児童文学（絵本・子ども向けの歌や詩など）・異文化理解に関する基礎的な知識を身につける。

#### <授業の方法>

・オーラルアクティビティ（聞く・話す）・ライティングアクティビティ（読む・書く）・講義（教員による解説と問いの提示）・ディスカッション

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング（グループディスカッション、ピア・フィードバック、ジグソーなど）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書のWarm-up Activities（1時間程度）復習：振り返りレポート（30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業への参加度（アクティビティ・ディスカッション） 30％・課題（振り返りレポート）30％・最終発表及びレポート40％

#### <教科書>

金森強（2024年） CLILで習得する小学校英語指導の基礎 ミネルヴァ書房

#### <参考書>

酒井英樹他（2017年） 小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ小学校外国語科内容論 三省堂

金森強（2024年） 小学校英語科教育法－理論と実践－（改訂版） 成美堂

小川隆夫・東仁美（2021） 小学校英語はじめる教科書（改訂版） mpi

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	国際共通語としての英語（Unit1）
2	第二言語習得に関する基本的な知識（1）	第二言語習得と外国語学習（Unit2）
3	英語に関する基礎的な知識（1）	語彙（Unit3）
4	小学校外国語教育に関する基礎的な知識	アクティブラーニング（Unit10）、協働学習（Unit11）ICT教育（Unit13）
5	英語に関する基礎的な知識（2）	音声（Unit4）
6	異文化理解に関する基礎的な知識（1）	異文化間コミュニケーション能力（Unit5）
7	児童文学に関する基礎的な知識（1）	歌・詩（Unit8）
8	異文化理解に関する基礎的な知識（2）	交流活動（フラットスタンレープロジェクト）
9	児童文学に関する基礎的な知識（2）	絵本（Unit9）
10	英語に関する基礎的な知識（3）	発音と文字の綴り、正書法（Unit6）
11	英語に関する基礎的な知識（4）	文法・文構造（Unit7）
12	第二言語習得に関する基本的な知識（2）	第二言語習得理論の実践への応用（Unit12）、CLIL（Unit14）
13	4技能統合型活動（1）	活動の計画と準備、「教室内英語評価尺度」
14	4技能統合型活動（2）	発表評価、ディスカッション
15	4技能統合型活動（3）	発表評価、ディスカッション
16		

科目コード	22205				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	英語の理解 [FE2521組用]				担当者名	羽田 あずさ			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

英語を聞く・話す・読む・書く活動を通して、英語運用能力を高める。特に、外国語活動・外国語科の授業を進める上で必要な言語材料や表現を適切に運用できるようにする。授業実践に必要な英語運用能力と英語に関する専門的な知識（音声・語彙・文法・正書法など）や第二言語習得・児童文学（絵本・子ども向けの歌や詩など）・異文化理解に関する基礎的な知識を、授業場面を意識しながら体験的に学習する。

#### <授業の到達目標>

1. 小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な英語運用能力を身につける。2. 英語に関する専門的な知識（音声・語彙・文法・正書法など）や第二言語習得・児童文学（絵本・子ども向けの歌や詩など）・異文化理解に関する基礎的な知識を身につける。

#### <授業の方法>

・オーラルアクティビティ（聞く・話す）・ライティングアクティビティ（読む・書く）・講義（教員による解説と問いの提示）・ディスカッション

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング（グループディスカッション、ピア・フィードバック、ジグソーなど）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書のWarm-up Activities（1時間程度）復習：振り返りレポート（30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業への参加度（アクティビティ・ディスカッション） 30％・課題（振り返りレポート）30％・最終発表及びレポート40％

#### <教科書>

金森強（2024年） CLILで習得する小学校英語指導の基礎 ミネルヴァ書房

#### <参考書>

酒井英樹他（2017年） 小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ小学校外国語科内容論 三省堂

金森強（2024年） 小学校英語科教育法－理論と実践－（改訂版） 成美堂

小川隆夫・東仁美（2021） 小学校英語はじめる教科書（改訂版） mpi

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	国際共通語としての英語（Unit1）
2	第二言語習得に関する基本的な知識（1）	第二言語習得と外国語学習（Unit2）
3	英語に関する基礎的な知識（1）	語彙（Unit3）
4	小学校外国語教育に関する基礎的な知識	アクティブラーニング（Unit10）、協働学習（Unit11）ICT教育（Unit13）
5	英語に関する基礎的な知識（2）	音声（Unit4）
6	異文化理解に関する基礎的な知識（1）	異文化間コミュニケーション能力（Unit5）
7	児童文学に関する基礎的な知識（1）	歌・詩（Unit8）
8	異文化理解に関する基礎的な知識（2）	交流活動（フラットスタンレープロジェクト）
9	児童文学に関する基礎的な知識（2）	絵本（Unit9）
10	英語に関する基礎的な知識（3）	発音と文字の綴り、正書法（Unit6）
11	英語に関する基礎的な知識（4）	文法・文構造（Unit7）
12	第二言語習得に関する基本的な知識（2）	第二言語習得理論の実践への応用（Unit12）、CLIL（Unit14）
13	4技能統合型活動（1）	活動の計画と準備、「教室内英語評価尺度」
14	4技能統合型活動（2）	発表評価、ディスカッション
15	4技能統合型活動（3）	発表評価、ディスカッション
16		

科目コード	23100				区 分	コア			
授業科目名	発達心理学				担当者名	大久保 諒			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本科目のキー・ワードは、「生涯発達」である。人は、誕生する前から生を終える直前まで、発達（変化）し続ける可能性にひらかれている。このことについて、様々な側面から多角的に学習を深めていく。

#### <授業の到達目標>

教育は、発達に支えられてこそ成り立ち、さらなる発達を促すように展開されることが望ましい。本科目の履修を通して、発達に関する多様な基礎的知見に触れ、これらのことが腑に落ちて理解できるだけの教養や専門性を獲得することが期待される。

#### <授業の方法>

毎回、講義内容に関するスライドを提示し、詳しく解説を行う。講義内容について、理解度を確認する小課題への回答を定期的に求め、理解の定着を図る。なお、講義内ではGoogle Classroomを利用する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

講義内容について、適宜、グループで見解を議論し合って発表する機会を設け、理解を広げていく。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の講義内容は関連しており、次回の講義内容を理解するためには、前回の講義内容を理解しておくことが必要となる。講義内容は多岐にまたがるため、その広さに圧倒されることなく理解を定着させながら、講義全体を完走するには毎回の復習が特に重要となる。毎週、次回の講義時まで、配布資料や提示された関連文献の精読、講義内で求められた小課題への回答など、計2時間程度の準備学習が必要となる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加態度：20%、複数回の小課題：30%、学期末試験：50%の結果を総合して最終的な成績を定める。

#### <教科書>

#### <参考書>

開地一夫・齋藤慈子（編）（2018/1） ベーシック発達心理学 東京大学出版会  
 無藤隆・岡本祐子大坪治彦（編）（2009/1） よくわかる発達心理学[第2版] ミネルヴァ書房  
 森口佑介（著）（2014/3） おさなごころを科学する：進化する乳児観 新潮社

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	講義の説明、発達と保育・教育の関係、子どもと大人のちがい
2	心と発達のモデル①	認知、感情、動機づけ、それらの相互作用と発達
3	心と発達のモデル②	社会性、それに基づく様々なコミュニケーションと発達
4	心と発達のモデル③	遺伝と環境、環境への適応、発達と進化や学習の関係
5	胎生期・周産期の発達	発生過程（形態形成）、誕生前の経験の影響、胎生期・周産期の知覚・運動発達
6	乳幼児期の発達①	乳幼児期の運動・知覚・認知の発達
7	乳幼児期の発達②	乳幼児期の感情・動機づけの発達
8	乳幼児期の発達③	乳幼児期の社会性の発達
9	就学後子ども期の発達①	教科学習や学校生活を支える認知発達
10	就学後子ども期の発達②	教科学習や学校生活を支える感情・動機づけの発達
11	青年期の発達①	脳の発達、仲間関係と発達
12	青年期の発達②	反抗期、アイデンティティの発達
13	成人期・中年期の発達	結婚・子育てと発達、仕事と発達
14	高齢期の発達	アンチ・エイジング、サクセスフル・エイジング
15	まとめ	授業全体の内容の振り返り
16		

科目コード	23202				区 分	コア			
授業科目名	教育社会学				担当者名	濱嶋 幸司			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（教育社会学コース生必修）

### <授業の概要>

本科目では教育社会学の立場から「教育に対する社会的事項」「教育に関する制度的事項」「教育に関する経営的事項」「学校と地域との連携」「学校安全への対応」を含み、教育の諸現象を社会学的に考察し、その問題解決の方策を探る。また、教師が主体的に関与する方策も考える。教育社会学のこれまでの研究成果を紹介し、履修者に多様な価値観、思考枠組を提供することを目的とする。具体的には、教育現象に関わる個人の心理や社会の仕組みを社会学的視点に基づいて紹介し、履修者が現在および将来、直面することになる諸課題を自分で考え、解決策を見つけることのできる技術を養う。専門知識だけでなく、事例を用いながら説明する。自分のこれまでの生活を振り返り、視野を広げ、今後の進路に役立つ機会としたい。

### <授業の到達目標>

①教育に関する社会的事項（社会や子どもの変化）の学校教育への影響、それに対する教育改革、教育政策、現場の対応を理解する。学校をめぐる社会的事項を理解する。子どもの生活の変化と実態や指導上の課題を理解する。近年の教育政策、教育改革を理解する。諸外国の教育事情・教育改革の動向を理解し、日本へ改革への示唆を得る。②現代の公教育制度の意義・原理・法的・制度的仕組みや課題に関して理解する。教育関係法規、教育行政の理念と仕組みを理解する。教育制度の諸課題の例示ができる。③学校経営の観点からの学校や教育行政機関の目的と

### <授業の方法>

オンデマンド形式でおこなう。履修者へは各回資料を配布する。各回の理解および振り返りを求める。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 第2回から第14回にかけて、リアクションテーマを出すので、各自提出する そのリアクションは履修者全員が読むことができ、さらにはコメントを付すことができる

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回終了後には内容を再確認しておくこと。また、次回に備えて関連資料に目を通すなど予習をしておくこと。単位習得に必要な学習時間を費やすこと（予習60分・復習120分）。復習を補足すると、「リアクション」をまとめた動画を完成次第配信するので、それを視聴することに加え、さらに全員のリアクション（昨年度は約490名）に目を通し、振り返ることで120分は必要となるだろう。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の視聴課題（15%）、リアクション（25%）、最終課題[選択式テストと記述式小レポート]（60%）

### <教科書>

特に指定しない（参考書を参照しながら講師が独自に説明する）

### <参考書>

岩永雅也（2019年）『教育社会学概論』放送大学出版会  
中村高康・松岡亮二（2021年）『現場で使える教育社会学：教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房  
高野良子・武内清編著（2024）『教育の基礎と展開 豊かな教育・保育のつながりをめざして』[第3版] 学文社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：教育社会学とは？	科目のねらい、到達目標、授業の進め方、成績評価基準などの説明
2	教育社会学とは？①教育社会学の目的・対象・手法	教育社会学の特色、他の学問領域との違いを説明する。社会科学としての研究スタイルを説明し、教育社会学が対象としてきた事例、その目的、手法についても概説する。
3	教育社会学とは？②教育社会学の歴史と現在	教育社会学の研究がどのように現在に至るのか、これまでの著名な研究を時代背景とともに説明する。日本の研究を中心とするが、海外の研究に大きな影響を受けているため、その研究についても触れる。
4	ライフコースと教育社会学①家族と子ども	身近な社会集団といえる家族そして乳幼児期からの子ども社会について説明する。
5	ライフコースと教育社会学②小学生・中学生	義務教育段階の子どもと彼らを取り巻く社会・学校・教育現象について説明する。
6	ライフコースと教育社会学③高校生	高校生の意識および彼らを取り巻く社会、学校、教育現象について説明する。

7	ライフコースと教育社会学④大学生	大学生文化とは何か？大学文化とは？高等教育機関を取り巻く社会、大学、教育現象を説明する。
8	ライフコースと教育社会学⑤職業（初期キャリア）	学校から職業への移行は教育社会学においても重要なテーマである。仕事を探す、キャリアを形成することを教育社会学ではどのように読み解けるのか説明する。
9	ライフコースと教育社会学⑥職業（中期～キャリア）	キャリアと年齢を積み重ね、初職の勤め先を続けることもあれば、離転職を繰り返すこともある。仕事と生活の両立、結婚・子育てといったライフコースについても教育社会学から読み取れることを説明する。
10	ライフコースと教育社会学⑦居住・成熟・老い	一見、学校、教育と関係のないように思われるが、人生の中盤、後半に差し掛かった場面もまた教育社会学の対象となる。成人になってからも学習することは多く、キャリアを積み重ねることの重要性を説明する。
11	教育社会学の観点①グローバリズムとナショナリズム	これからの国際社会を生きることと、自分はどこかの土地で生きること、どちらも将来の生活において不可欠なテーマである。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。
12	教育社会学の観点②教育格差とは何か	経済的な格差、暮らし向きの格差、待遇の格差、機会の格差、さまざまな格差が拡大しているといわれている。教育もまたこのような格差との関わりをもっている。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。
13	教育社会学の観点③社会「問題」と向き合う	社会の「問題」はどこにあるのか？何が「問題」なのか？逸脱現象などとも大きく重なる。ここでは社会「問題」の社会学（クレイム申し立て活動）、構築主義的な考え方を概説する。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。
14	教育社会学の観点④教師への期待と役割	教師および教師を取り巻く社会もまた教育社会学の重要なテーマのひとつである。教師という専門職（仕事）、教師の実践（意識）など概説する。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。
15	展望：これからの教育社会学をどのように活用できるか	14回にわたる説明をもとに、教育社会学とはどういう学問なのか、現時点での到達状況を説明する。また、履修者自身、教育社会学を用いることでどのような発見、関心を持ったのか、これから何ができそうか考えてもらう時間とする。
16		

科目コード	23211				区 分	コア科目			
授業科目名	教育心理学				担当者名	安永 和央			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本講義では、乳幼児期から成人期までの身体的・認知的発達について学び、これらの特徴を踏まえて、動機づけや学習指導、教育評価、学級集団等に関する理解を深める。

#### <授業の到達目標>

授業概要で述べる内容に関する理論的な知識や実践的な知識を獲得し、これらの知識を実際の保育・学校教育場面で活かすことができる力を身につける。

#### <授業の方法>

本科目はオンデマンド授業です。まず講義の動画を視聴し、その後教科書の指定されたページを各自で読んでもらいます。最後に、授業に関して理解できているかを確認するためのテストに解答してもらいます。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内容の復習が必要である（学習時間：1時間～1時間30分）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への出席、毎回の授業の最後に実施する確認テスト及び定期試験により総合的に評価する。

#### <教科書>

櫻井茂男 監修・黒田祐二 編著（2021年4月15日） 実践につながる教育心理学〔改訂版〕 北樹出版

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、心理学における研究法の種類
2	心と身体の発達①	発達の特徴、臨界期、発達曲線、胎生期（胎児期）、乳児期、幼児期
3	心と身体の発達②	児童期、青年期、成人期、輻輳説、相互作用説、発達の最近接領域
4	認知と思考の発達	認知発達理論の背景、ピアジェの認知発達理論
5	記憶のメカニズム①	感覚記憶、短期記憶、長期記憶
6	記憶のメカニズム②	系列位置効果、意味記憶の深い理解、忘却
7	錯視の世界	知覚、盲点、融像、錯視、選択的注意
8	学習の理論	古典的条件づけ、道具的条件づけ
9	動機づけ①	欲求、外発的動機づけ、内発的動機づけ、統制的動機づけ、自律的動機づけ
10	動機づけ②	学習に対する価値づけ・期待、原因帰属、学習性無力感
11	学習指導	有意味受容学習、発見学習、協同学習、プログラム学習、適性処遇交互作用
12	教育評価	教育評価の時期・基準・主体、パフォーマンス評価、ルーブリック評価
13	学級集団	学級集団の種類・発達過程・機能、教師のリーダーシップ
14	パーソナリティ	類型論と特性論、行動観察法、面接法、心理検査法
15	定期試験	
16		

科目コード	23303				区 分	コア科目（教員養成）			
授業科目名	教育相談(初等)				担当者名	石山 貴章			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

学校教員に必要とされている「児童生徒理解」「アセスメント」「相談援助技術」「カウンセリングマインド」「キャリア支援」などの理論に依拠しながら、相談ケースを想定しつつ、どのようなアプローチが有効的・効果的なのかを検討しながら、教育相談を実践的に学ぶことを目的とする。

### <授業の到達目標>

① 学校教育現場で必要とされている教育相談の基本的理解を深める。② 教育相談に関する基本的理論を踏まえながら、教育相談の実際を理解していく。③ 教育相談に関心をもち、教育活動に活かしていく姿勢を身につける。

### <授業の方法>

講義

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の講義で提示される講義資料は、各自、必ずファイリングして復習をしておくこと。第1回～第15回までの講義テーマについての予習を、参考図書等を基にして実施しておくこと。必要に応じて、参考書等で確認を行い、配布資料に転記、またはノートに記録をしておくこと。最終的に、配布資料がテキスト化されるように各自でデータを蓄積しておくこと。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

最終レポート試験課題〈1600字程度〉（目標①, ②, ③）

### <教科書>

特に指定はしない 特に指定はしない 特に指定はしない  
 特に指定はしない 特に指定はしない 特に指定はしない  
 特に指定はしない 特に指定はしない 特に指定はしない

### <参考書>

春日井敏之・伊藤美奈子（2012年10月30日） 「よくわかる教育相談」 ミネルヴァ書房。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション～カウンセリングマインド～	1. 自己開示2. カウンセリング・マインド3. ラポール4. 守秘義務5. カタルシス
2	教育相談の基本的理解～カウンセリングの基本～	1. 聴く力と伝える力2. スクールカウンセラー（SC）3. スクールソーシャルワーカー（SSW）4. コンサルテーション5. カウンセリングアプローチ
3	構 成 的 グ ル ー プ エ ン カ ウ ン タ ー （Structured Group Encounter : SGE）	1. 勇気づけ（アドラー）2. ロジャーズ（非指示的カウンセリング）3. 無条件の肯定的受容4. グループエンカウンター5. アウェアネス6. エクササイズ7. ダイバーシティ8. シェアリング
4	アンガーマネジメント	1. 怒りのメカニズム2. “キレる”心理3. ビリーフ（信念）4. 怒りの対処5. リフレーミング6. ストレス・コーピング7. 自尊心（プライド）
5	いじめに関する相談支援①	1. 相談と対応2. 同調圧力3. 発達障害4. 第三者委員会5. 重大事態6. ネットいじめ
6	いじめに関する相談支援②	1. 「いじめ」の構造2. 「いじめ」の態様3. 「いじめ」の定義4. 「いじめ防止対策推進法」5. 「いじめ予防プログラム」
7	不登校に関する相談支援	1. 不登校の現状2. 適応障害3. 隠れ不登校4. 不登校へのアプローチ5. 不登校特例校6. 教育機会確保法7. フリースクール8. 適応指導教室9. 夜間中学校
8	児童虐待に関する相談支援①	1. 被虐待児童症候群2. 児童虐待の現状3. 早期発見・初期対応4. SNS/DV5. 相談対応6. 児童虐待防7. 虐待対応の手引き
9	児童虐待に関する相談支援②	1. しつけ（懲戒権）2. 児童相談所3. 教職員の心構え4. 子ども・子育て応援プラン5. 貧困対策6. 子どもの最善の利益
10	教育相談の進め方～保護者対応と支援～	1. モンスターペアレント2. 初期対応3. 向き合うべき課題4. 保護者対応力5. ロールプレイ6. モンスター・ティーチャー
11	LGBTQ+に関する相談支援	1. LGBTQ+2. 「性自認」「性的指向」「性表現」3. トランスジェンダー4. ア

		ンコンシャスバイアス 5. 学校における相談支援体制 6. ジェンダーレス 7. アウティング
12	アサーション	1. 行動療法 2. 自己表現 3. 主張訓練 4. ストローク 5. ディスカウント 6. DESC法
13	①ブレイン・ストーミング(BS) ②ジョハリの窓	1. ブレイン・ストーミング(BS法) 2. 親和図法(インサイト) 3. マンダラート 4. ジョハリの窓
14	教育相談に関する様々なアプローチ	1. 芸術療法 2. 遊戯療法 3. フォーカシング 4. 内観療法 5. 森田療法 6. 対人関係療法 7. 家族療法 8. ナラティブ・セラピー 9. 系統的脱感作法 10. 暴露療法(エクスポージャー) 11. SUBI心の健康自己評価質問紙法
15	キャリア教育に関する相談支援	1. キャリア教育 2. 職業教育 3. 基礎的・汎用的能力 4. キャリア・パスポート
16	レポート試験	レポート試験

科目コード	23304				区 分	コア科目（教員養成）			
授業科目名	教育相談(中等)				担当者名	石山 貴章			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

学校教員に必要とされている「児童生徒理解」「アセスメント」「相談援助技術」「カウンセリングマインド」「キャリア支援」などの理論に依拠しながら、相談ケースを想定しつつ、どのようなアプローチが有効的・効果的なのかを検討しながら、教育相談を実践的に学ぶことを目的とする。

### <授業の到達目標>

① 学校教育現場で必要とされている教育相談の基本的理解を深める。② 教育相談に関する基本的理論を踏まえながら、教育相談の実際を理解していく。③ 教育相談に関心を持ち、教育活動に活かしていく姿勢を身につける。

### <授業の方法>

講義

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の講義で提示される講義資料は、各自、必ずファイリングして復習をしておくこと。第1回～第15回までの講義テーマについての予習を、参考図書等を基にして実施しておくこと。必要に応じて、参考書等で確認を行い、配布資料に転記、またはノートに記録をしておくこと。最終的に、配布資料がテキスト化されるように各自でデータを蓄積しておくこと。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小レポート30%、最終レポート70%

### <教科書>

特に指定はしない 特に指定はしない 特に指定はしない

特に指定はしない 特に指定はしない 特に指定はしない

特に指定はしない 特に指定はしない 特に指定はしない

### <参考書>

春日井敏之・伊藤美奈子（2012年10月30日） 「よくわかる教育相談」 ミネルヴァ書房。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション～カウンセリングマインド～	1. 自己開示 2. カウンセリング・マインド 3. ラポール 4. 守秘義務 5. カタルシス
2	教育相談の基本的理解～カウンセリングの基本～	1. 聴く力と伝える力 2. スクールカウンセラー（SC） 3. スクールソーシャルワーカー（SSW） 4. コンサルテーション 5. カウンセリングアプローチ
3	構 成 的 グ ル ー プ エ ン カ ウ ン タ ー （Structured Group Encounter : SGE）	1. 勇気づけ（アドラー） 2. ロジャーズ（非指示的カウンセリング） 3. 無条件の肯定的受容 4. グループエンカウンター 5. アウェアネス 6. エクササイズ 7. ダイバーシティ 8. シェアリング
4	問題行動に対する相談支援	①「自己指導能力」②「反社会的行動」と「非社会的行動」③「暴力行為」④「青少年補導」⑤「少年非行」「改正少年法」⑥「万引き」「金銭問題」⑦「断る勇氣」
5	いじめに関する相談支援①	1. 相談と対応 2. 同調圧力 3. 発達障害 4. 第三者委員会 5. 重大事態 6. ネットいじめ
6	いじめに関する相談支援②	1. 「いじめ」の構造 2. 「いじめ」の態様 3. 「いじめ」の定義 4. 「いじめ防止対策推進法」 5. 「いじめ予防プログラム」
7	不登校に関する相談支援	1. 不登校の現状 2. 適応障害 3. 隠れ不登校 4. 不登校へのアプローチ 5. 不登校特例校 6. 教育機会確保法 7. フリースクール 8. 適応指導教室 9. 夜間中学校
8	児童虐待に関する相談支援①	1. 被虐待児童候群 2. 児童虐待の現状 3. 早期発見・初期対応 4. SNS/DV 5. 相談対応 6. 児童虐待防 7. 虐待対応の手引き
9	児童虐待に関する相談支援②	1. しつけ（懲戒権） 2. 児童相談所 3. 教職員の心構え 4. 子ども・子育て応援プラン 5. 貧困対策 6. 子どもの最善の利益
10	教育相談の進め方～保護者対応と支援～	1. モンスターペアレント 2. 初期対応 3. 向き合うべき課題 4. 保護者対応力 5. ロールプレイ 6. モンスター・ティーチャー
11	LGBTQ+に関する相談支援	1. LGBTQ+ 2. 「性自認」「性的指向」「性表現」 3. トランスジェンダー 4. ア

		ンコンシャスバイアス 5. 学校における相談支援体制 6. ジェンダーレス 7. アウティング
12	飲酒・喫煙・行動嗜癖に対する相談支援	①「喫煙」②「飲酒」③「薬物」④「行動嗜癖」⑤「予防教育」
13	部活動に関する相談支援	①生徒にとっての部活動問題②教師にとっての部活動問題③運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン④文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン⑤部活動指導員⑥部活動地域移行⑦部活動と体罰
14	様々な相談支援アプローチ	1. 芸術療法 2. 遊戯療法 3. フォーカシング 4. 内観療法 5. 森田療法 6. 対人関係療法 7. 家族療法 8. ナラティブ・セラピー 9. 系統的脱感作法 10. 暴露療法（エクスポージャー） 11. SUBI心の健康自己評価質問紙法
15	キャリア教育に関する相談支援	1. キャリア教育 2. 職業教育 3. 基礎的・汎用的能力 4. キャリア・パスポート
16	レポート試験	レポート試験

科目コード	23401				区 分	コア科目			
授業科目名	自立活動実践論				担当者名	大野呂 浩志／林 栄昭			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

特別支援教育における自立活動を理解するために、まず、自立活動の前身である養護・訓練の設置に至る内外の障害観やそれまでの障害児教育に関する歴史的経緯について概説する。続いて、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の内容を詳細に分析し、その概要と自立活動の指導内容の教育課程上の位置づけや実際の指導の在り方、さらに近年の自立活動の実践上の課題について取り上げる。

### <授業の到達目標>

特別支援教育における自立活動の指導に関する歴史的経緯について理解することができる。さらに、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の内容を詳細に分析し、その概要を理解するとともに、自立活動の指導内容の教育課程上の位置づけや実際の指導の在り方、さらに近年の自立活動の実践上の課題について、その概要も理解することができる。

### <授業の方法>

学生自身による事前事後学修でのコメントを補充・確認・整理・発展することを意図した講義と、グループワークやグループディスカッション等を通じた授業内容の深化・統合を図る演習の二つの要素を基調とした授業を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・課題解決型学習／グループディスカッション／ピアサポートラーニング／プレゼンテーション

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の授業で先回までの内容について確認テストを課すため、合わせて1～1.5時間程度の予復習をすることが望ましい。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート 40点、定期試験 40点、授業態度 20点

### <教科書>

適宜資料を配布する。 適宜資料を配布する。 適宜資料を配布する。

### <参考書>

適宜資料を配布する。 適宜資料を配布する。 適宜資料を配布する。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	自立活動の概要及び歴史	学習指導要領における養護・訓練設置以前の障害児への教育や養護・訓練から自立活動に渡る指導内容や方法の経緯について理解する。
2	自立活動の教育課程における位置づけ	特別支援教育における自立活動の指導目標や指導領域の特徴、教育課程上の位置づけについて理解する。
3	自立活動の内容（健康の保持）	自立活動の指導区分「健康の保持」について、各指導項目の内容を具体的に理解する。
4	自立活動の内容（心理的安定）	自立活動の指導区分「心理的安定」について、各指導項目の内容を具体的に理解する。
5	自立活動の内容（人間関係の形成）	自立活動の指導区分「人間関係の形成」について、各指導項目の内容を具体的に理解する。
6	自立活動の内容（環境の把握）	自立活動の指導区分「環境の把握」について、各指導項目の内容を具体的に理解する。
7	自立活動の内容（身体の動き）	自立活動の指導区分「身体の動き」について、各指導項目の内容を具体的に理解する。
8	自立活動の内容（コミュニケーション）	自立活動の指導区分「コミュニケーション」について、各指導項目の内容を具体的に理解する。
9	自立活動の個別の指導計画の意義と内容	自立活動に関する個別の指導計画の意義やその内容及び活用上の留意点について理解する。
10	自立活動の指導（1）時間における指導の理解	自立活動の時間における指導形態のうち、時間における指導について取り上げ、その目標や他の指導場面との関連性について理解する。
11	自立活動の指導（2）実際の時間における指導の分析	自立活動の時間における指導の実際の映像を題材にして、映像から抽出できる指導目標や活動設定について理解する。
12	自立活動の指導（3）場面における指導の理解	自立活動の時間における指導形態のうち、場面における指導について取り上げ、その目標や他の領域教科との関連性について理解する。

13	自立活動の指導（４）実際の場面における指導の分析	自立活動の時間における指導の実際の映像を題材にして，映像から抽出できる自立活動の指導内容の場面における指導の在り方について理解する。
14	自立活動の指導（５）実際の指導に関するまとめ	個々に定めた自立活動の指導内容が，教育課程上の様々な場面でどのように配置され，機能しているかについて理解する。
15	自立活動に関するまとめ（自立活動の効果と実践的課題）	近年の自立活動の実践上の課題について理解し，今後の指導の在り方について考察する。
16		

科目コード	23402				区 分	コア			
授業科目名	特別支援教育				担当者名	高橋 章二／林 栄昭			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

特別支援学校に在籍する視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱虚弱の幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難さを理解し、対応するために必要な知識や支援方法を理解する。

### <授業の到達目標>

特別支援教育の成立展開過程を制度及び指導法の変遷から理解し、特殊教育から特別支援教育へと転換した背景を適切に捉えることができるようにする。また、特別支援学校の社会的役割を理解するとともに、特別支援学校を支える仕組みや各障害種に対応した教育課程、指導法について具体的に説明することができる。

### <授業の方法>

授業はテキストやPowerPoint資料等を使って講義形式で行う。課題検討のためグループワーク等を取り入れる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

授業内に毎回グループで検討していく課題を設定してグループワークを行い、話し合われたことを全体に発表して全体での共有を図る。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に関連する事項について1時間程度予習を行う。また、講義終了後には、講義の中で説明した内容を適切に理解するために、必ず1時間程度復習を行う。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席及び授業態度20%、課題レポート3回（第3回講義終了時、第7回講義終了時、第13回講義終了時）30%、試験50%

### <教科書>

H30・3 文部科学省特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼・小・中） 開隆堂出版株式会社

H30・3 文部科学省特別支援学校学習指導要領解説総自立活動編 開隆堂出版株式会社

### <参考書>

適宜PowerPoint資料を配布する

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	特別支援教育の歴史的変遷と教育的意義	我国の明治期からの特別支援教育の歴史について理解する。
2	特別支援教育の制度改革と特別支援学校の役割	特殊教育から特別支援教育へどのように制度改革が行われていったのか。また、その中で特別支援学校の役割がどのように位置づけられたのかを理解する。
3	特別支援学校における教育課程編成についての基本的な考え方	特別支援学校の教育課程がどのように規定されているのか、小、中学校の教育課程と比較しながら理解する。
4	特別支援学校における教育課程の特色について	特別支援学校の教科等を合わせた指導、自立活動についての理解を深める。
5	個別の指導計画や個別の教育支援計画の意義とその作成	個別の指導計画や個別の教育支援計画意義について学び、実際に作成をする。
6	視覚特別支援学校における教育の実際	視覚障害の起因疾患について理解するとともに、視覚障害の障害特性に応じてどのような指導が行われているのかを理解する。
7	聴覚特別支援学校における教育の実際	聴覚障害の起因疾患について理解するとともに、聴覚障害の障害特性に応じてどのような指導が行われているのかを理解する。
8	肢体不自由特別支援学校の教育の実際	児童生徒への肢体不自由の起因疾患について理解するとともに、脳性まひ児の運動特性、認知特性について理解する。あわせて車いす体験を行う。
9	病弱特別支援学校の教育の実際	社会状況の変化による病類の変化を理解するとともに、病弱教育が直面する小児がんの子どもへの教育的支援を考える。
10	知的特別支援学校の教育の実際	知的障害の起因疾患についての理解をするとともに、知的障害の認知、コミュニケーションなどの障害特性について理解をする。
11	特別支援学校における特別支援教育推進のための校内組織のあり方について	特別支援学校において個々一人一人の教育的ニーズを把握して、個別最適化の教育を行うために、研究、研修など校内組織がどのように連携、協力しているのかを理解する。

12	特別支援学校と地域及び関係機関との連携	<p>特別支援学校の教育活動をより効果的に行うために、どのような関係機関と連携し、協力しているのかを理解する。また、各関係機関の役割について理解を深める。</p> <p>個々一人一人の児童生徒の社会的自立に向けて、学校と保護者がどのように連携していくことが必要なのかを考える。また、保護者の障害受容の過程について理解を深める。</p> <p>特別支援教育を推進していくための専門性について理解するとともに、専門性を担保するために方法について考える。</p> <p>医療的ケアなど今後特別支援教育が解決していくことが必要とされる諸課題について考える。</p>
13	特別支援学校における家庭との連携	
14	特別支援教育と教師教育	
15	特別支援学校における今後の課題と展望	
16		

科目コード	23404				区 分	コア科目			
授業科目名	知的障害児の心理・生理・病理 《連続》				担当者名	西山 逸子／大野呂 浩志			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	月4・5限	卒業要件	選択

### <授業の概要>

この授業では、知的障害の心理・生理・病理の特性を脳の構造・機能に関連づけながら概説し、必要とされる基本的な支援方法について論じる。また、各種障害の特性とその特性に応じた基本的な支援方法にも言及し、知的障害の理解をより深める。特別支援教育の実践を経験した教員と知的障害の診療に携わっている小児神経専門医師である教員が授業を行う。

### <授業の到達目標>

特別支援教育領域の教員として必要な知的障害に関する基礎知識を習得し、障害に伴う発達と生活上の問題に対する支援方法の基礎的内容を説明することができる。

### <授業の方法>

学生自身による事前事後学修でのコメントを補充・確認・整理・発展することを意図した講義と、グループワークやグループディスカッション等を通じた授業内容の深化・統合を図る演習の二つの要素を基調とした授業を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・課題解決型授業／グループディスカッション／ピアサポートラーニング／グループワーク／プレゼンテーション

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1～1.5時間程度の予復習をもとに、授業での積極的な質問や授業後の課題理解の深化を測ることが望ましい。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 20%、レポート提出 30%、定期試験 50%

### <教科書>

適宜資料を配布する。

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	知的障害概説	知的障害の本質を理解する。
2	知的障害の生理特性：（知能機構）	知的障害につながる神経心理学的特性について理解する。
3	知的障害の生理特性：（注意機構と覚醒）	知的障害につながる脳の注意機構と覚醒について理解する。
4	知的障害の生理特性：（記憶と学習）	知的障害が呈する記憶不全と学習の不全状態について神経心理学的視点から理解する。
5	知的障害の生理特性（連合野について）	知的障害につながる前頭連合野の機能について理解する。
6	知的障害の心理特性：（認知機構）	知的障害の認知について、神経心理学的な観点から理解を深める。
7	知的障害の心理特性：（知覚機構）	知的障害児者の認知につながる知覚について、神経心理学的観点から理解する。
8	知的障害の心理特性：（問題解決メカニズム）	学校での学習場面を取り上げ、ここまでの認知的特徴の理解をもとに、知的障害児の問題解決方略の特徴について理解する。
9	知的障害の心理特性：（コミュニケーション）	知的障害の認知的特徴をもとに、具体的な場면을題材に取り、コミュニケーション上の特徴や適切な学習につながるやり取りの特徴について理解する。
10	知的障害の心理特性：（対人行動・社会性）	学校での具体的な場面を取り上げ、対人行動の特性や社会性の獲得について、知的障害の認知的特徴に紐付けながら理解する。
11	知的障害の病理特性：（知的障害の診断基準と鑑別、発生要因など）	知的障害をきたしうる要因や危険因子、発生過程、および知的障害児に併存しやすい特性や症状について理解する。
12	知的障害の病理特性：（染色体異常・遺伝子異常症）	知的障害をきたす染色体異常・遺伝子異常の発生のメカニズムや特徴的な症状、学校生活で必要な支援や配慮などを理解する。
13	知的障害の病理特性：（代謝異常症）	知的障害をきたす代表的な代謝異常症の病態生理、学校生活での留意事項などについて理解する。
14	知的障害の病理特性：（頭蓋内感染症）	知的障害をきたしうる髄膜炎や脳炎・脳症等の病態生理、学校で必要な感染症の基礎知識や予防対策などについて理解する。
15	知的障害の病理特性：（脳血管障害）	知的障害をきたしうる頭部外傷を含む脳血管障害の病態、緊急時の対処法や医療機関との連携について理解する。
16		

科目コード	23405				区 分	肢体不自由児の心理・生理・病理			
授業科目名	肢体不自由児の心理・生理・病理				担当者名	松本 好生			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	あり

#### <授業の概要>

この授業は、肢体不自由の「生理・心理・病理」に関する内容について、身体障害がある人について、特別に配慮しなければならない支援のありかた、および我が国の身体障害がある人への現状の取り組みについて理解を深めることにある。特に、この授業では、特別支援教育や民間支援機関で特別な配慮を必要とする人の支援を経験した教員が担当することに意味がある。教科書やテキストにはない30数年の臨床現場での実践を踏まえた授業を行うので、障害のもつ意味など、幅広く、知的障害や発達障害なども含めて、身体障害の中の脳性マヒなどの肢体不自由を中心に、障害特性など、臨床の現場において、すぐに役立つ知識の習得を実践的に学ぶ機会とする。

#### <授業の到達目標>

特別支援教育領域の教員として必要な肢体不自由に関する基礎知識を習得し、発達と生活上の問題に対する支援方法の基礎を学ぶ。

#### <授業の方法>

パワポを中心に視覚的に概説していく。また資料の配布やテキストは、授業への理解度を鑑み、適宜紹介する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

提示された参考書に目を通しておくこと。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートと小テスト90%、授業態度10%で評価する。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	肢体不自由の心理・生理・病理と肢体不自由児教育	【第13回】 心理・生理・病理の特徴から垣間見ることができる肢体不自由児への医療的ケアの課題
2	肢体不自由児の障害特性	
3	肢体不自由と学習の困難	
4	肢体不自由と障害受容	
5	学齢期における中途障害と心理	
6	肢体不自由とは（障害の特性と、知的障害・その他身体障害との合併）	
7	肢体不自由者の生理反応の特性①（呼吸・循環機能）	
8	肢体不自由者の生理反応の特性②（脳・神経機能）	
9	肢体不自由者の生理反応の特性③（筋機能）	
10	脳性麻痺の病態病理①	
11	脳性麻痺の病態病理②	
12	肢体不自由と神経筋疾患	
13	肢体不自由と脳性麻痺①（全般）	
14	肢体不自由と脳性麻痺②（リハビリテーション）	
15	肢体不自由の心理・生理・病理に関する今後の課題と展望	
16		

科目コード	23406				区 分	コア			
授業科目名	病弱児の心理・生理・病理 《連続》				担当者名	西山 逸子			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

小児の主要な疾患についての病態生理、身体および心身の不調の変化などについて詳細に解説するとともに、学校教育で必要とされる留意事項や配慮、適切な支援、家庭や関連機関との連携などについて、小児科専門医である教員が実践的な授業を行う。

### <授業の到達目標>

病弱（身体や心身の虚弱を含む）の児童の病気（身体や心身の疾患）に関する病態生理や特徴を理解し、児童一人ひとりの心身の状態や発達過程をふまえて学校教育に必要な対応や支援、家庭や関連機関との連携について修得する。

### <授業の方法>

小児の主要疾患の病態生理について解説し、学校生活において病弱児に生じうる心身の症状や変化などに対して教育現場で教員が行うべき対応や支援などについて、学生自身が主体的な立場で考え実践する授業を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：学校生活で起こりうる病弱児の心身の症状や変化などに対して、教員が行うべき対応や支援などについて、学生自身が主体的な立場で考え実践する授業を行う。

### <準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

大学入学までの人体に関する生物学についての基礎的知識を理解していることを前提に授業を行います。十分な予習のもとに授業に臨み、講義で修得したことが将来の教育等社会活動に役立つように復習を繰り返し、さらに学びを発展させてください。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験40%、小テスト・レポート50%、授業態度10%

### <教科書>

適宜資料を配布する

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	健康の概念、小児の疾病の変遷に伴う病弱児教育の進展について	健康の概念、医療の進歩に伴う小児の疾患の変遷、病弱児の教育に必要な支援や配慮などについて理解する。
2	小児の身体の構造と機能、身体と心の発達過程、および病弱児の心理特性について	小児の身体の構造と機能、小児の心身の発達過程、病弱児における心理特性について理解する。
3	主な疾患（1）血液疾患	血液の成熟過程と機能、貧血や血友病等の病態生理や症状、学校生活での留意事項や医療との連携などについて理解する。
4	主な疾患（2）悪性疾患（小児がん）	白血病や脳腫瘍等についての病態や治療による後遺症、学校での支援のあり方や家庭・医療との連携などについて理解する。
5	主な疾患（3）感染症および学校で必要とされる感染予防策	小児期に流行しやすい感染症に関する基礎的事項や留意点、学校で必要とされる感染予防対策などについて理解する。
6	主な疾患（4）アレルギー性疾患Ⅰ	食物アレルギーの病態、特に急変について理解する。アナフィラキシー時の対処法（エピペンキットによる演習実施）を修得する。
7	主な疾患（5）アレルギー性疾患Ⅱ	免疫・アレルギーの基礎知識、アトピー性皮膚炎・小児喘息・膠原病の病態生理、学校での留意点や配慮などについて理解する。
8	主な疾患（6）腎・泌尿器疾患	腎・泌尿器の構造と機能、腎炎やネフローゼ症候群・腎不全の病態、学校生活での留意点などについて理解する。
9	主な疾患（7）小児循環器疾患	心臓の構造と機能、先天性心疾患や川崎病など小児心疾患の病態、学校生活での留意点などについて理解する。
10	主な疾患（8）小児の痙攣性疾患	脳の構造と機能、小児のてんかんの病態生理、学校生活での留意事項や教員が知っておくべき緊急時の対応について理解する。
11	主な疾患（9）小児内分泌疾患・肥満	肥満や主な内分泌疾患の病態、特に糖尿病について学校生活で必要とされる留意点や緊急時の対応などについて理解する。
12	主な疾患（10）小児の心身症・精神疾患関連	小児の心身症・精神疾患の特徴や最近の動向、学校生活での留意点や支援、家庭や関連機関との連携などについて理解する。
13	病弱児や神経発達症児の抱える諸問題と二次障害、および不登校について	病弱児や神経発達症児の心理特性、生じうる二次障害、学校生活で行うべき支援や配慮などについて理解する。

14	病弱児教育と家庭や医療、福祉行政などとの連携について	個々の児童の病態や心理特性を熟慮したうえで、教育と家庭・医療・福祉機関等との連携について理解を深める。
15	現在の課題と今後の展望	病気を抱える子どもの教育における現在の話題や課題、今後の病弱児教育について検討する。
16		

科目コード	23407				区 分	コア科目			
授業科目名	知的障害児教育 I				担当者名	林 栄昭／大野呂 浩志			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

【履修上の注意】※ この科目は「特別支援教育」または「特別支援教育総論」のいずれかの単位を習得中、もしくは習得済みであることを履修条件とする。【授業の概要】 この授業は、特別支援学校学習指導要領を分析し、知的障害特別支援学校の教育実践並びに実際に編成されている教育課程を提示し、その内容を理解するとともに、各教科等の指導における配慮事項について理解する。特別支援学校での勤務経験のある教員が実践的な授業を行う。

### <授業の到達目標>

特別支援学校学習指導要領を基準として知的障害特別支援学校の教育において編成される教育課程が有する意義を理解する。児童又は生徒の知的障害の状態や特性及び心身の発達の段階等、特別支援学校（知的障害）の教育実践並びに各学部や各段階のつながりを踏まえた教育課程の編成方法とカリキュラムマネジメントの考え方を理解するとともに、各教科等の指導における配慮事項について理解する。

### <授業の方法>

学生自身による事前事後学修でのコメントを補充・確認・整理・発展することを意図した講義と、グループワークやグループディスカッション等を通じた授業内容の深化・統合を図る演習の二つの要素を基調とした授業を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・課題解決型授業／グループディスカッション／ピアサポートラーニング／グループワーク／プレゼンテーション／特別支援学校観察実習

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の授業で前回までの内容について確認テストを課すため、1 1.5時間程度の予復習をすることが望ましい。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 20%、レポート提出 30%、定期試験 50%

### <教科書>

適宜資料を配布する。 適宜資料を配布する。

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	知的障害のある児童生徒の障害の状態や特性	知的障害の定義とその状態や学習上の特性を理解し、指導・支援の指針を描く。
2	特別支援学校学習指導要領の構成と特徴	特別支援学校学習指導要領（総則編・各教科等編・自立活動編）の構成と内容について、概要を知る。
3	特別支援学校（知的障害）における教育課程の意義と特徴	知的障害特別支援学校に独自の教育課程が編成されてことの意義やその特徴について、知的障害の特性を踏まえながら理解する。
4	知的障害特別支援学校における教育課程編成の方法	知的障害児教育特有の合わせた指導について理解し、生活年齢に合わせた指導形態の意義やその具体について理解する。
5	知的障害特別支援学校における各教科の目標、内容及び構造	知的障害特別支援学校における各教科等の概念や具体的な目標、内容及び構造について理解する。
6	知的障害特別支援学校における指導の形態（教科別の指導）	知的障害特別支援学校における各教科等の指導のうち、教科別の指導の意義や実態に応じた課題設定について理解する。
7	知的障害特別支援学校における指導の形態（領域別の指導）	知的障害特別支援学校における各教科等の指導のうち、自立活動の指導の重要性を理解し、領域別の指導の意義や実態に応じた課題設定について理解する。
8	知的障害特別支援学校における指導の形態（各教科等を合わせた指導）	知的障害特別支援学校における特有の各教科等を合わせた指導について、生活年齢に応じた具体的な内容を題材に、その意義と指導の特徴を理解する。
9	知的障害特別支援学校における自立活動の指導	特別な教育的ニーズのある子どもに特有の自立活動の指導について、指導の目標と内容項目の種類を合わせて理解する。
10	知的障害特別支援学校（小学部）の教育課程	知的障害特別支援学校における小学生の年齢に設定される教育課程の特徴を理解する。
11	知的障害特別支援学校（中学部）の教育課程	知的障害特別支援学校における中学生の年齢に設定される教育課程の特徴を理解する。
12	知的障害特別支援学校（高等部）の教育課程	知的障害特別支援学校における高校生の年齢に設定される教育課程の特徴を理解する。

13	知的障害特別支援学校における授業づくりと「個別の指導計画」の作成・活用	知的障害特別支援学校における授業づくりとの関係において、個別の指導計画の作成及び活用について理解する。また学校外との連携や将来の一貫した指導・支援につながる個別の教育支援計画の概要についても理解する。
14	自立活動の指導における「個別の指導計画」の作成・活用	障害のある子供の自立活動に特化した個別の指導計画の作成の意義や、その活用について、具体的な事例をもとに理解する。
15	知的障害特別支援学校における教育課程の評価と改善(カリキュラムマネジメントの考え方)	ここまで学修してきた知的障害特別支援学校の教育課程を踏まえ、その評価と改善のサイクルの重要性の理解をはじめ、評価と改善のあり方についてその概要を理解する。
16		

科目コード	23408				区 分	コア科目			
授業科目名	知的障害児教育Ⅱ				担当者名	林 栄昭／大野呂 浩志			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

【履修上の注意】※ この科目は「特別支援教育」または「特別支援教育総論」のいずれかの単位を習得中、もしくは習得済みであることを履修条件とする。【授業の概要】 この授業は、「知的障害児教育における指導法」をテーマに、知的障害の認知特性を授業に関連する様々な要素との関連で理解し、認知特性に沿った授業づくりについて学ぶ。特別支援学校での勤務経験のある教員が実践的な授業を行う。

### <授業の到達目標>

知的障害のある児童生徒の認知特性に応じた分かりやすく身につけやすい指導について理解し、実態に応じた指導を想起するとともに、特別支援学校(知的障害)における授業づくりの視点や方法を身に付ける。

### <授業の方法>

学生自身による事前事後学修でのコメントを補充・確認・整理・発展することを意図した講義と、グループワークやグループディスカッション等を通じた授業内容の深化・統合を図る演習の二つの要素を基調とした授業を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・課題解決型授業／グループディスカッション／ピアサポートラーニング／グループワーク／プレゼンテーション

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の授業で先回までの内容について確認テストを課すため、1～1.5時間程度の予復習をすることが望ましい。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 20%、模擬授業 50%、レポート課題 30%

### <教科書>

適宜資料を配布する。

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	知的障害の認知特性(実行機能とワーキングメモリ)	認知そのものの理解を前提とした知的障害児の認知特性について、高次脳機能の観点から理解を深める。
2	知的障害の認知特性と指導I(注意の持続)	知的障害の認知特性である注意持続の困難を取り上げ、注意持続の困難に対する具体的な対応について学ぶ。
3	知的障害の認知特性と指導II(記憶の保持)	知的障害の認知特性である記憶保持の困難を取り上げ、記憶保持の困難に対する具体的な対応について学ぶ。
4	知的障害の認知特性と指導III(実行機能への配慮)	知的障害の認知特性を代表する実行機能不全を取り上げ、実行機能不全に対する具体的な対応について学ぶ。
5	知的障害の認知と各教科等の指導	知的障害の認知的特性を踏まえ、各教科等の指導における題材設定、活動設定等について具体的事例をもとに理解する。
6	知的障害の認知と教材・教具	知的障害の認知的特性の理解をもとに、個々の特性を踏まえた教材のあり方や教材提示の仕方について理解する。
7	知的障害の認知と教科等合わせた指導	知的障害の認知的特性の理解をもとに、合わせた指導の効果的な設計の仕方について理解する。
8	知的障害特別支援学校における授業の実践I(各教科)	知的障害特別支援学校における各教科別の授業について、その題材設定、目標設定、活動設定について、具体的事例を通じて理解する。
9	特別支援学校(知的障害)における授業の実践II(生活単元学習)	知的障害特別支援学校における生活単元学習の授業について、その題材設定、目標設定、活動設定について、具体的事例を通じて理解する。
10	特別支援学校(知的障害)における授業の実践III(作業学習)	知的障害特別支援学校における作業学習の授業について、その題材設定、目標設定、活動設定について、具体的事例を通じて理解する。
11	知的障害の認知と自立活動の指導	知的障害の認知特性の理解をもとに、指導・支援の全てに関わる自立活動の指導が各教科等の指導において、いかに展開されるかについて理解する。
12	知的障害特別支援学校における授業づくりの基礎(学習指導案の作成)	通常教育における学習指導案との比較について、その共通点と相違点を意識しながら、特別支援学校特有の学習指導案の意義と作成の仕方を理解する。
13	模擬授業(各教科)	各教科別の学習指導案を作成し、模擬授業を行うとともに、授業後に行う批評会で、事後の指導指針や改善点を話し合い、学修内容の統合、具現化の能力を養う。
14	模擬授業(生活単元学習)	生活単元学習の学習指導案を作成し、模擬授業を行うとともに、授業後に行う批評

15	模擬授業(作業学習)	会で、事後の指導指針や改善点を話し合い、学修内容の統合、具現化の能力を養う。
16		作業学習の学習指導案を作成し、模擬授業を行うとともに、授業後に行う批評会で、事後の指導指針や改善点を話し合い、学修内容の統合、具現化の能力を養う。

科目コード	23409				区 分	発達障害児教育総論			
授業科目名	発達障害児教育総論 [FE用]				担当者名	松本 好生			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	あり

#### <授業の概要>

現在は、発達障害を知らずして、特別支援教育はあり得ないとまで言われる時代に突入している。そうしたなかで、特別な支援を必要とする児童・生徒がもつ感覚器官の特殊性などに起因する障害特性を理解することまでが教育現場で求められている。障害がある児童・生徒が、学習活動に参加していることへの実感や到達度課題への達成感が的確に獲得できるように、幼児期、学童期、思春期、青年期のライフステージごとの発達課題を踏まえて、我々の文化のなかでの生きにくさを軽減するための工夫や特別支援教育に必要な基礎知識、および教育現場での具体的な支援技法を理解することを目的とする。

#### <授業の到達目標>

1. 特別な支援を必要とする児童・生徒の障害の概念の歴史を理解する。2. 特別な支援を必要とする児童・生徒の障害特性を理解する。3. 特別な支援を必要とする児童・生徒への具体的な支援技法を理解する。4. 知的な遅れはないが、特別な教育的ニーズのある児童・生徒への合理的配慮など、その対応法について理解する。

#### <授業の方法>

・パワポによる視覚化を活かして講義する。・必要に応じて、その都度、資料を配布することもある。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・授業で出てくる専門用語を理解しておくこと。・授業後は、配信された資料と授業の内容を理解しておくこと。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席状況 10%、定期試験 90%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・オリエンテーション・特別支援教育とは	授業の進め方についてのガイダンス
2	共生社会とインクルージョン	・共に生きる社会とインクルージョンは異なることの理解・「インクルージョン」「インクルーシブ教育」とは
3	障害がある子どもの教育とその歴史	特殊教育から特別支援教育への変遷を理解する。
4	肢体不自由者の心理・生理・病理	障害の特性の理解と、指導・支援について考える。
5	病弱者の心理・生理・病理	障害の特性の理解と、指導・支援について考える。
6	重度重複障害者の心理・生理・病理	障害の特性の理解と、指導・支援について考える。
7	知的障害者の心理・生理・病理	障害の特性の理解と、指導・支援について考える。
8	発達障害の歴史と概念の変遷	・「発達障害」という概念の混乱（欧米の障害体系とわが国の違い）・カナリー、Lから、ラター、Mの発達障害は「脳の機能障害説」へ
9	発達障害はPDDからASDの時代へ	カテゴリー的アプローチからディメンジョン的アプローチへ
10	発達障害の障害特性（ASD）	「心の理論障害」を踏まえたASDの障害特性を理解する。
11	発達障害の障害特性（ADHD）	ADHD（注意欠如多動症）の障害特性を理解する。
12	発達障害の障害特性（ADHD）	ADHD（注意欠如多動症）の支援技法を理解する。
13	発達障害の障害特性（LD）	LD（限局性学習症）の障害特性と支援技法を理解する。
14	不適応を示す行動の分析法	応用行動分析とTEACCHプログラムから対応法を理解する。
15	個別教育支援計画と指導計画と学級経営の手法	個別教育支援計画と個別指導計画の理解と、それを策定するに当たっての手順と配慮事項に基づく学級づくりについて理解する。
16		

科目コード	23409				区 分	コア科目			
授業科目名	発達障害児教育総論 [他学科]				担当者名	大野 呂 浩志			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症、言語障害、情緒障害の要因となる脳機能及びそれらに起因する行動の特性を把握することの意義と方略を理解するとともに、障害に伴う行動上の問題に対する指導・支援方法の基礎を学ぶ。

#### <授業の到達目標>

この授業は、教育場面や実生活で出会う発達障害を理解し、必要な指導・支援ができることを目指して幅広く知識を獲得する。発達障害の要因となる脳機能及びそれらに起因する行動上の問題に対する指導・支援方法の基礎を学ぶ。特別な指導や支援の経験のある教員が実践的指導を行う。

#### <授業の方法>

学生自身による事前事後学修でのコメントを補充・確認・整理・発展することを意図した講義と、グループワークやグループディスカッション等を通じた授業内容の深化・統合を図る演習の二つの要素を基調とした授業を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・課題解決型授業／グループディスカッション／ピアサポートラーニング／グループワーク／プレゼンテーション

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の授業で先回までの内容について確認テストを課すため、1〜1.5時間程度の予復習をすることが望ましい。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 40%、小レポート・小テスト 50%、授業態度 10%

#### <教科書>

適宜資料を配布する。

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	発達障害と社会	発達障害にみられる症状の連続性とそれらの社会的認識について理解する。
2	学習障害(LD)の理解と指導・支援	学習障害の定義やその症状の理解をするとともに、具体的な指導・支援について理解する。
3	注意欠如・多動性障害(ADHD)の理解と指導・支援	ADHDの定義やその症状の理解をするとともに、具体的な指導・支援について理解する。
4	自閉症スペクトラム障害の理解	自閉症スペクトラム障害の定義やその症状、それらの症状に関連する脳基盤について理解する。
5	自閉症スペクトラム障害の指導・支援	自閉症スペクトラム障害の神経心理学的理解をもとに、その障害特性に応じた指導・支援について理解する。
6	発達性協調運動障害の理解と指導・支援	発達性協調運動障害に関する神経心理学的理解をもとに、具体的な支援について理解する。
7	言語障害・情緒障害の理解と指導・支援	言語障害・情緒障害の具体的事例を通じて、その概要の理解と支援について理解する。
8	トゥレット障害、強迫性障害の理解と指導・支援	トゥレット障害、強迫性障害の具体的症例を取り上げ、それらの障害特性と適切な支援について理解する。
9	二次障害の理解と指導・支援	環境要因による二次的な困難発生の機序と適切な指導・支援のあり方について理解する。
10	観察や諸検査にみる発達障害の特性と指導・支援	自閉スペクトラム症やLD、ADHDにみられる諸検査成績の特徴と成績に応じた支援の考案の方法について理解する。
11	通級による指導や特別支援学級における自立活動の指導	発達障害に対する自立活動の指導を中心とした通級指導教室や特別支援学級における指導について理解する。
12	通常学級における発達障害のある子どもの指導と支援	インクルーシブな教育環境における発達障害への対応について、具体的な活動設定や教材使用のあり方を理解する。
13	通常学級の指導における自立活動の指導	通常学級における実現可能な自立活動の指導のあり方について理解する。
14	発達障害のある子どもの自立活動の指導における個別の指導計画	自立活動の指導の基本的な考え方を念頭にしつつ、通常教育における発達障害のある児童の重点課題の設定の仕方について理解する。
15	特別支援教育のセンター的機能と諸機関	特別支援学校や医療・福祉期間等と通常教育場面の連携の意義と効果について理解

16	との連携	する。
----	------	-----

科目コード	23410				区 分	コア			
授業科目名	肢体不自由児教育				担当者名	高橋 章二			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

肢体不自由児教育の対象となる子どもの疾患、教育の場の特徴、教育課程、歴史的経緯などを概観し、一人ひとりの子どもの教育的ニーズを基本的な視点として、教育課程、自立活動、教科指導などについて、実践事例をもとにして具体的に授業を行う。

#### <授業の到達目標>

肢体不自由児の教育課程、自立活動の視点に基づいた個別支援と学習指導について理解し、実践しようとする。①肢体不自由教育の学校・学級等の制度を理解する。②肢体不自由教育における教育課程の編成について理解する。③肢体不自由教育における自立活動の指導について理解する。④肢体不自由者に対する個別の指導計画に応じた学習指導案を立案できる。

#### <授業の方法>

授業はテキストやPowerPoint資料等を使って講義形式で行う。課題検討のためグループワーク等を取り入れる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

授業内に毎回グループで検討していく課題を設定してグループワークを行い、話し合われたことを全体に発表して全体での共有を図る。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前にクラスルームに提示された講義資料に目を通してポイントをチェックする。（1時間）講義終了後は、授業の中で重要と述べられた事項についてさらにインターネット教科書等を使い深める。（1時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・授業態度20%、模擬授業20%、学習指導案20%、試験40%

#### <教科書>

文部科学省（H30・3） 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 開隆堂出版株式会社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	肢体不自由教育の学校・学級等の制度及び指導法の変遷	明治期からの肢体不自由教育の変遷とそれに伴う指導法の変遷についての検討
2	肢体不自由特別支援学校における教育課程の編成、自立活動の意義	肢体不自由特別支援学校の3類型の教育課程の理解と自立活動の重要性について
3	肢体不自由特別支援学校における教科等の指導	肢体不自由特別支援学校 準ずる教育課程の教科指導の実際
4	肢体不自由特別支援学級と肢体不自由通級による指導における教育課程の編成と指導の実際	肢体不自由特別支援学級と肢体不自由通級の現状と教育課程の編成の工夫と実際
5	肢体不自由教育における自立活動の指導①	肢体不自由教育における自立活動の指導の指導の在り方3類型に対応した自立活動の実際
6	肢体不自由教育における自立活動の指導②	自立活動を主とする教育課程の児童をに対する架空事例を用いた個別の指導計画作成の作成（実態把握から目標、内容、指導場面設定の手順）
7	肢体不自由教育における自立活動の指導③	肢体不自由教育における自立活動の指導：身体の動きに関する指導の実際
8	肢体不自由教育における自立活動の指導④	肢体不自由教育における自立活動の指導：健康の保持に関する指導の実際
9	肢体不自由教育における自立活動の指導⑤	肢体不自由教育における自立活動の指導：人間関係の形成の指導の実際
10	肢体不自由教育における自立活動の指導⑥	肢体不自由教育における自立活動の指導：コミュニケーションに関する指導の実際
11	肢体不自由教育における自立活動の指導⑦	肢体不自由教育における自立活動の指導：心理的な安定に関する指導の実際
12	肢体不自由教育における自立活動の指導⑧	肢体不自由教育における自立活動の指導：環境の把握に関する指導の実際
13	肢体不自由教育における個別の指導計画⑨	仮想例に基づく個別の計画作成演習

14	自立活動の指導案の書き方①	肢体不自由特別支援学校における自立活動の指導案の基本的な考え方 架空事例に基づく自立活動指導案の作成
15	自立活動の指導案の書き方②	
16		

科目コード	23411				区 分	コア			
授業科目名	病弱児教育				担当者名	高橋 章二			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

・病弱教育の意義、対象、システム、個別の教育支援計画、個別の指導計画、教育課程の類型等、病弱教育の基本について理解する。・児童生徒等が抱えている病気を理解し、個々のニーズに対応した教育課程や指導法(教科指導・自立活動など)について基礎的な知識を修得する。また、特別支援学校、特別支援学級、病院内学級での教育支援などの実際に触れながら、実践に生きる知識の修得を目指す。

#### <授業の到達目標>

○病弱・病弱教育に関する基礎的な事項や教育内容・方法の基礎について説明することができる。○病気の子どもの心理を理解し、社会的教育的 支援について説明することができる。

#### <授業の方法>

授業はテキストやPowerPoint資料等を使って講義形式で行う。課題検討のためグループワーク等を取り入れる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

授業内に毎回グループで検討していく課題を設定してグループワークを行い、話し合われたことを全体に発表して全体での共有を図る。

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前にクラスルームに提示された講義資料に目を通してポイントをチェックする。(1時間)講義終了後は、授業の中で重要と述べられた事項についてさらにインターネット教科書等を使い深める。(1時間)

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

出席・授業態度20%、課題レポート20%、試験60%

#### <教科書>

一般社団法人日本育療学会 山本昌邦、島治伸、滝川国芳(2022年) 標準「病弱児の教育」テキスト 改訂版 ジアース教育新社

#### <参考書>

文部科学省(H30・3) 特別支援学校学習指導要領解説総則等編(幼・小・中) 開隆堂出版株式会社  
文部科学省(H30・3) 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編 開隆堂出版株式会社

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	病弱・病弱教育の捉え方と病弱教育の意義・対象	病弱・病弱教育についての捉え方および病弱教育の教育的意義や病弱教育が対象とする疾病について
2	病弱教育のシステム	病弱教育の場としての病弱特別支援学校や特別支援学級(院内学級)の理解
3	病弱教育における教育課程の4類型	病弱教育における準ずる教育課程、下学年対応における教育課程、知的代替の教育課程、自立活動を主とする教育課程の特徴
4	病弱教育における個別の教育支援計画と個別の指導計画	病弱教育における個別の教育支援計画及び個別の指導計画の役割と実際
5	病弱教育の授業づくりの特色—教科指導の基礎	病弱特別支援学級、院内学級における小人数教科指導の基本的な考え方
6	病弱教育の授業づくりの特色—教科指導の応用	病弱特別支援学級、院内学級における小人数教科指導の具体的な指導方法と事例検討
7	病弱教育とICT活用 遠隔授業のあり方	病弱教育におけるICT活用の現状と課題オリヒメ等を活用した遠隔授業の実際
8	病弱教育における自立活動	病弱教育における自立活動の基本的な考え方と具体的な指導
9	病弱児教育の歴史的変遷	明治時期における栄養不良児救済事業から昭和初期におけるハンセン病、結核患者に対する病弱教育の変遷と課題
10	病弱児の教育を保障するトータルケアとコーディネーション	院内学級における医師や看護師、院内学級担当者等の連携と、医療的側面・心理的ケア、教育的ケア等の総合的な支援体制
11	慢性疾患の理解と学校生活(1)	慢性疾患の子どもたちの病気理解と学校生活を送る上での配慮
12	慢性疾患の理解と学校生活(2)	慢性疾患の子どもたちの心理的負担と自己管理
13	慢性疾患の理解と学校生活(3)	院内学級入級から復学支援
14	医療的ケアの必要な子どもの理解と学校生活	病弱教育における医療的ケアの実際と具体的な方法
15	病弱教育の課題と今後の展望	病弱児虚弱児の豊かな学びを保障するための課題整理と今後解決を図るべき事項の検討



科目コード	23412				区 分	コア			
授業科目名	重複障害児教育総論				担当者名	高橋 章二／松本 好生			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

この授業では、重複障害を巡る医療と教育の現状について理解を深め、対応の概要に関する基本的な知識を身につける。また、重複障害児に対する教育にかかわり、学習指導要領に規定されている重複障害者等に関する教育課程の取り扱いについて適切に理解することができるようにする。さらに、学校や地域生活などの様々な場面における医療と教育、福祉との連携による効果的な支援について、基本的な情報をもとに、実際の指導及び支援内容を考える。

#### <授業の到達目標>

重複障害の概念や重複障害児の特徴を理解し、それらの特徴を把握するためのアセスメントや特徴に応じた学校場面における指導や支援の実践について、その基本的な知識を習得することができる。

#### <授業の方法>

授業はテキストやPowerPoint資料等を使って講義形式で行う。課題検討のためグループワーク等を取り入れる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

業内に毎回グループで検討していく課題を設定してグループワークを行い、話し合われたことを全体に発表して全体での共有を図る

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前にクラスルームに提示された講義資料に目を通してポイントをチェックする。（1時間）講義終了後は、授業の中で重要と述べられた事項についてさらにインターネット教科書等を使い深める。（1時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・授業態度10%、試験90%

#### <教科書>

文部科学省（H30・3） 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼・小・中） 開隆堂出版株式会社

文部科学省（H30・3） 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編 開隆堂出版株式会社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	重複障害の定義（定義と歴史）	重複障害、重度重複障害、重症心身障害児の名称と対象（大島の分類）
2	重複障害児の理解（くらしの実際）	重複障害児の学校生活、家庭生活場面の実際
3	重複障害児のコミュニケーションと支援	重複障害児のコミュニケーションの課題と具体的な支援方法
4	重複障害児の特性と指導法	重複障害児の特性に応じた指導方法の実際
5	重複障害の健康支援と支援機器	重複障害の健康支援と支援機器の活用方法の実際
6	問題行動への心理的介入法	心理アセスメント、知能検査、発達検査等の方法と活用について
7	学習指導要領における重複障害者等に関する教育課程の取り扱い①	学習指導要領上で示されている教育課程の特例について
8	学習指導要領における重複障害者等に関する教育課程の取り扱い②	自立活動の取り扱いについて
9	学校場面における重複障害の支援の実際①	感覚・運動機能トレーニングの方法
10	学校場面における重複障害の支援の実際②	言語・コミュニケーショントレーニングの方法
11	学校場面における重複障害の支援の実際③	心理療法について
12	学校場面における重複障害の指導の実際①	盲重複障害者・ろう重複障害者への支援技法
13	学校場面における重複障害の指導の実際②	行動障害がある人への支援技法
14	重複障害を取り巻く地域連携の現状を知る	重複障害を取り巻く地域連携の具体的な事例について
15	重複障害のある人への諸機関の連携と地域支援	重複障害のある人への諸機関の連携の在り方および具体的な支援
16		

科目コード	23413				区 分	コア科目			
授業科目名	障害児教育相談と心理アセスメント				担当者名	大野 呂 浩志			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習・実技	卒業要件	選択

### <授業の概要>

特別支援教育における教育相談は、障害によって生じる様々な困難さを理解し、適切な支援を施すことによって、子どもの育ちを支援し、保護者や児童生徒に関わる教育職員等を支援することである。問題の所在に気づき、その意味を考え、具体的支援を考えるため、この講義では、知的障害、病弱、肢体不自由及び発達障害に関する基本的知識や障害のアセスメントに関する基礎知識、困難が生じるメカニズム、またカウンセリングそのものの基本的な知識について理解することができる。

### <授業の到達目標>

障害による困難を客観的に評価するアセスメントの種類やそれぞれのアセスメントの目的や適切な活用について、概要を理解することができる。また実際の障害児の教育相談事例を取り上げ、その内容に応じたアセスメントの適用や本人や家族への指導や支援の方針を具体的に想起することができる。

### <授業の方法>

・講義／演習／課題解決型学習／ディスカッション／グループワーク／ピアサポートラーニング／プレゼンテーション等の様々な形態において、取り扱う事象を等身大の理解に基づき、学ぶことができるように展開する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・課題解決型学習／ディスカッション／グループワーク／ピアサポートラーニング／プレゼンテーション

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・次時の授業内容について、30分～1時間程度の事前学習と、事後1時間程度の復習が望ましい。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート 40点、定期試験 40点、授業態度 20点

### <教科書>

適宜資料を配布する。 適宜資料を配布する。 適宜資料を配布する。

### <参考書>

適宜資料を配布する。 適宜資料を配布する。 適宜資料を配布する。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション：アセスメントの意義と教育相談への活用	心理・神経心理アセスメントの種類と有用性について概略及び、その教育領域における活用法について、講義やピアサポートラーニングを通じて理解する。
2	小児の発達と発達検査（遠城寺・デンバー発達検査）	乳児期・幼児期の神経発達と運動・知能・言語発達を中心に遠城寺およびデンバー発達検査について、講義やピアサポートラーニングを通じて理解する。
3	個別式知能検査（田中ビネー・WISC）にもとづく脳機能評価（Ⅰ）	小児期認知・言語発達を中心に田中ビネーおよびWISCの意義や適用目的、講義とピアサポートラーニングによって理解する。
4	個別式知能検査（田中ビネー・WISC）にもとづく脳機能評価（Ⅱ）	小児期認知・言語発達を中心に田中ビネーおよびWISCの実際の検査具を使いながら、講義とピアサポートラーニングを通じて、アセスメントの概要を理解する。
5	神経心理学的検査による脳機能評価	各種神経心理学的検査の特性を概説し前頭前野の機能的関連について理解する。
6	Rey-Ossteriethの複雑図形にもとづく視覚認知機能評価	Rey-Ossteriethの複雑図形の検査法と特性について概説し臨床応用について理解する。
7	障害による困難の理解と教育相談（Ⅰ）	高次脳機能不全と発達障害児の学習上・生活上の困難の関連について理解する。
8	障害による困難の理解と教育相談（Ⅱ）	発達障害児の示す実際の学習上・生活上の困難への対応について、その手続きや対応における留意点について理解する。
9	教育現場における知的障害及び発達障害の就学及び生活現状	知的障害や発達障害のある幼児児童生徒の就学の現状をや生活状況を知り、教育や生活における障害のある子どもの困難さを理解する。
10	知的障害及び発達障害の特性に応じた具体的な指導・支援	知的障害や発達障害の障害特性を知り、特性に応じた生活場面や教育場面における具体的な支援について理解する。
11	学校の教育課程の内容別にみる支援体制	各学校園における特別なニーズのある子どもへの支援について、それぞれの教育課程の特徴と関連付けながら理解する。
12	知的障害及び発達障害のある児童生徒にかかわる学校と地域の連携	障害のある幼児児童生徒を巡る教育現場と家庭や地域とのつながりについて、各学校園の規模や特徴と関連させて理解する。
13	知的障害及び発達障害の臨床事例（保護者の視点から）	知的障害と発達障害のある子どもをもつ保護者のニーズについて、それぞれの子どもの実態と合わせて理解する。

14	知的障害及び発達障害の臨床事例（児童生徒の視点からの指導・支援分析）	知的障害と発達障害のある子どもに対する実際の指導事例を基にした指導・支援内容や方法について理解する。
15	知的障害及び発達障害の臨床事例にみる学校と家庭との連携	具体的な事例を通じて教育現場と家庭や地域との連携の在り方について理解する。
16		

科目コード	23501				区 分	コア			
授業 科目名	教育の諸問題				担当者名	濱嶋 幸司			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（教育社会 学コース 必修）

#### <授業の概要>

教育現象に対して「問題」という側面からアプローチをおこない、履修者に教育への多面的な見方、選択・評価の在り方を養うことを目的とする。当たり前のように用いている「問題」の前提を問い直し、なぜ「問題」となるのか。「問題」とすることで誰に、どのような利害関係が生じているのか、俯瞰的な立場から、あえて正解／不正解、善／悪の判断を保留させ、教育にかかわる諸問題の多さ、複雑さを理解していくことがねらいである。最終的には価値を相対化させ、多様な価値観を尊重し、その中で自分自身にとって最適な選択とはどういうものか、より望ましい教育および社会の在り方を実践できる心構えを習得することが到達目標となる。

#### <授業の到達目標>

①教育には様々な課題（＝問題）があることを理解する②問題とは自然発生的ではなく、人間によって構築されたものであるという立場を習得する③問題の背景、利害関係を理解する④問題解決の糸口を見つけることができる⑤教育によって解決できる問題と解決できない問題があることを論理的に説明することができる

#### <授業の方法>

前半30分は講師による説明および課題説明をこなう。中盤30分は個人およびグループで課題について考察、話し合いをおこなう。後半30分は課題について全体で共有し、個人で振り返りをおこなう。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 各回毎のテーマについてリアクションペーパーを提出し、次回以降で成果を共有する

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回終了後には内容を再確認しておくこと。また、次回に備えて関連資料に目を通すなど予習をしておくこと。単位習得に必要な学修時間を費やすこと（予習90分・復習90分）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 15%、授業内課題 30%、中間報告 25%、最終レポート 30%。授業内課題は授業中に評価をおこない、提出物は次回までに採点して返却する。クラスルームを活用する。中間報告および最終レポートについては事前に概要を伝える。本科目は暗記や既有知識での評価をせず、「問題」に対して自分がどのように向き合ったのか、その過程や思考の在り方が具体的にかつ論理的に説明されているかを評価基準として据える。多様な価値を認め、自分の知識として吸収し、最終的に自身の考えを的確の述べることが求められる。

#### <教科書>

特に指定しない

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション：教育の諸問題	科目のねらい、到達目標、授業の進め方、成績評価基準などの説明
2	問題とは何か？	問題そのものを問題として考えてみる
3	問題の背後を探る	構築主義的アプローチの紹介
4	教育が問題①	近代教育の歴史・制度
5	教育が問題②	カリキュラム（顕在・潜在）
6	教育が問題③	権力の存在（服従と自由の間）
7	教育が問題④	学歴の獲得と再生産
8	中間報告	これまでの授業での気づき、成果、不明点などを報告、共有。
9	教育に問題①	「こども」を考える
10	教育に問題②	「親」を考える
11	教育に問題③	「教師」を考える
12	教育の問題①	逸脱・非行との向き合い方
13	教育の問題②	道徳・マナーとの向かい合い方
14	教育の問題③	グローバル（ローカル）との向き合い方
15	まとめ	教育の諸問題からわかったこと
16		

科目コード	23503				区 分	専門基礎			
授業科目名	社会学概論				担当者名	濱 嶋 幸 司			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（教育社会学コース必修）

### <授業の概要>

社会学概論では、社会学の基礎的な考え方、理論、用語を学ぶ。社会学という学問に触れるのではなく、現代社会をフィールドにして、人々の生活（ライフ）と人生（キャリア）の送り方を社会学の視点を使って読みといていく。社会学には独特の思考、手法があり、当たり前前の日常に対して距離を取ることで、これまでの見え方とは異なる（複眼的、鳥瞰的）姿を確認することができる。履修者とは社会学の面白さと人生の多様さ、多彩さ、自ら築き上げることのできる楽しさを共有する。講義形式を想定しているが、履修者同士による発言・対話をおこない、最終的には自分の言葉で社会学とはどういうものか、社会学はどのようにいかせそうなのか、記述できることを目指す。能動的な参加を望む。

### <授業の到達目標>

①社会学の基礎的な考え方、用語を理解できる。②現代日本社会の多様なライフコースとキャリア形成を理解する。③自分の人生を切り開くために有効となる社会学の視点がどのようなものなのか説明することができる。

### <授業の方法>

前半に基礎的な社会学用語を説明する。中盤で具体的事例を交えた説明をする。後半は小課題もしくはリアクションペーパーを完成させて、履修者間で成果を共有する。なお履修者へは各回資料を配布する。各回の理解および振り返りを求める。クラスルームを活用し、事情によってはオンデマンド講義もありうる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 各回毎のテーマについてリアクションペーパーを提出し、次回以降で成果を共有する

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回終了後には内容を再確認しておくこと。また、次回に備えて関連資料に目を通すなど予習をしておくこと。単位習得に必要な学習時間を費やすこと（予習90分・復習90分）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回で実施する小課題・リアクション（40%）、中間レポート（30%）、最終テスト（30%）。

### <教科書>

特に指定しない（参考書を参照しながら講師が独自に説明する）

### <参考書>

西村純子・池田心豪（2023）『社会学で考えるライフ&キャリア』 中央経済社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション：今という時代をどう生きるか？	科目のねらい、到達目標、授業の進め方、成績評価基準などの説明
2	現代社会での人生①：働く	日本の資本主義社会で働くということ、雇用慣行、雇用システム
3	現代社会での人生①：福祉社会で生きる	誰と助け合うか、日本の社会保障・社会福祉の形成
4	現代社会での人生①：階層社会	格差社会とライフコース、社会階層論の基本的な考え方
5	就職して「社会人」になる②：就活	新卒一括定期採用、日本型雇用システムと大衆教育社会
6	就職して「社会人」になる②：異動と昇進	昇進・異動をめぐる企業と人、長期雇用、キャリア選択
7	就職して「社会人」になる②：パート・アルバイト	雇用形態、正規雇用、非正規雇用、キャリアの違い
8	中間テスト	第1回～第7回までの復習→テスト実施
9	就職して「社会人」になる②：貧困	日本の貧困、戦後→バブル→失われた30年、立ち向かい方
10	就職して「社会人」になる②：地域密着	地方移住、コミュニティ、都市化、郊外化、過疎化、限界集落
11	「普通の人生」はあるのか③：未婚・結婚	親のライフコース、近代家族と婚姻制度、これからの結婚
12	「普通の人生」はあるのか③：親になる	「母親らしさ」「父親らしさ」、出産育児、ジェンダー、多様な性
13	「普通の人生」はあるのか③：ひとり親として日本社会をどう生きるか	ひとり親家庭、経験、離婚を「不幸」につなげない
14	「普通の人生」はあるのか③：介護	親の介護は誰が担う、多様化する介護問題、仕事との両立
15	展望：人生100年時代をどう生きるか	少子高齢社会のライフ&キャリア、年齢にとらわれないライフ&キャリア、社会を生き抜く技法



科目コード	24102				区 分	専門基礎			
授業科目名	時事英語				担当者名	竹下 厚志			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義、演習	卒業要件	なし

### <授業の概要>

地球市民として、世界の人たちと様々な分野で交流を持つための基本的な英語コミュニケーション能力を育成することを目的とします。主なテーマをSDGsとして、私たちが直面しているグローバルイシューの解決について一緒に考えていながら、同時に英語コミュニケーション能力を伸ばしていくことを目指します。【重要】基本的には英語で授業を行います。そのため、英語の教員免許希望者は履修を勧めます。

### <授業の到達目標>

・SDGsについて基本的な知識を身に付けている。・英語コミュニケーション能力の5技能がバランスよく習得されている。・グローバルイシューについて論理的、批判的、多面的に思考しながら理解している。・SDGsの解決に向けた自分なりの解決策を提案することができる。

### <授業の方法>

主に2つのパートから授業は構成されます。一つは英語コミュニケーションの技能習得を目的としたトレーニングです。5技能統合型の手法でCEFR B2 レベル以上を目指します。もう一つはSDGsを中心としたグローバルイシューを通して思考力の向上を目指します。単に英文を理解するという表面的な学習ではなく、皆さんがその世界課題に対してどのように考え、解決のための行動を起こせるかについて一緒に考え、行動計画を立てたいと思います。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり。ディスカッション（テーマごとにまとめと意見交換）、プレゼンテーション（各テーマに関する概要、問題提起、解決策、意見）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

扱っているテーマについて日ごろから社会情勢（世界情勢）に敏感になるための情報収集をしてください（毎日30分以上）。また、発表に向けて準備は万全にしてください（2時間以上）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加度40%、提出物提出20%、発表40%（原則、英語による発表）

### <教科書>

### <参考書>

竹下 厚志（2021年2月25日） SDGs 英語長文 Core 三省堂

竹下 厚志（2019年4月12日） SDGs 英語長文 三省堂

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	今後の学習の方向性の相談
2	テーマ学習①	身近なテーマについて意見交換
3	テーマ学習②	身近なテーマについて意見交換
4	テーマ学習③	身近なテーマについて意見交換
5	テーマ学習発表①	身近なテーマに関する意見発表
6	テーマ学習④	グローバルイシューに関する英文理解とトレーニング
7	テーマ学習⑤	グローバルイシューに関する英文理解とトレーニング
8	テーマ学習⑥	グローバルイシューに関する英文理解とトレーニング
9	テーマ学習発表②	グローバルイシューに関する意見発表
10	テーマ学習⑦	日本と直接関係する社会問題に関する英文理解とトレーニング
11	テーマ学習⑧	日本と直接関係する社会問題に関する英文理解とトレーニング
12	テーマ学習⑨	日本と直接関係する社会問題に関する英文理解とトレーニング
13	テーマ学習発表③	最も関心のある社会問題に対する発表①
14	テーマ学習発表③	最も関心のある社会問題に対する発表②
15	SDGsに関する理解の確認と自分の学習軌跡の振り返り	SDGsに関するQAと振り返りレポート
16		

科目コード	24104				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	異文化コミュニケーション論				担当者名	羽田 あずさ			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

グローバル化が進む現在、異文化を背景として持つ相手と接触する機会も増えています。この授業は、まず自分を知り、次に相手の文化を理解し尊重する態度を身につけることを目的とします。そして様々な事例を読んだり、活動や実践に取り組んだりすることから、異文化理解および異文化コミュニケーションの意義や方法を学びます。なお、この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCを持参の上、臨んでください。受講者多数の場合は英語教員免許または日本語教員資格の取得予定者、および受講意欲の高い学生を優先します。

#### <授業の到達目標>

①異なる文化背景を持つ人々と協力できる関係をどのようにすれば築けるかが理解できる。②相手の文化を知り、それを尊重する態度を身に付ける。③自分の持つ価値、支える背景文化に気づき、世界（特に英語圏）の価値観や、その背景となる社会・文化が理解できる。

#### <授業の方法>

(1) 講義（教員による解説と問いの提示）(2) グループワーク（学習内容に関する教え合い）(3) ディスカッション（問いに対する回答）(4) 省察活動（まとめと発表）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング（グループディスカッション、ピア・フィードバック、ジグソーなど）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テキスト購読や各授業テーマにおける自身の体験・経験の掘り起こしを予習とします（1時間程度）。授業後は学んだ内容をどのように生かし、実践していきたいかをレポートにまとめます（1時間程度）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業課題への取り組み・意欲30%、レポート課題 50%、まとめテスト 20%

#### <教科書>

原沢伊都夫（2024年9月19日） 異文化理解入門（改訂版） 研究社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	授業の進め方と異文化理解の意義について考える。
2	文化とは①	文化の定義について学び、自分の文化を振り返る。
3	文化とは②	私たちが属している文化に気づき、そこから異文化とは何か考える。
4	異文化適応①	私たちが異文化の中におかれた時、どのように適応していくのか、異文化適応の理論を学ぶ。
5	異文化適応②	ゲームを行い、異文化に接触したときの疑似体験をする。その体験から感じたことを話し合う。
6	視点を変える	いくつかの活動を通じて、視点を変える練習をする。
7	ステレオタイプ	自分が持っている固定観念に気付く活動を行う。また、固定観念を持つ理由を学ぶ。
8	差別と異文化理解	映像資料を視聴して、差別が起こる原因について考える。
9	世界の価値観	様々な価値観について知り、それについて考える。自分の価値観と他者の価値観を比較する。
10	異文化トレーニング	異文化を理解するトレーニングを1つ体験し、異文化理解の方法を知る。
11	異文化受容	異文化を受け入れるプロセスを学び、自分の異文化受容度を内省する。
12	自分を知る	自分を知るための簡単なテストや活動を行う。授業の最後に今日知った自分について発表する。
13	非言語コミュニケーション	非言語コミュニケーションにはどのようなものがあるか学び、自分はどのような非

14	コミュニケーションスタイル	言語コミュニケーションをしているか内省する。
15	まとめ	自分のコミュニケーションスタイルを知る。また、相手を尊重するコミュニケーションの方法を考える。
16		多文化共生社会に参画するために。異文化理解・異文化コミュニケーションを役立てるとは。

科目コード	24107				区 分	コア科目			
授業 科目名	異文化コミュニケーション				担当者名	溝越 隆興			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語 教師養成必修）

#### <授業の概要>

現代社会はグローバル化・多様化が進んだことにより、様々な考えや価値観を受け入れ、取り入れる国際的人材の育成が急務となりました。この授業では、「異文化」をキーワードとし、世界にある様々な価値観、考え方を学びながら、同時に自分の価値観、考え方といった自文化を振り返ります。その上で、異なる文化背景を持つ者とのようにコミュニケーションをとっていったらよいか学びます。なお、この授業は日本語教員資格取得に必要な科目です。60名を超える場合、抽選にします。

#### <授業の到達目標>

①周りには異文化があふれ、人が違えばその人の価値観、ものの見方も違うということが理解できる。②自分の持つ考え方・価値観など、「自文化」について客観的に見るができるようになる。③意見が対立しても、相手の文化を尊重しながら、自分の考えを伝えることで、相手と自分を尊重した話し合いができるようになる。

#### <授業の方法>

基本的にはテキストに従って進めていく。知識を解説後、グループワークやディスカッションを中心に活動を行う。適宜、Googleアプリ、動画教材を用いる。そして、活動でわかったこと、感じたこと、疑問に思ったことについて、グループで話し合い、グループまたは個人で発表し、意見交換を行う。大きなテーマについては、話し合ったことや調べたことについてレポートを提出してもらう。課題管理については、Google Classroomで行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有り日本人学生・留学生混合の3-4人のグループに分かれ、各回のテーマについてディスカッションを行う。意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

（予習）授業では、活動中心のため、教科書の事前学習が必要である。（30分）（復習）授業内容をまとめ、教科書の知識をどう使うかといった取り組みについての課題を求める。（1時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー5（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）およびディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

話し合いへの参加10%、授業課題・毎回の小テスト20%、事後課題30%、レポート40%

#### <教科書>

原沢 伊都夫 異文化理解入門 株式会社 研究社

#### <参考書>

ヒューマンアカデミー（2021年9月5日） 日本語教育教科書 日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド第5版 翔泳社

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業内容・評価方法の説明。異文化間教育とは
2	文化とは何か（1）	文化のモデル 常識・非常識について考える。
3	文化とは何か（2）	自分の文化について考える。 文化の特徴
4	異文化適応	異文化適応について理解する。自分の異文化適応を考える。
5	違いに気づく	文化の違いとは何か考える。
6	異文化の認識	固定観念・ファイリング・ステレオタイプとは何か学ぶ。
7	差別について考える①	差別の種類・差別が生まれる背景について学ぶ。 宿題（日常生活で差別につながり そんな問題を探す・発表準備・レジュメ提出）
8	差別について考える②	宿題の発表 話し合い ニュースとなった出来事について確認し、意見交換をする。
9	世界の価値観	世界にある代表的な価値観について学ぶ。
10	異文化トレーニング①	様々な異文化トレーニングの方法を学ぶ。DIEメソッドを実際に行ってみる。
11	異文化トレーニング②	DIEメソッドによる分析と結果の発表
12	異文化受容	異文化受容のプロセスについて学ぶ。
13	自分を知る	ジョハリの窓による分析
14	コミュニケーション	言語・非言語コミュニケーションとは何か学び、その重要性を理解する。

15	アサーティブ・コミュニケーション・ま	アサーティブ・コミュニケーションの方法を学ぶ。 多文化共生社会に向けて考え
16	とめ	る（レポート提出）。

科目コード	24108				区 分	専門基礎			
授業 科目名	英語文学				担当者名	和栗 了			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

この授業は、アメリカ合衆国の文学を代表するマーク・トウェイン (Mark Twain) の短編作品について講義する。アメリカとは何か、文学とは何かを、トウェインの短編作品の研究を通じて明らかにする。かつて『トム・ソーヤーの冒険』や『ハuckleベリー・フィンの冒険』を読んで合衆国に憧れた人は驚くかもしれない内容だが、真実のトウェインと彼の作品が意味するものを講義する。扱う作品とテーマは変更することがある。

#### <授業の到達目標>

それぞれの受講生が、受講生はマーク・トウェインの短編作品をひとつの手がかりにしてアメリカ合衆国を、自分なりに理解してください。それが目的です。

#### <授業の方法>

講義形式による。毎回授業開始時に小テスト、終了時に小レポートを行う。さらに、毎回宿題を課す。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の宿題を完成することと毎回小テストのための勉強をすること。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回小テスト（50％）＋毎回宿題（30％）＋毎回レポート（20％）全体の最後に成績確認とフィードバックを行う。

#### <教科書>

自作プリントを使用する。

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	女性は強いです。	Aurelia's Unfortunate Young Manを論ずる。
2	女性が支配者です。	Lucretia Smith's Soldierを論ずる。
3	女性は天使です。	The McWilliamsesを論ずる。
4	結婚はすべてです。	The Californian's Taleを論ずる。
5	良心はありますか。	The Facts Concerning The Recent Carnival Of Crimeを論ずる。
6	二人で一人ですか。	The Capitoline Venus を論ずる。
7	二人で一人です。	Edward Mills and George Bentonを論ずる。
8	語りのうまさは絶品です。	A True Storyを論ずる。
9	残虐性はみな持っています。	The Story of Mamie Grantを論ずる。
10	人間はなぜ人間ですか。	The Celebrated Jumping Frogを論ずる。
11	きょうだいは他人の始まり。	The £1,000,000 Bank-Noteを論ずる。
12	先住民は怒っています。	The Petrified Manを論ずる。
13	文学者としての執念です。	Death of Jeanを論ずる。
14	自伝を語ります。	Autobiographyを論ずる。
15	成績確認・フィードバック。	フィードバック。
16		

科目コード	24109				区 分	専門基礎			
授業科目名	英語文学史				担当者名	和栗 了			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

この授業は、英語で書かれた文学、主にイギリスとアメリカ合衆国の文学のエッセンスを、通時的に講義する。それぞれの国を代表する文学者の作品を取り上げながら、その、ひとつの読み方を提示する。文学の歴史とは何か、イギリスとは何か、アメリカ合衆国とは何か、を議論する。なお、講義内容の一部が変更になることがある。

#### <授業の到達目標>

それぞれの受講生が、文学とは何か、イギリスとは何か、アメリカ合衆国とは何か、という課題について、通時的知識を獲得することと同時に、自分なりに解答できるようになることである。

#### <授業の方法>

講義形式による。毎回授業開始時に小テスト、終了時に小レポートを行う。さらに、毎回宿題を課す。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：文学の歴史とは何か、イギリスとは何か、アメリカ合衆国とは何かをグループワーク等により議論する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の宿題を完成することと毎回小テストのための勉強をすること。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回小テスト（50％）＋毎回宿題（30％）＋毎回レポート（20％）全体の最後に成績確認とフィードバックを行う。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	神話は大切です。	Beowulfを論ずる。
2	中世の華Geoffrey Chaucer。	The Canterbury Talesを論ずる。
3	William Shakespeareの悲劇。	Romeo and Julietを論ずる。
4	William Shakespeareは詩人。	Sonnetを論ずる。
5	清教徒詩人John Milton。	Paradise Lostを論ずる。
6	18世紀イギリスは小説の時代。	Sentimental Journeyを論ずる。
7	Jonathan SwiftとDaniel Defoe。	Gulliver's Travelsを論ずる。
8	18世紀アメリカは出会いの時代。	“Rip Van Winkle”を論ずる。
9	Jane Austenの家庭小説。	Pride and Prejudiceを論ずる。
10	Charles Dickensの冒険小説。	Christmas Carolを論ずる。
11	Nathaniel Hawthorneのキリスト教。	The Scarlet Letterを論ずる。
12	Herman Melvilleの神議論。	Moby-Dickを論ずる。
13	Mark Twainの霊的冒険小説。	Huckleberry Finnを論ずる。
14	Vladimir Nabokovの苦悩。	Lolitaを論ずる。
15	成績確認・フィードバック。	フィードバック。
16		

科目コード	24200				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	英語文法 [英語教員希望者限定]				担当者名	井上 聡			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業の目的は、英文法について高校入試や大学入試レベルでの理解を深め、中高英語教員として教壇に立つための素地を構築することです。指導範囲・内容・レベルが広範かつ高度であるため、オリジナル教材とデジタル解説教材を用い、ハイブリッド形式で実施します。課題提出、採点・返却、協同学習、解説、理解度確認テスト、意見交換の順に進めますので、しっかり時間管理を行い、個人差を解消しましょう。学修成果としては、事前課題の精度、小テストのスコア、意見交換の質を求めます。この授業は中高英語教員免許取得のための必修科目ですが、特別な理由により履修を希望する場合は、必ず事前にメンター・ゼミ担当教員の下承を得ておいてください。

### <授業の到達目標>

1. 長時間の事前学習に粘り強く取り組むことができる。2. 理解度確認テストで高得点を残すことができる。3. 授業後の意見交換において「学びの振り返り」ができる。

### <授業の方法>

1. 例題・類題演習の提出 (90分程度) 2. 採点・返却 3. 理解度確認テスト (30分程度) 4. 意見交換 (10分) ※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

協同学習 (演習問題の教えあい)

### <準備学習等 (予習・復習) > ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：デジタル教材による予習 (2時間程度) 復習：理解度確認テストの準備 (1時間程度)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 2 (初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。) およびディプロマポリシー 5 (初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。) と関連付けられています。

### <成績評価方法> ※課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

事前学習 30%, 理解度確認テスト 30%, 意見交換 10%, 期末試験 30%

### <教科書>

井上聡 (2022年4月3日) これからの英語教師のための深くて苦い英語文法 ※授業中に配本 一粒社

### <参考書>

特に指定しない

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション、シミュレーション	授業の進め方、課題提出の方法など
2	英文の構造	自動詞と他動詞、修飾語と付加詞、補語と目的語、OOとOC、文型の判別
3	語順と意味	前置詞と動詞、第4文型から第3文型に、文末焦点
4	基本時制	時制の一致、未来を表す表現、いろいろな未来、名詞節と副詞節
5	完了時制	ニュアンス、用法の判別、完了を表すキーワード、複合問題
6	法助動詞	ニュアンス、種類、丁寧な用言、書き換え、be to、慣用表現
7	仮定法	時制、反実仮想、倒置、様々な構文
8	文末焦点と態	文体の自然性、態の変換、特殊な変換、前置詞の使い方
9	不定詞	用法、時制、不定詞と動名詞、原形不定詞、特殊な構文
10	動名詞	時制を意識した書き換え、形態、語順、慣用表現
11	分詞	前置就職と後置修飾、形態、感情動詞、付帯状況、補語、分詞構文
12	比較	強調、様々な構文、書き換え
13	関係代名詞	情報量、格、制限用法と非制限用法、特殊な用法
14	関係副詞	関係代名詞との違い、関係副詞の成り立ち、特殊な用法、複合関係詞
15	接続詞と前置詞	等位接続詞と接続副詞、従位接続詞、前置詞のニュアンス
16	期末試験	

科目コード	24201				区 分	専門基礎			
授業科目名	比較文化論				担当者名	羽田 あずさ			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	なし

#### <授業の概要>

異文化理解入門です。私たちは“様々な文化”の中で生活しています。その文化とはいったいどのようなことを指すのかについて、私たちの日常生活から改めて見つめていきます。そして、異文化は自分（たち）の文化とどのように違うのかについて理解を深め、皆さんが“地球市民”として生きていくために必要なことを一緒に考えていきたいと思います。

#### <授業の到達目標>

・文化とは何を指すのかについて理解している。・自分に影響を与える（与えてきた）文化とは何かについて理解している。・他者に影響を与えている（与えてきた）と思われる文化について多面的に理解している。・異文化適応に必要な方略を身につけている。

#### <授業の方法>

一部講義も行いますが、多くは皆さんが与えられたタスクに対して、一人で考えたり、ペア・グループで意見交換したりしながら授業を進めていきます。また、発表場面を随時設定します。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング（グループディスカッション、ピア・フィードバック、ジグソーなど）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各タスクの復習（1時間程度）や発表のための準備（2時間程度）は必要です。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加度30％ レポート等の課題30％ 発表40％

#### <教科書>

#### <参考書>

八代京子 町恵理子 小池浩子 吉田友子（2022年4月20日） 異文化トレーニング（改訂版） 三修社  
原沢 伊都夫（2024年9月19日） 異文化理解入門（改訂版） 研究社

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	自己紹介、外国人とのかかわり、日本文化、他国のイメージ
2	多文化と日本文化の比較分析（発表）①	衣食住を中心に他国と日本の類似点・相違点を調べて整理し発表する。
3	多文化と日本文化の比較分析（発表）②	衣食住を中心に他国と日本の類似点・相違点を調べて整理し発表する。
4	異文化コミュニケーション①	私の文化ーあなたの文化
5	異文化コミュニケーション②	見える文化ー見えない文化、パラダイムシフトー交渉トレーニング
6	コミュニケーション①	内容面と関係面、非言語コミュニケーション
7	コミュニケーション②	低コンテクストー高コンテクスト、自己開示ー相互コミュニケーション
8	見えない文化①	価値観、集団主義ー個人主義
9	見えない文化②	権力格差、差別意識
10	異なる文化のとらえ方①	ステレオタイプ、カテゴリー化、差別意識
11	異なる文化のとらえ方②	自文化中心主義ー文化相対主義
12	演習	異文化適応トレーニング
13	スピーチまたはプレゼンテーション①	これからの「私の文化」
14	スピーチまたはプレゼンテーション②	これからの「私の文化」
15	リフレクション	振り返りレポート
16		

科目コード	24202				区 分	コア			
授業 科目名	国際関係論				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	集中	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本科目では、現在、世界・日本と外国の関係がどのように成り立っているか、社会に出る前に知っておきたい国際関係論の基礎を学ぶ。国際関係が実際にどう発展してきたのかを知るため、まず、国際関係の歴史を概観する。代表的な国際関係理論を学び、現代の国際関係の基本的な知識を習得する。

#### <授業の到達目標>

○日本が直面している課題、世界情勢を知り、その上で国際関係（外交）の重要性を認識する。○国と国との関係が良好である・ない背景にはどのような要因があるかを知る。○国と国とはどのように結びついているのか歴史・政治・経済の面から分析する力を身につける。○私たちが世界と密接に結びつき合っているということを知ることにより、世界の人々と協調し、国際交流などを積極的に行う意識を身に付ける。

#### <授業の方法>

クラスの状況によって授業でグループ発表を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

世の中の情報を収集すること。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

受講前の準備は、①大学入学以前に学習した「世界史」と「日本史」における近現代史の流れ、及び「政治・経済」（または「現代社会」）の国際社会に関する事項を確認すること、②新聞、テレビ、ネットなどで国際関連のニュースをフォローすること。①②各30分で計1時間の作業を約2週間続けて行うことが望ましい。受講後は、各回の内容を1回30分程度で復習し、レポートを作成すること。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー5（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）およびディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席（30%）課題（30%）＋レポート（40%）

#### <教科書>

指定教科書；なし

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	国際関係論	ガイダンス
2	国際関係論の基礎	グローバル化する世界
3	国際関係論の基礎	国家
4	国際関係論の基礎	戦争
5	国際関係論の基礎	内戦
6	国際関係論の基礎	平和
7	国際関係論の基礎	国際連合
8	国際関係論の基礎	地域連合（EU）
9	国際関係論の基礎	地域連合（アジア太平洋）
10	国際関係論の基礎	国際テロリズム
11	国際関係論の基礎	日本の外交
12	国際関係論の基礎	国際関係における文化
13	国際関係論の基礎	国際移民
14	国際関係論の基礎	私たちと国際関係論
15	国際関係論の基礎	レビュー
16		

科目コード	24303				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	上級英語文法〔英語教員希望者限定〕				担当者名	井上 聡			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業の目的は、難度の高い英文法の知識を網羅型で学習し、英検準1級以上、TOEICスコア785点以上の英語力を身に着けることです。デジタル解説教材とオリジナル教材を活用して事前に問題点を明らかにし、文法問題演習を繰り返し、オンライン試験を通して理解度を高めましょう。学習成果としては、デジタル教材の活用力、理解度確認テストのスコア、意見交換の質を求めます。なお、この授業はオンデマンド型で行いますので、課題提出やテスト受験等の期限を必ず守ってください。※原則、英語教職課程履修者のみ受講を受理します。他の要因で履修を希望する場合は、メンターやゼミ担当教員の了承を事前に得ておいてください。

### <授業の到達目標>

1. 事前学習（ノートテイキング）に粘り強く取り組み、「分かること」と「分からないこと」を区別できる。2. 理解度確認テストで高い正答率を残すことができる。3. 意見交換の場で、学びの内容を適切に言語化できる。

### <授業の方法>

1. 事前課題（テキスト8ページの予習）（2時間程度）2. 採点・返却3. 理解度家訓テスト（30分程度）4. 意見交換（5分）※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

事前課題の優秀作品やテスト優秀者の氏名については随時、Classroomのストリームで公開します。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：デジタル教材を活用した事前課題（8ページ）の提出（3時間程度）復習：理解度確認テストの受験＋意見交換（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%、理解度確認テスト 30%、意見交換 10%、期末試験 30%

### <教科書>

井上聡（2022年4月） 上級英語文法：攻略ポイント210※継続履修できる学生にのみ、直接配布します。 一粒書房

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	シラバス説明、シミュレーション（教科書・デジタル教材の使い方）
2	動詞の語法①動詞の語法②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
3	動詞の時制法助動詞	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
4	態の変換不定詞①	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
5	不定詞②分詞	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
6	動名詞関係詞①	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
7	関係詞②仮定法	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
8	比較表現①比較表現②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
9	名詞の語法代名詞の語法	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
10	形容詞の語法副詞の語法	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
11	接続詞①接続詞②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
12	前置詞①前置詞②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
13	疑問・否定・倒置・強調・一致まとめ	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
14	総復習	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
15	期末試験	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
16		

科目コード	24406				区 分	コア科目			
授業科目名	アジア太平洋のビジネス環境				担当者名	小川 正人			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

APEC (Asia-Pacific Economic Cooperation) は、18の国と地域からなる協議体である。これらの地域の経済は、世界でもっともダイナミックに展開しておりそのインパクトは大きい。本科目では、アジア太平洋地域（特に、ニュージーランド、オーストラリア、ASEAN諸国を中心）の文化、歴史、教育、政治、経済について幅広く取り扱い、次代を担う若者が、アジア太平洋地域のビジネス環境について目を向けていくことをねらいとする。

#### <授業の到達目標>

①国際経営にとって世界各国の経済・経営環境がいかに重要であるかを理解する。②アジア太平洋地域の経営環境や日本企業のアジア戦略、アジア諸国企業の企業構造・成長戦略を理解できるようになる。③対象国を様々な視点から理解することで、広い視野で国際経済の動きを理解できるようになる。

#### <授業の方法>

オンデマンド型授業である。課題管理はClassroomで行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

オンデマンド授業のため、アクティブラーニングは活用しない。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回とも、アジア太平洋諸国に関する情報収集30分、授業の復習に30分をかけることが必要となる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加・課題60%、最終課題40%

#### <教科書>

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション・ガイダンス	授業の概要・目的・課題・成績などの説明
2	APEC・ASEAN（1）	APEC・ASEANとは何か
3	中国（1）	中国の経済とビジネス（1）
4	中国（2）	中国の経済とビジネス（2）
5	韓国	韓国の経済とビジネス
6	タイ	タイの経済とビジネス
7	インドネシア	インドネシアの経済とビジネス
8	ベトナム	ベトナムの経済とビジネス
9	フィリピン	フィリピンの経済とビジネス
10	マレーシア・シンガポール	マレーシア・シンガポールの経済とビジネス
11	カンボジア・ラオス・ミャンマー	カンボジア・ラオス・ミャンマーの経済とビジネス
12	オーストラリア	オーストラリアの経済とビジネス
13	ニュージーランド	ニュージーランドの経済とビジネス
14	太平洋地域諸国	太平洋地域諸国の経済とビジネス
15	アジア太平洋地域の将来	アジア太平洋地域の将来について考える
16		

科目コード	24407				区 分	専門基礎			
授業科目名	上級オーラルコミュニケーション				担当者名	竹下 厚志			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	なし

### <授業の概要>

地球市民として、世界の人たちと様々な分野で交流を持つための基本的な英語コミュニケーション能力を育成することを目的とします。主なテーマをSDGsとして、私たちが直面しているグローバルイシューの解決について一緒に考えていながら、同時に英語コミュニケーション能力を伸ばしていくことを目指します。【重要】基本的に英語で授業を行います。

### <授業の到達目標>

・SDGsについて基本的な知識を身に付けている。・英語コミュニケーション能力の5技能がバランスよく習得されている。・グローバルイシューについて論理的、批判的、多面的に思考しながら理解している。・SDGsの解決に向けた自分なりの解決策を提案することができる。

### <授業の方法>

主に2つのパートから授業は構成されます。一つは英語コミュニケーションの技能習得を目的としたトレーニングです。5技能統合型の手法でCEFR B2レベル以上を目指します。もう一つはSDGsを中心としたグローバルイシューを通して思考力の向上を目指します。単に英文を理解するという表面的な学習ではなく、皆さんがその世界課題に対してどのように考え、解決のための行動を起こせるかについて一緒に考え、行動計画を立てたいと思います。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり。ディスカッション（日常的な話題から社会問題までペア・グループによる意見交換）、プレゼンテーション（特定の話題について事実・問題提起・意見）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

扱っているテーマについて日ごろから社会情勢（世界情勢）に敏感になるための情報収集をしてください（毎日30分以上）。また、発表に向けて準備は万全にしてください（2時間以上）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加度40%、提出物提出20%、発表40%（原則、英語による発表）

### <教科書>

### <参考書>

竹下 厚志（2021年2月25日） SDGs 英語長文 Core 三省堂

竹下 厚志（2019年4月12日） SDGs 英語長文 三省堂

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	今後の学習の方向性の相談
2	テーマ学習①	身近なテーマについて意見交換
3	テーマ学習②	身近なテーマについて意見交換
4	テーマ学習③	身近なテーマについて意見交換
5	テーマ学習発表①	身近なテーマに関する意見発表
6	テーマ学習④	グローバルイシューに関する英文理解とトレーニング
7	テーマ学習⑤	グローバルイシューに関する英文理解とトレーニング
8	テーマ学習⑥	グローバルイシューに関する英文理解とトレーニング
9	テーマ学習発表②	グローバルイシューに関する意見発表
10	テーマ学習⑦	日本と直接関係する社会問題に関する英文理解とトレーニング
11	テーマ学習⑧	日本と直接関係する社会問題に関する英文理解とトレーニング
12	テーマ学習⑨	日本と直接関係する社会問題に関する英文理解とトレーニング
13	テーマ学習発表③	最も関心のある社会問題に対する発表①
14	テーマ学習発表③	最も関心のある社会問題に対する発表②
15	SDGsに関する理解の確認と自分の学習軌跡の振り返り	SDGsに関するQAと振り返りレポート
16		

科目コード	25100				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	体育原理 [PP1年生以外用]				担当者名	早田 剛			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

体育原理とは、体育の本質的追求である。また、よい体育とは何かを明らかにし、それを発展させるには何が問題であるかを科学的法則に基づいて、その原理を示す役割を持っている。本講義では、体育・スポーツの発生の契機、社会におけるその定着の歴史的な過程、その展開を平和的に管理するルールの特質、さらには現代社会におけるスポーツのあり方等を検討することにより、体育を重要な教材として取り入れる体育教育の今日的意味を再確認する。

### <授業の到達目標>

体育・スポーツの基礎概念について考えていくことにより、体育学・スポーツ科学を専門的に学ぶための基礎的知識を身につけるとともに、体育・スポーツを批判的に検討できる能力・思考の育成を目指す。

### <授業の方法>

授業の流れ 1. 予習課題の提出（約10分） 2. オンデマンド資料視聴①：解説と問いの提示（約10分） 3. 意見交換：上記テーマに即した意見の提出と他のみんなの意見を確認する（約30分） 4. オンデマンド資料視聴②：解説と問いの提示（約10分） 5. 授業後レポートの提出（約30分）：字数制限有次週課題の確認（▶自宅学習：約30~60分）

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング：有オンデマンド授業のため、予習課題の見える化や意見交換でのアクティブラーニングを実施していく

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次回の授業で取り上げる問題について思考し、自分なりの回答を用意し、授業における討議において積極的に言葉にすることで思考し、体育・スポーツの本質に関わる自己内対話を行う。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

予習課題：20%、意見交換：20%、授業後レポート：40%、※最終レポート：20%として、総合的に評価する。なお10回目終了後、成績不良者は12回目以降、対面授業を行うこととします。

### <教科書>

### <参考書>

友添秀則、岡出美則 編（2016年） 教養としての体育原理 大修館書店  
高橋 徹 編（2021年） はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学 サンメッセ株式会社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	体育原理とは	1) ガイダンスとして、授業概要を確認する 2) 体育原理という学問が必要なのかについて学び、体育学科を卒業する意味を検討する
2	体育とは	体育とは何か、体育の理念はどう変わってきたかを学び、自分の意見を検討する
3	体育とスポーツは何が違うのか	体育とスポーツの混同と混用について学び、自分の意見を検討する
4	身体からみた体育の可能性	学校教育と身体教育について育てるべき「身体」を考え、〈できる〉とはどういうことかを検討する
5	体育で競争をどう位置付けるか	体育における競争とはどういう位置付けるかを学び、自分の意見を検討する
6	体育における人間形成	体育における人間形成とはどういう意味かを学び、自分の意見を検討する
7	体育と指導者	体育教師とコーチは何が違うのかを学び、自分の意見を検討する
8	スポーツと科学	スポーツ科学は、様々な情報（データ）に基づいて、スポーツ活動を充実させるためのアイデアを提供する学問分野を理解し、活用方法についての自分の意見を検討する
9	運動部活動の意義と課題	運動部活動の意義と課題を学び、自分の意見を検討する
10	プレイが生み出す体育の可能性	スポーツとプレイ（遊び）について学び、自分の意見を検討する
11	スポーツとルール	ルールの正しい「解釈」が必要であることを理解し、自分の意見を検討する
12	スポーツと文化	身体に文化を伝承するプロセスについて、教育的な行為との関係から学び、自分の意見を検討する
13	スポーツとビジネス	スポーツにおけるビジネス化の構造やそれを牽引する仕組みについて理解を深めるとともに、課題について検討する
14	スポーツと社会	スポーツ需要の質的変化に対して、その課題を解決を促す新たな体育・スポーツ需要を検討する

15	スポーツとコミュニティまとめ	1) スポーツとコミュニティを取り巻く現状と課題について理解を深め、地域づくりなどについて検討する2) 体育原理を総括する
16		

科目コード	25100				区 分	専門基礎科目			
授業 科目名	体育原理 [PP用]				担当者名	早田 剛			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

体育原理とは、体育の本質的追求である。また、よい体育とは何かを明らかにし、それを発展させるには何が問題であるかを科学的法則に基づいて、その原理を示す役割を持っている。本講義では、体育・スポーツの発生の契機、社会におけるその定着の歴史的な過程、その展開を平和的に管理するルールの特質、さらには現代社会におけるスポーツのあり方等を検討することにより、体育を重要な教材として取り入れる体育教育の今日的意味を再確認する。

### <授業の到達目標>

体育・スポーツの基礎概念について考えていくことにより、体育学・スポーツ科学を専門的に学ぶための基礎的知識を身につけるとともに、体育・スポーツを批判的に検討できる能力・思考の育成を目指す。

### <授業の方法>

授業の流れ 1. 予習課題の確認（約10分） 2. テーマに沿った解説と問いの提示①（約10分） 3. 意見交換：上記テーマに即した意見提出とディスカッション（約20分） 4. テーマに沿った解説と問いの提示②（約10分） 5. 上記テーマに即した意見提出とディスカッション（約20分）：字数制限有 6. プレゼン発表もしくは課題レポート作成次週課題の確認（➡自宅学習：約30～60分）

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）3から4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

今回の授業で取り上げる問題について思考し、自分なりの回答を用意し、授業における討議において積極的に言葉にすることで思考し、体育・スポーツの本質に関わる自己内対話を行う。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

予習課題：20%、意見交換：20%、授業後レポート：40%、※最終レポート：20%として、総合的に評価する。

### <教科書>

B5判／218ページ（令和4年度発行版）<https://www.taishukan.co.jp/hotai/high/product/?type=textbook&id=59> 現代高等保健体育 保体「701」（ISBN:9784469663198）大修館書店

### <参考書>

友添秀則、岡出美則 編（2016年） 教養としての体育原理 大修館書店  
高橋 徹 編（2021年） はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学 サンメッセ株式会社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	体育原理とは	1) ガイダンスとして、授業概要を確認する 2) 体育原理という学問が必要なのかについて学び、体育学科を卒業する意味を検討する
2	体育とは	体育とは何か、体育の理念はどう変わってきたかを学び、自分の意見を検討する
3	体育とスポーツは何か違うのか	体育とスポーツの混同と混用について学び、自分の意見を検討する
4	身体からみた体育の可能性	学校教育と身体教育について育てるべき「身体」を考え、〈できる〉とはどういうことかを検討する
5	体育で競争をどう位置付けるか	体育における競争とはどういう位置付けるかを学び、自分の意見を検討する
6	体育における人間形成	体育における人間形成とはどういう意味かを学び、自分の意見を検討する
7	体育と指導者	体育教師とコーチは何か違うのかを学び、自分の意見を検討する
8	スポーツと科学	スポーツ科学は、様々な情報（データ）に基づいて、スポーツ活動を充実させるためのアイデアを提供する学問分野を理解し、活用方法についての自分の意見を検討する
9	運動部活動の意義と課題	運動部活動の意義と課題を学び、自分の意見を検討する
10	プレイが生み出す体育の可能性	スポーツとプレイ（遊び）について学び、自分の意見を検討する
11	スポーツとルール	ルールの正しい「解釈」が必要であることを理解し、自分の意見を検討する
12	スポーツと文化	身体に文化を伝承するプロセスについて、教育的な行為との関係から学び、自分の意見を検討する
13	スポーツとビジネス	スポーツにおけるビジネス化の構造やそれを牽引する仕組みについて理解を深めるとともに、課題について検討する

14	スポーツと社会	スポーツ需要の質的变化に対して、その課題を解決を促す新たな体育・スポーツ需要を検討する
15	スポーツとコミュニティまとめ	1) スポーツとコミュニティを取り巻く現状と課題について理解を深め、地域づくりなどについて検討する2) 体育原理を総括する
16		

科目コード	25101				区 分	専門基礎科目			
授業 科目名	健康科学概論				担当者名	十河 直太			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

人が健康的に生きていくためには、複合的な要素を多く必要とする。本科目では、運動習慣の少ない者から多い者まで多岐にわたり、運動と健康に関連する要素を様々な面からアプローチする。また、実際の現場で行われている手法や現状、最新の研究結果も併せて紹介する。

#### <授業の到達目標>

健康の維持・増進の立場から運動やスポーツの目的や役割、意義を理解する。

#### <授業の方法>

授業では事前課題と事後課題、意見交換をGoogle classroomを用いて行うため、PC機器をインターネットに接続できる環境が必要である。オンデマンド形式で実施する際は、課題の視聴、回答あるいは意見交換を全てオンラインで行う。対面形式ではパワーポイントなどのスライドを提示する。授業内での課題提出をオンラインで行うこともあるため、対面形式で授業を実施する際もPCを必ず持参すること。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各講義内容に対して関連する参考書や論文に目を通し、予備知識を得ておくことと理解しやすい。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講意欲・態度 30%、小テスト30%、期末試験 40%

#### <教科書>

#### <参考書>

ビクター カッチ, ウィリアム マッカードル, フランク カッチ(著) 2017/9/15 カラー運動生理学大事典:健康・スポーツ現場で役立つ理論と応用 西村書店

日本体育協会(監修), 田中 喜代次(編集) 2013/5/30 健康華齡(Successful Aging)のためのエクササイズ サンライフ企画  
安倍孝, 琉子 友男(編集) 2015/3/21 これからの健康とスポーツの科学 KSスポーツ医科学書

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	運動・競技スポーツと健康の関係
2	運動とエネルギー供給機構	糖・脂質・タンパクの代謝経路と運動との関係
3	身体発達と加齢	幼児～青年～成人～高齢者にかけての変化と健康科学との関連
4	生活習慣病関連疾患（概要）	近年の生活習慣病の現状
5	生活習慣病関連疾患①	心血管疾患
6	生活習慣病関連疾患②	肝機能関連疾患
7	運動処方と食事療法	健康を維持するための運動・食事プログラムと実践例
8	アスリートの健康科学①	内科的・外科的アプローチ（概要）
9	アスリートの健康科学②	オーバートレーニング、摂食障害、過換気症候群
10	スポーツ傷害	外傷・障害に対する予防・対処法
11	ドーピング	フェアプレーとアンチドーピング
12	アダプテッドスポーツ	障がい者スポーツの現状と課題
13	性差	性差が健康・運動に及ぼす影響
14	女性アスリート①	月経周期や女性ホルモンの役割
15	女性アスリート②	Female Athlete Triadと今後の課題
16		

科目コード	25102				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	体育心理学 [PP/PH4年生用]				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### ＜授業の概要＞

スポーツ活動には、種々の側面から心の関与が認められる。そのことからスポーツ心理学の研究領域ではスポーツ活動で生じる現象を対象に、心理学的手法によりそのメカニズムの解明を行っている。本授業では、スポーツ心理学に関する基礎知識とともに行動変容に向けた心理的アプローチの実践方法について学ぶ。なお、スポーツ現場での実践と共に学びを深め、今後の競技活動や教育活動に活用できることをねらいとする。

### ＜授業の到達目標＞

スポーツ心理学の基礎的な理論と実践・応用の仕方を理解し、スポーツ場面で起こる心理的な問題に対処できるようになる。

### ＜授業の方法＞

本授業は、テキストを用い、テキストから出される事前課題に取り組んでもらい、授業に参加してもらう。授業は講義後にディスカッションをする時間を設け、お互いの意見を共有し、授業終わりには振り返りを行なってまとめてもらう。全授業後に最終レポート課題に取り組んでもらう。

### ＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

自らの経験から、体育・スポーツ現場で必要な心理的要素を考え、課題克服に必要な対処法を考える。

### ＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習として、教科書の指定された範囲を読み、事前課題を期限までに提出する（1時間程度）・復習として、授業内容を振り返り、学習内容を整理する（1時間程度）

### ＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### ＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題30%、授業参加態度30%、振り返り課題20%、最終レポート20%

### ＜教科書＞

楠本恭久編著（2015年1月15日） 「はじめて学ぶスポーツ心理学12講」 福村出版

### ＜参考書＞

石井源信編（2012年8月1日） 「現場で生きるスポーツ心理学」 杏林書院

### ＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ心理学について	スポーツ心理学の歴史と内容
2	スポーツ心理学の研究法	スポーツ心理学の研究領域、研究方法
3	スポーツと発達	遺伝と環境、発達、身体と運動の発達
4	スポーツと学習	スキルの要素と分類、学習理論、練習の組み立て
5	スポーツとパーソナリティ	スポーツ選手とパーソナリティ、不安、あがり
6	スポーツと動機づけ	動機づけのメカニズム、目標設定
7	スポーツと社会心理学	スポーツ集団について、スポーツ場面での他者の存在
8	競技の心理（1）	競技の心理特性、競技者の心理
9	競技の心理（2）	指導者の心理、けがと心理
10	メンタルトレーニング（1）	メンタルトレーニングとは、競技力向上や実力発揮に必要な心理的スキル
11	メンタルトレーニング（2）	呼吸法、漸進的筋弛緩法、自律訓練法
12	メンタルトレーニング（3）	心理的技法の実践、暗示、イメージ
13	メンタルトレーニング（4）	自己分析に用いる心理検査
14	健康スポーツの心理	運動・スポーツの心理的効果
15	スポーツと臨床	バーンアウト、イップス
16		

科目コード	25102				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	体育心理学 [PP/PH4年生用]				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

スポーツ活動には、種々の側面から心の関与が認められる。そのことからスポーツ心理学の研究領域ではスポーツ活動で生じる現象を対象に、心理学的手法によりそのメカニズムの解明を行っている。本授業では、スポーツ心理学に関する基礎知識とともに行動変容に向けた心理的アプローチの実践方法について学ぶ。なお、スポーツ現場での実践と共に学びを深め、今後の競技活動や教育活動に活用できることをねらいとする。

### <授業の到達目標>

スポーツ心理学の基礎的な理論と実践・応用の仕方を理解し、スポーツ場面で起こる心理的な問題に対処できるようになる。

### <授業の方法>

本授業は、テキストを用い、テキストから出される事前課題に取り組んでもらい、授業に参加してもらう。授業は講義後にディスカッションをする時間を設け、お互いの意見を共有し、授業終わりには振り返りを行なってまとめてもらう。全授業後に最終レポート課題に取り組んでもらう。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

自らの経験から、体育・スポーツ現場で必要な心理的要素を考え、課題克服に必要な対処法を考える。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習として、教科書の指定された範囲を読み、事前課題を期限までに提出する（1時間程度）・復習として、授業内容を振り返り、学習内容を整理する（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題30%、授業参加態度30%、振り返り課題20%、最終レポート20%

### <教科書>

楠本恭久編著（2015年1月15日） 「はじめて学ぶスポーツ心理学12講」 福村出版

### <参考書>

石井源信編（2012年8月1日） 「現場で生きるスポーツ心理学」 杏林書院

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ心理学について	スポーツ心理学の歴史と内容
2	スポーツ心理学の研究法	スポーツ心理学の研究領域、研究方法
3	スポーツと発達	遺伝と環境、発達、身体と運動の発達
4	スポーツと学習	スキルの要素と分類、学習理論、練習の組み立て
5	スポーツとパーソナリティ	スポーツ選手とパーソナリティ、不安、あがり
6	スポーツと動機づけ	動機づけのメカニズム、目標設定
7	スポーツと社会心理学	スポーツ集団について、スポーツ場面での他者の存在
8	競技の心理（1）	競技の心理特性、競技者の心理
9	競技の心理（2）	指導者の心理、けがと心理
10	メンタルトレーニング（1）	メンタルトレーニングとは、競技力向上や実力発揮に必要な心理的スキル
11	メンタルトレーニング（2）	呼吸法、漸進的筋弛緩法、自律訓練法
12	メンタルトレーニング（3）	心理的技法の実践、暗示、イメージ
13	メンタルトレーニング（4）	自己分析に用いる心理検査
14	健康スポーツの心理	運動・スポーツの心理的効果
15	スポーツと臨床	バーンアウト、イップス
16		

科目コード	25103				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	発育と発達				担当者名	田中 耕作			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本講義では、幼少年期における身体の形態や機能の変容していく発育と発達と老化についての基礎的知識を習得することを目的とする。

### <授業の到達目標>

発育発達と老化の観点から、体力と運動能力、また運動発達の知識を身につける。また、その知識を（公財）日本スポーツ協会公認「ジュニア・スポーツ指導員」はじめ、体育・スポーツ指導者資格取得に繋げることを目的とする。

### <授業の方法>

各テーマに沿った内容を資料やパワーポイントを用いて解説する。また、毎時間において、前時の講義内容について小テストを実施する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素：あり運動能力の変化等のデータについてグループでディスカッションを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

参考図書・参考資料に目を通し、授業で提示される各テーマに沿って、人間の身体の発育・発達における基本的理解を深め（30分程度）、毎時の課題となるレポート作成に取り組む（90分程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日常の授業における実践的な態度および小テストを含む課題提出（70%）。また、最終講義を終えた上でのまとめのテスト（30%）を実施し、以上を総合的に評価する。

### <教科書>

教科書は使用しないが、各单元ごとに資料を配布する。

### <参考書>

（公財）日本スポーツ協会（2019） 公認ジュニアスポーツ指導員テキスト専門科目テキスト （公財）日本スポーツ協会  
杉原隆・河邊貴子（2014） 幼児期における運動発達と運動遊びの指導-遊びの中で子どもは育つ- ミネルヴァ書房  
（財）健康・体力づくり事業財団（2008） 健康運動指導士養成講習会テキスト （財）健康・体力づくり事業財団

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	体力とは	体力と運動能力について
3	健康とは	健康に関する概念について
4	からだ（形態）の発育発達	発育発達期の身体の発達について
5	発育発達期におけるケガの実態	発育発達期に多いケガや病気について
6	発育発達期の運動プログラム	コーディネーションとは
7	動作の発達と体力測定①	幼児体力指針と新体力テスト
8	動作の発達と体力測定②	歩く・走る・跳ぶ
9	動作の発達と体力測定③	投げる・捕る・体を支える
10	運動発達の捉え方①	体力・運動能力の発達と遊びの効用
11	運動発達の捉え方②	運動発達における年齢と性差
12	運動発達の捉え方③	運動コントロール能力における年齢と性差
13	老化と生活習慣①	フレイルとは？
14	老化と生活習慣②	メタボリックシンドロームとロコモティブシンドローム
15	まとめ	全時限の講義内容のまとめ
16		

科目コード	25200				区 分	専門基礎			
授業科目名	体育行政学				担当者名	権藤 弘之			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

現代日本における体育・スポーツに関する行政及びその政策について、体系的に理解し、他者に説明できることを目的としている。そのため、体育・スポーツに関する行政及びその政策について、基本的な事項を解説するとともに近年の体育・スポーツ政策の動向を解説する。また、それらの知識に基づいて、多様な立場・価値観を理解し、尊重しながら、グループワークに取り組み、授業の理解度及びグループワークへの貢献度をレポート・グループワーク課題に基づいて評価する。

### <授業の到達目標>

① 現代社会における体育・スポーツに関する行政及びその政策について、体系的に理解し、他者にも説明できるようになる。② グループワークに主体的に参加し、多様な立場及び価値観を理解し、尊重し、グループワークに貢献できるようになる。

### <授業の方法>

参考資料やプレゼンテーションを使用する一斉授業及びグループワークにおいて展開する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（グループワーク）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 予習：毎時間課される次週課題について（5分程度）② 復習：毎時間課される授業課題について（5分程度）③ 数回にわたり授業テーマに関連するレポート課題を指示する。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 授業態度（授業意欲）50%② グループワーク10%③ 小テスト30%④ 課題レポート10%

### <教科書>

### <参考書>

菊 幸一、齋藤 健司、真山 達志、横山 勝彦ら（発行2011.11.20） スポーツ政策論 成文堂  
 浦川 太郎、大橋 宅生、白井 久明、菅原 哲朗ら（発行2011.12.20） スポーツ基本法 成文堂  
 阿部 篤志、久保田 潤、中村 宏美、本間 恵子（発行2020.3） スポーツ担当者になったら読む本 独立行政法人 日本スポーツ振興センター

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション、我が国のスポーツ推進策の変遷について	オリエンテーションとして授業内容、成績評価等の説明等の説明を行い、最初として戦後から現在までの体育・スポーツ推進策の変遷について学ぶ。
2	体育・スポーツの定義・概念と歴史について	スポーツの意味と語源、その歴史について理解し、変化する現代スポーツのとらえ方、考え方についても学ぶ。
3	体育・スポーツ行政の背景・根拠となる法令等について	我が国のスポーツ推進の基本方針を定める「旧法：スポーツ振興法」「現行法：スポーツ基本法」を学ぶ。またその他のスポーツ関連法令も関連して学ぶ。
4	体育・スポーツ行政のしくみと役割・責務について	体育・スポーツ行政の主な所管は、文部科学省の外局であるスポーツ庁となったが、その経緯について学ぶ。また関係省庁、関連スポーツ組織及び自治体組織についても学ぶ。
5	スポーツ基本法と「スポーツ基本計画」について	最近策定された「第3期スポーツ基本計画」を中心に学ぶ。
6	スポーツ基本法第10条に基づく「地方スポーツ推進計画」について	最近策定された地方スポーツ推進計画（都道府県や市区町村計画）について学ぶ。
7	公共スポーツ施設の管理運営（指定管理者制度を含む）とその変遷について後半：グループワークづくり	○前半は施設の管理運営に係る指定管理者制度について（講義）○後半：グループワーク（7, 8人のグループをつくる）テーマとして、望ましい公共スポーツ施設もしくは地域スポーツ推進策について、各々皆さんがアイデアを考え、授業の最後にグループ内で発表し合う。最後はグループ内で代表発表者を決める。
8	テーマ：望ましい公共スポーツ施設を設計グループ代表者による発表会（プレゼンテーション）	発表テーマは、望ましい公共スポーツ施設及び地域スポーツ推進策について、前回授業時に決めたグループ内代表者が発表する。
9	主に前半授業で学んだ内容の「ふり返りのテスト（60分程度）」	前半第1回～第8回授業で学んだ「ふり返りのテスト（授業時配布資料持ち込み可）」を実施する。

10	学校体育行政と運動部活動改革(地域移行、地域展開)について	特に「運動部活動改革」については、行政や学校、教師だけでは解決することができない課題(教員の負担増と少子化で維持困難)が増えており、従前と同様の運営体制ではその維持が難しくなっている。スポーツ庁では令和5年4月から中学校部活の休日を地域移行(展開)をすすめているが、各自治体でも取り組みを始めたが、将来的には運動部活動の存続の危機となることからこの現状をしっかりと学んでおく必要がある。
11	地域スポーツクラブの育成(スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ等)について	地域で活動する「スポーツ少年団」や「総合型地域スポーツクラブ」の育成について学ぶ。
12	体育・スポーツ指導者の養成について	スポーツに関わる指導者養成機関は、次のような団体、機関があり、各認定資格を紹介する。※但し、医療系スポーツ団体は挙げていない。具体的には、(公財)日本スポーツ協会、(公財)健康・体力づくり事業財団、(公財)日本レクリエーション協会、(公財)日本スポーツクラブ協会、(公財)日本スポーツ施設協会、(公財)笹川スポーツ財団などがある。
13	地域スポーツ組織とそのマネジメントについて	非常勤公務員であるスポーツ推進委員制度や地域スポーツマネジメントなどについて学ぶ。
14	その他主なスポーツ推進施策(高齢者、女性、障がい者)について	国民のスポーツ定期的実施率を向上させ、日々の生活の中で一人一人がスポーツの価値を享受できる社会を構築するため、各種のスポーツ施策(sport in life、運動スポーツ習慣化促進事業など国民スポーツ全般、女性スポーツの参加、障がい者スポーツなど)について学ぶ。
15	本授業の総括、後半授業で学んだ内容の「ふり返りのテスト」	本授業の総括、後半授業(第10回～第14回)で学んだ「ふり返りのテスト(60分程度、授業時配布資料持ち込み可)」を実施する。
16		

科目コード	25201				区 分	専門基礎科目			
授業 科目名	体育社会学				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

現代において、スポーツは私たちの生活に深く根ざしている。日常生活の至る所でスポーツに関連する情報に触れることができる一方で、スポーツの大衆化と機能の拡大は多様な社会問題を引き起こしている。近年の例を挙げれば、暴力に関する問題や、オリンピックと政治の問題、運動部活動の運営問題など、スポーツの抱える問題も膨大となっている。スポーツに関わる中では、そうした社会事象とも無関係でいることはできず、無視することもできない。スポーツを考える際の基礎的な知識を身に付け、考察する方法を学ぶ必要がある。本授業では、スポーツ社会学の枠組みを用いて、社会とスポーツの関係を探究し、その相互作用を深く理解するための視点と方法論を学んでいく。

### <授業の到達目標>

スポーツへの関わり方は十人十色であり、一つの事象に対する見解や意見も多種多様である。そうした状況の中で互いに理解を深めるには、自らの意見や感覚を論理的に説明し、他者との意見交流によって相対化することで認識を深める過程が重要である。加えて、特定の社会集団で共通してみられる傾向や偏りを見抜き、因果を理解することも重要である。本授業では以下の2点を目標に設定する。①体育・スポーツに関わる事象を社会学の知見を踏まえて説明することができる。②体育・スポーツ社会学の視点を理解した上で、論理的かつ建設的に他者と意見の交

### <授業の方法>

本授業は、主に参考資料やパワーポイントを用いた講義形式で進めるが、授業内容を深化させるため、ディベートやグループワークを適宜取り入れる。各授業回の終わりには、その日の学びを確認するための簡易テストや、テーマに基づいた意見を述べるオンラインテストを実施する。なお、一部は次回の授業において受講者全体に紹介しつつフィードバックコメント（基本的にGoogle Formを活用）を行う。また、課題の作成や資料、授業内容の共有については、主にGoogleクラスルームを通じて行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、講義形式に加え、ディベートやグループワークを取り入れることで、学習者が能動的に社会問題とスポーツの関係について考察する機会を設けている。また、授業後のオンラインテストや意見提出、全体共有によるフィードバックなどを通じて、知識の内省と他者との比較・対話が促進される。これらの活動は、学習者の主体性を高め、深い理解を目指すアクティブラーニングの要素を備えている。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

<準備学習>スポーツや社会問題を扱った新聞等に注意を払い興味があれば詳細を調べておくこと。（1時間）事前課題が課される回は授業前に提出すること。<事後学習>授業で学んだ観点から新聞等を再度見てみる。授業後に調べたことなどがあれば積極的にコメントシートに記述すること。コメントの内容はスプレッドシートで全体に公開するため、他の受講者のコメントを読み、適宜再コメントを行うこと。授業で得た知見を積極的に日常での実践に活用すること。（1時間）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績は、【各回での確認シートおよび授業態度 60%、試験（論述レポート型） 40%】の配分で評価する。授業内での発言やコメントシートでの意見、考察が論理的であるかを重視する。試験では、知識量よりも論理的思考能力や、自分なりの（個別具体的な）考察が行えているかを重視する。

### <教科書>

特になし（参考書を参照のこと）

### <参考書>

多木浩二(1995) スポーツを考える―身体・資本・ナショナリズム 筑摩書房  
山田明編（2020） 未来を拓くスポーツ社会学 みらい

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	体育・スポーツ社会学とは	社会学の対象としての体育およびスポーツ「体育・スポーツの社会学」における視角
2	体育・スポーツの世界の生きづらさ	学校体育、運動部活動、運動会の現代的課題体育・スポーツの社会システム
3	メディアとスポーツ	物語（言説）の生産と消費情報社会化するスポーツ
4	ジェンダー・人種・身体とスポーツ	社会的マイノリティの葛藤とスポーツ実践スポーツのカテゴライズ機能、言説の生産と消費
5	逸脱行為（ドーピング）とスポーツ	競技生活者の葛藤とスポーツ実践スポーツにおける不正行為と正当性、妥当性
6	相互行為としてのスポーツ	トップ指導者の葛藤と実践柔道指導者の事例からみる感情労働と社会的行為
7	スポーツの表象と「まなざし」	スポーツ界からの発信と社会通念の介入社会から「監視」されるスポーツ

8	身体感覚と身体知・身体技法	技の習得とその視点東洋的身体技法、ボディワークの社会実践柔術から柔道、そしてJUDOへ
9	障がい者とスポーツ・パラリンピック	社会モデルと医学モデルマイノリティのスポーツから見えるスポーツの性質、排除と包摂
10	政治とスポーツ（ナショナリズム）	スポーツの政治利用スポーツと平和・戦争
11	商業主義とスポーツ	資本主義とスポーツの関係金儲けの対象としてのスポーツ
12	開発主義とスポーツ	スポーツを通じた開発、スポーツによる開発メガスポーツイベントと社会的なインパクト
13	環境問題とスポーツ	スポーツによる環境問題・環境問題によるスポーツへの影響自然環境とスポーツ
14	社会階級とスポーツ	社会階級（階層）文化とスポーツの性向（好み）身体と習慣、文化資本
15	授業のまとめと振り返り・到達度確認テスト	授業のまとめ、ふりかえり、到達度の測定
16		

科目コード	25202				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツバイオメカニクス [A]				担当者名	秦 啓一郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

身体運動の成り立ちを理解することは、なぜその動作になるのか、どう改善すれば良いのかを理解することができるため、理想とする身体運動を真に再現可能となる。本授業では、身体と運動の力学をキーワードに、特に競技スポーツの身体動作と力について、実践的な演習を行う。また本学では、健康運動指導士・健康運動実践指導者・CSCSなどを取得するための必修科目である。

### <授業の到達目標>

本授業の到達目標は、次の通りである。①運動の記述（どのような動きであるか説明できる）と、運動の原因の説明（なぜそのような動きになるか、どんな力が働いているか説明できる）ができる。②スポーツバイオメカニクスの視点で、スポーツや運動の観察・指導または改善方法を考案できる。

### <授業の方法>

対面での講義および演習を行う。演習ではバイオメカニクス分野で用いられる専門機器を使用し、得られたデータを分析する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有り各テーマでグループを作り、測定と分析を行ったデータを発表する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

- 1) 次週の授業テーマに関して、各自で予習を行い、各自が得意とする運動とのバイオメカニクスの関わりを考えること（30分）。
- 2) 授業内容と関連する他基礎科目（生理学や解剖学など）の復習を行うこと（30分）。
- 3) 授業内容で学んだ内容を各自が得意とする運動に応用し、実践すること（30分）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席30%、毎回の課題30%、期末課題30%

### <教科書>

なし

### <参考書>

深代千之ほか編著 スポーツ動作の科学ーバイオメカニクスで読み解くー 東京大学出版会

福永哲夫ほか 筋の科学辞典 朝倉書店

Peter M. McGinnis（監訳 柳谷登志雄ほか） スポーツと運動のバイオメカニクス メディカル・サイエンス・インターナショナル

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	単位取得上の諸注意、授業展開の概要を述べるとともに、スポーツバイオメカニクスに関する知識を深めることがスポーツ科学の学習と実践においてどのような意義を有しているかを説明し、今後の講義に対する動機づけを行う。
2	力と速度Ⅰ	講義形式：ニュートンの運動3法則から力の性質について説明する。また、力と運動の関係について力積を中心に説明する。
3	力と速度Ⅱ	1) 様々な身体運動における地面反力計を測定する。2) スクワットジャンプとカウンタームーブメントジャンプの地面反力を測定する。
4	力と速度Ⅲ	前回測定したスクワットジャンプとカウンタームーブメントジャンプの地面反力を分析する。
5	力と速度Ⅳ	講義形式：ジャンプ運動における抜重、反動効果について競技パフォーマンスの観点から概説する。
6	筋電図Ⅰ	講義形式：身体運動中に生じる筋の活動を制御する活動電位について説明する。
7	筋電図Ⅱ	1) 様々な身体運動で生じる筋電図を測定する。2) スクワット中の下肢の筋電図波形を測定する。
8	筋電図Ⅲ	前回測定したスクワット中の筋電図を分析する。
9	筋電図Ⅳ	講義形式：筋電図について競技パフォーマンスの観点から概説する。
10	筋腱ダイナミクスⅠ	講義形式：身体運動と関係する筋腱の力学的特性や身体運動中に収縮する筋および伸長-短縮する腱の動態について説明する。
11	筋腱ダイナミクスⅡ	1) 様々な身体運動中の筋腱の動態を超音波装置を用いて観察する。2) アイソメトリックな膝関節伸展運動および足関節底屈運動中の筋腱の動態を観察する。

12	筋腱ダイナミクスⅢ	<p>大腿四頭筋の大腿直筋と中間広筋の生理学的横断面積を測定および分析する。</p> <p>講義形式：身体運動と関係する筋腱の力学的特性や身体運動中に収縮する筋および伸長-短縮する腱の動態について競技パフォーマンスの観点から概説する。</p> <p>身体運動中の動作解析手法について概説する。また、三次元動作解析装置を用いて様々な身体運動の動作を定量的に観察する。</p> <p>これまでのまとめと、振り返りを行う。</p>
13	筋腱ダイナミクスⅣ	
14	身体動作解析Ⅰ	
15	まとめ	
16		

科目コード	25202				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツバイオメカニクス [B]				担当者名	秦 啓一郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

身体運動の成り立ちを理解することは、なぜその動作になるのか、どう改善すれば良いのかを理解することができるため、理想とする身体運動を真に再現可能となる。本授業では、身体と運動の力学をキーワードに、特に競技スポーツの身体動作と力について、実践的な演習を行う。また本学では、健康運動指導士・健康運動実践指導者・CSCSなどを取得するための必修科目である。

#### <授業の到達目標>

本授業の到達目標は、次の通りである。①運動の記述（どのような動きであるか説明できる）と、運動の原因の説明（なぜそのような動きになるか、どんな力が働いているか説明できる）ができる。②スポーツバイオメカニクスの視点で、スポーツや運動の観察・指導または改善方法を考案できる。

#### <授業の方法>

対面での講義および演習を行う。演習ではバイオメカニクス分野で用いられる専門機器を使用し、得られたデータを分析する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有り各テーマでグループを作り、測定と分析を行ったデータを発表する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

- 1) 次週の授業テーマに関して、各自で予習を行い、各自が得意とする運動とのバイオメカニクスの関わりを考えること（30分）。
- 2) 授業内容と関連する他基礎科目（生理学や解剖学など）の復習を行うこと（30分）。
- 3) 授業内容で学んだ内容を各自が得意とする運動に応用し、実践すること（30分）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席30%、毎回の課題30%、期末課題30%

#### <教科書>

なし

#### <参考書>

深代千之ほか編著 スポーツ動作の科学ーバイオメカニクスで読み解くー 東京大学出版会

福永哲夫ほか 筋の科学辞典 朝倉書店

Peter M. McGinnis（監訳 柳谷登志雄ほか） スポーツと運動のバイオメカニクス メディカル・サイエンス・インターナショナル

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	単位取得上の諸注意、授業展開の概要を述べるとともに、スポーツバイオメカニクスに関する知識を深めることがスポーツ科学の学習と実践においてどのような意義を有しているかを説明し、今後の講義に対する動機づけを行う。
2	力と速度Ⅰ	講義形式：ニュートンの運動3法則から力の性質について説明する。また、力と運動の関係について力積を中心に説明する。
3	力と速度Ⅱ	1) 様々な身体運動における地面反力計を測定する。2) スクワットジャンプとカウンタームーブメントジャンプの地面反力を測定する。
4	力と速度Ⅲ	前回測定したスクワットジャンプとカウンタームーブメントジャンプの地面反力を分析する。
5	力と速度Ⅳ	講義形式：ジャンプ運動における抜重、反動効果について競技パフォーマンスの観点から概説する。
6	筋電図Ⅰ	講義形式：身体運動中に生じる筋の活動を制御する活動電位について説明する。
7	筋電図Ⅱ	1) 様々な身体運動で生じる筋電図を測定する。2) スクワット中の下肢の筋電図波形を測定する。
8	筋電図Ⅲ	前回測定したスクワット中の筋電図を分析する。
9	筋電図Ⅳ	講義形式：筋電図について競技パフォーマンスの観点から概説する。
10	筋腱ダイナミクスⅠ	講義形式：身体運動と関係する筋腱の力学的特性や身体運動中に収縮する筋および伸長-短縮する腱の動態について説明する。
11	筋腱ダイナミクスⅡ	1) 様々な身体運動中の筋腱の動態を超音波装置を用いて観察する。2) アイソメトリックな膝関節伸展運動および足関節底屈運動中の筋腱の動態を観察する。

12	筋腱ダイナミクスⅢ	<p>大腿四頭筋の大腿直筋と中間広筋の生理学的横断面積を測定および分析する。</p> <p>講義形式：身体運動と関係する筋腱の力学的特性や身体運動中に収縮する筋および伸長-短縮する腱の動態について競技パフォーマンスの観点から概説する。</p> <p>身体運動中の動作解析手法について概説する。また、三次元動作解析装置を用いて様々な身体運動の動作を定量的に観察する。</p> <p>これまでのまとめと、振り返りを行う。</p>
13	筋腱ダイナミクスⅣ	
14	身体動作解析Ⅰ	
15	まとめ	
16		

科目コード	25202				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツバイオメカニクス				担当者名	佐藤 伸之			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

身体の動く仕組みを物理学的にアプローチする学問をバイオメカニクスという。本授業では、スポーツ現場でのバイオメカニクスについて学び、スポーツバイオメカニクスの基礎を理解し、身体運動の背景を力学的に捉えることができるようにする。さらに自身が指導者になるうえでのコーチング現場でのバイオメカニクスの応用について学び、自身の考えをまとめる。また、健康運動指導士・健康運動実践指導者・CSCSなどを取得するためには必修となる科目である。

#### <授業の到達目標>

①スポーツバイオメカニクスの授業内容に含まれているスポーツ動作の特徴を専門用語を用いて理解できる。②スポーツバイオメカニクスの視点で、スポーツや運動の観察・指導または改善方法を考案できる。

#### <授業の方法>

毎授業、動画視聴し、確認テストおよび授業振り返りシートの記入を行う（オンデマンド形式）。必要に応じて、確認テストの代わりとして小レポートの課題を提示する。classroomに補足資料などを掲載する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次週のキーワードを提示するので、各自でWeb、図書などを活用し予習してくること（1～2時間）。関連科目（運動学、生理学、解剖学、数学など）の復習を必要に応じて行うこと（1～2時間）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題60%、期末試験40%

#### <教科書>

なし

#### <参考書>

深代千之ほか編著 スポーツバイオメカニクス 朝倉書店

深代千之ほか スポーツ動作の科学-バイオメカニクスで読み解く- 東京大学出版会

山本澄子ほか 基礎バイオメカニクス 医歯薬出版株式会社

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、スポーツバイオメカニクスについて	授業の流れの説明、バイオメカニクスの基礎、スポーツバイオメカニクスの視点について
2	人体の動く仕組み	ヒトの骨格系、関節、関節運動の可動域について
3	運動と力	運動の法則、力の性質について
4	並進運動	身体運動の運動学的記述、変位・速度・加速度について
5	回転運動	角変位・角速度・角加速度について、並進運動と回転運動の関係について
6	流体力学	流体の抗力と揚力について、浮力、マグヌス効果について
7	走る動作のバイオメカニクス①	歩行と走行の違いについて、ストライド・ピッチの関係、その他歩行・走行動作について
8	走る動作のバイオメカニクス②	歩行と走行の違いについて、ストライド・ピッチの関係、その他歩行・走行動作について
9	跳ぶ動作のバイオメカニクス①	跳躍の基礎、垂直跳について
10	跳ぶ動作のバイオメカニクス②	走り幅跳び・走り高跳びのバイオメカニクス
11	投げる動作のバイオメカニクス	投動作のバイオメカニクス、野球の投動作ややり投げの投動作について
12	打つ動作のバイオメカニクス	野球の打撃動作やテニスの打撃動作について
13	スポーツバイオメカニクスのコーチングへの応用①	さまざまなコーチング現場への応用について①
14	スポーツバイオメカニクスのコーチングへの応用②	さまざまなコーチング現場への応用について②
15	まとめ、振り返り	これまでの授業の振り返りやまとめ



科目コード	25203				区 分	専門基礎科目			
授業 科目名	スポーツ栄養学 [PS用]				担当者名	保科 圭汰			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

競技者にとって良好なコンディションを維持し、競技力を向上させるためには栄養、運動ならびに休養のバランスが保たれていなければならない。このうち栄養はトレーニングの効果や競技成績に影響を及ぼす大変重要なものである。からだ作り・コンディション維持にかかわる栄養補給方法を科学的根拠に基づいた理論から学ぶ。

### <授業の到達目標>

本授業では、からだ作り・コンディション維持に関連する栄養補給のために必要な栄養素の種類、量、摂取タイミングを学ぶ。また、競技特性や期分け、環境、ライフステージに合わせた適切な食事摂取を理解し、実践できる能力を身につける。

### <授業の方法>

パワーポイントによる講義形式で進めるとともに、授業内容に基づいたテーマについてディスカッション、グループワークを行う。Google Classroomを活用し、授業資料や課題管理を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素 有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習として授業内で配布した資料は必ず目を通し、理解を深めること。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べる。（2時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題点（レポート課題、意見交換、小テスト） 60%、最終課題 40%

### <教科書>

特になし

### <参考書>

清野隼・虎石真弥・山口太一（2022） ケースで学ぶスポーツ栄養学 株式会社みらい  
高田和子・海老久美子・木村典代（2020） エッセンシャルスポーツ栄養学 市村出版  
鈴木志保子（2018） 理論と実践 スポーツ栄養学 日本文芸社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ栄養学の概念	スポーツ栄養学の概念、栄養学の基礎
2	食事摂取の基本	競技者における食事の基本形
3	期分けによる栄養補給方法①（準備期）	外食の活用、生活環境と食事
4	期分けによる栄養補給方法②（試合期）	体調への配慮、補食の摂取
5	トレーニングとエネルギー消費量	身体活動や競技特性の違いによるエネルギー消費量
6	スポーツ競技者の身体組成と貯蔵エネルギー	身体組成の測定方法、競技別の身体特性
7	糖質補給	グリコーゲンの貯蔵および回復のための糖質摂取
8	たんぱく質摂取	からだ作りのためのたんぱく質摂取
9	減量・増量と食事管理	減量および増量の考え方、相対的エネルギー不足
10	カルシウム摂取	骨づくりのための食事管理
11	鉄摂取	貧血予防と食事管理
12	ビタミン摂取	コンディション維持のためのビタミン摂取
13	水分補給	熱中症予防と運動時に必要な水分補給
14	サプリメント	正しいサプリメントの使用方法およびドーピング
15	食生活のチェック	自身の食生活の記録および分析
16		

科目コード	25203				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ栄養学〔トレーナー資格取得予定者〕				担当者名	保科 圭汰			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

競技者にとって良好なコンディションを維持し、競技力を向上させるためには栄養、運動ならびに休養のバランスが保たれていなければならない。このうち栄養はトレーニングの効果や競技成績に影響を及ぼす大変重要なものである。からだ作り・コンディション維持にかかわる栄養補給方法を科学的根拠に基づいた理論から学ぶ。

#### <授業の到達目標>

本講義では、からだ作り・コンディション維持に関連する栄養補給のために必要な栄養素の種類、量、摂取タイミングを学ぶ。また、競技特性や期分け、環境、ライフステージに合わせた適切な食事摂取を理解し、実践できる能力を身につける。

#### <授業の方法>

パワーポイントによる講義形式で進める。また、必要に応じて資料を配布し授業内容に基づいたテーマについてディスカッション、グループワークを行う。Google Classroomを活用し、授業資料や課題管理を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素 有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習として授業内で配布した資料は必ず目を通し、理解を深めること。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べる。（2時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲・課題 30%、定期試験 70%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

清野隼・虎石真弥・山口太一（2022） ケースで学ぶスポーツ栄養学 株式会社みらい  
高田和子・海老久美子・木村典代（2020） エッセンシャルスポーツ栄養学 市村出版  
鈴木志保子（2018） 理論と実践 スポーツ栄養学 日本文芸社

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ栄養学の概念	スポーツ栄養学の概念、栄養学の基礎
2	食事摂取の基本	競技者における食事の基本形
3	期分けによる栄養補給方法①（準備期）	外食の活用、生活環境と食事
4	期分けによる栄養補給方法②（試合期）	体調への配慮、補食の摂取
5	トレーニングとエネルギー消費量	身体活動や競技特性の違いによるエネルギー消費量
6	スポーツ競技者の身体組成と貯蔵エネルギー	身体組成の測定方法、競技別の身体特性
7	糖質補給	グリコーゲンの貯蔵および回復のための糖質摂取
8	たんぱく質摂取	からだ作りのためのたんぱく質摂取
9	減量・増量と食事管理	減量および増量の考え方、相対的エネルギー不足
10	カルシウム摂取	骨づくりのための食事管理
11	鉄摂取	貧血予防と食事管理
12	ビタミン摂取	コンディション維持のためのビタミン摂取
13	水分補給	熱中症予防と運動時に必要な水分補給
14	サプリメント	正しいサプリメントの使用方法およびドーピング
15	食生活のチェック	自身の食生活の記録および分析
16		

科目コード	25203				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ栄養学				担当者名	眞鍋 芳江			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

競技者にとって良好なコンディションを維持し、競技力を向上させるためには栄養、運動ならびに休養のバランスが保たれていなければならない。このうち栄養はトレーニングの効果や競技成績に影響を及ぼす大変重要なものである。からだ作り・コンディション維持にかかわる栄養補給方法を科学的根拠に基づいた理論から学ぶ。

### <授業の到達目標>

本講義では、からだ作り・コンディション維持に関連する栄養補給のために必要な栄養素の種類、量、摂取タイミングを学ぶ。また、競技特性や期分け、環境、ライフステージに合わせた適切な食事摂取を理解し、実践できる能力を身につける。

### <授業の方法>

パワーポイントによる講義形式で進める。また、必要に応じて資料を配布し授業内容に基づいたテーマについてディスカッション、グループワークを行う。Google Classroomを活用し、授業資料や課題管理を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素 有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習として授業内で配布した資料は必ず目を通し、理解を深めること。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べる。（2時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲・課題 30%、定期試験 70%

### <教科書>

特になし

### <参考書>

清野隼・虎石真弥・山口太一（2022） ケースで学ぶスポーツ栄養学 株式会社みらい  
高田和子・海老久美子・木村典代（2020） エッセンシャルスポーツ栄養学 市村出版  
鈴木志保子（2018） 理論と実践 スポーツ栄養学 日本文芸社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ栄養学の概念	スポーツ栄養学の概念、栄養学の基礎
2	食事摂取の基本	競技者における食事の基本形
3	期分けによる栄養補給方法①（準備期）	外食の活用、生活環境と食事
4	期分けによる栄養補給方法②（試合期）	体調への配慮、補食の摂取
5	トレーニングとエネルギー消費量	身体活動や競技特性の違いによるエネルギー消費量
6	スポーツ競技者の身体組成と貯蔵エネルギー	身体組成の測定方法、競技別の身体特性
7	糖質補給	グリコーゲンの貯蔵および回復のための糖質摂取
8	たんぱく質摂取	からだ作りのためのたんぱく質摂取
9	減量・増量と食事管理	減量および増量の考え方、相対的エネルギー不足
10	カルシウム摂取	骨づくりのための食事管理
11	鉄摂取	貧血予防と食事管理
12	ビタミン摂取	コンディション維持のためのビタミン摂取
13	水分補給	熱中症予防と運動時に必要な水分補給
14	サプリメント	正しいサプリメントの使用方法およびドーピング
15	食生活のチェック	自身の食生活の記録および分析
16		

科目コード	25205				区 分	専門基礎			
授業科目名	体育史				担当者名	真田 久			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

古代から今日に至る体育やスポーツの歩みについて、体育やスポーツが、時代ごとにどのような役割や価値を人々に与えたのか、という視点で分析しながら学修する。

### <授業の到達目標>

① それぞれの時代において、体育やスポーツが人々にどのような価値や役割を与えてきたのかについて説明できる② 体育やスポーツの歴史的変遷を踏まえて、現代における体育やスポーツの課題を分析し、今後の体育やスポーツのあり方を構想できるようにする

### <授業の方法>

それぞれの時代や地域におけるスポーツについてイメージできるよう写真を用いたスライドや動画などの教材を中心に解説する。また、当時の体育やスポーツの価値や役割についてディスカッションする時間も設ける。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

自身が深く関わっているスポーツ種目などについてその歴史を探究する

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

関心を持った様々なスポーツの歴史についてより詳しく調べてみる

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）に関連付けられる。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回でのリフレクションシート（課題）30%、授業の参加度20%、個人発表内容20%、最終課題30%の配分で評価する。

### <教科書>

### <参考書>

田原淳子、木村吉次、来田享子（編著） 体育・スポーツ史概論 （改訂4版） 市村出版  
 真田 久 嘉納治五郎：日本にオリンピックを呼んだ国際人 潮出版社  
 日本オリンピック・アカデミ ー編 2020+1 東京大会を考える メディアパル

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションなぜ体育史を学ぶのか	授業概要、運営、成績のつけ方等の説明、体育史を学ぶ意義と意味
2	古代ギリシャのオリンピックとスポーツ	ギリシャの競技精神や古代オリンピックの始まり・発展について学びながら、古代オリンピックの特徴について学修する。
3	ローマ時代のスポーツ	ローマ時代における戦車競走、剣闘士競技や公衆浴場（テルマエ）などについて学び、ギリシャ時代のスポーツと比較する。
4	嘉納治五郎による柔道創設	嘉納治五郎はどのようにして柔道を創設したのか、それをどのように教育に展開したのか、について動画教材を通して学ぶとともに、今後のスポーツや勉学にどのように活かすかを考える。
5	近代ギリシャとイギリスのオリンピック復興	19世紀のギリシャにおいて開催された古代オリンピックの復興にあたるオリンピック競技会および、イギリスでのウェンロック・オリンピックについて学ぶ。それらと国際オリンピックとのつながりについて考える。
6	嘉納治五郎による国際社会への関わり	嘉納治五郎はアジア人発のIOC委員として国際的に活躍した。その内容を動画教材を通して学ぶとともに、今後の生き方にどう活かすかを考える。
7	クーベルタンによる近代オリンピック創設	フランスのピエール・ド・クーベルタンにより古代オリンピックが近代に復興されたが、その経緯と理念について学修し、今日のオリンピックとのつながりを考える。
8	嘉納治五郎による体育科創設と留学生教育	嘉納治五郎は1915年に東京高等師範学校に「体育科」を創設したが、その経緯と理念を探る。また留学生を多く受け入れたが、どのような教育をおこなったのか学修する。
9	金栗四三：初のオリンピック選手	1912年の第5回オリンピックに出場した金栗四三について、オリンピックに参加する経緯とオリンピック以降のスポーツ界への貢献について学修する。

10	近代オリンピックの初期の歩み	第1回オリンピック（アテネ）から第11回オリンピック（ベルリン）までの歩みについて、動画教材を通して社会的な動向とともに学修する。
11	関東大震災とスポーツによる復興	1923年9月1日に起きた関東大震災に対して、嘉納治五郎を中心とする大日本体育協会はスポーツによる復興を企図した。その内容と社会への影響について学修する。
12	オリンピック（1940年）の東京招致	嘉納治五郎中心に第12回オリンピックの東京への招致活動が始められた。その内容と理念について学修する。
13	第18回オリンピック東京大会	1964年10月、アジア初のオリンピックが東京で開催された。大会の内容と社会的インパクトについて動画教材を通して学修する。
14	東京2020大会	東京2020大会はコロナ禍によりそれまでにない大会となったが、様々なムーブメントが行われた。その内容とレガシーについて学修する。
15	授業のまとめと振り返り	授業のまとめ、振り返りを行うとともに、到達度を測る。
16		

科目コード	25301				区 分	コア科目			
授業科目名	運動生理学				担当者名	河端 隆志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

人類が進化の過程において高次元の統合性と適応性を身に付けたことは、優れた協調適応の能力を有する高度の有機体であることの証と云えよう。運動生理学というのは、生理学の一分野として、人體が運動しているときの状態を系統的に研究分析してその法則性を明らかにし、叙述するものである。ヒトのからだ（生體）は常に統合（integrity）された一つの有機的體系として組み立てられており、内部環境における動的安定のもとに恒常性維持がなされている（Homeostasis）。運動・スポーツ・シーンにおいてパフォーマンスが維持されていることは統合性が保たれていること（合目的的適応）であり、生體の内部環境にあっては協調（co-ordination）として、また外部環境のストレスに対する適応（adaptation）として認められる。しかし、その恒常性が維持できなくなるとパフォーマンスは低下することとなり、そこには何らかの制限因子があると云えよう。したがって、ヒトのからだを全体（whole body）で捉えて、その生活現象を動的方面即ち変化及び機能（生理学）と静的方面即ち形態・構造（解剖学）について観察する眼差しが大切である（全機能性）。本講義では、ヒトのからだの全機能性について運動生理学的・機能解剖学的視点より探究し、科学的根拠に基づくエヴィデンスを知識として習得し、さらに運動・スポーツ現場に応用できる知恵とする実践力を體得することを目指すものである。

### <授業の到達目標>

・運動生理学は講義で学んだ知識をさらに実習で知恵として実践できる応用力を體得することをゴールとするものである。・運動・スポーツ現場にある疑問をテーマとして捉え、その解決方法を自ら見つけ出せる実践力を身に付ける。・それぞれに行っている競技種目の特性を捉えたトレーニングへの応用ができる能力を身に付ける。・指導的立場（教員・スポーツ指導者・健康指導者など）に立った時の応用力・実践力を身に付ける。

### <授業の方法>

講義

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・アクティブ・ラーニングの要素有無；有り・課題ごとにペアあるいはグループでの討議を通して、自らの考えを伝えるとともに他者の意見を聞き、考える機会を設ける。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各テーマに関して自身の競技特性や将来の目標と照らし合わせながら；予習：翌週のテーマ内容に準じた参考書や資料およびネット検索などにより、課題に対する予備知識を得ておくこと。（所要時間：60分程度）復習：講義前に実施する振り返り（毎回、15分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲10%、定期試験90%1）平常点：30点（15回講義出席および確認テスト）2）レポート評価：70点（35点×2回）

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	運動生理学概論	体育学系学生としての運動生理学の捉え方
2	ヒトの特性と体力を考える	人類の進化からヒトの特徴を考える
3	運動時の制限因子	運動・スポーツで起こるパフォーマンスの低下とその制限因子
4	疲労と疲労感	疲労・疲労感は異なることの理解とコンディション維持への応用
5	運動と筋・骨格系	骨格筋の収縮・代謝特性、エネルギー供給機構
6	運動と神経系	神経系の構造と運動発現、身体動作の運動制御、運動が学習や記憶に及ぼす影響
7	運動と代謝系	運動の継続時間とエネルギー発生機構、運動と酸化ストレス、筋運動のためのエネルギー供給機構
8	運動と呼吸器系	肺における換気、血液によるガス輸送、酸素摂取量、無酸素性作業閾値
9	運動と心・循環系	中心循環と末梢循環、運動時の循環調節と統合
10	運動と体温調節	体温調節のメカニズム、運動時の体温調節反応とその影響因子
11	運動と体液バランス	運動が体液量および組成に及ぼす影響、多量発汗・脱水とその回復

12	運動とホルモン	運動によるホルモン分泌とトレーニングによる適応変化
13	フィジカル・パフォーマンス	運動時の強度により要求される代謝プロセス(有酸素性・無酸素性；非乳酸性・乳酸性)、無酸素性作業閾値(AT)、最大酸素摂取量、加齢・性差の比較
14	身体動作の主観と客観	身体動作における主観と客観のズレについて考える
15	まとめ	これまでの講義内容を改めて確認し、実践に役立たせる能力を養う
16		

科目コード	25301				区 分	コア科目			
授業科目名	運動生理学				担当者名	河端 隆志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

人類が進化の過程において高次元の統合性と適応性を身に付けたことは、優れた協調適応の能力を有する高度の有機体であることの証と云えよう。運動生理学というのは、生理学の一分野として、人體が運動しているときの状態を系統的に研究分析してその法則性を明らかにし、叙述するものである。ヒトのからだ（生體）は常に統合（integrity）された一つの有機的體系として組み立てられており、内部環境における動的安定のもとに恒常性維持がなされている（Homeostasis）。運動・スポーツ・シーンにおいてパフォーマンスが維持されていることは統合性が保たれていること（合目的的適応）であり、生體の内部環境にあっては協調（co-ordination）として、また外部環境のストレスに対する適応（adaptation）として認められる。しかし、その恒常性が維持できなくなるとパフォーマンスは低下することとなり、そこには何らかの制限因子があると云えよう。したがって、ヒトのからだを全体（whole body）で捉えて、その生活現象を動的方面即ち変化及び機能（生理学）と静的方面即ち形態・構造（解剖学）について観察する眼差しが大切である（全機能性）。本講義では、ヒトのからだの全機能性について運動生理学的・機能解剖学的視点より探究し、科学的根拠に基づくエヴィデンスを知識として習得し、さらに運動・スポーツ現場に応用できる知恵とする実践力を體得することを目指すものである。

### <授業の到達目標>

・運動生理学は講義で学んだ知識をさらに実習で知恵として実践できる応用力を體得することをゴールとするものである。・運動・スポーツ現場にある疑問をテーマとして捉え、その解決方法を自ら見つけ出せる実践力を身に付ける。・それぞれに行っている競技種目の特性を捉えたトレーニングへの応用ができる能力を身に付ける。・指導的立場（教員・スポーツ指導者・健康指導者など）に立った時の応用力・実践力を身に付ける。

### <授業の方法>

講義

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・アクティブ・ラーニングの要素有無；有り・課題ごとにペアあるいはグループでの討議を通して、自らの考えを伝えるとともに他者の意見を聞き、考える機会を設ける。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各テーマに関して自身の競技特性や将来の目標と照らし合わせながら；予習：翌週のテーマ内容に準じた参考書や資料およびネット検索などにより、課題に対する予備知識を得ておくこと。（所要時間：60分程度）復習：講義前に実施する振り返り（毎回、15分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲10%、定期試験90%1）平常点：30点（15回講義出席および確認テスト）2）レポート評価：70点（35点×2回）

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	運動生理学概論	体育学系学生としての運動生理学の捉え方
2	ヒトの特性と体力を考える	人類の進化からヒトの特徴を考える
3	運動時の制限因子	運動・スポーツで起こるパフォーマンスの低下とその制限因子
4	疲労と疲労感	疲労・疲労感は異なることの理解とコンディション維持への応用
5	運動と筋・骨格系	骨格筋の収縮・代謝特性、エネルギー供給機構
6	運動と神経系	神経系の構造と運動発現、身体動作の運動制御、運動が学習や記憶に及ぼす影響
7	運動と代謝系	運動の継続時間とエネルギー発生機構、運動と酸化ストレス、筋運動のためのエネルギー供給機構
8	運動と呼吸器系	肺における換気、血液によるガス輸送、酸素摂取量、無酸素性作業閾値
9	運動と心・循環系	中心循環と末梢循環、運動時の循環調節と統合
10	運動と体温調節	体温調節のメカニズム、運動時の体温調節反応とその影響因子
11	運動と体液バランス	運動が体液量および組成に及ぼす影響、多量発汗・脱水とその回復

12	運動とホルモン	運動によるホルモン分泌とトレーニングによる適応変化
13	フィジカル・パフォーマンス	運動時の強度により要求される代謝プロセス(有酸素性・無酸素性；非乳酸性・乳酸性)、無酸素性作業閾値(AT)、最大酸素摂取量、加齢・性差の比較
14	身体動作の主観と客観	身体動作における主観と客観のズレについて考える
15	まとめ	これまでの講義内容を改めて確認し、実践に役立たせる能力を養う
16		

科目コード	25303				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツ文化論				担当者名	堀川 峻			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

スポーツは、各地域・各民族の生活・行動の中から生み出された文化の一形態であり、スポーツを文化として捉えることで、歴史性、地域や民族とのかかわり、国際化の問題、教育との結びつき、身体性、ジェンダーにかかわる課題など、様々な事象がみえてくる。そのため、本授業では特定のテーマに絞って事例的に提示、解説しつつ、スポーツ文化の多面的な理解を目指していく。

### <授業の到達目標>

本授業では以下の2点を目標に設定する。①体育・スポーツに関わる文化事象をスポーツ文化論の知見を踏まえて説明することができる。②体育・スポーツ界における慣習の文化的な背景を理解した上で、他者と意見交流ができる。

### <授業の方法>

配布資料やパワーポイントを用いた講義形式、ディベートやグループワークも実施する。各回の授業の最後には、リフレクションシート（課題）を配布・回収する。授業中のデータ共有はGoogle Classroomを活用する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング有り各授業のテーマにそって、適宜グループワークによって、意見交換を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

<準備学習>スポーツ文化を対象にしたニュースやコラム等に通し、取り上げられた背景や経過を調べておくこと（1時間）。上記について簡単に発表できるようにしておくこと（1時間）。<事後学習>取り組んだ事前課題と講義内容を踏まえ、振り返り課題に取り組むこと（1時間）。自らのスポーツ生活の中における文化事象を何点か取り上げ、考察すること。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績は、各回でのリフレクションシート（課題）30%、授業の参加度20%、個人発表内容20%、最終課題30%の配分で評価する。

### <教科書>

### <参考書>

井上俊・菊幸一編 よくわかるスポーツ文化論〔改訂版〕 ミネルヴァ書房

井上俊・亀山佳明編（1999） スポーツ文化を学ぶ人のために 世界思想社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションスポーツ文化論とは	授業概要、運営、成績のつけ方等の説明、スポーツ文化論を学ぶ意義と意味
2	スポーツと教育について	スポーツと教育が結びついてきた歴史、その意味や意義について、文化的な視点から考察する。
3	学校体育について	日本における学校体育のスポーツ文化を振り返り、文化的な視点から考察する。
4	地域スポーツについて	日本や海外の地域におけるスポーツ文化について考察する。
5	日本の伝統的な身体文化について	日本の伝統的な身体文化について、特に武道を中心に文化的に考察する。
6	ニューススポーツ体験 フライングディスク	ニューススポーツとして普及しつつあるフライングディスクについて、考案された歴史やルールについて学習した後、実技によって体験し、スポーツ文化という観点から考察する。
7	陸上競技の歴史と文化について	陸上競技というスポーツについて、歴史的、文化的に考察する。
8	eスポーツについて	eスポーツについて、文化的に考察する。
9	アダプテッドスポーツについて	アダプテッドスポーツについて、文化的な視点から考察する。
10	スポーツと政治について	スポーツを取り巻く政治の問題について、文化的な視点から考察する。
11	スポーツ施設について	スポーツに関連する施設について文化的に考察する。
12	スポーツとファンについて	スポーツを支えるファンの文化について、文化的に考察する。
13	オリンピック、パラリンピックについて	オリンピック、パラリンピックについて文化的に考察する。
14	スポーツとジェンダーについて	スポーツとジェンダーについて、文化的に考察する。
15	授業のまとめと振り返り	授業のまとめ、ふりかえりをするとともに、到達度を測る。
16		

科目コード	25307				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツ生理学				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本講義では、筋の形態的・機能的な特徴の把握、運動時の呼吸循環反応、運動時の代謝とホルモン調節など、様々な観点から運動の生理的機序を習得させ、さらにそれらの各種トレーニングによる効果などについて理解を深めることを目的とする。

#### <授業の到達目標>

運動生理学の基礎的な理論についての理解はもとより、最新の研究成果についての情報も収集しながら、実践的・実地的な知識を習得できる。また、これらを理解した上で、健康増進および競技パフォーマンスの向上のための方法について考えることができる。

#### <授業の方法>

講義

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション）5、6人のグループに分かれ、授業テーマに対する意見をグループで共有する

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各テーマに関して、参考書や資料などに目を通し、予備知識を得ておくこと。（所要時間：2時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1) 毎回の評価：5点×15回（確認テスト＋レポート提出）2) 期末レポート評価：25点期末レポートは、毎回の授業で課すレポートをまとめたものに総合考察を付けて提出してもらいます。毎回のレポート評価は提出点のみとし、期末レポートで内容まで評価します。

#### <教科書>

勝田茂（2015年3月） 入門運動生理学 杏林書院

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	運動生理学とは	運動生理学の研究史
2	骨格筋の構造と機能	骨格筋の構造の理解、筋線維タイプと競技種目特性
3	筋力・筋パワー	筋収縮の様式、筋力に影響する要因とトレーニング効果
4	運動とエネルギー供給系	TCAサイクル、ATP-PC系・解糖系・酸化系
5	筋エネルギー代謝とトレーニング	各種トレーニングとエネルギー代謝
6	運動時の糖質・脂質・蛋白代謝	代謝とは、糖質・脂質・蛋白代謝の概要
7	運動とホルモン	筋肥大のメカニズム、筋肥大に影響する要因
8	運動と神経	ニューロンと興奮の伝導、運動単位の動員様式
9	運動と酸素摂取	呼吸の基礎概念、最大酸素摂取量、酸素借
10	無酸素性作業閾値（AT）	ATとは、ATを規定する因子、トレーニングとAT
11	体温と運動パフォーマンス	体温に影響する要因、運動と体温変化
12	スポーツと遺伝子	持久系能力に関連する遺伝子、スプリント・パワー系能力に関連する遺伝子
13	筋疲労の要因	筋機能の特性、遺伝の影響
14	トップアスリートの特性	呼吸循環機能、筋腱の構造と機能
15	まとめ	本講義のまとめ
16		

科目コード	25308				区 分	コア科目			
授業科目名	運動生理学演習 I				担当者名	十河 直太／眞鍋 芳江／伊藤 三千雄／田中 耕作／河端 隆志			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業では、主に健康増進、生活習慣病の予防のために、運動を実際の生活に取り入れる場合に必要な基礎知識、測定や評価を理解し修得することを目的とする。これまでに「生理学」「運動生理学（基礎）」「トレーニング演習」「栄養学」「運動学」等にて学習した内容をもとに、身体運動に伴って生じる各器官（運動器系、神経-筋骨格系、呼吸器系、循環器系）の生理反応や身体機能について測定・評価を行う。実習を通じて、身近な生理現象から運動生理学について理解を深める。なお、競技力向上のための運動生理学については、「体力学実習」の授業にて取り扱っているため、目的に応じて履修することをすすめる。

### <授業の到達目標>

各種測定機器を用いて、身体運動に伴って生じる各器官の生理反応や身体機能を測定・評価することができる。得られたデータについて論理的に考察し、レポートにまとめることができる。実習を通じ、身体運動に伴って生じる各器官の生理反応や身体機能について理論を理解し、実践に繋げることができる。

### <授業の方法>

本授業は、複数の教員が担当するオムニバス授業である。テーマに沿った内容を電子資料やパワーポイント等を用いて解説するとともに、テーマについてディスカッション、グループワークを行う。小テストやレポート課題はGoogle classroomを用いて実施する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素：あり測定で得られたデータについてグループでディスカッションを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で提示するテーマの内容について、事前に配布資料や指示された参考資料を読む（1時間程度）。講義ノート・実験データを基にレポート課題や復習を行う（1時間程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 40%、測定結果の考察やレポート課題 60%

### <教科書>

特に指定なし

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	講義概要の解説	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	各種測定と評価（1）	エネルギー代謝からみた競技・健康づくり
3	各種測定と評価（2）	乳酸測定1（LT測定）
4	各種測定と評価（3）	乳酸測定2（クーリングダウンの効果）
5	各種測定と評価（4）	乳酸測定データの分析と考察、まとめ
6	各種測定と評価（5）	身体組成と運動による変化
7	各種測定と評価（6）	運動と血圧応答
8	各種測定と評価（7）	運動と血液の役割、データ分析と考察、まとめ
9	各種測定と評価（8）	運動時の呼吸循環系応答：最大酸素摂取量の測定実習
10	各種測定と評価（9）	最大酸素摂取量の評価
11	各種測定と評価（10）	呼吸循環系応答の測定データの分析と考察
12	各種測定と評価（11）	身体組成と必要栄養素量①（糖質）
13	各種測定と評価（12）	身体組成と必要栄養素量②（脂質）
14	各種測定と評価（13）	身体組成と必要栄養素量②（脂質）
15	各種測定と評価（14）	まとめ・振り返り
16		

科目コード	25309				区 分	コア科目			
授業科目名	運動生理学演習Ⅱ				担当者名	十河 直太／眞鍋 芳江／伊藤 三千雄／田中 耕作／河端 隆志			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業では、主に健康増進、生活習慣病の予防のために、運動を実際の生活に取り入れる場合に必要な基礎知識、測定や評価を理解し修得することを目的とする。これまでに「生理学」「運動生理学（基礎）」「トレーニング演習」「栄養学」「運動学」等にて学習した内容をもとに、身体運動に伴って生じる各器官（運動器系、神経-筋骨格系、呼吸器系、循環器系）の生理反応や身体機能について測定・評価を行う。実習を通じて、身近な生理現象から運動生理学について理解を深める。なお、競技力向上のための運動生理学については、「体力学実習」の授業にて取り扱っているため、目的に応じて履修することをすすめる。

### <授業の到達目標>

各種測定機器を用いて、身体運動に伴って生じる各器官の生理反応や身体機能を測定・評価することができる。得られたデータについて論理的に考察し、レポートにまとめることができる。実習を通じ、身体運動に伴って生じる各器官の生理反応や身体機能について理論を理解し、実践に繋げることができる。

### <授業の方法>

本授業は、複数の教員が担当するオムニバス授業である。テーマに沿った内容を電子資料やパワーポイント等を用いて解説するとともに、テーマについてディスカッション、グループワークを行う。小テストやレポート課題はGoogle classroomを用いて実施する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素：あり測定で得られたデータについてグループでディスカッションを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で提示するテーマの内容について、事前に配布資料や指示された参考資料を読む（1時間程度）。講義ノート・実験データを基にレポート課題や復習を行う（1時間程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 40%、測定結果の考察やレポート課題 60%

### <教科書>

特に指定なし

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	講義概要の解説	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	各種測定と評価（1）	骨粗鬆症と運動の効果
3	各種測定と評価（2）	運動時の呼吸循環系応答①：最大下運動時の酸素摂取量、心拍数、RPEの測定実習
4	各種測定と評価（3）	運動時の呼吸循環系応答①の測定データ分析と評価
5	各種測定と評価（4）	運動時の呼吸循環系応答②：暑熱環境下における最大下運動時の酸素摂取量、心拍数、RPEの測定実習
6	各種測定と評価（5）	運動時の呼吸循環系応答②の測定データ分析と評価
7	各種測定と評価（6）	心電図について
8	各種測定と評価（7）	心電図の評価
9	各種測定と評価（8）	運動と加齢
10	各種測定と評価（9）	運動と脳機能の関係、まとめ
11	各種測定と評価（10）	身体組成と必要栄養素量①（ビタミン）
12	各種測定と評価（11）	身体組成と必要栄養素量②（ミネラル）
13	各種測定と評価（12）	身体組成と必要栄養素量③（食物繊維・水）
14	各種測定と評価（13）	身体組成と必要栄養素量④
15	各種測定と評価（14）	まとめ・振り返り
16		

科目コード	26202				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	英語学概論				担当者名	伊藤 仁美			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業の全体目標は、中学校および高等学校における外国語科の授業に質する英語学的知見を身につけることである。魅力的な英語授業を展開するには、英語力・教授力のほかに、英語とはどのような言語なのかを深く多面的に知っておく必要がある。本授業では、英語のしくみ・特徴について、日本語と比較しながら考察し理解を深めていく。

### <授業の到達目標>

(1) 英語の音声の仕組みについて理解している。【音声学・音韻論】(2) 英語の単語・文法について理解している。【形態論・統語論】(3) 英語の単語の意味・意味関係・多義性について理解している。【語彙意味論】(4) 相手との関係性や文脈に応じて、適切に言外の意味を理解している。【語用論】(5) 英語の歴史的変遷および国際共通語としての英語の実態について理解している。

### <授業の方法>

(1) 前時の復習・小テスト(10分)(2) 講義・要点整理(20分)(3) 個人演習(20分)(4) ペア演習(20分)(5) 解説(10分)(6) まとめ(10分)※演習では、問題集に取り組んだり、要点を整理し関連する情報や用例を付け加えながら簡潔に説明したり、学習内容に関連する記事を読んだりする。※課題の受け渡し・学習管理には、Googleクラスルームを活用する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無 ※ペアで演習問題に取り組んだり、教え合ったりする場面はあるが、基本的には知識・技能の習得を目指すものである(規則を暗記し手続きを実行する)

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・小テストに向けて授業内容の復習(60分)・必要に応じて、学習内容に関連する記事を読む(30分)・必要に応じて、インターネットで用例を探したり、例文を考えたりする(30分)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2(初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー5(初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度30%、小テスト 30%、中間試験および期末試験 40%

### <教科書>

### <参考書>

三原健一・高見健一(2013年11月11日) 日英対照英語学の基礎 くろしお出版

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	言語学という学問	言語学の分野の紹介、英語の歴史的変遷、国際共通語としての英語の実態
2	音声学①	音素、母音体系、子音体系
3	音声学②	IPA国際音声、発音記号、アメリカ英語とイギリス英語の発音
4	音韻論①	音節とモーラ、高低アクセントと強弱アクセント、アクセント規則(複合語、文アクセント)
5	音韻論②	超文節音(アクセント・リズム・イントネーション)
6	形態論①	品詞、語幹と屈折接辞、語基と派生接辞、単語の構造(樹形図の作成)、形態素(拘束形態素、自由形態素)
7	形態論②	複合語と句の違い、品詞転換、語形短縮、混成、頭文字語、逆形成など
8	中間試験	試験と解説
9	統語論①	品詞、語順、語・句・文、統語構造(線状・階層)
10	統語論②	樹形図の作成、主要部、補文標識、テンス(時制)、決定詞など
11	統語論③	機能的構文論、文の情報構造(新情報・旧情報)
12	語彙意味論	語義と多義性、プロタイプ、意味関係(類義語・対義語・上下関係・部分全体関係)
13	語用論①	発話行為、直示、含意・推移
14	語用論②	中間言語語用論・ボライトネスの発達に関する英文記事を読む
15	期末試験	試験と解説
16		

科目コード	26204				区 分	専門基礎			
授業 科目名	4 技能統合型英語 I （基礎）				担当者名	竹下 厚志			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	なし

#### <授業の概要>

「聞く・読む・話す・書く・やり取りする」ことを統合的にトレーニングしていきます。特に初期段階ではスピーキング力の向上を中心に授業は行われます。最終的には英検準2級の上位レベルを目指す授業です。\*【重要】英語の教員免許希望者および留学希望者は必ず受講してください。

#### <授業の到達目標>

1) 身近な話題についてかなり自由に話すことができる。2) 教員や友人の英語をほぼ正確に聞き取ることができる。3) 日本における社会問題について書かれた内容を時間をかければ理解することができる。4) 身近な話題についてほぼ正しい語順で50語程度のまとまった英語を書くことができる。

#### <授業の方法>

当初は、学習した英文を自分の言葉(My English)として取り込む活動を中心に行います。その後、いくつかの英文に触れながらペア活動、グループ活動を通して、全員の英語コミュニケーション力の向上を目指します。個人個人の伸びを見ていきますのでかなりの忍耐力と集中力が要求されます。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり。スピーチ、プレゼンテーション、ペア・グループ活動。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

学習した英文の音読練習、暗唱、サマリー（毎日30分）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加 30% パフォーマンステスト 50% 提出物 20%

#### <教科書>

#### <参考書>

竹下 厚志（2021年2月25日） SDGs英語長文Core 三省堂

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方、課題への取り組み方
2	テーマ学習 1-1	英文の理解・音読
3	テーマ学習 1-2	英文の取り込み・再生
4	テーマ学習 2-1	英文の理解・音読
5	テーマ学習 2-2	英文の取り込み・再生
6	発表 1	学習した内容+αで“My English”による自己表現
7	テーマ学習 3-1	英文の理解・音読
8	テーマ学習 3-2	英文の取り込み・再生
9	テーマ学習 4-1	英文の理解・音読
10	テーマ学習 4-2	英文の取り込み・再生
11	発表 2	学習した内容+αで“My English”による自己表現
12	パラフレーズトレーニング	学習した英文のパラフレーズ
13	クイックレスポンス 1	学習した英文をもとにした対話練習
14	クイックレスポンス 2	学習した英文をもとにした対話練習
15	プレゼンテーション	自分のテーマでプレゼンテーション
16		

科目コード	27100				区 分	専門基礎			
授業 科目名	解剖学 I [PH2025年度生用]				担当者名	百田 龍輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

スポーツ医科学、柔道整復学習得のためには解剖学の知識が必須である。解剖学では人体を構成する骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官の正常構造について系統的に学習する。また人体が、この10種類の器官系が立体的に配置することによって形成されていることを学習する。

### <授業の到達目標>

1) 脈管系：体循環と肺循環の構造を説明できるようになる。2) 血管の組織学的構造、心臓の位置・形態・壁・弁・刺激伝導系・心臓の脈管について説明できるようになる。3) 動脈・静脈の名称と位置について説明できるようになる。4) 胎児循環について説明できるようになる。5) リンパ系の組織・器官の構造と役割について説明できるようになる。6) 消化器系：消化器の種類・構造・位置・機能、消化・吸収・排泄の過程について説明できるようになる。7) 呼吸器系：呼吸器の種類・構造・機能について説明できるようになる。

### <授業の方法>

教科書に沿ったパワーポイントを使用して講義する。（教科書の各項目については、講義の進行上部分的に入れ替えることがある。）適時プリントを配布して教科書を補完する。重要な学習項目については随時学生を指名し発表討論形式で説明させる。講義終了時にその日の授業内容全般を整理するために全員に試験形式で問題を解答させる。Google Suites, Kahootなどのシステムを用いて反転授業、クイズ、課題の提出を行うので、各自インターネット接続可能な端末を用意すること。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業計画に示す教科書の講義予定範囲を必ず音読のうえ、予習してくる。（1時間）講義で習った事項をその日のうちに、教科書、クイズ課題で復習する。クイズ課題提出は期限厳守すること。またすでに学習した知識と有機的に関連付けて整理しておくこと。（1時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲30％・評価試験70％

### <教科書>

岸 清・石塚 寛 編 解剖学 医歯薬出版

坂井建夫・橋本尚詞 ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版

医療情報科学研究所 からだがみえる 人体の構造と機能 メディックメディア

### <参考書>

松村 譲児 イラスト解剖学 中外医学社

自習用に以下のアプリを推奨します。Human Anatomy Atlas 202? Complete 3D Human Body  
<a href="https://apps.apple.com/app/id1117998129" target="\_blank">https://apps.apple.com/app/id1117998129</a>解剖学的構造と生理学Anatomy & Physiology<a href="https://apps.apple.com/app/id920133658" target="

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	脈管系・総論	体循環・肺循環、血管の構造
2	心臓	心臓の位置と構造、弁、刺激伝導系、心臓の脈管、心膜
3	動脈系	大動脈、体幹・上肢・下肢の動脈
4	静脈系	上大静脈、下大静脈、奇静脈、門脈、胎児循環
5	リンパ系	リンパ、リンパ管、リンパ節、脾臓、胸腺
6	脈管系まとめ	脈管系の復習と応用
7	消化器系	口腔、舌、咽頭、食道、胃、小腸
8	消化器系	胃、小腸の構造と機能
9	消化器系	大腸、直腸
10	消化器系	肝臓、膵臓
11	消化器系まとめ	消化器系の復習と応用
12	呼吸器系	鼻腔、喉頭
13	呼吸器系	気管、気管支、肺

14	呼吸器系	胸膜、縦郭 呼吸器系の復習と応用
15	脈管系、消化器系、呼吸器系まとめ	脈管系・消化器系・呼吸器系の復習と応用
16		

科目コード	27101				区 分	専門基礎			
授業科目名	生理学Ⅰ [再履修用]				担当者名	古山 喜一			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

生理学では人体の役割と機能について学ぶ。人体の正常な構造と機能を知っていることは、将来人体に関わる仕事に就く者にとって大切なことである。生理学Ⅰでは、まず生命の基本単位である細胞について学ぶ。つぎに生命を活用する動物的機能-外界の刺激に対応する神経、筋肉、感覚などについて学ぶ。日頃意識することなく行っている、見て、聞いて、考えて、行動することについてのメカニズムを理解する。その後、生命を維持する植物的機能のうちの体温調節について学ぶ。

### <授業の到達目標>

人体のすべての組織は細胞からできており、その普遍性について理解する。神経や筋肉など、個々の組織のはたらきを知ると同時に、組織は違えど共通するはたらきが多くあることを理解する。柔道整復師国家試験問題についてただ正しいものを選択できるようになるのではなく、「なぜ正しいか／どこが誤っているか、誤っているなら正しい答えはなにか」について理解して答えられるようになるのが目標である。

### <授業の方法>

教科書の章の順とは前後させている部分があるが、内容は教科書に沿って講義する。高校で生物学を学んでいない学生でも理解できるよう、教科書外の基本的な内容も一部入れている。理解を深めるためのプリントを配布する。当日の講義の内容に関連する柔道整復師国家試験の生理学分野の過去問題についても解説する。講義の終わりに、その日の講義内容の確認の小テストを行う（プリント等を見てよい）。小テストの誤りが多い部分に関しては次回講義時に解説する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ学習により双方向で理解度を確認する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習としては教科書の次回授業範囲を一通り読んでおく（約15分）。復習は毎回行う小テストおよび国家試験問題を中心に行う（約30分）。人体の機能には、拮抗するもの（逆のはたらきをするもの）が多くあるため、小テストの設問と逆の機能についても考えるようにすると、1つの問題から多くのことを学ぶことができる。また、国家試験問題は正しい答えを求めるだけでなく、残りの選択肢が示すものはなにであるかについて考えるとよい。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP2 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

確認小テスト 15%、定期試験 80%、授業態度 5%。小テストの答えは次回授業開始時に解説するほか、まとめの回で再度確認する。

### <教科書>

社団法人全国柔道整復学校協会 監修、根来英雄・貴邑富久子 著 「生理学 改定第4版」 南江堂

### <参考書>

特になし（プリントを配布する）。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1 生理学とは (1)	細胞、細胞を構成する物質 (13 栄養と代謝の内容を一部含む)、核と細胞小器官
2	1 生理学とは (2)	細胞膜、体液
3	13 栄養と代謝	栄養素、ATP、酵素 (範囲外)、栄養素の代謝
4	3 神経の生理 (1)	静止電位と活動電位、興奮の伝導と伝達
5	2 筋の生理 (1)	筋の種類、骨格筋の構造と筋収縮
6	2 筋の生理 (2)	筋収縮の特徴、平滑筋、心筋
7	3 神経の生理 (2)、4 運動の生理 (1)	神経系の概略、筋紡錘、伸張反射
8	4 運動の生理 (2)、2 神経の生理 (3)	屈曲反射、誘発筋電図、脊髄上行路下行路、自律神経系
9	4 運動の生理 (3)、2 神経の生理 (4)	脳幹による運動調節、間脳と大脳
10	4 運動の生理 (4)	大脳と小脳による運動調節
11	3 神経の生理 (5)、5 感覚の生理 (1)	意識と睡眠、感覚の種類、皮膚感覚
12	5 感覚の生理 (2)	痛覚、視覚
13	5 感覚の生理 (3)	聴覚、前庭感覚、味覚、嗅覚
14	15 体温とその調節	体温と体温調節、発熱
15	まとめ	前期の講義内容について確認する
16		

科目コード	27102				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	公衆衛生学 I				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

公衆衛生とは「地域社会の組織的な努力によって疾病を予防し、寿命の延長を図り、身体的ならびに精神的能力を増進 するための科学である」と定義される。健康に関わるいろいろな現象を疫学的に把握し、人間を取り巻く環境、社会的 要因（制度、組織など）などと人の健康増進、疾患予防などとの関係を理解し、医療にどの様に関連するのか考えられる力を習得する。

#### <授業の到達目標>

衛生学・公衆衛生学を学ぶ意義について理解する。健康の概念とその管理について理解する。自然および生活環境の中で感染症と健康の関連を習得する。母子関係とその支援機構を理解する。

#### <授業の方法>

教科書を中心に講義し必要に応じてDropboxにて資料を配付する。授業中に確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

授業中にグループ内で話し合いを実施する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次の範囲をシラバスから確認させ、どのような内容であるかまとめ授業で発表する。（毎回、1時間程度）復習：小テストを次の授業で実施する。（毎回、2時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、小テスト 30%、定期試験 40%

#### <教科書>

全国柔道整復学校協会 「衛生学・公衆衛生学」 南光堂

医療情報科学研究所：編集 公衆衛生がみえる 株式会社 メディックメディア

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	衛生学・公衆衛生学について	公衆衛生学の意義と目的、歴史
2	健康の概念	健康の定義、健康阻害因子、健康指標
3	疾病予防と健康管理	疾病の自然史と予防、生活習慣等
4	感染症の予防 1	感染症とは、ウイルス性・細菌性感染症
5	感染症の予防 2	感染症の動向、感染症対策
6	消毒 1	消毒の概念と消毒方法
7	消毒 2	消毒法の応用、院内感染対策と消毒
8	環境衛生（環境保健）1	環境とは、非生物学的環境と生物学的環境
9	環境衛生（環境保健）2	環境問題、物理的環境要因
10	環境衛生（環境保健）3	化学的環境要因、生物学的環境要因
11	環境衛生（環境保健）4	公害、空気の衛生と大気汚染
12	生活環境・食品衛生活動 1	水の衛生、衣服・住居と健康
13	生活環境・食品衛生活動 2	食品と健康、廃棄物の処理
14	母子保健	ライフサイクルと母子保健、母子保健の指標
15	まとめ	まとめ
16		

科目コード	27103				区 分	専門基礎科目			
授業 科目名	基礎柔道整復学Ⅰ(総論)				担当者名	平林 大輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

柔道整復師は、業務として柔道整復を行うことができる国家資格、あるいはその国家資格を持つ者で、柔道整復師法に おいては「厚生労働大臣の免許を受けて、柔道整復を業とする者」と定義される。柔道整復師の社会への役割を理解し、業務範囲について理解する。

#### <授業の到達目標>

柔道整復術は日本古来固有の伝統医療、 代替医療であり、柔道整復師は日本国でのみ認められている日本固有の国家資格である。その成り立ちを理解し、各組 織の損傷や評価、整復法・治療法を理解する事が到達目標である。

#### <授業の方法>

教科書に沿って講義を行い、解説を行う。疾患や外傷についての理解を深めるため、実際の症例をスライドを確認しながら、補足説明を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次週の授業範囲の教科書確認・下調べ（毎回1時間程度）復習：小テスト・定期テストに備え、過去問題等を実施すること（毎回1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト等の課題 50%、定期試験50%で成績評価する。但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

#### <教科書>

全国柔道整復学校協会（2011.12.20） 「柔道整復学・理論編」南江堂 南江堂

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	概説	柔道整復師の沿革と業務範囲、倫理綱領
2	総論	人体に加わる力・損傷に関する身体の基礎的条件、損傷時に加わる力
3	各組織の損傷-骨-	骨の損傷
4	各組織の損傷-筋・腱-	筋・腱の損傷
5	各組織の損傷-靱帯-	靱帯の損傷
6	各組織の損傷-神経-	神経の損傷
7	各組織の損傷-皮膚-	皮膚の損傷
8	各組織の損傷-血管-	血管の損傷
9	評価	末梢神経、血管系、リンパ系、皮膚の損傷
10	治療法-整復-	評価の信頼性、妥当性、確実性
11	治療法-固定-	整復法
12	治療法-後療-	固定法
13	治療法-指導-	後療法
14	治療法-管理-	指導管理（1）
15	まとめ	指導管理（2）総合
16		

科目コード	27104				区 分	専門基礎科目			
授業 科目名	基礎柔道整復学Ⅱ(骨折)				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

臨床で必要な骨折について発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について学ぶと共に保存療法の限界に関する知識を修得する。各骨折の発生メカニズムを詳細に理解する事が症状、整復法、固定法、合併症等を合理的に理解することになる。この講義では頭部・顔面骨折・胸骨骨折・肋骨骨折・脊椎骨折・前腕遠位端部骨折・手根骨骨折・中手骨骨折・指骨骨折について学習する。

### <授業の到達目標>

各骨折の発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について理解する各骨折における保存療法の限界について理解する。

### <授業の方法>

教科書を中心に講義し、必要に応じて資料を配付する。基礎柔道整復学Ⅱ(骨折)は、ディプロマポリシー2 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。動画や資料については必要に応じてDropboxやGoogle classroomにて配信する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次の範囲をシラバスから確認させ、どのような内容であるかまとめ授業で発表する。（毎回、1時間程度）復習：小テストを次の授業で実施する。（毎回、2時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲30% 小テスト20% 評価試験50%

### <教科書>

全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学・理論編 改訂第7版 南江堂  
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学・実技編 改訂第2版 南江堂  
目崎 登監修 運動器疾患ワークブック 医歯薬出版

### <参考書>

標準整形外科学 医学書院

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	頭部・顔面骨折	頭蓋骨骨折 眼窩底破裂骨折
2	頭部・顔面骨折	上顎骨骨折 頬骨および頬骨弓骨折
3	頭部・顔面骨折	鼻骨骨折・鼻軟骨骨折及び下顎骨骨折
4	胸骨骨折	胸骨骨折（胸骨柄部・体部・剣状突起部）
5	肋骨骨折	肋骨骨折及び肋軟骨骨折
6	脊椎骨折	頸椎・胸椎・腰椎骨折
7	前腕遠位端部骨折	コーレス骨折
8	前腕遠位端部骨折	スミス骨折 バートン骨折 ショーファー骨折
9	手根骨骨折	舟状骨骨折
10	手根骨骨折	その他の手根骨
11	中手骨骨折	中手骨骨折
12	中手骨骨折	その他中手骨骨折
13	指骨骨折	基節骨・中節骨骨折
14	指骨骨折	マレットフィンガー・末節骨骨折
15	まとめ	総合評価
16		

科目コード	27200				区 分	専門基礎			
授業科目名	病理学 I				担当者名	高 島 清 文			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

正常人体構造をベースに疾病の原因、経過、本態など病的状態における細胞・組織・臓器などの変化を形態学的・病態生理学的に探求する学問である。肉眼的・顕微鏡的形態変化を基盤に疾病の本態、発症メカニズム、経過などについて理解し、内的・外的因子の影響などについて学習する。

#### <授業の到達目標>

1 病理学の役目を理解する。1 臓器・組織・細胞の退行性・進行性病変を習得する。1 充血、うっ血、梗塞などの循環障害が理解できる。1 炎症・免疫の本態と疾患が理解できる。

#### <授業の方法>

パワーポイント、配布資料を中心に使用して、板書、質問等を取り入れ視覚聴覚的に講義をすすめる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

シラバスに沿って、講義当日の項目内容を教科書を一読し予習しておくこと。本科目を学習する上で、解剖学、組織学、生理学、生化学等の基礎学問の知識は不可欠であるので、これらの学問を整理しておく必要がある。講義の単元終了時に小テストを実施するので、復習を中心に学習する。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

#### <教科書>

社団法人全国柔道整復学協会 監修・関根一郎 著 「病理学概論 改訂第3版」 医歯薬出版株式会社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	病理学とは	病理学とは何か、病理学における観察方法
2	疾病の一般	疾病・症候の意義と分類、疾病の経過
3	細胞障害（退行性病変）Ⅰ	萎縮と変性
4	細胞障害（退行性病変）Ⅱ	代謝障害と疾病
5	細胞障害（退行性病変）Ⅲ	壊死、死
6	循環障害 Ⅰ	血液の循環障害
7	循環障害 Ⅱ	血栓症・塞栓症
8	循環障害 Ⅲ	リンパ液の循環障害、高血圧症
9	進行性病変 Ⅰ	肥大、過形成、化生
10	進行性病変 Ⅱ	創傷治癒、移植
11	炎症 Ⅰ	炎症の一般
12	炎症 Ⅱ	炎症の分類
13	免疫、アレルギー Ⅰ	免疫の仕組み
14	免疫、アレルギー Ⅱ	免疫不全・自己免疫疾患
15	免疫、アレルギー Ⅲ	アレルギーの分類
16		

科目コード	27201				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	運動学特論 A				担当者名	福井 悠紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

運動器外傷に対する治療および障害発生予防には身体機能の理解は必須である。運動学は、人間の身体運動の構造や性質を諸原理から選択し、系統的に応用する科学的研究領域である。つまり、解剖学、生理学、生化学で学んだ人体の構造と機能、働きを理解した上で、身体運動の発現が効率良く連携する仕組みを学習するものである。

＜授業の到達目標＞

1．運動学の領域と目的を理解し説明ができる。 2．身体（骨・関節・筋・神経）の構造や機能について説明ができる。

＜授業の方法＞

1．講義（教員による疾患に対する説明）教科書を基にデジタル資料を配布し、講義を進めていく。時にグループディスカッションや発表を用いながら理解を深めていく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する講義内容に準じた事前課題（解剖学（特に運動器系）の下調べ（毎回、1時間程度））復習：振り返り確認試験（毎回、15分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験90%，小テスト10%

＜教科書＞

公益財団法人全国柔道整復学校協会 監修（2024年1月10日） 運動学 第3版 医歯薬出版株式会社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業導入、授業内容の概説
2	運動の目的	運動学とは/運動学の領域と目的/運動の捉え方
3	運動の表し方	運動の表示/関節運動の表示/姿勢
4	身体運動と力学	身体運動に関する力/人体における単一機械構造小テストを実施する
5	運動器の構造と機能①	骨の構造と機能
6	神経の構造と機能	神経細胞/運動単位/中枢・末梢神経
7	運動感覚	運動感覚
8	反射と随意運動	反射と随意運動小テストを実施する
9	四肢と体幹の運動①	四肢と体幹の骨格筋
10	運動器の構造と機能②	骨・関節の構造と機能
11	骨・関節の構造と機能	骨格筋の構造と機能
12	四肢と体幹の運動②	四肢と体幹の運動②/上肢帯
13	四肢と体幹の運動③	四肢と体幹の運動③/肩関節
14	四肢と体幹の運動④	四肢と体幹の運動④肘関節
15	まとめ、解説	まとめ、解説/試験
16		

科目コード	27202				区 分	専門基礎			
授業科目名	基礎柔道整復学Ⅲ(脱臼)				担当者名	福井 悠紀子			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

臨床に必要な脱臼について発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について学ぶと共に保存療法の限界に関する知識を修得する。各脱臼の発生メカニズムを詳細に理解する事が症状、整復法、固定法、合併症等を合理的に理解することになる。この講義では顎関節、脊椎、肩鎖関節、肩関節、肘関節、手関節、手指関節について学習する。

#### <授業の到達目標>

各脱臼の発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について理解する。各脱臼における保存療法の限界について理解する。

#### <授業の方法>

教科書を中心に講義し必要に応じてDropboxにて資料を配付する。授業中に確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングを実施する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次の範囲をシラバスから確認させ、どのような内容であるかまとめ授業で発表する。（毎回、1時間程度）復習：小テストを次の授業で実施する。（毎回、2時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト 10%、定期試験 90%

#### <教科書>

全国柔道整復学校協会 「柔道整復学・理論編」第7版 南江堂  
全国柔道整復学校協会 「柔道整復学・実技編」 南江堂

#### <参考書>

目崎 登 「運動器疾患ワークブック」 医歯薬出版

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の心構え
2	脱臼の総論	脱臼の定義/分類
3	顎関節脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
4	頸椎脱臼、胸椎脱臼、腰椎脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
5	第1回目小テスト	顎関節から頸椎、胸椎、腰椎の復習
6	上肢脱臼/鎖骨脱臼	胸鎖関節脱臼/肩鎖関節脱臼/発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
7	肩関節脱臼①	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
8	肩関節脱臼②	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
9	肘関節脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
10	第2回目小テスト	鎖骨脱臼～肘関節脱臼までの復習
11	肘内障/手関節部の脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
12	手指脱臼-CM関節-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
13	手指脱臼-MP-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
14	手指脱臼-DIP・PIP-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
15	まとめ	総説
16		

科目コード	27203				区 分	コア科目			
授業 科目名	基礎柔道整復学Ⅳ(捻挫)				担当者名	平林 大輔			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

近年、超高齢化社会に伴い臨床現場で多くの高齢者を対象とすることがある。高齢者の多くは様々な基礎疾患を持っている事が多いため、骨折や脱臼、軟部組織損傷などの骨筋系のみならず内科系疾患について理解する事は必須である。本科目では、診療現場における病態の把握、治療指針に対する知識の習熟が学習の中心となる。

#### <授業の到達目標>

1. 医療機関の診療方法を理解し、他の医療従事者との情報共有をはかることができる。2. 骨筋系疾患のみならず内科系疾患の疑いをかけ、病態を判断することができる。3. 症状に適した対応手法を判断する事ができる。

#### <授業の方法>

1. 講義（教員による病態把握手法、疾患概要について）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する講義に対する事前課題（臨床系科目（検査方法、疾患概要）の下調べ（毎回、1時間程度））、復習：実施内容に関する確認試験（毎回、15分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価試験70％、学習意欲30％（事前課題の提出物含む）

#### <教科書>

全国柔道整復学校協会 柔道整復学・理論編 南江堂  
 全国柔道整復学校協会 一般臨床医学 南江堂  
 全国柔道整復学校協会 整形外科学 南江堂

#### <参考書>

公益社団法人全国柔道整復学校協会 施術の適応と医用画像の理解 南江堂

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	病態観察（1）	問診、視診について
2	病態観察（2）	姿勢、異常運動、歩行について
3	病態観察（3）	打診、聴診の定義、実施方法について
4	病態観察（4）	打診、聴診の実施
5	病態観察（5）	触診、身体測定について
6	病態観察（6）	身体のランドマークの触診、身体計測の実施
7	病態観察（7）	感覚検査、反射検査の定義、症状、疾患について
8	病態観察（8）	感覚検査、反射検査の実施
9	生命徴候（1）	生命徴候（バイタルサイン）について
10	生命徴候（2）	生命徴候（バイタルサイン）の測定実施
11	臨床症状と代表的疾患（1）	発熱、出血傾向を伴う疾患について
12	臨床症状と代表的疾患（2）	意識障害、チアノーゼを伴う疾患について
13	臨床症状と代表的疾患（3）	浮腫、肥満、やせを伴う疾患について
14	臨床症状と代表的疾患（4）	関節症状を伴う疾患について
15	総復習	病態観察、生命徴候、臨床症状と代表的疾患について
16		

科目コード	27300				区 分	専門基礎			
授業科目名	運動学特論 B				担当者名	福井 悠紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

運動学は、人間の身体運動の構造や性質を諸原理から選択し、系統的に応用する科学的研究領域である。つまり、解剖学、生理学、生化学で学んだ人体の構造と機能、働きを理解した上で、身体運動の発現が効率良く連携する仕組みを学習するものである。また、身体の成長・発達および加齢に伴い変化する運動の様相を観察し、正常な動きを理解した上で異常運動を学習する。

#### <授業の到達目標>

運動学の領域と目的を理解し、身体（骨・関節・筋・神経）の構造や機能についての基本的な知識を復習しながら、身体運動の分析や運動発達・学習について修得することを目標としている。

#### <授業の方法>

1. 講義（教員による疾患に対する説明）教科書を基にデジタル資料を配布し、講義を進めていく。また、時にグループディスカッションや発表を用いながら理解を深めていく。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングを実施する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する講義内容に準じた事前課題（疾患に関係する解剖学（特に運動器系）、疾患の概要の下調べ（毎回、1時間程度））

復習：振り返り確認試験（毎回、15分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験90%，小テスト10%

#### <教科書>

全国柔道整復学校協会 監修（2024年1月10日） 運動学 第3版 医歯薬出版株式会社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	四肢と体幹の運動①	四肢と体幹の運動①/（手関節）
2	四肢体幹の運動②	四肢体幹の運動②（手指の筋）
3	四肢体幹の運動③	四肢体幹の運動③（股関節）小テストを実施する
4	四肢体幹の運動④	四肢体幹の運動④（膝関節）
5	足関節と足部の運動	足関節と足部の運動を理解する
6	体幹と脊柱の運動	体幹と脊柱の運動を理解する
7	頚椎の運動	頚椎の運動を理解する小テストを実施する
8	胸椎の運動	胸椎の運動を理解する
9	腰椎、仙椎、骨盤、顔面の運動	腰椎、仙椎、骨盤、顔面の運動を理解する
10	姿勢	姿勢の分類/重心/立位姿勢
11	歩行	歩行周期/歩行の運動学的分析/歩行周期/歩行の運動学的分析
12	運動発達	運動発達について理解する
13	運動学習	運動学習について理解する
14	四肢と体幹の復習	総復習（四肢体幹の運動～運動学習まで）
15	まとめ、解説	まとめ、解説、試験
16		

科目コード	27302				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	柔道整復解剖生理演習Ⅰ				担当者名	平林 大輔			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

解剖学、生理学では人体の正常構造として骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官について系統的に学習し、これらの器官系が立体的に配置することによって人体が形成されていることを理解し、各器官内あるいは各器官系がどのように連鎖して働くことにより、生命徴候が営まれているのかを修得した。本演習ではこれらの解剖学、生理学分野の中でも、特に柔道整復師業務に重要である上肢・体幹の骨格系、筋系、神経系、脈管系、免疫系、呼吸器系について特化して修得する。

#### <授業の到達目標>

柔道整復解剖生理演習Ⅰでは、筋骨格系、神経系、脈管系および関節などのいわゆる運動器を中心に、臨床現場で遭遇する種々の外傷および合併症などを適切に評価することができるようになるために、解剖学、生理学の観点より、各諸器官の構造と機能について学習する。

#### <授業の方法>

教科書及び配布資料による講義及びグループ学習を用いた討論形式、演習問題で進める。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：不要 復習：前回の範囲を口頭試問か小テストを行う。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学期末テスト 100%

#### <教科書>

全国柔道整復学校協会監修 解剖学 医歯薬出版  
全国柔道整復学校協会監修 生理学 南江堂

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	症例1	上肢帯損傷①
2	症例2	上肢帯損傷②
3	症例3	上肢損傷①
4	症例4	上肢損傷②
5	症例5	上肢損傷③
6	症例6	頸部損傷
7	振り返り1	上肢帯・上肢損傷・頸部損傷まとめ①
8	振り返り2	上肢帯・上肢損傷・頸部損傷まとめ②
9	症例7	体幹損傷①
10	症例8	体幹損傷②
11	症例9	神経損傷
12	症例10	内臓損傷①
13	症例11	内臓損傷②
14	振り返り3	解剖生理学のまとめ①
15	振り返り4	解剖生理学のまとめ②
16		

科目コード	27303				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	柔道整復解剖生理演習Ⅱ				担当者名	平林 大輔			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

解剖学、生理学では人体の正常構造として骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官について系統的に学習し、これらの器官系が立体的に配置することによって人体が形成されていることを理解し、各器官内あるいは各器官系がどのように連鎖して働くことにより、生命徴候が営まれているのかを修得した。本演習ではこれらの解剖学、生理学分野の中でも、特に柔道整復師業務に重要である下肢の骨格系、筋系、神経系、脈管系について特化して修得する。

#### <授業の到達目標>

柔道整復解剖生理演習Ⅱでは下肢の骨格系、筋、神経系、脈管系および関節などのいわゆる運動器について、臨床現場で遭遇する種々の外傷および合併症などを適切に評価することができるように、特に運動器の構造と機能について説明ができるようになる。また、臨床現場で遭遇する症例について、解剖学・生理学分野から説明ができるようになる。

#### <授業の方法>

教科書及び配布資料による講義を行う

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次の範囲をシラバスから確認させ、どのような内容であるかまとめ授業で発表する。（毎回、1時間程度）復習：小テストは適宜行う。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

後期末試験100%

#### <教科書>

全国柔道整復学校協会監修 解剖学 医歯薬出版  
全国柔道整復学校協会監修 生理学 南江堂

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	症例1	下肢帯損傷①
2	症例2	下肢帯損傷②
3	症例3	股関節損傷①
4	症例4	股関節損傷②
5	症例5	大腿部損傷
6	症例6	膝関節損傷
7	振り返り1	下肢帯・股関節・大腿部・膝関節のまとめ①
8	振り返り2	下肢帯・股関節・大腿部・膝関節のまとめ②
9	症例7	下腿部損傷①
10	症例8	下腿部損傷②
11	症例9	足関節損傷
12	症例10	足部損傷①
13	症例11	足部損傷②
14	振り返り3	まとめ①
15	振り返り4	まとめ②
16		

科目コード	27305				区 分	基礎専門科目			
授業科目名	柔道整復解剖生理演習Ⅳ〔不開講〕				担当者名	古山 喜一			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

解剖学、生理学では人体の正常構造として骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官について系統的に学習し、これらの器官系が立体的に配置することによって人体が形成されていることを理解し、各器官内あるいは各器官系がどのように連鎖して働くことにより、生命徴候が営まれているのかを修得した。本演習ではこれらの解剖学、生理学分野の中でも、特に柔道整復師業務に重要である全身の骨格系、筋系、神経系、脈管系について修得する。

#### <授業の到達目標>

柔道整復解剖生理演習Ⅳでは柔道整復解剖生理演習Ⅰ～Ⅲの内容を総合的に構築する内容となっており全身の骨格系、筋、神経系、脈管系および関節などのいわゆる運動器について、臨床現場で遭遇する種々の外傷および合併症などを適切に評価することができ、特に運動器の構造と機能について運動連鎖を中心に説明ができるようになる。

#### <授業の方法>

教科書及び配布資料による講義及びグループ学習を用い討論形式で進める。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ学習により双方向で理解度を確認する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

特に復習が重要である。講義で書き留めたノートをもとに帰宅後まとめる作業が重要である。プリントに記された実習内容に関する項目について、解剖学や生理学及び運動学で習った事を復習する。授業内容（小テスト・講義・討論）をふりかえり、「何を学んだか、何を学べなかったのか」についてレポート（A4-1枚程度）を作成し、期日までにデータで担当教員にDropboxを用い送信する。（1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP 3 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【対面授業】レポート（50％）、学習意欲（30％）、定期試験（20％）で評価する。

#### <教科書>

全国柔道整復学校協会監修 解剖学 医歯薬出版  
全国柔道整復学校協会監修 生理学 南江堂

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	上肢 1	胸鎖関節、肩鎖関節、肩関節の構造
2	上肢2	肘関節、手関節、手部の構造
3	上肢3	上肢を走行する神経
4	上肢4	上肢を走行する筋、血管
5	上肢5	上肢のまとめ
6	下肢 1	下肢帯、股関節の構造
7	下肢2	膝関節、足関節、足部の構造
8	下肢3	下肢を走行する筋、神経
9	下肢4	下肢を走行する血管
10	下肢5	下肢のまとめ
11	体幹 1	胸郭、脊柱の構造
12	体幹2	体幹を走行する筋、神経、血管
13	体幹3	体幹のまとめ
14	総合 1	全身の骨格、筋、神経、血管 1
15	総合2	全身の骨格、筋、神経、血管2
16		

科目コード	27306				区 分	コア科目			
授業科目名	基礎柔道整復学Ⅴ(保存療法)				担当者名	簀戸 崇史			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

軟部組織損傷は、柔道整復の臨床においてもっとも多い損傷といえる。近年、画像診断機器の発達により、軟部組織の病的状態を可視化することが可能になってきている。解像度や分解能が高まったことから、これまで触診・視診に頼っていたが、客観的定量的に示せるようになってきている。このような医療の現状に追従した軟部組織治療学を組織学的視点から学ぶ。

### <授業の到達目標>

柔道整復学の軟部組織損傷に関する基礎の理解および運動時における損傷の発生機序を理解し、超音波画像の特性、取り扱い方を学び、描写される画像を説明できるようになることを目標とする。物理療法に関する基礎の理解と損傷部の治癒機序に対する原理・原則を理解し、説明できる様になることを目標とする。

### <授業の方法>

講義形式を基本とし、グループワーク、ディスカッション形態で実施する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本講義では、事前課題として各部位の解剖学、運動学、運動器疾患の各論に対して学びを深め、講義中は、その具体的な構造について、エコー画像診断装置を用いた画像確認を各グループに分かれて実施する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

この科目は健康科学科のディプロマポリシー5（科学的根拠や思考を持って医療現場やスポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付ける。）と関連付けられています。柔道整復師として必要な知識を身に付け、最新医療の状況を把握し広い視野で物事を考えられる知識の習得を目指す。特に予習が重要である。超音波画像実習で観察する身体部位別に長軸像、短軸像でみられる画像を3次元に置き換えて理解できるように、事前に学習項目の身体部位の形態について予習が必要である。（1時間程度） また、実習後には、プリントに記された実習内容に関する

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験40%、事前学習30%、学習意欲30%

### <教科書>

全国柔道整復学校協会 監修 「柔道整復学・理論編」 南江堂  
公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 施術の適応と医用画像の理解 南江堂

### <参考書>

臨床スポーツ医学編集委員会 予防としてのスポーツ医学 文光堂

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要、成績評価の説明
2	超音波画像の理解①	エコーの仕組みとアーチファクトを理解できる。
3	超音波画像の理解②	ランドマークと画像の調整法を理解できる。
4	超音波画像の理解③	手部の体表解剖とエコー画像の理解が出来る。
5	超音波画像の理解④	肘部の体表解剖とエコー画像の理解が出来る。
6	超音波画像の理解⑤	肩部の体表解剖とエコー画像の理解が出来る。
7	超音波画像の理解⑥	足部の体表解剖とエコー画像の理解が出来る。
8	超音波画像の理解⑦	膝部の体表解剖とエコー画像の理解が出来る。
9	超音波画像の理解⑧	大腿部の体表解剖とエコー画像の理解が出来る。
10	確認テスト	エコー画像の座学による確認テスト
11	物理療法の理解①	電気療法について理解できる。
12	物理療法の理解②	温熱療法に対して理解できる。
13	物理療法の理解③	温熱療法②について理解できる。
14	物理療法の実際④	寒冷療法について理解できる。
15	物理療法の実際⑤	最新の物療機器の考え方
16		

科目コード	28101				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	経営学概論				担当者名	小堀 浩志			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

この授業は、経営学という学問領域全般を扱う。理論を中心に経営学を学ぶことを目的とする。

#### <授業の到達目標>

経営学のベースを学び、経営学や企業について考える力を身につける。そして、これからの経営学関連の科目へとつなげる。

#### <授業の方法>

配布資料等を適宜活用しながらの進行とする。各自、資料を印刷して紙ベースでの受講あるいは資料をダウンロードしてPCで記入すること。※スマートフォンは認めない。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎授業1時間程度の予習をおこなうこと。レポートを課すため、復習にも1.5時間程度を費やすこと。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業課題 30% レポート 40% 受講態度等 30%

#### <教科書>

#### <参考書>

講義内で紹介。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義概要説明
2	企業とは？	企業の所有は誰なの？
3	経営者の役割	意思決定とドメイン設定
4	企業の役割	戦略の採り方、社会貢献
5	生産システム	トヨタ生産システム
6	イノベーション	類型と事例
7	流通	川上から川下までをみる
8	モノを売るために - 出店戦略、販売	商圏、ブランド戦略、先行者優位
9	組織を知る	組織の構造から企業をみる
10	業務管理	科学的管理法など
11	モチベーション	マズローの欲求階級など
12	給与と働き方	年功序列？成果主義？
13	雇用形態の変化	終身雇用制、個人事業主
14	ビジネスモデル	ビジネスモデルキャンバス、ワーク
15	ICT（AIなど）	今後の企業について考える
16		

科目コード	28102				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	経済学概論				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

経済学の基礎を学ぶ。具体的には、経済学の体系、経済学のもの見方、経済学を学ぶ上での基礎知識、キーワードとなる経済用語、経済社会の構造などを学ぶ。

#### <授業の到達目標>

マクロ経済学、ミクロ経済学、その他の経済系専門科目を学ぶための基礎知識を身につける。

#### <授業の方法>

講義形式で行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

講義に際しては、時々、理解度確認の演習を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

経済学の基礎となる授業なので、わからないところを残さないよう、毎回予習・復習を30分程度行うこと。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

時々実施する確認テスト（40%）と最後のまとめテスト（60%）で評価する。

#### <教科書>

#### <参考書>

飯田幸裕・岩田幸訓（2022） 入門経済学〔第四版〕 創成社

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	経済学とは何か	経済学とはどういう学問かについて解説をおこなう。
2	グラフの見方・書き方	マクロ経済学、ミクロ経済学で使う基本的なグラフの見方・書き方を練習する。
3	国内総生産（GDP）	マクロ経済学の基礎となる国内総生産（GDP）の概念、その規模や世界各国GDPの比較をおこなう。
4	生産・所得・消費の決定	生産・所得・消費がどのようにして決まるかを考える。
5	貨幣	貨幣の成り立ち、貨幣の役割、さらには新しい貨幣（デジタル通貨、仮想通貨）について考える。
6	マクロ経済政策	経済をどのようにコントロールするか、財政政策、金融政策を中心に考える。
7	インフレ、デフレ、失業	インフレ、デフレの要因とその経済への影響、失業との関係などを考える。
8	ミクロ経済学の基礎	ミクロ経済学とは何かを解説する。
9	需要と供給	需要と供給の関係をさまざまな例をもとに考える。
10	需要と効用	消費者剰余、効用について考える。
11	供給と利潤	供給の決定、費用、利潤最大化について考える。
12	競争と独占	自由競争状態、独占状態について解説し、その問題点を考える。
13	市場の失敗、ゲームの理論	市場はなぜ失敗するのかを理論的に考える。また、ゲームの理論の基礎を学ぶ。
14	まとめ	講義全体のまとめを行う。
15	小テスト	講義内容確認のテストを行う。
16		

科目コード	28104				区 分	専門基礎			
授業 科目名	マーケティング総論				担当者名	扇野 陸巳			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本講義では、ウェルビーイングをベースに、これから必要なマーケティングの基本的な概念・理論・手法を学び、実社会におけるマーケティング活動の仕組みを理解することを目的とします。企業の事例を通じて消費者行動や戦略立案の考え方を身につけ、将来の実務や就職活動にも活かせる力を養います。

### <授業の到達目標>

●マーケティングの基礎理論（3C・STP・4P/4Cなど）を説明できる●消費者行動の理解に基づく戦略的思考ができる●実際の企業事例を分析し、自らマーケティング戦略を考案できる

### <授業の方法>

本講義は、講義形式とグループワークの併用により進行します。前半は基礎的な理論や実務知識を講義で学び、後半では企業事例やマーケティング課題をもとに、少人数のグループでのディスカッションや発表を行います。これにより、インプットとアウトプットの両面から理解を深め、実践的な思考力・コミュニケーション力を養成します。講義部分ではスライドや映像資料を活用し、視覚的にも理解しやすい工夫を行います。グループワークでは、マーケティング戦略の立案や企業分析をテーマとします。期末にはグループでのプレゼンテーションを実施し、相互

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本講義は、講義形式を基本としつつ、アクティブラーニングを積極的に取り入れて進行します。理論の理解に加え、実践的な応用力やコミュニケーション能力の育成も重視します。前半はスライドや事例を活用した講義形式で、マーケティングの基礎理論やフレームワークを学びます。後半は企業事例や社会課題を題材としたグループワークを実施し、マーケティング戦略の立案・発表を行います。授業内では、アクティブラーニングとして、グループワーク・プレゼンテーションなどを取り入れ、学生の主体的な参加を促します。最終的には、グループでの発表を通

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前準備（予習）として、配布資料の確認や指定された動画・記事の閲覧、小課題への回答などを求める場合があります。事後課題（復習・レポート）として、授業内容の振り返りや、自らの考えをまとめる簡単なレポートを不定期で出題します。※ともに1時間程度

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、本学の卒業認定・学位授与の方針に掲げる以下の能力の育成に貢献します。知識・理解：マーケティングに関する基礎的な理論、概念、フレームワークを体系的に理解し、実社会における応用の可能性を学びます。思考力・判断力：市場や顧客の状況を分析し、戦略的な意思決定を考察する力を養います。特にグループワークやアクティブラーニングを通じて、自ら課題を発見し、解決に向けた論理的思考を育成します。表現力・コミュニケーション力：自らの考えをプレゼンテーションやディスカッションを通じて他者に伝える力、他者と協働する力を育

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価項目と割合出席・授業への貢献度 30%課題提出 30%グループ発表 20%学生同士の相互評価 20%

### <教科書>

一般財団法人ブランド・マネージャー認定協会（2019年9月10日） ブランド・マネージャー資格試験公式テキスト 中央経済社

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス／マーケティングとは何か	バーパス、マーケティングの定義、重要性、現代的役割、IPUの実績
2	オンデマンド	自分がお気に入りのブランドについて、その商品を思わず買ってしまったのはなぜか？についてレポート提出
3	マーケティング環境の分析	マクロ・ミクロ環境、PEST分析、3C分析
4	オンデマンド	若者はなぜ投票に行かないのか？マーケティングの観点からレポート提出。
5	STP戦略①：セグメンテーションとターゲティング	市場の分け方と狙い方
6	STP戦略②：ペルソナ	ターゲットを一人に絞って顧客心理を洞察
7	オンデマンド	気になるCM・SNS広告を見て、誰向けの商品として設計されたのかをマーケティングの観点から分析しレポート提出
8	STP戦略③ポジショニング	差別化とポジショニングマップ
9	バーパス・ビジョン・ミッションの策定	商品・サービスの意味を価値を考察
10	ウェルビーイング・マーケティング	SDGs、エシカル消費からウェルビーイング思考へ
11	デジタルマーケティング入門	Web広告、SEO、インフルエンサーマーケティング

12	4P4Cマーケティングミックス①	企業目線と顧客目線で分析
13	4P4Cマーケティングミックス②	企業目線と顧客目線で分析
14	グループ発表	各グループの戦略提案とフィードバック
15	グループ発表とまとめ	各グループの戦略提案とフィードバック、学んだ知識の統合
16		

科目コード	28106				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	簿記入門				担当者名	大池 淳一／北村 和久			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目及び後期開講の「簿記演習」と併せて日商簿記検定3級を履修者全員が受験し合格することを目指す科目である。そのため経済経営学部の学生は後期の「簿記演習」も履修すること。簿記を習得することは、就職活動に有利であり、また就職後の実社会で役立つため必修科目ではないものの経済経営学部の学生は全員履修することが望ましい。本科目では、簿記の入門編として、簿記の基本原則である取引の範囲・取引の8要素（費用・収益・資産・負債・資本）の認識、及び会計処理を学び、総合問題対策として問題集などを利用して、簿記の基本的な技術を習得するとともに、履修者全員で1つの目標に向かって頑張り、非認知能力の構成要素である「自分を高める力」「他者と協働する力」の育成を目指す。なお商業高校等で既に簿記を学習済みであっても是非とも履修してもらい集団の中でリーダーシップを発揮してほしい。

### <授業の到達目標>

① 簿記の意義と役割を知り、複式簿記の基本原則を理解する。② 基礎的な取引の仕訳ができるようになる。③ 取引の仕訳から各帳簿への転記、試算表作成、決算までの簿記一巡の流れを理解する。④ 日商簿記検定3級に合格するための基礎的な知識・技術を身につける。

### <授業の方法>

① 授業の方法は、主に解説の後、問題演習を中心とする。② 電卓演習・集計作業などの計算を行うので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。③ 本科目では、問題演習の性質をもつため、個人学習によるところが大きい。⑤ 本科目では、後期開講の「簿記演習」と併せて履修することで、日商簿記検定3級合格を目指す。本科目では記帳に関する技術を確実に身につけるため手書きを主体とする。⑥解説動画をクラスルームに配信するため有効に活用すること。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有5、6人のグループに分かれ協働学習を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 予習としてテキストを読む・例題を解くこと。② 復習として、授業で行った練習問題を必ず自宅で解くようにすること。③ 本科目に関して、週に予習（テキストを読む、例題を解く）3時間と復習（練習問題を解く、わからないところをなくす）3時間を費やす必要がある。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%，② 小テスト 70%フィードバック：締切後、次の授業において解答を発表し解説する。

### <教科書>

滝沢みなみ(2025/2/16) スッキリわかる 日商簿記3級 2025年度版〔ネット試験・統一試験 完全対応〕 TAC出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、授業方針、簿記とは
2	仕訳①	商品売買①、数字の書き方
3	仕訳②	商品売買②
4	仕訳③	現金、普通預金、定期預金、当座預金
5	仕訳④	手形、貸付金・借入金
6	仕訳⑤	その他債権債務、その他費用、有形固定資産
7	総勘定元帳（略式）	勘定への記入
8	試算表の作成	試算表の問題演習
9	精算表	問題を使用した解き方の説明
10	決算整理仕訳①	問題を使用した解き方の説明
11	決算整理仕訳②	問題を使用した解き方の説明
12	財務諸表の作成①	日商簿記検定での解き方の説明
13	財務諸表の作成②	日商簿記検定での解き方の説明
14	問題演習	日商簿記検定での解き方の説明
15	まとめ	本科目のまとめとアンケート
16		

科目コード	28111				区 分	専門基礎科目			
授業 科目名	世界経済論				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

世界経済の発展、現在の世界経済秩序、各地域の経済問題の基礎を学ぶ。具体的には、世界経済の発展の道筋、現在の世界経済の仕組み、世界のメガ地域の特徴と諸問題を学び、世界で起きている経済的な動きや問題点が把握できるようにする。

### <授業の到達目標>

現代世界経済をとらえる視座を身につけ、世界各地の政治・経済事情への理解を深める。

### <授業の方法>

テキスト『世界経済図説（第四版）』を手がかりに、世界経済の全体像、主要な特徴を学ぶ。このテキストでは、世界経済全体の輪郭を学んだ後、国際貿易、国際金融、地域統合、経済制度、デジタル経済、人口、食糧、エネルギー・資源、地球環境、経済危機、世界経済の構造変化を学んでいくが、国際貿易、国際金融などは国際経済学の講義と重複するので、この講義では主に世界のメガ地域の特徴と諸問題に焦点を当てて講義を進める。同時に、『日本経済新聞』を素材に、世界経済のタイムリーなトピックの解説を行い、理解を深める。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

大講義のためなし

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、必ずテキストの該当箇所を事前に予習することを必要とする。予習にはおよそ30分程度の時間を要する。復習は必ず次の授業までに行い、30分程度の時間を割くような学習姿勢が求められる。その他、日経ビジネスをはじめ新聞やニュース、経済関連の情報番組などに普段の生活の中で積極的に接しておくよう心掛けると良い。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート50%、小テスト50%で評価する。授業に関する質問は授業の前後及び教員のオフィスアワーで対応する。

### <教科書>

### <参考書>

宮崎勇・田谷禎三（2020） 世界経済図説 岩波書店(岩波新書)

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	長期的視点で見た世界経済発展の諸段階	世界経済はどのように発展してきたかをデータを元にマクロの視点で捉える。
2	産業革命とパックス・ブリタニカ	資本主義が生まれた産業革命を振り返り、その中でどのようにしてイギリスが台頭してきたかをグローバルな視点から捉える。
3	20世紀初頭における世界経済の再編	20世紀に入り、世界経済はどのように変化したかを解説する。
4	第二次世界大戦後の世界経済の枠組み	二つの大戦を経て、世界経済はどのような世界システムで秩序を維持しようとしたかを振り返る。
5	パックス・アメリカナ	第2次世界大戦後、どのようにして米国が台頭したのかを探る。
6	アメリカ経済の衰退	世界に君臨した米国がどのような理由で衰退し始めたのかを解説する。
7	ヨーロッパ経済の発展	ヨーロッパがどのようにして成長し、どのように経済統合を果たしたのかを概説する。
8	20世紀社会主義経済の実験と崩壊	社会主義とはどのような体制だったのか、そしてなぜ崩壊したのかを解説する。
9	中華人民共和国の成立と発展	中華人民共和国の成立過程、台湾問題、体制内改革の現状などを考える。
10	韓国経済の発展	第2次世界大戦後、韓国がどのように発展してきたかを振り返り、韓国経済の構造的問題を考える。
11	世界経済の変貌	米国、中国、欧州、日本の外交戦略、対外経済戦略とグローバルサウスの台頭、ロシアのウクライナ侵攻の世界経済への影響などを考える。
12	世界経済の成長	ローマクラブ報告書「成長の限界」から、最新の分析までを含め、世界経済の成長を全般的に捉え直す。
13	グローバルリゼーション再考	グローバルリゼーションを経済学の視点から再検討する。
14	まとめ	講義を振り返り、要点を再度まとめる。
15	小テスト	小テスト
16		

科目コード	28112				区 分	専門基礎			
授業 科目名	ビジネスデータ分析				担当者名	岡田 健志			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

現代では、企業や組織が意思決定を行う際に経験や直感ではなくデータに基づいて判断を下すデータドリブンな経営が重視されている。この授業では、ビジネスにおける意思決定を支えるために必須となるデータ分析の基礎と、それらの手法を課題に応じて使いわけることを学ぶ。具体的には、データ収集から始まり、記述統計、回帰分析、仮説検定、クラスタリング分析、時系列分析などの分析手法を学ぶことで、統計的手法を経営判断にどう活用するかを実践的に学ぶ。また、実際のビジネスシナリオを通じて、分析結果をどのように報告し、意思決定を行うかについても学ぶ。

#### <授業の到達目標>

受講生は、以下の到達目標を達成できることを目指す。（１）データ分析の基本概念を理解し、統計的手法が経営判断にどのように役立つかを理解する。（２）基本的な統計手法を使用して、データの分析と解釈を行う能力を習得する。（３）マーケティング、販売予測、リスク分析など、ビジネス上の課題に対して適切な分析手法を選び、実践的なデータ分析を行えるようになる。（４）分析結果から経営戦略を導き出し、データに基づく意思決定を行う力を養う。（５）分析結果をわかりやすく伝えるための報告書作成とプレゼンテーションスキルを向上させ、経

#### <授業の方法>

授業内でMicrosoft Excelを適宜利用するため、パソコンを毎回持参すること。講義では講義の記録や自らが理解したことをメモする以外にも、クラス内での議論や思いついたことのメモのため必ず筆記用具を持参すること。授業ではペアワーク・ディスカッション・プレゼンテーションを重視する。特に発言・対話・議論に積極的に参加することが期待される。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングはほぼ毎回の授業で行う。具体的には、ペアワーク・ディスカッション・企画立案実践・プレゼンテーション・相互レビューである。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次回授業で扱う基本事項を予習課題として各回の最後に提示する（想定学習時間：約60分）。理解を深めるための復習課題を毎回課す（想定学習時間：約60分）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（発言・議論への積極的参加）40%、毎回の課題提出 40%、最終課題 20%を目安に評価する。。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：ビジネスデータ分析の重要性	最初の講義では、データ分析がなぜビジネスにとって重要であるかを学ぶ。データに基づいた意思決定がどのように企業の戦略に影響を与えるかを具体的な事例を通じて理解し、データドリブンな経営判断の基盤を築くための基本概念を紹介する。
2	データの種類と収集方法	この回では、ビジネスで使用されるデータがどのような種類に分類されるか(定量データ、定性データ)を学ぶ。そして、どのようにデータを収集するか(アンケート、インタビュー、観察など)について、実際のマーケティングリサーチや業務でのデータ収集方法を例に、具体的な手法を身につける。
3	データの前処理とクリーニング	データを分析する前に行うべきデータの前処理方法を学ぶ。生データに含まれる欠損値や外れ値をどう取り扱うか、またそれが分析結果にどう影響するのかについて学び、実務でよく直面するデータのクリーニング作業を通じて、分析精度を高める方法を理解する。
4	記述統計：データの要約と可視化	この回では、データを簡潔に要約するための記述統計手法を学ぶ。具体的には、平均、中央値、モードなどの中心傾向や、分散、標準偏差といった散布度を計算し、グラフや図を使ってデータの特徴を視覚的に捉える方法を習得する。これにより、複雑なデータをわかりやすく伝える力を養う。
5	相関分析と因果関係の理解	ここでは、複数の変数間の関係を明らかにする相関分析を学ぶ。相関係数を使って変数間の関連性を示し、ビジネス上での適切な解釈方法を理解する。さらに、相関と因果関係の違いを理解し、経営判断におけるデータの解釈を誤らないようにする。

6	回帰分析入門：予測のための基礎手法	単回帰分析を学び、どのようにして1つの変数が他の変数に影響を与えるのかを予測する手法を学習する。例えば、広告費が売上に与える影響を分析し、予測モデルを構築する方法を実務に役立つ形で理解する。この回では、回帰分析を使ったデータからの予測力を養う。
7	重回帰分析：複数の要因による影響の解析	複数の変数がどのようにビジネスの結果に影響を与えるかを学ぶ重回帰分析を取り上げる。たとえば、価格、広告、季節要因などが売上に与える影響を同時に分析する方法を学び、経営者として複数の要因を考慮した意思決定ができることを目指す。
8	仮説検定：意思決定のための統計的検証	ビジネスの場面でよく使われる仮説検定の基本的な手法を学ぶ。ある戦略や施策が実施前後で効果があるのかを統計的に検証する方法を習得し、p値や信頼区間の解釈を通じて、統計的に有意な結果をどのようにビジネス判断に活かすかを学ぶ。
9	分散分析（ANOVA）：複数群の比較	異なるグループ間での平均値の違いを評価する分散分析（ANOVA）を学ぶ。例えば、異なる地域や異なる商品群における販売実績を比較し、どの戦略が最も効果的かを分析する方法を学習する。ビジネスにおける複数の選択肢を比較する力を養う。
10	時系列分析：ビジネスの予測モデル	売上や需要など、時間の経過に伴うデータを分析する時系列分析を学ぶ。過去のデータから未来を予測する方法を学び、ビジネスにおける予測精度を高める。例えば、売上の予測や在庫の最適化に役立つ分析手法を理解する。
11	クラスタリング分析：市場セグメントの発見	クラスタリング分析を学び、どのように顧客をグループ化し、市場セグメントを特定するかを理解する。例えば、顧客の購買行動を分析し、異なるニーズを持つ市場セグメントを発見することで、ターゲットマーケティングを効果的に行えるようになる。
12	意思決定分析：ビジネスシミュレーション	意思決定木やシミュレーションを活用し、ビジネス環境での複雑な意思決定をどのように行うかを学ぶ。複数の選択肢がある場合に、リスクや利益をどのように計算し、最適な意思決定を導くかを実践的に理解する。
13	マーケティング分析：広告効果の測定	広告やプロモーションの効果を測定するための分析手法を学ぶ。ROI（投資利益率）や顧客獲得コストを計算し、マーケティング戦略がどれだけ効果的だったかを数値で示す方法を学び、ビジネスの成長を促進するためのデータ分析力を高める。
14	A/Bテスト：実験的手法での効果測定	A/Bテストを利用して、異なるマーケティング戦略や製品の効果を比較する方法を学ぶ。実際の実験的アプローチを通じて、データに基づいた意思決定を行うための実務的なスキルを習得する。
15	分析結果の報告とプレゼンテーション	最後の回では、データ分析結果をどのように経営者やステークホルダーに効果的に報告するかを学ぶ。報告書の作成方法や、データを視覚的にわかりやすく伝えるためのプレゼンテーションスキルを向上させ、実際のビジネス環境で活用できる能力を身につける。以上の内容を通じて、学生は実務に直結したデータ分析スキルを身につけ、経営判断を支えるための統計的手法を効果的に活用できることを目指す。
16		

科目コード	28113				区 分	専門基礎			
授業 科目名	プロジェクト研究				担当者名	岡田 健志			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目では、「社会調査」や「マーケティング」に関するプロジェクトテーマに沿った研究活動について、教員による指導を行う。学生は、ディスカッション・ディベート・プレゼンテーション・フィールドワーク・プロジェクト等の体験的学習を通じて、現代社会における問題の発見やその解決策を探るための基礎力を養い、教員からのフィードバックを最終結果に反映させながら、問題設定の考え方、問題の解決策、結果発表等のスキルを身につける。

### <授業の到達目標>

「社会調査士」の資格を取得するための必須科目（F科目）である。受講生は、以下の到達目標を達成できることを目指す。（１）フィールドワークの事前準備として調査目的や仮説を明確にし、適切なフィールドを選定できるようになる。安全面や倫理面を考慮しながら、実行可能な計画を立案する力を身につける。（２）フィールドでの観察方法やインタビュー技術を身につけ、対象者とのコミュニケーションを通じて有益な情報を収集できるようになる。（３）観察記録やインタビュー記録などの質的データを整理し、仮説に基づいて多角的に考察する力を身に

### <授業の方法>

授業内の演習でMicrosoft Excelを適宜利用するため、パソコンを毎回持参すること。講義では講義の記録や自らが理解したことをメモする以外にも、クラス内での議論やインタビューメモのため必ず筆記用具を持参すること。授業ではペアワーク・ディスカッション・相互インタビュー・プレゼンテーションを重視する。特に発言・対話・議論に積極的に参加することが期待される。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングはほぼ毎回の授業で行う。具体的には、ペアワーク・ディスカッション・企画立案実践・プレゼンテーション・相互レビューである。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内のディスカッションやグループワークなどで気づいたこと・学んだことを毎回レポートで提出する（想定学習時間：約60分）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（発言・議論への積極的参加）40%、毎回の課題提出 40%、最終課題 20%を目安に評価する。

### <教科書>

### <参考書>

佐藤郁哉（2020）『フィールドワークの技法』 新曜社

大谷信介他（2023）『最新・社会調査へのアプローチ ー論理と方法ー』 ミネルヴァ書房

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の全体像を共有し、評価の進め方や最終成果物について説明する。受講生同士の自己紹介を通じて互いの興味関心を共有する。今後のフィールドワークやディスカッションを円滑に進められるよう準備する。
2	フィールドワークとは何か	フィールドワークの定義と目的を確認し、そこに関わる人たちへ安全面と倫理的配慮について学ぶ。現地調査をどのように計画し、どのような視点で課題を捉えるかを考える機会とする。
3	フィールドワーク事例紹介	国内外のフィールドワーク事例を取り上げ、成功例・失敗例から得られる学びを整理する。グループでディスカッションしながら、事例を掘り下げることで自分たちの調査に生かせるポイントを見つけ出し、今後の研究の方向性を広げる。
4	フィールドワークの技術	観察やインタビューの基本的な方法を具体例とともに学び、音声や動画、写真などの記録手法を知ることで、より精度の高いデータ収集ができるよう準備する。実際の録音機材やクラウドサービスの利用方法も紹介し、各グループで活用計画を検討する。
5	フィールドの観察と記録（フィールドノート、ビジュアル記録）	フィールドノートを効果的に取るためのポイントを学んだり、観察対象を写真や動画で記録するときの倫理面・法的配慮を確認する。さらに、学内での簡単な観察実習を通じて、実際に記録を取る感覚を身につける。
6	フィールドの観察と記録の報告（ビジュアルデータ分析）	前回に実施した観察をもとに、写真や動画を振り返って分析し、短い発表を行う。グループ内で共有しながら、自分たちが撮影したビジュアル資料からどのような情報が得られるかを検討し、フィールドノートの改善点も洗い出す。

7	クラスメートインタビュー演習1	インタビューの設計と進め方を学ぶために、質問項目の作り方や事前準備の重要性を確認する。ロールプレイ形式でインタビューを体験することで、相手に合わせた質問や話の引き出し方を試行し、相互にアドバイスを行う。
8	クラスメートインタビュー演習2	実践的にインタビューを行い、その録音やメモを活用して、グループでデータを整理・分析する。うまく情報を引き出せなかった場合の対処方法や、インタビュー時の態度についてフィードバックし合い、今後の調査に役立てる。
9	問題意識と調査の企画	ここまでの演習を踏まえ、グループでの調査テーマと問題意識を具体化する。興味を深堀りするためのブレインストーミングを行い、仮説の立案や調査方法の選択など企画全体を固める段階に入る。
10	調査票の作成	アンケート調査を行う場合を想定し、量的調査における質問設計やサンプルサイズの考え方を学ぶ。実際に調査票を作成し、他グループとの意見交換を通じて修正を加えることで、より適切な質問項目や回答形式を整える。
11	調査地での調査1	実際の現地に出向いて観察・インタビュー・アンケートなどのデータ収集を行う。想定外の状況やトラブルが発生した場合にどう対応するかも含めて学び、フィールドワークの醍醐味と難しさを体感しながら調査を進める。
12	調査地での調査2	追加のデータ収集や補足情報の確認など、前回に続いてフィールドワークを継続する。調査が終わったらデータを初期整理し、バックアップ作業も行い、分析に向けた準備を整える。
13	データ分析、調査報告作成1	質的データをコード化して分類し、量的データを集計・統計処理する演習を通じて、仮説の検証や結果の可視化を学ぶ。グループ内で意見を出し合いながら分析を進め、論理的な考察に基づいた調査報告書の素案を作成する。
14	データ分析、調査報告作成2	さらに分析を深め、課題や仮説の再検討を行いながら最終的な報告書やプレゼン資料を仕上げる。リハーサルを通してプレゼンの流れや発表内容を確認し、質疑応答の練習やタイムマネジメントを意識して発表に備える。
15	調査報告発表	完成したプレゼン資料を用いて、グループごとに成果発表を行う。他グループの発表に対して質問や意見交換をし、学内外から得られた視点を総括することで、フィールドワークを中心としたプロジェクト研究を振り返り、次の学びへとつなげる。
16		

科目コード	28117				区 分	専門基礎			
授業科目名	SDGs入門				担当者名	鈴木 真理子			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

この講義では、「持続可能な開発目標（SDGs）」について、国連が掲げる国際目標としての側面から、私たちの日常生活やビジネスにどのように関わっているのかまで、幅広く学びます。SDGsの17のゴールと169のターゲットを理解し、それが企業経営や社会に与える影響について考察します。特に、学内外の有識者やSDGsに取り組むゲストスピーカーを多数お招きし、彼らとの対話や質疑応答を通じて、生きた知見と実践的な考え方を養います。講義とディスカッション、グループワークを組み合わせることで、Think Globally, Act Locally（地球規模で考え、足元から行動する）の視点を身につけ、持続可能な社会に貢献するための具体的な方法を主体的に探求します。

### <授業の到達目標>

1. SDGsの成り立ちや主旨、17の目標について深く理解する。2. 世界的な課題と自分自身の生活が密接に関わっていることを認識し、SDGs達成に向けて自分に何ができるかを考える力を養う。3. 異なるSDGsの目標間で生じうるトレードオフ（両立しない関係性）を解決するアイデアを思考できるようになる。4. 多様なゲストスピーカーとの対話を通じて、SDGsの実践例から学び、自らの考えを表現し、他者と協力して課題を解決する力を身につける。

### <授業の方法>

本講義は、外部ゲストスピーカーによる講義が授業全体の約50%を占め、残りは担当教員による講義とグループディスカッションで構成されます。「生の声」を聞くことを重視し、各界の専門家や実践家から直接学び、自由闊達な意見交換を行います。但し、本講座の講義内容は、効果的な学習方法への改善を目指し、随時変更・調整されるため、当初授業計画から内容等が大幅に変更される場合があります。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（グループディスカッション）5,6人のグループに分かれ、各階ごとのテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業のテーマに合わせて、毎週1時間程度の予習・復習（参考図書、雑誌、動画視聴など）が必要です。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度：50% ゲストへの積極的な質問、グループディスカッションでの発言など、授業への貢献度を評価します。レポート：50% 授業で学んだ内容を踏まえ、SDGsのテーマについて深く考察するレポートを課します。

### <教科書>

### <参考書>

編著：一般社団法人 Think the Earth、監修：蟹江憲史(2018/4/30) 未来を変える目標 SDGsアイデアブック 一般社団法人 Think the Earth  
高橋真樹(2021/3/15) 日本のSDGs 大月書店  
バウンド(2019/11/29) 60分でわかる！SDGs超入門 株式会社技術評論社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	【9/26】オリエンテーション	授業の概要、進め方、評価方法を理解する。SDGsの5つのポイント（誰ひとり取り残さない、経済・社会・環境の調和、見える化、連鎖、バックキャスト）についてグループディスカッションを通じて理解を深める。
2	【10/3】国際協力とSDGs	JICA岡山デスクの橋本様と、海外協力隊としてコスタリカで活動してきた卒業生の佐合様をお招きし、「国際協力」について、身近な貢献方法や将来の働き方について対話する。ゲストスピーカー：①岡山県 JICA デスク 橋本千明 様 <a href="https://www.jica.go.jp/domestic/chugoku/pref/okayama/index.html">https://www.jica.go.jp/domestic/chugoku/pref/okayama/index.html</a> ②元・海外協力隊（コスタリカ派遣、野球）佐合 桃果 さん <a href="https://world-diary.jica.go.jp/costaricasana">https://world-diary.jica.go.jp/costaricasana</a>
3	【10/10】SDGs（持続可能な開発目標）とは？	SDGsを理解するための5つのキーワード（「誰ひとり取り残さない」「経済、社会、環境の調和」「見える化」「連鎖」「バックキャスト」）について理解を深める。
4	【10/17】ESG経営とは	企業がなぜ「ESG経営」に取り組むのかを知り、現代経営学科でSDGsを学ぶ意義を考

5	【10/24】「境界線を溶かすチョコレート」	える。 から、ガーナでのチョコレート工場設立と、生産者と消費者がつながるビジネスモデルについて講演いただく。この回は、「チョコレートが好き」という思いに向き合い、大学1年生の時にガーナのカカオ農家の支援を開始した田口様(現Mpraeso合同会社代表)が、現地の人と共にチョコレート工場を設立し、生産者にお金が落ち、雇用が増える仕組みを創っていく挑戦の物語について講演を聴いた後、ディスカッションする。ゲストスピーカー：Mpraeso 合同会社代表 田口愛 様 <a href="https://ipu-japan.ac.jp/news/">https://ipu-japan.ac.jp/news/</a>
6	【11/7】世界の平和について考える	「消極的平和」と「積極的平和」の概念を理解し、IPU留学生の出身国で起きたベトナム戦争やミャンマー内戦といった具体的な事例を通して平和を考える。 平和を阻害する戦争・災害・貧困に苦しむ世界の人々に対して、保健・医療を中心とした人道支援活動を行っているNPO法人AMDАからゲストをお迎えし、現在実施しているウクライナ、ミャンマー、東日本大震災など、紛争・災害・貧困に対する人道支援活動について学ぶ。ゲストスピーカー：NPO法人AMDА 副理事長 難波妙様 <a href="https://ipu-japan.ac.jp/news/22069/">https://ipu-japan.ac.jp/news/22069/</a> <a href="https://amda.or.jp/">https://amda.or.jp/</a>
7	【11/14】AMDАの支援活動	復興庁の都築様から、東日本大震災の復興支援事業について、具体的な取り組みや課題についてお話いただく。
8	【11/21】東日本大震災の復興支援	世界や日本の水問題に目を向け、すべての人々が安全な水を得るためにどうすべきかを考える。
9	【11/28】世界の水問題×SDGs	Dolphin Papa合同会社代表の 森脇 崇 様をお招きし、海洋プラスチックごみをフライングディスクに再生するビジネスについてご講演いただく。ゲストスピーカー：Dolphin Papa 合同会社 代表 森脇 崇 様コーディネーター：IPU 体育学部 健康科学科 講師 坂本 賢広
10	【12/5】海に「浮遊」していた海洋プラスチックを、空に「浮遊」するフライングディスクに	映画「ここにいる、生きている。～消えゆく海藻の森に導かれて～」を鑑賞し、海洋環境問題について深く考える。
11	【12/12】映画鑑賞：うみもりバトンプロジェクト	JICA専門家の中井様より、アフリカでの教育支援と気候変動の実態についてお話しいただく。
12	【12/19】アフリカでの理数科教育・気候変動の実態	DVサバイバーの神坂様をお迎えし、DV被害者支援の活動や、暴力のない社会の実現に向けた課題についてワークショップ形式でディスカッションする。ゲストスピーカー：DV サバイバー 神坂 様 <a href="https://ipu-japan.ac.jp/news/22281/">https://ipu-japan.ac.jp/news/22281/</a> <a href="https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201411/1.html#fifthSection">https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201411/1.html#fifthSection</a>
13	【12/25】ジェンダーの平等と暴力のない社会の実現に向けて	(株)ありがとうファームの馬場様をお招きし、アートとサービスを軸にした多機能型事業所での取り組みから、「障がい者と健常者の間にある障がい(壁)」を無くするための方法をディスカッションする。ゲストスピーカー：(株)ありがとうファーム 取締役 副社長 馬場 拓郎 様 <a href="https://ipu-japan.ac.jp/news/22196/">https://ipu-japan.ac.jp/news/22196/</a> <a href="https://www.arigatou-farm.com/">https://www.arigatou-farm.com/</a>
14	【1/9】知ることは障がいを無くす	5回の講義全体を振り返り、SDGs達成に向けた自身の貢献方法について考える。SDGsの目標間に生じるトレードオフを解消するアイデアを思考する。最後に講義全体の確認テストを実施する。
15	【1/16】総括、確認テスト	
16		

科目コード	28118				区 分	専門基礎			
授業科目名	都市計画論				担当者名	阿部 宏史			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

都市は成長、発展、衰退を繰り返しながら継続的に変化しており、国や自治体による公共経営では、都市の持続的発展を維持していくために、人口、産業、市街地などの変化を計画的、戦略的にコントロールしていくことが必要である。本講座では、身近な対象都市として岡山市とその周辺市町村を取り上げ、最近の都市づくりや都市計画の仕組みを分かりやすく解説する。また、最近の政策課題についてグループワークを行い、持続可能な都市づくりに向けた各自の意見をまとめる。講義を通じて、自治体における都市づくりに従事する人材として、基礎的素養を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

以下の3項目を到達目標とする。1. 都市の変化と都市問題の発生原因について、概要を理解している。2. 自治体の都市づくりにおいて考えられている政策や計画の概要を理解している。3. 岡山市などを対象として、都市づくりの課題と対応について各自の意見や提言を述べることができる。

### <授業の方法>

第1～7回の授業では、講義や演習を通じて、最近の都市問題に対する理解を深める。第8回の授業では、都市問題に関する理解と考察に基づいて、グループ単位での自由闊達な意見交換を行う。第9～11回の授業では、最近の都市計画について概要と先進事例を解説する。第12～15回の授業では、岡山市や各自が対象として選択した都市の都市づくりを対象とした意見をまとめ、グループ討論を行う。①ディスカッション、②グループワーク、③プレゼンテーション、場合によりオンライン授業を併用していく。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

### <準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業テーマに沿って、国や自治体のホームページに掲載されている都市計画や都市づくりの事業に関する資料を紹介し、調査や振り返りを行う。予習・復習を合わせて毎週4時間程度の学習時間とし、成績評価に反映する。都市づくりの課題や都市計画を体系的に学習したい人のために、参考図書を紹介する。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は、授業参加態度 50%、授業経過レポート30%、最終報告評価 20%程度とする。

### <教科書>

国土交通省・都市局・都市計画課 日本政府の所管省庁である国土交通省による都市計画の解説 [https://www.mlit.go.jp/toshi/city\\_plan/toshi\\_city\\_plan\\_tk\\_000043.html](https://www.mlit.go.jp/toshi/city_plan/toshi_city_plan_tk_000043.html)都市計画の諸制度を説明するパワーポイント資料を掲載中

岡山県・土木部・都市計画課 「岡山県の都市計画（2024年度版）」岡山県・土木部・都市計画課による日本の都市計画制度の解説書、以下にPDFが掲載されている。 <https://www.pref.okayama.jp/page/672085.html>都市計画の入門書として、適切な内容である。

岡山市・都市整備局・都市計画課 岡山市・都市計画課のページ <https://www.city.okayama.jp/0000031574.html>岡山市で策定・実施されている都市計画の諸制度を解説中。

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要、進め方、評価方法などを説明する。
2	都市と都市圏	具体例として、岡山市、倉敷市などの都市と都市圏の形成について考察する。
3	都市の成長・衰退と都市問題①人口	人口に着目して、少子化・高齢化、都市の成長・衰退と持続可能な発展における人口の課題を考察する。
4	都市の成長・衰退と都市問題②産業経済	都市の産業経済に着目して、都市の成長・衰退との関係を考察する。
5	都市の成長・衰退と都市問題③土地利用・住宅	都市における市街地形成と土地利用・住宅問題の発生について考察する。
6	都市の成長・衰退と都市問題④交通	自家用交通手段と公共交通手段を中心に、都市交通の課題について考察する。
7	都市の成長・衰退と都市問題⑤都市環境	都市で発生している環境問題と地球環境への影響について考察する。
8	都市問題の発生原因と解決可能性	①～⑤で解説した都市問題への対策について、各自の意見をまとめるとともに、グループ単位で意見交換を行う。
9	都市計画の必要性和概要①市街地整備とまちづくり	都市計画のうち、市街地整備の概要を解説するとともに、国内外の先進事例を紹介する。

10	都市計画の必要性と概要②都市施設整備とまちづくり	都市計画のうち、都市施設整備の概要を解説するとともに、国内外の先進事例を紹介する。
11	都市計画の必要性と概要③景観・環境の保全とまちづくり	都市計画のうち、景観・環境保全の概要を解説するとともに、国内外の先進事例を紹介する。
12	岡山市都市計画マスタープランの比較・考察	岡山市で策定されてきた都市計画マスタープランの概要版を比較・検討し、都市づくりの特徴と課題を考察する。
13	岡山市の都市づくりに関する提言のまとめ	各自の考察結果に基づいてグループワークを行い、グループで提言のとりまとめを行う。
14	プレゼン発表準備	グループ単位でプレゼン発表の準備を行う。
15	まとめと成果発表	各グループによる発表、意見交換、全体総括を行う。
16		

科目コード	28119				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	プロジェクト・ゼロ				担当者名	鈴木 真理子			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本講義の目的は、経営を学ぶ第一段階として、基本的な経営知識、人的資源管理、プロジェクト運営について体験的に学習することである。今年度は、IPUのキャンパスに学生自身の手によりCafeを創るプロジェクトを実施する。学外のカフェ経営者等から、直接、実践的な経営のノウハウを学び、チームでプロジェクトを進める。講義終了後、希望者は学生団体「TSUNAGUカフェ」に所属し、継続してカフェ運営やイベントプロデュースに携わることができる。

### <授業の到達目標>

本講義では、次の点を到達目標とする。１．自分が感じたことを素直に伝え、仲間と議論して、仲間と何かを生み出すことを楽しいと思うことができる。２．プロジェクトを成功させるためのチームビルディングやリーダーシップについて、体験から学んだことを言語化することができる。３．基本的な経営ノウハウを学び、起業やビジネスへの興味を深め、積極的に実践に生かそうとすることができる。

### <授業の方法>

グループディスカッション中心の授業のため、受講者数を制限する（最大30名）。Cafeプロジェクトにチームで取り組み、実践を振り返り、相互にフィードバックするプロセスを体験する。少人数での、課題をめぐる協働学習（PBL：Project Based Learning）である。毎回、PCを持参のこと。受講希望者は、GoogleFormからエントリーシートを提出のこと。第1回授業で、URLを提示する。エントリーシートの内容により、受講者を選抜する。・4/13(日)：エントリーシート〆切・4/15(火)頃：履修

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素あり（グループディスカッション、カフェ運営、プレゼンテーションなど）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業のテーマに沿って、フィールド調査、アンケート調査、販促物の制作、振り返り、チーム活動などを行う。授業外に、毎週2～3時間程度の準備学習を目安とする。成績評価に反映する。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

１．チーム評価 30% ・グループワークに全員が参画しているか? ・学習内容を積極的に活用しているか? ・目的に対し、有効な議論を行っているか? ・活動、プレゼンテーションの内容 等 ２．個人(チーム活動) 評価 40% ・時間を守り、授業に出席しているか? ・チームに貢献しているか? 等 ３．個人(レポート) 評価 30% ・期限内に提出しているか? ・指定された内容、分量を記述しているか? ・深く検討しているか?

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション&PREP法 (4/11)	授業の概要、進め方、評価方法、そしてプロジェクトとは何かについて理解し、履修希望者はエントリーする。・4/11(金)：第1回授業、希望者はエントリー・4/13(日)：エントリーシート〆切・4/15(火)頃：履修者決定通知・4/18(金)：第2回講義、履修登録修正〆切
2	自己紹介、チームビルディング (4/18)	自己分析ワークを通し、相互理解を深め、信頼関係を構築していく。
3	カフェ業界を知ろう (4/25)	カフェを取り巻く業界やブランド戦略について調査し、チームごとにプレゼンする。
4	カフェのブランド戦略① (5/9)	実際にカフェを経営している方から、ブランド戦略をうかがう。
5	カフェのブランド戦略② (5/16)	自分が創りたいCafeのブランド戦略について、ひとりひとりプレゼンテーション。OCで創り上げるCafeについて、チームを形成し、戦略を練る。
6	プロジェクトマネジメント (5/23)	プロジェクトマネジメントの手法を知り、実際にカフェを作る際のチーム構成や役割分担、スケジュールやタスク管理方法について決めていく。
7	収支をシュミレーションしてみよう！ (5/30)	自分たちがやりたいカフェ&イベントには何が必要でどのように調達するか、売上予想と利益はどれぐらいになるかシミュレーションし、実際にカフェの収支計画を立ててみる。
8	原価計算 (6/6)	詳細な原価計算の方法を知り、精度を上げた収支計画を立てる。
9	チームマネジメントとリーダーシップ (6/13)	チームが最大の成果を上げるには何が必要か、どのように行動したらよいか考える。

10	広報・マーケティング①(6/20)	ブランドについて理解を深め、チラシをデザインしてみる。ブランド戦略の上でどのようにマーケティング戦略を策定していくのかを考える。
11	広報・マーケティング② (6/27)	チラシ、POP、インスタグラム等をデザインする。
12	オペレーションの検討 (7/4)	実際のカフェ経営者から、コーヒーの淹れ方やオペレーションのコツを学ぶ
13	直前の準備作業 (7/11)	仕込み、備品類の確認やオペレーションの確認、出店に関して最終確認と準備を行う。
14	直前の準備作業 (7/18)	仕込み、備品類の確認やオペレーションの確認、出店に関して最終確認と準備を行う。
15	オープンキャンパスでカフェ開店 (7/27 日曜)	自分たちのCafeを実現させよう！
16		

科目コード	28120				区 分	専門基礎			
授業科目名	地域政策論 [2・3・4年生用]				担当者名	阿部 宏史			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	

### <授業の概要>

私達が活動する地域は、成長、発展、衰退を繰り返しながら継続的に変化している。わが国の地方圏や都道府県などの地域では、人口の少子化・高齢化、経済社会機能の東京一極集中、地域間格差拡大、グローバル化進展などによる新たな課題が発生しており、国や地方自治体による公共政策では、地域の持続可能な発展を維持していくために、戦略的、計画的な政策が必要となっている。本講義では、日本における地域課題の変化や国・地方自治体による政策について理解を深め、自治体による地域づくりに参加する人材としての基礎的素養を身につけることを目的とする。講義の位置づけは、前期科目「都市計画論」の対象をより広域的、総合的な視点にした内容となる。

### <授業の到達目標>

以下の3項目に対応できることを目標とする。1. 地域における人口・産業経済などの動きと地域課題の発生について、概要を理解している。2. SDG s などに基づいて、グローバル社会と地域政策の関係について、概要を理解している。3. 具体的な地域を取り上げ、持続可能な地域づくりについて意見を述べることができる。

### <授業の方法>

第1～7回の授業では、講義や演習を通して、最近の地域政策課題について理解を深める。第8回の授業では、最近の地域課題への対応について、グループ単位での意見交換を行う。第9～11回の授業では、最近の地域政策について、課題別に概要と取組事例を解説する。第12～15回の授業では、SDG s などのグローバルな視点を加えながら、今後の地域づくりに関する各自の意見や提言をまとめ、グループワークを通じて意見を深化させ、最終レポートをまとめる。講義全体を通じて、①ディスカッション、②グループワーク、③プレゼンテーション、場

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業テーマに沿って、国や自治体のホームページに掲載されている地域政策や計画などを参考資料として紹介し、各自による調査、振り返りなどを行う。予習・復習を合わせて毎週4時間程度の学習時間とし、成績評価に反映する。最近の地域課題や政策をより深く学習したい人のために、必要に応じて参考図書を紹介していく。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度40%、授業成果レポート30%、最終プレゼンテーション評価30%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要、進め方、評価方法などを解説する。
2	経済社会の発展と地域課題の発生	日本の経済成長やグローバル化が地域課題の発生に及ぼしてきた影響を解説する。
3	地域の成長・衰退と地域課題①人口	地域の人口に着目して、少子化・高齢化、人口減少、人口の大都市集中が地域の成長・衰退に及ぼしてきた影響を解説する。
4	地域の成長・衰退と地域課題②産業集積	地域の産業に着目して、生産や雇用の集積と地域の成長・衰退の関係を解説する。
5	地域の成長・衰退と地域課題③地域間交流と交通	地域の人口、経済活動の変化と地域間交流、広域交通の関係を解説する。
6	地域の成長・衰退と地域課題④地域間格差	大都市圏と地方圏の間で発生している経済社会的格差の課題について解説する。
7	地域の成長・衰退と地域課題⑤地域環境	地域で発生している環境問題と地球環境問題との関係について解説する。
8	地域問題の発生原因と対応可能性	①～⑤で解説した地域課題への対応について、振り返りとグループワークを行う。
9	地域政策の概要①人口・産業経済と地域づくり	人口、産業経済を対象とする地域政策の概要を解説するとともに、最近の事例を紹介する。
10	地域政策の概要②社会基盤整備と地域づくり	産業、都市、交通などの基盤整備の概要を解説するとともに、最近の事例を紹介する。
11	地域政策の概要③環境保全と地域づくり	地域における環境政策の概要を解説するとともに、最近の事例を紹介する。
12	SDG s に基づくグローバルな課題と地域政策の関連	国、自治体、企業のSDG s への取り組みについて説明し、地域づくりの課題を検討する。
13	今後の地域政策に関する提案のまとめ	これまでの講義内容を踏まえながら、今後の地域政策について、各自の意見や提言

14	グループワーク	の取りまとめを行う。
15	最終成果の取りまとめ	各自の意見や提言に基づいて、グループ単位で意見交換と意見の取りまとめを行い、成果発表を行う。
16		講義全体を通じて得られた成果について、各自の成果報告をまとめる。

科目コード	28122				区 分	コア科目			
授業科目名	ビジネス心理学				担当者名	赤木 邦江			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習（グループワーク・ペアワーク）	卒業要件	選択・2単位

### <授業の概要>

「ビジネス心理学」は、産業活動に従事（労働）する人や組織に関する心理学の分野であり、多様な研究領域によって構成されている。主に「組織に所属する人々の行動の特性や心理を研究する“組織行動”」「組織経営の礎となる人事評価や処遇、人材育成について研究する“人的資源管理”」「働く人々の安全と心身両面の健康保持・促進の方策について研究する“安全衛生”」「成果の高いマーケティング戦略に生かすための消費者心理や宣伝・広告の効果を研究する“消費者行動”」の4つの領域である。学生のほとんどは、卒業後に就職し、組織（企業・団体等）に属し働く。本講義では、日本の労働環境・社会における組織（企業・団体等）の様々な心理的な問題・課題、今後の動向について、労働者の視点から理解することを促す。

### <授業の到達目標>

「ビジネス心理学」における代表的な4つの研究領域について、基本的な理論や概念を理解し、自身の言葉で説明できるようになること、及び将来の働き方や労働環境を考え、「経営とワークライフ」についての知識を深めることを目標とする。

### <授業の方法>

講義は対面授業およびグループディスカッション等によるクティブラーニングを実施する。GoogleClassroomを活用したレジュメや課題の配布、資料の共有などICT活用に努める。（GoogleClassroomにアップしたレジュメを印刷またはダウンロードすること）グループディスカッション等により理解を深めるが、各学生個人が意見を持ち、発表することを基本とする。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有り：グループディスカッション、ペアワーク、発表

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：自身の将来の働き方や労働環境をイメージし、それらに関する興味・関心のある業界、職業、企業、組織等について、日頃から積極的にメディアなどでの情報を収集しておくこと（1時間程度必要）。復習：講義で学習したことの振り返り、レジュメ整理、事後課題など（1時間程度必要）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎授業時の「リフレクション（振り返り）シート」 42%※提出をもって出席とする授業への取り組み状況 28%期末試験：配布レジュメ・資料、自筆ノート（コピー、写真コピーは不可）持ち込み可 30%

### <教科書>

指定しない。講義で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

### <参考書>

指定しない。講義で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：講義の内容、成績評価の基準	イントロダクション 「ビジネス心理学」の4つの領域とは 「組織行動」「人的資源管理」「安全衛生」「消費者行動」
2	経営とワークライフ「HRM：人的資源管理」①	採用と面接～就職活動では何を問われているのか
3	「OB：組織行動」①	ワーク・モチベーション～やる気いっぱいで働くには
4	「OB：組織行動」②	組織の情報処理とコミュニケーション～正確な情報共有と組織的的確な判断のために
5	「SH：安全衛生」①	仕事の能率と安全～生産性と安全性は両立するのか
6	「SH：安全衛生」②	職場の快適性・疲労・ストレス～毎日健康に働くために
7	「HRM：人的資源管理」②	キャリアの展開と生涯発達～人生をどう歩むか
8	「OB：組織行動」③	組織の変革と管理者のリーダーシップ～組織やチームを健全な成長へと導くには
9	HRM：人的資源管理 ③	人事評価～公平な評価のために考えるべきこと
10	「CB：消費者行動」①	消費者行動～消費者心理がわかったら何の役に立つのか

11	「CB:消費者行動」②	消費者の価格判断と心的会計～「安い」「高い」とどうして思うのか
12	「CB:消費者行動」③	消費者の意思決定過程～消費者はどのような決め方をしているのか
13	「SH:安全衛生」③	人間工学～ヒトの特性とモノのデザイン
14	日本企業の様々な変化	ビジネス心理学の理解と活用
15	期末試験:「ビジネス心理学」まとめテスト総括:全体の振り返り	まとめテストの解答・解説全体の振り返り、これからの「ビジネス心理学」受講自己評価
16		

科目コード	28123				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	データサイエンス入門 [BC用]				担当者名	高 鷲 翔／岡田 健志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

急速に進展しているデジタル社会ではデータサイエンスの能力がビジネスにおいても必須となってきた。データサイエンスの能力とは、データを分析し、その結果を読み取る能力である。そのような必須の能力を身につけるための基礎的なスキルを身につけることが本講義の目的である。

#### <授業の到達目標>

情報の基本的な取り扱い方についての知識を修得し、そのデータを扱うための基本的なスキルを養う。基本的なプログラミングを修得する。

#### <授業の方法>

はじめに情報の取り扱い方を講義形式で解説する。その後、演習形式でPythonのプログラミングの方法を学ぶ。特別なソフトウェアは必要としないが、毎回サーバーにアクセスして演習を行うため、PCは必須である。アカウントの都合上50人の履修制限を行います。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：演習を行い内容を理解する（1時間程度）事後学習：応用問題に取り組み理解を深める（1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲30%、演習の取り組み70%で評価する。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	パソコンの操作方法と学習方法について解説し、今後の授業についての説明をするので是非出席されたい。
2	情報倫理（1）情報とは	情報通信社会における情報の取り扱いの重要性について。
3	情報倫理（2）個人・企業と情報	情報セキュリティ、個人情報、企業の責任、情報モラルについて。
4	プログラミングをはじめる	Pythonのプログラミングに触れ実行してみる。
5	基本的なデータ型と変数	主なデータ型、変数の仕組みについて学ぶ。
6	組み込み関数	関数とはプログラムを小さな部品としてまとめたものであり、Pythonに最初から組み込まれている関数を組み込み関数という。
7	メソッド	メソッドとはデータ型に紐づけられた特別な関数であり、オブジェクトとして実現されていて、それによって便利にプログラミングを行える基盤となる。
8	比較演算とブール演算	制御フローの条件式を作るための基礎として、ブール型、比較演算とブール演算を学ぶ。
9	条件分岐	制御フローのひとつ、条件分岐について学ぶ。if文で条件分岐のあるプログラムを書く方法。
10	リスト	リストの作り方、要素にアクセス・操作する方法、範囲型の値の作り方について学習する。
11	繰り返し（その1）	for文を使って作業を繰り返す方法を学ぶ。
12	繰り返し（その2）	while文の基本的な形、無限ループについて。
13	モジュールと標準ライブラリ	モジュールと標準ライブラリを理解する。
14	辞書	辞書とはキーと値のペアでデータを格納しておくデータ構造であり、Pythonでは辞書はdict型の値として表現することを学ぶ。
15	関数	関数の定義・呼び出し、引数を持つ関数について。
16		

科目コード	28124				区 分	専門基礎			
授業科目名	スポーツデータサイエンス入門 [PS用]				担当者名	金谷 和幸			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

データサイエンスとは、「データを用いて新たな科学的および社会に有益な知見を引き出そうとするアプローチのこと」であり、統計学や情報科学・情報工学の知識を扱い、データを価値のあるものへと導いていく。本授業では、その入門として、スポーツデータの種類に応じて適切なデータの扱い方や、視覚化の方法を学ぶ。そして、身近なデータやグラフからその成り立ちや仕組みについて理解できるようになることを目指す科目である。

### <授業の到達目標>

データの種類に応じて適切な扱い方を選択できるようになる。データの種類に応じて適切なグラフを作成できるようになる。日常生活、スポーツ活動中に目にするデータやグラフの意味を理解できるようになる。また、その仕組みが理解できるようになる。

### <授業の方法>

講義の際は、ビデオやスライドを用いて解説を行う。Classroomを通じて資料配布や課題管理を行う。自分でまたはグループでPC作業を行うため、毎授業必ずPCを持参すること。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング無し

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

与えられた課題に対して、事前学習 1 時間、事後学習 2 時間程度行うことが必要である。また授業内に終えることができなかった課題は、次の授業までに必ず提出が完了していること。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席40%，毎授業後の課題30%，期末課題30%，

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業ガイダンス	授業の概要，到達目標，授業の進め方，成績評価について説明する。
2	データの種類について	データの種類について学ぶ
3	データの入力方法	データの入力方法や規則について学ぶ。
4	データの取り扱いについて	データの取り扱い方について学ぶ（欠損値や平滑化）
5	データビジュアライゼーション①	データを視覚化する方法を学ぶ（グラフの種類など）
6	データビジュアライゼーション②	サンプルデータを視覚化してみる
7	中間課題	中間課題に取り組む
8	身近なデータサイエンス①	普段何気なく見ているデータやグラフのバックグラウンドについて理解する①
9	身近なデータサイエンス②	普段何気なく見ているデータやグラフのバックグラウンドについて理解する②
10	スポーツにおけるデータサイエンス①	スポーツの世界で見られるデータやグラフのバックグラウンドについて理解する①
11	スポーツにおけるデータサイエンス②	スポーツの世界で見られるデータやグラフのバックグラウンドについて理解する②
12	スポーツにおけるデータサイエンス③	スポーツの世界で見られるデータやグラフのバックグラウンドについて理解する③
13	スポーツにおけるデータサイエンス④	スポーツの世界で見られるデータやグラフのバックグラウンドについて理解する④
14	スポーツにおけるデータサイエンス⑤	スポーツの世界で見られるデータやグラフのバックグラウンドについて理解する⑤
15	最終課題	最終課題に取り組む
16		

科目コード	28124				区 分	専門基礎			
授業科目名	スポーツデータサイエンス入門 [PP用]				担当者名	仙波 慎平			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

データサイエンスとは、「データを用いて新たな科学的および社会に有益な知見を引き出そうとするアプローチのこと」であり、統計学や情報科学・情報工学の知識を扱い、データを価値のあるものへと導いていく。本授業では、その入門として、スポーツデータの種類に応じて適切なデータの扱い方や、視覚化の方法を学ぶ。そして、身近なデータやグラフからその成り立ちや仕組みについて理解できるようになることを目指す科目である。

### <授業の到達目標>

データの種類に応じて適切な扱い方を選択できるようになる。データの種類に応じて適切なグラフを作成できるようになる。日常生活、スポーツ活動中に目にするデータやグラフの意味を理解できるようになる。また、その仕組みが理解できるようになる。

### <授業の方法>

講義の際は、ビデオやスライドを用いて解説を行う。Classroomを通じて資料配布や課題管理を行う。自分でまたはグループでPC作業を行うため、毎授業必ずPCを持参すること。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有グループワーク（3～4人のグループに分かれ、各テーマに対して共同作業を行い成果物を作成）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

与えられた課題に対して、事前学習 1 時間、事後学習 2 時間程度行うことが必要である。また授業内に終えることができなかった課題は、次の授業までに必ず提出が完了していること。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末課題40%，中間課題20%，毎授業後の課題30%，意欲態度10%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業ガイダンス	授業の概要，到達目標，授業の進め方，成績評価について説明する。
2	データの種類について	データの種類について学ぶ
3	データの入力方法	データの入力方法や規則について学ぶ。
4	データの取り扱いについて	データの取り扱い方について学ぶ（欠損値や平滑化）
5	データビジュアライゼーション①	データを視覚化する方法を学ぶ（グラフの種類など）
6	データビジュアライゼーション②	サンプルデータを視覚化してみる
7	中間課題	中間課題に取り組む
8	身近なデータサイエンス①	普段何気なく見ているデータやグラフのバックグラウンドについて理解する①
9	身近なデータサイエンス②	普段何気なく見ているデータやグラフのバックグラウンドについて理解する②
10	スポーツにおけるデータサイエンス①	スポーツの世界で見られるデータやグラフのバックグラウンドについて理解する①
11	スポーツにおけるデータサイエンス②	スポーツの世界で見られるデータやグラフのバックグラウンドについて理解する②
12	スポーツにおけるデータサイエンス③	スポーツの世界で見られるデータやグラフのバックグラウンドについて理解する③
13	スポーツにおけるデータサイエンス④	スポーツの世界で見られるデータやグラフのバックグラウンドについて理解する④
14	スポーツにおけるデータサイエンス⑤	スポーツの世界で見られるデータやグラフのバックグラウンドについて理解する⑤
15	最終課題	最終課題に取り組む
16		

科目コード	31208				区 分	コア科目			
授業科目名	映画とテレビの英語				担当者名	伊藤 仁美			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業では、4技能統合型の授業を念頭に置き、映画やテレビなどのオーセンティック教材を用いて、基礎的聴解力とともに、聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づいて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う力を育成する。

### <授業の到達目標>

(1) 事前に題材・テーマに関する背景知識を活性化し、テレビ・映画内で使用される語句・口頭表現の学習を行えば、必要な情報を聞き取ったり、概要や要点を捉えたりすることができる(2) 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づいて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる

### <授業の方法>

(1) Warm-up: テレビCMや短めの番組を視聴し、概要や要点を目的に応じて捉える。(2) プレ視聴: 題材・テーマに関連する内容についてペアトークをする。必要に応じて、テレビ・映画内で使用される語句・口頭表現の事前学習を行う。(3) 映画視聴: 課題・活動に取り組む(例: ディクテーション・ノートテイキング・聴解問題・シャドーイング・ロールプレイ・字幕作成)。(4) ポスト視聴: ペアやグループで聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づいて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有 ペアやグループで聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づいて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・復習(60分): リスニング・クイズに向けて、授業中に聞き取れなかった箇所を中心に繰り返し聞き、音読やシャドーイング、オーバーラッピング等の訓練を継続して行う。・日頃から映画とテレビを視聴し、英語に慣れ親しむ。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のおよびディプロマポリシー5(初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

(1) 課題・活動への取り組み 30%(2) 最終試験(リスニング・クイズ) 30%(3) パフォーマンス・テスト(スピーキング・タスク) 40%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業ガイダンス、映画の紹介	授業の概要・進め方・成績評価の方法等、好きな映画について伝え合う
2	テレビの英語(1)	テレビCMや短めの番組を視聴し、概要や要点を目的に応じて捉える
3	テレビの英語(2)	テレビCMや短めの番組を視聴し、概要や要点を目的に応じて捉える
4	テレビの英語(3)	グループごとにテレビCMを作成する
5	ニュース・ドキュメンタリーの英語(1)	必要な情報の聞き取り、ノートテイキング、ディクテーション、題材・テーマに関するペアトーク
6	ニュース・ドキュメンタリーの英語(2)	必要な情報の聞き取り、ノートテイキング、ディクテーション、題材・テーマに関するペアトーク
7	ニュース・ドキュメンタリーの英語(3)	なりきりインタビュー
8	映画の英語(1)	字幕作成、音読練習、ロールプレイ
9	映画の英語(2)	字幕作成、音読練習、ロールプレイ
10	まとめ	リスニング・クイズに向けて学習内容を振り返る
11	映画の英語(3)	グループごとにパフォーマンス・テストに向けて準備をする(計画)
12	映画の英語(4)	グループごとにパフォーマンス・テストに向けて準備をする(練習)
13	パフォーマンス・テスト(1)	スピーキング・タスク
14	パフォーマンス・テスト(2)	スピーキング・タスク
15	最終試験	主にリスニング・クイズ
16		

科目コード	31209				区 分	コア科目			
授業科目名	英語のリズムとイントネーション				担当者名	伊藤 仁美			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

文法にルールがあるように発音にもルールがある。英語母語話者であれば無意識に身につけられるような発音のルールやプロソディ（アクセント・リズム・イントネーション）を、本授業では意識的・体系的に学ぶ。より英語らしい発音を身につけたいと願う学生向けの授業である。

#### <授業の到達目標>

英語発音のルールについて正しく理解し、聞き手にとって明瞭で理解しやすい英語の発音を身につけている。

#### <授業の方法>

予習を前提とした授業である。英語の発音やプロソディに関する知識を実際に活用できるレベルにするため、個別練習とペア活動（相互フィードバック）を組み合わせながら、授業を進めていく。終末には、自身の学びを省察し、Classroom上でリフレクションを提出する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有 個別練習とペア活動（相互フィードバック）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に指定された教科書のページを読み、授業に臨むこと。復習として、授業内容に基づく英文を音読し録音したものをClassroomに提出すること。音読課題には、個別にフィードバックを行う。課題は30分～1時間程度を要する。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のおよびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内課題（リフレクションを含む）30%、毎時の課題（音声ファイルの作成 / 問いに対するミニレポート）30%、最終パフォーマンス課題（レシテーション）40%

#### <教科書>

静哲人（2019年1月19日） 日本語ネイティブが苦手な英語の音とリズムの作り方がいちばんよくわかる発音の教科書 テイエス企画

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	初回ガイダンス・音読練習	成績、評価、授業運営などの説明・自分が音読した録音を聞くことで、苦手とする発音等を自覚し、する
2	発音について知っておきたい基礎基本①	正しい発音の習得がなぜ、どのように重要なのかを知る
3	発音について知っておきたい基礎基本②	アブクド読み、母音と子音の切り離し、子音連鎖、リンキング
4	英語の文でメリハリをつけるコツ	アクセントとリズム、あいまい母音シュワ
5	日本人が苦手な音①	r, l など
6	日本人が苦手な音②	th, f, vなど
7	発音の細部①	弱形（じゃけい）
8	発音の細部②	とても似ていて異なる音の区別
9	発音の細部③	シュワの脱落、融合同化、飲み込まれる音、帯気音、たたき音、品詞によってアクセントの位置が変わってくるもの
10	リズムとイントネーション①	ビート、フォーカス語
11	リズムとイントネーション②	複合語のアクセント、フォーカスを変えると意味ニュアンスが変わってくるもの、リズム（等間隔）、旧情報・新情報、ダウングレード現象
12	発音・プロソディに関する分析	すべての英語音素を含む歌のディクテーション、映画のナレーションを使った発音練習
13	レシテーションコンテストに向けた準備	有名なスピーチの練習
14	レシテーションコンテスト（2）	これまでに身につけた発音・プロソディに関する知識・技能を活用するパフォーマンス課題 1
15	レシテーションコンテスト（2）	これまでに身につけた発音・プロソディに関する知識・技能を活用するパフォーマンス課題 2

16	ンス課題 2
----	--------

科目コード	31216				区 分	カリキュラムにより異なる			
授業科目名	特別支援教育論				担当者名	内田 直美			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解するとともに、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育や支援の方法を理解する。また、障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の保育上又は生活上の困難とその対応を理解する。

#### <授業の到達目標>

発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の保育上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

#### <授業の方法>

オンデマンド

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業資料や必要に応じて提供する参考資料にて振り返りを行うこと

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業の最後実施する確認テストや小レポート課題（60％）定期試験に代わるレポート（40％）

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	特別支援教育とは何か	特別支援教育とは何かについて学ぶ。
2	特別支援教育の歴史と制度	特別支援教育の歴史の変遷について学ぶ。
3	インクルーシブ教育システムの構築	学校・園における合理的な配慮について学ぶ。
4	障害のある子どもの特性と特別支援教育	視覚障害・聴覚障害の特性の理解と指導・支援について学ぶ。
5	障害のある子どもの特性と特別支援教育	肢体不自由の特性の理解と指導・支援について学ぶ。
6	障害のある子どもの特性と特別支援教育	知的障害・肢体不自由の特性の理解と指導・支援について学ぶ。
7	自閉スペクトラム症（ASD）の特性と教育的支援	ASDの特性の理解と具体的な指導・支援について学ぶ。
8	注意欠如多動症（ADHD）の特性と教育的支援	ADHDの特性の理解と具体的な指導・支援について学ぶ。
9	限局性学習症（SLD）の特性と教育的支援	SLDの特性の理解と具体的な指導・支援について学ぶ。
10	その他のスペシャルニーズのある子どもの特性と教育的支援	スペシャルニーズのある子どもの特性の理解と具体的な指導・支援について学ぶ。
11	個別的教育支援計画と個別の指導計画	個別的教育支援計画と個別の指導計画の作成方法について学ぶ。
12	校内支援体制（校内委員会・特別支援教育コーディネーター）と保護者・他機関との連携	特別支援教育において必要な連携について学ぶ。
13	自立活動	特別支援教育において重要な自立活動について学ぶ。
14	通級指導	通級指導教室における指導について学ぶ。
15	発達障害への支援	様々な指導・支援の方法について学ぶ。
16		

科目コード	31217				区 分	コア科目			
授業 科目名	英語教授法特論				担当者名	竹下 厚志			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

第二言語習得研究（SLA）のメカニズムと諸理論についての理解をもとに、実際の学校現場（小学校、中学校、高等学校）において、どのように英語指導を行えば、児童・生徒の英語コミュニケーション能力の向上につながるかについて一緒に考えていきます。将来、学校現場に立つことを念頭に理論と実践の一体化を目指した講義と演習を実施します。

### <授業の到達目標>

・グローバルシチズンシップの観点から英語教育をとらえ、児童生徒を地球市民の一員として育成できる見方・考え方を身につけている。  
・自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるメタ認知力を身につけている。  
・英語教師として、授業を円滑に運営でき、英語学習者（L2 Learner）のモデルとなる英語力を身につけている。  
・SLAの理論の基本的な知識および英語指導に必要な技能を身につけている。

### <授業の方法>

①講義およびペア・グループワーク②指導案作成および模擬授業③まとめレポート

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり。ペア・グループワーク（各テーマに関しての意見交換）、プレゼンテーション（SLA研究をもとにした模擬授業）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

学んだことの復習および課題に対する取組（毎回2時間程度）、模擬授業の準備（2時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のおよびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

積極的な授業参加度30%、課題への取組30%、模擬授業および指導案作成40%

### <教科書>

### <参考書>

鈴木 渉（2020年9月1日） 実践例に学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導 大修館書店  
白井 恭弘（2012年9月1日） 英語教師のための第二言語習得論入門 大修館書店  
村野井 仁（2007年4月10日） 第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法 大修館書店

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	自分が目指す英語教育について考える。
2	SLA研究変遷の概観	今まで受けてきた英語授業の背景にある考え方の考察
3	Input/Output/Interaction Hypothesis	SLAモデルをもとにした指導事例の分析
4	動機づけ	言語レベル、学習者レベル、学習環境レベルから先行研究概観
5	SLA関連の重要項目概観	自動化、ワーキングメモリ、スキーマを考慮した実際の授業と関連付けたタスクの設定
6	Focus on Form	文法指導の在り方について考える。
7	CLIL（TBLT）	CLIL（TBLT）をもとにした英語授業におけるタスクの設定
8	実践演習①	具体的な指導技術について考察
9	実践演習②	具体的な指導技術について考察
10	映像・教科書分析①（小学校）	実践映像および教科書記載のタスクをSLAの観点から分析
11	映像・教科書分析②（中学校・高等学校）	実践映像および教科書記載のタスクをSLAの観点から分析
12	模擬授業①	指導案の作成および実演
13	模擬授業②	指導案の作成および実演
14	模擬授業③	指導案の作成および実演
15	振り返り	目指す英語教師像について考察
16		

科目コード	31302				区 分	コア科目			
授業科目名	教育評価				担当者名	鉦 悠介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

この授業は、教育評価の役割や考え方を理解し、教育評価を適切に実践していくために必要な実践力を養うことを目指して行う。

#### <授業の到達目標>

教師をめざそうとする学生や教育に興味・関心を持つ学生が、評価の理論と実際を学ぶことを目指す。次の3点を目標とする。(1)評価することの意義・手続き・困難さについて理解を広げる。(2)評価の事前の準備や事後の反省のプロセスを通し、具体的な授業・評価の設計の判断を下す。(3)評価を常に改善される余地のあるものと捉える姿勢を持つ。

#### <授業の方法>

講義形式の中にいくつかの課題を設ける。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。グループディスカッションや相互評価など。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の講義についてClassroomにアップロードされた内容を復習する（30分）。最終レポートに向けた幾つかの課題に取り組む（合計6時間程度）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の授業課題 80%, 学期末課題 20%授業への参加の度合いに応じて10%程度の点数を加減。

#### <教科書>

なし

#### <参考書>

田中耕治（編）2021年4月30日 よくわかる教育評価 第3版 ミネルヴァ書房

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	本講義の目標と内容	本講義の目標と内容について
2	評価の機能	診断的評価・形成的評価・総括的評価とその役割
3	カリキュラム	意図カリキュラム・実施カリキュラム・達成カリキュラム
4	ループリック（1）	ループリックの意義と構成要素
5	ループリック（2）	ループリックの修正
6	教育評価の具体事例（1）	各教科における評価事例（1）
7	教育評価の具体事例（2）	各教科における評価事例（2）
8	教育評価の歴史と動向（1）	目標に準拠した評価など
9	教育評価の歴史と動向（2）	学習のための評価など
10	教育評価の歴史と動向（3）	工学的アプローチ・羅生門アプローチなど
11	教育評価の歴史と動向（4）	目標の分類学
12	パフォーマンス評価のためのワークシート（1）	ワークシート作成：単元の構造と目標を理解する
13	パフォーマンス評価のためのワークシート（2）	ワークシート作成：ループリックを作成する
14	パフォーマンス評価のためのワークシート（3）	ワークシート作成：子どもがループリックを理解するための作品例を作る
15	パフォーマンス評価のためのワークシート（4）	ワークシート作成：ワークシートのデザインを修正し完成させる
16		

科目コード	31400				区 分	コア科目			
授業科目名	学校経営と学校図書館				担当者名	浅田 栄里子			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

学校教育目標の達成のために「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を持つ学校図書館が果たす役割について学ぶとともに、児童生徒の学力における課題を克服するために学校図書館をどのように活用していくかについて実践的に学習を進める。この授業は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

### <授業の到達目標>

司書教諭として学校図書館をどのように運営していくかについて、その具体的な方法を理解することができる。また、学校図書館を活用して行う読書活動や学習等について運営計画を立案するとともに、具体的な指導を指導者の立場として展開することができる。

### <授業の方法>

スライド資料やワークシート等を用いて授業を進める。多くの授業において個人で取り組む演習やグループで取り組むワークが中心となるので、主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。演習ではパソコンを使って資料を作成するので、個人パソコンの持参が必須である。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有授業内において、グループワークを実施する。5、6人のグループに分かれ、各回の課題についてグループで協力して課題内容を作成しグループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

あらかじめ資料に目を通しておき、事前課題を提出する。（1時間程度）授業後には本時に学習した内容の整理定着のための事後課題を提出する。（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲・態度 30%、レポート・グループ課題 40%、特別課題 30%に基づき総合的に評価する。

### <教科書>

### <参考書>

「探究 学校図書館学」編集委員会 編著（2022年1月20日第2刷発行） 探究 学校図書館学第1巻「学校経営と学校図書館」 公益社団法人全国学校図書館協議会

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス・学校教育法令と学校経営	授業のガイダンスと、学校経営がどのような法令等に基づいて策定されているかを理解する。
2	教育法令と学校図書館	学校教育にかかる様々な法令と学校図書館の位置づけを理解する。
3	学校図書館と学習指導要領	学習指導要領から学校図書館の位置づけを探し、教育課程とのかかわりを理解する。
4	学校図書館の機能と図書標準	学校図書館メディアの種類と、蔵書の標準を知り、学校図書館の機能について考える。
5	学校図書館の運営	学校図書館運営に関わる業務を理解する。
6	学校図書館の運営	学校図書館運営計画を作成する①
7	学校図書館の運営	学校図書館運営計画を作成する②
8	学校図書館の運営	学校図書館運営計画を作成する③
9	学校図書館の運営	図書館だよりを作成する①
10	学校図書館の運営	図書館だよりを作成する②
11	学校図書館の運営	図書館だよりを作成する③
12	学校図書館の運営	学校図書館展示の工夫①
13	学校図書館の運営	学校図書館展示の工夫②
14	学校図書館の運営	学校図書館展示の工夫③
15	まとめ	学校における学校図書館活用の現状と課題を理解し、図書館運営の心構えをつくる。
16		

科目コード	31401				区 分	コア科目			
授業 科目名	学校図書館メディアの構成				担当者名	木戸 和彦／浅田 栄里子			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

学校図書館は、読書センター・学習センター及び情報センターとしての機能を有している。学校図書館がその機能を十分発揮するためには、学校図書館メディアの構成に関して、収集、組織化、保存、提供などについて司書教諭が理解することが必要である。この授業は学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を図ることを目的とする。また、この科目は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

### <授業の到達目標>

①学校図書館メディアの種類と特性を理解することができる。②学校図書館メディアの選択と収集・構築について理解することができる。③学校図書館メディアの組織化を理解することができる。

### <授業の方法>

基本的には講義形式であるが、「日本十進分類法」「日本目録規則」などは演習形式にて授業を行う。毎回の授業でレポート・課題を出題する。演習ではパソコンを使って資料を作成するので、個人パソコンの持参が必須である。第15回の講義の中で確認テストを実施する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素無

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

シラバスを参考に当日の授業内容を確認し、参考書またはWeb等で予備知識を学習しておくこと（予習30分程度）。毎回の講義時に、レポート課題を出題するので、次回の講義までに自力で解答しておくこと（復習60分程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習状況・受講態度 15%、中間試験 40%、期末レポート試験 45%に基づき評価する。

### <教科書>

### <参考書>

全国学校図書館協議会監修（2017.9.1） 学校図書館必携 悠光堂

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学校図書館メディアの意義	講義ガイダンスを含む
2	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの種類と特性
3	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの選択と情報源（資料の選択、資料収集の方針）
4	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの選択と情報源（収集のための情報源）
5	メディアコレクションの形成	蔵書構築、蔵書評価について
6	学校図書館の責務について	学校図書館の役割について
7	学校図書館メディアの組織化	分類の意義と機能
8	学校図書館メディアの組織化	日本十進分類法について
9	学校図書館メディアの組織化	件名標目表について
10	学校図書館メディアの組織化	日本目録規則について
11	学校図書館メディアの組織化	目録の機械化について
12	学校図書館メディアの組織化	分類と件名作業の実際
13	多様な学習環境とメディアの配置	学校図書館メディアの配置の意義
14	多様な学習環境とメディアの配置	学校図書館メディアの配置の演習
15	まとめ・確認テスト	学校図書館メディアの構成の展望
16		

科目コード	31402				区 分	コア科目			
授業 科目名	学習指導と学校図書館				担当者名	浅田 栄里子			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

学校教育目標の達成のために「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を持つ学校図書館が果たす役割について学ぶとともに、児童生徒の学力における課題を克服するために学校図書館をどのように活用していくかについて実践的に学習を進める。この授業は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

### <授業の到達目標>

司書教諭として学校図書館を活用して行う学習（探究型学習・情報活用能力の育成）等について、指導者の立場として展開する方法を理解することができる。

### <授業の方法>

教科書に基づき授業を進める。毎回課題を提示する。主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有授業内において、グループワークを実施する。5、6人のグループに分かれ、各回の課題についてグループで協力して課題内容を作成しグループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

資料等を用いる授業の前には、あらかじめ資料に目を通しておく。（1時間程度）授業後には本時に学習した内容について、問題を解いたり演習の内容について個人で再度行ったりして学習の定着を図る。（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度30％、レポート・課題30％、最終課題40％により総合的に評価する。

### <教科書>

### <参考書>

「探求 学校図書館学」編集委員会（2020.9.25） 探究 学校図書館学 第3巻 学習指導と学校図書館 全国学校図書館協議会  
文部科学省（2018/2/28） 小学校学習指導要領解説 総則編 東洋館出版社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス・学校教育と学校図書館	学校教育における学校図書館の役割の概要を理解する。
2	学び方の指導の実際1	学校図書館の使い方指導の仕方を理解する。
3	学び方の指導の実際2	図鑑の使い方の指導の仕方を理解する。
4	学び方の指導の実際3	年鑑・百科事典の使い方の指導の仕方を理解する。
5	学び方の指導の実際4	新聞の活用の指導の仕方を理解する。
6	学び方の指導の実際5	インターネットの利用の指導の仕方を理解する。
7	学習指導に生きるブックトーク	ブックトークのやり方とその効用について理解する。
8	学習指導に生きるポップ	ポップの作成方法とその効用について理解する。
9	教科学習における学校図書館の活用1	国語科における学校図書館の活用について理解する。
10	教科学習における学校図書館の活用2	社会科・理科における学校図書館の活用について理解する。
11	総合的な学習の時間と学校図書館	総合的な学習の時間における学校図書館の活用について理解する。
12	学校図書館と合理的配慮	学校教育における合理的配慮の必要性和学校図書館の役割について理解する。
13	司書教諭と学校図書館司書の役割	学習指導における司書教諭と学校図書館司書の役割と連携について理解する。
14	これからの学校図書館の在り方	先進的な学校図書館の事例について理解する。
15	司書教諭が担う役割	学習指導と学校図書館における司書教諭が担う役割について理解する。
16		

科目コード	31403				区 分	コア科目			
授業 科目名	読書と豊かな人間性				担当者名	浅田 栄里子			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

読書は人間形成において重要な意味を持つものであり、思考力の育成、豊かな心の育み、人間性の発達にかけがえのない営みでもある。読書という活動は、学習者自身の主体性の有無によって成立する。そのために校内の読書センターと積極的な読書推進活動の展開により、児童・生徒の読書の活性化を図る必要がある。そこで、本授業では、児童・生徒の発達段階に応じた読書指導や活動の在り方と司書教諭の任務について考察し、基本的な指導および活動の方法の体得を目指す。

### <授業の到達目標>

1. 読書の目的と役割について理解することができる。2. 読書指導の基礎や基本について理解することができる。3. 目的に応じた多様な読書活動について理解を深め、実践することができる。

### <授業の方法>

教科書に基づき授業を進めるが、グループワークや体験的な取り組みも行うので、主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有授業内で、グループワークを実施する。5、6人のグループに分かれ、各回に指定されたテーマについてスライドを作成しグループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前には、クラスルームに掲示された事前課題を提出する。授業後には本時に学習した内容について、事後課題により、問題を解いたり内容について感想を持ったりすることで学習の定着を図る。（1時間程度） また、大学図書館や公共図書館を訪れ、普段から本（特に児童書・YA図書）に親しむようにする。（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度30％、レポート・グループ課題40％、特別課題30％により総合的に評価する。

### <教科書>

### <参考書>

「探究 学校図書館学」編集委員会 探究 学校図書館学4「読書と豊かな人間性」（2020年2月20日発行） 全国学校図書館協議会

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業ガイダンス	講義ガイダンスと人間形成に重要な意味をもつ読書について理解する。
2	読書教育の系譜	日本の読書教育の変遷を理解する。
3	読書指導と学校図書館	学校図書館と学校での読書指導について、法令も含めてその関係性を理解する。
4	子どもの読書環境	子どもの読書の実態と、学校図書館・公共図書館の現状について理解する。
5	発達段階に応じた読書指導	読書能力の発達と、発達段階に応じた読書指導のあり方について、理解する。
6	子どもと本を結ぶための方法1	読み聞かせとブックトーク、ストーリーテリング
7	子どもと本を結ぶための方法2	読書感想文と読書感想画、朝の10分間読書
8	子どもと本を結ぶための方法3	読書へのアニメーションとビブリオバトル
9	子どもと本を結ぶための方法4	読書会とリテラチャーサークル
10	子どもと本を結ぶための方法5	紙芝居と読書集会、読書郵便、POPと本の帯の作成
11	各教科での読書指導・探究的な学習と読書指導	各教科での読書指導・探究的な学習と読書指導について、理解する。
12	読書活動の実例1	小学校、中学校での読書活動例を知り、その在り方を理解する。
13	読書活動の実例2	高等学校、特別支援学校での読書活動例を知り、その在り方を理解する。
14	読書活動の推進と司書教諭・学校司書	司書教諭、学校司書の職務と読書指導の推進について理解する。
15	まとめ	読書についてその役割を理解し、読書指導の基礎基本について実践的な活動としての理解を整理する。
16		

科目コード	31404				区 分	コア科目			
授業 科目名	情報メディアの活用				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

現在の学校教育は、旧来の受動的な学習から、教科を超えた「総合的学習」や児童・生徒自身が情報資料やコンピュータを用いて、あるテーマについて調べて発表する「調べ学習」などの能動的な学習へと移行してきている。そのような現場において、学校図書館は、図書や逐次刊行物を収集、整理し、提供するという従来の機能だけではなく、CDやDVDなどの視聴覚メディア、インターネットやコンピュータなどの情報機器を利用した授業・自習を進めるための総合的なメディアセンターとしての機能も果たすこととなる。それに伴い司書教諭自身も、単なる読書指導の専門家としてだけではなく、様々な情報メディアについての専門家としての役割を期待されている。

### <授業の到達目標>

本講義では、情報メディアを用いた学校教育支援のために、情報機器や情報メディアについての基礎的な知識と技能を身につけることを目的とし、インターネット等の利用を通して情報メディアとは何かを考えていく。また、学校における情報メディアセンターとしての図書館の機能及び司書教諭に求められる能力・役割について理解することを目指す。

### <授業の方法>

印刷教材等で単に知識を得るだけではなく、PCを利用して基礎知識を確認しながら進める。また、講義時に、課題の作成を求めるので、限られた時間内に課題を作成する技術も身に付ける。更に、PCの周辺装置、情報機器、携帯・スマートフォンとの連携等の関連知識とその具体的方法についても合わせて学習していく。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素無

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テキスト用プリントを講義前までに熟読すること（60分程度）。また、毎回の講義時に、演習問題を出题するので、次回講義開始時までに自力で解答できるようにしておくこと（60分程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習状況・受講態度 30%、中間試験 30%、期末レポート試験 40%

### <教科書>

### <参考書>

「シリーズ学校図書館学」編集委員会（2010） シリーズ学校図書館学 第5巻 情報メディアの活用 全国学校図書館協議会

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	情報メディアとは何か	PC動作確認、PC環境設定、USBメモリー確認
2	情報メディアの教育的利用Ⅰ	PCの内部構造
3	情報メディアの教育的利用Ⅱ	ハードウェア
4	情報メディアの教育的利用Ⅲ	ソフトウェア
5	情報メディアの教育的利用Ⅳ	図書館での周辺装置
6	情報メディアと児童生徒の保護・支援Ⅰ	個人情報保護法、知的財産権、著作権法、マナー（ネチケット）、情報モラル
7	情報メディアと児童生徒の保護・支援Ⅱ	学校図書館における法律（学校図書館法第2条）、学校における例外規定、具体的な事例
8	前半のまとめ（PCに関する事項）	コンピュータ概要について
9	WEBページ作成の準備Ⅰ	情報検索、学校図書館のHP閲覧、全国学校図書館協議会HP評価規準、イメージ作成
10	WEBページ作成の準備Ⅱ	HP作成手順説明
11	WEBページ作成の準備Ⅲ	HP作成準備
12	WEBページ作成Ⅰ	オリジナル学校図書館HPの資料収集
13	WEBページ作成Ⅱ	オリジナル学校図書館HPの構成
14	WEBページ作成Ⅲ	学校図書館HPの作成
15	まとめ（講義全体に関する事項）	学校図書館HP作品の仕上げと提出
16		

科目コード	32300				区 分	コア科目			
授業科目名	算数科教育法 [FE2433組用]				担当者名	前田 一誠			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業は、小学校算数科の指導をする際に求められる様々な能力のなかで、算数科の授業づくりや評価及びそれらの実践に関わる基礎的・基本的な力を身につけることを到達目標とする。そのために、算数教育の目的・目標、算数教育の方法、「A数と計算」「B図形」「C測定・変化と関係」「Dデータの活用」という4つの領域ごとの内容とその指導法、算数教育の評価について講義をする。併せて適宜、算数授業のビデオを用いて授業実践力の理解と育成を目指す。

### <授業の到達目標>

①教科書をはじめとする既存教材の意図や展開を把握することができる。②子どもの発達に応じて教材を工夫し、子どもがどのような反応を示すかを具体的に想定した授業を構想し、それらが見えるような指導案を作成することができる。③作成した指導案に基づいて授業を実践する力（評価も含む）基礎的な力を身に付ける。

### <授業の方法>

授業の具体を示す資料等（プロジェクター、授業VTR）に基づいて講義を進める。適宜、演習的な課題を課す。課題・レポート（指導案作成など）も課す。タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教材分析、指導案作成、模擬授業などの演習的な課題を課す。予習：算数科の目標、領域・内容構成、教材探索とその分析、発表準備復習：小テスト、まとめのノート、振り返りレポート

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

応答などの意欲的な受講 20%、レポート・小テスト 30%、定期試験 50%

### <教科書>

編者代表・齋藤昇 『子どもの学びを深める新しい算数科教育法』 東洋館出版社

### <参考書>

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 算数編』 東洋館出版社

田中博史他 『ほめて育てる算数言葉 ～算数授業の言語活動を本当の思考力育成につなぐために～』 文溪堂

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	算数教育の今日的課題	学力問題、興味・関心・意欲の向上等
2	算数教育の目的・目標	算数教育の目的・目標の視点と今日の目標
3	算数科の授業づくり (1)	問題解決的な授業づくりの基本と学習指導案
4	算数科の授業づくり (2)	数学的活動のある授業づくり
5	「A数と計算」領域の指導 (1)	整数・小数・分数の指導
6	「A数と計算」領域の指導 (2)	加法・減法の指導
7	「A数と計算」領域の指導 (3)	乗法・除法、概算と見積りの指導
8	「A数と計算」領域の指導 (4)	ICT機器を活用した、プログラミング的思考を育むための教材とその活用法
9	「B図形」領域の指導 (1)	平面図形、立体図形の指導
10	「B図形」領域の指導 (2)	角、図形の軽量（面積、体積）の指導
11	「C測定」領域の指導 (1)	長さ、重さ・・・等、量の大きさの比較、量の単位、量の測定の指導
12	「C変化と関係」領域の指導 (2)	変化と関係（速さ、割合、比、比例、反比例・・・）の指導
13	「Dデータの活用」領域の指導	表、グラフ、測定値の平均等の指導
14	算数教育の評価	算数科における評価の目的と方法
15	算数教育の特徴ある授業づくり	構成主義的な授業、オープンエンドな授業等
16		

科目コード	32300				区 分	コア科目			
授業科目名	算数科教育法 [FE2431組用]				担当者名	前田 一誠			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業は、小学校算数科の指導をする際に求められる様々な能力のなかで、算数科の授業づくりや評価及びそれらの実践に関わる基礎的・基本的な力を身につけることを到達目標とする。そのために、算数教育の目的・目標、算数教育の方法、「A数と計算」「B図形」「C測定・変化と関係」「Dデータの活用」という4つの領域ごとの内容とその指導法、算数教育の評価について講義をする。併せて適宜、算数授業のビデオを用いて授業実践力の理解と育成を目指す。

### <授業の到達目標>

①教科書をはじめとする既存教材の意図や展開を把握することができる。②子どもの発達に応じて教材を工夫し、子どもがどのような反応を示すかを具体的に想定した授業を構想し、それらが見えるような指導案を作成することができる。③作成した指導案に基づいて授業を実践する力（評価も含む）基礎的な力を身に付ける。

### <授業の方法>

授業の具体を示す資料等（プロジェクター、授業VTR）に基づいて講義を進める。適宜、演習的な課題を課す。課題・レポート（指導案作成など）も課す。タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教材分析、指導案作成、模擬授業などの演習的な課題を課す。予習：算数科の目標、領域・内容構成、教材探索とその分析、発表準備復習：小テスト、まとめのノート、振り返りレポート

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

応答などの意欲的な受講 20%、レポート・小テスト 30%、定期試験 50%

### <教科書>

編者代表・齋藤昇 『子どもの学びを深める新しい算数科教育法』 東洋館出版社

### <参考書>

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 算数編』 東洋館出版社

田中博史他 『ほめて育てる算数言葉 ～算数授業の言語活動を本当の思考力育成につなぐために～』 文溪堂

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	算数教育の今日的課題	学力問題、興味・関心・意欲の向上等
2	算数教育の目的・目標	算数教育の目的・目標の視点と今日の目標
3	算数科の授業づくり (1)	問題解決的な授業づくりの基本と学習指導案
4	算数科の授業づくり (2)	数学的活動のある授業づくり
5	「A数と計算」領域の指導 (1)	整数・小数・分数の指導
6	「A数と計算」領域の指導 (2)	加法・減法の指導
7	「A数と計算」領域の指導 (3)	乗法・除法、概算と見積りの指導
8	「A数と計算」領域の指導 (4)	ICT機器を活用した、プログラミング的思考を育むための教材とその活用法
9	「B図形」領域の指導 (1)	平面図形、立体図形の指導
10	「B図形」領域の指導 (2)	角、図形の軽量（面積、体積）の指導
11	「C測定」領域の指導 (1)	長さ、重さ・・・等、量の大きさの比較、量の単位、量の測定の指導
12	「C変化と関係」領域の指導 (2)	変化と関係（速さ、割合、比、比例、反比例・・・）の指導
13	「Dデータの活用」領域の指導	表、グラフ、測定値の平均等の指導
14	算数教育の評価	算数科における評価の目的と方法
15	算数教育の特徴ある授業づくり	構成主義的な授業、オープンエンドな授業等
16		

科目コード	32300				区 分	コア科目			
授業科目名	算数科教育法 [FE2432組用]				担当者名	前田 一誠			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業は、小学校算数科の指導をする際に求められる様々な能力のなかで、算数科の授業づくりや評価及びそれらの実践に関わる基礎的・基本的な力を身につけることを到達目標とする。そのために、算数教育の目的・目標、算数教育の方法、「A数と計算」「B図形」「C測定・変化と関係」「Dデータの活用」という4つの領域ごとの内容とその指導法、算数教育の評価について講義をする。併せて適宜、算数授業のビデオを用いて授業実践力の理解と育成を目指す。

### <授業の到達目標>

①教科書をはじめとする既存教材の意図や展開を把握することができる。②子どもの発達に応じて教材を工夫し、子どもがどのような反応を示すかを具体的に想定した授業を構想し、それらが見えるような指導案を作成することができる。③作成した指導案に基づいて授業を実践する力（評価も含む）基礎的な力を身に付ける。

### <授業の方法>

授業の具体を示す資料等（プロジェクター、授業VTR）に基づいて講義を進める。適宜、演習的な課題を課す。課題・レポート（指導案作成など）も課す。タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教材分析、指導案作成、模擬授業などの演習的な課題を課す。予習：算数科の目標、領域・内容構成、教材探索とその分析、発表準備復習：小テスト、まとめのノート、振り返りレポート

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

応答などの意欲的な受講 20%、レポート・小テスト 30%、定期試験 50%

### <教科書>

編者代表・齋藤昇 『子どもの学びを深める新しい算数科教育法』 東洋館出版社

### <参考書>

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 算数編』 東洋館出版社

田中博史他 『ほめて育てる算数言葉 ～算数授業の言語活動を本当の思考力育成につなぐために～』 文溪堂

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	算数教育の今日的課題	学力問題、興味・関心・意欲の向上等
2	算数教育の目的・目標	算数教育の目的・目標の視点と今日の目標
3	算数科の授業づくり (1)	問題解決的な授業づくりの基本と学習指導案
4	算数科の授業づくり (2)	数学的活動のある授業づくり
5	「A数と計算」領域の指導 (1)	整数・小数・分数の指導
6	「A数と計算」領域の指導 (2)	加法・減法の指導
7	「A数と計算」領域の指導 (3)	乗法・除法、概算と見積りの指導
8	「A数と計算」領域の指導 (4)	ICT機器を活用した、プログラミング的思考を育むための教材とその活用法
9	「B図形」領域の指導 (1)	平面図形、立体図形の指導
10	「B図形」領域の指導 (2)	角、図形の軽量（面積、体積）の指導
11	「C測定」領域の指導 (1)	長さ、重さ・・・等、量の大きさの比較、量の単位、量の測定の指導
12	「C変化と関係」領域の指導 (2)	変化と関係（速さ、割合、比、比例、反比例・・・）の指導
13	「Dデータの活用」領域の指導	表、グラフ、測定値の平均等の指導
14	算数教育の評価	算数科における評価の目的と方法
15	算数教育の特徴ある授業づくり	構成主義的な授業、オープンエンドな授業等
16		

科目コード	32300				区 分	コア科目			
授業科目名	算数科教育法〔他学科B〕				担当者名	前田 一誠			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業は、小学校算数科の指導をする際に求められる様々な能力のなかで、算数科の授業づくりや評価及びそれらの実践に関わる基礎的・基本的な力を身につけることを到達目標とする。そのために、算数教育の目的・目標、算数教育の方法、「A数と計算」「B図形」「C測定・変化と関係」「Dデータの活用」という4つの領域ごとの内容とその指導法、算数教育の評価について講義をする。併せて適宜、算数授業のビデオを用いて授業実践力の理解と育成を目指す。

### <授業の到達目標>

①教科書をはじめとする既存教材の意図や展開を把握することができる。②子どもの発達に応じて教材を工夫し、子どもがどのような反応を示すかを具体的に想定した授業を構想し、それらが見えるような指導案を作成することができる。③作成した指導案に基づいて授業を実践する力（評価も含む）基礎的な力を身に付ける。

### <授業の方法>

授業の具体を示す資料等（プロジェクター、授業VTR）に基づいて講義を進める。適宜、演習的な課題を課す。課題・レポート（指導案作成など）も課す。タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教材分析、指導案作成、模擬授業などの演習的な課題を課す。予習：算数科の目標、領域・内容構成、教材探索とその分析、発表準備復習：小テスト、まとめのノート、振り返りレポート

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

応答などの意欲的な受講 20%、レポート・小テスト 30%、定期試験 50%

### <教科書>

編者代表・齋藤昇 『子どもの学びを深める新しい算数科教育法』 東洋館出版社

### <参考書>

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 算数編』 東洋館出版社

田中博史他 『ほめて育てる算数言葉 ～算数授業の言語活動を本当の思考力育成につなぐために～』 文溪堂

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	算数教育の今日的課題	学力問題、興味・関心・意欲の向上等
2	算数教育の目的・目標	算数教育の目的・目標の視点と今日の目標
3	算数科の授業づくり（1）	問題解決的な授業づくりの基本と学習指導案
4	算数科の授業づくり（2）	数学的活動のある授業づくり
5	「A数と計算」領域の指導（1）	整数・小数・分数の指導
6	「A数と計算」領域の指導（2）	加法・減法の指導
7	「A数と計算」領域の指導（3）	乗法・除法、概算と見積りの指導
8	「A数と計算」領域の指導（4）	ICT機器を活用した、プログラミング的思考を育むための教材とその活用法
9	「B図形」領域の指導（1）	平面図形、立体図形の指導
10	「B図形」領域の指導（2）	角、図形の軽量（面積、体積）の指導
11	「C測定」領域の指導（1）	長さ、重さ・・・等、量の大きさの比較、量の単位、量の測定の指導
12	「C変化と関係」領域の指導（2）	変化と関係（速さ、割合、比、比例、反比例・・・）の指導
13	「Dデータの活用」領域の指導	表、グラフ、測定値の平均等の指導
14	算数教育の評価	算数科における評価の目的と方法
15	算数教育の特徴ある授業づくり	構成主義的な授業、オープンエンドな授業等
16		

科目コード	32300				区 分	コア科目			
授業科目名	算数科教育法〔他学科A〕				担当者名	前田 一誠			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業は、小学校算数科の指導をする際に求められる様々な能力のなかで、算数科の授業づくりや評価及びそれらの実践に関わる基礎的・基本的な力を身につけることを到達目標とする。そのために、算数教育の目的・目標、算数教育の方法、「A数と計算」「B図形」「C測定・変化と関係」「Dデータの活用」という4つの領域ごとの内容とその指導法、算数教育の評価について講義をする。併せて適宜、算数授業のビデオを用いて授業実践力の理解と育成を目指す。

### <授業の到達目標>

①教科書をはじめとする既存教材の意図や展開を把握することができる。②子どもの発達に応じて教材を工夫し、子どもがどのような反応を示すかを具体的に想定した授業を構想し、それらが見えるような指導案を作成することができる。③作成した指導案に基づいて授業を実践する力（評価も含む）基礎的な力を身に付ける。

### <授業の方法>

授業の具体を示す資料等（プロジェクター、授業VTR）に基づいて講義を進める。適宜、演習的な課題を課す。課題・レポート（指導案作成など）も課す。タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教材分析、指導案作成、模擬授業などの演習的な課題を課す。予習：算数科の目標、領域・内容構成、教材探索とその分析、発表準備復習：小テスト、まとめのノート、振り返りレポート

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

応答などの意欲的な受講 20%、レポート・小テスト 30%、定期試験 50%

### <教科書>

編者代表・齋藤昇 『子どもの学びを深める新しい算数科教育法』 東洋館出版社

### <参考書>

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 算数編』 東洋館出版社

田中博史他 『ほめて育てる算数言葉 ～算数授業の言語活動を本当の思考力育成につなぐために～』 文溪堂

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	算数教育の今日的課題	学力問題、興味・関心・意欲の向上等
2	算数教育の目的・目標	算数教育の目的・目標の視点と今日の目標
3	算数科の授業づくり（1）	問題解決的な授業づくりの基本と学習指導案
4	算数科の授業づくり（2）	数学的活動のある授業づくり
5	「A数と計算」領域の指導（1）	整数・小数・分数の指導
6	「A数と計算」領域の指導（2）	加法・減法の指導
7	「A数と計算」領域の指導（3）	乗法・除法、概算と見積りの指導
8	「A数と計算」領域の指導（4）	ICT機器を活用した、プログラミング的思考を育むための教材とその活用法
9	「B図形」領域の指導（1）	平面図形、立体図形の指導
10	「B図形」領域の指導（2）	角、図形の軽量（面積、体積）の指導
11	「C測定」領域の指導（1）	長さ、重さ・・・等、量の大きさの比較、量の単位、量の測定の指導
12	「C変化と関係」領域の指導（2）	変化と関係（速さ、割合、比、比例、反比例・・・）の指導
13	「Dデータの活用」領域の指導	表、グラフ、測定値の平均等の指導
14	算数教育の評価	算数科における評価の目的と方法
15	算数教育の特徴ある授業づくり	構成主義的な授業、オープンエンドな授業等
16		

科目コード	32301				区 分	コア科目			
授業科目名	社会科教育法 [FE2432組用]				担当者名	鉦 悠介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

選択必修「社会の理解」では、授業作成までのプロセスという大枠を通し、社会科の目標やカリキュラム構成などを含めた大まかな方針を示した。本講義「社会科教育法」でも「社会の理解」と同様に、社会科授業構成の経験と能力の育成を目的とするが、こちらはより多様な社会科の実践のあり方について焦点を当てる。

### <授業の到達目標>

1) 社会科には多様な実践がありつつも、それをいくつかの授業の型によって分類しうることを理解する。2) 授業づくりにおいて、それぞれの型が持つ長所と短所を推測・判断し議論する力を養う。3) 自らの学習経験を交えながら、授業について議論することへの前向きな姿勢と雰囲気を作り出す。

### <授業の方法>

講義, Formsでの回答, スライド作成, グループワーク等。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングあり。グループ内の話し合い, Take a Stand等の自身の見解表明, 教材の収集と取捨選択等, 学習内容に応じた活動を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

小学校社会科の学習指導案を本講義では作成する。そのために必要な準備（授業構成の検討, 学習指導要領の検討, 教材研究, リハーサル等）の時間が必要（週90分程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回のレポート（80%）、最終レポート（20%）学習態度に関連して10%程度の加減を行う。

### <教科書>

なし

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	本講義の目標	本講義の目標・内容を共有する。
2	社会科の目標	社会科の目標について共有する。グループ分けを行う。
3	社会科と「共感」（1）	社会科における「共感」とその授業理論を学ぶ。
4	社会科と「共感」（2）	「共感」させることの可能性と限界について学ぶ。
5	社会科と「暗記」	いわゆる「暗記型」社会科授業と呼ばれる授業について捉え直す。
6	社会科と「調べ学習」	いわゆる「調べ学習」と呼ばれる授業について捉え直す。
7	社会科と「問題解決」（1）	社会科における「問題解決学習」とその授業理論を学ぶ。
8	社会科と「問題解決」（2）	「問題解決学習」の可能性と限界、またこれまでの学習の振り返り。
9	社会科と「参加」	「社会参加」とその授業理論を学ぶ。
10	社会科と「説明」	社会科における「説明」とその授業理論を学ぶ。
11	社会科と「意思決定」	社会科における「意思決定」とその授業理論を学ぶ。
12	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
13	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
14	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
15	模擬授業実践	模擬授業を実践し、その振り返りを行う。
16		

科目コード	32301				区 分	コア科目			
授業科目名	社会科教育法 [FE2433組用]				担当者名	鉦 悠介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

選択必修「社会の理解」では、授業作成までのプロセスという大枠を通し、社会科の目標やカリキュラム構成などを含めた大まかな方針を示した。本講義「社会科教育法」でも「社会の理解」と同様に、社会科授業構成の経験と能力の育成を目的とするが、こちらはより多様な社会科の実践のあり方について焦点を当てる。

### <授業の到達目標>

1) 社会科には多様な実践がありつつも、それをいくつかの授業の型によって分類しうることを理解する。2) 授業づくりにおいて、それぞれの型が持つ長所と短所を推測・判断し議論する力を養う。3) 自らの学習経験を交えながら、授業について議論することへの前向きな姿勢と雰囲気を作り出す。

### <授業の方法>

講義, Formsでの回答, スライド作成, グループワーク等。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングあり。グループ内の話し合い, Take a Stand等の自身の見解表明, 教材の収集と取捨選択等, 学習内容に応じた活動を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

小学校社会科の学習指導案を本講義では作成する。そのために必要な準備（授業構成の検討, 学習指導要領の検討, 教材研究, リハーサル等）の時間が必要（週90分程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回のレポート（80%）、最終レポート（20%）学習態度に関連して10%程度の加減を行う。

### <教科書>

なし

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	本講義の目標	本講義の目標・内容を共有する。
2	社会科の目標	社会科の目標について共有する。グループ分けを行う。
3	社会科と「共感」（1）	社会科における「共感」とその授業理論を学ぶ。
4	社会科と「共感」（2）	「共感」させることの可能性と限界について学ぶ。
5	社会科と「暗記」	いわゆる「暗記型」社会科授業と呼ばれる授業について捉え直す。
6	社会科と「調べ学習」	いわゆる「調べ学習」と呼ばれる授業について捉え直す。
7	社会科と「問題解決」（1）	社会科における「問題解決学習」とその授業理論を学ぶ。
8	社会科と「問題解決」（2）	「問題解決学習」の可能性と限界、またこれまでの学習の振り返り。
9	社会科と「参加」	「社会参加」とその授業理論を学ぶ。
10	社会科と「説明」	社会科における「説明」とその授業理論を学ぶ。
11	社会科と「意思決定」	社会科における「意思決定」とその授業理論を学ぶ。
12	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
13	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
14	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
15	模擬授業実践	模擬授業を実践し、その振り返りを行う。
16		

科目コード	32301				区 分	コア科目			
授業科目名	社会科教育法 [FE2431組用]				担当者名	鉦 悠介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

選択必修「社会の理解」では、授業作成までのプロセスという大枠を通し、社会科の目標やカリキュラム構成などを含めた大まかな方針を示した。本講義「社会科教育法」でも「社会の理解」と同様に、社会科授業構成の経験と能力の育成を目的とするが、こちらはより多様な社会科の実践のあり方について焦点を当てる。

#### <授業の到達目標>

1) 社会科には多様な実践がありつつも、それをいくつかの授業の型によって分類しうることを理解する。2) 授業づくりにおいて、それぞれの型が持つ長所と短所を推測・判断し議論する力を養う。3) 自らの学習経験を交えながら、授業について議論することへの前向きな姿勢と雰囲気を作り出す。

#### <授業の方法>

講義, Formsでの回答, スライド作成, グループワーク等。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングあり。グループ内の話し合い, Take a Stand等の自身の見解表明, 教材の収集と取捨選択等, 学習内容に応じた活動を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

小学校社会科の学習指導案を本講義では作成する。そのために必要な準備（授業構成の検討, 学習指導要領の検討, 教材研究, リハーサル等）の時間が必要（週90分程度）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回のレポート（80%）、最終レポート（20%）学習態度に関連して10%程度の加減を行う。

#### <教科書>

なし

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	本講義の目標	本講義の目標・内容を共有する。
2	社会科の目標	社会科の目標について共有する。グループ分けを行う。
3	社会科と「共感」（1）	社会科における「共感」とその授業理論を学ぶ。
4	社会科と「共感」（2）	「共感」させることの可能性と限界について学ぶ。
5	社会科と「暗記」	いわゆる「暗記型」社会科授業と呼ばれる授業について捉え直す。
6	社会科と「調べ学習」	いわゆる「調べ学習」と呼ばれる授業について捉え直す。
7	社会科と「問題解決」（1）	社会科における「問題解決学習」とその授業理論を学ぶ。
8	社会科と「問題解決」（2）	「問題解決学習」の可能性と限界、またこれまでの学習の振り返り。
9	社会科と「参加」	「社会参加」とその授業理論を学ぶ。
10	社会科と「説明」	社会科における「説明」とその授業理論を学ぶ。
11	社会科と「意思決定」	社会科における「意思決定」とその授業理論を学ぶ。
12	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
13	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
14	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
15	模擬授業実践	模擬授業を実践し、その振り返りを行う。
16		

科目コード	32301				区 分	コア科目			
授業 科目名	社会科教育法〔他学科A〕				担当者名	鉦 悠介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

選択必修「社会の理解」では、授業作成までのプロセスという大枠を通し、社会科の目標やカリキュラム構成などを含めた大まかな方針を示した。本講義「社会科教育法」でも「社会の理解」と同様に、社会科授業構成の経験と能力の育成を目的とするが、こちらはより多様な社会科の実践のあり方について焦点を当てる。

### <授業の到達目標>

1) 社会科には多様な実践がありつつも、それをいくつかの授業の型によって分類しうることを理解する。2) 授業づくりにおいて、それぞれの型が持つ長所と短所を推測・判断し議論する力を養う。3) 自らの学習経験を交えながら、授業について議論することへの前向きな姿勢と雰囲気を作り出す。

### <授業の方法>

講義，Formsでの回答，スライド作成，グループワーク等。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングあり。グループ内の話し合い，Take a Stand等の自身の見解表明，教材の収集と取捨選択等，学習内容に応じた活動を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

小学校社会科の学習指導案を本講義では作成する。そのために必要な準備（授業構成の検討，学習指導要領の検討，教材研究，リハーサル等）の時間が必要（週90分程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回のレポート（80%），最終レポート（20%）学習態度に関連して10%程度の加減を行う。

### <教科書>

なし

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	本講義の目標	本講義の目標・内容を共有する。
2	社会科の目標	社会科の目標について共有する。グループ分けを行う。
3	社会科と「共感」（1）	社会科における「共感」とその授業理論を学ぶ。
4	社会科と「共感」（2）	「共感」させることの可能性と限界について学ぶ。
5	社会科と「暗記」	いわゆる「暗記型」社会科授業と呼ばれる授業について捉え直す。
6	社会科と「調べ学習」	いわゆる「調べ学習」と呼ばれる授業について捉え直す。
7	社会科と「問題解決」（1）	社会科における「問題解決学習」とその授業理論を学ぶ。
8	社会科と「問題解決」（2）	「問題解決学習」の可能性と限界，またこれまでの学習の振り返り。
9	社会科と「参加」	「社会参加」とその授業理論を学ぶ。
10	社会科と「説明」	社会科における「説明」とその授業理論を学ぶ。
11	社会科と「意思決定」	社会科における「意思決定」とその授業理論を学ぶ。
12	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
13	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
14	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
15	模擬授業実践	模擬授業を実践し，その振り返りを行う。
16		

科目コード	32301				区 分	コア科目			
授業科目名	社会科教育法 [他学科B]				担当者名	鉦 悠介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

選択必修「社会の理解」では、授業作成までのプロセスという大枠を通し、社会科の目標やカリキュラム構成などを含めた大まかな方針を示した。本講義「社会科教育法」でも「社会の理解」と同様に、社会科授業構成の経験と能力の育成を目的とするが、こちらはより多様な社会科の実践のあり方について焦点を当てる。

### <授業の到達目標>

1) 社会科には多様な実践がありつつも、それをいくつかの授業の型によって分類しうることを理解する。2) 授業づくりにおいて、それぞれの型が持つ長所と短所を推測・判断し議論する力を養う。3) 自らの学習経験を交えながら、授業について議論することへの前向きな姿勢と雰囲気を作り出す。

### <授業の方法>

講義, Formsでの回答, スライド作成, グループワーク等。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングあり。グループ内の話し合い, Take a Stand等の自身の見解表明, 教材の収集と取捨選択等, 学習内容に応じた活動を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

小学校社会科の学習指導案を本講義では作成する。そのために必要な準備（授業構成の検討, 学習指導要領の検討, 教材研究, リハーサル等）の時間が必要（週90分程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回のレポート（80%）、最終レポート（20%）学習態度に関連して10%程度の加減を行う。

### <教科書>

なし

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	本講義の目標	本講義の目標・内容を共有する。
2	社会科の目標	社会科の目標について共有する。グループ分けを行う。
3	社会科と「共感」（1）	社会科における「共感」とその授業理論を学ぶ。
4	社会科と「共感」（2）	「共感」させることの可能性と限界について学ぶ。
5	社会科と「暗記」	いわゆる「暗記型」社会科授業と呼ばれる授業について捉え直す。
6	社会科と「調べ学習」	いわゆる「調べ学習」と呼ばれる授業について捉え直す。
7	社会科と「問題解決」（1）	社会科における「問題解決学習」とその授業理論を学ぶ。
8	社会科と「問題解決」（2）	「問題解決学習」の可能性と限界、またこれまでの学習の振り返り。
9	社会科と「参加」	「社会参加」とその授業理論を学ぶ。
10	社会科と「説明」	社会科における「説明」とその授業理論を学ぶ。
11	社会科と「意思決定」	社会科における「意思決定」とその授業理論を学ぶ。
12	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
13	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
14	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
15	模擬授業実践	模擬授業を実践し、その振り返りを行う。
16		

科目コード	32303				区 分	コア科目			
授業科目名	音楽科教育法 [FE2332組用]				担当者名	安久津 太一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

学習指導要領に示された音楽科の学習内容について、背景となる学問領域や国内外の動向と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を会得する。毎回の授業では、探求的、協同的な音楽活動や演習を取り入れるが、個人の音楽経験や音楽の得意不得意は一切問わない。音楽を通した、主体的、対話的で深い学びの関わり合いを共創する。

### <授業の到達目標>

・学習指導要領に示された音楽科の目標及び内容を理解することができる。・音楽授業を行う上で必要となる、基礎的な知識、技能を身につけることができる。・音楽科の基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。

### <授業の方法>

・グループワークを中心とする協同的な学びを日常的に取り入れる。・問題開発及び解決型の探求的な学びを随時取り入れる。・座学や机上の理論に依存せず、主体的、協同的に誰もが参加可能な音楽活動を積極的に取り入れる。・音楽を含むプレゼンテーション及びディスカッションを日常的に取り入れる。・情報通信技術を用いた参加協同型音楽活動を導入する。・動画等を用いた音楽の知識、技能面の学習支援を適宜実施する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では以下のアクティブ・ラーニングを導入している。・グループワークを中心とする協同的な学びを日常的に取り入れる。・問題開発及び解決型の探求的な学びを随時取り入れる。・座学や机上の理論に依存せず、主体的、協同的に誰もが参加可能な音楽活動を積極的に取り入れる。・音楽を含むプレゼンテーション及びディスカッションを日常的に取り入れる。・情報通信技術を用いた参加協同型音楽活動を導入する。・動画等を用いた音楽の知識、技能面の学習支援を適宜実施する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・第2回、第3回：本授業の教科書及び音楽科教科書等の講読を通し、小学校音楽科の全体像を理解する。・第4回～7回：教科書及び映像資料等を通して、領域別に音楽科の学習内容と指導方法を理解する。・第8回、11回：関連論文等の講読を通して、研究的、発展的、横断的に学習指導の方法について理解を深める。・第9回、10回、12～14回：実際の授業を想定した授業の立案、構想、準備を行う。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・学習指導案と模擬授業の振り返りを含むレポート課題(40%)（課題にはコメントを付してフィードバックを行う。）・教材研究を中心としたレポート課題(20%)（課題にはコメントを付してフィードバックを行う。）・リコーダーを含む器楽の実技課題(20%)（実施後口頭でのアドバイスによりフィードバックを行う。）・プレゼンテーション及びディスカッション(20%)（実施後口頭でのアドバイスによりフィードバックを行う。）

### <教科書>

初等科音楽教育研究会編（2019年） 小学校教員養成課程最新初等科音楽教育法 音楽之友社  
文部科学省 小学校学習指導要領解説音楽編 東洋館出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要及びシラバス内容の説明に続き、小学校音楽科の意義を活動を通して体験的に理解する。
2	小学校音楽科の教育課程と学習指導要領	小学校音楽科の教育課程に関して学習指導要領に示された目標、内容及び全体構造を理解する。
3	音楽科の目標と音楽学習の評価の関連	学習指導要領に示された音楽科の目標と、学習評価のつながりについて理解する。
4	鑑賞の学習内容と指導上の留意点	我が国の音楽を含む世界の音楽に照準をあてた鑑賞の学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
5	音楽づくりの学習内容と指導上の留意点	様々な音階と即興、電子テクノロジーを含む音楽づくりの学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
6	歌唱の学習内容と指導上の留意点	わらべ歌や歌唱共通教材、独唱や合唱を含む歌唱の学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。

7	器楽の学習内容と指導上の留意点	リコーダーに加え伝統楽器や電子テクノロジーを含む器楽の学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
8	音楽科の今日的課題	児童の発達、個別のニーズ、文化、生活や地域社会の変化をふまえた音楽科の学習との連関について検討する。
9	音楽科の学習指導計画	音楽科の題材の構成や学習指導案の作成を通して、具体的な授業を想定した授業設計を行う。
10	教材研究と教材づくり	情報通信技術や我が国を含む世界の伝統音楽等多様な教材の活用を含む教材研究と教材づくりを行う。
11	音楽科の国際的動向及び研究と実践の連関	音楽教育関連の最新の研究動向を知り、授業設計の向上に取り組む。
12	低学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
13	中学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
14	高学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
15	まとめ	講義全体のまとめと全体の振り返りを行う。
16		

科目コード	32303				区 分	コア科目			
授業科目名	音楽科教育法 [FE2331組用]				担当者名	安久津 太一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

学習指導要領に示された音楽科の学習内容について、背景となる学問領域や国内外の動向と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を会得する。毎回の授業では、探求的、協同的な音楽活動や演習を取り入れるが、個人の音楽経験や音楽の得意不得意は一切問わない。音楽を通した、主体的、対話的で深い学びの関わり合いを共創する。

### <授業の到達目標>

・学習指導要領に示された音楽科の目標及び内容を理解することができる。・音楽授業を行う上で必要となる、基礎的な知識、技能を身につけることができる。・音楽科の基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行うことができる。

### <授業の方法>

・グループワークを中心とする協同的な学びを日常的に取り入れる。・問題開発及び解決型の探求的な学びを随時取り入れる。・座学や机上の理論に依存せず、主体的、協同的に誰もが参加可能な音楽活動を積極的に取り入れる。・音楽を含むプレゼンテーション及びディスカッションを日常的に取り入れる。・情報通信技術を用いた参加協同型音楽活動を導入する。・動画等を用いた音楽の知識、技能面の学習支援を適宜実施する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では以下のアクティブ・ラーニングを導入している。・グループワークを中心とする協同的な学びを日常的に取り入れる。・問題開発及び解決型の探求的な学びを随時取り入れる。・座学や机上の理論に依存せず、主体的、協同的に誰もが参加可能な音楽活動を積極的に取り入れる。・音楽を含むプレゼンテーション及びディスカッションを日常的に取り入れる。・情報通信技術を用いた参加協同型音楽活動を導入する。・動画等を用いた音楽の知識、技能面の学習支援を適宜実施する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・第2回、第3回：本授業の教科書及び音楽科教科書等の講読を通し、小学校音楽科の全体像を理解する。・第4回～7回：教科書及び映像資料等を通して、領域別に音楽科の学習内容と指導方法を理解する。・第8回、11回：関連論文等の講読を通して、研究的、発展的、横断的に学習指導の方法について理解を深める。・第9回、10回、12～14回：実際の授業を想定した授業の立案、構想、準備を行う。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・学習指導案と模擬授業の振り返りを含むレポート課題(40%)（課題にはコメントを付してフィードバックを行う。）・教材研究を中心としたレポート課題(20%)（課題にはコメントを付してフィードバックを行う。）・リコーダーを含む器楽の実技課題(20%)（実施後口頭でのアドバイスによりフィードバックを行う。）・プレゼンテーション及びディスカッション(20%)（実施後口頭でのアドバイスによりフィードバックを行う。）

### <教科書>

初等科音楽教育研究会編（2019年） 小学校教員養成課程最新初等科音楽教育法 音楽之友社  
文部科学省 小学校学習指導要領解説音楽編 東洋館出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要及びシラバス内容の説明に続き、小学校音楽科の意義を活動を通して体験的に理解する。
2	小学校音楽科の教育課程と学習指導要領	小学校音楽科の教育課程に関して学習指導要領に示された目標、内容及び全体構造を理解する。
3	音楽科の目標と音楽学習の評価の関連	学習指導要領に示された音楽科の目標と、学習評価のつながりについて理解する。
4	鑑賞の学習内容と指導上の留意点	我が国の音楽を含む世界の音楽に照準をあてた鑑賞の学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
5	音楽づくりの学習内容と指導上の留意点	様々な音階と即興、電子テクノロジーを含む音楽づくりの学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
6	歌唱の学習内容と指導上の留意点	わらべ歌や歌唱共通教材、独唱や合唱を含む歌唱の学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。

7	器楽の学習内容と指導上の留意点	リコーダーに加え伝統楽器や電子テクノロジーを含む器楽の学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
8	音楽科の今日的課題	児童の発達、個別のニーズ、文化、生活や地域社会の変化をふまえた音楽科の学習との連関について検討する。
9	音楽科の学習指導計画	音楽科の題材の構成や学習指導案の作成を通して、具体的な授業を想定した授業設計を行う。
10	教材研究と教材づくり	情報通信技術や我が国を含む世界の伝統音楽等多様な教材の活用を含む教材研究と教材づくりを行う。
11	音楽科の国際的動向及び研究と実践の連関	音楽教育関連の最新の研究動向を知り、授業設計の向上に取り組む。
12	低学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
13	中学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
14	高学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
15	まとめ	講義全体のまとめと全体の振り返りを行う。
16		

科目コード	32303				区 分	コア科目			
授業科目名	音楽科教育法 [FE2333組用]				担当者名	安久津 太一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

学習指導要領に示された音楽科の学習内容について、背景となる学問領域や国内外の動向と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を会得する。毎回の授業では、探求的、協同的な音楽活動や演習を取り入れるが、個人の音楽経験や音楽の得意不得意は一切問わない。音楽を通した、主体的、対話的で深い学びの関わり合いを共創する。

### <授業の到達目標>

・学習指導要領に示された音楽科の目標及び内容を理解することができる。・音楽授業を行う上で必要となる、基礎的な知識、技能を身につけることができる。・音楽科の基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。

### <授業の方法>

・グループワークを中心とする協同的な学びを日常的に取り入れる。・問題開発及び解決型の探求的な学びを随時取り入れる。・座学や机上の理論に依存せず、主体的、協同的に誰もが参加可能な音楽活動を積極的に取り入れる。・音楽を含むプレゼンテーション及びディスカッションを日常的に取り入れる。・情報通信技術を用いた参加協同型音楽活動を導入する。・動画等を用いた音楽の知識、技能面の学習支援を適宜実施する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では以下のアクティブ・ラーニングを導入している。・グループワークを中心とする協同的な学びを日常的に取り入れる。・問題開発及び解決型の探求的な学びを随時取り入れる。・座学や机上の理論に依存せず、主体的、協同的に誰もが参加可能な音楽活動を積極的に取り入れる。・音楽を含むプレゼンテーション及びディスカッションを日常的に取り入れる。・情報通信技術を用いた参加協同型音楽活動を導入する。・動画等を用いた音楽の知識、技能面の学習支援を適宜実施する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・第2回、第3回：本授業の教科書及び音楽科教科書等の講読を通し、小学校音楽科の全体像を理解する。・第4回～7回：教科書及び映像資料等を通して、領域別に音楽科の学習内容と指導方法を理解する。・第8回、11回：関連論文等の講読を通して、研究的、発展的、横断的に学習指導の方法について理解を深める。・第9回、10回、12～14回：実際の授業を想定した授業の立案、構想、準備を行う。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・学習指導案と模擬授業の振り返りを含むレポート課題(40%)（課題にはコメントを付してフィードバックを行う。）・教材研究を中心としたレポート課題(20%)（課題にはコメントを付してフィードバックを行う。）・リコーダーを含む器楽の実技課題(20%)（実施後口頭でのアドバイスによりフィードバックを行う。）・プレゼンテーション及びディスカッション(20%)（実施後口頭でのアドバイスによりフィードバックを行う。）

### <教科書>

初等科音楽教育研究会編（2019年） 小学校教員養成課程最新初等科音楽教育法 音楽之友社  
文部科学省 小学校学習指導要領解説音楽編 東洋館出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要及びシラバス内容の説明に続き、小学校音楽科の意義を活動を通して体験的に理解する。
2	小学校音楽科の教育課程と学習指導要領	小学校音楽科の教育課程に関して学習指導要領に示された目標、内容及び全体構造を理解する。
3	音楽科の目標と音楽学習の評価の関連	学習指導要領に示された音楽科の目標と、学習評価のつながりについて理解する。
4	鑑賞の学習内容と指導上の留意点	我が国の音楽を含む世界の音楽に照準をあてた鑑賞の学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
5	音楽づくりの学習内容と指導上の留意点	様々な音階と即興、電子テクノロジーを含む音楽づくりの学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
6	歌唱の学習内容と指導上の留意点	わらべ歌や歌唱共通教材、独唱や合唱を含む歌唱の学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。

7	器楽の学習内容と指導上の留意点	リコーダーに加え伝統楽器や電子テクノロジーを含む器楽の学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
8	音楽科の今日的課題	児童の発達、個別のニーズ、文化、生活や地域社会の変化をふまえた音楽科の学習との連関について検討する。
9	音楽科の学習指導計画	音楽科の題材の構成や学習指導案の作成を通して、具体的な授業を想定した授業設計を行う。
10	教材研究と教材づくり	情報通信技術や我が国を含む世界の伝統音楽等多様な教材の活用を含む教材研究と教材づくりを行う。
11	音楽科の国際的動向及び研究と実践の連関	音楽教育関連の最新の研究動向を知り、授業設計の向上に取り組む。
12	低学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
13	中学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
14	高学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
15	まとめ	講義全体のまとめと全体の振り返りを行う。
16		

科目コード	32303				区 分	コア科目			
授業科目名	音楽科教育法〔他学科用〕				担当者名	安久津 太一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

学習指導要領に示された音楽科の学習内容について、背景となる学問領域や国内外の動向と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を会得する。毎回の授業では、探求的、協同的な音楽活動や演習を取り入れるが、個人の音楽経験や音楽の得意不得意は一切問わない。音楽を通した、主体的、対話的で深い学びの関わり合いを共創する。

### <授業の到達目標>

・学習指導要領に示された音楽科の目標及び内容を理解することができる。・音楽授業を行う上で必要となる、基礎的な知識、技能を身につけることができる。・音楽科の基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行うことができる。

### <授業の方法>

・グループワークを中心とする協同的な学びを日常的に取り入れる。・問題開発及び解決型の探求的な学びを随時取り入れる。・座学や机上の理論に依存せず、主体的、協同的に誰もが参加可能な音楽活動を積極的に取り入れる。・音楽を含むプレゼンテーション及びディスカッションを日常的に取り入れる。・情報通信技術を用いた参加協同型音楽活動を導入する。・動画等を用いた音楽の知識、技能面の学習支援を適宜実施する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では以下のアクティブ・ラーニングを導入している。・グループワークを中心とする協同的な学びを日常的に取り入れる。・問題開発及び解決型の探求的な学びを随時取り入れる。・座学や机上の理論に依存せず、主体的、協同的に誰もが参加可能な音楽活動を積極的に取り入れる。・音楽を含むプレゼンテーション及びディスカッションを日常的に取り入れる。・情報通信技術を用いた参加協同型音楽活動を導入する。・動画等を用いた音楽の知識、技能面の学習支援を適宜実施する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・第2回、第3回：本授業の教科書及び音楽科教科書等の講読を通し、小学校音楽科の全体像を理解する。・第4回～7回：教科書及び映像資料等を通して、領域別に音楽科の学習内容と指導方法を理解する。・第8回、11回：関連論文等の講読を通して、研究的、発展的、横断的に学習指導の方法について理解を深める。・第9回、10回、12～14回：実際の授業を想定した授業の立案、構想、準備を行う。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・学習指導案と模擬授業の振り返りを含むレポート課題(40%)（課題にはコメントを付してフィードバックを行う。）・教材研究を中心としたレポート課題(20%)（課題にはコメントを付してフィードバックを行う。）・リコーダーを含む器楽の実技課題(20%)（実施後口頭でのアドバイスによりフィードバックを行う。）・プレゼンテーション及びディスカッション(20%)（実施後口頭でのアドバイスによりフィードバックを行う。）

### <教科書>

初等科音楽教育研究会編（2019年） 小学校教員養成課程最新初等科音楽教育法 音楽之友社  
文部科学省 小学校学習指導要領解説音楽編 東洋館出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要及びシラバス内容の説明に続き、小学校音楽科の意義を活動を通して体験的に理解する。
2	小学校音楽科の教育課程と学習指導要領	小学校音楽科の教育課程に関して学習指導要領に示された目標、内容及び全体構造を理解する。
3	音楽科の目標と音楽学習の評価の関連	学習指導要領に示された音楽科の目標と、学習評価のつながりについて理解する。
4	鑑賞の学習内容と指導上の留意点	我が国の音楽を含む世界の音楽に照準をあてた鑑賞の学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
5	音楽づくりの学習内容と指導上の留意点	様々な音階と即興、電子テクノロジーを含む音楽づくりの学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
6	歌唱の学習内容と指導上の留意点	わらべ歌や歌唱共通教材、独唱や合唱を含む歌唱の学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。

7	器楽の学習内容と指導上の留意点	リコーダーに加え伝統楽器や電子テクノロジーを含む器楽の学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
8	音楽科の今日的課題	児童の発達、個別のニーズ、文化、生活や地域社会の変化をふまえた音楽科の学習との連関について検討する。
9	音楽科の学習指導計画	音楽科の題材の構成や学習指導案の作成を通して、具体的な授業を想定した授業設計を行う。
10	教材研究と教材づくり	情報通信技術や我が国を含む世界の伝統音楽等多様な教材の活用を含む教材研究と教材づくりを行う。
11	音楽科の国際的動向及び研究と実践の連関	音楽教育関連の最新の研究動向を知り、授業設計の向上に取り組む。
12	低学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
13	中学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
14	高学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
15	まとめ	講義全体のまとめと全体の振り返りを行う。
16		

科目コード	32304				区 分	コア科目			
授業科目名	国語科教育法 [他学科A]				担当者名	小川 智勢子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

1 小学校国語科における「知識及び技能」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の主な学習内容を講義する。2 国語科教材等に基づき、児童の発達段階に即した授業を構想する。3 履修する場合、講義に次の物を用意してください。①横書きA4判ノート（1行6mm幅）②濃い文字の書ける鉛筆かシャープペン③テキスト2冊④A4サイズ400字詰ヨコ原稿用紙④のり

#### <授業の到達目標>

1 小学校国語科の主な学習内容と指導上の留意点を理解する。2 領域別の主な国語科の指導方法と授業構想の実践を理解する。3 授業構想等に関し、自分の考えを表現する。

#### <授業の方法>

1 教科書や配布資料を使用し、講義を実施する。2 音読・視写・筆順など、国語科の基礎となる学習を実際に課題として行う。3 教科書や資料等の要約、教材等への自分の考えを報告する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

1 課題によって、4～5人のグループに分かれて話し合い、意見をまとめて発表する。2 毎回、順番で感想を発表する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 事前課題への取り組み（1時間）2 授業後における学びの振り返り及び発展学習（1時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度40％、レポート・課題60％により総合的に評価する。

#### <教科書>

長谷川祥子編著 はじめて学ぶ人のための国語科教育学概説 明治図書  
江守賢治 正しくきれいな字を書くための 漢字筆順ハンドブック【第4版】 三省堂

#### <参考書>

文部科学省（2018/2/28） 小学校学習指導要領解説 国語編 東洋館出版社

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	国語科教育の全体像	講義の概要や成績評価方法等を知る。国語教育と国語科教育の違いを理解する。
2	国語科教育と言葉の働き	『小学校学習指導要領解説 国語編』の目標と領域、詩の言葉と論理の言葉
3	論理的文章を「読むこと」の指導 1	小学校低・中学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
4	論理的文章を「読むこと」の指導 2	小学校高学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
5	「書くこと」（基礎・基本）の指導	「書くこと」（基礎・基本）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
6	「書くこと」（発展）の指導	「書くこと」（発展）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
7	「話すこと・聞くこと」の指導	「話すこと・聞くこと」の指導内容・ポイントを理解する。
8	文学的文章（物語）を「読むこと」の指導	文学的文章（物語）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
9	文学的文章（詩）を「読むこと」の指導	文学的文章（詩）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
10	「知識及び技能」	「知識及び技能」について、教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
11	授業記録の取り方	授業記録の取り方等を知り、今後の授業実践に向けて自分の考えをもつ。
12	指導案の書き方と模擬授業	教材研究の方法、指導案の書き方を知る。
13	模擬授業・授業記録 1	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
14	模擬授業・授業記録 2	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
15	国語科学習指導における評価と指導の一	国語科教育法のまとめ（学習評価を視点として）及び小学校国語教師としての心構え

16	体化と総括（まとめ）	をもつ。
----	------------	------

科目コード	32304				区 分	コア科目			
授業科目名	国語科教育法〔他学科B〕				担当者名	小川 智勢子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

1 小学校国語科における「知識及び技能」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の主な学習内容を講義する。2 国語科教材等に基づき、児童の発達段階に即した授業を構想する。3 履修する場合、講義に次の物を用意してください。①横書きA4判ノート（1行6mm幅）②濃い文字の書ける鉛筆かシャープペン③テキスト2冊④A4サイズ400字詰ヨコ原稿用紙④のり

#### <授業の到達目標>

1 小学校国語科の主な学習内容と指導上の留意点を理解する。2 領域別の主な国語科の指導方法と授業構想の実践を理解する。3 授業構想等に関し、自分の考えを表現する。

#### <授業の方法>

1 教科書や配布資料を使用し、講義を実施する。2 音読・視写・筆順など、国語科の基礎となる学習を実際に課題として行う。3 教科書や資料等の要約、教材等への自分の考えを報告する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

1 課題によって、4～5人のグループに分かれて話し合い、意見をまとめて発表する。2 毎回、順番で感想を発表する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 事前課題への取り組み（1時間）2 授業後における学びの振り返り及び発展学習（1時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度40％、レポート・課題60％により総合的に評価する。

#### <教科書>

長谷川祥子編著 はじめて学ぶ人のための国語科教育学概説 明治図書  
江守賢治 正しくきれいな字を書くための 漢字筆順ハンドブック【第4版】 三省堂

#### <参考書>

文部科学省（2018/2/28） 小学校学習指導要領解説 国語編 東洋館出版社

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	国語科教育の全体像	講義の概要や成績評価方法等を知る。国語教育と国語科教育の違いを理解する。
2	国語科教育と言葉の働き	『小学校学習指導要領解説 国語編』の目標と領域、詩の言葉と論理の言葉
3	論理的文章を「読むこと」の指導 1	小学校低・中学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
4	論理的文章を「読むこと」の指導 2	小学校高学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
5	「書くこと」（基礎・基本）の指導	「書くこと」（基礎・基本）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
6	「書くこと」（発展）の指導	「書くこと」（発展）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
7	「話すこと・聞くこと」の指導	「話すこと・聞くこと」の指導内容・ポイントを理解する。
8	文学的文章（物語）を「読むこと」の指導	文学的文章（物語）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
9	文学的文章（詩）を「読むこと」の指導	文学的文章（詩）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
10	「知識及び技能」	「知識及び技能」について、教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
11	授業記録の取り方	授業記録の取り方等を知り、今後の授業実践に向けて自分の考えをもつ。
12	指導案の書き方と模擬授業	教材研究の方法、指導案の書き方を知る。
13	模擬授業・授業記録 1	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
14	模擬授業・授業記録 2	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
15	国語科学習指導における評価と指導の一	国語科教育法のまとめ（学習評価を視点として）及び小学校国語教師としての心構え

16	体化と総括（まとめ）	をもつ。
----	------------	------

科目コード	32304				区 分	コア科目			
授業科目名	国語科教育法 [FE2432組用]				担当者名	小川 智勢子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

1 小学校国語科における「知識及び技能」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の主な学習内容を講義する。2 国語科教材等に基づき、児童の発達段階に即した授業を構想する。3 履修する場合、講義に次の物を用意してください。①横書きA4判ノート（1行6mm幅）②濃い文字の書ける鉛筆かシャープペン③テキスト2冊④A4サイズ400字詰ヨコ原稿用紙④のり

#### <授業の到達目標>

1 小学校国語科の主な学習内容と指導上の留意点を理解する。2 領域別の主な国語科の指導方法と授業構想の実践を理解する。3 授業構想等に関し、自分の考えを表現する。

#### <授業の方法>

1 教科書や配布資料を使用し、講義を実施する。2 音読・視写・筆順など、国語科の基礎となる学習を実際に課題として行う。3 教科書や資料等の要約、教材等への自分の考えを報告する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

1 課題によって、4～5人のグループに分かれて話し合い、意見をまとめて発表する。2 毎回、順番で感想を発表する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 事前課題への取り組み（1時間）2 授業後における学びの振り返り及び発展学習（1時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度40％、レポート・課題60％により総合的に評価する。

#### <教科書>

長谷川祥子編著 はじめて学ぶ人のための国語科教育学概説 明治図書  
江守賢治 正しくきれいな字を書くための 漢字筆順ハンドブック【第4版】 三省堂

#### <参考書>

文部科学省（2018/2/28） 小学校学習指導要領解説 国語編 東洋館出版社

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	国語科教育の全体像	講義の概要や成績評価方法等を知る。国語教育と国語科教育の違いを理解する。
2	国語科教育と言葉の働き	『小学校学習指導要領解説 国語編』の目標と領域、詩の言葉と論理の言葉
3	論理的文章を「読むこと」の指導 1	小学校低・中学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
4	論理的文章を「読むこと」の指導 2	小学校高学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
5	「書くこと」（基礎・基本）の指導	「書くこと」（基礎・基本）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
6	「書くこと」（発展）の指導	「書くこと」（発展）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
7	「話すこと・聞くこと」の指導	「話すこと・聞くこと」の指導内容・ポイントを理解する。
8	文学的文章（物語）を「読むこと」の指導	文学的文章（物語）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
9	文学的文章（詩）を「読むこと」の指導	文学的文章（詩）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
10	「知識及び技能」	「知識及び技能」について、教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
11	授業記録の取り方	授業記録の取り方等を知り、今後の授業実践に向けて自分の考えをもつ。
12	指導案の書き方と模擬授業	教材研究の方法、指導案の書き方を知る。
13	模擬授業・授業記録 1	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
14	模擬授業・授業記録 2	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
15	国語科学習指導における評価と指導の一	国語科教育法のまとめ（学習評価を視点として）及び小学校国語教師としての心構え

16	体化と総括（まとめ）	をもつ。
----	------------	------

科目コード	32304				区 分	コア科目			
授業科目名	国語科教育法 [FE2433組用]				担当者名	小川 智勢子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

1 小学校国語科における「知識及び技能」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の主な学習内容を講義する。2 国語科教材等に基づき、児童の発達段階に即した授業を構想する。3 履修する場合、講義に次の物を用意してください。①横書きA4判ノート（1行6mm幅）②濃い文字の書ける鉛筆かシャープペン③テキスト2冊④A4サイズ400字詰ヨコ原稿用紙④のり

#### <授業の到達目標>

1 小学校国語科の主な学習内容と指導上の留意点を理解する。2 領域別の主な国語科の指導方法と授業構想の実践を理解する。3 授業構想等に関し、自分の考えを表現する。

#### <授業の方法>

1 教科書や配布資料を使用し、講義を実施する。2 音読・視写・筆順など、国語科の基礎となる学習を実際に課題として行う。3 教科書や資料等の要約、教材等への自分の考えを報告する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

1 課題によって、4～5人のグループに分かれて話し合い、意見をまとめて発表する。2 毎回、順番で感想を発表する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 事前課題への取り組み（1時間）2 授業後における学びの振り返り及び発展学習（1時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度40％、レポート・課題60％により総合的に評価する。

#### <教科書>

長谷川祥子編著 はじめて学ぶ人のための国語科教育学概説 明治図書  
江守賢治 正しくきれいな字を書くための 漢字筆順ハンドブック【第4版】 三省堂

#### <参考書>

文部科学省（2018/2/28） 小学校学習指導要領解説 国語編 東洋館出版社

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	国語科教育の全体像	講義の概要や成績評価方法等を知る。国語教育と国語科教育の違いを理解する。
2	国語科教育と言葉の働き	『小学校学習指導要領解説 国語編』の目標と領域、詩の言葉と論理の言葉
3	論理的文章を「読むこと」の指導 1	小学校低・中学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
4	論理的文章を「読むこと」の指導 2	小学校高学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
5	「書くこと」（基礎・基本）の指導	「書くこと」（基礎・基本）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
6	「書くこと」（発展）の指導	「書くこと」（発展）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
7	「話すこと・聞くこと」の指導	「話すこと・聞くこと」の指導内容・ポイントを理解する。
8	文学的文章（物語）を「読むこと」の指導	文学的文章（物語）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
9	文学的文章（詩）を「読むこと」の指導	文学的文章（詩）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
10	「知識及び技能」	「知識及び技能」について、教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
11	授業記録の取り方	授業記録の取り方等を知り、今後の授業実践に向けて自分の考えをもつ。
12	指導案の書き方と模擬授業	教材研究の方法、指導案の書き方を知る。
13	模擬授業・授業記録 1	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
14	模擬授業・授業記録 2	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
15	国語科学習指導における評価と指導の一	国語科教育法のまとめ（学習評価を視点として）及び小学校国語教師としての心構え

16	体化と総括（まとめ）	をもつ。
----	------------	------

科目コード	32304				区 分	コア科目			
授業科目名	国語科教育法 [FE2431組用]				担当者名	小川 智勢子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

1 小学校国語科における「知識及び技能」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の主な学習内容を講義する。2 国語科教材等に基づき、児童の発達段階に即した授業を構想する。3 履修する場合、講義に次の物を用意してください。①横書きA4判ノート（1行6mm幅）②濃い文字の書ける鉛筆かシャープペン③テキスト2冊④A4サイズ400字詰ヨコ原稿用紙④のり

#### <授業の到達目標>

1 小学校国語科の主な学習内容と指導上の留意点を理解する。2 領域別の主な国語科の指導方法と授業構想の実践を理解する。3 授業構想等に関し、自分の考えを表現する。

#### <授業の方法>

1 教科書や配布資料を使用し、講義を実施する。2 音読・視写・筆順など、国語科の基礎となる学習を実際に課題として行う。3 教科書や資料等の要約、教材等への自分の考えを報告する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

1 課題によって、4～5人のグループに分かれて話し合い、意見をまとめて発表する。2 毎回、順番で感想を発表する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 事前課題への取り組み（1時間）2 授業後における学びの振り返り及び発展学習（1時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度40％、レポート・課題60％により総合的に評価する。

#### <教科書>

長谷川祥子編著 はじめて学ぶ人のための国語科教育学概説 明治図書  
江守賢治 正しくきれいな字を書くための 漢字筆順ハンドブック【第4版】 三省堂

#### <参考書>

文部科学省（2018/2/28） 小学校学習指導要領解説 国語編 東洋館出版社

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	国語科教育の全体像	講義の概要や成績評価方法等を知る。国語教育と国語科教育の違いを理解する。
2	国語科教育と言葉の働き	『小学校学習指導要領解説 国語編』の目標と領域、詩の言葉と論理の言葉
3	論理的文章を「読むこと」の指導 1	小学校低・中学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
4	論理的文章を「読むこと」の指導 2	小学校高学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
5	「書くこと」（基礎・基本）の指導	「書くこと」（基礎・基本）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
6	「書くこと」（発展）の指導	「書くこと」（発展）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
7	「話すこと・聞くこと」の指導	「話すこと・聞くこと」の指導内容・ポイントを理解する。
8	文学的文章（物語）を「読むこと」の指導	文学的文章（物語）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
9	文学的文章（詩）を「読むこと」の指導	文学的文章（詩）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
10	「知識及び技能」	「知識及び技能」について、教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
11	授業記録の取り方	授業記録の取り方等を知り、今後の授業実践に向けて自分の考えをもつ。
12	指導案の書き方と模擬授業	教材研究の方法、指導案の書き方を知る。
13	模擬授業・授業記録 1	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
14	模擬授業・授業記録 2	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
15	国語科学習指導における評価と指導の一	国語科教育法のまとめ（学習評価を視点として）及び小学校国語教師としての心構え

16	体化と総括（まとめ）	をもつ。
----	------------	------

科目コード	32305				区 分	コア科目			
授業科目名	理科教育法 [FE2431組用]				担当者名	川村 康文			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

小学校理科の授業を楽しく、興味深く展開するために必要な指導技術や観察・実験の方法を習得する。観察・実験を伴う理科の活動を、児童の気持ちになって体験したり、教師役を経験したりする。約4人のグループで先生役となり模擬授業を担当し、先生役がその授業であたっていないみなさんは、児童役と評価者を兼ねて受講してもらいます。特に、半期のうちの前半は実験名人になれるよう、指導案なしで、実験をみなさんで楽しく共有できるよう先生役を担当してもらいます。また、後半は指導案を作成し、実験を含んだ45分の模擬授業を行って頂きます。教材研究、指導案作成、授業実践、授業評価などを実践的に学びながら、ICTの活用方法も習得する。模擬授業後は、全員で、模擬授業のふりかえりを行います。

### <授業の到達目標>

1. 教材研究：教科書や学習指導要領解説を参照して、教師と児童の視点で観察・実験できる。2. 指導案作成：取り上げる教材や授業のねらいを分析して、教師と児童の視点から指導案を作成できる。3. 指導と評価：指導案に沿って授業を実践し、その授業展開を評価できる。4. ICT活用：電子黒板、教材提示装置、デジタル教科書などを効果的に活用できる。

### <授業の方法>

1. 自分たちで話し合っ、自主的に、学びを進めて下さい。それを支援する授業を行います。2. 探究する心を、仲間と育てて下さい。それを支援する授業を行います。3. スマホ、タブレット、PCなどICTも活用しましょう。4. 模擬授業を行う先生役と、模擬授業を受ける児童役あわせて評価者役を行って頂きます

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング：受け身の授業ではなく、先生役として模擬授業を担当したり、評価者役担当します。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各時間とも、模擬授業の担当になる班があります。その班は、必ず、事前にリハーサルを予習として実施してください。授業の中期以降は、学習指導案をともなった模擬授業を行いますので、この授業のためだけのメーリングリストを組みます。そのメーリングリストに、授業の事前に、学習指導案をアップしてください。生徒役をする受講生のみなさんは、模擬授業を行う班のパフォーマンスを評価する評価者の立場になって、批判的に学習指導案を読みこんで来て、授業に参加してください。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲（平常点を含む）40%、模擬授業40%、振り返り（レフレクション）20%等で評価する。

### <教科書>

川村 康文（2014） 理科教育法 独創力を伸ばす理科授業 講談社

### <参考書>

文部科学省(2018.2.10) 小学校学習指導要領 [https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt\\_kyoiku02-100002607\\_05.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt_kyoiku02-100002607_05.pdf)

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オンデマンド オリエンテーション これからの理科授業を考えるために	オンデマンドひとつの理科の伝え方・特に環境問題の伝え方のビデオをみて下さい。プリント穴埋め学習が終わり、子どもたちの探究が大事だといわれています。 1 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=lymxBzY9R8E">https://www.youtube.com/watch?v=lymxBzY9R8E</a> 2 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=tW6bqsAgpnu">https://www.youtube.com/watch?v=tW6bqsAgpnu</a> 3 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=Je74bUZPnBM">https://www.youtube.com/watch?v=Je74bUZPnBM</a> 4 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=tcIB-3Bm9585">https://www.youtube.com/watch?v=tcIB-3Bm9585</a>
2	対面 2030年のSDGs 2050年のカーボンニュートラル 理科教師や理科の授業は、次世代の子どもたちに何を伝えるのか？	対面2030年のSDGs 2050年のカーボンニュートラル 理科教師や理科の授業は、次世代の子どもたちに何を伝えるのか？について、動画をまじえてディスカッションをしましょう。 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=Fm9m_hDcTn44">https://www.youtube.com/watch?v=Fm9m_hDcTn44</a> 人程度でひとつの班をくみます。各班で、どのような理科授業をしたいか、まとめたものを発表してもらいます。さて、組んだ班で、2つのタイプの模擬授業をしてもらいます。1つは、実験だけに特化したぶち模擬授業です。実験名人のつもりで楽しく授業して下さい。前
3	オンデマンド各班で、どの実験をするか	オンデマンド各班で、どの実験をするかを話し合っ、このクラス全体のスケジュー

4	を話し合って、このクラス全体のスケジュール表を作成してください。 オンデマンド教科書の実験 浮沈子をつくろう	ール表を作成してください。なので、学級委員長と副委員長も立候補など積極的に決めて下さい。 オンデマンド教科書の浮沈子をつくって、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
5	対面 物理領域の模擬授業	対面 物理学な分野の実験指導の模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
6	対面 化学領域の模擬授業	対面化学的な分野の実験指導の模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
7	オンデマンド教科書の実験 ホバークラフトをつくろう	オンデマンド教科書のホバークラフトをつくって、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
8	対面 生物領域の模擬授業	対面生物的な分野の実験指導の模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
9	対面地学領域の模擬授業	対面地学的な分野の実験指導の模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
10	オンデマンド教科書のストローウエーブマシンをつくろう	オンデマンド教科書のストローウエーブマシンをつくって、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
11	対面模擬授業 1	対面学習指導案付き模擬授業を行い、その後、反省会を行います。授業は30分でまとめて下さい。2班、行いふりかえりを行います。
12	オンデマンド教科書のペットボトル顕微鏡をつくろう	オンデマンド教科書のペットボトル顕微鏡をつくって、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
13	対面模擬授業 2	対面学習指導案付き模擬授業を行い、その後、反省会を行います。授業は30分でまとめて下さい。2班、行いふりかえりを行います。
14	オンデマンド教科書のペーパークロマトグラフィーの実験	オンデマンド教科書のペーパークロマトグラフィーの実験を行い、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
15	対面リフレクション・まとめ	対面全体のふりかえりを行います。
16		

科目コード	32305				区 分	コア科目			
授業科目名	理科教育法 [FE2433組用]				担当者名	川村 康文			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

小学校理科の授業を楽しく、興味深く展開するために必要な指導技術や観察・実験の方法を習得する。観察・実験を伴う理科の活動を、児童の気持ちになって体験したり、教師役を経験したりする。約4人のグループで先生役となり模擬授業を担当し、先生役がその授業であたっていないみなさんは、児童役と評価者を兼ねて受講してもらいます。特に、半期のうちの前半は実験名人になれるよう、指導案なしで、実験をみなさんで楽しく共有できるよう先生役を担当してもらいます。また、後半は指導案を作成し、実験を含んだ45分の模擬授業を行って頂きます。教材研究、指導案作成、授業実践、授業評価などを実践的に学びながら、ICTの活用方法も習得する。模擬授業後は、全員で、模擬授業のふりかえりを行います。

### <授業の到達目標>

1. 教材研究：教科書や学習指導要領解説を参照して、教師と児童の視点で観察・実験できる。2. 指導案作成：取り上げる教材や授業のねらいを分析して、教師と児童の視点から指導案を作成できる。3. 指導と評価：指導案に沿って授業を実践し、その授業展開を評価できる。4. ICT活用：電子黒板、教材提示装置、デジタル教科書などを効果的に活用できる。

### <授業の方法>

1. 自分たちで話し合っ、自主的に、学びを進めて下さい。それを支援する授業を行います。2. 探究する心を、仲間と育てて下さい。それを支援する授業を行います。3. スマホ、タブレット、PCなどICTも活用しましょう。4. 模擬授業を行う先生役と、模擬授業を受ける児童役あわせて評価者役を行って頂きます

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング：受け身の授業ではなく、先生役として模擬授業を担当したり、評価者役担当します。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各時間とも、模擬授業の担当になる班があります。その班は、必ず、事前にリハーサルを予習として実施してください。授業の中期以降は、学習指導案をともなった模擬授業を行いますので、この授業のためだけのメーリングリストを組みます。そのメーリングリストに、授業の事前に、学習指導案をアップしてください。生徒役をする受講生のみなさんは、模擬授業を行う班のパフォーマンスを評価する評価者の立場になって、批判的に学習指導案を読みこんで来て、授業に参加してください。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲（平常点を含む）40%、模擬授業40%、振り返り（レフレクション）20%等で評価する。

### <教科書>

川村 康文（2014） 理科教育法 独創力を伸ばす理科授業 講談社

### <参考書>

文部科学省(2018.2.10) 小学校学習指導要領 [https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt\\_kyoiku02-100002607\\_05.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt_kyoiku02-100002607_05.pdf)

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オンデマンド オリエンテーション これからの理科授業を考えるために	オンデマンドひとつの理科の伝え方・特に環境問題の伝え方のビデオをみて下さい。プリント穴埋め学習が終わり、子どもたちの探究が大事だといわれています。 1 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=lymxBzY9R8E">https://www.youtube.com/watch?v=lymxBzY9R8E</a> 2 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=tW6bqsAgpnu">https://www.youtube.com/watch?v=tW6bqsAgpnu</a> 3 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=Je74bUZPnBM">https://www.youtube.com/watch?v=Je74bUZPnBM</a> 4 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=tcIB-3Bm9585">https://www.youtube.com/watch?v=tcIB-3Bm9585</a>
2	対面 2030年のSDGs 2050年のカーボンニュートラル 理科教師や理科の授業は、次世代の子どもたちに何を伝えるのか？	対面2030年のSDGs 2050年のカーボンニュートラル 理科教師や理科の授業は、次世代の子どもたちに何を伝えるのか？について、動画をまじえてディスカッションをしましょう。 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=Fm9m_hDcTn44">https://www.youtube.com/watch?v=Fm9m_hDcTn44</a> 人程度でひとつの班をくみます。各班で、どのような理科授業をしたいか、まとめたものを発表してもらいます。さて、組んだ班で、2つのタイプの模擬授業をしてもらいます。1つは、実験だけに特化したぶち模擬授業です。実験名人のつもりで楽しく授業して下さい。前
3	オンデマンド各班で、どの実験をするか	オンデマンド各班で、どの実験をするかを話し合っ、このクラス全体のスケジュー

4	を話し合って、このクラス全体のスケジュール表を作成してください。 オンデマンド教科書の実験 浮沈子をつくろう	ール表を作成してください。なので、学級委員長と副委員長も立候補など積極的に決めて下さい。 オンデマンド教科書の浮沈子をつくって、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
5	対面 物理領域の模擬授業	対面 物理学な分野の実験指導の模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
6	対面 化学領域の模擬授業	対面化学的な分野の実験指導の模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
7	オンデマンド教科書の実験 ホバークラフトをつくろう	オンデマンド教科書のホバークラフトをつくって、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
8	対面 生物領域の模擬授業	対面生物的な分野の実験指導の模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
9	対面地学領域の模擬授業	対面地学的な分野の実験指導の模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
10	オンデマンド教科書のストローウエーブマシンをつくろう	オンデマンド教科書のストローウエーブマシンをつくって、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
11	対面模擬授業 1	対面学習指導案付き模擬授業を行い、その後、反省会を行います。授業は30分でまとめて下さい。2班、行いふりかえりを行います。
12	オンデマンド教科書のペットボトル顕微鏡をつくろう	オンデマンド教科書のペットボトル顕微鏡をつくって、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
13	対面模擬授業 2	対面学習指導案付き模擬授業を行い、その後、反省会を行います。授業は30分でまとめて下さい。2班、行いふりかえりを行います。
14	オンデマンド教科書のペーパークロマトグラフィーの実験	オンデマンド教科書のペーパークロマトグラフィーの実験を行い、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
15	対面リフレクション・まとめ	対面全体のふりかえりを行います。
16		

科目コード	32305				区 分	コア科目			
授業科目名	理科教育法 [他学科3年水3]				担当者名	川村 康文			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

小学校理科の授業を楽しく、興味深く展開するために必要な指導技術や観察・実験の方法を習得する。観察・実験を伴う理科の活動を、児童の気持ちになって体験したり、教師役を経験したりする。約4人のグループで先生役となり模擬授業を担当し、先生役がその授業であたっていないみなさんは、児童役と評価者を兼ねて受講してもらいます。特に、半期のうちの前半は実験名人になれるよう、指導案なしで、実験をみなさんで楽しく共有できるよう先生役を担当してもらいます。また、後半は指導案を作成し、実験を含んだ45分の模擬授業を行って頂きます。教材研究、指導案作成、授業実践、授業評価などを実践的に学びながら、ICTの活用方法も習得する。模擬授業後は、全員で、模擬授業のふりかえりを行います。

### <授業の到達目標>

1. 教材研究：教科書や学習指導要領解説を参照して、教師と児童の視点で観察・実験できる。2. 指導案作成：取り上げる教材や授業のねらいを分析して、教師と児童の視点から指導案を作成できる。3. 指導と評価：指導案に沿って授業を実践し、その授業展開を評価できる。4. ICT活用：電子黒板、教材提示装置、デジタル教科書などを効果的に活用できる。

### <授業の方法>

1. 自分たちで話し合っ、自立的に、学びを進めて下さい。それを支援する授業を行います。2. 探究する心を、仲間と育てて下さい。それを支援する授業を行います。3. スマホ、タブレット、PCなどICTも活用しましょう。4. 模擬授業を行う先生役と、模擬授業を受ける児童役あわせて評価者役を行って頂きます

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング：受け身の授業ではなく、先生役として模擬授業を担当したり、評価者役担当します。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各時間とも、模擬授業の担当になる班があります。その班は、必ず、事前にリハーサルを予習として実施してください。授業の中期以降は、学習指導案をともなった模擬授業を行いますので、この授業のためだけのメーリングリストを組みます。そのメーリングリストに、授業の事前に、学習指導案をアップしてください。生徒役をする受講生のみなさんは、模擬授業を行う班のパフォーマンスを評価する評価者の立場になって、批判的に学習指導案を読みこんで来て、授業に参加してください。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲（平常点を含む）40%、模擬授業40%、振り返り（レフレクション）20%等で評価する。

### <教科書>

川村 康文（2014） 理科教育法 独創力を伸ばす理科授業 講談社

### <参考書>

文部科学省(2018.2.10) 小学校学習指導要領 [https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt\\_kyoiku02-100002607\\_05.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt_kyoiku02-100002607_05.pdf)

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オンデマンド オリエンテーション これからの理科授業を考えるために	オンデマンドひとつの理科の伝え方・特に環境問題の伝え方のビデオをみて下さい。プリント穴埋め学習が終わり、子どもたちの探究が大事だといわれています。 1 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=lymxBzY9R8E">https://www.youtube.com/watch?v=lymxBzY9R8E</a> 2 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=tW6bqsAgpnu">https://www.youtube.com/watch?v=tW6bqsAgpnu</a> 3 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=Je74bUZPnBM">https://www.youtube.com/watch?v=Je74bUZPnBM</a> 4 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=tcIB-3Bm9585">https://www.youtube.com/watch?v=tcIB-3Bm9585</a>
2	対面 2030年のSDGs 2050年のカーボンニュートラル 理科教師や理科の授業は、次世代の子どもたちに何を伝えるのか？	対面2030年のSDGs 2050年のカーボンニュートラル 理科教師や理科の授業は、次世代の子どもたちに何を伝えるのか？について、動画をまじえてディスカッションをしましょう。 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=Fm9m_hDcTn44">https://www.youtube.com/watch?v=Fm9m_hDcTn44</a> 人程度でひとつの班をくみます。各班で、どのような理科授業をしたいか、まとめたものを発表してもらいます。さて、組んだ班で、2つのタイプの模擬授業をしてもらいます。1つは、実験だけに特化したぶち模擬授業です。実験名人のつもりで楽しく授業して下さい。前
3	オンデマンド各班で、どの実験をするか	オンデマンド各班で、どの実験をするかを話し合っ、このクラス全体のスケジュー

4	を話し合って、このクラス全体のスケジュール表を作成してください。 オンデマンド教科書の実験 浮沈子をつくろう	ール表を作成してください。なので、学級委員長と副委員長も立候補など積極的に決めて下さい。 オンデマンド教科書の浮沈子をつくって、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
5	対面 物理領域の模擬授業	対面 物理学な分野の実験指導の模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
6	対面 化学領域の模擬授業	対面化学的な分野の実験指導の模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
7	オンデマンド教科書の実験 ホバークラフトをつくろう	オンデマンド教科書のホバークラフトをつくって、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
8	対面 生物領域の模擬授業	対面生物的な分野の実験指導の模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
9	対面地学領域の模擬授業	対面地学的な分野の実験指導の模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
10	オンデマンド教科書のストローウエーブマシンをつくろう	オンデマンド教科書のストローウエーブマシンをつくって、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
11	対面模擬授業 1	対面学習指導案付き模擬授業を行い、その後、反省会を行います。授業は30分でまとめて下さい。2班、行いふりかえりを行います。
12	オンデマンド教科書のペットボトル顕微鏡をつくろう	オンデマンド教科書のペットボトル顕微鏡をつくって、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
13	対面模擬授業 2	対面学習指導案付き模擬授業を行い、その後、反省会を行います。授業は30分でまとめて下さい。2班、行いふりかえりを行います。
14	オンデマンド教科書のペーパークロマトグラフィーの実験	オンデマンド教科書のペーパークロマトグラフィーの実験を行い、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
15	対面リフレクション・まとめ	対面全体のふりかえりを行います。
16		

科目コード	32305				区 分	コア科目			
授業科目名	理科教育法 [他学科3年水4]				担当者名	川村 康文			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

小学校理科の授業を楽しく、興味深く展開するために必要な指導技術や観察・実験の方法を習得する。観察・実験を伴う理科の活動を、児童の気持ちになって体験したり、教師役を経験したりする。約4人のグループで先生役となり模擬授業を担当し、先生役がその授業であたっていないみなさんは、児童役と評価者を兼ねて受講してもらいます。特に、半期のうちの前半は実験名人になれるよう、指導案なしで、実験をみなさんと楽しく共有できるよう先生役を担当してもらいます。また、後半は指導案を作成し、実験を含んだ45分の模擬授業を行って頂きます。教材研究、指導案作成、授業実践、授業評価などを実践的に学びながら、ICTの活用方法も習得する。模擬授業後は、全員で、模擬授業のふりかえりを行います。

### <授業の到達目標>

1. 教材研究：教科書や学習指導要領解説を参照して、教師と児童の視点で観察・実験できる。2. 指導案作成：取り上げる教材や授業のねらいを分析して、教師と児童の視点から指導案を作成できる。3. 指導と評価：指導案に沿って授業を実践し、その授業展開を評価できる。4. ICT活用：電子黒板、教材提示装置、デジタル教科書などを効果的に活用できる。

### <授業の方法>

1. 自分たちで話し合っ、自立的に、学びを進めて下さい。それを支援する授業を行います。2. 探究する心を、仲間と育てて下さい。それを支援する授業を行います。3. スマホ、タブレット、PCなどICTも活用しましょう。4. 模擬授業を行う先生役と、模擬授業を受ける児童役あわせて評価者役を行って頂きます

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング：受け身の授業ではなく、先生役として模擬授業を担当したり、評価者役担当します。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各時間とも、模擬授業の担当になる班があります。その班は、必ず、事前にリハーサルを予習として実施してください。授業の中期以降は、学習指導案をともなった模擬授業を行いますので、この授業のためだけのメーリングリストを組みます。そのメーリングリストに、授業の事前に、学習指導案をアップしてください。生徒役をする受講生のみなさんは、模擬授業を行う班のパフォーマンスを評価する評価者の立場になって、批判的に学習指導案を読みこんで来て、授業に参加してください。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲（平常点を含む）40%、模擬授業40%、振り返り（レフレクション）20%等で評価する。

### <教科書>

川村 康文（2014） 理科教育法 独創力を伸ばす理科授業 講談社

### <参考書>

文部科学省(2018.2.10) 小学校学習指導要領 [https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt\\_kyoiku02-100002607\\_05.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt_kyoiku02-100002607_05.pdf)

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オンデマンド オリエンテーション これからの理科授業を考えるために	オンデマンドひとつの理科の伝え方・特に環境問題の伝え方のビデオをみて下さい。プリント穴埋め学習が終わり、子どもたちの探究が大事だといわれています。 1 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=lymxBzY9R8E">https://www.youtube.com/watch?v=lymxBzY9R8E</a> 2 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=tW6bqsAgpnu">https://www.youtube.com/watch?v=tW6bqsAgpnu</a> 3 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=Je74bUZPnBM">https://www.youtube.com/watch?v=Je74bUZPnBM</a> 4 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=tcIB-3Bm9585">https://www.youtube.com/watch?v=tcIB-3Bm9585</a>
2	対面 2030年のSDGs 2050年のカーボンニュートラル 理科教師や理科の授業は、次世代の子どもたちに何を伝えるのか？	対面2030年のSDGs 2050年のカーボンニュートラル 理科教師や理科の授業は、次世代の子どもたちに何を伝えるのか？について、動画をまじえてディスカッションをしましょう。 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=Fm9m_hDcTn44">https://www.youtube.com/watch?v=Fm9m_hDcTn44</a> 人程度でひとつの班をくみます。各班で、どのような理科授業をしたいか、まとめたものを発表してもらいます。さて、組んだ班で、2つのタイプの模擬授業をしてもらいます。1つは、実験だけに特化したぶち模擬授業です。実験名人のつもりで楽しく授業して下さい。前
3	オンデマンド各班で、どの実験をするか	オンデマンド各班で、どの実験をするかを話し合っ、このクラス全体のスケジュー

4	を話し合って、このクラス全体のスケジュール表を作成してください。 オンデマンド教科書の実験 浮沈子をつくろう	ール表を作成してください。なので、学級委員長と副委員長も立候補など積極的に決めて下さい。 オンデマンド教科書の浮沈子をつくって、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
5	対面 物理領域の模擬授業	対面 物理学な分野の実験指導の模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
6	対面 化学領域の模擬授業	対面化学的な分野の実験指導の模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
7	オンデマンド教科書の実験 ホバークラフトをつくろう	オンデマンド教科書のホバークラフトをつくって、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
8	対面 生物領域の模擬授業	対面生物的な分野の実験指導の模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
9	対面地学領域の模擬授業	対面地学的な分野の実験指導の模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
10	オンデマンド教科書のストローウエーブマシンをつくろう	オンデマンド教科書のストローウエーブマシンをつくって、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
11	対面模擬授業 1	対面学習指導案付き模擬授業を行い、その後、反省会を行います。授業は30分でまとめて下さい。2班、行いふりかえりを行います。
12	オンデマンド教科書のペットボトル顕微鏡をつくろう	オンデマンド教科書のペットボトル顕微鏡をつくって、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
13	対面模擬授業 2	対面学習指導案付き模擬授業を行い、その後、反省会を行います。授業は30分でまとめて下さい。2班、行いふりかえりを行います。
14	オンデマンド教科書のペーパークロマトグラフィーの実験	オンデマンド教科書のペーパークロマトグラフィーの実験を行い、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
15	対面リフレクション・まとめ	対面全体のふりかえりを行います。
16		

科目コード	32305				区 分	コア科目			
授業科目名	理科教育法 [FE2432組用]				担当者名	川村 康文			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

小学校理科の授業を楽しく、興味深く展開するために必要な指導技術や観察・実験の方法を習得する。観察・実験を伴う理科の活動を、児童の気持ちになって体験したり、教師役を経験したりする。約4人のグループで先生役となり模擬授業を担当し、先生役がその授業であたっていないみなさんは、児童役と評価者を兼ねて受講してもらいます。特に、半期のうちの前半は実験名人になれるよう、指導案なしで、実験をみなさんと楽しく共有できるよう先生役を担当してもらいます。また、後半は指導案を作成し、実験を含んだ45分の模擬授業を行って頂きます。教材研究、指導案作成、授業実践、授業評価などを実践的に学びながら、ICTの活用方法も習得する。模擬授業後は、全員で、模擬授業のふりかえりを行います。

### <授業の到達目標>

1. 教材研究：教科書や学習指導要領解説を参照して、教師と児童の視点で観察・実験できる。2. 指導案作成：取り上げる教材や授業のねらいを分析して、教師と児童の視点から指導案を作成できる。3. 指導と評価：指導案に沿って授業を実践し、その授業展開を評価できる。4. ICT活用：電子黒板、教材提示装置、デジタル教科書などを効果的に活用できる。

### <授業の方法>

1. 自分たちで話し合っ、自主的に、学びを進めて下さい。それを支援する授業を行います。2. 探究する心を、仲間と育てて下さい。それを支援する授業を行います。3. スマホ、タブレット、PCなどICTも活用しましょう。4. 模擬授業を行う先生役と、模擬授業を受ける児童役あわせて評価者役を行って頂きます

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング：受け身の授業ではなく、先生役として模擬授業を担当したり、評価者役担当します。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各時間とも、模擬授業の担当になる班があります。その班は、必ず、事前にリハーサルを予習として実施してください。授業の中期以降は、学習指導案をともなった模擬授業を行いますので、この授業のためだけのメーリングリストを組みます。そのメーリングリストに、授業の事前に、学習指導案をアップしてください。生徒役をする受講生のみなさんは、模擬授業を行う班のパフォーマンスを評価する評価者の立場になって、批判的に学習指導案を読みこんで来て、授業に参加してください。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲（平常点を含む）40%、模擬授業40%、振り返り（レフレクション）20%等で評価する。

### <教科書>

川村 康文（2014） 理科教育法 独創力を伸ばす理科授業 講談社

### <参考書>

文部科学省(2018.2.10) 小学校学習指導要領 [https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt\\_kyoiku02-100002607\\_05.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt_kyoiku02-100002607_05.pdf)

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 2030年のSDGs 2050年のカーボンニュートラル 理科教師や理科の授業は、次世代の子どもたちに何を伝えるのか？	2030年のSDGs 2050年のカーボンニュートラル 理科教師や理科の授業は、次世代の子どもたちに何を伝えるのか？について、動画をまじえてディスカッションをしましょう。 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=Fm9m_hDcTn44">https://www.youtube.com/watch?v=Fm9m_hDcTn44</a> 人程度でひとつの班をくみます。各班で、どのような理科授業をしたいか、まとめたものを発表してもらいます。さて、組んだ班で、2つのタイプの模擬授業をしてもらいます。1つは、実験だけに特化したぶち模擬授業です。実験名人のつもりで楽しく授業して下さい。前提条
2	オンデマンドこれからの理科授業を考えるために	オンデマンドひとつの理科の伝え方・特に環境問題の伝え方のビデオをみて下さい。プリント穴埋め学習が終わり、子どもたちの探究が大事だといわれています。 1 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=lymxBzY9R8E">https://www.youtube.com/watch?v=lymxBzY9R8E</a> 2 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=tW6bqsAgpnU">https://www.youtube.com/watch?v=tW6bqsAgpnU</a> 3 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=Je74bUZPnBM">https://www.youtube.com/watch?v=Je74bUZPnBM</a> 4 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=tc1B-3Bm9585">https://www.youtube.com/watch?v=tc1B-3Bm9585</a>
3	各班で、どの実験をするかを話し合っ	各班で、どの実験をするかを話し合っ、このクラス全体のスケジュール表を作成

	て、このクラス全体のスケジュール表を作成してください。	してください。なので、学級委員長と副委員長も立候補など積極的に決めて下さい。
4	物理領域の模擬授業	物理学な分野の実験指導の模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
5	オンデマンド教科書の実験 浮沈子をつくろう	オンデマンド教科書の浮沈子をつくって、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
6	化学領域の模擬授業	化学的な分野の実験指導の模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
7	教科書の実験 ホバークラフトをつくろう	教科書のホバークラフトをつくって、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
8	生物領域の模擬授業	生物的な分野の実験指導の模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
9	地学領域の模擬授業	地学的な分野の実験指導の模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
10	教科書のストローウエーブマシンをつくろう	教科書のストローウエーブマシンをつくって、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
11	模擬授業 1	学習指導案付き模擬授業を行い、その後、反省会を行います。授業は30分でまとめて下さい。2班、行いふりかえりを行います。
12	教科書のペットボトル顕微鏡をつくろう	教科書のペットボトル顕微鏡をつくって、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
13	模擬授業 2	学習指導案付き模擬授業を行い、その後、反省会を行います。授業は30分でまとめて下さい。2班、行いふりかえりを行います。
14	教科書のペーパークロマトグラフィーの実験	教科書のペーパークロマトグラフィーの実験を行い、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
15	リフレクション・まとめ	全体のふりかえりを行います。
16		

科目コード	32306				区 分	コア科目			
授業科目名	家庭科教育法〔他学科A〕				担当者名	岡 礼子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

家庭科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業構想について理解するとともに、指導案の作成と模擬授業の実施を通して、家庭科の指導を行うための知識、技能、態度などを身に付ける。具体的には教材観、児童観、教材の系統観、指導観について理解し、学習指導要領で求められている適切な題材の設定ができる力を養い、児童の学習活動や教師の支援について具体的な計画を立て、教師としての資質を高め、自らの立てた指導案がより適切であったかについて探求し、模擬授業におけるPDCAを実施する。

### <授業の到達目標>

母校の小学校の教育目標や目指す子供像を参考に、仮想の教育目標や目指す子供像を設定して3つの題材目標「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」を定め、題材全体の指導を通してどのような子供を育成したいのか、子供たちにどんな力を付けてやりたいかを考えて指導案を書くことができる。そして、その指導案で模擬授業を行い、模擬授業についてフィードバックし、考察と改善が図れる。

### <授業の方法>

今までは、パワーポイントを使って年間指導計画や題材指導計画、家庭科学習指導案の書き方、「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」などの内容について説明した後、模擬授業を実施していたが、今年度は、新しい試みとして、ディスカッションやグループワーク、フィールドワーク等、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を実施する。但し、家庭科学習指導案の書き方だけは分かりにくいので、ICTを使って説明をする。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて1単位時間の授業で大切にしたいこと・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善には、「題材など内容や時間のまとまりを見直す」ことが大切である。また、「主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全て実現されるものではない」とあるように、1単位時間ごとの授業実践を積み重ね、子供の学びの姿を丁寧に捉えていくことで、子供が自分の成長を自覚し、実践する喜びへとつながっていくようにする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

グループで仮想の学校及び子供の実態を想定して題材を決め、家庭科学習指導案を考える。指導案が完成したら、それを基にグループでしっかり話し合い、必要な教材・教具を作って模擬授業の練習を行ったり、使用するワークシートや振り返りカードを作ったりする。（必要な時間は、グループにより異なる。）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

模擬授業20%、定期試験（レポートを含む）80%とし、模擬授業ごとに、授業後すぐに指導案や授業態度、板書の仕方、発問等について振り返りコメントを行う。

### <教科書>

文部科学省（2018年） 「小学校学習指導要領解説 家庭編」 東洋館出版社  
 鳴海多恵子他（2020年） 「わたしたちの家庭科」 開隆堂

### <参考書>

佐藤文子・金子佳代子他（2021年） 「新編 新しい技術・家庭」家庭分野」 東京書籍  
 文部科学省（2017年） 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」 東洋館出版社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	I 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業の構想 II 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて1単位時間の授業で大切にしたいこと	I 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業の構想 1 題材の配列を工夫する 2 学習過程を工夫する 3 見方・考え方を働かせられるようにする II 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて1単位時間の授業で大切にしたいこと 1 記録の工夫 2 板書の活用
2	新学習指導要領の具体的な内容について	・学習指導要領の変遷・家庭科の新学習指導要領への流れ
3	家庭科の学習指導案の書き方と評価について知る。	・家庭科学習指導案の書き方・「指導と評価の一体化」のための学習評価
4	「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びについて学ぶ。	「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びとは・授業するとき大切な事・教師としてのマナー ※ 模擬授業のグループ分けと相談

5	「A 家族・家庭生活」領域の内容理解 (ICT活用 5・6年生)	・生活時間の記入・仕事の分担
6	「B 衣食住の生活」領域の内容理解 (ICT活用 5・6年生)	・五大栄養素から6つの基礎食品まで・生活を豊かにするための布を用いた製作・快適な住まい方
7	「C 消費生活・環境」領域の内容理解 (ICT活用 5・6年生)	・新しい取扱い表示について・洗濯表示すごろく
8	模擬授業について話し合い	グループに分かれて模擬授業について話し合いをする。
9	模擬授業と評価(1)(2)	「A 家族・家庭生活」(5年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
10	模擬授業と評価(3)(4)	「B 衣食住の生活」(5年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
11	模擬授業と評価(5)(6)	「C 消費生活・環境」(5年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
12	模擬授業と評価(7)(8)	「A 家族・家庭生活」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
13	模擬授業と評価(9)(10)	「B 衣食住の生活」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
14	模擬授業と評価(11)(12)	「C 消費生活・環境」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
15	模擬授業全体についての振り返りと授業 改善コロナが収束し、大学の許可が下り たら、ご飯とみそ汁の調理実習の予定	模擬授業全体についての振り返りと授業改善コロナが収束し、大学の許可が下りたら、ご飯とみそ汁の調理実習の予定
16	期末試験	期末試験

科目コード	32306				区 分	コア科目			
授業科目名	家庭科教育法〔他学科B〕				担当者名	岡 礼子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

家庭科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業構想について理解するとともに、指導案の作成と模擬授業の実施を通して、家庭科の指導を行うための知識、技能、態度などを身に付ける。具体的には教材観、児童観、教材の系統観、指導観について理解し、学習指導要領で求められている適切な題材の設定ができる力を養い、児童の学習活動や教師の支援について具体的な計画を立て、教師としての資質を高め、自らの立てた指導案がより適切であったかについて探求し、模擬授業におけるPDCAを実施する。

### <授業の到達目標>

母校の小学校の教育目標や目指す子供像を参考に、仮想の教育目標や目指す子供像を設定して3つの題材目標「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」を定め、題材全体の指導を通してどのような子供を育成したいのか、子供たちにどんな力を付けてやりたいかを考えて指導案を書くことができる。そして、その指導案で模擬授業を行い、模擬授業についてフィードバックし、考察と改善が図れる。

### <授業の方法>

今までは、パワーポイントを使って年間指導計画や題材指導計画、家庭科学習指導案の書き方、「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」などの内容について説明した後、模擬授業を実施していたが、今年度は、新しい試みとして、ディスカッションやグループワーク、フィールドワーク等、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を実施する。但し、家庭科学習指導案の書き方だけは分かりにくいので、ICTを使って説明をする。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて1単位時間の授業で大切にしたいこと・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善には、「題材など内容や時間のまとまりを見直す」ことが大切である。また、「主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全て実現されるものではない」とあるように、1単位時間ごとの授業実践を積み重ね、子供の学びの姿を丁寧に捉えていくことで、子供が自分の成長を自覚し、実践する喜びへとつながっていくようにする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

グループで仮想の学校及び子供の実態を想定して題材を決め、家庭科学習指導案を考える。指導案が完成したら、それを基にグループでしっかり話し合い、必要な教材・教具を作って模擬授業の練習を行ったり、使用するワークシートや振り返りカードを作ったりする。（必要な時間は、グループにより異なる。）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

模擬授業20%、定期試験（レポートを含む）80%とし、模擬授業ごとに、授業後すぐに指導案や授業態度、板書の仕方、発問等について振り返りコメントを行う。

### <教科書>

文部科学省（2018年） 「小学校学習指導要領解説 家庭編」 東洋館出版社  
 鳴海多恵子他（2020年） 「わたしたちの家庭科」 開隆堂

### <参考書>

佐藤文子・金子佳代子他（2021年） 「新編 新しい技術・家庭」家庭分野」 東京書籍  
 文部科学省（2017年） 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」 東洋館出版社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	I 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業の構想 II 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて1単位時間の授業で大切にしたいこと	I 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業の構想 1 題材の配列を工夫する 2 学習過程を工夫する 3 見方・考え方を働かせられるようにする II 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて1単位時間の授業で大切にしたいこと 1 記録の工夫 2 板書の活用
2	新学習指導要領の具体的な内容について	・学習指導要領の変遷・家庭科の新学習指導要領への流れ
3	家庭科の学習指導案の書き方と評価について知る。	・家庭科学習指導案の書き方・「指導と評価の一体化」のための学習評価
4	「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びについて学ぶ。	「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びとは・授業するとき大切な事・教師としてのマナー ※ 模擬授業のグループ分けと相談

5	「A 家族・家庭生活」領域の内容理解 (ICT活用 5・6年生)	・生活時間の記入・仕事の分担
6	「B 衣食住の生活」領域の内容理解 (ICT活用 5・6年生)	・五大栄養素から6つの基礎食品まで・生活を豊かにするための布を用いた製作・快適な住まい方
7	「C 消費生活・環境」領域の内容理解 (ICT活用 5・6年生)	・新しい取扱い表示について・洗濯表示すごろく
8	模擬授業について話し合い	グループに分かれて模擬授業について話し合いをする。
9	模擬授業と評価(1)(2)	「A 家族・家庭生活」(5年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
10	模擬授業と評価(3)(4)	「B 衣食住の生活」(5年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
11	模擬授業と評価(5)(6)	「C 消費生活・環境」(5年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
12	模擬授業と評価(7)(8)	「A 家族・家庭生活」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
13	模擬授業と評価(9)(10)	「B 衣食住の生活」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
14	模擬授業と評価(11)(12)	「C 消費生活・環境」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
15	模擬授業全体についての振り返りと授業 改善コロナが収束し、大学の許可が下り たら、ご飯とみそ汁の調理実習の予定	模擬授業全体についての振り返りと授業改善コロナが収束し、大学の許可が下りたら、ご飯とみそ汁の調理実習の予定
16	期末試験	期末試験

科目コード	32306				区 分	コア科目			
授業科目名	家庭科教育法 [FE2333組用]				担当者名	岡 礼子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

家庭科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業構想について理解するとともに、指導案の作成と模擬授業の実施を通して、家庭科の指導を行うための知識、技能、態度などを身に付ける。具体的には教材観、児童観、教材の系統観、指導観について理解し、学習指導要領で求められている適切な題材の設定ができる力を養い、児童の学習活動や教師の支援について具体的な計画を立て、教師としての資質を高め、自らの立てた指導案がより適切であったかについて探求し、模擬授業におけるPDCAを実施する。

### <授業の到達目標>

母校の小学校の教育目標や目指す子供像を参考に、仮想の教育目標や目指す子供像を設定して3つの題材目標「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」を定め、題材全体の指導を通してどのような子供を育成したいのか、子供たちにどんな力を付けてやりたいかを考えて指導案を書くことができる。そして、その指導案で模擬授業を行い、模擬授業についてフィードバックし、考察と改善が図れる。

### <授業の方法>

今までは、パワーポイントを使って年間指導計画や題材指導計画、家庭科学習指導案の書き方、「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」などの内容について説明した後、模擬授業を実施していたが、今年度は、新しい試みとして、ディスカッションやグループワーク、フィールドワーク等、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を実施する。但し、家庭科学習指導案の書き方だけは分かりにくいので、ICTを使って説明をする。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて1単位時間の授業で大切にしたいこと・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善には、「題材など内容や時間のまとまりを見直す」ことが大切である。また、「主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全て実現されるものではない」とあるように、1単位時間ごとの授業実践を積み重ね、子供の学びの姿を丁寧に捉えていくことで、子供が自分の成長を自覚し、実践する喜びへとつながっていくようにする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

グループで仮想の学校及び子供の実態を想定して題材を決め、家庭科学習指導案を考える。指導案が完成したら、それを基にグループでしっかり話し合い、必要な教材・教具を作って模擬授業の練習を行ったり、使用するワークシートや振り返りカードを作ったりする。（必要な時間は、グループにより異なる。）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

模擬授業20%、定期試験（レポートを含む）80%とし、模擬授業ごとに、授業後すぐに指導案や授業態度、板書の仕方、発問等について振り返りコメントを行う。

### <教科書>

文部科学省（2018年） 「小学校学習指導要領解説 家庭編」 東洋館出版社  
 鳴海多恵子他（2020年） 「わたしたちの家庭科」 開隆堂

### <参考書>

佐藤文子・金子佳代子他（2021年） 「新編 新しい技術・家庭」家庭分野」 東京書籍  
 文部科学省（2017年） 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」 東洋館出版社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	I 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業の構想 II 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて1単位時間の授業で大切にしたいこと	I 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業の構想 1 題材の配列を工夫する 2 学習過程を工夫する 3 見方・考え方を働かせられるようにする II 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて1単位時間の授業で大切にしたいこと 1 記録の工夫 2 板書の活用
2	新学習指導要領の具体的な内容について	・学習指導要領の変遷・家庭科の新学習指導要領への流れ
3	家庭科の学習指導案の書き方と評価について知る。	・家庭科学習指導案の書き方・「指導と評価の一体化」のための学習評価
4	「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びについて学ぶ。	「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びとは・授業するとき大切な事・教師としてのマナー ※ 模擬授業のグループ分けと相談

5	「A 家族・家庭生活」領域の内容理解 (ICT活用 5・6年生)	・生活時間の記入・仕事の分担
6	「B 衣食住の生活」領域の内容理解 (ICT活用 5・6年生)	・五大栄養素から6つの基礎食品まで・生活を豊かにするための布を用いた製作・快適な住まい方
7	「C 消費生活・環境」領域の内容理解 (ICT活用 5・6年生)	・新しい取扱い表示について・洗濯表示すごろく
8	模擬授業について話し合い	グループに分かれて模擬授業について話し合いをする。
9	模擬授業と評価(1)(2)	「A 家族・家庭生活」(5年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
10	模擬授業と評価(3)(4)	「B 衣食住の生活」(5年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
11	模擬授業と評価(5)(6)	「C 消費生活・環境」(5年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
12	模擬授業と評価(7)(8)	「A 家族・家庭生活」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
13	模擬授業と評価(9)(10)	「B 衣食住の生活」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
14	模擬授業と評価(11)(12)	「C 消費生活・環境」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
15	模擬授業全体についての振り返りと授業 改善コロナが収束し、大学の許可が下り たら、ご飯とみそ汁の調理実習の予定	模擬授業全体についての振り返りと授業改善コロナが収束し、大学の許可が下りたら、ご飯とみそ汁の調理実習の予定
16	期末試験	期末試験

科目コード	32306				区 分	コア科目			
授業科目名	家庭科教育法 [FE2331組用]				担当者名	岡 礼子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

家庭科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業構想について理解するとともに、指導案の作成と模擬授業の実施を通して、家庭科の指導を行うための知識、技能、態度などを身に付ける。具体的には教材観、児童観、教材の系統観、指導観について理解し、学習指導要領で求められている適切な題材の設定ができる力を養い、児童の学習活動や教師の支援について具体的な計画を立て、教師としての資質を高め、自らの立てた指導案がより適切であったかについて探求し、模擬授業におけるPDCAを実施する。

### <授業の到達目標>

母校の小学校の教育目標や目指す子供像を参考に、仮想の教育目標や目指す子供像を設定して3つの題材目標「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」を定め、題材全体の指導を通してどのような子供を育成したいのか、子供たちにどんな力を付けてやりたいかを考えて指導案を書くことができる。そして、その指導案で模擬授業を行い、模擬授業についてフィードバックし、考察と改善が図れる。

### <授業の方法>

今までは、パワーポイントを使って年間指導計画や題材指導計画、家庭科学習指導案の書き方、「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」などの内容について説明した後、模擬授業を実施していたが、今年度は、新しい試みとして、ディスカッションやグループワーク、フィールドワーク等、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を実施する。但し、家庭科学習指導案の書き方だけは分かりにくいので、ICTを使って説明をする。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて1単位時間の授業で大切にしたいこと・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善には、「題材など内容や時間のまとまりを見直す」ことが大切である。また、「主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全て実現されるものではない」とあるように、1単位時間ごとの授業実践を積み重ね、子供の学びの姿を丁寧に捉えていくことで、子供が自分の成長を自覚し、実践する喜びへとつながっていくようにする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

グループで仮想の学校及び子供の実態を想定して題材を決め、家庭科学習指導案を考える。指導案が完成したら、それを基にグループでしっかり話し合い、必要な教材・教具を作って模擬授業の練習を行ったり、使用するワークシートや振り返りカードを作ったりする。（必要な時間は、グループにより異なる。）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

模擬授業20%、定期試験（レポートを含む）80%とし、模擬授業ごとに、授業後すぐに指導案や授業態度、板書の仕方、発問等について振り返りコメントを行う。

### <教科書>

文部科学省（2018年） 「小学校学習指導要領解説 家庭編」 東洋館出版社  
 鳴海多恵子他（2020年） 「わたしたちの家庭科」 開隆堂

### <参考書>

佐藤文子・金子佳代子他（2021年） 「新編 新しい技術・家庭」家庭分野」 東京書籍  
 文部科学省（2017年） 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」 東洋館出版社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	I 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業の構想 II 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて1単位時間の授業で大切にしたいこと	I 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業の構想 1 題材の配列を工夫する 2 学習過程を工夫する 3 見方・考え方を働かせられるようにする II 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて1単位時間の授業で大切にしたいこと 1 記録の工夫 2 板書の活用
2	新学習指導要領の具体的な内容について	・学習指導要領の変遷・家庭科の新学習指導要領への流れ
3	家庭科の学習指導案の書き方と評価について知る。	・家庭科学習指導案の書き方・「指導と評価の一体化」のための学習評価
4	「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びについて学ぶ。	「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びとは・授業するとき大切な事・教師としてのマナー ※ 模擬授業のグループ分けと相談

5	「A 家族・家庭生活」領域の内容理解 (ICT活用 5・6年生)	・生活時間の記入・仕事の分担
6	「B 衣食住の生活」領域の内容理解 (ICT活用 5・6年生)	・五大栄養素から6つの基礎食品まで・生活を豊かにするための布を用いた製作・快適な住まい方
7	「C 消費生活・環境」領域の内容理解 (ICT活用 5・6年生)	・新しい取扱い表示について・洗濯表示すごろく
8	模擬授業について話し合い	グループに分かれて模擬授業について話し合いをする。
9	模擬授業と評価(1)(2)	「A 家族・家庭生活」(5年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
10	模擬授業と評価(3)(4)	「B 衣食住の生活」(5年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
11	模擬授業と評価(5)(6)	「C 消費生活・環境」(5年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
12	模擬授業と評価(7)(8)	「A 家族・家庭生活」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
13	模擬授業と評価(9)(10)	「B 衣食住の生活」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
14	模擬授業と評価(11)(12)	「C 消費生活・環境」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
15	模擬授業全体についての振り返りと授業 改善コロナが収束し、大学の許可が下り たら、ご飯とみそ汁の調理実習の予定	模擬授業全体についての振り返りと授業改善コロナが収束し、大学の許可が下りたら、ご飯とみそ汁の調理実習の予定
16	期末試験	期末試験

科目コード	32306				区 分	コア科目			
授業科目名	家庭科教育法 [FE2332組用]				担当者名	岡 礼子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

家庭科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業構想について理解するとともに、指導案の作成と模擬授業の実施を通して、家庭科の指導を行うための知識、技能、態度などを身に付ける。具体的には教材観、児童観、教材の系統観、指導観について理解し、学習指導要領で求められている適切な題材の設定ができる力を養い、児童の学習活動や教師の支援について具体的な計画を立て、教師としての資質を高め、自らの立てた指導案がより適切であったかについて探求し、模擬授業におけるPDCAを実施する。

### <授業の到達目標>

母校の小学校の教育目標や目指す子供像を参考に、仮想の教育目標や目指す子供像を設定して3つの題材目標「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」を定め、題材全体の指導を通してどのような子供を育成したいのか、子供たちにどんな力を付けてやりたいかを考えて指導案を書くことができる。そして、その指導案で模擬授業を行い、模擬授業についてフィードバックし、考察と改善が図れる。

### <授業の方法>

今までは、パワーポイントを使って年間指導計画や題材指導計画、家庭科学習指導案の書き方、「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」などの内容について説明した後、模擬授業を実施していたが、今年度は、新しい試みとして、ディスカッションやグループワーク、フィールドワーク等、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を実施する。但し、家庭科学習指導案の書き方だけは分かりにくいので、ICTを使って説明をする。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて1単位時間の授業で大切にしたいこと・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善には、「題材など内容や時間のまとまりを見直す」ことが大切である。また、「主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全て実現されるものではない」とあるように、1単位時間ごとの授業実践を積み重ね、子供の学びの姿を丁寧に捉えていくことで、子供が自分の成長を自覚し、実践する喜びへとつながっていくようにする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

グループで仮想の学校及び子供の実態を想定して題材を決め、家庭科学習指導案を考える。指導案が完成したら、それを基にグループでしっかり話し合い、必要な教材・教具を作って模擬授業の練習を行ったり、使用するワークシートや振り返りカードを作ったりする。（必要な時間は、グループにより異なる。）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

模擬授業20%、定期試験（レポートを含む）80%とし、模擬授業ごとに、授業後すぐに指導案や授業態度、板書の仕方、発問等について振り返りコメントを行う。

### <教科書>

文部科学省（2018年） 「小学校学習指導要領解説 家庭編」 東洋館出版社  
 鳴海多恵子他（2020年） 「わたしたちの家庭科」 開隆堂

### <参考書>

佐藤文子・金子佳代子他（2021年） 「新編 新しい技術・家庭」家庭分野」 東京書籍  
 文部科学省（2017年） 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」 東洋館出版社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	I 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業の構想 II 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて1単位時間の授業で大切にしたいこと	I 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業の構想 1 題材の配列を工夫する 2 学習過程を工夫する 3 見方・考え方を働かせられるようにする II 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて1単位時間の授業で大切にしたいこと 1 記録の工夫 2 板書の活用
2	新学習指導要領の具体的な内容について	・学習指導要領の変遷・家庭科の新学習指導要領への流れ
3	家庭科の学習指導案の書き方と評価について知る。	・家庭科学習指導案の書き方・「指導と評価の一体化」のための学習評価
4	「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びについて学ぶ。	「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びとは・授業するとき大切な事・教師としてのマナー ※ 模擬授業のグループ分けと相談

5	「A 家族・家庭生活」領域の内容理解 (ICT活用 5・6年生)	・生活時間の記入・仕事の分担
6	「B 衣食住の生活」領域の内容理解 (ICT活用 5・6年生)	・五大栄養素から6つの基礎食品まで・生活を豊かにするための布を用いた製作・快適な住まい方
7	「C 消費生活・環境」領域の内容理解 (ICT活用 5・6年生)	・新しい取扱い表示について・洗濯表示すごろく
8	模擬授業について話し合い	グループに分かれて模擬授業について話し合いをする。
9	模擬授業と評価(1)(2)	「A 家族・家庭生活」(5年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
10	模擬授業と評価(3)(4)	「B 衣食住の生活」(5年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
11	模擬授業と評価(5)(6)	「C 消費生活・環境」(5年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
12	模擬授業と評価(7)(8)	「A 家族・家庭生活」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
13	模擬授業と評価(9)(10)	「B 衣食住の生活」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
14	模擬授業と評価(11)(12)	「C 消費生活・環境」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
15	模擬授業全体についての振り返りと授業 改善コロナが収束し、大学の許可が下り たら、ご飯とみそ汁の調理実習の予定	模擬授業全体についての振り返りと授業改善コロナが収束し、大学の許可が下りたら、ご飯とみそ汁の調理実習の予定
16	期末試験	期末試験

科目コード	32307				区 分	コア科目			
授業科目名	生活科教育法 [FE2331組用]				担当者名	三 堀 仁			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

生活科は低学年児童の発達特性を踏まえた教科である。その指導にあたっては、児童の意識の流れを大切にしたり気付きの質を高めたりすることが求められる。「活動あって学びなし」の生活科に陥らないように、指導のポイントを把握することが重要である。本科目では、学習指導要領及び解説に示された事項を確認するとともに、具体的な授業場面を想定し、生活科の教育法を身に付けることを目指す。

### <授業の到達目標>

生活科は低学年児童の発達の段階や特性を踏まえた上で見通しをもって学習指導を行わなければならない教科である。したがって以下の点を修得することを目指す。１．各内容やそれを扱う単元における授業のポイントを理解する。２．ICT機器を活用するなどして指導技術を身に付ける。３．模擬授業や研究協議を通して授業改善の方法を身に付ける。

### <授業の方法>

教材研究の段階（①～⑨）では、教員による内容１～９の解説、授業づくりのポイントの指導を行う。その際、教科書のデジタルコンテンツを開き、実際に体験するとともに、児童に端末の使い方を教えられるようにする。また、デジタル生活科マップなどを紹介し、ICTの活用方法を考えることができるようにする。模擬授業の段階（⑩～⑮）では、グループによる発表と、それを受けての研究協議、リフレクション（自己評価）を行う。発表グループ以外は授業評価を行うとともに、反省点を自分たちのグループに反映するようカリキュラム改善を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業の中で、グループ協議を行うようにする。またグループで指導案を作成し、役割分担しながら模擬授業を行うようにする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：課題として指示されたテキストのページに目を通し、疑問点は整理しておく（１時間程度）。復習：本時の授業内容について、整理したり理解を深めたりする（１時間程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度40％、学習状況30％、レポート等30％

### <教科書>

田村学ほか ２０２４年 あたらしいせいかつ 上 東京書籍

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	生活科の目標・内容	学習指導要領解説をもとに、生活科の目標・内容等を理解する。
2	生活科の方法・評価	生活科の学習方法と評価について理解する。
3	生活科の教科特性	児童の発達段階を踏まえた生活科の教科特性を理解する。
4	生活科の授業の実際①	生活科の授業場面を視聴して児童の学びの様子を把握する。
5	生活科の授業の実際②	生活科の授業場面を視聴して教師の指導の様子を把握する。
6	生活科の授業展開の工夫	生活科の授業展開の方法について実践事例を通して理解する。
7	生活科の教材研究（ICTを含む）	デジタル生活科マップを取り上げ、その作成方法を理解する。
8	生活科の指導案	生活科の指導案の作成方法を理解する。
9	生活科の指導案の作成と模擬授業の準備	グループで指導案を作成し、模擬授業の準備をする。
10	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
11	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
12	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
13	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
14	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。

15	生活科の授業記録 授業のまとめ	生活科の授業記録から授業の流れのポイントをつかむ。授業のまとめをする。
16		

科目コード	32307				区 分	コア科目			
授業科目名	生活科教育法 [FE2332組用]				担当者名	三堀 仁			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

生活科は低学年児童の発達特性を踏まえた教科である。その指導にあたっては、児童の意識の流れを大切にしたり気付きの質を高めたりすることが求められる。「活動あって学びなし」の生活科に陥らないように、指導のポイントを把握することが重要である。本科目では、学習指導要領及び解説に示された事項を確認するとともに、具体的な授業場面を想定し、生活科の教育法を身に付けることを目指す。

### <授業の到達目標>

生活科は低学年児童の発達の段階や特性を踏まえた上で見通しをもって学習指導を行わなければならない教科である。したがって以下の点を修得することを目指す。１．各内容やそれを扱う単元における授業のポイントを理解する。２．ICT機器を活用するなどして指導技術を身に付ける。３．模擬授業や研究協議を通して授業改善の方法を身に付ける。

### <授業の方法>

教材研究の段階（①～⑨）では、教員による内容１～９の解説、授業づくりのポイントの指導を行う。その際、教科書のデジタルコンテンツを開き、実際に体験するとともに、児童に端末の使い方を教えられるようにする。また、デジタル生活科マップなどを紹介し、ICTの活用方法を考えることができるようにする。模擬授業の段階（⑩～⑮）では、グループによる発表と、それを受けての研究協議、リフレクション（自己評価）を行う。発表グループ以外は授業評価を行うとともに、反省点を自分たちのグループに反映するようカリキュラム改善を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業の中で、グループ協議を行うようにする。またグループで指導案を作成し、役割分担しながら模擬授業を行うようにする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：課題として指示されたテキストのページに目を通し、疑問点は整理しておく（１時間程度）。復習：本時の授業内容について、整理したり理解を深めたりする（１時間程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度40％、学習状況30％、レポート等30％

### <教科書>

田村学ほか ２０２４年 あたらしいせいかつ 上 東京書籍

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	生活科の目標・内容	学習指導要領解説をもとに、生活科の目標・内容等を理解する。
2	生活科の方法・評価	生活科の学習方法と評価について理解する。
3	生活科の教科特性	児童の発達段階を踏まえた生活科の教科特性を理解する。
4	生活科の授業の実際①	生活科の授業場面を視聴して児童の学びの様子を把握する。
5	生活科の授業の実際②	生活科の授業場面を視聴して教師の指導の様子を把握する。
6	生活科の授業展開の工夫	生活科の授業展開の方法について実践事例を通して理解する。
7	生活科の教材研究（ICTを含む）	デジタル生活科マップを取り上げ、その作成方法を理解する。
8	生活科の指導案	生活科の指導案の作成方法を理解する。
9	生活科の指導案の作成と模擬授業の準備	グループで指導案を作成し、模擬授業の準備をする。
10	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
11	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
12	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
13	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
14	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。

15	生活科の授業記録 授業のまとめ	生活科の授業記録から授業の流れのポイントをつかむ。授業のまとめをする。
16		

科目コード	32307				区 分	コア科目			
授業科目名	生活科教育法 [FE2333組用]				担当者名	三 堀 仁			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

生活科は低学年児童の発達特性を踏まえた教科である。その指導にあたっては、児童の意識の流れを大切にしたり気付きの質を高めたりすることが求められる。「活動あって学びなし」の生活科に陥らないように、指導のポイントを把握することが重要である。本科目では、学習指導要領及び解説に示された事項を確認するとともに、具体的な授業場面を想定し、生活科の教育法を身に付けることを目指す。

### <授業の到達目標>

生活科は低学年児童の発達の段階や特性を踏まえた上で見通しをもって学習指導を行わなければならない教科である。したがって以下の点を修得することを目指す。１．各内容やそれを扱う単元における授業のポイントを理解する。２．ICT機器を活用するなどして指導技術を身に付ける。３．模擬授業や研究協議を通して授業改善の方法を身に付ける。

### <授業の方法>

教材研究の段階（①～⑨）では、教員による内容１～９の解説、授業づくりのポイントの指導を行う。その際、教科書のデジタルコンテンツを開き、実際に体験するとともに、児童に端末の使い方を教えられるようにする。また、デジタル生活科マップなどを紹介し、ICTの活用方法を考えることができるようにする。模擬授業の段階（⑩～⑮）では、グループによる発表と、それを受けての研究協議、リフレクション（自己評価）を行う。発表グループ以外は授業評価を行うとともに、反省点を自分たちのグループに反映するようカリキュラム改善を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業の中で、グループ協議を行うようにする。またグループで指導案を作成し、役割分担しながら模擬授業を行うようにする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：課題として指示されたテキストのページに目を通し、疑問点は整理しておく（１時間程度）。復習：本時の授業内容について、整理したり理解を深めたりする（１時間程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度40％、学習状況30％、レポート等30％

### <教科書>

田村学ほか ２０２４年 あたらしいせいかつ 上 東京書籍

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	生活科の目標・内容	学習指導要領解説をもとに、生活科の目標・内容等を理解する。
2	生活科の方法・評価	生活科の学習方法と評価について理解する。
3	生活科の教科特性	児童の発達段階を踏まえた生活科の教科特性を理解する。
4	生活科の授業の実際①	生活科の授業場面を視聴して児童の学びの様子を把握する。
5	生活科の授業の実際②	生活科の授業場面を視聴して教師の指導の様子を把握する。
6	生活科の授業展開の工夫	生活科の授業展開の方法について実践事例を通して理解する。
7	生活科の教材研究（ICTを含む）	デジタル生活科マップを取り上げ、その作成方法を理解する。
8	生活科の指導案	生活科の指導案の作成方法を理解する。
9	生活科の指導案の作成と模擬授業の準備	グループで指導案を作成し、模擬授業の準備をする。
10	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
11	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
12	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
13	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
14	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。

15	生活科の授業記録 授業のまとめ	生活科の授業記録から授業の流れのポイントをつかむ。授業のまとめをする。
16		

科目コード	32307				区 分	コア科目			
授業科目名	生活科教育法〔他学科A〕				担当者名	三堀 仁			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

生活科は低学年児童の発達特性を踏まえた教科である。その指導にあたっては、児童の意識の流れを大切にしたり気付きの質を高めたりすることが求められる。「活動あって学びなし」の生活科に陥らないように、指導のポイントを把握することが重要である。本科目では、学習指導要領及び解説に示された事項を確認するとともに、具体的な授業場面を想定し、生活科の教育法を身に付けることを目指す。

### <授業の到達目標>

生活科は低学年児童の発達の段階や特性を踏まえた上で見通しをもって学習指導を行わなければならない教科である。したがって以下の点を修得することを目指す。１．各内容やそれを扱う単元における授業のポイントを理解する。２．ICT機器を活用するなどして指導技術を身に付ける。３．模擬授業や研究協議を通して授業改善の方法を身に付ける。

### <授業の方法>

教材研究の段階（①～⑨）では、教員による内容１～９の解説、授業づくりのポイントの指導を行う。その際、教科書のデジタルコンテンツを開き、実際に体験するとともに、児童に端末の使い方を教えられるようにする。また、デジタル生活科マップなどを紹介し、ICTの活用方法を考えることができるようにする。模擬授業の段階（⑩～⑮）では、グループによる発表と、それを受けての研究協議、リフレクション（自己評価）を行う。発表グループ以外は授業評価を行うとともに、反省点を自分たちのグループに反映するようカリキュラム改善を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業の中で、グループ協議を行うようにする。またグループで指導案を作成し、役割分担しながら模擬授業を行うようにする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：課題として指示されたテキストのページに目を通し、疑問点は整理しておく（１時間程度）。復習：本時の授業内容について、整理したり理解を深めたりする（１時間程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度40％、学習状況30％、レポート等30％

### <教科書>

田村学ほか ２０２４年 あたらしいせいかつ 上 東京書籍

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	生活科の目標・内容	学習指導要領解説をもとに、生活科の目標・内容等を理解する。
2	生活科の方法・評価	生活科の学習方法と評価について理解する。
3	生活科の教科特性	児童の発達段階を踏まえた生活科の教科特性を理解する。
4	生活科の授業の実際①	生活科の授業場面を視聴して児童の学びの様子を把握する。
5	生活科の授業の実際②	生活科の授業場面を視聴して教師の指導の様子を把握する。
6	生活科の授業展開の工夫	生活科の授業展開の方法について実践事例を通して理解する。
7	生活科の教材研究（ICTを含む）	デジタル生活科マップを取り上げ、その作成方法を理解する。
8	生活科の指導案	生活科の指導案の作成方法を理解する。
9	生活科の指導案の作成と模擬授業の準備	グループで指導案を作成し、模擬授業の準備をする。
10	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
11	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
12	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
13	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
14	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。

15	生活科の授業記録 授業のまとめ	生活科の授業記録から授業の流れのポイントをつかむ。授業のまとめをする。
16		

科目コード	32307				区 分	コア科目			
授業科目名	生活科教育法 [他学科B]				担当者名	三堀 仁			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

生活科は低学年児童の発達特性を踏まえた教科である。その指導にあたっては、児童の意識の流れを大切にしたり気付きの質を高めたりすることが求められる。「活動あって学びなし」の生活科に陥らないように、指導のポイントを把握することが重要である。本科目では、学習指導要領及び解説に示された事項を確認するとともに、具体的な授業場面を想定し、生活科の教育法を身に付けることを目指す。

### <授業の到達目標>

生活科は低学年児童の発達の段階や特性を踏まえた上で見通しをもって学習指導を行わなければならない教科である。したがって以下の点を修得することを目指す。１．各内容やそれを扱う単元における授業のポイントを理解する。２．ICT機器を活用するなどして指導技術を身に付ける。３．模擬授業や研究協議を通して授業改善の方法を身に付ける。

### <授業の方法>

教材研究の段階（①～⑨）では、教員による内容１～９の解説、授業づくりのポイントの指導を行う。その際、教科書のデジタルコンテンツを開き、実際に体験するとともに、児童に端末の使い方を教えられるようにする。また、デジタル生活科マップなどを紹介し、ICTの活用方法を考えることができるようにする。模擬授業の段階（⑩～⑮）では、グループによる発表と、それを受けての研究協議、リフレクション（自己評価）を行う。発表グループ以外は授業評価を行うとともに、反省点を自分たちのグループに反映するようカリキュラム改善を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業の中で、グループ協議を行うようにする。またグループで指導案を作成し、役割分担しながら模擬授業を行うようにする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：課題として指示されたテキストのページに目を通し、疑問点は整理しておく（１時間程度）。復習：本時の授業内容について、整理したり理解を深めたりする（１時間程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度40％、学習状況30％、レポート等30％

### <教科書>

田村学ほか ２０２４年 あたらしいせいかつ 上 東京書籍

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	生活科の目標・内容	学習指導要領解説をもとに、生活科の目標・内容等を理解する。
2	生活科の方法・評価	生活科の学習方法と評価について理解する。
3	生活科の教科特性	児童の発達段階を踏まえた生活科の教科特性を理解する。
4	生活科の授業の実際①	生活科の授業場面を視聴して児童の学びの様子を把握する。
5	生活科の授業の実際②	生活科の授業場面を視聴して教師の指導の様子を把握する。
6	生活科の授業展開の工夫	生活科の授業展開の方法について実践事例を通して理解する。
7	生活科の教材研究（ICTを含む）	デジタル生活科マップを取り上げ、その作成方法を理解する。
8	生活科の指導案	生活科の指導案の作成方法を理解する。
9	生活科の指導案の作成と模擬授業の準備	グループで指導案を作成し、模擬授業の準備をする。
10	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
11	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
12	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
13	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
14	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。

15	生活科の授業記録 授業のまとめ	生活科の授業記録から授業の流れのポイントをつかむ。授業のまとめをする。
16		

科目コード	32308				区 分	コア科目			
授業科目名	体育科教育法 [FE2332組用]				担当者名	中安 翼			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

スポーツ・遊び・子ども（人間）との関係を紐解きながら、小学校の体育授業についてディスカッションを通して創造していく。これまで培ってきた自らの経験を相対化しつつ、これから求められる小学校体育について考えを深めることとする。このことに迫るために、実際に体育館で体を動かしながら考えたり、教室でディスカッションを通して考えたり、書籍を読んで深く思考したりしながら学ぶ。※ただし、受講者の様子等によって下記の授業計画については随時変更することがある。

### <授業の到達目標>

1. 「体育科」の意義や目標を理解し、小学校の体育授業を思考する基礎的知識や考え方を学ぶことができる。2. これからの小学校体育についてデザインし、授業実践力を身につける。3. これからの小学校体育を考え続けようとする態度を身につける。

### <授業の方法>

体育館での実践や教室でのディスカッションを通して学びを深める。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでのディスカッション、指導案作成、模擬授業

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：（適宜）教科書や配付資料等を事前に熟読し、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。

復習：（適宜）講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートを作成し提出する。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義・ディスカッション・実技等に対する関心・意欲・態度 30% レポート・指導案等 40% 小テスト 30%

### <教科書>

文部科学省（平成29年7月） 小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 体育編 東洋館出版社

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションと自らが受けてきた小学校体育	授業の概要授業の進め方自らが受けてきた小学校体育
2	やってみよう！小学校体育	実際に動きながら小学校体育について考えてみる
3	運動が苦手な児童と小学校体育	運動が苦手な児童が見えている世界はどんな世界？
4	小学校体育って何を学ぶ教科？	具体的な単元から、小学校体育と何を学ぶ教科なのかについて考える。学習指導要領の変遷をおさえる。
5	小学校の体育授業をデザインするためには？	体育授業をデザインするために必要な内容とは？学習指導要領から紐解く
6	小学校体育で扱う運動・スポーツとは？	どのような条件が整えば、子どもたちの豊かな学びを保障できるのかについて検討する。プレイ論からの解説を含む
7	小学校体育授業をデザインしてみよう	ワクワク・ドキドキする授業はいかにしてデザイン可能か？授業をどのようにチェックするのかといった評価論も含む
8	小学校体育授業のデザインを他者と共有するためには？	より良い実践に向けた単元計画のあり方と内容
9	実践を通して見えてくる教師に必要なこととは？	授業を実施する上で、教師に必要なこととは何か？模擬授業を通して考えてみる
10	集団スポーツの授業デザインとは？	集団スポーツの授業をデザインする際に必要な目標・内容・方法・評価の関係について検討する
11	個人スポーツの授業デザインとは？	個人スポーツの授業をデザインする際に必要な目標・内容・方法・評価の関係について検討する
12	授業をより良くするためのサイクルとは？	授業をより良くするための方法と考え方
13	改めて小学校体育に重要なこととは何か？	これからの社会と子ども・スポーツの関係を編み直す
14	未来の小学校体育をデザインする	10年後の体育授業をデザインするために必要な能力とは何か？教師の価値判断と

15	まとめ	子どもの学び
16		この授業を振り返って、自らの、チームの、クラスの学びを言語化する。生き方の哲学について

科目コード	32308				区 分	コア科目			
授業科目名	体育科教育法 [FE2331組用]				担当者名	中安 翼			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

スポーツ・遊び・子ども（人間）との関係を紐解きながら、小学校の体育授業についてディスカッションを通して創造していく。これまで培ってきた自らの経験を相対化しつつ、これから求められる小学校体育について考えを深めることとする。このことに迫るために、実際に体育館で体を動かしながら考えたり、教室でディスカッションを通して考えたり、書籍を読んで深く思考したりしながら学ぶ。※ただし、受講者の様子等によって下記の授業計画については随時変更することがある。

### <授業の到達目標>

1. 「体育科」の意義や目標を理解し、小学校の体育授業を思考する基礎的知識や考え方を学ぶことができる。2. これからの小学校体育についてデザインし、授業実践力を身につける。3. これからの小学校体育を考え続けようとする態度を身につける。

### <授業の方法>

体育館での実践や教室でのディスカッションを通して学びを深める。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでのディスカッション、指導案作成、模擬授業

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：（適宜）教科書や配付資料等を事前に熟読し、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。

復習：（適宜）講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートを作成し提出する。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義・ディスカッション・実技等に対する関心・意欲・態度 30% レポート・指導案等 40% 小テスト 30%

### <教科書>

文部科学省（平成29年7月） 小学校学習指導要領〈平成29年度告示〉解説 体育編 東洋館出版社

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションと自らが受けてきた小学校体育	授業の概要授業の進め方自らが受けてきた小学校体育
2	やってみよう！小学校体育	実際に動きながら小学校体育について考えてみる
3	運動が苦手な児童と小学校体育	運動が苦手な児童が見えている世界はどんな世界？
4	小学校体育って何を学ぶ教科？	具体的な単元から、小学校体育と何を学ぶ教科なのかについて考える。学習指導要領の変遷をおさえる。
5	小学校の体育授業をデザインするためには？	体育授業をデザインするために必要な内容とは？学習指導要領から紐解く
6	小学校体育で扱う運動・スポーツとは？	どのような条件が整えば、子どもたちの豊かな学びを保障できるのかについて検討する。プレイ論からの解説を含む
7	小学校体育授業をデザインしてみよう	ワクワク・ドキドキする授業はいかにしてデザイン可能か？授業をどのようにチェックするのかといった評価論も含む
8	小学校体育授業のデザインを他者と共有するためには？	より良い実践に向けた単元計画のあり方と内容
9	実践を通して見えてくる教師に必要なこととは？	授業を実施する上で、教師に必要なこととは何か？模擬授業を通して考えてみる
10	集団スポーツの授業デザインとは？	集団スポーツの授業をデザインする際に必要な目標・内容・方法・評価の関係について検討する
11	個人スポーツの授業デザインとは？	個人スポーツの授業をデザインする際に必要な目標・内容・方法・評価の関係について検討する
12	授業をより良くするためのサイクルとは？	授業をより良くするための方法と考え方
13	改めて小学校体育に重要なこととは何か？	これからの社会と子ども・スポーツの関係を編み直す
14	未来の小学校体育をデザインする	10年後の体育授業をデザインするために必要な能力とは何か？教師の価値判断と

15	まとめ	子どもの学び
16		この授業を振り返って、自らの、チームの、クラスの学びを言語化する。生き方の哲学について

科目コード	32308				区 分	コア科目			
授業科目名	体育科教育法 [FE2333組用]				担当者名	中安 翼			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

スポーツ・遊び・子ども（人間）との関係を紐解きながら、小学校の体育授業についてディスカッションを通して創造していく。これまで培ってきた自らの経験を相対化しつつ、これから求められる小学校体育について考えを深めることとする。このことに迫るために、実際に体育館で体を動かしながら考えたり、教室でディスカッションを通して考えたり、書籍を読んで深く思考したりしながら学ぶ。※ただし、受講者の様子等によって下記の授業計画については随時変更することがある。

### <授業の到達目標>

1. 「体育科」の意義や目標を理解し、小学校の体育授業を思考する基礎的知識や考え方を学ぶことができる。2. これからの小学校体育についてデザインし、授業実践力を身につける。3. これからの小学校体育を考え続けようとする態度を身につける。

### <授業の方法>

体育館での実践や教室でのディスカッションを通して学びを深める。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでのディスカッション、指導案作成、模擬授業

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：（適宜）教科書や配付資料等を事前に熟読し、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。

復習：（適宜）講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートを作成し提出する。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義・ディスカッション・実技等に対する関心・意欲・態度 30% レポート・指導案等 40% 小テスト 30%

### <教科書>

文部科学省（平成29年7月） 小学校学習指導要領〈平成29年度告示〉解説 体育編 東洋館出版社

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションと自らが受けてきた小学校体育	授業の概要授業の進め方自らが受けてきた小学校体育
2	やってみよう！小学校体育	実際に動きながら小学校体育について考えてみる
3	運動が苦手な児童と小学校体育	運動が苦手な児童が見えている世界はどんな世界？
4	小学校体育って何を学ぶ教科？	具体的な単元から、小学校体育と何を学ぶ教科なのかについて考える。学習指導要領の変遷をおさえる。
5	小学校の体育授業をデザインするためには？	体育授業をデザインするために必要な内容とは？学習指導要領から紐解く
6	小学校体育で扱う運動・スポーツとは？	どのような条件が整えば、子どもたちの豊かな学びを保障できるのかについて検討する。プレイ論からの解説を含む
7	小学校体育授業をデザインしてみよう	ワクワク・ドキドキする授業はいかにしてデザイン可能か？授業をどのようにチェックするのかといった評価論も含む
8	小学校体育授業のデザインを他者と共有するためには？	より良い実践に向けた単元計画のあり方と内容
9	実践を通して見えてくる教師に必要なこととは？	授業を実施する上で、教師に必要なこととは何か？模擬授業を通して考えてみる
10	集団スポーツの授業デザインとは？	集団スポーツの授業をデザインする際に必要な目標・内容・方法・評価の関係について検討する
11	個人スポーツの授業デザインとは？	個人スポーツの授業をデザインする際に必要な目標・内容・方法・評価の関係について検討する
12	授業をより良くするためのサイクルとは？	授業をより良くするための方法と考え方
13	改めて小学校体育に重要なこととは何か？	これからの社会と子ども・スポーツの関係を編み直す
14	未来の小学校体育をデザインする	10年後の体育授業をデザインするために必要な能力とは何か？教師の価値判断と

15	まとめ	子どもの学び
16		この授業を振り返って、自らの、チームの、クラスの学びを言語化する。生き方の哲学について

科目コード	32308				区 分	コア科目			
授業 科目名	体育科教育法 [他学科]				担当者名	中安 翼			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

これから求められる小学校の体育について考えを深めるとともに、授業を行う上での基本的な指導方法を学ぶ。教室でディスカッションをしたり、実際に体育館で体を動かしたり、模擬授業を行ったりしながら進めていく。※ただし、受講者の様子等によって下記の授業計画については随時変更することがある。

### <授業の到達目標>

1. 「体育科」の意義や目標を理解し、小学校の体育授業を思考する基礎的知識や考え方を身につける。2. これからの小学校体育についてデザインし、授業実践力を身につける。

### <授業の方法>

教室でのディスカッションや体育館での実践、模擬授業を通して学びを深める。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでのディスカッション、指導案作成、模擬授業

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：（適宜）教科書や配付資料等を事前に熟読し、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。

復習：（適宜）講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートを作成し提出する。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義・ディスカッション・実技等に対する関心・意欲・態度 50% レポート・模擬授業等 50%

### <教科書>

文部科学省（平成29年7月） 小学校学習指導要領〈平成29年度告示〉解説 体育編 東洋館出版社

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション（講義）	授業の概要授業の進め方自らが受けてきた小学校体育
2	小学校体育って何を学ぶ教科？（講義）	小学校で体育を学ぶ意味や目的について考える
3	小学校体育の授業構成（講義）	体育授業の基本的な構成を考える
4	小学校の体育をやってみよう（実技）	小学生の気持ちになつて実際に小学校の体育で行われる教材を体験する
5	小学校の体育を分析しよう（実技）	子供の視点と共に、指導者側の視点を意識しながら体育の授業を体験する
6	体育授業における「めあて」と「活動の説明」（実技）	めあての立て方や活動の説明を実際にやってみながら考える
7	体育授業における「活動中の声かけ」（実技）	体育授業における活動中の声かけの仕方について実際にやってみながら考える
8	体育授業の教材研究をしよう（講義）	資料をもとに体育授業の教材研究の仕方を考える
9	体育授業の教材研究をしよう（実技）	実際に体を動かしながら体育授業の内容を考える
10	模擬授業の準備をしよう（実技）	実際に動きながら模擬授業に向けて準備する
11	模擬授業をやってみよう①	模擬授業を行い、授業の成果と課題について考える
12	模擬授業をやってみよう②	模擬授業を行い、授業の成果と課題について考える
13	模擬授業をやってみよう③	模擬授業を行い、授業の成果と課題について考える
14	模擬授業をやってみよう④	模擬授業を行い、授業の成果と課題について考える
15	まとめ（講義）	これまでの授業で学んだことを振り返り、小学校体育の授業づくりについて自分の考えをまとめる
16		

科目コード	32312				区 分	コア科目			
授業科目名	図画工作科教育法〔他学科A〕				担当者名	村上 尚徳			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### ＜授業の概要＞

本授業では、図画工作科の目標、内容、指導法及び評価について理解するとともに、子どもの視点に立った教材開発・カリキュラム編成の理論と方法を習得する。また、グループによる主体的で対話的な深い学びにつながる活動やICTの活用など、指導法の工夫等も取り入れ、最終的には模擬授業の計画、実施を通して、授業を構築し実践する力の育成を目指す。

### ＜授業の到達目標＞

1. 図画工作科における教育目標、育成する資質・能力等を理解し、学習指導要領に示された学習内容について、美術や美術文化などの関連も含めて理解を深めることができる。2. 学習指導理論や実践例等を踏まえて、子どもの視点に立った教材開発、カリキュラム編成、授業計画の作成、教材機器の活用等と実践方法を習得することができる。

### ＜授業の方法＞

1. 資料や事例、製作体験に基づく講義と協議。2. 表現や鑑賞の体験を基にした学習指導要領における位置付け等の理解。3. グループによる模擬授業の検討、教材作成、授業の実施（PowerPoint等の活用）、及び全体協議。

### ＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

グループでの制作活動、鑑賞活動

### ＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前は、指示された資料を事前に予習したり、準備物（材料、用具等）を準備したりすること（1時間程度）。授業後は、配布された資料を復習したり、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること（1時間程度）。

### ＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### ＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作品及びレポート・小テスト等 80%、授業への積極的参加態度 20%

### ＜教科書＞

文部科学省（2018） 「小学校学習指導要領解説図画工作編」 日本文教出版

### ＜参考書＞

### ＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	図画工作科の意義	図画工作科の意義と課題
2	教科の目標と内容の概要	学習指導要領の構成と内容の理解
3	材料をもとにした造形遊び(1)	共同製作（グループ活動）
4	材料をもとにした造形遊び(2)	「材料を基にした造形遊び」の理解
5	絵や立体、工作に表す(1)	子どもの発達と絵・「絵や立体、工作に表す」の理解
6	絵や立体、工作に表す(2)	絵に関する作品製作1
7	絵や立体、工作に表す(3)	絵に関する作品製作2
8	鑑賞	「鑑賞」の理解と対話による学び（グループ活動）
9	カリキュラムと授業の構想、評価	学習指導と評価
10	学習指導案の理解	学習指導案の書き方
11	教材研究	題材開発、機器の利用、学習指導案の作成（グループ活動）
12	模擬授業(1)	模擬授業の実施と協議(グループ1) ※学生のICT活用
13	模擬授業(2)	模擬授業の実施と協議(グループ2) ※学生のICT活用
14	模擬授業(3)	模擬授業の実施と協議(グループ3) ※学生のICT活用
15	図画工作科で育成する資質・能力と授業の具体について	まとめ
16		

科目コード	32312				区 分	コア科目			
授業科目名	図画工作科教育法〔他学科B〕				担当者名	村上 尚徳			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業では、図画工作科の目標、内容、指導法及び評価について理解するとともに、子どもの視点に立った教材開発・カリキュラム編成の理論と方法を習得する。また、グループによる主体的で対話的な深い学びにつながる活動やICTの活用など、指導法の工夫等も取り入れ、最終的には模擬授業の計画、実施を通して、授業を構築し実践する力の育成を目指す。

### <授業の到達目標>

1. 図画工作科における教育目標、育成する資質・能力等を理解し、学習指導要領に示された学習内容について、美術や美術文化などの関連も含めて理解を深めることができる。2. 学習指導理論や実践例等を踏まえて、子どもの視点に立った教材開発、カリキュラム編成、授業計画の作成、教材機器の活用等と実践方法を習得することができる。

### <授業の方法>

1. 資料や事例、製作体験に基づく講義と協議。2. 表現や鑑賞の体験を基にした学習指導要領における位置付け等の理解。3. グループによる模擬授業の検討、教材作成、授業の実施（PowerPoint等の活用）、及び全体協議。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでの制作活動、鑑賞活動

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前は、指示された資料を事前に予習したり、準備物（材料、用具等）を準備したりすること（1時間程度）。授業後は、配布された資料を復習したり、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること（1時間程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作品及びレポート・小テスト等 80%、授業への積極的参加態度 20%

### <教科書>

文部科学省（2018） 「小学校学習指導要領解説図画工作編」 日本文教出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	図画工作科の意義	図画工作科の意義と課題
2	教科の目標と内容の概要	学習指導要領の構成と内容の理解
3	材料をもとにした造形遊び(1)	共同製作（グループ活動）
4	材料をもとにした造形遊び(2)	「材料を基にした造形遊び」の理解
5	絵や立体、工作に表す(1)	子どもの発達と絵・「絵や立体、工作に表す」の理解
6	絵や立体、工作に表す(2)	絵に関する作品製作1
7	絵や立体、工作に表す(3)	絵に関する作品製作2
8	鑑賞	「鑑賞」の理解と対話による学び（グループ活動）
9	カリキュラムと授業の構想、評価	学習指導と評価
10	学習指導案の理解	学習指導案の書き方
11	教材研究	題材開発、機器の利用、学習指導案の作成（グループ活動）
12	模擬授業(1)	模擬授業の実施と協議(グループ1) ※学生のICT活用
13	模擬授業(2)	模擬授業の実施と協議(グループ2) ※学生のICT活用
14	模擬授業(3)	模擬授業の実施と協議(グループ3) ※学生のICT活用
15	図画工作科で育成する資質・能力と授業の具体について	まとめ
16		

科目コード	32312				区 分	コア科目			
授業科目名	図画工作科教育法 [FE2333組用]				担当者名	村上 尚徳			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### ＜授業の概要＞

本授業では、図画工作科の目標、内容、指導法及び評価について理解するとともに、子どもの視点に立った教材開発・カリキュラム編成の理論と方法を習得する。また、グループによる主体的で対話的な深い学びにつながる活動やICTの活用など、指導法の工夫等も取り入れ、最終的には模擬授業の計画、実施を通して、授業を構築し実践する力の育成を目指す。

### ＜授業の到達目標＞

1. 図画工作科における教育目標、育成する資質・能力等を理解し、学習指導要領に示された学習内容について、美術や美術文化などの関連も含めて理解を深めることができる。2. 学習指導理論や実践例等を踏まえて、子どもの視点に立った教材開発、カリキュラム編成、授業計画の作成、教材機器の活用等と実践方法を習得することができる。

### ＜授業の方法＞

1. 資料や事例、製作体験に基づく講義と協議。2. 表現や鑑賞の体験を基にした学習指導要領における位置付け等の理解。3. グループによる模擬授業の検討、教材作成、授業の実施（PowerPoint等の活用）、及び全体協議。

### ＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

グループでの制作活動、鑑賞活動

### ＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前は、指示された資料を事前に予習したり、準備物（材料、用具等）を準備したりすること（1時間程度）。授業後は、配布された資料を復習したり、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること（1時間程度）。

### ＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### ＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作品及びレポート・小テスト等 80%、授業への積極的参加態度 20%

### ＜教科書＞

文部科学省（2018） 「小学校学習指導要領解説図画工作編」 日本文教出版

### ＜参考書＞

### ＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	図画工作科の意義	図画工作科の意義と課題
2	教科の目標と内容の概要	学習指導要領の構成と内容の理解
3	材料をもとにした造形遊び(1)	共同製作（グループ活動）
4	材料をもとにした造形遊び(2)	「材料を基にした造形遊び」の理解
5	絵や立体、工作に表す(1)	子どもの発達と絵・「絵や立体、工作に表す」の理解
6	絵や立体、工作に表す(2)	絵に関する作品製作1
7	絵や立体、工作に表す(3)	絵に関する作品製作2
8	鑑賞	「鑑賞」の理解と対話による学び（グループ活動）
9	カリキュラムと授業の構想、評価	学習指導と評価
10	学習指導案の理解	学習指導案の書き方
11	教材研究	題材開発、機器の利用、学習指導案の作成（グループ活動）
12	模擬授業(1)	模擬授業の実施と協議(グループ1) ※学生のICT活用
13	模擬授業(2)	模擬授業の実施と協議(グループ2) ※学生のICT活用
14	模擬授業(3)	模擬授業の実施と協議(グループ3) ※学生のICT活用
15	図画工作科で育成する資質・能力と授業の具体について	まとめ
16		

科目コード	32312				区 分	コア科目			
授業科目名	図画工作科教育法 [FE2332組用]				担当者名	村上 尚徳			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### ＜授業の概要＞

本授業では、図画工作科の目標、内容、指導法及び評価について理解するとともに、子どもの視点に立った教材開発・カリキュラム編成の理論と方法を習得する。また、グループによる主体的で対話的な深い学びにつながる活動やICTの活用など、指導法の工夫等も取り入れ、最終的には模擬授業の計画、実施を通して、授業を構築し実践する力の育成を目指す。

### ＜授業の到達目標＞

1. 図画工作科における教育目標、育成する資質・能力等を理解し、学習指導要領に示された学習内容について、美術や美術文化などの関連も含めて理解を深めることができる。2. 学習指導理論や実践例等を踏まえて、子どもの視点に立った教材開発、カリキュラム編成、授業計画の作成、教材機器の活用等と実践方法を習得することができる。

### ＜授業の方法＞

1. 資料や事例、製作体験に基づく講義と協議。2. 表現や鑑賞の体験を基にした学習指導要領における位置付け等の理解。3. グループによる模擬授業の検討、教材作成、授業の実施（PowerPoint等の活用）、及び全体協議。

### ＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

グループでの制作活動、鑑賞活動

### ＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前は、指示された資料を事前に予習したり、準備物（材料、用具等）を準備したりすること（1時間程度）。授業後は、配布された資料を復習したり、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること（1時間程度）。

### ＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### ＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作品及びレポート・小テスト等 80%、授業への積極的参加態度 20%

### ＜教科書＞

文部科学省（2018） 「小学校学習指導要領解説図画工作編」 日本文教出版

### ＜参考書＞

### ＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	図画工作科の意義	図画工作科の意義と課題
2	教科の目標と内容の概要	学習指導要領の構成と内容の理解
3	材料をもとにした造形遊び(1)	共同製作（グループ活動）
4	材料をもとにした造形遊び(2)	「材料を基にした造形遊び」の理解
5	絵や立体、工作に表す(1)	子どもの発達と絵・「絵や立体、工作に表す」の理解
6	絵や立体、工作に表す(2)	絵に関する作品製作1
7	絵や立体、工作に表す(3)	絵に関する作品製作2
8	鑑賞	「鑑賞」の理解と対話による学び（グループ活動）
9	カリキュラムと授業の構想、評価	学習指導と評価
10	学習指導案の理解	学習指導案の書き方
11	教材研究	題材開発、機器の利用、学習指導案の作成（グループ活動）
12	模擬授業(1)	模擬授業の実施と協議(グループ1) ※学生のICT活用
13	模擬授業(2)	模擬授業の実施と協議(グループ2) ※学生のICT活用
14	模擬授業(3)	模擬授業の実施と協議(グループ3) ※学生のICT活用
15	図画工作科で育成する資質・能力と授業の具体について	まとめ
16		

科目コード	32312				区 分	コア科目			
授業科目名	図画工作科教育法 [FE2331組用]				担当者名	村上 尚徳			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### ＜授業の概要＞

本授業では、図画工作科の目標、内容、指導法及び評価について理解するとともに、子どもの視点に立った教材開発・カリキュラム編成の理論と方法を習得する。また、グループによる主体的で対話的な深い学びにつながる活動やICTの活用など、指導法の工夫等も取り入れ、最終的には模擬授業の計画、実施を通して、授業を構築し実践する力の育成を目指す。

### ＜授業の到達目標＞

1. 図画工作科における教育目標、育成する資質・能力等を理解し、学習指導要領に示された学習内容について、美術や美術文化などの関連も含めて理解を深めることができる。2. 学習指導理論や実践例等を踏まえて、子どもの視点に立った教材開発、カリキュラム編成、授業計画の作成、教材機器の活用等と実践方法を習得することができる。

### ＜授業の方法＞

1. 資料や事例、製作体験に基づく講義と協議。2. 表現や鑑賞の体験を基にした学習指導要領における位置付け等の理解。3. グループによる模擬授業の検討、教材作成、授業の実施（PowerPoint等の活用）、及び全体協議。

### ＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

グループでの制作活動、鑑賞活動

### ＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前は、指示された資料を事前に予習したり、準備物（材料、用具等）を準備したりすること（1時間程度）。授業後は、配布された資料を復習したり、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること（1時間程度）。

### ＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### ＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作品及びレポート・小テスト等 80%、授業への積極的参加態度 20%

### ＜教科書＞

文部科学省（2018） 「小学校学習指導要領解説図画工作編」 日本文教出版

### ＜参考書＞

### ＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	図画工作科の意義	図画工作科の意義と課題
2	教科の目標と内容の概要	学習指導要領の構成と内容の理解
3	材料をもとにした造形遊び(1)	共同製作（グループ活動）
4	材料をもとにした造形遊び(2)	「材料を基にした造形遊び」の理解
5	絵や立体、工作に表す(1)	子どもの発達と絵・「絵や立体、工作に表す」の理解
6	絵や立体、工作に表す(2)	絵に関する作品製作1
7	絵や立体、工作に表す(3)	絵に関する作品製作2
8	鑑賞	「鑑賞」の理解と対話による学び（グループ活動）
9	カリキュラムと授業の構想、評価	学習指導と評価
10	学習指導案の理解	学習指導案の書き方
11	教材研究	題材開発、機器の利用、学習指導案の作成（グループ活動）
12	模擬授業(1)	模擬授業の実施と協議(グループ1) ※学生のICT活用
13	模擬授業(2)	模擬授業の実施と協議(グループ2) ※学生のICT活用
14	模擬授業(3)	模擬授業の実施と協議(グループ3) ※学生のICT活用
15	図画工作科で育成する資質・能力と授業の具体について	まとめ
16		

科目コード	32313				区 分	コア科目			
授業科目名	小学校英語科教育法 [FE2333組用]				担当者名	羽田 あずさ			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

小学校外国語活動・外国語科の授業映像の視聴、学生が児童の立場での授業体験、学習指導要領などを通して、小学校における外国語教育の意義や学習指導要領に謳われている理念及び学習評価について学ぶ。また、児童期の第二言語習得の特徴についての理解を深め、聞く・話す・読む・書くの4技能における教材・教具について知り、指導技術を身に付ける。グループや全体での多様な形式の模擬授業を行い、基本的な指導技術を身に付けるとともに、ピアフィードバックやディスカッションを通して授業改善する態度を身に付ける。

### <授業の到達目標>

外国語活動・外国語科の授業を行うための資質・能力及び基本的な指導力を次の通り育成することを目指す。1. 小学校課程における外国語教育の意義について、全人教育、国際教育の視点も含めて理解する。2. 学習指導要領に謳われている理念（目標や育成を目指す資質・能力）及び学習評価の在り方について理解する。3. 児童期の第二言語習得の特徴について理解するとともに、他教科連携や児童の実態に応じた指導計画を立案及び教材開発し、授業実践を行う技能を身に付ける。4. ICTを効果的に活用した指導、外部人材とのチームティーチ

### <授業の方法>

・授業体験、授業映像視聴・講義（教員による解説と問いの提示）・ピアフィードバック、ディスカッション・マイクロティーチング、模擬授業

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング（グループディスカッション、ピア・フィードバック、ジグソーなど）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：マイクロティーチングまたは模擬授業準備（2時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業への参加度（ディスカッション、マイクロティーチング） 30％・課題（授業内容振り返り、模擬授業後のレポート）30％・模擬授業及び指導案 40％

### <教科書>

加賀田哲也 Here We Go! 5 光村図書

加賀田哲也 Here We Go! 6 光村図書

文部科学省 Let's Try! 1・Let's Try! 2 東京書籍

### <参考書>

文部科学省（2017年） 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編・外国語活動編 開隆堂

小川隆夫・東仁美（2021） 小学校英語はじめる教科書（改訂版） mpi

池田勝久（2020年） 小学校英語「5領域」評価事例集 教育開発研究所

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	外国語教育導入の経緯、学習指導要領、小中高連携
2	外国語活動（中学年）の授業（1）What do you like? I like blue, 等	子どもの第二言語習得の特徴
3	外国語活動の授業（2）What's this? 等	Small Talk, Classroom English, Teacher Talk, 言語活動
4	外国語活動の授業（3）アルファベットの指導	中学年と高学年の特徴を踏まえた支援の仕方、文字との出合わせ方
5	外国語科（高学年）の授業を体験（1）When is your birthday?等	わかりやすく発表しあうための支援の仕方、多様な子どもへの対応
6	外国語科の授業（2）My town is beautiful, 等	題材の選定・教材（ICTなどの活用を含む）
7	外国語科の授業（3）Where do you want to go? 等	目的・場面・状況を設定した言語活動 相手意識をもたせる発表の支援の仕方
8	外国語科の授業（4）We live together, 等	CLIL：他教科との関連付け 国際教育と英語教育

9	外国語科の授業（5）I can run fast. 等	国語教育との関連、ALT等とのティームティーチング
10	外国語科の授業（6）What do you want to be?等	学習評価、ルーブリック、パフォーマンス評価・ポートフォリオ
11	模擬授業に向けて学習指導案・教材の作成	単元構成、1時間の授業・指導案の書き方
12	模擬授業（1）	授業評価、ディスカッション
13	模擬授業（2）	授業評価、ディスカッション
14	模擬授業（3）	授業評価、ディスカッション
15	模擬授業（4）	授業評価、ディスカッション
16		

科目コード	32313				区 分	コア科目			
授業科目名	小学校英語科教育法 [FE2332組用]				担当者名	羽田 あずさ			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

小学校外国語活動・外国語科の授業映像の視聴、学生が児童の立場での授業体験、学習指導要領などを通して、小学校における外国語教育の意義や学習指導要領に謳われている理念及び学習評価について学ぶ。また、児童期の第二言語習得の特徴についての理解を深め、聞く・話す・読む・書くの4技能における教材・教具について知り、指導技術を身に付ける。グループや全体での多様な形式の模擬授業を行い、基本的な指導技術を身に付けるとともに、ピアフィードバックやディスカッションを通して授業改善する態度を身に付ける。

### <授業の到達目標>

外国語活動・外国語科の授業を行うための資質・能力及び基本的な指導力を次の通り育成することを目指す。1. 小学校課程における外国語教育の意義について、全人教育、国際教育の視点も含めて理解する。2. 学習指導要領に謳われている理念（目標や育成を目指す資質・能力）及び学習評価の在り方について理解する。3. 児童期の第二言語習得の特徴について理解するとともに、他教科連携や児童の実態に応じた指導計画を立案及び教材開発し、授業実践を行う技能を身に付ける。4. ICTを効果的に活用した指導、外部人材とのチームティーチ

### <授業の方法>

・授業体験、授業映像視聴・講義（教員による解説と問いの提示）・ピアフィードバック、ディスカッション・マイクロティーチング、模擬授業

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング（グループディスカッション、ピア・フィードバック、ジグソーなど）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：マイクロティーチングまたは模擬授業準備（2時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業への参加度（ディスカッション、マイクロティーチング） 30％・課題（授業内容振り返り、模擬授業後のレポート）30％・模擬授業及び指導案 40％

### <教科書>

加賀田哲也 Here We Go! 5 光村図書

加賀田哲也 Here We Go! 6 光村図書

文部科学省 Let's Try! 1・Let's Try! 2 東京書籍

### <参考書>

文部科学省（2017年） 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編・外国語活動編 開隆堂

小川隆夫・東仁美（2021） 小学校英語はじめる教科書（改訂版） mpi

池田勝久（2020年） 小学校英語「5領域」評価事例集 教育開発研究所

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	外国語教育導入の経緯、学習指導要領、小中高連携
2	外国語活動（中学年）の授業（1）What do you like? I like blue, 等	子どもの第二言語習得の特徴
3	外国語活動の授業（2）What's this? 等	Small Talk, Classroom English, Teacher Talk, 言語活動
4	外国語活動の授業（3）アルファベットの指導	中学年と高学年の特徴を踏まえた支援の仕方、文字との出合わせ方
5	外国語科（高学年）の授業を体験（1）When is your birthday?等	わかりやすく発表しあうための支援の仕方、多様な子どもへの対応
6	外国語科の授業（2）My town is beautiful, 等	題材の選定・教材（ICTなどの活用を含む）
7	外国語科の授業（3）Where do you want to go? 等	目的・場面・状況を設定した言語活動 相手意識をもたせる発表の支援の仕方
8	外国語科の授業（4）We live together, 等	CLIL：他教科との関連付け 国際教育と英語教育

9	外国語科の授業（5）I can run fast. 等	国語教育との関連、ALT等とのティームティーチング
10	外国語科の授業（6）What do you want to be?等	学習評価、ルーブリック、パフォーマンス評価・ポートフォリオ
11	模擬授業に向けて学習指導案・教材の作成	単元構成、1時間の授業・指導案の書き方
12	模擬授業（1）	授業評価、ディスカッション
13	模擬授業（2）	授業評価、ディスカッション
14	模擬授業（3）	授業評価、ディスカッション
15	模擬授業（4）	授業評価、ディスカッション
16		

科目コード	32313				区 分	コア科目			
授業科目名	小学校英語科教育法 [FE2331組用]				担当者名	羽田 あずさ			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

小学校外国語活動・外国語科の授業映像の視聴、学生が児童の立場での授業体験、学習指導要領などを通して、小学校における外国語教育の意義や学習指導要領に謳われている理念及び学習評価について学ぶ。また、児童期の第二言語習得の特徴についての理解を深め、聞く・話す・読む・書くの4技能における教材・教具について知り、指導技術を身に付ける。グループや全体での多様な形式の模擬授業を行い、基本的な指導技術を身に付けるとともに、ピアフィードバックやディスカッションを通して授業改善する態度を身に付ける。

### <授業の到達目標>

外国語活動・外国語科の授業を行うための資質・能力及び基本的な指導力を次の通り育成することを目指す。1. 小学校課程における外国語教育の意義について、全人教育、国際教育の視点も含めて理解する。2. 学習指導要領に謳われている理念（目標や育成を目指す資質・能力）及び学習評価の在り方について理解する。3. 児童期の第二言語習得の特徴について理解するとともに、他教科連携や児童の実態に応じた指導計画を立案及び教材開発し、授業実践を行う技能を身に付ける。4. ICTを効果的に活用した指導、外部人材とのチームティーチ

### <授業の方法>

・授業体験、授業映像視聴・講義（教員による解説と問いの提示）・ピアフィードバック、ディスカッション・マイクロティーチング、模擬授業

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング（グループディスカッション、ピア・フィードバック、ジグソーなど）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：マイクロティーチングまたは模擬授業準備（2時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業への参加度（ディスカッション、マイクロティーチング） 30％・課題（授業内容振り返り、模擬授業後のレポート）30％・模擬授業及び指導案 40％

### <教科書>

加賀田哲也 Here We Go! 5 光村図書

加賀田哲也 Here We Go! 6 光村図書

文部科学省 Let's Try! 1・Let's Try! 2 東京書籍

### <参考書>

文部科学省（2017年） 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編・外国語活動編 開隆堂

小川隆夫・東仁美（2021） 小学校英語はじめる教科書（改訂版） mpi

池田勝久（2020年） 小学校英語「5領域」評価事例集 教育開発研究所

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	外国語教育導入の経緯、学習指導要領、小中高連携
2	外国語活動（中学年）の授業（1）What do you like? I like blue, 等	子どもの第二言語習得の特徴
3	外国語活動の授業（2）What's this? 等	Small Talk, Classroom English, Teacher Talk, 言語活動
4	外国語活動の授業（3）アルファベットの指導	中学年と高学年の特徴を踏まえた支援の仕方、文字との出合わせ方
5	外国語科（高学年）の授業を体験（1）When is your birthday?等	わかりやすく発表しあうための支援の仕方、多様な子どもへの対応
6	外国語科の授業（2）My town is beautiful, 等	題材の選定・教材（ICTなどの活用を含む）
7	外国語科の授業（3）Where do you want to go? 等	目的・場面・状況を設定した言語活動 相手意識をもたせる発表の支援の仕方
8	外国語科の授業（4）We live together, 等	CLIL：他教科との関連付け 国際教育と英語教育

9	外国語科の授業（5）I can run fast. 等	国語教育との関連、ALT等とのティームティーチング
10	外国語科の授業（6）What do you want to be?等	学習評価、ルーブリック、パフォーマンス評価・ポートフォリオ
11	模擬授業に向けて学習指導案・教材の作成	単元構成、1時間の授業・指導案の書き方
12	模擬授業（1）	授業評価、ディスカッション
13	模擬授業（2）	授業評価、ディスカッション
14	模擬授業（3）	授業評価、ディスカッション
15	模擬授業（4）	授業評価、ディスカッション
16		

科目コード	32313				区 分	コア科目			
授業科目名	小学校英語科教育法 [他学科B]				担当者名	羽田 あずさ			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

小学校外国語活動・外国語科の授業映像の視聴、学生が児童の立場での授業体験、学習指導要領などを通して、小学校における外国語教育の意義や学習指導要領に謳われている理念及び学習評価について学ぶ。また、児童期の第二言語習得の特徴についての理解を深め、聞く・話す・読む・書くの4技能における教材・教具について知り、指導技術を身に付ける。グループや全体での多様な形式の模擬授業を行い、基本的な指導技術を身に付けるとともに、ピアフィードバックやディスカッションを通して授業改善する態度を身に付ける。

### <授業の到達目標>

外国語活動・外国語科の授業を行うための資質・能力及び基本的な指導力を次の通り育成することを目指す。1. 小学校課程における外国語教育の意義について、全人教育、国際教育の視点も含めて理解する。2. 学習指導要領に謳われている理念（目標や育成を目指す資質・能力）及び学習評価の在り方について理解する。3. 児童期の第二言語習得の特徴について理解するとともに、他教科連携や児童の実態に応じた指導計画を立案及び教材開発し、授業実践を行う技能を身に付ける。4. ICTを効果的に活用した指導、外部人材とのチームティーチ

### <授業の方法>

・授業体験、授業映像視聴・講義（教員による解説と問いの提示）・ピアフィードバック、ディスカッション・マイクロティーチング、模擬授業

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング（グループディスカッション、ピア・フィードバック、ジグソーなど）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：マイクロティーチングまたは模擬授業準備（2時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業への参加度（ディスカッション、マイクロティーチング） 30％・課題（授業内容振り返り、模擬授業後のレポート）30％・模擬授業及び指導案 40％

### <教科書>

加賀田哲也 Here We Go! 5 光村図書

加賀田哲也 Here We Go! 6 光村図書

文部科学省 Let's Try! 1・Let's Try! 2 東京書籍

### <参考書>

文部科学省（2017年） 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編・外国語活動編 開隆堂

小川隆夫・東仁美（2021） 小学校英語はじめる教科書（改訂版） mpi

池田勝久（2020年） 小学校英語「5領域」評価事例集 教育開発研究所

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	外国語教育導入の経緯、学習指導要領、小中高連携
2	外国語活動（中学年）の授業（1）What do you like? I like blue, 等	子どもの第二言語習得の特徴
3	外国語活動の授業（2）What's this? 等	Small Talk, Classroom English, Teacher Talk, 言語活動
4	外国語活動の授業（3）アルファベットの指導	中学年と高学年の特徴を踏まえた支援の仕方、文字との出合わせ方
5	外国語科（高学年）の授業を体験（1）When is your birthday?等	わかりやすく発表しあうための支援の仕方、多様な子どもへの対応
6	外国語科の授業（2）My town is beautiful, 等	題材の選定・教材（ICTなどの活用を含む）
7	外国語科の授業（3）Where do you want to go? 等	目的・場面・状況を設定した言語活動 相手意識をもたせる発表の支援の仕方
8	外国語科の授業（4）We live together, 等	CLIL：他教科との関連付け 国際教育と英語教育

9	外国語科の授業（5）I can run fast. 等	国語教育との関連、ALT等とのティームティーチング
10	外国語科の授業（6）What do you want to be?等	学習評価、ルーブリック、パフォーマンス評価・ポートフォリオ
11	模擬授業に向けて学習指導案・教材の作成	単元構成、1時間の授業・指導案の書き方
12	模擬授業（1）	授業評価、ディスカッション
13	模擬授業（2）	授業評価、ディスカッション
14	模擬授業（3）	授業評価、ディスカッション
15	模擬授業（4）	授業評価、ディスカッション
16		

科目コード	32313				区 分	コア科目			
授業科目名	小学校英語科教育法 [他学科A]				担当者名	羽田 あずさ			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

小学校外国語活動・外国語科の授業映像の視聴、学生が児童の立場での授業体験、学習指導要領などを通して、小学校における外国語教育の意義や学習指導要領に謳われている理念及び学習評価について学ぶ。また、児童期の第二言語習得の特徴についての理解を深め、聞く・話す・読む・書くの4技能における教材・教具について知り、指導技術を身に付ける。グループや全体での多様な形式の模擬授業を行い、基本的な指導技術を身に付けるとともに、ピアフィードバックやディスカッションを通して授業改善する態度を身に付ける。

### <授業の到達目標>

外国語活動・外国語科の授業を行うための資質・能力及び基本的な指導力を次の通り育成することを目指す。1. 小学校課程における外国語教育の意義について、全人教育、国際教育の視点も含めて理解する。2. 学習指導要領に謳われている理念（目標や育成を目指す資質・能力）及び学習評価の在り方について理解する。3. 児童期の第二言語習得の特徴について理解するとともに、他教科連携や児童の実態に応じた指導計画を立案及び教材開発し、授業実践を行う技能を身に付ける。4. ICTを効果的に活用した指導、外部人材とのチームティーチ

### <授業の方法>

・授業体験、授業映像視聴・講義（教員による解説と問いの提示）・ピアフィードバック、ディスカッション・マイクロティーチング、模擬授業

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング（グループディスカッション、ピア・フィードバック、ジグソーなど）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：マイクロティーチングまたは模擬授業準備（2時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業への参加度（ディスカッション、マイクロティーチング） 30％・課題（授業内容振り返り、模擬授業後のレポート）30％・模擬授業及び指導案 40％

### <教科書>

加賀田哲也 Here We Go! 5 光村図書

加賀田哲也 Here We Go! 6 光村図書

文部科学省 Let's Try! 1・Let's Try! 2 東京書籍

### <参考書>

文部科学省（2017年） 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編・外国語活動編 開隆堂

小川隆夫・東仁美（2021） 小学校英語はじめる教科書（改訂版） mpi

池田勝久（2020年） 小学校英語「5領域」評価事例集 教育開発研究所

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	外国語教育導入の経緯、学習指導要領、小中高連携
2	外国語活動（中学年）の授業（1）What do you like? I like blue, 等	子どもの第二言語習得の特徴
3	外国語活動の授業（2）What's this? 等	Small Talk, Classroom English, Teacher Talk, 言語活動
4	外国語活動の授業（3）アルファベットの指導	中学年と高学年の特徴を踏まえた支援の仕方、文字との出合わせ方
5	外国語科（高学年）の授業を体験（1）When is your birthday?等	わかりやすく発表しあうための支援の仕方、多様な子どもへの対応
6	外国語科の授業（2）My town is beautiful, 等	題材の選定・教材（ICTなどの活用を含む）
7	外国語科の授業（3）Where do you want to go? 等	目的・場面・状況を設定した言語活動 相手意識をもたせる発表の支援の仕方
8	外国語科の授業（4）We live together, 等	CLIL：他教科との関連付け 国際教育と英語教育

9	外国語科の授業（5）I can run fast. 等	国語教育との関連、ALT等とのティームティーチング
10	外国語科の授業（6）What do you want to be?等	学習評価、ルーブリック、パフォーマンス評価・ポートフォリオ
11	模擬授業に向けて学習指導案・教材の作成	単元構成、1時間の授業・指導案の書き方
12	模擬授業（1）	授業評価、ディスカッション
13	模擬授業（2）	授業評価、ディスカッション
14	模擬授業（3）	授業評価、ディスカッション
15	模擬授業（4）	授業評価、ディスカッション
16		

科目コード	32413				区 分	専門			
授業科目名	教育実践学Ⅰ（青年教師塾）				担当者名	内田 仁志／中安 翼			
配当年次	1年	配当学期	後期集中	単位数	2.00単位	授業方法	講義、演習、参観	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本講座では、教員として必要な実践力を体系的に学ぶ。教育現場で求められる授業設計、児童・生徒との関わり方、評価の方法、課題対応の技術を理論と実践を交えて習得する。アクティブラーニングを取り入れ、主体的・対話的な学びを促進し、教育実践力の向上を目指す。（ただし本講座はⅠ，2年生の配当です。したがって本講座を希望する方は同時期に希望参加を募る「青年教師塾」への参加を勧めます。

#### <授業の到達目標>

教職実践力の育成

#### <授業の方法>

講義、グループワーク、模擬授業を組み合わせる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

模擬授業の実施とフィードバック教育課題についてのディスカッション授業設計ワークショップ

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

特に指定はなし

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義の出席50％ 課題提出50％

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教員の役割と実践力の基礎	教員に求められる資質・能力現場で必要な実践力とは実践的指導力の向上方法
2	授業設計の基本	学習指導案の作成目標と評価の関係指導計画の立案
3	児童・生徒の理解と関わり方	発達段階に応じた指導多様な学習スタイルへの対応児童・生徒との信頼関係の築き方
4	効果的な授業展開	アクティブラーニングの活用質問技術と対話的指導学習意欲を引き出す工夫
5	ICTを活用した授業	デジタル教材の活用オンライン教育の可能性ICTを活かした学習支援
6	評価とフィードバックの方法	形成的評価と総括的評価効果的なフィードバックの技術ルーブリックの活用
7	特別な支援を要する児童・生徒への対応	インクルーシブ教育の視点個別指導の工夫多様なニーズに応じた支援
8	学級経営と教育相談	学級運営の基本児童・生徒・保護者との連携問題行動への対応
9	模擬授業の実施と検討	模擬授業の準備と実施フィードバックによる改善授業改善のポイント
10	総括と今後の課題	実践力の振り返り今後の学びの方向性教師としての成長計画
11	集中講義参加	先進的な授業について情報を得る機会とする。
12	集中講義参加	先進的な授業について情報を得る機会とする。
13	集中講義参加	先進的な授業について情報を得る機会とする。
14	集中講義参加	先進的な授業について情報を得る機会とする。
15	集中講義参加	先進的な授業について情報を得る機会とする。
16		

科目コード	32415				区 分	専門			
授業科目名	教育実践学Ⅱ（応用）（青年教師塾）				担当者名	内田 仁志／中安 翼			
配当年次	2年	配当学期	後期集中	単位数	2.00単位	授業方法	講義、演習、参観	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本講座では、教員として必要な実践力を体系的に学ぶ。教育現場で求められる授業設計、児童・生徒との関わり方、評価の方法、課題対応の技術を理論と実践を交えて習得する。アクティブラーニングを取り入れ、主体的・対話的な学びを促進し、教育実践力の向上を目指す。（ただし本講座はⅠ，2年生の配当です。したがって本講座を希望する方は同時期に希望参加を募る「青年教師塾」への参加を勧めます。

#### <授業の到達目標>

教職実践力の育成

#### <授業の方法>

講義、グループワーク、模擬授業を組み合わせる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

模擬授業の実施とフィードバック教育課題についてのディスカッション授業設計ワークショップ

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

特に指定はなし

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義の出席50％ 課題提出50％

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教員の役割と実践力の基礎	教員に求められる資質・能力現場で必要な実践力とは実践的指導力の向上方法
2	授業設計の基本	学習指導案の作成目標と評価の関係指導計画の立案
3	児童・生徒の理解と関わり方	発達段階に応じた指導多様な学習スタイルへの対応児童・生徒との信頼関係の築き方
4	効果的な授業展開	アクティブラーニングの活用質問技術と対話的指導学習意欲を引き出す工夫
5	ICTを活用した授業	デジタル教材の活用オンライン教育の可能性ICTを活かした学習支援
6	評価とフィードバックの方法	形成的評価と総括的評価効果的なフィードバックの技術ルーブリックの活用
7	特別な支援を要する児童・生徒への対応	インクルーシブ教育の視点個別指導の工夫多様なニーズに応じた支援
8	学級経営と教育相談	学級運営の基本児童・生徒・保護者との連携問題行動への対応
9	模擬授業の実施と検討	模擬授業の準備と実施フィードバックによる改善授業改善のポイント
10	総括と今後の課題	実践力の振り返り今後の学びの方向性教師としての成長計画
11	公開研究会参加	先進的な授業について情報を得る機会とする。
12	公開研究会参加	先進的な授業について情報を得る機会とする。
13	公開研究会参加	先進的な授業について情報を得る機会とする。
14	公開研究会参加	先進的な授業について情報を得る機会とする。
15	公開研究会参加	先進的な授業について情報を得る機会とする。
16		

科目コード	32418				区 分	コア科目			
授業科目名	理科実験の指導法Ⅰ（理科教師塾）				担当者名	平松 茂			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

小学校第5，6学年の教材から物理，化学，生物，地学の分野を取り上げ，観察・実験を行う。小学校学習指導要領理科編には，条件制御（5年），多面的な思考（6年）という問題解決の方法が発達段階に合わせて示されており，児童の興味・関心を引き出しながら安全に観察・実験を行うための知識や技能をグループワークにより体験的に習得する。I P U理科マイスターを目指す学生は履修が望ましい。

### <授業の到達目標>

1．実験器具や薬品等を準備して，小学校理科の観察・実験が実施できる知識や技能を身に付ける。2．安全な観察・実験を進めるための知識や薬品，実験器具の取り扱い方を身に付ける。3．学習指導要領解説理科編や教科書の記述に基づいて，観察・実験を伴う授業設計ができる。4．I C T機器，デジタル教科書，プログラミング用ツールの活用法を身に付ける。

### <授業の方法>

1．取り扱う教材に従って観察・実験の準備をする。2．観察・実験を実施し，実験結果を記録，考察する。3．観察・実験の留意点，実験手順を振り返り，安全に実験するための配慮事項を整理する。4．観察・実験のねらいや指導のポイントなどをまとめる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング：器具の準備は実験シートを参照して，自主的に進める。観察・実験内容の説明を受けた後は，個人，または2，3人の小グループで進める。個人，グループで主体的に活動の意味を考えたり，結果を考察しながら進める。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前には，シラバスを参考にして教科書の該当箇所を読み，本時の実験を把握しておく（30分）授業後は，返却された前時のレポートを見直す（30分）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲 40%、観察・実験の知識・技能 30%、レポート 30% 等で評価する。

### <教科書>

文部科学省(2018.2.10) 小学校学習指導要領（H29）解説理科編 東洋館出版社

### <参考書>

毛利 衛・黒田玲子 他（2020） 「新しい理科5」 東京書籍  
毛利 衛・黒田玲子 他（2020） 「新しい理科6」 東京書籍

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション、スケッチの意味と画法	小学校理科実験、コセンダングサのスケッチ
2	ヨウ素デンプン反応	デンプンの種類や濃度による反応色の違い
3	温度による空気の体積変化	空気や水の性質，温度や圧力の変化と空気の体積
4	ガラス細工と浮沈子	ガスバーナー，ガラス細工，圧力，浮力
5	秋の植物「秋をさがそう」	植物の観察法・指導法 紅葉 ドングリ
6	アルコールの蒸留	蒸留，沸点，アルコールの性質
7	ゾウリムシの観察	観察とスケッチ，ゾウリムシの生態，接合，分裂
8	水溶液と金属の反応	希塩酸とスチールウールの反応，水素の爆発，希釈
9	水溶液の性質とムラサキキャベツ	万能PH試験紙，リトマス紙の用法と指導法
10	物の燃え方と空気	ろうそくの燃焼，気体検知管等の活用法
11	ホウ酸の再結晶，熱の伝わり方	飽和と再結晶（ホウ酸），銅板，銅棒，示温シート
12	水の温まり方	示温インク，観察のポイント，指導のポイント
13	電気の通り道，モーター，光電池	直列と並列，発電と蓄電などの指導法
14	電気の有効利用 ロボットとプログラミング	センサーを使った回路 プログラミングの指導法
15	気体の調べ方	気体の捕集と同定 講義の振り返りと報告書の作成
16		

科目コード	32419				区 分	コア科目			
授業科目名	理科実験の指導法Ⅱ（理科教師塾）				担当者名	平松 茂			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

小学校第3，4学年の教材から物理，化学，生物，地学の分野を取り上げ，観察・実験を行う。小学校学習指導要領理科編には，比較（3年），関係付け（4年）という問題解決の方法が発達段階に合わせて示されており，児童の興味・関心を引き出しながら安全に観察・実験を行うための知識や技能をグループワークにより体験的に習得する。I P U理科マイスターを目指す学生は履修が望ましい。理科実験の指導法Ⅰの受講をしていなくても履修可能である。

### <授業の到達目標>

1．実験器具や薬品等を準備して，小学校理科の観察・実験が実施できる知識や技能を身に付ける。2．安全な観察・実験を進めるための知識や，薬品，実験器具の取り扱い方を身に付ける。3．学習指導要領解説理科編や教科書の記述に基づいて，観察・実験を伴う授業設計ができる。4．I C T機器，デジタル教科書，プログラミング用ツールの活用法を身に付ける。

### <授業の方法>

1．取り扱う教材に従って観察・実験の準備をする。2．観察・実験を実施し，実験結果を記録，考察する。3．観察・実験の留意点，実験手順を振り返り，安全に実験するための配慮事項を整理する。4．観察・実験のねらいや指導のポイントなどをまとめる

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング：器具の準備は実験シートを参照して，自主的に進める。観察・実験内容の説明を受けた後は，個人，または2，3人の小グループで進める。個人，グループで主体的に活動の意味を考えたり，結果を考察しながら進める。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前には，シラバスを参考にして教科書の該当箇所を読み，本時の実験を把握しておく（30分）授業後は，返却された前時のレポートを見直す（30分）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲 40%、観察・実験の知識・技能 30%、レポート 30% 等で評価する。

### <教科書>

文部科学省(2018.2.10) 小学校学習指導要領（H29）解説理科編 東洋館出版社

### <参考書>

毛利 衛・黒田玲子 他（2020） 「新しい理科3」 東京書籍

毛利 衛・黒田玲子 他（2020） 「新しい理科4」 東京書籍

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション，サクラの花の観察と調査	数える，計る，まとめる，グラフ化，考察
2	花のつくりとスケッチの意味	キク科：タンポポ，アブラナ科：カラシナ
3	春の自然にとびだそう	植物の観察法・指導法
4	磁石につくもの	磁石の不思議，磁石の種類と性質，授業を組み立てる
5	植物のからだのつくり1	インゲンマメの発芽，ホウセンカの茎の断面の観察
6	太陽のかげの動き 太陽の光	観察装置の作成，遮光プレート，光と熱
7	植物のからだのつくり2	ムラサキツユクサのおしべの毛の原形質流動
8	夏の星座を見つけよう	こと座，わし座，白鳥座，夏の大三角
9	水のすがたと温度	水の三態変化，温度，冷却，寒剤
10	冬の星座を見つけよう	オリオン座，おおいて座，こいぬ座，冬の大三角
11	湯気の正体	湯気をとらえる 湯気を集める
12	電気の指導（3年，4年，5年，6年）	学年別内容と関連 ペルチェ素子
13	動物のからだのつくりと運動	腕の曲げ伸ばし「手羽先ほねほね」
14	昆虫のからだを調べよう	内骨格と外骨格，液体標本の扱い
15	風やゴムの力のはたらき	具体的な指導法，実験器具の工夫
16		

科目コード	33402				区 分	コア科目			
授業科目名	子ども家庭支援の心理学				担当者名	松本 好生			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

家庭は子どもの発達を支える環境としては一番重要なものであるが、現代はその機能が弱まり、支援を必要とする家庭が増えている。この授業では、前半は子どもの発達を概説したうえで、家族や家庭の機能、親子関係を発達の観点から理解する。さらに、子育ての課題やこどもの精神保健についてもアプローチする。

#### <授業の到達目標>

1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期学習の重要性、発達課題について理解する。2. 家族・家庭の意義や機能を理解したうえで、親子関係や家族関係を等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。

#### <授業の方法>

講義形式で行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習（60分）：あらかじめ授業部分の理解しておくこと。復習（60分）：授業で教わったことを振り返り、理解を深めること。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度や受講意欲（10%）試験（90%）

#### <教科書>

公益社団法人児童育成協会監修・白川佳子他編（2019） 新基本保育シリーズ9 子ども家庭支援の心理学 中央法規

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の受け方、評価方法などについて説明
2	乳幼児期の発達	認知・言語・社会性・自我の発達、初期経験の重要性、保育場面における遊びの発達についての研究、発達心理学と発達精神病理学、発達の道すじにおける連続性と非連続性
3	幼児期の発達	認知の発達、言語の発達
4	学童期の発達	学童期の特徴、学童期の仲間関係
5	青年期の発達	身体の変化、対人関係の変化、心の変化
6	成人期・中年期の発達	成人期、中年期
7	高齢期の発達	高齢者に関する日本の現状、高齢期の特徴、認知症
8	家族・家庭の意義と機能	家族・家庭とは、結婚、家族・家庭に関する変化
9	家族関係・親子関係の理解	家族のライフサイクル、家族システム論、円環的因果律
10	子育てを取り巻く社会的状況	晩婚化・非婚化をめぐる状況、出産・子育てをめぐる社会的状況、子育てを支える、要保護児童と家庭への支援。
11	ライフコースと仕事・子育て	ライフコースとは、女性・男性のライフコースの歴史的変化と特徴、ライフコースの選択とモデル、性役割分業とライフコース
12	子どもの貧困	子どもの貧困とは、子どもの貧困の現状、子どもの貧困による影響、子どもの貧困に対して保育士にできること
13	特別な配慮を要する家庭	養育者のメンタルヘルス、子どもや家庭の障害、不適切な養育と家族の機能不全、逆境の小児期体験（ACEs）の影響、保育現場におけるトラウマインフォームド・ケア、トラウマが保育者に与える影響、保育者のセルフケア
14	子どものこころの健康にかかわる問題	子どもの心身の健康、国際比較
15	保育者に関する現状と課題	高校生、保育学生、保育士
16		

科目コード	33403				区 分	コア			
授業 科目名	幼児心理学 I				担当者名	大久保 諒			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### ＜授業の概要＞

本授業では、生涯発達の見点から、心理的発達について、幼児期と人生全体の関係を体験的に学ぶ。特に、知覚・認知的な発達へ中心的な焦点を当てて学習を進める。具体的には、幼児期と他の発達時期で、ものごとの見え方はどのように異なるのか、そして、ものごとの見え方が異なるようにできている理由はなぜかを学ぶ。さらに、幼児期の知覚・認知発達における個人差が、生涯発達の見て、それ以降の時期へどのような影響を及ぼすかについて学ぶ。

### ＜授業の到達目標＞

①主に、知覚・認知発達について、人生全体における幼児期の役割を理解する②理論と実践（事例）の関係について理解を深める③幼児心理学を支えるデータの収集方法や、その分析の仕方の第一歩目を理解する

### ＜授業の方法＞

授業では、各テーマについて、教員から理論的な解説を受け、それを理解することが求められる。その後、①学習した理論により予測・説明し得る具体的な事例をグループで共有し合ったり、②実験・調査的な手法によってデータを収集して分析したりすることが求められる。さらには、それら検討結果をレポートやレジュメとしてまとめることで、各テーマの理解を深めることが求められる。

### ＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有：一方的に解説を受けるだけでなく、学習内容の妥当性について、自分たちで事例共有や実験・調査を行うことで確認する。これらの手続きにより、「理屈として」理解できることと、「体感的に（腑に落ちて）」理解できることの両立を目指す。

### ＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

専門的な知見に踏み込んだ学習内容について、「わかる」ようになることと「できる」ようになることの両方を目指す科目である。そのため、各回の授業の前で予習と復習が必要になる。毎回、事前に提示された学習内容について、予め調べたり、小課題に取り組んだりするなど、1時間程度の予習を要する。同様に、毎回、配布資料や授業内で取り組んだ演習課題を振り返ったり、理解度の確認の小課題へ取り組んだりするなど、60分程度の復習を要する。

### ＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### ＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

演習の参加態度：20%、各テーマの演習成果物の出来栄：40%、学期末レポートの成績：40%を総合して最終的な成績を定める。

### ＜教科書＞

### ＜参考書＞

### ＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、および生涯発達や知覚・認知発達に関する概論
2	知覚・認知発達を探る方法（能動的知覚）①	知覚の発達に関する理論
3	知覚・認知発達を探る方法（能動的知覚）②	知覚の発達に関する研究法
4	知覚・認知発達を探る方法（能動的知覚）③	知覚の発達に関する実験と分析
5	知覚・認知発達を探る方法（能動的知覚）④	知覚の発達に関する実験結果の報告と共有
6	知覚・認知発達を探る方法（実行機能）①	実行機能の発達に関する理論
7	知覚・認知発達を探る方法（実行機能）②	実行機能の発達に関する研究方法
8	知覚・認知発達を探る方法（実行機能）③	実行機能の発達に関する実験と分析
9	知覚・認知発達を探る方法（実行機能）④	実行機能の発達に関する実験結果の報告と共有
10	知覚・認知発達の生涯発達理論	進化的背景と社会・文化的背景
11	知能の発達の探求①	知能観の変遷史
12	知能の発達の探求②	知能の発達の理論
13	知能の発達の探求③	数学的思考力の発達
14	知能の発達の探求④	知能の発達の障害
15	認知能力の発達と「非」認知能力の発達	実行機能、知能、社会性、グリッド
16		

科目コード	33404				区 分	幼児心理学Ⅱ			
授業科目名	幼児心理学Ⅱ				担当者名	松本 好生			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	あり

#### <授業の概要>

本授業は、未就学児の心理特性等をアセスメントする心理検査への理解を深めることを目的としている。心理検査一般への理解を深めるため、一部は講義形式の授業で行う。一方、残りの回は、心理検査の検査・被検査・解釈を体験してもらう実習形式の授業となる。

#### <授業の到達目標>

①本授業で取り扱った心理検査が測定する構成概念を理解し、説明することが可能②心理検査の倫理と限界について理解し、説明することが可能

#### <授業の方法>

①必要に応じて、配布資料・プレゼンテーション・心理検査を用いた授業形態。②心理検査に関する理論を講義形式で学ぶ活動（45分程度）、グループ討議（30分程度）を組み合わせた授業で展開。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

小グループに分かれ、臨床の現場で使用されている知能検査の実際を体験する。特にビネー式の検査用具を使って、検査者側と子どもの役を担い、それぞれが用具を使って体験する機会を持つ。その用具を使った後で心理アセスメントの仕方を理解する。単なる知能指数のみが出てくる検査結果の裏側にあるアセスメントの仕方についても理解を深める。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業に関連する教科書の章や提示された参考書に目を通しておくこと。配布した資料などはファイルし、いつでも参照できるようにしておくこと。専門用語も多いので、必ず復習を重ね、用語を正確に理解しておくこと。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 10%、演習レポート 90%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	幼児心理コースの目標と子どものアセスメントとは（概説）
2	心理検査とは①	フォーマルな評価とインフォーマルな評価
3	心理検査とは②	心理検査の種類と適用①
4	心理検査とは③	心理検査の種類と適用②
5	子どもの心理特性と評価①	知能検査
6	子どもの心理特性と評価②	発達検査
7	発達障害のアセスメント①	日本版 PEP-3 自閉症・発達障害児 教育診断検査 [三訂版] Psychoeducational Profile-3rd editionの概説
8	発達障害のアセスメント②	WISC-V 知能検査の概説
9	発達障害のアセスメント③	発達障害（ADHD）の障害特性とアセスメントの特徴
10	重症心身障害のアセスメント	遠城寺式乳幼児分析的発達診断検査の解説
11	課題分析①	課題分析の概説
12	課題分析②	課題分析の演習
13	子ども理解に基づく計画の作成と記録・評価	事例のアセスメントをもとにした支援計画づくり（演習）
14	専門機関との連携	医療・保健の現状と課題、専門機関との連携による福祉・教育支援
15	まとめとふりかえり	心理アセスメントの限界と課題
16		

科目コード	33405				区 分	コア			
授業 科目名	幼児心理学Ⅲ				担当者名	大久保 諒			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業では、生涯発達の見点から、レジリエンスを学ぶ。レジリエンスとは、発達上の問題を引き起こし得る様々な背景があるにもかかわらず、実際に問題を示さずに済んだり、実際に問題を示した後に回復したりする発達システムの性質を指す。①幼児期までに、発達上の問題を示している場合、それは幼児以降のどのような経験により、緩和することができるか、②幼児期までに発達の問題を示していない場合、その後の時期に困難に見舞われたとしても切り抜けられるよう、どのような準備を行い得るかについて中心的に学習していく。

### <授業の到達目標>

①生涯発達の見点と、発達に伴うレジリエンスの理論について理解する②幼児期の発達上の問題を緩和する方法について、実践的な検討力を養う③幼児期以降に発達上の問題を引き起こしかねない困難に見舞われたとしても、それを切り抜けるために、幼児期にどのような備えを行い得るか、実践的な検討力を養う

### <授業の方法>

授業では、各テーマについて、教員から理論的な解説を受け、それを理解することが求められる。その後、①学習した理論により予測・説明し得る具体的な事例をグループで共有し合ったり、②調査（質問紙・面接）的な手法によってデータを収集して分析したりすることが求められる。さらには、それら検討結果をレポートやレジュメとしてまとめることで、各テーマの理解を深めることが求められる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：一方的に解説を受けるだけでなく、学習内容の妥当性について、自分たちで事例共有や実験・調査を行うことで確認する。これらの手続きにより、「理屈として」理解できることと、「体感的に（腑に落ちて）」理解できることの両立を目指す。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

専門的な知見に踏み込んだ学習内容について、「わかる」ようになることと、保育などの実践へ「活かせる」ようになることの両方を目指す科目である。そのため、各回の授業の前後で予習と復習が必要になる。毎回、事前に提示された学習内容について、予め調べたり、小課題に取り組んだりするなど、1時間程度の予習を要する。同様に、毎回、配布資料や授業内で取り組んだ演習課題を振り返ったり、理解度の確認の小課題に取り組んだりするなど、60分程度の復習を要する。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

演習の参加態度：20%、各テーマの演習成果物の出来栄：40%、学期末レポートの成績：40%を総合して最終的な成績を定める。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、および生涯発達・レジリエンスに関する解説
2	発達とレジリエンス	カウアイ研究とE. Wernerのレジリエンス理論
3	気質とレジリエンス①	Easyな気質に関する発達理論
4	気質とレジリエンス②	Easyな気質に対する発達支援
5	気質とレジリエンス③	行動抑制の気質に関する発達理論
6	気質とレジリエンス④	行動抑制の気質に対する発達支援
7	社会経済的不遇とレジリエンス①	社会階層と発達格差の理論
8	社会経済的不遇とレジリエンス②	速い発達と遅い発達の理論
9	社会経済的不遇とレジリエンス③	世代間伝達の理論
10	社会経済的不遇とレジリエンス④	社会経済的不遇に対する支援
11	仲間関係の問題とレジリエンス①	発達の仲間関係と問題行動の理論
12	仲間関係の問題とレジリエンス②	仲間関係の問題に対する発達支援
13	奇妙な（WEIRD）子ども達の発達	発達観の相対化とレジリエンス
14	発達カスケード	発達におけるプラスの連鎖とマイナスの連鎖
15	発達のターニングポイント	発達の変化可能性
16		

科目コード	34101				区 分	コア科目			
授業科目名	保育内容総論				担当者名	橘高 真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

保育内容の全体像を理解し、乳幼児の発達や生活に応じた保育のあり方を学ぶ。また、保育計画の立案や実践的な指導法を身につけ保育者としての基礎的な力を養う。

#### <授業の到達目標>

1. 保育の基本的な理念と内容を理解する。2. 乳幼児の発達特性に応じた保育内容について理解する。3. 適切な保育環境の構成や援助の方法を実践する。

#### <授業の方法>

・授業テーマに即したワークやグループディスカッションを行う。・各自、またグループで発表を行いそれぞれの考えを共有し、学びを深める。・まとめの講義を行う。・ワークは授業ごとに提出する

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション等を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説を読んでおく。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・受講態度、グループディスカッション（発表）の参加態度（25％）・ワーク  
リアクションペーパー  
(20％)・最終レポート  
(30％)

※最終レポートのテーマは、授業内容に即したものを提示する。指定された期日までに提出すること。

#### <教科書>

随時資料配布

#### <参考書>

幼稚園教育要領解説/フレーベル館 保育所保育指針解説/フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説/フレーベル

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・オリエンテーション・保育内容とは	・授業計画説明・学校の科目と幼児教育・保育における領域の違いについて学ぶ・ワーク：5領域で見とる活動
2	・養護と保育教育の一体化	・ワーク：養護の視点と教育の視点をふまえ、保育者としての支援について考える
3	・子どもの主体性を大切にする保育	・ワーク：保育者主導の保育と子どもの主体性を尊重する保育について考える
4	・環境による保育	・オンデマンド：子どもが主体的に関わることのできる環境を保育者が計画的に準備することの重要性について。・課題
5	・パラバルーンの活動を通して	・パラバルーンのワークショップを行う。・グループワーク：パラバルーンの活動を通して教育という視点から考察を行い、さらに子どもの主体的な活動、保育者のさらなる環境構成、個と集団、多様なニーズ、低年齢児でバルーンを使った活動についての保育等について思考する。
6	・新聞紙遊びを通して	・新聞紙遊びのワークショップを行う。・グループワーク：新聞紙遊びの活動を通して教育という視点から考察を行い、さらに子どもの主体的な活動、保育者のさらなる環境構成、個と集団、多様なニーズの保育等について思考する。
7	・子どもの活動の見取りと環境構成①観察、記録、評価	・東岡山IPU認定こども園の子どもの観察し5領域で見取る。さらなる環境構成について考察する。
8	・子どもの活動の見取りと環境構成③観察、記録、評価	・グループで観察事例をまとめる プレゼンテーションの準備
9	・子どもの活動の見取りと環境構成③観察、記録、評価	・グループで発表
10	・子どもの活動の見取りと環境構成④観	・グループワーク：・WEB図の作成・事例に対する環境構成について、グループで議

	察、記録、評価	論を行う
11	・子どもの活動の見取りと環境構成④指導案の作成	・ワーク：指導案を作成する。
12	・家庭連携・保護者支援	・ワーク：・連絡帳の書き方（活動の見取り）、相談対応。・長時間保育における配慮点
13	・小学校への接続をふまえた保育	・グループワーク：小学校と幼児教育保育の違いについて考える・アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムについて
14	幼児教育・保育とSDG s	グループワーク
15	まとめ	・まとめと保育課題についての講義・レポートテーマを伝える
16		

科目コード	34105				区 分	コア科目			
授業科目名	子どもとマルチメディア [A]				担当者名	本庄 慶樹			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

情報通信。情報機器を利活用して、子どもの発育、教育教材を制作する。乳幼児期から児童期・青年期に至るまでの子どもの発達の観点、教育的観点等を多面的に理解した上で、情報リテラシー・情報機器操作スキルを利活用した、子どもの教育を工夫する。ICT環境の変化、法令等を学ぶ。

#### <授業の到達目標>

実践的な課題に取り組み教育の場で活用できる技術と問題解決能力、論理的思考力を育む。また、課題の創作活動を通して、情報機器を活用したメディアでの芸術的な技術力、表現力を身につける。時代の変化を体感しそれに対応できるICTの利活用能力を身に付けることを目指す。

#### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた演習形式で行うため、PCは必携である。教育現場で即戦力となるコンテンツ、文書や資料の作成、発表を授業内課題とし、その課題提出、発表をもって成績評価とする。与えられた課題に対する評価はもとより自他の作品について考察し、自己能力の向上に努める学習状況を評価の対象とする。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で必要となるコンピューターとソフトウェアの操作を予習しておくことは必須である。授業時間は、課題制作の方法を学び試作を行う時間、または発表及び他者の発表から学ぶ時間である。別に期限までに課題を制作する時間が各90分から120分程度必要である。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

提出課題の完成度 30%、提出課題の取り組み 30%、講義内学習発表状況 40%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ベクター画像練習	ポスター制作を通してコンピュータグラフィックの優位性、特色を考える。
2	ベクター画像・ビデオ制作（喜怒哀楽）	ベクター画像の可能性、画像での表現を考える。
3	動くガジェット制作（いないいないばあ）	子ども動きの楽しさの伝え方を考える。
4	動く絵本制作	パワーポイントでの動画作成の基本操作を学びアニメーション作成する。
5	読み聞かせツール制作	既存の絵本を作画することで、場面設定を学ぶ。また、電子絵本での可能性を考察する。
6	制作発表	発表、演じることを考える。電子絵本を読み聞かせしてみること、可能性と課題を探る。
7	子どもとプログラミング教育	プログラミング言語Scratchを学ぶことで、子どもへのプログラミング学習の必要性、効果を考える。
8	Scratchでのお話作成（RPG）	ロールプレイングを考え、プログラミング的思考を学び、子どもへの教育への応用を考える。
9	ゲーム制作	ゲームの面白さ、楽しさは何かを考える。
10	電子人形劇制作（キャラクター準備）	作品を造るのに必要な構成を企画する。
11	電子人形劇制作（場面・音楽）	ビデオ作成まで作品を仕上げる。
12	ドキュメンテーション・記録	様々のコンピュータスキルを駆使し、記録できることを考える。
13	Google Site	情報発信を考える。
14	Webサイト	HTML、CSSを用いた、制作技術を学ぶ。
15	Webサイト作成	園、学校等のWebサイトの現状について考える。
16		

科目コード	34105				区 分	コア科目			
授業 科目名	子どもとマルチメディア [B]				担当者名	本庄 慶樹			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

情報通信。情報機器を利活用して、子どもの発育、教育教材を制作する。乳幼児期から児童期・青年期に至るまでの子どもの発達の観点、教育的観点等を多面的に理解した上で、情報リテラシー・情報機器操作スキルを利活用した、子どもの教育を工夫する。ICT環境の変化、法令等を学ぶ。

#### <授業の到達目標>

実践的な課題に取り組み教育の場で活用できる技術と問題解決能力、論理的思考力を育む。また、課題の創作活動を通して、情報機器を活用したメディアでの芸術的な技術力、表現力を身につける。時代の変化を体感しそれに対応できるICTの利活用能力を身に付けることを目指す。

#### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた演習形式で行うため、PCは必携である。教育現場で即戦力となるコンテンツ、文書や資料の作成、発表を授業内課題とし、その課題提出、発表をもって成績評価とする。与えられた課題に対する評価はもとより自他の作品について考察し、自己能力の向上に努める学習状況を評価の対象とする。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で必要となるコンピューターとソフトウェアの操作を予習しておくことは必須である。授業時間は、課題制作の方法を学び試作を行う時間、または発表及び他者の発表から学ぶ時間である。別に期限までに課題を制作する時間が各90分から120分程度必要である。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

提出課題の完成度 30%、提出課題の取り組み 30%、講義内学習発表状況 40%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ベクター画像練習	ポスター制作を通してコンピュータグラフィックの優位性、特色を考える。
2	ベクター画像・ビデオ制作（喜怒哀楽）	ベクター画像の可能性、画像での表現を考える。
3	動くガジェット制作（いないいないばあ）	子ども動きの楽しさの伝え方を考える。
4	動く絵本制作	パワーポイントでの動画作成の基本操作を学びアニメーション作成する。
5	読み聞かせツール制作	既存の絵本を作画することで、場面設定を学ぶ。また、電子絵本での可能性を考察する。
6	制作発表	発表、演じることを考える。電子絵本を読み聞かせしてみること、可能性と課題を探る。
7	子どもとプログラミング教育	プログラミング言語Scratchを学ぶことで、子どもへのプログラミング学習の必要性、効果を考える。
8	Scratchでのお話作成（RPG）	ロールプレイングを考え、プログラミング的思考を学び、子どもへの教育への応用を考える。
9	ゲーム制作	ゲームの面白さ、楽しさは何かを考える。
10	電子人形劇制作（キャラクター準備）	作品を造るのに必要な構成を企画する。
11	電子人形劇制作（場面・音楽）	ビデオ作成まで作品を仕上げる。
12	ドキュメンテーション・記録	様々のコンピュータスキルを駆使し、記録できることを考える。
13	Google Site	情報発信を考える。
14	Webサイト	HTML、CSSを用いた、制作技術を学ぶ。
15	Webサイト作成	園、学校等のWebサイトの現状について考える。
16		

科目コード	34107				区 分	コア科目			
授業 科目名	社会福祉学				担当者名	小倉 毅			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

核家族化や、急速な少子・高齢化の進展、さらには人権意識の向上などを背景に、生活困窮者や児童、病弱者、障害者、高齢者などの尊厳と自立、社会参加を支援する活動の重要性が高まっている。本講義では、社会福祉の意義・理念を理解したうえで、法体系や制度、福祉サービス体系における公私の役割活動について学習する。

### <授業の到達目標>

社会福祉が、私達の身近な生活のなかに深く関わり、生活を支えているものであるということを理解する。また、それらの問題・ニーズに気づくための視点を養い、問題・ニーズに対応し、これを軽減し解消するための制度、機関、専門職などの資源について知り、これらに適切につながるための方法を身につける。

### <授業の方法>

教科書に基づいて専門知識の理解し、講義ノートの作成を課す。適宜講義課題について小レポート作成をする。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング有（事例をもとにグループワークを実施し理解を深める）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1) 予習の方法（45分）下記の授業計画はテキストに準拠している。該当する箇所を前もって読んでおくようにして下さい。2) 復習の方法（45分）授業中に整理するプリントを中心に復習して下さい。また、理解が十分でない場合には、積極的に質問して下さい。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価は、授業態度 20%、定期試験 60%、レポート 20%の総合評価。

### <教科書>

松井圭三・今井慶宗 「現代社会福祉要説」 ふくろう出版（2022年4月改訂）

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	社会福祉を学ぶ視点	社会福祉の概念、少子高齢化と社会福祉
2	社会福祉の歴史	戦後を中心とした社会福祉の歴史
3	社会福祉の範囲と法体系	社会福祉の存在意義、社会福祉法、福祉6法
4	社会福祉の実施体制	社会福祉における国と地方公共団体の役割
5	社会福祉サービスの種類と財源	社会保険の種類と内容
6	社会保障制度（1）	社会的養護の仕組みと実施体系
7	社会保障制度（2）	生活保護制度の意味と内容
8	子どもと家族の福祉	児童福祉の概要、少子化と次世代育成支援
9	障害をもつ人の福祉	障害の捉え方と定義、障害者福祉サービスと施策
10	高齢者の福祉	高齢者の生活課題と福祉ニーズ、高齢者の福祉・保健サービス
11	地域福祉	地域福祉とは、福祉のまちづくり
12	社会福祉専門職と倫理	社会福祉の職種と職場、求められる倫理
13	ソーシャルワークの原理と機能	ソーシャルワークとは、ソーシャルワークの種類
14	権利擁護とサービスの質	権利擁護とは、サービスの指導監査と第3者評価
15	社会福祉のまとめ	ポイントの整理
16		

科目コード	34110				区 分	コア科目			
授業科目名	乳児保育 I				担当者名	深井 弘子／服部 由美子			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

保育所保育指針（平成29年告示）をもとに、乳児保育の基本を理解する。また、乳児の発達と保育について学び、養育者の援助の在り方について考える。演習（保育所での参与観察：生活と遊び）を通して実践的に学ぶ。

### <授業の到達目標>

1. 乳児保育の理念と歴史の変遷及び役割について学ぶ。 2. 保育所・乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達について学び、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びについて理解する。 4. 乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。 5. 乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。

### <授業の方法>

講義では「乳児保育」に関するワークシートを使用する。加えて、自分の考えや他者の考えを交流し合うグループワークを行う機会や、模擬乳児モデル（リアルケアベビー）を用いた演習、保育所での観察・演習を適宜取り入れる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：自分の考えや他者の考えを交流し合うグループワークを行う機会や、模擬乳児モデル（リアルケアベビー）を用いた演習、保育所での観察・演習を適宜取り入れる。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・配布資料や日常生活の中で乳児について興味をもち、関連するニュースや雑誌、書籍に目を通す具体的な内容と方法を示し、まとめること。（1時間程度）・保育所で観察、演習した内容はレポートにまとめ、指定された期日に提出すること。（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業（予習・復習）で作成するワークシート（30％）グループワークの取り組み状況（20％）小テスト（20％）、定期試験（30％）ワークシート・小テスト・定期試験に関しては①キーワード（授業内の内容）、②文章の構成、③自身の考えより評価し、その後、学生にフィードバックする。

### <教科書>

大豆生田啓友・おおえだけいこ 日本が誇るていねいな保育 株式会社小学館

### <参考書>

厚生労働省 保育所保育指針解説 フレーベル館

文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

内閣府文部科学省厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業の進め方と乳児保育の基本	授業の概要説明と乳児保育の基本
2	乳児保育の役割と機能①	乳児保育の現状について考える
3	乳児保育の役割と機能②	乳児保育の役割について考える
4	乳児の生活と保育者の関わり①	保育所・こども園における乳児の生活（登園場面）
5	乳児の生活と保育者の関わり②	保育所・こども園における乳児の生活（手洗い・排泄場面）
6	乳児の生活と保育者の関わり③	保育所・こども園における乳児の生活（衣服等の着脱場面）
7	乳児の生活と保育者の関わり④	保育所・こども園における乳児の生活（食事・おやつ場面）
8	乳児の生活と保育者の関わり⑤	保育所・こども園における乳児の生活（午睡場面）
9	乳児の生活と保育者の関わり⑥	乳児の生活自立に向けて保育者のかかわり
10	乳児の遊びと保育者の関わり①	模擬保育：遊びと保育者の関わり（乳児の遊び①）
11	乳児の遊びと保育者の関わり②	模擬保育：遊びと保育者の関わり（乳児の遊び②）
12	乳児の遊びと保育者の関わり③	遊びと保育者の関わり（乳児の遊び③）
13	乳児の遊び（保育内容）について考える	模擬保育の振り返り・意見交換
14	保護者との連携	乳児保育における保護者との連携
15	総括（まとめ）	全体の振り返りとまとめ（小テスト）
16		

科目コード	34111				区 分	コア科目			
授業科目名	乳児保育Ⅱ [A]				担当者名	深井 弘子／服部 由美子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

乳児保育の実践について理解を深めると共に、乳幼児の発達に応じた保育環境の構成や保育計画・保育記録について学び、保育実践力の基礎を習得する。多様化する乳児保育の現場に求められる保育者の専門的職能について理解を深め、保護者や関係機関との連携についても学ぶ。模擬乳児モデル（リアルケアベビー）を用いて具体的な援助の仕方を学んだり、実践につながる保育技術の習得を目指す。

### <授業の到達目標>

1. 乳児保育と保育者の職能について理解する。2. 3歳未満児の保育内容や方法について学び、援助の基本技術を習得する。3. 指導計画作成に必要な基礎知識を習得する。4. 模擬保育を通して実践的な感覚を養うと共にグループワークを通して課題を発見、共有する。

### <授業の方法>

・今日のテーマの確認を行い、事前学習の成果を発表し合う。・講義を聞いたり、グループ演習を行ったりし、その後、分かったことや考えたこと、難しかったことについてグループワークを行う。・小グループで発表された意見の共有をする。・演習、講義内で不明な部分の解説と質疑を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：発表やグループワークを実施する

### <準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に提示されたテーマに沿って自主学習を行い、Googleクラスルームにて提示された課題に取り組む。（90分程度）復習：授業の振り返りとグループワークで示される次の課題に取り組む（30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業（予習・復習）で作成するワークシートや事前課題（30%）、グループワークや演習の取り組み（30%）、指導計画作成（20%）や小テスト（20%）・ワークシートや小テストで①キーワード（授業内の内容）②文章の構成③自身の考えより評価し、学生へフィードバックをする。

### <教科書>

厚生労働省（2017） 保育所保育指針解説 フレーベル館  
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2017） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 フレーベル館

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本授業の目標を理解する。乳児保育Ⅰの学びを振り返る
2	乳児保育の基本について考える	乳児保育Ⅰの学びの中で乳児保育の基本を考える。グループワーク実施
3	乳児保育で求められる保育者	保育実践における保育者の在り方についてグループワーク
4	乳児保育の指導計画①	デイリープログラムの作成
5	乳児保育の指導計画②	0歳児の指導計画
6	乳児保育の指導計画③	1歳児の指導計画
7	乳児保育の指導計画④	2歳児の指導計画
8	乳児保育の実践①	0歳児の生活について考えよう
9	乳児保育の実践②	子どもの目線になって考えよう
10	乳児保育の実践③	2歳児の事例から保育者の関わりを考える
11	保育所以外の施設における乳児保育	保育所以外の施設の乳児保育の実践について考える
12	地域型保育について考える	家庭的保育・小規模保育の乳児保育
13	保護者との連携や社会資源	乳児保育における社会的資源について考える
14	乳児保育から幼児期の保育への繋がり	0、1、2歳児以降の保育との関連について考える
15	まとめ	乳児保育に求められることについてグループワーク・まとめのレポート
16		

科目コード	34111				区 分	コア科目			
授業科目名	乳児保育Ⅱ [B]				担当者名	深井 弘子／服部 由美子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

乳児保育の実践について理解を深めると共に、乳幼児の発達に応じた保育環境の構成や保育計画・保育記録について学び、保育実践力の基礎を習得する。多様化する乳児保育の現場に求められる保育者の専門的職能について理解を深め、保護者や関係機関との連携についても学ぶ。模擬乳児モデル（リアルケアベビー）を用いて具体的な援助の仕方を学んだり、実践につながる保育技術の習得を目指す。

### <授業の到達目標>

1. 乳児保育と保育者の職能について理解する。2. 3歳未満児の保育内容や方法について学び、援助の基本技術を習得する。3. 指導計画作成に必要な基礎知識を習得する。4. 模擬保育を通して実践的な感覚を養うと共にグループワークを通して課題を発見、共有する。

### <授業の方法>

・今日のテーマの確認を行い、事前学習の成果を発表し合う。・講義を聞いたり、グループ演習を行ったりし、その後、分かったことや考えたこと、難しかったことについてグループワークを行う。・小グループで発表された意見の共有をする。・演習、講義内で不明な部分の解説と質疑を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：発表やグループワークを実施する

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に提示されたテーマに沿って自主学習を行い、Googleクラスルームにて提示された課題に取り組む。（90分程度）復習：授業の振り返りとグループワークで示される次の課題に取り組む（30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業（予習・復習）で作成するワークシートや事前課題（30%）、グループワークや演習の取り組み（30%）、指導計画作成（20%）や小テスト（20%）・ワークシートや小テストで①キーワード（授業内の内容）②文章の構成③自身の考えより評価し、学生へフィードバックをする。

### <教科書>

厚生労働省（2017） 保育所保育指針解説 フレーベル館  
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2017） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 フレーベル館

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本授業の目標を理解する。乳児保育Ⅰの学びを振り返る
2	乳児保育の基本について考える	乳児保育Ⅰの学びの中で乳児保育の基本を考える。グループワーク実施
3	乳児保育で求められる保育者	保育実践における保育者の在り方についてグループワーク
4	乳児保育の指導計画①	デイリープログラムの作成
5	乳児保育の指導計画②	0歳児の指導計画
6	乳児保育の指導計画③	1歳児の指導計画
7	乳児保育の指導計画④	2歳児の指導計画
8	乳児保育の実践①	0歳児の生活について考えよう
9	乳児保育の実践②	子どもの目線になって考えよう
10	乳児保育の実践③	2歳児の事例から保育者の関わりを考える
11	保育所以外の施設における乳児保育	保育所以外の施設の乳児保育の実践について考える
12	地域型保育について考える	家庭的保育・小規模保育の乳児保育
13	保護者との連携や社会資源	乳児保育における社会的資源について考える
14	乳児保育から幼児期の保育への繋がり	0、1、2歳児以降の保育との関連について考える
15	まとめ	乳児保育に求められることについてグループワーク・まとめのレポート
16		

科目コード	34112				区 分	子ども子育て教育相談			
授業 科目名	子ども子育て教育相談				担当者名	松本 好生			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	あり

### <授業の概要>

本授業は教職課程コアカリキュラムである「幼児理解の理論及び方法」と「教育相談（カウンセリングを含む）」に基づいて行われる。幼児理解についての知識や考え方、基礎知識、実践方法、学校における教育相談の意義と理論、方法、展開などを学ぶ。

### <授業の到達目標>

①幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。②幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。

### <授業の方法>

教科書を基に講義形式で行い、資料を配布する。適宜グループワークやディスカッションを行う。1. 講義 2. グループワーク、ディスカッション 3. 質疑応答

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習（60分）：教科書を読んで理解しておくこと。復習（60分）：授業で教わったことを振り返ること。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 10%、定期試験 90%

### <教科書>

鳥海順・義永睦子（編著）子ども理解と教育相談、東洋館出版社、2019。

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ライフステージごとの子どもの問題をどうとらえるのか
2	学校における教育相談	教師に教育相談が求められる理由とは何か
3	アセスメントに関する基礎的理解	アセスメントとは何か
4	保幼少連携の接続期支援	保幼少の連携とは何か
5	小・中・高の接続期支援	小学校入学期における子どもの状態の把握の仕方
6	カウンセリングの基礎理論①	カウンセリングとは何か
7	カウンセリングの基礎理論②	カウンセリングの進め方
8	カウンセリングの実践	カウンセリングの種類別の概説
9	コンサルテーションやコーディネーションの理解と方法①	コンサルテーションやコーディネーションの基本
10	コンサルテーションやコーディネーションの理解と方法②	「猿山」の話
11	相談のプロセス	相談を支えるものとは何か
12	保育の場で行う教育相談	保育の場で行う教育相談の進め方
13	学校で行う教育相談と校内体制	学校で行う教育相談を取り巻く環境と教育相談の進め方
14	多様なニーズのある子どもの教育相談	学校教育における多様なニーズのある子どもとは何か、特別支援教育とは何か
15	家庭支援と地域における連携	多職種連携の仕方や制度の活用法
16		

科目コード	34113				区 分	コア科目（保育・幼児教育に関する理解）			
授業科目名	保育内容「健康」指導法				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択／幼稚園教諭免許・保育士国家資格取得のための必修

#### <授業の概要>

本科目は、東岡山IPUこども園との連携授業科目である。東岡山IPUこども園の5歳児約70名を対象に、健康に関する子どもとの関わり方や、保育者の関わり方を実際に学ぶ。領域「健康」のねらいおよび内容を理解し、子どもの心身の健康な発達、基本的生活習慣の獲得、体力・運動能力の獲得、安全な生活環境の設定を目的とした保育内容の提案のための知識・技能を学ぶ。また、ICTを活用した教材の作成方法、小学校とのつながりについて取り扱う。幼児教育施設における具体的な指導場面を想定した指導計画の立案、模擬保育と振り返りを通じて、子どもの健康に関した保育を構想する力と保育を改善する視点を身に付ける。

#### <授業の到達目標>

領域「健康」のねらいおよび内容を理解し、説明することができる。子どもの健康の保持・増進のための発達、基本的生活習慣、体力・運動能力、安全、ICTの活用についての知識を理解し、適切な保育ができる。

#### <授業の方法>

東岡山IPUこども園での実践を通して、領域「健康」に関する子どもとの関わりや、教材づくり、指導法や、保育者と子どもとの関わりについて学ぶ。場合によっては子供への直接的な指導を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

東岡山IPUこども園での遊びの実践

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に示した参考書および資料を読み提示した課題を課す。また、事前課題として指導案の立案、模擬授業の準備を課す場合がある。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前・事後課題60%、模擬授業40%

#### <教科書>

なし

#### <参考書>

無藤隆、倉持清美（2020年8月25日） 新訂 事例で学ぶ保育内容 領域健康（榊文書林）  
 酒井幸子、松山洋平（2020年12月10日） 保育内容 健康 あなたならどうしますか？（榊文書林）  
 松田博雄、金森三枝（2019年） 子どもの健康と安全 中央法規

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	幼児と健康と保育内容健康指導法	授業概要の解説と領域健康についての解説・東岡山IPUこども園での授業運営ルール
2	健康のねらいおよび内容	ワークタイムの概要を掴む。東岡山IPUこども園での生活を知る。
3	幼児の動き	幼児の動きに関して、子どもとの関わりを通して学ぶ。
4	幼児期運動指針(基礎的な動作)	幼児期運動指針の中でも基礎的な動作について、子どもとの関わりを通して学ぶ。
5	幼児期運動指針(多様な動作)	幼児期運動指針の中でも多様な動作について、子どもとの関わりを通して学ぶ。
6	幼児期運動指針(動きの連続性)	幼児期運動指針の中でも動きの連続性について、子どもとの関わりを通して学ぶ。
7	幼児と安全	幼児教育施設での安全管理の仕方について、保育者の話・子どもとの関わりを通して学ぶ。
8	子どもの安全教育事故予防	安全教育、防災教育、リスクマネジメント、施設設備管理
9	ICTを活用した保育	保育現場でICTを用いた保育方法の理解、幼少接続
10	感染症対策	東岡山IPUこども園での感染症対策について学ぶ。
11	指導案作成①	作成した指導案の安全およびねらいについて検討する
12	模擬保育①	園庭での運動遊びについて指導案を作成し、実際に模擬保育を行う。
13	模擬保育②	室内での運動遊びについて指導案を作成し、実際に模擬保育を行う。
14	指導案を作成し、ねらいを達成するため	模擬保育：安全教育、防災教育

15	の子供との関わりを実践する。	授業内容全体の振り返りを通して、健康の指導全体について考える
16	幼児教育の現代的課題と領域「健康」	

科目コード	34114				区 分	コア			
授業科目名	保育内容「言葉」指導法				担当者名	山本 房子			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

子どもの言葉の発達に関する基礎的知識及び領域「言葉」におけるねらい・内容等について、保育現場での実践事例等も参考にしながら学ぶ。子どもの言葉を育てる児童文化財について、その概要や保育における活用方法を理解するとともに、実際にグループで模擬保育を行う等、体験を通して指導の技術を身に付ける。

### <授業の到達目標>

①幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容・留意事項を理解している。②乳幼児の言葉の育ちを支える保育の指導法を理解している。③児童文化財を用いた指導の計画を作成、実践、振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。

### <授業の方法>

絵本の読み聞かせ、ペープサートの作成や実演など、実際に体験することからの学びを重視した授業である。活動には主体的に取り組むとともに、教員だけでなく友達の実践や模擬保育に参加することを通して積極的に学んでほしい。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：グループでの模擬保育

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指定された事柄や課題について、自分なりの考えをもって調べたり準備をしたりする。（1時間）復習：各回での学びや取り組みの改善点を活かして復習する。（1時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内評価50%レポート評価50%（授業振り返りシートの作成を課す。教員はコメントを記入し返却する。）

### <教科書>

浅井拓久也 編著（2025年1月） 指導法もいっしょに学ぶ 保育内容「言葉」（第2版） 教育情報出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	保育内容領域「言葉」について	5領域としての「言葉」について理解する
2	子どもと言葉①	言葉の意義や機能、言葉の獲得に必要な基礎を理解する
3	子どもと言葉②	前言語期、乳児期の言葉の発達や特徴について理解する
4	子どもと言葉③	幼児期の言葉の発達や特徴について理解する
5	児童文化財の活用①	様々な児童文化財について知り、保育教材としての価値を理解する
6	児童文化財の活用②絵本	絵本の特性や構造を理解したうえで、保育における活用方法や読み聞かせの仕方を 知る
7	絵本を用いた模擬保育	絵本の読み聞かせを行う
8	児童文化財の活用③ペープサート	ペープサートの特性や基本的な作り方を理解したうえで、保育における活用方法を 考える
9	教材製作	ペープサートを作る
10	ペープサートを用いた模擬保育	自分の作ったペープサートを演じる
11	児童文化財の活用④言葉遊び	様々な言葉遊びや日本語の表現に触れ、言葉そのものの面白さや楽しさを知る
12	児童文化財の活用⑤素話	素話の目的等を知り、選び方や語り方を理解するとともに、幼児が話を聞く環境に ついて考える
13	素話を用いた模擬保育	素話を語る
14	言葉の発達に関する様々な課題とその支援のあり方	言語障害、外国にルーツのある子どもや保護者に対する支援について考える
15	まとめ	乳幼児の言葉の発達を支える保育者の役割や指導法について考える
16		

科目コード	34115				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	保育内容「人間関係」指導法				担当者名	平松 美由紀			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

幼稚園教育要領及び保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された幼児教育の理論を踏まえ、領域「人間関係」が育成をめざす資質・能力を明らかにするとともに、乳幼児の人間関係の発達について学習する。さらに、幼児の人間関係づくりを支援する保育者の役割を模擬演習並びにビデオ分析を通して学習する。

### <授業の到達目標>

学生は講義終了後に、以下のことができる。①幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示された領域「人間関係」のねらい、内容、全体構造を説明できる。②「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」における「人間関係」の位置づけを社会情動的スキルの育成の視点から説明できる。③実践記録やビデオ分析を通して、「人間関係」の具体的な指導場面を想定し、部分指導案を作成できる。

### <授業の方法>

講義では、「子どもと人間関係」に関するワークシート、要領・指針を使用する。また、PCなどのデジタルツールを使用し、プレゼンテーション発表やグループワークを実施する。各個人がワークシートに教育経験や自己の考えを記入する活動を15分程度、学生が概念を習得するための講義45分程度、振り返り学習30分程度を組み合わせた授業を展開する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・アクティブラーニング：有・方法：グループディスカッション、グループワーク

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義前に「保育内容 領域人間関係」のワークシートと要領・指針の予習（60分程度必要）すべき内容と方法を指示する。講義後に、ワークシートの復習（60分程度）が必要な箇所を指示する。これを15コマ課し、合計30時間の予習・復習を行う。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業（予習・復習を含む）で完成させるワークシート（30%）、事前課題の取り組み状況（20%）、小テスト・まとめレポート（50%）。ワークシート、レポートは、Aキーワード（授業で講義した見方・考え方）、B論理性（文章の構成）、Cオリジナリティー（自分自身の意見）の3つの観点から採点し、改善の方向性を学生に示すことで、フィードバックする。

### <教科書>

### <参考書>

文部科学省（2018年2月）『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館  
 厚生労働省（2018年2月）『保育所保育指針解説』 フレーベル館  
 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	「保育内容 領域人間関係」のねらい	授業概要に関する説明と各保育法令に関する概要
2	保育内容「5領域」の考え方と全体構造	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における各領域のねらいと内容
3	領域「人間関係」のねらいと内容	乳児期、1歳～3歳未満児、3歳以上児における領域人間関係のねらい・内容「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「人間関係」、幼小の連携
4	社会情動的スキル形成をめざす領域「人間関係」	自尊心、自己制御、忍耐力の育成（ペーパーサート課題の相互評価）
5	領域「人間関係」の指導と評価①	自立心、協働性に関わる人間関係と遊び
6	領域「人間関係」の指導と評価②	道徳性・規範意識の芽生え、社会生活に関わる人間関係と遊び
7	動画・場面分析①	入園当初の子どもとの人間関係の育ち
8	動画・場面分析②	保育者との関わりで育つ人間関係
9	領域「人間関係」の指導と評価③	遊びで育つ子どもとの人間関係の具体的内容（指導案の作成・保育観察のポイント）
10	領域「人間関係」指導の構想①	友達との関わりで育つ人間関係（ICT機器の活用：指導計画・模擬演習）
11	領域「人間関係」指導の構想②	行事を通して育つ人間関係（ICT機器の活用：指導計画・模擬演習）
12	領域「人間関係」指導の構想③	ごっこ遊びで育つ人間関係（ICT機器の活用：指導計画・模擬演習）
13	動画・場面分析③	総合的な保育における領域「人間関係」の指導（保育観察の方法と保育実践の分析視点）
14	領域「人間関係」に関する保育実践①	保育実践の観察①
15	領域「人間関係」に関する保育実践②	保育実践の観察②



科目コード	34116				区 分	コア科目			
授業科目名	保育内容「環境」指導法				担当者名	橘高 真紀子			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

領域「環境」という視点で、子どもがどのように環境に関わって主体的に活動を生み出し、その活動の中でどのような学びがあるのかについて実践的に学ぶ。また、領域「環境」における、保育者の援助方法や役割、環境の整え方について具体的に理解する。

### <授業の到達目標>

1. 領域「環境」について保育実践に結び付けて理解する。2. 保育における「環境」という視点を通して、子どもと環境との関わりや、その関わりの中で、どのような心情、意欲、態度が育っていくのかが理解できる。3. 領域「環境」という視点から、保育者の柔軟で適切な援助のあり方を考えることができる。4. 領域「環境」という視点から、指導計画を作成することができる。

### <授業の方法>

・授業テーマに即したグループワーク、ディスカッションを行う（全てにおいてワークシートを配布する）。・その後、各グループより議論した内容について発表を行う。・授業のまとめとして、テーマに即した保育内容「環境」のねらい、内容、内容の取扱いについて講義を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション等を行う

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・子どもを観察し、子どもの心の内や何に興味関心を持っているのかなど考察する機会をもっておく。・教育保育を想定しながら、廃材や物、自然等、様々な環境に関心を持つようにしておく。・リアクションペーパーの作成時において、授業内容を振り返り、理解を深めるようにする。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・受講態度、グループワークの参加態度（30%）・リアクションペーパーの提出（適切な着眼点の意見や感想）（30%）・最終レポート（40%）※グループワークやディスカッションで使用するワークシートに、ディスカッションを行う上での司会、書記、発表者を明記して提出すること。また、グループでの活動に協力的であるかなども評価となる。 ※リアクションペーパーは、クラスルームに提出。〆切は翌日までとする。質問等のフィードバックについては次回授業で行う

### <教科書>

随時資料配布

### <参考書>

幼稚園教育要領解説/フレーベル館 保育所保育指針解説/フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領/フレーベル

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション子どもにとっての環境とその意義	・授業計画説明・子どもの頃の夢中になった遊びについて振り返り、その理由について考えるとともにグループで共有する。・領域「環境」の子どもを取り囲む社会課題から見た意義について講義を行う。
2	子どもの探求心を引き出す保育者の振る舞いや言葉がけ	・否定的になりがちな言葉がけを肯定的に変える伝え方を各自で思考したのち、グループで共有し、保育者の言葉がけが子どもに与える影響や重要性についてディスカッションし発表する。・提示された保育現場のエピソード場面より、保育者としての振る舞い、見守ることの意義等についてグループでディスカッションし発表する。
3	子どもの探求心を育む安全な保育環境作り	オンデマンド：教育保育現場での事故事例より、事故を防ぐために行うべき対策等について考察する。
4	標識や文字、数量・図形への子どもの関心について：興味関心を引き出す環境	・附属認定こども園の見学 標識や文字へ関心を持つ環境構成について観察する。・数量、図形への興味関心を引き出す環境構成について観察する。
5	標識や文字、数量・図形への子どもの関心について：興味関心を引き出す環境	・附属認定こども園の保育環境を振り返りながら、標識や文字へ関心を持つ環境構成についてグループでまとめ、発表する。・数量、図形への興味関心を引き出す物環境や活動内容、保育者の支援についてグループでまとめ、発表する。
6	自然環境について：戸外の探索、教材研究	・学内の草花、石、虫、砂や土等に触れ、グループでどのような活動を子どもが行うのか予測していく。
7	自然環境について：戸外の探索、教材研	・前回の授業で予測した活動の中で、子どもにどのような心情、意欲、態度が培わ

	究	れるのか、グループディスカッションし発表する。
8	社会事象について：季節の行事や食べ物	・季節感を感じる物や季節の行事に由来する飾りについてグループで話し合う。また、展示する場所や展示の際の留意点についてもディスカッションし、発表する。・季節ごとの旬の果物をあげ、果物の食べ方やその果物を子どもと一緒に調理してできるおやつについてグループで考え発表する
9	領域「環境」を重視した指導計画案の作成	・グループで子どもの探求心を引き出すことを念頭におきながら、指導計画案を作成する。（5歳児、他年齢児）
10	物的環境について：教材研究	・子どもの探求心を引き出すことを念頭におきながら、手作りおもちゃや保育準備をグループで行う。
11	物的環境について：教材研究	・子どもの探求心を引き出すことを念頭におきながら、手作りおもちゃや保育準備をグループで行う。・各グループで対象とする年齢や予想される子どもの活動などについて発表する。
12	情報危機やICTを活用した保育について	・情報機器やICTを活用することで遊びがどのように豊かに展開されるのか、グループでワークシートを用いて検討し、発表する。・情報機器やICTを教育保育に活用する際の注意点についてグループでディスカッションし発表する。
13	教育保育現場での模擬保育	・附属認定こども園へ出向く。計画した環境構成の中で遊ぶ子どもの姿より、ねらいが達成されているか等考察する。・子どもが探求心を持ち主体的に関わる物環境の意義について考察する。
14	教育保育現場での模擬保育	・附属認定こども園へ出向く。計画した環境構成の中で遊ぶ子どもの姿より、ねらいが達成されているか等考察する。・子どもが探求心を持ち主体的に関わる物環境の意義について考察する。
15	まとめ	・まとめの講義：領域「環境」と幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」との関連について・レポートテーマについて
16		

科目コード	34117				区 分	コア科目			
授業 科目名	保育内容「身体表現」指導法				担当者名	小澤 尚子／川瀬 雅			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

幼児の身体表現について実践を中心に授業を進める。幼児が日常生活においてのびのびと身体で表現できるようにするためには、指導者が豊かな表現力を獲得しており、それを教育的に発揮できる状態が望ましい。そのため、本授業は、まず演習を通して身体表現の楽しさを体感することから始まる。受講者自身の身体を媒体として音楽や物語を表現するなかで、健康・環境・人間関係・言葉といった保育5領域の関りについても考察し、この領域（表現）の意義を考える。また様々な活動方法を通して幼児の豊かな表現活動を育むために求められる指導者の役割や姿勢、指導・援助法、さらに様々な身体表現を導き出す教材について学習する。

### <授業の到達目標>

①領域＜表現＞と身体表現のねらいや内容を理解することができる。②身体表現に必要な基礎的知識・技能と発達段階に応じた指導法を習得する。③身体全体で表現することの楽しさを味わうことで自己の身体への意識を高めるとともに、子どもの自己表現に共感出来る感性と実践力を身に付ける。④生活のなかで行われる表現と行事等で行われる表現について理解し、行事と日常および月齢ごとの接続について実施計画を作成できるようになる。

### <授業の方法>

基本的に演習（実技）とする。また、テーマに応じてグループディスカッション等を行う。学習の成果についてはGoogleクラスルームから提出する。※「身体表現」という特性上、「身体で表現する技術」を獲得することが必須となるため、持病等で実技が難しい場合は診断書を持参のうえ事前に相談にきてください。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング 有基本的に演習（実技）とする。また、テーマに応じてグループディスカッション等を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎時の学習テーマに関する事前課題（20分）と授業後のレポート（20分）に取り組むこと。授業時に与えられる課題については次回授業開始までに取り組むこと（30分程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を総合的に評価します。技能 40%、毎時のレポート 30%、課題 30%

### <教科書>

### <参考書>

全国ダンス・表現運動授業研究会(2015) みんなでトライ！表現運動の授業 大修館書店  
文部科学省(2017) 幼稚園教育要領

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要と授業の進め方、評価方法の説明、領域「表現」のねらいとその内容の理解、講義ルールの確認
2	心身の発育発達と身体表現	身体表現の特性と幼児の発育・発達を理解
3	からだ気付き・からだほぐし	体づくり運動の体験、ウォームアップ、身体各部位を使った動きの実践
4	幼児の遊びと身体表現	幼児の日常の動きや発想から身体表現の関連の考察、ポーズ遊び・模倣遊び
5	リズム遊び・リズムダンス(1)	基礎となる動きの実践と発展的な動きの考案(1)
6	リズム遊び・リズムダンス(2)	基礎となる動きの実践と発展的な動きの考案(2)
7	動きの創造と展開(1)	リズムダンスの創作方法の理解と実践
8	動きの創造と展開(2)	集団演技の指導方法の理解と実践
9	ものを使った表現遊び(1)	ボール、フラフープ等を使った身体表現の実践
10	ものを使った表現遊び(2)	ボール、フラフープ等を使った身体表現の発展
11	ものを使った表現遊びの模擬指導	ボール、フラフープ等を使った身体表現のグループ演習
12	身体表現とメディアアート(1)	スマートフォンや照明、映像を用いた身体表現の体験
13	身体表現とメディアアート(2)	スマートフォンや照明、映像を用いた作品の製作
14	身体表現の教材研究(1)	手遊びや歌など日常の保育場面を想定した教材の考案と実践(1)
15	表現発表会の設定	指導場面「表現発表会」を想定した模擬実践
16		

科目コード	34118				区 分	コア科目			
授業科目名	保育内容「造形表現」指導法 [FC2421組用]				担当者名	後藤 由佳			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

保育内容「造形表現」指導法は、保育士資格取得における選択科目ではあるが、幼稚園教諭一種免許状取得において必修科目かつこども発達学科の卒業必修科目である。本演習では、製作・鑑賞活動を軸として、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術、造形表現の表現活動に関する専門知識と技術を習得することを目的とする。

#### <授業の到達目標>

実社会で通用する保育士・幼稚園教諭を養成するため、保育実習や教育実習をはじめ、保育現場で求められる子どもの造形表現に関する専門知識と技術を身に付けている。

#### <授業の方法>

準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタルツール(Classroom)を活用する。アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク等)を取り入れつつ、子どもの造形表現に係る教材の製作、及び鑑賞により授業を進める。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有(ディスカッション、グループワークの方法)4～5人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外で、授業に必要な資料や教材、用具を準備してください。また授業内に作品が完成しない場合は、前回の授業内容の作品や課題、次回の授業までにポートフォリオの製作に取り組む等、準備学習(45分程度)を求めます。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3(教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲(教材、用具等事前準備) 30%、作品のまとめ(ポートフォリオ2種類) 50%、作品鑑賞と定期試験(レポート) 20%、授業課題や折紙ポートフォリオ等、作品の未完成は認めません。必ず、授業時間と準備学習で作品を完成させましょう。

#### <教科書>

村田夕紀 楽しい”造形”がいっぱい 2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ ひかりのくに  
幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

#### <参考書>

村田夕紀 まずは絵あそびから始めよう! 3・4・5歳児の楽しく絵を描く実践ライブ ひかりのくに  
村田夕紀 低年齢児が夢中になる遊びがいっぱい! 0・1・2歳児の造形あそび実践ライブ ひかりのくに

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	演習の流れ、授業の到達目標と注意事項、成績評価法の説明
2	造形表現の教材研究(1)	デカルコマニー(合わせ絵)
3	造形表現の教材研究(2)	スタンピング(型押し)
4	造形表現の教材研究(3)	染め紙
5	造形表現の教材研究(4)	にじみ絵
6	造形表現の教材研究(5)	ビー玉ころがし
7	造形表現の教材研究(6)	パチック(はじき絵)
8	造形表現の教材研究(7)	スクラッチ(引っかき絵)
9	造形表現の教材研究(8)	バスのカーボン紙絵
10	造形表現の教材研究(9)	バスのステンシル・指ばかし
11	造形表現の教材研究(10)	フロッタージュ(こすり出し)
12	造形表現の教材研究(11)	コラーージュ
13	造形表現の教材研究(12)	糸引き絵・ドリッピング
14	まとめと作品鑑賞	演習の振り返り
15	全体総括	作品鑑賞、作品・レポート提出の解説
16		

科目コード	34118				区 分	コア科目			
授業 科目名	保育内容「造形表現」指導法 [FC2422組用]				担当者名	後藤 由佳			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### ＜授業の概要＞

保育内容「造形表現」指導法は、保育士資格取得における選択科目ではあるが、幼稚園教諭一種免許状取得において必修科目かつこども発達学科の卒業必修科目である。本演習では、製作・鑑賞活動を軸として、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術、造形表現の表現活動に関する専門知識と技術を習得することを目的とする。

### ＜授業の到達目標＞

実社会で通用する保育士・幼稚園教諭を養成するため、保育実習や教育実習をはじめ、保育現場で求められる子どもの造形表現に関する専門知識と技術を身に付けている。

### ＜授業の方法＞

準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタルツール(Classroom)を活用する。アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク等)を取り入れつつ、子どもの造形表現に係る教材の製作、及び鑑賞により授業を進める。

### ＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有(ディスカッション、グループワークの方法)4～5人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

### ＜準備学習等(予習・復習)＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外で、授業に必要な資料や教材、用具を準備してください。また授業内に作品が完成しない場合は、前回の授業内容の作品や課題、次回の授業までにポートフォリオの製作に取り組む等、準備学習(45分程度)を求めます。

### ＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### ＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

演習への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲(教材、用具等事前準備) 30%、作品のまとめ(ポートフォリオ2種類) 50%、作品鑑賞と定期試験(レポート) 20%、授業課題や折紙ポートフォリオ等、作品の未完成は認めません。必ず、授業時間と準備学習で作品を完成させましょう。

### ＜教科書＞

村田夕紀 『楽しい”造形”がいっぱい 2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ ひかりのくに  
幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

### ＜参考書＞

村田夕紀 まず絵あそびから始めよう！3・4・5歳児の楽しく絵を描く実践ライブ ひかりのくに  
村田夕紀 低年齢児が夢中になる遊びがいっぱい！0・1・2歳児の造形あそび実践ライブ ひかりのくに

### ＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	演習の流れ、授業の到達目標と注意事項、成績評価法の説明
2	造形表現の教材研究(1)	デカルコマニー(合わせ絵)
3	造形表現の教材研究(2)	スタンピング(型押し)
4	造形表現の教材研究(3)	染め紙
5	造形表現の教材研究(4)	にじみ絵
6	造形表現の教材研究(5)	ビー玉ころがし
7	造形表現の教材研究(6)	パチック(はじき絵)
8	造形表現の教材研究(7)	スクラッチ(引っかき絵)
9	造形表現の教材研究(8)	バスのカーボン紙絵
10	造形表現の教材研究(9)	バスのステンシル・指ばかし
11	造形表現の教材研究(10)	フロッタージュ(こすり出し)
12	造形表現の教材研究(11)	コラーージュ
13	造形表現の教材研究(12)	糸引き絵・ドリッピング
14	まとめと作品鑑賞	演習の振り返り
15	全体総括	作品鑑賞、作品・レポート提出の解説
16		

科目コード	34119				区 分	コア科目			
授業科目名	保育内容「音楽表現」指導法 [FC2422組用]				担当者名	高崎 展好			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

幼児期における音楽教育の意義を考え、多様な音楽表現と音楽的要素を含んだ遊びの活動を通して、その指導法を学ぶ。様々な特性を持った子どものニーズに応えられるよう、どんな子どもの心にも届く音楽表現を目指し、様々な方法論を学ぶ。また、子どもを理解し、人間性豊かな指導者になるための基本の考え方を身に付ける。音楽表現のレパートリーを数多く会得し、保育の場で活用、実践できることを目指す。すべての課題レポートについては、GoogleClassを使用するため、PCを準備の上、望んでください。

### <授業の到達目標>

幼稚園教育要領、保育所保育指針より領域「表現」のねらいと内容を理解し、幼児教育において音楽表現の果たす役割、効果について学修を深める。保育者として子どもたちに表現することの楽しさを伝えるためには、自身が楽しむことが重要です。楽しく音楽表現を行うため、歌唱を通して、正しい知識と技能を修得し、実践を通じた豊富な経験を身に付けることを目標としたい。

### <授業の方法>

講義と演習を繰り返し行いながら、保育教育に必要な様々な音楽表現の習得を目指す。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

保育内容に関わる、歌唱、手遊び歌、手話等の音楽表現指導法の演習

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本講義では楽譜などを配布。配布資料を整理できるファイルを各自準備すること。各回講義内容はテキスト「一人一人を大切にするユニバーサルデザインの音楽表現」に沿っています。必ず予習を行うこと。また、演習で行った音楽表現内容は必ず復習をすること。会得できているか定期的に確認テストを行う。次週課題（事前予告）の予習60分・これまでに学習した課題の復習60分。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・意欲 30%、講義内での課題、レポート提出 20%、実技発表（模擬保育形式） 20%、実技テスト 30%

### <教科書>

星山麻木 編著、板野和彦 著（発行2015年8月10日 初版第1刷） 一人一人を大切にするユニバーサルデザインの音楽表現 萌文書林

細田淳子（発行2019年1月10日） 手あそび・体あそび・わらべうたがいっぱいあそびうた大全集200 永岡書店

### <参考書>

発行2017年6月1日 平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 チャイルド本社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本講義の概要、進め方について、音楽表現とは何かを学ぶ
2	基礎的な音楽表現①	ストレッチ、基本的な発声、歌唱を通じた音楽表現①
3	基礎的な音楽表現②	ストレッチ、基本的な発声、歌唱を通じた音楽表現②
4	基礎的な音楽表現③	ストレッチ、基本的な発声、歌唱を通じた音楽表現③
5	子どもの発達と音楽表現①	幼稚園教育要領より領域「表現」と音楽表現
6	子どもの発達と音楽表現②	「表現」とは
7	子どもの発達と音楽表現③	音楽の力
8	子どもの発達と音楽表現④	ユニバーサルデザインの音楽表現
9	子どもの発達と音楽表現⑤	音楽表現とコミュニケーション
10	子どもの発達と音楽表現⑥	リズムの力手話を活用した音楽表現①
11	子どもの発達と音楽表現⑦	豊かな心の発達を促す音楽表現手話を活用した音楽表現②
12	子どもの発達と音楽表現⑧	ことばとコミュニケーションの発達を促す音楽表現手話を活用した音楽表現③
13	子どもの発達と音楽表現⑨	認知や社会性の発達を促す音楽表現手話を活用した音楽表現④
14	保育実践演習	保育における音楽表現の実践演習
15	保育実践演習と総括	保育教育実習で活用できる音楽表現（手遊び歌）による実技試験と本講義のまとめ
16		

科目コード	34119				区 分	コア科目			
授業科目名	保育内容「音楽表現」指導法 [FC2421組用]				担当者名	高崎 展好			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

幼児期における音楽教育の意義を考え、多様な音楽表現と音楽的要素を含んだ遊びの活動を通して、その指導法を学ぶ。様々な特性を持った子どものニーズに応えられるよう、どんな子どもの心にも届く音楽表現を目指し、様々な方法論を学ぶ。また、子どもを理解し、人間性豊かな指導者になるための基本の考え方を身に付ける。音楽表現のレパートリーを数多く会得し、保育の場で活用、実践できることを目指す。すべての課題レポートについては、GoogleClassを使用するため、PCを準備の上、望んでください。

### <授業の到達目標>

幼稚園教育要領、保育所保育指針より領域「表現」のねらいと内容を理解し、幼児教育において音楽表現の果たす役割、効果について学修を深める。保育者として子どもたちに表現することの楽しさを伝えるためには、自身が楽しむことが重要です。楽しく音楽表現を行うため、歌唱を通して、正しい知識と技能を修得し、実践を通じた豊富な経験を身に付けることを目標としたい。

### <授業の方法>

講義と演習を繰り返し行いながら、保育教育に必要な様々な音楽表現の習得を目指す。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

保育内容に関わる、歌唱、手遊び歌、手話等の音楽表現指導法の演習

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本講義では楽譜などを配布。配布資料を整理できるファイルを各自準備すること。各回講義内容はテキスト「一人一人を大切にユニバーサルデザインの音楽表現」に沿っています。必ず予習を行うこと。また、演習で行った音楽表現内容は必ず復習をすること。会得できているか定期的に確認テストを行う。次週課題（事前予告）の予習60分・これまでに学習した課題の復習60分。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・意欲 30%、講義内での課題、レポート提出 20%、実技発表（模擬保育形式） 20%、実技テスト 30%

### <教科書>

星山麻木 編著、板野和彦 著（発行2015年8月10日 初版第1刷） 一人一人を大切にユニバーサルデザインの音楽表現 萌文書林

細田淳子（発行2019年1月10日） 手あそび・体あそび・わらべうたがいっぱいあそびうた大全集200 永岡書店

### <参考書>

発行2017年6月1日 平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 チャイルド本社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本講義の概要、進め方について、音楽表現とは何かを学ぶ
2	基礎的な音楽表現①	ストレッチ、基本的な発声、歌唱を通じた音楽表現①
3	基礎的な音楽表現②	ストレッチ、基本的な発声、歌唱を通じた音楽表現②
4	基礎的な音楽表現③	ストレッチ、基本的な発声、歌唱を通じた音楽表現③
5	子どもの発達と音楽表現①	幼稚園教育要領より領域「表現」と音楽表現
6	子どもの発達と音楽表現②	「表現」とは
7	子どもの発達と音楽表現③	音楽の力
8	子どもの発達と音楽表現④	ユニバーサルデザインの音楽表現
9	子どもの発達と音楽表現⑤	音楽表現とコミュニケーション
10	子どもの発達と音楽表現⑥	リズムの力手話を活用した音楽表現①
11	子どもの発達と音楽表現⑦	豊かな心の発達を促す音楽表現手話を活用した音楽表現②
12	子どもの発達と音楽表現⑧	ことばとコミュニケーションの発達を促す音楽表現手話を活用した音楽表現③
13	子どもの発達と音楽表現⑨	認知や社会性の発達を促す音楽表現手話を活用した音楽表現④
14	保育実践演習	保育における音楽表現の実践演習
15	保育実践演習と総括	保育教育実習で活用できる音楽表現（手遊び歌）による実技試験と本講義のまとめ
16		

科目コード	34120				区 分	専門基礎科目（領域・教科等に関する基礎理解）			
授業科目名	幼児と健康				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修／ 教員免許状 取得のため の選択科目

#### <授業の概要>

領域「健康」のねらいおよび内容を理解し、子どもの心身の健康な発育発達、基本的生活習慣の獲得、体力・運動能力の獲得、安全な環境設定を目的とした保育内容の提案のための知識・技能を理解する。この科目は保育士資格取得の必須科目である。

#### <授業の到達目標>

現代の子どもの健康を取り巻く環境の変化や諸問題を把握した上で、子どもの心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達について理解する。また、各指針・要領の健康領域「健康」のねらいおよび内容を理解し、説明することができる。

#### <授業の方法>

・講義形式ではパワーポイントを活用し、必要に応じて資料の配布を行う。・適宜ディスカッション、グループワークを用いて、交流を図る。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

ディスカッション、簡単に身体を動かす。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に示した参考書および資料を読み提示した課題を課す。また、授業内容のレポート課題を課すことがある。課題の提出はクラスルームから行う。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 2（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題60%、期末試験40%

#### <教科書>

なし

#### <参考書>

無藤隆、倉持清美（2020年8月25日） 新訂 事例で学ぶ保育内容 領域健康（榊文書林）  
酒井幸子、松山洋平（2020年12月10日） 保育内容 健康 あなたならどうしますか？（榊文書林）  
松田博雄、金森三枝（2019年） 子どもの健康と安全 中央法規

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	領域「健康」のねらい	授業概要の解説と領域健康についての解説
2	健康について	健康とは何かを考え、グループワークを行う
3	幼児の身体の発達	形態、骨、歯、脳の発達
4	幼児の心の発達	精神的発達、知的発達、社会性の発達
5	幼児の生活習慣	幼児教育施設における生活習慣
6	生活習慣の形成（睡眠・食事・排泄）	睡眠、食事、排泄、衣服の着脱の自立について
7	幼児の体力・運動能力について	幼児期運動指針、運動能力、身体活動について
8	幼児の運動遊びについて①	幼児の遊びの意義、多様な動きについて
9	幼児の運動遊びについて②	用具を用いた運動遊び
10	子どもの健康をめぐる現状と課題	子どもの健康に関する近年のトピックを扱う
11	子どものケガと病気	幼児に起こりやすい怪我と疾病
12	安全教育	子どもへの安全教育、保育者への研修
13	事故予防	防災教育、リスクマネジメント、施設設備管理
14	ICTを活用した保育	保育現場でICTを用いた保育方法の理解
15	幼児教育の現代的課題と領域「健康」	授業内容全般における振り返りと生涯発達のなかで「健康」に関する学びを捉える
16		

科目コード	34121				区 分	専門基礎			
授業科目名	幼児と言葉				担当者名	内田 伸子			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本科目では、領域「言葉」の指導の基礎となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身につける。そのため授業では、乳幼児期の言葉やその発達の特徴をふまえ、幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身に付ける。

#### <授業の到達目標>

(1)人間にとっての言葉の意義や機能を理解する。(2)言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解する。(3)幼児にとっての児童文化財の意義を理解する。

#### <授業の方法>

オンライン授業 (双方向の授業を進めるために、①常にカメラオン(受講意欲の評価をします)、マイクミュートで授業に参加すること。②指名されたらマイクオンにして回答すること。③受講中疑問点があればチャットに質問やコメントを書き入れるか、マイクオンして挙手マークをチェックし氏名を言って質問すること。)

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

なし

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習】①専用のノートを用意する。②テキストの該当章と配布資料(講義レジュメ)をよく読み授業の概要について予測しておく。③「理解したい」「深く知りたい」点は何かを書き出しておく。【復習】受講前に抱いた疑問は解決したか?受講によって初めて知ったことは何か?さらに調べてみたい点は何か?を書き出しておく。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2(保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講意欲(10%カメラオン)、授業への貢献度(10%)授業後の小テスト(30%)、テストレポート(50%)

#### <教科書>

内田伸子(編) (2008年1月初版その後増刷中)⇔<テキストに準拠して講義する> 『よくわかる乳幼児心理学』 ミネルヴァ書房

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション [予習;講義レジュメ、2017年新規保育指針の整理表]	領域「言葉」のねらいと内容、『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』;0歳からの教育~10の姿の育ちDVD『さとしの自分探し~今日きてよかったね』視聴により何に気づいたかをめぐる討論を行う。
2	人間にとっての言葉の意義と機能;音声言語の発成因 [講義レジュメテキストI章]	ことば(音声言語・speech;外言と内言)の獲得は人間に何をもたらしたか?人間に特有な「生理的早産」のしくみはことばの発生にどう寄与したかを理解する。
3	人間のとつての言葉の意義と機能;遺伝と環境 [講義レジュメ、テキストV章]	子どものことばの獲得に及ぼす遺伝と環境の相互作用について解説する。第一次認知革命と第二次認知革命を経てことばが人とつながり、自分の行動を制御するようになり、内省の手段になる過程を理解する。
4	子どもの言葉の発達過程;乳児期~幼児初期 [講義レジュメ、テキストVIの1・3・6]	「象徴機能」とは何か?言葉の意味がひろがる過程で「類推」や「般用」はどのようにはたらくか?英単語に一对一で日本語があてはまるかをサザエさんの漫画を題材にして考える。
5	子どもの言葉の発達過程;子育ての文化差 [講義レジュメ、テキストIIIの1・2・6・8]	子ども観の文化差は子育てスタイルにどう影響するか?育児語の文化差は言葉の発達にどのように影響するか?保育者と子どもの人数比の違いは言葉やジェスチャーの獲得にどんな影響を及ぼしているか?
6	子どもの言葉の発達過程;「唱える」~「数える」へ [講義レジュメ テキストVIIの1・2・3]	子どもの計数活動は、まず歌のように「唱える」ことから始まり、幼児期の終わりには対象物に適切な助数詞をつけて数えるようになる。実証を踏まえて数の概念の発達と計数行動が絡み合いながら発達することを理解する。
7	言葉の美しさ、楽しさ;子どもの語りの発達 [講義レジュメ、テキストXIの1・3]	2~3歳ごろに母語の文法が獲得されると筋の通ったお話を語るようになる。5~6歳ごろには談話文法やカットバック(可逆的操作)を獲得するとファンタジーも語れるようになる。「お話遊び」を保育にとりいれるよう提案。
8	言葉の美しさ、楽しさ;子どものウソ・大人の嘘 [講義レジュメ、テキストXIの]	子どものウソは人をあざむくような嘘か?子どもの目撃証言や裁判の供述の発話資料、うわさばなしの伝播の過程ごっこ遊びでの子どもの会話などから、ウソが発生

	2・4]	するメカニズムを探る。
9	言葉に対する感覚を豊かにする実践の実 際；ネグレクトからの言語回復〔講義レ ジュメ、テキストⅡ全体〕	ネグレクト児の社会復帰のための補償教育に取り組み、完全に言語回復、社会性、 思考の自律性を獲得させることができた。20年間のFとMの成長の物語を通して人間 発達の可塑性の素晴らしさを実感していただきたい。
10	言葉に対する感覚を豊かにする実践の実 際；親子の会話〔講義レジュメ、テキス トⅥの6・7・8〕	母語の獲得に文法の訓練は効果がない。親子の会話を通して言葉に対する感覚が豊 かになる。北村の方言獲得の調査研究から見てきた教師や保育者の語りかけが言 葉に対する感覚を豊かにすることを解説する。
11	言葉を育て創造する楽しさを広げる「児童 文化財」の意義；絵本〔講義レジュメ、 テキストⅩⅢの2・3〕	バトラー著『クシュラの奇跡』（のら書房）やベッテルハイム著『昔話の魔力』（大 修館書店）、内田・浜野編著『貧困は超えられるか』（金子書房）などから絵本の読 み聞かせが届ける「心の栄養」について理解する。
12	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児 童文化財を用いた実践；テレビ〔講義レ ジュメ、テキストⅩⅢの4・5〕	テレビなど映像メディアは幼児に何ができるか？NHKの『お母さんといっしょ』の番 組開発のための「形成評価研究」の方法論を解説する。実際の番組の開発と評価を経 た「こんなこいるかな」の映像をみて論評する。
13	読み書き能力の獲得；「楽習」が不可欠 〔講義レジュメ、テキストⅩⅢの1・ 12〕	文字学習の特質は何か、幼児期は遊びの中で文字に関心をもち、自分でも読んだり 書いたりするようになる。小学校入学までに育てたい力は絵や文字で表現したくな るような非認知能力（創造的想像力）である。
14	教育者・保育者の「言葉」の重要性；ZPD への「足場かけ」〔講義レジュメ テキ スト14章と15章〕	子どもの「発達の最近接領域（ZPD）」に援助を与えたい。援助には、①見守り ② 足場かけ ③省察促し ④誘導まで。 ⑤教導（解説や回答を教えてしまう）は避け ていただきたい。⑥禁止や命令は禁句である。
15	教育者・保育者の「言葉」の重要性；「保 育記録」による省察〔講義レジュメ・ド キュメンテーション資料〕	教育保育のPDCAサイクルをよく循環させる。大まかな保育計画（レシピ）のもとで保 育環境を用意。保育記録を作成して「保育カンファレンス」を開催する。改善点を見 つけて明日の教育・保育の質を向上させたい。
16		

科目コード	34122				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	幼児と人間関係				担当者名	平松 美由紀			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目では、領域「人間関係」の指導を行う際に基盤となる専門的事項の知識を身につける。そのために授業では、現在、生じている人間関係に関する変化、幼児期の人間関係の育ちなどについて学ぶ。具体的には配布資料、視聴覚教材（映像）を中心に、以下の内容について講義形式で行う。

### <授業の到達目標>

(1) 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。(2) 幼児期の人間関係および規定する諸要因の発達について理解する。

### <授業の方法>

講義では、「幼児と人間関係」に関するGoogleクラスルーム課題、要領・指針を使用する。各個人がGoogleクラスルームに教育経験や自己の考えやグループワークの取り組み等を記入する活動を15分程度、学生が概念を習得するための講義45分程度、ビデオ分析やグループ討議30分程度を組み合わせた講義を展開する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・アクティブラーニング：有・方法：グループディスカッション、グループワーク

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義前に、「幼児と人間関係」のGoogleクラスルーム課題と要領・指針の予習（30分程度必要）すべき内容と方法を指示する。講義後に、Googleクラスルーム課題の復習（30分程度）が必要な箇所を指示する。これを15コマ課し、合計15時間の予習・復習を行う。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP3 教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験（30%）、指定回の授業で課されるレポート（30%）、指定回の授業中に出题される小テスト（40%）

### <教科書>

### <参考書>

文部科学省（2018年2月）『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館

厚生労働省（2018年2月）『保育所保育指針解説』 フレーベル館

内閣府（2018年2月） 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説 フレーベル館

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	領域「人間関係」のねらいと内容及び評価	3法令における領域のねらいと内容
2	現代の乳幼児を取り巻く人間関係	乳幼児期の子どもにおける人と関わる力の育ち（「自分を捉える」）
3	家族や地域との関わりと育ち	身近な大人との関係と生態学からみた子どもの人と関わる力の育ち（「自分の今までを捉える」）
4	乳児期における人と関わる力①	0, 1歳児の人と関わる力の育ち（アタッチメント理論）
5	乳児期における人と関わる力②	2歳児の人と関わる力の育ち（自我の育ち）
6	幼児の人間関係①（自立と依存）	入園当初の幼児の人間関係（3歳児）
7	幼児の人間関係②（自己主張と自己調整）	集団における生活（3歳児～4歳児の人と関わる力の育ち）
8	幼児の人間関係③	保育者との関わり（居場所としての保育者の役割）
9	幼児の人間関係④	園生活の充実に向けて（5歳児の人と関わる力の育ち）
10	幼児の人間関係⑤	遊びにおける人と関わる育ち
11	幼児期における協同性の発達とその後の教育との接続	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿と小学校との連携
12	保育における幼児を取り巻く人との関わり	保育者同士の関わり 地域の人との関わり
13	特別な支援を必要とする子どもの人間関係	幼児の育ちと発達や環境による課題
14	保育実践から捉える領域人間関係①	保育実践の理解
15	保育実践から捉える領域人間関係②	保育実践の動向と保育構想
16		

科目コード	34123				区 分	コア科目			
授業科目名	幼児と環境				担当者名	橘高 真紀子			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

三法令における領域「環境」のねらい・内容の理解をはかるために、各回のテーマに即したグループワークを行い、また体験型の活動を行う。

#### <授業の到達目標>

(1) 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達についての意義を理解している。(2) 幼児の身近な環境との関わりにおける思考・科学的概念の発達を理解している。(3) 幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わりの発達を理解している。

#### <授業の方法>

・授業テーマに即したグループワーク、ディスカッション、発表資料作成を行う。・その後、各グループより議論した内容について発表を行う。・授業のまとめとして、講義を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・子どもを観察し、子どもの心の内や何に興味関心を持っているのかなど考察する機会をもっておく。・リアクションペーパーの作成時において、授業内容を振り返り、理解を深めるようにする。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2(保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

・受講態度、グループワークの参加態度(25%)・リアクションペーパー(20%)・オンデマンド課題(25%)・最終レポート(30%)

#### <教科書>

随時資料配布

#### <参考書>

幼稚園教育要領解説/フレーベル館 保育所保育指針解説/フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領/フレーベル

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・オリエンテーション・領域「環境」とは	・授業計画説明・領域「環境」のねらいと内容について
2	・探求心、好奇心を育む自然環境	・グループワーク：周辺散策と遊びのヒント
3	・探求心、好奇心を育む物的環境	・附属園見学：0歳児、1歳児、2歳児、3歳児、4歳児、5歳児、それぞれの物環境、遊具を考える。
4	・探求心、好奇心を育む人的環境	・オンデマンド：課題の提出
5	・自然に親しむ活動を取り入れる保育(1)	・グループワーク：夏野菜の栽培(各グループで責任をもって栽培活動、また観察を行う)
6	・数量・図形に関心をもつ保育	・遊びのワークショップ
7	・標識や文字に関心を持つ保育	・遊びのワークショップ
8	・生活に関係の深い情報や施設とは	・グループワーク
9	・自然に親しむ活動を取り入れる保育(2)	・グループワーク：収穫物を味わう
10	・自然に親しむ活動を取り入れる保育(3)	・グループワーク：活動の振り返り
11	・伝統的行事や様々な文化(1)	・グループワーク：教育保育の中で行う行事について調べ、子どもに何を伝えるべきか、ねらい等について検討し発表する。
12	・領域「環境」という視点をもった子どもの観察(1)	・東岡山IPU認定こども園で領域「環境」という視点で観察を行う。
13	・領域環境という視点をもった子どもの観察(2)	・観察した事例についてグループごとにまとめる。(パワーポイントで資料作り)
14	・領域「環境」という視点をもった子どもの観察(3)	・観察した事例についてグループごとに発表する
15	まとめ	・まとめの講義：領域「環境」の内容の取扱いについて・レポートテーマを伝える
16		

科目コード	34124				区 分	専門基礎			
授業科目名	幼児と表現				担当者名	宮原 舞／後藤 由佳／増岡 希望			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

### <授業の概要>

本科目では、領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身につける。そのため授業では、幼児期の表現の姿やその発達の特徴をふまえ、身体・造形・音楽表現などの様々な表現との豊かな関わりを育むための指導の在り方を体験を通して学ぶ。

### <授業の到達目標>

(1) 幼児期の表現の姿やその発達の特徴を理解し、幼児の感性や創造性を豊かにするための知識を会得する。(2) 幼児の身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。(3) オペレッタという表現形式に関する基本的な理解を深め、オペレッタ上演の意義を理解する。(4) オペレッタの音楽や歌、ダンスや振り付けのリハーサルを通じて、表現力の向上を目指す。(5) グループワークやリーダーシップの役割を通じて、協力し合いながらオペレッタを上演するためのチームワーク

### <授業の方法>

領域「表現」のねらい、内容、内容の取扱いについての講義を踏まえた上で、演習を行い、保育・幼児教育に必要な様々な「表現」を体験し、その手法を身につける。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有 (グループ創作活動)

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教科書に指定されている、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領より領域「表現」について必ず予習を行うこと。また授業内容について振り返り学習を行い、理解を深めること。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2(保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲(20%)、毎回の授業内に提出する小レポートや課題作品(60%)、定期試験(20%)

### <教科書>

平成29年3月告示 幼稚園教育要領

平成29年3月告示 保育所保育指針

平成29年3月告示 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業の概要と導入	・幼児期の表現の重要性と特徴の概観・オペレッタの概要と意義の紹介・オペレッタ上演の目標と学習成果の明確化
2	幼児の表現の姿と発達	・幼児期の感性や創造性の発達段階の理解・身体表現、造形表現、音楽表現などの幼児の表現形式の特性と相互関係の考察
3	オペレッタの基本構成要素	・オペレッタの構成要素と役割の解説・台本の読み解きと役割分担の設定
4	オペレッタの役作りと表現指導	・役柄に対する理解と感情表現の指導法・声の使い方や表情のトレーニング
5	ダンスと振り付けの基礎	・ダンスの基本姿勢と動きの基礎・オリジナル振り付けの考案と練習
6	舞台演出と演技練習	・舞台上での位置取りと動きの確認・シーンごとの練習と指導
7	オペレッタの音楽とリハーサル	・音楽の基本的な要素とオペレッタの楽曲の解説・音楽と歌のリハーサル
8	舞台セットと衣装の準備	舞台セット(舞台背景、大道具、小道具)の設計と製作の基礎衣装のデザインと制作の手順
9	プロップスの活用	・小道具の選定と使い方の指導・オペレッタに必要なプロップスの準備と活用法
10	全体リハーサルと調整	・全体の動きや表現の調整と練習・音楽と歌、演技の統合
11	最終リハーサルと評価	・最終リハーサルの実施と振り返り・グループ内評価と改善点の特定
12	公演準備と舞台セッティング	・公演の準備と舞台のセッティング・公演日程とチケットの販売・配布
13	公演日：オペレッタ上演	実際の公演を行い、幼児とその保護者に向けてパフォーマンスを披露
14	公演後の振り返りと評価	・公演の反省と成果の評価・個人的な学びやグループの成長についての振り返り
15	総括と学習成果の確認	・振り返りと学習成果の評価・幼児の表現力向上に向けた今後の取り組みの提案
16	定期試験	

科目コード	34210				区 分	コア			
授業 科目名	子どもの理解と援助				担当者名	大久保 諒			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、子どもの発達に関する様々な知見を踏まえ、それに基づいた子どもや保護者の理解と援助の在り方を演習形式で学ぶ。第1回到授業の目的や性質を学ぶ。第2回から第5回までは「子どもの実態に応じた発達や学びの把握」について学ぶ。第6回から第10回までは「子どもを理解する視点」について学ぶ。第11回から第12回までは「子どもを理解する方法」について学ぶ。第13回から第15回までは「子どもを理解に基づく発達援助」について学ぶ。

### <授業の到達目標>

- ① 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することに意義について理解する。
- ② 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。
- ③ 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。
- ④ 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

### <授業の方法>

各回の授業は、概ね次の要領で進む。まず、その回の学習内容について、ポイントを提示する。つづいて、その回の学習内容に関するスライドを提示し、詳しく解説を行う。そして、その回の講義内容について、体験的に学習を深めるための演習課題への取り組みを求める。また、学習内容について、事前学習を促す小課題や、事後的に理解度を確認する小課題への回答を定期的に求め、理解の定着を図る。なお、講義内ではGoogle Classroomを利用する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：教員からの一方的な授業内容の解説に留まらず、授業内容について事例検討方式のワークやグループディスカッションを行うことで、理解を深化を図る。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

専門的な知見に踏み込んだ学習内容について、「わかる」ようになることと「できる」ようになることの両方を目指す科目である。そのため、各回の授業の前後で予習と復習が必要になる。毎回、事前に提示された学習内容について、予め調べたり、小課題に取り組んだりするなど、1時間程度の予習を要する。同様に、毎回、配布資料や授業内で取り組んだ演習課題を振り返ったり、理解度の確認の小課題へ取り組んだりするなど、60分程度の復習を要する。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

演習の参加態度：25%、小課題の成績：25%、学期末レポートの成績：50%を総合して最終的な成績を定める。

### <教科書>

### <参考書>

高嶋景子・砂上史子（編著）（2019/4）子どもの理解と援助 ミネルヴァ書房  
遠藤利彦（編著）（2021/6）情動発達の理論と支援 金子書房

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の説明、子どもの理解と支援に必要な観点
2	子どもの実態の理解①	広範な個人差
3	子どもの実態の理解②	生物学的背景に基づく個人差
4	子どもの実態の理解③	社会・文化的背景に基づく個人差
5	子どもの実態の理解④	個人差に配慮した共感や、保育・養護・教育
6	子どもの保護者の理解と支援①	保護者と子どもの相互規定関係、保護者の持つ背景
7	子どもの保護者の理解と支援②	子どもの特徴から保護者が被る影響
8	子どもの集団生活の理解と支援①	子どもの安全の確保、子どもの生活習慣の確立、子どもが身に着けるルール
9	子どもの集団生活の理解と支援②	子どもの遊びや仲間関係を通じた経験
10	環境の変化	家庭生活と園生活の関係
11	子どもを理解する方法①	子どもの観察に関する方法と記録の取り方、評価と省察
12	子どもを理解する方法②	子どもの情報の収集と共有の方法（職員間のコミュニケーション、保護者とのコミュニケーション）
13	子どもの理解に基づく発達援助①	発達の段階や個人差に応じた課題に対する援助
14	子どもの理解に基づく発達援助②	特別な配慮を要する子どもや、その保護者の理解と援助

15	子どもの理解に基づく発達援助③、まとめ	発達の連続性と就学への支援、授業全体の振り返り
16		

科目コード	34211				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	子ども家庭福祉				担当者名	田中 恵子			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

この授業は、保育士資格取得者のための授業となっている。児童福祉法第18条に規定する保育士は、「倫理観」「専門的知識」「技術及び判断」を持つことによって保育を行なうことができるのである。子ども家庭福祉は「児童の最善の利益」「健全な育成」を目的とし、専門職者が家庭や地域社会でそれを具現化するための基礎的学びである。さらに共働き家庭やひとり親家庭の援助・支援はもとより、専業主婦の子育て支援、児童虐待の顕在化とその動向等、児童を取り巻く様々な課題について理解を深め、福祉の専門職としての責務を学び考える。

#### <授業の到達目標>

児童福祉法の学びと理解、子どもと社会地域についての現状を把握しその問題点について省察することができる能力・資質を身に付ける。

#### <授業の方法>

資料の理解（専門用語はもちろんそれらに示されるキーワードの解釈をする）中心に講義内容の記述を課す。また児童に関する社会的問題を検証する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次回講義内容にあたるスライド資料の理解として専門用語はもちろんそれらに示されるキーワードの解釈をする（予習30分）、学習内容のまとめ・振り返りノートまとめをする。（復習30分）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

最終レポート60%、リアクションペーパー30%、講義受講態度10%を総合的に評価する。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方と単位認定の要件について、授業内容の概要について
2	子ども家庭福祉の概要(1)	子どもと家庭を取り巻く現状について
3	子ども家庭福祉の概要(2)	子どもの権利について
4	子ども家庭福祉の歴史	日本の子ども家庭福祉について
5	子ども家庭福祉の制度と法体系(1)	児童福祉法について
6	子ども家庭福祉の制度と法体系(2)	児童福祉法及び子ども家庭福祉に関係する法律について
7	子ども家庭福祉行政と実施機関	子ども家庭福祉の行政・財政と支える機関について
8	子ども支援サービスと子どもの健全育成(1)	少子化対策と働き方改革関連法について
9	子育て支援サービスと子どもの健全育成(2)	子ども・子育て支援新制度と健全育成施策について
10	学齢期の子どもの教育と福祉	児童健全育成事業について
11	母子保健サービス	母子保健の理念と取り組みについて
12	保育サービス	待機児童と保育サービスについて
13	子ども虐待とDV(ドメスティック・バイオレンス)	子ども虐待の現状とDVへの対応について
14	社会的養護	社会的養護と代替的養護について
15	子ども家庭福祉の専門職と連携・ネットワーク	子ども家庭福祉に携わる専門職と専門性について
16		

科目コード	34301				区 分	障害児保育			
授業科目名	障害児保育				担当者名	松本 好生			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	あり

### <授業の概要>

障害児保育の理念と専門的知識を習得するため、主に下記の点について学習する。○障害児保育の対象と特徴 ○障害種別の障害特性の理解の理解（実践事例を通して）○発達障害の障害特性と保育のしかたの違い（「構造化」された環境での実践事例を通して）○子ども理解の基づく計画の作成と記録・評価（保育士の求められる記録法としての「接面パラダイム」）

### <授業の到達目標>

○子どもの定型発達を確認したうえで、障害種別の定義と障害特性を理解する。○障害児保育・統合保育・インクルーシブ教育・保育の実践などについて知識を習得する。○障害の理解と発達支援、支援方法、構造化された環境のあり方の重要性、保育計画・記録法などを学ぶ。○障害種別の障害特性について理解を深める。○保護者支援、幼児期を含めたライフステージごとの専門機関との連携について知識を深める。

### <授業の方法>

○実践事例を交えながら障害児保育の理解を深める（主にパワーポイントを使用）。○障害特性を説明するうえで数量化された図表などを必要に応じてプリントにて配布する。○障害の理解を深めることを目的に、パワポによる写真やDVD等の視覚化した教材を取り入れる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業に関連する教科書の章や提示された参考書に目を通しておくこと。配布した資料などはファイルし、いつでも参照できるようにしておくこと。専門用語も多いので、必ず復習を重ね、用語を正確に理解しておくこと。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 10%、定期試験 90%

### <教科書>

渡部信一・北郷一夫・無藤隆（編著）：障害児保育【新版】、北大路書房、2014年3月20日発行

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	障害児保育とは	保育場面で、障害がある子どもが、もしも困難さや生きにくさがあるとすれば、それをカバーすることが障害児保育のもつ大きな役割であることの理解
2	障害児保育の歴史と理念	統合保育からインクルーシブ教育・保育への理解
3	障害児保育の対象とその特徴	福祉型児童発達支援センターと医療型児童発達支援センターの違いの理解
4	障害児の生活に関する保育方法	障害がある子どもが日常生活を送るなかでの障害児保育の現状と課題
5	知的障害がある子どもの保育	知的障害の理解と保育
6	言葉の遅れがある子どもの保育	吃音も含めた言葉の発達と言語障害の理解と保育
7	障害の理解と保育(1)（実践事例）	肢体不自由・視覚障害・聴覚障害の理解と保育
8	障害の理解と保育(2)（実践事例）	重症心身障害の理解と保育
9	発達障害児と保育(1)	発達障害の診断の変遷（PDDからASDへ）と障害特性の理解と保育
10	発達障害児と保育(2)（実践事例）	自閉スペクトラム障害 ASD の理解と保育（「構造化」手法も含めて）
11	発達障害児と保育(3)（実践事例）	注意欠如多動症 ADHDの理解と保育
12	発達障害児と保育(4)（実践事例）	注意欠如多動症 ADHD と限局性学習症 LD の関係性の理解と保育
13	子ども理解に基づく計画の作成と記録・評価	保育計画と接面パラダイムを踏まえた記録方法
14	障害児保育に関する関連機関との連携・協働	医療・保健の現状と課題、専門機関との連携による福祉・教育支援
15	障害がある子どもの保護者支援	ペアレント・トレーニングとライフステージごとの関係機関への相談の仕方
16		

科目コード	34310				区 分	コア科目			
授業科目名	子どもの食と栄養 [FC]				担当者名	眞鍋 芳江			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択／保育士国家資格取得のための必修

### <授業の概要>

幼少期からの食生活習慣の形成は、その後に続く成人期、高齢期の生活と健康に重要な意味を持ち、食は心身の健康や社会生活にも大きな影響を及ぼす。幼児教育施設での食は、保育士だけで行わず、専門職と連携した関わりが重要である。本授業では、現代の子どもの食生活の現状や課題について理解し、望ましい食生活、食の支援のあり方や食育の重要性を考え、子どもの成長段階に対応した食生活の支援について学ぶ。

### <授業の到達目標>

保育士にとって子どもの健康の保持・増進は重要な栄養に関する基礎知識を学ぶとともに、幼児期の発達段階を理解し、各段階における栄養・食生活の役割を保育の立場からの関わり合い方を身に付ける。また、生活習慣病や食物アレルギーなど食に関する問題への対応を習得し、個々の発達段階にあった食品の選択や調理法、食事の与え方など判断できる能力を養う。

### <授業の方法>

パワーポイントを使用した講義形式とし、口頭で詳細を説明する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素 有 3、4人のグループに分かれ、授業内容に関するテーマでグループワークを行いグループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教科書や授業内で配布した資料は必ず目を通し、理解を深めるようにする。不明な点については、参考書やインターネットを利用して調べるようにする。授業時間外での質問を受け付ける。（2時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内評価（授業態度、学習意欲、課題）40%、定期試験60%

### <教科書>

児玉浩子（編著）太田百合子・風見公子・小林陽子・藤澤由美子（執筆）（2021）子どもの食と栄養 改訂第3版 中山書店

### <参考書>

水野清子・南里清一郎・長谷川智子・當仲香・藤澤良知・上石晶子（編者）（2021）子どもの食と栄養健康なからだところを育む小児栄養学 診断と治療社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	子どもの健康と食生活①	子どもの心身の健康と食生活
2	子どもの健康と食生活②	子どもの食生活の現状と課題
3	栄養に関する基本的知識①	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
4	栄養に関する基本的知識②	食事摂取基準と献立作成・調理の基本
5	乳児期の食生活	乳児期の栄養・食生活の特徴離乳食の進め方
6	幼児期の心身の発達と食生活	幼児期の食の問題と気になる食行動
7	学童期以降の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活	学校給食の特徴と食を選択する力
8	保育における食育の意義・目的と基本的考え方	子どもの食生活と問題点、食育基本法
9	保育環境と食事	保育施設ごとの食事の提供や形態
10	家庭・地域・福祉施設における食育①	家庭・地域・福祉施設における食育
11	家庭・地域・福祉施設における食育②	食事マナー
12	食の安全	食中毒の予防策
13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養①	食物アレルギー・障がいのある子どもへの対応
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養②	疾病・体調不良の対応
15	食文化	世界や日本、地域の食事、全般の振り返り



科目コード	34312				区 分	子どもの保健			
授業 科目名	子どもの保健				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本授業では、保育者が身につけなければならない、子どもの「身体的発育・発達」や「保育現場における衛生管理（手洗いや排せ、衣服の着脱、清潔活動など）」、「安全教育・安全管理」等の保健課題を学習する。子ども（乳幼児期）の心身の発達段階を理解し、その発達には生活環境が大きく影響を与え、その関連性を学ぶ。専門職、保育士・幼稚園教諭として子どもの心身の保健の保持が図れる能力の基礎を培う。そのため、小児各期の身体発育、生理機能・精神運動機能の発達について基礎知識を習得する。

#### <授業の到達目標>

この授業の到達目標は、保育士や幼稚園教諭といった保育者だけでなく、大人は、子どもの保護者として「子どもの命を守る」責任ある事を自覚し、具体的な保健行動ができる態度を身につける事としている。具体的には、責任ある適切な保健行動ができるよう専門知識と技能を身に付ける。手洗いや清潔、衣服の着脱などの衛生管理や安全教育・安全管理により事故を未然に防ぐ技術や万が一の場合の適切な処置ができるよう実践を交えて修得できるようになる。

#### <授業の方法>

双方向の参加型の講義形式で授業する。但し、必要に応じてグループ討議・DVD等を取り入れる。毎授業ごとに課題を実施し、理解度を確認する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

健康・安全に関する手技の実践。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：シラバスにて予告された学習内容を教科書にて事前に熟読する（1時間程度）。毎授業ごとに次にすべき予習事項を告知する。

復習：授業で学習した内容を日常生活の中で実践予想し、保育者として援助・指導できる専門技術について振り返る（1時間程度）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

最終試験60%、課題・レポート40%。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	子どもの心身の健康と保健の意義①	オリエンテーション、生命の保持増進と情緒の安定に係る保健活動の意義と子どもの保健を学ぶ目的
2	事故予防①	乳児の窒息の予防、防止、身体的特徴
3	事故予防②	心肺蘇生法の理論
4	事故予防③	心肺蘇生法の実技
5	事故予防④	痙攣、溺水、交通事故などの予防と対策
6	感染症対策①	感染症への保育現場の対策
7	感染症②	実際の疾病とその予防。
8	子どもの心身の健康状態とその把握	健康状態の観察、登園時の対応
9	アレルギー	アレルギー対応、経過観察
10	心の健康	不調等の早期発見、発育・発達の把握と健康診断
11	ウェルビーイングのための保健	予防接種、母子保健、
12	保育所での生活	おむつの交換、衣服の着脱
13	遊びと保健	手洗い指導、歯磨き指導、栄養指導
14	怪我とその対応	鼻血、捻挫、打撲などの応急処置と経過観察
15	まとめ	授業全体のまとめ
16		

科目コード	34313				区 分	コア			
授業科目名	子ども家庭支援論				担当者名	田中 恵子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

この授業は、保育士資格取得者のための授業となっている。○保育と家庭支援の必要性やかかわり、支援者として必要な基礎・基本を学び理解する。○対象である子ども本人についてのみならず、その両親、家庭、地域、学校、医療機関、社会福祉施設等の子ども本人を取り巻く環境とのかかわりにも目を向け、さまざまな福祉の角度から考察し実態を把握する。○保育所や児童福祉施設等の現場の実践に必要な知識、技術までを段階的に学び実践力を養成する

### <授業の到達目標>

保育のさまざまな実践場面において、家庭支援は深くかかわっている。家庭支援は発達援助や環境構成といった専門性に加えて、ソーシャルワークの技術や視点の活用が求められる。本科目では、家庭支援の理論・知識・技術を学習し、家庭支援の事例分析を通して支援の技術習得を身に付けていけるようになる。また家庭支援の事例検討を行うとともに支援者として理解しておかなければならない心がまえや態度を理解できるようになる。

### <授業の方法>

テキストにそって全体を「理論」「演習」「事例」の3編に分け、家庭支援の基本を講義形式で理解し、それをもとにグループワークで具体的知識や技術を活用してグループワーク、ディスカッション等を行い体験的に学ぶ。さらに保育所や児童福祉施設 幼稚園 認定こども園等の現場を意識した事例を通して実践力を養う

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有家庭支援の基本を講義形式で学んだのち、具体的知識や技術を活用してグループワーク、ディスカッション等を行い体験的に学ぶ。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

○（予習）30分 テキストにそって各章の学びのねらいを読み取り記述し、レポートを提出し授業中に逐次発表する。○（復習）30分 子どもや保護者に生じる生活課題にはどのようなものがあるかを考察し、グループで話し合いまとめのレポートを作成する。またテキストワークに取り組む。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験60%、毎時間の課題30%、授業態度10%で評価します。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方と単位認定の要件について
2	子どもと家庭を取り巻く環境	家族・家庭とは？家族・家庭を取り巻く環境
3	保育者が実践する子ども家庭支援とは	子どもをもつ家庭を取り巻く環境子ども家庭支援の基本的な考え方
4	子育て家庭を支える法・制度および社会資源	子育て家庭を支えるこれまでの取り組み障害のある子どもと家族に対しての支援
5	保育者に求められる基本的態度および基本技術	相談を受ける者の基本的態度相談場面で必要な技術保育現場での相談スキルの活用場面
6	保育現場での相談スキルの活用場面	地域の社会資源と連携保育士の倫理
7	保育者が行う子ども家庭支援の実践	保育所等の特性を活かす保育場面における具体的な子育て支援の方法
8	子ども家庭支援のための制度	子ども家庭支援のための法律や制度の理解支援の実践の事例について
9	地域の子育て家庭への支援	保育所等が行う地域子育て支援地域子育て支援専門職としての支援と実際の取り組み
10	さまざまな子ども家庭の理解と支援	子ども家庭のさまざまな形ひとり親家庭における支援の展開外国とつながりのある子どもの保育と支援
11	不適切な養育環境の子どもやその過程への支援	不適切な養育環境とは子ども虐待について代替養育の理解と家庭への支援
12	発達障害児等の理解と家庭への支援	日本における障害児に関する現状障害のある子どもや家庭への支援の展開
13	子どもの貧困の理解と家庭への支援	子どもの貧困とは何か子どもの貧困問題における支援の展開
14	保育が子ども家庭支援に果たす役割	子育て実践力の基盤をつくる働き子ども家庭支援におけるソーシャルワーク幼児教育と子どもの育ち

15	子ども家庭支援の振り返り	子ども家庭支援論のまとめ
16		

科目コード	35100				区 分	専門基礎			
授業科目名	運動学				担当者名	早田 剛			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

運動学は、人間の身体運動の構造や性質を、諸原理から選択して、系統的に応用する科学研究領域である。つまり、解剖学、生理学、生化学で学んだ人体の構造と機能、働きを理解した上で、身体運動の発現が効率良く連携する仕組みを学習するものである。動きに関わる動作や意識に現れる「かたち」をその研究対象、分析対象にするという方法論をもち、そうした視点から現場の運動実践の問題解決に寄与しようとする理論を学ぶ。

#### <授業の到達目標>

1. 人間の運動と器械や動物の運動の違いを理解するとともに運動学の意義を示すことができる。2. 運動の外的構造と内的構造を理解する。3. 動感創発身体知や動感促発身体知について、実際の運動場面と照らし合わせて理解することができる。

#### <授業の方法>

1. 予習課題の提出：テーマに即した意見の提出と他学生の意見を確認する（約30分）2. オンデマンド資料視聴① 解説と問いの提示（約10分）3. 確認小テスト（約30分）4. オンデマンド資料視聴② 解説と問いの提示（約10分）5. 授業後レポートの提出（約30分）：字数制限有 次週課題の確認（➡自宅学習：約30～60分）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング：有オンデマンド授業のため、予習課題の見える化や意見交換でのアクティブラーニングを実施していく

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容のキーワードについて、インターネットや本で調べ、事前課題を実施する（約2時間）。意見交換：予習課題を踏まえ、オンデマンド授業を視聴し、自分の意見を述べ、他学生の意見を確認する。復習：振り返りレポート（約1時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

予習課題：30%授業課題・意見交換：40%確認小テスト・省察レポート：30%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション：運動学とは	A運動学とは B運動学の領域と目的 C運動のとらえ方
2	運動学習（1）	学習～学習曲線
3	運動学習（2）	動機づけ～記憶
4	運動の表し方	A運動の表示 B関節運動の表示
5	身体運動と力学（1）	A身体運動に関する力 B人体における単一機械構造
6	身体運動と力学（2）	C運動の法則 D仕事と力学的エネルギー
7	運動器の構造と機能（1）	A骨の構造と機能 B関節の構造と機能
8	運動器の構造と機能（2）	C骨格筋の構造と機能
9	四肢と体幹の運動（1）	体幹と脊柱の運動
10	四肢と体幹の運動（2）	上肢帯と肩関節の運動
11	四肢と体幹の運動（3）	骨盤と股関節の運動
12	四肢と体幹の運動（4）	膝・足関節の運動
13	四肢と体幹の運動（5）	肘・手関節の運動
14	動きに構造を見つける①	運動財を考える
15	動きに構造を見つける②	戦術から運動をみる
16		

科目コード	35201				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツメンタルトレーニング論				担当者名	浦 佑大			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本講義では、競技力向上及び実力発揮を目的としたメンタルトレーニングの技法を紹介し、トレーニングプログラム作成における基本事項について解説する。さらに、リラクゼーションやイメージトレーニング、試合前の心理的準備といったメンタルトレーニングにおける主な技法の実習を行うことで体験的な理解を図っていく。本授業を通して、受講生は 実践に即した理論と知識を幅広く身につけるとともに、スポーツメンタルトレーニングを競技場面でどのように実践的に取り入れていくかについて理解を深め、独自のトレーニングプログラムを創出する力を養うことを目標とする。

#### <授業の到達目標>

スポーツメンタルトレーニングの基本知識や技法を習得できる。また、実践に即した技法を幅広く身につけて、部活動や教育活動の中で独自のトレーニングプログラムを創出できる。

#### <授業の方法>

講義と実習、ディスカッションを組み合わせる。授業の最後にまとめの小テストまたはレポートを課す。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有必要に応じてグループワークやディスカッションを取り入れる

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間に配布した資料を読んで1時間の予習をしてくること。講義で紹介した技法を自宅で練習し、ワークシートへの記入する復習を1時間行うこと。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎時の課題提出30%、小テスト30%、 最終レポート40%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

中込四郎 「メンタルトレーニングワークブック」 道和書院

日本スポーツ心理学会編 「スポーツメンタルトレーニング教本」 大修館書店

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	メンタルトレーニングとは	心理技法、構成要素、理論的背景
2	トレーニングプログラムの概観	心理適性、トレーニングプログラム
3	アセスメントの方法	心理テスト、面接
4	リラクゼーション技法	呼吸法、筋弛緩法、自律訓練法
5	ピークパフォーマンス分析	ピークパフォーマンス、クラスタリング
6	目標設定	目標設定の原則、長期・短期目標
7	イメージ技法 (1)	イメージトレーニングの応用、イメージの深まり
8	イメージ技法 (2)	イメージトレーニングの応用、イメージの深まり
9	認知情動の再構成法	積極的思考、セルフコントロール
10	バイオフィードバック法	心拍数、自律神経、脳波
11	注意集中技法	注意のスタイル、内的・外的注意
12	メンタル・コンディショニング	自己モニタリングとセルフコントロール
13	チームワーク	チームビルディング、リーダーシップ
14	メンタルトレーニングの実践例	アスリートの心理サポート、SMT指導士
15	まとめ	授業の振り返り
16		

科目コード	35204				区 分	専門基礎			
授業科目名	トレーニング論 I (基礎)				担当者名	梶谷 亮輔			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本講義では、トレーニングの原理原則から各種スポーツ種目の競技力向上を目的としたトレーニング方法論を概説する。また、体力および技術を高めるためのトレーニング法について学ぶ。

#### <授業の到達目標>

競技力向上を目的としたトレーニング方法について理解し説明することができる。また、各々の課題に応じたトレーニングを計画することができるようになる。

#### <授業の方法>

パワーポイントを用いたオンデマンド講義を視聴した上で、確認テストやレポートに取り組む。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り調査を行い主体的にトレーニングについて知る。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業に対するコメントを翌日までに回答した上で、次の授業で行う確認テストの準備を行うこと。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1) 毎回の評価：5点×15回（確認テスト、意見交換、レポート提出）＊期日までに提出されたものを評価の対象とします。2) 期末レポート評価：25点期末レポートは、毎回の授業で課すレポートをまとめたものに総合考察を付けて提出してもらいます。毎回のレポート評価は提出点のみとし、期末レポートで内容まで評価します。

#### <教科書>

#### <参考書>

宮下充正 トレーニングの科学的基礎 ブックハウスHD

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	トレーニングの基礎的概念①	トレーニングの基礎
3	トレーニングの基礎的概念②	トレーニングの種類と原理・原則
4	ピリオダイゼーションとトレーニング計画	トレーニングの期分けと計画の立て方
5	トレーニングの実践①	力を高めるためのトレーニング
6	トレーニングの実践②	持久力を高めるためのトレーニング
7	トレーニングの実践③	技術を高めるためのトレーニング
8	トレーニングの実践④	プライオメトリックトレーニング
9	トレーニングと栄養補給	スポーツライフマネジメント、三大栄養素
10	コンディショニングの理論と方法	疲労と体力の関係性、オーバートレーニング症候群
11	トレーニング効果の評価方法（1）ラボテスト	最大酸素摂取量、最大筋力、各種跳躍能力の測定と評価
12	トレーニング効果の評価方法（2）フィールドテスト	筋力、パワーおよび跳躍能力の測定と評価
13	トレーニング計画の作成	課題設定と達成のための計画づくり
14	トレーニング計画の作成（2）	課題設定と達成のための計画づくり
15	まとめ	トレーニング計画の発表
16		

科目コード	35205				区 分	コア			
授業 科目名	トレーニング論Ⅱ(応用)				担当者名	國友 亮佑			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本講義では、トレーニングの基礎的概念をベースに、各種体力（筋力、パワー、持久力など）を効果的に高めるためのトレーニング計画を立てる能力を養う。また、トレーニングの成否を判断するための体力の評価法についても学習する。

#### <授業の到達目標>

各々の課題に応じたトレーニングを計画し、トレーニングの成否を評価することができる。

#### <授業の方法>

講義と受講者による発表・討論を行います。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

参考図書（トレーニングの科学的基礎）を熟読の上、授業に参加すること。（所要時間：2時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（提出物を含む）60%、発表40%

#### <教科書>

#### <参考書>

野坂和則 ハイパフォーマンスの科学 - トップアスリートをめざすトレーニングガイド - 有限会社 ナップ

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	トレーニングの基礎的概念①	トレーニングの原理・原則、量・強度・質のとらえ方
3	トレーニングの基礎的概念②	トレーニングの分類、負荷特性
4	トレーニングに関する最近の研究①	日本語論文の探し方と読み方
5	トレーニングに関する最近の研究②	英語論文の探し方と読み方
6	トレーニングに関する発表および討論①	発表、質疑応答、レポート作成
7	トレーニングに関する発表および討論②	発表、質疑応答、レポート作成
8	トレーニングに関する発表および討論③	発表、質疑応答、レポート作成
9	トレーニングに関する発表および討論④	発表、質疑応答、レポート作成
10	トレーニングに関する発表および討論⑤	発表、質疑応答、レポート作成
11	トレーニングに関する発表および討論⑥	発表、質疑応答、レポート作成
12	トレーニングに関する発表および討論⑦	発表、質疑応答、レポート作成
13	トレーニングに関する発表および討論⑧	発表、質疑応答、レポート作成
14	トレーニングに関する発表および討論⑨	発表、質疑応答、レポート作成
15	トレーニングに関する発表および討論⑩	発表、質疑応答、レポート作成
16		

科目コード	35207				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ心理学 [PP/PH1～3年生用]				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

スポーツ活動には、種々の側面から心の関与が認められる。そのことからスポーツ心理学の研究領域ではスポーツ活動で生じる現象を対象に、心理学的手法によりそのメカニズムの解明を行っている。本授業では、スポーツ心理学に関する基礎知識とともに行動変容に向けた心理的アプローチの実践方法について学ぶ。なお、スポーツ現場での実践と共に学びを深め、今後の競技活動や教育活動に活用できることをねらいとする。

#### <授業の到達目標>

スポーツ心理学の基礎的な理論と実践・応用の仕方を理解し、スポーツ場面で起こる心理的な問題に対処できるようになる。

#### <授業の方法>

本授業は、テキストを用い、テキストから出される事前課題に取り組み、授業に参加してもらう。授業は講義後にディスカッションをする時間を設け、お互いの意見を共有し、授業終わりには振り返りを行なってまとめてもらう。全授業後に最終レポート課題に取り組んでもらう。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

自らの経験から、体育・スポーツ現場で必要な心理的要素を考え、課題克服に必要な対処法を考える。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習として、教科書の指定された範囲を読み、事前課題を期限までに提出する（1時間程度）・復習として、授業内容を振り返り、学習内容を整理する（1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題30%、授業参加態度30%、振り返り課題20%、最終レポート20%

#### <教科書>

楠本恭久編著（2015年1月15日） 「はじめて学ぶスポーツ心理学12講」 福村出版

#### <参考書>

石井源信編（2012年8月1日） 「現場で活きるスポーツ心理学」 杏林書院

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ心理学について	スポーツ心理学の歴史と内容
2	スポーツ心理学の研究法	スポーツ心理学の研究領域、研究方法
3	スポーツと発達	遺伝と環境、発達、身体と運動の発達
4	スポーツと学習	スキルの要素と分類、学習理論、練習の組み立て
5	スポーツとパーソナリティ	スポーツ選手とパーソナリティ、不安、あがり
6	スポーツと動機づけ	動機づけのメカニズム、目標設定
7	スポーツと社会心理学	スポーツ集団について、スポーツ場面での他者の存在
8	競技の心理（1）	競技の心理特性、競技者の心理
9	競技の心理（2）	指導者の心理、けがと心理
10	メンタルトレーニング（1）	メンタルトレーニングとは、競技力向上や実力発揮に必要な心理的スキル
11	メンタルトレーニング（2）	呼吸法、漸進的筋弛緩法、自律訓練法
12	メンタルトレーニング（3）	心理的技法の実践、暗示、イメージ
13	メンタルトレーニング（4）	自己分析に用いる心理検査
14	健康スポーツの心理	運動・スポーツの心理的効果
15	スポーツと臨床	バーンアウト、イップス
16		

科目コード	35207				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ心理学 [PP/PH1～3年生用]				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

スポーツ活動には、種々の側面から心の関与が認められる。そのことからスポーツ心理学の研究領域ではスポーツ活動で生じる現象を対象に、心理学的手法によりそのメカニズムの解明を行っている。本授業では、スポーツ心理学に関する基礎知識とともに行動変容に向けた心理的アプローチの実践方法について学ぶ。なお、スポーツ現場での実践と共に学びを深め、今後の競技活動や教育活動に活用できることをねらいとする。

#### <授業の到達目標>

スポーツ心理学の基礎的な理論と実践・応用の仕方を理解し、スポーツ場面で起こる心理的な問題に対処できるようになる。

#### <授業の方法>

本授業は、テキストを用い、テキストから出される事前課題に取り組み、授業に参加してもらう。授業は講義後にディスカッションをする時間を設け、お互いの意見を共有し、授業終わりには振り返りを行なってまとめてもらう。全授業後に最終レポート課題に取り組んでもらう。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

自らの経験から、体育・スポーツ現場で必要な心理的要素を考え、課題克服に必要な対処法を考える。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習として、教科書の指定された範囲を読み、事前課題を期限までに提出する（1時間程度）・復習として、授業内容を振り返り、学習内容を整理する（1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題30%、授業参加態度30%、振り返り課題20%、最終レポート20%

#### <教科書>

楠本恭久編著（2015年1月15日） 「はじめて学ぶスポーツ心理学12講」 福村出版

#### <参考書>

石井源信編（2012年8月1日） 「現場で活きるスポーツ心理学」 杏林書院

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ心理学について	スポーツ心理学の歴史と内容
2	スポーツ心理学の研究法	スポーツ心理学の研究領域、研究方法
3	スポーツと発達	遺伝と環境、発達、身体と運動の発達
4	スポーツと学習	スキルの要素と分類、学習理論、練習の組み立て
5	スポーツとパーソナリティ	スポーツ選手とパーソナリティ、不安、あがり
6	スポーツと動機づけ	動機づけのメカニズム、目標設定
7	スポーツと社会心理学	スポーツ集団について、スポーツ場面での他者の存在
8	競技の心理（1）	競技の心理特性、競技者の心理
9	競技の心理（2）	指導者の心理、けがと心理
10	メンタルトレーニング（1）	メンタルトレーニングとは、競技力向上や実力発揮に必要な心理的スキル
11	メンタルトレーニング（2）	呼吸法、漸進的筋弛緩法、自律訓練法
12	メンタルトレーニング（3）	心理的技法の実践、暗示、イメージ
13	メンタルトレーニング（4）	自己分析に用いる心理検査
14	健康スポーツの心理	運動・スポーツの心理的効果
15	スポーツと臨床	バーンアウト、イップス
16		

科目コード	35207				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ心理学 [PS用]				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

スポーツ活動には、種々の側面から心の関与が認められる。そのことからスポーツ心理学の研究領域ではスポーツ活動で生じる現象を対象に、心理学的手法によりそのメカニズムの解明を行っている。本授業では、スポーツ心理学に関する基礎知識とともに行動変容に向けた心理的アプローチの実践方法について学ぶ。なお、スポーツ現場での実践と共に学びを深め、今後の競技活動や教育活動に活用できることをねらいとする。

#### <授業の到達目標>

スポーツ心理学の基礎的な理論と実践・応用の仕方を理解し、スポーツ場面で起こる心理的な問題に対処できるようになる。

#### <授業の方法>

本授業は、テキストを用い、テキストから出される事前課題に取り組み、授業に参加してもらう。授業は講義とディスカッションを行い、グループ発表を通してお互いの意見を共有し、授業終わりには振り返りを行なう。また、授業で学んだ内容を実際に実践してレポートを提出してもらう。全授業後に最終レポート課題に取り組んでもらう。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

自らの経験から、体育・スポーツ現場で必要な心理的要素を考え、課題克服に必要な対処法を考える。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習として、教科書の指定された範囲を読み、事前課題を期限までに提出する（1時間程度）・復習として、授業内容を振り返り、学習内容を整理する（1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題30%、授業参加態度30%、課題20%、最終レポート20%

#### <教科書>

楠本恭久編著（2015年1月15日） 「はじめて学ぶスポーツ心理学12講」 福村出版

#### <参考書>

石井源信編（2012年8月1日） 「現場で活きるスポーツ心理学」 杏林書院

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ心理学について	スポーツ心理学の歴史と内容
2	スポーツ心理学の研究法	スポーツ心理学の研究領域、研究方法
3	スポーツと発達	遺伝と環境、発達、身体と運動の発達
4	スポーツと学習	スキルの要素と分類、学習理論、練習の組み立て
5	スポーツとパーソナリティ	スポーツ選手とパーソナリティ、不安、あがり
6	スポーツと動機づけ	動機づけのメカニズム、目標設定
7	スポーツと社会心理学	スポーツ集団について、スポーツ場面での他者の存在
8	競技の心理 (1)	競技の心理特性、競技者の心理
9	競技の心理 (2)	指導者の心理、けがと心理
10	メンタルトレーニング (1)	メンタルトレーニングとは、競技力向上や実力発揮に必要な心理的スキル
11	メンタルトレーニング (2)	呼吸法、漸進的筋弛緩法、自律訓練法
12	メンタルトレーニング (3)	心理的技法の実践、暗示、イメージ
13	メンタルトレーニング (4)	自己分析に用いる心理検査
14	健康スポーツの心理	運動・スポーツの心理的効果
15	スポーツと臨床	バーンアウト、イップス
16		

科目コード	35207				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ心理学 [PP4年生以上かつAT希望者用]				担当者名	浦 佑大			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期集中	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

スポーツ活動には、種々の側面から心の関与が認められる。そのことからスポーツ心理学の研究領域ではスポーツ活動で生じる現象を対象に、心理学的手法によりそのメカニズムの解明を行っている。本講義では、スポーツ心理学に関する基礎知識とともにスポーツ心理学の代表的な理論やトピックスについて解説する。なお、スポーツの現場で直面する問題と関連させながら、実践に役立つ知見を最新の研究動向を交えて講義することで、受講生が今後の競技活動や教育活動に活用できることをねらいとする。

### <授業の到達目標>

スポーツ心理学の基礎的な理論と実践・応用の仕方を理解し、スポーツ場面で起こる心理的な問題に対処できるようになる。

### <授業の方法>

本授業は対面を基本とし、状況によってオンラインで実施することも視野に入れ進めていく。はじめにGoogle Classroomから出される事前課題に取り組んでもらい、授業に参加してもらう。授業は講義後にディスカッションをする時間を設け、お互いの意見を共有し、授業終わりには振り返りを行なってまとめてもらう。全授業後に最終レポート課題に取り組んでもらう。オンラインの場合は授業動画を視聴し、授業課題に取り組んでもらう。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有必要に応じてグループワークを取り入れる

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習として、教科書の指定された範囲を読み、事前課題を期限までに提出する（1時間程度）・復習として、授業内容を振り返り、学習内容を整理する（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎時の課題30%、小テスト30%、最終テスト40%

### <教科書>

### <参考書>

石井源信編（2012年8月1日） 「現場で活きるスポーツ心理学」 杏林書院

楠本恭久編著（2015年1月15日） 「はじめて学ぶスポーツ心理学12講」 福村出版

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ心理学について	スポーツ心理学の歴史と内容
2	スポーツ心理学の研究法	スポーツ心理学の研究領域、研究方法
3	スポーツと発達	遺伝と環境、発達、身体と運動の発達
4	スポーツと学習	スキルの要素と分類、学習理論、練習の組み立て
5	スポーツとパーソナリティ	スポーツ選手とパーソナリティ、不安、あがり
6	スポーツと動機づけ	動機づけのメカニズム、目標設定
7	スポーツと社会心理学	スポーツ集団について、スポーツ場面での他者の存在
8	競技の心理（1）	競技の心理特性、競技者の心理
9	競技の心理（2）	指導者の心理、けがと心理
10	メンタルトレーニング（1）	メンタルトレーニングとは、資格制度
11	メンタルトレーニング（2）	競技力向上や実力発揮に必要な心理的スキル
12	メンタルトレーニング（3）	心理的技法の実践
13	心理臨床技法のスポーツへの応用	自律訓練法、イメージ療法、交流分析等
14	健康スポーツの心理	運動・スポーツの心理的効果
15	スポーツと臨床	バーンアウト、イップス
16		

科目コード	35211				区 分	コア科目			
授業 科目名	スポーツアナリティクスⅠ				担当者名	仙波 慎平／佐藤 伸之			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

近年、様々な競技でデータの活用が進んでおり、スポーツアナリストが活躍するようになった。スポーツアナリティクスと呼ばれるデータ分析は統計学を背景とした手法が用いられ、スポーツ統計とも呼ばれており、データサイエンスとも密接なかかわりを持つ。この実習では、スポーツにおけるデータの測定・分析を実践的に学ぶ。

### <授業の到達目標>

高度情報化社会はスポーツ界にも押し寄せており、特に近年のトップスポーツでは「スポーツも情報戦の時代」と言われている。情報をうまくつかうことは、アスリートのパフォーマンス向上のみならずトップスポーツのマネジメントにおいて必要不可欠である。本授業では、スポーツ界のさまざまなフィールドにおいて、情報の収集、分析、提供を効果的に行い、意思決定者を強力に支援できるエキスパートになるための基礎を学び、社会・職業生活に応用可能な知見の修得を目指す。

### <授業の方法>

本授業では、アスリートとしての「指導を受ける側」、指導者としての「指導する側」双方の競技力向上への取り組みに資する、情報技術や映像技術、情報分析についての技術を戦略的に活用する方法について、実際のトップレベルの競技場面での活用事例などを交えながら学習し、受講生自身が自らの活動に活かせる能力を育成することを目指す。そのため、授業において課されるグループワークや課題への取り組み、プレゼンテーションを重要視する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有グループワーク（3～5人グループに分かれ、課題発見・分析・考察・プレゼン）を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で提示するテーマの内容について、事前に配布資料や指示された参考資料を読む（1時間程度）。講義ノート・実験データを基にレポート課題や復習を行う（1時間程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組態度40%。課題レポート点30%。実習課題の提出・評価点30%。

### <教科書>

特に指定なし

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	講義概要の解説	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	ゲームパフォーマンス分析とは？	ゲームパフォーマンス分析の概要を知る
3	ゲームパフォーマンス分析の実践	実践活動
4	量的分析とは	量的分析の方法
5	質的分析とは？	質的分析の方法
6	映像分析とは？	映像分析の方法
7	データ分析	データ分析の方法・実践
8	動作分析（1）	走動作に関する映像を撮影し、分析する。
9	動作分析（2）	跳躍動作に関する映像を撮影し、分析する。
10	動作分析（3）	投動作に関する映像を撮影し、分析する。
11	動作分析（4）	打動作に関する映像を撮影し、分析する。
12	動作分析（5）	シュート動作に関する映像を撮影し、分析する。
13	グループワーク	課題抽出から分析を行う。
14	プレゼン発表	プレゼン発表
15	まとめ	まとめ
16		

科目コード	35212				区 分	コア科目			
授業 科目名	スポーツアナリティクスⅡ				担当者名	仙波 慎平／佐藤 伸之			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

近年、様々な競技でデータの活用が進んでおり、スポーツアナリストが活躍するようになった。スポーツアナリティクスと呼ばれるデータ分析は統計学を背景とした手法が用いられ、スポーツ統計とも呼ばれており、データサイエンスとも密接なかかわりを持つ。この実習では、スポーツにおけるデータの測定・分析を実践的に学ぶ。

### <授業の到達目標>

高度情報化社会はスポーツ界にも押し寄せており、特に近年のトップスポーツでは「スポーツも情報戦の時代」と言われている。情報をうまくつかうことは、アスリートのパフォーマンス向上のみならずトップスポーツのマネジメントにおいて必要不可欠である。本授業では、スポーツ界のさまざまなフィールドにおいて、情報の収集、分析、提供を効果的に行い、意思決定者を強力に支援できるエキスパートになるための基礎を学び、社会・職業生活に応用可能な知見の修得を目指す。

### <授業の方法>

本授業では、アスリートとしての「指導を受ける側」、指導者としての「指導する側」双方の競技力向上への取り組みに資する、情報技術や映像技術、情報分析についての技術を戦略的に活用する方法について、実際のトップレベルの競技場面での活用事例などを交えながら学習し、受講生自身が自らの活動に活かせる能力を育成することを目指す。そのため、授業において課されるグループワークや課題への取り組み、プレゼンテーションを重要視する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有グループワーク（3～5人グループに分かれ、課題発見・分析・考察・プレゼン）を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で提示するテーマの内容について、事前に配布資料や指示された参考資料を読む（1時間程度）。講義ノート・実験データを基にレポート課題や復習を行う（1時間程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組態度40%。課題レポート点30%。実習課題の提出・評価点30%。

### <教科書>

特に指定なし

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	講義概要の解説	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	ゲームパフォーマンス分析とは？	ゲームパフォーマンス分析の概要を知る
3	ゲームパフォーマンス分析の実践	実践活動
4	量的分析とは	量的分析の方法
5	質的分析とは？	質的分析の方法
6	映像分析とは？	映像分析の方法
7	データ分析	データ分析の方法・実践
8	動作分析（1）	走動作に関する映像を撮影し、分析する。
9	動作分析（2）	跳躍動作に関する映像を撮影し、分析する。
10	動作分析（3）	投動作に関する映像を撮影し、分析する。
11	動作分析（4）	打動作に関する映像を撮影し、分析する。
12	動作分析（5）	シュート動作に関する映像を撮影し、分析する。
13	グループワーク	課題抽出から分析を行う。
14	プレゼン発表	プレゼン発表
15	まとめ	まとめ
16		

科目コード	35213				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツバイオメカニクス実習				担当者名	佐藤 伸之			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

スポーツバイオメカニクスの研究手法を用いれば、身体動作を数値化し、その動作を客観的に評価することができ、コーチングなどに活かすことが可能となる。本授業はスポーツバイオメカニクスの応用科目として、測定・分析方法を学び、高度な専門知識と技能を身につける。

#### <授業の到達目標>

スポーツバイオメカニクスの測定・分析方法を習得し、知識・技能を実践できる。

#### <授業の方法>

スポーツ科学センターを利用した演習形式で実施する。講義による説明と測定・分析を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有自己や他者のパフォーマンスを分析し、仲間と協働して発表に向けた取り組みを実施します。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握します。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

スポーツバイオメカニクスⅠ（基礎）を履修済みであることを条件とする。授業までに図書・文献の調査（2時間）をすること。また授業時間内で終わることが出来なかった分析作業を課題として次回までに完了すること。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

測定・分析方法の習得状況（40%）、レポート・プレゼン内容（60%）

#### <教科書>

なし

#### <参考書>

ゴードン・ロバートソンほか 身体運動のバイオメカニクス研究法 大修館書店

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、スポーツバイオメカニクスⅠの復習
2	スポーツバイオメカニクスの基礎の確認	スポーツバイオメカニクスⅠで学んだ内容の確認
3	測定①	運動の基礎的な測定手法について
4	分析①	運動の基礎的な分析手法について
5	データ解釈①	測定・分析で得られたデータの解釈、ディスカッションの準備
6	ディスカッション①	データの解釈についてグループ間でのディスカッション
7	測定②	運動の応用的な測定手法について
8	分析②	運動の応用的な分析手法について
9	データ解釈②	測定・分析によって得られたデータの詳細な解釈、ディスカッションの準備
10	ディスカッション②	データの解釈についてグループ間でのディスカッション
11	グループ研究①	グループを作り、研究テーマを決める。
12	グループ研究②	研究テーマに合った測定方法を用いて、データを記録する。
13	グループ研究③	記録したデータをパソコンで読み込み、分析する。
14	グループ研究④	結果を基に、プレゼン資料を作成する。
15	成果発表会	分析結果を発表する。
16		

科目コード	35214				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツマネジメント演習				担当者名	小堀 浩志／平岡 師玄哉			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

この授業科目では、「スポーツビジネス」の現場から、現役でスポーツビジネスの経営を「実践」している経営者をゲストとしてお招きし講義をしたり、スポーツビジネスの企業、組織、実践の現場に出向いて、体験していきます。

### <授業の到達目標>

スポーツ関連組織、企業から招聘するゲスト経営者から、受講生が直に学ぶこと、また、実際に現場で体験することで以下の3つを目標とする。1)「アントレプレナー」「アントレプレナーシップ」とは何かを理解し、説明できる2)ゲストスピーカーの現状を理解し、スポーツマネジメントの本質を理解し説明できる3)世の為・人の為・自分の為に①起業、もしくは②経営者、幹部として、または③社会人として、企業の経営を実践する、関わる人材となる熱意・決意・意志を抱き、語り、論述できる。

### <授業の方法>

基本的な知識を事前に講義で理解し、ゲストスピーカーを迎え、テーマに応じた講義とグループワーク、課題発表等を実施します。また、スポーツビジネスの企業、組織、実践の現場に出向いて、体験したことの発表を行います。ゲストスピーカーと受講生との自由な討議・質疑応答にも重点的に取り組むことで、受講生自身の「実践」体験を得られるよう授業を展開していきます。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各ゲストスピーカー講義の前週に、次回のゲスト講師の紹介があります。（予習）各回のゲストスピーカーと企業、業界などについて調べておきましょう。 ※（復習）各回の講義の内容について、学んだ事項を整理しておきましょう。 ※ ※他の受講生と重複しないような質問・感想ができる程度が目安。30～60分程度

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①各回授業態度（15回）（プレゼンテーション、質疑応答、発表）30%②各回課題の提出・内容（15回）（予習・復習課題）40%③期末レポート（1回）30%④定期試験なし※基本的には、すべての授業に出席し、レポート提出、授業主旨に合った取り組みをしている。※「実践」の名が付く講座である特性上、単なる知識の暗記ではなく、受講生が自分自身で気づき、行動することが実践につながると考えています。そのため、成績評価全体の考え方は、講義で学んだ内容を踏まえつつも、いかに自分自身と照らし合わせて、レポートを書くか、プレゼ

### <教科書>

※教科書は特になし。 資料が必要な場合は、授業時に配布します。

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	スポーツマネジメントの考え方、授業の進め方、登壇予定のゲスト経営者紹介 など
2	スポーツマネジメント 序論	スポーツマネジメントとは？スポーツの可能性？組織・企業のマネジメントとは？、
3	スポーツマネジメント演習（事例紹介）	スポーツ企業、スポーツイベント、スポーツの大会、スポーツツーリズム、スポーツビジネスの展示会、などの紹介
4	ゲストスピーカーによる講義①とまとめ講義	※ゲストスピーカーは、スポーツ関連企業・組織から全5名を選定・招聘予定。※ゲストスピーカーを中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
5	ゲストスピーカーによる講義②とまとめ講義	
6	ゲストスピーカーによる講義③とまとめ講義	
7	ゲストスピーカーによる講義④とまとめ講義	
8	ゲストスピーカーによる講義⑤とまとめ講義	

9	スポーツ関連フィールドワーク①	スポーツ企業、スポーツイベント、スポーツの大会、スポーツツーリズム、スポーツビジネスの展示会でのフィールドワーク
10	スポーツ関連フィールドワーク②	
11	スポーツ関連フィールドワーク③	
12	スポーツ関連フィールドワーク④	
13	スポーツ関連フィールドワーク⑤	
14	スポーツマネジメントについての発表	ゲストスピーカーやフィールドワークから学んだ内容を基にした実習（グループワーク、プレゼンテーション） など 実習、全体討議、スポーツマネジメントの可能性について
15	全体まとめ	
16		

科目コード	35215				区 分	コア科目			
授業 科目名	スポーツマネジメント実践論				担当者名	小堀 浩志			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演 習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

日本国内外で、スポーツはどのような意義や価値を持つのでしょうか。このような社会の急速な変化に伴い、する、みる、ささえる等のスポーツへの関わり方にも変化が生じている。そのため、スポーツの価値を改めて考えていくうえでは、文化としてのスポーツを発展させていく視点が求められている。そのため、本授業では、スポーツマネジメントの多様な実践領域において、現代スポーツが抱える課題、マネジメント手法を実践的に学んでいく

#### <授業の到達目標>

本授業では、スポーツマネジメントの目的、理論、実践領域を学び、以下の点を目標とする。 1. スポーツマネジメントの基礎的な理論を理解し、説明することができる。2. スポーツの現代的課題について例をあげ、自らの考えを述べることができる。3. スポーツマネジメント手法の基本的な知識を理解することができる。

#### <授業の方法>

授業のテーマでの各自の意見を数名で共有し、多様な意見との比較から、自分の意見を深く考察します。授業テーマに応じて、授業内で15分程度グループワークやディスカッションを行い、まとめた意見を授業全体で共有することを実施する授業があります。毎回、授業課題があり、提出を求めます。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回授業のテーマに関し、関心ある新聞記事等から授業テーマが抱える課題を要約すること。復習：講義で配布された資料等を参照し、授業内容の要約すること。授業に関する不明点は、適宜、教員に質問を行ってください。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への積極的な取り組み出席状況：30%、毎回の授業課題：30%、課題レポート40%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・ガイダンス	授業の説明・評価方法・演習について
2	スポーツ組織のマネジメント	スポーツ組織の特性、目的、課題
3	スポーツのマネジメント	多様なスポーツプロダクトのマネジメントを知る
4	スポーツ事業の運営AS、PS、CS	エリア・プログラム・クラブサービス
5	プロスポーツのマネジメント	プロスポーツリーグ運営、プロスポーツクラブ運営
6	スポーツイベントのマネジメント	オリンピックのレガシー、スポンサーシップ、放映権、商品化権
7	スポーツ組織のコンプライアンス	組織構築、内部統制
8	スポーツの自治	グットガバナンスの確立
9	障がい者スポーツのマネジメント	運動実施率、施設環境、予算
10	子どものスポーツマネジメント	スポーツ環境の課題、スポーツ少年団、全国体力・運動能力、運動習慣調査
11	商業（民間営利）スポーツ施設のマネジメント	フィットネスクラブ・スポーツクラブのマネジメント戦略
12	地域スポーツのマネジメント	総合型地域スポーツクラブの育成、課題
13	健康スポーツのマネジメント	ヘルスプロモーション
14	健康経営とスポーツ	健康経営とは、具体的な事例を通して、課題とスポーツの役割を考える
15	授業のまとめ	全体をとおして、スポーツマネジメントを考察する
16		

科目コード	35216				区 分	専門基礎			
授業 科目名	スポーツ科学入門 [PS用]				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	学年指定なし	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本講義では、スポーツ科学分野の様々な研究領域について、競技活動や日常生活における身近な例から学び、各分野について専門的に学ぶことの意義を理解し、その意欲を喚起することを目的とする。

#### <授業の到達目標>

スポーツ科学分野の様々な研究領域で扱う問題について理解すること、また、それらが競技活動や日常生活場面でのどのような事象と関連するかについて理解すること。

#### <授業の方法>

教科書およびプレゼンテーション資料を用いて実施する。課題の提示・提出はGoogle Classroomを活用する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション）5、6人のグループに分かれ、授業テーマに対する意見をグループで共有する

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

<準備学習>各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておくこと。（所要時間：1時間）

<事後学習>取り組んだ事前課題と講義内容を踏まえ、確認テストおよびディスカッションに取り組むこと。（所要時間：1時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績は、確認テスト&小レポート 60%、最終レポート 40% の配分で評価する。

#### <教科書>

大学スポーツ協会（2021年12月） マンガで学ぶ・スポーツ知への招待 KEIアドバンス

伊東浩司・吉田孝久・青木和浩（2020年2月20日） なるほど「最新・スポーツ科学入門」 化学同人

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ科学について理解する	スポーツ科学とは何か、自身の身近な問題の解決にスポーツ科学がどう貢献するかについて理解する。
2	スポーツバイオメカニクス入門	スポーツバイオメカニクスとはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツバイオメカニクスがどう貢献するかについて理解する。
3	トレーニング科学入門 (1)	トレーニング科学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にトレーニング科学がどう貢献するかについて理解する。
4	トレーニング科学入門 (2)	自身が実践してきたトレーニングの内容を分析し、改善策を検討する。
5	スポーツアナリティクス入門	スポーツアナリティクスとはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツアナリティクスがどう貢献するかについて理解する。
6	スポーツ心理学入門	スポーツ心理学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ心理学がどう貢献するかについて理解する。
7	スポーツ生理学入門	スポーツ生理学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ生理学がどう貢献するかについて理解する。
8	コンディショニング科学入門	コンディショニング科学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にコンディショニング科学がどう貢献するかについて理解する。
9	スポーツ医学入門	スポーツ医学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ医学がどう貢献するかについて理解する。
10	スポーツ栄養学入門	スポーツ栄養学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ栄養学がどう貢献するかについて理解する。
11	スポーツ工学入門	スポーツ工学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ工学がどう貢献するかについて理解する。
12	スポーツ哲学入門	スポーツ哲学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ哲学がどう貢献するかについて理解する。
13	スポーツ経営学入門	スポーツ経営学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ経営学

14	スポーツ社会学入門	がどう貢献するかについて理解する。
15	まとめ	スポーツ社会学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ社会学がどう貢献するかについて理解する。
16		ここまでの学びについてまとめ、今後の学習・研究にどう活かすかについて検討する。

科目コード	35216				区 分	専門基礎			
授業科目名	スポーツ科学入門 [PP用]				担当者名	十河 直太／早田 剛／眞鍋 芳江／梶谷 亮輔 ／國友 亮佑／仙波 慎平／河端 隆志／佐藤 伸之／堀川 峻／伊藤 三千雄／坂本 康輔／浦 佑大			
配当年次	学年指定なし	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本講義では、スポーツ科学分野の様々な研究領域について、競技活動や日常生活における身近な例から学び、各分野について専門的に学ぶことの意義を理解し、その意欲を喚起することを目的とする。

### <授業の到達目標>

スポーツ科学分野の様々な研究領域で扱う問題について理解すること、また、それらが競技活動や日常生活場面でのどのような事象と関連するかについて理解すること。

### <授業の方法>

資料を用いて対面で実施する。課題の提示・提出はGoogle Classroomを活用する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：あり各単元のテーマについてグループに分かれディスカッションを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

<準備学習>各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておくこと。（所要時間：1時間）

<事後学習>取り組んだ事前課題と講義内容を踏まえ、確認テストおよびレポートに取り組むこと。（所要時間：1時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績は、確認テスト&小レポート 60%、最終レポート 40% の配分で評価する。

### <教科書>

### <参考書>

大学スポーツ協会（2021年12月） マンガで学ぶ・スポーツ知への招待 KEIアドバンス

伊東浩司・吉田孝久・青木和浩（2020年2月20日） なるほど「最新・スポーツ科学入門」 化学同人

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ科学について理解する	スポーツ科学とは何か、自身の身近な問題の解決にスポーツ科学がどう貢献するかについて理解する。
2	スポーツバイオメカニクス入門	スポーツバイオメカニクスとはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツバイオメカニクスがどう貢献するかについて理解する。
3	トレーニング科学入門（1）	トレーニング科学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にトレーニング科学がどう貢献するかについて理解する。
4	トレーニング科学入門（2）	自身が実践してきたトレーニングの内容を分析し、改善策を検討する。
5	スポーツアナリティクス入門	スポーツアナリティクスとはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツアナリティクスがどう貢献するかについて理解する。
6	スポーツ心理学入門	スポーツ心理学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ心理学がどう貢献するかについて理解する。
7	スポーツ生理学入門	スポーツ生理学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ生理学がどう貢献するかについて理解する。
8	コンディショニング科学入門	コンディショニング科学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にコンディショニング科学がどう貢献するかについて理解する。
9	スポーツ医学入門	スポーツ医学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ医学がどう貢献するかについて理解する。
10	スポーツ栄養学入門	スポーツ栄養学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ栄養学がどう貢献するかについて理解する。
11	スポーツ工学入門	スポーツ工学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ工学がどう貢献するかについて理解する。

12	スポーツ運動学入門	スポーツ運動学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ哲学がどう貢献するかについて理解する。
13	スポーツ経営学入門	スポーツ経営学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ経営学がどう貢献するかについて理解する。
14	コンディショニング科学入門	コンディショニング科学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ社会学がどう貢献するかについて理解する。
15	まとめ	ここまでの学びについてまとめ、今後の学習・研究にどう活かすかについて検討する。
16		

科目コード	35217				区 分	コア科目スポーツビジネス			
授業科目名	スポーツ経営学入門				担当者名	平岡 師玄哉			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

私たちが住んでいる社会の様々な部分に経営管理が存在することを理解し、スポーツの世界にも経営管理が存在することを理解する。さらに、その経営管理の立場から「豊かなスポーツ生活」の実現をするために、その理念と方法を学習することに重きを置く。特に、運動者の立場に立った経営管理の考え方を重視するとともに、現代スポーツ社会における諸問題を中心に、具体的な実践につながるような授業を展開していく。

### <授業の到達目標>

地域等のスポーツ振興に必要となるスポーツ経営の基礎理論及び実践的方法論を学習する。特にスポーツ経営の諸問題を参考にしながら、経営学的な考え方をできるようにする。

### <授業の方法>

講義と授業ワークを織り交ぜながら行っていく。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 次週課題について30分 復習 授業後の課題について30分

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度30%、授業課題30%、授業レポート・小テスト40%

### <教科書>

畑攻・小野里真弓 基本・スポーツマネジメント 大修館書店

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要説明・評価方法の説明
2	スポーツマネジメント(経営)がめざすもの	スポーツとマネジメント(経営)
3	スポーツマネジメントの方法	スポーツマネジメントの基本的使命
4	マネジメント(経営)組織の理念	マネジメント(経営)と理念の関係性
5	組織における人間観	クールアプローチとウォームアプローチ
6	マネジメントとマーケティング論	マーケティングの基本的な仕組み
7	スポーツプロダクト	スポーツサービスとスポーツベネフィット
8	スポーツ事業と運動生活Ⅰ	運動の成立条件としてのスポーツ事業
9	スポーツ事業と運動生活Ⅱ	運動生活と各スポーツ事業の特色とマネジメント
10	スポーツリーダーシップとマーケティングの基本	競技スポーツ集団としての組織論と消費者の認知行動過程
11	スポーツ政策	スポーツ政策の基本スタンスとわが国の主なスポーツ政策
12	スポーツの普及・振興を目指してⅠ	アスリート育成とマネジメント
13	スポーツの普及・振興を目指してⅡ	ダンス指導とマネジメントとフィットネスクラブのマネジメント
14	スポーツの発展・スポーツ教育の充実を目指して	女性スポーツとマネジメント、スポーツ地域マネジメント
15	スポーツ経営学入門のまとめ	スポーツ経営学の基本的なまとめ
16		

科目コード	35218				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツ健康演習				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

今般の医療制度改革においては、生活習慣病予防が生涯を通じた個人の健康づくりだけでなく、中長期的な医療費適正化対策の柱の一つとして位置づけられており、今後展開される本格的な生活習慣病対策においては、一次予防に留まらず二次予防も含めた健康づくりのための運動を指導する専門家の必要性が増している。本講義においては、スポーツ健康論で修得した内容を踏まえ、「個々人の身体状況に応じた安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成と指導」、「生活習慣病にかかる可能性のある“ハイリスク者”への個別指導・健康支援」に関する実践、実習を行なう。本授業では、健康運動指導士・健康運動実践指導者の資格取得を目指している学生を中心に、履修者上限数を20名とする。

#### <授業の到達目標>

運動プログラムの基本的な考え方を理解し、対象特性に合わせた包括的な運動プログラムの作成し、運動指導の実践を行なえるようになることを目標としている。

#### <授業の方法>

教科書を基に、実習を中心とした授業を展開する。特にチーム別に、テーマを設定し、グループワークを行い、健康運動教室を実施する。その後、参加者からのアンケートをまとめることにより、課題及び改善点をリフレクションしていく。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：5、6人のグループに分かれ、健康教室の内容についてグループワークを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に教科書を熟読し、実際に運動プログラムを作成する（約1時間）。運動プログラムについては、パワーポイントの資料を作成し、プレゼンテーションを練習することにより、実践に活かす。その後、授業内で実践し、指導する側、指導される側になり、レポートを提出することにより授業の理解を深める（約1時間）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習態度・学習意欲 30%、運動プログラム指導 50%、課題レポート 20%

#### <教科書>

公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士養成講習会テキスト（上・下） 株式会社 南江堂

#### <参考書>

公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者養成用テキスト 株式会社 南江堂

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	身体活動量の定量法とその実際	身体活動量の測定法の実際
2	身体組成の測定法	身体組成の測定
3	運動負荷試験実習（1）	正常心電図
4	運動負荷試験実習（2）	負荷心電図
5	運動負荷試験実習（3）	呼気ガス分析、乳酸値
6	運動負荷試験実習（4）	最大酸素摂取量の測定
7	高齢者の体力測定法（1）	高齢者の体力測定法の実習（全身持久力）
8	高齢者の体力測定法（2）	高齢者の体力測定法の実習（筋力等）
9	運動行動変容の実際	行動変容プログラムの実際
10	運動療法（1）	生活習慣病に対する包括的な運動療法
11	運動療法（2）	過体重・肥満症に対する運動療法
12	運動療法（3）	高血糖・糖尿病に対する運動療法
13	運動療法（4）	高血圧に対する運動療法
14	運動療法（5）	脂質異常症に対する運動療法
15	運動療法（6）	ロコモティブシンドロームに対する運動療法
16		

科目コード	35219				区 分	コア			
授業科目名	スポーツ産業論				担当者名	平岡 師玄哉			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本授業では、スポーツ産業の成り立ちから現状について、その特性や概略をスポーツ産業全体から学ぶ。また、実際にスポーツビジネスの現場で課題となっている事柄についてグループワークなどを通じて自ら考えることでスポーツビジネスに対する理解をより深める。

#### <授業の到達目標>

1) スポーツ産業の特性を知る。2) スポーツ産業の成り立ちを知る。3) スポーツ産業の現場で課題となっている事柄について、自分なりの意見を持つことができる。

#### <授業の方法>

講義と授業ワークを織り交ぜながら授業を展開していく。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 1時間：次回の授業テーマについて教科書を読み、自分なりの課題を持って参加すること  
復習 1時間：講義内容の理解し、課題の提出を行うこと

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 30%、授業課題 40%、レポート課題 30%

#### <教科書>

#### <参考書>

原田宗彦(2021) スポーツ産業論第7版 杏林書院

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・進化するスポーツ	授業の説明、スポーツ産業の萌芽と発展、複合領域の発展
2	スポーツ施設産業	スポーツ施設産業概観、スタジアム・アリーナ改革
3	スポーツメディア産業	スポーツメディア産業の系譜と新たなメディア
4	スポーツ用品産業	わが国のスポーツ用品産業の歩み、市場規模と推移
5	スポーツ参加者を知る：するスポーツ	スポーツ政策とスポーツ参加人口の拡大、するスポーツの現状と実態
6	スポーツファンを知る：見るスポーツ	「見るスポーツ」のビジネス規模
7	スポーツサービスと消費行動	サービス業としてのスポーツサービス
8	フィットネスクラブのマネジメント	フィットネス市場の概況
9	スポーツイベントの社会・経済的インパクト	スポーツイベントに期待される効果
10	スポーツイベントとスポンサーシップ	スポンサーシップの発展と現状、特徴とその効果
11	地域スポーツマネジメント	地域スポーツとスポーツ政策
12	スポーツツーリズムの発展	スポーツツーリズムの現状、定義と特徴
13	地域スポーツコミッションの役割	スポーツを活用した地域活性化
14	海外のプロスポーツ	北米のプロスポーツ、ヨーロッパのプロスポーツ
15	プロスポーツと権利ビジネス	プロスポーツにおける権利ビジネス
16		

科目コード	35400				区 分	専門基礎			
授業科目名	コーチング論				担当者名	仙波 慎平／梶谷 亮輔			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業では、指導哲学、指導目的などの「スポーツ・コーチングの原則」や、選手とのコミュニケーション、選手のモチベーションの向上といった「行動の原則」、そしてより専門的で実践的である生理学的知見を含んだ「フィジカルトレーニングの原則」に至るまで、スポーツ・コーチングにおける基本理念を幅広く捉え、それらを正しく理解する。

### <授業の到達目標>

スポーツ・コーチング基本理念を幅広く捉え、それらを正しく理解することを目的とする。また、指導理念と実際の指導現場における相違点等を学生自らが出し合い、それを基に討議し、改善策等を探求することによって、体育教員・スポーツ指導者としての力量を高める。

### <授業の方法>

講義を中心に進めるが、実際の指導現場の映像等を用いるなど、より実践的なものとする。また、必要に応じてグループワーキングやプレゼンテーションも取り入れる。また、情報や仲間の意見や考え方をDropbox及びClassroomの活用方法を含め、課題管理や授業内容におけるICT活用を利用し、コーチングに関する知識を理解し、コーチとしての資質を身につける。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有グループ（3～4人）に分かれて、テーマに対してディスカッションおよびプレゼンを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次の授業テーマについて、参考書および各種資料等を用い、自身の体験等も踏まえて事前学習を1時間行う。また、実際に自身が選手として、または指導者として参加しているスポーツ現場において、本授業で学んだことを振り返り、思考を巡らす（復習を1時間）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験 60%、レポート・小テスト 30%、受講態度・学習意欲 10%

### <教科書>

### <参考書>

レイナー・マートン（2013） スポーツ・コーチング学 西村書店  
田尻 賢 智弁和歌山・高嶋仁のセオリー ベースボール・マガジン社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	授業概要、授業の進め方、受講上の諸注意
2	コーチングとティーチング	コーチングとティーチングの違い
3	現代に求められるコーチング	指導の方法、事例検証
4	戦術とは？（1）	個人戦術力
5	戦術とは？（2）	グループ・チーム戦術力について
6	実践知とは？	コツとカンに関する事例
7	チーム力とは	チームマネジメント、組織論
8	科学的なコーチングアプローチ	科学的なコーチングアプローチとは
9	コーチとは	コーチという存在について考える
10	プレーヤーズセンタードコーチング	コーチングの考え方やコーチングに必要な知識について
11	運動学習理論	運動学習について学ぶ
12	コーチングにおけるアセスメント	アセスメントの重要性について
13	育成行動・指導行動	コーチングのダブルゴールについて考える
14	コーチングスタイル	コーチングのスタイルについて学ぶ
15	ユース選手とシニア選手に対するコーチングの違い	ユース選手とシニア選手に対するコーチングの違いについて学ぶ
16		

科目コード	36100				区 分	コア科目			
授業科目名	トレーナー論				担当者名	國友 亮佑			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

我が国では、「トレーナー」という職業の定義が曖昧な現状があるため、まずは競技スポーツおよび一般の人々を対象とする「トレーナー」の職種とその仕事内容（職域、資格）を理解する必要がある。その中でも特に競技スポーツに関わる「トレーナー」についての基本的知識や技術を紹介する。

### <授業の到達目標>

日本における「トレーナー」の種類と仕事内容（職域、資格）、特にAT（アスレティックトレーナー）とS&C（ストレングス&コンディショニング）コーチの違いを理解する。またそれぞれの仕事において必要となる基本知識を身につける。

### <授業の方法>

トレーナーという職業についてディスカッションし、トレーナーに必要な技能や知識について考えていく。タブレットを活用し、それぞれのトレーナー（ATとS&C）がどのようにスポーツ現場で働いて、どのような違いがあるのかインターネットから調べまとめる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の講義内容に関してインターネットや文献で調べてくる。（1時間）復習：講義の中でディスカッションした内容に関して要点をレポートにまとめる。（1時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（授業への取り組みと課題提出状況）30%、試験（小テスト、期末試験）70%

### <教科書>

### <参考書>

日本スポーツ協会 アスレティックトレーナー専門科目テキスト アスレティックトレーナーの役割 文光堂  
NSCAジャパン NSCA決定版ストレングストレーニング&コンディショニング 第4版 Book House HD

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法の確認、講義の概要
2	「トレーナー」の種類と職域	日本における「トレーナー」制度ATとS&Cの仕事と職域
3	トレーナーと倫理	トレーナーに関わる可能性がある医療関係法規と法的諸問題
4	ATの役割と業務①	メディカルチェック
5	ATの役割と業務②	救急処置・ケア
6	ATの役割と業務③	可動性と安定性ウォーミングアップ・リカバリーの基礎知識
7	コンディショニング①	可動性と安定性ウォーミングアップ・リカバリーの基礎知識
8	コンディショニング②	ウェイトコントロール（増量と減量）
9	S&Cの役割と業務①	筋力向上トレーニングの基礎理論①
10	S&Cの役割と業務②	筋力向上トレーニングの基礎理論②
11	S&Cの役割と業務③	ピリオダイゼーション、トレーニング原理・原則に則ったトレーニング計画の立案
12	S&Cの役割と業務④	パワー向上トレーニングの基礎理論
13	S&Cの役割と業務⑤	持久力向上の基礎理論
14	S&Cの役割と業務⑥	各種体力測定と評価
15	まとめ	授業の総復習
16		

科目コード	36102				区 分	コア科目			
授業 科目名	健康管理概論 [抽選あり]				担当者名	河合 洋二郎			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

生物学の基本的事項からはじまり、医学的な理解を深め、他の関連する授業の足がかりとなるよう講義する。また、自分自身の健康状態を把握し、よりいっそうの健康に関心を抱き、健康管理概論のベースを理解することを目的とする。医学は大きく分けて、病気の人と対峙し、病気の治療を目的としている臨床医学、生物学を基礎に、病気の病因・病態を解明することを目的としている基礎医学、「集団としてのヒト」を対象にした社会医学からなる。

#### <授業の到達目標>

臨床医学、基礎医学、社会医学の3つの分野について講義するとともに今日的なトピック的事項を勉強する。

#### <授業の方法>

教科書と共に必要に応じてプリントを配布し、それに基づいて解説する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・復習の具体的な内容については授業時に随時通知する予定。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

#### <教科書>

入江由香子・中村栄太郎 編集（2006.7） 「健康運動指導のための健康管理概論」 杏林書院

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	序論	医事法規
2	からだの成り立ち (1)	細胞学、組織について
3	からだの成り立ち (2)	器官、系について
4	健康の概念	健康とは何か、体力とは何か、健康と体力の関連
5	現代社会と健康 (1)	健康障害とはどのように発生するか、日本人の平均寿命、少子高齢化
6	現代社会と健康 (2)	高齢社会の抱える問題、疾病構造の変化、生活習慣病
7	健康づくり施策概論、小テスト	世界のあゆみ、日本のあゆみ、健康運動指導士と健康運動実践指導者の役割、小テスト
8	健康状態をどのように評価するか	個人の健康度、集団の健康度
9	健康増進のための方法論 (1)	健康と栄養、肥満とその予防
10	健康増進のための方法論 (2)	健康と運動、休養
11	ライフステージからみた健康管理	成長期の運動、老年期の運動
12	メディカルチェック (1)	メディカルチェック (1)
13	メディカルチェック (2)	メディカルチェック (2)
14	障害者と運動 (1)	障害とは、障害の種類、リハビリテーション
15	障害者と運動 (2)	レクリエーションとしての運動、障害者のスポーツ
16		

科目コード	36200				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	公衆衛生学				担当者名	河端 隆志			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

医学と社会の接点にある学問領域である公衆衛生学では、個人レベルでの健康から地域・社会・国の集団レベルでの健康課題に対して、疫学研究の知見を蓄積し、それにもとづいて社会にその成果を実装し、実証する研究に展開することを目指す学問です。その健康課題は、健康や生活機会の格差、学校保健、母子保健、生活習慣病、健康づくり、感染症対策、健康な街づくり、食品衛生や生活衛生などのほか、医療制度、社会保障制度も含んでいる。近年は災害時の被災者の健康支援や健康保護も重要な課題とされています。さらに、こうした課題に対する実証研究の成果は、個人から地域・社会・国の公衆衛生に直接的な影響を与える政策決定へと変換されることが重要と云えます。体育学部の学問領域の視点より、上述の諸問題について咀嚼し、問題定義できる思考力を修学しましょう。本講義では、教科教育科目（保健・体育）との関連性を持ちながら、公衆衛生の歴史、意義、社会的要請を理解し、公衆衛生の目標である疾病の予防と健康の保持・増進に関する社会的包摂を目指した実践のために必要な基礎理論と現状に関する知見を體育系学生の視点より共有し、今日的課題である介護予防や健康寿命の延伸をめざす健康な社会環境づくりに貢献できる実践者・研究者として求められる規範・視野・資質（competency）を自ら育んでいく基本的姿勢を講義・討論を通じて修得する。

### <授業の到達目標>

学修の目標知識・技能の観点・公衆衛生の歴史、その概念、意義、社会的要請について理解する・疫学の基本を学び、データの解析や評価、解釈を正しく行えること・體育系学生として知っておくべき法律、制度等について学ぶ・健康の保持・増進の社会的包摂を目指した具体的な解決策を提案できる力を習得する思考力・判断力・表現力等の能力の観点・様々な健康課題に対する社会的包摂を目指した実践のために必要な解決のための制度及び対策を立案し、具体的な運動型健康支援を実践できる能力を体得する主体的な態度の観点・體育系領域の眼差しから公衆衛

### <授業の方法>

講義は、毎回講義資料をパワーポイントにて提供します。また、その内容は後日クラスルームにて開示します。参考資料等を必要とする場合は適時配布いたします。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本講義は教員と学生との双方向型講義を展開します。また、課題に関する少人数グループでの議論による回答を促すこともあります。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

あらかじめ、シラバスの内容に沿って予習を行うことと、クラスルームを活用しての復習を行うようにします。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

知識・技能公衆における疾病の予防と健康の保持・増進に関する問題を読み解く基礎的知識を修得し、専門的観点からその問題解決に向けた方策を立案し実践できる。思考力・判断力・表現力等の能力疾病の予防と健康の保持・増進に関する様々な社会的包摂を目指した実践のために、その問題を解決できる方策を考案し、異分野の専門家や技術者とのコミュニケーションを通して「考動力」を発揮し、社会に貢献することができる。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への出席率50%、インクラスディスカッション（質問・意見）積極性20%、レポート30%、

### <教科書>

適時、講義の中で紹介します。

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	社会と健康 健康と公衆衛生 予防医学 健康増進	
2	環境と健康	
3	健康、疾病、行動に関わる保険統計	
4	疫学	
5	感染症と食中毒	
6	生活習慣と疾病 健康習慣と健康増進	
7	成人保健と健康増進 生活習慣病の対策	
8	ヘルスプロモーション インターバル速歩トレーニングの効果	
9	からだのしくみ 適応能力（環境および運動）と健康	
10	からだのしくみ 子どもの健康と高齢者	

	の健康	
11	社会保障と医療経済	
12	精神保健福祉・母子保健	
13	学校保健・産業保健	
14	わが国の保健・医療・福祉の制度と法規	
15	これからの健康教育・ヘルスプロモーションに関するレポート	
16		

科目コード	36202				区 分	コア科目			
授業科目名	生理学				担当者名	十河 直太			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

主として、人の生理機能の基礎的なしくみについて学習する。また、生理学の応用として、運動時の反応や、発育・発達期及び中高年期における生理機能の特徴について学習する。さらに、水中という特殊環境や球技における生理的応答について学習する。

#### <授業の到達目標>

1. 人の生理機能の基礎的なしくみ及び運動が生理機能に及ぼす効果について、専門用語を理解し、体系化できる。2. 単に知識を習得するだけでなく、日常生活や体育・スポーツ活動に活用し、実践することができる。

#### <授業の方法>

1. パワーポイントや動画を用いて講義内容を解説する方法で毎回の授業を進める。2. 折に触れ、当該授業内容に関して発問するので、それに対して討議する。3. 授業の理解度を確認するため、毎回の授業の中間と終了前に小テストを実施する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の講義内容を確認し、課題を再認する。各回の講義内容の教科書における該当箇所は、第1回目に配布するプリントに示しているので、それを参考にする。（1時間程度）復習：振り返りレポートを5回に1回の割合で作成する。（2時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲10%、小テスト等40%、定期試験 50%

#### <教科書>

#### <参考書>

オストランド、ラダール、浅野訳(1995) 「運動生理学」 大修館書店  
黒川隆志、山崎昌廣他(2000) 「健康スポーツ科学」 技報堂出版

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	1-15回目の授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	現代生活と生理学	現代生活における生理学の意義について解説
3	人のエネルギー供給機構	人のエネルギー供給機構に基づく、運動を発現させる理論的背景
4	酸素摂取の生理学（1）	運動中の酸素摂取動態、最大酸素摂取量
5	酸素摂取の生理学（2）	無酸素性作業閾値、無酸素性エネルギーの指標
6	呼吸器系のしくみと運動	呼吸器系のしくみと運動時の反応
7	循環器系のしくみと運動	循環器系のしくみと運動時の反応
8	筋系のしくみと運動	筋系のしくみ、力発揮から見た筋の働き
9	神経系のしくみと運動	神経系のしくみ、動作の神経調節機構、力の調節
10	消化・内分泌系のしくみと運動	消化・内分泌系のしくみと運動の効果
11	健康とは？、体力とは？	健康、体力の定義とその要因
12	発育・発達と運動	発育・発達に伴う体力・生理機能の変化
13	老化と運動	加齢に伴う体力・生理機能の変化
14	水中環境の生理学	水中環境（浮力、抵抗、水圧、水温）がもたらす生理的变化
15	球技の生理学	球技のエネルギー特性と各球技種目の選手に必要な生理的能力
16		

科目コード	36204				区 分	コア科目			
授業科目名	解剖生理学				担当者名	百田 龍輔			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

体育学科の学生として人体の構造と機能に関する知識は、人体に関係する全ての学習の基礎となるため非常に重要である。解剖学は構造を学ぶ分野であるが、人体構造のみに留まらずその機能とも関連付け、深く学習することが大切である。15回の限られた時間のなかで、人体構造と機能について、総論・骨格系・筋系・外皮系・心臓脈管系・リンパ・免疫系・消化器系・呼吸器系・泌尿生殖器系・内分泌系・神経系・特殊感覚器系を学ぶ。

### <授業の到達目標>

人体に関する基礎的な知識の習得を到達目標とする。食べたものがどこでどのように処理されて、栄養分が吸収されるか？筋骨格の働き、神経による支配、内分泌・自律神経による身体の調節について、基本的な概念を習得し説明し、日常生活やスポーツにおいてその知識を実践できるようになることを目指す。

### <授業の方法>

教科書を中心に講義を進めていく。講義中は教科書を声に出して読むという基本的な学習を徹底して行うので、必ず事前にスムーズに読めるように難解な漢字、語句は調べておくこと。理解したことを文章やイラストを通じて手を動かし表現すること、身体を動かして実践する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

医学的内容の科目なので、予習よりも復習に重きを置いて勉強する。教科書の図を人に説明できるようにする。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・小テスト・定期試験などで評価する。

### <教科書>

伊藤正裕・中村陽市（監修） これでわかる！人体解剖パーフェクト事典 ナツメ社

### <参考書>

自習用に以下のアプリを推薦します。Human Anatomy Atlas 202? <a href="https://apps.apple.com/app/id1117998129" target="\_blank">https://apps.apple.com/app/id1117998129</a> 解剖学的構造と生理学 Anatomy & Physiology<a href="https://apps.apple.com/app/id920133658" target="\_blank">https://a  
菊地よしこ 百田龍輔（2017） 看護に必要な漢字で覚える解剖ドリル 照林社  
松村 譲児（2021年4月19日） イラスト解剖学 中外医学社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	解剖学導入	授業内容の説明
2	総論	解剖学用語、細胞・組織
3	骨格系	全身の骨格、関節
4	筋系 1	筋系、上肢の筋、体幹の筋体幹、下肢の筋 1
5	筋系 2	筋系、上肢の筋、体幹の筋体幹、下肢の筋 2
6	外皮系	外皮、爪、毛
7	心臓脈管系	心臓、動脈系、静脈系、体循環、肺循環
8	リンパ・免疫系	リンパ循環、免疫
9	消化器系 1	消化管の概観、肝臓、胆嚢、膵臓
10	消化器系 2	肝臓、胆嚢、膵臓、消化と吸収
11	呼吸器系	呼吸器の構造、呼吸
12	泌尿・生殖器系	腎臓、膀胱、尿の生成、生殖器の構造と機能
13	内分泌系	内分泌系とホルモン
14	神経系	神経系の概観、脊髄、脊髄神経、脳神経、脳の構造と機能
15	特殊感覚器系	眼球と視覚情報、聴覚・平衡器官、嗅覚、味覚
16		

科目コード	36300				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	病理学				担当者名	石原 和泰			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

解剖学、生理学で学んだ正常人体の構造、機能の理解のうえに病的状態における形態変化及び病態生理を講義する。講義前半は疾病により出現する種々の病理現象を総論として解説、後半は各臓器ごとに代表的な疾患を取り上げ、その形態変化、病態生理を解説する。

#### <授業の到達目標>

将来、人の健康保持、増進に関与していく可能性のある学生に対して、炎症、アレルギーなどの基本的な病理現象のメカニズムについて理解ができるとともに、各臓器の代表的な疾患に対するより専門的な病理学的変化について説明ができることを目標とする。

#### <授業の方法>

概ねスライドを使って講義する。スライドのレジュメは各回授業の最初に配布する。※参考書は全員購入すること。授業理解度の確認として適宜小テストを行い、学生、教員間で理解度を共有し学習内容の確実な定着に繋げる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング なし

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に授業テーマに該当する部分を参考書を読んで予習しておくこと。配布されたレジュメを基にまとめノートを作製すること（復習1時間）。試験には自作のノートの持ち込みを可とする。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

（評価方法）定期試験 90点、出席点 10点の100点満点とする。出席点は1回の欠席ごとに2点の減点とする。試験時はノートの持ち込みは認めない。（出欠確認）出席の確認は講義冒頭の点呼により行う。点呼に間に合わなかった者は講義終了時に申し出ること。（欠席届の取り扱いについて）当該講義のテーマに即したレポートを提出すること。レポートの提出期限は欠席した月の翌月末までとする。（それ以降は受理しない）レポートの提出により出席点を与える。（公欠の取り扱いについて）学則に則る。（その他）講義資料の再配布は行わないので

#### <教科書>

桜井 修 監修 「新病理学（Qシリーズ）」 日本医事新報社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	序論	病理学とは
2	病理学総論（1）	細胞・組織とその障害
3	病理学総論（2）	再生と修復、退行性病変
4	病理学総論（3）	循環障害
5	病理学総論（4）	炎症
6	病理学総論（5）	免疫とアレルギー
7	病理学総論（6）	代謝異常
8	病理学総論（7）	腫瘍
9	病理学各論（1）	循環器系の病理
10	病理学各論（2）	呼吸器系の病理
11	病理学各論（3）	内分泌系・造血器系の病理
12	病理学各論（4）	腎・尿路系の病理
13	病理学各論（5）	生殖器系の病理
14	病理学各論（6）	運動器系および脳・神経系の病理
15	まとめ	
16		

科目コード	36302				区 分	基礎専門科目			
授業科目名	解剖・生理学実習 I				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

解剖学および生理学の特に柔道整復師業務に関連する分野を中心として構成し授業展開する。将来、医療の一端を担う柔道整復師は人体の正常な構造、位置、形を理解する事は重要である。また、健康なヒトのからだのしくみとはたらきを理解するため、安静時と運動時の生理学的評価を行い、教科書の平面的な記載と実際とをよく見比べ、解剖・生理学実習を行う。解剖・生理学実習を行うことにより、医療関係者としての心得を把握し、将来の生命倫理の基礎をつくる。

### <授業の到達目標>

人体の正常な構造、位置、形を三次元的に把握し、実習を通して解剖学、生理学、運動学の講義で習った身体構造と機能を理解し、表現できるようになることを目標とする。

### <授業の方法>

解剖・生理学実習 I は、ディプロマポリシー3 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。各授業では、テーマに沿って予習、実習、復習などを行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ（毎回、1時間程度）復習：授業内容の確認・復習の実施（毎回、1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート 70% 学習意欲 30%

### <教科書>

### <参考書>

監訳 坂井 建雄／松村 譲児 発行 2013年03月 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系 第2版 医学書院  
公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修岸 清・石塚 寛 編 解剖学 改訂第2版 医歯薬出版株式会社  
Scott K. Powers Edward T. Howley 著日本語版監修 内藤久士 柳谷登志雄 小林裕幸 高澤祐治 パワーズ運動生理学 株式会社 メディカル・サイエンス・インターナショナル

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	人体の構造の理解1	人体の構造と機能について
2	人体の構造の理解2	人体の構造と機能を解剖学の視点から復習する
3	人体の構造の理解3	人体の構造と機能を生理学の視点から復習する
4	各部位の把握（上肢）	上肢の骨・筋・神経の位置および機能について
5	各部位の把握（下肢）	下肢の骨・筋・神経の位置および機能について
6	各部位の把握（体幹）	体幹の骨・筋・神経の位置および機能について
7	各部位の把握（頭頸部）	頭頸部の骨・筋・神経の位置および機能について
8	心臓の構造と機能 1	刺激伝導系の復習と安静時心拍数の測定について
9	心臓の構造と機能2	刺激伝導系の復習と運動時心拍数の測定について
10	エネルギー供給系について 1	安静時の乳酸測定について
11	エネルギー供給系について 2	運動時の乳酸測定について
12	酸素摂取量について 1	酸素摂取量の測定方法について
13	酸素摂取量について 2	呼気ガス分析機器について
14	酸素摂取量について 3	運動負荷試験について
15	総復習	まとめ
16		

科目コード	36303				区 分	基礎専門科目			
授業科目名	解剖・生理学実習Ⅱ				担当者名	古山 喜一			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

解剖見学実習を中心として構成し、授業展開する。将来、柔道整復師として医療の一端を担うには人体の正常な構造、位置、形を理解する事は重要である。教科書の平面的な記載と実際とをよく見比べ、立体的、三次元的な理解を深める為に解剖見学実習を行う。解剖見学実習に向かい、心得、手順、禁止事項等を十分に把握し、篤志献体により提供された御遺体を解剖見学実習により、生と死についての洞察を得、将来の生命倫理の基礎をつくる。

#### <授業の到達目標>

人体の正常な構造、位置、形を三次元的に把握し、実習を通して解剖学、生理学、運動学の講義で習った身体構造と機能を理解し、説明できるようになることを目標とする。

#### <授業の方法>

各授業で、テーマに沿ってグループワーク実をい、Dropboxを用いレポートを提出する

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ学習により双方向で理解度を確認する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

プリントに記された実習内容に関する項目について、解剖学や生理学及び運動学で習った事を復習する。授業内容（小テスト・講義・討論）をふりかえり、「何を学んだか、何を学べなかったのか」についてレポート（A4-1枚程度）を作成し、期日までにデータで担当教員にDropboxを用い送信する。（1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP 3 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【Web授業】①課題内容90% ②意見交換10%【対面授業】実習参加意欲30%・実習試験70%

#### <教科書>

#### <参考書>

監訳 坂井 建雄／松村 譲児 発行 2013年03月 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系 医学書院

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	事前説明	解剖・生理学実習を行うにあたり事前説明を実施する。
2	参加選抜試験	解剖・生理学実習に参加するにあたり選抜試験を実施する。
3	上肢の骨	上肢の骨を理解する。
4	上肢の筋	上肢の筋を理解する。
5	上肢の神経	上肢の神経を理解する。
6	下肢の筋	下肢の筋を理解する。
7	下肢の骨	下肢の骨を理解する。
8	下肢の神経	下肢の神経を理解する。
9	全身の脈管系	全身の脈管系を理解する。
10	胸部内臓	胸部内臓を理解する。
11	腹部内臓	腹部内臓を理解する。
12	解剖見学実習1	上肢の解剖見学実習
13	解剖見学実習2	下肢の解剖見学実習
14	解剖見学実習3	体幹の解剖見学実習
15	解剖見学実習事後指導	実習に対する全体討議、個人発表
16		

科目コード	36514				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツ健康実習〔健康運動実習PH4年生用〕				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

今般の医療制度改革においては、生活習慣病予防が生涯を通じた個人の健康づくりだけでなく、中長期的な医療費適正化対策の柱の一つとして位置づけられており、今後展開される本格的な生活習慣病対策においては、一次予防に留まらず二次予防も含めた健康づくりのための運動を指導する専門家の必要性が増している。本講義においては、スポーツ健康論で修得した内容を踏まえ、「個々人の身体状況に応じた安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成と指導」、「生活習慣病にかかる可能性のある“ハイリスク者”への個別指導・健康支援」に関する実践、実習を行なう。本授業では、健康運動指導士・健康運動実践指導者の資格取得を目指している学生を中心に、履修者上限数を20名とする。

### <授業の到達目標>

運動プログラムの基本的な考え方を理解し、対象特性に合わせた包括的な運動プログラムの作成し、運動指導の実践を行なえるようになることを目標としている。

### <授業の方法>

教科書を基に、実習を中心とした授業を展開する。特にチーム別に、テーマを設定し、グループワークを行い、健康運動教室を実施する。その後、参加者からのアンケートをまとめることにより、課題及び改善点をリフレクションしていく。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：5、6人のグループに分かれ、健康教室の内容についてグループワークを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に教科書を熟読し、実際に運動プログラムを作成する（約1時間）。運動プログラムについては、パワーポイントの資料を作成し、プレゼンテーションを練習することにより、実践に活かす。その後、授業内で実践し、指導する側、指導される側になり、レポートを提出することにより授業の理解を深める（約1時間）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習態度・学習意欲 30%、運動プログラム指導 50%、課題レポート 20%

### <教科書>

公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士養成講習会テキスト（上・下） 株式会社 南江堂

### <参考書>

公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者養成用テキスト 株式会社 南江堂

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	身体活動量の定量法とその実際	身体活動量の測定法の実際
2	身体組成の測定法	身体組成の測定
3	運動負荷試験実習（1）	正常心電図
4	運動負荷試験実習（2）	負荷心電図
5	運動負荷試験実習（3）	呼気ガス分析、乳酸値
6	運動負荷試験実習（4）	最大酸素摂取量の測定
7	高齢者の体力測定法（1）	高齢者の体力測定法の実習（全身持久力）
8	高齢者の体力測定法（2）	高齢者の体力測定法の実習（筋力等）
9	運動行動変容の実際	行動変容プログラムの実際
10	運動療法（1）	生活習慣病に対する包括的な運動療法
11	運動療法（2）	過体重・肥満症に対する運動療法
12	運動療法（3）	高血糖・糖尿病に対する運動療法
13	運動療法（4）	高血圧に対する運動療法
14	運動療法（5）	脂質異常症に対する運動療法
15	運動療法（6）	ロコモティブシンドロームに対する運動療法
16		

科目コード	36515				区 分	コア科目			
授業科目名	トレーニング指導実習				担当者名	江波戸 智希／國友 亮佑			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

習得した知識や技術を活かし、様々な対象へのトレーニング指導を実践する。プログラムデザインから実際の指導までをすべてひとりで実施する事で、より実践的な能力を身につけ、トレーニング指導者としての資質を養う。原則としてアスリートおよび一般の両方の指導を体験する事とする。（「健康運動実習」履修者は一部免除されます）

#### <授業の到達目標>

対象に応じたトレーニングプログラムを作成し、適切な指導ができるようになる。

#### <授業の方法>

実技および現場での実習を中心とする。2年次終了時点で、CSCS取得に必要な科目を全て履修している。また、CSCSの取得を希望する学生を優先的に20名を履修上限とする。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：プログラムデザイン、エクササイズテクニクについて学習する。（1時間）復習：指導した際の課題や改善方法について内容をまとめる（1時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

トレーニング指導実践50%、課題（指導計画、指導の振り返り）50%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	実習の流れ、注意事項説明
2	エクササイズテクニクと指導法の確認①	下半身エクササイズのテクニクと指導法の確認
3	エクササイズテクニクと指導法の確認②	上半身プッシュ系エクササイズのテクニクと指導法の確認
4	エクササイズテクニクと指導法の確認③	上半身プル系エクササイズのテクニクと指導法の確認
5	エクササイズテクニクと指導法の確認④	オリンピックリフティングのテクニクと指導法の確認①
6	エクササイズテクニクと指導法の確認⑤	オリンピックリフティングのテクニクと指導法の確認②
7	プログラムデザイン①	筋肥大プログラムの立案
8	プログラムデザイン②	最大筋力向上プログラムの立案
9	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
10	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
11	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
12	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
13	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
14	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
15	まとめ（指導内容報告会）	指導内容の振り返り
16		

科目コード	36516				区 分	コア			
授業 科目名	サービスラーニング I				担当者名	十河 直太			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

サービスラーニングとは、公共的な活動の場に参加しながら学習を深める取り組みのことです。本授業では、フィールドのいずれかひとつを選び、年間を通して10日以上の実習に取り組みながら、学びを深めていきます。自分の関心に沿って、子ども・若者をはじめ、たくさんの人たちとかかわりながら現場において学べるのがサービスラーニングの魅力です。

### <授業の到達目標>

体育・スポーツ・健康に関わる職業やその専門性の基礎としての「市民性」を身につけている。＊ここで「市民性」とは、市民社会における公共的な課題にコミットし、他者と連携しながら、その問題を改善・解決することのできる力量のことを想定している。

### <授業の方法>

グループで役割をアクティブラーニングを用いて、事前準備を行い、年間を通して10日以上（もしくは20時間以上）の実習に取り組んでいく。また、取り組んだ結果に対しての省察活動をグループで行い、発表を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：有単元で学んだプレーについてディスカッションを行い自身の活動を振り返る。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業はフィールドを選択し、活動を行い、中間まとめをし、活動を継続し、最後のふりかえりを行う、という形です。フィールドでの活動は、通年で10日間以上（もしくは20時間以上）とする。事前や事後の学習は、フィールドでの活動状況に応じてすすめることになります。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

意欲態度：40%実施内容に対する省察レポート：30%グループにおける振り返り発表：30%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	1) サービスラーニングとは何か2) フィールドの説明
2	事前学習 (1)	フィールドの調査・理解
3	事前学習 (2)	フィールドでの実施計画の立案
4	現地調査 (1)	現地での課題をヒアリングする
5	現地調査 (2)	現地調査結果を集約する
6	現地調査 (3)	現地調査結果から課題を抽出し、改善案を検討する
7	現地調査 (4)	現地調査からの改題改善策について発表する
8	現地フィールド実施 (1)	現地フィールドでの実践準備を行う
9	現地フィールド実施 (2)	現地フィールドでの実践を行う (参加者把握)
10	現地フィールド実施 (3)	現地フィールドでの実践を行う (参加者ニーズ把握)
11	現地フィールド実施 (4)	現地フィールドでの実践を行う (本番)
12	現地フィールド実施 (5)	現地フィールドでの実践を行う (本番2)
13	現地フィールド実施 (6)	現地フィールドでの実践を行う (満足度調査等)
14	結果省察発表 (1)	実施内容・満足度調査をまとめる
15	結果省察発表 (2)	省察を発表する
16		

科目コード	36517				区 分	コア			
授業 科目名	サービスラーニングⅡ				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

サービスラーニングとは、公共的な活動の場に参加しながら学習を深める取り組みのことです。本授業では、フィールドのいずれかひとつを選び、年間を通して10日以上の実習に取り組みながら、学びを深めていきます。自分の関心に沿って、子ども・若者をはじめ、たくさんの人たちとかかわりながら現場において学べるのがサービスラーニングの魅力です。

### <授業の到達目標>

体育・スポーツ・健康に関わる職業やその専門性の基礎としての「市民性」を身につけている。＊ここで「市民性」とは、市民社会における公共的な課題にコミットし、他者と連携しながら、その問題を改善・解決することのできる力量のことを想定している。

### <授業の方法>

グループで役割をアクティブラーニングを用いて、事前準備を行い、年間を通して10日以上（もしくは20時間以上）の実習に取り組んでいく。また、取り組んだ結果に対しての省察活動をグループで行い、発表を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、実社会のフィールドでの実習を通じて学びを深め、事前準備や省察活動をグループで行うことで、主体的・協働的な学習が展開される。自らの関心に基づき実践し、その経験を振り返って発表する一連の活動は、アクティブラーニングの要素を含んでいる。

### <準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業はフィールドを選択し、活動を行い、中間まとめをし、活動を継続し、最後のふりかえりを行う、という形です。フィールドでの活動は、通年で10日間以上（もしくは20時間以上）とする。事前や事後の学習は、フィールドでの活動状況に応じてすすめることになります。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

活動状況や意欲態度：40%実施内容に対する省察レポート：30%グループにおける振り返り発表：30%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	1) サービスラーニングとは何か 2) フィールドの説明
2	事前学習 (1)	フィールドの調査・理解
3	事前学習 (2)	フィールドでの実施計画の立案
4	現地調査 (1)	現地での課題をヒアリングする
5	現地調査 (2)	現地調査結果を集約する
6	現地調査 (3)	現地調査結果から課題を抽出し、改善案を検討する
7	現地調査 (4)	現地調査からの改題改善策について発表する
8	現地フィールド実施 (1)	現地フィールドでの実践準備を行う
9	現地フィールド実施 (2)	現地フィールドでの実践を行う (参加者把握)
10	現地フィールド実施 (3)	現地フィールドでの実践を行う (参加者ニーズ把握)
11	現地フィールド実施 (4)	現地フィールドでの実践を行う (本番)
12	現地フィールド実施 (5)	現地フィールドでの実践を行う (本番2)
13	現地フィールド実施 (6)	現地フィールドでの実践を行う (満足度調査等)
14	結果省察発表 (1)	実施内容・満足度調査をまとめる
15	結果省察発表 (2)	省察を発表する
16		

科目コード	36518				区 分	コア			
授業 科目名	サービスラーニングⅢ				担当者名	早田 剛			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

サービスラーニングとは、公共的な活動の場に参加しながら学習を深める取り組みのことです。本授業では、フィールドのいずれかひとつを選び、年間を通して10日以上の実習に取り組みながら、学びを深めていきます。自分の関心に沿って、子ども・若者をはじめ、たくさんの人たちとかかわりながら現場において学べるのがサービスラーニングの魅力です。

### <授業の到達目標>

体育・スポーツ・健康に関わる職業やその専門性の基礎としての「市民性」を身につけている。＊ここで「市民性」とは、市民社会における公共的な課題にコミットし、他者と連携しながら、その問題を改善・解決することのできる力量のことを想定している。

### <授業の方法>

グループで役割をアクティブラーニングを用いて、事前準備を行い、年間を通して10日以上（もしくは20時間以上）の実習に取り組んでいく。また、取り組んだ結果に対しての省察活動を個人またはグループで行い、発表を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）この活動自体がアクティブ・ラーニングになります。最後の言語化することまでが、アクティブ・ラーニングであると考えます。

### <準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業はフィールドを選択し、活動を行い、中間まとめをし、活動を継続し、最後のふりかえりを行う、という形です。フィールドでの活動は、通年で10日間以上（もしくは20時間以上）とする。事前や事後の学習は、フィールドでの活動状況に応じてすすめることになります。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

意欲態度：40%実施内容に対する省察レポート：30%グループにおける振り返り発表：30%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	1) サービスラーニングとは何か2) フィールドの説明
2	事前学習 (1)	フィールドの調査・理解
3	事前学習 (2)	フィールドでの実施計画の立案
4	現地調査 (1)	現地での課題をヒアリングする
5	現地調査 (2)	現地調査結果を集約する
6	現地調査 (3)	現地調査結果から課題を抽出し、改善案を検討する
7	現地調査 (4)	現地調査からの改題改善策について発表する
8	現地フィールド実施 (1)	現地フィールドでの実践準備を行う
9	現地フィールド実施 (2)	現地フィールドでの実践を行う (参加者把握)
10	現地フィールド実施 (3)	現地フィールドでの実践を行う (参加者ニーズ把握)
11	現地フィールド実施 (4)	現地フィールドでの実践を行う (本番)
12	現地フィールド実施 (5)	現地フィールドでの実践を行う (本番2)
13	現地フィールド実施 (6)	現地フィールドでの実践を行う (満足度調査等)
14	結果省察発表 (1)	実施内容・満足度調査をまとめる
15	結果省察発表 (2)	省察を発表する
16		

科目コード	36519				区 分	コア			
授業 科目名	サービスラーニングⅣ				担当者名	早田 剛			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

サービスラーニングとは、公共的な活動の場に参加しながら学習を深める取り組みのことです。本授業では、フィールドのいずれかひとつを選び、年間を通して10日以上の実習に取り組みながら、学びを深めていきます。自分の関心に沿って、子ども・若者をはじめ、たくさんの人たちとかかわりながら現場において学ぶことがサービスラーニングの魅力です。

### <授業の到達目標>

体育・スポーツ・健康に関わる職業やその専門性の基礎としての「市民性」を身につけている。＊ここで「市民性」とは、市民社会における公共的な課題にコミットし、他者と連携しながら、その問題を改善・解決することのできる力量のことを想定している。

### <授業の方法>

グループで役割をアクティブラーニングを用いて、事前準備を行い、年間を通して10日以上（もしくは20時間以上）の実習に取り組んでいく。また、取り組んだ結果に対しての省察活動を個人またはグループで行い、発表を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）この活動自体がアクティブ・ラーニングになります。参加を検討し、仮説を持って参加し、活動を行い、最後に言語化することまでが、アクティブ・ラーニングであると考えます。

### <準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業はフィールドを選択し、活動を行い、中間まとめをし、活動を継続し、最後のふりかえりを行う、という形です。フィールドでの活動は、通年で10日間以上（もしくは20時間以上）とする。事前や事後の学習は、フィールドでの活動状況に応じてすすめることになります。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

意欲態度：40%実施内容に対する省察レポート：30%グループにおける振り返り発表：30%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	1) サービスラーニングとは何か 2) フィールドの説明
2	事前学習 (1)	フィールドの調査・理解
3	事前学習 (2)	フィールドでの実施計画の立案
4	現地調査 (1)	現地での課題をヒアリングする
5	現地調査 (2)	現地調査結果を集約する
6	現地調査 (3)	現地調査結果から課題を抽出し、改善案を検討する
7	現地調査 (4)	現地調査からの改題改善策について発表する
8	現地フィールド実施 (1)	現地フィールドでの実践準備を行う
9	現地フィールド実施 (2)	現地フィールドでの実践を行う (参加者把握)
10	現地フィールド実施 (3)	現地フィールドでの実践を行う (参加者ニーズ把握)
11	現地フィールド実施 (4)	現地フィールドでの実践を行う (本番)
12	現地フィールド実施 (5)	現地フィールドでの実践を行う (本番2)
13	現地フィールド実施 (6)	現地フィールドでの実践を行う (満足度調査等)
14	結果省察発表 (1)	実施内容・満足度調査をまとめる
15	結果省察発表 (2)	省察を発表する
16		

科目コード	36520				区 分	専門基礎			
授業科目名	アスリートキャリアI(クロスオーバースキル)				担当者名	宮本 彩／矢野 智彦／三浦 孝仁			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

アスリートはスポーツで高みを目指す中で、競技スキルを磨くだけでなく、コミュニケーション能力や協調性、自己管理能力など、社会でも求められる様々なスキルも同時に培う必要があります。本授業では、これまでの経験を振り返り、クロスオーバースキルとして特に役立つとされている10項目（コミュニケーション能力、協調性、自己管理力、冷静さ、勝利思考、成長思考、意欲、達成力、適応力、乗り越える力）について考えていきます。

#### <授業の到達目標>

本授業を通して、自分自身の強みを理解するとともに、そのことについて、人に伝えられるようになる。

#### <授業の方法>

ペアワークやグループワークによる自己探求課題レポート等を基にした自己表現及び発表

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素；有りペアワークやグループワーク、その成果についてのプレゼンテーションなど

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の授業内容について、授業後に振り替えるとともに、次のキーワードについて下調べを行う。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内での発表を含めた受講態度 50% レポートを含む課題 50%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	競技スポーツ科学科が求めるアスリート像について	競技スポーツ科学科での学び方、取り組み方
2	自身が目指すアスリート像	受講者自身が目指しているアスリート像を具体的に言葉にし、小グループごとに発表する
3	理想とされるアスリート像とは	第1回目・第2回目の授業内容を振り返り、共通する能力は何かを考える。また、五訓の理解を深める。
4	五訓の実践例を考える	五訓の具体的な実践例を話し合う。また、クロスオーバースキルとは何かを学ぶ。
5	クロスオーバースキル“自己管理”	クロスオーバースキルのうち“自己管理”の重要性について話し合い、学科の特徴であるマルチサポートについて理解を深める。
6	クロスオーバースキル“成長思考・勝利思考”	クロスオーバースキルのうち、“成長思考・勝利思考”として、競技スポーツ科学科での学びを活かした戦い方を考える。
7	トップアスリートの講話に向けた事前学習①	講演者について調べ、レポートとしてまとめる。
8	トップアスリートからの講話①	講話の感想ならびに学んだ内容についてレポートでまとめる。
9	トップアスリートの講話を受けての事後学習①	考えたこと・学んだことを他の受講者と共有する。
10	トップアスリートの講話に向けた事前学習②	講演者について調べ、レポートとしてまとめる。
11	トップアスリートからの講話②	講話の感想ならびに学んだ内容についてレポートでまとめる。
12	トップアスリートの講話を受けての事後学習②	考えたこと・学んだことを他の受講者と共有する。
13	4年間での目標宣言①	4年間での自分自身の目標を受講者の前で発表する。
14	4年間での目標宣言②	4年間での自分自身の目標を受講者の前で発表する。
15	4年間での目標宣言③	4年間での自分自身の目標を受講者の前で発表する。
16		

科目コード	36600				区 分	コア科目			
授業科目名	競技スポーツアナリティクス演習A (レース分析)				担当者名	秦 啓一郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本授業では、スポーツアナリティクスの基礎となるレース分析の測定方法論について概説し、選手やコーチへの適切なフィードバック資料の作成方法を、講義と演習を通じて体系的に学ぶ。主に陸上競技の走種目を題材として講義を進めるが、レース分析の方法論を他の競技スポーツにも応用し、実践的な演習を行う。

#### <授業の到達目標>

本授業では、以下の二つの到達目標の達成を目指す。一つ目に、レース分析に求められる測定方法を習得し、分析によって得られた各種変数の意味を理解したうえで、様々な競技スポーツの場面で活用できる力を身につけること。二つ目に、分析結果を基に、選手やコーチに対して適切なフィードバック資料を作成できる力を養うこと。

#### <授業の方法>

本授業では、レース分析の活用方法について、実際のトップレベルの競技場面での事例を交えながら講義を行う。講義では、リアルタイムでフィードバックが可能なソフトウェア「Mentimeter」を活用し、双方向型の授業を展開する。また、実際のレース分析で用いられる専門機器やブラウザベースのレース分析ツールを使用し、測定および分析の演習を行う。グループワークを通じて、測定内容や方法についてディスカッションを行い、課題作成に取り組む。データ管理はクラウド上で行い、実践的なデータ活用スキルの習得を目指す。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有グループワーク（10名程度）に分かれて、各テーマについて、ディスカッション・成果物を作成する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で提示するテーマの内容について、事前に配布資料や指示された参考資料を読む（1時間程度）。講義ノート・実験データを基にレポート課題や復習を行う（1時間程度）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組態度（40%）、実習課題の提出状況（30%）、および実習課題の評価点（30%）を総合的に評価する。

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

特に指定なし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	単位取得に関する諸注意や授業の進め方について説明する。また、スポーツアナリティクス（レース分析）に関する知識を深める意義について解説し、今後の講義および演習への学習意欲を高めることを目的とする。
2	レース分析方法論Ⅰ	映像を用いたレース分析の基本的な方法論について概説する。主に距離、タイム、スピードといった基礎的な測定項目の算出方法について学ぶ。
3	レース分析方法論Ⅱ	映像を用いたレース分析の基本的な方法論について概説する。ピッチ、ストライド、スピード関係について学ぶ。
4	測定とデータ管理	レース分析のための映像を測定するとともにデータ管理方法について学ぶ。
5	レース分析Ⅰ	測定したビデオ映像を用いてレース分析を行う。主にタイムとスピード、接地時間と滞空時間を分析する。
6	レース分析Ⅱ	測定したビデオ映像を用いてレース分析を行う。主にピッチ・ストライド・スピード関係を分析する。
7	レース分析Ⅲ	測定したビデオ映像を用いて、連続写真を作成する。
8	レースの測定方法の実践Ⅰ	測定機器である「ビデオカメラ」、「光電管」を用いた測定を行う。
9	レースの測定方法の実践Ⅱ	測定機器である「OptoJump Next」を用いた測定を行う。
10	プロジェクト研究Ⅰ	グループごとに解析のテーマをディスカッションし発表する。

11	プロジェクト研究Ⅱ	グループごとのテーマにあったレースの測定を行う。
12	プロジェクト研究Ⅲ	グループごとのテーマにあったレース分析を行う。
13	プロジェクト研究Ⅳ	グループごとのテーマにあったレース分析のフィードバック資料を作成する。
14	プロジェクト研究Ⅴ	グループごとに分析および作成したフィードバック資料を発表する。
15	まとめ	本授業で学んだ主要なレース分析の方法論や分析変数について総括し、これまでの学習内容を整理・確認する。
16		

科目コード	36601				区 分	コア科目			
授業科目名	競技スポーツアナリティクス演習B (ゲーム分析)				担当者名	仙波 慎平			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

近年、様々な競技でデータの活用が進んでおり、スポーツアナリストが活躍するようになった。スポーツアナリティクスと呼ばれるデータ分析は統計学を背景とした手法が用いられ、スポーツ統計とも呼ばれており、データサイエンスとも密接なかわりを持つ。この実習では、スポーツにおけるデータの測定・分析を実践的に学ぶ。

#### <授業の到達目標>

高度情報化社会はスポーツ界にも押し寄せており、特に近年のトップスポーツでは「スポーツも情報戦の時代」と言われている。情報をうまくつかうことは、アスリートのパフォーマンス向上のみならずトップスポーツのマネジメントにおいて必要不可欠である。本授業では、スポーツ界のさまざまなフィールドにおいて、情報の収集、分析、提供を効果的に行い、意思決定者を強力に支援できるエキスパートになるための基礎を学び、社会・職業生活に応用可能な知見の修得を目指す。

#### <授業の方法>

本授業では、アスリートとしての「指導を受ける側」、指導者としての「指導する側」双方の競技力向上への取り組みに資する、情報技術や映像技術、情報分析についての技術を戦略的に活用する方法について、実際のトップレベルの競技場面での活用事例などを交えながら学習し、受講生自身が自らの活動に活かせる能力を育成することを目指す。そのため、授業において課されるグループワークや課題への取り組み、プレゼンテーションを重要視する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有グループワーク（3～4人）に分かれて、各テーマについて、ディスカッション・成果物を作成する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で提示するテーマの内容について、事前に配布資料や指示された参考資料を読む（1時間程度）。講義ノート・実験データを基にレポート課題や復習を行う（1時間程度）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組態度40%。課題レポート点30%。実習課題の提出・評価点30%。

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

特に指定なし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	講義概要の解説	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	ゲーム分析とは？（1）	ゲーム分析の方法
3	量的分析とは？	量的分析について学ぶ
4	質的分析とは？	質的分析について学ぶ
5	情報技術（1）	データアーカイブ
6	情報技術（2）	ネットワークを用いた即時フィードバック
7	情報技術（3）	特殊環境でのネットワーク活用
8	分析の方法	映像を撮影し、分析する。
9	数値の解釈	得られたデータの解釈
10	プレゼンの方法	フィードバックの方法
11	データの収集	データの収集を行う
12	データの分析	データの分析を行う。
13	プレゼン発表（1）	得られたデータを発表する
14	プレゼン発表（2）	得られたデータを発表する
15	まとめ	
16		

科目コード	36604				区 分	コア科目			
授業科目名	競技スポーツ栄養学演習A(体調管理)				担当者名	保科 圭汰			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

スポーツ栄養学の知識を基に自身の食生活を適切に管理できるようになるための実践方法を学ぶ。食事調査、食事記録の手法を理解し、自身の食事を記録および分析するとともにアスリートとして必要な体調管理をコンディショニングの観点から学ぶ。

#### <授業の到達目標>

本授業では、スポーツ現場において用いられる食事記録やコンディショニング把握に関する記録を実践し、科学的根拠に基づいた体調管理について知る。また、献立の立案について学び、自身の競技に向けたコンディショニングのみならず、指導者としての知識・スキルを身につけることを目標とする。

#### <授業の方法>

演習として授業テーマに基づいたグループワーク等を行う。また、パソコンを用いて食事の分析やプレゼンテーションを実施する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素 有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として授業テーマに関連したキーワードについてインターネットや参考書等で調べ、理解を深めること。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べること。（2時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題点（レポート課題、意見交換、小テスト） 60%、最終課題 40%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ栄養の概念	スポーツ栄養学の概念と意義
2	食事調査、食事記録の方法①	食事調査の意義と方法
3	食事調査、食事記録の方法②	食事記録の意義と方法
4	コンディショニング記録の方法	コンディショニング記録の意義と方法
5	食事記録①	食事記録の実践
6	食事記録②	食事記録の実践
7	コンディショニング記録①	コンディショニング記録の実践
8	コンディショニング記録②	コンディショニング記録の実践
9	食事記録、コンディショニング記録のまとめ①	食事記録、コンディショニング記録の分析およびプレゼン
10	食事記録③	食事記録の実践
11	食事記録④	食事記録の実践
12	コンディショニング記録③	コンディショニング記録の実践
13	コンディショニング記録④	コンディショニング記録の実践
14	食事記録、コンディショニング記録のまとめ②	食事記録、コンディショニング記録の分析およびプレゼン
15	食事記録、コンディショニング記録のまとめ③	食事記録、コンディショニング記録の分析およびプレゼン
16		

科目コード	36606				区 分	コア			
授業 科目名	競技スポーツ心理学演習A(競技能力心理検査)				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業は、様々な心理検査に取り組み、自己分析を実施し自己理解を深める。そして、心理検査によって見出された課題について、実際にどのように取り組んでいくかを実践的に学んでいく。課題に対し、具体的な取り組みを発表し、実践して競技力向上に役立てていく。

### <授業の到達目標>

1. 様々な心理検査の実施方法や内容を理解することができる2. 心理検査結果から自己分析を実施し、課題を見出すことができる3. 課題克服のための対策を発表し、実践することができる

### <授業の方法>

心理検査に関する講義をした後、心理検査を実施し、結果について自己分析を行なう。課題を把握し、対策を考え、発表する。その後、課題克服対策を実践し、レポートする。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

心理検査結果から見出された課題について、対策を自ら調べたり、考えたりし、実践する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習30分（授業内容について事前に調べ学習する）、復習30分（授業内容について振り返りを実施し、理解を深める）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業に取り組む姿勢・態度40%、課題提出30%、最終レポート30%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業概要、自己理解について	授業概要と自己理解の大切さについて学ぶ
2	性格検査1	YG性格検査を実施し、特徴を把握する
3	性格検査2	Big Five尺度を実施し、YG性格検査結果と比較する
4	気分・情熱	気分調査、情熱尺度を実施し、自己理解を深める
5	ポジティブ・ネガティブ感情1	ポジティブ・ネガティブ感情尺度を実施し、課題対策を発表する
6	ポジティブ・ネガティブ感情2	課題対策を実践し、レポートする
7	注意・対人スタイル診断1	注意・対人スタイル診断検査を実施し、課題対策を発表する
8	注意・対人スタイル診断2	課題対策を実践し、レポートする
9	心理的競技能力診断1	心理的競技能力診断検査を実施し、課題対策を発表する
10	心理的競技能力診断2	課題対策を実践し、レポートする
11	試合前・試合中の心理状態1	試合前・試合中の心理状態診断検査を実施し、課題対策を発表する
12	試合前・試合中の心理状態2	課題対策を実践し、レポートする
13	ストレス1	ストレス検査を実施し、課題対策を発表する
14	ストレス2	課題対策を実践し、レポートする
15	まとめ	授業のまとめを行ない、最終レポートを提出する
16		

科目コード	37100				区 分	コア			
授業科目名	障害者スポーツ論				担当者名	宮本 彩／三浦 孝仁			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

障がい者スポーツは、障害という「ハンディ」を施設や用具・ルール工夫、人の援助等で補うことにより、一見不可能に思えるスポーツが可能となり実践されている。本科目では障害者の親しんでいるスポーツ・レクリエーションの現状を理解し、身近な障害者へのスポーツ活動の支援に役立てることを目的とする。

#### <授業の到達目標>

1. 障がい者、障がい者スポーツについて理解できる 2. 障害者のスポーツ活動等を通して、各種障がいに対し考え行動に移すことができる

#### <授業の方法>

1. 講義（日本パラスポーツ協会の公認パラスポーツ指導員（初級・中級）カリキュラム内容） 2. グループワーク（各種障がいへの対応手法） 3. 課外活動（障がい者スポーツ大会ボランティア、障がい者スポーツ体験）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有無；有りペアあるいはグループでの討議を通して、自らの考えを伝えるときに他者の意見を聞き、考える機会を設ける。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週のテーマ内容に準じた教科書の読み、課題に対する下調べ（毎回、1時間程度） 復習：講義前に実施する振り返りシート（毎回、15分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲10%、定期試験90%※初級障害者スポーツ指導員を申請する者は、①本科目の全出席、②学校側が指定する（岡山県障害者スポーツ大会、吉備高原車いすふれあいロードレース大会）ボランティアに一回以上参加すること（事前ガイダンス受講及び事後レポート提出）が条件となる。

#### <教科書>

（財）日本パラスポーツ協会 改訂版 障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級） ぎょうせい

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	障害者スポーツの意義と理念（1）	障がい者スポーツの理念とヒトや社会に与える影響
2	障害者スポーツの意義と理念（2）	公認パラスポーツ指導員制度とスポーツインテグリティ
3	障がい者の生活と福祉施策（1）	障害者福祉施策・今後の動向と障害者スポーツの関連性
4	障がい者の生活と福祉施策（2）	障がい者を取り巻く環境
5	障害の理解とスポーツ（1）	身体の構造と機能、トレーニング概論
6	障害の理解とスポーツ（2）	障がいの分類と概要（身体障がい）
7	障害の理解とスポーツ（3）	障がいの分類と概要（知的障がい、精神障がい）
8	障害の理解とスポーツ（4）	身体障がい者の理解とスポーツ・レクリエーション
9	障害の理解とスポーツ（5）	知的・精神障がい者の理解とスポーツ・レクリエーション
10	安全管理	リスクマネジメントと応急手当
11	ボランティア論	ボランティア精神とは
12	全国障がい者スポーツ大会（1）	全国障害者スポーツ大会の概要、障がい区分
13	全国障がい者スポーツ大会（2）	全国障がい者スポーツ大会競技種目と指導法、ボランティアの役割
14	障害に応じたスポーツの工夫・実施（1）	障害に応じたスポーツ実践（個人競技）
15	障害に応じたスポーツの工夫・実施（2）	障害に応じたスポーツ実践（団体競技）
16		

科目コード	37200				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツイベント論 [eスポーツ]				担当者名	平岡 師玄哉／小堀 浩志			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

近年、世界各国で話題になっている「eスポーツ」(electronic sports)は、国内においても注目されており、日本のコンテンツ市場においても今後の成長分野として期待されている。eスポーツ(esports)とは、「エレクトロニック・スポーツ」の略で、広義には、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称である。我が国におけるeスポーツの歴史と今後の展望、またeスポーツそのものを理解し、実際にイベントの企画運営を通して、マネタイズや課題解決について実践的に学ぶ。

### <授業の到達目標>

- ① eスポーツや取り巻く環境について理解する。
- ②実際にeスポーツイベントを企画し運営する。③イベントを通して、マネタイズや課題解決について実践的に学び、理解する。

### <授業の方法>

この科目では、11月～12月にかけて、岡山県eスポーツ連合と赤磐市の協力のもと、65歳以上の赤磐市民を対象に、実際にeスポーツイベントを実施する。履修条件として次の2つを満たしたもののの中から、抽選で履修者を決定します。①イベント期間(11/25, 12/2, 9, 16の全4回)全ての日程参加ができること②初回オリエンテーション時に提示される課題(イベント企画書)を10/3(金)16:00までに作成して提出すること。課題：あなた自身が運営する企画するとして、イベントの目的、内容、どこで、どのような競技を実施する

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有(ディスカッション、ディベート、グループワークの方法)5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業の事前調査及び事後調査を行うため、調査準備や、調査後のデータ集計や調査報告作成については、授業時間外での活動が必要になる場合が想定される。グループ活動への積極的な関与を求める。演習毎に授業時間外のレポート作成が必要となる(毎週最低でも準備に1時間の予習時間、調査のまとめに1時間の復習時間が必要)。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3(経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業への積極的な取り組み:30%、課題・レポート:30%、イベントの運営・プレゼン発表40%

### <教科書>

特になし

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・講師紹介	授業の説明・イベントの開催、運営について
2	eスポーツとは何か	eスポーツの概要と取り巻く環境について
3	イベント企画	イベントの企画書作成について
4	eスポーツの体験・イベント企画	スポーツとeスポーツの違いについて
5	eスポーツの体験・イベント企画	企画書作成、許諾申請、運営マニュアルについて
6	eスポーツの体験・イベント企画	企画検討会に向けてグループワーク
7	プレゼン発表(企画検討会)	イベント実施に向けて役割分担、許諾申請、プレスリリースについて
8	プレゼン発表(企画検討会)	イベント実施の準備
9	イベント実施	イベントの運営
10	イベント実施	イベント運営
11	イベント実施	イベントの運営
12	イベント実施	イベントの運営
13	イベントの振り返り	イベント成果の確認と発表に向けての準備
14	イベントの振り返り	発表に向けての準備
15	成果発表会	成果の発表
16		

科目コード	37501				区 分	専門基礎			
授業 科目名	スポーツ経営学				担当者名	平岡 師玄哉			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

私たちが住んでいる社会の様々な部分に経営管理が存在することを理解し、スポーツの世界にも経営管理が存在することを理解する。さらに、その経営管理の立場から「豊かなスポーツ生活」の実現をするために、その理念と方法を学習することに重きを置く。特に、運動者の立場に立った経営管理の考え方を重視するとともに、現代スポーツ社会における諸問題を中心に、具体的な実践につながるような授業を展開していく。

#### <授業の到達目標>

地域等のスポーツ振興に必要となるスポーツ経営の基礎理論及び実践的方法論を学習する。特にスポーツ経営の諸問題を参考にしながら、経営学的な考え方をできるようにする。

#### <授業の方法>

講義と授業ワークを織り交ぜながら行っていく。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 次週課題について30分 復習 授業後の課題について30分

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度30%、授業課題30%、授業レポート・小テスト40%

#### <教科書>

畑攻・小野里真弓 基本・スポーツマネジメント 大修館書店

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要説明・評価方法の説明
2	スポーツマネジメント(経営)がめざすものの	スポーツとマネジメント(経営)
3	スポーツマネジメントの方法	スポーツマネジメントの基本的使命
4	マネジメント(経営)組織の理念	マネジメント(経営)と理念の関係性
5	組織における人間観	クールアプローチとウォームアプローチ
6	マネジメントとマーケティング論	マーケティングの基本的な仕組み
7	スポーツプロダクト	スポーツサービスとスポーツベネフィット
8	スポーツ事業と運動生活Ⅰ	運動の成立条件としてのスポーツ事業
9	スポーツ事業と運動生活Ⅱ	運動生活と各スポーツ事業の特色とマネジメント
10	スポーツリーダーシップとマーケティングの基本	競技スポーツ集団としての組織論と消費者の認知行動過程
11	スポーツ政策	スポーツ政策の基本スタンスとわが国の主なスポーツ政策
12	スポーツの普及・振興を目指してⅠ	アスリート育成とマネジメント
13	スポーツの普及・振興を目指してⅡ	ダンス指導とマネジメントとフィットネスクラブのマネジメント
14	スポーツの発展・スポーツ教育の充実を目指して	女性スポーツとマネジメント、スポーツ地域マネジメント
15	スポーツ経営学入門のまとめ	スポーツ経営学の基本的なまとめ
16		

科目コード	37503				区 分	コア			
授業科目名	スポーツメディア論 [BC用]				担当者名	小堀 浩志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

スポーツメディアは、スポーツに多様な(ときに過剰な)意味を付与します。そしてまた私たちは、その意味を解釈し他者と語り合うことで再生産していきます。今日のスポーツ振興施策やビジネスにおけるスポーツメディアの重要性は増すばかりです。この講義では、実際にメディアスポーツ(スポーツの映像や記事)を生産したり解説したりすることで、スポーツメディアの特性を理解し、スポーツにおけるメディアの役割を実践を交えて学んでいきます。

### <授業の到達目標>

①スポーツメディア論の主要概念を理解できるようになる。②身の回りのスポーツ情報をメディアスポーツとして発信できるようになる③取材をできるようになる④スポーツメディアに相応しい文章表現を身につける

### <授業の方法>

講義毎に資料を配布し、担当教員がパワーポイントで解説を加えながら講義を実施します。適宜、小テストや提出物の提出に関わる学習課題に取り組んでももらいます。なお、学習課題は、Google Classroomを利用して管理(課題の提示、提出受付、評価など)します。また、この講義では、身近な人への取材活動(簡単なフィールドワーク)、あるいは他の受講者の課題を評価・ディスカッションするといった学習課題に取り組みます。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有(ディスカッション、ディベート、グループワークの方法) 5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

この講義では準備学習として、講義毎の小テストに向けた復習、あるいは、レポート作成のためのフィールドワークやデータ収集・整理といった学習課題に取り組んでももらいます

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3(経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業レポートⅠ(授業の振り返り) 40%、レポートⅡ(取材データをもとにスポーツ記事を作成する) 30%、レポートⅢ(取材データから動画を作成する) 30%

### <教科書>

教科書は使用しません。講義毎に担当教員が資料を配布し学習を進めていきます。

### <参考書>

黒田 勇(2012年10月20日) 「メディアスポーツへの招待」 株式会社ミネルヴァ書房

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	シラバス詳細版を配布し、この講義の計画(スケジュール)、到達目標、評価方法、授業方法・ルール、予習・復習課題、準備物等について説明をおこないます。必ず出席してください。
2	スポーツとメディア	メディアとスポーツおよびスポーツメディアの概念を説明し、それらの特性を概説します。また、良質なスポーツ記事の要件について議論します。
3	文章表現技法	主述のねじれ等、スポーツ記事を生産する上で留意すべき文章表現技法を概説します。そして、文章の添削・推敲の作業に取り組んでももらいます。
4	物語	物語[narrative]概念を説明し、物語化の技法を紹介します。
5	スポーツと物語	スポーツメディアにみられる物語化の実態について説明を行い、当該技法について理解を深めます。
6	取材の技法	レポートの説明を行い、取材の流れやルール等を説明します。
7	取材の計画	インタビュー調査の方法を説明し、レポートのための取材活動を企画・計画してもらいます。
8	取材の実施	取材(インタビュー調査)を実施します。
9	記事の作成	取材で得たデータよりスポーツ記事の原稿を作成してもらいます。
10	動画の作成(1)	動画作成の基本(プロの視点)
11	動画の作成(2)	動画作成の応用(プロの視点)

12	動画の作成(3)	動画の撮影(被写体を決めて自分で撮影する)
13	動画の編集(1)	動画の編集の基本
14	動画の編集(2)	自分で撮影した動画を編集する
15	動画の上映	各自作成した動画を上映する
16		

科目コード	37504				区 分	コア			
授業 科目名	レクリエーション論				担当者名	高見 博子			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本講座を通じて、楽しさや心地よさを活用して人々を支援するための基礎的な考え方を学ぶ。本講座は、（公財）日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクター資格取得のための必須科目である。

### <授業の到達目標>

レクリエーション概論を理解して「楽しさを創る」ことで「人々の心を元気にする」ことができる理論や支援の理論・支援の方法を学び、現代社会において求められているレクリエーション像を多角的に捉えることのできる能力を身につけることを目標とする。その上で、（公財）日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクター取得を目的とする。

### <授業の方法>

教科書に沿って講義するが、単元ごとにミニ・レポートを出して理解度をチェックする。また、随時アイスブレイキングの方法等を指導していく。資格取得には現場実習が必須であり、資格認定上の必修科目はキャンプ実習である。そのほか、事業参加としては「課程認定校交流会（11～12月）」や「岡山スポーツフェスティバル（3月）」がある。授業内で地域に関わる活動への案内が適宜あり、参加によって現場実習と認められる場合がある。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有アイスブレイキングの方法等、指導、実践していく。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間に配布された資料を読んでくる。また、授業時間に提示された参考図書・参考資料に目を通して授業の理解を深める（2時間程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験40%, ミニレポート30%, 授業態度30%で評価する。

### <教科書>

（公財）日本レクリエーション協会（2017） 「楽しさをとおした心の元気づくり」レクリエーション支援の理論と方法 （公財）日本レクリエーション協会

### <参考書>

（財）日本レクリエーション協会 レジャー・カウンセリング 大修館書店  
（財）日本レクリエーション協会 レクリエーション・マネジメント 大修館書店

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	レクリエーション概論	レクリエーションを学ぶにあたってレクリエーションの意味を理解する
2	レクリエーション概論	レクリエーション活動について理解するレクリエーション支援について理解する
3	レクリエーション概論	レクリエーション運動について理解するレクリエーション事業について理解する
4	楽しさと心の元気づくりの理論	楽しさを通した心の元気づくりを理解する
5	楽しさと心の元気づくりの理論	ライフステージと心の元気づくり
6	楽しさと心の元気づくりの理論	子ども、高齢者、障害のある人の元気づくり
7	楽しさと心の元気づくりの理論	地域の絆づくりとレクリエーション
8	レクリエーション支援の理解	コミュニケーションと信頼関係づくり
9	レクリエーション支援の理解	良好な集団づくりの理論
10	レクリエーション事業の理解	自主的・主体的に楽しむ力を育む理論
11	レクリエーション事業の理解	成功体験を支え合う対象者の関わり
12	レクリエーション支援の方法	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティー
13	レクリエーションの支援の方法	気持ちをひとつにするコミュニケーション技術
14	レクリエーションの支援の方法	良好な集団づくりの方法とアイスブレイキング
15	レクリエーションの支援の方法	レクリエーション活動を対象者に合わせる展開法・アレンジ法
16		

科目コード	37506				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツマーケティング論				担当者名	小堀 浩志			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

スポーツマーケティングは近年、オリンピックをはじめ様々なスポーツに導入され、人とスポーツをより活発化させる機能として、大きな役割を果たしている。本講義では、スポーツマーケティングの歴史と発展その特性を知り、またスポーツマーケティングの幅広い要素と機能を実例を通じて学ぶことで、その本質を理解することを目的とする。また講義の終盤では、国内のスポーツマーケティングの実例も紹介する。

#### <授業の到達目標>

スポーツマーケティングの特性を理解する。スポーツマーケティングの幅広い機能を理解する。プロスポーツを中心にスポーツマーケティングの最新事例を知る。

#### <授業の方法>

講義形式を基本とし、授業内での課題提出、少人数でのグループワークを展開していく。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

インターネット等でスポーツマーケティング関連の情報を確認する。授業資料を中心とした一斉授業と少人数のグループワークを中心に展開していく。毎週最低でも準備に1時間の予習時間、講義内容のまとめ・理解に1時間の復習時間が必要である。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 30% 授業課題評価 30% レポート課題(授業時間内及び中間・最終) 40%

#### <教科書>

#### <参考書>

原田宗彦・藤本淳也・松岡宏高（2020年9月1日） スポーツマーケティング改訂版 株式会社大修館書店

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	講義概要、成績評価方法の説明
2	スポーツマーケティングとは何か？	スポーツとマーケティングの概念
3	スポーツマーケティングの歴史と発展	スポーツマーケティングの誕生とその発展
4	スポーツプロダクトの特性	するスポーツとみるスポーツ、サービスマーケティング
5	スポーツ消費者の特性	スポーツ消費者の定義と意思決定プロセス
6	スポーツマーケティングのプランニング	リサーチ、STP、マーケティングミックス
7	プロモーション	広告、PR、イベント戦略
8	スポーツ・スポンサーシップ	スポンサーシップの概念、発展と現状、効果
9	ブランディング	ブランドエクイティとは何か、ライセンスリング
10	CRM(カスタマー・リレーションシップ・マネジメント)	顧客との関係、データベースマーケティングの未来
11	価格戦略	スポーツと価格、需要と供給、価格設定
12	マーケティングリサーチ	リサーチの意味、方法、分析と活用方法
13	事例紹介①国内スポーツ	プロ野球、Jリーグ、Bリーグのマーケティング事例
14	事例紹介②国内スポーツ	プロチームマーケティング事例
15	講義のまとめ	講義全体を通じてのまとめ
16		

科目コード	37510				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツ施設論				担当者名	平岡 師玄哉			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

フィットネス業界は、2019年（平成31年）には、売上高4,939億円（前年比3.2%増）、施設数6,188軒（前年比6.38%増）と総合型クラブが業界を牽引してきました。しかし、この10年の間に、24時間営業ジムやサーキットジム、ホットヨガスタジオなどの小規模業態が登場し、他業種からの参入も活性化しています。また、2020年年始からのコロナ禍により、ホームフィットネスや健康関連アプリサービスも台頭してきました。この授業では「民間スポーツ施設」にフォーカスをあて、社会環境、業界動向、事業構造等の事例を通じて理解を深め、「スポーツ施設経営」を学びます。また、本授業は国家資格である「フィットネスクラブマネジメント《ベーシック》」を取得するために必要な知識・技能を習得を目的としている。

#### <授業の到達目標>

1. 体系的にフィットネスクラブマネジメントに関わる知識・技術を身につけている 2. スポーツに関わる仕事の選択肢を増やすことができる 3. 国家資格である「フィットネスクラブマネジメント《ベーシック》」を取得するために必要な知識・技能を習得している

#### <授業の方法>

本授業は、講義と授業ワークを織り交ぜながら授業を展開します。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書活用し、事前課題を行い、授業内容に触れておく（30分） 復習：学習内容の復習を行う（30分）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 30%、 授業課題・レポート 30%、定期試験 40%

#### <教科書>

一般社団法人日本フィットネス産業協会（2024年4月） フィットネスクラブマネジメント公式テキスト Vol.4 Basic（初級）

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方フィットネス産業の概要
2	フィットネス産業	フィットネス産業の現状、歴史、特徴健康施策の概要と動向
3	健康づくり	生活習慣病とその予防栄養・運動・休養高齢者の健康づくり
4	運動・トレーニングの基礎	運動生理学、トレーニングの基礎
5	店舗運営①	フロント業務、ジム運営業務スタジオ運営業務、プール運営業務
6	店舗運営②	フロント業務、ジム運営業務スタジオ運営業務、プール運営業務
7	店舗運営③	イベントの企画・運営付帯事業クラブ内での緊急対応
8	トレンド	業界のプレイヤー、最新サービスの今
9	顧客マネジメント①	顧客対応と接客の心構え入会問い合わせ・見学者への対応顧客対応と課題解決
10	顧客マネジメント②	顧客対応と接客の心構え入会問い合わせ・見学者への対応顧客対応と課題解決
11	チームワークとコミュニケーション	組織と業務分担の考え方仕事の進め方コミュニケーションの重要性リーダーの役割とフォロワーの役割
12	施設・設備管理の意義と重要性	総合クラブの施設内容管理の概念と基本
13	労働・安全衛生	労働者の保護職場の安全衛生の基本感染症対策
14	データからみるフィットネスクラブ	フィットネスクラブを取り巻く状況を数値から捉える
15	授業まとめ	スポーツ施設経営を学ぶ重要性
16		

科目コード	37605				区 分	コア			
授業 科目名	総合型地域SC運営演習				担当者名	早田 剛			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

今日の日本における地域スポーツ振興策の柱である総合型地域スポーツクラブ（以下、総合型地域SCとする）の創設・運営について学ぶ。その際、総合型地域SCのスポーツ振興上の意義と期待される役割を踏まえ、クラブの組織運営および事業展開等について、実際のクラブ運営に携わり総合型地域スポーツクラブについて理解を深める。

### <授業の到達目標>

総合型地域SCのスポーツ振興上の意義と役割を理解することができる。総合型地域SCの組織運営および事業展開等について、岡山県内の事例を理解することができる。総合型地域SCの組織運営および事業展開等について、理論的に理解することができる。総合型地域SCの組織構築および事業創造に関わる基礎的力量を身につけることができる。

### <授業の方法>

総合型地域SC主催事業へ参加し、実際の総合型地域SCから提示される事業への参加と課題の解決案について提案する

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：有事前打合せ、実施中にディスカッションを行っていく。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前課題を取り組み（2時間）、取り組みをもとに事後課題を取り組み（2時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事業参加（受講態度を含む） 40%，企画案 40%，最終課題 20%.

### <教科書>

特になし

### <参考書>

日本体育・スポーツ経営学会編 「テキスト総合型地域スポーツクラブ」 大修館書店

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業の概説（オリエンテーション）	授業の流れ、成績評価方法等について解説する
2	日本の地域スポーツ振興の流れ	日本の地域スポーツ振興の歴史を概説する
3	日本の地域スポーツ振興の最先端	今日の日本の地域スポーツ振興を概説し、総合型クラブを紹介する
4	総合型地域SC概説（1）	総合型地域SCに期待される存在意義と役割を解説する。
5	総合型地域SC概説（2）	総合型地域SCが地域に果たす機能を解説する。
6	総合型地域SC実践事例（1）	岡山県内の総合型地域SC（A）関係者から創設過程を解説する。
7	総合型地域SC実践事例（2）	岡山県内の総合型地域SC（A）関係者から実践を解説する。
8	総合型地域SC実践事例（3）	岡山県内の総合型地域SC（B）関係者から創設過程を解説する。
9	総合型地域SC実践事例（3）	岡山県内の総合型地域SC（B）関係者から創設過程を解説する。
10	総合型地域SC実践事例（4）	岡山県内の総合型地域SC（B）関係者から実践を解説する。
11	総合型地域SC組織論（1）	総合型地域SCに求められる組織構造を解説する。
12	総合型地域SC組織論（2）	総合型地域SCに求められる組織過程を解説する。
13	総合型地域SC事業論（1）	総合型地域SCが展開すべき事業を解説する。
14	総合型地域SC事業論（2）	総合型地域SCに求められる事業展開を解説する。
15	総合型地域SC創設に向けて	最終レポート「総合型地域SC創設計画書」作成に関して解説する。
16		

科目コード	38201				区 分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅱ(応用) [再履修者用+他学科]				担当者名	清田 美紀			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目は、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰの基本的な知見をもとに、保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって、本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」を習得している者に限る。

### <授業の到達目標>

1. 学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し、教材を開発・作成することができる。2. 保健体育科の授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案し、授業実践することができる。3. 教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。4. 協働学習に主体的に参加し、積極的にグループに貢献できる。

### <授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・Google form を用いた課題遂行）2. 協働的活動（個人・ペア・グループワーク）3. 模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む）4. 省察活動（まとめと振り返り）

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（毎時間、4～5名のグループでの話し合い活動を取り入れる。また、ICT機器を用いて改善策について考えを交流したり、模擬授業に関して小グループでの討議を行ったりする。）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：学習指導要領に示されている領域・種目に関する内容を熟読し、ポイントをまとめる。保健体育授業における授業の方法、教材・教具などについて、書籍や論文から必用な情報を集める。指導案を作成する。（2時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回、1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

知識の領域 40%，態度的領域 30%，技能的領域 30%で総合的に評価する。知識的技能は、レポートや指導案、テスト（3回）による。態度的領域は、日頃の協働的活動における積極的な学習参加を重視する。技能的態度は、主に模擬授業における学習して身に付けてきた知識を用いて状況に対応していくスキルを評価する。

### <教科書>

文部科学省（平成29年7月） 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編 東山書房  
文部科学省（平成30年7月） 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編 東山書房  
衛藤 隆、友添 秀則 ほか（2022年3月20日） 現代高等保健体育 大修館書店

### <参考書>

岡出美則他（2021） 体育科教育学入門 大修館書店  
杉山重利・高橋健夫・園山和夫（2009） 保健体育科教育法 大修館書店

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	①授業の概要と進め方について②保健体育科指導法Ⅰの振り返り
2	よい体育授業とは何か	よい体育授業の条件について分析する
3	教材・教具の作成について	①保健体育の授業で育成を目指す資質・能力とは②教材と教具の違いは？③何をどのように教材・教具を作成していくとよいのか？
4	保健体育授業の楽しさとは？	①各種目の特性とは何か、生徒にとってどんな楽しさがあるのか②既習事項を参考に、1つの授業を組み立てる（グループワーク）
5	授業構想をどう行っていくとよいのか	単元計画の作成や指導と評価の一体化について解説する
6	指導案を作成しよう	指導案を作成するためのポイントを解説し、指導案を作成する
7	模擬授業にチャレンジ①	マイクロティーチング（体育分野・体育）
8	模擬授業にチャレンジ②	マイクロティーチング（体育分野・体育）
9	模擬授業にチャレンジ③	マイクロティーチング（体育分野・体育）
10	ここまで行ってきた模擬授業を振り返る	よい授業に向けて授業の計画・過程・成果を見直す

	う	
11	模擬授業にチャレンジ④	マイクロティーチング（保健・体育理論）
12	模擬授業にチャレンジ⑤	マイクロティーチング（保健・体育理論）
13	模擬授業にチャレンジ⑥	マイクロティーチング（保健・体育理論）
14	保健体育の学びを深めよう	保健体育授業の在り方について考えを深める
15	まとめ・振り返り	よい授業に向けて保健体育教師に求められるもの
16		

科目コード	38201				区 分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅱ(応用) [PP]				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目は、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰの基本的な知見をもとに、保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって、本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」を習得している者に限る。

### <授業の到達目標>

1. 学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し、教材を開発・作成することができる。2. 保健体育科の授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案し、授業実践することができる。3. 教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。4. 協働学習に主体的に参加し、積極的にグループに貢献できる。

### <授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・Google form を用いた課題遂行）2. 協働的活動（個人・ペア・グループワーク）3. 模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む）4. 省察活動（まとめと振り返り）

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有指導案の作成及び各種目の特性についてグループワークやディスカッションを行います。また、模擬授業の際は映像を見ながらFBを行い、改善点を発見する方法を採用します。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：学習指導要領に示されている領域・種目に関する内容を熟読し、保健体育授業における指導案や授業方法、教材・教具などについて、書籍や論文から必用な情報を集める。（1時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回、1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 20%, 受講態度10%, レポート（含指導案） 40%, 模擬授業 30%で総合的に評価する。受講態度は模擬授業における評価対象とするが、とりわけ日頃の協働的活動における積極性・貢献度を重視して評価する。指導案は、多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。課題の内容については、主にフィードバックを中心に行い、学習理解度を図る。

### <教科書>

文部科学省（平成29年7月） 中学校学習指導要領解説 保健体育編 東山書房  
文部科学省（平成30年7月） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 東山書房  
衛藤 隆、友添 秀則 ほか（2022年3月20日） 現代高等保健体育 大修館書店

### <参考書>

岡出美則他（2021） 体育科教育学入門 大修館書店  
杉山重利・高橋健夫・園山和夫（2009） 保健体育科教育法 大修館書店

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	①授業の概要と進め方について②良い体育授業とは何かを考える
2	学習指導要領を理解する①	学習指導要領が示している内容について理解を深める
3	学習指導要領を理解する②	学習指導要領の内容を調査し、意義を見つける
4	学習指導案の書き方について①	学習指導要領に基づいた指導案を作成する
5	学習指導案の書き方について②	単元計画の作成
6	確認テスト	学習指導要領の理解度を測るテストの実施
7	運動領域の特性について①	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
8	運動領域の特性について②	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
9	運動領域の特性について③	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
10	運動領域の特性について④	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
11	運動領域の特性について⑤	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
12	運動領域の特性について⑥	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
13	確認テスト/指導案の作成	学習指導要領の理解度チェック及び模擬授業に向けた取り組み
14	模擬授業を実践する①	マイクロティーチング
15	模擬授業②	マイクロティーチング
16		

科目コード	38202				区 分	コア科目			
授業科目名	学校保健 [A]				担当者名	山本 玲菜			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、まず学校保健の意義、行政等について学び、ヘルスプロモーション、児童・生徒の発育発達、疾病・異常及び感染症について必要な知識を習得する。次いで、精神の健康と、障害のある児童・生徒への健康上の支援について学び、健康観察、健康相談、健康診断等に関する知識の獲得をはかる。加えて、喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育についての理解を深め、学校環境衛生、食育、学校安全、応急手当、保健学習等について詳しく学ぶ。

<授業の到達目標>

本講義では、学校保健の役割とその実際を理解することを目指す。学校保健とは学校における児童・生徒の健康及び安全を推進する活動である。本講義では、児童・生徒の基本的な心身の機能や発育について認識すると同時に、彼らを取り巻く社会環境（運動の機会、食生活、友人や家族とのコミュニケーション、安全事情等）の今日的課題を察知し、今の子どもたちに必要な学校保健の方策について、各自が理解を深め、実践できる力を養う。

<授業の方法>

テキスト及び関連資料に基づく講義をパワーポイントを使用して行う。グループワークを行う場合もある。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有グループワークでは、「学校保健」に関する新聞記事を読み、その後5、6人のグループに分かれ、新聞記事のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。このようにグループワークを行うことで能動的に問題点について思考したり、意見を交わしたりすることにより認識を深めることを目的とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書を熟読し次回の講義内容を把握しておくこと。（毎回、1時間程度） 復習：授業時間に配布された資料、講義のテーマとなった教科書の範囲を必ず読み、自分の理解度を確認すること。（毎回、1時間半程度）※そのためには、毎回の授業を真剣に聞いておく必要がある。この講義専用のファイルをつくり講義資料をまとめ、講義には筆記用具、教科書、ノート、ファイルを持参すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、小テスト 30%、定期試験 40%※この講義では3～14回目の講義まで全12回の小テストを実施する。15回目の講義では講義内容のまとめを行うとともに全テストの復習を行う。

<教科書>

教員養成系大学保健協議会（2024） 学校保健ハンドブック<第8次改訂> ぎょうせい

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学校保健とは①	学校保健の意義、行政、教職員等の責任
2	学校保健とは②	ヘルスプロモーションの考え方
3	児童・生徒の発育発達	児童・生徒の発育発達の特徴、体力の現状と課題
4	児童・生徒の健康障害	児童・生徒における疾病・異常及び感染症の予防と対応
5	こころの健康と課題	児童・生徒の心の問題への対応、いじめの防止対策
6	障害のある児童・生徒への健康上の支援	特別支援教育、障害の考え方と障害のある児童・生徒への支援
7	児童・生徒の健康状態の把握	健康観察、健康相談、健康診断、保健調査の内容
8	現代の健康教育	性教育、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育
9	学校環境衛生	学校環境衛生の考え方と管理方法
10	学校における食育	現代の子どもにおける食の役割と重要性
11	学校安全	事故・災害・犯罪被害の防止と発生時の対応
12	応急手当	応急手当と心肺蘇生法
13	保健教育	学習指導要領に基づく保健学習、及びその指導と評価
14	学校保健経営	学校保健の組織活動、学校保健計画及び学校安全計画の意義と策定
15	まとめ	講義内容のまとめ及び小テストの振り返り
16		

科目コード	38202				区 分	コア科目			
授業科目名	学校保健 [B]				担当者名	山本 玲菜			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、まず学校保健の意義、行政等について学び、ヘルスプロモーション、児童・生徒の発育発達、疾病・異常及び感染症について必要な知識を習得する。次いで、精神の健康と、障害のある児童・生徒への健康上の支援について学び、健康観察、健康相談、健康診断等に関する知識の獲得をはかる。加えて、喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育についての理解を深め、学校環境衛生、食育、学校安全、応急手当、保健学習等について詳しく学ぶ。

<授業の到達目標>

本講義では、学校保健の役割とその実際を理解することを目指す。学校保健とは学校における児童・生徒の健康及び安全を推進する活動である。本講義では、児童・生徒の基本的な心身の機能や発育について認識すると同時に、彼らを取り巻く社会環境（運動の機会、食生活、友人や家族とのコミュニケーション、安全事情等）の今日的課題を察知し、今の子どもたちに必要な学校保健の方策について、各自が理解を深め、実践できる力を養う。

<授業の方法>

テキスト及び関連資料に基づく講義をパワーポイントを使用して行う。グループワークを行う場合もある。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有グループワークでは、「学校保健」に関する新聞記事を読み、その後5、6人のグループに分かれ、新聞記事のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。このようにグループワークを行うことで能動的に問題点について思考したり、意見を交わしたりすることにより認識を深めることを目的とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書を熟読し次回の講義内容を把握しておくこと。（毎回、1時間程度） 復習：授業時間に配布された資料、講義のテーマとなった教科書の範囲を必ず読み、自分の理解度を確認すること。（毎回、1時間半程度）※そのためには、毎回の授業を真剣に聞いておく必要がある。この講義専用のファイルをつくり講義資料をまとめ、講義には筆記用具、教科書、ノート、ファイルを持参すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、小テスト 30%、定期試験 40%※この講義では3～14回目の講義まで全12回の小テストを実施する。15回目の講義では講義内容のまとめを行うとともに全テストの復習を行う。

<教科書>

教員養成系大学保健協議会（2024） 学校保健ハンドブック<第8次改訂> ぎょうせい

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学校保健とは①	学校保健の意義、行政、教職員等の責任
2	学校保健とは②	ヘルスプロモーションの考え方
3	児童・生徒の発育発達	児童・生徒の発育発達の特徴、体力の現状と課題
4	児童・生徒の健康障害	児童・生徒における疾病・異常及び感染症の予防と対応
5	こころの健康と課題	児童・生徒の心の問題への対応、いじめの防止対策
6	障害のある児童・生徒への健康上の支援	特別支援教育、障害の考え方と障害のある児童・生徒への支援
7	児童・生徒の健康状態の把握	健康観察、健康相談、健康診断、保健調査の内容
8	現代の健康教育	性教育、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育
9	学校環境衛生	学校環境衛生の考え方と管理方法
10	学校における食育	現代の子どもにおける食の役割と重要性
11	学校安全	事故・災害・犯罪被害の防止と発生時の対応
12	応急手当	応急手当と心肺蘇生法
13	保健教育	学習指導要領に基づく保健学習、及びその指導と評価
14	学校保健経営	学校保健の組織活動、学校保健計画及び学校安全計画の意義と策定
15	まとめ	講義内容のまとめ及び小テストの振り返り
16		

科目コード	38300				区 分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅲ(発展) [PP]				担当者名	清田 美紀			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目は、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰ及びⅡの知見をもとに、保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって、本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）・保健体育科指導法Ⅱ（応用）」を習得している者に限る。

### <授業の到達目標>

1. 学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し、教材を開発・作成することができる。2. 保健体育科の授業における「授業設計」「単元計画」「学習指導案」を計画・立案することができる。3. 教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。4. 協働学習に主体的に参加し、積極的にグループに貢献できる。

### <授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・Google Classroomを用いた質疑応答） 2. 協働的活動（個人・ペア・グループワーク） 3. 模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む） 4. 省察活動（まとめと振り返り）

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（授業改善に向けた小グループでの討議や省察活動における全体での協議会の実施など、協働的な学習活動を取り入れる。）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：自分が担当する領域・種目に該当する学習指導要領の記載内容を熟読し、書籍や論文から必用な情報を集めてくる。（毎回、2時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回、1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

筆記テスト 20%、 レポート 20%、 指導案20%、 模擬授業20%、 教師として授業に臨む態度20%で総合的に評価する。マイクロティーチングでは受講態度も評価対象とする。とりわけ協働的活動における積極性・貢献度を重視して評価する。指導案は、多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。

### <教科書>

文部科学省（平成29年7月） 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編 東山書房  
文部科学省（平成30年7月） 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編・体育編 東山書房  
大修館書店 現代高等保健体育 大修館書店

### <参考書>

岡出美則他（2021） 体育科教育学入門 大修館書店

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方自身の体験から保健体育科の捉え方を問い直す。保健体育科指導法Ⅱのふりかえり、保健体育教師として必要な資質・能力について
2	保健体育授業の目標をどのように描くのか	①中学校、高等学校保健体育が目指す中心的テーマは何か②体育の学習目標の構造
3	保健体育の授業づくりの過程を考える	①保健体育の年間計画について②単元構想と教材づくり③単元展開の具体化
4	体育授業の学習指導、球技（ベースボール型、ネット型）①（ここからクラス全体を半分に分けて、球技：ベースボール型と球技ネット型をそれぞれ実施）	教師の4大行動、球技（ベースボール型）、球技（ネット型）構造的特性や授業方法の具体、模擬授業①
5	教材研究、球技（ベースボール型、ネット型）②	教材の選定と作成、球技（ベースボール型、ネット型）の模擬授業②
6	授業づくり、球技（ゴール型）・ダンス①	球技（ゴール型）・ダンスの構造的特性と授業方法
7	授業実践、球技（ゴール型）・ダンス②	球技（ゴール型）・ダンスの模擬授業
8	教材研究、球技（ベースボール型、ネット型）	球技（ベースボール型）・球技（ネット型）の構造的特性や授業方法

9	型) ① (半分に分けたグループを交代) 球技 (ベースボール型) ・球技 (ネット) ②	球技 (ベースボール型) ・球技 (ネット型) の模擬授業
10	球技 (ゴール型) ・ダンス①	球技 (ゴール型) ・ダンスの構造的特性と授業方法
11	球技 (ゴール型) ・ダンス②	球技 (ゴール型) ・ダンスの模擬授業
12	リフレクション、筆記テスト (ここからク ラス全体で授業に戻る)	リフレクションの理解、ここまでの授業のリフレクション、筆記テスト (教員採用試 験の過去問から)
13	保健①	保健の概要や意義、授業方法について
14	保健②	保健の模擬授業
15	まとめ、筆記テストの再テスト	よい授業に向けて保健体育教師に求められるもの、筆記テストの再テスト
16		

科目コード	38300				区 分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅲ(発展) [PP]				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目は、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰ及びⅡの基本的かつ実践的な知見をもとに、保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって、本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」且つ「保健体育科指導法Ⅱ（応用）」を習得している者に限る。

### <授業の到達目標>

1. 学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し、教材を開発・作成することができる。2. 保健体育科の授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案し、授業実践することができる。3. 教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。4. 協働学習に主体的に参加し、積極的にグループに貢献できる。

### <授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・Google form を用いた課題遂行）2. 協働的活動（個人・ペア・グループワーク）3. 模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む）4. 省察活動（まとめと振り返り）

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有指導案作成や各種目の特性に対するグループワークを実施します。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：学習指導要領に示されている領域・種目に関する内容を熟読し、保健体育授業における指導案や授業方法、教材・教具などについて、書籍や論文から必用な情報を集める。（1時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回、1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 20%, 受講態度10%, レポート（含指導案）40%, 模擬授業 30%で総合的に評価する。受講態度は模擬授業における評価対象とするが、とりわけ日頃の協働的活動における積極性・貢献度を重視して評価する。指導案は、多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。課題の内容については、主にフィードバックを中心に行い、学習理解度を図る。

### <教科書>

文部科学省（平成29年7月） 中学校学習指導要領解説 保健体育編 東山書房  
文部科学省（平成30年7月） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 東山書房  
衛藤 隆、友添 秀則 ほか（2022年3月20日） 現代高等保健体育 大修館書店

### <参考書>

岡出美則他（2021） 体育科教育学入門 大修館書店  
杉山重利・高橋健夫・園山和夫（2009） 保健体育科教育法 大修館書店

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	①授業の概要と進め方について②保健体育科の授業の在り方について考え、分析する。
2	体育授業におけるマネジメント	授業における場面指導について
3	単元計画の意義と構成について	単元計画の内容を調査し、意義を見つける
4	単元計画を作成する	単元計画について解説する
5	運動領域の特性について①	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
6	模擬授業実践	球技に関する模擬授業を実践する
7	運動領域の特性について②	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
8	模擬授業実践	模擬授業を実践する
9	運動領域の特性について③	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
10	模擬授業実践	模擬授業を実践する
11	運動領域の特性について④	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
12	模擬授業実践	模擬授業を実践する
13	保健の特性について	学習指導要領に示されている保健領域の特性に触れる

14	模擬授業を実践する	保健の模擬授業を実践する
15	まとめ・振り返り	よい授業に向けて保健体育教師に求められるもの
16		

科目コード	38301				区 分	コア			
授業 科目名	保健体育科指導法Ⅳ(実践) [PP]				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

保健体育科教育指導法Ⅳでは、保健体育科指導法Ⅰ～Ⅲで学習した内容や教育実習での体験を下に、「学校と地域のかかわり方」や「より効果的な学校体育授業を進めることができるか」を探究していく。主に主体的な学習及び発表に焦点化した講義を行い、地域社会と学校が連携し、安全と健全な学び環境を構築するための知識を身に付ける。特に警察、消防、企業との連携に焦点を当て、地域と学校や保健体育授業のパートナーシップを築くための方法や重要性について学習する。

#### <授業の到達目標>

(1) 地域と学校との連携に関する理解を深め、安全で健全な学び環境を構築するための重要な役割を理解している。(2) 効果的な教授技術のあり方について基本的な考え方を理解している。(3) 学校や保健体育のニーズを理解し、自己の役割やかかわり方を見出し、将来に向けて行動することができる。(4) 模擬授業・講座を通して実践的指導力形成のあり方について理解する。

#### <授業の方法>

模擬授業や教育実習での課題と成果についてグループワークを通して明らかにする。また、それらの課題解決に向けた授業づくり、特に地域と学校との連携において必要なことの理解を通して授業立案・実施・反省を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有地域と学校（保健体育）の関わりに対するグループワーク及びディスカッションを実施します。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・復習：授業時間内に提示された課題を次時の授業までに解決し、不明な点などを明らかにしておく。授業時間に配布された資料および提示された参考図書・参考資料に目を通して授業の理解を深める。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席率：20％ 提出物：20％、プレゼンテーション：30％、模擬授業：30％

#### <教科書>

#### <参考書>

高橋健夫 編著（2021） 「三訂版 体育科教育学入門」 大修館書店  
文部科学省（2017） 「中学校学習指導要領解説保健体育編」 東山書房

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業内容の説明・模擬授業・教育実習の成果と課題の検討	心がまえと準備、グルーピング、模擬授業・教育実習の成果 と課題の検討
2	教育実習の成果と課題を生かした地域連携について	教育実習の成果と課題をまとめ、自己の進路から学校との連携を考える
3	課題解決に向けた授業づくり①	地域と学校とのつながりについて調査する①
4	課題解決に向けた授業づくり②	地域と学校とのつながりについて調査する②
5	グループ発表	保健体育授業として関われる内容に関する発表
6	模擬授業の準備①	役割分担、授業内容の決定
7	模擬授業の準備②	模擬授業の指導案づくり
8	模擬授業の準備③	授業の実施、評価、分析の説明
9	模擬授業①	授業の実施、評価、分析（１）
10	模擬授業②	授業の実施、評価、分析（２）
11	模擬授業③	授業の実施、評価、分析（３）
12	模擬授業④	授業の実施、評価、分析（４）
13	模擬授業⑤	授業の実施、評価、分析（５）
14	模擬授業⑥	授業の実施、評価、分析（６）
15	模擬授業②の反省と授業のまとめ	模擬授業をデータから振り返る、授業のまとめ
16		

科目コード	38301				区 分	コア			
授業 科目名	保健体育科指導法Ⅳ(実践) [PP+他学科]				担当者名	清田 美紀			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

保健体育科教育指導法Ⅳでは、保健体育科指導法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの模擬授業や教育実習等の体験をもとに、「さらにどうすればよりよい体育授業を進めることができるか」を探究していく。特に、保健と体育の関係性を生かした具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成する。また、保健体育における実践研究の動向を知り、教育課題に対応した授業設計に取り組む。

### <授業の到達目標>

(1) 体育と保健の関係性を生かした具体的な「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案することができる。(2) 保健体育における実践研究の動向を知り、教育課題に対応した授業設計に取り組むことができる。(3) 保健体育科の教師として授業を行うことの自覚と責任、求められる実践的指導力を身に付けることができる。(4) 協働的にグループ活動に貢献するとともに、自分の意見を持ち、主体的に活動に参加することができる。

### <授業の方法>

模擬授業やグループワークを行う。実践研究の動向に関する授業設計については、情報収集－整理－まとめを個人及びグループで行うとともに、まとめたことをプレゼンテーション方式で発表する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有(現代の教育課題について、小グループで討論したり、調査し、まとめたことをポスター発表したりなどの学習活動を行う。)

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・復習：授業時間内に提示された課題を次時の授業までに解決し、不明な点などを明らかにしておく。授業時間に配布された資料および提示された参考図書・参考資料に目を通して授業の理解を深める。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

知識的領域：30% 授業で取り上げる内容の理解及びその理解に基づいて、自身の考えをまとめること。また、実践研究の動向に関する授業設計について、テーマを設定し、情報収集－整理－まとめをしていくこと。指導案や発表資料による。態度的領域：30% 積極的な学習参加(出席状況)や教師として授業に臨む態度、活動への主体的な参加姿勢による。技能的領域：40% 学習した知識を用いて対応していくスキルを中心に評価する。模擬授業や発表時。

### <教科書>

文部科学省(平成29年7月) 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編 東山書房  
 文部科学省(平成30年7月) 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育 体育編 東山書房  
 大修館書店(令和4年) 現代高等保健体育 大修館書店

### <参考書>

岡出美則、友添秀則、岩田靖 編著 体育科教育学入門[三訂版] 大修館書店

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	保健体育科指導法Ⅲの振り返り、授業内容の説明、保健体育科授業を取り巻く現状とその課題
2	保健体育授業が目指すものは何か	①体育の考え方はどう変わってきたか②保健体育授業の目標をどのように描くのか
3	体育と保健の関連性を生かした授業づくり	①単元目標に対応した具体的な指導内容の想定と教材構成②有機的な教材配列と学習のみちすじ③生徒の学習状況の確認と改善を図るための学習評価
4	グループ別ワーク①	教材研究・授業内容の具体の検討
5	グループワーク②	発表資料の作成
6	プレゼンテーション(全体)	グループごとに発表を行う
7	模擬授業①	体育と保健を関連させた授業について立案した内容に関する授業の分析、授業計画の作成①
8	体育と保健を関連させた授業について立案した内容に関する授業の分析、授業計画の作成②	体育と保健を関連させた授業について立案した内容の発表(グループセッション)

9	これからの保健体育の在り方について考える	保健体育における実践研究の動向を知り、教育課題に対応した実践の在り方について考える
10	テーマ別グループ活動①	①保健体育授業を取り巻く教育課題からテーマを設定し、その課題解決に向けた方法について話し合う ②課題解決に向け、話し合った方法をもとに、授業を設計する
11	テーマ別グループ活動②	①課題解決に向け、話し合った方法をもとに、授業を設計する②立案した計画に基づき、実践（模擬授業等）する
12	テーマ別グループ活動③	①立案した計画に基づき、実践（模擬授業等）する②実践した内容の分析、まとめ
13	テーマ別グループ活動④	発表資料の作成
14	内容報告会①	グループごとに作成した資料にもとづき、発表する
15	内容報告会②と授業のまとめ	①グループごとに作成した資料にもとづき、発表する②授業のまとめ
16		

科目コード	38301				区 分	コア			
授業 科目名	保健体育科指導法Ⅳ(実践) [PP+他学科]				担当者名	清田 美紀			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

保健体育科教育指導法Ⅳでは、保健体育科指導法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの模擬授業や教育実習等の体験をもとに、「さらにどうすればよりよい体育授業を進めることができるか」を探究していく。特に、保健と体育の関係性を生かした具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成する。また、保健体育における実践研究の動向を知り、教育課題に対応した授業設計に取り組む。

#### <授業の到達目標>

(1) 体育と保健の関係性を生かした具体的な「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案することができる。(2) 保健体育における実践研究の動向を知り、教育課題に対応した授業設計に取り組むことができる。(3) 保健体育科の教師として授業を行うことの自覚と責任、求められる実践的指導力を身に付けることができる。(4) 協働的にグループ活動に貢献するとともに、自分の意見を持ち、主体的に活動に参加することができる。

#### <授業の方法>

模擬授業やグループワークを行う。実践研究の動向に関する授業設計については、情報収集－整理－まとめを個人及びグループで行うとともに、まとめたことをプレゼンテーション方式で発表する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有(現代の教育課題について、改善策を討議したり、今後の教育の方向性について、検討したりするなど、協働的な学習活動を取り入れる。ポスター発表など、調査したことを他者に発信し、自己の考えを他者と協議したりする活動を取り入れる。)

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・復習：授業時間内に提示された課題を次時の授業までに解決し、不明な点などを明らかにしておく。授業時間に配布された資料および提示された参考図書・参考資料に目を通して授業の理解を深める。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

知識的領域：30% 授業で取り上げる内容の理解及びその理解に基づいて、自身の考えをまとめること。また、実践研究の動向に関する授業設計について、テーマを設定し、情報収集－整理－まとめをしていくこと。指導案や発表資料による。態度的領域：30% 積極的な学習参加(出席状況)や教師として授業に臨む態度、活動への主体的な参加姿勢による。技能的領域：40% 学習した知識を用いて対応していくスキルを中心に評価する。模擬授業や発表時。

#### <教科書>

文部科学省(平成29年7月) 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編 東山書房  
文部科学省(平成30年7月) 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育 体育編 東山書房  
大修館書店(令和4年) 現代高等保健体育 大修館書店

#### <参考書>

岡出美則、友添秀則、岩田靖 編著 体育科教育学入門[三訂版] 大修館書店

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	保健体育科指導法Ⅲの振り返り、授業内容の説明、保健体育科授業を取り巻く現状とその課題
2	保健体育授業が目指すものは何か	①体育の考え方はどう変わってきたか②保健体育授業の目標をどのように描くのか
3	体育と保健の関連性を生かした授業づくり	①単元目標に対応した具体的な指導内容の想定と教材構成②有機的な教材配列と学習のみちすじ③生徒の学習状況の確認と改善を図るための学習評価
4	グループ別ワーク①	教材研究・授業内容の具体の検討
5	グループワーク②	発表資料の作成
6	プレゼンテーション(全体)	グループごとに発表を行う
7	体育と保健を関連させた授業について立案した内容に関する分析、調査①	体育と保健を関連させた授業について立案した内容に関する分析、調査②
8	体育と保健を関連させた授業について立案した内容に関する分析、調査③	体育と保健を関連させた授業について立案した内容に関するまとめ、グループ討議

9	これからの保健体育の在り方について考える	保健体育における実践研究の動向を知り、教育課題に対応した実践の在り方について考える
10	テーマ別グループ活動①	①保健体育授業を取り巻く教育課題からテーマを設定し、その課題解決に向けた方法について話し合う ②課題解決に向け、話し合った方法をもとに、授業を設計する
11	テーマ別グループ活動②	①課題解決に向け、話し合った方法をもとに、授業を設計する②立案した計画に基づき、実践（模擬授業等）する
12	テーマ別グループ活動③	①立案した計画に基づき、実践（模擬授業等）する②実践した内容の分析、まとめ
13	テーマ別グループ活動④	発表資料の作成
14	内容報告会①	グループごとに作成した資料にもとづき、発表する
15	内容報告会②と授業のまとめ	①グループごとに作成した資料にもとづき、発表する②授業のまとめ
16		

科目コード	38400				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツのリスクマネジメント				担当者名	品田 直宏／佐々木 史之／三浦 孝仁／大井理緒／仙波 慎平／片桐 夏海／田中 耕作／國友 亮佑／佐藤 伸之／坂本 康輔／保科 圭汰／浦 佑大／十河 直太			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

スポーツの大衆化と高度化の進展に伴い、スポーツ活動が活発となり隆盛をみるにつれ、いわゆるスポーツ事故もまた 増加傾向を示し、さらに近年の国民の権利意識の高まりと共に事故責任の追及も厳しくなっている。本講義においてスポーツ活動のいわば副産物たるスポーツ事故の近年の傾向を把握し、事故の原因や事故対策について考察し、有効な事故防止策について理解する。また各競技種目の事故例をあげ、詳しく講述する。

#### <授業の到達目標>

学校体育・部活動や競技スポーツ、フィットネスジムなど様々なスポーツ現場で遭遇しうる事故等の危機管理に必要な基礎知識の習得が目標である。これまでスポーツにおけるリスクマネジメントは法学の分野で考察されることが多かったが、本授業ではそれに加え各競技や現場で起こる事例について扱うため、それぞれの分野での理解を求める。

#### <授業の方法>

授業は教科書を利用した対面の講義形式およびオンデマンドで実施し、課題はGoogle Classroomを用いて管理をする。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習 教科書を参考の上、毎時間課される授業課題について1時間程度実施することが望ましい。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業毎の小テスト・レポート30%、期末試験70%

#### <教科書>

環太平洋大学体育学部 編（2023/2/14） 体育授業のリスクマネジメント実践ハンドブック 大修館書店

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	リスクマネジメントの概要	体育授業におけるリスクマネジメントとはどのようなものか、概要について学ぶ
2	体づくり運動におけるリスクマネジメント	体づくり運動におけるリスクマネジメントについて理解を深める
3	器械運動におけるリスクマネジメント	器械運動におけるリスクマネジメントについて理解を深める
4	陸上競技におけるリスクマネジメント	陸上競技におけるリスクマネジメントについて理解を深める
5	水泳競技におけるリスクマネジメント	水泳競技におけるリスクマネジメントについて理解を深める
6	球技スポーツ「ゴール型」におけるリスクマネジメント	球技スポーツ「ゴール型」におけるリスクマネジメントについて理解を深める
7	球技スポーツ「ネット型」におけるリスクマネジメント	球技スポーツ「ネット型」におけるリスクマネジメントについて理解を深める
8	球技スポーツ「ベースボール型」におけるリスクマネジメント	球技スポーツ「ベースボール型」におけるリスクマネジメントについて理解を深める
9	柔道におけるリスクマネジメント	柔道におけるリスクマネジメントについて理解を深める
10	剣道におけるリスクマネジメント	剣道におけるリスクマネジメントについて理解を深める
11	ダンスにおけるリスクマネジメント	ダンスにおけるリスクマネジメントについて理解を深める
12	野外活動におけるリスクマネジメント	野外活動におけるリスクマネジメントについて理解を深める
13	スノースポーツにおけるリスクマネジメント	スノースポーツにおけるリスクマネジメントについて理解を深める
14	マリンスポーツにおけるリスクマネジメント	マリンスポーツにおけるリスクマネジメントについて理解を深める

15	ント	
16	体育行事におけるリスクマネジメント	体育行事におけるリスクマネジメントについて理解を深める

科目コード	38401				区 分	コア科目			
授業科目名	武道指導論〔柔道〕				担当者名	矢野 智彦／堀川 峻			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業の目的は、武道（柔道）の実践者・指導者としての専門性を高めることである。柔道は、日本古来の伝統文化であり、柔術から生まれ、戦う方法であった柔術を、嘉納治五郎が、単に技術を身につけるだけにとどまらず、その練習を通して、人の生き方・生きる道を示し、人間形成を目指すものに昇華させたのである。武道の専門家として、武道実践する心構え、武道の本質、歴史、あるべき姿、武道教育の役割について学び、学修成果として、それを実践できる、論じ合える、追求することができるようになることを目的とする。 ※武道（柔道・剣道）の専門的知識のため、選択者は武道専攻学生のみとする。

### <授業の到達目標>

1. 武道（柔道）の理念、歴史や特性、礼法的重要性を学び、武道とは何か、また現代における武道のあるべき姿をディスカッションすることが出来る。2. 武道の専門家として、自分の課題を発見し、意識して課題に取り組むことができる。3. 武道教育の役割についてその重要性を学び、武道理論を持った指導者として指導・実践できる力を身に付ける。

### <授業の方法>

1. 前回の復習（小テスト、口頭諮問） 2. 今回の内容説明（講義、ワークシート） 3. 今回の内容についての意見交換及びディスカッション 4. 事後課題に取り組む

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

嘉納治五郎師範の「精力善用」「自他共栄」などの教えに基づき、受講生同士で考え方や指導法を分析・議論し、互いに高め合う「ペアワーク」や「グループディスカッション」を通じて主体的な学びと指導力を養う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に、本時の内容に関する全日本柔道連盟、全日本剣道連盟のHP、また、柔道に関する書籍を読んでおくこと。（1時間程度）  
復習：事後課題の完成、グループワークの場合はレポートを作成する。（30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 70%、レポート30%

### <教科書>

特になし

### <参考書>

宮本武蔵（神子侃 訳）1982 五輪書 徳間書店

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	武道とは何か、武道教育はなぜ必要か（武道教育のはたす役割）等、武道指導論で取り扱う内容について説明し、授業の進め方、ルール（遅刻、欠席、公欠等）について確認する。
2	柔道の歴史	柔道の歴史について学ぶ
3	柔道の国際化①	柔道は何故世界に受け入れられたか
4	柔道の国際化②	海外における柔道指導の現状と問題点
5	柔道の指導法①	現代社会が求める柔道指導者とは
6	柔道の指導法②	中学校における教科体育の柔道指導の在り方
7	柔道の指導法③	高等学校における教科教育の柔道指導の在り方
8	柔道の指導法④	柔道の競技化と強化策
9	剣道の歴史	剣道の歴史について学習する。（平安時代～現代）
10	剣道の目的、剣道理念	全日本剣道連盟が定める、剣道の目的、剣道理念について学習する。
11	学校現場（中学校・高等学校）における剣道授業、剣道部活動指導	中学校・高等学校学習指導要領保健体育編を参考に進める。
12	宮本武蔵著「五輪書」（1）	「五輪書」の「序の巻」、「地の巻」について学習する。
13	宮本武蔵著、「五輪書」（2）	「五輪書」の「水の巻」、「火の巻」について学習する。
14	宮本武蔵著「五輪書」（3）	「五輪書」の「風の巻」、「空の巻」について学習する。
15	武道指導の総括	これまでの授業の総括として、日本の伝統文化としての武道とは何か、武道教育の役割とは何かについて議論する。
16		

科目コード	38401				区 分	コア科目			
授業 科目名	武道指導論〔剣道〕				担当者名	堀川 峻／矢野 智彦			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業の目的は、武道（柔道・剣道）の実践者・指導者としての専門性を高めることである。柔道・剣道は、日本古来の伝統文化であり、武士の生業であった武術・武芸から、明治時代以降に嘉納治五郎（柔）や内藤高治・高野佐三郎ら（剣）が、現代に通ずる柔道・剣道に変容させたものである。武道の専門家として、武道実践する心構え、武道の本質、歴史、あるべき姿、武道教育の役割について学び、学修成果として、それを実践できる、論じ合える、追求することができるようになることを目的とする。 ※武道（柔道・剣道）の専門的知識のため、選択者は武道専攻学生のみとする。

### <授業の到達目標>

1. 武道（柔道・剣道）の理念、歴史や特性、礼法の重要性を学び、武道とは何か、また現代における武道のあるべき姿をディスカッションすることが出来る。2. 武道の専門家として、自分の課題を発見し、意識して課題に取り組むことができる。3. 武道教育の役割についてその重要性を学び、武道理論を持った指導者として指導・実践できる力を身に付ける。

### <授業の方法>

1. 前回の復習（小テスト、口頭諮問） 2. 今回の内容説明（講義、ワークシート） 3. 今回の内容についての意見交換及びディスカッション 4. 事後課題に取り組む ※柔道専門の選択者は柔道実技（形）、剣道専門の選択者は剣道実技（形）を数時間実施する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング有適宜、グループでの議論を通して、武道の指導に関する学びを深める。

### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に、本時の内容に関する全日本柔道連盟、全日本剣道連盟のHP、また、柔道及び剣道に関する書籍を読んでおくこと。（1時間程度） 復習：事後課題の完成、グループワークの場合はレポートを作成する。（30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、レポート50%、実技試験（柔道、剣道）20%

### <教科書>

特になし

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	武道とは何か、武道指導論で取り扱う内容について説明し、授業の進め方、ルール（遅刻、欠席、公欠等）について確認する。
2	剣道の歴史①	武器の発生と武術について
3	剣道の歴史②	刀術の芽生えについて
4	剣道の歴史③	剣術の発達について
5	剣道の歴史④	流派の成立と伝承
6	剣道の歴史⑤	近世剣術の成立
7	剣道の歴史⑥	しない稽古の発達と新流の台頭
8	剣道の歴史⑦	近代剣道の形成
9	剣道の歴史⑧	現代剣道の成立
10	「稽古」論	武道に特徴的な「稽古」の考え方について学ぶ。
11	学校現場（中学校・高等学校）における剣道授業、剣道部活動指導	中学校・高等学校学習指導要領保健体育編を参考に、剣道授業の方法を考える。
12	武道とスポーツについて	武道とスポーツの歴史を比較して、その共通性や相違性について考える。
13	武士道の思想について	武道と深くかかわる武士道の思想について、考察する。
14	武道の宗教性について	武道と深くかかわってきた宗教について学ぶ。
15	武道指導の総括	これまでの授業の総括として、日本の伝統文化としての武道とは何か、武道教育の役割とは何かについて議論する。
16		

科目コード	38402				区 分	コア			
授業 科目名	武道指導演習Ⅰ（基礎）				担当者名	大井 理緒			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

近年の公務員試験（警察等）や教員採用試験では、地方自治体によっては、剣道や柔道の段位を有することが試験で加点される場合がある。「剣道Ⅰ（基礎）」、「剣道Ⅱ（応用）」では、特に学校現場での「剣道授業」が円滑に実施できるようになることが授業目標であったが、武道指導演習Ⅰ（基礎）では、それらの授業で学習した基本動作・応用動作を定着させ、木刀による基本技稽古法や日本剣道形を学習し、実際に、剣道の級位取得、剣道の段位取得を目指すことを目標としている。

#### <授業の到達目標>

・剣道の段級位審査合格に必要な礼法、着付け、実技（切り返し、基本動作、互角稽古）、木刀による基本技稽古法（1本目～9本目）、日本剣道形（1本目～3本目）を修得する。・剣道の級位審査の1級合格、または段位審査初段合格（1級を所持している者）を取得する。

#### <授業の方法>

・一斉指導で、級位段位審査に必要な剣道理論と剣道実技、剣道形を平行して実施していく。・技練習や形練習においては、有段者をリーダーとして、グループ別学習も取り入れる。剣道形（木刀による剣道基本技稽古法、日本剣道形）の示範動画を見ながら、各自の問題点や課題点を話し合い、修正していくアクティブラーニングを取り入れる。・動画を視聴する事前学習にはClassRoomを活用する。また、基本打ち、互角稽古の様子を撮影し、自分の稽古風景を振り返り、自己評価、教員による評価を実施する。・選択人数上限20人

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：グループワーク（グループに分かれて剣道授業における指導法について意見をまとめ発表する）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・剣道Ⅰ（基礎）及び、剣道Ⅱ（応用）の復習・全日本剣道連盟HP「剣道を知る」の熟読（1時間程度）・木刀による剣道基本技稽古法（ネット動画）の視聴・日本剣道形（ネット動画）の視聴

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 50%、授業内試験 50%（剣道理論テスト 20%、実技試験 30%）

#### <教科書>

#### <参考書>

平成24年（2012）4月全日本剣道連盟 剣道・居合道・杖道称号・段級位審査規則称号・段級位審査細則 全日本剣道連盟

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション本授業の目的、授業概要	本授業の目的、授業概要、進め方、準備物（剣道着・袴）の説明をする。
2	剣道Ⅰ・Ⅱの復習①	礼法（正座、座礼、立礼）、竹刀の名称と構造、姿勢、構えと目付、構え方、納め方、素振り
3	剣道Ⅰ・Ⅱの復習②	礼法（正座、座礼、立礼）、素振り、足さばき（送り足、踏み込み足）
4	剣道Ⅰ・Ⅱの復習③	剣道具の装着（胴・垂れ・面・小手）、剣道具の外し方、剣道具の収納の仕方
5	剣道の基本動作	正面打ち・左右面打ち・切り返しの練習正面・左右面の打たせ方、受け方
6	剣道の基本動作	面打ち・小手打ち・胴打ちの練習面打ち・小手打ち・胴打ちの打たせ方・受け方
7	しかけ技の練習互角稽古	二段の技（小手一面、面一面）払い技（払い面、払い小手）二段の技、払い技の打たせ方、受け方
8	しかけ技の練習互角稽古	引き技（引き面、引き胴、引き小手）出ばな技（出ばな面、出ばな小手）引き技、出ばな技の打たせ方、受け方
9	応じ技の練習互角稽古	抜き技（面抜き胴、小手抜き面）すり上げ技（小手すり上げ面、面すり上げ面）抜き技、すり上げ技の打たせ方、受け方
10	応じ技の練習互角稽古	返し技（面返し胴）打ち落とし技（胴打ち落とし面）返し技、打ち落とし技の打たせ方、受け方
11	木刀による剣道基本技稽古法日本剣道形	級受験者：木刀による剣道基本技稽古法（1本目～3本目） 段受験者：日本剣道形（1本目～3本目）
12	木刀による剣道基本技稽古法日本剣道形	級受験者：木刀による剣道基本技稽古法（4本目～6本目） 段受験者：日本剣道形（1本目～3本目）

13	木刀による剣道基本技稽古法日本剣道形	級受験者：木刀による剣道基本技稽古法（7本目～9本目） 段受験者：日本剣道形（1本目～3本目）
14	段級位審査に向けての総合練習	切り返し、互角稽古木刀による剣道基本技稽古法日本剣道形、学科試験内容について
15	段級位審査に向けての総合練習授業内の剣道実技試験、剣道学科試験	切り返し、互角稽古木刀による剣道基本技稽古法日本剣道形、学科試験内容について
16		

科目コード	38403				区 分	コア			
授業科目名	武道指導演習Ⅱ(応用)				担当者名	堀川 峻			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

近年の公務員試験（警察等）や教員採用試験では、地方自治体によっては、剣道や柔道の段位を有することが試験で加点される場合がある。剣道Ⅰ（基礎）Ⅱ（応用）では、特に学校現場での「剣道授業」が円滑に実施できるようになることが授業目標であったが、武道指導演習Ⅱ（応用）では、武道指導演習Ⅰで学習した基本技・応用技を身に付け、剣道審判法や日本剣道形も学習し、実際に剣道の段位取得（初段～三段）を目指すことを目標としている。

#### <授業の到達目標>

・剣道の段位審査合格に必要な礼法、着付け、実技（切り返し、基本動作、応用動作、互角稽古）、日本剣道形（1本目～9本目）、剣道理論（昇段審査学科問題）を学習し、修得する。・剣道の段位審査、初段～三段のいずれかの段位合格を目指す。

#### <授業の方法>

・一斉指導で、段位審査に必要な剣道理論と剣道実技、日本剣道形の学習を平行して実施していく。・動画を視聴する事前学習にはClassRoomを活用する。また、基本打ち、切り返し、互角稽古の様子を撮影し、自分の稽古風景を振り返り、自己評価、教員による評価を実施する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング有基本、応用技練習や日本剣道形の練習は、有段者をリーダーとして、グループ別学習も取り入れる。日本剣道形の示範動画を見ながら、各自の問題点や課題点を話し合い、修正していくアクティブラーニングを取り入れる。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・剣道Ⅰ（基礎）及び、剣道Ⅱ（応用）、武道指導演習Ⅰの復習・全日本剣道連盟HP「剣道を知る」の熟読・日本剣道形（ネット動画）の視聴

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%（出欠含む）、剣道理論テスト20%、実技試験20%、剣道段位審査会の結果10%

#### <教科書>

#### <参考書>

平成24年（2012）4月全日本剣道連盟 剣道・居合道・杖道称号・段級位審査規則称号・段級位審査細則 全日本剣道連盟  
昭和56年（1981）全日本剣道連盟 日本剣道形解説書 全日本剣道連盟  
平成17年8月全日本剣道連盟 剣道学科審査の問題例と解答例（初段～五段） 全日本剣道連盟

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション本授業の目的、授業概要	本授業の目的、授業概要、進め方、準備物（剣道着・袴）の説明をする。
2	武道指導演習Ⅰの復習①	礼法（正座、座礼、立礼）、竹刀の名称と構造、姿勢、構えと目付、構え方、納め方、素振り
3	武道指導演習Ⅰの復習②	礼法（正座、座礼、立礼）、素振り、足さばき（送り足、踏み込み足）
4	武道指導演習Ⅰの復習③	剣道具の装着（胴・垂れ・面・小手）、剣道具の外し方、剣道具の収納の仕方
5	剣道の基本動作	正面打ち・左右面打ち・切り返しの練習正面・左右面の打たせ方、受け方
6	剣道の基本動作	面打ち・小手打ち・胴打ちの練習面打ち・小手打ち・胴打ちの打たせ方・受け方
7	しかけ技の練習互角稽古	二段の技（小手一面、面一胴、面一面）払い技（払い面、払い小手）二段の技、払い技の打たせ方、受け方
8	しかけ技の練習互角稽古	引き技（引き面、引き胴、引き小手）出ばな技（出ばな面、出ばな小手）引き技、出ばな技の打たせ方、受け方
9	応じ技の練習互角稽古	抜き技（面抜き胴、小手抜き面）すり上げ技（小手すり上げ面、面すり上げ面）抜き技、すり上げ技の打たせ方、受け方
10	応じ技の練習互角稽古	返し技（面返し胴）打ち落とし技（胴打ち落とし面）返し技、打ち落とし技の打たせ方、受け方
11	日本剣道形（1本目～3本目）	日本剣道形（1本目～3本目）打太刀、仕太刀両方1本目～3本目までの理合の理解
12	日本剣道形（4本目～5本目）	日本剣道形（4本目～5本目）打太刀、仕太刀両方4本目～5本目の理合の理解
13	日本剣道形（6本目～7本目）	日本剣道形（6本目～7本目）打太刀、仕太刀両方6本目～7本目の理合の理解
14	昇段審査に向けての総合練習	基本技練習、互角稽古日本剣道形、学科試験対策について

15	昇段審査に向けての総合練習授業内実技試験、剣道学科試験	基本技練習、互角稽古日本剣道形、学科試験対策について
16		

科目コード	39106				区 分	専門基礎			
授業科目名	日本語教育概論 I				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

#### <授業の概要>

近年、日本語教育の現場と日本語学習者の多様化は著しく進んでおり、日本語教師には幅広い知識と、その知識をもとにそれぞれの現場に柔軟に対応する力が求められる。授業では、日本語教師の資質、国内と海外の日本語教育の現状、世界と日本の社会や文化など、日本語教育を取り巻く様々な情報を資料やデータに基づいて概説する。また、講義内容をもとに各自が調べ、発表することにより、理解を深める。なお、本科目は日本語教員養成のための科目である。その他の日本語教員養成科目と合わせて履修すること。

#### <授業の到達目標>

到達目標は以下の3点である。1. 日本語教育を取り巻く様々な情報を整理し、全体像を把握する。2. 日本語教師に求められる資質について考え、日本語教師になる心構えを作る。3. 日本語教師になるために大学生活をどう過ごし、いつ何をすべきかについて考える。

#### <授業の方法>

基本的にハンドアウトを用いて講義形式で行うが、適宜グループ討議や学生によるプレゼンテーションなど、学生主体の活動を取り入れる。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

適宜グループやクラスでのディスカッション、発表を実施する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、各テーマについて事前にテキストを読むなどして知識を得ておく（約30分）。授業後は、授業内で出された課題について調べ、まとめる（約60分）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲20%，課題提出60%，試験20%プレゼンテーションのフィードバックは授業内で行う。期末課題についてはGoogle Classroomでフィードバックする。

#### <教科書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版 翔泳社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション日本語教育の概況	授業の概要と評価方法
2	日本国内の日本語教育事情（1）	日本の留学生施策
3	日本国内の日本語教育事情（2）	多様化する日本語学習者
4	日本国内の日本語教育事情（3）	学生による調査発表：日本語教師とは（1）
5	日本国内の日本語教育事情（4）	学生による調査発表：日本語教師とは（2）
6	海外の日本語教育事情（1）	アジアの日本語教育事情
7	海外の日本語教育事情（2）	ヨーロッパ、南北アメリカ、その他の地域の日本語教育事情
8	海外の日本語教育事情（3）	学生による調査発表：海外の日本語教育調査（1）
9	海外の日本語教育事情（4）	学生による調査発表：海外の日本語教育調査（2）
10	世界事情（1）	世界の社会と文化（1）
11	世界事情（2）	世界の社会と文化（2）
12	日本事情（1）	日本の社会と文化（1）
13	日本事情（2）	日本の社会と文化（2）
14	日本語試験のいろいろ（1）	日本語能力試験，BJT日本語ビジネステスト，J.TEST
15	日本語試験のいろいろ（2）	日本留学試験，OPI
16		

科目コード	39107				区 分	専門基礎			
授業科目名	日本語教育概論Ⅱ				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

#### <授業の概要>

近年、日本語教育の現場と日本語学習者の多様化は著しく進んでおり、日本語教師には幅広い知識と、その知識をもとにそれぞれの現場に柔軟に対応する力が求められる。授業では、国内と海外の日本語教育の現状、世界と日本の社会や文化など、日本語教育を取り巻く様々な情報を資料やデータに基づいて概説する。また、講義内容をもとに各自が調べ、発表することにより、理解を深める。

#### <授業の到達目標>

到達目標は以下の3点である。1. 日本語教育を取り巻く様々な情報を整理し、全体像を把握する。2. 日本語教師に求められる資質について考え、日本語教師になる心構えを作る。3. 日本語教師になるために大学生活をどう過ごし、いつ何をすべきかについて考える。

#### <授業の方法>

基本的にハンドアウトを用いて講義形式で行うが、適宜グループ討議や学生によるプレゼンテーションなど、学生主体の活動を取り入れる。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

適宜グループ発表やプレゼンテーションなどの活動を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、各テーマについて事前にテキストを読むなどして知識を得ておく（約30分）。授業後は、授業内で出された課題について調べ、まとめる（約60分）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加態度40%，課題提出30%，中間・期末課題または発表20%，まとめテスト10% ※まとめテストは14回目に実施する。フィードバックは授業内で行う。期末課題についてはGoogle Classroomでフィードバックする。

#### <教科書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版 翔泳社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション日本語教育の概況	授業の概要と評価方法授業の概要と評価方法日本語学習者とは？日本語教師とは？ 国語教育や英語教育との違い
2	日本語教師の資質	日本語教育施策にみられる「日本語教師の資質」とは
3	日本語教師として働くには（1）	学生による調査発表：日本語教師の仕事とは
4	日本語教師として働くには（2）	学生による調査発表：日本語教師の募集状況
5	日本語教育能力検定試験	日本語教育能力検定試験の概要と内容の変遷
6	年少者に対する日本語教育日本の外国籍住民（1）	年少者に対する日本語教育の方法や問題点
7	年少者に対する日本語教育日本の外国籍住民（2）	バイリンガリズム
8	日本語教師の役割	学習者支援学習者オートノミーの育成
9	多文化共生社会（1）	地域社会と共生
10	多文化共生社会（2）	やさしい日本語
11	日本語教育史（1）	戦前・戦中の日本語教育史（台湾、朝鮮半島、中国を中心に）
12	日本語教育史（2）	戦後の日本語教育の変遷
13	世界事情と日本事情	世界の社会と文化、日本の社会と文化
14	まとめテスト	まとめテスト
15	日本語教育関連事業日本語教師海外派遣プログラム	日本語教育関連機関青年海外協力隊、日系社会青年ボランティア、日本語パートナーズなどの各種プログラムの紹介、体験談



科目コード	39208				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	文章作成				担当者名	小宮 さおり			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本学科では、豊かな人間性を備えた、自己実現能力の育成、グローバルにもローカルにも貢献できる「グローバル人材」の養成を目指している。その目標を達成するためにはコミュニケーション能力の養成は不可欠である。本授業では、現在の社会的・政治的・文化的・学術的知識を持ち、現代社会の諸問題の創造的解決に向け、他者と協働・協力する能力の一つとして、日本語の文章によるコミュニケーション能力の育成を図る。本授業では、これまで学んできた日本語について復習し、文章作成の基礎から大学で必要とされる、レポート作成、論文作成の基礎、および、社会に出てから必要とされる文書作成の基礎を学ぶ。

### <授業の到達目標>

本授業の目標の一つは、大学生に必要とされる文章作成能力のうち、レポートの書き方を身につけ、卒業論文作成につなげることである。レポートは形式も重要であるが、客観的事実と主観的意見を書き分けなければならない。事実と意見を書き分け、意見にはその根拠となる事実を書けるようにする。二つ目の目標は、社会に出てから必要とされる文書作成能力を身につけることである。これについても形式、内容を分かりやすく、的確に伝えることができるようにする。

### <授業の方法>

最初は、文章の書き方の基礎を勉強する。続いて、テーマに沿った文章を読み、そのテーマで使われる言葉を確認する。次に、同じテーマで文章を作成する。文章を書くにあたって、文体を整えること、書き言葉を使用すること、分かりやすい構成で書くことは非常に重要である。練習を繰り返すことによって、目的にあった、分かりやすい文章が書けるようにする。毎回課題を提出させる（課題はClassroomにて提出）。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、ピアレビュー、グループライティング、ディスカッションなどのアクティブラーニングを取り入れ、学生が主体的に文章作成スキルを向上させる機会を提供する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テキストの読解部分をあらかじめ読み、分からない単語を調べておく。（30分程度）復習：課題を書く。授業中書けなかった課題は、自宅で書き、必ず提出する。（30分程度）また、授業で習った新しい言葉についても復習し、覚えてほしい。（30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 30% 授業課題 30%（授業で返却・解説） 期末課題 40%（翌週返却・解説）

### <教科書>

### <参考書>

小森万里・三井久美子著（2019年第4版） 「ここがポイント！レポート・論文を書くための日本語文法」 くろしお出版

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価の仕方の説明、文章表現とは何か説明
2	書き言葉を統一する	文章の書き方の基本 文体・形式
3	文の意味を明確にする	複文の適切な使い方
4	「こと」と「の」を使い分ける	名詞節「こと」「の」の使い分け
5	シンプルな文／語彙の使い分け	語や、節の名詞化。レポート論文でよく使う語彙の使い分け。
6	文を首尾一貫させる	文頭と、文末との呼応
7	形が似ている表現を使い分ける	助詞相当語の使いわけ
8	「は」と「が」を使い分ける	助詞と「は」と「が」の使い分け
9	書き手の視点／過去と現在のつながりを示す	他動詞・自動詞（使役形・受け身形）／ル形、タ形、テイル形、テイタ形
10	文章の中の語を指し示す	指示語「こ」と「そ」の使い分け
11	前後の関係を表す	接続詞、接続表現の使い分け
12	前の文に関係づける	「のだ文」の使い方
13	効果的に意見を述べる	意見を述べる文末表現の使い分け
14	レポート準備①	期末課題の準備
15	レポート準備②	期末課題のピアレビュー



科目コード	39210				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	総合日本語 I (基礎) [BC留学生用]				担当者名	片上 摩紀			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本科目では、専門科目を学ぶための日本語能力をより確実に、正確なものとする。文章構築能力育成のための学習活動をするとともに、本科目では、特に、プレゼンテーション能力の育成を目標に授業を進める。そのために、学習者にはいくつかの課題を与え、実際にプレゼンテーションをしてもらい、それをもとに意見交換、議論を行う。プレゼンテーションでは、相手を意識した分かりやすい発表がポイントとなる。練習を繰り返し、また他の学習者のプレゼンテーションを見ることによって能力を伸ばす。

#### <授業の到達目標>

本科目の到達目標は、調査発表のための日本語運用力を養うことである。具体的には（１）指定された分野の日本語の語彙や表現を理解し、運用できるようになること、（２）テーマ決定から調査、発表、レポート執筆までの流れを計画的に実行できるようになること、（３）相手を意識した分かりやすい発表が日本語でできるようになること、の３点である。

#### <授業の方法>

15回の授業を通じて３つのテーマを扱い、それぞれに関して、グラフや文章からの情報集めと調査発表を行う。グラフの読み取りや読解を中心に据えた授業では、ワークシートを用いて講義形式で進め、調査発表の準備はグループ毎の活動とする。各テーマの途中で、グループ内で３～５分程度のミニ・プレゼンテーションと学生間でフィードバックを行い、各テーマの最終プレゼンテーションに備える。各テーマの最終プレゼンテーションでも学生間で相互評価を行う。アイス・ブレイキングや読解の理解促進、及び調査発表のために２～４名のグループを作

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング要素有。テーマについて、グループに分かれて調査、発表準備、発表を行う。その後は、グループ間でピアフィードバックを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

語彙や読解の授業の前後には指定した箇所の新出表現の予習（表現の意味理解）と復習（記憶）が各30分～１時間程度必要である。また、調査や発表準備は、授業内でも時間をとるが、基本的には授業外で行う。発表準備の際は、発表の原稿とパワーポイントの両方について、日本語母語話者（授業担当教員を含む）による日本語チェックを行うことを必須とする。また、レポート作成は２回行うが、いずれも授業時間外での活動である。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 40%、プレゼンテーション 30%、レポート 30%プレゼンテーションのフィードバックは授業内で行う。

#### <教科書>

安藤節子・佐々木薫・赤木浩文・田口典子・鈴木孝恵 編著 トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 上級 スリーエーネットワーク

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業の概要説明、調査準備	授業概要と評価方法に関する説明、グループでの調査準備
2	食文化（１）導入とグラフの読み取り	グループディスカッションによるアイスブレイキング、語彙や表現の導入
3	食文化（２）読解１	ピア・リーディングによる大意取り
4	食文化（３）読解２、発表準備	精読、グループ内でのミニ・プレゼンテーション
5	食文化（４）調査発表	グループごとのプレゼンテーション
6	食文化（５）フィードバック仕事（１）導入	前回のフィードバック語彙や表現の導入、グループディスカッション
7	仕事（２）読解１	ピア・リーディングによる大意取り
8	仕事（３）読解２、インタビュー調査の方法	精読、インタビュー調査で用いる表現の確認、発表時のまとめ方
9	仕事（４）調査発表	グループごとのプレゼンテーション
10	仕事（５）フィードバック生活習慣と宗教（１）導入	前回のフィードバック語彙や表現の導入、グループディスカッション
11	生活習慣と宗教（２）読解１	ピア・リーディングによる大意取り

12	生活習慣と宗教 (3) 読解 2、調査準備	精読、グループでの調査準備
13	生活習慣と宗教 (4) 発表準備	グループ内でのミニ・プレゼンテーション
14	生活習慣と宗教 (5) 調査発表	グループごとのプレゼンテーション
15	まとめ	前回のフィードバック、各テーマの内容の復習、レポートの説明
16		

科目コード	39211				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	総合日本語Ⅱ(応用) [BC秋入学生用]				担当者名	片上 摩紀			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目では、専門科目を学んでいく上で必要となるであろう、ディスカッション能力とプレゼンテーション能力の養成を行う。本科目では「総合日本語Ⅱ」で学んだことをもとに、より分かりやすく魅力的なプレゼンテーションができるように学び、また練習を行う。ディスカッションについても、日本語におけるディスカッションの流れを学び、より円滑に効果的に日本語で議論を行う方法を学び、また実践を行うことによってその能力を身につける。

### <授業の到達目標>

本科目の到達目標は、協働の中でアカデミックジャパニーズスキルを養うことである。具体的には（1）指定された分野の日本語の語彙や表現を理解し、運用できるようになること、（2）テーマ決定から調査発表、ディスカッション、レポート執筆までの流れを計画的に実行できるようになること、（3）日本語での効果的な議論ができるようになること、の3点である。

### <授業の方法>

15回の授業を通じて3つのテーマを扱い、それぞれに関して、グラフや文章からの情報集めと調査発表、ディスカッションを行う。グラフの読み取りや読解を中心に据えた授業では、ワークシートを用いて、ディスカッションをしながら理解を深める。調査と発表の準備はグループ毎の活動であり、授業中に進捗状況の報告を行う。アイス・ブレーキングや読解の理解促進、及び調査発表のために2～3名のグループを作り、毎時間、グループディスカッションの時間を設ける。また、授業時間外でグループで計画的に調査と発表準備を行うことが求められる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素は有り。グループでテーマについて調査・分析・発表準備・発表を行う。その後、グループ間でピアフィードバックを実施する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

語彙や読解の授業の前には指定した箇所の新出表現の予習（表現の意味理解）と復習（記憶）が各30分～1時間程度必要である。また、調査や発表準備は、授業内でも時間をとるが、基本的には授業外で行う。発表準備の際は、発表の原稿とパワーポイントの両方について、日本語母語話者（授業担当教員を含む）による日本語チェックを行うことを必須とする。また、計3回のレポート作成はいずれも授業時間外での活動である。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題完成40%、プレゼンテーション 30%、期末課題（プレゼンテーション、15回目授業内）30%プレゼンテーションのフィードバックは授業内で行う。

### <教科書>

安藤節子・佐々木薫・赤木浩文・坂本まり子・田口典子 編著 トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 上級 改訂版 スリーエーネットワーク

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業の概要説明、食文化（1）：導入	授業概要と評価方法に関する説明、語彙と表現の導入、グラフ読み取り
2	食文化（2）：読解1、調査準備	大意とり、グループでの調査準備
3	食文化（3）：読解2、調査準備	精読、発表に関する説明
4	食文化（4）：ディスカッションに関する注意、発表の準備	グループでの発表準備、ディスカッションで用いる表現
5	食文化（5）：調査発表	発表とディスカッション
6	食文化（6）：フィードバック、レポート作成準備	前回のフィードバック、レポートの説明
7	仕事（1）：導入、調査準備	語彙と表現の導入、グラフの読み取り、調査準備
8	仕事（2）：読解1	ピア・リーディングによる大意とり
9	仕事（3）：読解2、発表準備	精読、発表準備
10	仕事（4）：調査発表	発表とディスカッション

11	仕事（５）：フィードバック。生活習慣と宗教（１）：導入、調査準備	前回のフィードバック、レポートの説明、語彙と表現の導入、調査準備
12	生活習慣と宗教（２）：読解１	グラフの読み取り、ピア・リーディングによる大意とり
13	生活習慣と宗教（３）：読解２、発表準備	精読、発表準備
14	生活習慣と宗教（４）：調査発表	発表とディスカッション
15	生活習慣と宗教（５）：フィードバック、レポート作成準備	前回のフィードバック、レポートの説明、総復習
16		

科目コード	39211				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	総合日本語Ⅱ(応用) [BC留学生用]				担当者名	小宮 さおり			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目では、専門科目を学ぶための日本語能力をより確実に、正確なものとする。文章構築能力育成のための学習活動をするとともに、本科目では、特に、プレゼンテーション能力の育成を目標に授業を進める。そのために、学習者にはいくつかの課題を与え、実際にプレゼンテーションをしてもらい、それをもとに意見交換、議論を行う。プレゼンテーションでは、相手を意識した分かりやすい発表がポイントとなる。練習を繰り返し、また他の学習者のプレゼンテーションを見ることによって能力を伸ばす。

### <授業の到達目標>

本科目の到達目標は、調査発表のための日本語運用力を養うことである。具体的には下記の3点である。(1) 指定された分野の日本語の語彙や表現を理解し、運用できるようになること (2) テーマ決定から調査、発表、レポート執筆までの流れを計画的に実行できるようになること (3) 相手を意識した分かりやすい発表が日本語でできるようになること

### <授業の方法>

15回の授業を通じて3つのテーマを扱い、それぞれに関して、グラフや文章からの情報集めと調査発表を行う。グラフの読み取りや読解を中心に据えた授業では、ワークシートを用いて講義形式で進め、調査発表の準備はグループ毎の活動とする。各テーマの途中で、グループ内で3～5分程度のミニ・プレゼンテーションと学生間でフィードバックを行い、各テーマの最終プレゼンテーションに備える。各テーマの最終プレゼンテーションでも学生間で相互評価を行う。アイス・ブレーキングや読解の理解促進、及び調査発表のために2～4名のグループを作

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ内でのディスカッションやプレゼンテーション、クラス内でのプレゼンテーション、ピア・リーディング等を行う。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

語彙や読解の授業の前後には指定した箇所の新出表現の予習(表現の意味理解)と復習(記憶)が各30分～1時間程度必要である。また、調査や発表準備は、授業内でも時間をとるが、基本的には授業外で行う。発表準備の際は、発表の原稿とパワーポイントの両方について、日本語母語話者(授業担当教員を含む)による日本語チェックを行うことを必須とする。また、レポート作成は2回行うが、いずれも授業時間外での活動である。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2(経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー5(留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。)と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲 40%、プレゼンテーション 30%、レポート 30% プレゼンテーションのフィードバックは授業内で行う。

### <教科書>

安藤節子・佐々木薫・赤木浩文・田口典子・鈴木孝恵 編著 トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 上級 スリーエーネットワーク

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業の概要説明、調査準備	授業概要と評価方法に関する説明、グループでの調査準備
2	食文化(1) 導入とグラフの読み取り	グループディスカッションによるアイスブレーキング、語彙や表現の導入
3	食文化(2) 読解1	ピア・リーディングによる大意取り
4	食文化(3) 読解2、発表準備	精読、グループ内でのミニ・プレゼンテーション
5	食文化(4) 調査発表	グループごとのプレゼンテーション
6	食文化(5) フィードバック仕事(1) 導入	前回のフィードバック語彙や表現の導入、グループディスカッション
7	仕事(2) 読解1	ピア・リーディングによる大意取り
8	仕事(3) 読解2、インタビュー調査の方法	精読、インタビュー調査で用いる表現の確認、発表時のまとめ方
9	仕事(4) 調査発表	グループごとのプレゼンテーション
10	仕事(5) フィードバック生活習慣と宗教(1) 導入	前回のフィードバック語彙や表現の導入、グループディスカッション
11	生活習慣と宗教(2) 読解1	ピア・リーディングによる大意取り
12	生活習慣と宗教(3) 読解2、調査準備	精読、グループでの調査準備

13	生活習慣と宗教（4）発表準備	グループ内でのミニ・プレゼンテーション
14	生活習慣と宗教（5）調査発表	グループごとのプレゼンテーション
15	まとめ	前回のフィードバック、各テーマの内容の復習、レポートの説明
16		

科目コード	39214				区 分	専門基礎科目			
授業 科目名	日本ビジネス事情				担当者名	小宮 さおり			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

外国人が日本で就職する際、日本語はもちろん、日本と自国のビジネスにおける違いを理解しなければならない。本科目では、日本におけるビジネスケースを通して、日本のビジネス事情について知ることを目標とする。

#### <授業の到達目標>

本科目では次の3点を目標とする。1. ビジネスに関する日本語の語彙や表現を知る。2. 日本のビジネス事情や特異性について知る。3. 日本のビジネス事情についての意見を持ち、発信できる。

#### <授業の方法>

15回の授業で5つのビジネスケースを扱い、それぞれに関して、語彙・文法・表現・読解の学習を通じてそのテーマについて内容を深める。語彙や文法については自宅で予習しておき、授業では運用力や応用力を伸ばす。表現では、学習した内容を用いて他者に問いかけ、他者の発言を聞いてそれに適切に応えられるようにする。読解では日本の文化についても考える。本科目ではアウトプットすることを重視し、最終的にはそのテーマについて自分の意見が言えるようにする。提出物はGoogle Classroomを用いて提出することもある。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、ディスカッション、グループワーク、発表などのアクティブラーニングを取り入れ、学生が主体的に学べる環境を提供する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：予め指示された文法項目や単語の確認をしておく。（30分程度）復習：練習した文型や会話を覚え、実践できるように練習する。（30分程度）発展：意見を発表できるようにまとめる。（30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加態度・学習意欲20%、課題20%、小テスト（語彙・文法）20%、各課発表40%小テスト、発表は授業内でフィードバックする。

#### <教科書>

高見智子 中級から伸ばす ビジネスケースで学ぶ日本語 （株）ジャパンタイムズ

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要と評価方法に関する説明
2	ビジネスケース（1）－1	前作業
3	ビジネスケース（1）－2	読み物／ディスカッション
4	ビジネスケース（2）－1	前作業
5	ビジネスケース（2）－2	読み物
6	ビジネスケース（2）－3	ディスカッション
7	ビジネスケース（3）－1	前作業
8	ビジネスケース（3）－2	読み物
9	ビジネスケース（3）－3	ディスカッション
10	ビジネスケース（4）－1	前作業
11	ビジネスケース（4）－2	読み物
12	ビジネスケース（4）－3	ディスカッション
13	ビジネスケース（5）－1	前作業
14	ビジネスケース（5）－2	読み物
15	ビジネスケース（5）－3	ディスカッション
16		

科目コード	3C201				区 分	専門基礎			
授業科目名	言語学				担当者名	田岡 希望			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

#### <授業の概要>

本授業では、まず、語形変化・語順・文構造などの観点から、複数の言語を比較することによって、日本語の特徴を理解していく。また、人間の言語理解・習得のメカニズムとプロセス、学習者の言語習得に影響する要因について学び、日本語学習者と接するための視点を養う。

#### <授業の到達目標>

到達目標は以下の3点である。1. 言語を形態的・統語的に捉えることができるようになる。2. 言語理解・習得のプロセスを理解することができるようになる。3. 上記の知識を使って、学習者の言語使用からその背景と理由を分析できるようになる。

#### <授業の方法>

本授業は基本的に講義形式で行うが、適宜グループワークを取り入れる。課題管理については、Google Classroomを用いる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有（グループワーク）：3、4人のグループに分かれ、テーマについてディスカッションを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、各テーマについて事前にテキストを読み、知識を得ておくこと（30分程度）。授業後は、授業で学習したことの振り返り、レジュメ整理、事後課題などに取り組むこと（1時間半程度）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 20%、課題提出 20%、中間試験 30%、期末試験 30%フィードバックは授業内で行う（ただし、期末試験についてはGoogle Classroomにて行う）。

#### <教科書>

ヒューマンアカデミー（2021年2月19日） 日本語教育教科書 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版 翔泳社

#### <参考書>

佐々木泰子 編（2007年4月23日） ベーシック日本語教育 ひつじ書房

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション、「言語学」とは	授業の概要と評価方法の説明、「言語学」とはどんな学問か
2	一般言語学・対照言語学（1）	言語の多様性
3	一般言語学・対照言語学（2）	言語研究の諸分野
4	一般言語学・対照言語学（3）	言語の比較
5	言語理解の過程（1）	言語処理の種類（トップダウン処理、ボトムアップ処理）、談話
6	言語理解の過程（2）	二重貯蔵モデル、ワーキングメモリ、長期記憶
7	言語理解の過程（3）	心理言語学
8	中間試験	中間試験、フィードバック
9	言語習得・発達（1）	第一言語習得
10	言語習得・発達（2）	第二言語習得研究
11	言語習得・発達（3）	言語転移と誤用、習得順序と発達順序
12	言語習得・発達（4）	第二言語習得における個人差
13	言語習得・発達（5）	認知スタイルと学習ストラテジー
14	言語習得・発達（6）	バイリンガリズム
15	期末試験	期末試験、フィードバック
16		

科目コード	3C202				区 分	専門基礎			
授業科目名	日本語学 I				担当者名	尹 帥			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

#### <授業の概要>

この授業では日本語の音声、語彙体系、文字表記の基礎知識を学ぶ。日本語の特徴を理解することによって客観的に日本語を理解し、日本語学習者を指導するための視点を養う。なお、本科目は日本語教員養成のための科目である。その他の日本語教員養成科目と合わせて履修すること。

#### <授業の到達目標>

本科目の到達目標は以下の3点である。①日本語の音声・音韻体系を理解すること②日本語の形態・語彙体系、文字表記の知識を身につけること③上記の知識を使って、日本語を分析できること

#### <授業の方法>

基本的に講義形式で行うが、グループワークも取り入れる。課題はGoogle Classroomを用いて提出する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

適宜グループやクラスでのディスカッション、発表を実施する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書の該当ページを読む（30分程度）復習：用語を復習し、定着を図る（30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度20%，小テスト20%，課題提出40%，試験20%発表やプレゼンテーションのフィードバックは授業内で行う。課題についてはGoogle Classroomでフィードバックする。

#### <教科書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育教科書日本語能力検定試験完全攻略ガイド第5版 翔泳社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法の説明、音の作られ方
2	日本語の音韻・音声体系（1）	母音と子音、有声音と無声音
3	日本語の音韻・音声体系（2）	調音点、調音法
4	日本語の音韻・音声体系（3）	音声と音韻
5	日本語の音韻・音声体系（4）	五十音の発音
6	日本語の音韻・音声体系（5）	アクセント、イントネーション、プロミネンス
7	日本語の音韻・音声体系（6）	日本語学習者の誤用・発音上の問題点
8	まとめ	日本語の音韻・音声体系のまとめ
9	課末試験	日本語の音韻・音声体系
10	言語の構造（1）	日本語の形態
11	言語の構造（2）	日本語の語彙体系
12	日本語の分析（1）	日本語学習者の音声分析
13	日本語の分析（2）	日本語の語彙分析
14	文字と表記	日本語の文字と表記
15	課末試験	日本語の形態・語彙体系・文字と表記
16		

科目コード	3C203				区 分	専門基礎			
授業科目名	日本語学Ⅱ				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

#### <授業の概要>

この授業では日本語の文法、意味体系、語用論的規範の知識を学ぶ。日本語の特徴を理解することによって、客観的に日本語を理解し、日本語学習者を指導するための視点を養う。日本語学Ⅰを習得した上で履修すること。

#### <授業の到達目標>

本科目の到達目標は以下の3点である。①日本語の文法体系を理解すること②日本語の意味体系を理解し、分析できること③日本語の語用論的規範を理解し、分析できること

#### <授業の方法>

基本的にハンドアウトを用いて講義形式で行うが、適宜グループ討議や学生によるプレゼンテーションなど、学生主体の活動を取り入れる。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

適宜グループやクラスでのディスカッション、発表を実施する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書の該当ページを読む（30分程度）復習：用語を復習し、定着を図る（30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度20%，課題提出40%，発表・プレゼンテーション20%，試験20%発表やプレゼンテーションのフィードバックは授業内で行う。課題についてはGoogle Classroomでフィードバックする。

#### <教科書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版 翔泳社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法の説明
2	文法体系 (1)	品詞
3	文法体系 (2)	文型、助詞
4	文法体系 (3)	自動詞と他動詞、ヴォイス
5	文法体系 (4)	テンス、アスペクト
6	文法体系 (5)	モダリティ、待遇表現
7	文法体系 (6)	複文の構造
8	まとめと小テスト (1)	日本語の文法体系まとめ (1)
9	まとめと小テスト (2)	日本語の文法体系まとめ (2)
10	意味体系 (1)	一般意味論
11	意味体系 (2)	認知意味論
12	語用論的規範 (1)	意味論と語用論、発話行為と間接発話行為
13	語用論的規範 (2)	協調の原理と会話の公理、ポライトネス理論
14	語用論的規範 (3)	会話分析・談話分析、結束性・照応・推論
15	まとめと小テスト (3)	意味体系・語用論的規範のまとめ
16		

科目コード	3C302				区 分	専門基礎			
授業 科目名	社会言語学				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

#### <授業の概要>

社会言語学とは、「社会」とのかかわりの中で「言語」現象をとらえようとする言語学の分野である。この科目では、実際に使われている日本語には社会がどのようにに現れているのか、日本語を使ってインターアクションするためにはどんな知識が必要かを考えながら日本語を観察する目を養う。さらに各国の言語政策を概観し、広い視野で言語教育及び言語使用と社会との関係を考える。

#### <授業の到達目標>

本科目の到達目標は下記の2点である。①無意識に使用していた日本語とその使用場面を社会言語学的な視点から振り返ることができること。②各国の言語政策を概観し、社会と言語の関係について考えることができること。

#### <授業の方法>

基本的にハンドアウトを用いて講義形式で行うが、適宜グループ討議や学生によるプレゼンテーションなど、学生主体の活動を取り入れる。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

適宜グループやクラスでのディスカッション、発表を実施する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、各テーマについて事前にテキストを読むなどして知識を得ておく（約30分）。授業後は、授業内で出された課題について調べ、まとめる（約60分）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度30%, 課題提出40%, 発表20%, 試験10% ※まとめテストを14回目に実施する。フィードバックは授業内で行う。試験や課題についてはGoogle Classroomでフィードバックする。

#### <教科書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版 翔泳社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションと社会言語学とは	授業の概要と評価方法
2	言語変種（1）	ジェンダー、若者ことば、幼児語、役割語
3	言語変種（2）	地域方言、新方言
4	言語接触	ビジンとクレオール、ダイグロシア
5	言語の多様性（1）	共通言語、コードスイッチング
6	言語の多様性（2）	待遇表現
7	やさしい日本語（1）	やさしい日本語とは
8	やさしい日本語（2）	グループ発表
9	言語/非言語コミュニケーション（1）	コミュニケーションの方法、コミュニケーション・ストラテジー
10	言語/非言語コミュニケーション（2）	非言語コミュニケーション、近接空間学、パラ言語
11	多文化・多言語主義（1）	CEFR、各国の言語政策
12	多文化・多言語主義（2）	複言語主義（1）
13	多文化・多言語主義（2）	複言語主義（2）
14	まとめテスト	まとめテスト
15	まとめ	「言語と社会」のまとめ
16		

科目コード	3C303				区 分	コア科目			
授業科目名	日本語教授法 I				担当者名	片上 摩紀			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

#### <授業の概要>

本授業では日本語を教える上で必要な基礎知識（主に外国語教授法の歴史、コースデザイン、教材分析、授業の流れ）について学び、学習者に合ったコースデザインや教材とは何かを考える。

#### <授業の到達目標>

到達目標は以下の4点である。1. 様々な外国語教授法とその背後の言語学習観に触れ、その長短を知ること 2. 学習者に合ったコースデザインが考えられるようになること 3. 教材分析の視点を身につけ、教材分析ができるようになること 4. 日本語の授業の流れについて知ること

#### <授業の方法>

基本的に教科書を用いて講義形式で行うが、適宜個人作業やグループ討議、学生によるプレゼンテーションなど、学生主体の活動を取り入れる。必要に応じて、日本語のデジタル教材、オンライン教材を活用して、授業を進める。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング要素有。講義後に、毎回3-4人のグループに分かれ、ディスカッションを行い、意見をまとめ、発表する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、各テーマについて事前にテキストを読むなどして知識を得ておく（約30分）。授業後は、授業内で出された課題について調べ、まとめる（約60分）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度30%、テスト30%、課題40%

#### <教科書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド第5版 翔泳社

#### <参考書>

久保田美子 他 スモールステップで学ぶ教授法 スリーエーネットワーク

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・日本語教員の役割	授業の概要と評価方法。日本語教師の資質と能力を知る。
2	学習観の変遷と学習理論・言語観	行動主義、認知主義、社会的構成主義の学習観と学習理論を学ぶ。
3	外国語教授法 (1)	文法訳読法／ナチュラルメソッド／直接法
4	外国語教授法 (2)	ヒューマニスティックな教授法
5	外国語教授法 (3)	コミュニケーションにつながる教授法
6	外国語教授法 (4)	外国語教授法とその理論的背景のまとめ
7	中間試験	学習観、外国語教授法と理論的背景
8	コースデザイン (1)	ニーズ分析とレディネス調査
9	コースデザイン (2)	シラバスデザインとカリキュラムデザイン
10	教材分析 (1)	教材・教具、教材分析の観点
11	教材分析 (2)	教材分析の実践
12	教材分析 (3)	教材分析の発表と意見交換
13	授業実施のサイクル (1)	授業の計画、教案モデルと組み立て
14	授業実施のサイクル (2)	教案の導入部分作成の実践
15	授業実施のサイクル (3)	実践及び振り返り、教師の成長とまとめ
16		

科目コード	3C304				区 分	コア科目			
授業科目名	日本語教授法Ⅱ				担当者名	片上 摩紀			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教員養成資格必修）

#### <授業の概要>

2025年末の時点で日本語教員養成資格科目を全てとり終える学生（日本語教員資格を得る人）のみを対象としています。目的別・対象別の指導法について、実例を通して理解を深める。また、学習者がアウトプットする語用を分析し、フィードバックするスキルを身に付けることにより、実践力を養います。

#### <授業の到達目標>

授業の到達目標は以下の3点である。1. 目的別・対象別の指導方法を知る 2. 指導法など、実際の現場で活用できる知識を身に付ける 3. 学習者がなぜ間違ったか分析し、良いフィードバック法を身に付ける。

#### <授業の方法>

本授業は基本的に講義形式で行うが、適宜個人作業やグループワークを取り入れる。また、Google Classroomにおいて、課題管理を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有り。3-4人のグループに分かれて、グループごとに様々な指導方法の検討・実践を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、事前に用語を調べて来ること（30分）。授業外に授業の準備・練習を行う必要がある（1-2時間）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度（小テストの結果を含む） 40%，中間課題 30%，期末課題 30%

#### <教科書>

#### <参考書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育教科書日本語能力検定試験完全攻略ガイド第5版 株式会社翔泳社

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法の説明
2	文法の教え方	文法の授業の組み立て方について学ぶ
3	音声の教え方	音声の授業の組み立て方について学ぶ
4	文字・語彙の授業	日本語の文字・語彙の授業の組み立て方について学ぶ
5	聴解指導	聴解指導の方法について学ぶ
6	会話指導	会話の授業の組み立て方について学ぶ
7	読解指導	読解指導の方法について学ぶ
8	作文指導	作文授業の組み立て方について学ぶ
9	初級の教え方	初級クラスの学習目標・初級授業の教え方について学ぶ
10	中上級の教え方	中級・上級日本語学習者の学習目標、中上級の授業の教え方について学ぶ
11	日本文化・日本事情の教え方	日本語教育現場において、日本事情・日本文化をどのように教えたらいいか学ぶ
12	対象別の指導法	日本語教育の対象としてどんな学習者がいるか。留学生への指導法・外国人児童への指導法・生活者への指導法
13	中間言語分析（1）	中間言語とは？中間言語分析の方法について学ぶ
14	中間言語分析（2）	中間言語分析の実践
15	中間言語分析（3）	学習者への誤用の訂正方法、フィードバック方法について学ぶ
16		

科目コード	3C305				区 分	コア科目			
授業 科目名	日本語評価法				担当者名	田岡 希望			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語 教師養成必 修）

#### <授業の概要>

本授業では、学習者を評価するための基礎について学びながら、テストの種類や評価方法について理解を深める。また、現存のテストの体験、テストの作成と評価の体験により、実践的な技能を身につけることができる。

#### <授業の到達目標>

到達目標は以下の3点である。1. 日本語教育における評価の種類とそれぞれの目的や特徴を理解することができるようになる。2. 日本語教育で応用されている評価方法を体験し、その仕組みを理解することができるようになる。3. テスト作成及び評価のためのスキルを身につけようとしている。

#### <授業の方法>

本授業は基本的に講義形式で行うが、適宜グループワークを取り入れる。課題管理については、Google Classroomを用いる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（グループワーク）：3、4人のグループに分かれ、テスト分析・問題作成を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、各テーマについて事前にテキストを読み、知識を得ておくこと（30分程度）。授業後は、授業で学習したことの振り返り、レジュメ整理、事後課題などに取り組むこと（1時間半程度）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度（小テストの結果を含む） 20%、課題提出 20%、中間試験 30%、期末試験 30%フィードバックは授業内で行う（ただし、必要場合はGoogle Classroomにて行う）。

#### <教科書>

ヒューマンアカデミー（2021年2月19日） 日本語教育教科書 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版 翔泳社

#### <参考書>

伊東祐郎（2022年2月22日） 日本語教育 よくわかる評価法 アルク  
国際交流基金（2011年3月31日） 国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第12巻「学習を評価する」 ひつじ書房

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション、「評価する」とは	授業の概要と評価方法の説明、日本語教育における「評価」
2	測る内容によるテストの分類	到達度テスト、熟達度テスト、集団的基準準拠テスト、目標基準準拠テスト
3	採点方法によるテストの分類	客観テストと主観テスト、テストの採点
4	よいテストの条件	妥当性、信頼性、有用性
5	言語知識を測るテスト（1）	文字・語彙テスト、文法テストの体験と概観
6	言語知識を測るテスト（2）	文字・語彙テスト、文法テストの作成
7	言語知識を測るテスト（3）	作成した文字・語彙テスト、文法テストの分析、フィードバック
8	中間試験	中間試験、フィードバック
9	統合的な運用を測るテスト（1）	読む力／聞く力を測るテストの概観、問題作成体験
10	統合的な運用を測るテスト（2）	書く力／話す力を測るテストの概観、評価基準作成、評価体験
11	テストの設計	テストの全体像、細目表、著作権、日本語教育とICT
12	テスト結果の分析（1）	集計方法、テストの結果の記述と解釈、得点の分析
13	テスト結果の分析（2）	測定尺度、項目分析
14	期末試験	期末試験、フィードバック
15	テストによらない評価	ルーブリック、ポートフォリオ評価
16		

科目コード	3F102				区 分	コア科目			
授業科目名	生理学Ⅱ [再履修用]				担当者名	古山 喜一			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

生理学では人体の役割と機能について学ぶ。人体の正常な構造と機能を知っていることは、将来人体に関わる仕事に就く者にとって大切なことである。生理学Ⅱでは、生命を維持する植物的機能について学ぶ。循環、呼吸、消化、内分泌など、無意識のうちに調節されている機能について理解する。

### <授業の到達目標>

循環や呼吸など、生命維持に必要な機能がどのように調節されているか理解する。体内の恒常性を維持するために、体液の状態を一定に保ち、ホルモンや自律神経が協調してはたらいっていることを理解する。また摂取した食物がどのように消化吸收され、利用可能なかたちになるか理解する。柔道整復師国家試験問題についてただ正しいものを選択できるようになるのではなく、「なぜ正しいか／どこが誤っているか、誤っているなら正しい答えはなにか」について理解して答えられるようになるのが目標である。

### <授業の方法>

教科書に沿って講義を行うが、理解しやすいように順番は若干前後することがある。また、より理解を深めるためのプリントを配布する。教科書が改訂され、新版では省略されている項目が一部あるのだが、これらについても講義する。当日の講義の内容に関連する柔道整復師国家試験の生理学分野の過去問題についても解説する。講義の終わりに、その日の講義内容の確認の小テストを行う（プリント等を見てよい）。小テストの誤りが多い部分に関しては次回講義時に解説する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ学習により双方向で理解度を確認する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習としては教科書の次回授業範囲を一通り読んでおく（約15分）。復習は毎回行う小テストおよび国家試験問題の部分を中心に行う（約30分）。人体の機能には、拮抗するもの（逆のはたらきをするもの）が多くあるため、小テストの設問と逆の機能についても考えるようにすると、1つの問題から多くのことを学ぶことができる。また、国家試験問題はまず正しい答えを求め、その後残りの選択肢が示すものはなにであるかについて考えるとよい。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP2 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

確認小テスト 15%、定期試験 80%。授業態度 5%。小テストの答えは次回授業開始時に解説するほか、まとめの回で再度確認する。

### <教科書>

社団法人全国柔道整復学校協会 監修根来英雄・貴邑富久子 著 「生理学 改定第4版」 南江堂

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	8 血液 (1)	血液、止血、血液型
2	8 血液 (2)	白血球、免疫
3	10 循環 (1)	心臓の機能、心電図、血管系
4	10 循環 (2)	血圧、循環の調節
5	11 呼吸の生理	呼吸器の構造、肺気量、ガス運搬、呼吸の調節
6	6 内分泌 (1)	内分泌腺、ホルモンの種類、視床下部・下垂体のホルモン
7	6 内分泌 (2)	内分泌腺のホルモン
8	6 内分泌 (3)、7 生殖 (1)	内分泌腺のホルモン、性ホルモン、性分化
9	7 生殖 (2)	生殖器官の構成とはたらき、精子や卵の成熟とホルモン、性周期、妊娠と分娩
10	12 尿の生成と排泄 (1)	腎臓の構造と機能、腎臓における再吸収と分泌
11	12 尿の生成と排泄 (2)、9 骨の生理 (1)	排尿、酸塩基平衡、骨の構造と形成
12	9 骨の生理 (2)、14 消化と吸収 (1)	カルシウム代謝、消化器系の構造
13	14 消化と吸収 (2)	胃、小腸、肝臓、吸収
14	16 高齢者の生理学的特徴・変化	加齢と加齢による変化
15	まとめ	後期の講義内容について確認する
16		

科目コード	3F103				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	公衆衛生学Ⅱ				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

公衆衛生とは「地域社会の組織的な努力によって疾病を予防し、寿命の延長を図り、身体的ならびに精神的能力を増進 するための科学である」と定義される。健康に関わるいろいろな現象を疫学的に把握し、人間を取り巻く環境、社会的 要因（制度、組織など）などと人の健康増進、疾患予防などとの関係を理解し、医療にどの様に関連するのか考えられる力を習得する。

#### <授業の到達目標>

衛生学・公衆衛生学を学ぶ意義について理解する。健康の概念とその管理について理解する。自然および生活環境の中で感染症と健康の関連を習得する。母子関係とその支援機構を理解する。

#### <授業の方法>

教科書を中心に講義し必要に応じてDropboxにて資料を配付する。授業中に確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

課題に応じてグループワークを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次の範囲をシラバスから確認させ、どのような内容であるかまとめ授業で発表する。（毎回、1時間程度）復習：小テストを次の授業で実施する。（毎回、2時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、小テスト 30%、定期試験 40%

#### <教科書>

全国柔道整復学校協会 「衛生学・公衆衛生学」 南光堂  
医療情報科学研究所：編集 公衆衛生がみえる 株式会社 メディックメディア

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	衛生学・公衆衛生学について	公衆衛生学の意義と目的、歴史
2	健康の概念	健康の定義、健康阻害因子、健康指標
3	疾病予防と健康管理	疾病の自然史と予防、生活習慣等
4	感染症の予防 1	感染症とは、ウイルス性・細菌性感染症
5	感染症の予防 2	感染症の動向、感染症対策
6	消毒 1	消毒の概念と消毒方法
7	消毒 2	消毒法の応用、院内感染対策と消毒
8	環境衛生（環境保健）1	環境とは、非生物学的環境と生物学的環境
9	環境衛生（環境保健）2	環境問題、物理的環境要因
10	環境衛生（環境保健）3	化学的環境要因、生物学的環境要因
11	環境衛生（環境保健）4	公害、空気の衛生と大気汚染
12	生活環境・食品衛生活動 1	水の衛生、衣服・住居と健康
13	生活環境・食品衛生活動 2	食品と健康、廃棄物の処理
14	母子保健	ライフサイクルと母子保健、母子保健の指標
15	まとめ	まとめ
16		

科目コード	3F104				区 分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅰ(骨折Ⅰ)				担当者名	橋口 浩治			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

臨床に必要な骨折について発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について学ぶと共に保存療法の限界に関する知識を修得する。各骨折の発生メカニズムを詳細に理解する事が症状、整復法、固定法、合併症等を合理的に理解することになる。この講義では鎖骨骨折、肩甲骨骨折、上腕骨骨折、前腕骨骨折について学習する。

### <授業の到達目標>

各骨折の発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について理解する各骨折における保存療法の限界について理解し他者に説明できるようになる。

### <授業の方法>

教科書を中心に講義し必要に応じて視覚教材、パワーポイントなどをGoogle classroomにて資料を配付する。授業中に確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

課題症例に対するグループワークや発表課題設問に対するグループワーク

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する講義に対する事前課題（柔道整復学総論の専門用語、解剖学（上肢の筋（起始停止、作用、支配神経）、講義内容の疾患の事前下調べ（毎回、1時間程度））、復習：講義開始終了時に実施内容の振り返りテスト（毎回、10分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）、ディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価試験90％、学習意欲10％で評価する。

### <教科書>

全国柔道整復学校協会 柔道整復学・理論編第7版 南江堂

全国柔道整復学校協会 柔道整復学・実技編第2版 南江堂

### <参考書>

責任編集 伊黒浩二（2015年7月22日） 柔道整復理論サブノート アルテミシア

監修 内田 淳正編集 中村 利孝 / 松野 丈夫 / 井樋 栄二 / 馬場 久敏（2011年03月） 標準整形外科学第11版 医学書院

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	鎖骨骨折（1）	鎖骨骨折（中央）における概要、発生機序、症状、合併症、整復法、固定法について 鎖骨骨折（近位および遠位）における概要、発生機序、症状、合併症、整復法、固定法について
2	鎖骨骨折（2）	
3	肩甲骨骨折（1）	肩甲骨骨折（肩甲骨体部骨折、肩甲骨辺縁部骨折、肩甲骨関節窩骨折）における概要、分類、発生機序、症状、合併症、治療法について 肩甲骨骨折（肩甲骨頭部骨折、肩峰骨折、烏口突起骨折）における概要、分類、発生機序、症状、合併症、治療法について
4	肩甲骨骨折（2）	
5	上腕骨近位端部骨折（1）	結節上骨折（上腕骨骨頭骨折、解剖頸骨折）における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について 結節下骨折（外科頸骨折、大結節骨折、小結節骨折、結節部貫通骨折）、骨端線離開における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
6	上腕骨近位端部骨折（2）	
7	上腕骨骨幹部骨折（1）	上腕骨骨幹部骨折における概要、発生機序、転位について 上腕骨骨幹部骨折における症状、合併症、整復法、固定法について
8	上腕骨骨幹部骨折（2）	
9	上腕骨遠位端部骨折（1）	上腕骨顆上骨折における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について 上腕骨外顆骨折、上腕骨内側上顆骨折における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
10	上腕骨遠位端部骨折（2）	
11	前腕骨近位端部骨折（1）	橈骨近位端部骨折（橈骨頭骨折、橈骨頸部骨折）における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について 尺骨近位端部骨折（肘頭骨折、尺骨鉤上突起骨折）における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
12	前腕骨近位端部骨折（2）	
13	前腕骨骨幹部骨折（1）	橈骨骨幹部骨折、尺骨骨幹部骨折、橈・尺両骨骨幹部骨折における概要、発生機

14	前腕骨骨幹部骨折（2）	序、症状、合併症、治療法について
15	まとめ	前腕骨脱臼骨折（モンテジア脱臼骨折、ガレアッツィ脱臼骨折）における概要、発生 機序、症状、合併症、治療法について
16		これまでの講義のまとめを行う。

科目コード	3F200				区 分	コア科目			
授業科目名	外科学 I				担当者名	合地 史明			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本講義は、外科学総論にあたる部分である。外科学の概念、損傷、炎症、感染症、腫瘍、ショック、輸血、輸液、消毒と滅菌、手術、麻酔、移植と免疫、出血と止血と柔道整復学との関連性について学習する。

#### <授業の到達目標>

健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医科学的な分野（特に外科的分野）についての知識を身に付ける。医師をはじめとするメディカル・コメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語をもって話が出来ることを目標とする。

#### <授業の方法>

教科書にそって授業を進めて行く。視聴覚資料等を用いて適宜補完していく。毎回の講義後に講義の理解度をクラスルーム課題などを用いて確認する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に教科書を読んでおく事(1時間)、また、授業の後は講義でとったノートを参照しながら再度教科書を読んで復習する(1時間)。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験期間中に筆記試験（80点満点）を行う。さらに授業時のレポートと出欠状況を総合して平常点（20点満点）を算出。これらの合計点（100点満点）で評価を行う。

#### <教科書>

全国柔道整復学校協会 監修 「外科学概論」 南江堂

#### <参考書>

北島政樹 監修 「標準外科学」 医学書院

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	外科学とは	外科学の歴史 外科医の立場 現在の外科医療
2	損傷（1）	損傷の分類 診断 治療 交通外傷 ドライバー外傷
3	損傷（2）	特殊な損傷 凍傷 びらんと潰瘍 瘻孔 裂傷 壊死・壊疽
4	損傷（3）	創と傷 熱傷 電撃傷 低温熱傷 化学熱傷
5	炎症と外科感染症	炎症（定義 分類 病態）外科感染症
6	腫瘍	腫瘍の概念 組織 成因 分類 診断 治療
7	ショック	ショックの病態と分類 緊急処置
8	輸血 輸液	輸血 一般輸液 高カロリー輸液
9	消毒と滅菌	消毒薬の特徴 皮膚の消毒機器・器材・環境の消毒 滅菌
10	手術	手術の分類 各種手術法 止血術 結紮・縫合術 穿刺術
11	麻酔	麻酔の概要 麻酔の歴史 麻酔の種類 全身麻酔法 局所麻酔法 緩和ケアとがん性疼痛治療法
12	移植と免疫	移植の用語 移植の現状 各種臓器移植
13	出血と止血	出血とは 出血の種類 止血の仕組み 外出血 内出血 止血法
14	心肺蘇生法	倒れた人の評価法 心肺蘇生法の実際 人工呼吸法 AED
15	まとめ	まとめ
16		

科目コード	3F201				区 分	コア			
授業 科目名	外科学Ⅱ				担当者名	片岡 正文			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

外科学は極めて広範囲である。本講義では、各論的にそれぞれの項目を学習する。脳神経外科疾患、甲状腺・頸部疾患、胸壁・呼吸器疾患、心臓・脈管疾患、乳腺疾患、腹部外科疾患と柔道整復学の関連について理解する。

#### <授業の到達目標>

健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医科学的な分野（特に外科的分野）についての知識を身に付ける。そして医師をはじめとするメディカル・コメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語をもって話しが出来ることを目標とする。

#### <授業の方法>

教科書にそって授業を進めて行く。視聴覚資料等を用いて適宜補完していく。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

なし

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に教科書を読んでおく事、また、授業の後は講義でとったノートを参照しながら再度教科書を読んで復習する事を勧める。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験期間中に筆記試験（80点満点）を行なう。さらに授業時のレポートと出欠状況を総合して平常点（20点満点）を算出。これらの合計点（100点満点）で評価を行なう。

#### <教科書>

全国柔道整復学校協会 監修 「外科学概論」 南江堂

#### <参考書>

北島 政樹 監修 「標準外科学」 医学書院

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	前期の復習（1）	損傷炎症と外科感染症 腫瘍
2	前期の復習（2）	ショック、輸血、輸液 消毒と滅菌、手術
3	前期の復習（3）	麻酔、移植と免疫、出血と止血、救急蘇生法
4	脳神経外科疾患（1）	脳・神経疾患の腫瘍徴候 中枢性疾患に特有な病態 画像検査 主な脳・神経疾患
5	脳神経外科疾患（2）	脳・神経疾患の腫瘍徴候 中枢性疾患に特有な病態 画像検査 主な脳・神経疾患
6	甲状腺・頸部疾患	甲状腺疾患 頸部疾患
7	胸壁・呼吸器疾患（1）	胸郭・肺の検査 手術 胸腔ドレナージ 肺疾患 胸膜疾患 胸部損傷
8	胸壁・呼吸器疾患（2）	胸郭・肺の検査 手術 胸腔ドレナージ 肺疾患 胸膜疾患 胸部損傷
9	心臓・脈管疾患（1）	心臓疾患 脈管疾患
10	心臓・脈管疾患（2）	心臓疾患 脈管疾患
11	乳腺疾患	診断 乳腺疾患
12	腹部外科疾患（1）	腹部外科疾患の主な症状 消化器疾患における主な検査 代表的腹部外科疾患
13	腹部外科疾患（2）	腹部外科疾患の主な症状 消化器疾患における主な検査 代表的腹部外科疾患
14	腹部外科疾患（3）	腹部外科疾患の主な症状 消化器疾患における主な検査
15	まとめ	まとめ
16		

科目コード	3F202				区 分	コア科目			
授業科目名	内科学 I				担当者名	河合 洋二郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

医療従事者（柔道整復師）として、基礎的な医療知識を教科書を中心に取り組む。

#### <授業の到達目標>

医療従事者として、総合的な医療知識を身につける。基本的な医療用語を確実に理解する。

#### <授業の方法>

教科書と共に必要に応じてプリントを配布し、それに基づいて講義する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・復習の具体的な内容については、授業時に随時通知する予定。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

#### <教科書>

「一般臨床医学」 医歯薬出版株式会社

#### <参考書>

河合作成プリント

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	診察の意義	問診（主訴、現病歴、既往歴）
2	視診（1）	不随意運動
3	視診（2）	歩行障害
4	視診（3）	胸郭、腹部、四肢
5	聴診	異常呼吸音
6	触診（1）	筋トーンス
7	触診（2）・小テスト	筋委縮・小テスト
8	打診	鼓音
9	総論（1）	バイタルサイン
10	総論（2）	検査
11	総論（3）	主症状
12	総論（4）	主症状
13	各論 呼吸器	慢性閉塞性肺疾患など
14	各論 呼吸器	運動誘発性喘息など
15	まとめ	
16		

科目コード	3F203				区 分	コア科目			
授業科目名	内科学Ⅱ				担当者名	河合 洋二郎			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

医療従事者（柔道整復師）として、基礎的な医療知識を教科書を中心に取り組む。

#### <授業の到達目標>

医療従事者として、総合的な医療知識を身に受ける。基本的な医療用語を確実に理解する。

#### <授業の方法>

教科書と共に必要に応じてプリントを配布し、それに基づいて講義する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・復習の具体的な内容については授業時に随時通知する予定。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

#### <教科書>

医歯薬出版株式会社 「一般臨床医学」

#### <参考書>

河合作成プリント

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各論 生活習慣病	肥満・肥満症
2	各論 生活習慣病	高血圧
3	各論 生活習慣病	脂質異常症
4	各論 代謝疾患	耐糖能異常
5	各論 内分泌疾患	甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進
6	各論 循環器	先天性心疾患
7	各論 循環器	虚血性心疾患など
8	各論 血液疾患	白血病など
9	各論 血液疾患	貧血など
10	各論 膠原病	リウマチ
11	各論 腎・尿路疾患	ネフローゼ症候群、腎不全
12	各論 腎・尿路疾患	膀胱炎など
13	各論 神経疾患	パーキンソン病など
14	各論 神経疾患	アルツハイマー病、認知症
15	まとめ	
16		

科目コード	3F204				区 分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅱ(骨折Ⅱ)				担当者名	橋口 浩治			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

下肢はヒトの特徴である2本足で移動するという点で、社会生活上、重要な支持組織である。本科目は、骨盤、大腿部、膝部、下腿部、足部の下肢における骨折の発生機序、症状、治療法について機能解剖学、生理学、運動学的視点も含め学習する。

#### <授業の到達目標>

1. 下肢の機能解剖について理解し、骨折の発生機序、症状を説明できる。2. 骨折の状態から治療指針ならびに予後について判断、説明することができる。

#### <授業の方法>

1. 講義（教員による指定疾患の解説）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

自分や家族がその症例に遭遇したと想定し、与えられた課題に対してグループ形式にて学習をし発表をおこなう。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する講義内容に関する事前課題（柔道整復学総論の専門用語、解剖学（下肢の筋（起始停止、作用、支配神経）にて1時間程度、復習にて1時間程度

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験70%, 学習意欲30%（出席、小テスト）但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

#### <教科書>

柔道整復学校協会 柔道整復学・理論編 南江堂

#### <参考書>

伊黒浩二 責任編集 柔道整復理論サブノート 柔道整復師国家試験対策 アルテミシア

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	骨盤骨単独骨折（1）	腸骨翼単独骨折、恥骨単独骨折、坐骨単独骨折、仙骨単独骨折、尾骨単独骨折における概要、発生機転、症状、治療法について
2	骨盤骨単独骨折（2）	腸骨稜裂離骨折、上前腸骨棘裂離骨折、下前腸骨棘裂離骨折における概要、発生機転、症状、治療法について
3	骨盤骨輪骨折	骨盤骨輪骨折における概要、発生機転、症状、治療法について
4	大腿骨近位端骨折（1）	大腿骨骨頭骨折、大腿骨頸部骨折における概要、発生機転、症状、治療法について
5	大腿骨近位端骨折（2）	大腿骨転子部骨折、大腿骨大転子単独骨折、大腿骨小転子単独骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
6	大腿骨骨幹部骨折	大腿骨骨幹部骨折（上1/3、中1/3、下1/3）における特徴、発生機転、症状、治療法について
7	大腿骨遠位端部骨折（1）	大腿骨顆上骨折、大腿骨遠位骨端線離解における概要、発生機転、症状、治療法について
8	大腿骨遠位端部骨折（2）	大腿骨顆部骨折、内側側副韌帯付着部剥離骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
9	膝蓋骨骨折	膝蓋骨骨折、分裂膝蓋骨における特徴、発生機転、症状、治療法について
10	下腿骨近位端骨折（1）	脛骨顆部骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
11	下腿骨近位端骨折（2）	脛骨顆間隆起骨折、脛骨粗面骨折、腓骨頭単独骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
12	下腿骨幹部骨折	脛骨単独骨折、脛腓両骨骨折、腓骨骨幹部単独骨折、下腿骨果上骨折、下腿疲労骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
13	下腿骨遠位端骨折	下腿骨果部骨折、足関節脱臼骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
14	足根骨骨折	距骨骨折、踵骨骨折、舟状骨骨折、立方骨骨折、楔状骨骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
15	足趾骨骨折	中足骨骨折、他の足趾骨骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
16		

科目コード	3F205				区 分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅲ(脱臼)				担当者名	橋口 浩治			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

下肢はヒトとしての特徴である2本足で移動するという点で、社会生活上、重要な支持組織である。本科目は、股関節、膝関節（膝蓋骨含む）、足関節、足部（足趾を含む）における脱臼の発生機序、症状、治療法について機能解剖学、生理学、運動学的視点より学修する。

### <授業の到達目標>

1. 下肢の機能解剖について理解し、脱臼の発生機序、症状を説明できる。2. 脱臼の状態から治療指針について判断することができる。

### <授業の方法>

1. 講義（教員による指定疾患の解説、配布資料やスライドショーを用いた解説） 2. Google classroomを使用した資料配布

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

課題症例に対するグループワークや発表課題設問に対するグループワーク

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する講義に対する事前課題（柔道整復学総論の専門用語、解剖学（下肢の筋（起始停止、作用、支配神経）、講義内容の疾患の事前下調べ（毎回、1時間程度））、復習：講義開始終了時に実施内容の振り返りテスト（毎回、15分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）ディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価試験90％、学習意欲10％で評価する。

### <教科書>

柔道整復学校協会 柔道整復学・理論編第7版 南江堂

### <参考書>

責任編集：伊黒浩二（2015年7月22日） 柔道整復理論サブノート アルテミシア

監修 内田 淳正編集 中村 利孝 / 松野 丈夫 / 井樋 栄二 / 馬場 久敏（2011年03月） 標準整形外科学第11版 医学書院

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	柔道整復師の沿革	柔道整復師の沿革について
2	関節の損傷	関節の損傷について
3	脱臼（1）	脱臼の定義、分類、症状、整復障害因子について
4	股関節脱臼（1）	股関節の機能解剖、股関節脱臼の概説
5	股関節脱臼（2）	股関節脱臼の種類、症状、応急手当について
6	股関節脱臼（3）	股関節後方脱臼の概要と症状、整復について
7	股関節脱臼（4）	股関節前方脱臼、中心性脱臼の概要と症状、整復について
8	膝関節脱臼（1）	膝関節の機能解剖、膝関節脱臼の概説
9	膝関節脱臼（2）	膝関節前方脱臼、膝関節後方脱臼の概説および症状、整復について
10	膝蓋骨脱臼	膝蓋骨脱臼の概要と症状、整復について
11	足関節脱臼（1）	足関節脱臼および脱臼骨折の概要、症状、整復法、治療指針について
12	足関節脱臼（2）	足根骨脱臼（ショパール関節、リスフラン関節脱臼含む）の概要、症状、治療指針について
13	足関節脱臼（3）	足趾脱臼の概要、症状、整復法および固定法について
14	まとめ（1）	股関節～膝関節（膝蓋骨脱臼含む）についての復習
15	まとめ（2）	足関節～足趾脱臼についての復習
16		

科目コード	3F300				区 分	コア			
授業科目名	病理学Ⅱ				担当者名	高 畠 清 文			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	講義

#### <授業の概要>

正常人体構造をベースに疾病の原因、経過、本態など病的状態における細胞・組織・臓器などの変化を形態学的・病態生理学的に探求する学問である。肉眼的・顕微鏡的形態変化を基盤に疾病の本態、発症メカニズム、経過などについて理解し、内的・外的因子の影響などについて学習する。

#### <授業の到達目標>

1 腫瘍の本態、発生原因、分類。治療の概略を習得する。1 奇形を含む先天性異常の発生原因と種類が理解できる。1 内因・外因を含め病因を知り、その対処方法が理解できる。

#### <授業の方法>

パワーポイント、配布資料を中心に使用して、板書、質問等を取り入れ視覚聴覚的に講義をすすめる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

シラバスに沿って、講義当日の項目内容を教科書を一読し予習しておくこと。本科目を学習する上で、解剖学、組織学、生理学、生化学等の基礎学問の知識は不可欠であるので、これらの学問を整理しておく必要がある。講義の単元終了時に小テストを実施するので、復習を中心に学習する。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

#### <教科書>

社団法人全国柔道整復学協会 監修、関根一郎 著 「病理学概論 改訂第3版」 医歯薬出版株式会社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	腫 瘍 I	腫瘍とは
2	腫 瘍 II	腫瘍細胞とは
3	腫 瘍 III	腫瘍の生体への影響、癌の診断と治療
4	腫 瘍 IV	腫瘍の分類
5	腫 瘍 V	主要な癌
6	先天性異常 I	先天性異常総論、遺伝形式
7	先天性異常 II	奇形の原因、奇形の種類
8	病 因 I	内因 1
9	病 因 II	内因 2
10	病 因 III	物理的原因
11	病 因 IV	化学的原因
12	病 因 V	生物学的原因
13	運動器の病理 I	感染性の疾患
14	運動器の病理 II	非感染性疾患
15	運動器の病理 III	全身性の骨・軟部疾患
16		

科目コード	3F301				区 分	コア科目			
授業科目名	整形外科科学 I				担当者名	石原 和泰			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本講義は、整形外科科学総論にあたる部分である。すなわち、整形外科の意義と歴史、運動器の基礎知識、整形外科診察法、整形外科検査法、整形外科の治療法、骨・関節損傷総論、スポーツ整形外科総論、リハビリテーション総論と柔道整復学との関連性について学習する。

#### <授業の到達目標>

健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医科学的な分野（特に整形外科的分野）についての知識を身に付ける。そして医師をはじめとするメディカル・コメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語をもって話しが出来ることを目標とする。

#### <授業の方法>

概ねスライドを使って講義を行う。授業理解度の確認としてミニッツペーパーを有効的に用い、学生、教員間で理解度を共有し学習内容の確実な定着に繋げる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング なし

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義のレジュメは各回の講義の最初に配布する。講義中はきちんとノートを取り、復習に力点(2時間)をおくこと。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

（評価方法）定期試験 90点、出席点 10点の100点満点とする。出席点は1回の欠席ごとに2点の減点とする。試験時はノートの持ち込みは認めない。（出欠確認）出席の確認は講義冒頭の点呼により行う。点呼に間に合わなかった者は講義終了時に申し出ること。（欠席届の取り扱いについて）当該講義のテーマに即したレポートを提出すること。レポートの提出期限は欠席した月の翌月末までとする。（それ以降は受理しない）レポートの提出により出席点を与える。（公欠の取り扱いについて）学則に則る。（その他）講義資料の再配布は行わないので

#### <教科書>

全国柔道整復学校協会 監修 「整形外科科学」 南江堂

#### <参考書>

松野 丈夫 監修 「標準整形外科科学」第13版 医学書院

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	骨系統疾患、神経筋疾患 (1)	骨の構造・病理、骨系統疾患、神経筋疾患 (1)
2	骨系統疾患、神経筋疾患 (2)	骨の構造・病理、骨系統疾患、神経筋疾患 (2)
3	運動器に発生する感染症 (1)	骨・関節・軟部組織感染症 (1)
4	運動器に発生する感染症 (2)	骨・関節・軟部組織感染症 (2)
5	整形外科疾患 (1)	上肢の整形外科疾患 (1)
6	整形外科疾患 (2)	上肢の整形外科疾患 (2)
7	整形外科疾患 (3)	骨盤・股関節・大腿骨の外傷 (1)
8	整形外科疾患 (4)	骨盤・股関節・大腿骨の外傷 (2)
9	整形外科疾患 (5)	小児の整形外科的外傷 (1)
10	整形外科疾患 (6)	小児の整形外科的外傷 (2)
11	整形外科疾患 (7)	小児の整形外科的外傷 (3)
12	整形外科疾患 (8)	小児の整形外科的外傷 外傷以外 (1)
13	整形外科疾患 (9)	小児の整形外科的外傷 外傷以外 (2)
14	整形外科疾患 (10)	小児の整形外科的外傷 外傷以外 (3)
15	まとめ	総括
16		

科目コード	3F302				区 分	コア科目			
授業科目名	整形外科科学Ⅱ				担当者名	石原 和泰			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本講義は、整形外科科学各論にあたる部分である。すなわち、整形外科身体部位別各論と柔道整復学との関連性について学習する。

#### <授業の到達目標>

健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医科学的な分野（特に整形外科的分野）についての知識を身に付ける。そして医師をはじめとするメディカル・コメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語をもって話しが出来ることを目標とする。

#### <授業の方法>

概ねスライドを使って講義を行う。授業理解度の確認としてミニッツペーパーを有効的に用い、学生、教員間で理解度を共有し学習内容の確実な定着に繋げる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング なし

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義のレジュメは各回の講義の最初に配布する。講義中はきちんとノートを取り、復習に力点(2時間)をおくこと。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

（評価方法）定期試験 90点、出席点 10点の100点満点とする。出席点は1回の欠席ごとに2点の減点とする。試験時はノートの持ち込みは認めない。（出欠確認）出席の確認は講義冒頭の点呼により行う。点呼に間に合わなかった者は講義終了時に申し出ること。（欠席届の取り扱いについて）当該講義のテーマに即したレポートを提出すること。レポートの提出期限は欠席した月の翌月末までとする。（それ以降は受理しない）レポートの提出により出席点を与える。（公欠の取り扱いについて）学則に則る。（その他）講義資料の再配布は行わないので

#### <教科書>

全国柔道整復学校協会 監修 「整形外科科学」 南江堂

#### <参考書>

松野 丈夫 監修 「標準整形外科科学」第13版 医学書院

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	身体部位別各論 (1)	頸部 (1)
2	身体部位別各論 (2)	頸部 (2)
3	身体部位別各論 (3)	胸部
4	身体部位別各論 (4)	腰部 (1)
5	身体部位別各論 (5)	腰部 (2)
6	身体部位別各論 (6)	肩・肩甲帯
7	身体部位別各論 (7)	上腕・肘関節
8	身体部位別各論 (8)	前腕
9	身体部位別各論 (9)	手関節
10	身体部位別各論 (10)	手・手指
11	身体部位別各論 (11)	骨盤・股関節
12	身体部位別各論 (12)	大腿・膝関節
13	身体部位別各論 (13)	下腿・足関節
14	身体部位別各論 (14)	足・足趾
15	まとめ	総括
16		

科目コード	3F303				区 分	コア科目			
授業科目名	リハビリテーション医学Ⅰ				担当者名	片岡 昌樹／古山 喜一			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本講義では、現場で頻繁に実施されるリハビリテーションについて、病態・評価・リハビリテーションなどを学習する。加えて、関連職種およびその役割、連携についてやリハビリテーション医学に関係した社会福祉について学ぶ。リハビリテーション医学分野における柔道整復師の役割についても概説する。

### <授業の到達目標>

リハビリテーション医学分野における基礎的な知識、特に1) リハビリテーションの理念や概念、2) リハビリテーションで用いられる評価や診断、3) リハビリテーションに関わる障害と治療、4) リハビリテーション医学をとりまく関連職種、などについて理解できるようになることを目標とする。

### <授業の方法>

視聴覚教材、配布資料等を適宜使い、教科書に沿って授業を進行する。課題の提示、提出等はGoogle Classroom等で行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ学習において双方向で理解度を確認する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

学習時の疑問についてはその都度質問するようにすること。本講義において、機能解剖、運動学、疾患における測定評価、治療に関する理解が必要である。したがって、教科書や配布資料（事前に配布する）、ノートなどを活用して各回当該箇所の基本的事項、他の授業で学んだ関連部分の予習および復習を各60分以上行い、理解を深めること。事前課題および復習課題の提示、提出を求めることもある。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP 3 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト等の課題 50%、定期試験50%で成績評価する。但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

### <教科書>

全国柔道整復学校協会（監修）、栢森良二（編）（2019年4月10日） リハビリテーション医学 改定第4版 南江堂

### <参考書>

指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	リハビリテーションの理念（教科書第1章）	ア. 語源 イ. 成立過程（古山喜一）
2	リハビリテーション障害学（1）（教科書第5章）	ア. 障害の評価 イ. 関節拘縮 ウ. 関節の変形 エ. 筋萎縮（古山喜一）
3	リハビリテーションの対象と障害者の実態（教科書第2章）	ア. 医学的リハビリテーションの対象 イ. リハビリテーション医学の対象 ウ. 障害児（者）の実態 エ. 身体障害児（者）の内訳（古山喜一）
4	障害者の階層とアプローチ（1）（教科書第3章）	ア. ICDとICIDH イ. ICIDHとICF ウ. ICFの構成要素の定義 エ. WHODAS2.0（古山喜一）
5	リハビリテーション障害学（2）（教科書第5章）	オ. 神経麻痺 カ. 痙縮 ①失語症の定義 ②失認症の定義 ③失行症の定義 ④脳外傷による高次機能障害（古山喜一）
6	障害者の階層とアプローチ（2）（教科書第3章）	オ. 障害へのアプローチ カ. 病気と障害の相違（片岡昌樹）
7	リハビリテーション医学の関連職種（教科書第6章）	A) 医師 B) 理学療法士 C) 作業療法士 D) 看護師 E) 言語聴覚士 F) 臨床心理士 G) 医療ソーシャルワーカー（古山喜一）
8	リハビリテーション医学の評価と診断（1）（教科書第4章）	D) ADLの評価 E) 心理的評価 F) 認知症の評価（古山喜一）
9	リハビリテーション医学の評価と診断（2）（教科書第4章）	G) 電気生理学的検査 H) 画像診断 I) 運動失調（片岡昌樹）
10	リハビリテーション治療学（1）（教科書第5章）	ア. 障害の受容 イ. 廃用症候群 ウ. 関節拘縮 エ. リンパ浮腫 オ. 筋力強化 カ. 中枢性麻痺と痙縮（片岡昌樹）
11	リハビリテーション治療技術（理学療法）（教科書第7章）	ア. 対象 イ. 理学療法の進め方 ウ. 理学療法の実践（片岡昌樹）

12	リハビリテーション治療技術（作業療法） （教科書第7章）	ア. 対象 イ. 作業療法の進め方 ウ. 作業療法の実際（古山喜一）
13	リハビリテーション治療技術（補装具） （教科書第7章）	ア. 装具 イ. 義肢 ウ. 歩行補助具 エ. 車イス オ. 自助具（古山喜一）
14	リハビリテーション治療学（2）（教科書 第5章）	キ. 慢性疼痛 ク. バイオフィードバック ケ. 歩行練習 コ. 全身運動 サ. レクリエーシ ョン治療（片岡昌樹）
15	まとめ	総復習（古山喜一）
16		

科目コード	3F304				区 分	コア科目			
授業科目名	リハビリテーション医学Ⅱ				担当者名	片岡 昌樹／大塚 愛二／古山 喜一			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本講義では、リハビリテーション医学分野で頻繁に遭遇する疾患に対する運動器および高齢化のリハビリテーションについて、病態・評価・リハビリテーションなどを学習する。加えて、リハビリテーションの治療技術やリハビリテーション医学に関係した社会福祉、障害者スポーツについて学ぶ。リハビリテーション医学分野における柔道整復師の役割について概説する。

### <授業の到達目標>

リハビリテーション医学分野における基礎的な知識、特に、1) 高齢者や運動器を中心とした疾患別リハビリテーションの流れの概説、2) リハビリテーション医学に関連した社会福祉、障害者スポーツについての理解ができるようになることを目標とする。

### <授業の方法>

視聴覚教材、配布資料等を適宜用い、教科書に沿って授業を進行する。課題の提示、提出等はGoogle Classroom等で行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ学習において双方向で理解度を確認する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

学習時の疑問についてはその都度質問するようにすること。本講義において、機能解剖、運動学、疾患における測定評価、治療に関する理解が必要である。したがって、教科書や配布資料（事前に配布する）、ノートなどを活用して各回当該箇所の基本的事項、他の授業で学んだ関連部分の予習および復習を各60分以上行い、理解を深めること。事前課題および復習課題の提示、提出を求めることもある。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP 3 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト等の課題 50%、定期試験50%で成績評価する。但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

### <教科書>

全国柔道整復学校協会（監修）、栢森良二（編）（2019年4月10日） リハビリテーション医学 改定第4版 南江堂

### <参考書>

指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	高齢者のリハビリテーション (1) (教科書第8章)	ガイダンス、A) 平均寿命と健康寿命 B) フレイル C) 要介護状態の予防 (古山喜一)
2	高齢者のリハビリテーション (2) (教科書第8章)	D) 地域リハビリテーション E) 高齢者の自立支援 F) 機能訓練指導員 G) 機能訓練指導員の知識 (古山喜一)
3	脳疾患のリハビリテーション (1) (教科書第8章)	脳の構造・機能とその障害 (大塚愛二)
4	運動器のリハビリテーション (1) (教科書第9章)	頸頰腕症候群の成り立ち (1) 腕神経叢の構造 (片岡昌樹)
5	脳疾患のリハビリテーション (2) (教科書第8章)	脳の構造・機能とその障害 (大塚愛二)
6	脳疾患のリハビリテーション (3) (教科書第8章)	脳卒中急性期のリハビリテーション、摂食と栄養の管理 (大塚愛二)
7	脳疾患のリハビリテーション (4) (教科書第8章)	脳卒中回復期のリハビリテーション、パーキンソン病のリハビリテーション (大塚愛二)
8	運動器のリハビリテーション (2) (教科書第9章)	頸頰腕症候群の成り立ち (2) a. 胸郭出口症候群 b. Barre-Lieou症候群 C. 慢性疼痛 D. 痛みの評価診断 E. 治療アプローチ (片岡昌樹)
9	脳疾患のリハビリテーション (5) (教科書第8章)	循環器疾患と脳卒中 (大塚愛二)
10	脳疾患のリハビリテーション (6) (教科書第8章)	脳卒中の合併症予防と再発防止 (大塚愛二)
11	リハビリテーションと福祉 (教科書第10章)	A. 社会福祉 B. 介護保険 (古山喜一)
12	運動器のリハビリテーション (3) (教科書第9章)	A 骨折の治療と後療法 B 骨粗鬆症 C 捻挫へのアプローチ D 上肢損傷症候群 E

13	書第9章) 運動器のリハビリテーション (4) (教科 書第9章)	下肢損傷症候群 (片岡昌樹) D 上肢損傷症候群 E 下肢損傷症候群 (古山喜一)
14	障害者スポーツ (教科書第11章)	A. 障害者スポーツの概要 B. 障害者スポーツの歴史 C. 障害者スポーツの分類 D. 障害者スポーツの種目 E. 障害者スポーツにおける評価と効果 (古山喜一)
15	まとめ	総復習 (古山喜一)
16		

科目コード	3F305				区 分	コア			
授業科目名	関係法規				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

柔道整復師国家試験問題に十分に対応できるようになることを前提とし、「患者中心の医療」および「良質な医療を提供」がこれからの医療のスローガンであり、医療の質を問うだけでなく、医療従事者自身の技術や倫理観のレベルを問うものとなっていること等を学んでゆく。

#### <授業の到達目標>

法の基礎および意義、体系について理解し、柔道整復師法および医療従事者の資格法、医療法、その他の関係法規等についての基礎を理解する。

#### <授業の方法>

関係法規は、ディプロマポリシー2 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。テキストに沿って解説をし、国家試験問題を解きながら理解を深めて行く。單元ごとに小テストを行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テキストに沿って解説をし、国家試験問題を解きながら理解を深めて行く。單元ごとに小テストを行う。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期テスト・レポート50％ 小テスト20％ 学習意欲30％

#### <教科書>

全国柔道整復学校協会（2024年4月1日） 関係法規 2024年版 医歯薬出版  
 全国柔道整復学校協会 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 医歯薬出版

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業進行上の注意事項説明
2	憲法と法制度	法の体系、憲法
3	柔道整復師関連事項	柔道整復師及び柔道整復に関する事項、患者の権利
4	柔道整復師法第1章 総論	柔道整復師法の目的、定義
5	第2章 免許・第3章 国家試験	柔道整復師免許、名簿、柔道整復師国家試験
6	第4章 業務・第5章 施術所	業務、施術所に関する事項
7	第6章 雑則・第7章 罰則	柔道整復師雑則、罰則（1）
8	第8章 指定登録機関、他	罰則（2）、指定登録機関、指定試験機関、附則
9	柔道整復師法のまとめ	まとめ、柔道整復師法小テスト
10	医療従事者の身分法（1）	医師法、歯科医師法
11	医療従事者の身分法（2）	保健師助産師看護師法、診療放射線技師法
12	医療従事者の資格法（3）、その他	臨床検査技師法、薬剤師法、他
13	医療法（1）	医療法
14	医療法（2）	医療法施行令、他
15	社会福祉関係法規、他	社会福祉関係法規、社会保険関係法規、他
16		

科目コード	3F306				区 分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅳ(捻挫)				担当者名	橋口 浩治			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

日本の社会保障制度と職業倫理の概要を学び、特に柔道整復師の療養費制度を理解する。また、業を行い際に関連するリスクマネジメントの基礎を学ぶ。

#### <授業の到達目標>

1. 社会保障制度の内容を説明できる2. 社会保障制度の現状を説明できる3. 日本の保険医療の内容を説明できる4. 柔道整復師の療養費制度について説明ができる5. 柔道整復師の受領委任制度を説明できる6. 業を行う際に関連するリスクマネジメントを説明できる

#### <授業の方法>

配布資料による講義、ならびにグループ学習形式で進める。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ学習にてお互いに講義内容の確認し、発表を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

日本は皆保険制度である。柔道整復師はその中の療養費を取り扱うため、社会保障制度の理解や業務にて発生するリスクマネジメントを理解することは重要である。これらについて事前・事後に予習復習しておくことが必要である。（予習、復習共に1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験70%、小テスト等の課題30%で成績評価する。但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

#### <教科書>

全国柔道整復学校協会 監修 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 医歯薬出版  
全国柔道整復学校協会 監修 関係法規 医歯薬出版

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、社会保障制度の概要①	授業進行上の注意事項説明と社会保障について
2	社会保障制度の概要②	国民生活と社会保障、社会保障制度の変遷を理解する
3	社会保障を取り巻く環境①	高齢化がすすむ人口構成
4	社会保障を取り巻く環境②	増加する社会保障給付と負担
5	社会保障を取り巻く環境③	社会保障制度改革の全体像
6	社会福祉①	高齢者保健福祉、介護保険制度、子育て支援施策を理解する
7	社会福祉②	高齢者保健福祉、介護保険制度、子育て支援施策を理解する
8	療養費①	療養の給付と療養費を理解する
9	療養費②	療養費の制度の概要と実際の算定を理解する
10	職業倫理①	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応
11	職業倫理②	グループディスカッション事例
12	保険施術	保険施術、自賠責、労災、自費施術を理解する
13	リスクマネジメント①	リスクマネジメントとは
14	リスクマネジメント②	リスクマネジメントの実際
15	総合討議	これまでの授業を復習し再度確実な知識として修得する
16		

科目コード	3F307				区 分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅴ(軟部組織Ⅰ)				担当者名	古山 喜一			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

近年、柔道整復業務において軟部組織損傷を扱う頻度は高くなっており、業務において重要な位置付けとなっている。本科目では上肢の軟部組織損傷を大きく肩及び上腕部、肘及び前腕部、手関節及び手指部に分類し、それぞれの部位において機能解剖を学習した上で損傷のメカニズム、症状、合併症、治療法、保存療法の限界、後療法等について学修する。

### <授業の到達目標>

1. 上肢の軟部組織損傷の疾患概要について説明ができる。2. 他の疾患との鑑別し、処置方法を判断することができる。

### <授業の方法>

1. 講義（教員による疾患に対する説明）

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ学習において双方向で理解度を確認する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する講義内容に準じた事前課題（疾患に関係する解剖学（特に運動器系）、疾患の概要の下調べ（毎回、1時間程度））

復習：振り返り確認試験（毎回、15分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP3 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト等の課題 50%、定期試験50%で成績評価する。但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

### <教科書>

全国柔道整復学校協会 監修(2022年3月15日) 「柔道整復学・理論編（改訂第7版）」 南江堂

全国柔道整復学校協会 監修(2013年12月20日) 「柔道整復学・実技編（改訂第2版）」 南江堂

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション肩及び上腕部の軟部組織損傷(1)	授業ガイダンス、腱板断裂
2	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(2)	上腕二頭筋長頭腱損傷、ベネット損傷
3	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(3)	SLAP損傷、インピンジメント症候群
4	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(4)	野球肩、loose shoulder
5	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(5)	肩甲上神経絞扼、五十肩、石灰性腱炎、変形性肩関節症
6	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(1)	肘側副靱帯損傷、野球肘、テニス肘
7	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(2)	前腕コンパートメント、肘関節後外側不安定症
8	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(3)	正中神経障害、橈骨神経障害
9	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(4)	尺骨神経障害、パンナー病、変形性肘関節症
10	手関節及び手指部の軟部組織損傷(1)	TFCC損傷、手根管症候群
11	手関節及び手指部の軟部組織損傷(2)	ギヨン管症候群、キーンバック病
12	手関節及び手指部の軟部組織損傷(3)	マーデルング変形、腱交叉症候群、ド・ケルバン病
13	手関節及び手指部の軟部組織損傷(4)	側腹靱帯損傷、ロッキングフィンガー、ばね指
14	手関節及び手指部の軟部組織損傷(5)	デュブイトラン拘縮、ヘバーデン結節、ボタン穴変形、スワンネック変形
15	まとめ	総合復習、総合討議
16		

科目コード	3F308				区 分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅵ(軟部組織Ⅱ)				担当者名	古山 喜一			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

柔道整復業務において軟部組織損傷を扱う頻度は近年益々高くなっており、業務において重要な位置づけとなっている。本講義では下肢の軟部組織損傷を大きく股関節部、大腿部、膝部、下腿部、足関節部、足部に分類し、それぞれの部位において機能解剖を学習した上で損傷のメカニズム、症状、合併症、治療法、保存療法の限界、後療法等について学習する。

### <授業の到達目標>

各損傷のメカニズム、症状、合併症、治療法、保存療法の限界、後療法等について説明ができる。

### <授業の方法>

1. 教科書を中心とした講義

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ学習において双方向で理解度を確認する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：受講する講義に関する事前課題（柔道整復学総論の専門用語、解剖学（下肢の筋（起始停止、作用、支配神経）、講義内容の疾患の事前下調べ（毎回、1時間程度））、復習：講義開始終了時に実施内容の振り返りテスト（毎回、15分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP 3 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト等の課題 50%、定期試験50%で成績評価する。但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

### <教科書>

全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学・理論編 南江堂  
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学・実技編 南江堂

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	股関節の軟部組織損傷	筋・腱の損傷及びスポーツ障害
2	股関節の軟部組織損傷	成長期の障害及び加齢による障害
3	股関節の軟部組織損傷	その他の障害
4	大腿部の軟部組織損傷	筋・腱の損傷及びスポーツ障害
5	膝関節部の軟部組織障害	発育期の障害
6	膝関節部の軟部組織障害	靭帯損傷
7	膝関節部の軟部組織障害	半月板損傷
8	膝関節部の軟部組織障害	関節周囲の損傷
9	膝関節部の軟部組織障害	変形性膝関節症
10	膝関節部の軟部組織障害	その他の膝の損傷及び障害
11	下腿部の軟部組織損傷	筋・腱の損傷及び障害
12	足部の軟部組織損傷	靭帯損傷
13	足部の軟部組織損傷	足部の有痛性疾患
14	足部の軟部組織損傷	変形及び末梢神経障害
15	まとめ	総復習
16		

科目コード	3F309				区 分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅶ(臨床応用)				担当者名	平林 大輔			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

近年、超高齢化社会に伴い臨床現場で多くの高齢者を対象とすることがある。高齢者の多くは様々な基礎疾患を持っている事が多いため、骨折や脱臼、軟部組織損傷などの筋骨系のみならず内科系疾患について理解する事は必須である。本科目では、診療現場における病態の把握、治療指針に対する知識の習熟が学習の中心となる。

#### <授業の到達目標>

1. 医療機関の診療方法を理解し、他の医療従事者との情報共有をはかることができる。2. 筋骨系疾患のみならず内科系疾患の疑いをかけ、病態を判断することができる。3. 症状に適した対応手法を判断する事ができる。

#### <授業の方法>

1. 講義（教員による病態把握手法、疾患概要について）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する講義に対する事前課題（臨床系科目（検査方法、疾患概要）の下調べ（毎回、1時間程度））、復習：実施内容に関する確認試験（毎回、15分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価試験70％、学習意欲30％（事前課題の提出物含む）

#### <教科書>

全国柔道整復学校協会 柔道整復学・理論編 南江堂  
 全国柔道整復学校協会 一般臨床医学 南江堂  
 全国柔道整復学校協会 整形外科学 南江堂

#### <参考書>

公益社団法人全国柔道整復学校協会 施術の適応と医用画像の理解 南江堂

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	病態観察（1）	問診、視診について
2	病態観察（2）	姿勢、異常運動、歩行について
3	病態観察（3）	打診、聴診の定義、実施方法について
4	病態観察（4）	打診、聴診の実施
5	病態観察（5）	触診、身体測定について
6	病態観察（6）	身体のランドマークの触診、身体計測の実施
7	病態観察（7）	感覚検査、反射検査の定義、症状、疾患について
8	病態観察（8）	感覚検査、反射検査の実施
9	生命徴候（1）	生命徴候（バイタルサイン）について
10	生命徴候（2）	生命徴候（バイタルサイン）の測定実施
11	臨床症状と代表的疾患（1）	発熱、出血傾向を伴う疾患について
12	臨床症状と代表的疾患（2）	意識障害、チアノーゼを伴う疾患について
13	臨床症状と代表的疾患（3）	浮腫、肥満、やせを伴う疾患について
14	臨床症状と代表的疾患（4）	関節症状を伴う疾患について
15	総復習	病態観察、生命徴候、臨床症状と代表的疾患について
16		

科目コード	3F310				区 分	コア科目			
授業 科目名	臨床柔道整復学演習Ⅰ				担当者名	古山 喜一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

柔道整復師が遭遇する可能性のある全ての疾患に対して、業務範囲であるか否かの判断を演習形式で繰り返し確認することで、鑑別診断能力の定着を図る。

#### <授業の到達目標>

柔道整復師が行う業務範囲であるか否かが判断でき、業務範囲内と判断できた場合においては、外傷に対する処置に関して一連の対応を行うことができることを目標とする。

#### <授業の方法>

シミュレーションで少人数制のグループワーク形式を用い、骨折、脱臼、捻挫、軟部組織損傷に対する病態把握から整復固定能力の修得を確認する

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ学習により双方向で理解度を確認する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

特に予習が重要である。示された症例について、どのような視点をもって処置に至るまでの流れを持つのかを事前にシミュレーションし、自分の考えを持って演習に臨むことが重要である。そのため、臨床医学を中心に解剖学や生理学及び運動学といった基礎医学にまで遡って復習する。（1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP3 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト等の課題 50%、定期試験50%で成績評価する。但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

#### <教科書>

全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学・理論編（第7版） 南江堂

全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学・実技編 南江堂

全国柔道整復学校協会監修 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 医歯薬出版

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	頸・肩・上肢の痛み1	頸・肩・上肢の外傷・障害 症例検討 1
2	頸・肩・上肢の痛み2	頸・肩・上肢の外傷・障害 症例検討 2
3	頸・肩・上肢の痛み3	頸・肩・上肢の外傷・障害 症例検討 3
4	頸・肩・上肢の痛み4	頸・肩・上肢の外傷・障害 症例検討 4
5	頭部・体幹・下肢の痛み1	頭部・体幹・下肢の外傷・障害 症例検討 1
6	頭部・体幹・下肢の痛み2	頭部・体幹・下肢の外傷・障害 症例検討 2
7	頭部・体幹・下肢の痛み3	頭部・体幹・下肢の外傷・障害 症例検討 3
8	総合1	症例検討1
9	総合2	症例検討2
10	総合3	症例検討3
11	総合4	症例検討4
12	総合5	症例検討5
13	総合6	症例検討6
14	総合7	症例検討7
15	総合8	症例検討8
16		

科目コード	3F311				区 分	専門基礎科目			
授業 科目名	臨床柔道整復学演習Ⅱ				担当者名	簗戸 崇史			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	カリキュラムにより異なります

#### <授業の概要>

柔道整復師の治療法が基礎医学を根拠とした臨床医学であることを理解する為に日常診療の中で多く遭遇する疾患に焦点を当て、繰り返し確認することで、学習の定着を図る。 本科目では内科学、外科学、整形外科といった臨床医学を起点に疾患の病態が解剖学、生理学で学んだ人体の構造と役割や病理学で修得した分子生物学的アプローチのどの部分に基礎がなされているのかに遡り学習する。また、公衆衛生学などの繋がりについても学習し、基礎医学と臨床医学の繋がりを確実に理解する。

#### <授業の到達目標>

基礎専門科目の解剖学、生理学、病理学、運動学、公衆衛生学の領域で得られた情報と柔道整復術との関連性を考え、総合的に各種疾患の病態、発生機序、処置法、合併症、管理について説明ができることを目標とする。

#### <授業の方法>

基礎専門科目およびコア科目で学習した内容を総合的にまとめた配布資料および問題の実施、実施後におけるグループ学習で進める。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

特になし

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

総合的学習（学習した内容）のつながりをもとに、①病態、②発生機序、③処置法、④合併症、⑤管理の項目に分け予習し（3時間程度）、講義で実施した問題に対する復習する作業が重要である（3時間程度）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価試験（100％）で評価する。

#### <教科書>

全国柔道整復学校協会監修 解剖学 医歯薬出版

全国柔道整復学校協会監修 生理学 南江堂

全国柔道整復学校協会監修 病理学概論 医歯薬出版

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	基礎専門分野（解剖学）より各種疾患を考察する	末梢神経・神経叢と疾患の関連性について学習する
2	基礎専門分野（解剖学、柔道整復学）より各種疾患を考察する	骨格筋全般と疾患の関連性について学習する
3	基礎専門分野（解剖学、整形外科）より各種疾患を考察する	血管系と疾患の関連性について学習する
4	基礎専門分野（解剖学、外科学）より各種疾患を考察する	骨と疾患の関連性について学習する
5	総合考察1	解剖学、を中心とした視点で各種疾患との関連性について考察する
6	基礎専門分野（生理学）より各種疾患を考察する	内分泌と疾患の関連性について学習する
7	基礎専門分野（生理学、一般臨床医学）より各種疾患を考察する	呼吸器と疾患の関連性について学習する
8	基礎専門分野（生理学、一般臨床医学）より各種疾患を考察する	自律神経と疾患の関連性について学習する
9	基礎専門分野（生理学、公衆衛生学）より各種疾患を考察する	免疫システムと疾患の関連性について学習する
10	総合考察2	生理学を中心とした視点で各種疾患との関連性について考察する
11	基礎専門分野（運動学）より各種疾患を考	運動の発生のメカニズムと疾患の関連性について学習する

	察する	
12	基礎専門分野（運動学、リハビリテーション医学）より各種疾患を考察する	運動学習を中心とした疾患の関連性について学習する
13	基礎専門分野（病理学）より各種疾患を考察する	細胞の分子生物学的変化と疾患の関連性について学習する
14	基礎専門分野（病理学、一般臨床医学）より各種疾患を考察する	細胞のマクロ的形態変化と疾患の関連性について学習する
15	総合考察 3	運動学、病理学を中心とした視点で各種疾患との関連性について考察する
16		

科目コード	3F312				区 分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学演習Ⅲ				担当者名	簀戸 崇史			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

柔道整復術は、評価、整復、固定、後療法に分けられ、さらに後療法は手技療法、運動療法、物理療法から構成されており、整復、固定、後療法が三位一体となり、その相乗効果が期待できる治療手技として、患者の指導管理を行いながら早期に社会復帰させることを目的に行われていることを理解する。また、柔道整復術は幅広い専門基礎分野に支えられていることより、患者の人権や柔道整復師の義務と倫理、医療の安全の確保、社会と医療、人体の概要および生命徴候、診察法、検査法、各種の疾患、リハビリテーション等の専門基礎分野全般について、総合的に学習し確実に修得する。

### <授業の到達目標>

基礎専門科目（解剖学、生理学、病理学、公衆衛生学、関係法規）を踏まえた上で、臨床科目の内科学、外科学、整形外科学、リハビリテーション医学の領域で得られた情報と柔道整復術との関連性を考え、総合的に各種疾患の病態、発生機序、処置法、合併症、管理について説明ができることを目標とする。また、関連する法規についても修得する。

### <授業の方法>

配布した問題や資料を基に学習を進め個人及びグループ形式で学習を進める。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

特になし

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に提示された疾患について、①病態、②発生機序、③処置法、④合併症、⑤管理の項目に分け予習し授業に臨むことが重要である（3時間程度）。授業後は講義内容をふりかえり、「学び直した学習内容」についてのまとめを期日までに紙媒体あるいはデータの場合はDropboxを用い担当教員に提出する。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【対面授業】定期（評価）試験（100％）で評価する。尚、シラバスで明示してある総合考察1又は2が終了した時点で、臨床柔道整復学演習Ⅲ試験①～③を実施し、その3回の試験において2回以上国家試験合格基準を上回ること、国家試験の受験に際して必要な「卒業見込み証明書」を発行する。

### <教科書>

全国柔道整復学校協会監修 一般臨床医学 医歯薬出版  
 全国柔道整復学校協会監修 整形外科学 南江堂  
 全国柔道整復学校協会監修 外科学 南江堂

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	基礎専門分野（解剖学・生理学）より人体構造と役割を理解する。	運動器と器官系のの構造と役割について理解を進める。
2	基礎専門分野（外科学・病理学・公衆衛生学）より各種疾患を考察する	腫瘍・炎症・感染と疾患の関連性について学習する
3	基礎専門分野（整形外科学・柔道整復学）より各種疾患を考察する	骨・関節と疾患の関連性について学習する
4	基礎専門分野（リハビリテーション医学・運動学）より各種疾患を考察する	医学的評価と疾患の関連性について学習する
5	総合考察1	各徴候が示す臨床症状等について疾患の病態把握を中心に基礎医学分野の知識（解剖学・生理学・公衆衛生学）を土台に臨床医学的考察を深める。また、関連する法（関係法規）についても学習する。
6	基礎専門分野（内科学）より各種疾患を考察する	腹横筋・内腹斜筋・外腹斜筋・腹直筋2
7	基礎専門分野（外科学・病理学）より各種疾患を考察する	ショック・輸血、輸液と疾患の関連性について学習する
8	基礎専門分野（整形外科学・柔道整復学）より各種疾患を考察する	骨腫瘍と症状の関連性について学習する
9	基礎専門分野（リハビリテーション医学・	脳卒中、脊髄損傷と症状の関連性について学習する

	運動学) より各種疾患を考察する	
10	総合考察2	各徴候が示す臨床症状等について疾患の病態把握を中心に基礎医学分野の知識(解剖学・生理学・公衆衛生学)を土台に臨床医学的考察を深める。また、関連する法(関係法規)についても学習する。
11	基礎専門分野(内科学)より各種疾患を考察する	医療面接、視診、打診、聴診、触診、生命徴候、感覚検査、反射検査、代表的な臨床症状等について理解を深める。
12	基礎専門分野(外科学・病理学)より各種疾患を考察する	移植・出血と疾患の関連性について学習する
13	基礎専門分野(整形外科・柔道整復学)より各種疾患を考察する	スポーツと疾患の関連性について学習する
14	基礎専門分野(リハビリテーション医学・運動学)より各種疾患を考察する	リハビリテーションと福祉の関連性について学習する
15	総合考察3	各徴候が示す臨床症状等について疾患の病態把握を中心に基礎医学分野の知識(解剖学・生理学・公衆衛生学)を土台に臨床医学的考察を深める。また、関連する法(関係法規)についても学習する。
16		

科目コード	3F313				区 分	コア科目			
授業 科目名	柔道整復治療学				担当者名	石原 和泰			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

整形外科医による医療安全に関する講義を中心に医療画像の見方などについても修得する。柔道整復師が扱う疾患は骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷であり、急性あるいは亜急性外傷に限られている。柔道整復師が業務を行うにあたり、患者に対する医療安全の観点から、対象となる運動器疾患が業務範囲内にあるかどうかを適切に判断し、必要であれば医療機関との連携を図りながら柔道整復術を適切に実施できる能力の修得を目的とする。近年、画像診断機器の発達により、骨はもとより軟部組織の病的状態を可視化することが可能になってきている。解像度や分解能が高まったことから、これまで触診・視診に頼っていたものが客観的定量的に示せるようになってきている。このような医療の現状に追従した画像診断学について学ぶ。

### <授業の到達目標>

健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医学的な分野（特に整形外科的分野）についての知識を身に付ける。そして医師をはじめとするメディカル・コメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語を持って話が出来ることを目標とする。

### <授業の方法>

概ねスライドを使って講義を行う。授業理解度の確認としてミニッツペーパーを有効的に用い、学生、教員間で理解度を共有し学習内容の確実な定着に繋げる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング なし

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義のレジュメは各回の講義の最初に配布する。講義中は確実な定着に繋げる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

（評価方法）定期試験 90点、出席点 10点の100点満点とする。出席点は1回の欠席ごとに2点の減点とする。試験時はノートの持ち込みは認めない。（出欠確認）出席の確認は講義冒頭の点呼により行う。点呼に間に合わなかった者は講義終了時に申し出ること。（欠席届の取り扱いについて）当該講義のテーマに即したレポートを提出すること。レポートの提出期限は欠席した月の翌月末までとする。（それ以降は受理しない）レポートの提出により出席点を与える。（公欠の取り扱いについて）学則に則る。（その他）講義資料の再配布は行わないので

### <教科書>

公益財団法人 全国柔道整復学校協会監修 施術の適応と医用画像の理解 南江堂

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	骨腫瘍	骨腫瘍の診断と病態
2	脊椎の外傷と脊髄損傷（1）	脊椎の外傷と脊髄損傷（骨粗鬆症を含む）（1）
3	脊椎の外傷と脊髄損傷（2）	脊椎の外傷と脊髄損傷（骨粗鬆症を含む）（2）
4	足関節の外傷	Laugehansen分類について
5	症例検討による演習（1）	症例検討による演習（1）
6	症例検討による演習（2）	症例検討による演習（2）
7	症例検討による演習（3）	症例検討による演習（3）
8	症例検討による演習（4）	症例検討による演習（4）
9	症例検討による演習（5）	症例検討による演習（5）
10	症例検討による演習（6）	症例検討による演習（6）
11	症例検討による演習（7）	症例検討による演習（7）
12	症例検討による演習（8）	症例検討による演習（8）
13	症例検討による演習（9）	症例検討による演習（9）
14	症例検討による演習（10）	症例検討による演習（10）
15	総合・まとめ	総合・まとめ
16		

科目コード	3G102				区 分	コア			
授業科目名	経営組織論				担当者名	赤木 邦江			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習（発表、グループディスカッション）	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本講義では、意識的に調整された複数の人間の活動の集合体である組織について、「組織理論」の観点から組織の基本的な概念や組織の形態について体系的に学修する。組織といっても多様であり、企業を対象組織としてのみ論じられたり、経験則のみで語られるような「組織理論」と異なり、実社会で使える理論や知識を提供する。それにより、組織デザインの方法や組織運営に関わる知識と技術を養い、組織運営を行う際に必要となる「モチベーション」や「リーダーシップ」に関する理論、「組織のコミュニケーション」に関する理論等を学修することで、学生が組織で働くことの意味を理解し自分に合った働き方を考える際の一助となるようにする。

#### <授業の到達目標>

・身の回りにある「組織」はどのような組織か、「よりよい組織」とはどのような組織かを考え、自分の言葉・文章で伝えることができる。  
・経営組織論の基本的内容（理論や概念）を理解し、多様な組織の特徴を把握する。

#### <授業の方法>

・対面授業およびグループディカッション等によるアクティブラーニングを実施する。 GoogleClassroomを活用したレジュメや課題の配布、資料の共有など、ICTの活用に努める。（GoogleClassroomにアップしたレジュメを印刷またはダウンロードすること）  
・グループディカッション等により理解を深めるが、各学生個人が意見を持ち発表することを基本とする。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングあり：グループディスカッション、グループワーク、テーマに関するスピーチ等

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：予習課題を提示するので、自分で考え発表できるようにする（1時間程度必要）。 ※日頃から新聞、雑誌、インターネット等、様々なメディアに取り上げられている経営組織に関する情報を収集し、グループディスカッションの準備をしておく。  
・復習：講義で学習したことの振り返り、レジュメ整理、事後課題など（1時間程度必要）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

リフレクション（振り返り）レポート 42% 学習意欲・授業態度 28%、最終まとめテスト 30%【配布レジュメ、手書きノート（コピー、写真コピー不可）等持ち込み可】 授業に関する質問は講義終了後、および教員のオフィスアワーで対応する。

#### <教科書>

指定しない。講義で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

#### <参考書>

指定しない。講義で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション：経営組織論の基礎(1)	組織論の射程：組織論とは、学ぶ視点
2	経営組織論の基礎(2)	組織論の基本理論：個人の限界を乗り越える手段＝組織、組織論の古典、現代経営組織論
3	組織論の中の「個人」—マイクロ組織論—(1)	組織と人間の関係性：生産性向上における人間関係という経営課題
4	組織論の中の「個人」—マイクロ組織論—(2)	リーダーシップ論とモチベーション論
5	組織論の中の「個人」—マイクロ組織論—(3)	組織の中の個人の成長：キャリア論、組織社会化、人的資源管理
6	組織論の中の「個人」—マイクロ組織論—(4)	組織の中のグループ：小集団の意思決定とコミュニケーションとチーム意識
7	環境に囲まれた「組織」—マクロ組織論—(1)	環境と組織：組織を取り巻く環境、コンティンジェンシー（状況適応）理論
8	環境に囲まれた「組織」—マクロ組織論—(2)	組織の設計：組織の構成・構造、ネットワーク組織
9	環境に囲まれた「組織」—マクロ組織論—	組織の変革と組織学習：組織変革のタイプ、組織構成員の意識改革

10	(3) 環境に囲まれた「組織」—マクロ組織論— (4)	組織間関係：組織間関係とは、組織間関係論の代表的理論、 ーションとしての組織間関係	コラボレ
11	様々な組織体(1)	企業組織の組織論：コーポレート・ガバナンス、企業組織の国際比較	
12	様々な組織体(2)	流通組織の組織論：外部環境の変化と組織、スーパーマーケット・卸売業組織	
13	様々な組織体(3)	非営利組織の組織論：NPOの定義・歴史・運営、NPOと他組織の違い	
14	様々な組織体(4)(5)	医療機関の組織論：医療機関とその特徴、医療品業界・医療機器業界スポーツ組織 の組織論：スポーツ組織の形態、プロ組織とアマ組織	
15	期末試験：「経営組織論」理解度確認ま とめテスト全体の振り返り	「経営組織論」理解度確認まとめテストの解答・解説これからの「経営組織論」につ いて受講の自己評価	
16			

科目コード	3G103				区 分	コア科目			
授業科目名	経営戦略論				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### ＜授業の概要＞

本講義の目的は、経営戦略に関する基本的な理論を学び、それを実践に活かすための知見を修得することにある。それゆえ、それぞれの回において、事例を交えながら実践に活かすことのできる理論を理解していくことになる。実務レベルの経営戦略に関する理論的な知識の修得と、実際に仕事においてその理論を活かすことのできる実践基礎力を身に付けてもらうようにする。

### ＜授業の到達目標＞

到達目標1：経営戦略に関する基本的な知識を身に付ける。到達目標2：経営戦略の知識を用い、それが具体的な事例にどのように活かされているか説明できる。到達目標3：各々の知識の関係を総合的・体系的に理解し、自ら実践に応用できる。

### ＜授業の方法＞

1. 配布資料を用いて、講義を行なう。2. 授業中は質疑応答しながら授業を進めるため、対話型授業をめざす。3. 授業終了前に小テストを実施し、基礎知識の定着度を確認しながら進めていく。

### ＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブラーニングの有無：有ディスカッション、グループワークを行う。

### ＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 授業計画に記載されている授業内容、用語などについて、図書館等にある事典や書籍などを参照しつつ、必ず事前に調べて、講義に臨むこと（予習90分）。2 毎回の授業で学んだ内容をレポートに備えて繰り返し勉強しておくこと（復習90分）3 関連するニュース等に目を通しておくこと

### ＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、現代経営学科のDP2「経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。」およびDP3「経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。」に関連している。

### ＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①授業における課題提出：30%②授業内レポート×2回：40%③授業内確認テスト：30%上記の総合点で評価する。

### ＜教科書＞

使用せず。

### ＜参考書＞

適宜紹介する。

### ＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	経営戦略論とは何か	経営戦略論とはどのような学問かを理解し、その対象と特徴について学ぶ。
2	経営戦略論の系譜	1960年代以降に誕生した経営戦略をめぐる理論的枠組みについて学ぶ。
3	業界の構造	ファイブフォースを中心に業界の構造分析について学ぶ。
4	取り巻く環境	PEST分析、3C分析、SWOT分析について学ぶ。
5	基本戦略	コストリーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略について学ぶ。
6	製品ライフサイクル別戦略	製品ライフサイクル仮説、製品ライフサイクル別の戦略について学ぶ。
7	授業内レポート①	第1回から第6回の内容について理解度を確認する。
8	市場地位別戦略	市場地位の捉え方、市場地位別の戦略について学ぶ。
9	リソース・ベースト・ビュー	資源アプローチ、VRIO分析について学ぶ。
10	事業システム	バリューチェーンを中心に事業システムについて学ぶ。
11	事業領域	ドメイン設定の意義、企業成長とドメインの変化について学ぶ。
12	成長戦略	成長マトリックス、多角化とシナジー効果について学ぶ。
13	資源展開	製品ポートフォリオ・マネジメント（PPM）と戦略的事業単位（SBU）について学ぶ。
14	授業内レポート②	第8回から第13回の内容について理解度を確認する。
15	本科目のまとめ	学習内容の総復習
16		

科目コード	3G104				区 分	コア科目			
授業科目名	中小企業論				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

「働く」視点から中小企業への理解を深めるとともに、すべての企業が中小企業の過程を経たうえでいかに進化していくのかを学ぶ。また中小企業問題の歴史的変遷について学ぶことで現在の中小企業を積極的に評価し、中小企業が働く場として重要な意義を持つことについて考察する。

### <授業の到達目標>

①働く場としての中小企業や起業の重要性、あるいは中小企業存立の意義について自らの言葉で説明できる。②中小企業政策のあり方や中小企業を巡る諸問題について、当事者意識を持ち議論できる。

### <授業の方法>

1. 配布資料を用いて、講義を行なう。2. 授業中は質疑応答しながら授業を進めるため、対話型授業をめざす。3. 授業終了前に小テストを実施し、基礎知識の定着度を確認しながら進めていく。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの有無：有ディスカッション、グループワーク

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 授業計画に記載されている授業内容、用語などについて、図書館等にある事典や書籍などを参照しつつ、必ず事前に調べて、講義に臨むこと（予習90分）。2 空欄埋めシートなどを使って、講義で扱った内容を何度も復習すること（復習60分）。3 講義に関する不明点等があれば、自分で調べたり、教員に尋ねたりすること（復習30分）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、現代経営学科のDP2「経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。」およびDP3「経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。」に関連している。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①授業における課題提出：30%②授業内レポート×2回：40%③授業内確認テスト：30%上記の総合点で評価する。

### <教科書>

使用せず。

### <参考書>

適宜指示する。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	中小企業論とは何か。	中小企業論はどのような学問かを理解し、その対象と特徴について学ぶ。
2	そもそも中小企業とは	中小企業のイメージ、法的定義について学ぶ。
3	戦前と中小企業	再来産業と中小企業、戦時統制と下請工場について学ぶ。
4	戦後高度成長と中小企業政策	中小企業基本法と中小企業の近代化について学ぶ。
5	中小企業政策の転換と21世紀中小企業	構造改革・デフレスパイラル・アベノミクスとも関連して中小企業の変化について学ぶ。
6	2つの中小企業法の理念・目標・政策の柱	旧中小企業基本法（1963）と新中小企業基本法（1999）を中心に学ぶ。
7	授業内レポート①	第1回から第6回の内容について理解度を確認する。
8	中小企業のパラダイム転換	「小規模企業基本法」との関連から学ぶ。
9	中小企業の現状と課題①	2023年版中小企業白書・小規模企業白書・第1部から学ぶ。
10	中小企業の現状と課題②	2023年版中小企業白書・小規模企業白書・第2部から学ぶ。
11	政府の中小企業政策と自治体の中小企業政策	自治体による政策の特徴を政府と比較しながら学ぶ。
12	地域内再投資力と中小企業	地域の持続的発展の視点から学ぶ。
13	中小企業の淘汰・再編成論	デービッド・アトキンソンの議論について学ぶ。
14	授業内レポート②	第8回から第13回の内容について理解度を確認する。
15	本科目のまとめ	学習内容の総復習
16		

科目コード	3G105				区 分	コア			
授業科目名	人的資源論				担当者名	赤木 邦江			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習（グループワーク：ディスカッション、スピーチ）	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

経済成長の伸び悩み、経営の厳しさが課題である昨今、組織（企業・行政・団体等）の持続的成長に欠かせないのは、特に「人的資源：Human・resource」の効率的な配置や働く仕組み作りである。21世紀に入り、経営の資源である「ヒト・モノ・カネ・情報」の中で、「ヒト＝人的資源」の考え方・仕組みは大きく変化してきている。本授業では、この「人的資源」の新しい考え方や制度をわかりやすく解説する。

#### <授業の到達目標>

- ・組織において求められる人的資本と経営戦略の基本を理解できるようになる。
- ・学んだ基礎理解をもとに企業経営におけるこれからの人財・組織マネジメントの方向性を理解できるようになる。
- ・興味関心のある組織、身近な組織の「人的資源」の配置制度等、人事労務管理を探究することにより、就職活動への参考にすることができるようになる。

#### <授業の方法>

・対面授業およびグループディスカッション等によるアクティブラーニングを実施する。 GoogleClassroomを活用したレジュメや課題の配布、資料の共有など、ICTの活用に努める。（GoogleClassroomにアップしたレジュメを印刷またはダウンロードすること）・グループディスカッション等により理解を深めるが、各学生個人が意見を持ち発表することを基本とする。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングあり：ペアワーク・グループワーク、ディスカッション、スピーチ等

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：課題を提示するので、自分で考え発表できるようにする（1時間程度必要）。 ※日頃から新聞、雑誌、インターネット等、様々なメディアに取り上げられている経営組織に関する情報を収集し、グループディスカッションの準備をしておく。

・復習：講義で学習したことの振り返り、レジュメ整理、事後課題など（1時間程度必要）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

リフレクション（振り返り）レポート 42% 学習意欲・授業態度 28%、最終まとめテスト 30%【配布レジュメ、手書きノート（コピー、写真コピー不可）等持ち込み可】 授業に関する質問は講義終了後、および教員のオフィスアワーで対応する。

#### <教科書>

指定しない。レジュメ等随時配布、クラスルームにアップする。

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：授業の進め方、成績評価の基準、「3分間スピーチ」についてイントロダクション：「人的資源論とは」	「3分間スピーチ」の内容：労働力（＝人的資源）に関するニュース・情報について「人的資源論」を学ぶ視点「人的資源論」の基本的な考え方
2	第1回目のガイダンス・内容確認企業経営と人的資源	企業経営の要素と仕組み企業経営と組織人的資源管理の諸職能
3	モチベーション・リーダーシップ・コミットメント「3分間スピーチ」発表とディスカッション	従業員のモチベーション上司と部下の関わり組織と従業員の関わり：コミットメント「3分間スピーチ」発表とディスカッション
4	組織構造と職務内容	組織づくりの基礎分業：役割分担分割した仕事の調整、効率化「3分間スピーチ」発表とディスカッション

5	人事等級制度	「なぜ働く人の序列付けの仕組みが必要なのか」議論「何を基準に働く人を序列付けするのか」議論人事等級制度の変化「3分間スピーチ」発表とディスカッション
6	人的資源管理の仕組み：雇用管理	雇用管理とは終身雇用の意義と限界雇用の流動化「3分間スピーチ」発表とディスカッション
7	キャリア開発	キャリアの考え方キャリアを取り巻く組織と個人企業内昇進の特徴と新たな取り組み・変化する能力開発「3分間スピーチ」発表とディスカッション
8	人事考課制度	人事考課とは職能等級制度における人事考課制度職務・役割等級における人事考課人事考課の見直し、改善事例「3分間スピーチ」発表とディスカッション
9	専門職制度	専門職制度導入の背景専門職制度の具体例専門職制度の効果と課題「3分間スピーチ」発表とディスカッション
10	賃金制度	賃金制度とは賃金体系賃金制度の新動向「3分間スピーチ」発表とディスカッション
11	福利厚生制度	福利厚生制度とは今日の福利厚生制度カフェテリア・プラン「3分間スピーチ」発表とディスカッション
12	労使関係	人的資源と労使関係団体交渉・労使協議制「3分間スピーチ」発表とディスカッション
13	新しい勤労スタイル：非正規労働者女性労働者、高齢労働者	非正規労働者の多元化の進展求められる雇用システムの多元化人材ポートフォリオとは女性労働者・高齢労働者の労働市場「3分間スピーチ」発表とディスカッション
14	総括（全体のまとめ）・振り返り	全体のまとめ・振り返り「3分間スピーチ」発表とディスカッション
15	期末試験（まとめテスト）「人的資源」の基本確認受講の自己評価	まとめテストの解答・解説「人的資源論」とは受講の自己評価
16		

科目コード	3G106				区 分	コア科目			
授業 科目名	国際経営論				担当者名	溝越 隆興			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

グローバル化が進んだ現在では、多くの企業が海外でなんらかの活動をおこなっている。企業の活動が国内で完結する場合と異なり、ヒト・モノ・カネ・情報といった経営資源が国境を越える場合は、各国の文化や気候、物理的な距離、政治や経済といった様々な状況に大きく影響を受けるため、想定外の困難に直面することがある。このような困難な状況の中で、企業は海外に存在する活動拠点をどのように管理しているのか、また、海外市場で商品やサービスを提供するためにどのような戦略を立案しているのか。本講義ではこうした事象に対して国際経営の基礎知識や理論をもとに日本企業に焦点を当てながら解説する。

### <授業の到達目標>

1 国際経営の理論や概念を説明できる。2 日本企業の国際展開や国際事業活動の特徴について説明できる。3 現代企業の国際事業活動に関する問題について自分の視点から考察できる。

### <授業の方法>

1. 配布資料を用いて、講義を行なう。2. 授業中は質疑応答しながら授業を進めるため、対話型授業をめざす。3. 授業終了前に小テストを実施し、基礎知識の定着度を確認しながら進めていく。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの有無：有ディスカッション、グループワーク

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 授業計画に記載されている授業内容、用語などについて、図書館等にある事典や書籍などを参照しつつ、必ず事前に調べて、講義に臨むこと（予習90分）。2 空欄埋めシートなどを使って、講義で扱った内容を何度も復習すること（復習60分）。3 講義に関する不明点等があれば、自分で調べたり、教員に尋ねたりすること（復習30分）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、現代経営学科のDP2「経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。」およびDP3「経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。」に関連している。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①授業における課題提出：30%②授業内レポート×2回：40%③授業内確認テスト：30%上記の総合点で評価する。

### <教科書>

使用せず。

### <参考書>

適宜指示する。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	国際経営論とは何か	国際経営論はどのような学問かを理解し、その対象と特徴について学ぶ。
2	国際経営の基礎知識（1）	企業の国際化の要因とプロセス
3	国際経営の基礎知識（2）	海外進出の形態
4	海外直接投資の理論	伝統的な理論とその系譜
5	本社と海外拠点の関係性（1）	組織デザインとグローバル統合と現地適応
6	本社と海外拠点の関係性（2）	知識移転と拠点間の協働・競争関係
7	授業内レポート①	第1回から第6回の内容について理解度を確認する。
8	国際経営戦略（1）	国際競争戦略の展開
9	国際経営戦略（2）	海外子会社の経営戦略
10	国際経営戦略（3）	グローバルイノベーションと戦略的提携
11	国際経営戦略（4）	国際マーケティング
12	国際人的資源管理（1）	多様な人材のマネジメント
13	国際人的資源管理（2）	人の現地化の問題とその背景
14	授業内レポート②	第8回から第13回の内容について理解度を確認する。
15	本科目のまとめ	学習内容の総復習
16		

科目コード	3G107				区 分	コア科目			
授業科目名	イノベーション論				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

多様性と変化の求められる現代において、新しい「もの」「考え方」「システム」などを創造すること、そして、新しい流れを的確につかみ、適応することが重要だと考えられている。そこで本講義では、刻々と変わる技術や価値観に適応できるよう、イノベーションとは何か、事例や理論を学び見えないものを具体化するプロセスについて学ぶ。

### <授業の到達目標>

①イノベーション・マネジメントに関する基礎知識を身につける。②イノベーション・マネジメントの理論・概念を用いて経営現象を分析できるようになる。

### <授業の方法>

1. 配布資料を用いて、講義を行なう。2. 授業中は質疑応答しながら授業を進めるため、対話型授業をめざす。3. 授業終了前に小テストを実施し、基礎知識の定着度を確認しながら進めていく。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有ペアワーク、グループワークを用いて講義を進めていく。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 授業計画に記載されている授業内容、用語などについて、図書館等にある事典や書籍などを参照しつつ、必ず事前に調べて、講義に臨むこと（予習90分）。2 空欄埋めシートなどを使って、講義で扱った内容を何度も復習すること（復習60分）。3 講義に関する不明点等があれば、自分で調べたり、教員に尋ねたりすること（復習30分）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、現代経営学科のDP2「経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。」およびDP3「経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。」に関連している。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①授業における課題提出：30%②授業内レポート×2回：40%③授業内確認テスト：30%上記の総合点で評価する。

### <教科書>

使用せず。

### <参考書>

適宜紹介する。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イノベーションとは何か	イノベーション論はどのような学問かを理解し、その対象と特徴について学ぶ。
2	イノベーションの歴史	産業革命以後を中心にイノベーションの歴史について学ぶ。
3	イノベーションの源泉	シュンペーターのイノベーション論を中心に学ぶ。
4	イノベーションの発生・普及	イノベーションの発生と普及について学ぶ。
5	イノベーションのダイナミクス	イノベーションの連続性と非連続性について学ぶ。
6	イノベーションと起業家	起業家が経済活性化にとってなぜ重要な役割を果たすのかについて学ぶ。
7	授業内レポート①	第1回から第6回の内容について理解度を確認する。
8	イノベーションと組織	イノベーションを推進する組織について学ぶ。
9	イノベーションと経営戦略	イノベーションに必要な戦略論の議論について学ぶ。
10	オープン・イノベーション	企業のイノベーションの手段として注目されているオープン・イノベーションについて学ぶ。
11	サービス・イノベーション	サービス価値を高める可能性を持つフレームワークとイノベーションの仕組みの関係について学ぶ。
12	イノベーションと知財管理	知財管理の基本的な種類について学ぶ。
13	イノベーションと規制・制度	イノベーションに影響を与えるさまざまな規制や制度について学ぶ。
14	授業内レポート②	第8回から第13回の内容について理解度を確認する。
15	本科目のまとめ	学習内容の総復習
16		

科目コード	3G108				区 分	コア科目			
授業科目名	ベンチャー企業論				担当者名	齊藤 直人			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業は将来、ベンチャー企業を起業、あるいはベンチャー企業への就職や企業内での新規事業やプロジェクト担当する際に活かせる知識を学びます。Ⅰベンチャー企業に必要な基本スキルと考え方 Ⅱベンチャー企業に必要な経営計画書の作成法 Ⅲ周囲をインクルージョンするビジネスコンテスト等でのプレゼンテーション技法 を学びます。起業か就職か、就職する前に少しでも経営の実態や経営者としての自身の適性を知りたいという場合でも、この講義から学びを得られるでしょう。学生時代に起業し、20年以上経営者である担当教員が、多くの学生起業家を指導した経験を踏まえて、指導します。

### <授業の到達目標>

経営計画の作成を通じて、以下の3つを目標とします。1) ベンチャー企業に必要な基本知識が説明できる 2) 「経営計画」の作成方法を体験的に理解している 3) 将来のビジネスマンとして、あるいは起業家としてのプレゼンテーションの基本が身に付いている

### <授業の方法>

毎回、経営計画の作成に必要な知識を、毎講のテーマに分けて学びます。講義とディスカッション、グループワーク、課題発表を実施します。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

この授業科目では、授業時間中に、授業を元にしたディスカッション、受講生同士でのグループワークと、経営計画のプレゼンテーション実習を行います。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：経営計画の発表に向けた準備（30分程度）復習：講義を元に、経営計画書・プレゼンテーションの作り込む実践課題（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 とレポート課題 45%、経営計画書・プレゼンテーション 55%※定期試験なし、期末レポートなし

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方と単位について ベンチャー企業に必要な要素とは？
2	Ⅰ ベンチャー企業の基本①	創造的活動 アイディアや夢、やりたいことを事業化してみる
3	Ⅰ ベンチャー企業の基本②	なぜ、ベンチャー企業なのか？ストーリーと自分の適性を考える
4	Ⅰ ベンチャー企業の基本③	経営資源を集める方法 支援者を集める2つのツールのポイントを知る
5	Ⅰ ベンチャー企業の基本④	何のための経営か？理念体系（ビジョン・ミッション・バリュー・パーパス）を考える
6	Ⅱ 経営計画書の作成①	ビジネスモデルと戦略を考える
7	Ⅱ 経営計画書の作成②	理想のポジショニングを考える
8	Ⅱ 経営計画書の作成③	経営計画の具体性・目標設定を考える
9	Ⅱ 経営計画書の作成④	収支計画と資金調達方法を考える
10	Ⅲ プレゼンテーション技法①	ヒト、モノ、カネ...経営資源が集まる、聴衆を魅了するプレゼンテーションとは
11	Ⅲ プレゼンテーション技法②	伝えたい価値の明確化と、価値を伝えるシナリオ
12	Ⅲ プレゼンテーション技法③	プレゼンテーションを自己検証する
13	Ⅲ プレゼンテーション技法④	プレゼンテーション資料の作り込みよりも大切なポイント
14	経営計画書とプレゼンテーションの発表①	制作物を共有し、仲間から学ぶ
15	経営計画書とプレゼンテーションの発表②	ベンチャー企業論を通じて学んだことの発表など
16		

科目コード	3G109				区 分	コア科目			
授業科目名	経営情報論				担当者名	赤木 邦江			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習（グループワーク・スピーチあり）	卒業要件	選択

### ＜授業の概要＞

情報通信技術（ICT：Information and Communication Technology）の進展から、近年のDX（Digital Transformation）というスローガンのもと、これまでとはかなり異なった特徴をもつ情報化実践が展開されている。最新のICTを駆使して成功した事例も失敗した事例もあり、それら現実の情報化実践を解明し、「はじめにICTありき」の発想のような視点ではなく、ICTと人間・組織・社会的特性の相互依存性を重視する社会技術システム、社会構成主義、社会物質性といった一連の視点が重要となる。本講義では、高度で先進的なデジタル技術およびネットワーク技術を前提にして、その可能性と限界・問題を認識し、DX環境はビジネスの世界だけではなく、私たち個々人の多様な日常の社会的活動を支えていることを学修する。

### ＜授業の到達目標＞

・日常生活にある身近な「高度で先進的なデジタル技術およびネットワーク技術＝DX環境」を認識・理解ができる。・ICTを駆使してもビジネス・パフォーマンスが向上しないのは、機能の問題ではなく、その企業の社員同士のICTを使わない対面や文字情報でのコミュニケーションや、組織の独特の文化や制度などが大きく影響していることを知る。

### ＜授業の方法＞

・対面授業およびグループディカッション等によるアクティブラーニングを実施する。 GoogleClassroomを活用したレジュメや課題の配布、資料の共有など、ICTの活用に努める。（GoogleClassroomにアップしたレジュメを印刷またはダウンロードすること）・グループディカッション等により理解を深めるが、各学生個人が意見を持ち発表することを基本とする。

### ＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブラーニング有り：グループディスカッション、グループワーク、「3分間スピーチ」

### ＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：予習課題を提示するので、自分で考え発表できるようにする（1時間程度必要）。 ※日頃から新聞、雑誌、インターネット等、様々なメディアに取り上げられているDX推進に関する情報を収集し、 グループディスカッションの準備をしておく。 ・復習：講義で学習したことの振り返り、レジュメ整理、事後課題など（1時間程度必要）。

### ＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### ＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への積極的参加・態度 28%、リフレクション（振り返り）レポート 42%総括テスト 30%：配布レジュメ、自筆ノート（コピー、写真コピー不可）持ち込み可 授業に関する質問は講義終了後、および教員のオフィスアワーで対応する。

### ＜教科書＞

指定しない。講義で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

### ＜参考書＞

指定しない。講義で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

### ＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：授業の進め方、成績評価についてDX推進に関する「3分間スピーチ」についてイントロダクション：経営情報論の基礎(1)	「情報社会」から「未来社会」へ、現在の転換（DX:デジタル・トランスフォーメーション）、事例紹介①
2	経営情報論の基礎(2)	経営資源としての「情報」特性、組織体と情報システム、経営情報論の意義、事例紹介②
3	経営情報論の基礎理論DX推進に関する「3分間スピーチ」及びグループディスカッション	経営情報論と経営戦略、経営情報論と経営組織、多様なシステム思考、事例紹介③
4	経営情報システム観の変遷DX推進に関する「3分間スピーチ」及びグループディス	情報化実践スローガンの変遷、DXによる能動的な環境適応、事例紹介④

5	カッション 情報通信技術の進展と組織(1)DX推進に関する「3分間スピーチ」及びグループディスカッション	コンピューティング能力の進展、偏在するICT、データベース、事例紹介⑤
6	情報通信技術の進展と組織(2)DX推進に関する「3分間スピーチ」及びグループディスカッション	ネットワーク・コンピューティング、先端的ICT、事例紹介⑥
7	経営情報システムの設計・開発DX推進に関する「3分間スピーチ」及びグループディスカッション	経営情報システムの開発方法論、情報システムの開発方法論の革新、現代の情報システム開発方法論、情報化戦略と組織・事業戦略との融合、事例紹介⑦
8	経営情報システムの管理DX推進に関する「3分間スピーチ」及びグループディスカッション	情報化推進の組織体制、情報化投資と評価、情報セキュリティ、情報化実践のガバナンス、事例紹介⑧
9	情報通信技術を活用したビジネス・イノベーションDX推進に関する「3分間スピーチ」及びグループディスカッション	現代のビジネス環境、イノベーションをめぐる議論、プロセス・イノベーション、事例紹介⑨DX推進に関する「3分間スピーチ」及びグループディスカッション
10	ネット・ビジネスの萌芽から進展	ネット・ビジネスの展開、サーフ・エコノミー、ネット・ビジネスの新展開、事例紹介⑩DX推進に関する「3分間スピーチ」及びグループディスカッション
11	情報通信技術と組織コミュニケーション	組織コミュニケーションの機能、組織コミュニケーションとICT、CMCの実践としてのテレワークDX推進に関する「3分間スピーチ」及びグループディスカッション
12	ビジネス・インテリジェンスとナレッジ・マネジメント	ビジネス・インテリジェンスとアナリティックス、ビッグ・データとデータ・サイエンティスト、組織におけるナレッジの獲得・蓄積と管理DX推進に関する「3分間スピーチ」及びグループディスカッション
13	情報通信技術と社会	社会的責任主体としての企業、情報通信技術の社会的インパクト、ビジネスにおける情報倫理の諸課題DX推進に関する「3分間スピーチ」及びグループディスカッション
14	これからの経営情報論と情報化実践	伝統的な経営情報システム論の限界、今後の情報システム構築方法論DX推進に関する「3分間スピーチ」及びグループディスカッション
15	期末試験：「経営情報論」まとめテスト総括（全体の振り返り）	まとめテストの解答・解説これからの「経営情報論」受講の自己評価
16		

科目コード	3G110				区 分	コア科目			
授業 科目名	企業経営実践論 I				担当者名	上野 宏一郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目では、本学が重視する非認知能力と経営におけるベースとなる健全な考え方や価値観の育成を行う。IPUが掲げる五訓なども織り交ぜながら、各授業ごとにテーマを決めて、企業経営の実践について考え深堀していく。学生の多様性を重視しつつ、ディスカッションを交えながら実社会へ出て働くための考え方や心構えを学ぶことで、今後の学生の進路探索への意欲向上にもつなげていく。

### <授業の到達目標>

①日頃使っている言葉の意味を深く理解することで企業経営としての社会的知識を身につけることができる②本学が目指す非認知能力の理解を深め、心の鍛錬の礎にすることができる 折れない、やめない人材育成 目標を達成する力 他者と協働する力 情動を制御する力

### <授業の方法>

①授業ごとにテーマを決めてそのテーマについて事前に考えてきてもらう。それをグループディスカッション&発表する②テーマについての講義③授業で学んだこととこれから実生活で実践することをレポートで提出してもらう④クラスルームの活用

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有授業ごとに決められたテーマについてグループディスカッション&発表する

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

①予習：各授業ごとのテーマについて考えて自分なりの意見を持ってきてもらう。その意見をグループディスカッションで発表してもらうための準備をしてもらう必要がある（1時間程度）※テーマはシラバスの内容と変わる可能性あり（その際には事前連絡します）②復習：授業で学んだことや実践してみようと思うことを毎回レポート提出を課すので、ディスカッションで学んだことや講義内容に関するノート作成が必要である（1～2時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①授業出席率および参加態度 50% ②各授業後の提出レポート 50%

### <教科書>

なし

### <参考書>

なし

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方のガイダンスやルール及び履修上の注意説明
2	何のために働くのか	働くことの意義目的を理解することで企業経営実践の心構えを学ぶ
3	挨拶の重要性	IPUの掲げる五訓のひとつ「礼節」にもある挨拶がなぜ企業経営で重要なのかを学ぶ
4	人の話を聴くときに重要なこと	傾聴能力が企業経営にとっていかに大切かを学ぶ
5	「目的」と「目標」のちがいは	仕事における目標と目的の違いを明確し、企業経営の中での仕事の進め方を学ぶ
6	「楽しむ」と「楽をする」のちがいは	IPUの掲げる五訓のひとつ「克己」にもある己に打ち勝つことはどういうことかを学ぶ
7	5Sの効果について	企業経営における基礎である5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）がもたらす効果について学ぶ
8	「ルール」と「マナー」のちがいは	企業経営及び実社会において存在するルールとマナーについて考える
9	「問題対処」と「問題解決」のちがいは	目の前に起きた問題に対する取り組み方を学ぶ
10	信頼できる人とは	IPUの掲げる五訓のひとつ「信頼」信頼できる人とはどういう人かを考えることで企業経営での信頼関係の大切さを学ぶ
11	「リーダーシップ」と「フォロワーシップ」のちがいは	リーダーとフォロワーの役割を理解して企業組織内における自分の役割を考える力を学ぶ
12	「後悔」と「反省」のちがいは	後悔と反省の違いを理解して企業経営におけるPDCAサイクルを健全に回せる考え方を学ぶ
13	ありがとうの効果	IPUの掲げる五訓のひとつ「感謝」にもある感謝の心がいかに企業経営にとって大切かを学ぶ
14	「真剣」と「深刻」のちがいは	IPUの掲げる五訓の一つ「前進」にもある困難や失敗を乗り越えるための考え方を学ぶ

15	プロフェッショナルとは	プロフェッショナルという言葉の意味を理解し、真のプロフェッショナルになって
16		もらう意識を学ぶ

科目コード	3G111				区 分	コア科目			
授業 科目名	企業経営実践論Ⅱ				担当者名	齊藤 直人			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業の目的は、県内のトップ企業の経営者(ゲスト経営者)の方々から直接学ぶことで、今までの大学での学びと、実際の企業で必要な知識をつなげ、将来、社会人、企業人として、必要な知識を習得することです。外部環境の変化が厳しい中、企業は実際、どのような経営を行っているのか？経営者はどのように考え、経営を行っているか。将来、企業に就職して、仕事で活躍するには、どのようなスキルが求められるのか、など、経営者の話を直接、話を聞き、経営者へ質問をすることで、自分が社会に出た後に必要な力がどのようなものかイメージしやすくなるよう、現在、経営者である担当教員が、授業を展開します。※「企業経営実践論Ⅰ」を未受講でも受講できます。

### <授業の到達目標>

様々な業界から招聘するゲスト経営者から、受講生が直に学ぶことで、以下の3つを目標とする。1)「企業」とは何か、を理解し、説明できる2)ゲスト経営者の業界における現状(業界、業種、課題、将来性)を理解し、説明できる3)将来、社会人として企業に関わる人材となる意志を語り、論述できる

### <授業の方法>

企業・組織の経営者を迎え、毎回テーマに応じた講義とディスカッション、グループワーク、課題発表等を実施します。卒業後の進路に役立つよう、受講生の声を拾い上げ、双方向のやり取りができる授業内容です。ゲスト経営者との自由な討議・質疑応答にも重点的に取り組むことで、受講生自身の実践体験が得られます。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

この授業科目では、授業時間中に、ゲスト経営者・担当教員とのディスカッション、受講生同士でのグループワークと、企業経営実践の主旨に沿ったプレゼンテーション実習を行います。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：質疑応答に向けた準備(30分程度) ※質問したいことを準備する。復習：レポート課題と、ゲスト経営者からの学びを元に取り組む実践課題(30～1時間程度)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3(経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、実践レポート課題 30%、貢献度 15%、期末レポート 25%※定期試験なし※基本的には、すべての授業に出席し、レポート提出、授業主旨に合った取り組みをしていること。※「実践」の名が付く講座である特性上、受講生が自分自身で気づき、行動することが実践につながると考えています。そのため、成績評価全体の考え方は、講義で学んだ内容を、自分の実践と照らし合わせて、レポートを書くか、プレゼンテーションをするか、学びを行動にどうつなげていくかに焦点を当てて評価を行います。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	企業経営実践論Ⅱの考え方、授業の進め方、登壇予定のゲスト経営者紹介 など
2	企業経営実践論Ⅱ 序論	企業とは？経営とは？実践とは？など
3	プレゼンテーション	プレゼンテーション＝発表？、経営とプレゼンテーションの関係、実習 など ※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
4	ゲスト経営者による講義①とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
5	ゲスト経営者による講義②とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
6	ゲスト経営者による講義③とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
7	ゲスト経営者による講義④とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
8	ゲスト経営者による講義⑤とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 など

9	ゲスト経営者による講義⑥とまとめ講義	の展開を予定。 ※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
10	ゲスト経営者による講義⑦とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
11	ゲスト経営者による講義⑧とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
12	ゲスト経営者による講義⑨とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
13	ゲスト経営者による講義⑩とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
14	企業経営実践論Ⅱ エッセンス	ゲスト経営者から学んだ内容を基にした実習（グループワーク、プレゼンテーション） など
15	全体まとめ	実習、全体討議、より良い進路を選択するために学びを生かす など
16		

科目コード	3G112				区 分	コア科目			
授業科目名	ビジネス特別講義Ⅰ				担当者名	白木 渉／齊藤 直人			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

### ＜授業の概要＞

◆テーマ：【DISCOVERY】～自分・社会・企業・未来を発見する（知る、理解する、探究する、描く、計画する）～自分の将来は、どうなるのか？本当は何がしたいのか？どんな会社に入りたいのか？悩みは尽きないのに、誰も正解を与えてくれない、パンデミック後の時代を私たちは生きています。でも大丈夫です。これをチャンスと捉え、自らの答えを見つける「探究心」を躍動させることで、挑戦と創造が可能な時代だからです。本科目では、企業の方と直接お会いし、大学生が主体的にリサーチ活動に取り組み、最終的な成果を、企業プレゼンテーションへとつなげます。これによって、実践的なキャリア形成と、実社会で通用するリーダーシップを養成することができます。また、従来のインターンシップを進化させた内容のため、企業を見る目を養うことができ、将来就職活動の際に、自信を持って進路を選択する力も鍛えられます。前期は、①「自分の人生・社会・企業と向き合い」、②「仲間たちと長所を活かして役割を発揮」し、③「それぞれの未来を発見（DISCOVERY）する」プロセスで学びます。自分の意志で、物事の可能性を見つけ、挑戦することで、未来を創造していく力が習得できます。つまり、「課題を自分で見つけ、それを解決していく力」が、これからの時代に求められる力です。そのために、企業のコンサルティング・人材育成に携わっている担当教員が成長をサポートします。この科目での経験を通して、大学生活やゼミ、就職活動等を含む進路に答えを出すには、どのようなことが必要なのか？イメージしやすくなり、今後のキャリア形成に大きな財産となるでしょう。※【注意点】この科目は、後期の「ビジネス特別講義Ⅱ」を選択していなくても、「ビジネス特別講義Ⅰ」だけでも選択可能です。また、過去に「ビジネス特別講義Ⅱ」だけを履修した人でも選択可能です。

### ＜授業の到達目標＞

本科目は、企業との連携、課題解決に向けたコンサルティング体験、リサーチ成果をプレゼンする点が特徴です。これらの取り組みを通して、社会から求められる「人財」に成るために必要な力の理解と、その基礎的な力の習得を目標としています。以下に、本科目9つの力を示します。1. 企画力 2. コミュニケーション能力（傾聴・質問・要約） 3. マネジメント能力 4. リサーチ力（調査・研究） 5. ディスカッション力 6. 交渉力 7. プレゼンテーション能力 8. 課題発見能力 9. 課題解決能力

### ＜授業の方法＞

ビジネス特別講義Ⅰは、前期に実施する予定です。授業は、座学に加えて、探究学習と反転授業を行う授業となるため、特に成長意欲の高い人、学生時代に成果を出して卒業後の進路を、自信を持って進めていきたい人に履修を勧めます。

### ＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

以下のいずれかに該当している場合はその内容を記述（ア）協定等の基づく外部機関と連携した課題解決型（協定覚書のエビデンス提出が必要）（イ）ディスカッション、ディベート（ウ）グループワーク（エ）プレゼンテーション（オ）実習、フィールドワーク

### ＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本科目群は、毎週の定例的な準備学習や、定期試験に向けた学習は、ありません。また、①「学外の方（企業）との連携」、②「チームでのレポート編集」、③「最終的な成果を授業内コンテストと企業別プレゼンで審査」があります。企業の方に信頼していただけるように、授業内コンテストと企業別の発表で自信を持てるように、各自が必要だと思う学習をしてください。※以下は目安です。事前学習（予習）：毎回の課題に向けた取り組み、チーム編成後の共同作業等、週最低1時間程度事後学習（復習）：週最低30分程度

### ＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### ＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート課題（毎回）30％、企業リサーチレポート課題30％、授業態度40％

### ＜教科書＞

### ＜参考書＞

### ＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	シラバス解説、教員紹介、DISCOVERYとREALIZATION、エントリーシート解説
2	ジブンDISCOVERYへ①	ビジネスの見分け方、自己分析、課題プレゼンテーション、相互フィードバック、クイックレビューとは、企業リサーチに必要な質問項目と+α、探究のコツ
3	ジブンDISCOVERYへ②	ビジネスの見分け方、自己分析、課題プレゼンテーション、相互フィードバック、クイックレビューとは、企業リサーチに必要な質問項目と+α、探究のコツ
4	企業リサーチ①	クイックレビューの共有、ディスカッション、グループワーク、ビジネスで成果を出す思考法とその具体的方法など
5	企業リサーチ②	クイックレビューの共有、ディスカッション、グループワーク、ビジネスで成果を

6	信頼される大学生になる①	出す思考法とその具体的方法など
7	信頼される大学生になる②	企業の方とお会いするためのマナーと制作物、リサーチレポートの改善など
8	連携企業の方との面会①	企業の方とお会いするためのマナーと制作物、リサーチレポートの改善など 担当者の方とご挨拶・名刺交換、主旨説明、質問内容の事前告知、大学生からの正式依頼など
9	連携企業の方との面会②	担当者の方とご挨拶・名刺交換、主旨説明、質問内容の事前告知、大学生からの正式依頼など
10	プロジェクトチームの準備①	企業の方への自己紹介、チームビルディング、大学生によるリサーチ発表と課題ヒアリングなど
11	プロジェクトチームの準備②	企業の方への自己紹介、チームビルディング、大学生によるリサーチ発表と課題ヒアリングなど
12	プロジェクトチームでの課題設定	現場リサーチ、質疑、課題の分析、解決策、プレゼンの作成・準備など
13	課題解決型プレゼン①	企業の方へのプレゼン、講評、フィードバック、ブラッシュアップワークなど
14	課題解決型プレゼン②	企業の方へのプレゼン、講評、フィードバック、ブラッシュアップワークなど
15	ジブンDISCOVERYから未来へ	まとめ講義、総評、表彰など
16		

科目コード	3G113				区 分	コア科目			
授業 科目名	ビジネス特別講義Ⅱ				担当者名	白木 渉／齊藤 直人			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

◆テーマ：【REALIZATION】～ビジネスで成果を実現する力を習得する～AIの進化により、これからの社会では「人にしかできない力」がますます問われる時代になっています。そのような時代の中で、私たちが磨くべきは、生き抜くために必要なビジネス力——自ら課題を見つけ、考え、動き、成果につなげていける力——つまり、今、人気の「コンサルティング能力」です。コンサルティング能力とは、コンサルタントという特別な職業だけのものではありません。あらゆる業界や仕事で求められる「本質的なビジネススキル」です。この授業では、ビジネスの現場で実際に使われているコンサルティングの視点や思考法を学びながら、変化の時代を生き抜く力、そして自分の可能性を、実現（REALIZATION）する力を育てます。担当教員は、全国の企業で、コンサルティング・人財育成に携わっている現役コンサルタントです。※この講義は「ビジネス特別講義Ⅰ」を未受講でも受講できます。

### <授業の到達目標>

本科目はビジネスに必要な力を学び、社会から求められる「人財」に成るために必要な力の理解と、その基礎的な力の習得を目標としています。以下に、本科目9つの力を示します。1. 企画力 2. コミュニケーション能力(傾聴・質問・要約) 3. マネジメント能力 4. リサーチ力(調査・研究) 5. ディスカッション力 6. 交渉力 7. プレゼンテーション能力 8. 課題発見能力 9. 課題解決能力

### <授業の方法>

授業は、座学の講義と、数回の企業で働く方々とのオンラインセッション・コンサルティングを行いながら学びます。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

この授業科目では、授業時間中に、企業の方々とオンラインでのコンサルティング、担当教員とのディスカッション、受講生同士でのグループワークを行います。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本科目群は、企業とのコンサルティングに必要な準備が必要なことがあります。事前学習（予習）：毎回の個人課題に向けた取り組み、大学生同士の共同作業等、週1時間程度事後学習（復習）：週30分程度

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、実践レポート課題 30%、貢献度 10%、期末レポート 30%※定期試験なし※基本的には、すべての授業に出席し、レポート提出、授業主旨に合った取り組みをしていること。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション、未来をつくるビジネスの見方、など	働き方や社会の変化、思考の軸を持つなど
2	成果を生むプロフェッショナルの思考	結果を出す人の考え方や行動、ビジネスの成果など
3	組織の中で起きていること	組織の中で起きるさまざまな現象とその読み解き方、組織と関係性など
4	目に見えない課題との出会い	課題とは何か、気づきの価値、違和感をつかむなど
5	聴くことでひらける世界	人の声を深く聴く、意味を受け取る体験、対話と観察など
6	声にならない感情との向き合い方	言葉にならない要素、感情や空気に目を向けるなど
7	整理することで見えてくる答え	情報や状況をまとめる、形にする力を磨く、構造化の方法など
8	人が動く「きっかけ」の仕組み	行動の背景にあるもの、動機と影響など
9	「働きやすさ」と「働きがい」のちがいは	環境と感情の関係性、働くことの価値を考えるなど
10	組織はどうやってつくられるのか	組織の設計や在り方とその理解を深める、組織と仕組みの関係など
11	信頼があるチームと、ないチーム	チームの状態と成果、つながりを体感するなど
12	あなたの提案が未来を動かす	何かをより良くするための発想を形にする、発想なくして提案なしなど
13	クライアントに届く提案書の設計	相手の期待に応える、形と流れを考える。伝達力と納得感の作り方など
14	自分の市場価値をつくる視点	自分の強みを見極め・磨き・伝える方法、強みを活かす戦略など
15	わたしの「成果」の定義	自分にとっての成果とは何かを言語化する、REALIZATIONへ向けてなど



科目コード	3G200				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	ミクロ経済学				担当者名	赤木 邦江			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業では、まず最初に「経済学」とは何かを経営学との比較から理解することから導入し、「経済学の十大原理」を基に、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本を捉える。その上で、ミクロ経済学の基本的な考え方について、「市場の原理」「市場における需要と供給」「消費者選好」「再適配分」「ゲーム理論（競争とナッシュ均衡：最適解）」など、私たちの生活にも身近な現実の経済問題を理解することを目的とする。

### <授業の到達目標>

・経済学と経営学の違い・繋がりを出来、ミクロ経済とマクロ経済の違いを正確に捉えることが出来る。・ミクロ経済の対象である、市場を構成する家計や企業といった経済主体の選択行動の基礎理論と市場メカニズムについて理解が出来る。・ミクロ経済学入門として必要な「基礎知識」「経済学的な考え方」「分析手法の基礎」を修得する。

### <授業の方法>

・対面授業およびグループディカッション等によるアクティブラーニングを実施する。 GoogleClassroomを活用したレジュメや課題の配布、資料の共有など、ICTの活用に努める。（GoogleClassroomにアップしたレジュメを印刷またはダウンロードすること）・グループディカッション等により理解を深めるが、各学生個人が意見を持ち発表することを基本とする。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングあり：グループディスカッション、グループワーク、テーマに関するスピーチ等

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：予習課題を提示するので、自分で考え発表できるようにする（1時間程度必要）。 ※日頃から新聞、雑誌、インターネット等、様々なメディアに取り上げられている経営組織に関する情報を収集し、 グループディスカッションの準備をしておく。・復習：講義で学習したことの振り返り、レジュメ整理、事後課題など（1時間程度必要）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

リフレクション（振り返り）レポート 42% 学習意欲・授業態度 28%、最終まとめテスト 30%【配布レジュメ、手書きノート（コピー、写真コピー不可）等持ち込み可】 授業に関する質問は講義終了後、および教員のオフィスアワーで対応する。

### <教科書>

指定しない。

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：授業の進め方、成績評価の方法イントロダクション：「経済学とは」	経済学と経営学経済学の「十大原理」ミクロ経済学とマクロ経済学
2	市場のメカニズム	市場とは最適化と均衡需要と供給（需要曲線と供給曲線）最適配分、パレート効率性
3	予算制約	予算制約とは財モデルの一般性ニューメレール（標準財）
4	選好	消費者選好とは無差別曲線群限界代替率（MRS）
5	効用	基数的効用効用関数限界効用と限界代替率（MRS）
6	選択	最適選択トレードオフ
7	需要	正常財と劣等財所得－消費曲線とエンゲル曲線通常財とギッフェン財
8	顕示選好	顕示選好の考え方顕示選好から選好へ無差別曲線の推定
9	スルツキー方程式	代替効果所得効果
10	市場の失敗	自由競争の市場において、市場メカニズムが働かない事例自然独占外部性情報の非対称性
11	ゲーム理論(1)	「ゲーム理論」とはナッシュ均衡ゲーム理論の基本「囚人のジレンマ」
12	ゲーム理論(2)	支配戦略残業ゲーム合理的な豚
13	ゲーム理論(3)	戦略型ゲームサッカーのペナルティーキック純粋戦略と混合戦略「チキンゲーム」
14	総括：「ミクロ経済学」の基本理解確認	授業の振り返り：「ミクロ経済学」の基本全体のまとめ
15	期末試験：「ミクロ経済学」理解度確認まとめテスト全体の振り返り内容	「ミクロ経済学」理解度確認まとめテストの解答・解説これからの「ミクロ経済学・市場のメカニズム」について受講の自己評価
16		

科目コード	3G201				区 分	専門基礎科目			
授業 科目名	マクロ経済学				担当者名	歌代 哲也			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、国内総生産、物価、利子率、失業率等の国(または地域)を単位とした経済指標・経済活動を中心に、日本及び世界経済におけるマクロ経済指標の現状を理解し、それぞれの指標がどのような意味を持ち、どのような関連性があるかについて学ぶ。マクロ経済学における政府の役割、財政・金融政策の役割・必要性を理解し、これらの政策の効果を実際の経済データ等を用いて学ぶ。日本及び世界経済が抱える経済問題について、マクロ経済学の考え方で思考できることを目的とする。

### <授業の到達目標>

本科目では、マクロ経済学の基本的な考え方を学ぶとともに、実社会の様々な課題に対して経済学の視点からアプローチすることでマクロ経済全体の動きを理解しようとする、経済学的発想・思考の習得を目指す。具体的には、マクロ経済学の基礎理論を正しく理解することを第一の目標とし、マクロ経済政策、失業や物価問題、経済成長など、今日の日本社会が抱える経済現象に焦点を当て、マクロ経済学の視点から分析・考察して自分なりの見解を導き出すことを第二の目標とする。

### <授業の方法>

本講義は講義形式で行う。講義レジュメや各種資料は電子データ(pdfデータ)で配布するため、それらの参照用に、学生自身の情報端末(パソコンやタブレット)の持ち込み・利用を必要とする。また、分からない用語や内容については各種検索webサイトを利用して、授業中でも適時情報検索してもらう。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、必ずテキストの該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、またわからない専門用語も調べるなど、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等(90分)程度の時間を割くような学習姿勢が求められる。その他、日経ビジネスをはじめ新聞やニュース、経済関連の情報番組などに普段の生活の中で積極的に接しておくよう心掛けると良い。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2(経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲30%、課題20%、レポート50%で評価する。

### <教科書>

家森信善 【ベーシック+】マクロ経済学の基礎(第2版) 中央経済社

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	マクロ経済学を楽しむ方法
2	経済規模を測るGDP(1)	GDPとは何か、名目と実質、経済成長率
3	経済規模を測るGDP(2)	付加価値、三面等価の原則、GNI
4	供給サイドから見るGDP	潜在経済成長率、総要素生産性
5	需要サイドから見るGDP	寄与度、GDPの支出面
6	需要・供給と日本経済	新古典派とケインジアンの方
7	生産・所得・需要の決定と消費関数	乗数効果、消費関数、45度線と所得水準
8	投資・政府支出の導入と国際経済への拡張	投資と政府支出、ISバランス
9	貨幣が持つ機能	貨幣とは、貨幣の機能
10	マネーサプライとハイパワードマネー	信用乗数、マネーストック
11	貨幣供給と貨幣需要	貨幣供給と物価、貨幣数量式、貨幣需要とは
12	マクロ経済政策	政策目標と政策手段、財政政策と金融政策
13	インフレーションと失業	インフレーションとは、失業率、フィリップス曲線
14	経済成長の理論	資本蓄積、労働人口、技術進歩、ハロッド＝ドーマーの理論
15	総括	経済学と経営学
16		

科目コード	3G203				区 分	コア			
授業科目名	国際経済学				担当者名	歌代 哲也			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本科目では、日本を含めた先進国、また発展途上国における貿易、金融市場等の経済活動における相互関係の現状を理解することを目的とする。また経済学の考え方をを用いた国際貿易理論、国際金融理論を通して、国際貿易、国際金融市場の現状にどのような意見を持つことができるのか、また現実の国際貿易政策、国際金融市場政策にどのような示唆を与えることができるのかについて学ぶ。

#### <授業の到達目標>

本講義の到達目標は主として以下の3点である。①国際貿易理論の基礎を理解し、自身で説明することができる。②日本企業がなぜグローバルな活動を推進しているのかを理解する。③自由貿易の仕組みがもたらす弊害を理解し、その是正策について自己の意見を持つことができる。

#### <授業の方法>

指定した教科書に基づき、授業はパワーポイントと板書を使用した講義形式で行うが、一方的な授業とならないように、適宜、質疑を交えながら受講者からの発言を求めていく。事例研究等については、グループディスカッションを行い発表の機会をもつ。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

①予習：講義時に指示したテキストの該当部分を読んでおくこと（毎回30分）②復習：配布プリントの重点箇所を中心として、理解を深めておくこと（毎回30分）③課題：参考書または講義時に指定した図書・文献等をもとにまとめること（毎回30分）④その他：日常的に国際経済の動向に関する報道をチェック、期末試験向けのノートの整理（毎回30分）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験50%、受講姿勢・学習意欲25%、課題・レポート等の提出物25%

#### <教科書>

浦田 秀次郎（著）、小川 英治（著）、澤田 康幸（著） はじめて学ぶ国際経済〔新版〕（有斐閣アルマ） 有斐閣 ISBN-13 : 978-4641222038

#### <参考書>

大川昌幸（2007/5/1） コア・テキスト国際経済学（（ライブラリ経済学コア・テキスト&最先端）） 新世社 ISBN: 978-4883841103  
浦田秀次郎（2009/2/1） 国際経済学入門（経済学入門シリーズ） 日本経済新聞出版社 ISBN: 978-4532111953

#### <授業計画>

回	テーマ		授 業 内 容
1	オリエンテーション	本科目の内容と評価方法	国際経済学を学ぶ意義
2	比較優位の理論①	貿易による利益	競争力の違いによる分業、貿易によって生じる利益
3	比較優位の理論②	比較優位モデル	絶対優位と比較優位
4	比較優位の理論②	比較優位の決定要素	生産要素（土地、労働、資本）による産業構造の違い
5	貿易理論の補足	クルーグマンの新しい貿易理論	異質な企業モデル
6	経済成長と貿易	生産要素の国際間移動	経済成長と貿易・投資の役割
7	貿易政策の手段①	自由貿易と保護貿易	国際貿易によるメリット・デメリット
8	貿易政策の手段②	自国産業保護の手段	セーフガード、アンチダンピング等
9	貿易政策の手段③	保護貿易政策に関する議論	自国産業保護の意味とその影響
10	貿易政策と企業活動①	市場としての海外	貿易によって生じる企業利益と国際摩擦
11	貿易政策と企業活動②	生産拠点としての海外	産業の空洞化と日本経済への影響

12	為替レートと国際収支 金移動	国際間の資	経常収支、貿易収支、サービス収支等
13	財政政策と金融政策 ミングモデル	マンデルフレ	資本移動の自由・為替相場と、財政政策・金融政策の関係
14	国際金融取引 ル化とその影響	金融市場のグローバ	過剰流動性下における企業の資金調達、利子率、物価への影響
15	本科目のまとめ	学習内容の復習	比較優位、マクロ経済と貿易の関わり、保護貿易、金融市場のグローバル化とその諸問題
16			

科目コード	3G206				区 分	コア科目			
授業科目名	経済政策論				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

経済の成長と安定を図り、資源の効率的利用を実現し、社会的厚生を最大化するために、どのような経済・政治・行政手法を使ってそれを達成するかを考える。経済システムの理解から始まり、経済成長のメカニズムを再確認し、金融政策、財政政策、エネルギー・食糧政策、雇用政策、福祉政策、環境政策などを具体的に学ぶ。

### <授業の到達目標>

本講義では、経済政策の基本の理解からはじめ、経済制度、経済メカニズムの基礎を確認した上で経済政策の概要を理解することを目指す。そしてそれらを今日の日本社会が抱える経済現象に焦点を当てることで、経済政策の目的と有効性、問題点を理解することを目指す。

### <授業の方法>

指定のテキストを中心に経済政策の基本を学習するとともに、独自の資料をもとに経済政策を理解する上で必要な知識を追加的に提供する。同時に、『日本経済新聞』を素材に、経済政策のタイムリーなトピックの解説を行い、理解を深める。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

大講義のためなし

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

新聞やニュース、経済関連の情報番組などに普段の生活の中で積極的に接しておくことが望ましい。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート 40%、テスト 60%で評価する。授業に関する質問は授業の前後及び教員のオフィスアワーで対応する。

### <教科書>

### <参考書>

瀧澤弘和 他5名（2016/1/30） 経済政策論 慶応義塾大学出版会

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	経済政策とは何か	経済政策の概念、役割、手法などについて概論的に説明し、講義全体のイメージを作ってもらう。
2	経済システム	経済政策を学ぶ前提として、経済システムの諸類型、国家と市場の機能メカニズムを学ぶ。
3	成長戦略	経済成長の要因、成長のパターン、成長戦略・政策の成功例、失敗例などを分析する。
4	財政政策	国の財政政策、税制、国債の問題などを具体的に学ぶ。
5	金融政策	金融政策と日本銀行の役割を学ぶ。
6	対外経済政策	貿易、対外直接投資、経済協力、経済支援などの問題を学ぶ。
7	農業政策	国家の根幹に関わる農業、食糧政策を具体的に学ぶ。
8	労働市場政策、社会保障政策	労働市場の仕組み、社会保障の諸問題を学ぶ。
9	エネルギー政策	国家の根幹に関わるエネルギー政策を具体的に学ぶ。
10	米国の経済政策	トランプ政権の経済政策を分析する。
11	日本経済政策の諸問題 1	第2次世界大戦後の日本の経済政策を学ぶ。
12	日本経済政策の諸問題 2	バブル経済とバブル崩壊について学ぶ。
13	日本経済政策の諸問題 3	現代日本の経済が直面する諸問題について考える。
14	まとめ	講義全体を振り返り、ポイントを再度解説する。
15	まとめテスト	まとめテストを行う。
16		

科目コード	3G210				区 分	コア科目			
授業科目名	応用ミクロ経済学				担当者名	歌代 哲也			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

経済学の基礎的な知識を確認しながら問題演習を行う。応用ミクロ経済学では、主としてミクロ経済学（家計と企業の需給の決定）の分野を取り扱う。講義は問題演習を主眼としているが、受講者の水準に合わせて、適宜、バックボーンとなる基礎知識の復習・確認を含めて進めていく。

#### <授業の到達目標>

消費者（家計）と生産者（企業）が主体として活動し市場で出会い、そして取引を通じて決定する「市場経済」の資源配分機能について把握・理解できるようにすることが、本科目のまず第一の目標であり、第二の目標としては、履修者が本科目で学習したミクロ経済学を、現実の経済問題と結び付け、経済社会について説明や意見ができるようになることである。

#### <授業の方法>

本講義は講義と各自の演習を併せたかたちで進める。演習用の問題は、紙を配布し、実際に手を動かして計算をしてもらう予定である。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。問題解決学習。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

半期（2単位：15回）の科目では、授業外で60時間以上の自主学習が必要と定められている。各回の授業毎に演習問題の復習、関連問題・知識を中心として復習を行うこと。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・毎回の演習への取り組み（60%）、期末課題（40%）で評価する。

#### <教科書>

初回授業にて指示する。

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	ミクロ経済学基礎復習
2	効用理論（1）	効用とは何か、合理的経済人モデル
3	効用理論（2）	限界代替率
4	効用理論（3）	予算制約
5	効用理論（4）	無差別曲線
6	演習（1）	効用関数
7	演習（2）	最適消費（1）
8	演習（3）	最適消費（2）
9	演習（4）	最適消費（3）
10	演習（5）	無差別曲線・パレート最適
11	演習（6）	効用と余暇
12	演習（7）	価格弾力性
13	演習（8）	企業の費用（1）
14	演習（9）	企業の費用（2）
15	総括	講義のまとめ、演習問題
16		

科目コード	3G211				区 分	コア科目			
授業科目名	応用マクロ経済学				担当者名	歌代 哲也			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

経済学の基礎的な知識を確認しながら問題演習を行う。本講義では、主としてマクロ経済学分野のGDP、貨幣市場、 $LS=LM$ を取り扱う。講義は問題演習を主眼としているが、受講者の水準に合わせて、適宜、バックボーンとなる基礎知識の復習・確認を含めて進める予定である。

#### <授業の到達目標>

本科目では、マクロ経済学の基本的な考え方を学ぶとともに、実社会の様々な課題に対して経済学の視点からアプローチすることでマクロ経済全体の動きを理解しようとする、経済学的発想・思考の習得を目指す。問題演習を行うことにより、マクロ経済学の基礎知識の定着を図る。経済学の各概念の基本的な算出方法を身につけることを目的とする。また、本講義を受講することで、公務員試験や経済学検定試験等の問題を解答する能力を養成していく。

#### <授業の方法>

本講義は講義と各自の演習を併せたかたちで進める。演習用の問題は、紙を配布し、実際に手を動かして計算をしてもらう予定である。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。問題解決学習。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

半期（2単位：15回）の科目では、授業外で60時間以上の自主学習が必要と定められている。各回の授業毎に演習問題の復習、関連問題・知識を中心として復習を行うこと。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・毎回の演習への取り組み（60%）、期末課題（40%）で評価する。

#### <教科書>

初回授業にて指示する。

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	マクロ経済学基礎復習
2	マクロ経済学の成長理論（1）	GDPと三面等価
3	マクロ経済学の成長理論（2）	GDPの算出
4	物価の変動（1）	物価変動のメカニズム
5	物価の変動（2）	ラスパイレスとパーシェを用いた演習
6	国民所得の決定（1）	45度線分析
7	国民所得の決定（2）	乗数計算
8	国民所得の決定（3）	$IS=LM$ 分析
9	国民所得の決定（4）	$IS=LM$ 分析を用いた演習
10	国民所得の決定（5）	$IS=LM$ 分析を用いた演習（続き）
11	国民所得の決定（6）	$IS=LM$ 分析 まとめ
12	貨幣と金融政策（1）	貨幣供給・マネーサプライ
13	貨幣と金融政策（2）	ハイパワードマネーの算出
14	貨幣と金融政策（3）	マンデルフレミングモデル
15	総括	まとめと演習問題
16		

科目コード	3G214				区 分	コア			
授業科目名	地方自治論				担当者名	大村 慎一			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

私たちの暮らしは地方自治体（都道府県・市町村等）の道路、上下水道、教育、福祉等多様な行政サービスで成り立っており、選挙や納税、まちづくり等を通じて我々自身も参画している。本科目では、地方行政に関心のある学生を想定し、地方自治の基本的な論点を理解するとともに、時事的な話題も盛り込みつつ、地方行政を支える主体としての住民目線を養うことを目的とする。授業内でワークショップも行い、身近な地域課題の解決など、グループで検討・発表する。

### <授業の到達目標>

1. 地方自治論の基礎的な論点を理解する 2. 地方自治論の基礎知識を記憶に定着させる 3. 地方自治論の身近な論点について他者と意見交換ができる

### <授業の方法>

地方行政に関するテーマごとのオリジナルプリントを題材として、地方自治の基本的な制度・運用について解説する。本講義は、国及び地方自治体で実務経験のある講師が担当するので、単に制度解説ではなく、地方・国の行政における政策形成や時事的な課題・トピックについても相当数の時間を取る予定である。教科書は指定しないが参考書の持ち込みは自由とする。講義の中で必要に応じて理解度の確認を行うなど、基本的な論点の習熟を図る。学生は、基礎的な論点や地域の身近な課題などについて、ペアワークやグループワークで理解を深めるとともに、検

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：基礎的な論点や地域の身近な課題などについて、ペアワークやグループワークで理解を深めるとともに、検索や発表等を通じて主体的に学ぶ。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：地方自治に関する新聞記事、地域の自治体のHP、広報誌等に関心を持ち、情報収集すること（約2時間）復習：授業で解説されたポイントを復習するとともに、気になった点を参考図書、HP等で調べ、理解を深める（約1時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（出席・授業への取り組み等）30%、課題レポート・小テスト30%、試験40%により成績評価を行う。

### <教科書>

### <参考書>

大森彌・大杉寛（2021年12月3日） 「これからの地方自治の教科書」 第一法規  
北山俊哉・稲継裕昭（2021年9月17日） 「テキストブック地方自治」 東洋経済新報社  
松本英昭（2018年3月） 「要説・地方自治法」（第十次改訂版一新地方自治制度の概要一） ぎょうせい

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、地方自治とは何か①	授業全体の構成と主な内容・進め方など、地方自治総論
2	地方自治とは何か②、どのような地方自治体があるのか	地方公務員の仕事総論、地方自治体の意義・種類
3	地方自治体にはどんな仕事があるのか	国の仕事と自治体の仕事、地方公務員の仕事
4	地方自治体の仕事は、誰が、どんな組織が行っているのか	行政組織、地方公務員の仕事の仕組み
5	議員は、どのように選ばれ、何をしているのか	地方議会制度・運用
6	私たちの行政のルールはどのように創られるのか	条例と規則
7	地方自治の主人公である住民は何ができるのか	選挙、住民監査請求、住民訴訟等
8	地方自治を支える財政の仕組みはどうなっているのか	地方財政・財務の仕組み
9	これからの地方自治を考える①地方分権改革	自治体の自主性・自立性を高めるための仕組み
10	ワークショップ①	身近な行政課題について考えてみよう
11	これからの地方自治を考える②防災・危	災害対策、感染症対策、消防行政等

	機管理	
12	これからの地方自治を考える③地域D X	自治体及び地域のデジタル化
13	これからの地方自治を考える④地域活性化	地域おこし協力隊、関係人口等
14	これからの地方自治を考える⑤地域住民との協働	住民参加型のまちづくり等
15	ワークショップ②	自分たちのまちの活性化について考えてみよう
16		

科目コード	3G215				区 分	コア			
授業 科目名	公共経営セミナー				担当者名	山本 満理子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本科目では、「公共とは何か」という問いから出発し、「公共経営とは何か」「なぜ公共経営が必要なのか」という問いに繋げ、公共経営の実務から公務員の社会的使命や役割を学び、それらの問いに対する答えを探る。自ら考えて問いを立て、グループで協力し、自ら行動して答えを追究することが求められる。

#### <授業の到達目標>

①公共経営への関心や問題意識を持つこと②公共経営への理解を深めること③職業意識を涵養すること

#### <授業の方法>

グループワークを通して行政運営を模擬体験する。学生はそれぞれグループに属して自ら考え、研究し、課題を処理していく。この講義は学生主体でセミナーを構築し、能動的に学んでいくことで公共の担い手としての資質を磨いていく。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有（テーマごとにグループワークを実施予定）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前：各回までに設定された課題を行い、授業に臨む（30分）事後：随時グループワークの度に示される事後学習課題を提出（30分）いずれも、各スタッフ同士の連携が必要となってくるものと思われる

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・課題レポート 50%、プレゼンや質疑・グループワークにおける貢献度 50%により総合的に成績評価を行う。

#### <教科書>

#### <参考書>

松永佳甫（2015年4月） 『公共経営学入門』 大阪大学出版会

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンスと事前準備(1)	具体的な活動内容の説明とグループ分けを行います
2	ガイダンスと事前準備(2)	グループ内の役割分担を決め、ワークの内容を検討します
3	グループワーク(1)課題設定	各グループの課題設定を行います
4	グループワーク(2)先行研究レビューなど	設定した課題について先行研究の調査と学習を行います
5	グループワーク(3)先行研究レビューなど	設定した課題について先行研究の調査と学習を行います
6	行政視点から学ぶ	これまでの学習を行政視点から考えます
7	模擬公務(1)	行政の仕事を模擬的に体験します
8	模擬公務(2)	行政の仕事を模擬的に体験します
9	模擬公務(3)	行政の仕事を模擬的に体験します
10	模擬公務(4)	行政の仕事を模擬的に体験します
11	模擬公務(5)	行政の仕事を模擬的に体験します
12	グループワークまとめ、プレゼン・セッション準備(1)	グループワークのまとめを行い、プレゼンやセッションの準備をします
13	グループワークまとめ、プレゼン・セッション準備(2)	グループワークのまとめを行い、プレゼンやセッションの準備をします
14	プレゼンテーション	公共経営セミナーの学びをプレゼンします
15	総括と振り返り	公共経営セミナー全体を振り返ります
16		

科目コード	3G216				区 分	専門基礎科目			
授業 科目名	公共経営論				担当者名	小川 正人			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### ＜授業の概要＞

近年の大きな経済社会の変化のなかで、地域や公共分野で活躍する人材の育成が求められているこのような社会を構成し活躍する人材を「シチズンシップ」は日本語では「市民」と呼ばれる。従来「市民」とは、一定の政治共同体（典型的には国家）の正式な一員を意味したが、今日では国境を越えた「地球市民」や「世界市民」が語られる。また「市民社会」も、政治社会という「公的領域」を意味する場合と市場という「私的領域」を表す場合を含みつつ、やはり現在ではグローバルな次元で語られる。本授業では、「市民」「市民社会」が何を意味するのかを考え、現在そして未来においての「地球市民」や「世界市民」あるいは「グローバル・シチズンシップ」の役割・活動について議論していく。その議論の中心となるのが、SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」である。2015年9月に国連で開かれたサミットで策定されたSDGsは、先進国と途上国が一丸となって地球が直面している課題（環境、経済、教育、社会等）の解決に向けた17の目標で構成されている。本授業ではSDGsの17の目標のうち、第3目標「すべての人に健康と福祉を」第12目標「つくる責任 つかう責任」第15目標「陸の豊かさを守ろう」に焦点をあて、農業をテーマに考えていく。

### ＜授業の到達目標＞

本授業では、公共経営の分野のうち、農林水産省中国四国農政局と連携し農業の問題を取り上げる。農林水産省が推進している政策でもある、みどりの食料システム戦略、有機農業、農福（農業＋福祉）について学んでいく。

### ＜授業の方法＞

対面授業だけでなく、ゲストによる講義や、農業の実地体験を含めて進めていく。各回のテーマに沿った課題はGoogle Classroomに期限までに提出する。質問等がある場合は、担当教員のメールもしくはGoogle Classroomでの特定コメントを利用してほしい。

### ＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

ディスカッション、ディベートやグループワークなどアクティブラーニングの手法を用い、学生たちの主体的な学びを促進する。

### ＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

決められた課題を事前に調べ、勉強しておくこと。授業の予習・復習にはそれぞれ最低1時間は使って欲しい。授業外では農業や食の問題に関心を持ち、それらのニュースがどのように伝えられているのか注視して欲しい

### ＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### ＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 40%、授業内課題40%、最終課題20%課題提出期間は1週間とする。提出期限を過ぎた場合は採点の対象とならないので十分に気をつけてほしい。

### ＜教科書＞

特に指定しない

### ＜参考書＞

特に指定しない

### ＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の説明、「公共経営」とは
2	我が国農業の現状と課題～まずは現状を知る～	みどりの食料システム戦略～SDGsにつながる～
3	なぜ今、有機農業なのか	有機農業を知ろう
4	有機農業ボランティア活動	・おかやまオーガニック：岡山市北区御津（予定）・（有）吉備路オーガニックワーク：総社市
5	パネルディスカッション	複数の農業者によるキャリア教育としての人生観話
6	生産資材の役割を学ぶ	農業における肥料の役割を学ぶ
7	ワークショップ	有機農業と生産資材の関係性を考える
8	農福連携事業者の思いを聞く	（合）ど根性ファーム：笠岡市（予定）
9	農福連携事業ボランティア活動	（合）ど根性ファーム（予定）
10	ワークショップ	健康から農業と福祉を考える
11	ワークショップ	各グループでテーマ決定
12	プレゼンテーション準備（1）	グループによるプレゼンテーション準備
13	プレゼンテーション準備（2）	グループによるプレゼンテーション準備
14	プレゼンテーション（1）	グループプレゼンテーション

15	プレゼンテーション（2）	グループプレゼンテーション
16		

科目コード	3G218				区 分	コア			
授業科目名	行政法 I				担当者名	山本 満理子			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

行政法には、憲法典・民法典・刑法典といった一般的な法典が存在していません。したがって、行政法を理解するためにはさまざまな個別法に共通する基本事項・基本原理をまず把握することが求められます。そこで、当該科目においては、行政法の基礎として、行政と法とのかかわりや行政活動の担い手などについて学んでいきます。なお、本講義は、行政法の初学者にとってもわかりやすいよう、基礎的事項について平易な解説を行います。将来公務員試験を希望する学生が基本的知識を習得できることも目指します。

#### <授業の到達目標>

行政法の基礎をふまえたうえで、現代行政の実態に即した法理論のあり方を理解する。

#### <授業の方法>

シラバスの予定に沿い、教科書を参照しながら講義形式で進行する予定ですが、この限りではありません。毎回教科書の指定範囲をあらかじめ通読して臨みましょう。Google Classroomを使用した小テストをや振り返りシートやレポート等を毎回行う予定です。※教科書を指定しますが、他の基本書を持っている学生は相談してください。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有（ディスカッションやディベート、事例研究発表の実施を予定）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回事前に指定された教科書の該当範囲を通読し、概要を頭に入れておく（30分）復習：授業ノートをまとめ、振り返りレポートを作成（30分）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・課題レポート・小テスト 50%、試験 50%により総合的に成績評価

#### <教科書>

野呂充・野口貴公美・飯島淳子・湊二郎（2023年3月）『有斐閣ストゥディア 行政法〔第3版〕』 有斐閣

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義の進行方法および行政法の学習方法および評価方法について解説します。
2	行政と法	行政と法の関係について学ぶ
3	行政法の法源	行政法の根拠はどこにあるのか検討します。
4	行政活動の担い手	行政活動の担い手である法人を行政主体（行政体）について学びます。
5	行政過程と法(1)	行政組織目標を社会的現実に変換させる過程および法律による行政の原理について学びます。
6	行政過程と法(2)	行政手続の意義および機能について学びます。
7	行政過程と法(3)	情報公開とはなにか、個人情報とはどのように保護されるのかなど行政情報管理について学びます。
8	行政過程と法(4)	行政調査の法的統制や違法調査の法効果など行政調査について学びます。
9	行政行為(1)	行政行為の意義や性質、種類、その効力について学びます。
10	行政行為(2)	行政裁量および行政行為の瑕疵について学びます。
11	行政行為(3)	行政行為の職権取消しおよび撤回について学びます。
12	行政立法	行政立法（行政基準）の意義および法規命令と行政規則の異同について学びます。
13	行政計画	行政計画の意義・機能、種類、その法律上の根拠および行政計画に対する手続的統制・司法的統制について学びます。
14	まとめと振り返り	これまでの講義内容をまとめ、理解の不足しているところを補います。
15	試験	試験及び総括を行います
16		

科目コード	3G219				区 分	コア			
授業 科目名	行政法Ⅱ				担当者名	山本 満理子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

私たちの権利が違法か適法かを問わず、行政によって侵害された場合にどうやってその権利を救済するのか。具体的な事例についての検討を通じて行政救済法のシステムを学ぶことを目指します。

### <授業の到達目標>

行政救済法のシステムを理解し、具体的な事例の解決ができるようになる。

### <授業の方法>

行政救済システムについて講義をした上で、様々なジャンルの事例について判例をもとに検討していきます。シラバスの予定に沿い、教科書を参照しながら進行する予定ですが、この限りではありません。毎回教科書の指定範囲をあらかじめ通読して臨みましょう。Google Classroomを使用した小テストをや振り返りシートやレポート等を毎回行う予定です。※教科書を指定しますが、他の基本書を持っている学生は相談してください。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有（ディスカッションやディベート、事例研究発表の実施を予定）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回事前に指定された教科書の該当範囲を通読し、概要を頭に入れておく（30分）復習：授業ノートをまとめ、振り返りレポートを作成（30分）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・課題レポート・小テスト 50%、定期試験 50%により総合的に成績評価

### <教科書>

野呂充・野口貴公美・飯島淳子・湊二郎（2023年3月） 『有斐閣ストゥディア 行政法 [第3版]』 有斐閣

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義の進行方法および学習方法等について解説します。
2	行政不服審査法	行政不服審査法はどのような法律か／審査請求の要件・手続
3	行政不服審査制度	多様な行政不服審査／行政相談・行政ADR・行政審判／地方の行政不服審査
4	行政訴訟(1)	行政訴訟の概要／行政問題の状況／行政不服審査と行政訴訟の関係
5	行政訴訟(2)	取消訴訟／その他の抗告訴訟／当事者訴訟・争点訴訟
6	国家補償(1)	国家賠償と損失補償／国家賠償法1条
7	国家補償(2)	国家賠償法2条／損失補償
8	事例研究(1)	福祉行政について事例研究
9	事例研究(2)	社会保障行政、公衆衛生行政について事例研究
10	事例研究(3)	都市行政、廃棄物処理行政について事例研究
11	事例研究(4)	租税行政、市民生活行政について事例研究
12	事例研究(5)	公による賠償、土地利用行政について事例研究
13	事例研究(6)	産業行政、環境保全・資源管理等について事例研究
14	事例研究(7)	動物行政、情報行政について事例研究
15	事例研究(8)及び試験	警察・消防行政、原子力発電および放射能汚染等に係る行政、表現の自由について事例研究及び試験と総括
16		

科目コード	3G221				区 分	コア科目			
授業科目名	行動経済学				担当者名	糟谷 崇			
配当年次	3年	配当学期	2年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択科目

### <授業の概要>

行動経済学は、従来の経済学では説明できなかった社会現象や経済行動について、人の直感や感情などの心の動きを重視し、人間行動について説明しようとする学問です。本講義は、行動経済学の基礎を学び、人間行動や意思決定の問題を理解できるように学んでいきます。この授業の目的は以下のとおりである。① 意思決定がどのような行動仮定に基づいて行われているかを考察する。② データ分析の手法の違いによる意思決定への影響を考察する。③ こうした考察を通じて、経済学、心理学、社会学、統計学における人間行動の違いを理解する。

### <授業の到達目標>

行動経済学の基本的な考え方・実際の経済現象における行動原理を理解することを目指す。到達目標は以下のとおりである。① 経済学・行動経済学（限定合理性、機会主義、ヒューリスティック、バイアス）の意思決定に関連する内容について理解する。② 数式を用いずに、現実の意思決定におけるデータ分析・意思決定理論に関する内容を理解する。③ 意思決定に係る問題を発見できる能力を修得する。この授業を通じて、経済合理性と人の直観や感情などを理解し、実際の経済現象における問題解決に対する応用的な視点が身に付くことが期待される。

### <授業の方法>

パワーポイントを用いて講義を進める。テキストは使用しない。授業の最後に毎回、学生諸君の意見を書いてもらう（コメントシート）。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

事例を中心に、学生諸君と討議する時間を設ける。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の学習内容が最終レポートに反映されるように日々の予習・復習に取り組むこと【 予習 各60分 】下記のテーマをもとに参考となる事例・理論等を調べてくること。【 復習 各180分 】下記のテーマに沿って論文・書籍・新聞・雑誌等を読み、授業内容についてまとめたもの自分なりの考察を加えたものをレポート形式にまとめることテーマ第1回： 意思決定メカニズムとは第2回： ヒューリスティックとバイアス第3回： 認知能力第4回： リスク選好第5回： 感情と認知の衝突第6回： 競争的エスカレーション第7回： 厚生と倫理観

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

※学位授与の方針との関連：DP 1 他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。DP 2 専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。DP 3 課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート課題（70%） ＋ コメントシート（20%） ＋ 講義ノートの提出（10%）

### <教科書>

特に指定しない

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	行動経済学の概要	・行動経済学概論・行動経済学の歴史
2	一般的なバイアス	・ヒューリスティックに基づく意思決定にはどのようなバイアスが存在するのか
3	人間の知覚の限界	・人間の知覚を説明し、人間の注意が選択的であることを理解する
4	フレーミングと選好逆転	・人間がフレーミングによって生じる選好逆転について検証する
5	動機・感情が意思決定に及ぼす影響	・意思決定に影響を及ぼす動機と感情について考察する
6	意思決定におけるエスカレーション	・なぜエスカレーションが生じるかを理解する
7	意思決定における公正と倫理	・公正な意思決定・倫理的な意思決定とはどのようなものかを理解する
8	交渉における合理的な意思決定	・合理的な解決を引き出すための交渉について考察する
9	AIは経営者を代替するか	・AIが経営者の代わりとなるかという点について考察する
10	「強い結論」と政策分析の信頼性	・政策分析の信頼性が「強い結論」欲しさに犠牲にされている可能性を考察する
11	政策の効果を予測する	・どのような予測手法が使われているか、その効果が正しいかについて考察する
12	新しい政策に対する人々の行動	・政策によって人々がどのような行動を取るかの予測について考察する
13	単純な状況下における部分的な知識に基づく意思決定	・単純な状況下における部分的な知識に基づく意思決定がどのように行われるかを考察する
14	複雑な状況下における部分的な知識に基づく意思決定	・複雑な状況下における部分的な知識に基づく意思決定がどのように行われるかを考察する
15	まとめ	・現実の人間行動に対する行動経済学の意義について考察する



科目コード	3G222				区 分	コア			
授業科目名	経済情報処理				担当者名	岡田 健志			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

経済社会を理解し、適切な意思決定を行うためには、公的統計の活用が不可欠である。本講義では、公的な統計データの取得・整理・分析方法を学び、Excelを用いた実践的なデータ分析スキルを習得する。受講者は、日本や世界の経済指標を用いてデータ分析を行い、実社会の経済動向を読み解く力を養う。

### <授業の到達目標>

受講生は、以下の到達目標を達成できることを目指す。（１）公的統計の種類と入手方法、活用方法を理解する。（２）Excelを用いた基本的なデータ処理技術を習得する。（３）各種経済指標を分析し、社会や経済の実態を説明できるようになる。（４）データを用いた論理的な考察とプレゼンテーションができる。（５）最新の経済動向を踏まえたデータ分析を実践できる。

### <授業の方法>

授業内の演習でMicrosoft Excelを適宜利用するため、パソコンを毎回持参すること。講義では講義の記録や自らが理解したことをメモする以外にも、クラス内での議論や思いついたことのメモのため必ず筆記用具を持参すること。ペアワークや相互レビューを常に行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングはほぼ毎回の授業で行う。具体的には、ペアワーク・ディスカッション・企画立案実践・プレゼンテーション・相互レビューである。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次回授業で扱う基本事項の整理、次回授業で使用する公的統計データを抜け漏れなくダウンロードして準備をする（想定学習時間：約60分）。理解を深めるための復習課題を毎回課す（想定学習時間：約60分）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 40%、毎回の課題提出 40%、最終課題 20%を目安に評価する。

### <教科書>

### <参考書>

櫻本健 他（2019） 『経済系のための情報活用１』 実教出版  
 櫻本健 他（2020） 『経済系のための情報活用２』 実教出版  
 山下隆之 他（2022） 『はじめよう経済学のための情報処理』 日本評論社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：経済統計とは	授業の目的、評価方法、必要なExcelスキルについて説明する。経済統計がなぜ重要なのかについて、具体例を挙げながらディスカッションを行う。
2	公的統計とは	総務省統計局や内閣府、日本銀行が提供する公的統計の種類やデータの取得方法について解説する。実際にe-Statにアクセスし、データの検索方法を体験する。
3	統計データの整理と可視化	Excelによるデータベース操作について学ぶ。また、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフを作成し、視覚化の手法を学ぶ。データの見せ方次第で印象が変わる点にも注目する。
4	GDP統計の分析	GDPの定義や計算方法について解説し、日本のGDPデータをExcelで分析する。名目GDPと実質GDPの違いや、その活用方法についても学ぶ。
5	物価・インフレ指標	消費者物価指数（CPI）インフレの動向を分析する。また関連する経済指標についても学んでいく。実習では、Excelでインフレ率を計算し、物価変動の意味を考える。
6	人口統計	人口動態統計を分析し、少子高齢化や労働力人口の減少など、日本社会の変化について考察する。実習では、コーホート要因法による将来人口推計を行う。
7	産業構造と生産性	産業別GDPや労働生産性のデータを分析し、各産業の特性を学ぶ。実習では、Excelで生産性の推移をグラフ化する。
8	貿易統計の分析	日本の輸出入データを分析し、主要な貿易相手国や品目の傾向を探る。実習では、貿易収支の推移をグラフ化し、国際経済の動きを考える。
9	市場均衡	供給と需要の関係を、データをもとに分析し、市場均衡の概念を理解する。実習では、価格弾力性を計算し、価格変動が消費に与える影響を考える。
10	金融統計と金利動向	日本銀行の金融統計を用いて金利の推移やその影響について学ぶ。実習では、金利

11	景気動向の分析	と景気の関係についてデータ分析を行う。
12	経済波及効果	景気動向指数や日銀短観のデータを分析し、景気の波を理解する。実習では、過去の景気の転換点を探る。
13	GISと統計地図	産業連関表を活用して、経済波及効果の測定方法を学ぶ。
14	データ分析のまとめ	jSTAT MAPを活用して、統計データの地理的な可視化を体験する。実習では、地域ごとの人口分布を可視化し、地域特性を考察する。
15	プレゼンテーションと講評	学期を通じて学んだデータ分析手法を活用し、自由テーマでデータ分析を行う。グループごとに協力し、分析結果をまとめる。
16		各グループがデータ分析の結果を発表し、質疑応答と講評を行う。学期全体のまとめとして、統計データの活用方法を振り返る。

科目コード	3G300				区 分	コア科目			
授業科目名	簿記演習				担当者名	大池 淳一／北村 和久			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目は履修者全員が日商簿記検定3級を受験し合格を目指す。そのため「簿記入門」を履修し基本的な知識や技術を定着させておく必要がある。簿記を習得することは、就職活動に有利であり、また就職後の実社会で役立つ。本科目では、企業が行う決算処理までのプロセスを複式簿記のしくみを使いながら演習形式で理解することが目的である。複式簿記は、企業の経済的な取引を貨幣という尺度で記録し、計算し、整理して会計報告書にまとめていくための企業会計の重要な手段である。本科目では、簿記の専門用語の理解に配慮しながら、記帳演習及び計算練習を行うことで簿記の基本的スキルを習得していく。

### <授業の到達目標>

① 日商簿記検定3級を履修者全員が受験し合格する。② 日々の取引の仕訳から決算処理までのプロセスを理解する。③ 複式簿記の専門用語を理解し、仕訳および記帳技術を習得する。

### <授業の方法>

① 授業では教科書に従い、主に演習形式で行う。② 電卓演習・集計作業などの計算を行うので、各自電卓（関数電卓不可）および定規を持参すること。③ 「簿記入門」の単位取得者あるいは商業高校等で日商簿記検定3級レベルを既習の者。④ 第1回に参加することは必須で、授業方針を納得の上履修すること（他の授業への参加・公欠などのやむを得ない事情がある場合には、事前に担当教員へ連絡すること）⑤ 本科目では、問題演習科目であるため、個人学修によるところが大きい。⑥ 既に日商簿記検定3級以上を取得者であっても是非とも履修し

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有5,6人による協働学習

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 予習としてテキストを読んでおき、例題を解いておくこと。② 復習として、授業で行った練習問題を必ず自宅で解くようにする。③ 本科目に関して、週に予習（テキストを読む、例題を解く）3時間と復習（練習問題を解く、わからないところをなくす）3時間を費やす必要がある

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%，② 小テスト70％フィードバック：締め切り後に解答を発表し、解説する。

### <教科書>

滝沢みなみ(2025/3/21) スッキリうかる 日商簿記 3級 本試験予想問題集 2025年度版[ネット試験・統一試験 完全対応] TAC出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、授業方針
2	第1問対策①	仕訳，全範囲から出題①
3	第1問対策②	仕訳，全範囲から出題②
4	第1問対策③	仕訳，全範囲から出題③
5	第2問対策①	勘定記入①
6	第2問対策②	勘定記入②
7	第2問対策③	勘定記入③
8	第3問対策①	貸借対照表，損益計算書の作成①
9	第3問対策②	貸借対照表，損益計算書の作成②
10	第3問対策③	貸借対照表，損益計算書の作成③
11	模擬試験①	予想問題①
12	模擬試験②	予想問題②
13	模擬試験③	予想問題③
14	模擬試験④	予想問題④
15	模擬試験⑤	予想問題⑤
16		

科目コード	3G302				区 分	コア科目			
授業科目名	工業簿記				担当者名	大池 淳一／北村 和久			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本科目では日商簿記検定2級を受講者全員が受験し合格することを目指す。問題演習を通じて原価計算の計算構造や基礎となる理論について学ぶ。具体的には、工業簿記とは何か、工業簿記はどのように計算するのか、工業簿記の方法にはどのようなものがあるか、また、得られた工業簿記に関する知識や技術をどのように利用するのかといった課題について理解を深める。

#### <授業の到達目標>

① 日商簿記検定2級を受講者全員受験し合格する。② 工業簿記の専門用語、計算技術を習得する。③ 工業簿記に関する知識や技術を、どのように経営の改善に結びつけるか理解できること。

#### <授業の方法>

① 2年次終了までに日商簿記検定2級を受講者全員受験し合格することを目指す②「簿記入門」を履修していること。③授業の方法は、授業ではテキストに従い主に問題演習を行う。④電卓演習・集計作業などの計算を行う場合もあるので、各自電卓(関数電卓、スマートフォン不可)を持参すること。⑤第1回に参加することは必須で、授業方針を納得の上履修すること(他の授業への参加・公欠などのやむを得ない事情がある場合には、事前に担当教員へ連絡すること)⑥本科目では、問題演習の性質をもつため、個人学習によるところが大きい。⑥解説動画をク

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有5,6人による協働学習

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 専門用語の理解と技術定着をはかるため、予習・復習を重視する。② 授業で行った問題を必ず次回までに再度解いておくこと。③ 本科目に関して、週に予習(テキストを読み・例題を解く)3時間、復習(問題演習)3時間を費やす必要がある。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%, ② 小テスト 70%フィードバック: 締め切り後に解答を発表し、解説する。

#### <教科書>

滝沢みなみ(2025/2/19) スッキリわかる 日商簿記2級 工業簿記 2025年度版 [ネット試験・統一試験 完全対応] TAC出版

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、授業方針、原価計算とは
2	費目別計算①	材料費
3	費目別計算②	労務費
4	費目別計算③	経費
5	個別原価計算	原価計算表
6	部門別計算①	部門別計算の基礎
7	部門別計算②	直接配賦法、相互配賦法
8	部門別計算③	予定配賦
9	総合原価計算①	月末仕掛品の計算(平均法)
10	総合原価計算②	月末仕掛品の計算(先入先出法)
11	総合原価計算③	単純総合原価計算
12	総合原価計算④	等級別総合原価計算
13	総合原価計算⑤	総合演習①
14	総合原価計算⑥	総合演習②
15	総まとめ	確認テスト
16		

科目コード	3G303				区 分	コア科目			
授業科目名	原価計算				担当者名	大池 淳一／北村 和久			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本科目では日商簿記検定2級を受講者全員が受験し合格することを目指す。問題演習を通じて原価計算の計算構造や基礎となる理論について学ぶ。具体的には、原価とは何か、原価はどのように計算するのか、原価計算の方法にはどのようなものがあるか、また、計算して得られた原価情報をどのように利用するのかといった課題について理解を深める。

#### <授業の到達目標>

① 日商簿記検定2級を受講者全員受験し合格する。② 原価計算の専門用語、計算技術を習得する。③ 原価計算によって得られた情報を、どのように経営の改善に結びつけるか理解できること。

#### <授業の方法>

①日商簿記検定2級を受講者全員受験し合格することを目指すため、3級取得者あるいは同程度の知識を有する者に限る。②「簿記入門」「簿記演習」を履修し、「財務会計」及び「管理会計」を併せて履修すること。③授業の方法は、授業ではテキストに従い主に問題演習を行う。④電卓演習・集計作業などの計算を行う場合もあるので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。⑤第1回に参加することは必須で、授業方針を納得の上履修すること（他の授業への参加・公欠などのやむを得ない事情がある場合には、事前に担当教員へ連絡する

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有5,6人による協働学習

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 専門用語の理解と技術定着をはかるため、予習・復習を重視する。② 授業で行った問題を必ず次回までに再度解いておくこと。③ 本科目に関して、週に予習（テキストを読み・例題を解く）3時間、復習（問題演習）3時間を費やす必要がある。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30％, ② 小テスト 70％フィードバック：締め切り後に解答を発表し、解説する。

#### <教科書>

滝沢みなみ(2025/2/19) スッキリわかる 日商簿記2級 工業簿記 2025年度版〔ネット試験・統一試験 完全対応〕 TAC出版

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、授業方針、原価計算とは
2	総合原価計算①	組別総合原価計算①
3	総合原価計算②	組別総合原価計算②
4	総合原価計算③	工程別総合原価計算①
5	総合原価計算④	組別総合原価計算②
6	総合原価計算⑤	仕損と減損
7	工業簿記における財務諸表①	製造原価報告書
8	工業簿記における財務諸表②	損益計算書、貸借対照表
9	本社工場会計	本社・工場での会計処理
10	標準原価計算①	直接材料費差異、直接労務費差異
11	標準原価計算②	製造間接費差異
12	直接原価計算①	全部原価計算との比較、固定費調整
13	直接原価計算②	CVP分析
14	直接原価計算③	全部原価計算との比較、固定費調整
15	総合演習	確認テスト
16		

科目コード	3G304				区 分	コア科目			
授業科目名	管理会計				担当者名	大池 淳一／北村 和久			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

日商簿記検定2級を受講者全員が受験し合格することを目指す。そのため「簿記入門」「簿記演習」「財務会計」「原価計算」を履修済みである必要がある。管理会計は利益の獲得を目指して企業活動を合理的に展開するために必要な会計情報を経営者に提供することを目的としている。本科目では、特に標準原価計算による原価管理、直接原価計算による利益計画を理解し、日商簿記検定2級の問題を活用し実践力を養う。

### <授業の到達目標>

① 管理会計の基本的な概念や理論の習得すること。② 管理会計における諸技法の基本的な計算の仕組みを理解すること。③ 管理会計によって得られた情報を、どのようにして経営の改善に結びつけるか理解すること。④ 日商簿記検定2級を履修者全員が受験し合格すること。

### <授業の方法>

① 授業の方法は、テキストに従い主に講義形式（問題演習の性質も有する）で行う。② 理解を促進させるために必要な問題演習に取り組む。③ 電卓演習・集計作業などの計算を行うので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。④ 解説動画をクラスルームに配信する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有5,6人による協働学習

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 専門用語の理解と技術定着をはかるため、予習・復習を重視する。② 本科目に関して、週に予習（テキストを読み、要点整理・ノート作成を行う。計算問題があれば行う。）3時間、復習（要点再整理）1時間を費やす必要がある。レポート作成がある場合は別に時間を必要とする。③ 「簿記入門」「簿記演習」「財務会計」「原価計算」を履修しておくこと。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%，② 小テスト70％フィードバック：締め切り後に解答を発表し、解説する。

### <教科書>

滝沢みなみ(2025/3/21) スッキリわかる 日商簿記 2級 本試験予想問題集 2025年度版[ネット試験・統一試験 完全対応] TAC出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、授業方針、管理会計とは
2	管理会計の意義	財務会計と管理会計、管理会計の体系、業績評価会計、意思決定会計
3	現代における原価計算と管理会計	原価計算、管理会計、財務会計
4	原価の概念と分類	原価の一般概念、諸概念
5	標準原価計算①	原価管理の意義、標準原価計算の意義・目的
6	標準原価計算②	標準原価差異分析
7	損益分岐点分析①	原価の固定分解、損益分岐点の意義
8	損益分岐点分析②	損益分岐点図表、シミュレーション
9	直接原価計算①	直接原価計算の意義、計算構造、利用目的
10	直接原価計算②	直接原価計算と外部報告、経営管理
11	問題演習①	第4問・第5問対策
12	問題演習②	第4問・第5問対策
13	問題演習③	第4問・第5問対策
14	総合演習①	日商簿記検定2級総合問題
15	総合演習②	日商簿記検定2級総合問題
16		

科目コード	3G305				区 分	コア科目			
授業科目名	財務会計				担当者名	大池 淳一／北村 和久			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目では財務会計を学び、日商簿記検定2級を受講者全員が受験し合格することを目指す科目である。そのため「簿記入門」「簿記演習」を履修しているか、商業高校等で日商簿記検定3級程度の知識・技術を有している必要がある。また「原価計算」「管理会計」を同時に履修している必要がある。財務諸表の作成ルールを理解するとともに、どのような情報を提供しているのかを適切に理解しておくことで、様々なビジネスシーンにおいて活用することができる。その財務諸表を作成するために必要な基礎的な知識・技術を習得する。

### <授業の到達目標>

① 日商簿記検定2級を受講者全員が受験し合格することを目指す。② 財務諸表の作成ルールを理解する。③財務諸表の作成方法を理解する。④財務諸表により得られた情報を、どのように活用するか理解できること。

### <授業の方法>

①日商簿記2級を受講者全員が受験し合格すること目標とするため、履修する条件として3級取得者あるいは同程度の知識を有する者に限る。また「簿記入門」「簿記演習」を履修しており、「原価計算」「管理会計」「資格検定対策Ⅲ（簿記系）」を併せて履修すること。②授業の方法は、授業ではテキストに従い主に問題演習を行う。③電卓演習・集計作業などの計算を行う場合もあるので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。④第1回に参加することは必須で、授業方針を納得の上履修すること（他の授業への参加・公欠などのやむを

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有5,6人による協働学習

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 専門用語の理解と技術定着をはかるため、予習・復習を重視する。② 授業で行った問題を必ず次回までに再度解いておくこと。③ 本科目に関して、週に予習（テキストを読み・例題を解く）3時間、復習（問題演習）3時間を費やす必要がある。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30％, ② 小テスト 70％フィードバック：締め切り後に解答を発表し、解説する。

### <教科書>

滝沢みなみ(2025/2/19) スッキリわかる 日商簿記2級 商業簿記 2025年度版〔ネット試験・統一試験 完全対応〕 TAC出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、授業方針、財務会計とは
2	仕訳①	株式の発行、剰余金の配当と処分合併と無形固定資産法人税等と消費税商品売買等
3	仕訳②	手形と電子記録債権（債務）、その他の債権譲渡銀行勘定調整表固定資産
4	仕訳③	リース取引研究開発費とソフトウェア有価証券引当金
5	仕訳④	外貨換算会計税効果会計収益認識の基準
6	決算、本支店会計①	精算表と財務諸表帳簿の締め切り
7	決算、本支店会計②	本支店会計
8	連結会計①	連結財務諸表とは支配獲得日の連結支配獲得日後の連結
9	連結会計②	内部取引の処理未実現利益の消去
10	連結会計③	総合問題
11	製造業会計	製造業会計の基本
12	総合演習①	第1問対策
13	総合演習②	第1問対策
14	総合演習②	第2問、第3問対策
15	総合演習③	第2問、第3問対策
16		

科目コード	3G309				区 分	コア			
授業 科目名	金融論				担当者名	歌代 哲也			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目では、金融を初歩的な概念から学び、知識を積重ねていくことによって経済社会における金融の役割についての理解を深めることを目的とする。貨幣の役割・機能や企業金融、消費者金融、金融機関、金融制度、決済システム等金融に関連する一連の知識を得た上で、金融市場や中央銀行の機能、さらには金融政策について学び、現代社会における金融のあるべき姿を学生自身が思考できることを目指す。

### <授業の到達目標>

金融論とは、お金の流れに関わる経済現象を学ぶ学問である。金融と何か、貨幣とは何か、金融機関の機能は何か、金融市場はどのように動いているのか、中央銀行の金融政策などについて金融全体のシステムを理解し身につけることを目標とする。

### <授業の方法>

指定した教科書に基づき、授業はパワーポイントと板書を使用した講義形式で行う。一方的な授業とならないように、適宜、質疑を交えながら受講者からの発言を求めていく。事例研究等については、グループディスカッションを行い発表の機会をもつ。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨む前に、必ずテキストの該当箇所を事前に予習をしておく。授業中に質疑の時間を設けるので、予習時に不明な箇所は授業時に質問をすること。講義終了後に内容確認の復讐を必ず行う。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講姿勢（講義ノートの提出）25%、学習意欲（課題・レポート等の提出物）25%、毎週の課題・小レポート等の提出物25%、期末レポート（別途指示する）25%

### <教科書>

家森 信善 金融論〈第4版〉（ベーシック+） 中央経済社 ISBN-13：978-4502524615

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	金融論の全体像金融論で何を学ぶのか(身近な問題として)	資金の流れから見た日本の金融システムの変化と株価に映し出された日本経済の変動
2	貨幣の役割貨幣と物価の関係について	貨幣の定義と実際に使われている貨幣の種類
3	貨幣の役割2	貨幣の流通要因、MMTについて
4	金利とは何か金利の重要な概念	利率の決定要因と金利の期間構造、利率と債券価格の関係
5	金融政策金融政策のためのマクロ経済学	金融政策を理解するための基本と金融政策の枠組み
6	日本銀行（中央銀行）の役割金融政策の実施主体	金融政策の課題と日本銀行の現在の金融政策
7	金融政策の手段マクロ金融政策の政策手段	ゼロ金利政策、量的緩和政策、買入債権の多様化、量的・質的緩和政策
8	金融システム金融仲介機関の役割	金融の中核を占める銀行と日本の銀行の課題
9	銀行以外の金融機関銀行と類似した金融機関	信用金庫やJA、保険会社、ノンバンク金融機関、公的金融機関と財政投融資
10	間接金融型の金融商品	家計の金融商品選択の現状（銀行預金、郵便局の貯金商品、生命保険、損害保険他）
11	直接金融型の金融商品	公社債、株式、投資信託、金融派生商品、商品先物取引
12	金融市場に関する規制金融市場の規制の必要性	自由化、国際化、技術発展と金融市場
13	金融リテラシーと金融教育1	投資と貯蓄、資産形成をする意味
14	金融リテラシーと金融教育2	パーソナルファイナンスと金融サービス
15	ファイナンスの基礎コーポレートファイナンスの理論	資産価格の決定理論、コーポレートガバナンスと企業買収、社会的な課題を解決する金融
16		

科目コード	3G313				区 分	コア科目（1年生会計コース専門科目）			
授業科目名	簿記論 I				担当者名	大池 淳一／北村 和久			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目は2025年度入学生より新設され、1年次後期から「会計コース」を志望する学生のみが選択する科目である。履修登録の段階で「会計コース」の志望を迷っている学生は選択しておくべきである。講義の内容は税理士試験「簿記論」の合格を目指すものである。そのため「簿記入門」「簿記演習」を履修しているか、商業高校等で日商簿記検定3級程度の知識・技術を有している必要がある。本講義では「簿記論」のなかでも「損益会計」と「資産会計」を中心に扱う。

### <授業の到達目標>

① 次年度8月に税理士試験「簿記論」を受験し合格することを目標とする。② 損益会計について理解する。③資産会計について理解する。

### <授業の方法>

①次年度8月に税理士試験「簿記論」を受験し合格することを目標とするため、履修する条件として「簿記入門」「簿記演習」を同時に履修しているも、もしくは日商簿記検定3級取得者あるいは同程度の知識を有する者に限る。②授業の方法は、授業ではテキストに従い主に問題演習を行う。③電卓演習・集計作業などの計算を行う場合もあるので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。④第1回に参加することは必須で、授業方針を納得の上履修すること（他の授業への参加・公欠などのやむを得ない事情がある場合には、事前に担当教員

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有3,4人による協働学習

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 専門用語の理解と技術定着をはかるため、予習・復習を重視する。② 授業で行った問題を必ず次回までに再度解いておくこと。③ 本科目に関して、週に予習（テキストを読み・例題を解く）毎日2時間、復習（問題演習）毎日2時間を費やす必要がある。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%, ② 小テスト 70%フィードバック：締め切り後に解答を発表し、解説する。

### <教科書>

初回授業で指示

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、授業方針、簿記論とは
2	損益計算書のひな型仕訳①	損益計算総論損益計算書の基礎損益計算書のひな型一般商品売買①原価率と利益率 返品・値引・割戻・割引他勘定振替高
3	仕訳②	一般商品売買②各種記帳方法棚卸資産の評価売価還元法
4	仕訳③	収益認識基準①②収益認識のステップ取引価格の算定変動対価取引価格の配分
5	仕訳④	収益認識基準③契約資産契約負債
6	仕訳⑤	特殊商品売買①②割賦販売委託販売未着品売買試用品品売買
7	仕訳⑥	工事契約工事収益の会計処理工事損失引当金
8	仕訳⑦	税金、税効果会計租税公課消費税等法人税等将来減算一時差異・将来加算一時差異 税率の変更
9	貸借対照表のひな型	貸借対照表総論貸借対照表の基礎貸借対照表項目の分類・表示
10	仕訳⑧	現金・預金手形・債権
11	仕訳⑨	金銭債権の評価、有価証券①割引現在価値の計算一般債権貸倒懸念債権破産更生 債権等売買目的有価証券
12	仕訳⑩	有価証券②、デリバティブ取引満期保有目的の債券子会社株式・関連会社株式その 他有価証券デリバティブ取引
13	仕訳⑪	固定資産、リース会計①減価償却方法売却・除却・買換え耐用年数の変更減価償却 の変更圧縮記帳リース取引の分類
14	仕訳⑫	リース会計②、固定資産の減損会計借手側の会計処理セール・アンド・リースバック 減損会計の一巡の手続き共用資産の減損損失
15	総合演習	総まとめ問題
16		

科目コード	3G314				区 分	コア科目（1年生会計コース専門科目）			
授業科目名	簿記論Ⅱ				担当者名	大池 淳一／北村 和久			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（会計コースの者は選択のこと）

#### <授業の概要>

本科目は2025年度入学生より新設され、1年次後期から「会計コース」を志望する学生のみが選択する科目である。履修登録の段階で「会計コース」の志望を迷っている学生は選択しておくべきである。講義の内容は税理士試験「簿記論」の合格を目指すものである。そのため「簿記入門」「簿記演習」を履修しているか、商業高校等で日商簿記検定3級程度の知識・技術を有している必要がある。本講義では「簿記論」のなかでも「損益会計」と「資産会計」を中心に扱う。

#### <授業の到達目標>

① 次年度8月に税理士試験「簿記論」を受験し合格することを目標とする。② 資産、負債、純資産会計について理解する。③ 構造論点、その他について理解する。

#### <授業の方法>

①次年度8月に税理士試験「簿記論」を受験し合格することを目標とするため、履修する条件として「簿記入門」「簿記演習」を同時に履修しているも、もしくは日商簿記検定3級取得者あるいは同程度の知識を有する者に限る。②授業の方法は、授業ではテキストに従い主に問題演習を行う。③電卓演習・集計作業などの計算を行う場合もあるので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。④第1回に参加することは必須で、授業方針を納得の上履修すること（他の授業への参加・公欠などのやむを得ない事情がある場合には、事前に担当教員

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有3,4人による協働学習

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 専門用語の理解と技術定着をはかるため、予習・復習を重視する。② 授業で行った問題を必ず次回までに再度解いておくこと。③ 本科目に関して、週に予習（テキストを読み・例題を解く）毎日2時間、復習（問題演習）毎日2時間を費やす必要がある。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%, ② 小テスト 70%フィードバック：締め切り後に解答を発表し、解説する。

#### <教科書>

初回授業で指示

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス無形固定資産	授業の進め方、成績評価方法、授業方針、簿記論とは無形固定資産
2	仕訳①	研究開発費・ソフトウェア、繰延資産自社利用目的ソフトウェア市場販売目的ソフトウェア繰延資産
3	仕訳②	退職給付会計①退職給付会計の一巡の会計処理
4	仕訳③	退職給付会計②各種差異の会計処理
5	仕訳④	人件費、資産除去債務従業員給料、賞与資産除去債務の会計処理
6	仕訳⑤株主資本等変動計算書の作成	社債、株主資本等変動計算書社債の会計処理株主資本等変動計算書作成
7	仕訳⑥	新株予約権、分配可能額新株予約権ストック・オプション新株予約権付社債分配可能額の算定
8	会計帳簿の締切方法、勘定推定	簿記一巡の手続き、推定簿記大陸式決算（簿記）法勘定分析による推定内容不明の推定
9	仕訳⑦	会計上の変更・誤謬の訂正、外貨建取引等①会計上の変更会計上の見積りの変更
10	仕訳⑧	外貨建取引等②外貨建有価証券為替予約（独立処理・振当処理）
11	本支店会計	本支店会計本支店間取引支店相互間取引本支店合併財務諸表
12	製造業会計	期末仕掛品の評価期末製品の評価
13	仕訳⑨	組織再編、連結会計①企業結合、事業譲受合併、株式交換事業分離連結財務諸表資本連結
14	仕訳⑩、総合演習①	連結会計②成果連結持分法
15	総合演習②	キャッシュ・フロー計算書直接法間接法
16		

科目コード	3G317				区 分	コア科目（１年生会計コース専門科目）			
授業科目名	会計演習Ⅰ				担当者名	大池 淳一／北村 和久			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目は「会計」に関する知識や技術を活用し、「ジレンマ克服型商品開発実習」により、実社会における諸課題の解決に取り組む。学生は、ディスカッション・ディベート・プレゼンテーション・フィールドワーク・プロジェクト等の体験的学習を通じて、企業や地域等と連携した問題解決に取り組む。複数の利害関係者との調整において「会計」の知識を活用して問題解決に取り組み、「板挟み」や「想定外」などAIには代替することができない人間ならではの強み身に付ける。

### <授業の到達目標>

①「会計」に関する知識や技術を活用することができる。②実社会における諸課題の解決に主体的に取り組むことができる。③課題解決にあたり思考力や判断力を活用し、他者に表現することができる。④AIには代替することができない「板挟み」や「想定外」に対応する力を身に付け、複数の利害関係者との間で納得解を導きだすことができる。

### <授業の方法>

「会計」に関する知識や技術を活用した実社会における諸課題の解決に取り組むためには、後期の開講までに日商簿記検定３級程度の会計に関する知識が必要である。また学内では他の学生との協働、学外では様々な利害関係者との協働により問題解決に取り組む。随時プレゼンテーションにより他のプロジェクトの進行状況を共有する機会を設ける。授業時にはPCの活用が必須である。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有3,4人によるプロジェクトチームを編成

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

グループでの調査実施を行うため、調査準備や、調査後のデータ集計や調査報告作成については、授業時間外での活動が必要になる場合が想定される。グループ活動への積極的な関与を求める。演習毎に授業時間外のレポート作成が必要となる（毎週最低でも準備に1時間の予習時間、調査のまとめに1時間の復習時間が必要）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への積極的な取り組み：30%、レポート：20%、プレゼン50%プレゼンテーションに対するコメントをフィードバックし、問題解決に向けての完成度を高めていく。

### <教科書>

初回授業で指示

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業計画、課題の設定
2	ジレンマ克服型商品開発実習の概要	ジレンマ克服型商品開発実習とは
3	課題設定	課題の把握
4	課題設定	仮説の設定
5	演習	問題解決演習①
6	演習	問題解決演習②
7	演習	問題解決演習③
8	中間報告	プレゼンテーションによる中間報告
9	演習	問題解決演習④
10	演習	問題解決演習⑤
11	演習	問題解決演習⑥
12	演習	問題解決演習⑦
13	演習	プレゼンテーション作成①
14	演習	プレゼンテーション作成②
15	最終報告	プレゼンテーションによる最終報告
16		

科目コード	3G400				区 分	コア科目			
授業科目名	流通論				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本講では「流通」機能の中心的役割を担う卸売業および小売業の動向と経営の在り方や流通全体の構造や取引制度等を中心に学習する。DX、グローバル化が進展する環境変化の中で、生産と消費を繋ぐ身近な流通産業がどのように変化・対応していくのか、ケーススタディ（事例研究）を交えながら具体的に理解し、その理論的背景を考察していく。

### <授業の到達目標>

①流通に関する基礎的な理論を説明できる。②小売業の主要な業態について説明できる。③卸売業の位置づけと役割について説明できる。④流通全体の構造、取引慣行、取引制度について説明できる。

### <授業の方法>

1. 配布資料を用いて、講義を行なう。2. 授業中は質疑応答しながら授業を進めるため、対話型授業をめざす。3. 授業終了前に小テストを実施し、基礎知識の定着度を確認しながら進めていく。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの有無：有ディスカッション、グループワーク

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 授業計画に記載されている授業内容、用語などについて、図書館等にある事典や書籍などを参照しつつ、必ず事前に調べて、講義に臨むこと（予習90分）。2 空欄埋めシートなどを使って、講義で扱った内容を何度も復習すること（復習60分）。3 講義に関する不明点等があれば、自分で調べたり、教員に尋ねたりすること（復習30分）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、現代経営学科のDP2「経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。」およびDP3「経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。」に関連している。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①授業における課題提出：30%②授業内レポート×2回：40%③授業内確認テスト：30%上記の総合点で評価する。

### <教科書>

使用せず。

### <参考書>

適宜指示する。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	流通論を学ぶ意義	流通論はどのような学問かを理解し、その対象と特徴について学ぶ。
2	小売業の役割と諸形態	経済社会において小売業がどのような役割を果たし、その形態にはどのようなものがあるのかを学ぶ。
3	小売業の経営	小売業の経営とはどのような性格のものなのかを学ぶ。
4	卸売業の役割と諸形態	経済社会において卸売業がどのような役割を果たし、その形態にはどのようなものがあるのかを学ぶ。
5	卸売業の経営	卸売業の経営とはどのような性格のものなのかについて学ぶ。
6	流通における諸理論	流通に関するさまざまな理論について学ぶ。
7	授業内レポート①	第1回から第6回の内容について理解度を確認する。
8	消費者と流通	消費者と流通の関係について学ぶ。
9	生産者と流通	生産者と流通の関係について学ぶ。
10	生協と流通	生活協同組合の流通システムについて学ぶ。
11	地域・まちづくりと流通	地域やまちづくりに関して流通が果たす役割について学ぶ。
12	国際化と流通	経済の国際化と流通の関係について学ぶ。
13	流通政策の変遷	日本の流通政策の変遷について学ぶ。
14	授業内レポート②	第8回から第13回の内容について理解度を確認する。
15	本科目のまとめ	学習内容の総復習
16		

科目コード	3G401				区 分	コア			
授業科目名	民法 I				担当者名	岡 邑 祐 樹			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

私法の代表である民法の総則と物権について、基本的な事項を扱う。民法は法律科目全般について最初に学ぶことの多い法律であり、解釈論など法的な考え方の基本となる。

#### <授業の到達目標>

民法の基本的な事項について理解し、身近な法律問題についても法律を当てはめて考察出来ることを目指す。

#### <授業の方法>

対面における講義形式で行うが、学生に質問をしたり、意見を聞いたりして双方向の授業を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習としては教科書の該当部分を読んでくる。予習課題について、回答を準備する。（60分）復習としては該当のレジュメと教科書を読み返す。（60分）小テストを適宜行う。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験50%、小テスト40%、授業態度（授業中の挙手による回答回数や口頭試問回答の内容）10%によって授業の到達目標を測定する。

#### <教科書>

長瀬二三男・永沼淳子（2020年8月30日） Next教科書シリーズ 民法入門 弘文堂

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	導入－民法とは何か	テキスト1－8ページ
2	行為能力と法人	テキスト8－18ページ
3	権利の客体と法律行為	テキスト18－23ページ
4	契約と意思表示	テキスト24－30ページ
5	代理	テキスト31－38ページ
6	無効及び取消と条件・期限・期間	テキスト38－45ページ
7	時効	テキスト45－55ページ
8	物権・物権的請求権	テキスト57－63ページ
9	占有権・所有権	テキスト63－71ページ
10	用益物権及び不動産所有権の移転と対抗要件	テキスト72－77ページ
11	動産所有権の移転と即時取得	テキスト78－80ページ
12	担保物権（抵当権以外）	テキスト81－89ページ
13	担保物権（抵当権①）	テキスト90－97ページ
14	担保物権（抵当権②）	テキスト97－102ページ
15	非典型担保	テキスト102－108ページ
16		

科目コード	3G402				区 分	コア			
授業科目名	民法Ⅱ				担当者名	岡 邑 祐 樹			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

私法の代表である民法の債権法について、基本的な事項を扱う。民法は法律科目全般について最初に学ぶことの多い法律であり、法的な考え方の基本となる。公務員試験などで民法の試験科目にも対応できるための民法の基礎的な知識・理解が身につけられる授業である。

### <授業の到達目標>

①民法債権法の基本的な原則について理解する。②法律問題について民法債権法の何の条文が問題になるかを理解する。③法律を当てはめて妥当な結論について導き出すことが出来る思考力を養う。

### <授業の方法>

対面における講義形式で行うが、学生に質問をし意見を聞くなどして双方向の授業を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有。法律問題についての意見（結論と理由）を聞く。意見を考えて発表し、場合によっては討論を行うことによって基礎的な知識だけでなく、法的解決のための思考力を養う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習としては教科書の該当部分を読んでくる。予習課題について、回答を準備する。（60分）復習としては該当のレジュメと教科書を読み返す。（60分）Google classroomによる小テストを適宜行う。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験50%、小テスト40%、授業態度（授業中の挙手による回答回数や口頭試問回答の内容）10%によって授業の到達目標を測定する。

### <教科書>

長瀬二三男・永沼淳子（2020年8月30日） Next教科書シリーズ 民法入門 弘文堂

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	債権法総論導入・債権の効力導入	テキスト109－118ページ
2	債権の効力続き・責任財産の保全	テキスト118－133ページ
3	多数当事者の債権および債務	テキスト133－144ページ
4	債権譲渡・債務引受	テキスト144－150ページ
5	債権の消滅・有価証券	テキスト150－164ページ
6	契約総則	テキスト165－178ページ
7	贈与・売買・交換・消費貸借	テキスト178－193ページ
8	使用貸借・賃貸借①	テキスト193－207ページ
9	賃貸借②	テキスト207－218ページ
10	雇用・請負・委任	テキスト218－225ページ
11	寄託・組合・終身定期金・和解	テキスト226－234ページ
12	事務管理・不当利得	テキスト234－241ページ
13	不法行為①	テキスト241－246ページ
14	不法行為②	テキスト246－251ページ
15	不法行為③	テキスト251－257ページ
16		

科目コード	3G403				区 分	コア科目			
授業科目名	消費者行動論				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本講義では、消費者の基本的な行動原理やモデルについて学習する。企業がマーケティング戦略の意志決定を行う際に、消費者行動の分析は欠かせない。企業のマーケティング戦略と消費者行動論にどのような関連があるのかについて講義し、私たちの普段の消費者としての購買行動や消費行動の原理を科学的に解説していく。

### <授業の到達目標>

①消費者行動論の基本モデルや概念を自分のことばで正確に説明できる。②自らの普段の消費者行動原理を分析できる。③企業が消費者の行動を、どのような手法で分析しようとしているのか説明できる。

### <授業の方法>

本講義は講義と各自の演習を併せたかたちで進める。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有5、6人のグループに分かれ協働学習を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習復習の時間は、一回当たりの平均時間であり、扱う内容に伴って講義ごとに予習・復習の重点項目は変更する。1 授業計画に記載されている授業内容、用語などについて、図書館等にある事典や書籍などを参照しつつ、必ず事前に調べて、講義に臨むこと（予習90分）。2 空欄埋めシートなどを使って、講義で扱った内容を何度も復習すること（復習60分）。3 講義に関する不明点等があれば、自分で調べたり、教員に尋ねたりすること（復習30分）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、現代経営学科のDP2「経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。」およびDP3「経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。」に関連している。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①授業における課題提出：30%②授業内レポート×2回：40%③授業内確認テスト：30%上記の総合点で評価する。

### <教科書>

使用せず。

### <参考書>

適宜紹介する。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	消費者行動論とは何か	消費者行動論はどのような学問かを理解し、その対象と特徴について学ぶ。
2	知覚	製品やそれに関連する情報を知覚する4つのプロセスについて学ぶ。
3	学習	学習のうち「レスポナント条件付け」「オペラント条件付け」「観察学習」について学ぶ。
4	記憶	短期記憶が長期記憶になるメカニズムについて学ぶ。
5	態度	態度に影響を与える関与を理解し、態度や態度モデルについて学ぶ。
6	意志決定	消費者がどのように消費について意思決定しているかを学ぶ。
7	授業内レポート①	第1回から第6回の内容について理解度を確認する。
8	セグメンテーション	市場のセグメンテーションで利用できる軸について学ぶ。
9	コミュニケーション	発信源効果とメッセージ効果を中心に学ぶ。
10	店頭マーケティング	私たちが普段どのように買い物をしているのかを学ぶ。
11	集団	消費行動において他者の影響をどのように受けるのかについて学ぶ。
12	ステイタス	社会集団というレベルに注目し、シンボルが持つ影響について学ぶ。
13	文化	文化と消費について学ぶ。
14	授業内レポート②	第8回から第13回の内容について理解度を確認する。
15	本科目のまとめ	学習内容の総復習
16		

科目コード	3G404				区 分	コア科目			
授業 科目名	マーケティング特論				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

マーケティングの手法は、時代の要請によって変化する。特に、インターネットが普及して以降のマーケティングは、それ以前とはスピードの面等で大きく変化している。本科目では、様々な事例を紹介しながら、時代に即したマーケティングとはいかなるものか、競争戦略、製品開発、ブランディング、コミュニケーションといった視点について理解することをねらいとする。

### <授業の到達目標>

受講生がマーケティング・マネジメントの主要概念についての知識や考え方を身に付け、マーケティングに関する報道や情報を必要に応じて収集・分析することができる。また、マーケティングの概念や考え方と結び付けて、具体的に事例の分析や課題の対策案検討を実施することで、学んだマーケティングの知識や手法を活用することができる。

### <授業の方法>

1. 配布資料を用いて、講義を行なう。2. 授業中は質疑応答しながら授業を進めるため、対話型授業をめざす。3. 授業終了前に小テストを実施し、基礎知識の定着度を確認しながら進めていく。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有ディスカッション、グループワーク

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次の講義内容について、参考書の該当範囲を読み、授業中の意見交換ができるように内容を十分に理解しておく。また、日経ビジネスを毎週読んでおく（毎週最低でも1時間の予習が必要）。復習：講義中の意見交換や参考書の参照により、当該講義内容の不明点・疑問点を解消する。また、課題レポートの作成を通じて、自分の考えを整理し、理解の深化に努める（毎週最低でも1時間の復習が必要）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、現代経営学科のDP2「経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。」およびDP3「経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。」に関連している。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題60%、授業への意欲的な参加（授業内のディスカッション）20%、事後課題20%により総合的に評価する。受講者の課題レポートの内容・評価については、翌週以降の講義でフィードバックする。また、受講者の理解度や学習状況に応じて、課題レポートの範囲の追加的な説明をおこなう。

### <教科書>

使用せず。

### <参考書>

石井淳蔵・廣田章光・清水信年（2016） 1からのマーケティング・デザイン 中央経済社  
日経ビジネス編集部 日経ビジネス（入学してからのすべての号） 日経BP社  
沼上幹（2008） わかりやすいマーケティング戦略 新版 有斐閣

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンスとイントロダクション	本科目の目標・方法・評価と受講上の注意の説明、マーケティングの発想や歴史についての説明
2	マーケティング・マネジメントの考え方	事例を通じてマーケティング・ミックスの全体像を理解する。
3	マーケティング・ミックス（1）	製品のマネジメントについて、重要な知識や考え方を身につける。
4	マーケティング・ミックス（2）	価格のマネジメントについて、重要な知識や考え方を身につける。
5	マーケティング・ミックス（3）	チャネルのマネジメントについて、重要な知識や考え方を身につける。
6	マーケティング・ミックス（4）	広告のマネジメントについて、重要な知識や考え方を身につける。
7	市場調査	マーケティング・リサーチの役割や顧客理解について、事例を通じて理解する。
8	デジタル化した社会におけるマーケティング（1）	オンラインでの関係構築戦略やプラットフォームの形成について、事例を通じて理解する。
9	デジタル化した社会におけるマーケティング（2）	ネットメディアを活用した双方向コミュニケーション戦略について、事例を通じて理解する。
10	企業間での関係構築	取引先との関係構築のあり方、在庫管理について重要な知識や考え方を身につける。
11	ブランド戦略（1）	ブランド構築・維持・強化について、事例を通じてその全体像を理解する。
12	ブランド戦略（2）	地域との協力を通じてブランド構築について、事例を通じて理解する。
13	マーケティング・マネジメントのまとめ	マーケティング諸活動の実務的な手順について、事例を通じて理解する。

14	(1) マーケティング・マネジメントのまとめ	マーケティング諸活動の社会的な役割について理解する。
15	(2) マーケティング・マネジメントのまとめ	マーケティング戦略についての理解度を自身で確認する。
16	(3)	

科目コード	3G405				区 分	コア			
授業 科目名	マーケティングリサーチ				担当者名	岡田 健志			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

市場のニーズに適合する新商品を開発したり、発売された商品が顧客に認知されているかを調べる際、市場調査が行われる。市場調査には大きく2つの方法(定量調査と質的調査)がある。これら2つの方法をバランスよく組み合わせることで、現実を反映した調査が可能になる。アンケートおよびインタビュー調査の手法を理解することを実践的に学習する。

### <授業の到達目標>

「社会調査士」の資格を取得するための必須科目（B科目）である。受講生は、以下の到達目標を達成できることを目指す。（１）マーケティングリサーチの基礎知識を身につける。（２）調査の目的を明確に設定し、適切なリサーチデザインを企画できる。（３）定量調査と質的調査の違いやそれぞれの活用方法を理解し、実際にアンケートやインタビューを設計・実施することで、データ収集の手法を適切に使ことができる。（４）収集したデータを整理し、適切な分析手法を用いて解釈するスキルを習得する。（５）調査結果を論理的にまとめ、説得力のある報

### <授業の方法>

授業内の演習でMicrosoft Excelを適宜利用するため、パソコンを毎回持参すること。講義の記録や自らが理解したことをメモする以外にも、クラス内での議論やインタビューメモのため必ず筆記用具を持参すること。毎回、必ず身近な課題について議論を行う。発言・対話・議論に積極的に参加することが期待される。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングはほぼ毎回の授業で行う。具体的には、ペアワーク・ディスカッション・企画立案実践・プレゼンテーション・相互レビューである。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として次回授業で扱う基本事項の整理と事前課題を課す（想定学習時間：約60分）。理解を深めるための復習課題を毎回課す（想定学習時間：約60分）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 40%、毎回の課題提出 40%、最終課題 20%を目安に評価する。

### <教科書>

### <参考書>

篠原清夫他（2024）『社会調査の基礎』 弘文堂

大谷信介他（2023）『最新・社会調査へのアプローチ ー論理と方法ー』 ミネルヴァ書房

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：社会調査とマーケティングリサーチ	社会調査とマーケティングリサーチの違い、定量調査と質的調査の概要、市場調査の役割について、身近な事例をもとに学ぶ。今後の講義の進め方と評価方法についても説明する。
2	調査の目的・歴史・倫理	マーケティングリサーチの目的およびその歴史的な変遷について学ぶ。市場調査がどのように発展してきたのかを理解し、調査がもたらす影響について考察する。また、リサーチにおける倫理的な問題についても取り上げ、過去に発生した問題事例をもとに、注意すべき点を議論する。受講生同士で意見を交換し、調査を行う上での倫理的配慮について理解を深める。
3	調査方法	マーケティングリサーチにおける定量調査と質的調査の基本的な手法を学び、それぞれの適用場面を理解する。アンケート調査やインタビュー調査の具体的な進め方を学びながら、異なる調査方法の特性を比較する。授業の後半では、架空の企業を想定し、その企業が抱える課題に対してどの調査方法を選択すべきかをグループで検討し、発表する。
4	調査企画	マーケティングリサーチにおける定量調査と質的調査の基本的な手法を学び、それぞれの適用場面を理解する。アンケート調査やインタビュー調査の具体的な進め方を学びながら、異なる調査方法の特性を比較する。授業の後半では、架空の企業を想定し、その企業が抱える課題に対してどの調査方法を選択すべきかをグループで検討し、発表する。
5	調査テーマの決定	適切な調査テーマを選定するための基準を学ぶ。KJ法・ブレインストーミング・特

		<p>性要因図などを用いながら、実際に各グループで調査テーマを決定し、それがマーケティング上どのような意義を持つのかを検討する。選定したテーマについてプレゼンテーションを行い、クラス全体でフィードバックを交換しながら、より具体的に実践的なテーマにブラッシュアップする。</p> <p>全数調査と標本調査の違いや、それぞれのメリット・デメリットについて学ぶ。実際のビジネスシーンを想定し、どのような場面で全数調査が有効であるか、標本調査をどのように設計するかを考察する。グループごとに異なる調査シナリオを設定し、それに応じた調査方法を提案・発表する。</p> <p>サンプリングの基本概念を学び、無作為抽出や層化抽出などの代表的なサンプリング手法について理解を深める。実際の調査デザインの中で、どのようにサンプルを選定するかを考える演習を行い、グループでサンプリング計画を作成する。作成した計画について発表し、相互にフィードバックを行う。</p> <p>適切な調査票を作成するためのポイントを学ぶ。質問の構成やバイアスを避ける方法について学びながら、実際の調査票を作成する。作成した調査票をグループで相互にレビューし、より良い質問設計に修正する。</p> <p>調査データの事前処理について学ぶ。欠損値の処理やデータの整理方法を理解し、実際にサンプルデータを用いてデータクリーニングを実施する。演習を通じて、データ整理の重要性を体験的に学ぶ。</p> <p>定量データの分析方法を学ぶ。平均値や分散、クロス集計などの基本的な統計手法を活用し、データの特徴を把握する方法を理解する。実際のデータを用いた分析を行い、結果を考察しながら発表する。</p> <p>質的調査の手法の一つである観察調査について学ぶ。参与観察と非参与観察の違いを理解し、どのような場面でそれぞれが有効であるかを考察する。後半では、簡単なフィールドワークを実施し、実際に観察を行った上で、その記録をもとに分析を行う。</p> <p>インタビュー調査の設計と実施方法について学ぶ。インタビューの種類(構造化、半構造化、非構造化)を比較し、それぞれの特徴を理解する。実践として、ペアになって簡単なインタビューを実施し、記録を整理して分析する。</p> <p>質的調査のデータを記録するためのフィールドノートの作成方法を学ぶ。観察やインタビューの記録をどのように整理し、分析に活かすかを考察する。実際に作成したフィールドノートをもとに、情報の整理方法についてディスカッションを行う。</p> <p>質的データの分析方法(コーディング、テーマ分析など)について学ぶ。過去の事例を用いながら、データをどのように整理し、意味を見出していくかを考察する。受講生自身のフィールドワークのデータを用いて、簡単な分析を試みる。</p> <p>これまでの調査結果をまとめ、最終的な報告書として整理する方法を学ぶ。データの解釈をどのように文章化し、説得力のあるレポートに仕上げるかを考察する。最終回では、グループごとに調査結果を発表し、クラス全体でフィードバックを行う。</p>
6	全数調査と標本調査	
7	サンプリング	
8	調査票の作り方	
9	調査データの整理：エディティング、コーディング、データクリーニング	
10	調査票調査の分析	
11	質的調査：観察・参与観察	
12	質的調査：インタビュー調査	
13	フィールドノートの作成	
14	質的調査の分析	
15	調査報告書のまとめ方	
16		

科目コード	3G406				区 分	コア			
授業 科目名	会社法				担当者名	松井 春樹			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

会社法はケースが命です。法律は具体的な問題を解決するためにあり、会社の規律に特化した会社法はとりわけその性質が強いです。本講義は、現役の企業法務弁護士である講師が具体的なケースを取り上げながら、社会人として必要になる基本的な会社法の知識の習得とその運用を学ぶことを目的とします。基本的な会社法の内容に加えて、近時のフジテレビ問題の対応を始め法務部や企業法務弁護士が現実直面している応用的な課題についても一緒に考える予定です。

#### <授業の到達目標>

会社に関わるニュースが流れてきた時に、会社法の基本論点が想起されるレベルを目指します。

#### <授業の方法>

授業は、演習と授業を組み合わせた形式で行います。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

講師の用意した具体的なケースを授業時間内に検討してもらった上で、そのケースを素材に参加者の発言も求めながら、話を進めていく予定です。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

集中講義ですので、予習復習は不要です。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験（70%）、出欠及び授業態度（30%）により成績評価を行います。

#### <教科書>

柳明昌編著（2023年3月） 『プレステップ会社法[第2版]』 弘文堂

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス・法とはなにか・会社とはなにか	授業の進め方を確認するとともに、企業形態や会社の種類を学びます
2	株式とはなにか	株式とはなにか、社員と会社員の異同について学びます
3	会社における機関	会社にはどのような機関があるのか学びます
4	株主総会	株主総会にどのような役割があるのかについて学びます
5	コーポレートガバナンス	企業をどのように統治・監視するのか、情報開示のあり方や会社の機関のあり方について学びます
6	代表取締役の行為	会社の利益か取引の安全の選択について学びます
7	取締役の義務と責任	取締役にはどのような経営責任があるのかについて学びます
8	監査とはなにか	経営のチェックは誰が行うのかについて学びます
9	新株と社債の発行	事業に必要な資金はどのように調達されるのかについて学びます
10	株式の譲渡	株主にはどのようにしてなるのか、やめるのかについて学びます
11	キャッシュアウト	株主をやめさせられる場合について学びます
12	組織再編	会社を売ったり買われたりする場合について学びます
13	法務・弁護士の仕事	法律がどのように社会で使われ、仕事になるのかについて具体的なケースを交えて考えます
14	理解度の確認およびまとめ	これまでの学習内容のまとめを行う
15	試験及び解説	試験及び解説を行った後、全体総括
16		

科目コード	3G407				区 分	コア			
授業科目名	企業取引法				担当者名	高垣 耕平／鹿室 辰義			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目は、企業経営及び企業取引にまつわる様々な法分野について、実務上問題となりやすい法律の内容を学びます。具体的には、契約法、商法、会社法など基礎的な法律を踏まえ、労働法、知的財産法、国際取引法などの発展的な法分野についてその大枠を把握しつつ、企業取引において発生しやすいトラブルの解決規範となる法律の内容を学びます。これにより、企業運営及び企業取引トラブルの解決に必要な法的知識と法的分析力を身に付けていきます。

### <授業の到達目標>

企業が直面し得る課題について、どのような法的ルールがあるのか、また、そのような企業の課題に対して法的観点からも検討できる素養を身につける。

### <授業の方法>

授業は、原則として講義形式で行います。また、小テスト2回を出題します。学習管理は、小テストの実施や授業内での質疑応答の機会を設けることによって行います。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション等）基本的には講義形式としますが、適宜生徒から意見の発言を求める形でディスカッション等を行う場合があります。

### <準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の講義テーマを確認し、該当箇所について企業経営との関連性や法律の概要を事前に調べておくこと（60分）。授業後は、速やかに講義内容の復習を行いノートにまとめること（90分）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 60%、授業内小テスト 20%、学習態度 20%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	概論	企業取引に関する法律の概要など。
2	契約法	契約の成立要件、解除、定型約款に関する規制など。
3	契約法	典型的な契約類型の解説など。
4	商法	商号、商事売買、運送営業、倉庫営業など。
5	会社法	設立、株式に関する規定など。
6	会社法・小テスト	株主総会、取締役会、役員の責任に関する規定など。第1回～第6回の授業内容に関する小テスト。
7	労働法	労働基準法、労働契約法の概要など。
8	消費者法	消費者契約法、電子商取引、特定商取引法の概要など。
9	広告法	景表法その他の広告規制関連法規の概要など。
10	独占禁止法・下請法	私的独占、カルテル、不公正な取引方法など。
11	知的財産法	特許法、著作権法、商標法の概要など。
12	国際取引法	国際売買、国際運送、国際契約、国際紛争解決手続きなど。
13	M&A・小テスト	M&Aの類型に関する解説など。第7回～第13回の授業内容に関する小テスト。
14	まとめ	これまでに学んだ内容のおさらいと質疑応答。
15	期末試験（と解説）	第1～第14回までの授業内容に関するテストの実施及び解説
16		

科目コード	3G409				区 分	コア			
授業科目名	情報分析論				担当者名	岡田 健志			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

情報分析とは、社会の様々なデータから帰納的に現象を明らかにしようとするものである。そのためには仮説をたて、それを検証するというステップが重要となる。本科目では、統計的手法を用いながら、仮説検証の学習に取り組む。その過程で、平均、分散、相関、回帰分析といった考え方を理解することを目的とする。

＜授業の到達目標＞

「社会調査士」の資格を取得するための必須科目（C科目）である。受講生は、以下の到達目標を達成できることを目指す。（１）統計データを読み解き、グラフや指標を用いて分析し、質的情報の収集・解釈も合わせて行うことで、社会の諸問題を多角的に捉える力を身につける。（２）単純集計や度数分布表、代表値やばらつき指標などの基礎を踏まえつつ、格差指標、クロス集計、相関・回帰分析、時系列の変化分析を体系的に身につける。（３）観察法やインタビューといった手法を取り入れ、数値化しにくい情報を考慮する視点を育む。（４）多様なデータ

＜授業の方法＞

授業内の演習でMicrosoft Excelを適宜利用するため、パソコンを毎回持参すること。講義では講義の記録や自らが理解したことをメモする以外にも、クラス内での議論やインタビューメモのため必ず筆記用具を持参すること。授業ではペアワーク・ディスカッション・相互インタビュー・プレゼンテーションを重視する。特に発言・対話・議論に積極的に参加することが期待される。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングはほぼ毎回の授業で行う。具体的には、ペアワーク・ディスカッション・企画立案実践・プレゼンテーション・相互レビューである。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次回授業で扱う基本事項を予習課題として各回の最後に提示する（想定学習時間：約60分）。理解を深めるための復習課題を毎回課す（想定学習時間：約60分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 40％、毎回の課題提出 40％、最終課題 20％を目安に評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞

篠原清夫他（2024） 『社会調査の基礎』 弘文堂  
大谷信介他（2023） 『最新・社会調査へのアプローチ ー論理と方法ー』 ミネルヴァ書房

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：データ分析とは	初回はデータ分析全般についての導入を行う。社会や日常生活に溢れるデータがどのように活用されているか、具体的な事例（マーケティングやSNS解析など）を挙げながら、データ分析の重要性を理解する。講義の進め方と評価方法を説明する。
2	質的変数と量的変数	質的変数（例：性別、血液型、職業）と量的変数（例：年齢、身長、テストの点数）の違いについて事例を通じて学ぶ。アンケート調査や身近な数値データを題材に、どのようなデータがどちらに分類されるのかを具体的に考える。また、名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比例尺度といった、より詳しいデータのスケールの概念にも触れ、今後の統計手法を学ぶ基礎を固める。
3	統計とはー統計資料の整理・既存統計資料の読み方	統計の基本的な考え方を導入し、公的機関や企業が公表している既存の統計資料(国勢調査や各種白書など)の読み解き方を学ぶ。実際に公的統計資料を取り上げ、どのように整理・要約されているかを確認しながら、信頼できるデータの探し方やデータの妥当性を判断するポイントも解説する。
4	単純集計：表とグラフ	アンケート調査や収集したデータを簡単に要約する方法を学ぶ。棒グラフや円グラフなどの基本的なグラフ化の手法を中心に、どのようにデータを可視化すればわかりやすいかを考えます。表とグラフの作成方法の実習を行う。
5	度数分布表とヒストグラム	連続変数のデータを整理する方法として、度数分布表とヒストグラムの作り方を学ぶ。データの階級区分の決め方や、度数分布を見て分布の形状を読み取る方法を解説する。身近なデータを用いてヒストグラムを作成し、そこから得られる示唆をディスカッションする。

6	代表値とさまざまな平均	<p>平均値・中央値・最頻値などの代表値を計算し、どんな場面でそれぞれが有用か具体例をもとに考える。幾何平均や加重平均といった特殊な平均も紹介し、ビジネスや研究でどのように使われるかにも触れる。実際に身の回りのデータを用いて、いくつかの平均値を計算して比較する。</p>
7	ばらつきの特性値	<p>データのばらつきを示す分散や標準偏差、四分位範囲などの概念を学ぶ。同じ平均値でも、ばらつきの程度が異なればデータの性質も違ってくることを理解する。仮想的なテストの得点データから、標準偏差が大きい場合と小さい場合の違いを比較し、「得点が一部に偏っているか」「全体的にまんべんなく分布しているか」を読み取る演習を行う。</p>
8	ローレンツ曲線とジニ係数	<p>所得の不平等を測る指標としてローレンツ曲線とジニ係数を学ぶ。ローレンツ曲線がどのように社会の分配状況を可視化するかを解説し、ジニ係数を使うことで格差の度合いを数値化できる点を示す。日本と他国のジニ係数を比較したり、実際に人口や世帯収入のデータを使ってローレンツ曲線を描いたりすることで、格差指標の意味を体験的に理解する。</p>
9	クロス集計	<p>2つ以上の変数を組み合わせて分析する「クロス集計」について学ぶ。アンケート調査でよく用いられる手法であり、「性別×購買意欲」など、複数の切り口でデータを見ることで新たな傾向や特徴を発見する。実際のマーケティングデータの一部を取り上げ、男女別・年代別などで購買傾向をクロス集計し、考察する演習を実施する。</p>
10	相関係数、相関関係と因果関係、疑似相関	<p>相関関係とは何かを学び、相関係数の計算方法と読み方を解説する。特に「相関関係があるからといって因果関係があるとは限らない」点を強調し、疑似相関の危険性にも触れる。受講生が日常で見つけてきたデータの相関を計算し、「本当に因果関係があるかどうか」を議論するワークを行う。</p>
11	母集団と標本、統計的検定	<p>データ分析における母集団と標本の概念を整理し、仮説検定やP値、信頼区間などの基本的な統計的検定の枠組みを紹介する。統計的に有意という考え方が、研究やビジネスでどのように利用されるかを具体例で示す。</p>
12	回帰分析	<p>1つの目的変数に対して影響を及ぼす複数の要因（説明変数）をモデル化する手法として回帰分析を学ぶ。単回帰分析と重回帰分析の違いを説明し、決定係数を用いてモデルの説明力を評価する方法も解説する。例えば不動産の価格を予測するモデルを題材に、立地や広さ、築年数などのデータを使って回帰分析を実践し、どの変数が価格に影響しているかを考える。</p>
13	時系列データ（構成比・寄与度・寄与率）	<p>時系列データの基本的な扱い方や、構成比・寄与度・寄与率といった指標について学ぶ。時系列データでは、時間の経過に伴う傾向や季節変動などを読み解くことが重要である。具体的な事例として、企業の売上データや人口推移、消費動向を数年分取り扱い、寄与度分析によってどの要素が全体の变化を大きく左右しているかを考える演習を行う。</p>
14	質的データの読み方（1）：観察法	<p>質的データ分析の第一歩として、観察法を取り上げる。インタビューやアンケートなどの前に、実際の現場を観察することで得られるデータの特徴を理解する。クラス内や学内の特定の場所を観察し、利用者の動線や行動パターンをメモする演習を実施。そこから見えてくる課題や改善点を発見するプロセスを体験する。</p>
15	質的データの読み方（2）：インタビュー	<p>質的研究で重要なデータ収集手段の1つであるインタビューについて、半構造化インタビューやフォーカスグループインタビューなどの方法を学ぶ。学生同士でインタビューを実施し、その内容をどのようにまとめ、分析するかを簡単に体験する。実際の現場調査やマーケティングリサーチなどで役立つリサーチスキルを養うことを目標とする。</p>
16		

科目コード	3G410				区 分	コア			
授業 科目名	ブランド戦略論				担当者名	扇野 陸巳			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本講義では、ウェルビーイングをベースとしたブランド戦略の基本的な概念・理論・手法を学び、実社会におけるブランディングの仕組みを理解することを目的とします。チームでの協働を通じて非認知能力を育成し、将来の実務や就職活動にも活かせる力を養います。マーケティング総論を履修済みであることを前提として授業を実施します。学生の理解度に応じて、シラバスを変更する場合があります。

### <授業の到達目標>

●ブランド戦略の基本的理解ブランドの役割・価値・戦略構築の基礎的知識を理解し、用語や概念を説明できる。ブランド検定3級を合格できる知識を養う。●商品・サービス開発プロセスの体験的理解顧客分析・企画立案・ネーミング・デザイン・プロトタイプ作成・PR戦略といった流れを、実際のプロジェクトとして体験し、各工程の重要性を理解できる。●チームで協働する力の向上（非認知能力の育成）チーム内での役割分担、話し合い、意見調整などを通じて、協働する力・傾聴力・責任感を養う。

### <授業の方法>

本講義は、講義形式とグループワークの併用により進行します。前半は基礎的な理論や実務知識を講義で学び、後半では少人数のグループでのディスカッションや発表を行います。これにより、インプットとアウトプットの両面から理解を深め、実践的な思考力・コミュニケーション力を養成します。講義部分ではスライドや映像資料を活用し、視覚的にも理解しやすい工夫を行います。グループワークでは、ブランド戦略の立案や企業分析をテーマとします。期末にはグループでのプレゼンテーションを実施し、相互評価を取り入れます。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本講義は、講義形式を基本としつつ、アクティブラーニングを積極的に取り入れて進行します。理論の理解に加え、実践的な応用力やコミュニケーション能力の育成も重視します。前半はスライドや事例を活用した講義形式で、ブランド戦略の基礎理論やフレームワークを学びます。後半は企業事例や社会課題を題材としたグループワークを実施し、ブランド戦略の立案・発表を行います。授業内では、アクティブラーニングとして、グループワークやプレゼンテーションなどを取り入れ、学生の主体的な参加を促します。最終的には、グループでの発表を通じて、自

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前準備（予習）として、配布資料の確認や指定された動画・記事の閲覧、小課題への回答などを求める場合があります。事後課題（復習・レポート）として、授業内容の振り返りや、自らの考えをまとめる簡単なレポートを不定期で出題します。※ともに1時間程度

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、本学の卒業認定・学位授与の方針に掲げる以下の能力の育成に貢献します。思考力・判断力：市場や顧客の状況を分析し、戦略的な意思決定を考察する力を養います。特にグループワークやアクティブラーニングを通じて、自ら課題を発見し、解決に向けた論理的思考を育成します。表現力・コミュニケーション力：自らの考えをプレゼンテーションやディスカッションを通じて他者に伝える力、他者と協働する力を育てます。主体的な学びの姿勢：事前準備や事後課題を通じて、自ら学び続ける姿勢を重視し、学修の習慣化を促します。本科目での学びは

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価項目と割合出席・授業への貢献度 30%課題提出 30%グループ発表 20%学生同士の相互評価 20%

### <教科書>

一般財団法人ブランド・マネージャー認定協会（2019年9月10日） ブランド・マネージャー資格試験公式テキスト 中央経済社

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス・ブランドとは何か	ブランドの定義、授業で誕生した事例紹介
2	ブランドの役割と価値	機能的価値・情緒的価値・社会的価値
3	パーパス・ビジョン・ミッション	ブランドの意味と価値を明文化
4	環境分析	マクロ分析、ミクロ分析
5	STP戦略①	ペルソナストーリーを明文化、ビジュアル化
6	STP戦略②	競合との違いをポジショニングマップで可視化
7	ブランド・アイデンティティ	ペルソナからどう思われたいブランドか、明文化
8	4P/4C	企業目線、顧客目線から情報整理
9	刺激の設計（ブランド要素）	ブランド・アイデンティティに沿ってネーミング、ロゴマーク等考察
10	刺激の設計（ブランド体験）	どのようなブランド体験イベントを実施するかを企画
11	SNSとブランド戦略	インフルエンサー、炎上リスク

12	ウェルビーイングとブランド戦略	長期的に支持されるブランドとは？
13	グループ発表	各グループの戦略提案とフィードバック
14	グループ発表	各グループの戦略提案とフィードバック
15	グループ発表とまとめ	各グループの戦略提案とフィードバック、学んだ知識の統合
16		

科目コード	3G411				区 分	コア科目			
授業科目名	税法				担当者名	本村 大輔			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

昨今、ICTの急速な発達により我々の生活は大きく変わってきています。このような中、我が国の税制もまた経済の多様化とグローバル化により、めまぐるしく変化しています。この変化は、毎年の税制改正として現れ、我々納税義務者をとりまく環境は絶えず変化し、複雑化しています。ただ、税法の基礎理論や納税者の権利は、いかに経済社会が複雑化しようとも変化することはありません。そこで、本講義では、我が国が抱える税法問題を考え、税法の基礎理論および基礎知識を学習していきます。

### <授業の到達目標>

複雑にみえる税法は、我々にとって身近な法分野といえます。身近であればこそ、税法に関する基礎知識は備えておくことが大切です。そこで、税法一般および所得税法ならびに消費税法に関する具体的問題を考えながら、税法の基礎理論の修得を目指します。つまり、我が国が抱える税法の問題を理解した上で、問題の解決にどのようにアプローチできるのかを考えます。そこで、講義においては、各人が税法に関する問題を理解し、判断できるだけの基本的知識および考え方の修得を目指します。

### <授業の方法>

授業は、原則としてオンライン講義形式で行います。講義内容は、税に関する基礎知識の整理、税法をめぐる具体的問題について学習していきます。また、授業内で税法問題に関して質問することがあり、回答はリアクション・ペーパーに記載していただきます。（ウ）本科目は、授業内で税法の問題に関して質問を行い、それに対して回答をする形式で行う。ここでは、税法問題を主観的に捉えることにより、自分であればどのような解釈が可能であるのかを考える。また、必要に応じて先の解釈について、他の学生からコメントを求めることにより、ディスカッション

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ディスカッションを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の講義テーマを確認し、該当箇所の教科書を通読し、わからない法律用語については事前に調べておくこと（30分）。授業後は、速やかに講義内容の復習および教科書の該当箇所を精読しノートにまとめること（90分）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート課題（60%）、出席時の受講態度（15%）、リアクションペーパーの提出（25%）により成績評価を行う。フィードバックは、リアクションペーパーの講評を口頭にて行う。なお、授業内で質問の多い箇所については、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。

### <教科書>

石村耕治編 現代税法入門塾 第10版 清文社

### <参考書>

北野弘久著・黒川功補訂（2022年12月） 税法学原論 第9版 勁草書房

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス・発展する現代社会と税法学の接点	我が国の税財政の課題を確認し、我が国が抱える税法問題を考える。
2	ビジネスモデルの発展と我が国の税制－シェアリングビジネスを題材として－	IT技術の発達に伴うビジネスモデル発展に対して、我が国の税制と課税取扱いの問題を考察する。
3	税法学の特質－税法学と隣接法学との関係および法認識論と法実践論の異同－	税法と隣接する近接する法領域すなわち行政法や民法ひいては財政学との関係を考察することにより、税法学の多角的検討の必要性を学ぶ。
4	租税体系の基礎	我が国の租税体系を概観し、考察する。
5	租税に関する基礎知識	「所得」とはなにか、「租税」の法的定義について考察する。
6	税法の基礎理論とはなにか	租税法律主義の原則と租税負担公平の原則との異同について考察する。
7	租税法律主義の法理とその基本的機能	租税法律主義における法理的要請について確認、検討を加えていく。
8	租税法律主義の原則と「租税」概念－事例研究－	租税法規不遡及の原則にかかる裁判例の法的問題を検討する。
9	所得税法の基礎①	我が国における所得概念、課税単位について学ぶ。
10	所得税法の基礎②	所得分類と所得税の計算の基本的な仕組みを学ぶ。
11	所得税法上の所得分類①	事業所得、給与所得、譲渡所得について考察する。
12	所得税法上の所得分類②	不動産所得、利子所得、配当所得、退職所得、一時所得、雑所得について考察する。
13	消費税法の基礎①	消費税の仕組みについて学ぶ。

14	消費税法の基礎②	消費税法における仕入税額控除とインボイス制度にかかる法的問題を考察する。
15	レポート課題の出題、理解度の確認およびまとめ	これまでの学習内容のまとめおよび総括を行う。
16		

科目コード	3G412				区 分	専門基礎			
授業科目名	社会調査法				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本講義では、社会調査を企画・設計し、設計に基づいたデータ収集を行い、さらに集めたデータを分析可能な形に整理・加工するまでの一連のプロセスを理解すること、また各プロセスで求められる調査スキルの基礎を習得することをねらいとする。最終的にはインタビュー方式によるミニ調査報告書を作成してもらう予定である。

### <授業の到達目標>

①社会調査の意義と役割について正確に説明することができる。②質的調査について長所と短所を説明することができる。③量的調査について長所と短所を説明することができる。④半構造化インタビューの手法を用いてミニ報告書を作成することができる。

### <授業の方法>

1. 配布資料を用いて、講義を行なう（毎回、次回以降の講義資料を入手できるようにするので、反転授業形式となる）。2. 授業中は質疑応答しながら授業を進めるため、対話型授業をめざす。3. 授業終了前に小テストを実施し、基礎知識の定着度を確認しながら進めていく。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの有無：有ディスカッション、グループワーク

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 授業計画に記載されている授業内容、用語などについて、図書館等にある事典や書籍などを参照しつつ、必ず事前に調べて、講義に臨むこと（予習90分）。2 空欄埋めシートなどを使って、講義で扱った内容を何度も復習すること（復習60分）。3 講義に関する不明点等があれば、自分で調べたり、教員に尋ねたりすること（復習30分）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①授業における課題提出：30%②授業内レポート×2回：40%③授業内確認テスト：30%上記の総合点で評価する。

### <教科書>

使用せず。

### <参考書>

適宜指示する。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	社会調査法とは何か	社会調査法はどのような学問かを理解し、その対象と特徴について学ぶ。
2	社会調査の歴史	社会調査がどのように行われてきたのかについて学ぶ。
3	社会調査の基本的な心構え	社会調査を行うにあたっての基本的な心構えについて学ぶ。
4	調査倫理	社会調査を進めるうえでの調査倫理について学ぶ。
5	社会調査の対象と方法	量的調査と質的調査それぞれの長所と短所について学ぶ。
6	既存の資料・データの収集と活用	既存資料の探索や収集の方法とその意味を中心に学ぶ。
7	授業内レポート①	第1回から第6回の内容について理解度を確認する。
8	質的調査①	質的調査の種類と考え方について学ぶ。
9	質的調査②	インタビュー調査について学ぶ。
10	質的調査③	実際に質問要綱を作成する。
11	量的調査①	調査の手順について学ぶ。
12	量的調査②	調査票の作成と点検およびデータ作成について学ぶ。
13	社会調査と現代社会	調査報告書の作成について学ぶ。
14	授業内レポート②	第8回から第13回の内容について理解度を確認する。
15	本科目のまとめ	学習内容の総復習
16		

科目コード	3G412				区 分	専門基礎			
授業科目名	社会調査法 [FE用]				担当者名	濱嶋 幸司			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	選択	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本科目では「社会調査」とはどのようなものか、実生活においてどのように役立てることができるのか、基本的な考え方を説明し、あわせて事例も紹介していく。確かな手続きをもとに「調べる」ことの大事さと公表される結果（データ）が何を意味しているのかを理解を深める。情報発信者となった際には「社会調査」の方法を適切に使えること、また、情報受信者となった際に「社会調査」の方法がどのように使われているかを読み取ることができること、この2つのスキルを習得することをねらいとする。

#### <授業の到達目標>

①社会調査とは何か、手法・手続きがわかる②具体的な社会調査事例を収集し、その結果が何を意味しているのか理解することができる③自らが社会調査を実施するにあたり、適切に実施し、結果を説明することができる

#### <授業の方法>

講義形式だが、受講者と対話および授業内でワークを実施する

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に予習すること（90分）、授業後に振り返りを兼ねた復習をおこなうこと（90分）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（15%）、振り返り課題提出（30%）、中間レポート（25%）、最終確認テスト（30%）。授業終了時に振り返り課題を出すので提出すると内容の応じて加点となる。課題は次回以降に返却する。クラスルームを活用する。中間レポート、最終確認テストについては事前に範囲・概要を伝える。

#### <教科書>

なし（資料は講師が用意する）

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・ガイダンス	社会調査とは
2	実証となにか	科学的手続きの説明
3	社会調査の種類	量的調査・質的調査・一次分析・二次分析などの説明
4	[オンデマンド] 調査倫理	ヒトを対象にした調査の在り方、倫理に関する資料を提示するので熟読
5	研究・調査対象	母集団、標本抽出、特定層の説明
6	調査事例を学ぶ①	国勢調査、行政調査を主に説明
7	調査事例を学ぶ②	視聴率、マーケティング、一般アンケートを主に説明
8	調査事例を学ぶ③	インタビュー、言説分析の説明
9	調査事例を学ぶ④	フィールドワーク、オートエスノグラフィーの説明
10	調査を探す	各自が気になった社会調査を持ち寄り、全体で教諭する回
11	調査実施の流れ①	調査計画（量的・質的）を考える
12	調査実施の流れ②	調査実施（量的・質的）に至る
13	調査実施の流れ③	データ分析（量的・質的）を適切におこなう
14	調査実施の流れ④	結果をわかりやすく公表（とくに図表には凝る）
15	社会調査の意味	今科目の振り返りと学修成果の確認
16		

科目コード	40100				区 分	コア科目			
授業科目名	ダンス I (基礎) [PH・PP・PS女子用]				担当者名	小澤 尚子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本授業は、中学校教諭一種免許状(保健体育)ならびに高等学校教諭一種免許状(保健体育)の必修科目である。この授業の目的は、学習指導要領に基づいたダンスの授業の展開方法について理解し、ダンスの基本的な技能を身に付けることである。具体的な内容は中学校・高等学校学習指導要領のダンス領域を構成する創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスとし、ダンス分野に関連がある体づくり運動の領域についても取り入れていく。

#### <授業の到達目標>

ダンスの基本的な知識と技能を身につけ、実践することができるようになる。仲間の表現や動きを認め合い協調性をもって課題に取り組むことができるようになる。単元計画を理解し、安全管理も含めた適切な授業運営に関する知識を獲得する。

#### <授業の方法>

創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験し、指導のポイントをとらえていく。技能試験は個人の技能評価のためのリズムダンスと創作ダンスを組み合わせた試験課題を実施する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング 有創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験する

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次回取り扱う内容について自分で調べて指定の方法で成果を提出すること。復習として、毎時提出のレポートに授業で学んだステップの種類や教育要領でのダンスの取り扱いをまとめ、提出すること。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習 に取り組む態度」の3観点を総合的に評価します。技能 40%、毎時のレポート 30%、課題 30%

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

文部科学省(2018) 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編 東洋館出版社  
 文部科学省 (2017) 中学校学習指導要領解説 保健体育編  
 文部科学省 (2009) 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要・評価方法・講義ルール等の説明、ウォームアップ
2	体づくり運動	ウォームアップ、体ほぐしの運動
3	フォークダンス(1)外国編	ハーモニカ、エース・オブ・ダイヤモンド、オクラホマミキサー他
4	フォークダンス(2)日本編	ソーラン節、阿波踊り他
5	現代的なリズムのダンス(1)	上半身の動き（アイソレーション、ウェーブ等）とアームモーションの習得
6	現代的なリズムのダンス(2)	基本的なステップの習得と指導法（アップとダウンのリズム等）
7	現代的なリズムのダンス(3)	変化のある動きを組み合わせたステップの習得
8	現代的なリズムのダンス(4)	現代的なリズムのダンスの創作方法と指導法
9	創作ダンス(1)	もの（小道具）を手がかりにした表現の導入（布、紙等を用いて）
10	創作ダンス(2)	言葉のイメージを手がかりにした表現の導入（オノマトペダンス）
11	創作ダンス(3)	日常動作を手がかりにした表現の導入（美術館編、スポーツ編）
12	授業計画(1)	ダンス授業の指導法について、教材・教具・教師行動から考察する。
13	授業計画(2)	ダンス授業における配慮事項について考察する。
14	授業計画(3)	ダンス授業の単元計画と指導案を作成する。
15	まとめ	単元計画や指導法について考察したものをまとめ、発表する。
16		

科目コード	40100				区 分	コア科目			
授業 科目名	ダンス I (基礎) [PP・PS男子用]				担当者名	小澤 尚子			
配当年次	カリキュラ ムにより異 なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本授業は、中学校教諭一種免許状(保健体育)ならびに高等学校教諭一種免許状(保健体育)の必修科目である。この授業の目的は、学習指導要領に基づいたダンスの授業の展開方法について理解し、ダンスの基本的な技能を身に付けることである。具体的な内容は中学校・高等学校学習指導要領のダンス領域を構成する創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスとし、ダンス分野に関連がある体づくり運動の領域についても取り入れていく。

#### <授業の到達目標>

ダンスの基本的な知識と技能を身につけ、実践することができるようになる。仲間の表現や動きを認め合い協調性をもって課題に取り組むことができるようになる。単元計画を理解し、安全管理も含めた適切な授業運営に関する知識を獲得する。

#### <授業の方法>

創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験し、指導のポイントをとらえていく。技能試験は個人の技能評価のためのリズムダンスと創作ダンスを組み合わせた試験課題を実施する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング 有創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験する

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次回取り扱う内容について自分で調べて指定の方法で成果を提出すること。復習として、毎時提出のレポートに授業で学んだステップの種類や教育要領でのダンスの取り扱いをまとめ、提出すること。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習 に取り組む態度」の3観点を総合的に評価します。技能 40%、毎時のレポート 30%、課題 30%

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

文部科学省(2018) 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編 東洋館出版社  
 文部科学省 (2017) 中学校学習指導要領解説 保健体育編  
 文部科学省 (2009) 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要・評価方法・講義ルール等の説明、ウォームアップ
2	体づくり運動	ウォームアップ、体ほぐしの運動
3	フォークダンス(1)外国編	ハーモニカ、エース・オブ・ダイヤモンド、オクラホマミキサー他
4	フォークダンス(2)日本編	ソーラン節、阿波踊り他
5	現代的なリズムのダンス(1)	上半身の動き（アイソレーション、ウェーブ等）とアームモーションの習得
6	現代的なリズムのダンス(2)	基本的なステップの習得と指導法（アップとダウンのリズム等）
7	現代的なリズムのダンス(3)	変化のある動きを組み合わせたステップの習得
8	現代的なリズムのダンス(4)	現代的なリズムのダンスの創作方法と指導法
9	創作ダンス(1)	もの（小道具）を手がかりにした表現の導入（布、紙等を用いて）
10	創作ダンス(2)	言葉のイメージを手がかりにした表現の導入（オノマトペダンス）
11	創作ダンス(3)	日常動作を手がかりにした表現の導入（美術館編、スポーツ編）
12	授業計画(1)	ダンス授業の指導法について、教材・教具・教師行動から考察する。
13	授業計画(2)	ダンス授業における配慮事項について考察する。
14	授業計画(3)	ダンス授業の単元計画と指導案を作成する。
15	まとめ	単元計画や指導法について考察したものをまとめ、発表する。
16		

科目コード	40100				区 分	コア科目			
授業科目名	ダンス I (基礎) [PP・PS男子用]				担当者名	小澤 尚子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本授業は、中学校教諭一種免許状(保健体育)ならびに高等学校教諭一種免許状(保健体育)の必修科目である。この授業の目的は、学習指導要領に基づいたダンスの授業の展開方法について理解し、ダンスの基本的な技能を身に付けることである。具体的な内容は中学校・高等学校学習指導要領のダンス領域を構成する創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスとし、ダンス分野に関連がある体づくり運動の領域についても取り入れていく。

#### <授業の到達目標>

ダンスの基本的な知識と技能を身につけ、実践することができるようになる。仲間の表現や動きを認め合い協調性をもって課題に取り組むことができるようになる。単元計画を理解し、安全管理も含めた適切な授業運営に関する知識を獲得する。

#### <授業の方法>

創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験し、指導のポイントをとらえていく。技能試験は個人の技能評価のためのリズムダンスと創作ダンスを組み合わせた試験課題を実施する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング 有創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験する

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次回取り扱う内容について自分で調べて指定の方法で成果を提出すること。復習として、毎時提出のレポートに授業で学んだステップの種類や教育要領でのダンスの取り扱いをまとめ、提出すること。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

「知識・技能」, 「思考・判断・表現」, 「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を総合的に評価します。技能 40%、毎時のレポート 30%、課題 30%

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

文部科学省(2018) 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編 東洋館出版社  
 文部科学省(2017) 中学校学習指導要領解説 保健体育編  
 文部科学省(2009) 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要・評価方法・講義ルール等の説明、ウォームアップ
2	体づくり運動	ウォームアップ、体ほぐしの運動
3	フォークダンス(1)外国編	ハーモニカ、エース・オブ・ダイヤモンド、オクラホマミキサー他
4	フォークダンス(2)日本編	ソーラン節、阿波踊り他
5	現代的なリズムのダンス(1)	上半身の動き(アイソレーション、ウェーブ等)とアームモーションの習得
6	現代的なリズムのダンス(2)	基本的なステップの習得と指導法(アップとダウンのリズム等)
7	現代的なリズムのダンス(3)	変化のある動きを組み合わせたステップの習得
8	現代的なリズムのダンス(4)	現代的なリズムのダンスの創作方法と指導法
9	創作ダンス(1)	もの(小道具)を手がかりにした表現の導入(布、紙等を用いて)
10	創作ダンス(2)	言葉のイメージを手がかりにした表現の導入(オノマトペダンス)
11	創作ダンス(3)	日常動作を手がかりにした表現の導入(美術館編、スポーツ編)
12	授業計画(1)	ダンス授業の指導法について、教材・教具・教師行動から考察する。
13	授業計画(2)	ダンス授業における配慮事項について考察する。
14	授業計画(3)	ダンス授業の単元計画と指導案を作成する。
15	まとめ	単元計画や指導法について考察したものをまとめ、発表する。
16		

科目コード	40100				区 分	コア科目			
授業科目名	ダンス I (基礎) [PP・PS男子用]				担当者名	小澤 尚子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本授業は、中学校教諭一種免許状(保健体育)ならびに高等学校教諭一種免許状(保健体育)の必修科目である。この授業の目的は、学習指導要領に基づいたダンスの授業の展開方法について理解し、ダンスの基本的な技能を身に付けることである。具体的な内容は中学校・高等学校学習指導要領のダンス領域を構成する創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスとし、ダンス分野に関連がある体づくり運動の領域についても取り入れていく。

#### <授業の到達目標>

ダンスの基本的な知識と技能を身につけ、実践することができるようになる。仲間の表現や動きを認め合い協調性をもって課題に取り組むことができるようになる。単元計画を理解し、安全管理も含めた適切な授業運営に関する知識を獲得する。

#### <授業の方法>

創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験し、指導のポイントをとらえていく。技能試験は個人の技能評価のためのリズムダンスと創作ダンスを組み合わせた試験課題を実施する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング 有創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験する

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次回取り扱う内容について自分で調べて指定の方法で成果を提出すること。復習として、毎時提出のレポートに授業で学んだステップの種類や教育要領でのダンスの取り扱いをまとめ、提出すること。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習 に取り組む態度」の3観点を総合的に評価します。技能 40%、毎時のレポート 30%、課題 30%

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

文部科学省(2018) 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編 東洋館出版社  
 文部科学省 (2017) 中学校学習指導要領解説 保健体育編  
 文部科学省 (2009) 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要・評価方法・講義ルール等の説明、ウォームアップ
2	体づくり運動	ウォームアップ、体ほぐしの運動
3	フォークダンス(1)外国編	ハーモニカ、エース・オブ・ダイヤモンド、オクラホマミキサー他
4	フォークダンス(2)日本編	ソーラン節、阿波踊り他
5	現代的なリズムのダンス(1)	上半身の動き（アイソレーション、ウェーブ等）とアームモーションの習得
6	現代的なリズムのダンス(2)	基本的なステップの習得と指導法（アップとダウンのリズム等）
7	現代的なリズムのダンス(3)	変化のある動きを組み合わせたステップの習得
8	現代的なリズムのダンス(4)	現代的なリズムのダンスの創作方法と指導法
9	創作ダンス(1)	もの（小道具）を手がかりにした表現の導入（布、紙等を用いて）
10	創作ダンス(2)	言葉のイメージを手がかりにした表現の導入（オノマトペダンス）
11	創作ダンス(3)	日常動作を手がかりにした表現の導入（美術館編、スポーツ編）
12	授業計画(1)	ダンス授業の指導法について、教材・教具・教師行動から考察する。
13	授業計画(2)	ダンス授業における配慮事項について考察する。
14	授業計画(3)	ダンス授業の単元計画と指導案を作成する。
15	まとめ	単元計画や指導法について考察したものをまとめ、発表する。
16		

科目コード	40100				区 分	コア科目			
授業科目名	ダンス I (基礎) [他学科用]				担当者名	小澤 尚子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本授業は、中学校教諭一種免許状(保健体育)ならびに高等学校教諭一種免許状(保健体育)の必修科目である。この授業の目的は、学習指導要領に基づいたダンスの授業の展開方法について理解し、ダンスの基本的な技能を身に付けることである。具体的な内容は中学校・高等学校学習指導要領のダンス領域を構成する創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスとし、ダンス分野に関連がある体づくり運動の領域についても取り入れていく。

#### <授業の到達目標>

ダンスの基本的な知識と技能を身につけ、実践することができるようになる。仲間の表現や動きを認め合い協調性をもって課題に取り組むことができるようになる。単元計画を理解し、安全管理も含めた適切な授業運営に関する知識を獲得する。

#### <授業の方法>

創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験し、指導のポイントをとらえていく。技能試験は個人の技能評価のためのリズムダンスと創作ダンスを組み合わせた試験課題を実施する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング 有創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験する

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次回取り扱う内容について自分で調べて指定の方法で成果を提出すること。復習として、毎時提出のレポートに授業で学んだステップの種類や教育要領でのダンスの取り扱いをまとめ、提出すること。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を総合的に評価します。技能 40%、毎時のレポート 30%、課題 30%

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

文部科学省(2018) 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編 東洋館出版社  
 文部科学省(2017) 中学校学習指導要領解説 保健体育編  
 文部科学省(2009) 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要・評価方法・講義ルール等の説明、ウォームアップ
2	体づくり運動	ウォームアップ、体ほぐしの運動
3	フォークダンス(1)外国編	ハーモニカ、エース・オブ・ダイヤモンド、オクラホマミキサー他
4	フォークダンス(2)日本編	ソーラン節、阿波踊り他
5	現代的なリズムのダンス(1)	上半身の動き(アイソレーション、ウェーブ等)とアームモーションの習得
6	現代的なリズムのダンス(2)	基本的なステップの習得と指導法(アップとダウンのリズム等)
7	現代的なリズムのダンス(3)	変化のある動きを組み合わせたステップの習得
8	現代的なリズムのダンス(4)	現代的なリズムのダンスの創作方法と指導法
9	創作ダンス(1)	もの(小道具)を手がかりにした表現の導入(布、紙等を用いて)
10	創作ダンス(2)	言葉のイメージを手がかりにした表現の導入(オノマトペダンス)
11	創作ダンス(3)	日常動作を手がかりにした表現の導入(美術館編、スポーツ編)
12	授業計画(1)	ダンス授業の指導法について、教材・教具・教師行動から考察する。
13	授業計画(2)	ダンス授業における配慮事項について考察する。
14	授業計画(3)	ダンス授業の単元計画と指導案を作成する。
15	まとめ	単元計画や指導法について考察したものをまとめ、発表する。
16		

科目コード	40101				区 分	コア科目			
授業科目名	バスケットボール I (基礎)				担当者名	國友 亮佑			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

バスケットボールは世界各国で親しまれている競技人口の多いスポーツである。また、中・高等学校の体育の授業においてもバスケットボールはゴール型の選択種目として採用されている競技である。本授業では、バスケットボールの競技特性及び競技ルール理解し、その基礎技術（シュート・ドリブル、パスなど）を身につけ、個人と集団のファンダメンタルや集団戦術を習得し、身につけた力でゲームを楽しむことを目的にしている。また仲間とともに楽しむ力を身につけ、生涯にわたりバスケットボール競技を楽しむ力を養うことを狙いとする。なお、安全かつ効率的な授業運営に為に履修者の上限人数は40名前後とする。

#### <授業の到達目標>

1 バスケットボール競技を安全に配慮しながら、仲間と共に目的ある活動を行うことができる。2 バスケットボールにおける競技特性や基本的な競技ルールを十分に理解することができる。3 個人技術や集団戦術の修得に向けての練習法についても理解し、仲間と協力・工夫しながら実践することができる。（スキルについては、教員採用試験出題レベルが出来るようになる）

#### <授業の方法>

実技形式が基本となり、グループ活動を中心に展開する。必要に応じて資料を配布し解説を行い、各技能習得に関するデモンストレーションを実施する。また、情報や仲間の意見や考え方をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

バスケットボールの技能・ルール・用具に関して把握すること。また次時の内容について、1時間以上専門書やビデオ等を視聴し、イメージを作っておくこと。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 40%、実技テスト40%、知識レポート20%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	基本技術の習得（1）	ボールハンドリング技術
3	基礎技術の習得（2）	ドリブル技術の練習
4	基本技術の習得（3）	パス技術、キャッチング技術
5	基本技術の習得（4）	シュート技術の練習①（レイアップシュート）
6	基本技術の習得（5）	シュート技術の練習②（ゴール下、セットシュート）
7	基本技術の習得（6）	シュート技術の練習③（ジャンプシュート）
8	基本技術の習得（7）	リバウンド、スクリーンアウト
9	基本技術の習得（8）	ディフェンススキル、フットワーク
10	応用技術の習得（1）	2 メンレイアップシュート、ミートシューティング
11	応用技術の習得（2）	3 メンレイアップシュート、アウトナンバー
12	実践技術の習得（1）	ルールの理解、コート理解、3対3
13	実践技術の習得（2）	リーグ戦①（5対5）
14	実践技術の習得（3）	リーグ戦②（5対5）
15	まとめ	実技試験
16		

科目コード	40101				区 分	コア科目			
授業 科目名	バスケットボール I (基礎)				担当者名	國友 亮佑			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

バスケットボールは世界各国で親しまれている競技人口の多いスポーツである。また、中・高等学校の体育の授業においてもバスケットボールはゴール型の選択種目として採用されている競技である。本授業では、バスケットボールの競技特性及び競技ルール理解し、その基礎技術（シュート・ドリブル、パスなど）を身につけ、個人と集団のファンダメンタルや集団戦術を習得し、身につけた力でゲームを楽しむことを目的にしている。また仲間とともに楽しむ力を身につけ、生涯にわたりバスケットボール競技を楽しむ力を養うことを狙いとする。なお、安全かつ効率的な授業運営に為に履修者の上限人数は40名前後とする。

#### <授業の到達目標>

1 バスケットボール競技を安全に配慮しながら、仲間と共に目的ある活動を行うことができる。2 バスケットボールにおける競技特性や基本的な競技ルールを十分に理解することができる。3 個人技術や集団戦術の修得に向けての練習法についても理解し、仲間と協力・工夫しながら実践することができる。（スキルについては、教員採用試験出題レベルが出来るようになる）

#### <授業の方法>

実技形式が基本となり、グループ活動を中心に展開する。必要に応じて資料を配布し解説を行い、各技能習得に関するデモンストラーションを実施する。また、情報や仲間の意見や考え方をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

バスケットボールの技能・ルール・用具に関して把握すること。また次時の内容について、1時間以上専門書やビデオ等を視聴し、イメージを作っておくこと。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 40%、実技テスト40%、知識レポート20%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	基本技術の習得（1）	ボールハンドリング技術
3	基礎技術の習得（2）	ドリブル技術の練習
4	基本技術の習得（3）	パス技術、キャッチング技術
5	基本技術の習得（4）	シュート技術の練習①（レイアップシュート）
6	基本技術の習得（5）	シュート技術の練習②（ゴール下、セットシュート）
7	基本技術の習得（6）	シュート技術の練習③（ジャンプシュート）
8	基本技術の習得（7）	リバウンド、スクリーンアウト
9	基本技術の習得（8）	ディフェンススキル、フットワーク
10	応用技術の習得（1）	2 メンレイアップシュート、ミートシューティング
11	応用技術の習得（2）	3 メンレイアップシュート、アウトナンバー
12	実践技術の習得（1）	ルールの理解、コート理解、3対3
13	実践技術の習得（2）	リーグ戦①（5対5）
14	実践技術の習得（3）	リーグ戦②（5対5）
15	まとめ	実技試験
16		

科目コード	40101				区 分	コア科目			
授業科目名	バスケットボール I (基礎)				担当者名	西垂水 美桜			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

バスケットボールは世界各国で親しまれている競技人口の多いスポーツである。また、中・高等学校の体育の授業においてもバスケットボールはゴール型の選択種目として採用されている競技である。本授業では、バスケットボールの競技特性及び競技ルール理解し、その基礎技術（シュート・ドリブル、パスなど）を身につけ、個人と集団のファンダメンタルや集団戦術を習得し、身につけた力でゲームを楽しむことを目的にしている。また仲間とともに楽しむ力を身につけ、生涯にわたりバスケットボール競技を楽しむ力を養うことを狙いとする。

#### <授業の到達目標>

1 バスケットボール競技を安全に配慮しながら、仲間と共に目的ある活動を行うことが出来る。2 バスケットボールにおける競技特性や基本的な競技ルールを十分に理解することが出来る。3 個人技術や集団戦術の修得に向けての練習法についても理解し、仲間と協力・工夫しながら実践することができる。（スキルについては、教員採用試験出題レベルが出来るようになる）

#### <授業の方法>

実技形式が基本となり、グループ活動を中心に展開する。必要に応じて資料を配布し解説を行い、各技能習得に関するデモンストラーションを実施する。また、情報や仲間の意見や考え方をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

バスケットボールの技能・ルール・用具に関して把握すること。また次時の内容について、1時間以上専門書やビデオ等を視聴し、イメージを作っておくこと。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 40%、実技テスト40%、知識レポート20%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	基本技術の習得（1）	ボールハンドリング技術
3	基礎技術の習得（2）	ドリブル技術の練習
4	基本技術の習得（3）	パス技術、キャッチング技術
5	基本技術の習得（4）	シュート技術の練習①（レイアップシュート）
6	基本技術の習得（5）	シュート技術の練習②（ゴール下、セットシュート）
7	基本技術の習得（6）	シュート技術の練習③（ジャンプシュート）
8	基本技術の習得（7）	リバウンド、スクリーンアウト
9	基本技術の習得（8）	ディフェンススキル、フットワーク
10	応用技術の習得（1）	2 メンレイアップシュート、ミートシューティング
11	応用技術の習得（2）	3 メンレイアップシュート、アウトナンバー
12	実践技術の習得（1）	ルールの理解、コート理解、3対3
13	実践技術の習得（2）	リーグ戦①（5対5）
14	実践技術の習得（3）	リーグ戦②（5対5）
15	まとめ	実技試験
16		

科目コード	40101				区 分	コア科目			
授業 科目名	バスケットボール I (基礎)				担当者名	西垂水 美桜			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

バスケットボールは世界各国で親しまれている競技人口の多いスポーツである。また、中・高等学校の体育の授業においてもバスケットボールはゴール型の選択種目として採用されている競技である。本授業では、バスケットボールの競技特性及び競技ルール理解し、その基礎技術（シュート・ドリブル、パスなど）を身につけ、個人と集団のファンダメンタルや集団戦術を習得し、身につけた力でゲームを楽しむことを目的にしている。また仲間とともに楽しむ力を身につけ、生涯にわたりバスケットボール競技を楽しむ力を養うことを狙いとする。

#### <授業の到達目標>

1 バスケットボール競技を安全に配慮しながら、仲間と共に目的ある活動を行うことが出来る。2 バスケットボールにおける競技特性や基本的な競技ルールを十分に理解することが出来る。3 個人技術や集団戦術の修得に向けての練習法についても理解し、仲間と協力・工夫しながら実践することができる。（スキルについては、教員採用試験出題レベルが出来るようになる）

#### <授業の方法>

実技形式が基本となり、グループ活動を中心に展開する。必要に応じて資料を配布し解説を行い、各技能習得に関するデモンストラーションを実施する。また、情報や仲間の意見や考え方等をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

バスケットボールの技能・ルール・用具に関して把握すること。また次時の内容について、1時間以上専門書やビデオ等を視聴し、イメージを作っておくこと。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 40%、実技テスト40%、知識レポート20%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	基本技術の習得（1）	ボールハンドリング技術
3	基礎技術の習得（2）	ドリブル技術の練習
4	基本技術の習得（3）	パス技術、キャッチング技術
5	基本技術の習得（4）	シュート技術の練習①（レイアップシュート）
6	基本技術の習得（5）	シュート技術の練習②（ゴール下、セットシュート）
7	基本技術の習得（6）	シュート技術の練習③（ジャンプシュート）
8	基本技術の習得（7）	リバウンド、スクリーンアウト
9	基本技術の習得（8）	ディフェンススキル、フットワーク
10	応用技術の習得（1）	2 メンレイアップシュート、ミートシューティング
11	応用技術の習得（2）	3 メンレイアップシュート、アウトナンバー
12	実践技術の習得（1）	ルールの理解、コート理解、3対3
13	実践技術の習得（2）	リーグ戦①（5対5）
14	実践技術の習得（3）	リーグ戦②（5対5）
15	まとめ	実技試験
16		

科目コード	40102				区 分	コア科目			
授業科目名	バレーボール I (基礎) [他学科+PP3年以上用]				担当者名	清田 美紀			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

バレーボールは、簡単なパスゲームからコンビネーションプレーまで、多様なバリエーションを展開することができる。また、バレーボールでは構造的特性上、プレイヤー相互の協力と信頼が不可欠である。そこで本授業では、基本的な技能、ルール、フォーメーション等についての理解を深めると共に、基本的な技能を高め、ゲームにおける相互の連携プレーを成功させることにより、仲間とともに、バレーボールの持つ楽しさや喜びが味わえるようにする。

#### <授業の到達目標>

パスの基本、トスの基本、スパイクの基本を習得させ、3回使ったのゲーム形式が展開出来ることを目標とする

#### <授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや理論を理解させ、授業を進めていく。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（パスやスパイクの記述をどのように身に付けたいのか、ICT機器を活用し、個々の課題を抽出する。その課題解決のための方法を4～5名のグループのメンバーと話し合い、課題解決に向け、練習方法を工夫する活動を行う。）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

映像や資料を用いて、バレーボールについての理解を深める。(1時間)

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

知識的領域 20%、態度的領域 40%、技能的領域 40%とする。知識的領域では、基本的なルールの理解や授業で触れた内容理解の状況の評価する。レポートやフォームへの記入内容による。態度的領域では、授業での主体的な取り組みや出席状況の評価する。技能的領域は、実技テストによる。

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

特に指定なし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業内容の説明と導入	バレーボールの特性の理解
2	バレーボールの歴史について	今日までのバレーボールの生い立ちと現状の理解
3	バレーボールの特性に応じたウォーミングアップ	ウォーミングアップの具体的な方法の理解と実践
4	基本的な技能について①	レシーブ、トス
5	基本的技能について②	サーブ、スパイク
6	基本的技能の複合練習①	移動パスやグループ練習
7	基本的技能の複合練習②	相手コートへの攻撃
8	基本的技能のまとめ	複合練習と実技テスト（1回目）
9	ルールと審判法	ルールについての理解と審判方法の具体
10	試合形式①	リーグ戦
11	試合形式②	リーグ戦
12	試合形式③	リーグ戦
13	大会運営の方法と計画立案及び実技テスト	大会を運営する、「支える」方法について知り、グループごとに運営計画を立案する 実技テスト（パス、スパイク等の基本的な技能）
14	担当グループによる大会運営	バレーボール大会の自主的な運営
15	まとめ	授業の総括・まとめ
16		

科目コード	40102				区 分	コア科目			
授業 科目名	バレーボール I (基礎) [PP・PS用]				担当者名	清田 美紀			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

バレーボールは、簡単なパスゲームからコンビネーションプレーまで、多彩なバリエーションを展開することができる。また、バレーボールでは構造的特性上、プレイヤー相互の協力と信頼が不可欠である。本授業では、基本的な技能、ルール、フォーメーション等についての理解を深めると共に、基本的な技能を高め、ゲームにおける相互の連係プレーを成功させることにより、仲間とともに、バレーボールの持つ楽しさや喜びが味えるようにする。

#### <授業の到達目標>

バスの基本、トスの基本、スパイクの基本を習得させ、習得した知識や基本的な技能を活用したゲーム形式が展開出来ることを目標とする

#### <授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや理論を理解させ、授業を進めていく。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（パスやスパイクの技術を身に付ける際の自己の課題を抽出し、その課題解決に向けた取組を行う。3～4名のグループを編成する。ICT機器を活用し、個々の課題を抽出するとともに、その課題を解決するための練習方法の考案や解決に向けた活動を実行し、技能を身に付ける過程で協働的な学習を行っていく。）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

書籍や映像等を用いてバレーボールについての理解を深める。（1時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

知識的領域20%は、基本的なルールの理解や授業で触れた内容に関するレポート作成の状況について、態度的領域40%は、授業での主体的な取り組みの態度や出席状況について、技能的領域40%は実技テストにより評価する。

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

特に指定なし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業内容についての説明と導入バレーボールの特性の理解
2	バレーボールの歴史について	今日までのバレーボールの生い立ちと現状の理解
3	バレーボールの特性に応じたウォーミングアップ	ウォーミングアップの具体的な方法の理解と実践
4	基本的な技能について①	レシーブ、トス
5	基本的技能について②	サーブ、スパイク
6	基本的技能の複合練習①	移動パスやグループ練習
7	基本的技能の複合練習②	相手コートへの攻撃
8	基本的技能のまとめ①	複合練習と実技テスト（1回目）
9	ルールと審判法	ルールについての理解と審判方法の具体
10	試合形式①	リーグ戦
11	試合形式②	リーグ戦
12	試合形式③	リーグ戦
13	大会運営の方法と計画立案及び実技テスト	・大会を運営する、「支える」方法について知り、グループごとに運営計画を立案する。・実技テスト（パス、スパイク等の基本的な技能）
14	担当グループによる大会運営①	バレーボール大会の自主的な運営
15	まとめ	授業の総括・まとめ
16		

科目コード	40102				区 分	コア科目			
授業科目名	バレーボール I (基礎) [PP・PS用]				担当者名	十河 直太			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

バレーボールは、簡単なパスゲームからコンビネーションプレーまで、多彩なバリエーションを展開することができる。また、バレーボールでは構造的特性上、プレイヤー相互の協力と信頼が不可欠である。本授業では、基本的な技能、ルール、フォーメーション等についての理解を深めると共に、基本的な技能を高め、ゲームにおける相互の連係プレーを成功させることにより、仲間とともに、バレーボールの持つ楽しさや喜びが味えるようにする。

#### <授業の到達目標>

パスの基本、トスの基本、スパイクの基本を習得させ、3回使ったのゲーム形式が展開出来ることを目標とする。直上オーバーハンドパス、直上アンダーハンドパスを30秒間落とさず行うことができる。

#### <授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや理論を理解させ、授業を進めていく。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：有グループに分かれ、単元で学んだプレーについてディスカッションを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

書籍や映像等を用いてバレーボールについての理解を深める。（1時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 60%、実技テスト 40%

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

特に指定なし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業内容の説明と導入	バレーボールの特性の理解
2	バレーボールの歴史について	今日までのバレーボールの生い立ちと現状の理解
3	バレーボールの特性に応じたウォーミングアップ	方法の理解と実践
4	基本的な技能について（1）	スパイクおよびブロック
5	基本的な技能について（2）	レシーブ、セット、サーブ
6	基本的技能の複合練習（1）	移動パスやグループ練習
7	基本的技能の複合練習（2）	三段攻撃
8	基本的技能のまとめ（1）	複合練習と実技テスト
9	基本的技能のまとめ（2）	複合練習と実技テスト
10	ルールと審判法	ルールについての理解と審判方法の具体
11	試合形式（1）	リーグ戦
12	試合形式（2）	リーグ戦
13	試合形式（3）	リーグ戦
14	試合形式（4）	リーグ戦
15	まとめ	総合的レポート
16		

科目コード	40102				区 分	コア科目			
授業科目名	バレーボール I (基礎) [他学科 + PP3年生以上]				担当者名	十河 直太			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

バレーボールは、簡単なパスゲームからコンビネーションプレーまで、多彩なバリエーションを展開することができる。また、バレーボールでは構造的特性上、プレイヤー相互の協力と信頼が不可欠である。本授業では、基本的な技能、ルール、フォーメーション等についての理解を深めると共に、基本的な技能を高め、ゲームにおける相互の連係プレーを成功させることにより、仲間とともに、バレーボールの持つ楽しさや喜びが味えるようにする。

#### <授業の到達目標>

パスの基本、トスの基本、スパイクの基本を習得させ、3回使ったのゲーム形式が展開出来ることを目標とする。直上オーバーハンドパス、直上アンダーハンドパスを30秒間落とさず行うことができる。

#### <授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや理論を理解させ、授業を進めていく。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：有グループに分かれ、単元で学んだプレーについてディスカッションを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

書籍や映像等を用いてバレーボールについての理解を深める。（1時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 60%、実技テスト 40%

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

特に指定なし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業内容の説明と導入	バレーボールの特性の理解
2	バレーボールの歴史について	今日までのバレーボールの生い立ちと現状の理解
3	バレーボールの特性に応じたウォーミングアップ	方法の理解と実践
4	基本的な技能について（1）	スパイクおよびブロック
5	基本的な技能について（2）	レシーブ、セット、サーブ
6	基本的技能の複合練習（1）	移動パスやグループ練習
7	基本的技能の複合練習（2）	三段攻撃
8	基本的技能のまとめ（1）	複合練習と実技テスト
9	基本的技能のまとめ（2）	複合練習と実技テスト
10	ルールと審判法	ルールについての理解と審判方法の具体
11	試合形式（1）	リーグ戦
12	試合形式（2）	リーグ戦
13	試合形式（3）	リーグ戦
14	試合形式（4）	リーグ戦
15	まとめ	総合的レポート
16		

科目コード	40102				区 分	コア科目			
授業科目名	バレーボール I (基礎) [PP・PS用]				担当者名	十河 直太			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

バレーボールは、簡単なパスゲームからコンビネーションプレーまで、多彩なバリエーションを展開することができる。また、バレーボールでは構造的特性上、プレイヤー相互の協力と信頼が不可欠である。本授業では、基本的な技能、ルール、フォーメーション等についての理解を深めると共に、基本的な技能を高め、ゲームにおける相互の連携プレーを成功させることにより、仲間とともに、バレーボールの持つ楽しさや喜びが味えるようにする。

#### <授業の到達目標>

パスの基本、トスの基本、スパイクの基本を習得させ、3回使ったのゲーム形式が展開出来ることを目標とする。直上オーバーハンドパス、直上アンダーハンドパスを30秒間落とさず行うことができる。

#### <授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや理論を理解させ、授業を進めていく。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：有グループに分かれ、単元で学んだプレーについてディスカッションを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

書籍や映像等を用いてバレーボールについての理解を深める。（1時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 60%、実技テスト 40%

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

特に指定なし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業内容の説明と導入	バレーボールの特性の理解
2	バレーボールの歴史について	今日までのバレーボールの生い立ちと現状の理解
3	バレーボールの特性に応じたウォーミングアップ	方法の理解と実践
4	基本的な技能について（1）	スパイクおよびブロック
5	基本的な技能について（2）	レシーブ、セット、サーブ
6	基本的技能の複合練習（1）	移動パスやグループ練習
7	基本的技能の複合練習（2）	三段攻撃
8	基本的技能のまとめ（1）	複合練習と実技テスト
9	基本的技能のまとめ（2）	複合練習と実技テスト
10	ルールと審判法	ルールについての理解と審判方法の具体
11	試合形式（1）	リーグ戦
12	試合形式（2）	リーグ戦
13	試合形式（3）	リーグ戦
14	試合形式（4）	リーグ戦
15	まとめ	総合的レポート
16		

科目コード	40104				区 分	コア科目			
授業 科目名	ハンドボール I (基礎)				担当者名	仙波 慎平			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

ハンドボールは、ヨーロッパで発展した、スピーディーでダイナミックなプレーが人気のボールゲームである。走・跳・投という基本的な運動要素がバランスよく含まれており、発達段階にある子供に対しても有用な教材として学習指導要領にも取り上げられている。本講義では、ハンドボールの基礎、専門的運動技能と実技指導能力を学習する。（1クラスの定員50名とする。）

#### <授業の到達目標>

ハンドボールのルールと競技特性を理解し、ゲームを楽しむことができること、 ボールゲームとしてのハンドボールの成り立ちに着目した上で、ゲームに必要な基礎的技術、戦術を身につける。

#### <授業の方法>

実技を通して、ハンドボールを学習し、随時その理論的背景を説明する。また、資料、映像等を必要に応じて活用し講義授業をすすめていく。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有グループワーク（7～10人グループにわかれ、運営等を行う）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時に紹介するハンドボール指導に関する書籍・DVDを参照し、予習・復習(1コマにつき1時間)にあてる。また、授業ノートを作り、その日に行ったこと、ポイント、感想などを記入していく。なお、授業ノートは定期的に集め、内容をチェックする。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、技術・戦術遂行能力・運動学習能力 30%、実技テスト20%

#### <教科書>

#### <参考書>

笹倉清則（2003）「Tactics of Handball in The World」 財団法人日本ハンドボール協会  
酒巻清治（2012）「基本が身につく ハンドボール 練習メニュー200」 池田書店

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の説明、ルール説明、ハンドボールの映像観察
2	個人技術の習得	パス・キャッチ技術の習得
3	個人技術の習得（2）	シュートの種類、基本動作の習得
4	原始的ゲーム	基本的ルールの説明、少人数での速攻ゲーム
5	対人的技術・戦術（1）	1対1状況における攻撃と防御の基礎スキル、少人数ゲーム（1）
6	対人的技術・戦術（2）	1対1状況における攻撃と防御の応用スキル、少人数ゲーム（2）
7	グループ戦術（1）	2対2状況における攻撃と防御の基礎スキル、ゲーム（1）
8	グループ戦術（2）	2対2状況における攻撃と防御の応用スキル、ゲーム（2）
9	ゲーム（1）	ゲーム実施およびその運営
10	ゲーム（2）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（1）
11	ゲーム（3）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（2）
12	ゲーム（4）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（3）
13	ゲーム（5）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（4）
14	ゲーム（6）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（5）
15	ゲーム（7）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（6）
16		

科目コード	40104				区 分	コア科目			
授業 科目名	ハンドボール I (基礎)				担当者名	仙波 慎平			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

### <授業の概要>

ハンドボールは、ヨーロッパで発展した、スピーディーでダイナミックなプレーが人気のボールゲームである。走・跳・投という基本的な運動要素がバランスよく含まれており、発達段階にある子供に対しても有用な教材として学習指導要領にも取り上げられている。本講義では、ハンドボールの基礎、専門的運動技能と実技指導能力を学習する。（1クラスの定員50名とする。）

### <授業の到達目標>

ハンドボールのルールと競技特性を理解し、ゲームを楽しむことができること、 ボールゲームとしてのハンドボールの成り立ちに着目した上で、ゲームに必要な基礎的技術、戦術を身につける。

### <授業の方法>

実技を通して、ハンドボールを学習し、随時その理論的背景を説明する。また、資料、映像等を必要に応じて活用し講義授業をすすめていく。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有グループワーク（7～10人グループに分かれて、運営等を行う）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時に紹介するハンドボール指導に関する書籍・DVDを参照し、予習・復習(1コマにつき1時間)にあてる。また、授業ノートを作り、その日に行ったこと、ポイント、感想などを記入していく。なお、授業ノートは定期的に集め、内容をチェックする。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、技術・戦術遂行能力・運動学習能力 30%、実技テスト 20%

### <教科書>

### <参考書>

笹倉清則（2003）「Tactics of Handball in The World」 財団法人日本ハンドボール協会

酒巻清治（2012）「基本が身につく ハンドボール 練習メニュー200」 池田書店

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の説明、ルール説明、ハンドボールの映像観察
2	個人技術の習得	パス・キャッチ技術の習得
3	個人技術の習得（2）	シュートの種類、基本動作の習得
4	原始的ゲーム	基本的ルールの説明、少人数での速攻ゲーム
5	対人的技術・戦術（1）	1対1状況における攻撃と防御の基礎スキル、少人数ゲーム（1）
6	対人的技術・戦術（2）	1対1状況における攻撃と防御の応用スキル、少人数ゲーム（2）
7	グループ戦術（1）	2対2状況における攻撃と防御の基礎スキル、ゲーム（1）
8	グループ戦術（2）	2対2状況における攻撃と防御の応用スキル、ゲーム（2）
9	ゲーム（1）	ゲーム実施およびその運営
10	ゲーム（2）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（1）
11	ゲーム（3）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（2）
12	ゲーム（4）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（3）
13	ゲーム（5）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（4）
14	ゲーム（6）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（5）
15	ゲーム（7）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（6）
16		

科目コード	40105				区 分	コア科目			
授業科目名	陸上 I (基礎) [他学科 + PP2年生以上]				担当者名	梶谷 亮輔／品田 直宏			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

### <授業の概要>

陸上競技は、走・跳・投・歩の運動から構成され、内容的には体力的・技術的・精神的な多くの要素を含んでいる。競技や練習を行う上では多面性が要求され、計画的・継続的に行う必要がある種目である。本授業では、特に教員採用試験で出題されるであろう基礎的な種目に照準をあて、五種競技を中心に授業を進める。

### <授業の到達目標>

陸上競技の専門的なトレーニング方法や技術に関する知識の習得、および陸上競技における安全管理の方法を理解した上で、走跳投種目（800m、ハードル走、走幅跳、走高跳および砲丸投）の模範を示すことができる。

### <授業の方法>

対面授業による実技のため教科書は使用しないが、雨天時にはGoogle Classroomを用いたオンデマンド授業とし、各種目の歴史やルール・指導上の留意点に関する理解を深めると共に、レポート課題、小テストを行う。履修上限は70名とする。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

運動習慣のない者、また体力に自信のない者は、自主練習等を行い授業に臨むことがことが望ましい。参考図書（陸上競技入門）やルールブックを熟読の上、授業に参加すること。（所要時間：1時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー 2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験 50%，レポート課題20%，受講態度・学習意欲 30%

### <教科書>

### <参考書>

関岡康雄 陸上競技入門 ベースボールマガジン社

日本陸上競技連盟 陸上競技ルールブック ベースボールマガジン社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、陸上競技の概要	受講上の注意、陸上競技のウォーミングアップ、軸を意識した姿勢作り、ウォーキング&ジョギング
2	短距離走	短距離走の走り方、ウォーミングアップ実践し、100m走の記録測定
3	走高跳①	走高跳のウォーミングアップ実践、曲線助走の方法、踏切
4	走高跳②	踏切～背面跳、記録の測定
5	ハードル走①	ハードルドリル、ハードルクリアランス、アプローチ
6	ハードル走②	インターバル間の走り、記録の測定
7	走幅跳①	走幅跳のウォーミングアップ実践、助走の合わせ方、助走～踏切
8	走幅跳②	助走の確認、記録の測定
9	砲丸投①	砲丸投げのウォーミングアップ実践、立ち投げ
10	砲丸投②	グライド投法、記録の測定
11	800m走	800m走のウォーミングアップ実践、ペース配分、記録の測定
12	跳躍種目の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
13	ハードル走の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
14	砲丸投の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
15	800m走の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
16		

科目コード	40105				区 分	コア科目			
授業科目名	陸上 I (基礎) [PP男子用]				担当者名	梶谷 亮輔／品田 直宏			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

### <授業の概要>

陸上競技は、走・跳・投・歩の運動から構成され、内容的には体力的・技術的・精神的な多くの要素を含んでいる。競技や練習を行う上では多面性が要求され、計画的・継続的に行う必要がある種目である。本授業では、特に教員採用試験で出題されるであろう基礎的な種目に照準をあて、五種競技を中心に授業を進める。

### <授業の到達目標>

陸上競技の専門的なトレーニング方法や技術に関する知識の習得、および陸上競技における安全管理の方法を理解した上で、走跳投種目（800m、ハードル走、走幅跳、走高跳および砲丸投）の模範を示すことができる。

### <授業の方法>

対面授業による実技のため教科書は使用しないが、雨天時にはGoogle Classroomを用いたオンデマンド授業とし、各種目の歴史やルール・指導上の留意点に関する理解を深めると共に、レポート課題、小テストを行う。履修上限は70名とする。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

運動習慣のない者、また体力に自信のない者は、自主練習等を行い授業に臨むことがことが望ましい。参考図書（陸上競技入門）やルールブックを熟読の上、授業に参加すること。（所要時間：1時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験 50%，レポート課題20%，受講態度・学習意欲 30%

### <教科書>

### <参考書>

関岡康雄 陸上競技入門 ベースボールマガジン社  
日本陸上競技連盟 陸上競技ルールブック ベースボールマガジン社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、陸上競技の概要	受講上の注意、陸上競技のウォーミングアップ、軸を意識した姿勢作り、ウォーキング&ジョギング
2	短距離走	短距離走の走り方、ウォーミングアップ実践し、100m走の記録測定
3	走高跳①	走高跳のウォーミングアップ実践、曲線助走の方法、踏切
4	走高跳②	踏切～背面跳、記録の測定
5	ハードル走①	ハードルドリル、ハードルクリアランス、アプローチ
6	ハードル走②	インターバル間の走り、記録の測定
7	走幅跳①	走幅跳のウォーミングアップ実践、助走の合わせ方、助走～踏切
8	走幅跳②	助走の確認、記録の測定
9	砲丸投①	砲丸投げのウォーミングアップ実践、立ち投げ
10	砲丸投②	グライド投法、記録の測定
11	800m走	800m走のウォーミングアップ実践、ペース配分、記録の測定
12	跳躍種目の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
13	ハードル走の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
14	砲丸投の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
15	800m走の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
16		

科目コード	40105				区 分	コア科目			
授業科目名	陸上 I (基礎) [PP女子用、他学科 + PP2年生以上]				担当者名	梶谷 亮輔／品田 直宏			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

### <授業の概要>

陸上競技は、走・跳・投・歩の運動から構成され、内容的には体力的・技術的・精神的な多くの要素を含んでいる。競技や練習を行う上では多面性が要求され、計画的・継続的に行う必要がある種目である。本授業では、特に教員採用試験で出題されるであろう基礎的な種目に照準をあて、五種競技を中心に授業を進める。

### <授業の到達目標>

陸上競技の専門的なトレーニング方法や技術に関する知識の習得、および陸上競技における安全管理の方法を理解した上で、走跳投種目（800m、ハードル走、走幅跳、走高跳および砲丸投）の模範を示すことができる。

### <授業の方法>

対面授業による実技のため教科書は使用しないが、雨天時にはGoogle Classroomを用いたオンデマンド授業とし、各種目の歴史やルール・指導上の留意点に関する理解を深めると共に、レポート課題、小テストを行う。履修上限は70名とする。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

運動習慣のない者、また体力に自信のない者は、自主練習等を行い授業に臨むことが望ましい。参考図書（陸上競技入門）やルールブックを熟読の上、授業に参加すること。（所要時間：1時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー 2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験 50%，レポート課題20%，受講態度・学習意欲 30%

### <教科書>

### <参考書>

関岡康雄 陸上競技入門 ベースボールマガジン社

日本陸上競技連盟 陸上競技ルールブック ベースボールマガジン社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、陸上競技の概要	受講上の注意、陸上競技のウォーミングアップ、軸を意識した姿勢作り、ウォーキング&ジョギング
2	短距離走	短距離走の走り方、ウォーミングアップを実践し、100m走の記録測定
3	走高跳①	走高跳のウォーミングアップ実践、曲線助走の方法、踏切
4	走高跳②	踏切～背面跳、記録の測定
5	ハードル走①	ハードルドリル、ハードルクリアランス、アプローチ
6	ハードル走②	インターバル間の走り、記録の測定
7	走幅跳①	走幅跳のウォーミングアップ実践、助走の合わせ方、助走～踏切
8	走幅跳②	助走の確認、記録の測定
9	砲丸投①	砲丸投げのウォーミングアップ実践、立ち投げ
10	砲丸投②	グライド投法、記録の測定
11	800m走	800m走のウォーミングアップ実践、ペース配分、記録の測定
12	跳躍種目の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
13	ハードル走の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
14	砲丸投の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
15	800m走の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
16		

科目コード	40105				区 分	コア科目			
授業科目名	陸上 I (基礎) [PS用]				担当者名	梶谷 亮輔／品田 直宏			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

### <授業の概要>

陸上競技は、走・跳・投・歩の運動から構成され、内容的には体力的・技術的・精神的な多くの要素を含んでいる。競技や練習を行う上では多面性が要求され、計画的・継続的に行う必要がある種目である。本授業では、特に教員採用試験で出題されるであろう基礎的な種目に照準をあて、五種競技を中心に授業を進める。

### <授業の到達目標>

陸上競技の専門的なトレーニング方法や技術に関する知識の習得、および陸上競技における安全管理の方法を理解した上で、走跳投種目（800m、ハードル走、走幅跳、走高跳および砲丸投）の模範を示すことができる。

### <授業の方法>

対面授業による実技のため教科書は使用しないが、雨天時にはGoogle Classroomを用いたオンデマンド授業とし、各種目の歴史やルール・指導上の留意点に関する理解を深めると共に、レポート課題、小テストを行う。履修上限は70名とする。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

運動習慣のない者、また体力に自信のない者は、自主練習等を行い授業に臨むことがことが望ましい。参考図書（陸上競技入門）やルールブックを熟読の上、授業に参加すること。（所要時間：1時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験 50%，レポート課題20%，受講態度・学習意欲 30%

### <教科書>

### <参考書>

関岡康雄 陸上競技入門 ベースボールマガジン社  
日本陸上競技連盟 陸上競技ルールブック ベースボールマガジン社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、陸上競技の概要	受講上の注意、陸上競技のウォーミングアップ、軸を意識した姿勢作り、ウォーキング&ジョギング
2	短距離走	短距離走の走り方、ウォーミングアップ実践し、100m走の記録測定
3	走高跳①	走高跳のウォーミングアップ実践、曲線助走の方法、踏切
4	走高跳②	踏切～背面跳、記録の測定
5	ハードル走①	ハードルドリル、ハードルクリアランス、アプローチ
6	ハードル走②	インターバル間の走り、記録の測定
7	走幅跳①	走幅跳のウォーミングアップ実践、助走の合わせ方、助走～踏切
8	走幅跳②	助走の確認、記録の測定
9	砲丸投①	砲丸投げのウォーミングアップ実践、立ち投げ
10	砲丸投②	グライド投法、記録の測定
11	800m走	800m走のウォーミングアップ実践、ペース配分、記録の測定
12	跳躍種目の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
13	ハードル走の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
14	砲丸投の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
15	800m走の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
16		

科目コード	40105				区 分	コア科目			
授業科目名	陸上 I (基礎) [PP男子用]				担当者名	梶谷 亮輔／品田 直宏			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

### <授業の概要>

陸上競技は、走・跳・投・歩の運動から構成され、内容的には体力的・技術的・精神的な多くの要素を含んでいる。競技や練習を行う上では多面性が要求され、計画的・継続的に行う必要がある種目である。本授業では、特に教員採用試験で出題されるであろう基礎的な種目に照準をあて、五種競技を中心に授業を進める。

### <授業の到達目標>

陸上競技の専門的なトレーニング方法や技術に関する知識の習得、および陸上競技における安全管理の方法を理解した上で、走跳投種目（800m、ハードル走、走幅跳、走高跳および砲丸投）の模範を示すことができる。

### <授業の方法>

対面授業による実技のため教科書は使用しないが、雨天時にはGoogle Classroomを用いたオンデマンド授業とし、各種目の歴史やルール・指導上の留意点に関する理解を深めると共に、レポート課題、小テストを行う。履修上限は70名とする。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

運動習慣のない者、また体力に自信のない者は、自主練習等を行い授業に臨むことがことが望ましい。参考図書（陸上競技入門）やルールブックを熟読の上、授業に参加すること。（所要時間：1時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー 2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験 50%，レポート課題20%，受講態度・学習意欲 30%

### <教科書>

### <参考書>

関岡康雄 陸上競技入門 ベースボールマガジン社

日本陸上競技連盟 陸上競技ルールブック ベースボールマガジン社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、陸上競技の概要	受講上の注意、陸上競技のウォーミングアップ、軸を意識した姿勢作り、ウォーキング&ジョギング
2	短距離走	短距離走の走り方、ウォーミングアップ実践し、100m走の記録測定
3	走高跳①	走高跳のウォーミングアップ実践、曲線助走の方法、踏切
4	走高跳②	踏切～背面跳、記録の測定
5	ハードル走①	ハードルドリル、ハードルクリアランス、アプローチ
6	ハードル走②	インターバル間の走り、記録の測定
7	走幅跳①	走幅跳のウォーミングアップ実践、助走の合わせ方、助走～踏切
8	走幅跳②	助走の確認、記録の測定
9	砲丸投①	砲丸投げのウォーミングアップ実践、立ち投げ
10	砲丸投②	グライド投法、記録の測定
11	800m走	800m走のウォーミングアップ実践、ペース配分、記録の測定
12	跳躍種目の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
13	ハードル走の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
14	砲丸投の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
15	800m走の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
16		

科目コード	40107				区 分	コア科目			
授業 科目名	柔道 I (基礎) [PP・PS男子用]				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

### <授業の概要>

日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。

### <授業の到達目標>

礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができる礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている柔道の歴史や特性、礼法の重要性を理解しているいくつかの基本となる技を身に付けている

### <授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

受講生同士で技の動きを分析・指摘し合う「ペアワーク」、実践後に振り返りを行う「グループディスカッション」、課題に対して解決策を考える「ケーススタディ」を取り入れ、主体的な学びを促す。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。（1時間程度）復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。（30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（学習意欲含む） 70%、実技試験 30%

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2～3. 基本動作	礼法（立礼・座礼）、柔道の姿勢（自然体・自護体）、組み方崩し（八方崩し）、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざをついての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰（横移動）、払い腰	体さばきの一人練習、大腰（横移動）の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落とし、けさ固め	体落とし、横移動の体落とし、後退しながらの体落とし、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8～9. 固め技（攻撃の仕方）	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り（自由練習）
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習
11	13～14. 乱取り	固め技・投げ技の乱取り（自由練習）
12	15. まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括

13		
14		
15		
16		

科目コード	40107				区 分	コア科目			
授業科目名	柔道 I (基礎) [PP・PS男子用]				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

### <授業の概要>

日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。

### <授業の到達目標>

礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができる礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている柔道の歴史や特性、礼法の重要性を理解しているいくつかの基本となる技を身に付けている

### <授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

受講生同士で技の動きを分析・指摘し合う「ペアワーク」、実践後に振り返りを行う「グループディスカッション」、課題に対して解決策を考える「ケーススタディ」を取り入れ、主体的な学びを促す。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。（1時間程度）復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。（30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（学習意欲含む） 70%、実技試験 30%

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2～3. 基本動作	礼法（立礼・座礼）、柔道の姿勢（自然体・自護体）、組み方崩し（八方崩し）、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざをついての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰（横移動）、払い腰	体さばきの一人練習、大腰（横移動）の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落とし、けさ固め	体落とし、横移動の体落とし、後退しながらの体落とし、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8～9. 固め技（攻撃の仕方）	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り（自由練習）
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習
11	13～14. 乱取り	固め技・投げ技の乱取り（自由練習）
12	15. まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括

13		
14		
15		
16		

科目コード	40107				区 分	コア科目			
授業科目名	柔道Ⅰ(基礎)[次世代女子・PP女子・PS女子用]				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。

#### <授業の到達目標>

1) 礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができ、礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている。2) 柔道の歴史や特性、礼法の重要性を理解し、いくつかの基本となる技を身に付けている。

#### <授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

「柔道Ⅰ」では、受講者が柔道の基本動作や基礎技術を実際に体験しながら学ぶ体験学習を通じて、能動的に学修に関わる構成となっている。また、安全管理や指導法についても実践的に学ぶことで、知識の理解にとどまらず、問題発見や判断力の育成も図られており、アクティブラーニングの要素が含まれている。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。（1時間程度）復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。（30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（学習意欲含む） 70%、実技試験 30%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2～3. 基本動作	礼法（立礼・座礼）、柔道の姿勢（自然体・自護体）、組み方崩し（八方崩し）、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざをついての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰（横移動）、払い腰	体さばきの一人練習、大腰（横移動）の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落とし、けさ固め	体落とし、横移動の体落とし、後退しながらの体落とし、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8～9. 固め技（攻撃の仕方）	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り（自由練習）
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習
11	13～14. 乱取り	固め技・投げ技の乱取り（自由練習）

12	15. まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40107				区 分	コア科目			
授業科目名	柔道 I (基礎) [PP・PS女子用]				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。

#### <授業の到達目標>

1) 礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができ、礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている。2) 柔道の歴史や特性、礼法の重要性を理解し、いくつかの基本となる技を身に付けている。

#### <授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

「柔道 I」では、受講者が柔道の基本動作や基礎技術を実際に体験しながら学ぶ体験学習を通じて、能動的に学修に関わる構成となっている。また、安全管理や指導法についても実践的に学ぶことで、知識の理解にとどまらず、問題発見や判断力の育成も図られており、アクティブラーニングの要素が含まれている。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。（1時間程度）復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。（30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（学習意欲含む） 70%、実技試験 30%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2～3. 基本動作	礼法（立礼・座礼）、柔道の姿勢（自然体・自護体）、組み方崩し（八方崩し）、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざをついての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰（横移動）、払い腰	体さばきの一人練習、大腰（横移動）の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落とし、けさ固め	体落とし、横移動の体落とし、後退しながらの体落とし、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8～9. 固め技（攻撃の仕方）	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り（自由練習）
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習
11	13～14. 乱取り	固め技・投げ技の乱取り（自由練習）

12	15. まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40107				区 分	コア科目			
授業科目名	柔道 I (基礎) [PP・PS男子用]				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。

#### <授業の到達目標>

礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができる礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている柔道の歴史や特性、礼法の重要性を理解しているいくつかの基本となる技を身に付けている

#### <授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

受講生同士で技の動きを分析・指摘し合う「ペアワーク」、実践後に振り返りを行う「グループディスカッション」、課題に対して解決策を考える「ケーススタディ」を取り入れ、主体的な学びを促す。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。（1時間程度）復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。（30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（学習意欲含む） 70%、実技試験 30%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2～3. 基本動作	礼法（立礼・座礼）、柔道の姿勢（自然体・自護体）、組み方崩し（八方崩し）、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざをついての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰（横移動）、払い腰	体さばきの一人練習、大腰（横移動）の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落とし、けさ固め	体落とし、横移動の体落とし、後退しながらの体落とし、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8～9. 固め技（攻撃の仕方）	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り（自由練習）
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習
11	13～14. 乱取り	固め技・投げ技の乱取り（自由練習）
12	15. まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括

13		
14		
15		
16		

科目コード	40107				区 分	コア科目			
授業科目名	柔道 I (基礎) [PH男子用]				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。これらを通じて、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「柔道」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

#### <授業の到達目標>

礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができる礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている柔道の歴史や特性、礼法の重要性を理解しているいくつかの基本となる技を身に付けている

#### <授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

受講生同士で技の動きを分析・指摘し合う「ペアワーク」、実践後に振り返りを行う「グループディスカッション」、課題に対して解決策を考える「ケーススタディ」を取り入れ、主体的な学びを促す。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。（1時間程度）復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。（30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（学習意欲含む） 70%、実技試験 30%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2～3. 基本動作	礼法（立礼・座礼）、柔道の姿勢（自然体・自護体）、組み方崩し（八方崩し）、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざをついての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰（横移動）、払い腰	体さばきの一人練習、大腰（横移動）の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落とし、けさ固め	体落とし、横移動の体落とし、後退しながらの体落とし、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8～9. 固め技（攻撃の仕方）	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り（自由練習）
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習
11	13～14. 乱取り	固め技・投げ技の乱取り（自由練習）

12	15. まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40107				区 分	コア科目			
授業科目名	柔道 I (基礎) [PH女子用]				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。

#### <授業の到達目標>

1) 礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができ、礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている。2) 柔道の歴史や特性、礼法的重要性を理解しているいくつかの基本となる技を身に付けている。

#### <授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

「柔道 I」では、受講者が柔道の基本動作や基礎技術を実際に体験しながら学ぶ体験学習を通じて、能動的に学修に関わる構成となっている。また、安全管理や指導法についても実践的に学ぶことで、知識の理解にとどまらず、問題発見や判断力の育成も図られており、アクティブラーニングの要素が含まれている。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。（1時間程度）復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。（30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（学習意欲含む） 70%、実技試験 30%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2～3. 基本動作	礼法（立礼・座礼）、柔道の姿勢（自然体・自護体）、組み方崩し（八方崩し）、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざをついての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰（横移動）、払い腰	体さばきの一人練習、大腰（横移動）の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落とし、けさ固め	体落とし、横移動の体落とし、後退しながらの体落とし、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8～9. 固め技（攻撃の仕方）	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り（自由練習）
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習
11	13～14. 乱取り	固め技・投げ技の乱取り（自由練習）

12	15. まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40107				区 分	コア科目			
授業科目名	柔道 I (基礎) [次世代男子用]				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。

#### <授業の到達目標>

礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができる礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている柔道の歴史や特性、礼法の重要性を理解しているいくつかの基本となる技を身に付けている

#### <授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

受講生同士で技の動きを分析・指摘し合う「ペアワーク」、実践後に振り返りを行う「グループディスカッション」、課題に対して解決策を考える「ケーススタディ」を取り入れ、主体的な学びを促す。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。（1時間程度）復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。（30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（学習意欲含む） 70%、実技試験 30%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2～3. 基本動作	礼法（立礼・座礼）、柔道の姿勢（自然体・自護体）、組み方崩し（八方崩し）、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざをついての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰（横移動）、払い腰	体さばきの一人練習、大腰（横移動）の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落とし、けさ固め	体落とし、横移動の体落とし、後退しながらの体落とし、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8～9. 固め技（攻撃の仕方）	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り（自由練習）
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習
11	13～14. 乱取り	固め技・投げ技の乱取り（自由練習）
12	15. まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括

13		
14		
15		
16		

科目コード	40108				区 分	コア			
授業科目名	剣道 I (基礎) [PP1年生男子用]				担当者名	堀川 峻			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

### <授業の概要>

日本の伝統文化である剣道は、「剣の理法の修練による人間形成」を目的としている。すなわち、剣道を通して礼節を学び、心身を鍛え、社会で活躍できる立派な人間になるということである。剣道は、今や日本のみならず、世界中で愛好者を増やし続けている。剣道の技術は打つ、突く、かわすの三種類に分類されており、これらの技術習得には、基礎・基本動作を正しく身につけることが重要である。本授業では、剣道の礼法や基本動作を身につけると共に剣道を指導する際の留意点や安全性について理解する。

### <授業の到達目標>

平成24年度完全実施の中学校学習指導要領では、武道（剣道、柔道、相撲）が必修化され、中学校保健体育科教員になった際に武道専門家でなくとも武道の授業を担当しなければならない。この授業を通して剣道の基礎・基本・応用技能・剣道理念を身につけ、教育現場において剣道授業を実施できるようになる。

### <授業の方法>

講義・実技・ディスカッション剣道実技を中心に行っていくが、剣道の理念や歴史等を学習する時間も設けるClassroomを使用する

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション）グループに分かれ授業内における指導方法をディスカッションする

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：中学校・高等学校学習指導要領（保健体育編）武道の部分、剣道指導要領を（1時間程度）熟読すること。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、実技試験 50%

### <教科書>

### <参考書>

全日本剣道連盟 全日本剣道連盟編「剣道指導要領」

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	本授業の内容説明	本授業の留意点や受講における心構えについて学習する。
2	剣道着袴採寸と剣道理念についての学び	剣道着・袴の採寸と剣道理念・歴史の学習を行う。
3	剣道着・袴の着用方法、竹刀について	剣道着・袴の着方法、竹刀の規格・手入れ方法と安全管理について
4	剣道の礼法と足捌き、構えについて	姿勢（自然体）、礼の仕方（立礼・座礼）、正座の仕方（座り方について）を歴史の背景も理解しながら実践する。足捌き、剣道の構えについて学習する。正しい構え方をした上で適正な足の置き場の確認と送り足動作の実践を行う。
5	基本動作について（素振りや立ち合いにおける礼法）	竹刀の持ち方を学び、刃筋正しく竹刀を振る方法の実践を行う。主に正面素振り・左右面素振り・早素振りなどを行う。立ち合いにおける礼法を学習する。
6	剣道防具の着用方法と片付け	防具の使用法について説明し、正しく防具を着用し片付けられるようにする。防具の置き方や面・小手・胴・垂・面タオルの着用方法の学習と相手に打突をする方法の実践を行う。
7	基本動作について（竹刀への打突）	2人1組や3人1組を作り、相手が竹刀で受けている所への打突を行い、手の内の使い方など打突動作を学習する。
8	基本稽古（仕掛け技）	防具を着用した相手に対して打突を行う基本稽古の仕掛け技を学習する。
9	基本稽古（切り返し）	剣道において基本的な稽古方法の「切り返し」の実践。
10	基本稽古（応じ技）	相手の打突に対応する応じ技の実践。
11	基本稽古（引き技）	錨迫り合いの説明と錨迫り合いからの引き技の実践。
12	基本稽古まとめと互角稽古	これまでの学習内容の振り返りとこれまで学習した技を用いた相手との実践稽古を行う。
13	実技確認試験	礼法、素振り、基本技（仕掛け技・応じ技・引き技）の確認実技テストを行う。
14	試合審判規則に関する知識と実践	試合審判規則の大まかな内容を学習する。また互角稽古において審判を行い、1本の判定がある程度可能になるように学習をする。

15	授業のまとめと試合（団体戦における戦い 方の学習）	授業のまとめ学習と5人制における団体試合（人数に応じて3人～7人制）の実践。
16		

科目コード	40108				区 分	コア			
授業科目名	剣道 I (基礎) [2年生以上男子用]				担当者名	大井 理緒			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

### <授業の概要>

日本の伝統文化である剣道は、「剣の理法の修練による人間形成」を目的としている。すなわち、剣道を通して礼節を学び、心身を鍛え、社会で活躍できる立派な人間になるということである。剣道は、今や日本のみならず、世界中で愛好者を増やし続けている。剣道の技術は打つ、突く、かわすの三種類に分類されており、これらの技術習得には、基礎・基本動作を正しく身につけることが重要である。本授業では、剣道の礼法や基本動作を身につけると共に剣道を指導する際の留意点や安全性について理解する。

### <授業の到達目標>

平成24年度完全実施の中学校学習指導要領では、武道（剣道、柔道、相撲）が必修化され、中学校保健体育科教員になった際に武道専門家でなくとも武道の授業を担当しなければならない。この授業を通して剣道の基礎・基本・応用技能・剣道理念を身につけ、教育現場いにおいて剣道授業を実施できるようになる。

### <授業の方法>

講義・実技・ディスカッション剣道実技を中心に行っていくが、剣道の理念や歴史等を学習する時間も設けるClassroomを使用する

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション）グループに分かれ授業内においての指導方法をディスカッションする

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：中学校・高等学校学習指導要領（保健体育編）武道の部分、剣道指導要領を（1時間程度）熟読すること。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、実技試験 50%

### <教科書>

### <参考書>

全日本剣道連盟 全日本剣道連盟編「剣道指導要領」

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	本授業の内容説明	本授業の留意点や受講における心構えについて学習する。
2	剣道着袴採寸と剣道理念についての学び	剣道着・袴の採寸と剣道理念・歴史の学習を行う。
3	剣道着・袴の着用方法、竹刀について	剣道着・袴の着方法、竹刀の規格・手入れ方法と安全管理について
4	剣道の礼法と足捌き、構えについて	姿勢（自然体）、礼の仕方（立礼・座礼）、正座の仕方（座り方について）を歴史の背景も理解しながら実践する。足捌き、剣道の構えについて学習する。正しい構え方をした上で適正な足の置き場の確認と送り足動作の実践を行う。
5	基本動作について（素振りや立ち合いにおける礼法）	竹刀の持ち方を学び、刃筋正しく竹刀を振る方法の実践を行う。主に正面素振り・左右面素振り・早素振りなどを行う。立ち合いにおける礼法を学習する。
6	剣道防具の着用方法と片付け	防具の使用法について説明し、正しく防具を着用し片付けられるようにする。防具の置き方や面・小手・胴・垂・面タオルの着用方法の学習と相手に打突をする方法の実践を行う。
7	基本動作について（竹刀への打突）	2人1組や3人1組を作り、相手が竹刀で受けている所への打突を行い、手の内の使い方など打突動作を学習する。
8	基本稽古（仕掛け技）	防具を着用した相手に対して打突を行う基本稽古の仕掛け技を学習する。
9	基本稽古（切り返し）	剣道において基本的な稽古方法の「切り返し」の実践。
10	基本稽古（応じ技）	相手の打突に対応する応じ技の実践。
11	基本稽古（引き技）	鰐迫り合いの説明と鰐迫り合いからの引き技の実践。
12	基本稽古まとめと互角稽古	これまでの学習内容の振り返りとこれまで学習した技を用いた相手との実践稽古を行う。
13	実技確認試験	礼法、素振り、基本技（仕掛け技・応じ技・引き技）の確認実技テストを行う。
14	試合審判規則に関する知識と実践	試合審判規則の大まかな内容を学習する。また互角稽古において審判を行い、1本の判定がある程度可能になるように学習をする。

15	授業のまとめと試合（団体戦における戦い 方の学習）	授業のまとめ学習と5人制における団体試合（人数に応じて3人～7人制）の実践。
16		

科目コード	40108				区 分	コア			
授業科目名	剣道 I (基礎)				担当者名	大井 理緒／堀川 峻			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

### <授業の概要>

日本の伝統文化である剣道は、「剣の理法の修練による人間形成」を目的としている。すなわち、剣道を通して礼節を学び、心身を鍛え、社会で活躍できる立派な人間になるということである。剣道は、今や日本のみならず、世界中で愛好者を増やし続けている。剣道の技術は打つ、突く、かわすの三種類に分類されており、これらの技術習得には、基礎・基本動作を正しく身につけることが重要である。本授業では、剣道の礼法や基本動作を身につけると共に剣道を指導する際の留意点や安全性について理解する。

### <授業の到達目標>

平成24年度完全実施の中学校学習指導要領では、武道（剣道、柔道、相撲）が必修化され、中学校保健体育科教員になった際に武道専門家でなくとも武道の授業を担当しなければならない。この授業を通して剣道の基礎・基本・応用技能・剣道理念を身につけ、教育現場いにおいて剣道授業を実施できるようになる。

### <授業の方法>

講義・実技・ディスカッション剣道実技を中心に行っていくが、剣道の理念や歴史等を学習する時間も設けるClassroomを使用する

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション）グループに分かれ授業内においての指導方法をディスカッションする

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：中学校・高等学校学習指導要領（保健体育編）武道の部分、剣道指導要領を（1時間程度）熟読すること。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー 2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、実技試験 50%

### <教科書>

### <参考書>

全日本剣道連盟 全日本剣道連盟編「剣道指導要領」

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	本授業の内容説明	本授業の留意点や受講における心構えについて学習する。
2	剣道着袴採寸と剣道理念についての学び	剣道着・袴の採寸と剣道理念・歴史の学習を行う。
3	剣道着・袴の着用方法、竹刀について	剣道着・袴の着方法、竹刀の規格・手入れ方法と安全管理について
4	剣道の礼法と足捌き、構えについて	姿勢（自然体）、礼の仕方（立礼・座礼）、正座の仕方（座り方について）を歴史の背景も理解しながら実践する。足捌き、剣道の構えについて学習する。正しい構え方をした上で適正な足の置き場の確認と送り足動作の実践を行う。
5	基本動作について（素振り立ち合いにおける礼法）	竹刀の持ち方を学び、刃筋正しく竹刀を振る方法の実践を行う。主に正面素振り・左右面素振り・早素振りなどを行う。立ち合いにおける礼法を学習する。
6	剣道防具の着用方法と片付け	防具の使用法について説明し、正しく防具を着用し片付けられるようにする。防具の置き方や面・小手・胴・垂・面タオルの着用方法の学習と相手に打突をする方法の実践を行う。
7	基本動作について（竹刀への打突）	2人1組や3人1組を作り、相手が竹刀で受けている所への打突を行い、手の内の使い方など打突動作を学習する。
8	基本稽古（仕掛け技）	防具を着用した相手に対して打突を行う基本稽古の仕掛け技を学習する。
9	基本稽古（切り返し）	剣道において基本的な稽古方法の「切り返し」の実践。
10	基本稽古（応じ技）	相手の打突に対応する応じ技の実践。
11	基本稽古（引き技）	錨迫り合いの説明と錨迫り合いからの引き技の実践。
12	基本稽古まとめと互角稽古	これまでの学習内容の振り返りとこれまで学習した技を用いた相手との実践稽古を行う。
13	実技確認試験	礼法、素振り、基本技（仕掛け技・応じ技・引き技）の確認実技テストを行う。
14	試合審判規則に関する知識と実践	試合審判規則の大まかな内容を学習する。また互角稽古において審判を行い、1本の

15	授業のまとめと試合（団体戦における戦い 方の学習）	判定がある程度可能になるように学習をする。
16		授業のまとめ学習と5人制における団体試合（人数に応じて3人～7人制）の実践。

科目コード	40112				区 分	コア科目			
授業科目名	水泳 I (基礎) [PH用]				担当者名	古山 喜一			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

### <授業の概要>

水泳・水中運動は陸上運動とは違い、水という特殊な環境下において行われる運動である。また、水は衝撃を吸収するクッション効果を持つ反面、水中運動時には粘性抵抗として働き、水中運動を陸上運動に比べて効率の悪いものにするという側面を持つ。そこで、本実習においては、水中での身体の変化、水の特性、および、水泳の基礎的な理論を十分に理解する。※本授業は外部施設（安全スイミングスクール）で実施する。

### <授業の到達目標>

水泳は生涯にわたって行えるスポーツという側面を持つ。本実習では、水中でリラックスできる呼吸法を学習の中核として捉え、4泳法（クロール、平泳ぎ、バタフライ、背泳）を含んだ水中での運動能力を高めることを目標にする。また、水泳・水中運動の指導方法を理解し、授業の指導案を作成できるようになることも目指す。

### <授業の方法>

個人の記録を毎回記入し、距離や時間を媒介として、身体と水との関係について認識を深めていく。理論学習では必要に応じて教室での座学やオンデマンド学習を取り入れる。また実習費として12,000円程度の予定である。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

水中運動に関する理論学習を予習として1時間程度。復習として、その日に行った実技内容に注意点や感想などを追記したまとめレポートを作成する。また、授業内で習得が難しかった泳法については積極的に自主練習を行うことを推奨する。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・態度（20%）、実技テスト（40%）、毎回の課題（20%）、最終課題（20%）で評価する。

### <教科書>

### <参考書>

日本水泳連盟 編「新水泳指導教本」 大修館書店

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション、水泳理論	授業の概要および水泳理論について座学で学ぶ
2	泳力チェック	授業開始時の泳力についてテストする。
3	クロール①	クロールの基礎的指導を体験する。
4	クロール②	クロールの基礎的指導を体験する。
5	クロール③	クロールの基礎的指導を体験する。
6	平泳ぎ①	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
7	平泳ぎ②	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
8	平泳ぎ③	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
9	フィンスイミング	フィンスイミングの基礎について学習する。
10	泳力テスト	クロールおよび平泳ぎの泳力の改善度をテストする。
11	水中運動・アクアビクス①	水中ウォーキングやアクアビクスを通して水中運動の意義・効果を学習する。
12	水中運動・アクアビクス②	水中ウォーキングやアクアビクスを通して水中運動の意義・効果を学習する。
13	水中運動・アクアビクス③	水中ウォーキングやアクアビクスを通して水中運動の意義・効果を学習する。
14	水中運動・アクアビクス④	水中ウォーキングやアクアビクスの模擬授業を行う。
15	まとめ	本講義で学んだことのまとめを行う。
16		

科目コード	40117				区 分	実技			
授業 科目名	体づくり運動 [2年用以上]A				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

体づくり運動の実施方法について、実技を通して理解し、実際に授業を作成させることで、実践的な力を養う。また、体づくり運動が実施された経緯とねらいなどを知識として理解する。

#### <授業の到達目標>

1. 体づくり運動の学習指導要領上の位置づけについて、ねらいを含めて理解できるようになる。2. 体づくり運動の授業を計画、実践することができるようになる。3. 適切な教師行動をとることができるようになる。

#### <授業の方法>

1. 体づくり運動の実践例を体験する。2. 体づくり運動の学習指導要領上の位置づけとねらいを予習する。3. 体づくり運動の学習指導要領上の位置づけを講義、グループワーク、発表を通して理解する。4. 3の内容について確認テストを行う。5. 体づくり運動の模擬授業を発案する。6. 体づくり運動の模擬授業を実践する。7. 1回目の模擬授業を振り返り、2回目の模擬授業を再案する。8. 体づくり運動の模擬授業2回目を実践する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：7、8人のグループに分かれ、模擬授業の実施に向けて、グループワークやディスカッションを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：講義の内容を振り返る。模擬授業についてレポートにまとめる。（30分）予習：次回の内容を文献やインターネット等で調べ、レポートにまとめる。模擬授業の構想を練る。（30分）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業に臨む実践的態度 30%、中間試験 10%、模擬授業の完成度（指導案の完成度を含む） 50%、最終レポート 10%

#### <教科書>

#### <参考書>

文部科学省 学校体育実技指導資料第7集「体づくり運動」（改訂版）  
 文部科学省 新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体づくり運動」リーフレット  
 文部科学省 小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の全体の流れと評価方法について説明する
2	体づくり運動とは	体づくり運動の目的、実施時間、実施内容について
3	体づくり運動とは	体づくり運動の実践例-1
4	体づくり運動とは	体づくり運動の実践例-2
5	小テスト、模擬授業の発案	体づくり運動の学習指導要領上の位置づけやねらいに関する小テストの実施模擬授業のための指導案作成
6	模擬授業（1）-①	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
7	模擬授業（1）-②	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
8	模擬授業（1）-③	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
9	模擬授業（1）-④	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
10	模擬授業の再案	1回目の模擬授業の反省を活かし、2回目の模擬授業を再案する
11	模擬授業（2）-①	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
12	模擬授業（2）-②	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
13	模擬授業（2）-③	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
14	模擬授業（2）-④	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
15	まとめ	これまでのまとめ、レポート課題の提示
16		

科目コード	40117				区 分	実技			
授業 科目名	体づくり運動 [2年用以上]B				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

体づくり運動の実施方法について、実技を通して理解し、実際に授業を作成させることで、実践的な力を養う。また、体づくり運動が実施された経緯とねらいなどを知識として理解する。

#### <授業の到達目標>

1. 体づくり運動の学習指導要領上の位置づけについて、ねらいを含めて理解できるようになる。2. 体づくり運動の授業を計画、実践することができるようになる。3. 適切な教師行動をとることができるようになる。

#### <授業の方法>

1. 体づくり運動の実践例を体験する。2. 体づくり運動の学習指導要領上の位置づけとねらいを予習する。3. 体づくり運動の学習指導要領上の位置づけを講義、グループワーク、発表を通して理解する。4. 3の内容について確認テストを行う。5. 体づくり運動の模擬授業を発案する。6. 体づくり運動の模擬授業を実践する。7. 1回目の模擬授業を振り返り、2回目の模擬授業を再案する。8. 体づくり運動の模擬授業2回目を実践する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：7、8人のグループに分かれ、模擬授業の実施に向けて、グループワークやディスカッションを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：講義の内容を振り返る。模擬授業についてレポートにまとめる。（30分）予習：次回の内容を文献やインターネット等で調べ、レポートにまとめる。模擬授業の構想を練る。（30分）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業に臨む実践的態度 30%、中間試験 10%、模擬授業の完成度（指導案の完成度を含む） 50%、最終レポート 10%

#### <教科書>

#### <参考書>

文部科学省 学校体育実技指導資料第7集「体づくり運動」（改訂版）  
 文部科学省 新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体づくり運動」リーフレット  
 文部科学省 小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の全体の流れと評価方法について説明する
2	体づくり運動とは	体づくり運動の目的、実施時間、実施内容について
3	体づくり運動とは	体づくり運動の実践例-1
4	体づくり運動とは	体づくり運動の実践例-2
5	小テスト、模擬授業の発案	体づくり運動の学習指導要領上の位置づけやねらいに関する小テストの実施模擬授業のための指導案作成
6	模擬授業（1）-①	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
7	模擬授業（1）-②	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
8	模擬授業（1）-③	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
9	模擬授業（1）-④	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
10	模擬授業の再案	1回目の模擬授業の反省を活かし、2回目の模擬授業を再案する
11	模擬授業（2）-①	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
12	模擬授業（2）-②	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
13	模擬授業（2）-③	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
14	模擬授業（2）-④	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
15	まとめ	これまでのまとめ、レポート課題の提示
16		

科目コード	40117				区 分	実技			
授業科目名	体づくり運動 [2年用以上]C				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

体づくり運動の実施方法について、実技を通して理解し、実際に授業を作成させることで、実践的な力を養う。また、体づくり運動が実施された経緯とねらいなどを知識として理解する。

#### <授業の到達目標>

1. 体づくり運動の学習指導要領上の位置づけについて、ねらいを含めて理解できるようになる。2. 体づくり運動の授業を計画、実践することができるようになる。3. 適切な教師行動をとることができるようになる。

#### <授業の方法>

1. 体づくり運動の実践例を体験する。2. 体づくり運動の学習指導要領上の位置づけとねらいを予習する。3. 体づくり運動の学習指導要領上の位置づけを講義、グループワーク、発表を通して理解する。4. 3の内容について確認テストを行う。5. 体づくり運動の模擬授業を発案する。6. 体づくり運動の模擬授業を実践する。7. 1回目の模擬授業を振り返り、2回目の模擬授業を再案する。8. 体づくり運動の模擬授業2回目を実践する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：7、8人のグループに分かれ、模擬授業の実施に向けて、グループワークやディスカッションを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：講義の内容を振り返る。模擬授業についてレポートにまとめる。（30分）予習：次回の内容を文献やインターネット等で調べ、レポートにまとめる。模擬授業の構想を練る。（30分）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業に臨む実践的態度 30%、中間試験 10%、模擬授業の完成度（指導案の完成度を含む） 50%、最終レポート 10%

#### <教科書>

#### <参考書>

文部科学省 学校体育実技指導資料第7集「体づくり運動」（改訂版）  
 文部科学省 新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体づくり運動」リーフレット  
 文部科学省 小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の全体の流れと評価方法について説明する
2	体づくり運動とは	体づくり運動の目的、実施時間、実施内容について
3	体づくり運動とは	体づくり運動の実践例-1
4	体づくり運動とは	体づくり運動の実践例-2
5	小テスト、模擬授業の発案	体づくり運動の学習指導要領上の位置づけやねらいに関する小テストの実施模擬授業のための指導案作成
6	模擬授業（1）-①	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
7	模擬授業（1）-②	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
8	模擬授業（1）-③	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
9	模擬授業（1）-④	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
10	模擬授業の再案	1回目の模擬授業の反省を活かし、2回目の模擬授業を再案する
11	模擬授業（2）-①	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
12	模擬授業（2）-②	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
13	模擬授業（2）-③	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
14	模擬授業（2）-④	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
15	まとめ	これまでのまとめ、レポート課題の提示
16		

科目コード	40120				区 分	コア科目			
授業科目名	サッカー [PP・PS男子用]				担当者名	坂手 雅斗			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

#### <授業の概要>

サッカーは世界で最も親しまれているスポーツのひとつであり、ルールも非常に単純で、ボールとゴールさえあればできるスポーツである。しかし、主に足でボールを扱うことから経験者と未経験者との技術の差が大きく表れるスポーツでもある。この授業では、ボールを扱う技術を高める練習法を学び、技術を高め、ゲームを楽しめるようにする。そして、サッカーというスポーツに対する理解を深める。

#### <授業の到達目標>

サッカーの技術を習得する練習・指導法を学び、自らも技術を上達させる。特にリフティングが30回できるようにする。また、戦術面の練習も行い、サッカーへの理解を深める。そして、ゲームの中でルールも学び、サッカーのゲームを楽しめるようにする。

#### <授業の方法>

幅広くコミュニケーションが取れるように、授業ごとにグループを編成し、授業の最後にはゲームを行う。履修上限60名

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習は、サッカーを見る機会を増やすこと。後期授業期間にあるサッカーの試合を3試合は観戦し、レポートを提出する。（2時間）  
復習は、授業で行った練習の確認と、リフティングの練習をする。（1時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、実技テスト 50%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方・アンケート
2	基礎技術のトレーニング(1)	ボールフィーリング、ボールタッチ
3	基礎技術のトレーニング(2)	ドリブル
4	基礎技術のトレーニング(3)	各種キック
5	基礎技術のトレーニング(4)	パス、トラップ
6	応用技術のトレーニング(1)	ターン、ボールキープ
7	応用技術のトレーニング(2)	フェイント
8	ボールポゼッション(1)	少人数でのボールポゼッション
9	ボールポゼッション(2)	多人数でのボールポゼッション
10	個人戦術	1対1
11	グループ戦術(1)	2対1、2対2
12	グループ戦術(2)	3対2、3対3
13	グループ戦術(3)	4対4
14	リーグ戦	リーグ戦の進め方
15	トーナメント戦	トーナメント戦の進め方
16		

科目コード	40120				区 分	コア科目			
授業科目名	サッカー [PP・PS男子用]				担当者名	坂手 雅斗			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

#### <授業の概要>

サッカーは世界で最も親しまれているスポーツのひとつであり、ルールも非常に単純で、ボールとゴールさえあればできるスポーツである。しかし、主に足でボールを扱うことから経験者と未経験者との技術の差が大きく表れるスポーツでもある。この授業では、ボールを扱う技術を高める練習法を学び、技術を高め、ゲームを楽しめるようにする。そして、サッカーというスポーツに対する理解を深める。

#### <授業の到達目標>

サッカーの技術を習得する練習・指導法を学び、自らも技術を上達させる。特にリフティングが30回できるようにする。また、戦術面の練習も行い、サッカーへの理解を深める。そして、ゲームの中でルールも学び、サッカーのゲームを楽しめるようにする。

#### <授業の方法>

幅広くコミュニケーションが取れるように、授業ごとにグループを編成し、授業の最後にはゲームを行う。履修上限60名

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習は、サッカーを見る機会を増やすこと。後期授業期間にあるサッカーの試合を3試合は観戦し、レポートを提出する。（2時間）  
復習は、授業で行った練習の確認と、リフティングの練習をする。（1時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、実技テスト 50%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方・アンケート
2	基礎技術のトレーニング(1)	ボールフィーリング、ボールタッチ
3	基礎技術のトレーニング(2)	ドリブル
4	基礎技術のトレーニング(3)	各種キック
5	基礎技術のトレーニング(4)	パス、トラップ
6	応用技術のトレーニング(1)	ターン、ボールキープ
7	応用技術のトレーニング(2)	フェイント
8	ボールポゼッション(1)	少人数でのボールポゼッション
9	ボールポゼッション(2)	多人数でのボールポゼッション
10	個人戦術	1対1
11	グループ戦術(1)	2対1、2対2
12	グループ戦術(2)	3対2、3対3
13	グループ戦術(3)	4対4
14	リーグ戦	リーグ戦の進め方
15	トーナメント戦	トーナメント戦の進め方
16		

科目コード	40120				区 分	コア科目			
授業科目名	サッカー [PP・PS女子用]				担当者名	坂手 雅斗			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

#### <授業の概要>

サッカーは世界で最も親しまれているスポーツのひとつであり、ルールも非常に単純で、ボールとゴールさえあればできるスポーツである。しかし、主に足でボールを扱うことから経験者と未経験者との技術の差が大きく表れるスポーツでもある。この授業では、ボールを扱う技術を高める練習法を学び、技術を高め、ゲームを楽しめるようにする。そして、サッカーというスポーツに対する理解を深める。

#### <授業の到達目標>

サッカーの技術を習得する練習・指導法を学び、自らも技術を上達させる。特にリフティングが30回できるようにする。また、戦術面の練習も行い、サッカーへの理解を深める。そして、ゲームの中でルールも学び、サッカーのゲームを楽しめるようにする。

#### <授業の方法>

幅広くコミュニケーションが取れるように、授業ごとにグループを編成し、授業の最後にはゲームを行う。履修上限60名

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習は、サッカーを見る機会を増やすこと。後期授業期間にあるサッカーの試合を3試合は観戦し、レポートを提出する。（2時間）  
復習は、授業で行った練習の確認と、リフティングの練習をする。（1時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、実技テスト 50%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方・アンケート
2	基礎技術のトレーニング(1)	ボールフィーリング、ボールタッチ
3	基礎技術のトレーニング(2)	ドリブル
4	基礎技術のトレーニング(3)	各種キック
5	基礎技術のトレーニング(4)	パス、トラップ
6	応用技術のトレーニング(1)	ターン、ボールキープ
7	応用技術のトレーニング(2)	フェイント
8	ボールポゼッション(1)	少人数でのボールポゼッション
9	ボールポゼッション(2)	多人数でのボールポゼッション
10	個人戦術	1対1
11	グループ戦術(1)	2対1、2対2
12	グループ戦術(2)	3対2、3対3
13	グループ戦術(3)	4対4
14	リーグ戦	リーグ戦の進め方
15	トーナメント戦	トーナメント戦の進め方
16		

科目コード	40120				区 分	コア科目			
授業科目名	サッカー [PP・PS女子用]				担当者名	坂手 雅斗			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

#### <授業の概要>

サッカーは世界で最も親しまれているスポーツのひとつであり、ルールも非常に単純で、ボールとゴールさえあればできるスポーツである。しかし、主に足でボールを扱うことから経験者と未経験者との技術の差が大きく表れるスポーツでもある。この授業では、ボールを扱う技術を高める練習法を学び、技術を高め、ゲームを楽しめるようにする。そして、サッカーというスポーツに対する理解を深める。

#### <授業の到達目標>

サッカーの技術を習得する練習・指導法を学び、自らも技術を上達させる。特にリフティングが30回できるようにする。また、戦術面の練習も行い、サッカーへの理解を深める。そして、ゲームの中でルールも学び、サッカーのゲームを楽しめるようにする。

#### <授業の方法>

幅広くコミュニケーションが取れるように、授業ごとにグループを編成し、授業の最後にはゲームを行う。履修上限60名

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習は、サッカーを見る機会を増やすこと。後期授業期間にあるサッカーの試合を3試合は観戦し、レポートを提出する。（2時間）  
復習は、授業で行った練習の確認と、リフティングの練習をする。（1時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、実技テスト 50%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方・アンケート
2	基礎技術のトレーニング(1)	ボールフィーリング、ボールタッチ
3	基礎技術のトレーニング(2)	ドリブル
4	基礎技術のトレーニング(3)	各種キック
5	基礎技術のトレーニング(4)	パス、トラップ
6	応用技術のトレーニング(1)	ターン、ボールキープ
7	応用技術のトレーニング(2)	フェイント
8	ボールポゼッション(1)	少人数でのボールポゼッション
9	ボールポゼッション(2)	多人数でのボールポゼッション
10	個人戦術	1対1
11	グループ戦術(1)	2対1、2対2
12	グループ戦術(2)	3対2、3対3
13	グループ戦術(3)	4対4
14	リーグ戦	リーグ戦の進め方
15	トーナメント戦	トーナメント戦の進め方
16		

科目コード	40121				区 分	体育実技			
授業 科目名	ソフトボール [PP・PS男子用]				担当者名	佐藤 伸之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

ソフトボールにおける「投・打・走」の基本的な技術を習得し、ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって、ソフトボールの指導方法を身につける。また、指導者として必要なソフトボールの技術指導、審判、運営が出来るようにすることを目指しゲーム形式でソフトボールを実施する。

#### <授業の到達目標>

1) 主体的かつ積極的に授業に参加し、仲間と協力してプレイするとともに、フェアなプレイを心掛け、健康・安全を確保することができる。 2) チームや自身の課題を発見し、チームや自身の考えたことを他者に伝えることができる 3) ソフトボールのルールやマナーを理解している。 4) ソフトボールの基本技能（捕る、投げる、打つ、走る）を遂行できる。

#### <授業の方法>

1) 実技（グラウンド）を通して、ソフトボールを学習し技能習得のために、随時その理論的背景を説明する。 2) チーム間でのグループワークの時間を設け、問題提起（授業ごとの課題）を通じたディスカッションを実施する。 3) タブレット・スマホ等 を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。（総合レポート課題）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有ICTを活用し、自己の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施します（課題レポート②として成果を提出）。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握します。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1) 予習：参考書等を用いて事前にソフトボールの技能に関する仕組みを理解する。（1時間程度） 2) 復習：毎回の授業後に配布された振り返りシートに授業の内容等を記入する （30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー 2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、課題レポートの内容30%、実技テスト30%

#### <教科書>

財団法人日本ソフトボール協会 「ソフトボール指導者教本」 日本体育社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、ベースボール型スポーツについて	授業の進め方について、環境整備、安全管理、ベースボール型スポーツについて
2	ソフトボールの技術（1）	守備の基本（スローイング・キャッチング）、ティーボール
3	ソフトボールの技術（2）	打撃の基本（バッティング・ランニング）、ティーボール
4	試合の進め方、ソフトボールの指導法の工夫（1）	試合の進め方（ルール、審判法、安全管理、ポジション）について、ティーボールゲームの工夫
5	ソフトボールの指導法と工夫（2）	ティーボールゲームの工夫と実践①
6	ソフトボールの指導法の工夫（3）	ティーボールゲームの工夫と実践②
7	ソフトボールの実践（1）	ソフトボールの実践（アウト：三振、フライ、ゴロ）、紅白戦で実践練習
8	ソフトボールの実践（2）	ソフトボールの実践（アウト：ホースプレー、タッチプレー）、紅白戦で実践練習
9	ソフトボールの実践（3）	ソフトボールの実践（ダブルプレー：ゴロ、フライ）、紅白戦で実践練習
10	ソフトボールの実践（4）	ソフトボールの実践（タッチアッププレー）、紅白戦で実践練習
11	ソフトボールの実践（5）	ソフトボールの実践（攻撃戦術：バント）、紅白戦で実践練習
12	ソフトボールの実践（6）、実技テスト①	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ヒットエンドラン）、紅白戦で実践練習、実技テスト①
13	ソフトボールの実践（7）、実技テスト②	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ポジショニング）、紅白戦で実践練習、実技テスト②
14	ソフトボールの実践（8）、実技テスト③	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ピックオフプレー）、紅白戦で実践練習、実技テスト③

15	ソフトボールの実践 (9)	ト③
16		ソフトボールの実践 (学校教材と雨天時教材) 、紅白戦で実践練習

科目コード	40121				区 分	体育実技			
授業科目名	ソフトボール [PP・PS男子用]				担当者名	佐藤 伸之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

ソフトボールにおける「投・打・走」の基本的な技術を習得し、ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって、ソフトボールの指導方法を身につける。また、指導者として必要なソフトボールの技術指導、審判、運営が出来るようにすることを目指しゲーム形式でソフトボールを実施する。

#### <授業の到達目標>

1) 主体的かつ積極的に授業に参加し、仲間と協力してプレイするとともに、フェアなプレイを心掛け、健康・安全を確保することができる。 2) チームや自身の課題を発見し、チームや自身の考えたことを他者に伝えることができる 3) ソフトボールのルールやマナーを理解している。 4) ソフトボールの基本技能（捕る、投げる、打つ、走る）を遂行できる。

#### <授業の方法>

1) 実技（グラウンド）を通して、ソフトボールを学習し技能習得のために、随時その理論的背景を説明する。 2) チーム間でのグループワークの時間を設け、問題提起（授業ごとの課題）を通じたディスカッションを実施する。 3) タブレット・スマホ等 を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。（総合レポート課題）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有ICTを活用し、自己の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施します（課題レポート②として成果を提出）。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握します。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1) 予習：参考書等を用いて事前にソフトボールの技能に関する仕組みを理解する。（1時間程度） 2) 復習：毎回の授業後に配布された振り返りシートに授業の内容等を記入する（30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、課題レポートの内容30%、実技テスト30%

#### <教科書>

財団法人日本ソフトボール協会 「ソフトボール指導者教本」 日本体育社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、ベースボール型スポーツについて	授業の進め方について、環境整備、安全管理、ベースボール型スポーツについて
2	ソフトボールの技術（1）	守備の基本（スローイング・キャッチング）、ティーボール
3	ソフトボールの技術（2）	打撃の基本（バッティング・ランニング）、ティーボール
4	試合の進め方、ソフトボールの指導法の工夫（1）	試合の進め方（ルール、審判法、安全管理、ポジション）について、ティーボールゲームの工夫
5	ソフトボールの指導法と工夫（2）	ティーボールゲームの工夫と実践①
6	ソフトボールの指導法の工夫（3）	ティーボールゲームの工夫と実践②
7	ソフトボールの実践（1）	ソフトボールの実践（アウト：三振、フライ、ゴロ）、紅白戦で実践練習
8	ソフトボールの実践（2）	ソフトボールの実践（アウト：ホースプレー、タッチプレー）、紅白戦で実践練習
9	ソフトボールの実践（3）	ソフトボールの実践（ダブルプレー：ゴロ、フライ）、紅白戦で実践練習
10	ソフトボールの実践（4）	ソフトボールの実践（タッチアッププレー）、紅白戦で実践練習
11	ソフトボールの実践（5）	ソフトボールの実践（攻撃戦術：バント）、紅白戦で実践練習
12	ソフトボールの実践（6）、実技テスト①	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ヒットエンドラン）、紅白戦で実践練習、実技テスト①
13	ソフトボールの実践（7）、実技テスト②	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ポジショニング）、紅白戦で実践練習、実技テスト②
14	ソフトボールの実践（8）、実技テスト③	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ピックオフプレー）、紅白戦で実践練習、実技テスト③

15	ソフトボールの実践 (9)	ト③
16		ソフトボールの実践 (学校教材と雨天時教材) 、紅白戦で実践練習

科目コード	40121				区 分	体育実技			
授業科目名	ソフトボール [PP・PS男子+他学科男子]				担当者名	佐藤 伸之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

ソフトボールにおける「投・打・走」の基本的な技術を習得し、ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって、ソフトボールの指導方法を身につける。また、指導者として必要なソフトボールの技術指導、審判、運営が出来るようにすることを目指しゲーム形式でソフトボールを実施する。

#### <授業の到達目標>

1) 主体的かつ積極的に授業に参加し、仲間と協力してプレイするとともに、フェアなプレイを心掛け、健康・安全を確保することができる。 2) チームや自身の課題を発見し、チームや自身の考えたことを他者に伝えることができる 3) ソフトボールのルールやマナーを理解している。 4) ソフトボールの基本技能（捕る、投げる、打つ、走る）を遂行できる。

#### <授業の方法>

1) 実技（グラウンド）を通して、ソフトボールを学習し技能習得のために、随時その理論的背景を説明する。 2) チーム間でのグループワークの時間を設け、問題提起（授業ごとの課題）を通じたディスカッションを実施する。 3) タブレット・スマホ等 を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。（総合レポート課題）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有ICTを活用し、自己の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施します（課題レポート②として成果を提出）。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握します。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1) 予習：参考書等を用いて事前にソフトボールの技能に関する仕組みを理解する。（1時間程度） 2) 復習：毎回の授業後に配布された振り返りシートに授業の内容等を記入する （30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー 2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、課題レポートの内容30%、実技テスト30%

#### <教科書>

財団法人日本ソフトボール協会 「ソフトボール指導者教本」 日本体育社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、ベースボール型スポーツについて	授業の進め方について、環境整備、安全管理、ベースボール型スポーツについて
2	ソフトボールの技術（1）	守備の基本（スローイング・キャッチング）、ティーボール
3	ソフトボールの技術（2）	打撃の基本（バッティング・ランニング）、ティーボール
4	試合の進め方、ソフトボールの指導法の工夫（1）	試合の進め方（ルール、審判法、安全管理、ポジション）について、ティーボールゲームの工夫
5	ソフトボールの指導法と工夫（2）	ティーボールゲームの工夫と実践①
6	ソフトボールの指導法の工夫（3）	ティーボールゲームの工夫と実践②
7	ソフトボールの実践（1）	ソフトボールの実践（アウト：三振、フライ、ゴロ）、紅白戦で実践練習
8	ソフトボールの実践（2）	ソフトボールの実践（アウト：ホースプレー、タッチプレー）、紅白戦で実践練習
9	ソフトボールの実践（3）	ソフトボールの実践（ダブルプレー：ゴロ、フライ）、紅白戦で実践練習
10	ソフトボールの実践（4）	ソフトボールの実践（タッチアッププレー）、紅白戦で実践練習
11	ソフトボールの実践（5）	ソフトボールの実践（攻撃戦術：バント）、紅白戦で実践練習
12	ソフトボールの実践（6）、実技テスト①	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ヒットエンドラン）、紅白戦で実践練習、実技テスト①
13	ソフトボールの実践（7）、実技テスト②	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ポジショニング）、紅白戦で実践練習、実技テスト②
14	ソフトボールの実践（8）、実技テスト③	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ピックオフプレー）、紅白戦で実践練習、実技テスト③

15	ソフトボールの実践 (9)	ト③
16		ソフトボールの実践 (学校教材と雨天時教材) 、紅白戦で実践練習

科目コード	40121				区 分	体育実技			
授業科目名	ソフトボール [PP・PS男子+他学科男子]				担当者名	佐藤 伸之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

ソフトボールにおける「投・打・走」の基本的な技術を習得し、ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって、ソフトボールの指導方法を身につける。また、指導者として必要なソフトボールの技術指導、審判、運営が出来るようにすることを目指しゲーム形式でソフトボールを実施する。

#### <授業の到達目標>

1) 主体的かつ積極的に授業に参加し、仲間と協力してプレイするとともに、フェアなプレイを心掛け、健康・安全を確保することができる。 2) チームや自身の課題を発見し、チームや自身の考えたことを他者に伝えることができる 3) ソフトボールのルールやマナーを理解している。 4) ソフトボールの基本技能（捕る、投げる、打つ、走る）を遂行できる。

#### <授業の方法>

1) 実技（グラウンド）を通して、ソフトボールを学習し技能習得のために、随時その理論的背景を説明する。 2) チーム間でのグループワークの時間を設け、問題提起（授業ごとの課題）を通じたディスカッションを実施する。 3) タブレット・スマホ等 を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。（総合レポート課題）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有ICTを活用し、自己の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施します（課題レポート②として成果を提出）。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握します。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1) 予習：参考書等を用いて事前にソフトボールの技能に関する仕組みを理解する。（1時間程度） 2) 復習：毎回の授業後に配布された振り返りシートに授業の内容等を記入する（30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー 2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、課題レポートの内容30%、実技テスト30%

#### <教科書>

財団法人日本ソフトボール協会 「ソフトボール指導者教本」 日本体育社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、ベースボール型スポーツについて	授業の進め方について、環境整備、安全管理、ベースボール型スポーツについて
2	ソフトボールの技術（1）	守備の基本（スローイング・キャッチング）、ティーボール
3	ソフトボールの技術（2）	打撃の基本（バッティング・ランニング）、ティーボール
4	試合の進め方、ソフトボールの指導法の工夫（1）	試合の進め方（ルール、審判法、安全管理、ポジション）について、ティーボールゲームの工夫
5	ソフトボールの指導法と工夫（2）	ティーボールゲームの工夫と実践①
6	ソフトボールの指導法の工夫（3）	ティーボールゲームの工夫と実践②
7	ソフトボールの実践（1）	ソフトボールの実践（アウト：三振、フライ、ゴロ）、紅白戦で実践練習
8	ソフトボールの実践（2）	ソフトボールの実践（アウト：ホースプレー、タッチプレー）、紅白戦で実践練習
9	ソフトボールの実践（3）	ソフトボールの実践（ダブルプレー：ゴロ、フライ）、紅白戦で実践練習
10	ソフトボールの実践（4）	ソフトボールの実践（タッチアッププレー）、紅白戦で実践練習
11	ソフトボールの実践（5）	ソフトボールの実践（攻撃戦術：バント）、紅白戦で実践練習
12	ソフトボールの実践（6）、実技テスト①	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ヒットエンドラン）、紅白戦で実践練習、実技テスト①
13	ソフトボールの実践（7）、実技テスト②	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ポジショニング）、紅白戦で実践練習、実技テスト②
14	ソフトボールの実践（8）、実技テスト③	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ピックオフプレー）、紅白戦で実践練習、実技テスト③

15	ソフトボールの実践 (9)	ト③
16		ソフトボールの実践 (学校教材と雨天時教材) 、紅白戦で実践練習

科目コード	40121				区 分	体育実技			
授業科目名	ソフトボール [PP・PS女子+他学科女子用]				担当者名	山本 清人／原田 悠平			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

ソフトボールの用具や競技施設、ルール、運動の特性、競技の特性を理解し、ソフトボールの基本的な技術（例えば、ボールの持ち方、投げ方、バットの握り方、グラブの操作方法など）を学ぶ。また、守備の基本（投球、守備）から攻撃の基本（打撃、走塁）などの個人技術の習得を目指し、その後、ゲーム形式でソフトボールを実施する。本授業は履修人数制限を設けています。※履修者が制限を超えた場合は受講日を調整する場合があります。

#### <授業の到達目標>

(1) 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。(3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとする。

#### <授業の方法>

実技を中心にグラウンドで実践指導を行う。バッティング・守備及びピッチングなどの理論が必要なときは随時説明をする。1. グループワーク（予習内容に関する確認）2. 実技（教員による解説と新たな技術習得のため問題提示）タブレット・スマホ等を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。3. ディスカッション（問題提示に対する回答）4. 省察活動（まとめ）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループごとに課題達成に向けて、達成目標を設定し、そのための方策を計画し実践した上で、再点検をして、再度実践するという課題を設定させる。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

(1) 予習 翌週の指導内容の資料を読み内容を把握してくる。(1時間) (2) 復習 振り返りレポートを次回の授業までに作成し、メールで提出する。(1時間)

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、予習10%、課題レポートの内容20%、実技テスト30%

#### <教科書>

#### <参考書>

財団法人日本ソフトボール協会 「ソフトボール指導者教本」 日本体育社

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	指導者のあり方（ガイダンス）	指導者としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
2	ソフトボールの歴史	ソフトボールの誕生・発展、ソフトボール情勢
3	ソフトボールの技術と指導法（1）	投球の基礎技術 投球モーションのフォームと特徴
4	ソフトボールの技術と指導法（2）	守備の基礎技術 送球・捕球、守備位置と守備範囲
5	ソフトボールの技術と指導法（3）	守備の基礎技術 ポジション別の技術
6	ソフトボールの技術と指導法（4）	打撃の基礎技術
7	ソフトボールの技術と指導法（5）	バントの基礎技術
8	ソフトボールの技術と指導法（6）	走塁の基礎技術
9	集団技術の理解（1）	ポジション別守備練習と連係プレー
10	集団技術の理解（2）	試合形式シートバッティング
11	総合的ゲーム展開（1）	紅白戦で実戦練習（1）
12	総合的ゲーム展開（2）	紅白戦で実戦練習（2）
13	総合的ゲーム展開（3）	紅白戦で実戦練習（3）
14	打撃系実技到達度確認	試合形式でバッティングテスト
15	守備系実技到達度確認	試合形式でポジション別守備テスト



科目コード	40121				区 分	体育実技			
授業 科目名	ソフトボール [PP女子+他学科女子用]				担当者名	山本 清人／原田 悠平			
配当年次	カリキュ ムにより異 なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

ソフトボールの用具や競技施設、ルール、運動の特性、競技の特性を理解し、ソフトボールの基本的な技術（例えば、ボールの持ち方、投げ方、バットの握り方、グ ラブの操作方法など）を学ぶ。また、守備の基本（投球、守備）から攻撃の基本（打撃、走塁）などの個人技術の習得 を目指し、その後、ゲーム形式でソフトボールを実施する。本授業は履修人数制限を設けています。※履修者が制限を超えた場合は受講日を調整する場合があります。

#### <授業の到達目標>

(1) 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボ ール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。(3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとする。

#### <授業の方法>

実技を中心にグラウンドで実践指導を行う。バッティング・守備及びピッチングなどの理論が必要なときは随時説明をする。1. グループワーク（予習内容に関する確認）2. 実技（教員による解説と新たな技術習得のため問題提示） タブレット・スマホ等を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。3. ディスカッション（問題提示に対する回答）4. 省察活動（まとめ）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループごとに課題達成に向けて、達成目標を設定し、そのための方策を計画し実践した上で、再点検をして、再度実践するという課題を設定させる。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

(1) 予習 翌週の指導内容の資料を読み内容を把握してくる。(1時間)(2) 復習 振り返りレポートを次回の授業までに作成し、メールで提出する。(1時間)

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー 2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、予習10%、課題レポートの内容20%、実技テスト30%

#### <教科書>

#### <参考書>

財団法人日本ソフトボール協会 「ソフトボール指導者教本」 日本体育社

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	指導者のあり方（ガイダンス）	指導者としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
2	ソフトボールの歴史	ソフトボールの誕生・発展、ソフトボール情勢
3	ソフトボールの技術と指導法（1）	投球の基礎技術 投球モーションのフォームと特徴
4	ソフトボールの技術と指導法（2）	守備の基礎技術 送球・捕球、守備位置と守備範囲
5	ソフトボールの技術と指導法（3）	守備の基礎技術 ポジション別の技術
6	ソフトボールの技術と指導法（4）	打撃の基礎技術
7	ソフトボールの技術と指導法（5）	バントの基礎技術
8	ソフトボールの技術と指導法（6）	走塁の基礎技術
9	集団技術の理解（1）	ポジション別守備練習と連係プレー
10	集団技術の理解（2）	試合形式シートバッティング
11	総合的ゲーム展開（1）	紅白戦で実戦練習（1）
12	総合的ゲーム展開（2）	紅白戦で実戦練習（2）
13	総合的ゲーム展開（3）	紅白戦で実戦練習（3）
14	打撃系実技到達度確認	試合形式でバッティングテスト
15	守備系実技到達度確認	試合形式でポジション別守備テスト



科目コード	40123				区 分	コア科目			
授業科目名	器械運動 I (基礎)				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

### <授業の概要>

マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領（保健体育）に掲載されている基本技から発展技の技能を習得するとともに、それらの段階的な指導方法を理解する。

### <授業の到達目標>

1. 器械運動に関する基礎的な動きから発展的な動きを習得し、見本として実施することができるようになる。2. 動きについての技術的な内容や段階的な学習方法を理解し、他者に説明できるようになる。

### <授業の方法>

指導を受けると同時に、ICTを用いながら各自で教えあい、それぞれの技能を伸ばす。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有ICTを活用し、自己や他者の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施します。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握します。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：振り返りシートにその日に教わったポイントや気づきなどを整理して記入すること。また、これまでに受けてきた授業で取り上げた技で出来ていない技については、日ごろから繰り返し練習する。（約20分）予習：翌週で学習する技について技術情報を調べる。（約20分）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この科目は、体育学科のディプロマポリシー7「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組むことができる生涯学習力を身に付けている。」に関連するコア科目である。学習指導要領に例示されている器械運動領域の技能を学習する過程で、運動に関する知見をもとに、自らの課題を見つけ、技能の習熟度を高めていくことをねらいとしている。出席・態度：30％ レポート/提出物：20％ 実技：50％

### <教科書>

三木四郎、加藤澤男、本村清人 編著（2006） 中・高校器械運動の授業づくり 大修館書店

### <参考書>

三木四郎（2005） 新しい体育授業の運動学 明和出版

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス、器械運動の歴史・特性、器具の出し方について
2	マット運動	回転系接転技群
3	跳び箱運動	切り返し系技群
4	マット運動・跳び箱運動	中間報告会と技能テストについて
5	マット運動	回転系ほん転技群①
6	マット運動	回転系ほん転技群②
7	鉄棒運動	後転系
8	鉄棒運動	前転系
9	技能チェック①	中間報告会（技の出来栄）
10	技能チェック②	実技テストの説明/演技構成の検討
11	総合練習	演技構成の実施
12	実技テスト①	跳び箱運動・鉄棒運動
13	実技テスト②	マット運動
14	実技テスト③	マット運動・鉄棒運動・跳び箱運動
15	振り返り	技能テストの振り返り
16		

科目コード	40123				区 分	コア科目			
授業科目名	器械運動 I (基礎)				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

### <授業の概要>

マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領（保健体育）に掲載されている基本技から発展技の技能を習得するとともに、それらの段階的な指導方法を理解する。

### <授業の到達目標>

1. 器械運動に関する基礎的な動きから発展的な動きを習得し、見本として実施することができるようになる。2. 動きについての技術的な内容や段階的な学習方法を理解し、他者に説明できるようになる。

### <授業の方法>

指導を受けると同時に、ICTを用いながら各自で教えあい、それぞれの技能を伸ばす。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有ICTを活用し、自己や他者の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施します。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握します。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：振り返りシートにその日に教わったポイントや気づきなどを整理して記入すること。また、これまでに受けてきた授業で取り上げた技で出来ていない技については、日ごろから繰り返し練習する。（約20分）予習：翌週で学習する技について技術情報を調べる。（約20分）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この科目は、体育学科のディプロマポリシー7「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組むことができる生涯学習力を身に付けている。」に関連するコア科目である。学習指導要領に例示されている器械運動領域の技能を学習する過程で、運動に関する知見をもとに、自らの課題を見つけ、技能の習熟度を高めていくことをねらいとしている。出席・態度：30％ レポート/提出物：20％ 実技：50％

### <教科書>

三木四郎、加藤澤男、本村清人 編著（2006） 中・高校器械運動の授業づくり 大修館書店

### <参考書>

三木四郎（2005） 新しい体育授業の運動学 明和出版

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス、器械運動の歴史・特性、器具の出し方について
2	マット運動	回転系接転技群
3	跳び箱運動	切り返し系技群
4	マット運動・跳び箱運動	中間報告会と技能テストについて
5	マット運動	回転系ほん転技群①
6	マット運動	回転系ほん転技群②
7	鉄棒運動	後転系
8	鉄棒運動	前転系
9	技能チェック①	中間報告会（技の出来栄）
10	技能チェック②	実技テストの説明/演技構成の検討
11	総合練習	演技構成の実施
12	実技テスト①	跳び箱運動・鉄棒運動
13	実技テスト②	マット運動
14	実技テスト③	マット運動・鉄棒運動・跳び箱運動
15	振り返り	技能テストの振り返り
16		

科目コード	40123				区 分	コア科目			
授業科目名	器械運動 I (基礎)				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

### <授業の概要>

マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領（保健体育）に掲載されている基本技から発展技の技能を習得するとともに、それらの段階的な指導方法を理解する。

### <授業の到達目標>

1. 器械運動に関する基礎的な動きから発展的な動きを習得し、見本として実施することができるようになる。2. 動きについての技術的な内容や段階的な学習方法を理解し、他者に説明できるようになる。

### <授業の方法>

指導を受けると同時に、ICTを用いながら各自で教えあい、それぞれの技能を伸ばす。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有ICTを活用し、自己や他者の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施します。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握します。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：振り返りシートにその日に教わったポイントや気づきなどを整理して記入すること。また、これまでに受けてきた授業で取り上げた技で出来ていない技については、日ごろから繰り返し練習する。（約20分）予習：翌週で学習する技について技術情報を調べる。（約20分）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この科目は、体育学科のディプロマポリシー7「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている。」に関連するコア科目である。学習指導要領に例示されている器械運動領域の技能を学習する過程で、運動に関する知見をもとに、自らの課題を見つけ、技能の習熟度を高めていくことをねらいとしている。出席・態度：30％ レポート/提出物：20％ 実技：50％

### <教科書>

三木四郎、加藤澤男、本村清人 編著（2006） 中・高校器械運動の授業づくり 大修館書店

### <参考書>

三木四郎（2005） 新しい体育授業の運動学 明和出版

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス、器械運動の歴史・特性、器具の出し方について
2	マット運動	回転系接転技群
3	跳び箱運動	切り返し系技群
4	マット運動・跳び箱運動	中間報告会と技能テストについて
5	マット運動	回転系ほん転技群①
6	マット運動	回転系ほん転技群②
7	鉄棒運動	後転系
8	鉄棒運動	前転系
9	技能チェック①	中間報告会（技の出来栄）
10	技能チェック②	実技テストの説明/演技構成の検討
11	総合練習	演技構成の実施
12	実技テスト①	跳び箱運動・鉄棒運動
13	実技テスト②	マット運動
14	実技テスト③	マット運動・鉄棒運動・跳び箱運動
15	振り返り	技能テストの振り返り
16		

科目コード	40123				区 分	コア科目			
授業科目名	器械運動 I (基礎)				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領（保健体育）に掲載されている基本技から発展技の技能を習得するとともに、それらの段階的な指導方法を理解する。

#### <授業の到達目標>

1. 器械運動に関する基礎的な動きから発展的な動きを習得し、見本として実施することができるようになる。2. 動きについての技術的な内容や段階的な学習方法を理解し、他者に説明できるようになる。

#### <授業の方法>

指導を受けると同時に、ICTを用いながら各自で教えあい、それぞれの技能を伸ばす。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有ICTを活用し、自己や他者の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施します。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握します。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：振り返りシートにその日に教わったポイントや気づきなどを整理して記入すること。また、これまでに受けてきた授業で取り上げた技で出来ていない技については、日ごろから繰り返し練習する。（約20分）予習：翌週で学習する技について技術情報を調べる。（約20分）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この科目は、体育学科のディプロマポリシー7「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組むことができる生涯学習力を身に付けている。」に関連するコア科目である。学習指導要領に例示されている器械運動領域の技能を学習する過程で、運動に関する知見をもとに、自らの課題を見つけ、技能の習熟度を高めていくことをねらいとしている。出席・態度：30％ レポート/提出物：20％ 実技：50％

#### <教科書>

三木四郎、加藤澤男、本村清人 編著（2006） 中・高校器械運動の授業づくり 大修館書店

#### <参考書>

三木四郎（2005） 新しい体育授業の運動学 明和出版

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス、器械運動の歴史・特性、器具の出し方について
2	マット運動	回転系接転技群
3	跳び箱運動	切り返し系技群
4	マット運動・跳び箱運動	中間報告会と技能テストについて
5	マット運動	回転系ほん転技群①
6	マット運動	回転系ほん転技群②
7	鉄棒運動	後転系
8	鉄棒運動	前転系
9	技能チェック①	中間報告会（技の出来栄）
10	技能チェック②	実技テストの説明/演技構成の検討
11	総合練習	演技構成の実施
12	実技テスト①	跳び箱運動・鉄棒運動
13	実技テスト②	マット運動
14	実技テスト③	マット運動・鉄棒運動・跳び箱運動
15	振り返り	技能テストの振り返り
16		

科目コード	40124				区 分	コア科目			
授業 科目名	器械運動Ⅱ(応用)				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

### <授業の概要>

マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領（保健体育）に掲載されている基本技から発展技について技能の段階的な指導方法を学び、状況に応じた指導方法を習得し、実践する。

### <授業の到達目標>

① 学習者の動きを見て、運動学習上の課題を見抜くことができるようになる。② ①を踏まえて、学習者に適切な指導・助言ができるようになる。③ 自らが技能の見本を実施することができるようになる。④ 実践を通じて器械運動の指導を行うことができる。

### <授業の方法>

器械運動の指導方法や指導内容を考えると同時に、ICTを用いながら各自及び技能習得段階者と教えあい、実際に指導することを主とする。そして、それぞれの技能を伸ばしたり、指導方法を考えたりするとともに自己の課題（技能習得）を解決するための方法を考える。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有器械運動Ⅰ（基礎）を履修している学生へ実践的指導や自らの技能達成に向けた練習を通じて、自ら指導方法を考え、実践する方法を取り入れています。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：振り返りシートにその日に教わったことや考えたことをまとめ、提出する。（約10分）予習：参考書の授業テーマに関する箇所を読んでくる。（約20分）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この科目は、体育学科のディプロマポリシー7「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている。」に関連するコア科目である。模擬授業：20% 受講態度：30% 提出物：30%（指導案含む） 実技（スキル）テスト：20%

### <教科書>

### <参考書>

三木四郎、加藤澤男、本村清人 編著（2006） 中・高校器械運動の授業づくり 大修館書店  
三木四郎（2005年） 新しい体育授業の運動学 明和出版

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要の説明、器械運動の特性について
2	器械運動の実践指導①	マット運動の指導方法について
3	器械運動の実践指導②	器械運動指導における安全配慮について
4	器械運動における指導方法の検討	指導方法の考案及び検討
5	器械運動の模擬授業①	模擬授業の実践
6	器械運動の実践指導③	鉄棒運動の実践指導
7	器械運動の実践指導④	鉄棒運動の実践指導
8	器械運動の実践指導	跳び箱運動の実践指導
9	器械運動技能評価の検討	評価方法の検討及び実技テストの採点について
10	器械運動の実践指導と採点①	担当グループのサポート及び指導と評価
11	器械運動の実践指導と採点②	担当グループのサポート及び指導と評価
12	器械運動の実践指導と採点③	担当グループのサポート及び指導と評価
13	器械運動の実践指導と採点④	担当グループのサポート及び指導と評価
14	実践指導&スキルテスト	指導及び自己が選択した技能の実施
15	器械運動の模擬授業実施	マット運動、鉄棒運動、跳び箱の模擬授業の実施
16		

科目コード	40202				区 分	コア科目			
授業科目名	バレーボールⅡ(応用)				担当者名	坂本 博秋			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

バレーボールは集団のスポーツであり、集団による協力が重要である。球技種目履修の意義は、球技種目における個人技術の向上、技術、戦術の理解や、体力トレーニングの方法を学ぶだけでなく、この集団による協力の重要性を、ゲームを通して肌で感じることにある。また単に技術向上をねらいとするだけではなく、将来指導者、教員を目指すことを想定し、指導法についても講義する。なお、バレーボールⅡ（応用）は、バレーボールⅠ（基礎）を修得していることが履修の条件となる。

#### <授業の到達目標>

スパイク技術、レシーブ技術、ブロック技術、サーブ技術を向上させると同時にそれらを指導できる力を身につけることを目標とするとともに日本バレーボール協会公認コーチ1の受験資格取得を目指す。

#### <授業の方法>

日本バレーボール協会公認コーチ資格取得カリキュラムに沿って展開していく。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有グループ・ディスカッションや指導実習など

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

書籍や映像等を用いてバレーボールについての理解を深める。（1時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 40%、実技テスト及びレポート 60%

#### <教科書>

日本バレーボール協会（2017年2月10日版） コーチングバレーボール（基礎編） 大修館書店

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	内容説明と導入	指導者資格について
2	指導者の在り方	指導者とは
3	バレーボールの歴史	バレーボールの生い立ちと現状の理解
4	競技規則と審判法（6/9）	競技規則の理解と審判トレーニング
5	ビーチバレーボールの指導法と競技規則（1）	技術理解と戦術について
6	ビーチバレーボールの指導法と競技規則（2）	練習方法と練習計画
7	グループディスカッション	コーチングについて
8	指導実習（基礎Ⅰ）と救急法（1）	基礎技術の指導（パス、アタック、ブロック）と救急法実習
9	指導実習（基礎Ⅰ）と救急法（2）	基礎技術の指導（サーブ、レセプション）と救急法実習
10	練習計画の立案	練習方法の理解と配分について
11	ウォーミングアップとクーリングダウン	方法の理解と実践
12	初心者導入法（2/4/6/9）（1）	導入方法の理解と指導実習
13	初心者導入法（2/4/6/9）（2）	練習方法と指導実習
14	フォーメーション（基礎）	フォーメーションの理解と実践
15	実技試験とレポート	総合実技テスト及びレポート
16		

科目コード	40204				区 分	コア科目			
授業科目名	ハンドボールⅡ(応用)				担当者名	前田 誠一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・小・中・高等学校運動部活等でコーチングスタッフとして、基礎的な知識・技能に基づき、安全で効果的な活動を提供できる指導者を養成する講座である。受講対象者：ハンドボールⅠ及び、チームスポーツ指導理論Ⅰを取得、もしくは、履修者。

#### <授業の到達目標>

ハンドボールのルールと競技特性を理解し、指導者として、チーム運営に必要な基礎知識を身につける。また、ハンドボールの成り立ちに着目した上で、基礎的技術、戦術を身につける。

#### <授業の方法>

(1)実践指導(2)ディスカッション、ディベート(3)グループワーク(4)プレゼンテーション(5)実習

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

能動的学習教養・知識・経験を養成し、トレーニング指導を実践する

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時に紹介するハンドボール指導法に関する書籍・DVDを参照し、予習・復習(1コマにつき1時間)にあてる。また、授業ノートを作り、その日に行ったこと、ポイント、感想などを記入していく。なお、授業ノートは定期的に集め、内容をチェックする。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)およびディプロマポリシー2(体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 30%、技術・戦術遂行能力・指導学習能力 20%、レポート 20% 定期試験 30%

#### <教科書>

#### <参考書>

酒巻清治(2012/9/3) 基本が身につく ハンドボール 練習メニュー 池田書店

日本ハンドボール協会(2019/7/7) 2019 NTS センタートレーニング テキスト 株式会社 ブライト

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業内容説明・スポーツインテグリティについて
2	競技の概要と戦術の展開	ハンドボールの特性に応じたコーチングの基礎理論を考える
3	チームの構造と必要となる競技力	競技力向上に応じたコーチングの基礎理論を考える
4	コーチの役割とコーチング能力の発達	基礎指導理論の考察(フィロゾフィー)
5	発育発達を踏まえた一貫指導	ヨーロッパと日本の一貫指導について
6	フィジカルアビリティとコンディショニング	グループディスカッション、ディベート
7	ゲームの分析方法	グループワーク、プレゼンテーション
8	競技規則の理解と試合における判定	種目の特性に応じたコーチングの基礎理論
9	ゲーム能力を高めるトレーニング	コーチング演習、プレゼンテーションⅠ
10	個人のスキルを高めるトレーニング	コーチング演習、プレゼンテーションⅡ
11	ゴールキーパートレーニング	キーパートレーニング基礎指導法について
12	フィジカルトレーニング	コーチング演習(課題抽出とその修正)
13	目標設定とトレーニング計画の作成	コーチング実習(ビデオダイジェーションの作成)
14	コーチングの実践	コーチング実習(課題抽出とその修正)
15	コーチングの実践の振り返りとその評価	コーチング実習(課題抽出とその修正)
16		

科目コード	40205				区 分	コア科目			
授業科目名	陸上Ⅱ(応用)				担当者名	品田 直宏			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

### <授業の概要>

陸上競技は、どのスポーツ種目においても基本となる走・跳・投・歩の運動から構成される。内容的には体力的・技術的・精神的な多くの要素を含んでおり、競技や練習を行う上で多面性を要求され、計画的・継続的に行う必要がある種目である。本授業では、陸上Ⅰで行った内容を指導実践するものとし、陸上競技の指導者養成することを目的とした授業を展開する。

### <授業の到達目標>

本授業では、「陸上競技Ⅰ（基礎）」で学習した内容の指導実践を行ない、各種目に応じたウォーミングアップの立案と実践、各種目の技術的指導ができるようになることを目標としている。陸上競技のコーチングにとって必要な高度な専門知識を身につけた上で、トレーニング方法やトレーニングプログラムデザインを提案できる。

### <授業の方法>

対面授業による実技（陸上競技場・スポーツ科学センター）のため教科書は使用しないが、雨天時にはGoogle Classroomを用いたオンデマンド型授業とし、各種目の歴史やルール・指導上の留意点に関する理解を深めると共に、レポート課題を行う。履修上限人数は40人とする。陸上Ⅰの受講学生を対象とした指導実践を行なう。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

参考図書（陸上競技入門、レベルアップの陸上競技）およびルールブックを熟読の上、授業に参加すること。（所要時間：1～2時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

指導実践・受講態度 50%、レポート課題50%

### <教科書>

### <参考書>

関岡康雄 陸上競技入門 ベースボールマガジン社  
日本陸上競技連盟 陸上競技のルールブック ベースボールマガジン社  
日本陸上競技連盟 レベルアップの陸上競技 大修館書店

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション、陸上競技のウォーミングアップ、ウォーキング&ジョギング、心拍数を利用したウォーミングアップ、トレーニングの考え方	授業の概要と心拍数を利用したウォーミングアップ、トレーニングの考え方について理解する
2	短距離走の指導実践①	短距離走のウォーミングアップ方法の理解、クラウンチングスタートの指導方法の理解
3	走高跳の指導実践①	走高跳のウォーミングアップ方法および曲線助走の指導方法の理解
4	走高跳の指導実践②	曲線助走～踏切局面の指導方法の理解、背面跳の空中動作の指導方法の理解
5	ハードル走の指導実践①	ハードル走のウォーミングアップ方法の理解、アプローチ局面の指導方法の理解
6	ハードル走の指導実践②	ハードル走のウォーミングアップの実践、クリアランス動作・インターバル間の走り方の指導方法の理解
7	走幅跳の指導実践①	走幅跳のウォーミングアップ方法の理解、助走の構成と助走の組み立て方の指導方法の理解
8	走幅跳の指導実践②	走幅跳のウォーミングアップの実践、踏切準備局面および踏切～着地局面の指導方法の理解
9	砲丸投の指導実践①	砲丸投のウォーミングアップ方法の理解、立ち投げ、グライド投法の指導方法の理解
10	砲丸投の指導実践②	砲丸投のウォーミングアップの実践、グライド投法の指導実践
11	跳躍種目におけるパフォーマンス構造の理解	跳躍種目のパフォーマンスに影響を与える体力要素およびそれらを高める体力トレーニングについて、オンデマンド教材を用いて理解を深める
12	三段跳のパフォーマンス構造の理解	跳躍種目における三段跳について、オンデマンド教材を用いて理解を深める

13	陸上競技における性差の理解	性差を考慮したコーチング方法について、オンデマンド教材を用いて理解を深める
14	ジュニア期に求められるトレーニングの理解	ジュニア期に必要なトレーニング・コーチング方法について、オンデマンド教材を用いて理解を深める
15	まとめ	授業の振り返りレポートの作成， トレーニングプログラムのデザイン
16		

科目コード	40206				区 分	コア科目			
授業科目名	柔道Ⅱ(応用) [PP・PS男子用]				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

### <授業の概要>

「柔道Ⅰ」においては、柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的として授業が行われたが、「柔道Ⅱ(応用)」においては、「柔道Ⅰ(基礎)」において体得した柔道の基本動作、基礎技術をさらに習熟させると同時に、掛かり稽古・試合等を通して応用技術を習得する。また、実技能力を向上させるのみならず、柔道指導における安全・管理および審判法を学び、教育現場で指導できるように履修者の資質を高めることを目的とする。

### <授業の到達目標>

礼儀正しい公正な態度で、簡易な試合を楽しむことができる。簡易な試合で使うことができる基本となる技を身に付けている。簡易な試合でのルールや審判法を理解し昇段を目指している。

### <授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて投の形やビデオ・資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

受講生同士で技の動きを分析・指摘し合う「ペアワーク」、実践後に振り返りを行う「グループディスカッション」、課題に対して解決策を考える「ケーススタディ」を取り入れ、主体的な学びを促す。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。(1時間程度) 復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。(30分程度)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度(学習意欲含む) 70%、実技試験 30%

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1. 一本背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
2	2. 双手背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
3	3. 釣り込み腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
4	4. 体落とし	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
5	5. 送り足払い	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
6	6. 大内刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
7	7. 払い腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
8	8. 小外刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
9	9. 内股	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
10	10～12. 固め技の基本動作	固め技の基本姿勢、体さばき、攻撃方法の研究、四つんばいの相手の攻撃方法、あ お向けの相手の攻撃方法、絞め技、活法、上体の決め方、足の抜き方
11	13～14. 試合	技の攻防
12	15. まとめ	試合の反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40206				区 分	コア科目			
授業科目名	柔道Ⅱ(応用) [PP・PS女子用]不開講				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

### <授業の概要>

「柔道Ⅰ」においては、柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的として授業が行われた。「柔道Ⅱ(応用)」においては、「柔道Ⅰ(基礎)」において体得した柔道の基本動作、基礎技術をさらに習熟させると同時に、相手と攻防を展開する簡易な試合形式の実践練習等を通して応用技術を習得する。また、実技能力を向上させるのみならず、柔道指導における安全・管理および審判法を学び、教育現場で指導できるように履修者の資質を高めることを目的とする。

### <授業の到達目標>

1) 礼儀正しい公正な態度で、簡易な試合を楽しむことができる。2) 簡易な試合で使うことができる基本となる技を身に付けている。3) 簡易な試合でのルールや審判法を理解し昇段を目指している。

### <授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて投の形やビデオ・資料等の教材を活用し授業を進めていく。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

「柔道Ⅱ(応用)」では、基本技術の習熟に加え、簡易な試合形式を取り入れた実践練習を通じて、受講者が主体的に技術を応用する機会が設けられている。また、安全管理や審判法を学ぶ中で、指導者として必要な判断力や実践的スキルを身につけることができる。これらの学習活動は、協働的な学びや体験的学習を含み、アクティブラーニングの特徴を備えている。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。(1時間程度) 復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。(30分程度)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度(学習意欲含む) 70%、実技試験 30%

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1. 一本背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
2	2. 両手背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
3	3. 釣り込み腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
4	4. 体落とし	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
5	5. 送り足払い	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
6	6. 大内刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
7	7. 払い腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
8	8. 小外刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
9	9. 内股	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
10	10～12. 固め技の基本動作	固め技の基本姿勢、体さばき、攻撃方法の研究、四つんばいの相手の攻撃方法、あ お向けの相手の攻撃方法、絞め技、活法、上体の決め方、足の抜き方
11	11～13. 実践練習	技の攻防
12	15. まとめ	試合の反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40206				区 分	コア科目			
授業科目名	柔道Ⅱ(応用) [PH男子用]				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

### <授業の概要>

「柔道Ⅰ」においては、柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的として授業が行われたが、「柔道Ⅱ(応用)」においては、「柔道Ⅰ(基礎)」において体得した柔道の基本動作、基礎技術をさらに習熟させると同時に、掛かり稽古・試合等を通して応用技術を習得する。また、実技能力を向上させるのみならず、柔道指導における安全・管理および審判法を学び、教育現場で指導できるように履修者の資質を高めることを目的とする。

### <授業の到達目標>

礼儀正しい公正な態度で、簡易な試合を楽しむことができる。簡易な試合で使うことができる基本となる技を身に付けている。簡易な試合でのルールや審判法を理解し昇段を目指している。

### <授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて投の形やビデオ・資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

受講生同士で技の動きを分析・指摘し合う「ペアワーク」、実践後に振り返りを行う「グループディスカッション」、課題に対して解決策を考える「ケーススタディ」を取り入れ、主体的な学びを促す。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。(1時間程度) 復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。(30分程度)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度(学習意欲含む) 70%、実技試験 30%

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1. 一本背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
2	2. 双手背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
3	3. 釣り込み腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
4	4. 体落とし	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
5	5. 送り足払い	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
6	6. 大内刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
7	7. 払い腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
8	8. 小外刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
9	9. 内股	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
10	10～12. 固め技の基本動作	固め技の基本姿勢、体さばき、攻撃方法の研究、四つんばいの相手の攻撃方法、あ お向けの相手の攻撃方法、絞め技、活法、上体の決め方、足の抜き方
11	13～14. 試合	技の攻防
12	15. まとめ	試合の反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40206				区 分	コア科目			
授業科目名	柔道Ⅱ(応用) [PH女子用]				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

「柔道Ⅰ」においては、柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的として授業が行われたが、「柔道Ⅱ(応用)」においては、「柔道Ⅰ(基礎)」において体得した柔道の基本動作、基礎技術をさらに習熟させると同時に、掛かり稽古・試合等を通して応用技術を習得する。また、実技能力を向上させるのみならず、柔道指導における安全・管理および審判法を学び、教育現場で指導できるように履修者の資質を高めることを目的とする。

#### <授業の到達目標>

礼儀正しい公正な態度で、簡易な試合を楽しむことができる。簡易な試合で使うことができる基本となる技を身に付けている。簡易な試合でのルールや審判法を理解し昇段を目指している。

#### <授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて投の形やビデオ・資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

「柔道Ⅱ(応用)」では、基本技術の習熟に加え、簡易な試合形式を取り入れた実践練習を通じて、受講者が主体的に技術を応用する機会が設けられている。また、安全管理や審判法を学ぶ中で、指導者として必要な判断力や実践的スキルを身につけることができる。これらの学習活動は、協働的な学びや体験的学習を含み、アクティブラーニングの特徴を備えている。

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。(1時間程度) 復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。(30分程度)

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3 (体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 (学習意欲含む) 70%、実技試験 30%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1. 一本背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り (自由練習)
2	2. 双手背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り (自由練習)
3	3. 釣り込み腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り (自由練習)
4	4. 体落とし	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り (自由練習)
5	5. 送り足払い	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り (自由練習)
6	6. 大内刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り (自由練習)
7	7. 払い腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り (自由練習)
8	8. 小外刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り (自由練習)
9	9. 内股	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り (自由練習)
10	10～12. 固め技の基本動作	固め技の基本姿勢、体さばき、攻撃方法の研究、四つんばいの相手の攻撃方法、あ お向けの相手の攻撃方法、絞め技、活法、上体の決め方、足の抜き方
11	13～14. 実践練習	技の攻防
12	15. まとめ	試合の反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40206				区 分	コア科目			
授業科目名	柔道Ⅱ(応用) [PP・PS男子用]				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

### <授業の概要>

「柔道Ⅰ」においては、柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的として授業が行われたが、「柔道Ⅱ(応用)」においては、「柔道Ⅰ(基礎)」において体得した柔道の基本動作、基礎技術をさらに習熟させると同時に、掛かり稽古・試合等を通して応用技術を習得する。また、実技能力を向上させるのみならず、柔道指導における安全・管理および審判法を学び、教育現場で指導できるように履修者の資質を高めることを目的とする。

### <授業の到達目標>

礼儀正しい公正な態度で、簡易な試合を楽しむことができる。簡易な試合で使うことができる基本となる技を身に付けている。簡易な試合でのルールや審判法を理解し昇段を目指している。

### <授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて投の形やビデオ・資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

受講生同士で技の動きを分析・指摘し合う「ペアワーク」、実践後に振り返りを行う「グループディスカッション」、課題に対して解決策を考える「ケーススタディ」を取り入れ、主体的な学びを促す。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。(1時間程度) 復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。(30分程度)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度(学習意欲含む) 70%、実技試験 30%

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1. 一本背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
2	2. 両手背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
3	3. 釣り込み腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
4	4. 体落とし	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
5	5. 送り足払い	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
6	6. 大内刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
7	7. 払い腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
8	8. 小外刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
9	9. 内股	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
10	10～12. 固め技の基本動作	固め技の基本姿勢、体さばき、攻撃方法の研究、四つんばいの相手の攻撃方法、あ お向けの相手の攻撃方法、絞め技、活法、上体の決め方、足の抜き方
11	13～14. 試合	技の攻防
12	15. まとめ	試合の反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40207				区 分	コア			
授業 科目名	剣道Ⅱ（応用）				担当者名	大井 理緒／堀川 峻			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

### <授業の概要>

剣道Ⅱ（応用）」では、「剣道Ⅰ（基礎）」で学習した基礎・基本動作を習熟させ、互格稽古や試合などを通して応用技術を学習する。また、技術の向上だけではなく、剣道指導上の留意点や指導方法を学習し、教育現場で指導できるように、専門的な知識と実践力を身につけることを目的とする。また、剣道の段位を取得していない学生（剣道初心者等）は1級及び初段審査に合格を目標として行う。※履修条件...剣道Ⅰ（基礎）の単位修得済みの学生に限る。

### <授業の到達目標>

中学校・高等学校等の教育現場での剣道授業、課外活動指導は当然のことながら、社会体育の中でも剣道を志す方々を指導できるような剣道専門指導者としての知識、技量、人間性を身に付けている。また、剣道の段位を取得していない者は、1級及び初段を取得する。

### <授業の方法>

講義・実技・ディスカッションClassroomを使用上限20人

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション）、試合実践の際にチームの5～7名でディスカッションを実施する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業までに全日本剣道連盟ホームページの「木刀による剣道基本技稽古法」を1時間熟読し、内容を予習する（1時間程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、実技試験 50%

### <教科書>

### <参考書>

全日本剣道連盟 剣道試合・審判規則/同細則

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	剣道Ⅰの復習（剣道の心構えについて）	剣道の在り方・剣道指導の在り方、剣道審査について
2	剣道Ⅰの復習（剣道具や作法、素振りについて）	剣道着・袴と剣道防具の知識を深め、正しく美しく着用する方法の学習、素振りの確認
3	剣道Ⅰの復習（仕掛け技基本動作の確認）	仕掛け技（面打ち・小手打ち・胴打ち）および切り返しの確認
4	木刀による剣道基本技稽古法（1～3）	木刀による剣道基本技稽古法を実践し、細かな動きを学習する。
5	木刀による剣道基本技稽古法（4～6）	木刀による剣道基本技稽古法を実践し、細かな動きを学習する。
6	木刀による剣道基本技稽古法（7～9）	木刀による剣道基本技稽古法を実践し、細かな動きを学習する。
7	木刀による剣道基本技稽古法の復習（1～9）	実際の審査形式において確認を行う。
8	応用動作（仕掛け技について）	仕掛け技（二段技・攻めを意識した仕掛け技）の実践
9	応用動作（応じ技について）	応じ技（面や小手に対しての応じ技）の実践
10	応用動作（実践稽古・立ち合い）	互角稽古と審査形式の立ち合いを行う。
11	審査内容の復習	審査の流れを確認し、剣道基本技稽古法や切り返し、立ち合いの復習を行う。
12	審査内容の確認	審査当日の最終確認を行う。
13	応用動作（実践稽古・試合）	互角稽古と試合を行い、実戦に役立つ戦法を考察しディスカッションを行う。
14	実技確認テスト	実技確認テストの実施。
15	授業のまとめおよび剣道授業の運営について	授業のまとめと剣道授業を運営する際の方法と注意点について学習する。
16		

科目コード	40303				区 分	コア科目			
授業科目名	整復学実技Ⅶ(総合)				担当者名	古山 喜一／簀戸 崇史			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本科目では、整復学実技Ⅰ～Ⅵで学習した整復法及び固定法を中心に、整復前の検査から整復、固定までの実際の臨床現場を想定した実技能力の習得を目標とする。骨折及び脱臼、軟部組織損傷の処置を行う際のリスクマネジメントの方法から整復法、固定法への臨床現場における一連の流れについて、実技実習を中心に行い、臨床現場における骨折及び脱臼、軟部組織損傷の処置を行う際のリスク管理とその後の処置について学習する。

#### <授業の到達目標>

臨床現場で多く関わる可能性がある代表的な運動器疾患（骨折、脱臼、軟部組織損傷）に対する疾患概念の理解および把握、治療形態（整復、固定、運動療法）に対する実施動作ができることを目標とする。

#### <授業の方法>

グループに分かれて実習形態で学習する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

特になし

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各運動器疾患（骨折、脱臼、軟部組織損傷）における理論、実技（整復法、固定法）については予め復習し（2時間程度）、授業に臨むものとする。講義終了後はまとめノートを作成し知識の定着を図る（2時間程度）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【対面授業】①定期試験100%

#### <教科書>

全国柔道整復学校協会 柔道整復学・理論編 南江堂  
全国柔道整復学校協会 柔道整復学・実技編 南江堂

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	鎖骨骨折	鎖骨骨折の発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法、整復法から固定法までの実技について
2	上腕骨骨折	上腕骨骨折における発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法、整復法から固定法の実技について
3	コーレス骨折・第5中手骨頸部骨折	コーレス骨折・第5中手骨頸部骨折における発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法、整復法から固定法の実技について
4	肩関節脱臼	肩関節脱臼の発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法、整復法から固定法の実技について
5	肘関節脱臼	肘関節脱臼における発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法、整復法から固定法の実技について
6	肩鎖関節脱臼	肩鎖関節脱臼の発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法、整復法から固定法の実技について
7	肋骨骨折・肘内障	肋骨骨折・肘内障の発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法、整復法から固定法の実技について
8	示指PIP関節背側脱臼	示指PIP関節背側脱臼の発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法、整復法から固定法の実技について
9	肩腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱損傷	肩腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱損傷における発生要因、症状の口頭試問及び検査法、固定法について
10	大腿部周囲軟部組織損傷	大腿部周囲軟部組織損傷における発生要因、症状の口頭試問及び検査法について
11	膝関節靱帯損傷	膝関節周囲軟部組織損傷における発生要因、症状の口頭試問及び検査法について
12	膝関節半月板損傷	膝関節半月板損傷における発生要因、症状の口頭試問及び検査法について

13	下腿部骨幹部骨折・下腿部の軟部組織損傷	下腿部の骨幹部骨折・軟部組織損傷における発生要因、症状の口頭試問及び検査法、固定法について
14	足部周囲の軟部組織損傷	足関節周囲軟部組織損傷における発生要因、症状の口頭試問及び検査法について
15	まとめ	総合評価
16		

科目コード	40305				区 分	コア			
授業科目名	剣道Ⅲ(発展)				担当者名	堀川 峻			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

「剣道Ⅲ（発展）」では、剣道Ⅰ（基礎）、剣道Ⅱ（応用）で学習した基本動作、応用動作を反復練習することによって、技のスピードや手の内の効用を向上させ、互格稽古や試合などで、打突の好機を捉えその技を発揮できるようにする。その技術・技能を用いて、学校現場で、剣道専門家としてまた剣道有段者として、専門家でない教員より専門性が高い剣道授業が展開できるようになることが本授業の目的である。また、技術・技能の向上だけではなく、剣道指導上の留意点及び試合規則や審判法を学習し、教育現場で指導できるように、高い専門的な知識と実践力を身につけることを目的とする。※履修条件…剣道Ⅰ（基礎）、剣道Ⅱ（応用）の単位修得済みの学生に限る。

#### <授業の到達目標>

中学校・高等学校等の教育現場で、剣道専門性の高い剣道授業、課外活動指導が実践できる知識、技術、技能を養い、授業実践できるようになることが目標である。さらに社会体育の中でも剣道を志す老若男女の方々に指導できる剣道専門指導者としての知識、技量、人間性を身に付けることを目標とする。また、剣道の段位を取得していない者は、段位取得を目標とする。

#### <授業の方法>

・剣道実技や日本剣道形・審判法・剣道理論学習を中心に実施する。・日本剣道形の示範動画は、事前にClassRoomに投稿されるので、事前課題として視聴し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。また、剣道理論についてもClassRoomを活用していく。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング有日本剣道形や剣道理論の学習には、アクティブラーニングを取り入れ、示範動画を視聴したり、各自の練習風景を撮影したりして、各自の問題点や課題点を発見し、他者に伝えたり、お互いに評価し合うことで改善点を修正していく。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

剣道Ⅰ（基礎）、剣道Ⅱ（応用）の復習剣道授業案の作成全日本剣道連盟「剣道試合・審判規則」「剣道試合・審判細則」（各時間範囲指定）の理解全日本剣道連盟「剣道試合・審判・運営要領の手引き」（各時間範囲指定）の理解 ※約1時間程度

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度40%、実技試験40%、剣道理論試験20%（授業内）

#### <教科書>

#### <参考書>

全日本剣道連盟平成25年（2013） 剣道授業の展開 全日本剣道連盟  
全日本剣道連盟2020（初版8刷） 剣道指導要領 全日本剣道連盟

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	剣道を学ぶの心構えについて	剣道の在り方・剣道指導の在り方
2	剣道の礼法、着装、防具の知識	剣道の礼法、伝統的な考え方を知る。剣道着・袴、防具の知識を深め、正しく美しく着装する方法の学習
3	基本動作の確認基本動作の指導の仕方	仕掛け技（面打ち・胴打ち・小手打ち）及び切り返しの指導法
4	木刀による剣道基本技稽古法	木刀による剣道基本技稽古法（1本目～9本目）の実践と指導の仕方
5	応用動作（仕掛け技について）	仕掛け技（二段の技・払い技・引き技・出ばな技）の実践と指導の仕方「攻め」を意識して、打突の好機を捉えて打つ実践と指導の仕方
6	応用動作（応じ技について）	応じ技（抜き技・擦り上げ技、返し技、打ち落とし技）の実践と指導の仕方先、後の先、先々の先の理解
7	剣道授業実践（学校現場想定）①	剣道の学習指導案を作成し、学校現場での剣道授業を実践する。
8	剣道授業実践（学校現場想定）②	剣道の学習指導案を作成し、学校現場での剣道授業を実践する。
9	剣道授業実践（学校現場想定）③	剣道の学習指導案を作成し、学校現場での剣道授業を実践する。
10	剣道指導実践（社会体育施設想定）①	小学校体育館や町道場での剣道指導を想定し、初心者（小学生～大人）に剣道指導を実践する。
11	剣道指導実践（社会体育施設想定）②	小学校体育館や町道場での剣道指導を想定し、初心者（小学生～大人）に剣道指導を実践する。
12	日本剣道形（1～3本目）	日本剣道形の1本目から3本目を理合いを理解しながら実践し、細かな動きを確認し、指導の仕方を学ぶ。
13	日本剣道形（4～7本目）	日本剣道形の4本目から7本目を理合いを理解しながら実践し、細かな動きを確認

14	日本剣道形（小太刀1～3本目）	し、指導の仕方を学ぶ。 日本剣道形の小太刀、1本目から3本目を理合いを理解しながら実践し、細かな動きを確認し、指導の仕方を学ぶ。
15	日本剣道形のまとめと実技試験、剣道理論試験	日本剣道形のまとめと、実際の段位審査で行われる審査形式による実技テスト、剣道学科確認テストを行う。
16		

科目コード	40400				区 分	コア科目			
授業科目名	雪上スポーツ [不開講]				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本実習は冬の代表的なスポーツのひとつであるアルペンスキーについて、その理論を学び、基本技術を習得し、全日本スキー連盟（SAJ）スキーバジテスト2級もしくは3級合格を目指す。またアルペンスキーを通して冬季スポーツ競技や雪山における安全管理についても学ぶ。さらに、雪山という特別な環境で仲間とともに過ごすことで、団体行動の大切さや仲間との絆、主体的に取り組む姿勢などを培う。受講生がアルペンスキーを自身の生涯スポーツの候補とできるような体験を提供する。実習地：兵庫県ハチ高原スキー場（予定）期 間：3泊4日費 用：約9万円（レンタル品・検定種目・参加人数によって異なる）（未定）

### <授業の到達目標>

（1）各技術レベルに応じた理論と滑走技術の習得 上級班：カービング要素の高いパラレルターンの習得 中級班：パラレルターンの習得 初心・初級班：シュテムターン・ベーシックパラレルターンの習得（2）仲間との共同生活を通して団体行動の重要性を認識し、新たな人間関係の構築する（3）自ら考え、主体的に取り組む姿勢を身につける

### <授業の方法>

資料や視覚教材（DVD等）を用いてスキー理論や安全面について学び、雪上では実技を通じてスキーの基本動作を学ぶ。実技講習は技術レベルに応じた班単位で実施する（上級、中級、初級・未経験者）。履修上限40名最小実施人数20名

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

スキーを安全に実施するためのルールやマナーについて事前に調べ、スキー技術向上に必要なことを主体的に学ぶ姿勢が望まれる。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前説明会でのスキー技術や用具の説明を、実習までに理解しておく（2時間）参考書などでスキー技術について予習する（2時間）実習内容と振り返りを実習日誌へ記入し、課題を復習する（1時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習参加と平常点 40%、実習態度 40%、安全管理 10%、スキー技術 10%（クラスルームを通じて出される課題は平常点に入ります）

### <教科書>

### <参考書>

（財）全日本スキー連盟「日本スキー教程」 芸文社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業内容の説明、導入（スキーの基礎用語、基礎技術）
2	基礎技術	ウォームアップ、歩行、登行、転び方、立ち上がり方など
3	スピードコントロール(1)	ブルークファーレンからの停止
4	スピードコントロール(2)	ブルークターンの練習
5	スピードコントロール(3)	ブルークターンの練習
6	ターンコントロール(1)	ブルークターンからシュテムターンへ
7	ターンコントロール(2)	ブルークターンからベーシックパラレルターンへ
8	ターンコントロール(3)	パラレルターンの練習
9	スキーに関連する基礎知識	スキー用具や技術の知識、スキーの歴史、スキー産業など
10	技術レベル別練習(1)	技術班ごとにその能力に応じてスキー滑走を繰り返す
11	技術レベル別練習(2)	技術班ごとにその能力に応じてスキー滑走を繰り返す
12	技術レベル別練習(3)	技術班ごとにその能力に応じてスキー滑走を繰り返す
13	技術レベル別練習(4)	技術班ごとにその能力に応じてスキー滑走を繰り返す
14	技術レベル別練習(5)	技術班ごとにその能力に応じてスキー滑走を繰り返す
15	到達度テスト	全日本スキー連盟（SAJ）スキーバジテストを実施
16		

科目コード	40401				区 分	コア科目			
授業科目名	インクルーシブスポーツ [アダプテッドスポーツ]				担当者名	宮本 彩			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

### <授業の概要>

インクルーシブスポーツとは、共生的な社会の実現に向けて障がいの有無や程度にかかわらず多様な人々が共に実施できるスポーツを指す。本授業では、インクルーシブスポーツとは何か、共生社会とどのように関わっていくのかということを実践を通して修得する。本授業を通じて学生が、誰もが同じ社会の中で共に生きるためにどのように工夫・協力し合えばよいかを考え、行動に移す力を身につけ、新たなスポーツやゲームを考案することによって指導と実践に必要な基本的知識について理解することを目的とする。担当教員の実務経験を活かし、実践的な授業を行う。

### <授業の到達目標>

多様な人々が共に実施できるインクルーシブスポーツの意義や必要性について理解し、誰もがスポーツを楽しむための工夫・協力の方策や指導ができることを目標とする。

### <授業の方法>

グループ活動を中心とし、誰もが共にスポーツをするために、どのような工夫・協力し合えばよいかを考え、最善の方法を見つけ出し、実践していく。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有無；有りグループ活動を基に様々なインクルーシブスポーツ（アダプテッドスポーツ）を実践し、体験した感想や意義を共有する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次週の授業内容について調べる（30分）。復習：授業内容の振り返りならびに事後課題のレポート作成などを行う（30分）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%、 レポート課題50%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	講義の内容を説明する。インクルーシブスポーツあるいはアダプテッドスポーツの概念について学ぶ。
2	障がい者スポーツの意義とパラリンピックの理念	障がい者スポーツの意義について受講者自身の考えを共有しながら、パラリンピックの理念の重要性を学ぶ。
3	パラリンピックの歴史、目的及び意義	グループワークを基にパラリンピックの歴史や目的及び意義を学び、時代ごとの社会背景なども踏まえてその位置づけについて議論する。
4	車椅子競技の探求	パラリンピックで実施されている車椅子競技のルールや参加条件等を調べ、その特徴を学ぶ。
5	車椅子競技の体験	車椅子競技の体験を通じて、共にスポーツを楽しむ上での工夫や注意点について考える。
6	アダプテッドスポーツの概念	アダプテッドスポーツの概念について学ぶ。また、意義や重要性、社会的背景等についてグループワークを通して探求する。
7	アダプテッドスポーツの体験	アダプテッドスポーツの1つであるアンプティサッカーを体験し、共にスポーツを楽しむ上での工夫や注意点について考える。
8	インクルーシブスポーツの概念	インクルーシブスポーツの概念について学ぶ。また、意義や重要性、社会的背景等についてグループワークを通して探求する。
9	インクルーシブスポーツの体験	アダプテッドスポーツの1つであるウォーキングサッカーを体験し、共にスポーツを楽しむ上での工夫や注意点について考える。
10	専門競技ごとの障がい者スポーツの調査	受講者自身が行っている専門競技ごとの障がい者スポーツの有無や取り組み等について調べる。
11	専門競技ごとの障がい者スポーツの調査	前回の授業内で調べた内容を他の受講者に発表する。

	結果の報告	
12	インクルーシブスポーツのプログラム企画	受講生は数名ごとのグループに分かれ、インクルーシブスポーツの概念を基にしたプログラムを企画する。
13	学生によるインクルーシブスポーツの実践①	各グループが企画したインクルーシブスポーツのプログラムを実践する。
14	学生によるインクルーシブスポーツの実践②	各グループが企画したインクルーシブスポーツのプログラムを実践する。
15	まとめ	今までの実践を踏まえたグループで自由討論を行い、レポートを提出する。
16		

科目コード	40401				区 分	コア科目			
授業科目名	インクルーシブスポーツ [レスキュースノーケラー用]				担当者名	三浦 孝仁／佐々木 史之			
配当年次	1年	配当学期	前期集中	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業は、(公財)日本海洋レジャー安全・振興協会公認のレスキュースノーケラー、さらにはスノーケリングインストラクターの資格取得にチャレンジするものです。この資格は、水難事故が増えている昨今において、教育現場や地域で必要とされている安全管理に役立つものであり、履歴書の資格取得欄に記載できる社会的価値の高い能力を示す資格です。本授業では、(公財)日本海洋レジャー安全・振興協会並びに海上保安庁玉野海上保安部の協力も得て、海上保安官という職業も理解します。自然観察手段としてのスノーケリングの理論と指導法、救助法を学び、安全に水辺活動の指導できる能力を身に付け、教育現場や地域で活動できる能力を身に付けることをねらいとします。ただし、履修条件等は以下のとおりです。①健康で、体力には自信があること ②一定の泳力を有する(50m以上泳げる) ③水上安全救助法を修得した者または修得しようとする意志のある者④要救助者を発見した場合には、積極的に行動に移せる者 ⑤公務員又は教員志望コースの者を優先する ⑥クラブに入っていない者を優先する履修人数は、20名までとし、上位学年を優先とします。

### <授業の到達目標>

①安全な水辺活動の方法を理解し、スノーケリング技術を習得する②溺者の救助方法を身に付ける③日本海洋レジャー安全・振興協会公認のレスキュースノーケラー検定を受け、合格する

### <授業の方法>

座学と実技を組み合わせた形式をとる。座学では主にスノーケリングに関する基礎知識を学び、実技ではスノーケリング、スキンドайビング、救助スキルを学び、指導方法も学んでいく。実技は8月集中講義期間中に岡山県倉敷市児島マリンプールにて実施する予定である。受講に当たって別途受講料が必要となる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

水辺活動の危険について関心を持ち、安全知識や救助活動について自ら調べ、主体的に学習をする姿勢が望まれる。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：オンデマンド学習で学んだことをまとめると共に、さらに調べ学習を行う(1時間)。復習：実技内容について振り返り、ポイントをまとめる(1時間)。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度50%、テスト30%、レポート課題20%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要について説明し、インクルーシブスポーツの意義や必要性について学ぶ
2	スノーケリング概論	スノーケリングについて、独自性や特性、教育的意義等を学ぶ
3	海況・自然環境について	気象や海況、危険な生物等、自然環境について学ぶ
4	スキンドайビングについて	スキンドайビングの物理、生理、実際について学ぶ
5	海の安全について	海の安全、海でのルールとマナーについて学ぶ
6	プール実技1	浮き身、スカーリング、エレメンタリーバックストロークについて学ぶ
7	プール実技2	ペットボトル浮きと救助、ヘッドアップクロール、曳航について学ぶ
8	プール実技3	ハンドシグナル、スノーケル・マスククリア、フィンキックについて学ぶ
9	プール実技4	けいれん対処、フットプッシュ、チューブレスキュー、救助、引き揚げ方法について学ぶ
10	プール実技5	チームレスキューについて学ぶ
11	プール実技6	スノーケリング指導法について学ぶ
12	プール実技7	技能検定を実施する
13	プール実技8	デブリーフィングを実施し、器材の洗浄・乾燥・収納を行う
14	レポート課題	指定されたレポート課題に取り組む
15	授業のまとめと総合テスト	授業の学びを振り返り、まとめ、総合テストを実施する
16		

科目コード	40402				区 分	コア科目			
授業 科目名	スタジオエクササイズ				担当者名	平岡 師玄哉			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

コロナ禍において、運動様式はさらに多様化し、フィットネスプログラムの多くもオンラインやアプリを活用したものが登場しました。ステイホームが習慣となってしまった高齢者においては、身体活動の減少から、機能低下や生活習慣病など不安視されるようになってきました。これらを背景にフィットネス活動の重要性が再認識され、特性や効果、安全性を踏まえて運動が提供できることが必要になってきています。本授業では、フィットネスプログラムを理解するとともに、運動の提供者、評価者の両者の視点から運動処方方を学びます。

### <授業の到達目標>

1. フィットネスクラブのプログラムの種類・特徴を理解している 2. トレーニングの原理・原則に沿って、安全かつ効果的なプログラムを提供することができる 3. プログラムの評価の観点を理解し、評価をもとにフィードバックすることができる最終ゴールとして、簡単なストレッチや体操を用いたレッスンができることを目指します。

### <授業の方法>

座学を交ぜながら運動処方法の基礎を学び、実技の中心に行います。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：解剖学や生理学、トレーニングの基礎理論をもとに課題準備。（30分）復習：授業でもらったフィードバックをもとに、運動処方方について練習を行う（30分）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度 30%、レポート 30%、実技試験 40%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	講義概要、授業の進め方、プログラムの体験
2	運動処方の実践①	プログラム体験
3	運動処方の実践②	プログラム体験
4	運動処方の実践（まとめ）	プログラムの体験と処方の実践
5	運動プログラムの作成と処方①	プログラムの実践
6	運動プログラムの作成と処方②	プログラムの実践
7	運動プログラムの作成と処方③	プログラムの実践
8	運動プログラムの作成と処方（まとめ）	プログラムの実践
9	運動プログラムの作成と処方と評価①	プログラム作成方法の理解と実践
10	運動プログラムの作成と処方と評価②	プログラム作成方法の理解と実践
11	運動プログラムの作成と処方と評価③	運動処方の評価方法の理解と実践
12	運動プログラムの作成と処方と評価④	運動処方の評価方法の理解と実践
13	実技テスト①	集団指導の実践
14	実技テスト②	集団指導の実践
15	実技テスト③ まとめ	集団指導の実践
16		

科目コード	40403				区 分	コア科目			
授業科目名	防災キャンプ				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	1年	配当学期	前期集中	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業では、災害時を意識した野外活動を実施する。災害大国日本に住む我々は、被災時にどのような対応をすればよいのか、また被害の甚大化を防ぐには日頃どのように防災を意識しておくべきなのか、科学的見地から合理的な対処方法を学ぶ。また、体育・スポーツ人はその身体性や集団の特徴から、被災時には自らや身近な人はもちろんのこと、社会的により弱き者を助けることが求められる。体育学科生として備えておきべき資質と知識を実践的に身につける実習である。大学での事前事後学習および1泊2日程度の宿泊型実習を予定している。詳細は授業のClassroomから連絡する。参加には別途実習費が必要となる。本授業は、安全管理上の理由から履修者の人数制限を行う。30名を上限定員とし、超過した場合には抽選を行う。

### <授業の到達目標>

現代では、被災のファーストインパクトを回避・低減し、なおかつ被災後72時間を他者の支援を受けずとも生きながらえ、また他者を補助する余裕を持つに足る知識と技能を身に付けることが求められる。以上を踏まえた上で、近代的な社会インフラ（電気・ガス・水道など）が整っていない環境下で、衣食住を高い水準で成り立たせること。それに必要な手段や方法を理解し実践でき、他者に説明できるようになることが到達目標である。

### <授業の方法>

座学と実習を組み合わせた形式をとる。座学では主に防災に関わる知識を学び、実習では実際に実演可能なスキルをグループ活動の中で学ぶ。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：事前事後学習および実習ともにグループでの活動を基本とし、各課題についてグループワークを行い課題解決を行う。

### <準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習各地での災害対応やキャンプの基礎技術（火起こし、野外炊事、ロープワーク等）について調べる（2時間）事後学習自分が被災することを想定した防災準備（食料や防災用品の備蓄）を行う（2時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度およびグループへの貢献度 60%、最終課題 40%

### <教科書>

### <参考書>

星野敏男ほか（2011） 野外教育入門 小学館

能條歩（2020） 人と自然をつなぐ教育—自然体験教育学入門 増補改訂版 NP0法人北海道自然体験活動サポートセンター

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション／防災キャンプ実習の概要	授業の概要、評価について説明／実習の日程、内容、方法、注意点等についての説明
2	災害とはなにか、防災活動の基礎	災害そのものについて知るとともに、防災活動の必要性や意義を学ぶ。
3	社会の防災システムと個人の努力義務	自助、共助、公助の基本的方針を学ぶ。社会制度化された防災システムを確認するとともに、個人が備えておくべき義務を知る。
4	リスクマネジメントと危険予知トレーニング	災害そのもののリスクはもちろんのこと、被災後のリスクの肥大化についても学び、対策を学ぶ。
5	集団生活と健康管理	避難所での生活をはじめ、災害時対応に多い協働作業の中で、集団的な健康リスクと対策を学ぶ。
6	アイスブレイク	見ず知らずの人間同士が協力関係を素早く築くために適したアクティビティを実践的に学ぶ。
7	イニシアティブゲーム	集団の凝集性を高め、実効性・機能性の高い状態を作り出すためのアクティビティを実践的に学ぶ。
8	火起こしと火の維持管理	野外における生活水準を大きく左右する重要な要素である火の起こし方や活用方法、そして安全対策を学ぶ。
9	野外炊飯・調理	非日常的な調理環境の中でも、安全においしく調理を行う方法やグループでの役割分担について学ぶ
10	野外工作	生活を豊かにする物が無いなら身近なものでプリコラージュで創り出す必要があ

11	野外救急法	る。安全に機能的な物を造り出す方法を学ぶ。 災害時など野外での傷病は、通常の都市生活時とは異なる対処が求められる。その具体的方法と考え方を学ぶ。
12	ロープワーク・搬送法	固定・牽引など様々な場面で必要とされるロープワークの活用・応用を実践的に学ぶ。
13	生活環境の整備	被災時にある程度長期的な生活を展望するには、持続可能な生活環境の整備が必要である。1週間～2週間を超える長期の野外生活を念頭に考え方と方法を学ぶ。
14	各種アクティビティの振り返りと交流	座学的な知識と実践的な技能を有意に掛け合わせて機能させる考え方を学ぶ。
15	実習全体のまとめと振り返り	実習の各局面での「あの時・あの場所」の出来事を「いま・ここ」の視点からまとめる。
16		

科目コード	51001				区 分	コア科目			
授業 科目名	教育実習 I (幼稚園)				担当者名	檜 日佳／増岡 希望			
配当年次	3年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

・幼稚園教諭免許取得にかかわる幼稚園教諭必修の実習として、認可幼稚園・こども園において観察・参加・部分実習を行う。・幼稚園での実習を通して、幼児への理解を深めるとともに、幼稚園の機能及び幼稚園教諭の職務について実践的に学ぶ。

#### <授業の到達目標>

・幼稚園の役割や機能を具体的に理解する。・観察や幼児との関わりを通して幼児への理解を深める。・既習の教科の内容を踏まえ、幼児の保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。・保育の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解する。・幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

#### <授業の方法>

実習

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有。実習生同士または担当教員を含めて反省会をし、保育について振り返りをする。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教育実習事前指導及び他教科において学んだ内容を整理し、既習の知識や技能を確かめたり実践したりできる準備をしておくこと。また、社会人としてのマナーを身に付けておくこと。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習評価 90%、事前オリエンテーション・事後学習、日誌10%

#### <教科書>

特に指定しない

#### <参考書>

特に指定しない

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習	実習園における事前オリエンテーション
2	教育実習	実習園において指導のもとに実習
3	教育実習	実習園において指導のもとに実習
4	教育実習	実習園において指導のもとに実習
5	教育実習	実習園において指導のもとに実習
6	教育実習	実習園において指導のもとに実習
7	教育実習	実習園において指導のもとに実習
8	教育実習	実習園において指導のもとに実習
9	教育実習	実習園において指導のもとに実習
10	教育実習	実習園において指導のもとに実習
11	保育実習	実習園において指導のもとに実習
12	保育実習	実習園において指導のもとに実習
13	保育実習	実習園において指導のもとに実習
14	保育実習	実習園において指導のもとに実習
15	保育実習	実習園における実習反省会
16		

科目コード	51002				区 分	コア科目			
授業 科目名	教育実習Ⅱ(幼稚園)				担当者名	檜 日佳／増岡 希望			
配当年次	3年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

・幼稚園教諭免許取得にかかわる幼稚園教諭必修の実習として、認可幼稚園・こども園において観察・参加・部分実習を行う。・幼稚園での実習を通して、幼児への理解を深めるとともに、幼稚園の機能及び幼稚園教諭の職務について実践的に学ぶ。

#### <授業の到達目標>

・幼稚園の役割や機能を具体的に理解する。・観察や幼児との関わりを通して幼児への理解を深める。・既習の教科の内容を踏まえ、幼児の保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。・保育の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解する。・幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

#### <授業の方法>

実習

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有。実習生同士または担当教員を含めて反省会をし、保育について振り返りをする。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教育実習事前指導及び他教科において学んだ内容を整理し、既習の知識や技能を確かめたり実践したりできる準備をしておくこと。また、社会人としてのマナーを身に付けておくこと。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習評価 90%、事前オリエンテーション・事後学習、日誌10%

#### <教科書>

特に指定しない

#### <参考書>

特に指定しない

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習	実習園における事前オリエンテーション
2	教育実習	実習園において指導のもとに実習
3	教育実習	実習園において指導のもとに実習
4	教育実習	実習園において指導のもとに実習
5	教育実習	実習園において指導のもとに実習
6	教育実習	実習園において指導のもとに実習
7	教育実習	実習園において指導のもとに実習
8	教育実習	実習園において指導のもとに実習
9	教育実習	実習園において指導のもとに実習
10	教育実習	実習園において指導のもとに実習
11	保育実習	実習園において指導のもとに実習
12	保育実習	実習園において指導のもとに実習
13	保育実習	実習園において指導のもとに実習
14	保育実習	実習園において指導のもとに実習
15	保育実習	実習園における実習反省会
16		

科目コード	51003				区 分	コア科目			
授業科目名	教育実習Ⅰ（小学校）《通年》				担当者名	小川 智勢子／前田 一誠			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

・実習校において観察・参加・部分実習を行う。・小学校での実習を通して、児童への理解を深めるとともに、学校の機能および教員の職務について実践的に学ぶ。

#### <授業の到達目標>

・大学で学習したことをもとに、小学校現場における教師の職務について実践的に学ぶ。・観察や児童との関わりを通して、児童への理解を深める。・授業の計画・観察・記録および自己評価等についての実践的な学びを通して、基本的な指導技術を習得する。・教員の業務内容や職業倫理について具体的に学び、教師としての自覚をもつ。・社会における学校の役割や機能を具体的に学び、教育研究課題の発見につとめる。

#### <授業の方法>

実習

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

小学校限における実習

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教育実習事前指導および教科において学んだ内容を整理し、既習の学習や技能を確認したり実践したりできる準備をしておくこと。また、社会人として、指導者としてのマナーや常識を身に付けておくこと。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる）と関連付けられている。教育課程で身につけた知識・技能等を実際の学校現場での授業にいかに関活用できるか、どのように結び付けていくことができるかが求められている。さらに豊かな人間性・幅広い教養に根差した「教育に対する使命感や倫理観、協調できる社会的スキル」を育成する科目

#### <教科書>

特に指定しない

#### <参考書>

特に指定しない

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習	教育実習における事前オリエンテーション
2	教育実習	実習校において指導のもとに実習
3	教育実習	実習校において指導のもとに実習
4	教育実習	実習校において指導のもとに実習
5	教育実習	実習校において指導のもとに実習
6	教育実習	実習校において指導のもとに実習
7	教育実習	実習校において指導のもとに実習
8	教育実習	実習校において指導のもとに実習
9	教育実習	実習校において指導のもとに実習
10	教育実習	実習校において指導のもとに実習
11	教育実習	実習校において指導のもとに実習
12	教育実習	実習校において指導のもとに実習
13	教育実習	実習校において指導のもとに実習
14	教育実習	実習校において指導のもとに実習
15	教育実習	実習校における実習の振り返り
16		

科目コード	51004				区 分	コア科目			
授業科目名	教育実習Ⅰ(中学校・高等学校)[英語]				担当者名	竹下 厚志／伊藤 仁美			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

・実習校において観察・参加・部分実習を行う。・学校での実習を通して、生徒への理解を深めるとともに、学校の機能および教員の職務について実践的に学ぶ。

#### <授業の到達目標>

・大学で学習したことをもとに学校現場における英語科の指導内容や指導方法について実践的に学ぶ。・観察や生徒との関わりを通して、生徒への理解を深める。・授業の計画・観察・記録および自己評価等について、実践的な学びを通して理解する。・教員の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。・社会における学校の役割や機能を具体的に学ぶ。

#### <授業の方法>

実習

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり。実際の授業（コミュニケーション アプローチに基づく授業実践）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教育実習事前指導および教科において学んだ内容を整理し、既習の学習や技能を確認したり実践したりできる準備をしていること。また、社会人として、指導者としてのマナーや常識を身に付けていること。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー5（中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられている。教育課程で身につけた知識・技能等を実際の学校現場での授業にいかに関活用できるか、どのように結び付けていくことができるかが求められている。さらに豊かな人間性・幅広い教養に根差した「教育に対する使命感や倫理観、協調できる社会的スキル」を育成する科目である

#### <教科書>

特に指定しない

#### <参考書>

特に指定しない

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習	教育実習における事前オリエンテーション
2	教育実習	実習校において指導の下に実習
3	教育実習	実習校において指導の下に実習
4	教育実習	実習校において指導の下に実習
5	教育実習	実習校において指導の下に実習
6	教育実習	実習校において指導の下に実習
7	教育実習	実習校において指導の下に実習
8	教育実習	実習校において指導の下に実習
9	教育実習	実習校において指導の下に実習
10	教育実習	実習校において指導の下に実習
11	教育実習	実習校において指導の下に実習
12	教育実習	実習校において指導の下に実習
13	教育実習	実習校において指導の下に実習
14	教育実習	実習校において指導の下に実習
15	教育実習	実習校における実習の振り返り
16		

科目コード	51004				区 分	コア科目			
授業科目名	教育実習Ⅰ（中学校・高等学校）〔保健体育〕				担当者名	清田 美紀			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

・実習校にて観察・参加・部分実習を行う。・学校での実習を通して、生徒への理解を深めるとともに、学校の機能及び教員の職務について実践的に学ぶ。

#### <授業の到達目標>

・学校の役割や機能を具体的に理解する。・観察や生徒との関わりを通して生徒への理解を深める。・既習の教科の内容を踏まえ、生徒への指導及び保護者への支援について総合的に学ぶ。・体育授業の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解する。・教員の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

#### <授業の方法>

実習

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（小グループによる討議の時間を設定し、教育現場で体験したことを通して考えたことを振り返ったり、実体験から得た学びの成果を他者に伝えたりする活動を取り入れる。）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教育実習事前指導及び教科の指導法等において学んだ内容を整理し、既習の知識や技能を確かめたり実践したりできる準備をしておくこと。また、社会人としてのマナーを身に付けておくこと。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前オリエンテーション、自己省察10%、実習評価90%

#### <教科書>

特に指定しない

#### <参考書>

特に指定しない

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習	実習校における事前オリエンテーション
2	教育実習	実習校において指導のもとに実習
3	教育実習	実習校において指導のもとに実習
4	教育実習	実習校において指導のもとに実習
5	教育実習	実習校において指導のもとに実習
6	教育実習	実習校において指導のもとに実習
7	教育実習	実習校において指導のもとに実習
8	教育実習	実習校において指導のもとに実習
9	教育実習	実習校において指導のもとに実習
10	教育実習	実習校において指導のもとに実習
11	教育実習	実習校において指導のもとに実習
12	教育実習	実習校において指導のもとに実習
13	教育実習	実習校において指導のもとに実習
14	教育実習	実習校において指導のもとに実習
15	教育実習	実習校における実習反省会
16		

科目コード	51005				区 分	コア科目			
授業科目名	教育実習Ⅱ(中学校) [英語]				担当者名	竹下 厚志／伊藤 仁美			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

・実習校において観察・参加・部分実習を行う。・学校での実習を通して、生徒への理解を深めるとともに、学校の機能および教員の職務について実践的に学ぶ。

#### <授業の到達目標>

・大学で学習したことをもとに学校現場における英語科の指導内容や指導方法について実践的に学ぶ。・観察や生徒との関わりを通して、生徒への理解を深める。・授業の計画・観察・記録および自己評価等について、実践的な学びを通して理解する。・教員の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。・社会における学校の役割や機能を具体的に学ぶ。

#### <授業の方法>

実習

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり。コミュニケーション アプローチに基づく授業実践

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教育実習事前指導および教科において学んだ内容を整理し、既習の学習や技能を確認したり実践したりできる準備をしていること。また、社会人として、指導者としてのマナーや常識を身に付けていること。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー5（中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられている。教育課程で身につけた知識・技能等を実際の学校現場での授業にいかに関活用できるか、どのように結び付けていくことができるかが求められている。さらに豊かな人間性・幅広い教養に根差した「教育に対する使命感や倫理観、協調できる社会的スキル」を育成する科目である

#### <教科書>

特に指定しない

#### <参考書>

特に指定しない

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習	実習校において指導の下に実習
2	教育実習	実習校において指導の下に実習
3	教育実習	実習校において指導の下に実習
4	教育実習	実習校において指導の下に実習
5	教育実習	実習校において指導の下に実習
6	教育実習	実習校において指導の下に実習
7	教育実習	実習校において指導の下に実習
8	教育実習	実習校において指導の下に実習
9	教育実習	実習校において指導の下に実習
10	教育実習	実習校において指導の下に実習
11	教育実習	実習校において指導の下に実習
12	教育実習	実習校において指導の下に実習
13	教育実習	実習校において指導の下に実習
14	教育実習	実習校において指導の下に実習
15	教育実習	実習校における実習の振り返り
16		

科目コード	51005				区 分	コア科目			
授業科目名	教育実習Ⅱ(中学校) [保健体育]				担当者名	大井 理緒			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

・実習校にて観察・参加・部分実習を行う。・学校での実習を通して、生徒への理解を深めるとともに、学校の機能及び教員の職務について実践的に学ぶ。

#### <授業の到達目標>

・学校の役割や機能を具体的に理解する。・観察や生徒との関わりを通して生徒への理解を深める。・既習の教科の内容を踏まえ、生徒への指導及び保護者への支援について総合的に学ぶ。・体育授業の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解する。・教員の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

#### <授業の方法>

実習

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング要素有：グループワーク・ディスカッション

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教育実習事前指導及び教科において学んだ内容を整理し、既習の知識や技能を確かめたり実践したりできる準備をしておくこと。また、社会人としてのマナーを身に付けておくこと。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前オリエンテーション、反省会10%、実習評価90%

#### <教科書>

特に指定しない

#### <参考書>

特に指定しない

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習	実習校における事前オリエンテーション
2	教育実習	実習校において指導のもとに実習
3	教育実習	実習校において指導のもとに実習
4	教育実習	実習校において指導のもとに実習
5	教育実習	実習校において指導のもとに実習
6	教育実習	実習校において指導のもとに実習
7	教育実習	実習校において指導のもとに実習
8	教育実習	実習校において指導のもとに実習
9	教育実習	実習校において指導のもとに実習
10	教育実習	実習校において指導のもとに実習
11	教育実習	実習校において指導のもとに実習
12	教育実習	実習校において指導のもとに実習
13	教育実習	実習校において指導のもとに実習
14	教育実習	実習校において指導のもとに実習
15	教育実習	実習校における実習反省会
16		

科目コード	51006				区 分	コア科目			
授業科目名	教育実習Ⅱ(小学校)《通年》				担当者名	小川 智勢子／前田 一誠			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

・実習校において観察・参加・部分実習を行う。・小学校での実習を通して、児童への理解を深めるとともに、学校の機能および教員の職務について実践的に学ぶ。

#### <授業の到達目標>

・大学で学習したことをもとに、小学校現場における教師の職務について実践的に学ぶ。・観察や児童との関わりを通して、児童への理解を深める。・授業の計画・観察・記録および自己評価等についての実践的な学びを通して、基本的な指導技術を習得する。・教員の業務内容や職業倫理について具体的に学び、教師としての自覚をもつ。・社会における学校の役割や機能を具体的に学び、教育研究課題の発見につとめる。

#### <授業の方法>

実習

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

小学校現場における実習

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教育実習事前指導および教科において学んだ内容を整理し、既習の学習や技能を確認したり実践したりできる準備をしておくこと。また、社会人として、指導者としてのマナーや常識を身に付けておくこと。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる）と関連付けられている。教育課程で身につけた知識・技能等を実際の学校現場での授業にいかに関活用できるか、どのように結び付けていくことができるかが求められている。さらに豊かな人間性・幅広い教養に根差した「教育に対する使命感や倫理観、協調できる社会的スキル」を育成する科目

#### <教科書>

特に指定しない

#### <参考書>

特に指定しない

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習	実習校において指導のもとに実習
2	教育実習	実習校において指導のもとに実習
3	教育実習	実習校において指導のもとに実習
4	教育実習	実習校において指導のもとに実習
5	教育実習	実習校において指導のもとに実習
6	教育実習	実習校において指導のもとに実習
7	教育実習	実習校において指導のもとに実習
8	教育実習	実習校において指導のもとに実習
9	教育実習	実習校において指導のもとに実習
10	教育実習	実習校において指導のもとに実習
11	教育実習	実習校において指導のもとに実習
12	教育実習	実習校において指導のもとに実習
13	教育実習	実習校において指導のもとに実習
14	教育実習	実習校において指導のもとに実習
15	教育実習	実習校における実習の振り返り
16		

科目コード	51007				区 分	カリキュラムによって異なります			
授業 科目名	介護等体験実習 《通年》				担当者名	林 栄昭／高橋 章二／大野呂 浩志			
配当年次	2年	配当学期	集中	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

介護等体験は小学校及び中学校の教諭の普通免許状を取得しようとする人に義務付けられている。個人の尊厳と社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性の観点から、社会福祉施設や特別支援学校において、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの方との交流等を体験する。

### <授業の到達目標>

社会福祉施設や特別支援学校において合計7日間の実習を行い、様々な活動体験を行う。また、そのための事前指導では、介護等体験の意義や目的、方法などについて学習する。社会福祉施設の利用者や特別支援学校で学ぶ子どもに触れることで、教員としての視野を広げ、幅広い人権意識を身に付けることを目的とする。

### <授業の方法>

オリエンテーションでの「ガイダンス」、社会福祉施設と特別支援学校それぞれでの事前指導に参加し、各自が施設や学校にて体験をしたのち、報告書などの提出をする。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

社会福祉施設、特別支援学校の現場における介護、介助、交流等の体験実習を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

介護等体験の手引きを読み、自分が行く施設や学校の特色や内容に応じた参考書にも目を通しておくこと。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ガイダンス、事前指導等への参加状況（遅刻やスーツでない等は減点もしくはその時点で参加取り止めとなる）、書類や各種の手続きの締め切り遵守の状況、事後のお礼状や報告書の提出状況、日誌の書き方などを総合的に評価する。

### <教科書>

「介護等体験の手引き」

### <参考書>

現代教師養成研究会（2020年2月1日） 教師を目指す人の介護等体験ハンドブック 五訂版 大修館書店  
 全国特別支援学校長会、全国特別支援教育推進連盟（2020年2月10日） 介護等体験ガイドブック 新フィリア 株式会社ジアース教育新社  
 増田雅暢他（2018年5月31日） 第5版 よくわかる社会福祉施設一教員免許志願者のためのガイドブック 社会福祉法人全国社会福祉協議会

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	事前指導（1）	介護等体験の概要、意義、手続きについて
2	事前指導（2）	社会福祉施設での実習について
3	事前指導（3）	特別支援学校での実習について
4	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
5	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
6	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
7	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
8	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
9	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
10	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
11	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
12	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
13	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
14	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
15	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
16		社会福祉施設、特別支援学校での実習

科目コード	51008				区 分	コア科目			
授業科目名	教育実習事前・事後指導(幼稚園)				担当者名	檜寄 日佳／増岡 希望			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

幼稚園教育実習における事前準備と事後振り返りを行う。事前授業では、幼稚園教育の基本、幼児の発達特性、教育実習を行う際の心構え等について学ぶ。これまでの幼稚園教育専門科目で学んだ内容と、実習園での実習内容とを結合させて教育実習の成果をあげ、教職への認識を確かなものとする。実習生としての心構えやマナーなどの基本を実践的に学ぶ。実習後には実習を振り返り、次の実習へとつなげる。

### <授業の到達目標>

1. 保育の観察、記録、実習計画、実践、評価の方法や内容について具体的に理解する。2. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

### <授業の方法>

講義、演習、グループワーク、個別指導

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有。5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめてグループごとに発表を行う。グループごとに演習を行い振り返りをする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実習の手引きを熟読して授業に臨むこと（60分）復習：配付資料をファイルし、授業後に内容を確認、復習をし、授業課題をすること（60分）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲・チーム貢献度30%、課題50%、試験20%※授業は全出席すること※提出物は期限を厳守すること※社会人としてふさわしい態度で臨むこと

### <教科書>

環太平洋大学（2023.3） 教育実習の手引き（幼稚園）

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	実習の意義と実習ルール	実習の意義と目標、実習ルールの確認
2	実習の意義と目標	実習の意義と目標の確認
3	実習の段階と実習の心構え	実習の段階と流れ、実習生としての心構え
4	幼稚園の理解	幼稚園教育要領の確認、教師の資質と幼児理解
5	指導案の作成（1）	発達段階及び幼児の姿を考慮した「ねらいと内容」、「活動内容」
6	指導案の作成（2）	ねらいを達成するための「教師の援助と配慮」
7	保育教材の作成（1）	自己紹介教材の作成と発表
8	保育教材の作成（2）	お楽しみ会やお別れ会の準備と発表
9	模擬保育（1）	模擬保育と振り返り（1）
10	模擬保育（2）	模擬保育と振り返り（2）
11	模擬保育（3）	模擬保育と振り返り（3）
12	実習書類の作成、実習前オリエンテーション	実習園送付書類の作成、実習前オリエンテーションの意義と方法
13	実習記録の書き方	記録の取り方と日誌の書き方、エピソード記録と考察
14	実習までの準備	実習の自己課題、実習の準備、守秘義務と情報の管理
15	実習のまとめ	自己課題及び実習成果のまとめ、礼状の作成
16		

科目コード	51010				区 分	コア科目			
授業科目名	教育実習事前・事後指導(英語)《通年》				担当者名	竹下 厚志／伊藤 仁美／武 幸枝			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

教育実習は、教職の現場を自ら体験することによって教師像を確立するという重要な意味を持っている。事前指導では、実習生に求められる任務を遂行する力や授業を行う技術の習得がねらいとする。事後指導では、受講生の実習経験を題材としてディスカッションを中心とした授業を行う。各受講生が教育実習期間中に経験した様々な事例を教材とし、教職に対する理解を深める機会とする。

#### <授業の到達目標>

①事前指導においては、教育実習において必要な心構え、指導案作成の技術を身に付ける。②事後指導では、実習中に経験したことに基づいた授業の報告やディスカッションを通し、各自が目標とする教師像を確立する。

#### <授業の方法>

(1) 講義（教員による解説と問いの提示） (2) グループワーク（学習内容に関する教え合い） (3) ディスカッション（模擬授業を対象とした問いに対する回答） (4) 省察活動（まとめと発表）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり。模擬授業および各模擬授業に関するグループ内でのディスカッション

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：模擬授業の準備、指導案の作成（2時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、2時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加姿勢・貢献 20%、指導案作成・模擬授業 50%、教育実習・実習報告 30% （一定の水準に達していない学生は、教育実習を認めない場合がある。）

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習に臨んで	教育実習の目的、心構え、準備
2	授業観察	DVD教材を利用した授業観察、授業分析
3	授業準備	教科書分析・指導案作成準備
4	指導案の作成（1）	指導案作成の手順
5	指導案の作成（2）	指導技術の工夫
6	模擬授業（1）	模擬授業を実施
7	模擬授業（2）	模擬授業を実施
8	模擬授業（3）	模擬授業を実施
9	模擬授業（4）	模擬授業を実施
10	事前指導のまとめ	事前指導で学んだ内容の確認
11	教育実習の報告①	実習報告とディスカッション
12	教育実習の報告②	実習報告とディスカッション
13	教育実習の報告③	実習報告とディスカッション
14	教育実習の報告④	実習報告とディスカッション
15	事後指導のまとめ	実習全体の振り返り
16		

科目コード	51011				区 分	コア科目			
授業科目名	教育実習事前・事後指導(保健体育)				担当者名	伊藤 三千雄／堀川 峻／梶谷 亮輔／清田 美紀／仙波 慎平／早田 剛／品田 直宏／片桐 夏海／十河 直太／坂本 康輔／大井 理緒／浦 佑大／佐藤 伸之／岩田 知郎			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

教育実習の意義と目的について理解を深め、教育実習生としての心構えを養うとともに、教育実習先で体育実技、保健の授業が円滑に出来るようになる授業実践力を身に付けることを目的とする。毎時間、各グループごとに学生が模擬授業を実施し、学習指導案、授業方法、内容等について、学生同士の相互評価や担当者からの助言をもらう。さらに実習後には、教育実習の成果を自己評価し、教職に就く者として不足している力を自覚し、大学授業で補うようにし、教職を目指す者として、資質の向上を図る。

### <授業の到達目標>

教育実習の意義と目的について理解を深め、教育実習生としての心構えを養うとともに、保健体育科の教員としてよりよい実技授業、保健授業が出来るようにすることを目標にするとともに、教育実習の成果を自己評価し、教職に就く者として資質の向上を図ることを到達目標とする。

### <授業の方法>

まず、教育実習の心構え、実習日誌の書き方、学習指導案の作成方法等を講義形式で学んだ後、各グループ（実習校地域別）に分かれての授業になる。各グループで、学校現場で使用されている保健体育科の教科書に沿って学生が自ら模擬授業（実技・保健）を実施し、それを担当教員が指導、グループ内学生でのディスカッション、評価を重ね、実習でよりよい授業が出来ることを目指す。実技においても保健授業においても、教材・教具・授業ノート・授業プリントの工夫が大切である。したがって、模擬授業時の映像資料提示等のICT利活用も積極的に取り入

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：8～10人のグループに分かれ、教育実習に向けた模擬授業を行い、内容についてグループワークを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に自分の行く教育実習校でどの教科書が使用されているか、実技ではどの種目を、保健ではどの単元を担当するかを実習校に聞いて調べておき、それに沿った学習指導案を作成し、模擬授業の練習を重ねておく。模擬授業後、何が出来て何が出来なかったかをしっかり振り返り、次の模擬授業に活かしていく。特に保健授業では、専門知識が必要になるため実習で自分の担当する単元については事前にしっかり勉強しておくこと。予習：2時間、復習：1時間

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

教育実習事前指導授業の授業態度、模擬授業評価、教育実習事後指導での教育実習報告書の作成評価、出席状況等を総合的に評価するが、教育実習校評価も重視する。

### <教科書>

### <参考書>

吉田武男監修（2023年4月24日） 教育実習（MINERVAはじめて学ぶ教職） ミネルヴァ書房

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習の意義と心構え	教育実習の意義
2	教育実習の意義と心構え（2）	教育実習を成功させる準備と心得、模擬授業
3	教育実習の意義と心構え（3）	道徳・特別活動・総合学習時間の指導、模擬授業
4	教育実習の方法と技術（1）	学校経営と学級経営、方針とねらい、教職員の職務と役割、模擬授業
5	教育実習の方法と技術（2）	教師と生徒との人間関係、問題を持つ生徒の個別指導、模擬授業
6	保健体育教科の指導	学習指導のあり方、学習指導計画の意義・ねらいと立案、模擬授業
7	研究授業（模擬授業）の方法（1）	中学校・高等学校に分け、また、県別に分け、模擬授業を行う
8	研究授業（模擬授業）の方法（2）	学習指導案のねらい・内容と書き方、模擬授業
9	研究授業（模擬授業）の方法（3）	教材研究のすすめ方、教科書・補助教材の扱い方、板書の工夫、模擬授業
10	研究授業（模擬授業）の方法（4）	教師の言葉遣い・話し方・聞き方、机間指導・個別指導、模擬授業
11	研究授業（模擬授業）の方法（5）	個別学習・グループ学習の進め方、模擬授業
12	研究授業（模擬授業）の方法（6）	学習評価とその活用法、模擬授業
13	研究授業（模擬授業）の方法（7）	研究授業の実際～過去の実習生の事例～、模擬授業

14	教育実習報告会	教育実習の反省会および報告会
15	教育実習報告書作成	教育実習記録をもとに作成
16		

科目コード	51015				区 分	コア			
授業科目名	日本語教育実習Ⅰ				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

#### <授業の概要>

教壇実習を実施しながら、日本語教師に必要な資質・能力を高める。外国人相手に授業をすることによって、日本語教育や学生への理解を深めるとともに、日本語教師の職務について実践的に学ぶ。日本語教育実習Ⅰと日本語教育実習Ⅱは連続して履修すること。

#### <授業の到達目標>

教材研究や指導計画の作成、授業時の指導技術や態度、授業後の振り返り等の一連の授業づくりに熱意と創意工夫を持って取り組むことができるようになる。

#### <授業の方法>

実際に日本語を学んでいる外国人に対して教壇実習を行う。授業計画や教案、教材の準備はもちろん、実際の授業の中での学生対応についても学ぶ。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループまたは個人で授業準備をし、教壇実習を行う。その後グループまたは個人でフィードバックを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前準備（2～3時間）：教材研究や教案づくりなど教壇実習の準備。事後（30分程度）：教壇実習の振り返り。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習の評価 80%，実習記録 20%実習記録は実習終了後に確認してGoogle Classroomを通じて返却する。

#### <教科書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版 翔泳社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習（1）	実習と振り返り（1）
2	教育実習（2）	実習と振り返り（2）
3	教育実習（3）	実習と振り返り（3）
4	教育実習（4）	実習と振り返り（4）
5	教育実習（5）	実習と振り返り（5）
6	教育実習（6）	実習と振り返り（6）
7	教育実習（7）	実習と振り返り（7）
8	教育実習（8）	実習と振り返り（8）
9	教育実習（9）	実習と振り返り（9）
10	教育実習（10）	実習と振り返り（10）
11	教育実習（11）	実習と振り返り（11）
12	教育実習（12）	実習と振り返り（12）
13	教育実習（13）	実習と振り返り（13）
14	教育実習（14）	実習と振り返り（14）
15	教育実習（15）	実習と振り返り（15）
16		

科目コード	51016				区 分	コア			
授業科目名	日本語教育実習Ⅱ				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択（日本語 教師養成必修）

#### <授業の概要>

教壇実習を実施しながら、日本語教師に必要な資質・能力を高める。外国人相手に授業をすることによって、日本語教育や学生への理解を深めるとともに、日本語教師の職務について実践的に学ぶ。

#### <授業の到達目標>

教材研究や指導計画の作成、授業時の指導技術や態度、授業後の振り返り等の一連の授業づくりに熱意と創意工夫を持って取り組むことができるようになる。

#### <授業の方法>

実際に日本語を学んでいる外国人に対して教壇実習を行う。授業計画や教案、教材の準備はもちろん、実際の授業の中での学生対応についても学ぶ。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループまたは個人で授業準備をし、教壇実習を行う。その後グループまたは個人でフィードバックを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前準備（2～3時間）：教材研究や教案づくりなど教壇実習の準備。事後（30分程度）：教壇実習の振り返り。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習の評価 80%，実習記録 20%実習記録は実習終了後に確認してGoogle Classroomを通じて返却する。

#### <教科書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版 翔泳社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習（1）	実習と振り返り（1）
2	教育実習（2）	実習と振り返り（2）
3	教育実習（3）	実習と振り返り（3）
4	教育実習（4）	実習と振り返り（4）
5	教育実習（5）	実習と振り返り（5）
6	教育実習（6）	実習と振り返り（6）
7	教育実習（7）	実習と振り返り（7）
8	教育実習（8）	実習と振り返り（8）
9	教育実習（9）	実習と振り返り（9）
10	教育実習（10）	実習と振り返り（10）
11	教育実習（11）	実習と振り返り（11）
12	教育実習（12）	実習と振り返り（12）
13	教育実習（13）	実習と振り返り（13）
14	教育実習（14）	実習と振り返り（14）
15	教育実習（15）	実習と振り返り（15）
16		

科目コード	51017				区 分	コア			
授業科目名	日本語教育演習Ⅰ				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

#### <授業の概要>

本授業では、日本語教育実習に必要な事前・事後指導を行う。事前指導では、教材研究、教案の作成、授業見学、模擬授業などを通して実習の準備を行う。事後指導では、実習の報告、振り返りを通して課題の発見や解決方法を探る。日本語教育演習Ⅰと日本語教育演習Ⅱは連続して履修すること。

#### <授業の到達目標>

本科目の目的は以下のとおりである。１．日本語教員の業務に対する理解を深める。２．教材研究や授業見学を通じて実習の準備を行う。３．実習の報告と振り返りを通して課題を発見し、解決方法を探る。

#### <授業の方法>

講義及び教育実習のための演習を行う。授業見学は、学内の日本語教員の担当授業での見学を行う。個人やグループで教案作成、模擬授業の準備・実施を行う中で、受講者同士で議論しあいながら授業に関する実践知を獲得できるようにする。課題や資料配布はGoogleClassroomで行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

個人やグループでディスカッションをしながら教案作成、模擬授業の準備や実施を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前の活動として、模擬授業を行う項目に関して、文法的知識、練習方法、教材などを作成し、教案を作っておく。リハーサルを行い、スムーズに模擬授業できるよう準備しておく。2～3時間。事後に振り返りを行う。30分程度。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 10%，提出物 30%，模擬授業の評価 40%，報告書 20%提出物は模擬授業の際にフィードバックを行う。報告書はGoogleClassroomで添削・返却する。

#### <教科書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版 翔泳社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	教育実習の意義と目的
2	教案作成（１）	教案の作成方法
3	教案作成（２）	教案の作成（１）
4	教案作成（３）	相互評価
5	教案作成（４）	教案の作成（２）
6	授業見学（１）	初級前半クラス（１）
7	授業見学（２）	初級前半クラス（２）
8	授業見学（３）	初級後半クラス（１）
9	授業見学（４）	初級後半クラス（２）
10	日本語の授業の方法	授業の進め方
11	模擬授業（１）	初級前半クラス（１）
12	模擬授業（２）	初級前半クラス（２）
13	模擬授業（３）	初級後半クラス（１）
14	模擬授業（４）	初級後半クラス（２）
15	まとめ	フィードバックとまとめ
16		

科目コード	51018				区 分	コア			
授業科目名	日本語教育演習Ⅱ				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

#### <授業の概要>

本授業では、日本語教育実習に必要な事前・事後指導を行う。事前指導では、教材研究、教案の作成、授業見学、模擬授業などを通して実習の準備を行う。事後指導では、実習の報告、振り返りを通して課題の発見や解決方法を探る。日本語教育演習Ⅰと日本語教育演習Ⅱは連続して履修すること。

#### <授業の到達目標>

本科目の目的は以下のとおりである。１．日本語教員の業務に対する理解を深める。２．教材研究や授業見学を通じて実習の準備を行う。３．実習の報告と振り返りを通して課題を発見し、解決方法を探る。

#### <授業の方法>

講義及び教育実習のための演習を行う。授業見学は、学内の日本語教員の担当授業での見学を行う。個人やグループで教案作成、模擬授業の準備・実施を行う中で、受講者同士で議論しあいながら授業に関する実践知を獲得できるようにする。課題や資料配布はGoogleClassroomで行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループや全体での模擬授業の発表・フィードバック・意見交換を実施する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前の活動として、模擬授業を行う項目に関して、文法的知識、練習方法、教材などを作成し、教案を作っておく。リハーサルを行い、スムーズに模擬授業できるよう準備しておく。2～3時間。事後に振り返りを行う。30分程度。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 10%，提出物 30%，模擬授業の評価 40%，報告書 20%提出物は模擬授業の際にフィードバックを行う。報告書はGoogleClassroomで添削・返却する。

#### <教科書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版 翔泳社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	教育実習の意義と目的
2	教案作成（１）	教案の作成方法
3	教案作成（２）	教案の作成（１）
4	教案作成（３）	相互評価
5	教案作成（４）	教案の作成（２）
6	授業見学（１）	初級前半クラス（１）
7	授業見学（２）	初級前半クラス（２）
8	授業見学（３）	初級後半クラス（１）
9	授業見学（４）	初級後半クラス（２）
10	日本語の授業の方法	授業の進め方
11	模擬授業（１）	初級前半クラス（１）
12	模擬授業（２）	初級前半クラス（２）
13	模擬授業（３）	初級後半クラス（１）
14	模擬授業（４）	初級後半クラス（２）
15	まとめ	フィードバックとまとめ
16		

科目コード	51019				区 分	コア科目			
授業科目名	特別支援教育実習事前・事後指導				担当者名	大野 浩志／高橋 章二／林 栄昭			
配当年次	3年	配当学期	前期・後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

特別支援学校（知・肢・病）で、教育実習を行うために必要な教職専門知識・技術を学ぶ。

### <授業の到達目標>

特別支援学校で学ぶ・児童生徒の実態を理解する・児童生徒の実態を踏まえた学習指導案の作成及び実践する力を身に付ける。・課題解決力やマネジメント力、コーディネート力を身に付ける。

### <授業の方法>

（１）特別支援学校（病弱、肢体不自由、知的障害）における特別支援教育の実践に関する講義（２）特別支援学校における実践的な授業設計や事業づくりに関する演習形式の授業（３）特別支援学校の教育実践に必要な課題、解決力に関する講義及び演習

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・講義／課題解決型授業／グループディスカッション／プレゼンテーション

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・「教育実習の手引き」に掲載された内容について、一つ一つの用語を確認し、特別支援学校における教育課程や教育実習の方法等についての疑問点を明らかにしておく。・講義の内容や授業におけるディスカッションの内容を受けて、自分の指導案に反映・改善することができるよう、指示を受けて1週間の間に学習指導案を作成してくる必要がある。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

指導案の作成 70点、授業での積極的態度 30点

### <教科書>

適宜資料を配布する。 適宜資料を配布する。 適宜資料を配布する。

### <参考書>

適宜資料を配布する。 適宜資料を配布する。 適宜資料を配布する。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業オリエンテーション	授業の概要及び日程、特別支援教育に携わる教師として必要な視点及び実習先の情報整理と事業実施計画について理解する。
2	特別支援学校の組織と仕事	特別支援学校の組織の概要と仕事の内容、行事、授業観察について理解する。
3	学級経営、授業づくりの基本	発達年齢と生活年齢の双方を意識した学級経営とこの実態に配慮した実態、その大きな集団への事業作りの基礎について理解する。
4	授業づくりの実践1	来週、指導案における 単元構想と指導計画及び、指導形態に応じた事業づくりの基本的な考えについて学ぶ
5	事業設計演習1	学習指導案作成の基礎を学ぶ
6	授業設計演習2	個に応じた指導と学習指導案の書き方の実際①
7	授業設計演習3	個に応じた指導と学習指導案の書き方の実際②
8	模擬授業1（教科別の指導）	実際に作成した教科、別の指導案に基づき、模擬授業を実施し、省察や知見の共有を行う。
9	模擬授業2（各教科等合わせた指導）	実際に作成した強化等を合わせた指導の指導案に基づき、模擬授業を実施し、省察や知見の共有を行う。
10	事前指導のまとめ	「課題の個別化・活動の集団化」の観点から、模擬授業の総括をし、質の高い授業に関する検討を行う。
11	教育実習の報告①	特別支援学校の「児童生徒の実態と指導の困難」の観点から報告を行い、ディスカッションを行う。
12	教育実習の報告②	特別支援学校の「授業づくりと学習指導案の作成」の観点から報告を行い、ディスカッションを行う。
13	教育実習の報告③	特別支援学校の「授業づくりと学習指導案の作成」の観点から報告を行い、ディスカッションを行い、同観点の意義、目的の理解を深める。
14	教育実習の報告④	特別支援学校の「学習評価とチームティーチング」の観点から報告を行い、ディスカッションを行う。
15	教育実習のまとめ	教育実習の省察から得られた知見を整理し、実際の指導に向けた改善点や、今後の学びについてまとめる。



科目コード	51020				区 分	コア科目			
授業科目名	特別支援教育実習				担当者名	大野 呂 浩志			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

特別支援学校（知・肢・病）に在籍する個々の児童、生徒の実態を的確に把握し、実態に即した学習指導案を立案するとともに、実地授業及びその振り返りを通して、より良い授業のあり方を学ぶ。さらに、教育現場で求められる実践的指導力を身に付けるため、指導教員や他の実習生とともに、教育全般に取り組み、その省察をする。

#### <授業の到達目標>

特別支援学校における・児童生徒の実態を理解する。・児童生徒の実態を踏まえた学習、指導案の作成、および実践する力を身に付ける。・課題解決力やマネジメント力、コーディネート力を身に付ける。

#### <授業の方法>

各実習校において実習を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

講義／実習

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教育実習事前指導及び教科において学んだ内容を整理し、既習の知識や技能を確かめたり実践したりできる準備をしておくこと。また、社会人としてのマナーを身に付けておくこと。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習指導力 40%、生徒指導力 30%、マネジメント力・コーディネート力 30%を総合して評価する。

#### <教科書>

特に指定しない 特に指定しない 特に指定しない

#### <参考書>

特に指定しない 特に指定しない 特に指定しない

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習	実習校における事前オリエンテーション
2	教育実習	実習校において指導のもとに実習
3	教育実習	実習校において指導のもとに実習
4	教育実習	実習校において指導のもとに実習
5	教育実習	実習校において指導のもとに実習
6	教育実習	実習校において指導のもとに実習
7	教育実習	実習校において指導のもとに実習
8	教育実習	実習校において指導のもとに実習
9	教育実習	実習校において指導のもとに実習
10	教育実習	実習校において指導のもとに実習
11	教育実習	実習校において指導のもとに実習
12	教育実習	実習校において指導のもとに実習
13	教育実習	実習校において指導のもとに実習
14	教育実習	実習校において指導のもとに実習
15	教育実習	実習校において指導のもとに実習と振り返り
16		

科目コード	52002				区 分	コア科目			
授業 科目名	保育実習Ⅱ(保育所)				担当者名	橘高 真紀子／檜寄 日佳／増岡 希望			
配当年次	3年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

・保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、認可保育所において観察・参加・部分実習を行う。・保育所での実習を通して、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能及び保育士の職務について実践的に学ぶ。

#### <授業の到達目標>

・保育所の役割や機能を具体的に理解する。・観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。・既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。・保育の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解する。・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

#### <授業の方法>

実習園での実習・観察実習・参加実習・責任実習（部分指導、半日指導）・担当保育者との振り返り

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有。実習生同士または担当教員を含めて反省会をし、保育について振り返りをする。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・岡山県保育士養成協議会「保育所実習の手引き」、配布資料、教材資料等を熟読する。・保育実習ⅠAの自己課題をもとに、保育実習Ⅱへの課題を明確にする。・保育実習に必要な保育技術（遊びの指導、絵本の読み聞かせ、弾き歌い等）の反復練習に努める。・保育指導計画案の作成と、それに基づく模擬保育実践を行い、実習へのイメージをもつ

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習評価 90%、事前オリエンテーション・事後学習、日誌10%

#### <教科書>

岡山県保育士養成協議会 保育所実習の手引き

#### <参考書>

厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館

内閣府文部科学省厚生労働省 幼保連携型認定認定こども園教育・保育要領 フレーベル館

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	保育実習（1）	実習園における事前オリエンテーション
2	保育実習（2）	実習園において指導のもとに観察実習（1）
3	保育実習（3）	実習園において指導のもとに観察実習（2）
4	保育実習（4）	実習園において指導のもとに参加実習（1）
5	保育実習（5）	実習園において指導のもとに参加実習（2）
6	保育実習（6）	実習園において指導のもとに部分実習（1）
7	保育実習（7）	実習園において指導のもとに部分実習（2）
8	保育実習（8）	実習園において指導のもとに部分実習（3）
9	保育実習（9）	実習園において指導のもとに観察・参加実習（1）
10	保育実習（10）	実習園において指導のもとに半日実習（1）
11	保育実習（11）	実習園において指導のもとに観察・参加実習（2）
12	保育実習（12）	実習園において指導のもとに半日実習（2）
13	保育実習（13）	実習園において指導のもとに観察・参加実習（3）
14	保育実習（14）	実習園において指導のもとにゼミ実習
15	保育実習（15）	実習園における実習反省会
16		

科目コード	52003				区 分	コア科目			
授業 科目名	保育実習Ⅲ(施設)				担当者名	松本 好生／檜寄 日佳／増岡 希望			
配当年次	3年	配当学期	後期集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

児童福祉施設・障害者利用施設等において観察・参加・部分実習を行う。児童福祉施設・障害者施設での実習を通して、利用者への理解を深めるとともに、施設の機能及び保育士の職務について実践的に学ぶ。※保育実習Ⅲ(施設)は児童養護施設、障害者支援施設等への就職を行う者の受講に限る。

### <授業の到達目標>

・児童福祉施設・障害者施設の役割や機能を具体的に理解できる。・観察や利用者とかかわりを通して利用者の理解を深めることができる。・既習の教科の内容を踏まえ、利用者の保育及び保護者への支援について総合的な学習を行うことができる。・支援の計画・観察・記録及び自己評価等について学び、具体的に理解することができる。・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶことができる。

### <授業の方法>

実習

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有。実習生同士または担当教員を含めて反省会をし、保育について振り返りをする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：保育実習事前指導及び他教科において学んだ内容を整理し、既習の知識や技能を高めたり実践したりできる準備をしておく（1時間）復習：実習中の当日にあったことを振り返って考察し、日誌にまとめる（1時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習評価 90%、事前オリエンテーション・事後学習、日誌10%

### <教科書>

岡山県保育士養成協議会（2021） 保育実習の手引き

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	保育実習（1）	実習施設における事前オリエンテーション
2	保育実習（2）	観察実習（利用者の様子の把握）
3	保育実習（3）	観察実習（職員の様子の把握）
4	保育実習（4）	参加実習（業務に参加することによる利用者の実際の様子の把握）
5	保育実習（5）	参加実習（業務に参加することによる職員の実際の様子の把握）
6	保育実習（6）	参加実習（業務に参加することによる利用者と職員の相互関係の把握）
7	保育実習（7）	部分実習（朝の食事介助等指導）
8	保育実習（8）	部分実習（午前のレクリエーション指導）
9	保育実習（9）	部分実習（昼の食事介助等指導）
10	保育実習（10）	部分実習（午後のレクリエーション指導）
11	保育実習（11）	部分実習（夜の食事介助等指導）
12	保育実習（12）	半日指導（午前）
13	保育実習（13）	半日指導（午後）
14	保育実習（14）	部分実習（最終レクリエーション）
15	保育実習（15）	実習施設における実習反省会
16		

科目コード	52005				区 分	コア科目			
授業科目名	保育実習指導ⅠA(保育所)				担当者名	橘高 真紀子／檜 日佳／増岡 希望			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### ＜授業の概要＞

保育実習ⅠAの事前学習と事後学習のためのものである。実習のねらいと目的、課題を理解し、実習に臨むために必要な知識と力を身につける。また、実習生としての心構えやマナーなどの基本を実践的に学ぶ。実習後には各自が実習を振り返り、次の実習へとつなげる。

### ＜授業の到達目標＞

１．保育の観察、記録、実習計画、実践、評価の方法や内容について具体的に理解する。２．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

### ＜授業の方法＞

講義、演習、グループワーク、個別指導

### ＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有。5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめてグループごとに発表を行う。グループごとに演習を行い振り返りをする。

### ＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実習の手引きを熟読して授業に臨むこと（60分）復習：配付資料をファイルし、授業後に内容を確認、整理し、課題をすること（60分）

### ＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

### ＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲・チーム貢献度30%、課題50%、試験20%※授業は全出席すること※提出物は期限を厳守すること※社会人としてふさわしい態度で臨むこと

### ＜教科書＞

岡山県保育実習委員会（2023） 保育実習の手引き

### ＜参考書＞

厚生労働省（2018） 保育所保育指針解説 フレーベル館

内閣府（2018） 認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館

### ＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	実習の意義と概要、授業ルール	授業の概要と目標、授業の進め方授業ルールの確認
2	実習の意義と目標	保育実習の意義と目標実習園希望調査
3	実習の流れと実習生としての心構え	実習の流れと実習のステップ実習生としての心構え
4	保育の理解	保育の理解と保育の目標子どもとの関わり方、保育士等の社会的責任
5	指導案の作成（1）	子どもの姿とねらい、環境構成、活動の流れ
6	指導案の作成（2）	保育士の援助・配慮、作成上の留意事項
7	保育教材の作成（1）	シルエットクイズの作成と発表
8	保育教材の作成（2）	ペープサートの作成と発表
9	模擬保育（1）	模擬保育と振り返り（1）
10	模擬保育（2）	模擬保育と振り返り（2）
11	模擬保育（3）	模擬保育と振り返り（3）
12	実習前オリエンテーション	実習書類の作成実習前オリエンテーションの意義と方法
13	実習日誌の書き方	実習中のメモの取り方と日誌の書き方エピソード記録と考察の書き方の演習
14	実習までの準備	実習の自己課題の設定と実習準備守秘義務と情報の管理
15	実習のまとめ	自己課題及び実習成果のまとめ礼状の作成
16		

科目コード	52006				区 分	コア科目			
授業 科目名	保育実習指導 I B (施設)				担当者名	松本 好生／檜寄 日佳／増岡 希望			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

児童福祉施設実習に臨む心構えを学ぶとともに、施設実習における自己課題を見出す。また、施設実習中の子どもとの生活を通し、子ども理解を深め、児童養護実践力の向上に努める。

### <授業の到達目標>

・児童福祉施設における記録方法について学ぶ。・施設入所児童への理解を深め、実際の支援について考える。・施設実習での活動を通して、保育者としての自己課題を見出す。

### <授業の方法>

講義、グループワーク、個別指導等を適宜組み合わせて進める。また、必要に応じて上級生（保育実習 I B既習者）等をゲストに迎えて心構えに関する演習を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有。5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめてグループごとに発表を行う。グループごとに演習を行い振り返りをする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に手引きをよく読んでおくこと(1時間以上)。配布された資料をファイルし、授業後に内容を整理すること(1時間以上)。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度50%、実習に向けた実習ノート作成等の課題50%※授業は全出席すること※提出物は期限を厳守すること※社会人としてふさわしい態度で臨むこと

### <教科書>

岡山県保育士養成協議会 「保育実習の手引き」 保育士養成協議会

厚生労働省 保育所保育指針（平成29年告示） フレーベル館

内閣府文部科学省厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育教育要領 フレーベル館

### <参考書>

適宜指示します

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業担当教員紹介と実習参加条件及び受講ルールについて
2	実習の意義と目的	実習の意義・目標、スケジュールについて
3	施設の種類と内容(1)	施設概要の学習(養護系施設)について
4	施設の種類と内容(2)	施設概要の学習(障害児施設)について
5	施設の種類と内容(3)	施設概要の学習(障害者支援施設)について
6	実習記録(1)	実習日誌の意義について
7	実習記録(2)	実習記録のポイントと方法について
8	実習記録(3)	実習記録のポイントと方法について
9	実習書類作成	自己紹介状、誓約書、出勤簿等の作成について
10	実習施設の学習	実習施設のプロフィール調査について
11	実習課題の設定	実習課題の理解と作成について
12	事前訪問指導	実習課題の理解と作成及び事前オリエンテーションの諸注意について
13	実習の実際	保育実習 I B既習者である上級生からアドバイス、及び公欠届について
14	実習の心構え	プライバシーの保護と守秘義務、人権尊重と実習態度について
15	実習事後指導とまとめ	お礼状の作成・発送、体験報告、反省課題と報告書の作成について
16		

科目コード	52007				区 分	コア科目			
授業科目名	保育実習ⅠA(保育所)				担当者名	橘高 真紀子／檜 日佳／増岡 希望			
配当年次	2年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

・保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、認可保育所において観察・参加・部分実習を行う。・保育所での実習を通して、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能及び保育士の職務について実践的に学ぶ。

#### <授業の到達目標>

・保育所の役割や機能を具体的に理解する。・観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。・既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。・保育の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解する。・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

#### <授業の方法>

実習園での実習・観察実習・参加実習・責任実習（部分指導、半日指導）・担当保育者との振り返り

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有。実習生同士または担当教員を含めて反省会をし、保育について振り返りをする。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・岡山県保育士養成協議会「保育所実習の手引き」、配布資料、教材資料等を熟読する。・保育実習ⅠAの自己課題をもとに、保育実習Ⅱへの課題を明確にする。・保育実習に必要な保育技術（遊びの指導、絵本の読み聞かせ、弾き歌い等）の反復練習に努める。・保育指導計画案の作成と、それに基づく模擬保育実践を行い、実習へのイメージをもつ

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習評価 80%、事前オリエンテーション・反省会 20%

#### <教科書>

岡山県保育士養成協議会 保育所実習の手引き

#### <参考書>

厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館

内閣府文部科学省厚生労働省 幼保連携型認定認定こども園教育・保育要領 フレーベル館

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	保育実習（1）	実習園における事前オリエンテーション
2	保育実習（2）	実習園において指導のもとに観察実習（1）
3	保育実習（3）	実習園において指導のもとに観察実習（2）
4	保育実習（4）	実習園において指導のもとに参加実習（1）
5	保育実習（5）	実習園において指導のもとに参加実習（2）
6	保育実習（6）	実習園において指導のもとに参加実習（3）
7	保育実習（7）	実習園において指導のもとに参加実習（4）
8	保育実習（8）	実習園において指導のもとに参加実習（5）
9	保育実習（9）	実習園において指導のもとに参加実習（6）
10	保育実習（10）	実習園において指導のもとに部分実習（1）
11	保育実習（11）	実習園において指導のもとに部分実習（2）
12	保育実習（12）	実習園において指導のもとに部分実習（3）
13	保育実習（13）	実習園において指導のもとに部分実習（4）
14	保育実習（14）	実習園において指導のもとに半日実習
15	保育実習（15）	実習園における反省会
16		

科目コード	52008				区 分	コア科目			
授業科目名	保育実習 I B (施設)				担当者名	松本 好生／檜寄 日佳／増岡 希望			
配当年次	2年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

・保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、保育所以外の児童福祉施設等における利用時・者への支援について、体験を通して学ぶ。

#### <授業の到達目標>

・施設における利用児・者の生活の理解と支援について理解する。・施設の役割と機能について理解する。・保育士の職務内容や役割、職業倫理について理解する。

#### <授業の方法>

保育所以外の児童福祉施設等においての実習・観察実習と担当保育者との振り返り

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有。実習生同士または担当教員を含めて反省会をし、保育について振り返りをする。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：保育実習事前指導及び他教科において学んだ内容を整理し、既習の知識や技能を高めたり実践したりできる準備をしておく（1時間）復習：実習中の当日にあったことを振り返って考察し、日誌にまとめる（1時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習評価 80%、事前オリエンテーション・反省会 20%

#### <教科書>

岡山県保育士養成協議会 保育実習の手引き

#### <参考書>

特に指定しない

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	保育実習 (1)	実習施設における事前オリエンテーション
2	保育実習 (2)	実習施設において指導のもとに観察実習 (1)
3	保育実習 (3)	実習施設において指導のもとに観察実習 (2)
4	保育実習 (4)	実習施設において指導のもとに参加実習 (1)
5	保育実習 (5)	実習施設において指導のもとに参加実習 (2)
6	保育実習 (6)	実習施設において指導のもとに参加実習 (3)
7	保育実習 (7)	実習施設において指導のもとに参加実習 (4)
8	保育実習 (8)	実習施設において指導のもとに参加実習 (5)
9	保育実習 (9)	実習施設において指導のもとに部分実習 (1)
10	保育実習 (10)	実習施設において指導のもとに部分実習 (2)
11	保育実習 (11)	実習施設において指導のもとに部分実習 (3)
12	保育実習 (12)	実習施設において指導のもとに部分実習 (4)
13	保育実習 (13)	実習施設において指導のもとに部分実習 (5)
14	保育実習 (14)	実習施設において指導のもとに部分実習 (6)
15	保育実習 (15)	実習施設における反省会
16		

科目コード	52009				区 分	コア科目			
授業科目名	保育実習指導Ⅱ(保育所)				担当者名	橘高 真紀子／檜 日佳／増岡 希望			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

保育実習Ⅱの事前学習と事後学習のためのものである。実習のねらいと目的、課題を理解し、実習に臨むために必要な知識と力を身につける。また、実習生としての心構えやマナーなどの基本を実践的に学ぶ。実習後には各自が実習を振り返り、実習の総まとめをする。

### <授業の到達目標>

1. 保育の観察、記録、実習計画、実践、評価の方法や内容について具体的に理解する。2. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

### <授業の方法>

講義、演習、グループワーク、個別指導

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有。5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめてグループごとに発表を行う。グループごとに演習を行い振り返りをする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実習の手引きを熟読して授業に臨むこと（60分）復習：配付資料をファイルし、授業後に内容を確認、整理し、課題をすること（60分）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲・チーム貢献度30%、課題50%、試験20%※授業は全出席すること※提出物は期限を厳守すること※社会人としてふさわしい態度で臨むこと

### <教科書>

岡山県保育実習委員会（2023） 保育実習の手引き

### <参考書>

厚生労働省（2018） 保育所保育指針解説 フレーベル館

内閣府（2018） 認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	実習の意義と概要、授業ルール	授業の概要と目標、授業の進め方授業ルールの確認
2	実習の意義と目標	保育実習の意義と目標
3	実習の流れと実習生としての心構え	実習の流れと実習のステップ実習生としての心構え
4	保育の理解	保育の基本と保育の目標保育所保育指針の確認
5	指導案の作成（1）	子どもの発達段階や興味関心を考慮したねらいと活動
6	指導案の作成（2）	ねらいを達成するための保育士の援助と配慮
7	保育教材の作成（1）	パネルシアターの作成と発表
8	保育教材の作成（2）	スカッチブックシアターの作成と発表
9	模擬保育（1）	模擬保育と振り返り（1）
10	模擬保育（2）	模擬保育と振り返り（2）
11	模擬保育（3）	模擬保育と振り返り（3）
12	実習書類の作成実習前オリエンテーション	実習書類の作成実習前オリエンテーションの意義と依頼、訪問のマナー
13	実習記録の書き方	わかりやすいエピソード記録と考察の書き方
14	実習までの準備	実習の自己課題の設定と実習準備守秘義務と情報の管理
15	実習のまとめ	自己課題及び実習成果のまとめ礼状の作成
16		

科目コード	52010				区 分	コア科目			
授業科目名	保育実習指導Ⅲ(施設)				担当者名	松本 好生／檜寄 日佳／増岡 希望			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

事前指導では、各教科の理論・技能を再統合し応用できるための総合化の視点、それに基づく実習課題の明確化、及び施設利用者の生活に立ち入って施設保育の実際を内側から学ぼうとする者の持つべき倫理意識を学ぶ。※保育実習指導Ⅲ(施設)は児童養護施設、障害者支援施設への就職を行う者の受講に限る。

### <授業の到達目標>

・児童福祉施設における保育士の役割について学ぶ。・施設入所者への理解を深め、実際の支援について考える。・施設実習での活動を通して、保育者としての自己課題を見出す。実習に向けての社会福祉施設の目的と内容についての基本を理解し、実習を円滑に進めていくための知識や心構えを得る。自らの課題を明確にし、実践を通して施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。

### <授業の方法>

講義、グループワーク、個別指導等を適宜組み合わせる。また、必要に応じて上級生（保育実習Ⅲ既習者）等をゲストに迎えて将来像を見つけ出すなどの演習を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有。5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめてグループごとに発表を行う。グループごとに演習を行い振り返りをする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に手引きをよく読んでおくこと（1時間以上）。配布された資料をファイルし、授業後に内容を整理すること（1時間以上）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度50%、実習に向けた実習ノート作成等の課題50%※授業は全出席すること※提出物は期限を厳守すること※社会人としてふさわしい態度で臨むこと

### <教科書>

岡山県保育士養成協議会(2021) 保育実習の手引き

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	実習の基本的理解	保育実習の意義、目的、実習の概要
2	保育実習の内容と課題の明確化 (1)	施設の種類とその特徴
3	保育実習の内容と課題の明確化 (2)	施設での生活とその援助のあり方
4	保育実習の内容と課題の明確化 (3)	施設における保育士の役割
5	保育実習の内容と課題の明確化 (4)	実習課題のもち方
6	実習の計画と記録 (1)	施設の指導案について
7	実習の計画と記録 (2)	実習日誌の記録の仕方
8	実習に際しての留意事項 (1)	子どもの人権と最善の利益の考慮
9	実習に際しての留意事項 (2)	プライバシーの保護と守秘義務
10	実習に際しての留意事項 (3)	実習の心構え
11	事前指導の総括	事前指導のまとめ
12	事後指導 (1)	実習の総括と自己評価
13	事後指導 (2)	課題の明確化
14	事後指導 (3)	グループディスカッション
15	まとめ	保育実習全体のふり返り
16		

科目コード	53000				区 分	学科により異なる			
授業科目名	海外研修				担当者名	小川 正人			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本科目はIPUNZ留学の読替科目であるため、IPUNZ留学生は履修してはならない。IPUNZ留学以外での海外留学・海外研修をする学生を対象としたものである。

#### <授業の到達目標>

海外での現地での研修プログラムに参加し、外国語でのコミュニケーション能力の向上を図るとともに、現地の方々との交流や課外活動を通じて、異文化について学ぶ。また、それらの体験を通じ、母国語とその文化についての見識を深め、表現力・発信力を身につける。

#### <授業の方法>

講義・演習形式で事前研修・事後研修授業を行う。現地研修でフィールドワークを中心に、個別またはグループワークとプレゼンテーションを含む研修を実施する予定である。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

海外研修にアクティブラーニングの手法を取り入れることで、海外での学びをさらに有意義なものとする。渡航前に訪問地域について事前学習→現地で実践的な体験・調査→帰国後に発表・振り返り、という流れで、学生主体で協働しながら学んでいく。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研修先の国や地域、また研修の目的を理解すること。海外研修期間は行動をまとめ、最終報告をすること。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー5（体育・スポーツを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業貢献度（20％）研修報告（80％）

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	事前研修（1）	現地についての事前知識・安全情報など、渡航に必要な知識を学ぶ
2	事前研修（2）	研修目的と研修中の注意事項、研修において課される課題説明を通して、研修計画をたてる
3	現地研修(1)	現地での研修を実施する
4	現地研修(2)	現地での研修を実施する
5	現地研修(3)	現地での研修を実施する
6	現地研修(4)	現地での研修を実施する
7	現地研修(5)	現地での研修を実施する
8	現地研修(6)	現地での研修を実施する
9	現地研修(7)	現地での研修を実施する
10	現地研修(8)	現地での研修を実施する
11	現地研修(9)	現地での研修を実施する
12	現地研修(10)	現地での研修を実施する
13	現地研修(11)	現地での研修を実施する
14	事後研修（1）	研修の成果報告を作成する
15	事後研修（2）	研修の成果を個人またはグループで報告・発表する
16		

科目コード	53008				区 分	コア科目			
授業科目名	国際交流実習 I (基礎)				担当者名	伊藤 仁美/Jason Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業は、IPU NZへの留学を希望する学生の必修科目である。授業の全体目標は、留学への積極的な心構え・挑戦心・国際人としての自覚を涵養することと、基礎的な英語力、とりわけ英語で伝え合う力の育成である。

### <授業の到達目標>

(1) 有意義な留学をするために、リサーチ課題の遂行や留学計画書の作成を通して、自国や留学先についての理解を深め、国際人としての自覚および明確な留学の目標・計画（具体的な行動指針）をもっている(2) 英語学習の習慣が身についている(3) 間違いを恐れず自ら英語を話そうとしている(4) 留学中に経験する様々な状況（飛行機内、交通機関、電話、病院、買い物など）において、よく使用される表現を身につけ、積極的に自らの困りごと・問題の解消に向けて、英語を介したコミュニケーションをとることができる(5) 自分や身の回

### <授業の方法>

(1) 帯活：Small Talk (10分) ...毎回異なるトピックが提示されるので、原稿を準備せず「その場で」話すトレーニングを行う。まずは正確さよりも流暢さを重視する。また、留学生活における様々な状況を想定し、それに対応するために必要な表現方法をロールプレイやペアワークを通して反復練習する。(2) 前時の復習：定着度の確認 (20分) (3) 導入：新しいインプット (15分) ※英語学習や異文化理解、留学先の社会環境など、NZ留学に関わる内容についての記事やニュース(4) 中心活動：導入のインプット(聞いた

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・Small Talkのリトライ：授業中に言いたくても言えなかった語彙・表現があれば、調べて次回授業までに活用できるようにしておくこと (20分) ・授業内で取り組んだ英文記事の音読・暗唱・リテリングなどの補充学習：次回授業までにできるようにしておくこと (30分) ・多読・日記をつけるなど、英語に触れること・英語を使用することを常態化すること (30分) ・自らの興味・関心に基づき課題を設定し、リサーチ結果を英語でまとめること ※毎週内容を更新・充実させ、留学計画書の作成につなげていくこと。目標を明確にしてNZ

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー 5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（授業中の英語を話そうとする姿勢を重視する） 20%課題への取り組み（授業外での英語学習の習慣化を含む） 20%中間試験（スピーキングテストと留学計画書） 30%期末試験（プレゼンテーション発表） 30%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・英語力診断テスト	授業の進め方、成績評価、留学に求められる英語力および自身の英語力の把握
2	学習カウンセリング	英語学習の方法と習慣づけ
3	留学経験者との交流会	IPU・NZ留学について知る（キャンパス・寮・ホームステイの生活、英語学習方法、NZ留学の成果、異文化体験など）
4	自国理解	英語力トレーニング、リサーチ課題の共有、意見交換 (1)
5	異文化理解	英語トレーニング、リサーチ課題の共有、意見交換 (2)
6	留学先の社会環境	英語トレーニング、リサーチ課題の共有、意見交換 (3)
7	中間試験 (1)	スピーキングテスト、留学計画書の作成 1
8	中間試験 (2)	スピーキングテスト、留学計画書の作成 2
9	プレゼンテーションに向けて：計画	プレゼンテーションの構成・論理展開（序論・本論・結論）、アイディアマッピング、考えや情報の整理
10	プレゼンテーションに向けて：初稿	伝える内容に重点を置きながら、必要に応じて適切な語彙・表現を学んでいく。内容面についてのピア・フィードバックを行う
11	プレゼンテーションに向けて：推敲	よりよい説明の仕方や表現など、言語面についてのピア・フィードバックを行う

12	プレゼンテーションに向けて：発表準備 (1)	スライドの準備・発表練習を行う 1
13	プレゼンテーションに向けて：発表準備 (2)	スライドの準備・発表練習を行う 2
14	期末試験 (1)	日本を紹介するプレゼンテーション発表とフィードバック 1
15	期末試験 (2)	日本を紹介するプレゼンテーション発表とフィードバック 2
16		

科目コード	53009				区 分	コア科目			
授業科目名	国際交流実習Ⅱ(応用) [秋入学生用]				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

日本における「ゼミナールⅠ」ならびに「ゼミナールⅡ」の学びに円滑に順応するために必要なアカデミック・リテラシーとは何か、また、どのようにすればそれらを着実に身につけることができるのか、さまざまな事例の紹介を通じて基礎知識を習得する。そのうえで具体的にグループ・ディスカッションやグループワーク等を通じて体験的に学習していく。

#### <授業の到達目標>

1. アカデミック・リテラシーの基礎知識を身につける。 2. 日本語でパワーポイントを使用したプレゼンテーションができる。

#### <授業の方法>

各自が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課）作成およびディスカッションをする。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有ディスカッション、グループワーク

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度、それぞれ求める。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）およびディプロマポリシー5（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価（知識・理解）で70%

#### <教科書>

使用しない。

#### <参考書>

適宜紹介する。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	初回の授業で提示する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	53009				区 分	コア科目			
授業科目名	国際交流実習Ⅱ(応用) [秋入学生用]				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

日本における「ゼミナールⅠ」ならびに「ゼミナールⅡ」の学びに円滑に順応するために必要なアカデミック・リテラシーとは何か、また、どのようにすればそれらを着実に身につけることができるのか、さまざまな事例の紹介を通じて基礎知識を習得する。そのうえで具体的にグループ・ディスカッションやグループワーク等を通じて体験的に学習していく。

#### <授業の到達目標>

1. アカデミック・リテラシーの基礎知識を身につける。 2. 日本語でパワーポイントを使用したプレゼンテーションができる。

#### <授業の方法>

各自が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課）作成およびディスカッションをする。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有ディスカッション、グループワーク

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度、それぞれ求める。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）およびディプロマポリシー5（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価（知識・理解）で70%

#### <教科書>

使用しない。

#### <参考書>

適宜紹介する。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	初回の授業で提示する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	53013				区 分	コア科目			
授業科目名	学校支援ボランティア [小学校ボランティア]				担当者名	奥山 優			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

学校支援ボランティアとは、学校の教育活動について地域の教育力を生かすため、保護者や地域の人々等がボランティアとして学校をサポートする取り組みであり、近年は学校支援ボランティアとして学生も学校に入り、学習支援等を行っている。ここでは、小・中学校等で行われている学校支援ボランティアの様子を紹介したり、地域の小・中学校に学校支援ボランティアとして入り活動を行ったりすることで、学校支援ボランティアの実践について学び、教員としての仕事の一端について知る。

#### <授業の到達目標>

学校支援ボランティアに必要な知識や技能、態度などを身につけ、将来教師として子どもにかかわるための指導力を培うことができるようにする。

#### <授業の方法>

この授業は、2年～4年が受講可能で前期および後期の年2回開講し、いずれかを履修することができる。学校支援ボランティアについての講義と、期間中に5回以上延べ15時間以上の学校支援ボランティアに赴く。ボランティア活動は、通常の授業時間ではなく、学校と都合のよい時間帯を相談の上実施する。したがって、午前または午後、続けて2単位時間分の授業がないことが条件となる。活動内容や学びについては、実施の都度Classroomにて記録を提出し、学校支援ボランティア実施後、成果と課題をまとめて第15回にて発表する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有第14回・15回の授業において、子どもとのかかわり方や教師の支援について、自己のボランティアでの経験や学びをもとに話し合い、発表する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ボランティアの募集説明会に参加すること、所定の時間ボランティアに行くことが単位取得の必須条件である。予習：事前に学校と十分打ち合わせをした上でボランティアに臨むこと。また、その日のボランティアを通して何を学ぶのかということを明確にしておくこと。（30分程度）復習：学校にボランティアに行った日は、活動内容と時間数及びその日の成果や課題となったことを振り返り、クラスルームに提出すること。（1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

提出する活動記録によるボランティア活動への取り組みの様子 60%、ボランティアを通しての学びの深まりのレポート20%、取り組みの発表内容20%

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

特に指定なし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学校支援ボランティアとは	学校支援ボランティアの目的、活動内容等
2	学校支援ボランティアの申込	岡山市等の学校支援ボランティアの募集説明会、申し込み手続き等
3	学校支援ボランティアの実際	学校支援ボランティアの具体例、先輩の体験発表等
4	学校支援ボランティアの実習(1)	近隣の小・中学校等でのボランティア活動
5	学校支援ボランティアの実習(2)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
6	学校支援ボランティアの実習(3)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
7	学校支援ボランティアの実習(4)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
8	学校支援ボランティアの実習(5)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
9	学校支援ボランティアの実習(6)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
10	学校支援ボランティアの実習(7)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
11	学校支援ボランティアの実習(8)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
12	学校支援ボランティアの実習(9)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
13	学校支援ボランティアの実習(10)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
14	学校支援ボランティアのまとめ(1)	学校支援ボランティアの実習について学んだことについて話し合い、各自レポート

15	学校支援ボランティアのまとめ(2)	にまとめる。 レポートの内容を発表し、成果と課題を共有する。
16		

科目コード	53013				区 分	コア科目			
授業科目名	学校支援ボランティア [小学校ボランティア]				担当者名	奥山 優			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

学校支援ボランティアとは、学校の教育活動について地域の教育力を生かすため、保護者や地域の人々等がボランティアとして学校をサポートする取り組みであり、近年は学校支援ボランティアとして学生も学校に入り、学習支援等を行っている。ここでは、小・中学校等で行われている学校支援ボランティアの様子を紹介したり、地域の小・中学校に学校支援ボランティアとして入り活動を行ったりすることで、学校支援ボランティアの実践について学び、教員としての仕事の一端について知る。

#### <授業の到達目標>

学校支援ボランティアに必要な知識や技能、態度などを身につけ、将来教師として子どもにかかわるための指導力を培うことができるようにする。

#### <授業の方法>

この授業は、2年～3年が受講可能で前期および後期の年2回開講し、いずれかを履修することができる。学校支援ボランティアについての講義と、期間中に5回以上延べ15時間以上の学校支援ボランティアに赴く。ボランティア活動は、通常の授業時間ではなく、学校と都合のよい時間帯を相談の上実施する。したがって、午前または午後、続けて2単位時間分の授業がないことが条件となる。活動内容や学びについては、実施の都度Classroomにて記録を提出し、学校支援ボランティア実施後、成果と課題をまとめて第15回にて発表する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有第14回・15回の授業において、自己のボランティアでの経験や学びをもとに子どもとのかかわり方や教師の支援について話し合い、発表する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ボランティアの募集説明会に参加すること、所定の時間ボランティアに行くことが単位取得の必須条件である。予習：事前に学校と十分打ち合わせをした上でボランティアに臨むこと。また、その日のボランティアを通して何を学ぶのかということを明確にしておくこと。（30分程度）復習：学校にボランティアに行った日は、活動内容と時間数及びその日の成果や課題となったことを振り返り、クラスルームに提出すること。（1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

提出する活動記録によるボランティア活動への取り組みの様子 60%、ボランティアを通しての学びの深まりのレポート20%、取り組みや学んだことの発表内容 20%

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

特に指定なし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学校支援ボランティアとは	学校支援ボランティアの目的、活動内容等
2	学校支援ボランティアの申し込み	岡山市等の学校支援ボランティアの募集説明会、申し込み手続き等
3	学校支援ボランティアの実践	学校支援ボランティアの具体例、先輩の体験発表等
4	学校支援ボランティアの実習(1)	近隣の小・中学校等でのボランティア活動
5	学校支援ボランティアの実習(2)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
6	学校支援ボランティアの実習(3)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
7	学校支援ボランティアの実習(4)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
8	学校支援ボランティアの実習(5)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
9	学校支援ボランティアの実習(6)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
10	学校支援ボランティアの実習(7)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
11	学校支援ボランティアの実習(8)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
12	学校支援ボランティアの実習(9)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
13	学校支援ボランティアの実習(10)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
14	学校支援ボランティアのまとめ(1)	学校支援ボランティアの実習について学んだことを各自レポートにまとめる。

15	学校支援ボランティアのまとめ(2)	レポートの内容を発表し、成果と課題を共有する。
16		

科目コード	53014				区 分	コア科目			
授業 科目名	インターンシップ [PP]				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	3年	配当学期	通年集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本授業は、就業体験（インターンシップ）を実際に行い、その体験を通して仕事観や人生観を育成し、残りの学生生活ですべきことを明確にすることをねらいとして行われる。

#### <授業の到達目標>

就業体験（インターンシップ）を通して、「仕事観・人生観を醸成する」「残りの学生生活でべきことを明確にする」科目である。体育学科ディプロマポリシー4に記されている「体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる」を目標に学ぶ。

#### <授業の方法>

講義と実習を年間を通して15コマ実施する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、実際の就業体験を通じて職業理解を深め、自らの仕事観や人生観を形成することが求められる。体験後の振り返りや今後の行動計画の明確化を行うことで、学習者が主体的に学びに関与し、課題発見と自己理解を深めるアクティブラーニングの要素を含んでいる。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習として希望する企業調べを実施する。事後学習として実習企業の分析をする。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前・事後学習における課題への取組：100%＜内訳＞1）キャリアセンター主催のガイダンスへの参加し、レポート：10%2）企業インターンシップ等への5回参加後レポート（詳細はルーブリックの内容確認）の平均値：90% ※6回以上の参加については、加点する。

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

特に指定なし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	インターンシップの目的と心構え
2	事前指導1	インターンシップ実習科目の目的とシステム
3	事前指導2	本学におけるインターンシップ申し込みシステム
4	事前指導3	企業研究 1
5	事前指導4	企業研究 2
6	事前指導5	外部講師によるマナー講座
7	事前指導6	インターンシップ書類作成 1
8	事前指導7	インターンシップ書類作成 2
9	インターンシップ1日目	就業先でのオリエンテーション
10	インターンシップ2日目	担当業務への従事、日誌の作成 1
11	インターンシップ3日目	担当業務への従事・日誌の作成 2
12	インターンシップ4日目	担当業務への従事・日誌の作成 3
13	インターンシップ5日目	担当業務への従事・日誌の作成 4
14	インターンシップ振り返り	受け入れ先へのお礼状、体験報告書の作成
15	事後指導	インターンシップ報告会
16		

科目コード	53014				区 分	コア科目			
授業科目名	インターンシップ [FC]				担当者名	濱嶋 幸司			
配当年次	3年	配当学期	通年・集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

就業体験（インターンシップ）を通して、「仕事観・人生観を育成する」、「残りの学生生活ですべきことを明確にする」ことを目的とする。

#### <授業の到達目標>

1. 社会人として働くための心構えやマナーを身に付ける。2. 就職活動に必要な書類を知り、作成できる。3. 卒業後のキャリアビジョンについて説明ができる。

#### <授業の方法>

・学内でインターンシップについて学習する・インターンシップに参加する企業を決める・企業の方と顔合わせをおこなう・インターンシップの目標を決める・インターンシップに参加する・学内でインターンシップについて振り返る・成果をまとめ、報告する

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 事前指導ではテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う 実習では自ら進んで課題に取り組む 事後指導では実習成果を参加者同士で共有するため、聞き手は報告者にフィードバックを行う

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習として希望する企業調べを実施する。事後学習として実習企業の分析をする。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）およびディプロマポリシー2（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題への取組：① 20%、② 60%、③ 20%①事前学習：科目担当者が指示するガイダンスへの参加②企業インターンシップ等への参加③事後学習：成果報告・提出レポート

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

特に指定なし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	インターンシップの目的と心構え
2	事前学習1	インターンシップ実習科目の目的とシステム
3	事前学習2	本学におけるインターンシップ申し込みシステム
4	事前学習3	企業研究 1
5	事前学習4	企業研究 2
6	事前学習5	企業研究 3
7	事前学習6	インターンシップ書類作成 1
8	事前学習7	インターンシップ書類作成 2
9	インターンシップ1日目	就業先でのオリエンテーション
10	インターンシップ2日目	担当業務への従事、日誌の作成 1
11	インターンシップ3日目	担当業務への従事・日誌の作成 2
12	インターンシップ4日目	担当業務への従事・日誌の作成 3
13	インターンシップ5日目	担当業務への従事・日誌の作成 4
14	インターンシップ振り返り	体験報告書の作成
15	事後指導	インターンシップ報告書のチェックと評価
16		

科目コード	53015				区 分	コア科目			
授業科目名	キャンプ実習 [PP1年生用]				担当者名	浦 佑大			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期集中	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択必修

#### <授業の概要>

本授業では、統制不可能な自然環境の中で集団的・自律的生活を体験し、自己を見つめるとともに、他者との協同の重要性について学ぶ。そして、体育学科生として備えておくべき資質と知識、キャンプスキルを実践的に身につける。本授業では、グループでの活動を基本とし、オリエンテーリングなどの自然体験活動、ブラインドツアーなどのアクティビティ体験を通し、集団でのコミュニケーションや自己および他者の理解、リーダー（フォロアー）シップ等の協調性、社会性など非認知能力の涵養を図る。なお、本授業は世界最古の庶民のための公立学校である閑谷学校で実施する。講堂学習では、論語における「体育」を入りに、「身体運動を媒介として人間形成をめざす教育的な営みである体育」について考えてもらいたい。

#### <授業の到達目標>

i. 自然環境におけるキャンプの意義・目的を理解し、スキルを身につける ii. アクティビティ体験を通し、協調性、社会性などを身につける iii. 体育学科生としての規律や意識を身に着ける

#### <授業の方法>

講義と実技、宿泊を伴う実習として展開する。講義においては、レクリエーション活動や野外炊事等キャンプに必要な内容を学習する。実習は岡山県内の自然体験活動が可能な施設にて実施する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有グループでのワークや課題解決

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

キャンプの方法論などに関する事前学習（2時間）、活動の振り返りやまとめレポート（2時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 40%、最終課題60%

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

日本野外教育研究会 キャンプテキスト 杏林書院

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	キャンプを理解するために	キャンプの意義と目的・歴史・環境教育
2	キャンプを理解するために	キャンプとマナー、キャンプの計画と組織、キャンプの指導者の役割
3	キャンプを理解するために	キャンプの安全管理、キャンプでの調査と評価
4	対象に応じたキャンプ	オートキャンプ
5	対象に応じたキャンプ	組織キャンプ
6	対象に応じたキャンプ	学校キャンプ
7	キャンプの生活技術	天候変化の予測方法、キャンプ用具とその使い方
8	キャンプの生活技術	野外炊事、テント、ロープワーク
9	キャンプの生活技術	キャンプにおける安全対策と応急処置の方法
10	キャンプのプログラム	レクリエーションゲーム
11	キャンプのプログラム	自然に親しむゲーム、環境プログラム
12	キャンプのプログラム	天候に応じたプログラム、体験プログラム
13	キャンプファイアーの理論と実際	キャンプファイアーの種類とねらい
14	キャンプファイアーの理論と実際	キャンドルファイアーの特徴・準備・バリエーション
15	キャンプファイアーの理論と実際	キャンプファイアーのプログラム・作成上の留意点
16		

科目コード	53015				区 分	コア科目			
授業科目名	キャンプ実習 [PP3年生以上用]				担当者名	浦 佑大			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期集中	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択必修

### <授業の概要>

本授業では、統制不可能な自然環境の中で集団的・自律的生活を体験し、自己を見つめるとともに、他者との協同の重要性について学ぶ。そして、体育学科生として備えておくべき資質と知識、キャンプスキルを実践的に身につける。本授業では、グループでの活動を基本とし、オリエンテーリングなどの自然体験活動、ブラインドツアーなどのアクティビティ体験を通し、集団でのコミュニケーションや自己および他者の理解、リーダー（フォロワー）シップ等の協調性、社会性など非認知能力の涵養を図る。なお、本授業は世界最古の庶民のための公立学校である閑谷学校で実施する。講堂学習では、論語における「体育」を入り口に、「身体運動を媒介として人間形成をめざす教育的な営みである体育」について考えてもらいたい。

### <授業の到達目標>

i. 自然環境におけるキャンプの意義・目的を理解し、スキルを身につける ii. アクティビティ体験を通し、協調性、社会性などを身につける

### <授業の方法>

講義と実技、宿泊を伴う実習として展開する。講義においては、レクリエーション活動や野外炊事等キャンプに必要な内容を学習する。実習は岡山県内の自然体験活動が可能な施設にて実施する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有グループでのワークや課題解決

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

キャンプの方法論などに関する事前学習（2時間）、活動の振り返りやまとめレポート（2時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 40%、最終課題60%

### <教科書>

特に指定なし

### <参考書>

日本野外教育研究会 キャンプテキスト 杏林書院

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	キャンプを理解するために	キャンプの意義と目的・歴史・環境教育
2	キャンプを理解するために	キャンプとマナー、キャンプの計画と組織、キャンプの指導者の役割
3	キャンプを理解するために	キャンプの安全管理、キャンプでの調査と評価
4	対象に応じたキャンプ	オートキャンプ
5	対象に応じたキャンプ	組織キャンプ
6	対象に応じたキャンプ	学校キャンプ
7	キャンプの生活技術	天候変化の予測方法、キャンプ用具とその使い方
8	キャンプの生活技術	野外炊事、テント、ロープワーク
9	キャンプの生活技術	キャンプにおける安全対策と応急処置の方法
10	キャンプのプログラム	レクリエーションゲーム
11	キャンプのプログラム	自然に親しむゲーム、環境プログラム
12	キャンプのプログラム	天候に応じたプログラム、体験プログラム
13	キャンプファイアーの理論と実際	キャンプファイアーの種類とねらい
14	キャンプファイアーの理論と実際	キャンドルファイアーの特徴・準備・バリエーション
15	キャンプファイアーの理論と実際	キャンプファイアーのプログラム・作成上の留意点
16		

科目コード	53015				区 分	コア科目			
授業科目名	キャンプ実習 [PS1年生用]				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期集中	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択必修

#### <授業の概要>

本授業は、グループ活動や自然の中での活動を中心とする自然体験型の野外活動キャンプを学習する。実習を通して共同生活や野外活動に対しての理解を深め、人間関係作りを行っていく。様々なアクティビティを実施し、キャンプにおける実践力を身に付けると共に他者とのコミュニケーションを取り、自己および他者理解につなげていく。さらに、リーダー（フォロアー）シップ、協調性、社会性等の非認知能力の涵養を図り、大学生として備えておくべき資質と知識を実践的に身に付けていく。

#### <授業の到達目標>

本実習では以下の3つを到達目標とする。（1）自然に対して親しみをもち、様々な野外活動を通してキャンプに対しての理解を深める。（2）アクティビティ体験を通し、協調性、社会性などを身につける（3）仲間と共に成長する意識を持ち、競技スポーツ科学科学生としての規律や態度を身につける

#### <授業の方法>

座学と実習を組み合わせた形式をとる。座学では主に野外活動に関わる知識を学び、実習では実際に実演可能なスキルをグループ活動の中で学ぶ。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

キャンプ・野外活動に関する基礎的知識を自ら調べ、野外での活動が安全に、また円滑にできるように準備しておくことが望ましい。また、チームワークに必要なことを自ら考え、実践してもらいたい。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

（予習）キャンプにおけるリスクマネジメントや基礎的知識について学習をしておく（2時間）。（復習）キャンプの振り返りを行ない理解を深める（1時間）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度およびグループへの貢献 60%、レポート課題40%

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

2020 人と自然をつなぐ教育—自然体験教育学入門 NPO法人北海道自然体験活動サポートセンター  
2011 野外教育の理論と実践 杏林書院

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション／キャンプ実習の概要	授業の概要、評価について説明／実習の日程、内容、方法、注意点等についての説明する
2	キャンプの基礎知識	キャンプに必要なロープワークや火起こしの仕方等について学ぶ
3	自然体験活動の安全管理	自然体験活動における安全管理について考え、危険を回避するための方法を学ぶ
4	アイスブレイク	見ず知らずの人間同士が協力関係を素早く築くために適したアクティビティを実践的に学ぶ
5	イニシアティブゲーム	集団の凝集性を高め、実効性・機能性の高い状態を作り出すためのアクティビティを実践的に学ぶ
6	オリエンテーリング(1)	オリエンテーリングの内容を理解し、戦略を立て活動する方法を学ぶ
7	オリエンテーリング(2)	課題をクリアしながらオリエンテーリングを実施し、グループ内の団結力を高める
8	キャンプファイヤー	仲間と共に火を囲み、キャンプファイヤー実施の理解を深める
9	振り返り(1)	実習1日目の振り返りを行ない、学習の理解を深める
10	野外炊事(1)	非日常的な調理環境の中でも、安全においしく調理を行う方法やグループでの役割分担について学ぶ
11	野外炊事(2)	火や刃物に注意し、野外での調理を実践する
12	ロープワーク	固定・牽引など様々な場面で必要とされるロープワークの活用・応用を実践的に学ぶ

13	チームビルディング	仲間との団結力を高めるアクティビティを実施する
14	振り返り(2)	実習2日目の活動を振り返り、理解を深める
15	実習全体の振り返りとまとめ	実習全体での学びを振り返り、まとめる
16		

科目コード	53016				区 分	コア科目			
授業科目名	健康運動実習〔健康運動指導士用〕				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	3年	配当学期	集中	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

今般の医療制度改革においては、生活習慣病予防が生涯を通じた個人の健康づくりだけでなく、中長期的な医療費適正化対策の柱の一つとして位置づけられており、今後展開される本格的な生活習慣病対策においては、一次予防に留まらず二次予防も含めた健康づくりのための運動を指導する専門家の必要性が増している。本実習においては、学内教育で習得した知識や技術を実際の現場で対象者を見ながら統合させ、実践力・応用力・創造力を身につけ、対象者に対する個別運動プログラムや運動の指導案を積極的に作成し、健康課題へのアプローチ方法について実習を通して理解するものである。学外の健康増進施設で10日間の実習を行ない、全出席を原則とする。なお、実習を開始するにあたって事前にガイダンスおよび事前学習を行なう。

#### <授業の到達目標>

健康運動を指導するための専門的な知識・技術を実際の現場で学習し、さまざまなケースに対応できる実践指導能力を習得する。また対象者に対する実際の運動指導現場にふれることで、個別ケースへの対応法について学び、健康運動指導（介護予防を含む）の理解に役立てる。また、実務能力を身に付けることにより、健康運動指導士としての活動現場における役割等を体験し、理解することを目指すとしている。

#### <授業の方法>

教科書を基に、様々な環境における現場実習を行う。特にクライアント（お客様）とコミュニケーションをとっていくことにより、現在のニーズや最新のトレーニング方法について学習する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：3、4人のグループに分かれ、事前学習でのグループワークや健康増進施設での実習を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に教科書を熟読し、現場での運動指導に関する予習を行い（約1時間）、実習に臨む。この実習を積極的に体験することで、授業の理解を深める。1日置きにレポートをまとめることにより、次の日の目標を明確にしてい（約1時間）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 20%、実践運動指導 30%、個別対応理解 30%、最終課題 20%

#### <教科書>

公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士養成講習会テキスト（上・下） 株式会社 南江堂

#### <参考書>

特に指定なし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	利用者サポート	一般利用者への接遇・顧客管理・個人情報保護・個別対応
2	施設管理（1）	救急法の資格の必要性・救急時対応・施設連絡網の確認・安全確保手順
3	施設管理（2）	避難経路の確認と誘導・救急対応の範囲、救急器具、消火器、消火装置の確認
4	施設管理（3）	機器の基本的な使用法・調整法・メンテナンス・衛生管理
5	健康評価と体力測定（1）	運動参加に関する医学的状況の把握・運動参加の禁忌、条件付参加
6	健康評価と体力測定（2）	説明と同意 安静時血圧・心拍数等の把握技術 形態測定技術・リスク・評価
7	運動プログラム提供（1）	実際の運動機器を使った有酸素トレーニングの効果と説明、注意点
8	運動プログラム提供（2）	実際の運動機器を使った筋力トレーニングの効果と説明、注意点
9	運動プログラム提供（3）	運動時の循環器、代謝、整形外科系への配慮（高齢、腰痛、肥満等）
10	運動プログラム提供（4）	適切な負荷の提供・記録の重要性・運動開始前の評価
11	運動プログラム提供（5）	プログラムの進め方・運動処方説明
12	運動プログラム提供（6）	具体的方法、プログラミング
13	総合応用（1）	運動指導実践1（受付業務、顧客管理業務）
14	総合応用（2）	運動指導実践2（個人レッスン）
15	総合応用（3）	運動指導実践3（グループレッスン）
16		

科目コード	53016				区 分	コア科目			
授業 科目名	健康運動実習 [PH用]				担当者名	宮本 彩			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

今般の医療制度改革においては、生活習慣病予防が生涯を通じた個人の健康づくりだけでなく、中長期的な医療費適正化対策の柱の一つとして位置づけられており、今後展開される本格的な生活習慣病対策においては、一次予防に留まらず二次予防も含めた健康づくりのための運動を指導する専門家の必要性が増している。本実習においては、学内教育で習得した知識や技術を実際の現場で対象者を見ながら統合させ、実践力・応用力・創造力を身につけ、対象者に対する個別運動プログラムや運動の指導案を積極的に作成し、健康課題へのアプローチ方法について実習を通して理解するものである。

### <授業の到達目標>

健康運動を指導するための専門的な知識・技術を実際の現場で学習し、さまざまなケースに対応できる実践指導能力を習得する。また、参加者（対象者）に対する運動指導を通じて、個別ケースへの対応法について学び、健康運動指導（介護予防を含む）の理解に役立てる。

### <授業の方法>

健康運動教室の企画、運動プログラムの考案、指導を実践を通じて学ぶ。公共施設や高齢者施設などでの現場実践を通して、様々な年代や体力レベルの対象者との関わり方や指導方法を理解する。グループ（1グループ8名程度）活動のなかで、仲間と協力して取り組むことを学ぶ。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有無；有りグループワークを中心に授業を展開し、その成果として地域住民に対する健康運動指導を実践する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

円滑なグループ活動が実施できるよう、グループ内で事前の下調べ（予習）や話し合いの結果のまとめ（復習）を行い、課せられる課題の遂行にあたる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 30%、運動指導の実践 40%、最終レポート 30%

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	実習の進め方、グループ分け、スケジュールを説明する。
2	健康運動の趣旨・目的	年齢に伴う体力変化を学び、健康運動の目的について考える。
3	健康評価	運動参加に関する医学的状況の把握や運動参加の禁忌、条件付参加について考える。
4	安全管理	救急法の資格の必要性、救急時対応、安全確保の手順について考える。
5	健康運動教室のテーマ選定	グループごとに実施する健康運動教室のテーマを科学的エビデンスを基に選定する。
6	教室の概要作成	教室のテーマを基にどのような目的で運動を実施するのかについて考える。
7	教室のチラシ作成	教室のテーマや概要に則したチラシを作成する。
8	運動プログラムの作成（1）	教室のテーマに合わせた運動プログラムを考える。
9	運動プログラムの作成（2）	基本の運動プログラムに加えて、体力レベルの差に対応方法を考える。
10	教室のタイムスケジュール作成	考案した運動プログラムを組み合わせ90分間の健康運動教室のタイムスケジュールを考える。
11	指導シナリオの作成	運動プログラムの進め方や運動の仕方などの説明に向けたシナリオを作成する。
12	予行演習	科目指導教員ならびに受講学生を対象に、健康運動教室の予行演習を行う。
13	予行演習を踏まえた修正・最終案の作成	予行演習での指摘を踏まえて運動プログラムやシナリオ、教室のタイムスケジュールを修正し、最終案を作成する。
14	運動プログラムの実践	運動指導の実践（現場実習）
15	振り返り（レポート作成）	本授業を通して学んだことについてレポートを作成する。



科目コード	53025				区 分	コア			
授業 科目名	アスレティックトレーナー実習Ⅰ [PP・PS用]				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

スポーツ現場や講話などを通してアスレティックトレーナーに必要とされる役割についての意義と考え方を学び、具体的な評価から問題点抽出、予防・リコンディショニング介入までのプロセスを理解し、アスレティックトレーナーの業務内容を学ぶことをねらいとする。アスレティックトレーナー実習Ⅰでは見学実習を中心に必要な知識や技術を身につける。

#### <授業の到達目標>

検査・測定と評価についての方法であるHOPSやリコンディショニング、外傷における応急処置、コンディショニングとしてストレッチングやテーピングなどアスレティックトレーナーの役割全般を主として見学を通して理解ができるようになることを目標とする。

#### <授業の方法>

実習はトレーニングセンターなどスポーツ現場で行う。必要に応じて資料を配布する。資料提示や課題の提示、提出等はGoogleClassroomで行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有実習前後に質疑応答やディスカッションなどを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の該当箇所の予習として、検査・測定と評価、予防とコンディショニング、アスレティックリハビリテーション等のテキストについて各60分以上学習しておく。各回、実施した内容をまとめたレポートを復習課題として課す。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）50％、レポート最終課題（最終課題）50％

#### <教科書>

#### <参考書>

公益社団法人全国柔道整復学校協会 競技者の外傷予防 医歯薬出版株式会社

公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第1巻 アスレティックトレーナーの役割』（公財）日本スポーツ協会

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	アスレティックトレーニングルーム見学実習①	評価とリコンディショニングの見学①
2	アスレティックトレーニングルーム見学実習②	評価とリコンディショニングの見学②
3	アスレティックトレーニングルーム見学実習③	評価とリコンディショニングの見学③
4	アスレティックトレーニングルーム見学実習④	評価とリコンディショニングの見学④
5	トレーニングルーム見学実習①	評価とコンディショニングの見学①
6	トレーニングルーム見学実習②	評価とコンディショニングの見学②
7	トレーニングルーム見学実習③	評価とコンディショニングの見学③
8	トレーニングルーム見学実習④	評価とコンディショニングの見学④
9	スポーツ現場の見学実習①	役割、業務、関わり、評価とコンディショニング、リコンディショニング、救急対応の見学①
10	スポーツ現場の見学実習②	役割、業務、関わり、評価とコンディショニング、リコンディショニング、救急対応の見学②
11	スポーツ現場の見学実習③	役割、業務、関わり、評価とコンディショニング、リコンディショニング、救急対応の見学③
12	スポーツ現場の見学実習④	役割、業務、関わり、評価とコンディショニング、リコンディショニング、救急

		対応の見学④
13	様々なトレーナー現場の見学①	年齢や性別、競技などプレイヤーに応じた対応①
14	様々なトレーナー現場の見学②	年齢や性別、競技などプレイヤーに応じた対応②
15	様々なトレーナー現場の見学③	年齢や性別、競技などプレイヤーに応じた対応③
16		

科目コード	53025				区 分	コア科目			
授業科目名	アスレティックトレーナー実習Ⅰ [PH用]				担当者名	河野 儀久／橋口 浩治			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

スポーツ現場や講話などを通してアスレティックトレーナーに必要なとされる役割についての意義と考え方を学び、具体的な評価から問題点抽出、予防・リハビリテーション介入までのプロセスを理解し、アスレティックトレーナーの業務内容を学ぶことをねらいとする。アスレティックトレーナー実習Ⅰでは見学実習を中心に必要な知識や技術を身につける。

#### <授業の到達目標>

検査・測定と評価についての方法であるHOPSやアスレティックリハビリテーション、外傷における応急処置、コンディショニングとしてストレッチングやテーピングなどアスレティックトレーナーの役割全般を主として見学を通して理解ができるようになることを目標とする。

#### <授業の方法>

実習はトレーニングセンターなどスポーツ現場で行う。必要に応じて資料を配布する。資料提示や課題の提示。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の該当箇所の予習として、検査・測定と評価、予防とコンディショニング、アスレティックリハビリテーション等のテキストについて各60分以上学習しておく。各回、実施した内容をまとめたレポートを復習課題として課す。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験50%、定期試験50%で評価する。

#### <教科書>

公益社団法人全国柔道整復学校協会（2019年3月） 競技者の外傷予防 医歯薬出版株式会社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	アスレティックトレーニングルーム見学実習①	問診の方法を見学して理解する。
2	アスレティックトレーニングルーム見学実習②	視診の方法を見学して理解する。
3	アスレティックトレーニングルーム見学実習③	触診の方法を見学して理解する。
4	アスレティックトレーニングルーム見学実習④	関節可動域方法を見学して理解する。
5	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑤	徒手筋力検査方法を見学して理解する。
6	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑥	アライメント検査方法を見学して理解する。
7	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑦	スペシャルテストを見学して理解する。
8	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑧	関節弛緩性検査を見学して理解する。
9	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑨	上肢のスポーツ外傷・障害の選手におけるアスレティックリハビリテーションを見学して理解する。
10	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑩	下肢のスポーツ外傷・障害の選手におけるアスレティックリハビリテーションを見学して理解する。
11	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑪	体幹のスポーツ外傷・障害の選手におけるアスレティックリハビリテーションを見学して理解する。

12	アスレティックトレーニングルーム見学 実習⑫	応急処置方法を見学して理解する。
13	アスレティックトレーニングルーム見学 実習⑬	テーピング法を見学して理解する。
14	アスレティックトレーニングルーム見学 実習⑭	ストレッチングを見学して理解する。
15	アスレティックトレーニングルーム見学 実習⑮	総合見学実習
16		

科目コード	53026				区 分	コア			
授業科目名	アスレティックトレーナー実習Ⅱ [PH2025年度生]				担当者名	河野 儀久／橋口 浩治			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

アスレティックトレーナーが外傷・障害の予防とリコンディショニング、そして救急対応を進める上で必要となる検査測定とリコンディショニング、救急対応方法について、その目的と意義を理解して具体的に実践できるまでの能力を習得することを目的とする。

#### <授業の到達目標>

各部位ごとの各種検査測定方法と救急対応とリコンディショニングとして、スポーツ動作分析と修正ができるようになることを目標とする。

#### <授業の方法>

実習。コンディショニングルーム、実技実習室内で講義・実習を進めていく。適宜レポート提出、復習テストなどを行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

救急処置、アライメントチェックなどの実技・実習

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前にテキストを読み、機能解剖学の復習を60分以上行い授業を受講すること。また、授業後は復習およびレポート作成について60分以上行い、レポートを提出すること。現場で救急処置のスキルが求められるため、各自、日本赤十字協会救急法救急員の取得すること。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%（出席評価、レポート）、検査測定実技達成度 70%で評価する。

#### <教科書>

#### <参考書>

公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第6巻 検査・測定と評価』（公財）日本スポーツ協会  
公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第5巻 救急対応』（公財）日本スポーツ協会  
公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第4巻 リコンディショニング』（公財）日本スポーツ協会

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ATに必要な評価	ATによる評価の目的、意義および役割
2	頭頸部の評価、救急対応、リコンディショニング	脳震盪、頸部捻挫
3	胸部の評価、救急対応、リコンディショニング	胸郭の機能不全
4	腰部の評価、救急対応、リコンディショニング	筋筋膜腰痛、腰椎間板ヘルニア、腰椎分離症
5	肩の評価、救急対応、リコンディショニング	投球障害、肩関節脱臼
6	肘・前腕の評価、救急対応、リコンディショニング	テニス肘、投球障害
7	手関節・手の評価、救急対応、リコンディショニング	手関節外傷・障害、手指靱帯損傷
8	骨盤帯・股関節の評価、救急対応、リコンディショニング	グロインペイン
9	大腿部の評価、救急対応、リコンディショニング	大腿部打撲、ハムストリングス肉ばなれ

10	ヨニング 膝関節の評価、救急対応、リコンディショニング	膝障害、膝靱帯損傷
11	下腿部の評価、救急対応、リコンディショニング	脛骨過労性骨膜炎、アキレス腱炎・断裂、下腿肉ばなれ
12	足関節・足部の評価、救急対応、リコンディショニング	足関節捻挫、足部障害
13	スポーツ動作の分析と修整	各種スポーツ動作
14	まとめ①	部位ごとの評価、救急対応、リコンディショニングにおける総合論議
15	まとめ②	部位ごとの評価、救急対応、リコンディショニングにおける総合論議 2
16		

科目コード	53026				区 分	コア			
授業 科目名	アスレティックトレーナー実習Ⅱ [PH用]				担当者名	河野 儀久／橋口 浩治			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

アスレティックトレーナーが外傷・障害の予防とリコンディショニング、そして救急対応を進める上で必要となる検査測定とリコンディショニング、救急対応方法について、その目的と意義を理解して具体的に実践できるまでの能力を習得することを目的とする。

### <授業の到達目標>

各部位ごとの各種検査測定方法と救急対応とリコンディショニングとして、スポーツ動作分析と修正ができるようになることを目標とする。

### <授業の方法>

実習。コンディショニングルーム、実技実習室内で講義・実習を進めていく。適宜レポート提出、復習テストなどを行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

救急処置、アライメント評価などの実技・実習

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前にテキストを読み、機能解剖学の復習を60分以上行い授業を受講すること。また、授業後は復習およびレポート作成について60分以上行い、レポートを提出すること。現場で救急処置のスキルが求められるため、各自、日本赤十字協会救急法救急員の取得すること。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%（出席評価、レポート）、検査測定実技達成度 70%で評価する。

### <教科書>

### <参考書>

公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第6巻 検査・測定と評価』（公財）日本スポーツ協会  
公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第5巻 救急対応』（公財）日本スポーツ協会  
公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第4巻 リコンディショニング』（公財）日本スポーツ協会

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ATに必要な評価	ATによる評価の目的、意義および役割
2	頭頸部の評価、救急対応、リコンディショニング	脳震盪、頸部捻挫
3	胸部の評価、救急対応、リコンディショニング	胸郭の機能不全
4	腰部の評価、救急対応、リコンディショニング	筋筋膜腰痛、腰椎間板ヘルニア、腰椎分離症
5	肩の評価、救急対応、リコンディショニング	投球障害、肩関節脱臼
6	肘・前腕の評価、救急対応、リコンディショニング	テニス肘、投球障害
7	手関節・手の評価、救急対応、リコンディショニング	手関節外傷・障害、手指靱帯損傷
8	骨盤帯・股関節の評価、救急対応、リコンディショニング	グロインペイン
9	大腿部の評価、救急対応、リコンディショニング	大腿部打撲、ハムストリングス肉ばなれ
10	膝関節の評価、救急対応、リコンディショニング	膝障害、膝靱帯損傷

	ヨニング	
11	下腿部の評価、救急対応、リコンディショニング	脛骨過労性骨膜炎、アキレス腱炎・断裂、下腿肉ばなれ
12	足関節・足部の評価、救急対応、リコンディショニング	足関節捻挫、足部障害
13	スポーツ動作の分析と修整	各種スポーツ動作
14	まとめ①	部位ごとの評価、救急対応、リコンディショニングにおける総合論議
15	まとめ②	部位ごとの評価、救急対応、リコンディショニングにおける総合論議 2
16		

科目コード	53026				区 分	コア			
授業科目名	アスレティックトレーナー実習Ⅱ [PP・PS用]				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

アスレティックトレーナーが外傷・障害の予防とリコンディショニング、そして救急対応を進める上で必要となる検査測定とリコンディショニング、救急対応方法について、その目的と意義を理解して具体的に実践できるまでの能力を習得することを目的とする。

#### <授業の到達目標>

各部位ごとの各種検査測定方法と救急対応とリコンディショニングとして、スポーツ動作分析と修正ができるようになることを目標とする。

#### <授業の方法>

実習。コンディショニングルーム、実技実習室内で講義・実習を進めていく。適宜レポート提出、復習テストなどを行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有。基本、2～3人組となり、実技を通して学習を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前にテキストを読み、機能解剖学の復習を60分以上行い授業を受講すること。また、授業後は復習およびレポート作成について60分以上行い、レポートを提出すること。現場で救急処置のスキルが求められるため、各自、日本赤十字協会救急法救急員の取得すること。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%（出席評価、レポート）、検査測定実技達成度 70%で評価する。

#### <教科書>

#### <参考書>

公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第6巻 検査・測定と評価』（公財）日本スポーツ協会  
公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第5巻 救急対応』（公財）日本スポーツ協会  
公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第4巻 リコンディショニング』（公財）日本スポーツ協会

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ATに必要な評価	ATによる評価の目的、意義および役割
2	頭頸部の評価、救急対応、リコンディショニング	脳震盪、頸部捻挫
3	胸部の評価、救急対応、リコンディショニング	胸郭の機能不全
4	腰部の評価、救急対応、リコンディショニング	筋筋膜腰痛、腰椎間板ヘルニア、腰椎分離症
5	肩の評価、救急対応、リコンディショニング	投球障害、肩関節脱臼
6	肘・前腕の評価、救急対応、リコンディショニング	テニス肘、投球障害
7	手関節・手の評価、救急対応、リコンディショニング	手関節外傷・障害、手指靱帯損傷
8	骨盤帯・股関節の評価、救急対応、リコンディショニング	グロインペイン
9	大腿部の評価、救急対応、リコンディショニング	大腿部打撲、ハムストリングス肉ばなれ
10	膝関節の評価、救急対応、リコンディショニング	膝障害、膝靱帯損傷

	ヨニング	
11	下腿部の評価、救急対応、リコンディショニング	脛骨過労性骨膜炎、アキレス腱炎・断裂、下腿肉ばなれ
12	足関節・足部の評価、救急対応、リコンディショニング	足関節捻挫、足部障害
13	スポーツ動作の分析と修整	各種スポーツ動作
14	まとめ①	部位ごとの評価、救急対応、リコンディショニングにおける総合論議
15	まとめ②	部位ごとの評価、救急対応、リコンディショニングにおける総合論議 2
16		

科目コード	53027				区 分	コア			
授業 科目名	アスレティックトレーナー実習Ⅲ				担当者名	江波戸 智希／河野 儀久			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

アスレティックトレーナーに必要とされるコンディショニングとリコンディショニング手法と、安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防を実習を通して学習、実践する。競技特性を理解し、競技に応じた対応について理解する。

### <授業の到達目標>

各種疾患およびコンディショニングに対して、適切な評価に基づくコンディショニング、リコンディショニング、健康管理と予防法、応急処置の技術を習得し、実際に選手に対して適応可能となることを目標とする。

### <授業の方法>

トレーニングセンターなど実際のスポーツ現場における実習形式で行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有3～4人組となり、実際の選手の評価を行い、リコンディショニングを行う。その後、選手の状態をグループ間で発表し、ディスカッションを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前にコンディショニングとリコンディショニング手法と、安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防等について60分以上、テキストを読んで準備する。また、授業後は復習およびレポート作成について60分以上行い、レポートを提出すること。現場で救急処置のスキルが求められるため、日本赤十字協会救急法救急員を修了すること。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（授業への取り組み、毎回の復習レポート）30%、実技試験70%で評価する。

### <教科書>

### <参考書>

公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第5巻 救急対応』  
『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第6巻 検査・測定と評価』（公財）日本スポーツ協会  
公益財団法人日本スポーツ協会 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト『第3巻 コンディショニング』（公財）日本スポーツ協会  
公益財団法人日本スポーツ協会 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト『第4巻 リコンディショニング』（公財）日本スポーツ協会

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	リコンディショニング実習概論1	リコンディショニングの計画1
2	リコンディショニング実習概論2	リコンディショニングの計画2
3	リコンディショニング実習1	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作1
4	リコンディショニング実習2	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作2
5	リコンディショニング実習3	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作3
6	リコンディショニング実習4	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作4
7	リコンディショニング実習5	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作5
8	リコンディショニング実習6	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作6
9	リコンディショニング実習7	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作7
10	リコンディショニング実習8	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作8
11	リコンディショニング実習9	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作9
12	リコンディショニング実習10	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作10
13	リコンディショニング実習11	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作11
14	リコンディショニング実習12	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作12
15	まとめ	これまでの計画の整理
16		

科目コード	53028				区 分	コア			
授業 科目名	アスレティックトレーナー実習Ⅳ				担当者名	江波戸 智希／河野 儀久			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

### ＜授業の概要＞

アスレティックトレーナーに必要とされるコンディショニングとリコンディショニング手法と、安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防を実習を通して学習、実践する。競技特性を理解し、競技に応じた対応について理解する。

### ＜授業の到達目標＞

各種疾患およびコンディションに対して、適切な評価に基づくコンディショニング、リコンディショニング、健康管理と予防法、応急処置の技術を習得し、実際に選手に対して適応可能となることを目標とする。

### ＜授業の方法＞

トレーニングセンターなど実際のスポーツ現場における実習形式で行う。

### ＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブラーニングの要素有3～4人組となり、実際の選手の評価を行い、リコンディショニングを行う。その後、選手の状態をグループ間で発表し、ディスカッションを行う。

### ＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前にコンディショニングとリコンディショニング手法と、安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防等について60分以上、テキストを読んで準備する。また、授業後は復習およびレポート作成について60分以上行い、レポートを提出すること。現場で救急処置のスキルが求められるため、日本赤十字協会救急法救急員を修了すること。

### ＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### ＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（授業への取り組み、毎回の復習レポート）30%、実技試験70%

### ＜教科書＞

### ＜参考書＞

公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第5巻 救急対応』  
『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第6巻 検査・測定と評価』（公財）日本スポーツ協会  
公益財団法人日本スポーツ協会 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト『第4巻 リコンディショニング』（公財）日本スポーツ協会  
公益財団法人日本スポーツ協会 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト『第3巻 コンディショニング』（公財）日本スポーツ協会

### ＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防概論	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防の計画とリコンディショニング
2	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防とリコンディショニング1	安全管理とコンディション評価、リコンディショニングと対象者のその後の予防に向けた取り組み1
3	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防とリコンディショニング2	安全管理とコンディション評価、リコンディショニングと対象者のその後の予防に向けた取り組み2
4	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防とリコンディショニング3	安全管理とコンディション評価、リコンディショニングと対象者のその後の予防に向けた取り組み3
5	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防とリコンディショニング4	安全管理とコンディション評価、リコンディショニングと対象者のその後の予防に向けた取り組み4
6	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防とリコンディショニング5	安全管理とコンディション評価、リコンディショニングと対象者のその後の予防に向けた取り組み5
7	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防とリコンディショニング6	安全管理とコンディション評価、リコンディショニングと対象者のその後の予防に向けた取り組み6
8	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防とリコンディショニング7	安全管理とコンディション評価、リコンディショニングと対象者のその後の予防に向けた取り組み7
9	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防とリコンディショニング8	安全管理とコンディション評価、リコンディショニングと対象者のその後の予防に向けた取り組み8
10	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防とリコンディショニング9	安全管理とコンディション評価、リコンディショニングと対象者のその後の予防に向けた取り組み9

11	害の予防とリコンディショニング9 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障 害の予防とリコンディショニング10	向けた取り組み9 安全管理とコンディション評価、リコンディショニングと対象者のその後の予防に 向けた取り組み10
12	害の予防とリコンディショニング11 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障 害の予防とリコンディショニング12	安全管理とコンディション評価、リコンディショニングと対象者のその後の予防に 向けた取り組み11
13	害の予防とリコンディショニング13 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障 害の予防とリコンディショニング14	安全管理とコンディション評価、リコンディショニングと対象者のその後の予防に 向けた取り組み12
14	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障 害の予防とリコンディショニング15	安全管理とコンディション評価、リコンディショニングと対象者のその後の予防に 向けた取り組み13
15	まとめ	まとめ
16		

科目コード	53042				区 分	コア科目			
授業科目名	特別講義Ⅰ [大学院向け]				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

経営学系大学院受験を考える学生の受験指導

#### <授業の到達目標>

目標とする大学院を選択し、試験に向けての準備を行う。

#### <授業の方法>

大学院全般のガイダンスと個別指導。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

面接指導、研究計画書作成指導、入学願書執筆指導、個別指導。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

受験する大学院によって、指定教科書、受験科目が違うので、受験する大学院が決まったら指定参考書により自主学習をすること。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

演習で出される課題の提出、研究計画書の作成などを総合的に評価。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	最初の授業で、大学院進学希望を聞き、それに合わせて授業内容を作成。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	53046				区 分	コア科目			
授業科目名	フィールドワーク				担当者名	鈴木 真理子			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本授業は11/28に開催される「企業のためのオープンキャンパス」を題材とし、社会人基礎スキルの習得 → 調査と企画 → 主催者・調理部門へのプレゼン → フィードバックを踏まえた改善 → 実施 → 報告というプロセスを体験する。現実 に即した学びを通じて、企画力・調整力・発信力を磨く。

#### <授業の到達目標>

1. 社会人基礎スキル：メールやアポイントメント、議事録の作成など、ビジネスの場での基本的な社会人基礎スキルを習得する。  
2. 論理的思考力と企画力：ターゲットとなる顧客（企業採用担当者）や主催者（キャリアセンター）のニーズを分析し、それに合致するメニューを論理的に企画できる。  
3. 原価計算：材料費を正確に算出し、数量計画を立てることができる。  
4. チームワークとリーダーシップ：チームメンバーと協力し、各自の役割を遂行しながら、プロジェクトを円滑に進めることができる。  
5. プレゼンテーション能力：企画内容を明

#### <授業の方法>

特徴的な学びの流れ（ディスカッション、プレゼン、グループワーク等が中心）1）企画を立てる（学生発想）2）現実を知る（主催者・調理部門の条件）3）改善する（制約の中で工夫）4）実施して、報告書を作成する（実社会でのアウトプット）パソコン必須。Googleアプリ、Googleクラスルーム利用。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素あり（グループワーク、インタビュー、プレゼンテーションなど）1～数人のグループに分かれ、調査・企画した内容をプレゼンテーションする。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

チームで、企画のディスカッションやプレゼンの準備をする（毎週数時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられている。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1. 基礎スキル演習（メール、議事録、質問リストなど）：25% 2. プレゼンテーション：25% 3. イベント運営・調査態度：30% 4. 最終報告書・発表：20%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	【9/30】オリエンテーション、社会人基礎スキル①	1) 授業の目的・流れの確認 2) 自己紹介 3) メールの書き方 主催者や調理部門に依頼・確認を行うためのメール演習 4) アポイントメントの取り方 打合せ依頼・スケジュール調整の練習
2	【10/7】社会人基礎スキル②	1) 質問リストの作成 主催者・調理担当・企業参加者に聞くべき内容を整理 2) ホワイトボードの使い方 3) 議事録の書き方 打合せを行い、要点を押さえた記録を作成
3	【10/14】調査とニーズ分析	過去の事例調査、ターゲット（企業担当）、主催者、調理担当者からヒアリング
4	【10/21】企画案作成①	11/28に開催される「企業のためのオープンキャンパス」での、メニュー案を企画し、プレゼンの準備をする。・各チームでメニュー案を具体化・コスト・提供方法・量・時間を想定・プレゼン資料の作成
5	【10/28】企画案プレゼン	主催者・調理担当部門へプレゼンテーションフィードバックを受ける
6	【11/4】企画案修正	フィードバックを反映し、案をブラッシュアップ改訂版企画案を主催者・調理部門に再提示
7	【11/11】宣材資料の作成(1)	顧客に訴求するストーリーを創る
8	【11/18】宣材資料の作成(2)	PRのためのPOPやチラシなどを完成させる
9	【11/25】報告書のフォーマット作成	事前に報告書の叩き台を作成し、そのためのデータ、アンケート、写真の準備などを進める
10	【11/28(金)3限】企業のためのOC当日	企画の実施
11	【11/28(金)4限】企業のためのOC当日	企画の実施
12	【11/28(金)5限】企業のためのOC当日	企画の実施
13	【12/2】報告書作成	アンケートのまとめ、写真の整理、宣材資料のまとめ、今後の課題など

14	【12/9】報告書作成	報告書の完成
15	【12/16】成果発表、振り返り	振り返りから学ぶ
16		

科目コード	53047				区 分	コア科目			
授業科目名	インターンシップ I [FE]				担当者名	濱嶋 幸司			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年・集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択（教育社会学コース生必修）

#### <授業の概要>

就業体験（インターンシップ）を通して、「仕事観・人生観を育成する」、「残りの学生生活ですべきことを明確にする」ことを目的とする。

#### <授業の到達目標>

1. 社会人として働くための心構えやマナーを身に付ける。2. 就職活動に必要な書類を知り、作成できる。3. 卒業後のキャリアビジョンについて説明ができる。

#### <授業の方法>

・学内でインターンシップについて学習する・インターンシップに参加する企業を決める・企業の方と顔合わせをおこなう・インターンシップの目標を決める・インターンシップに参加する・学内でインターンシップについて振り返る・成果をまとめ、報告する

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 事前指導でテーマにそって参加者同士で話し合い、意見をまとめ発表をおこなう 実習では積極的に課題に取り組む 事後指導・報告では実習成果を報告し、報告を聞いた聞き手は自身に得られた学びを伝える

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習として希望する企業調べを実施する。事後学習として実習企業の分析をする。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①20%、②60%、③20%①科目担当者の指示するガイダンスに出席②企業インターンシップ等への参加③事後学習：成果報告・提出レポート

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

特に指定なし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	インターンシップの目的と心構え
2	事前学習①	インターンシップ実習科目の目的とシステム
3	事前学習②	インターンシップ先の確定と事前挨拶
4	実習①	実習参加①
5	実習②	実習参加②
6	実習③	実習参加③
7	事後学習①	実習成果振り返り・お礼状作成
8	実習成果②	成果報告会・講評作成
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	53047				区 分	コア科目キャリア形成			
授業科目名	インターンシップ I [BC]				担当者名	小堀 浩志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習（ロールプレイング等）、実習（インターンシップ：就業体験）	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目では、インターンシップ（就業体験）をもとに、学生が組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）で働くうえで、獲得すべき職場文化や業務に求められる知識について理解することを目的とする。併せて、学生の学びたいこと・学ばせたいことをプログラム設計して、産官学連携の協力のもとコーオプ教育を推進しているため、積極的に、より具体的に就業先で実習できるプログラム（内容、目標、課題等）を定める必要がある。事前学習では演習（ロールプレイング）を通じ、社会人に求められるビジネスマナー・ビジネスコミュニケーション（具体的には挨拶、電話対応、報告・連絡・相談、コンプライアンス：法令遵守等）を学ぶ。事後学習ではインターンシップ先での業務活動と共に、プログラムに定めた課題等をレポートとしてまとめ、教員が指導・助言を行い、成果報告会（プレゼンテーション）等でのグループ討議を通じて実践的な学びを共有する。

### <授業の到達目標>

「実際の職場や組織で働く」を通して、「働く」こと、「仕事をする」こと、さらには大学を卒業して「社会人」になることなどに対する理解を深めることを目的とする。興味・関心のある業界・職業・職務等を理解・体験することにより、学生から社会人に移行する際のマッチングの重要性（情報の対称性）を知り、自身の期待との大きなギャップ（リアリティ・ショック）がないように有益な就業体験にする。

### <授業の方法>

組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）でのインターンシップ実習に加えて、事前・事後の学内講義（座学および演習：ロールプレイング）を行う。いずれも重要だが、特にインターンシップ実習は、遅刻・欠席をせず、まじめに取り組まなければならない。また、実習終了後には、成果報告レポートの提出が必要である。特段の理由がある場合を除き、座学・演習、実習、レポートのすべてを完了しなければ単位は認められない。受講者数によっては、成果報告会でのプレゼンテーションを追加する場合がある。短期インターンシップでは、実習の受入先と覚書と

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有り：演習（ロールプレイング、グループワーク）、プレゼンテーションなど

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

受講許可に際しては、前年度出席率85%以上、GPA2.0以上を基本条件とする。また、留学生の場合は原則として、上記2点に加えて、日本語能力検定試験N3相当が望ましい。インターンシップ（就業体験・夏期休暇期間）の期間中は、すべての日程に参加することを原則とする（特にその期間のアルバイトは原則禁止）。このほかの条件については、ガイダンスを実施して説明を行う。予習：実習先の企業等について包括的に調べ、理解を深めておく（1時間程度）。復習：実習での経験や成果を振り返り、今後の学生生活にどのように役立てるのかを考える

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

インターンシップ先からの評価 40%、授業への取り組み態度 30%、レポート課題・報告書及び報告（プレゼンテーション） 30%

### <教科書>

松高 政 インターンシップの教科書 ナカニシヤ出版

### <参考書>

指定しない。授業で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス「インターンシップ」とは	授業・実施の進め方、諸注意、各種手続き、履修条件について
2	インターンシップ事前準備（1） 参加申	インターンシップの存在理由と意義

	込書（エントリーシート）、誓約書、肖像権使用許諾書等必要書類組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）の研究・検討	
3	インターンシップ事前準備（2）	学生と社会人の違い、「働く」とはどういうことか？ 組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）の研究・検討
4	インターンシップ事前準備（3）	就職活動とインターンシップの関係
5	インターンシップに必要なマナー（1）	ビジネスマナーの理解と実践 面談・面接のマナー、ビジネスマナー（ロールプレイング）
6	インターンシップに必要なマナー（2）	エントリーシート、履歴書などの書類の書き方、機密保持について
7	決定就業体験先の組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）研究	組織研究の基本的な考え方、就業体験先についての調査・分析
8	インターンシップ実習前準備	個別面談、インターンシップ先面談、プログラム設計（内容・目標・課題等）
9	インターンシップ実習（1）	各実習先での就業体験
10	インターンシップ実習（2）	各実習先での就業体験
11	インターンシップ実習（3）	各実習先での就業体験
12	インターンシップ実習（4）	各実習先での就業体験
13	インターンシップ実習（5）	各実習先での就業体験
14	インターンシップ実習（6） ※専門活用型（長期）の履修の場合	各実習先での就業体験
15	インターンシップ実習（7） ※専門活用型（長期）の履修の場合	各実習先での就業体験
16		

科目コード	53068				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	幼児体育指導法Ⅰ				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

「幼児期運動指針」を理解し、幼児期に獲得させるべき基本的な動作、発達させるべき運動機能を学び、幼児期に必要とされる身体活動を量と質の両面から考慮された指導ができる知識を身に付ける。特に、幼児期における運動遊びの重要性と指導力を身につけることを目指す。特に、文献や先行研究調査し発表を持って、学習する機会を設ける。また、幼児の運動指導の必要性やその意義について、先進的な取り組みをもとに検討を行う。

#### <授業の到達目標>

①本授業を通して幼児が楽しむことのできる運動遊びを考えることができる。②子どもの運動発達の特徴及び『幼児期運動指針』の内容について理解し、他者に説明できる。③幼児期の身体活動の重要性を理解することができる。

#### <授業の方法>

講義及び演習並びに実技により授業を展開する。事前学習・授業内学習での文献の調査・発表を行う。またその発表をもとにディスカッション、グループワークを実施する。パソコン・タブレットを用いて文献の発表を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

ディベートを用いる

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

参考図書・参考資料に目を通し、授業で提示される各テーマに沿って、幼児期の運動発達・スキルの獲得に関する基本的理解を深め（30分程度）、毎時提示される課題に対し、レポート作成に取り組む（90分程度）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日常の授業における授業内課題（70％）。事前学習課題（30％）。

#### <教科書>

文部科学省 幼児期運動指針 文部科学省

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業概要・幼児・体育・指導	授業概要の解説と幼児体育指導についての解説
2	幼児体育に関する理論1	幼児期の発達的特徴に応じた運動指導の在り方について
3	幼児体育に関する理論2	幼児の体力・運動能力、運動能力の発達段階について
4	運動能力の測定①	運動能力測定の手法について（走・跳・投）
5	運動能力の測定②	運動能力測定の手法について（柔軟性・巧緻性など）
6	運動能力の評価	運動能力測定結果の評価と活用
7	幼児体育に関する理論3	幼児の運動に関する現状と課題、遊びとしての運動の重要性
8	幼児体育の意義1	幼児体育のあり方についての調査
9	幼児体育の意義2	幼児体育のあり方についてのディベート1
10	幼児体育の意義3	幼児体育のあり方についてのディベート2
11	幼児教育現場での体育・運動・スポーツ	身体活動量を意識した運動遊び
12	東岡山IPUこども園での運動遊び	用具を用いない多様な運動遊び
13	ニュージーランド保育と運動	用具を用いた運動遊び
14	幼児体育指導と安全	子どもの怪我やリスクマネジメントについて学習する
15	まとめおよび全体の振り返り	授業内容全体の振り返りと幼児体育2への接続
16		

科目コード	53069				区 分	コア			
授業 科目名	幼児体育指導法Ⅱ				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

幼児期に求められる運動のあり方を学び、発達段階に適した運動指導の考え方や指導者の役割を理解する。様々な年代の子どもたちに対して、どのような遊びや動きを通してスポーツあるいは競技の基礎を習得させていくのか、また、積極的に運動に取り組む習慣を身に付けさせる方法について考案し、プログラムの立て方や運動指導方法について学習する。本講義では「体力測定」の取り組みから、子どもとスポーツ、心身の健康について考え、幼児期にとってのスポーツが子どもに「よい影響」となるように指導者として必要な知識、倫理観、指導技術を獲得することをねらいとする。

### <授業の到達目標>

①年中児から小学校低学年に適した体力向上につながる取り組みを理解できる。 ②心身の発育発達について十分に理解し、子どもとスポーツ実践に関して指導者としてふさわしい倫理観を獲得する。

### <授業の方法>

講義と座学の演習方式で進める。受講者はGoogleクラスルームに参加し、そこから課題や連絡を受取る。毎時のレポートはGoogleフォームから投稿する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

実技指導を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎時の学習テーマに関する事前課題（60分）に取り組むこと。授業後は指示に応じてレポートを作成し、所定の方法で提出すること（60分）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート課題 50%、指導実施計画 30%、指導技術 20%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業内容と評価方法の説明。子どもと健康に関する学習状況の振り返り。
2	ウェルビーイングのための幼児体育(1)	幼児期における運動の効果と適切な実施方法について理解する。
3	ウェルビーイングのための幼児体育(2)	東岡山IPUこども園での測定にイメージを持たせる。
4	ウェルビーイングのための幼児体育(3)	東岡山IPUこども園での測定を行う。
5	遊びの観察	東岡山IPUこども園での遊びを観察する。
6	観察の振り返り	観察でみられた場面の振り返りを通して、必要な遊び、運動能力について考える。
7	遊びの考案：子どもの発達を踏まえる	子どもの発達段階を踏まえて、提供したい遊びについて検討する。
8	遊びの模擬：子どもの発達を踏まえる	考えた遊びで、模擬保育を行い実際の指導時の工夫について理解する。
9	遊びの準備	指導案作成、準備物作成を通して計画的な遊びの実践力を身につける。
10	遊びの実践：コーナー遊びの提供①	考えた遊びを東岡山IPUこども園で提供する。
11	遊びの実践：コーナー遊びの提供②	考えた遊びを東岡山IPUこども園で提供する。子どもの反応や変化の記録をとる。
12	遊びの実践：振り返り	2回の実践を通して振り返りを行う。
13	遊びの実践：コーナー遊びの提供③	振り返り・改善した遊びを再度提供する
14	遊びの実践：コーナー遊びの提供④	振り返り・改善した遊びを再度提供する。
15	まとめ	指導計画に対して教材・教具や指導方法が適切だったかを振り返り、今後の展望について考える、レポートにまとめる。
16		

科目コード	53070				区 分	コア			
授業 科目名	幼児体育指導法Ⅲ				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

幼児期に求められる運動のあり方を学び、発達段階に適した運動指導の考え方や指導者の役割を理解する。様々な年代の子どもたちに対して、どのような遊びや動きを通してスポーツあるいは競技の基礎を習得させていくのか、また、積極的に運動に取り組む習慣を身に付けさせる方法について考案し、プログラムの立て方や運動指導方法について学習する。本講義では「体力測定」の取り組みから、子どもとスポーツ、心身の健康について考え、幼児期にとってのスポーツが子どもに「よい影響」となるように指導者として必要な知識、倫理観、指導技術を獲得することをねらいとする。

### <授業の到達目標>

①年中児から小学校低学年に適した体力向上につながる取り組みを理解できる。 ②心身の発育発達について十分に理解し、子どもとスポーツ実践に関して指導者としてふさわしい倫理観を獲得する。

### <授業の方法>

講義と座学の演習方式で進める。受講者はGoogleクラスルームに参加し、そこから課題や連絡を受取る。毎時のレポートはGoogleフォームから投稿する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

東岡山IPUこども園での観察、遊びの提案を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎時の学習テーマに関する事前課題（60分）に取り組むこと。授業後は指示に応じてレポートを作成し、所定の方法で提出すること（60分）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート課題 50%、指導実施計画 30%、指導技術 20%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業内容と評価方法の説明。子どもと健康に関する学習状況の振り返り。
2	ウェルビーイングのための幼児体育(1)	幼児期における運動の効果と適切な実施方法について理解する。
3	ウェルビーイングのための幼児体育(2)	海外の教育要領や指針から幼児期における運動の効果と適切な実施方法について学習する。
4	ウェルビーイングのための幼児体育(3)	第3回目で学習した内容から、幼児体育あるいは幼児期におけるスポーツ活動における適切な実施方法について考察する。
5	幼児期のスポーツ実践におけるコーチング(1)	指導者のリーダーシップについて学習する。
6	幼児期のスポーツ実践におけるコーチング(2)	年間指導実施計画を作成する。
7	幼児期のスポーツ実践におけるコーチング(3)	年間指導実施計画をもとに月案を作成する。
8	幼児体育と体力(1)	スポーツの種類と競技特性について理解し、幼児期の運動における実践方法について考察する。
9	幼児体育と体力(2)	スポーツの種類と競技特性について理解し、体力要素との関連を考察する。
10	幼児体育と体力(3)	各競技で求められる主要な体力要素について理解し、指導計画を作成する。
11	幼児期のスポーツ実践における教材・教具研究(1)	各競技で求められる競技特性および主要な体力要素に合わせた教材・教具を作成する。
12	幼児期のスポーツ実践における教材・教具研究(2)	各競技で求められる競技特性および主要な体力要素に合わせた教材・教具を作成する。
13	幼児期のスポーツ実践における教材・教具研究(3)	作成した教材・教具を使って模擬授業を行う。
14	幼児期のスポーツ実践における教材・教具研究(4)	作成した教材・教具を使って模擬授業を行う。

15	まとめ	指導計画に対して教材・教具や指導方法が適切だったかを振り返り、今後の展望についても考え、レポートにまとめる。
16		

科目コード	53073				区 分	コア科目			
授業 科目名	保育マネジメント演習Ⅲ				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

保育現場がどのように運営されているかを、観察および振り返りを中心として学び、実践力と運営力の基礎を学ぶことを目的とする。毎回、テーマに沿って東岡山IPUこども園の保育観察を実施する。観察後は事後課題としてレポートの提出を求める。保育の観察および振り返りの充実により、保育者としての資質の向上を図る。どのように保育が展開され、子どもの育ちにつながるのかを理解するための、観察手法を身につける。

### <授業の到達目標>

目標①保育の観察するスキルを身につける。②観察を通して保育運営に関する知識を身につける。①に関しては、観察の態度、視点、考察力を求める。態度に関しては観察に徹底することを重要視するため、私語は慎む、保育参加をしない、子どもとの関わりを不用意に実施しないことを必要とする。視点に関しては、毎回の講義で観察のテーマを提示する。テーマに沿った視点で保育内容や子どもの姿、保育者の準備、運営、保育の展開の観察を必要とする。考察力に関しては、事実と考察を切り離して考えることができるか、考察は飛躍せず内容が十分なもの

### <授業の方法>

東岡山IPUこども園連携科目、グループ演習、保育観察、フィードバック

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

保育観察・ディスカッション

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

準備学習観察のポイントに関する事前学習を行うこと。（事前学習課題あり）また観察後は事後学習として振り返りを実施する。（事後課題あり）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績・評価に関する項目事前学習課題（2点×10回）・観察課題（1点×10回）、振り返り課題（5点×10回）、学びの共有レポート課題（5点×4回）

### <教科書>

### <参考書>

柴山真琴 子どもエスノグラフィー入門～技法の基礎から活用まで子どもにかかわる実践に携わるすべての人に 新曜社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・東岡山IPUこども園の概要	東岡山IPUこども園の設置の背景、保育理念、こども園での取り組み、施設設備、在園児、教職員数など概要の説明。
2	保育観察手法について	保育の観察における心構え、態度、視点、手法に関する講義を実施する。
3	東岡山IPUこども園全体の観察	施設設備、子どもの様子、保育者の様子など全体的な観察を行う。
4	子どもの遊びの観察	子どもの遊びに着目し、時間、内容、会話、保育者との関わりの観察を行う。
5	施設備品の観察	保育環境を含めた、備品・消耗品
6	観察手法に関する振り返り第7回から第13回までの観察テーマの検討	観察手法に関して振り返りを行い、課題、現状の把握を行う。特によく観察できている例を紹介し、観察に関する知識・スキルの向上を図る。第7回から第13回は年齢ごとに観察を行うため、一貫した観察を行うためのテーマ設定をする。
7	0歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、0歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
8	1歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、1歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
9	2歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、2歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
10	3歳未満の保育理念に沿った保育に関する学びの共有	保育理念に基づいた保育について、3歳未満の観察をもとに観察場面をもとに考察を行う。
11	3歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、3歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
12	4歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、4歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
13	5歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、5歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
14	3歳以上の保育理念に沿った保育に関する	3歳以上の保育理念に沿った保育に関する学びの共有

15	<p>学びの共有</p> <p>保育理念に基づいた保育について、3歳以上の観察をもとに観察場面をもとに考察を行う。</p>	全体を通して観察に必要なスキル、知識のまとめ
16		

科目コード	53074				区 分	コア			
授業 科目名	保育マネジメント演習Ⅳ				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

保育マネジメントⅠに続き、保育現場がどのように運営されているかを、観察および振り返りを中心として学び、実践力と運営力を学ぶことを目的とする。毎回、テーマに沿って東岡山IPUこども園の保育観察を実施する。観察後は事後課題としてレポートの提出を求める。保育の観察および振り返りの充実により、保育者としての資質の向上を図る。どのように保育が展開され、子どもの育ちにつながるのかを理解するための、観察手法を身につける。特に保育マネジメントⅡでは、保育内容・保育の質に焦点を当てて、観察を行う。

#### <授業の到達目標>

①保育の観察するスキルを身につける。②観察を通して保育運営に関する知識を身につける。①に関しては、観察の態度、視点、考察力を求める。態度に関しては観察に徹底することを重要視するため、私語は慎む、保育の参加しない、子どもとの関わりを不用意に実施しないことを必要とする。視点に関しては、毎回の講義で観察のテーマを提示する。テーマに沿った視点で保育内容や子どもの姿、保育者の準備、運営、保育の展開の観察を必要とする。考察力に関しては、事実と考察を切り離して考えることができているか、また考察は飛躍せず内容が十分なもの

#### <授業の方法>

保育観察を基本とする。場合によっては、現場保育者へのヒアリング、研修会への参加を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

保育観察・ディスカッション

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

観察のポイントに関する事前学習を行うこと。また観察後は事後学習として振り返りを実施する。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

○事前学習課題（2点×10回）、△観察課題（2点×5回）、■振り返り課題（6点×10回）、◎学びの共有レポート課題（5点×2回）

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・東岡山IPUこども園の概要	東岡山IPUこども園の設置の背景、保育理念、こども園での取り組み、施設設備、在園児、教職員数など概要の説明。
2	年間計画、月案、週案、日案○	指導計画に基づいた保育内容に着目し、保育の観察を行う。
3	年間計画、月案、週案、日案○■	第3回とは異なるクラスでの指導計画に基づいた保育内容に着目し、保育の観察を行う。
4	組織運営○■	こども園という組織形態について学ぶ。組織の目標設定と進捗管理
5	主任の業務○■	主任の業務内容の把握、保育者への助言について。
6	保育者の倫理観○■	保育者の倫理意識の向上不適切保育防止に対する取り組み
7	ICT機器の導入	ICT機器の導入に関する費用、設置基準、実際に活用している保育者の声を聞く。
8	学びの共有◎第9回から第14回までの観察のクラス・テーマ決め	第1, 2, 3, 4, 5, 6, 7回の学びのまとめグループワーク形式での共有、発表第9回から第14回までの観察のクラスを決める
9	健康領域の観察○△■	領域健康に焦点を当て、観察を行う。
10	人間関係領域の観察○△■	領域人間関係に焦点を当て、観察を行う。
11	環境領域の観察○△■	領域環境に焦点を当て、観察を行う。
12	言葉領域の観察○△■	領域言葉に焦点を当て、観察を行う。
13	表現領域の観察○△■	領域表現に焦点を当て、観察を行う。
14	保育内容5つの領域の相互関連と保育者の関わりについての振り返り◎	保育内容の5つの領域に関する、関連・保育内容の運営を検討する。
15	全体を通して観察に必要なスキル、知識のまとめ■	全体を通して観察に必要なスキル、知識のまとめ■
16		

科目コード	53076				区 分	コア科目			
授業科目名	教職実践演習 [幼保]				担当者名	檜 日佳			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

学んできた教育・保育の理論や技術、教育実習や保育実習で得た学びを個別の「履修カルテ」を通して振り返り、自己課題と学習内容を明確にする。また、幼稚園・保育所・認定こども園・施設の保育者に共通して求められる資質能力及び保育活動における指導力を確かなものにするため、指導計画作成、保育実践、振り返り等を取り入れる。保育実践と振り返りを組み合わせることでより実践力を高めていく。

### <授業の到達目標>

1. 保育者として備えるべき姿勢や心構え、役割などの基本的な事項を理解し、説明することができる。2. 保育者として持つべき基本的な指導力を知り、実際に指導計画を立て、実践できる。3. 保育者としての自分の力量を知り、伸ばすための方法を知り、使うことができる。

### <授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明・課題についてのグループワーク・課題についての演習

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有。5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめてグループごとに発表を行う。グループごとに演習を行い振り返りをする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：学習予定表に沿って、次回の内容に関する関連資料や課題を読み、授業の準備をする。・復習：各回の講義内容について、個人またはグループで講義ごとのワークシートの追加記入や復習をする。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲20%、課題50%、試験30%

### <教科書>

### <参考書>

文部科学省（2018） 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省（2018） 保育所保育指針解説 フレーベル館

内閣府（2018） 認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	「保育・教職実践演習」とは	授業の概要と目標、授業の流れ履修カルテの記入と分析、自己課題の設定
2	専門職としての自覚	専門性に基づく関わりの必要性教育・保育・福祉の専門家として求められる資質・能力
3	子どもの理解と人権 (1)	全国保育士会『人権擁護のためのセルフチェックリスト』を活用した関わりの振り返りと人権意識の再確認
4	子どもの理解と人権 (2)	関わりの5つの基本と肯定的な関わりの演習
5	子どもの理解と人権 (3)	個性や特性を尊重した関わりと保護者や関係機関との連携
6	保護者支援 (1)	子育て支援の必要性と役割子どもにも大人にも共通する関わりの基本
7	保護者支援 (2)	保護者対応の基本と演習
8	指導案の作成 (1)	指導案の作成とPDCAサイクルの活用期案、月案、週案、日案の作成 (1)
9	指導案の作成 (2)	期案、月案、週案、日案の作成 (2)
10	事例研究 (1)	エピソード記録と育ちの分析 (1)
11	事例研究 (2)	エピソード記録と育ちの分析 (2)
12	ドキュメンテーション記録 (1)	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を活用した育ちを可視化するドキュメンテーション記録の作成 (1)
13	ドキュメンテーション記録 (2)	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を活用した育ちを可視化するドキュメンテーション記録の作成 (2)
14	保育職としてのキャリア形成	専門職として学び続ける必要性と自己課題保育のやりがいとキャリア形成
15	学びの分析と学習評価	4年間の学びの分析とまとめ
16		

科目コード	53076				区 分	キャリア形成科目			
授業科目名	教職実践演習 [中高保体]				担当者名	早田 剛／清田 美紀／大井 理緒／坂本 康 輔			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業では、まず教職課程において学生各自が身につけてきた力量について履修カルテを元に検討することを通して、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを認識させることから始める。そして、その課題意識に応じた模擬授業の実践と振り返りを通して、不足している知識や技術、技能等を補い、教員としての力量形成を図る。その際、事実に基づいた振り返りとなるよう、データの収集や分析にICTを導入する。最後に、成果報告会において、教員として必要な資質能力の定着状況について確認する。

### <授業の到達目標>

教育に対する使命感や情熱を持ち、さまざまな子どもに対しての理解力、学級経営力、生徒指導力、学習指導力等、教育現場に必要な教育実践力を身につける。また、その力で教育現場でのさまざまな課題に対し、主体的に取り組み、解決しようとする態度を身につける。

### <授業の方法>

講義（アクティブラーニングの観点から履修カルテと模擬授業で解決する課題を結びつける）、模擬授業（ICT機器を用いた撮影やデータ分析を含む）、ディスカッション（Google Classroomを用いた課題管理とレポート提出を含む）

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング有：ICTを用いた共同作業やディスカッションを行う

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

体づくり運動、器械運動、陸上競技等、各授業テーマ、題材に沿って事前に調べておく課題、準備しておく資料がある。各授業テーマ毎に授業案を作成しておくこと。予習：2時間、復習：1時間

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

教師として授業に臨む姿勢30%、各授業でのミニレポート 40%、分析レポート 15%、演習への参加と討論への参加状況 15%

### <教科書>

### <参考書>

文部科学省（2017） 中学校学習指導要領解説 保健体育編 東山書房

文部科学省（2018） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 東山書房

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	教職実践演習受講の心構え、履修カルテの記入方法
2	教育現場で必要となるICT演習①	Googleドキュメントの活用
3	教育現場で必要となるICT演習②	スプレッドシートの活用
4	教育現場で必要となるICT演習③	Googleクラスルームの運営
5	教育現場で必要となるICT演習④	JamBoardの活用
6	教育現場で必要となるICT演習⑤	これまでの振り返り
7	これからの武道教育	学校では武道の何をどう教えるべきか
8	学級経営について	1年目からでもできる良い学級経営のためのポイントとは
9	学校における体育行事	体育的行事はどう進め方がいけば良いか
10	保健体育授業のテクニック①	活動量を確保するための授業マネジメント
11	保健体育授業のテクニック②	活動の妨げにならないワークシートの作り方、使い方は
12	保健体育授業のテクニック③	多様な他者とともに楽しむスポーツ指導を目指して
13	保健体育授業のテクニック④	体育授業中に予想外なことが起きたらどう対処するのか
14	保健体育教師の資質・能力	保健体育教師のキャリア形成
15	授業全体のふりかえり	今後の教育の方向、求められる教員の資質、役割、使命感
16		

科目コード	53076				区 分	コア科目			
授業科目名	教職実践演習 [小学校]				担当者名	内田 仁志／鈺 悠介／奥山 優／安井 正郎／ 坂根 清貴／藤原 佳代子／浅野 良一／練苧 千之／木野 正一郎／三堀 仁／小川 智勢子／ 藤井 健太郎／千葉 照久／高橋 章二／大野呂 浩志／林 栄昭／木戸 和彦／小澤 尚子／浅田 栄里子／前田 一誠／本藤 展康			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目は、教職課程等での講義及び介護体験・教育実習等で身につけた力を総合し、教師に求められる使命感や教育的愛情・人権感覚などの人間性を一層培うために、教職に就く学生の最終授業である。授業概要としては、教員に求められる共通的な資質能力及び実践的指導力の向上を図る。そのために現在までに学んだ教育理論や実習体験等を整理し、履修カルテを最大限に活用することで自分自身の弱点を補完することを目標とした授業であるので、全ての授業に参加することが最低の目標でもある。

### <授業の到達目標>

児童に深い愛情を持ち適切な人間関係を築くことができるコミュニケーション能力や発達段階に応じた各教科及び領域の指導力、生徒指導力などを最終学年において確かなものとするができるようになる。

### <授業の方法>

講義、ロールプレイ、小グループでの討論、PCを活用した演習Googleクラスルームによる課題管理

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有・5, 6人のグループに分かれて、毎回のテーマに沿ってディスカッションを行い、まとめてグループごとに発表する。・講義内容に沿って、役割演技やグループワークなどの演習を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

理解度を深めるために、授業計画のテーマに基づき、1年から4年前期までに使用した教科書・レジメ・実習ノートなどを活用して、自分の考えをまとめておくこと。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、受講態度 20%、講義内での課題等 20%、最終レポート 40%

### <教科書>

特に指定しない。特に指定しない。

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ガイダンス教職実践ボランティア
2	これからの日本の教育	国が求める教育の最新動向教職実践ボランティア
3	特別支援教育の実際	障害のある児童生徒が在籍する学級経営
4	生徒指導の実際①	生徒指導の基本的な心構えほめ方と叱り方
5	学校現場が必要としている教員	教育委員会からの講話めざす教師像についてグループ協議
6	生徒指導の実際②	いじめ問題への対応不登校問題への対応
7	地域連携の実際	地域と連携した生活科の授業づくり
8	ふるさと教育のめざすもの	教育委員会の講話グループ協議
9	学校保健、学校安全の実際	学校保健、学校安全への心構えけが、食物アレルギー等への対応
10	人権教育を核とした学級づくり	教師としての心構え人権教育を核とした学級づくりの実際
11	特別活動を通した児童生徒による主体的な学級づくり	特別活動の進め方児童生徒による主体的な学級づくりの実際
12	コンプライアンス	教育委員会の講話事例によるグループ協議
13	学級経営計画案の作成	学級経営計画案の意義学級経営計画案の作成
14	社会人としての基本マナー	あいさつ 言葉遣い保護者への対応IPUを巣立つみなさんへ
15	教職実践演習のまとめ最終レポート	学修のまとめ最終レポートの作成
16	赴任前後の事務手続き	着任前の準備事務手続きのスケジュールと内容

科目コード	53076				区 分	コア科目			
授業科目名	教職実践演習 [中高英語]				担当者名	伊藤 仁美／竹下 厚志			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業では、これまでに受講した授業と教育実習の振り返りを通してこれまでの学びの内容を確認し、英語教師としての自己成長を続けることのできる能力の習得を目指します。より高度な実践力として概念化学習、教材作成、テスト作成に加え、海外交流も視野に入れた実践的コミュニケーション力の育成も同時に行います。

### <授業の到達目標>

①英語力および授業力を高め自己研鑽をするなど『英語教師の成長』について考え見通しを立てることができる。②教育実習の経験を踏まえたうえで様々な教育課題を建設的に批判し、解決に向けての具体案を提示できる。③海外交流に必要な英語力を身に着けることができる。

### <授業の方法>

(1)講義（教員による解説と問いの提示） (2)グループワーク（教材開発およびテスト作成） (3)ディスカッション（テストおよび海外交流関連） (4)プレゼンテーション（テスト開発） (5)海外交流に関する発表

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり。プレゼンテーション、ディスカッション

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容の事前学習（1時間程度） 復習：英語トレーニング（毎日2時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①授業への積極的な参加姿勢・グループ活動での貢献 20%、②発表（テスト作成および海外交流関係） 50%、③課題・レポート 30%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	教職実践演習の目的、基本的な言語習得研究の確認、英語力の確認
2	単元のまとめ学習 1	各単元や年間のまとめ学習指導 1
3	単元のまとめ学習 2	各単元や年間のまとめ学習指導 2
4	概念化学習 1	教科書のテーマを概念化から再分析 1
5	概念化学習 2	教科書のテーマを概念化から再分析 2
6	教材作成	テーマの概念化に基づき、教科書の応用としての教材開発
7	概念化学習発表	概念化に基づく授業づくりの発表
8	海外交流 1	リサーチに基づく発表準備 1
9	海外交流 2	リサーチに基づく発表準備 2
10	海外交流 3	リサーチに基づく発表準備 3
11	テスト作成	テスト作成発表準備
12	テスト作成発表 1	作成したテスト内容の発表 1
13	テスト作成発表 2	作成したテスト内容の発表 2
14	テスト作成発表 3	作成したテスト内容の発表 3
15	まとめ	全体の振り返り
16		

科目コード	53077				区 分	コア			
授業 科目名	フィールドラーニング I				担当者名	濱嶋 幸司			
配当年次	3年	配当学期	通年・集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択（教育社会学コース生必修）

#### <授業の概要>

実際に学内外へのフィールドワークを行い、フィールドワーク先の現状、良さ、課題などを自らデータを収集し、自分たちが何ができるかを主体的に学ぶことを目的とする。自分たちの調査の成果発表は、課題を解決する具体的な提案という形式でフィールド関係者に伝え、取組に対する評価を受ける。

#### <授業の到達目標>

①フィールドの課題を自らの力で見つけ出すことができる。②フィールドの課題を個人またはグループで掘り起こし、調査することができる。③フィールドから学んだ成果をまとめ、他者に伝えることができる。④フィールドの課題を解決する提案を具体的なものとして示すことができる。

#### <授業の方法>

個人もしくはグループ活動を中心として事前準備→実習→成果・振り返り→課題と改善策の提案をおこなう。授業の序盤はフィールドワークの技法、フィールドから得られる学び何かについて、マナーや心得を学ぶ。中盤ではフィールドに出て、情報や知見をデータとして収集する。フィールドの成果を中間報告として学内で発表する。最終回で自分たちが見つけた課題とその改善策をフィールド関係者に向けて報告し、質疑応答・評価を受ける。積極性をもって現場に向き合い、現場の人とコミュニケーションを図り、自分たちがどのような貢献ができるのか、教室

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 事前指導ではテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う 実習では自ら進んで課題に取り組む 事後指導では実習成果を参加者同士で共有するため、聞き手は報告者にフィードバックを行う

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

フィールドでの活動が中心となるが、その前の事前準備、事後の振り返り、収集した情報のとりまとめ・分析も授業時間外におこなうことになる。事前や事後の学習内容と時間はフィールドでの活動状況に応じて変わってくる。真剣に取り組むことで、所定の学修時間を大幅に上回るだろう。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

意欲態度 40%、実習での取組および姿勢 15%、実習前後の学内での取組 15%、提案報告 30%。

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

特に指定なし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	事前：オリエンテーション	科目のねらい・到達目標の確認
2	事前：フィールドワークの作法	フィールド参加の心得、参与観察、調査方法の説明
3	事前：フィールドを決める	課題の掘り起こし
4	事前：フィールドへの準備	入念な実習準備
5	実習①	フィールドに入る（参与観察）
6	実習①	フィールドの特性・良さを知る
7	実習①	聞き取りや資料を通じて課題をみつける
8	中間：実習の成果①	実習①振り返り・成果の確認
9	中間：実習の成果②	提案準備
10	中間：実習の成果③	提案学内報告→練り直し
11	中間：実習の成果④	提案再準備
12	実習②	フィールドに入る（参与観察）
13	実習②	成果と課題を伝える
14	事後：成果の共有	実習②の成果を学内で報告
15	事後：ふりかえり	実習②振り返りと次に向けての行動確認
16		

科目コード	54000				区 分	コア科目			
授業科目名	資格検定対策Ⅰ（語学系）[BC留学生用]				担当者名	小宮 さおり			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### ＜授業の概要＞

本授業は、日本語能力試験N2に合格することを目標としている。日本語能力試験は、言語知識（文字・語彙・文法）、読解、聴解からなるが、本授業では、言語知識分野を扱う。授業外の学習を重視し、授業外に指定の教材で文字・語彙の自習をしてもらい、授業の初めに毎回小テストを実施する。文法は予習（知識理解）を前提とし、授業では演習を中心に進める。読解と聴解については、適宜課題を与え、自習してもらい、誤りが多かった問題を中心に解説する。試験の可否には、授業外にどれだけ受講者が自主的に学習するかどうかが大きく影響するため、本授業では授業外に多くの練習問題を課題として出すほか、授業の中で個別の質問にできる限り答えることで、受講者の学習を支援する。

### ＜授業の到達目標＞

日本語能力試験N2レベルの日本語能力を身につけることを目標とする。試験対策の授業であるが、試験対応の技術ではなく、日本語能力試験N2レベルの日本語能力を身につけることを目的としている。

### ＜授業の方法＞

オリエンテーションで提示したスケジュールに沿って、授業の初めにN2レベルの文字・語彙の小テストを毎回実施し、言語知識の学習を中心に行う。試験前らは、N2レベル模擬問題を使用する。

### ＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

本授業では、語彙・文法クイズ、ディスカッション、ピアレビューなどのアクティブラーニングを取り入れ、試験対策に必要なスキルを強化する。

### ＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

単に授業を聞いて内容を理解したと思うだけでは、試験に合格できない。多くの問題に挑戦し、自身の理解を確かめ、理解できた知識を覚えなければならない。したがって、本授業では課題を多く出す。復習と課題で2時間程度の準備学習が必要である。

### ＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）およびディプロマポリシー5（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

### ＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題の提出20%、小テスト30%、期末テスト40%、授業参加度10% 課題に関するフィードバックは授業内で行う。授業外の質問にも適宜対応する。

### ＜教科書＞

ABK（公益財団法人 アジア学生文化協会） TRY! 日本語能力試験N2 文法から伸ばす日本語 ASK  
星野恵子・辻和子 ドリル&ドリル 日本語能力試験 N2 文字・語彙 UNICOM

### ＜参考書＞

### ＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業内容・評価方法の説明。課題・質問のやり取りの説明
2	文字・語彙1 文法1.	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
3	文字語彙2 文法2（1）	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
4	文字語彙3 文法2（2）	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
5	語彙4 文法3	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
6	語彙5 文法4	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
7	語彙6 文法5（1）	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
8	語彙7 文法5（2）	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
9	語彙8 文法6（1）	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
10	語彙9 文法6（2）	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
11	語彙10 文法7（1）	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
12	語彙11 文法7（2）	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
13	語彙12 文法8	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
14	期末テスト	テスト
15	まとめ	テスト返却、フィードバック
16		

科目コード	54000				区 分	コア			
授業科目名	資格検定対策 I (語学系) [BC日本人生用]				担当者名	溝越 隆興			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業は、海外または国内での1～2週間の短期研修を通じて、語学力・異文化理解・行動力・課題解決力など、グローバル社会で必要とされる力を実践的に育成する。研修前には、グローバル人材の定義や異文化理解、語学表現などの基礎を学び、研修後には成果の振り返りとプレゼンテーションを行う。

### <授業の到達目標>

・グローバル人材に求められる資質・能力を理解する。・研修先の文化・社会背景に関する基礎知識を身につける。・語学的・文化的課題に対する主体的な対応力を高める。・研修体験を振り返り、成果をプレゼンテーションとして発信できる。

### <授業の方法>

対面による講義とグループワーク、研修（海外・国内）、帰国後のプレゼンテーションを組み合わせた実践型授業。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：・グループディスカッションによる異文化対応ケーススタディ・ロールプレイによる語学・文化対応訓練・グループでの発表準備とフィードバック交換・研修中のフィールドワーク・現地交流活動

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・復習時間：毎回90分程度を想定事前学習（語学練習、現地情報収集、目標設定）授業後の振り返り・記録（ワークシート、ジャーナル作成）プレゼン資料作成と練習（授業後の自己学習）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）およびディプロマポリシー 5（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業参加・課題提出（30％）・研修中の活動・態度（30％）・成果発表（プレゼンテーション）（40％）

フィードバック方法：授業内での口頭フィードバック、ピアレビュー、教員講評、研修記録へのコメントなど

### <教科書>

Joseph Shaules Intercultural Communications: Student Book アプリコット出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要、目的説明、自己紹介、グループ分け
2	グローバル人材とは何か①	世界で求められる人物像、SDGsと関連づけた考察
3	グローバル人材とは何か②	必要なスキルとマインドセット、事例研究
4	異文化理解	異文化との接し方、多様性と共生の視点
5	語学トレーニング①	基本表現、自己紹介、日常会話
6	語学トレーニング②	ロールプレイ（空港、買い物、ホームステイ等）
7	研修先の理解①	フィリピン・韓国の社会と文化背景
8	研修先の理解②	アメリカ・イギリス・フランスの文化比較
9	安全・健康管理	危機管理、保険、健康・食文化、現地のルール
10	目標設定	個人・グループの目的確認、研修準備
11	海外・国内研修①	現地での語学学習、文化体験、施設訪問等
12	海外・国内研修②	同上（中間評価・活動記録）
13	振り返りと準備①	写真・体験の整理、発表構成の検討
14	発表準備②	スライド・原稿作成、リハーサル
15	成果発表会	プレゼンテーション、相互評価、まとめ
16		

科目コード	54000				区 分	コア			
授業 科目名	資格検定対策 I (語学系) [BC日本人生用]				担当者名	溝越 隆興			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業は、海外または国内での1～2週間の短期研修を通じて、語学力・異文化理解・行動力・課題解決力など、グローバル社会で必要とされる力を実践的に育成する。研修前には、グローバル人材の定義や異文化理解、語学表現などの基礎を学び、研修後には成果の振り返りとプレゼンテーションを行う。

### <授業の到達目標>

・グローバル人材に求められる資質・能力を理解する。・研修先の文化・社会背景に関する基礎知識を身につける。・語学的・文化的課題に対する主体的な対応力を高める。・研修体験を振り返り、成果をプレゼンテーションとして発信できる。

### <授業の方法>

対面による講義とグループワーク、研修（海外・国内）、帰国後のプレゼンテーションを組み合わせた実践型授業。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：・グループディスカッションによる異文化対応ケーススタディ・ロールプレイによる語学・文化対応訓練・グループでの発表準備とフィードバック交換・研修中のフィールドワーク・現地交流活動

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・復習時間：毎回90分程度を想定事前学習（語学練習、現地情報収集、目標設定）授業後の振り返り・記録（ワークシート、ジャーナル作成）プレゼン資料作成と練習（授業後の自己学習）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）およびディプロマポリシー 5（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業参加・課題提出（30％）・研修中の活動・態度（30％）・成果発表（プレゼンテーション）（40％）

フィードバック方法：授業内での口頭フィードバック、ピアレビュー、教員講評、研修記録へのコメントなど

### <教科書>

Joseph Shaules Intercultural Communications: Student Book アプリコット出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要、目的説明、自己紹介、グループ分け
2	グローバル人材とは何か①	世界で求められる人物像、SDGsと関連づけた考察
3	グローバル人材とは何か②	必要なスキルとマインドセット、事例研究
4	異文化理解	異文化との接し方、多様性と共生の視点
5	語学トレーニング①	基本表現、自己紹介、日常会話
6	語学トレーニング②	ロールプレイ（空港、買い物、ホームステイ等）
7	研修先の理解①	フィリピン・韓国の社会と文化背景
8	研修先の理解②	アメリカ・イギリス・フランスの文化比較
9	安全・健康管理	危機管理、保険、健康・食文化、現地のルール
10	目標設定	個人・グループの目的確認、研修準備
11	海外・国内研修①	現地での語学学習、文化体験、施設訪問等
12	海外・国内研修②	同上（中間評価・活動記録）
13	振り返りと準備①	写真・体験の整理、発表構成の検討
14	発表準備②	スライド・原稿作成、リハーサル
15	成果発表会	プレゼンテーション、相互評価、まとめ
16		

科目コード	54001				区 分	コア科目			
授業 科目名	資格検定対策Ⅱ(情報系)				担当者名	高鷲 翔／岡田 健志			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

現在の職場では仕事そのものがデジタル化とネットワーク化に対応しており、情報処理技術の基礎を理解している人材が求められている。ITパスポート資格は、職業人が共通に備えておくべき情報技術に関する基礎的な知識を図るもので、実社会で役立つ有効な資格である。本科目では、主な出題範囲に分けて、企業と法務、経営戦略、システム戦略、開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、基礎理論、コンピュータシステム、技術要素に関する知識を身につけ、資格取得を目指す。本講義ではストラテジ系とマネジメント系を取り扱う。

#### <授業の到達目標>

①資格試験対策勉強を通じて、企業活動における情報システムの重要性、情報システムの基礎および、仕事における情報システムとの関わりについてのイメージを持つ。②国家試験である情報処理技術者試験制度の概要、受験する意義および、ITパスポート試験の概要を理解する。③ITパスポート試験に合格するための力を身につける。

#### <授業の方法>

ITパスポート試験の出題範囲の各テーマごとに内容を解説して、問題演習をおこなう。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前学習：次の授業で扱う問題について、自分で問題を解く（1時間程度）。・事後学習：授業で学んだテーマについて復習し、理解を深める（1時間程度）。・国家試験を受験する場合は、相応の自己学習が必要。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 30%、課題 30%、期末課題 40%で評価する。

#### <教科書>

#### <参考書>

高橋 京介（2023年1月） いちばんやさしいITパスポート 絶対合格の教科書+出る順問題集 SBクリエイティブ株式会社

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	ITパスポート試験の概要、授業の進め方等の説明
2	ストラテジ系 (1) 企業とは	株式会社と経営理念、経営資源、経営組織
3	ストラテジ系 (2) 企業活動	業務分析、損益分岐点
4	ストラテジ系 (3) 法務	知的財産権、セキュリティ関連法規
5	ストラテジ系 (4) 経営戦略	SWOT分析、PPM
6	ストラテジ系 (5) 事業戦略	経営管理システム
7	ストラテジ系 (6) 技術戦略マネジメント	技術開発の戦略立案・計画
8	ストラテジ系 (7) 生産管理	エンジニアリングシステム、生産管理
9	ストラテジ系 (8) 情報システム戦略	情報システム戦略の意義と目的、業務プロセスの改善
10	ストラテジ系 (9) システム企画	システムの活用、企画プロセスと要件定義プロセス
11	マネジメント系 (1) 開発技術	要件定義、システム設計、プログラミング、運用プロセスと保守プロセス、ソフトウェア開発モデル
12	マネジメント系 (2) プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメントの意義・目的・考え方、3つの制約、PMBOK
13	マネジメント系 (3) サーマネジメントとは	ITサービスマネジメントの意義・目的・考え方
14	マネジメント系 (4) ファシリティマネジメントとシステム監査	システム環境に関する考え方、システム監査の意義・目的・考え方、内部統制
15	試験対策	過去問題と疑似試験演習
16		

科目コード	54005				区 分	コア			
授業科目名	資格検定対策Ⅴ（ICTスキル系）				担当者名	岡田 健志			
配当年次	1年	配当学期	集中（冬期に実施）	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

現代の社会では様々な業種・職種において、効率的な業務運用、成果報告の手段としてのコンピュータ利用は今や必須のスキルである。本科目ではコンピュータリテラシーⅠおよびⅡで修得した知識を活かし、コンピュータ操作の習熟度を高めるとともに、Word、Excel等のアプリケーションを効果的に使いこなす技法を身につけることを目的に、Microsoft社が提供・実施するOfficeアプリケーションの資格検定試験MOS（Microsoft Office Specialist）の資格取得を目指す。

#### <授業の到達目標>

資格試験対策勉強を通じて、PC操作の習熟を目指すとともに、ビジネスアプリケーションの重要性と業務効率性との関係について学ぶ。また、MOS試験の概要を理解するとともに、試験に合格するための力を身につける。

#### <授業の方法>

MOS試験のうち、Word、Excelを受験対象科目として講義を行う。授業期間は後期の集中後期期間とする。それぞれの試験の出題範囲の各テーマごとに問題演習で理解度をチェックする。また、教科書に付帯の模擬練習問題を各自で実施して理解度を高める。合格するための勉強方法についても適宜解説する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

演習中心だが、アクティブ・ラーニングの要素は適宜入れていく。具体的にはペアワークや製作物の相互レビューを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前学習：授業予定の教科書範囲について、自分で問題を解く（1時間程度）。・事後学習：授業で学んだ範囲を復習し、模擬練習問題を繰り返し行う（2時間程度）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

問題演習の提出 40%、模擬試験問題の達成状況 60%で評価する。

#### <教科書>

富士通エフ・オー・エム MOS Word 365&2019 対策テキスト&問題集 FOM出版  
富士通エフ・オー・エム MOS Excel 365&2019 対策テキスト&問題集 FOM出版

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	MOSの解説、試験概要
2	Word練習（1）	Word文書管理
3	Word練習（2）	文字、段落、セクション、書式設定
4	Word練習（3）	表、リストの管理
5	Word練習（4）	参考資料の作成管理
6	Word練習（5）	グラフィック要素
7	Word練習（6）	共同作業の管理
8	Word練習（7）	Wordの出題範囲と模擬試験
9	Excel練習（1）	ワークシート・ブックの管理
10	Excel練習（2）	セルのデータ管理
11	Excel練習（3）	テーブルのデータ管理
12	Excel練習（4）	数式と関数
13	Excel練習（5）	グラフ管理
14	Excel練習（6）	Excelの出題範囲と模擬試験
15	理解度確認	Word・Excelの出題の確認と攻略ポイント
16		

科目コード	54006				区 分	コア科目			
授業 科目名	現代経営実践演習基礎 I				担当者名	横内 浩平			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

将来のキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな社会の出来事について理解しておく必要がある。本科目では、将来公務員をを目指す学生が政治や経済の知識を身に付け、将来の就職試験に備えることを目的として開講する。

#### <授業の到達目標>

1. 公務員試験における「頻出分野」の政治・経済分野について基礎的な理解ができるようになる。2. 採用試験に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

#### <授業の方法>

1. 講義（配布プリント、パワーポイントを使用し授業を進める）※授業の一部についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り 授業時の課題の一部についてはグループ内で相談し考えをまとめる

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関する下調べ（30分程度）復習：次回講義までに授業の内容について復習をしておくこと（90分以上）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50%、確認テスト 35%、授業態度 15%

#### <教科書>

得になし

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	政治(1)	民主政治の基本原則
3	政治(2)	日本国憲法の基本的性格
4	政治(3)	基本的人権の保障(1)
5	政治(4)	基本的人権の保障(2)
6	政治(5)	基本的人権の保障(3)
7	政治(6)	各国の政治制度(1)
8	政治(7)	各国の政治制度(2)
9	政治(8)	国会(1)
10	政治(9)	国会(2)
11	政治(10)	内閣
12	政治(11)	裁判所(1)
13	政治(12)	裁判所(2)
14	政治(13)	地方自治
15	政治(14)	政治分野まとめ
16		

科目コード	54007				区 分	コア科目			
授業 科目名	現代経営実践演習基礎Ⅱ				担当者名	横内 浩平			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

将来のキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな社会の出来事について理解しておく必要がある。本科目では、将来公務員を目指す学生が政治や経済の知識を身に付け、将来の就職試験に備えることを目的として開講する。この授業は前期にある、現代経営実践演習基礎Ⅰを履修していることを前提として授業を行う。

#### <授業の到達目標>

1. 公務員試験における「頻出分野」の政治・経済分野について基礎的な理解ができるようになる。2. 採用試験に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

#### <授業の方法>

1. 講義（配布プリント、パワーポイントを使用し授業を進める）※授業の一部についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り 授業時の課題の一部についてはグループ内で相談し考えをまとめる

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関する下調べ（30分程度）復習：次回講義までに授業の内容について復習をしておくこと（90分以上）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50%、確認テスト 35%、授業態度 15%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	政治(1)	政党と圧力団体
3	政治(2)	選挙制度(1)
4	政治(3)	選挙制度(2)
5	政治(4)	世論と行政機能の肥大化
6	政治(5)	国際政治と日本(1)
7	政治(6)	国際政治と日本(2)
8	政治(7)	開発途上国問題
9	政治(8)	政治分野まとめ
10	経済(1)	経済史
11	経済(2)	経済循環と企業の種類(1)
12	経済(3)	経済循環と企業の種類(2)
13	経済(4)	景気変動
14	経済(5)	金融政策
15	経済(6)	経済分野まとめ
16		

科目コード	54008				区 分	コア科目			
授業 科目名	現代経営実践演習基礎Ⅲ				担当者名	横内 浩平			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

将来のキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな社会の出来事について理解しておく必要がある。本科目では、将来公務員を目指す学生が政治や経済の知識を身に付け、将来の就職試験に備えることを目的として開講する。この授業は1年次の配当科目である現代経営実践演習基礎ⅠとⅡを履修していることを前提として授業を行う。

#### <授業の到達目標>

1. 公務員試験における「頻出分野」の政治・経済分野について基礎的な理解ができるようになる。2. 採用試験に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

#### <授業の方法>

1. 講義（配布プリント、パワーポイントを使用し授業を進める）※授業の一部についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。1. 問題演習（配布プリントを使用し問題演習を進める）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り 授業時の課題の一部についてはグループ内で相談し考えをまとめる

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関する下調べ（30分程度）復習：次回講義までに授業の内容について復習をしておくこと（90分以上）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50%、確認テスト 35%、授業態度 15%

#### <教科書>

得になし

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	経済(1)	財政政策(1)
3	経済(2)	財政政策(2)
4	経済(3)	国民所得と経済成長
5	経済(4)	戦後日本の経済史(1)
6	経済(5)	戦後日本の経済史(2)
7	経済(6)	為替レートと貿易摩擦(1)
8	経済(7)	為替レートと貿易摩擦(2)
9	経済(8)	戦後の国際通貨と貿易体制(1)
10	経済(9)	戦後の国際通貨と貿易体制(2)
11	経済(10)	経済分野まとめ
12	問題演習(1)	経済分野問題演習(1)
13	問題演習(2)	経済分野問題演習(2)
14	問題演習(3)	政治分野問題演習(1)
15	問題演習(4)	政治分野問題演習(2)
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	内田 仁志			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	4.00単位	授業方法	説明・演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

講義・演習・レポート

#### <授業の到達目標>

卒業論文の完成を通して文章作成能力、文献検索の方法、プレゼンテーションの仕方を学ぶ

#### <授業の方法>

全体説明（論文の書き方、参考図書、文献の検索等）各自論文執筆卒業論文中間発表卒業論文最終発表最終レポート提出

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有1. ピア・インストラクション（Peer Instruction）学生同士で教え合うことで理解を深める。2. ディスカッション・ベースの学習生徒同士の意見交換を通じて深い理解を促す。3. 問題解決学習（Problem-Based Learning, PBL）実社会の問題を題材にして解決策を考える。等を学習する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究テーマの設定①論文検索の仕方②参考文献の検索、収集③論文の文章構造の理解④教職に就いたときの作文指導（論文指導から学んだこと）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

論文の部①論文の体裁 論文の形式を満たしているか②研究テーマは適切か③論証方法は適切か④論文は教職に就いたときの実効性を伴うか学習態度の部①授業参加態度②論文の締め切り等決まりに対する態度③参考文献の多さ

#### <教科書>

図書館で論文に関するコーナーが特設されているので参考にすること

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション論文について	○ 卒業論文・ゼミ論文の形式について ・卒業論文、ゼミ論文の分量等違いについて ・両論文の最終発表の相違点
2	論文テーマの決定 1	○ 論文テーマの決定 ・先行研究の検索 ・課題の確認
3	論文テーマの決定 2	○ 論文テーマの決定 ・テーマの決定 ・サブタイトルの確認
4	論文の文章構造の理解 1	○ 論文の文章構造 1 ・ワークシート利用
5	論文の文章構造の理解 2	○ 論文の文章構造 2 ・論文の文章構造の理解 ・序論の書き方
6	序章の書き方	○ 序章の書き方 1 ・序章の論文における役割 ・序章の文章構成の説明
7	序章の完成	完成内容 ○ 序章の書き方 2 ・序章の論文における役割 ・序章の文章構成の説明 ・序章完成
8	論文のテーマについて	○ 論文のテーマについて ・テーマに迫る問題の把握 ・テーマの問題に迫る段落の構成、記述
9	問題を解決する章の構成	○ 問題解決の方法 ・問題の解決方法を説明する文章構造の書き方 ・章の執筆
10	問題を解決する章の構成 2	○ 問題解決の方法 ・問題の解決方法を説明する文章構造の書き方 ・章の執筆
11	検証の章執筆完成	○ 検証の章執筆 1 ・検証のデータ執筆 ・データからの考察執筆
12	検証執筆	○ 論文中間発表
13	論文中間発表	○ 論文中間発表
14	論文最終発表	○ 論文最終発表
15	卒業論文の完成	○ 卒業論文の完成 ・修正 ・提出
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	山本 満理子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

ゼミナールⅡでの研究活動を発展させ、指導教員のもとで卒業論文（目安：20,000字程度）を完成させます。研究計画の立案から執筆、発表までを通して、自分で考え、調べ、まとめる力を養います。

#### <授業の到達目標>

ゼミナールⅠ・Ⅱで設定した研究計画に沿って、卒業論文を仕上げることを目指します。  
・研究テーマは自分で決める・研究の計画や進め方を自分で考える・実験・調査の結果を自分で整理し、考察する・論文の構成や発表内容を自分で工夫する

#### <授業の方法>

前期（4年次前期）・ゼミナールⅡと連動し、研究を本格化・前期末には「中間発表会」を開催し、進捗を確認後期（4年次後期）・卒業論文（12,000字以上）を作成し、提出期限までに提出・「最終審査・公聴会」で発表・審査を受ける卒業研究を通して、・問題を見つけ、計画し、提案する基礎力を身につける・社会や企業での仕事の進め方を体験的に学ぶ・読解・分析・提案といった社会で必要なスキルを実践的に修得する

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・レポート作成、課題、スピーチなどの準備（毎回指示あり）・次回までに事前課題の予習・授業で扱った内容の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・最終審査会における卒業論文の評価

#### <教科書>

・各ゼミのシラバスに従う・各自のテーマに沿った個別指導を中心とする

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・各自のテーマに基づいて個別に指導	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	佐藤 典子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

ゼミナールⅡでの研究活動を発展させ、指導教員のもとで卒業論文（目安：20,000字程度）を完成させます。研究計画の立案から執筆、発表までを通して、自分で考え、調べ、まとめる力を養います。

#### <授業の到達目標>

ゼミナールⅠ・Ⅱで設定した研究計画に沿って、卒業論文を仕上げることを目指します。  
・研究テーマは自分で決める・研究の計画や進め方を自分で考える・実験・調査の結果を自分で整理し、考察する・論文の構成や発表内容を自分で工夫する

#### <授業の方法>

前期（4年次前期）・ゼミナールⅡと連動し、研究を本格化・前期末には「中間発表会」を開催し、進捗を確認後期（4年次後期）・卒業論文（12,000字以上）を作成し、提出期限までに提出・「最終審査・公聴会」で発表・審査を受ける卒業研究を通して、  
・問題を見つけ、計画し、提案する基礎力を身につける・社会や企業での仕事の進め方を体験的に学ぶ・読解・分析・提案といった社会に必要なスキルを実践的に修得する

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・レポート作成、課題、スピーチなどの準備（毎回指示あり）・次回までに事前課題の予習・授業で扱った内容の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・最終審査会における卒業論文の評価

#### <教科書>

・各ゼミのシラバスに従う・各自のテーマに沿った個別指導を中心とする

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・各自のテーマに基づいて個別に指導	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	三垣 雅美			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

ゼミナールⅡでの研究活動を発展させ、指導教員のもとで卒業論文（目安：20,000字程度）を完成させます。研究計画の立案から執筆、発表までを通して、自分で考え、調べ、まとめる力を養います。

#### <授業の到達目標>

ゼミナールⅠ・Ⅱで設定した研究計画に沿って、卒業論文を仕上げることを目指します。  
・研究テーマは自分で決める・研究の計画や進め方を自分で考える・実験・調査の結果を自分で整理し、考察する・論文の構成や発表内容を自分で工夫する

#### <授業の方法>

前期（4年次前期）・ゼミナールⅡと連動し、研究を本格化・前期末には「中間発表会」を開催し、進捗を確認後期（4年次後期）・卒業論文（12,000字以上）を作成し、提出期限までに提出・「最終審査・公聴会」で発表・審査を受ける卒業研究を通して、  
・問題を見つけ、計画し、提案する基礎力を身につける・社会や企業での仕事の進め方を体験的に学ぶ・読解・分析・提案といった社会で必要なスキルを実践的に修得する

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・レポート作成、課題、スピーチなどの準備（毎回指示あり）・次回までに事前課題の予習・授業で扱った内容の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・最終審査会における卒業論文の評価

#### <教科書>

・各ゼミのシラバスに従う・各自のテーマに沿った個別指導を中心とする

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・各自のテーマに基づいて個別に指導	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	小川 正人			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

ゼミナールⅡでの研究活動を発展させ、指導教員のもとで卒業論文（目安：20,000字程度）を完成させます。研究計画の立案から執筆、発表までを通して、自分で考え、調べ、まとめる力を養います。

#### <授業の到達目標>

ゼミナールⅠ・Ⅱで設定した研究計画に沿って、卒業論文を仕上げることを目指します。  
・研究テーマは自分で決める・研究の計画や進め方を自分で考える・実験・調査の結果を自分で整理し、考察する・論文の構成や発表内容を自分で工夫する

#### <授業の方法>

前期（4年次前期）・ゼミナールⅡと連動し、研究を本格化・前期末には「中間発表会」を開催し、進捗を確認後期（4年次後期）・卒業論文（12,000字以上）を作成し、提出期限までに提出・「最終審査・公聴会」で発表・審査を受ける卒業研究を通して、  
・問題を見つけ、計画し、提案する基礎力を身につける・社会や企業での仕事の進め方を体験的に学ぶ・読解・分析・提案といった社会で必要なスキルを実践的に修得する

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・レポート作成、課題、スピーチなどの準備（毎回指示あり）・次回までに事前課題の予習・授業で扱った内容の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・最終審査会における卒業論文の評価

#### <教科書>

・各ゼミのシラバスに従う・各自のテーマに沿った個別指導を中心とする

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・各自のテーマに基づいて個別に指導	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	小堀 浩志			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

ゼミナールⅡでの研究活動を発展させ、指導教員のもとで卒業論文（目安：20,000字程度）を完成させます。研究計画の立案から執筆、発表までを通して、自分で考え、調べ、まとめる力を養います。

#### <授業の到達目標>

ゼミナールⅠ・Ⅱで設定した研究計画に沿って、卒業論文を仕上げることを目指します。  
・研究テーマは自分で決める・研究の計画や進め方を自分で考える・実験・調査の結果を自分で整理し、考察する・論文の構成や発表内容を自分で工夫する

#### <授業の方法>

前期（4年次前期）・ゼミナールⅡと連動し、研究を本格化・前期末には「中間発表会」を開催し、進捗を確認後期（4年次後期）・卒業論文（12,000字以上）を作成し、提出期限までに提出・「最終審査・公聴会」で発表・審査を受ける卒業研究を通して、・問題を見つけ、計画し、提案する基礎力を身につける・社会や企業での仕事の進め方を体験的に学ぶ・読解・分析・提案といった社会に必要なスキルを実践的に修得する

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・レポート作成、課題、スピーチなどの準備（毎回指示あり）・次回までに事前課題の予習・授業で扱った内容の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・最終審査会における卒業論文の評価

#### <教科書>

・各ゼミのシラバスに従う・各自のテーマに沿った個別指導を中心とする

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・各自のテーマに基づいて個別に指導	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	扇野 睦巳			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

ゼミナールⅡでの研究活動を発展させ、指導教員のもとで卒業論文（目安：20,000字程度）を完成させます。研究計画の立案から執筆、発表までを通して、自分で考え、調べ、まとめる力を養います。

#### <授業の到達目標>

ゼミナールⅠ・Ⅱで設定した研究計画に沿って、卒業論文を仕上げることを目指します。  
・研究テーマは自分で決める・研究の計画や進め方を自分で考える・実験・調査の結果を自分で整理し、考察する・論文の構成や発表内容を自分で工夫する

#### <授業の方法>

前期（4年次前期）・ゼミナールⅡと連動し、研究を本格化・前期末には「中間発表会」を開催し、進捗を確認後期（4年次後期）・卒業論文（12,000字以上）を作成し、提出期限までに提出・「最終審査・公聴会」で発表・審査を受ける卒業研究を通して、  
・問題を見つけ、計画し、提案する基礎力を身につける・社会や企業での仕事の進め方を体験的に学ぶ・読解・分析・提案といった社会に必要なスキルを実践的に修得する

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・レポート作成、課題、スピーチなどの準備（毎回指示あり）・次回までに事前課題の予習・授業で扱った内容の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・最終審査会における卒業論文の評価

#### <教科書>

・各ゼミのシラバスに従う・各自のテーマに沿った個別指導を中心とする

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・各自のテーマに基づいて個別に指導	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

ゼミナールⅡでの研究活動を発展させ、指導教員のもとで卒業論文（目安：20,000字程度）を完成させます。研究計画の立案から執筆、発表までを通して、自分で考え、調べ、まとめる力を養います。

#### <授業の到達目標>

ゼミナールⅠ・Ⅱで設定した研究計画に沿って、卒業論文を仕上げることを目指します。  
・研究テーマは自分で決める・研究の計画や進め方を自分で考える・実験・調査の結果を自分で整理し、考察する・論文の構成や発表内容を自分で工夫する

#### <授業の方法>

前期（4年次前期）・ゼミナールⅡと連動し、研究を本格化・前期末には「中間発表会」を開催し、進捗を確認後期（4年次後期）・卒業論文（12,000字以上）を作成し、提出期限までに提出・「最終審査・公聴会」で発表・審査を受ける卒業研究を通して、・問題を見つけ、計画し、提案する基礎力を身につける・社会や企業での仕事の進め方を体験的に学ぶ・読解・分析・提案といった社会に必要なスキルを実践的に修得する

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・レポート作成、課題、スピーチなどの準備（毎回指示あり）・次回までに事前課題の予習・授業で扱った内容の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・最終審査会における卒業論文の評価

#### <教科書>

・各ゼミのシラバスに従う・各自のテーマに沿った個別指導を中心とする

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・各自のテーマに基づいて個別に指導	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	鈴木 真理子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

ゼミナールⅡでの研究活動を発展させ、指導教員のもとで卒業論文（目安：20,000字程度）を完成させます。研究計画の立案から執筆、発表までを通して、自分で考え、調べ、まとめる力を養います。

#### <授業の到達目標>

ゼミナールⅠ・Ⅱで設定した研究計画に沿って、卒業論文を仕上げることを目指します。  
・研究テーマは自分で決める・研究の計画や進め方を自分で考える・実験・調査の結果を自分で整理し、考察する・論文の構成や発表内容を自分で工夫する

#### <授業の方法>

前期（4年次前期）・ゼミナールⅡと連動し、研究を本格化・前期末には「中間発表会」を開催し、進捗を確認後期（4年次後期）・卒業論文（12,000字以上）を作成し、提出期限までに提出・「最終審査・公聴会」で発表・審査を受ける卒業研究を通して、・問題を見つけ、計画し、提案する基礎力を身につける・社会や企業での仕事の進め方を体験的に学ぶ・読解・分析・提案といった社会で必要なスキルを実践的に修得する

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・レポート作成、課題、スピーチなどの準備（毎回指示あり）・次回までに事前課題の予習・授業で扱った内容の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・最終審査会における卒業論文の評価

#### <教科書>

・各ゼミのシラバスに従う・各自のテーマに沿った個別指導を中心とする

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・各自のテーマに基づいて個別に指導	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	大池 淳一			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

ゼミナールⅡでの研究活動を発展させ、指導教員のもとで卒業論文（目安：20,000字程度）を完成させます。研究計画の立案から執筆、発表までを通して、自分で考え、調べ、まとめる力を養います。

#### <授業の到達目標>

ゼミナールⅠ・Ⅱで設定した研究計画に沿って、卒業論文を仕上げることを目指します。  
・研究テーマは自分で決める・研究の計画や進め方を自分で考える・実験・調査の結果を自分で整理し、考察する・論文の構成や発表内容を自分で工夫する

#### <授業の方法>

前期（4年次前期）・ゼミナールⅡと連動し、研究を本格化・前期末には「中間発表会」を開催し、進捗を確認後期（4年次後期）・卒業論文（12,000字以上）を作成し、提出期限までに提出・「最終審査・公聴会」で発表・審査を受ける卒業研究を通して、  
・問題を見つけ、計画し、提案する基礎力を身につける・社会や企業での仕事の進め方を体験的に学ぶ・読解・分析・提案といった社会で必要なスキルを実践的に修得する

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・レポート作成、課題、スピーチなどの準備（毎回指示あり）・次回までに事前課題の予習・授業で扱った内容の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・最終審査会における卒業論文の評価

#### <教科書>

・各ゼミのシラバスに従う・各自のテーマに沿った個別指導を中心とする

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・各自のテーマに基づいて個別に指導	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

ゼミナールⅡでの研究活動を発展させ、指導教員のもとで卒業論文（目安：20,000字程度）を完成させます。研究計画の立案から執筆、発表までを通して、自分で考え、調べ、まとめる力を養います。

#### <授業の到達目標>

ゼミナールⅠ・Ⅱで設定した研究計画に沿って、卒業論文を仕上げることを目指します。  
・研究テーマは自分で決める・研究の計画や進め方を自分で考える・実験・調査の結果を自分で整理し、考察する・論文の構成や発表内容を自分で工夫する

#### <授業の方法>

前期（4年次前期）・ゼミナールⅡと連動し、研究を本格化・前期末には「中間発表会」を開催し、進捗を確認後期（4年次後期）・卒業論文（12,000字以上）を作成し、提出期限までに提出・「最終審査・公聴会」で発表・審査を受ける卒業研究を通して、  
・問題を見つけ、計画し、提案する基礎力を身につける・社会や企業での仕事の進め方を体験的に学ぶ・読解・分析・提案といった社会で必要なスキルを実践的に修得する

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・レポート作成、課題、スピーチなどの準備（毎回指示あり）・次回までに事前課題の予習・授業で扱った内容の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・最終審査会における卒業論文の評価

#### <教科書>

・各ゼミのシラバスに従う・各自のテーマに沿った個別指導を中心とする

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・各自のテーマに基づいて個別に指導	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC秋入学生用]				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	4年	配当学期	前期・後期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

「ゼミナールⅡ」での研究活動を通じて、テーマに基づいて、指導教員の指導を得ながら卒業論文を完成することを目標とする。

### <授業の到達目標>

ゼミナールⅠおよびゼミナールⅡにおいて、各自の設定した研究テーマに基づく研究計画書に沿って、卒業論文を執筆する。①研究テーマは自分で決める。②研究の計画や具体的な進め方は自分で決める。③実験や調査の結果（データ）は、自分でまとめ方や使い方（考察）を考える。④自分で論文の構成や発表内容を考えて、論文執筆と発表を行う。

### <授業の方法>

4年前期：ゼミナールⅡと連動し、後期の卒業研究スタートに当たって、前期の成果として、前期末に「中間発表会」を開催する。4年後期：卒業研究の成果物としての卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。卒業研究を通じて、考えて提案していく基礎手法を修得できると同時に、企業や行政での仕事の進め方の一端を事前に体験できる。言い換えると、卒業研究を例題として企業や行政での仕事の進め方の基礎を体得することができる。研究（計画書）

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素を取り入れた個別指導を活用する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習において指示する。毎回、次の演習までに事前課題に対する予習を必要とする。また、授業中に行った課題のまとめが必要である。（予習・復習とも1時間程度は必要）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

最終審査会において、執筆した卒業論文を評価する。

### <教科書>

各所属ゼミのシラバスに従う。各自のテーマに沿った個別指導が主体である。

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各自のテーマに沿った個別指導を行う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	佐藤 典子			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

経済学・マネジメント・商学・マーケティングなどの分野から、卒業研究につながるテーマを絞り込みます。学生一人ひとりが関心を持って取り組めるよう、教員がサポートします。・文献研究や研究方法の基礎を学ぶ・ものの見方や考え方を広げる・グループ討議を通して意見を深める

#### <授業の到達目標>

・社会人に必要な一般教養と専門知識を身につける・自分のキャリアを考え、将来像を明確にする

#### <授業の方法>

前期（3年次前期）・卒業研究の形態を決定する（論文／プロジェクト報告書／事業計画書）・ゼミの活動計画を立て、発表会を行う後期（3年次後期）・発表をもとに議論や調査を深める・プロジェクト型の場合：市場調査・技術動向調査・業界分析などを行い、企画を立案。・論文型の場合：リサーチクエストの設定、文献レビュー、データ収集などを進める。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・各回のテーマに沿ったレポート作成・課題・スピーチ準備・次回までに事前課題の予習・授業で扱った課題の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

#### <教科書>

初回授業で決定する

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	初回授業で提示する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

経済学・マネジメント・商学・マーケティングなどの分野から、卒業研究につながるテーマを絞り込みます。学生一人ひとりが関心を持って取り組めるよう、教員がサポートします。・文献研究や研究方法の基礎を学ぶ・ものの見方や考え方を広げる・グループ討議を通して意見を深める

#### <授業の到達目標>

・社会人に必要な一般教養と専門知識を身につける・自分のキャリアを考え、将来像を明確にする

#### <授業の方法>

前期（3年次前期）・卒業研究の形態を決定する（論文／プロジェクト報告書／事業計画書）・ゼミの活動計画を立て、発表会を行う後期（3年次後期）・発表をもとに議論や調査を深める・プロジェクト型の場合：市場調査・技術動向調査・業界分析などを行い、企画を立案。・論文型の場合：リサーチクエストの設定、文献レビュー、データ収集などを進める。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・各回のテーマに沿ったレポート作成・課題・スピーチ準備・次回までに事前課題の予習・授業で扱った課題の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

#### <教科書>

初回授業で決定する

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	初回授業で提示する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	小川 正人			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

経済学・マネジメント・商学・マーケティングなどの分野から、卒業研究につながるテーマを絞り込みます。学生一人ひとりが関心を持って取り組めるよう、教員がサポートします。・文献研究や研究方法の基礎を学ぶ・ものの見方や考え方を広げる・グループ討議を通して意見を深める

#### <授業の到達目標>

・社会人に必要な一般教養と専門知識を身につける・自分のキャリアを考え、将来像を明確にする

#### <授業の方法>

前期（3年次前期）・卒業研究の形態を決定する（論文／プロジェクト報告書／事業計画書）・ゼミの活動計画を立て、発表会を行う後期（3年次後期）・発表をもとに議論や調査を深める・プロジェクト型の場合：市場調査・技術動向調査・業界分析などを行い、企画を立案。・論文型の場合：リサーチクエストの設定、文献レビュー、データ収集などを進める。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・各回のテーマに沿ったレポート作成・課題・スピーチ準備・次回までに事前課題の予習・授業で扱った課題の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

#### <教科書>

初回授業で決定する

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	初回授業で提示する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	鈴木 真理子			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

経済学・マネジメント・商学・マーケティングなどの分野から、卒業研究につながるテーマを絞り込みます。学生一人ひとりが関心を持って取り組めるよう、教員がサポートします。・文献研究や研究方法の基礎を学ぶ・ものの見方や考え方を広げる・グループ討議を通して意見を深める

#### <授業の到達目標>

・社会人に必要な一般教養と専門知識を身につける・自分のキャリアを考え、将来像を明確にする

#### <授業の方法>

前期（3年次前期）・卒業研究の形態を決定する（論文／プロジェクト報告書／事業計画書）・ゼミの活動計画を立て、発表会を行う後期（3年次後期）・発表をもとに議論や調査を深める・プロジェクト型の場合：市場調査・技術動向調査・業界分析などを行い、企画を立案。・論文型の場合：リサーチクエストの設定、文献レビュー、データ収集などを進める。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・各回のテーマに沿ったレポート作成・課題・スピーチ準備・次回までに事前課題の予習・授業で扱った課題の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

#### <教科書>

初回授業で決定する

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	初回授業で提示する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	三垣 雅美			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

経済学・マネジメント・商学・マーケティングなどの分野から、卒業研究につながるテーマを絞り込みます。学生一人ひとりが関心を持って取り組めるよう、教員がサポートします。・文献研究や研究方法の基礎を学ぶ・ものの見方や考え方を広げる・グループ討議を通して意見を深める

#### <授業の到達目標>

・社会人に必要な一般教養と専門知識を身につける・自分のキャリアを考え、将来像を明確にする

#### <授業の方法>

前期（3年次前期）・卒業研究の形態を決定する（論文／プロジェクト報告書／事業計画書）・ゼミの活動計画を立て、発表会を行う後期（3年次後期）・発表をもとに議論や調査を深める・プロジェクト型の場合：市場調査・技術動向調査・業界分析などを行い、企画を立案。・論文型の場合：リサーチクエストの設定、文献レビュー、データ収集などを進める。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・各回のテーマに沿ったレポート作成・課題・スピーチ準備・次回までに事前課題の予習・授業で扱った課題の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

#### <教科書>

初回授業で決定する

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	初回授業で提示する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	歌代 哲也			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

「経営学」「マネジメント」「商学・マーケティング」などの領域について、卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように各教員が支援する。ものの見方や考え方をはじめ、文献研究や研究方法等について指導を行うとともに、共同討議を取り入れたゼミナールとする。

#### <授業の到達目標>

ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを目標とする。

#### <授業の方法>

3年前期は、4年次の卒業研究について「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていくかを明確にする。いずれのタイプでも卒業研究として認める。ゼミ論文の場合も同じである。ゼミナール活動計画を立案し、各ゼミナール内において「発表会」を実施する。3年後期は、発表をもとにゼミナールで議論や調査を深めていく。業種、職種にとらわれない多様なインターンシップ、多くの企業訪問を実施していく。「プロジェクト報告書」、「事業計画書」の場合は、市場データ採集や技術トレンド調査、業界・業種調査

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。グループディスカッション、グループワーク、発見学習、問題解決学習。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも1時間程度必要）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

積極的な演習参加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

#### <教科書>

初回の授業で決定する。

#### <参考書>

初回の授業で決定する。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	初回の授業で提示する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

経済学・マネジメント・商学・マーケティングなどの分野から、卒業研究につながるテーマを絞り込みます。学生一人ひとりが関心を持って取り組めるよう、教員がサポートします。・文献研究や研究方法の基礎を学ぶ・ものの見方や考え方を広げる・グループ討議を通して意見を深める

#### <授業の到達目標>

・社会人に必要な一般教養と専門知識を身につける・自分のキャリアを考え、将来像を明確にする

#### <授業の方法>

前期（3年次前期）・卒業研究の形態を決定する（論文／プロジェクト報告書／事業計画書）・ゼミの活動計画を立て、発表会を行う後期（3年次後期）・発表をもとに議論や調査を深める・プロジェクト型の場合：市場調査・技術動向調査・業界分析などを行い、企画を立案。・論文型の場合：リサーチクエストの設定、文献レビュー、データ収集などを進める。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・各回のテーマに沿ったレポート作成・課題・スピーチ準備・次回までに事前課題の予習・授業で扱った課題の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

#### <教科書>

初回授業で決定する

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	初回授業で提示する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

経済学・マネジメント・商学・マーケティングなどの分野から、卒業研究につながるテーマを絞り込みます。学生一人ひとりが関心を持って取り組めるよう、教員がサポートします。・文献研究や研究方法の基礎を学ぶ・ものの見方や考え方を広げる・グループ討議を通して意見を深める

#### <授業の到達目標>

・社会人に必要な一般教養と専門知識を身につける・自分のキャリアを考え、将来像を明確にする

#### <授業の方法>

前期（3年次前期）・卒業研究の形態を決定する（論文／プロジェクト報告書／事業計画書）・ゼミの活動計画を立て、発表会を行う後期（3年次後期）・発表をもとに議論や調査を深める・プロジェクト型の場合：市場調査・技術動向調査・業界分析などを行い、企画を立案。・論文型の場合：リサーチクエストの設定、文献レビュー、データ収集などを進める。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・各回のテーマに沿ったレポート作成・課題・スピーチ準備・次回までに事前課題の予習・授業で扱った課題の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

#### <教科書>

初回授業で決定する

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	初回授業で提示する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	扇野 睦巳			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

経済学・マネジメント・商学・マーケティングなどの分野から、卒業研究につながるテーマを絞り込みます。学生一人ひとりが関心を持って取り組めるよう、教員がサポートします。・文献研究や研究方法の基礎を学ぶ・ものの見方や考え方を広げる・グループ討議を通して意見を深める

#### <授業の到達目標>

・社会人に必要な一般教養と専門知識を身につける・自分のキャリアを考え、将来像を明確にする

#### <授業の方法>

前期（3年次前期）・卒業研究の形態を決定する（論文／プロジェクト報告書／事業計画書）・ゼミの活動計画を立て、発表会を行う後期（3年次後期）・発表をもとに議論や調査を深める・プロジェクト型の場合：市場調査・技術動向調査・業界分析などを行い、企画を立案。・論文型の場合：リサーチクエストの設定、文献レビュー、データ収集などを進める。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・各回のテーマに沿ったレポート作成・課題・スピーチ準備・次回までに事前課題の予習・授業で扱った課題の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

#### <教科書>

初回授業で決定する

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	初回授業で提示する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	赤木 邦江			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

経済学・マネジメント・商学・マーケティングなどの分野から、卒業研究につながるテーマを絞り込みます。学生一人ひとりが関心を持って取り組めるよう、教員がサポートします。・文献研究や研究方法の基礎を学ぶ・ものの見方や考え方を広げる・グループ討議を通して意見を深める

#### <授業の到達目標>

・社会人に必要な一般教養と専門知識を身につける・自分のキャリアを考え、将来像を明確にする

#### <授業の方法>

前期（3年次前期）・卒業研究の形態を決定する（論文／プロジェクト報告書／事業計画書）・ゼミの活動計画を立て、発表会を行う後期（3年次後期）・発表をもとに議論や調査を深める・プロジェクト型の場合：市場調査・技術動向調査・業界分析などを行い、企画を立案。・論文型の場合：リサーチクエストの設定、文献レビュー、データ収集などを進める。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・各回のテーマに沿ったレポート作成・課題・スピーチ準備・次回までに事前課題の予習・授業で扱った課題の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

#### <教科書>

初回授業で決定する

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	初回授業で提示する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	山本 満理子			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

経済学・マネジメント・商学・マーケティングなどの分野から、卒業研究につながるテーマを絞り込みます。学生一人ひとりが関心を持って取り組めるよう、教員がサポートします。・文献研究や研究方法の基礎を学ぶ・ものの見方や考え方を広げる・グループ討議を通して意見を深める

#### <授業の到達目標>

・社会人に必要な一般教養と専門知識を身につける・自分のキャリアを考え、将来像を明確にする

#### <授業の方法>

前期（3年次前期）・卒業研究の形態を決定する（論文／プロジェクト報告書／事業計画書）・ゼミの活動計画を立て、発表会を行う後期（3年次後期）・発表をもとに議論や調査を深める・プロジェクト型の場合：市場調査・技術動向調査・業界分析などを行い、企画を立案。・論文型の場合：リサーチクエストの設定、文献レビュー、データ収集などを進める。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・各回のテーマに沿ったレポート作成・課題・スピーチ準備・次回までに事前課題の予習・授業で扱った課題の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

#### <教科書>

初回授業で決定する

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	初回授業で提示する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	大池 淳一			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

経済学・マネジメント・商学・マーケティングなどの分野から、卒業研究につながるテーマを絞り込みます。学生一人ひとりが関心を持って取り組めるよう、教員がサポートします。・文献研究や研究方法の基礎を学ぶ・ものの見方や考え方を広げる・グループ討議を通して意見を深める

#### <授業の到達目標>

・社会人に必要な一般教養と専門知識を身につける・自分のキャリアを考え、将来像を明確にする

#### <授業の方法>

前期（3年次前期）・卒業研究の形態を決定する（論文／プロジェクト報告書／事業計画書）・ゼミの活動計画を立て、発表会を行う後期（3年次後期）・発表をもとに議論や調査を深める・プロジェクト型の場合：市場調査・技術動向調査・業界分析などを行い、企画を立案。・論文型の場合：リサーチクエストの設定、文献レビュー、データ収集などを進める。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・各回のテーマに沿ったレポート作成・課題・スピーチ準備・次回までに事前課題の予習・授業で扱った課題の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

#### <教科書>

初回授業で決定する

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	初回授業で提示する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	小堀 浩志			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

経済学・マネジメント・商学・マーケティングなどの分野から、卒業研究につながるテーマを絞り込みます。学生一人ひとりが関心を持って取り組めるよう、教員がサポートします。・文献研究や研究方法の基礎を学ぶ・ものの見方や考え方を広げる・グループ討議を通して意見を深める

#### <授業の到達目標>

・社会人に必要な一般教養と専門知識を身につける・自分のキャリアを考え、将来像を明確にする

#### <授業の方法>

前期（3年次前期）・卒業研究の形態を決定する（論文／プロジェクト報告書／事業計画書）・ゼミの活動計画を立て、発表会を行う後期（3年次後期）・発表をもとに議論や調査を深める・プロジェクト型の場合：市場調査・技術動向調査・業界分析などを行い、企画を立案。・論文型の場合：リサーチクエストの設定、文献レビュー、データ収集などを進める。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・各回のテーマに沿ったレポート作成・課題・スピーチ準備・次回までに事前課題の予習・授業で扱った課題の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

#### <教科書>

初回授業で決定する

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	初回授業で提示する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎) [秋入学生用]				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

#### <授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識について自分の言葉で説明できる 2. リサーチ・リテラシーの基礎を身につける。

#### <授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

ゼミナールⅠではグループディスカッションやディベート、グループワークなどを積極的に活用する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度、それぞれ求める。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価（知識・理解）で70%

#### <教科書>

特に指定しない。

#### <参考書>

特に指定しない。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	初回の授業で提示する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	佐藤 典子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

ゼミナールⅠでの活動をもとに、卒業研究を完成させることを目指します。・研究テーマを明確にし、調査・分析を進める・結果を文章にまとめ、さらに口頭で発表する・論理的に考え、自分の研究をわかりやすく他者に伝える力を養う

#### <授業の到達目標>

・社会人に求められる一般教養・専門知識をさらに深める・自分のキャリアを振り返りつつ、研究テーマに真剣に取り組む・卒業研究を論文として完成させる

#### <授業の方法>

前期（4年次前期）・3年次に計画した研究や調査を発展させる・プロジェクト型（報告書・事業計画書）の場合：①フィージビリティスタディ（実現可能性の検討）②プロトタイプ作成や改善③起業・プロジェクト実施などの実践活動・論文型の場合：卒業論文に向けた本格的な研究・執筆・前期の成果を「中間発表会」で報告する後期（4年次後期）・卒業研究履修者：12,000字以上の卒業論文を提出。最終審査・公聴会で評価・卒業研究を履修しない学生：ゼミ活動の成果を「ゼミ論文」として提出し、教員が評価

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・各回のテーマに基づくレポート作成、課題、スピーチの準備・次回までに事前課題の予習・授業中の課題の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

#### <教科書>

・各ゼミのシラバスに従う

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・各ゼミのシラバスに従う	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	山本 満理子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

ゼミナールⅠでの活動をもとに、卒業研究を完成させることを目指します。・研究テーマを明確にし、調査・分析を進める・結果を文章にまとめ、さらに口頭で発表する・論理的に考え、自分の研究をわかりやすく他者に伝える力を養う

#### <授業の到達目標>

・社会人に求められる一般教養・専門知識をさらに深める・自分のキャリアを振り返りつつ、研究テーマに真剣に取り組む・卒業研究を論文として完成させる

#### <授業の方法>

前期（4年次前期）・3年次に計画した研究や調査を発展させる・プロジェクト型（報告書・事業計画書）の場合：①フィージビリティスタディ（実現可能性の検討）②プロトタイプ作成や改善③起業・プロジェクト実施などの実践活動・論文型の場合：卒業論文に向けた本格的な研究・執筆・前期の成果を「中間発表会」で報告する後期（4年次後期）・卒業研究履修者：12,000字以上の卒業論文を提出。最終審査・公聴会で評価・卒業研究を履修しない学生：ゼミ活動の成果を「ゼミ論文」として提出し、教員が評価

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・各回のテーマに基づくレポート作成、課題、スピーチの準備・次回までに事前課題の予習・授業中の課題の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

#### <教科書>

・各ゼミのシラバスに従う

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・各ゼミのシラバスに従う	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	歌代 哲也			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

「ゼミナールⅠ」での活動を踏まえて、卒業研究を執筆するための個別指導を行う。どのようなテーマを、どのような方法で研究するのか、研究の結果からどのようなことがいえるのかについて検討する。その全体を文章としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身に付けさせることを目的とする。

#### <授業の到達目標>

ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを踏まえつつ、各自の研究テーマに取り組み、論文として仕上げるのが目標である。

#### <授業の方法>

4年前期： 3年次で企画した研究活動・事業行動、調査活動を深めていく。プロジェクト報告書、事業計画書の場合フィージビリティスタディ、プロトタイプ&リファイン活動、実際の起業やプロジェクト遂行などのアクションを重視する。論文の場合、通常の卒業論文執筆のために活動する。卒業研究履修者は、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。4年後期： (1) 卒業研究履修者 12,000字以上の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。グループディスカッション、グループワーク、発見学習、問題解決学習。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも1時間程度必要）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

積極的な演習参加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

#### <教科書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

#### <参考書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	三垣 雅美			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

ゼミナールⅠでの活動をもとに、卒業研究を完成させることを目指します。・研究テーマを明確にし、調査・分析を進める・結果を文章にまとめ、さらに口頭で発表する・論理的に考え、自分の研究をわかりやすく他者に伝える力を養う

#### <授業の到達目標>

・社会人に求められる一般教養・専門知識をさらに深める・自分のキャリアを振り返りつつ、研究テーマに真剣に取り組む・卒業研究を論文として完成させる

#### <授業の方法>

前期（4年次前期）・3年次に計画した研究や調査を発展させる・プロジェクト型（報告書・事業計画書）の場合：①フィージビリティスタディ（実現可能性の検討）②プロトタイプ作成や改善③起業・プロジェクト実施などの実践活動・論文型の場合：卒業論文に向けた本格的な研究・執筆・前期の成果を「中間発表会」で報告する後期（4年次後期）・卒業研究履修者：12,000字以上の卒業論文を提出。最終審査・公聴会で評価・卒業研究を履修しない学生：ゼミ活動の成果を「ゼミ論文」として提出し、教員が評価

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・各回のテーマに基づくレポート作成、課題、スピーチの準備・次回までに事前課題の予習・授業中の課題の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

#### <教科書>

・各ゼミのシラバスに従う

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・各ゼミのシラバスに従う	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	小川 正人			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

ゼミナールⅠでの活動をもとに、卒業研究を完成させることを目指します。・研究テーマを明確にし、調査・分析を進める・結果を文章にまとめ、さらに口頭で発表する・論理的に考え、自分の研究をわかりやすく他者に伝える力を養う

#### <授業の到達目標>

・社会人に求められる一般教養・専門知識をさらに深める・自分のキャリアを振り返りつつ、研究テーマに真剣に取り組む・卒業研究を論文として完成させる

#### <授業の方法>

前期（4年次前期）・3年次に計画した研究や調査を発展させる・プロジェクト型（報告書・事業計画書）の場合：①フィージビリティスタディ（実現可能性の検討）②プロトタイプ作成や改善③起業・プロジェクト実施などの実践活動・論文型の場合：卒業論文に向けた本格的な研究・執筆・前期の成果を「中間発表会」で報告する後期（4年次後期）・卒業研究履修者：12,000字以上の卒業論文を提出。最終審査・公聴会で評価・卒業研究を履修しない学生：ゼミ活動の成果を「ゼミ論文」として提出し、教員が評価

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・各回のテーマに基づくレポート作成、課題、スピーチの準備・次回までに事前課題の予習・授業中の課題の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

#### <教科書>

・各ゼミのシラバスに従う

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・各ゼミのシラバスに従う	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	小堀 浩志			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

ゼミナールⅠでの活動をもとに、卒業研究を完成させることを目指します。・研究テーマを明確にし、調査・分析を進める・結果を文章にまとめ、さらに口頭で発表する・論理的に考え、自分の研究をわかりやすく他者に伝える力を養う

#### <授業の到達目標>

・社会人に求められる一般教養・専門知識をさらに深める・自分のキャリアを振り返りつつ、研究テーマに真剣に取り組む・卒業研究を論文として完成させる

#### <授業の方法>

前期（4年次前期）・3年次に計画した研究や調査を発展させる・プロジェクト型（報告書・事業計画書）の場合：①フィージビリティスタディ（実現可能性の検討）②プロトタイプ作成や改善③起業・プロジェクト実施などの実践活動・論文型の場合：卒業論文に向けた本格的な研究・執筆・前期の成果を「中間発表会」で報告する後期（4年次後期）・卒業研究履修者：12,000字以上の卒業論文を提出。最終審査・公聴会で評価・卒業研究を履修しない学生：ゼミ活動の成果を「ゼミ論文」として提出し、教員が評価

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・各回のテーマに基づくレポート作成、課題、スピーチの準備・次回までに事前課題の予習・授業中の課題の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

#### <教科書>

・各ゼミのシラバスに従う

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・各ゼミのシラバスに従う	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	扇野 睦巳			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

ゼミナールⅠでの活動をもとに、卒業研究を完成させることを目指します。・研究テーマを明確にし、調査・分析を進める・結果を文章にまとめ、さらに口頭で発表する・論理的に考え、自分の研究をわかりやすく他者に伝える力を養う

#### <授業の到達目標>

・社会人に求められる一般教養・専門知識をさらに深める・自分のキャリアを振り返りつつ、研究テーマに真剣に取り組む・卒業研究を論文として完成させる

#### <授業の方法>

前期（4年次前期）・3年次に計画した研究や調査を発展させる・プロジェクト型（報告書・事業計画書）の場合：①フィージビリティスタディ（実現可能性の検討）②プロトタイプ作成や改善③起業・プロジェクト実施などの実践活動・論文型の場合：卒業論文に向けた本格的な研究・執筆・前期の成果を「中間発表会」で報告する後期（4年次後期）・卒業研究履修者：12,000字以上の卒業論文を提出。最終審査・公聴会で評価・卒業研究を履修しない学生：ゼミ活動の成果を「ゼミ論文」として提出し、教員が評価

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・各回のテーマに基づくレポート作成、課題、スピーチの準備・次回までに事前課題の予習・授業中の課題の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

#### <教科書>

・各ゼミのシラバスに従う

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・各ゼミのシラバスに従う	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

ゼミナールⅠでの活動をもとに、卒業研究を完成させることを目指します。・研究テーマを明確にし、調査・分析を進める・結果を文章にまとめ、さらに口頭で発表する・論理的に考え、自分の研究をわかりやすく他者に伝える力を養う

#### <授業の到達目標>

・社会人に求められる一般教養・専門知識をさらに深める・自分のキャリアを振り返りつつ、研究テーマに真剣に取り組む・卒業研究を論文として完成させる

#### <授業の方法>

前期（4年次前期）・3年次に計画した研究や調査を発展させる・プロジェクト型（報告書・事業計画書）の場合：①フィージビリティスタディ（実現可能性の検討）②プロトタイプ作成や改善③起業・プロジェクト実施などの実践活動・論文型の場合：卒業論文に向けた本格的な研究・執筆・前期の成果を「中間発表会」で報告する後期（4年次後期）・卒業研究履修者：12,000字以上の卒業論文を提出。最終審査・公聴会で評価・卒業研究を履修しない学生：ゼミ活動の成果を「ゼミ論文」として提出し、教員が評価

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・各回のテーマに基づくレポート作成、課題、スピーチの準備・次回までに事前課題の予習・授業中の課題の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

#### <教科書>

・各ゼミのシラバスに従う

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・各ゼミのシラバスに従う	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	鈴木 真理子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

ゼミナールⅠでの活動をもとに、卒業研究を完成させることを目指します。・研究テーマを明確にし、調査・分析を進める・結果を文章にまとめ、さらに口頭で発表する・論理的に考え、自分の研究をわかりやすく他者に伝える力を養う

#### <授業の到達目標>

・社会人に求められる一般教養・専門知識をさらに深める・自分のキャリアを振り返りつつ、研究テーマに真剣に取り組む・卒業研究を論文として完成させる

#### <授業の方法>

前期（4年次前期）・3年次に計画した研究や調査を発展させる・プロジェクト型（報告書・事業計画書）の場合：①フィージビリティスタディ（実現可能性の検討）②プロトタイプ作成や改善③起業・プロジェクト実施などの実践活動・論文型の場合：卒業論文に向けた本格的な研究・執筆・前期の成果を「中間発表会」で報告する後期（4年次後期）・卒業研究履修者：12,000字以上の卒業論文を提出。最終審査・公聴会で評価・卒業研究を履修しない学生：ゼミ活動の成果を「ゼミ論文」として提出し、教員が評価

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・各回のテーマに基づくレポート作成、課題、スピーチの準備・次回までに事前課題の予習・授業中の課題の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

#### <教科書>

・各ゼミのシラバスに従う

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・各ゼミのシラバスに従う	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	大池 淳一			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

ゼミナールⅠでの活動をもとに、卒業研究を完成させることを目指します。・研究テーマを明確にし、調査・分析を進める・結果を文章にまとめ、さらに口頭で発表する・論理的に考え、自分の研究をわかりやすく他者に伝える力を養う

#### <授業の到達目標>

・社会人に求められる一般教養・専門知識をさらに深める・自分のキャリアを振り返りつつ、研究テーマに真剣に取り組む・卒業研究を論文として完成させる

#### <授業の方法>

前期（4年次前期）・3年次に計画した研究や調査を発展させる・プロジェクト型（報告書・事業計画書）の場合：①フィージビリティスタディ（実現可能性の検討）②プロトタイプ作成や改善③起業・プロジェクト実施などの実践活動・論文型の場合：卒業論文に向けた本格的な研究・執筆・前期の成果を「中間発表会」で報告する後期（4年次後期）・卒業研究履修者：12,000字以上の卒業論文を提出。最終審査・公聴会で評価・卒業研究を履修しない学生：ゼミ活動の成果を「ゼミ論文」として提出し、教員が評価

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・各回のテーマに基づくレポート作成、課題、スピーチの準備・次回までに事前課題の予習・授業中の課題の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

#### <教科書>

・各ゼミのシラバスに従う

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・各ゼミのシラバスに従う	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

ゼミナールⅠでの活動をもとに、卒業研究を完成させることを目指します。・研究テーマを明確にし、調査・分析を進める・結果を文章にまとめ、さらに口頭で発表する・論理的に考え、自分の研究をわかりやすく他者に伝える力を養う

#### <授業の到達目標>

・社会人に求められる一般教養・専門知識をさらに深める・自分のキャリアを振り返りつつ、研究テーマに真剣に取り組む・卒業研究を論文として完成させる

#### <授業の方法>

前期（4年次前期）・3年次に計画した研究や調査を発展させる・プロジェクト型（報告書・事業計画書）の場合：①フィージビリティスタディ（実現可能性の検討）②プロトタイプ作成や改善③起業・プロジェクト実施などの実践活動・論文型の場合：卒業論文に向けた本格的な研究・執筆・前期の成果を「中間発表会」で報告する後期（4年次後期）・卒業研究履修者：12,000字以上の卒業論文を提出。最終審査・公聴会で評価・卒業研究を履修しない学生：ゼミ活動の成果を「ゼミ論文」として提出し、教員が評価

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・各回のテーマに基づくレポート作成、課題、スピーチの準備・次回までに事前課題の予習・授業中の課題の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

#### <教科書>

・各ゼミのシラバスに従う

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・各ゼミのシラバスに従う	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用) [秋入学生用]				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

「ゼミナールⅠ」での活動を踏まえて、卒業研究を執筆するための個別指導を行う。どのようなテーマを、どのような方法で研究するのか、研究の結果からどのようなことがいえるのかについて検討する。その全体を文章としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身に付けさせることを目的とする。

#### <授業の到達目標>

ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを踏まえつつ、各自の研究テーマに取り組み、論文として仕上げるのが目標である。

#### <授業の方法>

4年前期： 3年次で企画した研究活動・事業行動、調査活動を深めていく。プロジェクト報告書、事業計画書の場合フィージビリティスタディ、プロトタイプ&リファイン活動、実際の起業やプロジェクト遂行などのアクションを重視する。論文の場合、通常の卒業論文執筆のために活動する。卒業研究履修者は、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。4年後期： (1) 卒業研究履修者 12,000字以上の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。グループディスカッション、グループワーク、発見学習、問題解決学習。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも1時間程度必要）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

積極的な演習参加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

#### <教科書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

#### <参考書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55009				区 分	キャリア形成科目			
授業 科目名	課題研究Ⅰ 《通年》				担当者名	河野 儀久			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする。課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう。そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう。

### <授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

### <授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り（グループディスカッション）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する。各授業で指摘された課題を実施する（約1時間）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（レポート、事前課題等） 30%、発表内容 70%

### <教科書>

### <参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス（1）	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成、統計について学ぶ
3	研究論文の読み方	研究論文の読み方について学ぶ
4	文献検索	論文検索方法、採択方法について学ぶ
5	課題研究-テーマに関する検討-	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう。
6	抄読発表（1）	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう。
7	抄読発表（2）	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
8	抄読発表（3）	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
9	ガイダンス（2）	課題研究論文作成に関するガイダンス
10	研究テーマの再検討	テーマについて再検討をグループディスカッションを行なう。
11	参考文献検索	参考文献の検索方法を学ぶ
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方を学ぶ
13	課題研究を発表する（1）	背景・目的の書き方
14	課題研究を発表する（2）	方法、結果の書き方
15	課題研究を発表する（3）	考察、まとめ、参考文献の書き方
16		

科目コード	55009				区 分	キャリア形成科目			
授業 科目名	課題研究Ⅰ 《通年》				担当者名	平林 大輔			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする。課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう。そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう。

### <授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

### <授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションの検討を進める上で、アクティブラーニングを実施できる。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する。各授業で指摘された課題を実施する（約1時間）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（レポート、事前課題等） 30%、発表内容 70%

### <教科書>

### <参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス（1）	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成、統計について学ぶ
3	研究論文の読み方	研究論文の読み方について学ぶ
4	文献検索	論文検索方法、採択方法について学ぶ
5	課題研究-テーマに関する検討-	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう。
6	抄読発表（1）	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう。
7	抄読発表（2）	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
8	抄読発表（3）	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
9	ガイダンス（2）	課題研究論文作成に関するガイダンス
10	研究テーマの再検討	テーマについて再検討をグループディスカッションを行なう。
11	参考文献検索	参考文献の検索方法を学ぶ
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方を学ぶ
13	課題研究を発表する（1）	背景・目的の書き方
14	課題研究を発表する（2）	方法、結果の書き方
15	課題研究を発表する（3）	考察、まとめ、参考文献の書き方
16		

科目コード	55009				区 分	キャリア形成科目			
授業 科目名	課題研究Ⅰ 《通年》				担当者名	福井 悠紀子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする。課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう。そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう。

### <授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

### <授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り（グループディスカッション）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する。各授業で指摘された課題を実施する（約1時間）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（レポート、事前課題等） 30%、発表内容 70%

### <教科書>

### <参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス（1）	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成、統計について学ぶ
3	研究論文の読み方	研究論文の読み方について学ぶ
4	文献検索	論文検索方法、採択方法について学ぶ
5	課題研究-テーマに関する検討-	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう。
6	抄読発表（1）	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう。
7	抄読発表（2）	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
8	抄読発表（3）	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
9	ガイダンス（2）	課題研究論文作成に関するガイダンス
10	研究テーマの再検討	テーマについて再検討をグループディスカッションを行なう。
11	参考文献検索	参考文献の検索方法を学ぶ
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方を学ぶ
13	課題研究を発表する（1）	背景・目的の書き方
14	課題研究を発表する（2）	方法、結果の書き方
15	課題研究を発表する（3）	考察、まとめ、参考文献の書き方
16		

科目コード	55010				区 分	キャリア形成科目			
授業 科目名	課題研究Ⅱ 《通年》				担当者名	簀戸 崇史			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、仮説を立てる企画力を養い、科学的に検証することを目的とする。本講義では、グループにおいて、前半：調査・観測等の探索型研究を企画・立案・実施し、結果を科学的に解釈して評価する、後半：実験・試験等の検証型研究を企画・立案・実施し、結果を科学的に解釈し評価する。この過程を通じて、卒業研究を行なうための準備を行なう。

### <授業の到達目標>

1. 問題を提起して研究テーマを明確にすることができる。2. 科学的な理論やモデルを組み立て、仮説を設定することができる。3. 検証型研究で用いる評価項目や評価指標、そしてその要約値(代表値)を選択するために、なるべく多くの候補項目を観測できるようになる。4. データを要約するために、記述統計学的手法を用い、科学的に解釈し評価することができるようになる。

### <授業の方法>

1. グループワーク（ディスカッション、計測） 2. 省察活動（計測結果についてのプレゼンテーション）

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッションを通じて積極性、主体性を構築する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：設定したテーマについて下調べを行う（毎回、1時間程度）復習：毎講義で与えられた課題について調査し、実践できるように準備する（毎回、2時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲(レポート、事前課題等) 30%、発表内容 70%

### <教科書>

### <参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

酒井 聡樹（2006/4） これから論文を書く若者のために 大改訂増補版 共立出版

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス (1)	ガイダンス, グループ決め, テーマの設定
2	課題研究テーマ検討	定したテーマについて内容を発表、評価
3	検証方法の検討 (1)	検証方法を検討する
4	検証方法の検討 (2)	検討した検証方法を発表、評価
5	実験検証 (1)	実験を行なう(被験者になる)
6	実験検証 (2)	実験を行なう(検者になる)
7	結果のまとめ方	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
8	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ、発表する
9	ガイダンス (2)	ガイダンス, 新グループ決め, 新テーマの設定
10	研究テーマの再検討	設定したテーマについて内容を発表、評価
11	検証方法の検討 (1)	検証方法を検討する
12	検証方法の検討 (2)	検討した検証方法を発表、評価
13	実験検証	実験を行なう
14	結果まとめ	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
15	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ、発表する
16		

科目コード	55010				区 分	キャリア形成科目			
授業 科目名	課題研究Ⅱ 《通年》				担当者名	古山 喜一			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする。課題研究Ⅱでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう。そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう。

### <授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

### <授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ学習で双方向に理解度を確認する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する。各授業で指摘された課題を実施する（約1時間）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（レポート、事前課題等） 30%、発表内容 70%

### <教科書>

### <参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス（1）	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成、統計について学ぶ
3	研究論文の読み方	研究論文の読み方について学ぶ
4	文献検索	論文検索方法、採択方法について学ぶ
5	課題研究-テーマに関する検討-	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう。
6	抄読発表（1）	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう。
7	抄読発表（2）	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
8	抄読発表（3）	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
9	ガイダンス（2）	課題研究論文作成に関するガイダンス
10	研究テーマの再検討	テーマについて再検討をグループディスカッションを行なう。
11	参考文献検索	参考文献の検索方法を学ぶ
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方を学ぶ
13	課題研究を発表する（1）	背景・目的の書き方
14	課題研究を発表する（2）	方法、結果の書き方
15	課題研究を発表する（3）	考察、まとめ、参考文献の書き方
16		

科目コード	55010				区 分	キャリア形成科目			
授業 科目名	課題研究Ⅱ 《通年》				担当者名	河野 儀久			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする。課題研究Ⅱでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう。そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう。

### <授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

### <授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ学習で双方向に理解度を確認する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する。各授業で指摘された課題を実施する（約1時間）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（レポート、事前課題等） 30%、発表内容 70%

### <教科書>

### <参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス（1）	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成、統計について学ぶ
3	研究論文の読み方	研究論文の読み方について学ぶ
4	文献検索	論文検索方法、採択方法について学ぶ
5	課題研究-テーマに関する検討-	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう。
6	抄読発表（1）	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう。
7	抄読発表（2）	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
8	抄読発表（3）	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
9	ガイダンス（2）	課題研究論文作成に関するガイダンス
10	研究テーマの再検討	テーマについて再検討をグループディスカッションを行なう。
11	参考文献検索	参考文献の検索方法を学ぶ
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方を学ぶ
13	課題研究を発表する（1）	背景・目的の書き方
14	課題研究を発表する（2）	方法、結果の書き方
15	課題研究を発表する（3）	考察、まとめ、参考文献の書き方
16		

科目コード	55010				区 分	キャリア形成科目			
授業 科目名	課題研究Ⅱ 《通年》				担当者名	平林 大輔			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする。課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう。そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう。

#### <授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

#### <授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する。各授業で指摘された課題を実施する（約1時間）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題評価90%、学習意欲10%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス（1）	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成、統計について学ぶ
3	研究論文の読み方	研究論文の読み方について学ぶ
4	文献検索	論文検索方法、採択方法について学ぶ
5	課題研究-テーマに関する検討-	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう。
6	抄読発表（1）	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう。
7	抄読発表（2）	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
8	抄読発表（3）	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
9	ガイダンス（2）	課題研究論文作成に関するガイダンス
10	研究テーマの再検討	テーマについて再検討をグループディスカッションを行なう。
11	参考文献検索	参考文献の検索方法を学ぶ
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方を学ぶ
13	課題研究を発表する（1）	背景・目的の書き方
14	課題研究を発表する（2）	方法、結果の書き方
15	課題研究を発表する（3）	考察、まとめ、参考文献の書き方
16		

科目コード	61002				区 分	専門科目			
授業科目名	トレーニング演習 [PH用]				担当者名	河野 儀久			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

競技力向上のためには筋力の向上は不可欠であり、また生涯にわたり健康的な生活を送るためにも筋力を高めることは重要な要素となる。筋力を高めるレジスタンストレーニングを中心に、各種トレーニング法について学習する。

#### <授業の到達目標>

正しいフォームでレジスタンストレーニングを実施できるようになる。各種トレーニングの目的を理解し、正しい指導方法を学習する。

#### <授業の方法>

実技ならびに指導実践を中心に実施する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り（トレーニング実技）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：解剖学や生理学、トレーニング論等の基礎理論をインターネットや文献で調べてくる。（1時間）復習：授業中に撮影したトレーニング映像を視聴しながら、自分のトレーニングフォームについて課題などを整理する。（1時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（授業への取り組み、レポート課題）50%、試験（小テスト、実技）50%

#### <教科書>

IPU環太平洋大学トップガン・トレーナーチーム2019 筋トレガイドブック 丸善

#### <参考書>

NSCAジャパン NSCA決定版ストレングストレーニング&コンディショニング第4版 Book House HD

NSCAジャパン NSCAレジスタンストレーニングのためのエクササイズテクニックマニュアル第3版 NSCAジャパン

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法の確認、講義の概要
2	上半身のエクササイズ①	胸部、肩のエクササイズ
3	上半身のエクササイズ②	背部のエクササイズ
4	上半身のエクササイズ③	ダンベルを用いたエクササイズ
5	下半身のエクササイズ①	デッドリフト動作
6	下半身のエクササイズ②	スクワット動作
7	下半身のエクササイズ③	片脚エクササイズ
8	トレーニング動作のチェック	ビックスリーの動作テスト
9	オリンピックリフティング	ハングスナッチの段階的な習得方法
10	コアエクササイズ	腹部のエクササイズ
11	トレーニングの方法①	安全な筋力測定の方法
12	トレーニングの方法②	筋肥大トレーニングの方法
13	トレーニングの方法③	筋力向上トレーニングの方法
14	トレーニングの方法④	パワー向上トレーニングの方法
15	まとめ	実技テスト・授業の総復習
16		

科目コード	61003				区 分	コア科目			
授業 科目名	スポーツ健康論				担当者名	眞鍋 芳江			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

今般の医療制度改革においては、生活習慣病予防が生涯を通じた個人の健康づくりだけでなく、中長期的な医療費適正化対策の柱の一つとして位置づけられており、今後展開される本格的な生活習慣病対策においては、一次予防に留まらず二次予防も含めた健康づくりのための運動を指導する専門家の必要性が増している。本講義においては、運動プログラムの基本的な考え方を理解し、対象特性に合わせた包括的な運動プログラムの作成方法、運動行動変容の理論と実際について学ぶ。

#### <授業の到達目標>

運動プログラムの基本的な考え方を理解し、対象特性に合わせた包括的な運動プログラムの作成できるようになること、そして成果をもたらすためには行動の継続が重要であることを理解し、行動変容を生じさせることを目的とした行動変容理論・モデルおよび技法についての知識を習得することを目標としている。

#### <授業の方法>

教科書を基に、パワーポイントによる講義形式で授業を行う。毎回の確認問題およびフィードバックにより理解を深めることとする。資料の配布はクラスルームを介して連絡を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素の有無 有 2、3人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に教科書を熟読し（約1時間）、課題に対しては、参考図書・参考資料を参照しながら、授業の理解を深める。また、確認テストの結果内容について、振り返りを行う（約30分）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 20%、確認問題 20%、定期試験 60%

#### <教科書>

公益財団法人 健康・体力づくり事業財団（2020年） 健康運動指導士養成講習会テキスト（上・下） 健康・体力づくり事業財団

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	序論	スポーツと健康の関係についての概略
2	検診結果について（1）	検診結果の読み方
3	検診結果について（2）	検診結果による効果測定
4	運動のためのメディカルチェック	運動のための内科メディカルチェックについて
5	安静時心電図	安静時心電図の基本の理解
6	負荷心電図	運動負荷中における心電図の実際
7	運動負荷試験	運動負荷試験の実際
8	内科疾患のリハビリテーションと運動療法	呼吸器疾患、循環器疾患にに対する運動プログラム
9	身体活動量の定量法とその実際	身体活動量の測定法と評価方法
10	運動処方（1）	生活習慣病に対する運動療法プログラム（包括的プログラム）
11	運動処方（2）	生活習慣病に対する運動療法プログラム（過体重・肥満症と高血糖・糖尿病）
12	運動処方（3）	服薬者に対する運動療法プログラム
13	運動行動変容の理論と実際（1）	行動変容の理論
14	運動行動変容と理論と実際（2）	行動変容理論の実践的適用
15	まとめ	まとめと今後の展望
16		

科目コード	61005				区 分	コア科目			
授業科目名	運動障害と予防および救急処置 [資格取得希望者]				担当者名	河合 洋二郎			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

運動は、健康維持や増進に非常に貢献するが、その一方でそれ自身危険を伴う行為でもある。運動を景気に障害の発生する場合がある。障害の発生機序を理解し、その予防を合わせて勉強する。

#### <授業の到達目標>

本講義は後の科目（スポーツ健康論など）の役に立つ講義を目指す。

#### <授業の方法>

教科書と共に必要に応じてプリントを配布し、それに基づいて解説する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時に随時通知する予定。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験100%

#### <教科書>

「健康運動指導士養成講習会テキスト」 財団法人健康・体力づくり財団

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	序論	総論。障害とは、適応との違いとは
2	外科的障害（1）	上肢（上肢帯、上腕、肘、前腕、手）の障害
3	外科的障害（2）	下肢（下肢帯、大腿、膝、下腿、足）の障害
4	外科的障害（3）	脊髄の障害
5	外科的障害の予防	外科的外傷の予防法
6	外科的障害の治療（1）	外科的救急処置について（全身管理と局所管理）
7	外科的障害の治療（2）、小テスト	実習：外科救急処置の実習（状態把握、冷却）、小テスト
8	外科的障害の治療（3）	実習：外科的救急処置の実習（固定法、テーピング）
9	内科的障害（1）	内科的急性障害（突然死、熱中症）などの疫学、成因、病因、病態生理
10	内科的障害（2）	内科的慢性障害（貧血、オーバートレーニング症候群など）の疫学、成因、病因、病態生理
11	内科的障害の予防	内科的障害の予防法
12	内科的障害の治療（1）	救急蘇生法について、状態把握、胸痛の分類
13	内科的障害の治療（2）	実習：熱中症、過換気症候群の救急処置
14	内科的障害の治療（3）	実習：救急蘇生法、AED、CRP
15	特殊環境下における運動障害と予防	高山病、潜水病、寒冷地での低体温について
16		

科目コード	61005				区 分	コア科目			
授業科目名	運動障害と予防および救急処置 [資格取得希望者]				担当者名	河合 洋二郎			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

運動は、健康維持や増進に非常に貢献するが、その一方でそれ自身危険を伴う行為でもある。運動を景気に障害の発生する場合がある。障害の発生機序を理解し、その予防を合わせて勉強する。

#### <授業の到達目標>

本講義は後の科目（スポーツ健康論など）の役に立つ講義を目指す。

#### <授業の方法>

教科書と共に必要に応じてプリントを配布し、それに基づいて解説する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時に随時通知する予定。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験100%

#### <教科書>

「健康運動指導士養成講習会テキスト」 財団法人健康・体力づくり財団

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	序論	総論。障害とは、適応との違いとは
2	外科的障害（1）	上肢（上肢帯、上腕、肘、前腕、手）の障害
3	外科的障害（2）	下肢（下肢帯、大腿、膝、下腿、足）の障害
4	外科的障害（3）	脊髄の障害
5	外科的障害の予防	外科的外傷の予防法
6	外科的障害の治療（1）	外科的救急処置について（全身管理と局所管理）
7	外科的障害の治療（2）、小テスト	実習：外科救急処置の実習（状態把握、冷却）、小テスト
8	外科的障害の治療（3）	実習：外科的救急処置の実習（固定法、テーピング）
9	内科的障害（1）	内科的急性障害（突然死、熱中症）などの疫学、成因、病因、病態生理
10	内科的障害（2）	内科的慢性障害（貧血、オーバートレーニング症候群など）の疫学、成因、病因、病態生理
11	内科的障害の予防	内科的障害の予防法
12	内科的障害の治療（1）	救急蘇生法について、状態把握、胸痛の分類
13	内科的障害の治療（2）	実習：熱中症、過換気症候群の救急処置
14	内科的障害の治療（3）	実習：救急蘇生法、AED、CRP
15	特殊環境下における運動障害と予防	高山病、潜水病、寒冷地での低体温について
16		

科目コード	61007				区 分	コア科目			
授業科目名	トレーニング演習 I (基礎) [PP2521組用]				担当者名	國友 亮佑／三浦 孝仁			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

競技力向上のためには筋力の向上は不可欠であり、また生涯にわたり健康的な生活を送るためにも筋力を高めることは重要な要素となる。筋力を高めるレジスタンストレーニングを中心に、各種トレーニング法について学習する。この科目は体育学科用の科目になります。なお、トレーニングセンターの収容人数の関係で受講者の上限数は50名前後とします。

### <授業の到達目標>

各種トレーニングの目的を理解し、正しいフォームでレジスタンストレーニングを実施できるようになる。

### <授業の方法>

グループワークを中心に実技を実施する。グループ内で相互にエクササイズフォームをチェックし、動作に対するフィードバックを行っていく。その際に、スマートフォンを使用して実技の撮影も行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指定の教科書に記載されているエクササイズのチェックポイントを確認しておく。（1時間）復習：授業中に撮影したトレーニング映像を視聴しながら、自分のエクササイズフォームの課題を確認し、次回授業までに動作練習を行う。（1時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（授業への取り組み、課題の提出状況、グループワークへの貢献度）20%、レポート課題20%、実技試験 60%

### <教科書>

IPU環太平洋大学トップガン・トレーナーチーム2019 筋トレガイドブック 丸善

### <参考書>

NSCAジャパン NSCA決定版ストレングストレーニング&コンディショニング第4版 Book House HD

NSCAジャパン NSCAレジスタンストレーニングのためのエクササイズテクニックマニュアル第3版 NSCAジャパン

NPO法人 日本トレーニング指導者協会 JATI 認定トレーニング指導者オフィシャルテキスト トレーニング指導者テキスト〔実践編〕 大修館書店

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義の概要と受講ルールの確認、トレーニング器具の使用法、安全な補助の方法
2	トレーニング総論	短期的・中期的・長期的トレーニング計画の立案、トレーニング原理・原則
3	自体重のエクササイズ	器具を使わないトレーニングのエクササイズテクニックについて
4	上半身のエクササイズ①	胸部のエクササイズテクニックについて
5	上半身のエクササイズ②	肩部のエクササイズテクニックについて
6	上半身のエクササイズ③	背部のエクササイズテクニックについて
7	下半身のエクササイズ①	デッドリフトのエクササイズテクニックについて①
8	下半身のエクササイズ②	スクワットのエクササイズテクニックについて
9	下半身のエクササイズ③	ランジのエクササイズテクニックについて
10	パワーエクササイズ①	ハングクリーンのエクササイズテクニックについて①
11	パワーエクササイズ②	ハングクリーンのエクササイズテクニックについて②
12	トレーニング方法①	筋肥大トレーニングの方法
13	トレーニングの方法②	最大筋力向上トレーニングの方法
14	トレーニングの方法③	パワー向上トレーニングの方法
15	まとめ	実技テスト
16		

科目コード	61007				区 分	コア科目			
授業科目名	トレーニング演習 I (基礎) [PP2522組用]				担当者名	國友 亮佑／三浦 孝仁			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

競技力向上のためには筋力の向上は不可欠であり、また生涯にわたり健康的な生活を送るためにも筋力を高めることは重要な要素となる。筋力を高めるレジスタンストレーニングを中心に、各種トレーニング法について学習する。この科目は体育学科用の科目になります。なお、トレーニングセンターの収容人数の関係で受講者の上限数は50名前後とします。

### <授業の到達目標>

各種トレーニングの目的を理解し、正しいフォームでレジスタンストレーニングを実施できるようになる。

### <授業の方法>

グループワークを中心に実技を実施する。グループ内で相互にエクササイズフォームをチェックし、動作に対するフィードバックを行っていく。その際に、スマートフォンを使用して実技の撮影も行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指定の教科書に記載されているエクササイズのチェックポイントを確認しておく。（1時間）復習：授業中に撮影したトレーニング映像を視聴しながら、自分のエクササイズフォームの課題を確認し、次回授業までに動作練習を行う。（1時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（授業への取り組み、課題の提出状況、グループワークへの貢献度）20%、レポート課題20%、実技試験 60%

### <教科書>

IPU環太平洋大学トップガン・トレーナーチーム2019 筋トレガイドブック 丸善

### <参考書>

NSCAジャパン NSCA決定版ストレングストレーニング&コンディショニング第4版 Book House HD

NSCAジャパン NSCAレジスタンストレーニングのためのエクササイズテクニックマニュアル第3版 NSCAジャパン

NPO法人 日本トレーニング指導者協会 JATI 認定トレーニング指導者オフィシャルテキスト トレーニング指導者テキスト〔実践編〕 大修館書店

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義の概要と受講ルールの確認、トレーニング器具の使用法、安全な補助の方法
2	トレーニング総論	短期的・中期的・長期的トレーニング計画の立案、トレーニング原理・原則
3	自体重のエクササイズ	器具を使わないトレーニングのエクササイズテクニックについて
4	上半身のエクササイズ①	胸部のエクササイズテクニックについて
5	上半身のエクササイズ②	肩部のエクササイズテクニックについて
6	上半身のエクササイズ③	背部のエクササイズテクニックについて
7	下半身のエクササイズ①	デッドリフトのエクササイズテクニックについて①
8	下半身のエクササイズ②	スクワットのエクササイズテクニックについて
9	下半身のエクササイズ③	ランジのエクササイズテクニックについて
10	パワーエクササイズ①	ハングクリーンのエクササイズテクニックについて①
11	パワーエクササイズ②	ハングクリーンのエクササイズテクニックについて②
12	トレーニング方法①	筋肥大トレーニングの方法
13	トレーニングの方法②	最大筋力向上トレーニングの方法
14	トレーニングの方法③	パワー向上トレーニングの方法
15	まとめ	実技テスト
16		

科目コード	61007				区 分	コア科目			
授業科目名	トレーニング演習Ⅰ(基礎) [A]				担当者名	國友 亮佑／三浦 孝仁			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

競技力向上のためには筋力の向上は不可欠であり、また生涯にわたり健康的な生活を送るためにも筋力を高めることは重要な要素となる。筋力を高めるレジスタンストレーニングを中心に、各種トレーニング法について学習する。 競技スポーツ科学科用の科目になります。

### <授業の到達目標>

各種トレーニングの目的を理解し、正しいフォームでレジスタンストレーニングを実施できるようになる。

### <授業の方法>

グループワークを中心に実技を実施する。グループ内で相互にエクササイズのフォームをチェックし、動作に対するフィードバックを行っていく。その際に、スマートフォンを使用して実技の撮影も行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指定の教科書に記載されているエクササイズのチェックポイントを確認しておく。(1時間)復習：授業中に撮影したトレーニング映像を視聴しながら、自分のエクササイズフォームの課題を確認し、次回授業までに動作練習を行う。(1時間)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（授業への取り組み、課題の提出状況、グループワークへの貢献度）30%、実技試験 70%

### <教科書>

IPU環太平洋大学トップガン・トレーナーチーム2019 筋トレガイドブック 丸善

### <参考書>

NSCAジャパン NSCA決定版ストレングストレーニング&コンディショニング第4版 Book House HD

NSCAジャパン NSCAレジスタンストレーニングのためのエクササイズテクニックマニュアル第3版 NSCAジャパン

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法の確認、講義の概要
2	上半身のエクササイズ①	胸部のエクササイズテクニックについて
3	上半身のエクササイズ②	肩部のエクササイズテクニックについて
4	上半身のエクササイズ③	上背部のエクササイズテクニックについて
5	上半身のエクササイズ①	下背部のエクササイズテクニック
6	下半身のエクササイズ①	デッドリフトのエクササイズテクニックについて
7	下半身のエクササイズ②	スクワットのエクササイズテクニックについて
8	下半身のエクササイズ③	片脚種目のエクササイズテクニックについて
9	中間実技試験	ベンチプレス、スクワットの動作評価
10	パワーエクササイズ①	ハングクリーンのエクササイズテクニックについて
11	パワーエクササイズ②	ハングクリーンのエクササイズテクニックについて②
12	トレーニング方法①	筋肥大トレーニングの方法
13	トレーニングの方法②	筋力向上トレーニングの方法
14	トレーニングの方法④	パワー向上トレーニングの方法
15	まとめ	実技テスト・授業の総復習
16		

科目コード	61007				区 分	コア科目			
授業 科目名	トレーニング演習Ⅰ(基礎) [B]				担当者名	國友 亮佑／三浦 孝仁			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

競技力向上のためには筋力の向上は不可欠であり、また生涯にわたり健康的な生活を送るためにも筋力を高めることは重要な要素となる。筋力を高めるレジスタンストレーニングを中心に、各種トレーニング法について学習する。 競技スポーツ科学科用の科目になります。

### <授業の到達目標>

各種トレーニングの目的を理解し、正しいフォームでレジスタンストレーニングを実施できるようになる。

### <授業の方法>

グループワークを中心に実技を実施する。グループ内で相互にエクササイズのフォームをチェックし、動作に対するフィードバックを行っていく。その際に、スマートフォンを使用して実技の撮影も行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指定の教科書に記載されているエクササイズのチェックポイントを確認しておく。（1時間）復習：授業中に撮影したトレーニング映像を視聴しながら、自分のエクササイズフォームの課題を確認し、次回授業までに動作練習を行う。（1時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（授業への取り組み、課題の提出状況、グループワークへの貢献度）30%、実技試験 70%

### <教科書>

IPU環太平洋大学トップガン・トレーナーチーム2019 筋トレガイドブック 丸善

### <参考書>

NSCAジャパン NSCA決定版ストレングストレーニング&コンディショニング第4版 Book House HD

NSCAジャパン NSCAレジスタンストレーニングのためのエクササイズテクニクマニュアル第3版 NSCAジャパン

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法の確認、講義の概要
2	上半身のエクササイズ①	胸部のエクササイズテクニクについて
3	上半身のエクササイズ②	肩部のエクササイズテクニクについて
4	上半身のエクササイズ③	上背部のエクササイズテクニクについて
5	上半身のエクササイズ①	下背部のエクササイズテクニク
6	下半身のエクササイズ①	デッドリフトのエクササイズテクニクについて
7	下半身のエクササイズ②	スクワットのエクササイズテクニクについて
8	下半身のエクササイズ③	片脚種目のエクササイズテクニクについて
9	中間実技試験	ベンチプレス、スクワットの動作評価
10	パワーエクササイズ①	ハングクリーンのエクササイズテクニクについて
11	パワーエクササイズ②	ハングクリーンのエクササイズテクニクについて②
12	トレーニング方法①	筋肥大トレーニングの方法
13	トレーニングの方法②	筋力向上トレーニングの方法
14	トレーニングの方法④	パワー向上トレーニングの方法
15	まとめ	実技テスト・授業の総復習
16		

科目コード	61007				区 分	コア科目			
授業科目名	トレーニング演習 I (基礎) [2025年生PH用]				担当者名	河野 儀久			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

競技力向上のためには筋力の向上は不可欠であり、また生涯にわたり健康的な生活を送るためにも筋力を高めることは重要な要素となる。筋力を高めるレジスタンストレーニングを中心に、各種トレーニング法について学習する。 競技スポーツ科学科用の科目になります。

### <授業の到達目標>

各種トレーニングの目的を理解し、正しいフォームでレジスタンストレーニングを実施できるようになる。

### <授業の方法>

グループワークを中心に実技を実施する。グループ内で相互にエクササイズのフォームをチェックし、動作に対するフィードバックを行っていく。その際に、スマートフォンを使用して実技の撮影も行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指定の教科書に記載されているエクササイズのチェックポイントを確認しておく。（1時間）復習：授業中に撮影したトレーニング映像を視聴しながら、自分のエクササイズフォームの課題を確認し、次回授業までに動作練習を行う。（1時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（授業への取り組み、課題の提出状況、グループワークへの貢献度）30%、実技試験 70%

### <教科書>

IPU環太平洋大学トップガン・トレーナーチーム2019 筋トレガイドブック 丸善

### <参考書>

NSCAジャパン NSCA決定版ストレングストレーニング&コンディショニング第4版 Book House HD

NSCAジャパン NSCAレジスタンストレーニングのためのエクササイズテクニックマニュアル第3版 NSCAジャパン

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法の確認、講義の概要
2	上半身のエクササイズ①	胸部のエクササイズテクニックについて
3	上半身のエクササイズ②	肩部のエクササイズテクニックについて
4	上半身のエクササイズ③	上背部のエクササイズテクニックについて
5	上半身のエクササイズ①	下背部のエクササイズテクニック
6	下半身のエクササイズ①	デッドリフトのエクササイズテクニックについて
7	下半身のエクササイズ②	スクワットのエクササイズテクニックについて
8	下半身のエクササイズ③	片脚種目のエクササイズテクニックについて
9	中間実技試験	ベンチプレス、スクワットの動作評価
10	パワーエクササイズ①	ハングクリーンのエクササイズテクニックについて
11	パワーエクササイズ②	ハングクリーンのエクササイズテクニックについて②
12	トレーニング方法①	筋肥大トレーニングの方法
13	トレーニングの方法②	筋力向上トレーニングの方法
14	トレーニングの方法④	パワー向上トレーニングの方法
15	まとめ	実技テスト・授業の総復習
16		

科目コード	61008				区 分	コア			
授業 科目名	トレーニング演習Ⅱ(応用) [PS用]				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

コンディショニングについて理解を行いつつ、競技力向上のためには、高めた筋力をパワーやスピードに転換していく事が求められ、レジスタンストレーニング以外の様々なトレーニングを実践する事で総合的に体力要素の向上をさせていく必要がある。また、筋パワーを高める事は、機能的能力を改善し高齢者の転倒予防など生活の質を向上させる事にも寄与する。そこで、本授業では、体力諸要素である可動域、バランス、筋力、パワー、スピード・アジリティ、持久力等の各種トレーニングの立案・指導するために必要な知識と技能を習得することを目的とする。

### <授業の到達目標>

競技特性を分析を行い、各種トレーニングの目的を理解し、適切なフォーム（テクニック）や設定（プログラム）でトレーニングを実施できる基礎を習得する。

### <授業の方法>

演習。オンデマンド課題と併用して行い、パワーポイントや動画での説明と実技を中心に実施する。また、指導実践の際はグループワーク・ディスカッションを行う。グーグルフォームにて省察レポートを提出させる。この科目は競技スポーツ科学科学学生のみ履修できる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有基本的には実技をメインにて行う。5、6人のグループに分かれ、ディスカッション、グループワークを行う。

### <準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 解剖学や生理学、トレーニング論等の基礎理論を確認しておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題(期末試験) 50%、受講態度(授業の取り組み・グループへの貢献) 50%

### <教科書>

### <参考書>

NSCA ジャンパン 2018年1月30日 NSCA決定版 ストレングストレーニング&コンディショニング第4版 ブックハウスHD  
日本トレーニング指導者協会 2014年3月5日 トレーニング指導者テキスト 実践編 改訂版 大修館書店  
公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 3巻 コンディショニング』（公財）日本スポーツ協会

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業のねらい コンディショニング(トレーニング) の総論と正しい動作の理解	授業のねらいと進め方 体力、トレーニングとは トレーニングの原理・原則
2	可動域・柔軟性トレーニング	抑制・伸長テクニック 器具によるリリース 各ストレッチ等
3	コア・バランストレーニング	腹圧・IAPの獲得・向上 スタビリティトレーニング 神経筋・固有受容器トレーニング
4	筋力・パワートレーニング① 基本動作	基本動作獲得 スクワットジャンプ メディシンボール投げ等
5	筋力・パワートレーニング②とコーディネーション	プライオメトリクス コーディネーショントレーニング
6	スプリントスピードトレーニング	トリプルエクステンションの獲得 ウォールドリル ハードドリル等
7	アジリティトレーニング① (加速動作)	サイドステップ・クロスオーバー動作・加速動作の獲得 Tドリル等
8	アジリティトレーニング② (減速・停止動作)	パワーポジション・ステップ・減速・停止動作の獲得 アプローチから減速等 90度、180度切り返し等
9	代謝系・持久力トレーニング①	マルチステージテスト
10	代謝系・持久力トレーニング②	持久力トレーニング(LT OBLA VO2max強度) サーキットトレーニング
11	ウォーミングアップとクーリングダウン	ウォーミングアップとクーリングダウンの方法と実際
12	各種トレーニング振り返り①	各種トレーニング振り返りと実践
13	各種トレーニング振り返り②	各種トレーニング振り返りと実践
14	各種トレーニング振り返り③	各種トレーニング振り返りと実践

15	期末試験　まとめ	期末試験　まとめ
16		

科目コード	61008				区 分	コア			
授業 科目名	トレーニング演習Ⅱ(応用) [トレーナー用]				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

コンディショニングについて理解を行いつつ、競技力向上のためには、高めた筋力をパワーやスピードに転換していく事が求められ、レジスタンストレーニング以外の様々なトレーニングを実践する事で総合的に体力要素の向上をさせていく必要がある。また、筋パワーを高める事は、機能的能力を改善し高齢者の転倒予防など生活の質を向上させる事にも寄与する。そこで、本授業では、体力諸要素である可動域、バランス、筋力、パワー、スピード・アジリティ、持久力等の各種トレーニングの立案・指導するために必要な知識と技能を習得することを目的とする。

### <授業の到達目標>

競技特性を分析を行い、各種トレーニングの目的を理解し、適切なフォーム（テクニック）や設定（プログラム）でトレーニングを実施でき、正しい指導方法を習得する。

### <授業の方法>

演習。パワーポイントや動画での説明と実技を中心に実施する。また、指導実践の際はグループワーク・ディスカッションを行う。グーグルフォームにて省察レポートを提出させる。この科目は実技を伴う演習のため履修上限を定める。履修上限人数：1コマ 36名このトレーニング演習Ⅱ（応用）は資格必須科目であるため、優先的に履修できる条件を設定し（優先条件）、こちらで履修の可否とクラス分け(時間割)を行います。優先条件は以下になります。 優先①：JSP0-ATとJPSU-スポーツトレーナーとJATI-ATIの取得予定（資格必須）

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有基本的には実技をメインにて行う。5、6人のグループに分かれ、ディスカッション、グループワークを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 解剖学や生理学、トレーニング論等の基礎理論を確認しておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題(指導実践・振り返りレポート含む) 50%、受講態度(授業の取り組み・グループへの貢献) 50%

### <教科書>

### <参考書>

NSCA ジャンパン 2018年1月30日 NSCA決定版 ストレngthトレーニング&コンディショニング第4版 ブックハウスHD  
日本トレーニング指導者協会 2014年3月5日 トレーニング指導者テキスト 実践編 改訂版 大修館書店  
公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日 (第1刷) 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 3巻 コンディショニング』 (公財) 日本スポーツ協会

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業のねらい コンディショニング(トレーニング) の総論と正しい動作の理解	授業のねらいと進め方 体力、トレーニングとは トレーニングの原理・原則
2	可動域・柔軟性トレーニング	抑制・伸長テクニック 器具によるリリース 各ストレッチ等
3	コア・バランストレーニング	腹圧・IAPの獲得・向上 スタビリティトレーニング 神経筋・固有受容器トレーニング
4	筋力・パワートレーニング① 基本動作	基本動作獲得 スクワットジャンプ メディシンボール投げ等
5	筋力・パワートレーニング②とコーディネーション	ブライオメトリクス コーディネーショントレーニング
6	スプリントスピードトレーニング	トリプルエクステンションの獲得 ウォールドリル ハードドリル等
7	アジリティトレーニング① (加速動作)	サイドステップ・クロスオーバー動作・加速動作の獲得 Tドリル等
8	アジリティトレーニング② (減速・停止動作)	パワーポジション・ステップ・減速・停止動作の獲得 アプローチから減速等 90度、180度切り返し等
9	代謝系・持久力トレーニング①	マルチステージテスト
10	代謝系・持久力トレーニング②	持久力トレーニング(LT OBLA V02max強度) サーキットトレーニング
11	ウォーミングアップとクーリングダウン	ウォーミングアップとクーリングダウンの方法と実際
12	グループワーク 競技特性分析、立案と	グループに分かれて トレーニングを立案する また、負荷のモニタリング方法を

	トレーニング負荷のモニタリング	知る
13	グループワーク 指導実践①	指導実施者と指導対象者に分かれて指導実践
14	グループワーク 指導実践②	指導実施者と指導対象者に分かれて指導実践
15	グループワーク 指導実践③ まとめ	指導実施者と指導対象者に分かれて指導実践 まとめ
16		

科目コード	61010				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツ・レクリエーション演習				担当者名	十河 直太			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

スポーツを手段として活用し、心の元気づくりを行うとともに、スポーツ・レクリエーション活動による健康増進効果を図る専門の人材を養成するプログラムの一環を担う。

#### <授業の到達目標>

レクリエーションという言葉の主旨を理解するとともに、スポーツ未実施者をスポーツ・レクリエーション活動に誘い、スポーツ・レクリエーション活動の楽しさと効果を伝え、継続へと繋げるための理論と実践方法を身につける。

#### <授業の方法>

スライドと配布資料をもとに講義を展開するとともに、指導実践に向けた演習を行う。前時の講義内容の振り返りを、毎時において振り返りレポートを通じて行う。その他、グループワークを通じて本時の授業の理解を深める。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：有グループに分かれ、単元で学んだ内容についてディスカッションを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前時に記録したノートや配布された資料をもとに授業の振り返りをする（30分程度）。また、与えられた課題に対し、参考書やインターネットを利用して情報収集に努め、レポート作成に取り組む（1時間30分程度）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日常の授業における実践的な態度および振り返りレポートを含む課題提出（70％）。また、最終講義を終えた上でのまとめレポート（30％）を実施し、以上を総合的に評価する。

#### <教科書>

（公財）日本レクリエーション協会 スポーツ・レクリエーション指導者養成テキスト「スポレク活動で健康寿命を延伸」 2019年

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、および授業におけるルールの確認
2	スポーツ・レクリエーション概論	スポーツ・レクリエーションとは、スポーツ・レクリエーション指導者の使命
3	スポーツ・レクリエーション生理学	日本人の生涯と高齢期の身体的特色、高齢期に訪れる危機、危機を回復する運動効果
4	スポーツ・レクリエーション心理学	高齢者の心理的特徴と運動やスポーツ・レクリエーションの心理的効果
5	スポーツ未実施者参加促進法	スポーツ未実施者参加促進法の進め方と体験会で活用できるスポレクワーク
6	スポーツ・レクリエーションの継続のための場づくり	活動の場づくりの必要性とはじめの一步
7	スポーツ行政の仕組みと連携方法	何故、行政と連携なのか
8	動機付けの支援技術Ⅰ	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ、良好な集団作りの方法・アイスブレイキング、スポレクの効果を理解し意欲を高める言葉かけ
9	動機付けの支援技術Ⅱ	スポーツ未実施者を引き込む手法と楽しめる指導、対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術、継続意欲を高めるスポレク活動の展開
10	活動理解	コミュニケーションを深める展開方法とプログラム化する方法
11	安全管理の基礎	救急対応と救急体制の作り方
12	総合演習Ⅰ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その1
13	総合演習Ⅱ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その2
14	総合演習Ⅲ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その3
15	まとめ	講義内容全般における振り返り
16		

科目コード	61013				区 分	コア			
授業 科目名	トレーニング科学 I (基礎)				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本講義では、トレーニングの基礎的概念をベースに、各種体力（筋力、パワー、持久力など）を効果的に高めるためのトレーニング計画を立てる能力を養う。また、トレーニングの成否を判断するための体力の評価法についても学習する。

### <授業の到達目標>

各々の課題に応じたトレーニングを計画し、トレーニングの成否を評価する能力を養うことを目標とする。

### <授業の方法>

パワーポイントを用いたオンデマンド講義を視聴した上で、対面授業において確認テストとグループディスカッションを行う

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション）5、6人のグループに分かれ、授業テーマに対する意見をグループで共有する

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：書き込み式教材の必要箇所を埋めた上で、参考資料を熟読すること。復習：授業に対するコメントを翌日の17時までに回答した上で、次の授業で行う確認テストの準備を行うこと。（所要時間：2時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1) 毎回の評価：5点×15回（確認テスト・意見交換＋レポート提出）2) 期末レポート評価：25点期末レポートは、毎回の授業で課すレポートをまとめたものに総合考察を付けて提出してもらいます。毎回のレポート評価は提出点のみとし、期末レポートで内容まで評価します。

### <教科書>

### <参考書>

宮下充正 トレーニングの科学的基礎 ブックハウスHD

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	トレーニングの基礎的概念①	トレーニングの原理・原則、量・強度・質のとらえ方
3	トレーニングの基礎的概念②	トレーニングの分類、負荷特性
4	力強さを高めるためのトレーニング	最大筋力、筋肥大、レジスタンストレーニング
5	力強さを持続するためのトレーニング	筋持久力、サーキット・トレーニング
6	ねばり強さを高めるためのトレーニング	最大酸素摂取量、LT、インターバル・トレーニング
7	トレーニングの順序・組み合わせ	コンカレント・トレーニング、クロス・トレーニング
8	トレーニングと環境	寒冷、暑熱、高地
9	トレーニングと栄養補給	スポーツライフマネジメント、三大栄養素
10	コンディショニングの理論と方法	疲労と体力の関係性、オーバートレーニング症候群
11	トレーニング効果の評価方法（1）ラボテスト	最大酸素摂取量、最大筋力、各種跳躍能力の測定と評価
12	トレーニング効果の評価方法（2）フィールドテスト	筋力、パワーおよび跳躍能力の測定と評価
13	トレーニング計画の作成（1）陸上競技	課題設定と達成のための計画づくり
14	トレーニング計画の作成（2）球技	課題設定と達成のための計画づくり
15	トレーニング計画の作成（3）武道	課題設定と達成のための計画づくり
16		

科目コード	61014				区 分	コア			
授業 科目名	トレーニング科学Ⅱ(応用)				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本講義では、トレーニングの基礎的概念をベースに、各種体力（筋力、パワー、持久力など）を効果的に高めるためのトレーニング計画を立てる能力を養う。また、トレーニングの成否を判断するための体力の評価法についても学習する。

#### <授業の到達目標>

各々の課題に応じたトレーニングを計画し、トレーニングの成否を評価することができる。

#### <授業の方法>

講義と受講者による発表・討論を行います。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（プレゼンテーション・ディスカッション）5、6人のグループに分かれてプレゼンテーションを行い、その内容についてディスカッションする。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

参考図書（トレーニングの科学的基礎）を熟読の上、授業に参加すること。（所要時間：2時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（提出物を含む）60%、発表40%

#### <教科書>

#### <参考書>

宮下充正 トレーニングの科学的基礎 ブックハウスHD

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	トレーニングの基礎的概念①	トレーニングの原理・原則、量・強度・質のとらえ方
3	トレーニングの基礎的概念②	トレーニングの分類、負荷特性
4	トレーニングに関する最近の研究①	日本語論文の探し方と読み方
5	トレーニングに関する最近の研究②	英語論文の探し方と読み方
6	トレーニングに関する発表および討論①	発表、質疑応答、レポート作成
7	トレーニングに関する発表および討論②	発表、質疑応答、レポート作成
8	トレーニングに関する発表および討論③	発表、質疑応答、レポート作成
9	トレーニングに関する発表および討論④	発表、質疑応答、レポート作成
10	トレーニングに関する発表および討論⑤	発表、質疑応答、レポート作成
11	トレーニングに関する発表および討論⑥	発表、質疑応答、レポート作成
12	トレーニングに関する発表および討論⑦	発表、質疑応答、レポート作成
13	トレーニングに関する発表および討論⑧	発表、質疑応答、レポート作成
14	トレーニングに関する発表および討論⑨	発表、質疑応答、レポート作成
15	トレーニングに関する発表および討論⑩	発表、質疑応答、レポート作成
16		

科目コード	62001				区 分	カリキュラムによって異なる			
授業科目名	アスレティックトレーナーの役割				担当者名	河野 儀久			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー（JSP0-AT）の役割・業務と専門性や、業務を遂行するうえで必要となる多様な素養の位置づけを理解し、持続的に学び関係職種との連携を推進するための知識と態度の習得をねらいとする。

### <授業の到達目標>

日本におけるアスレティックトレーナーの歴史とその役割、具体的な業務・制度・法律、さらにはアスレティックトレーナーを目指す上で必要な知識や技術、資質、倫理と責任について理解することをねらいとする。科学的根拠に基づいた情報収集と活用方法、そしてクライアントの特徴を理解し、連携体制の構築に活用できる。

### <授業の方法>

講義。予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り（グループディスカッション）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、30分以上かけて次の授業内容の範囲まで教科書を毎回、読んでくること。また、テキスト内容の自分が分からないところ（＝授業において自分がしっかり聞いておかないといけないところ）を把握する」、そのことによって、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの30分以上復習すること。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー5（体育・スポーツを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 60%（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）、最終課題・発表（最終課題，発表）40%

### <教科書>

財団法人日本体育協会（2007.3.31） 「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①」 日本体育協会  
公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第1巻 アスレティックトレーナーの役割』 日本スポーツ協会

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	アスレティックトレーナーとは JSP0-AT	日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度におけるJSP0-ATの位置づけとスポーツ指導者の種類
3	アスレティックトレーナーとは-コンピテンシーと業務-	必要性や役割（コンピテンシー・業務）
4	アスレティックトレーナーの役割-活動と倫理-	倫理と責任、法的問題、リスクマネジメント
5	アスレティックトレーナーの役割-運営管理-	活動環境、新たな領域
6	アスレティックトレーナーの役割-健康管理-	健康管理と取り組み
7	アスレティックトレーナーの役割-感染症概論とメンタルヘルス-	感染症と精神疾患に関する知識
8	スポーツ医・科学チーム・スタッフの役割と連携	ドクター、コーチ、デンティスト、栄養士、ファーマシストの役割と連携
9	エビデンスに基づいた運営EBP	EBPとは 学術活動とエビデンス
10	組織運営と管理-データ管理-	アスレティックトレーナーが扱うデータの管理方法
11	アスレティックトレーナーと研究・生涯教育	研究を行う意義と生涯教育

12	関係者とのコミュニケーション	プレイヤーや指導者・スタッフなど関係者とのコミュニケーション
13	対象者とのコミュニケーション	子供、高齢者、女性、障がい者とのコミュニケーション
14	まとめ(1)	総合学習
15	まとめ(2)	アスレティックトレーナーの役割に関する総合討議
16		

科目コード	62006				区 分	コア科目			
授業 科目名	運動器の解剖と機能				担当者名	河野 儀久			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	4.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

機能解剖や運動学に関する専門的な知識を有し、スポーツ傷害を受けた競技者の競技復帰までのリハビリテーションにあたることのできる技能を持つ指導者の養成. を目指している指導者の基礎となる運動器の解剖や機能概論の知識養成を図ることを目的としている。

#### <授業の到達目標>

ヒトの運動器が人体とどのように関わっているのか, その機能解剖や生体力学の知識は運動器に拘わらずすべてのリハビリテーションを行うにあたっての基礎であり必須であると思われる. リハビリテーションの参考になるとと思われる機能解剖と生体力学について解説する。

#### <授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

なし

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、30分以上かけて次の授業内容の範囲まで教科書を毎回、読んでくること。また、テキスト内容の自分が分からないところ（＝授業において自分がしっかり聞いておかないといけないところ）を把握する」、そのことによって、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの30分以上復習すること。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト等の課題 50%、定期試験50%で成績評価する。但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

#### <教科書>

財団法人日本体育協会（2011.2.1） 「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト②」 日本スポーツ協会

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	上肢・下肢・体幹の機能解剖と運動
2	運動器の構造と機能	上肢帯の運動
3	運動器の構造と機能	肩関節の運動
4	運動器の構造と機能	肘関節の運動
5	運動器の構造と機能	手関節の運動
6	運動器の構造と機能	股関節の運動
7	運動器の構造と機能	膝関節の運動
8	運動器の構造と機能	足関節の運動
9	運動器の構造と機能	足趾関節の運動
10	運動器の構造と機能	手指関節の運動
11	運動器の構造と機能	上肢帯の筋・血管・神経
12	運動器の構造と機能	下肢の筋・血管・神経
13	運動器の構造と機能	頸部の筋・血管・神経
14	運動器の構造と機能	腰部の筋・血管・神経
15	まとめ	総合学習
16		

科目コード	62008				区 分	コア科目			
授業科目名	健康管理とスポーツ医学 [PP/PH用]				担当者名	河合 洋二郎			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

アスリートにみられる内臓器官などの疾患では、疾患の病態、症状、対応策、処置、予防措置について理解させること。感染症に対する対応策では、スポーツ現場および海外遠征時に注意すべき感染症の種別、病態、症状、対応策、処置、予防策について理解させること。

#### <授業の到達目標>

アスリートにみられる病的現象では、病的現象（オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群など）の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する対抗策、処置、予防措置について学ぶことをねらいとする。この他、スポーツ選手にみられる摂食障害、減量障害、飲酒、喫煙などの問題点について学ぶことをねらいとする。特殊環境のスポーツ医学では、高所、低圧、高圧、暑熱環境などでの運動時における生体反応、順応、そしてそれらの環境下での障害について学ぶことをねらいとする。年齢・性別による特徴では、女性、高齢者、発育

#### <授業の方法>

教科書を基に、必要に応じて資料を配布して講義を進めていく。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・復習の具体的な内容は授業時に随時通知する予定。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

#### <教科書>

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト④ 健康管理とスポーツ医学」 日本体育協会

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (1)	循環器系疾患(スポーツ心臓、不整脈、虚血性心疾患、Marfan症候群など)呼吸器系疾患(慢性肺疾患、運動誘発性喘息など)
2	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (2)	消化器系疾患(運動時の腹痛、消化管出血、下痢、急性肝炎など)血液疾患(貧血など)皮膚疾患(胼胝腫、摩擦水疱、白癬など)
3	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (3)	腎・泌尿器疾患(運動性蛋白尿、ヘモグロビン尿、ミオグロビン尿など)代謝性疾患(糖質代謝異常、脂質代謝異常、糖尿病、肥満など)
4	感染症に対する対応策 (1)	呼吸器感染症(上気道感染症、インフルエンザ、伝染性単核球症、重症急性、呼吸器症候群など)血液感染症(A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎、HIV免疫不全ウイルスなど)
5	感染症に対する対応策 (2)	皮膚感染症(細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症など)ウイルス性結膜炎(咽頭結膜炎など)
6	感染症に対する対応策 (3)	海外遠征時に注意すべき感染症(SARS、マラリア、旅行者下痢症、デング熱など)各競技別ルールにみられる感染症対策
7	アスリートにみられる病的現象など(1)、小テスト	オーバートレーニング症候群・突然死・過換気症候群、小テスト
8	アスリートにみられる病的現象など(2)	摂食障害・減量障害・飲酒・喫煙の問題点
9	特殊環境のスポーツ医学: 年齢・性別による特徴 (1)	(生体の反応と順応、各環境でみられる障害とその処置、予防方法など)時差(時差に対する反応と順応、時差に対する対策)
10	特殊環境のスポーツ医学: 年齢・性別による特徴 (2)	海外遠征時の諸問題(健康管理、環境管理、その他)
11	特殊環境のスポーツ医学: 年齢・性別による特徴 (3)	女性のスポーツ医学、高齢者のスポーツ医学、成長期のスポーツ医学

	よる特徴 (3)	
12	内科的メディカルチェック (1)	メディカルチェックの意義と必要性・対象別メディカルチェックの内容。メディカルチェックにおける検査項目
13	内科的メディカルチェック (2)	運動負荷試験の目的と方法・運動負荷試験の実際。運動負荷試験結果の判定基準。
14	ドーピングコントロール	アンチドーピングの目的、ドーピングの定義、禁止される物質の種類。注意すべき市販薬、事前申告を必要とする薬物、ドーピング・コントロール・ステーション同伴時の留意事項。
15	まとめ	まとめ
16		

科目コード	62008				区 分	コア科目			
授業科目名	健康管理とスポーツ医学 [BC用]				担当者名	河合 洋二郎			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

アスリートにみられる内臓器官などの疾患では、疾患の病態、症状、対応策、処置、予防措置について理解させること。感染症に対する対応策では、スポーツ現場および海外遠征時に注意すべき感染症の種別、病態、症状、対応策、処置、予防策について理解させること。

#### <授業の到達目標>

アスリートにみられる病的現象では、病的現象（オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群など）の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する対抗策、処置、予防措置について学ぶことをねらいとする。この他、スポーツ選手にみられる摂食障害、減量障害、飲酒、喫煙などの問題点について学ぶことをねらいとする。特殊環境のスポーツ医学では、高所、低圧、高圧、暑熱環境などでの運動時における生体反応、順応、そしてそれらの環境下での障害について学ぶことをねらいとする。年齢・性別による特徴では、女性、高齢者、発育

#### <授業の方法>

教科書を基に、必要に応じて資料を配布して講義を進めていく。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・復習の具体的な内容は授業時に随時通知する予定。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

#### <教科書>

入江由香子・中村栄太郎 編集（2006.7） 「健康運動指導のための健康管理概論」 杏林書院

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (1)	循環器系疾患(スポーツ心臓、不整脈、虚血性心疾患、Marfan症候群など)呼吸器系疾患(慢性肺疾患、運動誘発性喘息など)
2	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (2)	消化器系疾患(運動時の腹痛、消化管出血、下痢、急性肝炎など)血液疾患(貧血など)皮膚疾患(胼胝腫、摩擦水疱、白癬など)
3	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (3)	腎・泌尿器疾患(運動性蛋白尿、ヘモグロビン尿、ミオグロビン尿など)代謝性疾患(糖質代謝異常、脂質代謝異常、糖尿病、肥満など)
4	感染症に対する対応策 (1)	呼吸器感染症(上気道感染症、インフルエンザ、伝染性単核球症、重症急性、呼吸器症候群など)血液感染症(A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎、HIV免疫不全ウイルスなど)
5	感染症に対する対応策 (2)	皮膚感染症(細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症など)ウイルス性結膜炎(咽頭結膜炎など)
6	感染症に対する対応策 (3)	海外遠征時に注意すべき感染症(SARS、マラリア、旅行者下痢症、デング熱など)各競技別ルールにみられる感染症対策
7	アスリートにみられる病的現象など(1)、小テスト	オーバートレーニング症候群・突然死・過換気症候群、小テスト
8	アスリートにみられる病的現象など(2)	摂食障害・減量障害・飲酒・喫煙の問題点
9	特殊環境のスポーツ医学:年齢・性別による特徴(1)	(生体の反応と順応、各環境でみられる障害とその処置、予防方法など)時差(時差に対する反応と順応、時差に対する対策)
10	特殊環境のスポーツ医学:年齢・性別による特徴(2)	海外遠征時の諸問題(健康管理、環境管理、その他)
11	特殊環境のスポーツ医学:年齢・性別による特徴(3)	女性のスポーツ医学、高齢者のスポーツ医学、成長期のスポーツ医学

	よる特徴 (3)	
12	内科的メディカルチェック (1)	メディカルチェックの意義と必要性・対象別メディカルチェックの内容。メディカルチェックにおける検査項目
13	内科的メディカルチェック (2)	運動負荷試験の目的と方法・運動負荷試験の実際。運動負荷試験結果の判定基準。
14	ドーピングコントロール	アンチドーピングの目的、ドーピングの定義、禁止される物質の種類。注意すべき市販薬、事前申告を必要とする薬物、ドーピング・コントロール・ステーション同伴時の留意事項。
15	まとめ	まとめ
16		

科目コード	62009				区 分	コア科目			
授業科目名	検査・測定と評価				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

体力や身体機能の評価を進める上で必要となる検査測定手技について、その目的と意義を理解し、具体的に 実技できるまでの能力を習得することをねらいとする。尚、本授業は一部オンデマンド教材等使用し行うため、PCまたはタブレットを準備の上、履修すること。

### <授業の到達目標>

体力や身体機能の評価についてその意義と考え方を学び、具体的な評価による問題点の抽出までのプロセスを理解し、実践できる能力が身につくようになることを目標とする。

### <授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。各テーマに対してグループワーク・ディスカッションを行う。オンデマンド資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

検査法などと実際に体験し、学生間でグループワークを実施し評価を互いに行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業中に配布された資料、また参考書を通じて予習すること（1時間程度）。また、テキスト内容の自分が分からない箇所（＝授業において自分がしっかり聞いて、確認しておかなければならない箇所）を把握する。この予習により、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの30分以上復習すること。適宜、事前課題および復習課題の提示、提出を求めることもある。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 40％、実技・技術確認60％

### <教科書>

### <参考書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日） 「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤・検査・測定と評価」（公財）日本スポーツ協会

（財）健康・体力づくり事業財団（2008） 健康運動指導士養成講習会テキスト<下> （財）健康・体力づくり事業財団

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション及び総論	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	スポーツ現場やトレーナーにおける検査・測定と評価の概論（1）	評価の目的、意義および役割、機能評価のプロセス
3	スポーツ現場やトレーナーにおける検査・測定と評価の概論（2）	機能評価に基づくアスレティックリハビリテーションおよびコンディショニングの目標設定、プログラム立案
4	検査・測定の手法（1）	姿勢・身体アライメント、筋萎縮の観察、計測の目的と意義、計測方法
5	検査・測定の手法（2）	関節弛緩性検査の目的と意義およびその検査測定
6	検査・測定の手法（3）	関節可動域測定の目的と意義および測定方法
7	検査・測定の手法（4）	筋タイトネスの検査測定方法
8	検査・測定の手法（5）	徒手筋力検査の目的と意義およびその検査方法
9	検査・測定の手法（6）	機器を用いた筋力、筋パワーおよび筋持久力の検査測定の目的と意義 およびその検査測定方法
10	検査・測定の手法（7）	全身持久力の検査測定の目的と意義およびその具体的手法と測定指標
11	検査・測定の手法（8）	敏捷性および協調性の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
12	検査・測定の手法（9）	身体組成の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
13	検査・測定の手法（10）	一般的な体力測定（新体力テスト）の検査項目とその目的と概要
14	検査・測定の手法（11）	一般的な体力測定（高齢者、幼児期）の検査項目とその目的と概要
15	まとめ	検査・測定方法に関する総合討議
16		

科目コード	62011				区 分	コア			
授業 科目名	予防とコンディショニングⅡ				担当者名	河野 儀久			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

公益財団法人日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの観点から、スポーツ現場においてよく発生すると思われるスポーツ外傷・障害を中心に、その評価方法や応急処置、アスレティックリハビリテーション、コンディショニングの理論と方法を学ぶ。この科目は応用科目のため履修制限を定める。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを目指す学生のみが履修できる。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー必修科目を履修し、アスレティックトレーナー現場実習ⅢⅣを履修中または履修済みであることが条件となる。

### <授業の到達目標>

比較的高い頻度で発生する外傷・障害について、スポーツ現場における評価方法や応急処置、安全に早期の競技復帰に向けたアスレティックリハビリテーション・コンディショニングが立案・指導できることを目標とする。

### <授業の方法>

教科書に沿って講義や実技練習レポート課題、小テスト等を行い、必要に応じて資料を配布する。学生がさまざまな傷害、競技特性に応じたコンディショニングについて発表し、その内容を基に学生同志のディスカッションを積極的に行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

運動療法

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に教科書を熟読し授業の理解を深め、授業当日のプレゼンテーション資料を作成する（2時間）。事後学習として、自身のプレゼンテーション発表の反省と、参加者からの意見をまとめる（1時間）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%（出席評価、授業への積極的な参加）、課題レポート（適宜出される課題、最終レポート）70%

### <教科書>

（公財）日本体育協会、2007 「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥・予防とコンディショニング」、日本スポーツ協会

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	授業の概要説明、注意事項
2	股関節の損傷	グロインペイン等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
3	大腿部の損傷	肉離れ等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
4	膝関節の損傷	靱帯損傷等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
5	足関節の損傷	捻挫等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
6	下腿部と足部の損傷	シンスプリント等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
7	肩関節の損傷	脱臼等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
8	上肢の損傷	投球障害肩等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
9	体幹の損傷	腰痛等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
10	冬季競技の特性	スキーやスケート等における傷害とコンディショニング
11	記録系競技の特性	陸上や競泳等における傷害とコンディショニング
12	採点競技・格技系競技の特性	サッカーやラグビー等における傷害とコンディショニング
13	採点競技・格技系競技の特性	器械体操や柔道等における傷害とコンディショニング
14	総括テスト	これまでの振り返り、総括テスト
15	総括授業	総括テストの解説
16		

科目コード	62016				区 分	コア			
授業科目名	救急処置 [AT資格希望者用]				担当者名	濱浪 一則			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義および実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

救急処置法の中でも、特にスポーツ現場において発生する様々な医学的な問題に焦点を当てて、その対処法を学ぶ。具体的には、外傷の処置としてのアイシングや固定法、創の種類やそれらの対処法、救命処置として心肺蘇生法とAEDの使用法などについて実習する。また、スポーツ現場で見られる内科的疾患の救急処置などについても講義を通して学ぶ。

#### <授業の到達目標>

スポーツ現場において発生する様々な医学的問題に対して適切に評価、判断、処置を行い医療者に引き継ぐことが出来るようになる。

#### <授業の方法>

講義および実技

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有グループでの実習を通して救急対応を学ぶ

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

実施した内容を必ず復習する

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題15%、定期試験85%課題について、提出期限が過ぎたものや内容が不十分なものには減点します。欠席課題は欠席授業回の課題と授業配布資料の空欄を埋めて提出すること。提出のない場合は欠席とする。

#### <教科書>

#### <参考書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2022年11月30日） 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第8巻 救急処置

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイドダンス、スポーツ現場での救急処置の特徴、救急対応の考え方	授業全体の説明およびスポーツ現場における救急処置の考え方について救急対応とは、ファーストレスポンス
2	救急体制構築の留意点と計画	緊急時対応計画（EAP）
3	スポーツ傷害の救急処置（RICE処置）	スポーツ現場での外傷・障害の評価とその手順
4	外傷時の救急対応	創傷・出血、打撲・捻挫・肉ばなれ
5	外傷時の救急対応	骨折・脱臼
6	外傷時の救急対応	脳震盪、頭頸部、脊椎における重傷外傷
7	内科的疾患の救急対応	BLS 演習
8	内科的疾患の救急対応	心停止、BLS
9	内科的疾患の救急対応	熱中症
10	各競技の救急体制の実際	陸上、ラグビー、サッカー、アメリカンフットボール
11	各競技の救急体制の実際	野球・ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、テニス
12	各競技の救急体制の実際	バスケットボール、体操、柔道、ゴルフ
13	各競技の救急体制の実際	スキースケート、アイスホッケー、ホッケー
14	各競技の救急体制の実際	水泳、ライフセービング、ウエイトリフティング
15	各競技の救急体制の実際	障害者スポーツ、チーム活動、トレーナーステーション
16		

科目コード	62023				区 分	コア			
授業 科目名	救急処置法 [AT資格希望者PS用]				担当者名	濱浪 一則			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義および実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

救急処置法の中でも、特にスポーツ現場において発生する様々な医学的な問題に焦点を当てて、その対処法を学ぶ。具体的には、外傷の処置としてのアイシングや固定法、創の種類やそれらの対処法、救命処置として心肺蘇生法とAEDの使用法などについて実習する。また、スポーツ現場で見られる内科的疾患の救急処置などについても講義を通して学ぶ。

#### <授業の到達目標>

スポーツ現場において発生する様々な医学的問題に対して適切に評価、判断、処置を行い医療者に引き継ぐことが出来るようになる。

#### <授業の方法>

講義および実技

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有グループでの実習を通して救急対応を学ぶ

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

実施した内容を必ず復習する

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題15%、定期試験85%課題について、提出期限が過ぎたものや内容が不十分なものには減点します。欠席課題は欠席授業回の課題と授業配布資料の空欄を埋めて提出すること。提出のない場合は欠席とする。

#### <教科書>

#### <参考書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2022年11月30日） 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第8巻 救急処置

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、スポーツ現場での救急処置の特徴、救急対応の考え方	授業全体の説明およびスポーツ現場における救急処置の考え方について救急対応とは、ファーストレスポンス
2	救急体制構築の留意点と計画	緊急時対応計画（EAP）
3	スポーツ傷害の救急処置（RICE処置）	スポーツ現場での外傷・障害の評価とその手順
4	外傷時の救急対応	創傷・出血、打撲・捻挫・肉ばなれ
5	外傷時の救急対応	骨折・脱臼
6	外傷時の救急対応	脳震盪、頭頸部、脊椎における重傷外傷
7	内科的疾患の救急対応	BLS 演習
8	内科的疾患の救急対応	心停止、BLS
9	内科的疾患の救急対応	熱中症
10	各競技の救急体制の実践	陸上、ラグビー、サッカー、アメリカンフットボール
11	各競技の救急体制の実践	野球・ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、テニス
12	各競技の救急体制の実践	バスケットボール、体操、柔道、ゴルフ
13	各競技の救急体制の実践	スキースケート、アイスホッケー、ホッケー
14	各競技の救急体制の実践	水泳、ライフセービング、ウエイトリフティング
15	各競技の救急体制の実践	障害者スポーツ、チーム活動、トレーナーステーション
16		

科目コード	62024				区 分	カリキュラムによって異なる			
授業科目名	リコンディショニングⅠ				担当者名	河野 儀久			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

リコンディショニングの目的や内容の概要を理解し各種組織の修復および機能の回復過程をもとに代表的な手法について理解し、安全で効果的な方法を選択し、計画と実践ができる。また、対象者の特徴分析に必要な検査・測定、観察手法の選択と実施方法を理解し、実践できることをねらいとする。合わせて、分析結果をもとに、対象者の特徴に応じたリコンディショニングプログラムの計画ができるようになることをねらいとする。

### <授業の到達目標>

本講義では、リコンディショニングの概念と定義、そして実践にあたって必要となる基礎的な知識 の習得を目的とする。

### <授業の方法>

講義。教科書に沿って講義を行い、必要に応じて補足資料を配布する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り（グループディスカッション）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テキスト内容の自分が分からないところ（＝授業において自分がしっかり聞いておかないといけないところ）を把握する毎回予習（30分程度）。そのことによって、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの復習（30分程度）、定期テスト前の勉強 を兼ねた復習である。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト10%、課題プロジェクト20%、定期試験70を総合的に判断する。

### <教科書>

日本スポーツ協会（2007.9.10） 「アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦・アスレティック・リハビリテーション」 日本スポーツ協会  
公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第4巻 リコンディショニング』（公財）日本スポーツ協会

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	リコンディショニングの概念と定義の理解
2	リコンディショニングの代表的な手法	エクササイズ、テーピング、物理的手法、徒手的アプローチ
3	リコンディショニングの評価とプログラミング①	コンディショニング不良に対する評価とリコンディショニング
4	リコンディショニングの評価とプログラミング②	プログラミングの実際 多職種連携
5	リコンディショニングに必要な組織修復、治療過程の知識	骨・軟骨、靱帯、筋、腱、半月板、神経
6	機能的、身体的な状態に応じたリコンディショニング①	筋力
7	機能的、身体的な状態に応じたリコンディショニング②	関節可動性・柔軟性
8	機能的、身体的な状態に応じたリコンディショニング③	バランス機能
9	機能的、身体的な状態に応じたリコンディショニング④	全身持久力
10	機能的、身体的な状態に応じたリコンディショニング⑤	姿勢、アライメント
11	機能的、身体的な状態に応じたリコンディショニング⑥	体重管理
12	機能的、身体的な状態に応じたリコンディショニング⑦	スポーツ動作
13	科学的根拠に基づいたスポーツ外傷・障害予防プログラムの実際①	膝前十字靱帯損傷、足関節捻挫

14	科学的根拠に基づいたスポーツ外傷・障害予防プログラムの実際②	肉ばなれ、投球障害
15	まとめ	リコンディショニングにおける総合討議
16		

科目コード	62025				区 分	コア			
授業科目名	リコンディショニングⅡ				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

対象者の状態（身体状態、機能的問題、動作における問題等）を把握し、適切なリコンディショニングプログラムを計画し、実践できる。また、部位別の代表的な機能障害・不全をもたらす症状を想定し、状態に応じたリコンディショニングプログラムを計画し、実践できるようになることをねらいとする。この科目は応用科目のため履修制限を定める。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを目指す学生のみが履修できる。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー必修科目を履修し、アスレティックトレーナー現場実習を履修中または履修済みであることが条件となる。

### <授業の到達目標>

本講義では、「リコンディショニングⅠ」からの内容を深め、部位ごとの状態に応じたリコンディショニングプログラムの作成と実際に実践できる知識と技術の習得を目的とする。

### <授業の方法>

講義。教科書に沿って講義を行い、必要に応じて補足資料を配布する。また必要に応じて実技指導も行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有2～4人のグループに分かれ、実技、ディスカッション、グループワークを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テキスト内容の自分が分からないところ（＝授業において自分がしっかり聞いておかないといけないところ）を把握する毎回予習（30分程度）。そのことによって、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの復習（30分程度）、定期テスト前の勉強を兼ねた復習である。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%（出席評価、授業への積極的な参加）、課題レポート（適宜出される課題、最終レポート）70%

### <教科書>

日本体育協会（2009.9.30） 「日本体育協会アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦・アスレティックリハビリテーション」  
日本体育協会  
公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第4巻 リコンディショニング』（公財）日本スポーツ協会

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとリコンディショニングに必要な組織修復、治療過程の知識 総論	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明、リコンディショニングに必要な組織修復、治療過程の知識
2	頭頸部のリコンディショニング	脳震盪、頸部捻挫
3	胸部のリコンディショニング	胸郭の機能不全
4	腰部のリコンディショニング	筋筋膜腰痛、腰椎間板ヘルニア、腰椎分離症
5	肩のリコンディショニング	投球障害、肩関節脱臼
6	肘・前腕のリコンディショニング	テニス肘、投球障害
7	手関節・手のリコンディショニング	手関節外傷・障害、手指靱帯損傷
8	骨盤帯・股関節のリコンディショニング	グロインペイン
9	大腿部のリコンディショニング	大腿部打撲、ハムストリングス肉ばなれ
10	膝関節のリコンディショニング	膝障害、膝靱帯損傷
11	下腿部のリコンディショニング	脛骨過労性骨膜炎、アキレス腱炎・断裂、下腿肉ばなれ
12	足関節・足部のリコンディショニング	足関節捻挫、足部障害
13	パラスポーツのプレーヤーへの対応	各障がい者への対応
14	まとめ①	部位ごとのリコンディショニングにおける総合論議
15	まとめ②	部位ごとのリコンディショニングにおける総合論議
16		

科目コード	62026				区 分	コア科目			
授業 科目名	リコンディショニングⅢ				担当者名	河野 儀久			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

アスレティックリハビリテーションは、①筋力回復および筋力増強、②関節可動域回復、③神経筋協調性、⑤全身持久力回復、⑥身体組成の管理、⑦再発予防および外傷予防を主な目的としている。この科目は応用科目のため履修制限を定める。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを目指す学生のみが履修できる。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー必修科目を履修し、アスレティックトレーナー現場実習ⅢⅣを履修中または履修済みであることが条件となる。

#### <授業の到達目標>

本講義では、「アスレティックリハビリテーション基礎」からの内容を深め、特に上肢および体幹を中心とした外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションプログラム作成と実際に実践できる知識と技術の習得を目的とする。

#### <授業の方法>

教科書に沿って講義を行い、必要に応じて補足資料を配布する。また必要に応じて実技指導も行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

運動療法

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テキスト内容の自分が分からないところ（＝授業において自分がしっかり聞いておかないといけないところ）を把握する、そのことによって、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの復習を毎回60分程度、定期テスト前の勉強を兼ねた復習120分程度。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%（出席評価、授業への積極的な参加）、課題レポート（適宜出される課題、最終レポート）70%

#### <教科書>

日本体育協会（2009.9.30） 「日本体育協会アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦・アスレティックリハビリテーション」  
日本体育協会

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ外傷・傷害総論	スポーツ現場における下肢・競技（種目別）外傷と障害の特徴について理解
2	足・足関節のリハビリテーション 足指	足関節の機能解剖、怪我のメカニズム、医学的情報の理解
3	足・足関節のリハビリテーション 足関節	症例検討、具体的なプログラムの作成、リハビリ演習
4	下腿部のリハビリテーション-前部-	膝関節の機能解剖、怪我のメカニズム、医学的情報の理解
5	下腿部のリハビリテーション-後部-	症例検討、具体的なプログラムの作成、リハビリ演習
6	膝関節のリハビリテーション-捻挫-	大腿部の機能解剖、怪我のメカニズム、医学的情報の理解
7	膝関節のリハビリテーション-ACL-	評価に必要な検査および測定方法の理解、患部のリスク管理
8	膝関節のリハビリテーション-MCL-	症例検討、具体的なプログラムの作成、リハビリ演習
9	大腿部のリハビリテーション-前部-	股関節の機能解剖、怪我のメカニズム、医学的情報の理解
10	大腿部のリハビリテーション-後部-	症例検討、具体的なプログラムの作成、リハビリ演習
11	股関節のリハビリテーション-前部-	競技（種目）特性に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミング（-球技-）
12	股関節のリハビリテーション-後部-	競技（種目）特性に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミング（-格闘技-）
13	競技（種目）特性に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミング（-球技-）	競技種目特性、競技種目の動作特性、体力特性、外傷発生機転
14	まとめ	スポーツ復帰のための機能的、体力的到達目標
15	まとめ	競技種目ごとのアスレティックリハビリテーションのプログラミング
16		

科目コード	62027				区 分	カリキュラムによって異なる			
授業科目名	スポーツ外傷・障害の予防Ⅰ				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因を理解し、科学的根拠に基づいた予防対応の計画および実践に必要な知識、態度や技能を習得することをねらいとする。ここでは、発症要因や予防法の考え方、スポーツ動作（歩行動作、走動作、ストップ・方向転換動作、跳躍動作、投動作、あたり動作など）に関するそれぞれのバイオメカニクスおよび動作に影響をあたえる機能的と体力的要因、さらに外傷・障害の発生機転となるスポーツ動作の特徴とメカニズムについて学習する。

#### <授業の到達目標>

安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防の目的や意義およびJSP0-ATとして果たすべき役割について説明できる。安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因を理解し、科学的根拠に基づいた予防対応を計画し実践できることを目標とする。

#### <授業の方法>

講義。予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。各テーマに対してグループワーク・ディスカッションを行う。オンデマンド資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有3～4人のグループに分かれ、動画撮影、分析を行い、発表を行う。また、ディスカッション、グループワークを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次の授業内容の範囲まで90分ほど時間をかけて教科書を読み、予習課題に取り組んでくること。また、テキスト内容の自分が分からない箇所（＝授業において自分がしっかり聞いて、確認しておかなければならない箇所）を把握する。この予習により、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの30分以上復習すること。適宜、事前課題および復習課題の提示、提出を求めることもある。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 60%（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）、最終課題・発表（最終課題、発表）40%

#### <教科書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日） 「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤・検査・測定と評価」（公財）日本スポーツ協会

公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第2巻 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防』（公財）日本スポーツ協会

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防の概念	意義、組織と役割、ICTやI O Tの活用
3	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防における役割	組織、対象、環境、競技特性
4	スポーツ外傷・障害の予防	考え方、疫学調査、発生要因、プログラムの立案と介入
5	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応概論	競技・種目特性
6	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応①	予防・再発予防としての動作の見方～走動作～
7	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応②	予防・再発予防としての動作の見方～跳動作～
8	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応③	予防・再発予防としての動作の見方～方向転換動作～
9	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応④	予防・再発予防としての動作の見方～投球動作～
10	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応⑤	予防・再発予防としての動作の見方～打撃動作～

11	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応⑥	予防・再発予防としての動作の見方～泳動作～
12	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応⑦	予防・再発予防としての動作の見方～あたり動作～
13	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応⑧	予防・再発予防としての動作の見方～滑走動作～
14	ICT及び各種テクノロジーを活用したコンディショニング事例	コンディショニング評価とAIを用いた画像解析
15	まとめ	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防の総合討議
16		

科目コード	62028				区 分	カリキュラムにより異なる			
授業科目名	スポーツ外傷・障害の予防Ⅱ				担当者名	河野 儀久			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

スポーツ外傷・障害の予防の概念や発生要因について理解し、科学的根拠に基づいたスポーツ外傷・障害の予防を計画・実践するための態度や技能（装具・防具、ストレッチング、テーピング）を習得することをねらいとする。また対象者の基本データを収集する目的や意義、医・科学スタッフとの連携、更には各種データの活用法（メディカル・フィジカルチェック）について理解し、これらに必要な知識、態度や技能を習得することをねらいとする。

### <授業の到達目標>

安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防に関連する対象者の基本データを収集する目的や意義、医・科学スタッフとの連携、更には各種データの活用法について理解し、安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防を検討する際の根拠となる各種評価を組織的に計画し実践できる。

### <授業の方法>

講義。教科書、資料（適宜配布）に沿って講義や実技、確認テストを実施する。授業内容をもとに実技実習やディスカッションやを積極的に行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、当該箇所のテキスト内容を中心とした学習を60分以上行う。授業後は実技の確認を含めた30分以上の復習を行う。適宜予習、復習に関する課題を課す場合もある。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（授業・実技の取り組み、グループへの貢献度）50％、レポート課題 50％

### <教科書>

日本体育協会（2007.9.30） 「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥・予防とコンディショニング」 日本体育協会  
公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第2巻 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防』（公財）日本スポーツ協会

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要の説明、コンディショニングとは
2	各種要因が安全・健康に及ぼす影響	環境、用具、生活、心理
3	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防における役割	把握すべき主な情報と対象者に関する理解
4	スポーツ外傷・障害の予防	プログラムの実際 復帰の考え方
5	スポーツ外傷・障害の予防的手段①	装具・防具
6	スポーツ外傷・障害の予防的手段②	ストレッチング 上肢
7	スポーツ外傷・障害の予防的手段③	ストレッチング 下肢
8	スポーツ外傷・障害の予防的手段④	テーピング 上肢
9	スポーツ外傷・障害の予防的手段⑤	テーピング 下肢
10	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防のための各種評価と情報の活用①	メディカルチェック
11	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防のための各種評価と情報の活用②	フィジカルチェック
12	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応①	用具・防具、ウェア、シューズ
13	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応②	施設・設備、サーフェス
14	まとめ(1)	総合学習
15	まとめ(2)	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防の総合討議
16		

科目コード	62030				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツ医学 I				担当者名	濱浪 一則			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

アスレティックトレーナーが活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎知識について理解する。そのために、上肢・下肢・体幹の主となるスポーツ外傷の病態、評価方法および重篤な外傷・年齢・性差によるスポーツ外傷の特徴の習得することをねらいとする。

#### <授業の到達目標>

日本スポーツ協会アスレティックトレーナー試験に合格できるよう知識を修得すること。

#### <授業の方法>

教科書を基に、必要に応じて資料を配布して講義を進めていく。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に教科書、配布資料などを用いて予習し、事前課題を提出し、授業中に行う小テストに備える。授業で学んだ内容を復習し、期末テストに備える。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題15%、定期試験 85% 事前課題について、提出期限が過ぎたものや内容が不十分なものには、減点します。欠席課題は、欠席授業回の事前課題と授業配布資料の空欄をうめて提出すること。提出のない場合は欠席扱いとする。

#### <教科書>

日本スポーツ協会 スポーツ外傷・障害の基礎知識

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	下肢のスポーツ外傷・障害 (1)	膝内側側副靱帯損傷 等
2	下肢のスポーツ外傷・障害 (2)	膝軟骨損傷 等
3	下肢のスポーツ外傷・障害 (3)	下腿部 等
4	下肢のスポーツ外傷・障害 (4)	足関節 等
5	下肢のスポーツ外傷・障害 (5)	衝突性外骨腫 等
6	下肢のスポーツ外傷・障害 (6)	足 疲労骨折 等
7	重篤な外傷 (1)	頭蓋骨骨折 等
8	重篤な外傷 (2)	脳震盪 脊髄損傷 等
9	重篤な外傷 (3)	胸腹部損傷 等
10	重篤な外傷 (4)	大出血 等
11	その他の外傷 (1)	骨盤股関節の外傷 等
12	その他の外傷 (2)	耳 歯 等
13	年齢・性別によるスポーツ外傷・傷害の特徴	大腿打撲 等
14	年齢・性別によるスポーツ外傷・傷害の特徴	成長期のスポーツ外傷・障害の特徴 等
15	成長期に特徴的なスポーツ障害、スポーツメディカルチェック	高齢者のスポーツ外傷・障害の特徴、メディカルチェック 等
16		

科目コード	62031				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツ医学Ⅱ				担当者名	濱浪 一則			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

アスレティックトレーナーが活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎知識について理解する。そのために、上肢・下肢・体幹の主となるスポーツ外傷の病態、評価方法及び重篤な外傷・年齢・性差によるスポーツ外傷の特徴の習得することをねらいとする。

#### <授業の到達目標>

日本スポーツ協会アスレティックトレーナー試験に合格できるよう知識を習得すること。

#### <授業の方法>

教科書を基に、必要に応じて資料を配布して講義を進めていく。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に教科書、配布資料等を用いて予習し、事前課題を提出し、授業中に行う小テストに備える。授業で学んだ内容を復習し、期末テストに備える。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題15%、定式試験85%事前課題について、提出期限が過ぎたものや内容が不十分なものには、減点します。欠席課題は、欠席授業回の事前課題と授業配布資料の空欄をうめて提出すること。提出のない場合は欠席扱いとする。

#### <教科書>

日本体育協会 スポーツ外傷・障害の基礎知識

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ外傷・障害総論 (1)	スポーツ外傷・障害の基礎知識 等
2	上肢のスポーツ外傷・障害 (2)	肩関節脱臼 等
3	上肢のスポーツ外傷・障害 (3)	下腿の外傷 等
4	上肢のスポーツ外傷・障害 (4)	投球障害肩 等
5	上肢のスポーツ外傷・障害 (5)	足部の疲労骨折 等
6	上肢のスポーツ外傷・障害 (6)	手指 等
7	上肢のスポーツ外傷・障害 (7)	手指骨折 等
8	体幹のスポーツ外傷・障害 (1)	頸椎捻挫 等
9	体幹のスポーツ外傷・障害 (2)	腰椎椎間板ヘルニア 等
10	体幹のスポーツ外傷・障害 (3)	腰椎分離症 等
11	体幹のスポーツ外傷・障害 (4)	鼠径部通症候群 等
12	下肢のスポーツ外傷・障害 (1)	大腿四頭筋肉離れ 等
13	下肢のスポーツ外傷・障害 (2)	大腿部その他の外傷 等
14	下肢のスポーツ外傷・障害 (3)	膝前十字靭帯断裂 等
15	下肢のスポーツ外傷・障害 (4)	膝後十字靭帯断裂 等
16		

科目コード	62032				区 分	コア科目			
授業 科目名	人体の解剖と機能				担当者名	濱浪 一則			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

ヒトの運動器が人体とどのように関わっているのか、その機能解剖や生体力学の知識は運動器に拘わらずすべてのリハビリテーションを行うにあたっての基礎であり必須であると思われる。リコンディショニング・コンディショニング・検査測定と評価の参考になるとと思われる運動器の機能・構造と生体力学について解説する。

### <授業の到達目標>

機能解剖や運動学に関する専門的な知識を有し、スポーツ傷害を受けた競技者の競技復帰までのリコンディショニングとコンディショニングにあたることのできる技能を持つ指導者の養成を目指している指導者の基礎となる運動器の機能と構造の知識養成を図ることを目的としている。

### <授業の方法>

講義。予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、30分以上かけて次の授業内容の範囲まで教科書を毎回、読んでくること。また、テキスト内容の自分が分からないところ（＝授業において自分がしっかり聞いておかないといけないところ）を把握する」、そのことによって、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの30分以上復習すること。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題15%、定期試験85%課題について、提出期限が過ぎたものや内容が不十分なものには減点します。欠席課題は欠席授業回の課題と授業配布資料の空欄を埋めて提出すること。提出のない場合は欠席とする。

### <教科書>

### <参考書>

河野一郎, 片寄正樹 (2024. 3. 26) アスレティックトレーナー専門基礎科目テキスト 1 運動器の機能と構造 文光堂  
財団法人日本体育協会 (2011. 2. 1) 「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト②」 日本スポーツ協会

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	スポーツ動作と運動器の機能と構造
2	体表区分	人体の区分
3	運動の表し方	基本多岐な関節運動
4	頭頸部・体幹の機能と構造	頭頸部・体幹の関与が大きいスポーツ動作
5	頭頸部・体幹の機能と構造	頭頸部
6	頭頸部・体幹の機能と構造	体幹
7	上肢の機能と構造	上肢の関与が大きいスポーツ動作
8	上肢の機能と構造	肩甲帯・肩関節・上腕部
9	上肢の機能と構造	肘関節・前腕部
10	上肢の機能と構造	手関節・手指
11	下肢の機能と構造	下肢の関与が大きいスポーツ動作
12	下肢の機能と構造	骨盤帯・股関節・大腿部
13	下肢の機能と構造	膝関節
14	下肢の機能と構造	下腿部・足関節・足部
15	まとめ	総合学習
16		

科目コード	63001				区 分	コア科目			
授業科目名	フィットネスプログラム論				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

トレーニング指導者の役割を理解し、対象者が運動を通じて健康状態を維持、有意義な生活を送ることができるように「手助け」を行う方法を学ぶ。小学生から高齢者まで幅広い年齢層で必要となるトレーニング知識を学び、トレーニングプログラムが立案できるようにする。

#### <授業の到達目標>

トレーニング指導者の役割を理解する。各体力要素と様々な年代の身体の特徴を理解し、適切なトレーニングプログラムを立案できるようにする。また各種疾患を理解し、その疾患にあわせたトレーニングプログラムを立案できるようにする。

#### <授業の方法>

パワーポイント・スライドでの説明を中心に行い、必要に応じて資料を配布する。授業内容によってはグループワーク（ディスカッション）を実施する。グループワークにて小テスト、省察レポートを提出する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回授業のキーワードを予習（1時間程度）復習：授業初め的小テストに向けて振り返り学習を行う（1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、グループワークへの貢献度 20%、小テスト 20%、課題提出 20%、最終レポート 20%

#### <教科書>

#### <参考書>

財団法人日本体育施設協会 公認スポーツプログラマー専門科目テキスト  
日本トレーニング指導者協会 2014年3月30日 トレーニング指導者テキスト 実践編 改訂版 大修館書店  
NSCA JAPAN 2018年12月19日 NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識第2版 NSCAジャパン

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス 運動と健康	授業の概要 運動と健康総論
2	スポーツ指導者・プログラマーの役割	健康・体力における運動の重要性、トレーニング指導者の役割
3	運動処方(プログラムデザイン)と健康管理	運動処方（プログラムデザイン）の方法と注意点
4	フィットネスエクササイズ理論①	柔軟性・可動域向上トレーニング
5	フィットネスエクササイズ理論②	スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成
6	フィットネスエクササイズ理論③	筋力・パワー向上トレーニング
7	フィットネスエクササイズ理論④	持久力向上トレーニング
8	フィットネスエクササイズ理論⑤	体調管理とウォーミングアップとダウン
9	フィットネスエクササイズ実際	マシーントレーニングやヘルスエクササイズ
10	フィットネスプログラムの理論と実際①	中高年・高齢者のトレーニング
11	フィットネスプログラムの理論と実際②	発育発達期のトレーニング
12	フィットネスプログラムの理論と実際③	女性と特殊なクライアントに対するトレーニング
13	面談とスクリーニング	初回面談とスクリーニング
14	体力評価の選択と管理	特別な対象者(メタボ等)のためのトレーニング各体力の測定方法測定データの活用とフィードバックの実際
15	まとめ	総復習
16		

科目コード	63003				区 分	コア科目			
授業 科目名	スポーツ相談の実際				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業では、スポーツ心理相談に関する基礎的な理論を概観し、スポーツ競技者の心理的な課題に触れ、内容を学んでいく。また、ロールプレイを通して、傾聴・共感といった基本姿勢の体験を図り、スポーツ心理相談の理論と技法の基礎を身につけていく。

### <授業の到達目標>

- ①スポーツ心理相談に関する基礎的知識を理解できる。②スポーツ競技者の心理的課題や相談事例の内容を理解することができる。③心理相談の体験を図り、スポーツ心理相談の理論と技法の基礎を身につけることができる。

### <授業の方法>

講義と心理相談実践を組み合わせで行う。カウンセリングに関する基礎的な技法やストレスマネジメントの重要性を理解し、「相談の実際」では、スポーツ選手への心理相談をロールプレイで行っていく。授業の終わりに振り返り課題に取り組んでもらう。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

スポーツ相談の内容やカウンセリングの方法について自ら調べ、ロールプレイや実践場面で生かせるようにする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

スポーツ相談に対し、強い関心と積極的に取り組めるレディネスを持って受講することが望ましい。参考書やインターネット検索等を用いて、授業で課される次週の課題について1時間の予習をしてくる。また、授業で学んだことについて1時間の復習を行うこと。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 40%、授業課題 40%、最終レポート 20%

### <教科書>

特になし

### <参考書>

河合隼雄 「カウンセリングの実際問題」 誠心書房

中込四郎 「アスリートの心理臨床-スポーツカウンセリング-」 道和書院

内田直 「スポーツカウンセリング入門」 講談社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、スポーツ相談例
2	カウンセリングについて	カウンセリングの基本
3	ストレスについて	ストレスの考え方と評価法
4	ストレスマネジメント	ストレスマネジメントとカウンセリング
5	自己分析を用いた心理相談 (1)	性格傾向を把握して
6	自己分析を用いた心理相談 (2)	パフォーマンス分析を用いて
7	自己分析を用いた心理相談 (3)	心理的スキル分析を用いて
8	スポーツ相談の実際 (1)	目標設定技法を用いての心理相談
9	スポーツ相談の実際 (2)	行動変容技法を用いての心理相談
10	スポーツ相談の実際 (3)	リラクセーション技法を用いての心理相談
11	スポーツ相談の実際 (4)	イメージ技法を用いての心理相談
12	スポーツ相談の実際 (5)	情動のコントロール技法を用いての心理相談
13	スポーツ相談の実際 (6)	暗示技法を用いての心理相談
14	スポーツ相談の実際 (7)	ポジティブシンキングを用いての心理相談
15	まとめ	授業の振り返り
16		

科目コード	63005				区 分	コア科目			
授業科目名	レクリエーション演習				担当者名	高見 博子			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

スポーツを手段として活用し、心の元気づくりを行うとともに、スポーツ・レクリエーション活動による健康増進効果を図る専門の人材を養成するプログラムの一環を担う。

### <授業の到達目標>

レクリエーションという言葉の主旨を理解するとともに、スポーツ未実施者をスポーツ・レクリエーション活動に誘い、スポーツ・レクリエーション活動の楽しさと効果を伝え、継続へと繋げるための理論と実践方法を身につける。

### <授業の方法>

スライドと配布資料をもとに講義を展開するとともに、指導実践に向けた演習を行う。前時の講義内容の振り返りを、毎時において振り返りレポートを通じて行う。その他、グループワークを通じて本時の授業の理解を深める。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有スライドと配布資料をもとに講義を展開するとともに、指導実践に向けた演習を行う。その他、グループワークを通じて本時の授業の理解を深める。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前時に記録したノートや配布された資料をもとに授業の振り返りをする（30分程度）。また、与えられた課題に対し、参考書やインターネットを利用して情報収集に努め、レポート作成に取り組む（1時間30分程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日常の授業における実践的な態度および振り返りレポートを含む課題提出（70%）。また、最終講義を終えた上でのまとめレポート（30%）を実施し、以上を総合的に評価する。

### <教科書>

（公財）日本レクリエーション協会 スポーツ・レクリエーション指導者養成テキスト「スポレク活動で健康寿命を延伸」 2019年

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、および授業におけるルールの確認
2	スポーツ・レクリエーション概論	スポーツ・レクリエーションとは、スポーツ・レクリエーション指導者の使命
3	スポーツ・レクリエーション生理学	日本人の生涯と高齢期の身体的特色、高齢期に訪れる危機、危機を回復する運動効果
4	スポーツ・レクリエーション心理学	高齢者の心理的特徴と運動やスポーツ・レクリエーションの心理的效果
5	スポーツ未実施者参加促進法	スポーツ未実施者参加促進法の進め方と体験会で活用できるスポレクワーク
6	スポーツ・レクリエーションの継続のための場づくり	活動の場づくりの必要性とはじめの一步
7	スポーツ行政の仕組みと連携方法	何故、行政と連携なのか
8	動機付けの支援技術Ⅰ	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ、良好な集団作りの方法・アイスブレイキング、スポレクの効果を理解し意欲を高める言葉かけ
9	動機付けの支援技術Ⅱ	スポーツ未実施者を引き込む手法と楽しめる指導、対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術、継続意欲を高めるスポレク活動の展開
10	活動理解	コミュニケーションを深める展開方法とプログラム化する方法
11	安全管理の基礎	救急対応と救急体制の作り方
12	総合演習Ⅰ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その1
13	総合演習Ⅱ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その2
14	総合演習Ⅲ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その3
15	まとめ	講義内容全般における振り返り
16		

科目コード	65019				区 分	コア			
授業科目名	公務員と法				担当者名	平野 正樹			
配当年次	3年	配当学期	前期集中	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	2単位

#### <授業の概要>

本科目では、市場機構の不完全性である市場の失敗、中でも公共部門の役割についての経済学的かつ制度論的な内容を理解することを目的とする。これを基に現代の経済的かつ財政的課題についてのケース・スタディーを通じて、公的主体の意義を学ぶ。そして、本科目を受講した学生が国内外の経済・財政問題に対して、コメントできるようになることを目途に授業を展開する。

#### <授業の到達目標>

授業を通じて、経済における「公的部門」と「民間部門」の相違とそれぞれの主体である「公」「民」の行動目的についての理解を図る。また、市場経済を中心とした経済社会で生じる諸問題(市場の失敗)について、その原因を分析するとともに国家財政や地方財政が抱える制度論的課題にも言及する。そして、経済・財政問題の改善・解決策に向けて公がとるべき諸政策について何らかのコメントができるようになることを一つの目標とする。

#### <授業の方法>

その都度、資料を配布する。板書を中心とするが、内容によってはPPT等で視覚的に分かりやすい方法も活用する。授業の理解度を高めるため、適宜レポートの提出を課す。各講義の終わりにディスカッションを行う予定。各講義の終わりに、講義内容を踏まえた双方向のディスカッションを行う予定。講義内容によってはその理解度を確認するため、PPTの活用などによる双方向での授業を予定。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有講義内容の理解度を確認するため、ディスカッションやPPTの活用などによる双方向での授業を実施する。

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

履修条件として、ミクロ経済学とマクロ経済学は単位修得済みであること。予習・復習を行うとともに、日頃から新聞などで経済や財政に関する事柄に目を通しておくこと。具体的には、事前配付物での予習90分、復習50分が目安。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題(小テスト)80%と出席率等20%で成績評価をする。なお、課題(小テスト)については模範解答を提示・説明する。

#### <教科書>

なし

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	市場経済とパフォーマンス 経済の仕組みと公的部門	経済の仕組み 市場経済と公共部門の役割 経済学と経営学との相違など
2	市場の失敗とは	市場における外部性と公共財の存在
3	財政学と財政の三機能(Ⅰ)	財政学とは何か 財政学の誕生と発展
4	財政学と財政の三機能(Ⅱ)	資源配分機能 所得再分配機能 経済安定化機能
5	国と地方の財政の姿	国家財政・地方財政の歳入・歳出予算 予算の編成過程など
6	公共サービスと財政のかかわり(Ⅰ)	公共財の性質 公共財供給の効率性
7	公共サービスと財政のかかわり(Ⅱ)	多数決と公共サービス 公共財の最適供給と公平な負担
8	租税の基礎理論	租税原則と租税体系 効率と公平のトレード・オフ
9	所得課税	所得税と住民税の仕組み
10	消費課税	消費税の仕組み 従価税と従量税
11	資産課税	固定資産税と相続税の仕組み
12	国債と地方債	国債と地方債の種類 公債の負担
13	裁量的な財政政策とマクロ経済	乗数効果 財政政策の有効性
14	地方交付税と地域間所得再分配	地方交付税と国庫支出金の仕組み
15	総括	財政実態の国際比較
16		

科目コード	65020				区 分	専門基礎			
授業 科目名	実践英文法（基礎）				担当者名	井上 聡			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業の目的は、大学入試の基礎となる英文法への理解を深め、英語学習の方略を固めることです。事前課題（英検2級、英検準1級、TOEICの問題演習）をもとに、グループで教え合いを行い、講師の解説を傾聴し、理解度確認テストで「わかる」「わからない」を区別します。この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）によるアクティブ・ラーニング型の授業となります。PCまたはタブレットを持参の上、臨んでください。スマホの使用は、原則認めません。

### <授業の到達目標>

1. 事前課題（調べ学習）に粘り強く取り組むことができる。2. 活発な意見交流を通してグループワークに貢献できる。3. 理解度確認テストで高いスコアを残すことができる。

### <授業の方法>

事前課題の教え合い（40分）解説の傾聴（30分）意見交換（20分）※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワークによる教えあい

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：整序問題（90分程度）※英検・TOEICの文法演習復習：理解度確認テスト（30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%, グループワーク 20%, 理解度確認テスト 40%, 意見交換 10%

### <教科書>

授業中に配本予定

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション、品詞解析①	授業の進め方、教材の使い方、品詞解析①
2	品詞解析②	教え合い、解説、振り返り
3	品詞解析③	教え合い、解説、振り返り
4	品詞解析④	教え合い、解説、振り返り
5	品詞解析⑤	教え合い、解説、振り返り
6	品詞解析⑥	教え合い、解説、振り返り
7	品詞解析⑦	教え合い、解説、振り返り
8	品詞解析⑧	教え合い、解説、振り返り
9	品詞解析⑨	教え合い、解説、振り返り
10	品詞解析⑩	教え合い、解説、振り返り
11	品詞解析⑪	教え合い、解説、振り返り
12	品詞解析⑫	教え合い、解説、振り返り
13	品詞解析⑬	教え合い、解説、振り返り
14	品詞解析⑭	教え合い、解説、振り返り
15	品詞解析⑮	教え合い、解説、振り返り
16		

科目コード	65021				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	実践英文法（応用）				担当者名	井上 聡			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本授業は、実践英文法（基礎）の発展編となります。協働学習を通して、英検準1級やTOEIC750点レベルの文法問題や読解問題に挑戦し、他者への説明力を養います。成績評価は、事前課題、協働学習への態度、理解度確認テスト、意見交換の質を軸に行います。この授業はブレンド型で行われますので、必ずPCを持参して臨んでください。

#### <授業の到達目標>

1. 事前課題に粘り強く取り組み、詳細なノートを作成・提出できる。2. 協働学習で教え合いを行い、設問の説明力を磨くことができる。3. 理解度確認テストを受験し、高い理解度を残すことができる。4. 意見交換の場で、自身の学びを適切に言語化できる。

#### <授業の方法>

教え合い（50分程度）解説の傾聴（30分程度）意見交換（10分）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワークでの教えあい

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前課題の解答を作成・提出（90分程度）復習：理解度確認テスト＋意見交換（30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 40%、理解度確認テスト 40%、意見交換 30%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション、品詞解析	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
2	動詞の語法①	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
3	動詞の語法②	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
4	動詞の語法③	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
5	動詞の語法④	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
6	動詞の語法⑤	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
7	前置詞・接続詞①	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
8	前置詞・接続詞②	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
9	関係詞①	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
10	関係詞②	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
11	名詞・代名詞	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
12	形容詞・副詞	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
13	総合演習①	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
14	総合演習②	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
15	総合演習③	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
16		

科目コード	65022				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	リーディング・スキル（基礎） [英語教員希望者限定]				担当者名	井上 聡			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### ＜授業の概要＞

本授業はオンデマンド型で実施し、英検２級レベルで、英文の速読・精読力と語彙力・構文解析力を強化します。Google Classroomを通して配信された事前課題に取り組み、課題の提出・採点・返却後に理解度確認テストを受験し、その結果に基づいて、「何を学ぶことができたか」「どのように学んだのか」について意見交換を行います。事前課題の質、理解度確認テストのスコア、意見交換の質の３点に基づいて成績評価を行います。※この科目は原則、英語教職課程の履修者しか受講できません。他の理由で履修を希望する場合は、メンターやゼミ担当教員の了承を事前に得ておいてください。

### ＜授業の到達目標＞

１．授業動画を活用し、事前課題（英検２級の長文読解）に粘り強く取り組むことができる。２．理解度確認テストを受験し、その結果を適切に振り返ることができる。３．事前課題と理解度確認テストを通して得た学びを「意見交換」の場で言語化できる。 ※授業はすべてGoogle Classroom上で行います。

### ＜授業の方法＞

１．事前課題（長文の読解、授業動画の視聴、ノート作成、提出）※授業日の前日 ２．理解度確認テスト（Google Form）※授業日のみ ３．意見交換（Google Classroom）※授業日のみ

### ＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

事前課題の優秀作品やテスト優秀者の氏名については随時、Classroomのストリームで公開します。

### ＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前課題の提出（90分程度）復習：理解度確認テストの受験（1時間程度）と意見交換（10分程度）

### ＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

### ＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題の質 30%、理解度確認テスト 30%、Review Test 20%、意見交換 20%

### ＜教科書＞

特に指定なし

### ＜参考書＞

特に指定なし

### ＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	Generations Helping Each Other	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
2	Metal Foam	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
3	A New Type of Chocolate	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
4	A New Way to Use a Computer	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
5	Review 1	Review Test_01実力テスト_01
6	The Price of a Song	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
7	A Model Tourist Town	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
8	The Mysterious Mummies	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
9	Female Pioneers	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
10	Review 2	Review Test_02実力テスト_02
11	Counting Every Children	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
12	Smart Stickers	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
13	Bibliotherapy	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
14	Bringing Back Ancient Plants	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
15	Review 3	Review Test_03実力テスト_03
16		

科目コード	65023				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	リーディング・スキル（応用）[英語教員希望者限定]				担当者名	井上 聡			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### ＜授業の概要＞

本授業はオンデマンド型で実施し、英検準1級レベルの英文の速読・精読力に加え、同レベルの語彙・構文解析力を強化します。事前課題（読解・語彙・文法のノートテイキング）に取り組み、理解度確認テストを受験し、その結果に基づいて、「何を学ぶことができたか」「どのように学んだのか」について意見交換を行います。事前課題の質、理解度確認テストのスコア、意見交換の質の3点に基づいて成績評価を行います。※この科目は原則、英語教職課程の履修者しか受講できません。他の理由で履修を希望する場合は、メンターやゼミ担当教員の了承を事前に得ておいてください。

### ＜授業の到達目標＞

1. デジタル解説動画を活用し、事前課題（長文読解）に粘り強く取り組むことができる。2. 理解度確認テストを受験し、その結果を適切に振り返ることができる。3. 事前課題と理解度確認テストを通して得られた学びを「意見交換」の場で言語化できる。 ※授業中のデータ共有はすべてGoogle Classroomで行います。

### ＜授業の方法＞

1. 事前課題（長文の読解、授業動画の視聴、ノート作成、提出）※授業前日まで 2. 理解度確認テスト（Google Form）※授業日のみ 3. 意見交換（Google Classroom）※授業日のみ

### ＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

事前課題の優秀作品やテスト優秀者の氏名については随時、Classroomのストリームで公開します。

### ＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前課題の提出（90分程度）復習：理解度確認テストの受験（30分程度）＋意見交換

### ＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

### ＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題の質 30%、理解度確認テスト 30%、Review Test 20%、意見交換 20%

### ＜教科書＞

特に指定なし

### ＜参考書＞

### ＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	"Drink Responsibly" Messages	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
2	Dog Colors	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
3	Lightning Strikes and Ships	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
4	Minimalism: Is Less Really More?	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
5	Review 1	Review Test_01実力テスト_01
6	The Thaba-Tseka Development Project	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
7	The Uncertainties of Celiac Disease	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
8	REDD+	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
9	Summer Jobs	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
10	Review 2	Review Test_02実力テスト_02
11	Stranded Whales	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
12	Airplanes and Germs	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
13	Young People and Sports	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
14	Medical Volontourism	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
15	Review 3	Review Test_03実力テスト_03
16		

科目コード	65039				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	ライティング・スキル [英語教員希望者限定]				担当者名	井上 聡			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業（オンデマンド型授業）では、英検2級、および、準1級レベルの英語ライティング能力の習得を目的として、論理構成力と英語表現力を同時に磨きます。授業第5週目までは主として、英文に変換しやすいような日本語の論理思考力の強化に励みます。続いて6週目からはeラーニング教材を使用して、毎週1本ずつ課題作文の提出・添削を繰り返します。自律的にこなすことが難しい領域だからこそ、単位化されたこの授業でスキルを身に付けてほしいと願っています。ただし、ライティング課題を作成する際、自動翻訳への依存や他者の作品の引用が発覚した場合、単位認定されませんので、必ず自力で取り組むようにしてください。※この科目は原則、英語教職課程の履修者しか受講できません。他の理由で履修を希望する場合は、メンターやゼミ担当教員の下承を事前に得ておいてください。

### <授業の到達目標>

1. 毎回期限までに課題を提出できる。2. ライティングの精度（構成、文法、内容等）を高めることができる。3. 「意見交換」の場で自身の学び言語化できる。 ※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

### <授業の方法>

1. 事前課題（第6週からeラーニング教材を使用）※授業前日まで 2. 添削・返却 ※授業日 3. 修正・振り返り ※授業日

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

ライティング課題の優秀作品やテスト優秀者の氏名については随時、Classroomのストリームで公開します。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前課題の提出（90分程度）復習：意見交換での発信（10分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題の質 40%, 理解度確認テスト 40%, 意見交換 20%

### <教科書>

特に指定なし

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方
2	よく出る英語構文（1）	事前課題、採点・返却、理解度確認テスト、意見交換
3	よく出る英語構文（2）	事前課題、採点・返却、理解度確認テスト、意見交換
4	よく出る英語構文（3）	事前課題、採点・返却、理解度確認テスト、意見交換
5	よく出る英語構文（4）	事前課題、採点・返却、理解度確認テスト、意見交換
6	よく出る英語構文（5）	事前課題、採点・返却、理解度確認テスト、意見交換
7	論理構成の立て方（1）	事前課題、採点・返却、理解度確認テスト、意見交換
8	論理構成の立て方（2）	事前課題、採点・返却、意見交換
9	英検2級の論理構成	事前課題、採点・返却、意見交換
10	英検準1級の論理構成（1）	事前課題、採点・返却、意見交換
11	英検準1級の論理構成（2）	事前課題、採点・返却、意見交換
12	英検2級演習（1）	事前課題、採点・返却、意見交換
13	英検2級演習（2）	事前課題、採点・返却、意見交換
14	英検準1級演習（1）	事前課題、採点・返却、意見交換
15	英検準1級演習（2）	事前課題、採点・返却、意見交換
16		

科目コード	65040				区 分	専門基礎			
授業科目名	スピーキング・スキル				担当者名	伊藤 仁美			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業の全体目標は、身近な出来事や日常的な話題について即興的に話したり、日常的・社会的な話題について聞いたり読んだりした内容を自分の言葉で要約したり、聞き手に配慮しながらわかりやすく伝えたりするなどの基礎的な英語スピーキング・スキルを身につけることである。同じ教材を繰り返し活用し、音読・暗唱・要約と段階的に進めていくことで、英語を話すことへの不安や抵抗感を減らし、受講者が自信をもって、これまで身につけてきた知識・技能を活用しながら伝え合うことができるようにする。

### <授業の到達目標>

(1) 原稿を準備せず「その場で」5秒以上の不自然な間をあけることなく1分間継続して話すことができる【Small Talk】(2) 聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、ビジュアル・エイドを活用しながら自分の言葉で要約することができる【リテリング】(3) 聞き手が理解しやすいように伝える項目を精選したり、適切な順序に並べ替えたりするなど、話す内容をまとめ、わかりやすく説得力のある発表を行うことができる【プレゼン】

### <授業の方法>

(1) 帯活：Small Talk (10分) (2) 前時の復習：定着度の確認 (20分) (3) 導入：新しいインプット（ニュースの視聴、新聞記事の黙読、教師によるオーラルイントロダクションやプレゼン作成のためのTipsなど）(15分) (4) 中心活動：音読、暗唱、リテリング、意見交換、プレゼンに向けた準備・練習など(30分) (5) 終末：中心活動のフィードバック、リフレクションシートの記入(15分) ※課題の受け渡し・学習管理には、Googleクラスルームを活用する

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有 ※英語を使って、事実・自分の考え・気持ちを伝え合うことが常態化した授業である

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・リフレクションシートへの記入 (10分) ・Small Talkのリトライ：授業中に言いたくても言えなかった語彙・表現があれば調べて、次回までに活用できるようにしておくこと (20分) ・授業内で取り組んだ音読・暗唱・リテリングなどの補充学習：次回までにできるようにしておくこと (30分)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（英語を話そうとする姿勢を含む）・課題への取り組み 30%、中間試験および期末試験 70%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス・音読	授業の進め方・成績評価、英語での自己紹介、音読の意義と効果、音読活動
2	Why did I fail my New Year's resolution? (1)	BBC Newsを視聴し、聞き取った内容に関連する記事を音読・レシテーション（部分暗唱）
3	Why did I fail my New Year's resolution? (2)	リテリング（ビジュアルエイドを用いながら、自分の言葉で要約する練習）
4	Why did I fail my New Year's resolution? (3)	事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容をよどみなく話す
5	Food Waste (1)	英語学習者向けに書き換えられた新聞記事を音読・レシテーション（部分暗唱）
6	Food Waste (2)	リテリング（ビジュアルエイドを用いながら、自分の言葉で要約する練習）
7	Food Waste (3)	事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容をよどみなく話す
8	中間試験 (1)	即興スピーチ（帯活動として取り組んだSmall Talkの成果として）、情報に過不足のないリテリング（ビジュアルエイドあり）＋自分の考え・気持ちを付け加えて話す
9	中間試験 (2)	即興スピーチ（帯活動として取り組んだSmall Talkの成果として）、情報に過不足のないリテリング（ビジュアルエイドあり）＋自分の考え・気持ちを付け加えて話す
10	プレゼンに向けて：計画	プレゼンの構成・論理展開（序論・本論・結論）、アイディア・マッピング、考えや情報の整理

11	プレゼンに向けて：初稿	伝える内容に重点を置きながら、必要に応じて適切な語彙・表現を学んでいく
12	プレゼンに向けて：推敲	よりよい説明の仕方や表現など、言語面についてのピア・フィードバックを行う
13	プレゼンに向けて：発表準備	スライドの準備・発表練習（※つなぎ言葉や言い直し、身振り手振りなどを含む）
14	期末試験（1）	プレゼン発表とフィードバック
15	期末試験（2）	プレゼン発表とフィードバック
16		

科目コード	65041				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	リーディング・スキル(実践) [英語教員希望者 限定]				担当者名	井上 聡			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業はオンデマンド型で実施し、英検 1 級レベルの英文の速読・精読力と語彙・構文解析力を強化します。事前課題（長文読解に関するノートテイキング）に取り組み、理解度確認テストを受験し、その結果に基づいて、「何を学ぶことができたか」「どのように学んだのか」について意見交換を行います。事前課題の質、理解度確認テストのスコア、意見交換の質、学びの整理の 3 点に基づいて成績評価を行います。※この科目は原則、英語教職課程の履修者しか受講できません。他の理由で履修を希望する場合は、メンターやゼミ担当教員の了承を事前に得ておいてください。

### <授業の到達目標>

1. デジタル解説動画を活用し、事前課題（英検 1 級の長文読解）に粘り強く取り組むことができる。2. 理解度確認テストを受験し、その結果を適切に振り返ることができる。3. 事前課題と理解度確認テストを通して得られた学びを「意見交換」の場で言語化できる。 ※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

### <授業の方法>

1. 事前課題（長文の読解、授業動画の視聴、ノート作成、提出）※授業前日まで 2. 理解度確認テスト（Google Form）※授業日のみ 3. 意見交換（Google Classroom）※授業日のみ

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

事前課題の優秀作品やテスト優秀者の氏名については随時、Classroomのストリームで公開します。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前課題の提出（90分程度）復習：理解度確認テストの準備（30分程度）＋意見交換（10分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題の質 30%、理解度確認テスト 30%、Review Test 20%、意見交換 20%

### <教科書>

特に指定なし

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	"Drink Responsibly" Messages	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
2	Dog Colors	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
3	Lightning Strikes and Ships	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
4	Minimalism: Is Less Really More?	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
5	Review 1	Review Test_01実力テスト_01
6	The Thaba-Tseka Development Project	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
7	The Uncertainties of Celiac Disease	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
8	REDD+	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
9	Summer Jobs	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
10	Review 2	Review Test_02実力テスト_02
11	Stranded Whales	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
12	Airplanes and Germs	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
13	Young People and Sports	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
14	Medical Voluntourism	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
15	Review 3	Review Test_03実力テスト_03
16		

科目コード	65047				区 分	コア			
授業科目名	キャリアマネジメントⅠ [中高保健教員]				担当者名	延原 まどか／岩田 知郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

中学校・高等学校の教員採用試験を受験するために、体育の基本となる内容（スポーツのルール等）を習得する。（3年、4年で保健体育の教員採用試験を受験者対象）

#### <授業の到達目標>

・教員の適性を確認し、他者と協働しながら学ぶ態度を身に付ける。・様々なスポーツ種目の特性やルール等を理解する。・プレゼンテーション能力を身に付ける。

#### <授業の方法>

①与えられた課題（各種目のルール等）をグループごとで協力し合い調べ、プレゼンテーションをする。②教壇に立つことを意識し、わかりやすいプレゼンができるようにする。③グループで調べまとめることにより学生同士の相互の学びあいを大切にしていく。④毎回、前時のミニテストとミニレポートを実施し、学びを深める。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

前時のミニテストをすることにより、理解度を深めることが出来る。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：前時の内容のミニテストがあるため、毎回復習をしてくる必要あり。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・プレゼンテーション、グループ活動 20％・レポート得点 30％・ミニテスト 20％・最終テスト 30％

#### <教科書>

2025年9月1日予定 27年度 中高保健体育の完全攻略 時事通信社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業ガイダンス	授業内容を理解するグループの確認・分担確認
2	オリンピック先輩からのアドバイス	教員採用試験について（先輩からのアドバイス）オリンピックについて学ぶ
3	器械運動	器械運動について理解する前時のミニテスト実施
4	水泳	水泳について理解する前時のミニテスト実施
5	体づくり運動陸上競技	体づくり運動、陸上競技について理解する前時のミニテスト実施
6	陸上競技	陸上競技について理解する前時のミニテスト実施
7	陸上競技	陸上競技について理解する前時のミニテスト実施
8	球技：ベースボール型	球技について理解する前時のミニテスト実施
9	球技：ゴール型	球技について理解する前時のミニテスト実施
10	球技：ゴール型	球技について理解する前時のミニテスト実施
11	球技：ネット型	球技について理解する前時のミニテスト実施
12	球技：ネット型	球技について理解する前時のミニテスト実施
13	武道	武道について理解する前時のミニテスト実施
14	ダンス	ダンスについて理解する前時のミニテスト実施
15	まとめ確認テスト	これまでの授業のまとめ、確認テストを実施する
16		

科目コード	65047				区 分	コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメントⅠ [公務員]				担当者名	横内 浩平			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

公務員を目指す学生がキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな採用試験について十分理解しておく必要がある。本科目では、警察官・消防士・刑務官などの公安系公務員を目指す学生がそれぞれの職種について学び、公務員としての心構えを身につけることをねらいとする。また実際に出題される試験問題を解説し、実践力を身につけることを目的として開講する。

＜授業の到達目標＞

1. 公務員という仕事を知り、また採用試験における「頻出分野」の理解ができるようになる。2. 3年次から開講される「公務員対策講座」を受講するための数学的基礎力を身に付けている。3. 採用試験に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

＜授業の方法＞

1. 講義（配布プリント、パワーポイントを使用し授業を進める）2. グループワーク（授業中に出される複数の解き方がある問題に関する教え合い）3. 授業で解く問題が得意な学生に対して、難易度の高い問題を準備しclassroomなどを活用して解説する。※一部の問題についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り 問題の一部についてはグループ内で相談し答えを見つける

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関する公式等の下調べ（30分程度）復習：次回講義までに授業中に解き方を示した問題を解けるようにしておく（90分以上）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50%、確認テスト 35%、授業態度 15%

＜教科書＞

特に指定なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	公務員という仕事の理解・計算演習（1）	公務員試験全般について学ぶ。分数の計算
3	計算演習（2）	文字式
4	計算演習（3）・職種研究（1）	連立方程式、職種研究 警察官編
5	数的処理分野（1）	速さⅠ（旅人算・通過算）
6	数的処理分野（2）・職種研究（2）	速さⅡ（流水算・時計算）・職種研究 刑務官編
7	数的処理分野（3）	割合Ⅰ（相当算・売買算）
8	数的処理分野（4）・職種研究（3）	割合Ⅱ（濃度算・仕事算）・職種研究 自衛隊編
9	数的処理分野（5）	方程式・不等式Ⅰ（和差算・過不足算）
10	数的処理分野（6）・職種研究（4）	方程式・不等式Ⅱ（分配算・年齢算・平均算）・職種研究 海上保安官編
11	数的処理分野（7）	整数（約数・倍数・記数法）
12	数的処理分野（8）・職種研究（5）	確率Ⅰ（順列・組合せ）・職種研究 事務職系
13	数的処理分野（9）	確率Ⅱ（場合の数・確率）
14	数的処理分野（10）・職種研究（6）	規則性（数列・規則性の発見・計算パズル） 職種研究 その他の職種
15	まとめ	重要事項の確認・試験の注意など
16		

科目コード	65047				区 分	コア科目			
授業 科目名	キャリアマネジメントⅠ [企業]				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目は、早期化している就活にも相対すべく、企業就職希望で意欲の高い学生向けに就活理解、自己理解、企業理解、業界理解を実施し、アドバンテージを装着する。

### <授業の到達目標>

本科目は、「視野・視座を上げる」「チャレンジ精神の上昇」を目標とし、就活のタイミングではプライム上場企業や著名400社へのエントリーができる状態にする。

### <授業の方法>

教員、キャリアセンター職員、就職支援会社による座学やワーク、課外授業（企業が実施するインターンシップへの参加等）を実施する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本科目では、グループワークによる課題解決、自己理解のための振り返りやAI活用、インターンシップの参加と共有、エントリーシートの相互添削など、主体的・対話的な活動を重視している。体験を通して学びを深め、自らのキャリア選択を言語化・行動化するプロセス全体にアクティブラーニングの要素が組み込まれている。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に実施する自己の振り返りや座学、ワーク、課外授業を経てのレポート作成等約30分から1時間

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講の態度や参加意欲・態度40% 提出物や課題レポートなど60%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	【オリエンテーション】就活準備スタートアップ	キャリアの選択肢と可能性について考え、就活開始までに何が必要か学ぶ。（新リクナビを使いこなせるようになる）
2	【選考対策】自分の現在地を知る (before)	SPI能力検査模擬受検。（SPI能力検査とは、フィードバックの見方について学ぶ）
3	【自己理解】自己理解を深める～その1	自分の過去の行動、思考、経験を振り返って。（自己理解の材料を整理して、データとして就活中持つておく）
4	【自己理解】自己理解を深める～その2	・ガクチカの素案をAIも使いながら作る（材料の整理/自己 文章化・深堀/AI）・言語化されたものから自己の「強み」「らしさ」を知る
5	【企業研究】課題設定力、課題解決力を身につける～その1（グループワークの練習）	アントレプレナーシップ講座（実際の企業の課題設定、課題解決の事例を学ぶ）
6	【企業研究】課題設定力、課題解決力を身につける～その2（グループワークの準備）	アントレプレナーシップ講座（グループで身近（半径5m）の課題解決について考え、意見をまとめる）
7	【企業研究】課題設定力、課題解決力を身につける～その3（グループワークの本番）	アントレプレナーシップ講座（第6回で準備した内容について発表し、その後フィードバックと振り返り）
8	【企業研究】自身のキャリアの選択軸を仮置きしてみる（下記のインターンシップ参加企業選択の指針とする）	・レジュメ+ワークでキャリア選択軸を仮置きし、様々な企業に机上アプローチ・好きな事を軸に興味ある企業にエントリーしてみる
9	【企業研究】オンデマンド実施のISに参加（就活について最低でも全員が0→1を達成する）	・オンデマンド（動画）実施のオープンカンパニーに参加・振り返りシートに記入し、得られる情報から企業比較に繋げる事を学ぶ
10	【企業研究】企業の違いを理解する（比較の観点を学び、違いの大きさを実感してみる）	・第9回で使った全員分の振り返りシートを基に企業を比較する・それぞれのGOOD観点、BAD観点からその理由を考えるワークを実施、軸を明確化
11	【選考対策】エントリーシートを作ってみ	エントリーシートで何を伝えるべきなのか理解する（実際に企業に提出できる完成形

	る～その1	まで近づける)
12	【選考対策】エントリーシートを作ってみ	第11回で作ったエントリーシートをお互いに添削し合う
	る～その2	
13	【選考対策】グループワークをやってみる	グループワーク練習会
14	【選考対策】自分の現在地を知る (after)	・SPI能力検査模擬受検・第2回で実施した点数と比較し、伸びた科目、課題科目を確認
15	【まとめ】授業で学んだ事の言語化と定着	学んだ事を整理する(ガクチカAIアシスタントを活用して、この授業で頑張った事を言語化して提出)
16		

科目コード	65048				区 分	コア			
授業 科目名	キャリアマネジメントⅡ [中高保健教員]				担当者名	浦 佑大			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

体育学科のなかで、教員コースを希望する学生が対象。小学校と中高保健体育の各専門教養の知識を身に付けるために行われる。教員としての資質・能力の育成を図るなかで、グループワークにより学生自身が主体的に知識を深められるように授業展開していく。

### <授業の到達目標>

・小学校全科、中学校高等学校保健体育の専門教養を身に付ける。・教員の適性を確認し、他社と協働しながら学ぶ態度を身に付ける。

### <授業の方法>

・小学校希望者と中高保健体育希望者とわかれて、それぞれ編成された異学年チームで実施する。・上学年を中心に解説や問題の解答の説明等、学生同士で学習することで分かりやすい教え方を学ばせる。・最初と最後に確認テストを実施し、到達度を把握する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有グループワークにより主体的に知識を深めていく

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：チーム毎に出された課題に取り組む（30分）。復習：毎時、授業を振り返り学んだ内容をまとめる（30分）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

確認テスト85%学習意欲・態度15%

### <教科書>

時事通信出版局（2022年9月1日） 中高保健体育の完全攻略法 時事通信社  
東京アカデミー 教員採用試験対策セサミノート 専門教科小学校全科 東京アカデミー七賢出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・実力テスト	授業内容を理解し、実力テストで現時点の理解度を把握する。
2	学習指導要領	専門教養の領域である学習指導要領について理解し、小テストを実施し理解の到達度を図る。
3	体づくり運動/国語	中高：体づくり運動について理解する。小：国語における傾向と対策について理解する。小テストを実施し到達度を把握する。
4	器械運動/社会1	中高：器械運動について理解する。前時のミニテストを実施し、理解の到達度を把握する。小：社会における傾向と対策について理解する。小テストを実施し到達度を把握する。
5	陸上競技/社会2	中高：陸上競技について理解する。前時のミニテストを実施し、理解の到達度を把握する。小：社会における傾向と対策について理解する。小テストを実施し到達度を把握する。
6	水泳/算数	中高：水泳について理解する。前時のミニテストを実施し、理解の到達度を把握する。小：算数における傾向と対策について理解する。小テストを実施し到達度を把握する。
7	球技1（ゴール型）/理科	中高：ゴール型の種目について理解する。前時のミニテストを実施し、理解の到達度を把握する。小：理科における傾向と対策について理解する。小テストを実施し到達度を把握する。
8	球技2（ゴール型）/確認テスト	中高：ゴール型種目について理解する。前時のミニテストを実施し、理解の到達度を把握する。小：今まで行った内容のテストを実施し到達度を把握する。
9	球技3（ネット型）/生活	中高：ネット型の種目について理解する。前時のミニテストを実施し、理解の到達度を把握する。小：生活における傾向と対策について理解する。小テストを実施し到達度を把握する。
10	球技4（ネット型）/音楽	中高：ネット型の種目について理解する。前時のミニテストを実施し、理解の到達度を把握する。小：音楽における傾向と対策について理解する。小テストを実施し到達度を把握する。

11	球技 5（ベース型）/図画工作	中高：ベース型の種目について理解する。前時のミニテストを実施し、理解の到達度を把握する。小：図画工作における傾向と対策について理解する。小テストを実施し到達度を把握する。
12	武道/家庭	中高：武道について理解する。前時のミニテストを実施し、理解の到達度を把握する。小：家庭における傾向と対策について理解する。小テストを実施し到達度を把握する。
13	ダンス/体育	中高：ダンスについて理解する。前時のミニテストを実施し、理解の到達度を把握する。小：体育における傾向と対策について理解する。小テストを実施し到達度を把握する。
14	体育理論/外国語	中高：体育理論について理解する。前時のミニテストを実施し、理解の到達度を把握する。小：外国語における傾向と対策について理解する。小テストを実施し到達度を把握する。
15	まとめと内容確認テスト	これまでの授業をまとめ、確認テストを実施し、理解の到達度を把握する。
16		

科目コード	65048				区 分	コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメントⅡ [公務員A]				担当者名	森 利治			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

公務員試験合格を目指す学生の場合、採用試験の中で大きなウェイトを占める教養試験を突破しなければいけません。本科目では公安職・行政職などの各種公務員を目指す学生が、試験に合格するためだけの科目として学習するだけではなく、そこに出てくる有名な哲学者の考えを今の自分自身に落とし込み、これから目標に向かっていく中で自分を見つめ直す機会とすることを目的として開講します。

#### <授業の到達目標>

採用試験における頻出分野の理解ができるようになる。3年次後期から開講される「公務員試験対策講座」と連動して知識のインプットと確認テストによるアウトプットをバランスよく行い得点が取れるようになる。

#### <授業の方法>

レジュメを中心に進めていくが、講義内容について本試験出題問題を解答し、グループ単位になって各選択肢の誤りを話し合い正答を導き出して発表していくことで全員が内容の理解を深めていく。また、単元別にミニテストにおいて、GoogleClassRoomを活用して解説動画を視聴する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り 問題の一部についてはグループ内で相談し答えを見つける。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前配布レジュメの中から人物とそれに関連する出来事の骨格をまとめる。（1時間程度）復習：予習した内容に講義で習った内容が肉付けできるようになるために宿題レジュメを完成させ次回の確認テストに備える。（1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末テスト70%、単元別テスト15%、授業に臨む態度等15%

#### <教科書>

#### <参考書>

東京アカデミー オープンセサミシリーズ 公務員 国家公務員地方初級 日本史・世界史・地理・思想 七賢出版

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	履修ガイダンス	講義内容の趣旨・目的の説明をプレ講義
2	思想（1）	西洋思想Ⅰ（1）（自然哲学から古代ギリシャ哲学）
3	思想（2）	西洋思想Ⅰ（2）（キリスト教思想と中世哲学）
4	思想（3）	西洋思想Ⅱ（1）（経験論思想と合理論思想の比較）
5	思想（4）	西洋思想Ⅲ（1）（経験論思想の流れ～功利主義・プラグマティズム）
6	思想（5）	西洋思想Ⅲ（2）（合理論思想の流れ～社会主義と実存主義）
7	思想（6）	西洋思想Ⅲ（2）（ドイツ観念論と構造主義）
8	思想（7）	東洋思想Ⅰ（1）（バラモン教と仏教の成立とアジア地域への広がり）
9	思想（8）	東洋思想Ⅰ（2）（聖徳太子から平安時代までの仏教について）
10	思想（9）	東洋思想Ⅱ（1）（古代中国の諸子百家について）
11	思想（10）	東洋思想Ⅱ（2）（中国・日本の朱子学・陽明学と日本独自の古学・国学について）
12	思想（11）	東洋思想Ⅱ（3）（明治以降の日本の哲学について）
13	社会（1）	社会学の基礎（1）（現代社会の特質について）
14	社会（2）	社会学の基礎（2）（社会集団の種類について）
15	社会（3）	社会学の基礎（3）（家族について）
16		

科目コード	65048				区 分	コア科目			
授業 科目名	キャリアマネジメントⅡ [公務員B]				担当者名	森 利治			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

公務員試験合格を目指す学生の場合、採用試験の中で大きなウェイトを占める教養試験を突破しなければいけません。本科目では公安職・行政職などの各種公務員を目指す学生が、試験に合格するためだけの科目として学習するだけではなく、そこに出てくる有名な哲学者の考えを今の自分自身に落とし込み、これから目標に向かっていく中で自分を見つめ直す機会とすることを目的として開講します。

#### <授業の到達目標>

採用試験における頻出分野の理解ができるようになる。3年次後期から開講される「公務員試験対策講座」と連動して知識のインプットと確認テストによるアウトプットをバランスよく行い得点が取れるようになる。

#### <授業の方法>

レジュメを中心に進めていくが、講義内容について本試験出題問題を解答し、グループ単位になって各選択肢の誤りを話し合い正答を導き出して発表していくことで全員が内容の理解を深めていく。また、単元別にミニテストにおいて、GoogleClassRoomを活用して解説動画を視聴する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り 問題の一部についてはグループ内で相談し答えを見つける。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前配布レジュメの中から人物とそれに関連する出来事の骨格をまとめる。（1時間程度）復習：予習した内容に講義で習った内容が肉付けできるようになるために宿題レジュメを完成させ次回の確認テストに備える。（1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末テスト70%、単元別テスト15%、授業に臨む態度等15%

#### <教科書>

#### <参考書>

東京アカデミー オープンセサミシリーズ 公務員 国家公務員地方初級 日本史・世界史・地理・思想 七賢出版

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	履修ガイダンス	講義内容の趣旨・目的の説明をブレ講義
2	思想（1）	西洋思想Ⅰ（1）（自然哲学から古代ギリシャ哲学）
3	思想（2）	西洋思想Ⅰ（2）（キリスト教思想と中世哲学）
4	思想（3）	西洋思想Ⅱ（1）（経験論思想と合理論思想の比較）
5	思想（4）	西洋思想Ⅲ（1）（経験論思想の流れ～功利主義・プラグマティズム）
6	思想（5）	西洋思想Ⅲ（2）（合理論思想の流れ～社会主義と実存主義）
7	思想（6）	西洋思想Ⅲ（2）（ドイツ観念論と構造主義）
8	思想（7）	東洋思想Ⅰ（1）（バラモン教と仏教の成立とアジア地域への広がり）
9	思想（8）	東洋思想Ⅰ（2）（聖徳太子から平安時代までの仏教について）
10	思想（9）	東洋思想Ⅱ（1）（古代中国の諸子百家について）
11	思想（10）	東洋思想Ⅱ（2）（中国・日本の朱子学・陽明学と日本独自の古学・国学について）
12	思想（11）	東洋思想Ⅱ（3）（明治以降の日本の哲学について）
13	社会（1）	社会学の基礎（1）（現代社会の特質について）
14	社会（2）	社会学の基礎（2）（社会集団の種類について）
15	社会（3）	社会学の基礎（3）（家族について）
16		

科目コード	65049				区 分	コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメントⅢ [公務員A]				担当者名	森 利治			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

公務員試験合格を目指す学生の場合、採用試験の中で大きなウェイトを占める教養試験を突破しなければいけません。本科目では公安職・行政職などの各種公務員を目指す学生が、試験に合格するためだけの科目として学習するだけではなく、そこに出てくる歴史的出来事の秘話などを交えながら就職してから周りとのコミュニケーションを取る中で必要な教養知識を身につけることを目的に開講します。

### <授業の到達目標>

採用試験における頻出分野の理解ができるようになる。3年次後期から開講される「公務員試験対策講座」と連動して知識のインプットと確認テストによるアウトプットをバランスよく行い得点が取れるようになる。

### <授業の方法>

レジュメを中心に進めていくが、講義内容について本試験出題問題を解答し、グループ単位になって各選択肢の誤りを話し合い正答を導き出して発表していくことで全員が内容の理解を深めていく。また、単元別にミニテストを実施し、GoogleClassRoomを活用して解説動画を視聴する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り 問題の一部についてはグループ内で相談し答えを見つける。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前配布レジュメの中から人物とそれに関連する出来事の骨格をまとめる（1時間程度）。復習：予習した内容に講義で習った内容が肉付けできるようになるために宿題レジュメを完成させ次回の確認テストに備える（1時間程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末テスト70%、単元別15%、授業に取り組む姿勢・提出物15%

### <教科書>

### <参考書>

東京アカデミー オープンセサミシリーズ 公務員 国家公務員・地方初級 日本史・世界史・地理・倫理 七賢出版

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	履修ガイダンス	講義内容の趣旨・目的の説明とプレ講義
2	日本史（1）	古代史（1）（大和政権から律令時代）
3	日本史（2）	古代史（2）（律令制度崩壊から再建にかけての変遷）
4	日本史（3）	中世史（1）（摂関政治から院政・平氏政権への移行）
5	日本史（4）	中世史（2）（平氏滅亡から執権政治）
6	日本史（5）	中世史（3）（元の襲来から南北朝時代）
7	日本史（6）	中世史（4）（南北朝合一から戦国時代）
8	日本史（7）	近世史（1）（織豊政権から江戸幕府の基礎確立）
9	日本史（8）	近世史（2）（元禄時代から新井白石の政治と文化史）
10	日本史（9）	近世史（3）（三大改革から家斉の大御所政治と化政文化）
11	日本史（10）	近代史（1）（開国から明治新政府による近代国家建設）
12	日本史（11）	近代史（2）（明治時代中期から条約改正交渉と産業革命）
13	日本史（12）	近代史（3）（大正デモクラシーから金融恐慌）
14	日本史（13）	近代史（4）（世界恐慌から軍部の台頭）
15	日本史（14）	近代史（5）（日中戦争からポツダム宣言受諾まで）
16		

科目コード	65049				区 分	コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメントⅢ [公務員B]				担当者名	森 利治			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

公務員試験合格を目指す学生の場合、採用試験の中で大きなウェイトを占める教養試験を突破しなければいけません。本科目では公安職・行政職などの各種公務員を目指す学生が、試験に合格するためだけの科目として学習するだけでなく、そこに出てくる歴史的出来事の秘話などを交えながら就職してから周りとのコミュニケーションを取る中で必要な教養知識を身につけることを目的に開講します。

### <授業の到達目標>

採用試験における頻出分野の理解ができるようになる。3年次後期から開講される「公務員試験対策講座」と連動して知識のインプットと確認テストによるアウトプットをバランスよく行い得点が取れるようになる。

### <授業の方法>

レジュメを中心に進めていくが、講義内容について本試験出題問題を解答し、グループ単位になって各選択肢の誤りを話し合い正答を導き出して発表していくことで全員が内容の理解を深めていく。また、単元別にミニテストを実施し、GoogleClassRoomを活用して解説動画を視聴する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り 問題の一部についてはグループ内で相談し答えを見つける。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前配布レジュメの中から人物とそれに関連する出来事の骨格をまとめる（1時間程度）。復習：予習した内容に講義で習った内容が肉付けできるようになるために宿題レジュメを完成させ次回の確認テストに備える（1時間程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末テスト70%、単元別15%、授業に取り組む姿勢・提出物15%

### <教科書>

### <参考書>

東京アカデミー オープンセサミシリーズ 公務員 国家公務員・地方初級 日本史・世界史・地理・倫理 七賢出版

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	履修ガイダンス	講義内容の趣旨・目的の説明とプレ講義
2	日本史（1）	古代史（1）（大和政権から律令時代）
3	日本史（2）	古代史（2）（律令制度崩壊から再建にかけての変遷）
4	日本史（3）	中世史（1）（摂関政治から院政・平氏政権への移行）
5	日本史（4）	中世史（2）（平氏滅亡から執権政治）
6	日本史（5）	中世史（3）（元の襲来から南北朝時代）
7	日本史（6）	中世史（4）（南北朝合一から戦国時代）
8	日本史（7）	近世史（1）（織豊政権から江戸幕府の基礎確立）
9	日本史（8）	近世史（2）（元禄時代から新井白石の政治と文化史）
10	日本史（9）	近世史（3）（三大改革から家斉の大御所政治と化政文化）
11	日本史（10）	近代史（1）（開国から明治新政府による近代国家建設）
12	日本史（11）	近代史（2）（明治時代中期から条約改正交渉と産業革命）
13	日本史（12）	近代史（3）（大正デモクラシーから金融恐慌）
14	日本史（13）	近代史（4）（世界恐慌から軍部の台頭）
15	日本史（14）	近代史（5）（日中戦争からポツダム宣言受諾まで）
16		

科目コード	65049				区 分	コア			
授業科目名	キャリアマネジメントⅢ [中高保健教員]				担当者名	岩田 知郎			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

教職に就くために必要な保健体育関係の知識や技能を獲得する。講義形式や実技を通して学びを深める。主に、スポーツ関係の技能やルールの学びを重視する。

#### <授業の到達目標>

①体育教員に必要な知識・技能・態度等を育成する。②生徒に指導する力をプレゼンや資料づくりで身に付ける。③体育教員として専門性を育成する。

#### <授業の方法>

学習指導要領の領域の内容を、グループに分かれ学生同士で教え合いをする。講義→実技という流れの授業を展開する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

なし

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前時の内容の確認するために、毎時間ミニテストを実施する。最終日には確認テストを実施し到達度を図る。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎時間のミニテスト 30%プレゼン等 30%確認テスト 40%

#### <教科書>

2025年9月1日発行予定 27 中高保健体育の完全攻略 時事通信社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業内容のオリエンテーション。グループ作り。
2	体づくり運動	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
3	器械運動	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
4	陸上競技	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
5	水泳（座学）	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
6	バレーボール	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
7	サッカー	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
8	ラグビー	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
9	卓球・バドミントン	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
10	応急手当	内容等を理解し、それに関連した実技を実施する。
11	バスケットボール	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
12	柔道	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
13	剣道	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
14	ダンス	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
15	確認テスト	学習指導要領の内容を理解できたかを確認する。



科目コード	65050				区 分	コア科目			
授業 科目名	キャリアマネジメントⅣ [公務員]				担当者名	森 利治			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

公務員を目指す学生がキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな出題科目について十分理解しておく必要がある。この講義では、今年度の公務員試験に必要な知識のうち、次の内容を身に付けることを目的とする。1. 直前期に必要な「問題演習」2. 二次試験対策のうち主に「集団討論」「集団面接」

#### <授業の到達目標>

1. 公務員への理解を深め、公務員として働くことの意義を認識することができるようになる。2. 採用試験における「頻出分野」の理解ができるようになる。3. 今年度の公務員試験に必要な知識を養成し、採用に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

#### <授業の方法>

1. 講義（配布プリントを使用し授業、問題演習を進める）2. 振り返り（授業の内容に関するまとめ）※授業の一部についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り 集団討論や集団面接の練習はグループを作って行う

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関するキーワードの下調べ（30分程度）復習：次回講義までに、該当する問題を解けるようにしておく（90分以上）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50%、確認テスト35%、授業態度 15%

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	問題演習 (1)	政治
3	問題演習 (2)	経済
4	問題演習 (3)	日本史
5	問題演習 (4)	世界史
6	問題演習 (5)	地理
7	問題演習 (6)	生物・地学
8	二次試験対策 (1)	集団討論・集団面接等 (1)
9	二次試験対策 (2)	集団討論・集団面接等 (2)
10	二次試験対策 (3)	集団討論・集団面接等 (3)
11	二次試験対策 (4)	集団討論・集団面接等 (4)
12	二次試験対策 (5)	集団討論・集団面接等 (5)
13	二次試験対策 (6)	集団討論・集団面接等 (6)
14	二次試験対策 (7)	集団討論・集団面接等 (7)
15	まとめ	重要事項の確認・試験の注意など
16		

科目コード	65051				区 分	コア			
授業 科目名	公務員と法Ⅱ				担当者名	平野 正樹			
配当年次	3年	配当学期	後期集中	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	2単位

#### <授業の概要>

本科目では、市場機構の不完全性である市場の失敗、中でも公共部門の役割についての経済学的かつ制度論的な内容を理解することを目的とする。これを基に現代の経済的かつ財政的課題についてのケース・スタディーを通じて、公的主体の意義を学ぶ。そして、本科目を受講した学生が国内外の経済・財政問題に対して、コメントできるようになることを目途に授業を展開する。

#### <授業の到達目標>

授業を通じて、経済における「公的部門」と「民間部門」の相違とそれぞれの主体である「公」「民」の行動目的についての理解を図る。また、市場経済を中心とした経済社会で生じる諸問題(市場の失敗)について、その原因を分析するとともに国家財政や地方財政が抱える制度論的課題にも言及する。そして、経済・財政問題の改善・解決策に向けて公がとるべき諸政策について何らかのコメントができるようになることを一つの目標とする。

#### <授業の方法>

主として黒板を活用

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

履修条件として、ミクロ経済学とマクロ経済学は単位修得済みであること。予習・復習を行うとともに、日頃から新聞などで経済や財政に関する事柄に目を通しておくこと。具体的には、事前配付物での予習90分、復習50分が目安。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題(小テスト)80%と出席率等20%で成績評価をする。なお、課題(小テスト)については模範解答を提示・説明する。

#### <教科書>

なし

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	市場経済とパフォーマンス 経済の仕組みと公的部門	経済の仕組み 市場経済と公共部門の役割 経済学と経営学との相違など
2	公共経済学と財政学	市場の失敗、市場における外部性と公共財の存在
3	財政学と財政の三機能(Ⅰ)	財政学とは何か 財政学の誕生と発展
4	財政学と財政の三機能(Ⅱ)	資源配分機能 所得再分配機能 経済安定化機能
5	国と地方の財政の姿	国家財政・地方財政の歳入・歳出予算 予算の編成過程など
6	公共サービスと財政のかかわり(Ⅰ)	公共財の性質 公共財供給の効率性
7	公共サービスと財政のかかわり(Ⅱ)	多数決と公共サービス 公共財の最適供給と公平な負担
8	租税の基礎理論	租税原則と租税体系 効率と公平のトレード・オフ
9	所得課税	所得税と住民税の仕組み
10	消費課税	消費税の仕組み 従価税と従量税
11	資産課税	固定資産税と相続税の仕組み
12	国債と地方債	国債と地方債の種類 公債の負担
13	裁量的な財政政策とマクロ経済	乗数効果 財政政策の有効性
14	地方交付税と地域間所得再分配	地方交付税と国庫支出金の仕組み
15	まとめ	公共経済学と財政学
16		

科目コード	BCD01				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナール I (BC秋入学生用)				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	0.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

ゼミナール I（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

#### <授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識について自分の言葉で説明できる 2. リサーチ・リテラシーの基礎を身につける。

#### <授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有グループディスカッションやディベート、グループワークなどを積極的に活用する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度、それぞれ求める。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価（知識・理解）で70%

#### <教科書>

初回の授業で指示する。

#### <参考書>

適宜紹介する。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	初回の授業で提示する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	BCD01				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナール I (BC秋入学生用)				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	0.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

経済学・マネジメント・商学・マーケティングなどの分野から、卒業研究につながるテーマを絞り込みます。学生一人ひとりが関心を持って取り組めるよう、教員がサポートします。・文献研究や研究方法の基礎を学ぶ・ものの見方や考え方を広げる・グループ討議を通して意見を深める

#### <授業の到達目標>

・社会人に必要な一般教養と専門知識を身につける・自分のキャリアを考え、将来像を明確にする

#### <授業の方法>

前半・卒業研究の形態を決定する（論文／プロジェクト報告書／事業計画書）・ゼミの活動計画を立て、発表会を行う後半・発表をもとに議論や調査を深める・プロジェクト型の場合：市場調査・技術動向調査・業界分析などを行い、企画を立案。・論文型の場合：リサーチクエストの設定、文献レビュー、データ収集などを進める。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有：ディスカッション、グループワーク、反転授業、フィールドリサーチ

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・各回のテーマに沿ったレポート作成・課題・スピーチ準備・次回までに事前課題の予習・授業で扱った課題の整理・まとめ（予習・復習ともに1時間程度を想定）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP 2、DP 3、DP 4 と関連

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

#### <教科書>

・初回授業で決定する

#### <参考書>

適宜紹介する

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・初回授業で提示する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	BCD02				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(BC秋入学生用)				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	0.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

「ゼミナールⅠ」での活動を踏まえて、卒業研究を執筆するための個別指導を行う。どのようなテーマを、どのような方法で研究するのか、研究の結果からどのようなことがいえるのかについて検討する。その全体を文章としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身に付けさせることを目的とする。

#### <授業の到達目標>

ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを踏まえつつ、各自の研究テーマに取り組み、論文として仕上げるのが目標である。

#### <授業の方法>

4年前期： 3年次で企画した研究活動・事業行動、調査活動を深めていく。プロジェクト報告書、事業計画書の場合フィージビリティスタディ、プロトタイプ&リファイン活動、実際の起業やプロジェクト遂行などのアクションを重視する。論文の場合、通常の卒業論文執筆のために活動する。卒業研究履修者は、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。4年後期： (1) 卒業研究履修者 12,000字以上の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。グループディスカッション、グループワーク、発見学習、問題解決学習。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも1時間程度必要）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

積極的な演習参加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

#### <教科書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

#### <参考書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	BCD02				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(BC秋入学生用)				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	0.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

「ゼミナールⅠ」での活動を踏まえて、ゼミ論文を執筆するための個別指導を行う。どのようなテーマを、どのような方法で研究するのか、研究の結果からどのようなことがいえるのかについて検討する。その全体を文章としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身につけることを目的とする。

#### <授業の到達目標>

1.ゼミにおける学習を通じて社会人に求められる一般教養並びに専門教養の学力を身につける。2.各自の研究テーマに取り組み、論文として仕上げるができる。

#### <授業の方法>

3年次で企画した研究活動・事業行動、調査行動を深めていく。ゼミナール活動(研究)内容をゼミ論文として執筆する。ゼミ論文については、担当教員が評価を行う。各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有ディベート、グループワークを中心に行う。

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等を各演習で提示。毎回、次の演習までに事前課題に対する予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。(予習・復習とも1時間程度必要)

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4(地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。)と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

積極的な演習参加30%、進捗報告30%、発表・報告書40%で総合的に評価する。

#### <教科書>

初回の授業で提示する。

#### <参考書>

適宜紹介する。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	初回の授業で提示する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	13200				区 分	コア科目			
授業 科目名	キャリアディベロップメント [通年]PS用				担当者名	原田 悠平			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

### <授業の到達目標>

アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

### <授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理は-google-クラスルームやスプレッドシートにて行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有授業での学び活かして、課外での自身のアスリート / サイエンティストとしての活動を通して学習していく。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，最終課題レポート（最終課題，発表）40%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム

15	目標に向けた自主的なトレーニング③	/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。 課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
16	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
28	目標に向けた自主的なトレーニング⑦	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
29	目標に向けた自主的なトレーニング⑧	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
30		

科目コード	14101				区 分	コア科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]PS用				担当者名	田中 耕作			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

### <授業の到達目標>

アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

### <授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理は-google-クラスルームやスプレッドシートにて行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有授業での学び活かして、課外での自身のアスリート / サイエンティストとしての活動を通して学習していく。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，最終課題レポート（最終課題，発表）40%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム

15	目標に向けた自主的なトレーニング③	/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。 課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
16	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
28	目標に向けた自主的なトレーニング⑦	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
29	目標に向けた自主的なトレーニング⑧	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
30		

科目コード	14101				区 分	コア科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]PS用				担当者名	保科 圭汰			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

### <授業の到達目標>

アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

### <授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理は-google-クラスルームやスプレッドシートにて行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有授業での学び活かして、課外での自身のアスリート / サイエンティストとしての活動を通して学習していく。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，最終課題レポート（最終課題，発表）40%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム

15	目標に向けた自主的なトレーニング③	/レース、栄養、リカバリー、メンタル) に取り組む。 課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル) に取り組む。
16	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル) に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル) に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル) に取り組む。
28	目標に向けた自主的なトレーニング⑦	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル) に取り組む。
29	目標に向けた自主的なトレーニング⑧	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル) に取り組む。
30		

科目コード	14101				区 分	コア科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]PS用				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

### <授業の到達目標>

アスリート / サイエнтиストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

### <授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理は-google-クラスルームやスプレッドシートにて行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有授業での学び活かして、課外での自身のアスリート / サイエнтиストとしての活動を通して学習していく。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，最終課題レポート（最終課題，発表）40%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム

15	目標に向けた自主的なトレーニング③	/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。 課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
16	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
28	目標に向けた自主的なトレーニング⑦	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
29	目標に向けた自主的なトレーニング⑧	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
30		

科目コード	14101				区 分	コア科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]PS用				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

### <授業の到達目標>

アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

### <授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理は-google-クラスルームやスプレッドシートにて行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有授業での学び活かして、課外での自身のアスリート / サイエンティストとしての活動を通して学習していく。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，最終課題レポート（最終課題，発表）40%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム

15	目標に向けた自主的なトレーニング③	/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。 課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
16	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
28	目標に向けた自主的なトレーニング⑦	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
29	目標に向けた自主的なトレーニング⑧	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
30		

科目コード	14101				区 分	コア科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]PS用				担当者名	原田 悠平			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

### <授業の到達目標>

アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

### <授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理は-google-クラスルームやスプレッドシートにて行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有授業での学び活かして、課外での自身のアスリート / サイエンティストとしての活動を通して学習していく。

### <準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，最終課題レポート （最終課題，発表） 40%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム

15	目標に向けた自主的なトレーニング③	/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。 課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
16	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
28	目標に向けた自主的なトレーニング⑦	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
29	目標に向けた自主的なトレーニング⑧	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
30		

科目コード	14101				区 分	コア科目			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]PS用				担当者名	秦 啓一郎			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

### <授業の到達目標>

アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

### <授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理は-google-クラスルームやスプレッドシートにて行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有授業での学び活かして、課外での自身のアスリート / サイエンティストとしての活動を通して学習していく。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，最終課題レポート （最終課題，発表）40%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム

15	目標に向けた自主的なトレーニング③	/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。 課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
16	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
28	目標に向けた自主的なトレーニング⑦	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
29	目標に向けた自主的なトレーニング⑧	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
30		

科目コード	20305				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	次世代教育学 [FE + 他学科小学校免許希望者]				担当者名	畠中 要輔／中安 翼／大野呂 浩志／小川 智勢子／羽田 あずさ／渡邊 亮／竹下 厚志／伊藤 仁美／小澤 尚子／中家 淳悟			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、時代が求める、次世代の教育を担う「教師」育成のために、学校教育の現代的課題にも焦点を当て学校教育の目的、内容、方法及び教師に関わる基本的問題について考察し、授業を実践します。また教育だけでなく、様々な分野の「次世代」に取り組む方々からヒントをもらい、次世代の教育について考察し、授業作りに落とし込みます。

### <授業の到達目標>

次世代の教育を担う「教師」に必要な要素を身につける中で、次世代の児童に必要な要素は何なのかを意識し、現代的教育課題等に対する探究心や学び続ける意識も常に持ち、主体的に考え、解決しようとする態度を身につけることを目的とします。

### <授業の方法>

講義内においてレポートを作成し提出する事。授業形態は、講義形式だけでなく適宜グループワークやICT機器を活用したプレゼンテーション等の様々な形式を取り入れた授業を行います。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

講義に対して、グループで自分たちの考えをまとめ、発表します。またグループでの授業作りを行い、授業を実践します。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・教育に関するプレゼンテーションの準備：1～2時間程度・グループでの発表の打ち合わせ：1時間程度・発表後の振り返りと修正：1時間程度

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義・演習に臨む意欲・姿勢・態度30%、発表資料・課題50%、最終レポート20%により判断※意欲・姿勢・態度については教員、社会人にとって求められる決定的な資質・能力ですので、各自の意欲・姿勢・態度を出欠と講義と演習中における姿勢を重視して評価します。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に大きな影響を及ぼします。出席の管理は担当教員が行います。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	次世代教育学で学ぶ事	授業の概要について
2	次世代教育学を考える1	現代の教育に必要な事とは何か考える
3	次世代教育学を考える2	考えた内容を発表
4	次世代教育学を考える3	自分たちの体験してきていない学校を見てみよう
5	次世代教育学を考える4	学んだことを振り返り、ディスカッション
6	次世代教育学を考える5	発表
7	次世代について学ぶ	講話
8	次世代について学ぶ2	ディスカッション
9	次世代について学ぶ3	講話
10	次世代について学ぶ4	ディスカッション
11	次世代について学ぶ5	発表
12	次世代について学ぶ6	講話
13	次世代について学ぶ7	ディスカッション
14	次世代について学ぶ8	発表
15	スクールフェスについて1	発表
16	スクールフェスについて2	授業を考える
17	スクールフェスについて3	学習指導案作り
18	スクールフェスについて4	プレゼンテーション
19	スクールフェスについて5	模擬授業1
20	スクールフェスについて6	模擬授業2
21	スクールフェスについて7	スクールフェス実施

22	まとめ	スクールフェス、授業の振り返り、まとめ
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30	まとめ	振り返り

科目コード	25206				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツ栄養学実習〔不開講〕				担当者名	保科 圭汰			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

スポーツ栄養学の知識を基に自身の食生活を適切に管理できるようになるための実践方法を学ぶ。また、脱水状態の把握や血糖値の変化など生理学的応答と栄養補給の関係を理解するとともに食事調査の手法を理解し栄養教育・栄養指導のスキルを習得する。

### <授業の到達目標>

本講義では、スポーツ現場において用いられる食事調査やコンディショニング把握に関する測定を実践し、科学的根拠に基づいた栄養サポートについて知る。また、献立の立案や栄養指導について学び、自身の競技に向けたコンディショニングのみならず、指導者としての知識・スキルを身につけることを目標とする。

### <授業の方法>

実習として授業テーマに基づいた測定やグループワーク等を行う。また、パソコンを用いて栄養指導媒体の作成やプレゼンテーションを実施する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素 有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として授業テーマに関連したキーワードについてインターネットや参考書等で調べ、理解を深めること。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べること。（2時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲 30%、課題提出 30%、最終レポート 40%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ栄養サポートの概念	スポーツ栄養学の概念、スポーツ栄養マネジメントとは
2	食事調査、食事記録の方法①	食事調査の意義、方法
3	食事調査、食事記録の方法②	食事調査の分析
4	エネルギー消費量の算定①	要因加算法を用いたエネルギー消費量の算定
5	エネルギー消費量の算定②	各種エネルギー消費量の算定方法の原理、加速度計法によるエネルギー消費量の算定
6	身体組成の計測と増量・減量①	身体組成の原理、インピーダンス法による測定
7	身体組成の計測と増量・減量②	皮下脂肪厚法による測定、増量・減量の計画
8	生化学データと食事①	尿検査データの解釈、脱水状態の把握
9	生化学データと食事②	貧血に関わる指標と食事
10	生化学データと食事③	血糖値の変化と補食の関係
11	献立の立案と栄養計算①	献立の計画方法
12	献立の立案と栄養計算②	競技別の献立作成
13	献立の立案と栄養計算③	競技別の献立作成（発表、見直し）
14	献立の立案と栄養計算④	生活環境別の献立作成
15	献立の立案と栄養計算⑤	生活環境別の献立作成（発表、見直し）
16	栄養教育の方法	栄養教育と行動科学
17	栄養指導の計画①	行動計画の考え方
18	栄養指導の計画②	集団教育と個人教育
19	ジュニアアスリートへの食育①	ジュニアアスリートに対する食育の計画立案
20	ジュニアアスリートへの食育②	栄養指導媒体の作成
21	ジュニアアスリートへの食育③	ジュニアアスリートを対象とした食育の実践
22	期分けに応じた栄養指導①	期分けに応じた栄養指導の計画立案
23	期分けに応じた栄養指導②	栄養指導媒体の作成

24	期分けに応じた栄養指導③	期分けに応じた栄養指導の実践
25	目的別の栄養指導①	目的別の栄養指導の計画立案
26	目的別の栄養指導②	栄養指導媒体の作成
27	目的別の栄養指導③	目的別の栄養指導の実践
28	補食の立案	運動後に適した補食の立案
29	補食の作成	立案した補食の作成
30		

科目コード	27100				区 分	コア科目			
授業科目名	解剖学Ⅰ [再履修用]				担当者名	古山 喜一			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

スポーツ医科学、柔道整復学習得のためには解剖学の知識が必須である。解剖学では人体を構成する骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官の正常構造について系統的に学習する。また人体が、この10種類の器官系が立体的に配置することによって形成されていることを学習する。

### <授業の到達目標>

1) 内分泌系では 下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎などの形態が説明できるようになる。2) 感覚器系では 視覚器、平衡聴覚器、嗅覚器、味覚器、皮膚の形態が説明できるようになる。3) 神経系では 中枢神経（大脳、間脳、中脳、小脳、橋、延髄）と末梢神経（自律神経、脳神経、脊髄神経）の形態が説明できるようになる。4) 骨格系では、骨の部分名称、筋の起始停止支配神経運動作用全てが説明できるようになる。

### <授業の方法>

教科書に沿ったパワーポイントを使用して講義する。（教科書の各項目については、講義の進行上部分的に入れ替えることがある。）適時プリントを配布して教科書を補完する。重要な学習項目については随時学生を指名し発表討論形式で説明させる。講義終了時にその日の授業内容全般を整理するために全員に試験形式で問題を解答させる。Google Suites, Kahoot, Flipgridなどのシステムを用いて反転授業、クイズ、課題の提出を行うので、各自インターネット接続可能な端末を用意すること。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ学習により双方向で理解度を確認する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業計画に示す講義予定範囲を教科書で予習してくること。（1時間）講義で習った事項をその日のうちに、教科書、プリントで復習する。またすでに学習した知識と有機的に関連付けて整理しておくこと。（1時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP2 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲30%・評価試験70%

### <教科書>

岸 清・石塚 寛 編 解剖学 医歯薬出版  
坂井建夫・橋本尚詞 ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版

### <参考書>

坂井建夫・大谷 修 著 プロメテウス解剖学アトラス（解剖学総論・運動器系） 医学書院  
自習用に以下のアプリを推薦します。Human Anatomy Atlas 2021 <a href="https://apps.apple.com/app/id1117998129" target="\_blank">https://apps.apple.com/app/id1117998129</a> 解剖学的構造と生理学 Anatomy & Physiology<a href="https://apps.apple.com/app/id920133658" target="\_blank">https://a</a>  
松村 譲児 （2021年4月19日） イラスト解剖学 中外医学社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	内分泌系1 骨格系総論	下垂体筋の形態・作用・補助装置
2	内分泌系2 骨格筋総論 1	下垂体ホルモン・松果体筋の形態・作用
3	内分泌系3 骨格筋総論 2	甲状腺上体 副腎など筋の形態・作用・補助装置
4	内分泌系4まとめ 1	脾臓1から3回のまとめ
5	内分泌系5頭部の筋	下小体 松果体顔面筋・咀嚼筋
6	内分泌系6頭部の筋	精巣・卵巣広頸筋・胸鎖乳突筋等
7	中枢神経1胸部の筋	神経系概要大胸筋・小胸筋・肋間筋等
8	中枢神経2まとめ 2	神経組織（神経細胞・支持細胞）5～7回目のまとめ
9	中枢神経3腹部の筋	脳室系・髄膜・脳脊髄液腹直筋・内外腹斜筋等
10	中枢神経4上肢帯の筋	大脳・大脳皮質・大脳白質・大脳核上肢帯の筋
11	中枢神経5上肢の筋	間脳・中脳上肢の筋
12	中枢神経6まとめ 3	橋、延髄 脳9から11回目のまとめ
13	中枢神経7下肢帯の筋	脊椎・上向き伝導路下肢帯の筋
14	中枢神経8 下肢の筋	視覚・聴覚・下向き伝導路下肢の筋
15	末梢神経1 まとめ 4	脳神経113. 14回目のまとめ
16	末梢神経2	脳神経2

17	末梢神経 3	脊髄神経の構造
18	末梢神経 4	頸神経叢・腕神経叢
19	末梢神経 5	腰神経叢
20	末梢神経 6	仙骨神経叢・デルマトーム
21	末梢神経 7	自律神経（交感神経）
22	末梢神経 8	自律神経（副交感神経）
23	感覚器 1	外皮・皮膚
24	感覚器 2	視覚器・眼球
25	感覚器 3	聴覚器
26	感覚器 4	平衡器
27	感覚器 5	嗅覚器
28	感覚器 6	味覚器
29	まとめ 1	神経系（まとめ）
30		

科目コード	32420				区 分	コア科目			
授業科目名	音楽表現指導理論・実習 I (基礎)				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業においては音楽表現、身体表現、集団表現など複合的な芸術表現要素を併せ持つマーチングを取り扱い、子どもの豊かな表現力の助けとなる音楽表現指導理論を身につける。総合芸術と位置付けられているマーチングの理解を深め、基本技術、基本動作、マーチングの起源や歴史、理論を学び、実習で実技技能を身につけ指導理論の基礎を学ぶ。

### <授業の到達目標>

マーチングの基本的な知識や動作、各楽器の起源や歴史、取り扱い方を習得する。

### <授業の方法>

・実技を中心に展開する・グループワーク（効果的な練習方法の提案）・フィールドワーク（練習方法の実践）・討論（練習効果の検証）・まとめ（練習方法を生かした作品作り）・Google Classroomをプラットフォームとして活用する

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

マーチングの基本技術を用いた発表をすることによりアクティブラーニングの要素とする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回授業のテーマについての事前学習（毎回30分程度）復習：課題解決への取り組み（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度、貢献度 30%、実技技能達成度 70%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の心構えと評価方法履修にあたっての諸注意
2	マーチングの歴史（1）	西洋音楽史
3	マーチングの歴史（2）	マーチングの起源と歴史
4	管楽器の基礎知識（1）	管楽器の起源と歴史
5	管楽器の基礎知識（2）	管楽器の構造、取り扱い方
6	打楽器の基礎知識（1）	打楽器の起源と歴史
7	打楽器の基礎知識（2）	打楽器の構造、取り扱い方
8	カラーガードの基礎知識（1）	カラーガードの起源と歴史
9	カラーガードの基礎知識（2）	カラーガードの手具の構造、取り扱い方
10	管楽器の基本技術（1）	トランペットの基本技術について学ぶ
11	管楽器の基本技術（2）	メロフォンについて学ぶ
12	管楽器の基本技術（3）	バリトンについて学ぶ
13	管楽器の基本技術（4）	ユーフォニアムについて学ぶ
14	管楽器の基本技術（5）	チューバについて学ぶ
15	打楽器の基本技術（1）	スネアドラムについて学ぶ
16	打楽器の基本技術（2）	テナードラムについて学ぶ
17	打楽器の基本技術（3）	バスドラムについて学ぶ
18	打楽器の基本技術（4）	シンバルについて学ぶ
19	打楽器の基本技術（5）	鍵盤楽器について学ぶ
20	カラーガードの基本技術（1）	フラッグについて学ぶ
21	カラーガードの基本技術（2）	セーバーについて学ぶ
22	カラーガードの基本技術（3）	ライフルについて学ぶ
23	マーチングの基本動作（1）	立位姿勢について学ぶ
24	マーチングの基本動作（2）	楽器の構え方について学ぶ
25	マーチングの基本動作（3）	バイシクルステップ
26	マーチングの基本動作（4）	ストレートレグ
27	マーチングの基本動作（5）	フォワードマーチ
28	マーチングの基本動作（6）	バックフォワードマーチ

29	マーチングの基本動作（7）	スライド
30		

科目コード	32421				区 分	コア科目			
授業 科目名	音楽表現指導理論・実習Ⅱ(応用)				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本授業においては音楽表現、身体表現、集団表現など複合的な芸術表現要素を併せ持つマーチングを取り扱い、子どもの豊かな表現力の助けとなる音楽表現指導理論を身につける。音楽表現指導理論・実習Ⅰで学んだことから応用的な技術を身につけ、理論を学び、実習で実技技能を身につけ指導理論の応用形を身につけ様々な表現方法について学ぶ。

### <授業の到達目標>

マーチングの応用的な知識や動作、各楽器の応用的な技術・指導力を身につける。

### <授業の方法>

・実技を中心に展開する・グループワーク（効果的で応用的な練習方法の提案）・フィールドワーク（応用的な練習方法の実践）・討論（効果の検証）・まとめ（応用的な練習方法を生かした作品作り）・Google Classroomをプラットフォームとして活用する

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

マーチングの応用的な知識や動作、各楽器の応用的な技術を発表することにより、自己分析と他者評価の比較検討する。これらをアクティブラーニングの要素とする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回授業のテーマについての事前学習（毎回30分程度）復習：課題解決への取り組み（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度、貢献度 30%、実技技能達成度 70%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の心構えと評価方法履修にあたっての諸注意
2	管楽器の技術（1）	ブレスコントロール
3	管楽器の技術（2）	ロングトーン
4	管楽器の技術（3）	リップスラー
5	管楽器の技術（4）	タンギング（1）、シングルタンギング
6	管楽器の技術（5）	タンギング（2）、ダブルタンギング
7	管楽器の技術（6）	タンギング（3）、トリプルタンギング
8	打楽器の技術（1）	シングルストローク（トラディショナルグリップ）
9	打楽器の技術（2）	ダブルストローク（トラディショナルグリップ）
10	打楽器の技術（3）	トリプルストローク（トラディショナルグリップ）
11	打楽器の技術（4）	シングルストローク（マッチドッググリップ）
12	打楽器の技術（5）	ダブルストローク（マッチドッググリップ）
13	打楽器の技術（6）	トリプルストローク（マッチドッググリップ）
14	カラーガードの技術（1）	スピン（フラッグ）
15	カラーガードの技術（2）	トス（フラッグ）
16	カラーガードの技術（3）	コンビネーション（フラッグ）
17	カラーガードの技術（4）	スピン（セーバー）
18	カラーガードの技術（5）	トス（セーバー）
19	カラーガードの技術（6）	コンビネーション（セーバー）
20	カラーガードの技術（7）	スピン（ライフル）
21	カラーガードの技術（8）	トス（ライフル）
22	カラーガードの技術（9）	コンビネーション（ライフル）
23	マーチングの動作（1）	ラインでの動作
24	マーチングの動作（2）	ボックスでの動作
25	マーチングの動作（3）	フォロワーリーダーでの動作
26	マーチングの動作（4）	ローテーションでの動作
27	マーチングの動作（5）	ジャズウォーク

28	マーチングの動作（6）	ジャズラン
29	マーチングの動作（7）	コンビネーション
30		

科目コード	32422				区 分	コア科目			
授業科目名	音楽表現指導理論・実習Ⅲ(発展)				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本授業においては音楽表現、身体表現、集団表現など複合的な芸術表現要素を併せ持つマーチングを取り扱い、子どもの豊かな表現力の助けとなる音楽表現指導理論を身につける。音楽表現指導理論・実習Ⅱで学んだことから発展させた技術を身につけ、理論を学び、実習で実技技能を身につけ指導理論の発展形を身につけ様々な表現方法について発展的なアプローチを学ぶ。

#### <授業の到達目標>

マーチングの応用を発展させた知識や動作、各楽器の発展的な技術・指導力を身につける。

#### <授業の方法>

・実技を中心に展開する・グループワーク（応用を発展させた効果的な練習方法の提案）・フィールドワーク（発展的な練習方法の実践）・討論（効果の検証）・まとめ（発展的な練習方法を生かした作品作り）・Google Classroomをプラットフォームとして活用する

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

マーチングの発展的な知識や動作、各楽器の発展的な技術を発表することにより、自己分析と他者評価の比較検討これらを討論することで作品作りに生かし作品制作をする。これらをアクティブラーニングの要素とする。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回授業のテーマについての事前学習（毎回30分程度）復習：課題解決への取り組み（毎回30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度、貢献度 30%、実技技能達成度 70%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の心構えと評価方法履修にあたっての諸注意
2	管楽器の演奏表現技術（1）	楽曲を用いた演奏表現技術（スローテンポ）
3	管楽器の演奏表現技術（2）	楽曲を用いた演奏表現技術（ミドルテンポ）
4	管楽器の演奏表現技術（3）	楽曲を用いた演奏表現技術（ハイテンポ）
5	管楽器の演奏表現技術（4）	楽曲を用いた演奏表現技術（4分の4拍子）
6	管楽器の演奏表現技術（5）	楽曲を用いた演奏表現技術（4分の3拍子）
7	管楽器の演奏表現技術（6）	楽曲を用いた演奏表現技術（8分の6拍子）
8	打楽器の演奏表現技術（1）	楽曲を用いた演奏表現技術（スネアドラム）
9	打楽器の演奏表現技術（2）	楽曲を用いた演奏表現技術（テナードラム）
10	打楽器の演奏表現技術（3）	楽曲を用いた演奏表現技術（バスドラム）
11	打楽器の演奏表現技術（4）	楽曲を用いた演奏表現技術（マリンバ）
12	打楽器の演奏表現技術（5）	楽曲を用いた演奏表現技術（ビブラフォン）
13	打楽器の演奏表現技術（6）	楽曲を用いた演奏表現技術（ドラムセット）
14	カラーガードの演技表現技術（1）	フラッグを使った演技表現技術（スローテンポ）
15	カラーガードの演技表現技術（2）	フラッグを使った演技表現技術（ミドルテンポ）
16	カラーガードの演技表現技術（3）	フラッグを使った演技表現技術（ハイテンポ）
17	カラーガードの演技表現技術（4）	セーバーを使った演技表現技術（スローテンポ）
18	カラーガードの演技表現技術（5）	セーバーを使った演技表現技術（ミドルテンポ）
19	カラーガードの演技表現技術（6）	セーバーを使った演技表現技術（ハイテンポ）
20	カラーガードの演技表現技術（7）	ライフルを使った演技表現技術（スローテンポ）
21	カラーガードの演技表現技術（8）	ライフルを使った演技表現技術（ミドルテンポ）
22	カラーガードの演技表現技術（9）	ライフルを使った演技表現技術（ハイテンポ）
23	マーチングの動作表現技術（1）	ドリルの中での演技表現技術（スローテンポ）
24	マーチングの動作表現技術（2）	ドリルの中での演技表現技術（ミドルテンポ）
25	マーチングの動作表現技術（3）	ドリルの中での演技表現技術（ハイテンポ）
26	マーチングの動作表現技術（4）	ドリルの中での演技表現技術（ホーンムーブ）

27	マーチングの動作表現技術（５）	ドリルの中での演技表現技術（ボディーワーク）
28	マーチングの動作表現技術（６）	ドリルの中での演技表現技術（キャラクター）
29	マーチングの動作表現技術（７）	ドリルの中での演技表現技術（コンビネーション）
30	まとめ	振り返り

科目コード	32423				区 分	コア			
授業 科目名	音楽表現指導理論・実習Ⅳ(実践)				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本授業においては音楽表現、身体表現、集団表現など複合的な芸術表現要素を併せ持つマーチングを取り扱い、子どもの豊かな表現力の助けとなる音楽表現指導理論を身につける。音楽表現指導理論・実習Ⅰ～Ⅲで学んだことを実践し、マーチングや様々な音楽表現において指導する際に教材として使用出来る楽曲や作品を制作する能力を身につける。

#### <授業の到達目標>

音楽表現指導の際、教材として実際に使用できる楽曲や作品制作をする技術、技能を身につける。

#### <授業の方法>

・実技を中心に展開する・グループワーク（発展で学んだことを実践させ楽曲や作品制作の構想）・フィールドワーク（楽曲や作品制作の実践）・討論（効果の検証）・まとめ（楽曲や作品制作の講評）・Google Classroomをプラットフォームとして活用する

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

マーチングの実践的な知識や動作、各楽器の実践的な技術を発表することにより、大会に出場できるレベルの実践的な作品制作をする。これらをアクティブラーニングの要素とする。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回授業のテーマについての事前学習（毎回30分程度）復習：課題解決への取り組み（毎回30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度、貢献度 30、%実技技能達成度 70%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の心構えと評価方法履修にあたっての諸注意
2	管楽器の楽曲制作（1）	記譜法について
3	管楽器の楽曲制作（2）	調号について
4	管楽器の楽曲制作（3）	コードネームについて
5	管楽器の楽曲制作（4）	コード進行について
6	管楽器の楽曲制作（5）	楽曲アレンジ（基礎）
7	管楽器の楽曲制作（6）	楽曲アレンジ（応用）
8	打楽器の楽曲制作（1）	打楽器の記譜法（基礎）
9	打楽器の楽曲制作（2）	打楽器の記譜法（応用）
10	打楽器の楽曲制作（3）	打楽器の特性の理解（音域）
11	打楽器の楽曲制作（4）	打楽器の効果（音楽効果）
12	打楽器の楽曲制作（5）	楽曲アレンジ（打楽器基礎）
13	打楽器の楽曲制作（6）	楽曲アレンジ（打楽器応用）
14	カラーガードのコレオグラフ（1）	フラッグを使った振付（スローテンポ）
15	カラーガードのコレオグラフ（2）	フラッグを使った振付（ミドルテンポ）
16	カラーガードのコレオグラフ（3）	フラッグを使った振付（ハイテンポ）
17	カラーガードのコレオグラフ（4）	セーバーを使った振付（スローテンポ）
18	カラーガードのコレオグラフ（5）	セーバーを使った振付（ミドルテンポ）
19	カラーガードのコレオグラフ（6）	セーバーを使った振付（ハイテンポ）
20	カラーガードのコレオグラフ（7）	ライフルを使った振付（スローテンポ）
21	カラーガードのコレオグラフ（8）	ライフルを使った振付（ミドルテンポ）
22	カラーガードのコレオグラフ（9）	ライフルを使った振付（ハイテンポ）
23	マーチングの作品制作（1）	ドリルデザイン（パレードイング）
24	マーチングの作品制作（2）	ドリルデザイン（ボックスを使ったデザイン）
25	マーチングの作品制作（3）	ドリルデザイン（ラインコンビネーション）
26	マーチングの作品制作（4）	ドリルデザイン（フォロワーリーダーパターン）
27	マーチングの作品制作（5）	ドリルデザイン（モーフィング）

28	マーチングの作品制作（6）	ドリルデザイン（ステージング）
29	マーチングの作品制作（7）	ドリルデザイン（ジェネラルエフェクト）
30	まとめ	振り返り

科目コード	36304				区 分	コア科目			
授業科目名	体力学実習				担当者名	田中 耕作			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本実習は、各種体力・形態の測定方法を実際に体験しながら学ぶ科目である。また、測定結果を分析・評価し、分かりやすくコーチ・選手に伝える方法、測定結果をトレーニングに活かす方法を学ぶことを目的とする。

#### <授業の到達目標>

1) 各種体力・形態を測定することができる2) 測定結果を分析・評価し、分かりやすくコーチ・選手に伝えることができる3) 測定結果をトレーニングに活かすことができる

#### <授業の方法>

実習

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素：あり自身が測定したの体力データについてグループでディスカッションを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

オンデマンド教材による予習をした上で実習に臨み、実習後には所定のレポートを提出すること

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業レポート70%、総合レポート30%

#### <教科書>

#### <参考書>

西 蘭 秀嗣（2004年4月） スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法 大修館書店

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	体力学とは
2	体力測定の歴史（1）ラボテスト	実験室における各種体力測定の歴史を学ぶ
3	体力測定の歴史（2）フィールドテスト	フィールドにおける各種体力測定の歴史を学ぶ
4	形態の計測法	マルチン式人体計測法、ボディラインスキャナによる計測法
5	形態の評価	計測結果の理解と効果的なフィードバックの方法
6	体脂肪率・筋厚の測定法	皮脂厚法、空気置換法、超音波法による測定
7	体脂肪率・筋厚の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
8	最大挙上重量の測定法	1RMの測定法
9	最大挙上重量の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
10	等速性最大筋力の測定法	股関節、膝関節および足関節の測定
11	等速性最大筋力の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
12	ペダリングパワーの測定法	ハイパワー自転車エルゴメータによる下肢パワーの測定
13	ペダリングパワーの評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
14	各種競技動作の分析法	3次元動作解析システムを用いた各種競技動作の分析
15	各種競技動作の評価	分析結果の理解と効果的なフィードバックの方法
16	最大酸素摂取量の測定法（1）	トレッドミルを用いた最大酸素摂取量の測定
17	最大酸素摂取量の測定法（2）	自転車エルゴメータを用いた最大酸素摂取量の測定
18	最大酸素摂取量の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
19	ランニングエコノミーの測定法	最大下強度および超最大強度のランニングエコノミーの測定
20	ランニングエコノミーの評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
21	無酸素性作業閾値の測定法	呼吸ガスおよび乳酸を用いた無酸素性作業閾値の測定
22	無酸素性作業閾値の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
23	心拍数・心拍出量の測定法	心拍数およびインピーダンス法を用いた心拍出量の測定
24	心拍数・心拍出量の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
25	跳躍能力の測定法	マットスイッチシステムを用いた各種跳躍能力の測定
26	跳躍能力の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
27	疾走速度の測定法	レーザードップラー方式距離計測装置を用いた疾走速度の測定
28	疾走速度の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法

29	フィードバックプレゼンテーション (1)	作品の発表し、批評を受ける、感想を述べあう
30	まとめ	振り返り

科目コード	36610				区 分	コア科目			
授業科目名	ハイパフォーマンススポーツ演習Ⅰ				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

### <授業の到達目標>

アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

### <授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理は-google-クラスルームやスプレッドシートにて行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有授業での学び活かして、課外での自身のアスリート / サイエンティストとしての活動を通して学習していく。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，最終課題レポート （最終課題，発表）40%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。

14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
15	目標に向けた自主的なトレーニング③	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
16	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
28	目標に向けた自主的なトレーニング⑦	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
29	目標に向けた自主的なトレーニング⑧	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
30	まとめ	振り返り

科目コード	36611				区 分	コア科目			
授業科目名	ハイパフォーマンススポーツ演習Ⅱ				担当者名	保科 圭汰			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

### <授業の到達目標>

アスリート / サイエнтиストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

### <授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理は-google-クラスルームやスプレッドシートにて行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有授業での学び活かして、課外での自身のアスリート / サイエнтиストとしての活動を通して学習していく。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，最終課題レポート （最終課題，発表） 40%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。

14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
15	目標に向けた自主的なトレーニング③	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
16	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
28	目標に向けた自主的なトレーニング⑦	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
29	目標に向けた自主的なトレーニング⑧	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル)に取り組む。
30	まとめ	振り返り

科目コード	36614				区 分	コア科目			
授業科目名	競技スポーツパフォーマンス実習 I				担当者名	品田 直宏			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

競技スポーツパフォーマンス実習 I では、各々が専門とする競技の基本的な運動技能を高めるとともに、その効果的なトレーニング手段の理解と実践、指導法・研究法を学ぶことを目的とする。

#### <授業の到達目標>

自分の能力（基礎的体力、専門的体力、専門的スキル）を把握し、それに応じた目標や課題を設定し、合理的なトレーニングを実践できるようになること。

#### <授業の方法>

実技実習を中心に展開し、Google Classroomを用いて課題管理を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

実践的に身体を動かすことがある

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各々が専門とする競技に関して、参考書や資料などに目を通し、予備知識を得ておくことと理解し易い。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・取り組み60%、レポート 40%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	受講ガイダンス	受講上の注意、授業の進め方、評価について
2	コントロールテスト①	基礎的体力の評価（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）
3	コントロールテスト②	専門的体力の評価（走能力、跳能力など）
4	各競技における基礎的体力	各々が専門とする競技における基礎的体力について理解を深める
5	各競技における基礎的体力の養成①	各々が専門とする競技における基礎的体力を高めるトレーニング方法について、主に走動作に焦点をあて解説する
6	基礎的体力の養成②	各々が専門とする競技における基礎的体力を高めるトレーニング方法について、主に跳動作に焦点をあて解説する
7	基礎的体力の養成③	各々が専門とする競技における基礎的体力を高めるトレーニング方法について、主に投動作に焦点をあて解説する
8	基礎的体力の養成④	各々が専門とする競技における基礎体力を高めるためのサーキットトレーニング①の考案・実施
9	基礎的体力の養成⑤	各々が専門とする競技における基礎体力を高めるためのサーキットトレーニング②の考案・実施
10	各競技における専門的体力	各々が専門とする競技に必要とされる専門的体力について理解を深める
11	専門的体力の養成	各々が専門とする競技に必要とされる専門的体力を高めるトレーニング方法について理解を深める
12	専門的技術の養成	各々が専門とする競技に必要とされる専門的技術を高めるトレーニング方法について理解を深める
13	トレーニングメニューの立案	各々が専門とする競技におけるトレーニングメニューを立案する
14	競技会の振り返り①	各々が出場した競技会を振り返り、次戦に向けた課題を抽出する
15	専門競技の解説（発表）	各々が専門とする競技について、必要とされる基礎体力・専門的体力・技術について、またそれらを高めるためのトレーニング方法についてをまとめ解説する（発表）
16	前期の復習	前期学習内容の確認と復習
17	目標設定・トレーニング計画	各々が専門とする競技について、後期における最大目標を設定し、それに沿ったトレーニング計画を立案する
18	コントロールテスト③	基礎的体力の評価（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）
19	コントロールテスト④	専門的体力の評価（走能力、跳能力など）
20	コントロールテストの評価	各々のコントロールテスト結果を前期測定分・後期測定分間の比較を行う
21	専門的トレーニングの実施①	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する
22	専門的トレーニングの実施②	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する

23	専門的トレーニングの実施③	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する
24	専門的トレーニングの実施④	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する
25	鍛錬期のトレーニング計画の立案	各々が専門とする競技における鍛錬期（準備期）のトレーニング計画について立案する
26	レジスタンストレーニング①	各々が専門とする競技における筋力を高めることを目的としたレジスタンストレーニングを実施する
27	レジスタンストレーニング②	各々が専門とする競技におけるパワーを高めることを目的としたレジスタンストレーニングを実施する
28	競技会の振り返り②	各々が出場した競技会を振り返り、次戦に向けた課題を抽出する②
29	次年度計画の立案	各々が専門とする競技の次年度計画を立案し、それに沿ったトレーニング計画を立案する
30	まとめ	振り返り

科目コード	36615				区 分	コア科目			
授業科目名	競技スポーツパフォーマンス実習Ⅱ				担当者名	品田 直宏			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

競技スポーツパフォーマンス実習Ⅰでは、各々が専門とする競技の基本的な運動技能を高めるとともに、その効果的なトレーニング手段の理解と実践、指導法・研究法を学ぶことを目的とする。

#### <授業の到達目標>

自分の能力（基礎的体力、専門的体力、専門的スキル）を把握し、それに応じた目標や課題を設定し、合理的なトレーニングを実践できるようになること。

#### <授業の方法>

実技実習を中心に展開し、Google Classroomを用いて課題管理を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

実践的に身体を動かすことがある

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各々が専門とする競技に関して、参考書や資料などに目を通し、予備知識を得ておくことと理解し易い。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・取り組み60%、レポート 40%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	受講ガイダンス	受講上の注意、授業の進め方、評価について
2	コントロールテスト①	基礎的体力の評価（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）
3	コントロールテスト②	専門的体力の評価（走能力、跳能力など）
4	各競技における基礎的体力	各々が専門とする競技における基礎的体力について理解を深める
5	各競技における基礎的体力の養成①	各々が専門とする競技における基礎的体力を高めるトレーニング方法について、主に走動作に焦点をあて解説する
6	基礎的体力の養成②	各々が専門とする競技における基礎的体力を高めるトレーニング方法について、主に跳動作に焦点をあて解説する
7	基礎的体力の養成③	各々が専門とする競技における基礎的体力を高めるトレーニング方法について、主に投動作に焦点をあて解説する
8	基礎的体力の養成④	各々が専門とする競技における基礎体力を高めるためのサーキットトレーニング①の考案・実施
9	基礎的体力の養成⑤	各々が専門とする競技における基礎体力を高めるためのサーキットトレーニング②の考案・実施
10	各競技における専門的体力	各々が専門とする競技に必要とされる専門的体力について理解を深める
11	専門的体力の養成	各々が専門とする競技に必要とされる専門的体力を高めるトレーニング方法について理解を深める
12	専門的技術の養成	各々が専門とする競技に必要とされる専門的技術を高めるトレーニング方法について理解を深める
13	トレーニングメニューの立案	各々が専門とする競技におけるトレーニングメニューを立案する
14	競技会の振り返り①	各々が出場した競技会を振り返り、次戦に向けた課題を抽出する
15	専門競技の解説（発表）	各々が専門とする競技について、必要とされる基礎体力・専門的体力・技術について、またそれらを高めるためのトレーニング方法についてをまとめ解説する（発表）
16	前期の復習	前期学習内容の確認と復習
17	目標設定・トレーニング計画	各々が専門とする競技について、後期における最大目標を設定し、それに沿ったトレーニング計画を立案する
18	コントロールテスト③	基礎的体力の評価（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）
19	コントロールテスト④	専門的体力の評価（走能力、跳能力など）
20	コントロールテストの評価	各々のコントロールテスト結果を前期測定分・後期測定分間の比較を行う
21	専門的トレーニングの実施①	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する
22	専門的トレーニングの実施②	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する

23	専門的トレーニングの実施③	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する
24	専門的トレーニングの実施④	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する
25	鍛錬期のトレーニング計画の立案	各々が専門とする競技における鍛錬期（準備期）のトレーニング計画について立案する
26	レジスタンストレーニング①	各々が専門とする競技における筋力を高めることを目的としたレジスタンストレーニングを実施する
27	レジスタンストレーニング②	各々が専門とする競技におけるパワーを高めることを目的としたレジスタンストレーニングを実施する
28	競技会の振り返り②	各々が出場した競技会を振り返り、次戦に向けた課題を抽出する②
29	次年度計画の立案	各々が専門とする競技の次年度計画を立案し、それに沿ったトレーニング計画を立案する
30		

科目コード	3F101				区 分	コア科目			
授業 科目名	解剖学Ⅱ [再履修用]				担当者名	古山 喜一			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

スポーツ医科学、柔道整復学習得のためには解剖学の知識が必須である。解剖学では人体を構成する骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官の正常構造について系統的に学習する。また人体が、この10種類の器官系が立体的に配置することによって形成されていることを学習する。

### <授業の到達目標>

1) 内分泌系では 下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎などの形態が説明できるようになる。2) 感覚器系では 視覚器、平衡聴覚器、嗅覚器、味覚器、皮膚の形態が説明できるようになる。3) 神経系では 中枢神経（大脳、間脳、中脳、小脳、橋、延髄）と末梢神経（自律神経、脳神経、脊髄神経）の形態が説明できるようになる。4) 骨格系では、骨の部分名称、筋の起始停止支配神経運動作用全てが説明できるようになる。

### <授業の方法>

教科書に沿いパワーポイントを使用して講義する。（教科書の各項目については、講義の進行上部分的に入れ替えることがある。）適時プリントを配布して教科書を補完する。重要な学習項目については随時学生を指名し発表討論形式で説明させる。講義終了時にその日の授業内容全般を整理するために全員に試験形式で問題を解答させる。Google Suites, Kahoot, Flipgridなどのシステムを用いて反転授業、クイズ、課題の提出を行うので、各自インターネット接続可能な端末を用意すること。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ学習により双方向で理解度を確認する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業計画に示す講義予定範囲を教科書で予習してくること。（1時間）講義で習った事項をその日のうちに、教科書、プリントで復習する。またすでに学習した知識と有機的に関連付けて整理しておくこと。各講義の終わりに行うクイズを期限内に提出すること。（1時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP2 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲30％・評価試験70％

### <教科書>

岸 清・石塚 寛 編 解剖学 医歯薬出版

坂井建夫・橋本尚詞 ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版

### <参考書>

坂井建夫・大谷 修 著 プロメテウス解剖学アトラス（解剖学総論・運動器系） 医学書院

自習用に以下のアプリを推薦します。Human Anatomy Atlas 2021 <a href="https://apps.apple.com/app/id1117998129" target="\_blank">https://apps.apple.com/app/id1117998129</a> 解剖学的構造と生理学 Anatomy & Physiology<a href="https://apps.apple.com/app/id920133658" target="\_blank">https://a

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	内分泌系1 骨格系総論	下垂体筋の形態・作用・補助装置
2	内分泌系2 骨格筋総論 1	下垂体ホルモン・松果体筋の形態・作用
3	内分泌系3 骨格筋総論 2	甲状腺上体 副腎など筋の形態・作用・補助装置
4	内分泌系4まとめ 1	脾臓1から3回のまとめ
5	内分泌系5頭部の筋	下小体 松果体顔面筋・咀嚼筋
6	内分泌系6頭部の筋	精巣・卵巣広頸筋・胸鎖乳突筋等
7	中枢神経1胸部の筋	神経系概要大胸筋・小胸筋・肋間筋等
8	中枢神経2まとめ 2	神経組織（神経細胞・支持細胞）5～7回目のまとめ
9	中枢神経3腹部の筋	脳室系・髄膜・脳脊髄液腹直筋・内外腹斜筋等
10	中枢神経4上肢帯の筋	大脳・大脳皮質・大脳白質・大脳核上肢帯の筋
11	中枢神経5上肢の筋	間脳・中脳上肢の筋
12	中枢神経6まとめ 3	橋、延髄 脳9から11回目のまとめ
13	中枢神経7下肢帯の筋	脊椎・上向き伝導路下肢帯の筋
14	中枢神経8 下肢の筋	視覚・聴覚・下向き伝導路下肢の筋
15	末梢神経1 まとめ 4	脳神経113. 14回目のまとめ
16	末梢神経2	脳神経2

17	末梢神経 3	脊髄神経の構造
18	末梢神経 4	頸神経叢・腕神経叢
19	末梢神経 5	腰神経叢
20	末梢神経 6	仙骨神経叢・デルマトーム
21	末梢神経 7	自律神経（交感神経）
22	末梢神経 8	自律神経（副交感神経）
23	感覚器 1	外皮・皮膚
24	感覚器 2	視覚器・眼球
25	感覚器 3	聴覚器
26	感覚器 4	平衡器
27	感覚器 5	嗅覚器
28	感覚器 6	味覚器
29	まとめ 1	神経系（まとめ）
30		

科目コード	40115				区 分	コア科目			
授業科目名	整復学実技Ⅰ(包帯法Ⅰ)《連続》				担当者名	畑島 紀昭／福井 悠紀子			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

柔道整復師の技術として必要な包帯法の基礎を学びます。受講態度は柔道整復師としてふさわしいものを求めます。特に時間を守ることと正しい服装については学習意欲の表れとして評価します。

#### <授業の到達目標>

柔道整復師の技術として必要な基本包帯法に関する知識および技術の習得を目標とする。

#### <授業の方法>

実技の習得には反復することが求められ、授業内では実技の練習を繰り返し実施する。また、実技の習得確認のための試験を複数回実施する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生間で実技を実施・体験しながら双方の良い点・改善点を伝えながら実施する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書で次の講義で行う範囲を確認し各自で実際に行う。（毎回、1時間程度）復習：講義で行った実技を各自で復習し実施する。（毎回、2時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は健康科学科のディプロマポリシー2（柔道整復学及び健康科学、スポーツ医科学分野に必要な専門知識と技術を理解し、日々進歩する医療分野に対応できる能力を身に付ける。）と関連付けられています。柔道整復師としての実技基礎を学び、臨床現場に必要な技術の習得を通じて今後の学習の基礎を涵養する。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 10%、実技試験 90%

#### <教科書>

全国柔道整復学校協会 「包帯固定学」 南江堂  
 全国柔道整復学校協会 「柔道整復学・実技編」 南江堂  
 全国柔道整復学校協会 「柔道整復学・理論編」 南江堂

#### <参考書>

全国柔道整復学校協会 柔道整復師のための救急医学

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション-授業内容の説明-	授業内容を説明する。
2	オリエンテーション-成績評価の説明-	成績評価の方法を説明する。
3	基本包帯法練習①-包帯の種類-	包帯の種類を説明する。
4	基本包帯法練習①-包帯の扱い方-	包帯の扱い方を説明する。
5	基本包帯法練習②-環行帯-	環行帯の巻き方を説明する。
6	基本包帯法練習②-折転帯-	折転帯の巻き方を説明する。
7	基本包帯法練習③-前腕部環行帯-	前腕部における環行帯の巻き方を説明する。
8	基本包帯法練習③-前腕部折転帯-	前腕部における折転帯の巻き方を説明する。
9	基本包帯法練習④-亀甲帯-	亀甲帯の巻き方を説明する。
10	基本包帯法練習④-肘関節亀甲帯-	肘関節における亀甲帯の巻き方を説明する。
11	基本包帯法練習④-麦穂帯-	麦穂帯の巻き方を説明する。
12	基本包帯法練習④-手関節麦穂帯-	手関節における麦穂帯の巻き方を説明する。
13	基本包帯法練習⑤-前腕部下行-	前腕部環行帯と手関節麦穂帯の巻き方を説明する。
14	基本包帯法練習⑤-前腕部上行-	前腕部折転帯と肘関節亀甲帯の巻き方を説明する。
15	テーピング固定法（1）	足関節のテーピングについて説明する。
16	テーピング固定法（2）	足関節のテーピング固定法の基礎を学習する。
17	テーピング固定法（3）	足関節のテーピング固定法の応用を学習する。
18	部位別包帯法練習①-肩関節理論-	肩関節外傷の理論について説明する。
19	部位別包帯法練習①-肩関節実技-	肩関節外傷の包帯法について説明する。
20	部位別包帯法練習②-肘関節理論-	肘関節外傷の理論について説明する。
21	部位別包帯法練習②-肘関節実技-	肘関節外傷の包帯法について説明する。
22	部位別包帯法練習③-股関節・大腿部理論-	股関節・大腿部外傷の理論について説明する。

23	部位別包帯法練習③-股関節・大腿部実技 －	股関節・大腿部外傷の包帯法について説明する。
24	部位別包帯法練習④-下腿部・足関節理論 －	下腿部・足関節外傷の理論について説明する。
25	部位別包帯法練習④-下腿部・足関節実技 －	下腿部・足関節外傷の包帯法について説明する。
26	救急処置 総論	救急処置について学習する。
27	救急処置 柔道整復師ができること①	救急処置法について学習する。
28	救急処置 柔道整復師ができること②	救急処置法について学習する。
29	救急処置 柔道整復師ができること③	救急蘇生方について学習する。
30		

科目コード	40116				区 分	コア科目			
授業科目名	整復学実技Ⅱ(包帯法Ⅱ)《連続》				担当者名	畑島 紀昭／福井 悠紀子			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

### <授業の概要>

柔道整復師の技術として必要な包帯法の基礎を学びます。受講態度は柔道整復師としてふさわしいものを求めます。特に時間を守ることと正しい服装については学習意欲の表れとして評価します。

### <授業の到達目標>

柔道整復師の技術として必要な冠名包帯、固定材料に関する知識および技術の習得を目標とする。

### <授業の方法>

実技の習得には反復することが求められ、授業内では実技の練習を繰り返し実施する。また、実技の習得確認のための試験を複数回実施する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生間で実技を実施・体験しながら双方の良い点・改善点を伝えながら実施する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書で次の講義で行う範囲を確認し各自で実際に行う。（毎回、1時間程度）復習：講義で行った実技を各自で復習し実施する。（毎回、2時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は健康科学科のディプロマポリシー2（柔道整復学及び健康科学、スポーツ医科学分野に必要な専門知識と技術を理解し、日々進歩する医療分野に対応できる能力を身に付ける。）と関連付けられています。柔道整復師としての実技基礎を学び、臨床現場で必要な技術の習得を通じて今後の学習の基礎を涵養する。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、実技試験 70%

### <教科書>

全国柔道整復学校協会 「包帯固定学」 南江堂  
 全国柔道整復学校協会 「柔道整復学・実技編」 南江堂  
 全国柔道整復学校協会 「柔道整復学・理論編」 南江堂

### <参考書>

全国柔道整復学校協会 「柔道整復師のための救急医学」 南江堂

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション-授業内容の説明-	授業内容を説明する。
2	オリエンテーション-成績評価の説明-	成績評価の方法を説明する。
3	部位別包帯法練習①-上肢-	上肢の包帯法について説明する。
4	部位別包帯法練習①-下肢-	下肢の包帯法について説明する。
5	部位別包帯法練習②-手部・指部理論-	手部・指部外傷の理論について説明する。
6	部位別包帯法練習②-手部・指部実技-	手部・指部外傷の包帯法について説明する。
7	部位別包帯法練習③-足部・指部理論-	足部・指部外傷の理論について説明する。
8	部位別包帯法練習③-足部・指部実技-	足部・指部外傷の包帯法について説明する。
9	冠名包帯法練習①-ヴェルポー包帯法-	ヴェルポー包帯法の巻き方を説明する。
10	冠名包帯法練習①-ジュール包帯法-	ジュール包帯法の巻き方を説明する。
11	冠名包帯法練習②-デゾー包帯法-	デゾー包帯法の巻き方を説明する。
12	冠名包帯法練習②-ヴェルポー包帯法練習-	ヴェルポー包帯法の巻き方を練習する。
13	冠名包帯法練習③-ジュール包帯法練習-	ジュール包帯法の巻き方を練習する。
14	冠名包帯法練習③-デゾー包帯法練習-	デゾー包帯法の巻き方を練習する。
15	冠名包帯法まとめ（1）-ヴェルポー包帯法・ジュール包帯法-	ヴェルポー包帯法・ジュール包帯法の実技の総合学習をおこなう。
16	冠名包帯法まとめ（2）-デゾー包帯法-	デゾー包帯法の実技の総合学習を行う。
17	硬性材料を用いた固定法①-厚紙副子作成-	厚紙副子の作り方を説明する。
18	硬性材料を用いた固定法①-厚紙副子固定-	厚紙副子を用いた固定法を説明する。
19	硬性材料を用いた固定法②-すだれ副子作	すだれ副子の作り方を説明する。

20	成－ 硬性材料を用いた固定法②－すだれ副子固定－	すだれ副子を用いた固定法を説明する。
21	硬性材料を用いた固定法③－金属副子作成－	金属（クラーメル）副子の作り方を説明する。
22	硬性材料を用いた固定法③－金属副子固定－	金属（クラーメル）副子を用いた固定法を説明する。
23	硬性材料を用いた固定法④－アルミ副子作成－	アルミ副子（アルフェンス）の作り方を説明する。
24	硬性材料を用いた固定法④－アルミ副子固定－	アルミ副子（アルフェンス）を用いた固定法を説明する。
25	ギプスを用いた固定法①－ギプスの巻き方－	ギプスの巻き方を説明する。
26	ギプスを用いた固定法①－ギプス固定－	ギプスを用いた固定法を説明する。
27	キャストを用いた固定法①－キャストの巻き方－	キャストの巻き方を説明する。
28	キャストを用いた固定法①－キャスト固定－	キャストを用いた固定法を説明する。
29	包帯法まとめ（1）	授業内容の総合評価をおこなう。
30		

科目コード	40212				区 分	柔道整復実技科目			
授業科目名	整復学実技Ⅲ(上肢・固定法Ⅰ)《連続》				担当者名	福井 悠紀子／坂本 賢広			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

### <授業の概要>

柔道整復師の技術として必要な上肢の外傷に対する評価スキル・整復・固定法を学ぶ。臨床で通用する実技技術の修得を目指す。特に時間を守ることと正しい服装については学習意欲の表れとして評価する。

### <授業の到達目標>

柔道整復師の技術として必要な上肢の外傷に対する評価スキル・整復・固定法の修得を目標とする。

### <授業の方法>

整復学実技Ⅲ(上肢・固定法Ⅰ)は、ディプロマポリシー3 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。教科書を中心に授業を進め評価スキル・整復・固定法の実技を学習する。実技の修得には反復練習が求められ、授業内では繰り返し練習を実施する。実技の修得確認のため実技試験を複数回実施する。動画や資料については必要に応じてDropboxやGoogleクラスルームにて配信する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有(ディスカッション、ディベート、グループワークの方法) 5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書にて次の講義で行う範囲を確認し各自で実際に行う。また必要に応じて動画や資料を配信する。(毎回、1時間程度)

復習：講義で行った実技を各自で復習し実施する。(毎回、2時間程度)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3 (柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲10%・実技試験90%

### <教科書>

全国柔道整復学校協会 (2016) 「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 南江堂

全国柔道整復学校協会 (2017) 「包帯固定学 改訂第2版」 南江堂

全国柔道整復学校協会 (2022) 「柔道整復学・理論編 改訂第7版」 南江堂

### <参考書>

全国柔道整復学校協会 (2020) 施術の適応と医用画像の理解 南江堂

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業内容と成績評価方法を説明する。
2	上肢臨床検査法①	上肢可動域測定の測定方法の習得
3	上肢臨床検査法②	上肢可動域測定の測定方法の習得
4	上肢臨床検査法③	上肢徒手筋力テストの測定方法の習得
5	上肢臨床検査法④	上肢徒手筋力テストの測定方法の習得
6	上肢臨床検査法⑤	上肢画像所見 (X-P, CT, MRI) の見方の習得
7	上肢臨床検査法⑥	上肢画像所見 (X-P, CT, MRI) の見方の習得
8	上肢臨床検査法⑦	上肢腱反射の測定方法の習得
9	肩腱板損傷の診察	徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
10	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察	徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
11	肩鎖関節上方脱臼の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
12	肩鎖関節上方脱臼の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
13	肩鎖関節上方脱臼の固定	固定具作成、固定方法、固定前・後の確認
14	肩鎖関節上方脱臼の固定	固定方法、固定前・後の確認
15	肩関節烏口下脱臼の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
16	肩関節烏口下脱臼の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
17	肩関節烏口下脱臼の固定	固定具作成、固定方法、固定前・後の確認
18	肩関節烏口下脱臼の固定	固定方法、固定前・後の確認
19	肘関節後方脱臼脱臼の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
20	肘関節後方脱臼脱臼の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
21	肘関節後方脱臼の固定	固定具作成、固定方法、固定前・後の確認

22	肘関節後方脱臼の固定	固定方法、固定前・後の確認
23	まとめ①	上肢臨床検査法（関節可動域）の確認
24	まとめ②	上肢臨床検査法（関節可動域）の確認
25	まとめ③	上肢臨床検査法（徒手筋力テスト、画像の見方）の確認
26	まとめ④	上肢臨床検査法（徒手筋力テスト、腱反射）の確認
27	まとめ⑤	腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷の確認
28	まとめ⑥	肩鎖関節上方脱臼の確認
29	まとめ⑦	肩関節前方脱臼の確認
30		

科目コード	40213				区 分	専門基礎			
授業 科目名	整復学実技Ⅳ(上肢・固定法Ⅱ)《連続》				担当者名	坂本 賢広／福井 悠紀子			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

柔道整復師の技術として必要な上肢、肋骨の外傷に対する評価スキル・整復・固定法を学ぶ。臨床で通用する実技技術を修得を目指す。特に時間を守ることと正しい服装については学習意欲の表れとして評価する。

#### <授業の到達目標>

柔道整復師の技術として必要な上肢、肋骨の外傷に対する評価スキル・整復・固定法の修得を目標とする。

#### <授業の方法>

教科書を中心に授業を進め評価スキル・整復・固定法の実技を学習する。実技の修得には反復練習が求められ、授業内では繰り返し練習を実施する。実技の修得確認のため実技試験を複数回実施する。動画や資料については必要に応じてDropboxやGoogleクラスルームにて配信する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書で次の講義で行う範囲を確認し各自で実際に行う。また必要に応じて動画や資料を配信する。（毎回、1時間程度）

復習：講義で行った実技を各自で復習し実施する。（毎回、2時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲10%・実技試験90%

#### <教科書>

全国柔道整復学校協会（2022） 柔道整復学・理論編 改訂第7版 南江堂  
 全国柔道整復学校協会（2016） 柔道整復学・実技編 改訂第2版 南江堂  
 全国柔道整復学校協会（2017） 包帯固定学 改訂第2版 南江堂

#### <参考書>

目崎 登 「運動器疾患ワークブック」 医歯薬出版

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	肘内障の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
2	肘内障の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
3	示指PIP関節背側脱臼の固定	固定具作成、固定方法、固定前・後の確認
4	示指PIP関節背側脱臼の固定	固定方法、固定前・後の確認
5	第5中手骨頸部骨折の固定	固定具作成、固定方法、固定前・後の確認
6	第5中手骨頸部骨折の固定	固定方法、固定前・後の確認
7	肋骨骨折の固定	固定具作成、固定方法、固定前・後の確認
8	肋骨骨折の固定	固定方法、固定前・後の確認
9	定型的鎖骨骨折の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
10	定型的鎖骨骨折の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
11	定型的鎖骨骨折の固定	固定具作成、固定方法、固定前・後の確認
12	定型的鎖骨骨折の固定	固定方法、固定前・後の確認
13	上腕骨外科頸外転型骨折の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
14	上腕骨外科頸外転型骨折の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
15	上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折の固定	固定具作成、固定方法、固定前・後の確認
16	上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折の固定	固定方法、固定前・後の確認
17	コーレス骨折の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
18	コーレス骨折の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
19	コーレス骨折の固定	固定具作成、固定方法、固定前・後の確認
20	コーレス骨折の固定	固定方法、固定前・後の確認

21	まとめ①	肘内障の確認
22	まとめ②	示指PIP関節背側脱臼の確認
23	まとめ③	第5中手骨頸部骨折の確認
24	まとめ④	肋骨骨折の確認
25	まとめ⑤	定型的鎖骨骨折の確認①
26	まとめ⑥	定型的鎖骨骨折の確認②
27	まとめ⑦	上腕骨外科頸外転型骨折の確認
28	まとめ⑧	上腕骨骨幹部三角筋付着部の確認
29	まとめ⑨	コーレス骨折の確認①
30		

科目コード	40301				区 分	柔道整復学実技			
授業 科目名	整復学実技Ⅴ(下肢・固定法Ⅰ)《連続》				担当者名	平林 大輔／橋口 浩治			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	柔道整復師 養成施設必 修科目

#### <授業の概要>

固定とは一定期間患部をある肢位に保持し、運動を制限することにより、損傷組織を良好な治癒環境に導くものである。整復学実技Ⅴでは股関節、大腿骨、膝蓋骨の外傷（骨折、脱臼、軟部組織損傷）に対する病態把握の習熟、固定法や理学検査を中心に実技実習を行ない学修する。

#### <授業の到達目標>

1. 下肢に生じる外傷の病態把握の習得ができる。2. 症状に対する治療法の判断、処置方法、整復方法を理解し実施できる。

#### <授業の方法>

1. グループワーク（疾患に対する治療手法（整復動作、固定動作））2. 講義（教員による疾患概要、治療手法指導）3. ディスカッション（臨床実践例を通じた病態把握、治療指針の判断）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する講義の事前課題（実施する疾患に対する下調べ（毎回、30分程度））復習：実施した疾患や治療方法に関する確認試験（毎回、20分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験90%、学習意欲10%

#### <教科書>

全国柔道整復学校協会 柔道整復学・理論編 南江堂  
全国柔道整復学校協会 柔道整復学・実技編 南江堂

#### <参考書>

全国柔道整復学校協会 柔道整復学・包帯固定学 南江堂

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	講義の内容、評価方法、受講態度について
2	固定法	固定法に対する指導管理、固定の理解と指導について
3	下肢における評価（1）	関節可動域、下肢長について
4	下肢における評価（2）	MMT、代償運動について
5	下肢における評価（3）	ケーススタディによる評価方法（代償運動と動作分析）について
6	大腿骨頸部骨折（1）	大腿骨頸部骨折における概要および整復法について
7	大腿骨頸部骨折（2）	大腿骨頸部骨折における固定法（クラメル固定）について
8	股関節脱臼（1）	股関節脱臼における概要と整復法について
9	股関節脱臼（2）	股関節脱臼における固定法（クラメル固定）について
10	大腿骨骨幹部骨折（1）	大腿骨骨幹部骨折における概要と整復法について
11	大腿骨骨幹部骨折（2）	大腿骨骨幹部骨折における固定法について
12	膝蓋骨骨折	膝蓋骨骨折における概要と整復法について
13	膝蓋骨脱臼	膝蓋骨脱臼における概要と整復法について
14	膝蓋骨疾患の処置	膝蓋骨骨折および膝蓋骨脱臼における固定法について
15	下腿骨骨折（1）	下腿骨骨折における概要について
16	下腿骨骨折（2）	下腿骨骨折における整復法、固定法（クラメル固定）について
17	下腿骨骨折（3）	下腿骨骨折における整復法、固定法（ギプス固定）について
18	下肢外傷の応急処置（1）	下肢外傷の応急処置（救急搬送固定）
19	下肢外傷の応急処置（2）	下肢外傷の応急処置（循環、神経学的所見の確認）
20	下肢外傷における評価（1）	関節可動域訓練と可動域について
21	下肢外傷における評価（2）	アライメントとマルアライメントについて

22	下肢外傷における評価（3）	筋周径と運動療法について
23	ケーススタディ（股関節周囲の運動器疾患（1））	股関節周囲の運動器疾患に対する評価（画像評価）について
24	ケーススタディ（股関節周囲の運動器疾患（2））	股関節周囲の運動器疾患に対する評価（理学所見）と治療指針について
25	ケーススタディ（股関節周囲の運動器疾患（3））	股関節周囲の運動器疾患に対する評価（視診から鑑別疾患、対処法の指示）について
26	ケーススタディ（膝関節周囲の運動器疾患（1））	膝関節周囲の運動器疾患に対する評価（画像評価）について
27	ケーススタディ（膝関節周囲の運動器疾患（2））	膝関節周囲の運動器疾患に対する評価（理学所見）と治療指針について
28	ケーススタディ（膝関節周囲の運動器疾患（3））	膝関節周囲の運動器疾患に対する評価（視診から鑑別疾患、対処法の指示）について
29	総復習（1）	大腿骨頸部骨折、股関節脱臼、股関節周囲の評価、整復法について
30		

科目コード	40302				区 分	柔道整復実技			
授業科目名	整復学実技Ⅵ(下肢・固定法Ⅱ)《連続》				担当者名	橋口 浩治／平林 大輔			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	柔道整復師 養成施設必修科目

#### <授業の概要>

固定とは一定期間患部をある肢位に保持し、運動を制限することにより、損傷組織を良好な治癒環境に導くものである。整復学実技Ⅵでは大腿部、膝関節部、下腿部の外傷（軟部組織損傷）に対する病態把握の習熟、固定法や理学検査を中心に実技実習を行ない学修する。

#### <授業の到達目標>

1. 下肢に生じる外傷（軟部組織損傷）の病態把握の習得ができる。2. 症状に対する治療法の判断、処置方法を理解し実施できる。

#### <授業の方法>

1. グループワーク（疾患に対する治療手法（理学検査、固定動作））2. 講義（教員による疾患概要、所見手法指導）3. ディスカッション（臨床実践例を通じた病態把握、治療指針の判断）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク、ディスカッション、固定実技を通したお互いへのフィードバック

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する疾患に対する下調べ（毎回、30分程度）復習：実施した疾患や治療方法に関する確認試験（毎回、20分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）、ディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験（口頭試問・実技試験）60% 筆記試験20% 学習意欲20%

#### <教科書>

全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学・実技編第2版 南江堂

全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学・理論編第7版 南江堂

全国柔道整復学校協会監修 包帯固定学 南江堂

#### <参考書>

責任編集伊黒浩二（2015年7月22日） 柔道整復理論サブノート アルテミシア

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	下肢機能の評価	エコー画像観察装置による下肢の筋、腱、靱帯、脂肪体の描出
2	下肢機能の評価	下肢機能の評価に必要な筋、腱、靱帯、支配神経の確認
3	大腿部の評価固定実技	大腿四頭筋肉離れ、大腿部打撲の理論実技、理学検査
4	大腿部の評価固定実技	大腿四頭筋肉離れ、大腿部打撲の処置および固定法
5	大腿部の評価固定実技	ハムストリングス肉離れの理論実技、理学検査、処置、テーピング処置、固定法①
6	大腿部の評価固定実技	ハムストリングス肉離れの理論実技、理学検査、処置、テーピング処置、固定法②
7	大腿部の評価固定実技	ハムストリングス肉離れの理論実技、理学検査、処置、テーピング処置、固定法③
8	大腿部の評価固定実技	ハムストリングス肉離れの理論実技、理学検査、処置、テーピング処置、固定法④
9	膝部の整復固定実技	膝蓋骨骨折の理論実技
10	膝部の整復固定実技	膝蓋骨骨折の固定法
11	膝部の整復固定実技	膝蓋骨脱臼の理論実技
12	膝部の整復固定実技	膝蓋骨脱臼の固定法
13	膝部の整復固定実技	膝関節外傷における応急処置固定法（テーピング、包帯、クラーメル）1
14	膝部の整復固定実技	膝関節外傷における応急処置固定法（テーピング、包帯、クラーメル）2
15	膝部の整復固定実技	側副靱帯損傷の理論実技、理学検査、固定法①
16	膝部の整復固定実技	側副靱帯損傷の理論実技、理学検査、固定法②
17	膝部の整復固定実技	十字靱帯損傷の理論実技、理学検査、応急処置および予防に関して①
18	膝部の整復固定実技	十字靱帯損傷の理論実技、理学検査、応急処置および予防に関して②
19	膝部の整復固定実技	半月板損傷の理論実技、理学検査、応急処置①
20	膝部の整復固定実技	半月板損傷の理論実技、理学検査、応急処置②

21	下腿部の整復固定実技	下腿三頭筋損傷、アキレス腱損傷の理論実技、理学検査、固定法①
22	下腿部の整復固定実技	下腿三頭筋損傷、アキレス腱損傷の理論実技、理学検査、固定法②
23	足関節及び足部の整復固定実技	足関節・足部の靭帯損傷の理論実技、理学検査、画像観察、固定法①
24	足関節及び足部の整復固定実技	足関節・足部の靭帯損傷の理論実技、理学検査、画像観察、固定法②
25	足関節及び足部の整復固定実技	足関節・足部の靭帯損傷の理論実技、理学検査、画像観察、固定法③
26	足関節及び足部の整復固定実技	足関節・足部の靭帯損傷の理論実技、理学検査、画像観察、固定法④
27	まとめ1	総復習 1
28	まとめ2	総復習2
29	まとめ3	総復習3
30		

科目コード	53029				区 分	コア			
授業 科目名	アスレティックトレーナー実習Ⅴ				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

コンディショニングプログラムと救急対応を実践する。

#### <授業の到達目標>

評価からコンディショニングと救急対応を適切に実行できるようになることを目標とする。

#### <授業の方法>

スポーツ現場、コンディショニングルーム、トレーニングセンターにて実践形式の実習を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有実際の選手の評価を行い、コンディショニングと救急対応を行う。その後、選手の状態をグループ間で発表し、ディスカッションを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

アスレティックトレーナーとして総合的な能力が求められるため、授業前に各テキストを読むなど60～90分の準備を行う。また、授業後は復習およびレポート作成について60分以上行い、レポートを提出すること。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（授業への取り組み、毎回の復習レポート）50%、実技試験50%

#### <教科書>

公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第6巻 検査・測定と評価』（公財）日本スポーツ協会

公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第5巻 救急対応』（公財）日本スポーツ協会

公益財団法人日本スポーツ協会 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト『第3巻 コンディショニング』（公財）日本スポーツ協会

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コンディショニング実習	コンディショニングにむけた計画
2	コンディショニング実習	パフォーマンス向上に向けた各種測定と評価
3	コンディショニング実習 1	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ 1
4	コンディショニング実習 2	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ 2
5	コンディショニング実習 3	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ 3
6	コンディショニング実習 4	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ 4
7	コンディショニング実習 5	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ 5
8	コンディショニング実習 6	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ 6
9	コンディショニング実習 7	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ 7
10	コンディショニング実習 8	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ 8
11	コンディショニング実習 9	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ 9
12	コンディショニング実習 10	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ 11
13	コンディショニング実習 12	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ 12
14	コンディショニング実習 13	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ 13
15	コンディショニング実習まとめ	まとめ
16	救急対応実習 1	EPA作り
17	救急対応実習 2	救急対応評価
18	救急対応実習 3	救急対応と運搬
19	救急対応実習 4	BLS

20	救急対応実習 5	シミュレーション
21	救急対応実習 6	シミュレーション 2
22	救急対応実習 7	スポーツ現場での救急対応
23	救急対応実習 8	スポーツ現場での救急対応 2
24	救急対応実習 9	スポーツ現場での救急対応 3
25	救急対応実習 1 0	スポーツ現場での救急対応 4
26	救急対応実習 1 1	トレーニング場やトレーナールームでの救急対応
27	救急対応実習 1 2	トレーニング場やトレーナールームでの救急対応 2
28	救急対応実習 1 3	トレーニング場やトレーナールームでの救急対応 3
29	救急対応実習 1 4	トレーニング場やトレーナールームでの救急対応 4
30		

科目コード	53030				区 分	キャリア形成科目			
授業 科目名	整復臨床実習Ⅰ 《通年》				担当者名	簗戸 崇史			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

患者様と接する臨床実習が大学附属接骨院で開始されるが、その臨床実習を開始するにあたり過不足の無い内容を実習を通して学ぶ。その為には、安心・安全な医療を提供し、国民から必要とされている接骨院がどのような機能を果たせば良いのか、あるいは安価で質の良い医療を提供する為に我々にはどのような社会的基盤づくりが必要なのかといった柔道整復術に関わる方策問題に始まり、実際に患者様から痛みの原因を患者様の背景を含めて探り出す医療面接技法に到るまでを学習する。

#### <授業の到達目標>

患者に寄り添った施術を理解し、病態情報の的確な評価、後療法プログラムの立案、ゴール設定、管理ができるようになる。

#### <授業の方法>

接骨院実習、介護施設において少人数制のグループ単位を基本とし、実技・実習形態で行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

事前指導内における外部実習における立ち振る舞い、共通認識を図る取組において、各グループ内で話し合い、発表する取り組みを実施する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

症例（担当患者）・実習内容（実技・講義・討論）をふりかえり、「評価・後療法プログラム・ゴール設定。管理など」また、「何を学んだか、何を学べなかったのか」についてレポート（A4-1枚程度）を作成し、期日までにデータで担当教員にDropboxを用い送信する。（1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（30％）、実習レポート（70％）で評価する。

#### <教科書>

全国柔道整復学校協会・監修 運動学 医歯薬出版

#### <参考書>

ヘレン・J・ヒスロップ、ジャクリー・モンゴメリー 新・徒手筋力検査法 協同医書出版社

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	接骨院・介護実習・ガイダンス	実習内容の説明、事前指導（外部施設における接遇、接客の方法、高齢者とのコミュニケーション方法、実習に向けての心得）を実施する。
2	接骨院・介護施設実習	事前指導（外部施設における接遇、接客の方法、高齢者とのコミュニケーション方法、実習に向けての心得）を実施する。
3	接骨院・介護施設実習	事前指導（外部施設における接遇、接客の方法、高齢者とのコミュニケーション方法、実習に向けての心得）を実施する。
4	接骨院・介護施設実習	各介護施設での取り組み
5	接骨院・介護施設実習	各介護施設での取り組み
6	接骨院・介護施設実習	各介護施設での取り組み
7	接骨院・介護施設実習	各介護施設での取り組み
8	接骨院・介護施設実習	各介護施設での取り組み
9	接骨院・介護施設実習	各介護施設での取り組み
10	接骨院・介護施設実習	各介護施設での取り組み
11	接骨院・介護施設実習	各介護施設での取り組み
12	接骨院・介護施設実習	各介護施設での取り組み
13	接骨院・介護施設実習	各介護施設での取り組み
14	接骨院・介護施設実習	各介護施設での取り組み
15	接骨院・介護施設実習	各介護施設での取り組み
16	接骨院・介護施設実習	各介護施設での取り組み
17	接骨院・介護施設実習	各介護施設での取り組み

18	接骨院・介護施設実習	各介護施設での取り組み
19	接骨院・介護施設実習	各介護施設での取り組み
20	接骨院・介護施設実習	各介護施設での取り組み
21	接骨院・介護施設実習	各介護施設での取り組み
22	接骨院・介護施設実習	各介護施設での取り組み
23	接骨院・介護施設実習	各介護施設での取り組み
24	接骨院・介護施設実習	各介護施設での取り組み
25	接骨院・介護施設実習	各介護施設での取り組み
26	接骨院・介護施設実習	各介護施設での取り組み
27	接骨院・介護施設実習	各介護施設での取り組み
28	接骨院・介護施設実習	各介護施設での取り組み
29	接骨院・介護施設実習	各介護施設での取り組み
30		

科目コード	53031				区 分	キャリア形成科目			
授業 科目名	整復臨床実習Ⅱ 《通年》				担当者名	簀戸 崇史			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

附属臨床実習施設および臨地実習施設において患者施術の補助をする。また、掃除、洗濯、湿布作りなどの業務に付帯する各種業務も行う。柔道整復師に必要な教養や判断力、技術などの修得を目標とし総合的な臨床能力を養う。必要に応じて、ケーススタディー実習・附属臨床実習施設の患者情報を元に傷病は何であるか、さらに今後の施術方針などを検討する。ロールプレー実習・附属臨床実習施設の患者情報を元に、患者様入室から施術開始までの流れを 柔道整復師役、患者役に分けてそれぞれ実施することを行う。

#### <授業の到達目標>

柔道整復師として必要条件となる接骨院での評価、評価に基づく患者様への説明、施術の組み立てが出来る。整復・固定・施療とともに後療法をプログラミングし、リスクマネジメントが実行できる。

#### <授業の方法>

基本的に接骨院でのフィールドワークとするが、導入講義等は講義室・実技室を使用する。・白衣の乱れ、服装、頭髮、装飾品など患者様から見て不適切な印象を与えらる場合には実習の参加を認めないことがある。・また、実習中の態度が悪く患者様に迷惑をかける恐れがある場合は実習を中止することがある。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

各施設で外部実習の取り組みとなる為、積極性、主体性が主になる科目である。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

症例（担当患者）・実習内容（実技・講義・討論）をふりかえり、「評価・後療法プログラム・ゴール設定。管理など」また、「何を学んだか、何を学べなかったのか」についてレポート（A4-1枚程度）を作成し、期日までにデータで担当教員にDropboxを用い送信する。（1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習レポート70%および実習現場での受講態度・学習意欲30%で評価する。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	臨床実習のガイダンス
2	接骨院実習・柔道整復師の施術	業務範囲について
3	接骨院実習・施術所について	関係法規に記載されている施術所を理解
4	接骨院実習	臨床実習施設で実施
5	接骨院実習	臨床実習施設で実施
6	接骨院実習	臨床実習施設で実施
7	接骨院実習	臨床実習施設で実施
8	接骨院実習	臨床実習施設で実施
9	接骨院実習	臨床実習施設で実施
10	接骨院実習	臨床実習施設で実施
11	接骨院実習	臨床実習施設で実施
12	接骨院実習	臨床実習施設で実施
13	接骨院実習	臨床実習施設で実施
14	接骨院実習	臨床実習施設で実施
15	接骨院実習	臨床実習施設で実施
16	接骨院実習	臨床実習施設で実施
17	接骨院実習	臨床実習施設で実施
18	接骨院実習	臨床実習施設で実施
19	接骨院実習	臨床実習施設で実施
20	接骨院実習	臨床実習施設で実施

21	接骨院実習	臨床実習施設で実施
22	接骨院実習	臨床実習施設で実施
23	接骨院実習	臨床実習施設で実施
24	接骨院実習	臨床実習施設で実施
25	接骨院実習	臨床実習施設で実施
26	接骨院実習	臨床実習施設で実施
27	接骨院実習	臨床実習施設で実施
28	接骨院実習	臨床実習施設で実施
29	接骨院実習	臨床実習施設で実施
30		

科目コード	53043				区 分	コア			
授業科目名	特別講義Ⅱ [知的財産管理技能]				担当者名	赤木 邦江			
配当年次	3年	配当学期	通年（前期・後期）	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習（グループワーク・ペアワーク）	卒業要件	選択

### ＜授業の概要＞

「知的財産（知財）」とは、人間が生み出したアイデアやブランドなど「かたち（形）」はないけれども価値のあるものを指している。IoT、人工知能（AI）、ビッグデータなど技術革新の目覚ましい進展により、今、世界経済は第4次産業革命の真っ只中にあり、産業構造が大きく変容しつつある。また、人々の志向は「モノ消費」から「コト消費」へ、「所有・交換」から「共感・シェアリング」へと移りつつあり、ライフスタイルも大きく変化している。このような時代では、単に新しい製品やサービスを供給しても、世の中に広まることはない。人々の複

### ＜授業の到達目標＞

・「誰に」、「どのような価値を」、「どのように提供し」、「どのように利益を出して継続していくか」という、企業等の新たな競争力の源泉となる「ビジネスモデル」を支えるのが「知財マネジメント」である事を理解出来るようになる。・知的財産（知財）を管理（マネジメント）する技能（スキル）の習得レベルを測定・評価するものである国家試験「知的財産管理技能士」の3級取得をし、さらに学修を深め、2級の取得を目指す。

### ＜授業の方法＞

対面授業においては、「知的財産管理技能検定3級」公式ガイド及び問題集を、後期は前期の習熟度、成果により「知的財産管理技能検定2級」公式ガイド中心に進めていく。レジュメはクラスルームにアップするので、それぞれプリントアウトかダウンロードすること。

### ＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの実施：学修の基本となる「公式ガイド」の輪読及び試験前のグループでの輪読。過去問の解答はグループごとに取り組み発表する。知財に関する身近な事例をバズセッション。

### ＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

国家試験「知的財産管理技能士3級」の受験を目指す。留学生は検定合格のためにはN2相当が必要。受講後には、その範囲の理解の確認のため検定受験に備え、「知的財産管理技能士3級」の問題集に取り組むこと（1時間程度）。また毎回自宅学習用の過去問題プリントを配布するので、次回講義までに必ず解答しておくことが求められる（発表あり・1時間程度）。

### ＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

### ＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

「知的財産管理技能士3級」受験（7/13または11/16）の成果 50% ※受験しなかった者は、期末試験（知的財産管理技能士3級相当のテスト）の成果、授業への取り組み 25%、課題への取り組み 25%フィードバックは、検定受験後には模範回答の解説・自己採点、課題は次回授業内で解説。

### ＜教科書＞

知的財産教育協会 知的財産管理技能検定3級テキスト（改訂15版）株式会社アップロード 知的財産管理技能検定3級テキスト（改訂15版） 株式会社アップロード  
知的財産教育協会 知的財産管理技能検定3級厳選過去問題集 株式会社アップロード

### ＜参考書＞

### ＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス（講義の概要）授業の進め方、成績評価の基準「ビジネス実務マナー技能検定3級」について	「知的財産」とは 国家検定「知的財産管理技能検定3級」とは（学科・実技）
2	特許法・実用新案法①	特許法の目的と保護対象 特許要件 特許出願の手続き
3	特許法・実用新案法②	特許出願後の手続き 特許権の管理と活用 特許権の侵害と救済 実用新案法
4	意匠法	意匠法の保護対象と登録要件 意匠登録を受けるための手続き 意匠権の管理と活用 意匠権の侵害と救済
5	商標法①	商標法の保護対象と登録要件 商標登録を受けるための手続き
6	商標法②	商標権の管理と活用 商標権の侵害と救済

7	条約	パリ条約 特許協力条約 (PCT) その他の条約
8	著作権法①	著作兼法の目的と著作物 著作者 著作者人格法 著作 (財産) 権
9	第9回 著作権法②	著作権の制限 著作隣接権 著作権の侵害と救済
10	その他の知的財産に関する法律	不正競争防止法 民法 独占禁止法 種苗法 弁理士法
11	第11回 第51回 (7/13) 検定問題の検討	「知的財産管理技能検定3級」問題の解答・解説
12	国家検定「知的財産管理技能検定2級」とは	過去問題 (学科・実技) 知的財産と法律
13	特許・実用新案①	企業経営と特許の関係 特許法とは 発明とは 特許を受けるための要件 特許調査とパテントマップ
14	特許・実用新案②	特許を受けるために必要な書類 特許を受けることができる者 特許出願後の手続き等 拒絶理由通知への対応 拒絶査定・特許査定 外国に特許出願する場合 特許権の管理・維持
15	特許権の活用	特許権のライセンス 特許権の範囲 特許権の侵害 実用新案とは
16	意匠	意匠権とビジネス上のメリット 意匠登録を受けるための要件 意匠登録出願の手続 意匠権の管理と活用
17	商標①	商標権とビジネス上のメリット 商標登録を受けるための要件 商標の調査
18	商標②	商標登録出願の手続 商標権の管理と活用 他人の商標権への対応 外国での出願
19	著作権①	著作物性
20	著作権②	著作者とは 著作者の権利 著作者隣接権
21	著作権③	著作者の変動 著作物の利用 著作権侵害と救済 著作権の周辺にある権利
22	不正競争防止法・独占禁止法等①	契約の締結 契約に関するトラブル対応 産業財産権と不正競争防止法の関係
23	不正競争防止法・独占禁止法等②	トレードシークレット (営業秘密) 独占禁止法 種苗法
24	特許・実用新案①	過去問題への取組み・解説
25	特許・実用新案②	過去問題への取組み・解説
26	意匠・商標①	過去問題への取組み・解説
27	意匠・商標② 過去問題への取組み・解説	過去問題への取組み・解説
28	著作権・その他① 過去問題への取組み・解説	過去問題への取組み・解説
29	著作権・その他②	過去問題への取組み・解説
30		

科目コード	53044				区 分	コア			
授業科目名	特別演習Ⅰ 《通年》[WEBデザイン]				担当者名	三浦 佐代子			
配当年次	3年	配当学期	通年（前期・後期）	単位数	2.00単位	授業方法	講義、実技・グループワーク	卒業要件	選択

### ＜授業の概要＞

ウェブ業界初の国家資格「ウェブデザイン技能士」の取得を目指す。前期はウェブサイトを作成するための言語であるHTML・CSS、およびウェブサイトが表示される仕組みを理解する。また、アプリを使用しウェブサイト（ホームページ）制作を体験する。授業は「ウェブデザイン技能検定3級（実技）」合格を目標に進める。後期はいかなる業界でもDX推進著しい現代社会において、必要不可欠なインターネットの知識を含めウェブデザインに必要な知識を体系的に学び、「ウェブデザイン技能検定3級（学科）」合格を目標に授業を進める。また、検定（

### ＜授業の到達目標＞

講義及び準備学習により、ウェブデザイン技能の習得確認をするために、「ウェブデザイン技能検定3級（実技）」の受験（8月24日）合格を目標とする。さらに後期授業では「ウェブデザイン技能検定3級（学科）」の受験（11月30日）合格を目標にスキルアップを続け、国家資格「3級ウェブデザイン技能士」を目指す。また、検定と検定後のウェブサイト制作を通し、ウェブサイト制作する手順と制作スキルを身につける。

### ＜授業の方法＞

対面授業においては、「ウェブデザイン技能検定・ガイドブック」「ウェブデザイン技能検定・対策問題集」を中心に進めていく。検定後は実際にウェブサイト制作を行う。スライドはクラスルームにアップする。習熟度により変更の可能性あり。

### ＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの実施：問題を解き、グループごとに発表し解決する。

### ＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

Windowsパソコンが必須（検定試験はWindowsのみ実施）。＊Windowsパソコンを所有していない場合は、教務課の貸し出しを活用すること（500円/1回）。第1回授業より使用のため、パソコン持参必須（持参ない場合は出席扱い無し）。基本的なパソコン操作ができ、ウェブサイト（ホームページ）について関心があることが必要。また、留学生は検定合格のためにはN2相当が必要。国家検定3級受験を目標としているため、受講後には、その範囲の理解の確認のために、検定受験に備え過去問題集である「ウェブデザイン技能検定3級

### ＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

### ＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ウェブデザイン技能検定3級試験結果（実技・学科）、また検定未受験者は「ウェブデザイン技能検定3級（実技・学科）」と同等のまとめテスト結果60%、授業・課題への取り組み40%※フィードバックは、まとめテスト後には模範回答の解説。課題は授業内で解説。

### ＜教科書＞

内田祐生 ウェブデザイン技能検定3級ガイドブック 株式会社ウイネット

ウェブデザイン技能検定対策研究会内田祐生 ウェブデザイン技能検定3級対策問題集 株式会社ウイネット

### ＜参考書＞

### ＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス（講義の概要） HTMLとは	授業の進め方及び成績評価の方法、「ウェブデザイン技能検定」について。授業に必要な準備の説明。HTMLとは何か、Windowsパソコンに標準装備されているメモ帳を使って実際に書いてみる。パソコン必須。
2	ウェブサイトが表示される仕組みについて。ウェブサイト作成の手順。HTML・CSSとは。	ウェブサイトが表示される仕組みにやウェブサイト作成の手順を解説するHTML・CSSとは何か、メモ帳を使って実際に書いてみる授業に必要なソフトウェアのダウンロードなど準備をするパソコン必須
3	アプリを使用したウェブサイト制作	ウェブサイト制作アプリについて解説し、ウェブサイト制作の準備・作成していく。また、必要なソフトウェアのダウンロードなどを完成させ、第5回からの授業に備える。パソコン必須。
4	ウェブサイト制作	アプリで簡単なウェブサイト制作を完成させ、提出する（オンデマンド授業）。パソコン必須。
5	HTMLとは	HTMLについて解説する。その後、テキストエディタを使用して実際に書いて身につ

6	CSSとは	けていく。特に、検定に必要な内容を中心に解説、実践する。パソコン必須。 CSSについて解説する。その後、第5回で作成したHTMLに、CSSで修飾していく。パソコン必須。
7	HTML、CSS	学科を含め、検定で使うHTML、CSSを中心に解説・実践していく。パソコン必須。
8	実技問題6文書の構造化	「ウェブデザイン技能検定・ガイドブック」とスライドを中心に解説し、「ウェブデザイン技能検定3級対策問題集」をそれぞれで解き、グループワークを行う。過去問題を配布し、次回講義までに解いてくる。パソコン必須。
9	実技問題2リンクの設定	「ウェブデザイン技能検定・ガイドブック」とスライドを中心に解説し、「ウェブデザイン技能検定3級対策問題集」をそれぞれで解き、グループワークを行う。過去問題を配布し、次回講義までに解いてくる。パソコン必須。
10	実技問題4背景色、文字色	「ウェブデザイン技能検定・ガイドブック」とスライドを中心に解説し、「ウェブデザイン技能検定3級対策問題集」をそれぞれで解き、グループワークを行う。過去問題を配布し、次回講義までに解いてくる。パソコン必須。
11	実技問題1ディレクトリ構造	「ウェブデザイン技能検定・ガイドブック」とスライドを中心に解説し、「ウェブデザイン技能検定3級対策問題集」をそれぞれで解き、グループワークを行う。過去問題を配布し、次回講義までに解いてくる。パソコン必須。
12	実技問題3CSSの編集	「ウェブデザイン技能検定・ガイドブック」とスライドを中心に解説し、「ウェブデザイン技能検定3級対策問題集」をそれぞれで解き、グループワークを行う。過去問題を配布し、次回講義までに解いてくる。パソコン必須。
13	実技問題5背景画像の設定	「ウェブデザイン技能検定・ガイドブック」とスライドを中心に解説し、「ウェブデザイン技能検定3級対策問題集」をそれぞれで解き、グループワークを行う。過去問題を配布し、次回講義までに解いてくる。パソコン必須。
14	検定前演習	ウェブデザイン技能検定3級（実技）の過去問題。パソコン必須。
15	まとめテスト全体の振り返り	ウェブデザイン技能検定3級（実務）同等の内容の試験と模範解答・その解説。ウェブデザイン技能検定3級（学科）へ向けての説明。パソコン必須。
16	第3章ウェブデザイン技術	「ウェブデザイン技能検定・ガイドブック」とスライドを中心に解説し、「ウェブデザイン技能検定3級対策問題集」をそれぞれで解き、グループワークを行う。過去問題を配布し、次回講義までに解いてくる。
17	第2章ワールドワイドウェブ法務	「ウェブデザイン技能検定・ガイドブック」とスライドを中心に解説し、「ウェブデザイン技能検定3級対策問題集」をそれぞれで解き、グループワークを行う。過去問題を配布し、次回講義までに解いてくる。
18	第1章インターネット概論	「ウェブデザイン技能検定・ガイドブック」とスライドを中心に解説し、「ウェブデザイン技能検定3級対策問題集」をそれぞれで解き、グループワークを行う。過去問題を配布し、次回講義までに解いてくる。
19	第4章ウェブ標準	「ウェブデザイン技能検定・ガイドブック」とスライドを中心に解説し、「ウェブデザイン技能検定3級対策問題集」をそれぞれで解き、グループワークを行う。過去問題を配布し、次回講義までに解いてくる。
20	第5章ウェブビジュアルデザイン	「ウェブデザイン技能検定・ガイドブック」とスライドを中心に解説し、「ウェブデザイン技能検定3級対策問題集」をそれぞれで解き、グループワークを行う。過去問題を配布し、次回講義までに解いてくる。
21	第6章ウェブインフォメーションデザイン 第7章 アクセシビリティ・ユニバーサルデザイン	「ウェブデザイン技能検定・ガイドブック」とスライドを中心に解説し、「ウェブデザイン技能検定3級対策問題集」をそれぞれで解き、グループワークを行う。過去問題を配布し、次回講義までに解いてくる。
22	第8章 ウェブサイト設計・構築技術	「ウェブデザイン技能検定・ガイドブック」とスライドを中心に解説し、「ウェブデザイン技能検定3級対策問題集」をそれぞれで解き、グループワークを行う。過去問題を配布し、次回講義までに解いてくる。
23	第9章 ウェブサイト運用・管理技術第10章 安全衛生・作業環境構築	「ウェブデザイン技能検定・ガイドブック」とスライドを中心に解説し、「ウェブデザイン技能検定3級対策問題集」をそれぞれで解き、グループワークを行う。過去問題を配布し、次回講義までに解いてくる。
24	検定前演習	過去問題解答解説
25	検定受験後指導、自己採点ウェブサイト制作の流れ	検定問題の解答解説。ウェブサイト制作についての説明。
26	ウェブサイト制作準備・制作	ウェブサイト制作の準備を行い実際に制作していく。
27	ウェブサイト制作	ウェブサイト制作を行う
28	ウェブサイト制作	ウェブサイト制作を行う
29	発表	制作したウェブサイトを全員発表する
30		

科目コード	53045				区 分	コア			
授業科目名	特別演習Ⅱ 《通年》[ビジネス実務マナー]				担当者名	三浦 佐代子／赤木 邦江			
配当年次	3年	配当学期	通年（前期・後期）	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習（ロールプレイング）・グループワーク・ペアワーク	卒業要件	選択

### ＜授業の概要＞

現代社会、特にビジネス社会の中に身を置くには、基本的な秩序やある一定の規範があることを認識しておく必要がある。前期「ビジネス実務マナー（3級技能検定受験対象）」の授業では、ビジネス（実務）社会での行動についての身の処し方（マナー：行動力・判断力・表現力などの必要とされる資質や言葉遣い、交際、事務技能など）の基本を学ぶ。後期「ビジネス実務マナー（2級技能検定受験対象）」の授業では、前期に学修した事をベースに、実社会において活用するスキルとしての応用力を身に付けていく。社会人として必要とされる実践できるビジネ

### ＜授業の到達目標＞

前期は講義及び準備学修により、ビジネス実務の基本の習得確認をするために、「ビジネス実務マナー検定3級」の受験（6月28日・学内準会場）、合格を目標とする（※原則、全員受験）。※公認欠席等により受験出来ない場合には、まとめテストで成績評価。後期は、「ビジネス実務マナー検定2級」の受験（11月22日・学内準会場）、合格を目指す（※原則、全員受験）。※公認欠席等により受験出来ない場合には、まとめテストで成績評価。検定受験終了後は、併せて共通項目の多い「サービス接遇検定」の受験（翌年2月14日・学内準会場）も可能

### ＜授業の方法＞

対面授業において、「ビジネス実務マナー検定3級・受験ガイド」「ビジネス実務マナー検定2級・受験ガイド」を中心に進めていく。また問題集とは別に過去問題を多く解いていき、予想問題にも取り組む。必要に応じレジュメを準備するので、その際にはクラスルームにアップするので、それぞれプリントアウトかダウンロードすること。

### ＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの実施：学修の基本となる「教科書ガイド」の輪読及び試験前のグループでの輪読。過去問の解答はグループごとに取り組む発表する。

### ＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

履修者全員、前期は「ビジネス実務マナー検定3級」、後期は「ビジネス実務マナー検定2級」を原則受験。留学生は、検定合格のためには前期受講・3級受験はN3相当、後期受講・2級受験はN2相当が必要。受講後には、その範囲の理解の確認のため、及び検定受験に備え、「ビジネス実務マナー検定問題集3級」「ビジネス実務マナー検定問題集2級」に取り組む事（1時間程度）。またほぼ毎回、自宅学習用の過去問題プリントを配布するので、次回講義までに必ず解答しておく事（1時間程度）。※個別またはグループでの発表あり。

### ＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

### ＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

検定受験結果 60%、学習意欲 20%、グループワーク・発表への貢献度 20%※公認欠席等により受験出来ない場合には、まとめテスト 60%

### ＜教科書＞

公益財団法人実務技能検定協会 ビジネス実務マナー検定受験ガイド3級〈増補版〉 早稲田教育出版  
公益財団法人実務技能検定協会 ビジネス実務マナー検定実問題集3級 早稲田教育出版  
公益財団法人実務技能検定協会 ビジネス実務マナー検定受験ガイド2級〈増補版〉 早稲田教育出版

### ＜参考書＞

公益財団法人実務技能検定協会 ビジネス実務マナー検定実問題集1・2級 早稲田教育出版

### ＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス（講義の概要）授業の進め方、成績評価の基準「ビジネス実務マナー技能	「ビジネス実務マナー技能検定3級」の審査基準及び5領域とその内容、過去問題例授業の進め方及び検定までの受験勉強方法、成績評価の方法、「サービス接遇検定3級」

	検定3級」について ガイダンス（講義の概要）：再確認授業の 進め方、成績評価の基準「ビジネス実務マ ナー技能検定3級」について	について 「ビジネス実務マナー技能検定3級」の審査基準及び5領域とその内容、過去問題例授 業の進め方及び検定までの受験勉強方法、成績評価の方法、「サービス接遇検定3級」 について練習問題への取り組み・発表・解答 ビジネスパーソンとしての資質（行動力・判断力・表現力、明るさ・誠実さ、身だし なみ、自己管理等）グループワーク（課題の過去問題の回答確認と発表） 執務要件（実行する能力、良識・素直さ、適切な動作と協調性、積極性・合理性等） グループワーク（課題の過去問題の回答確認と発表） 組織の機能（業務分掌、職位・職制、会社の社会的責任等）グループワーク（課題の 過去問題の回答確認と発表） 人間関係（対処）マナー（ビジネス実務マナーの心得、ビジネスでの服装などの知識） 演習（挨拶等のロールプレイング） 話し方（ビジネスでの話の仕方と人間関係、基礎的な敬語、目的に応じた話し方等） 交際（慶事・弔事の作法と服装の一般的知識、初歩的な交際業務等）グループワーク （課題の過去問題の回答確認と発表） 会話力応対力グループワーク（課題の過去問題の回答確認と発表） 会話力応対力グループワーク（課題の過去問題の回答確認と発表） 情報（一般的な情報知識、情報整理、情報伝達等）文書（初歩的文書の作成、文書の 取り扱い等）グループワーク（課題の過去問題の回答確認と発表） 会議（会議の知識等）、事務機器（事務機器の機能等）事務用品（事務用品の種類と 機能等）の十分な理解と活用グループワーク（課題の過去問題の回答確認と発表） 課題の過去問題の回答確認と発表予想模擬問題
2		
3	I・必要とされる資質(1)	
4	I・必要とされる資質(2)	
5	II・企業実務	
6	III・対人関係(1)	
7	III・対人関係(2)	
8	IV・電話実務(1)	
9	IV・電話実務(2)	
10	V・技能(1)	
11	V・技能(2)	
12	6/28「ビジネス実務マナー検定3級」受験 前演習	
13	6/28（土）「ビジネス実務マナー検定3級」 受験後指導	「ビジネス実務マナー技能検定3級」の模範解答とその解説、自己採点
14	「ビジネス実務マナー技能検定2級」受験 準備	「ビジネス実務マナー技能検定2級」の審査基準及び5領域とその内容、過去問題例
15	「ビジネス実務マナー技能検定3級」と同 等のまとめテスト「ビジネス実務マナー技 能検定2級」練習問題	まとめテストの模範解答とその解説「ビジネス実務マナー技能検定2級」練習問題の 解説
16	「ビジネス実務マナー技能検定2級」につ いて I・必要とされる資質（1）	ビジネスパーソンとしての資質（行動力・判断力・表現力、明るさ・誠実さ、身だし なみ、自己管理等）の十分な理解とその技能習得グループワーク（課題の過去問題の 回答確認と発表） 執務要件（実行する能力、良識・素直さ、適切な動作と協調性、積極性・合理性 等）の十分な理解とその技能習得グループワーク（課題の過去問題の回答確認と発表） 組織の機能（業務分掌、職位・職制、会社の社会的責任等）の十分な理解とその 技能習得グループワーク（課題の過去問題の回答確認と発表） 人間関係（対処）の十分な理解と活用。マナー（ビジネス実務マナーの心得、ビジネ スでの服装などの知識）の十分な理解と活用グループワーク（課題の過去問題の回答 確認と発表） 話し方（ビジネスでの話の仕方と人間関係、敬語、目的に応じた話し方等）の十分な 理解と活用交際（慶事・弔事の作法と服装の一般的知識、交際業務等）の十分な理 解と活用グループワーク（課題の過去問題の回答確認と発表） 会話力、応対力演習（電話応対等のロールプレイング）グループワーク（課題の過去 問題の回答確認と発表） 情報（情報知識、情報整理、情報伝達等）、文書（文書の作成、文書の取り扱い等） の十分な理解と活用会議（会議の知識等）、事務機器（事務機器の機能等）、事務用 品（事務用品の種類と機能等）の十分な理解と活用グループワーク（課題の過去問題 の回答確認と発表） 課題の過去問題の回答確認と発表予想模擬問題
17	I・必要とされる資質(2)	
18	II・企業実務	
19	III・対人関係(1)	
20	III・対人関係(2)	
21	IV・電話実務	
22	V・技能	
23	11/22「ビジネス実務マナー検定2級」受験 前演習	
24	11/22（土）「ビジネス実務マナー検定2 級」受験後指導	「ビジネス実務マナー検定2級」の模範解答とその解説、自己採点
25	「サービス接遇実務検定3級・2級」につ いて I・サービススタッフの資質	「サービス接遇実務検定3級」の審査基準及び5領域とその内容必要とされる要件従業 要件過去問題グループワーク（課題の過去問題の回答確認と発表） サービス知識従業知識課題の過去問題の回答確認と発表グループワーク（課題の過去 問題の回答確認と発表） 社会常識課題の過去問題の回答確認と発表グループワーク（課題の過去問題の回答確 認と発表） 人間関係接遇知識話し方服装課題の過去問題の回答確認と発表グループワーク（課題 の過去問題の回答確認と発表） 問題処理環境整備金品管理社交業務課題の過去問題の回答確認と発表グループワー ク（課題の過去問題の回答確認と発表）
26	II・専門知識	
27	III・一般知識	
28	IV・対人技能	
29	V・実務技能	
30		

科目コード	53062				区 分	コア科目キャリア形成			
授業 科目名	特別演習Ⅲ 《通年》[社会調査士系]				担当者名	岡田 健志			
配当年次	3年	配当学期	前期・後 期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

「経営・マネジメント」「商学・マーケティング」「会社に関する法的問題」「現代経済」等の各領域について、担当教員の専門領域や学生が関心のある現代社会のトピックについて取り扱う。調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習することを目的とする。調査実施のすべての段階を経験し、社会調査を実践の場で実施できる人材を育成することを目標とする。現状の意識と行動と事実との関係性を調査ベースに追求していく。先行研究調査、文献調査を踏まえRQと仮説を明確にし、質問紙とインタビュー調査

#### <授業の到達目標>

「社会調査士」の資格を取得するための必須科目（6科目）である。「社会調査法」「プロジェクト研究（社会調査系）」「マーケティングリサーチ」の科目を単位取得済み、あるいは履修中であること。「情報分析論」「統計学」を履修すること。調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習する授業である。調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者・地域の選定、サンプリング、調査の実施（調査票の配布・回収、面接）、インタビューなどのフィールドワーク、フィールド

#### <授業の方法>

授業内の演習でMicrosoft Excelを適宜利用するため、パソコンを毎回持参すること。講義では講義の記録や自らが理解したことをメモする以外にも、クラス内での議論やインタビューメモのため必ず筆記用具を持参すること。授業ではペアワーク・ディスカッション・相互インタビュー・プレゼンテーションを重視する。特に発言・対話・議論に積極的に参加することが期待される。フィールドワーク実践として、学内外でインタビュー調査も実施する。これによって、調査企画・個人情報管理・調査倫理・調査票の作成・集計・コーディング・エ

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングはほぼ毎回の授業で行う。具体的には、ペアワーク・ディスカッション・企画立案実践・プレゼンテーション・相互レビューである。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内のディスカッションやグループワークなどで気づいたこと・学んだことを毎回レポートで提出する（想定学習時間：約60分）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（発言・議論への積極的参加）40%、毎回の課題提出40%、最終課題20%を目安に評価する。各回の課題に対して担当者からフィードバックを行う。

#### <教科書>

#### <参考書>

金井雅之・渡邊大輔・小林盾(2012) 『社会調査の応用—量的調査編:社会調査士E・G科目対応』 弘文堂  
大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋 編著(2023) 『最新・社会調査へのアプローチ——論理と方法——』 ミネルヴァ書房

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績基準、諸注意
2	社会調査とは	調査の倫理、種類、調査事例、質的調査とは何かを理解する。
3	調査事例、質的調査の紹介	フィールドノート、参与観察、インタビュー
4	方法論のエッセンス(フィールドワークについて)	現象学的観察、観察から概念化、理論・推論のパターン、論理的に考える方法論、仮説創造、アブダクションについて
5	〔グループ作業〕グループ討議およびテーマ設定	フィールドワークの各段階説明(初期・中期・後期) データ収集におけるフィールドノーツの書き方
6	〔グループ作業〕フィールドワーク演習	グループ作業を行う。町に出て、駅近辺あるいはショッピングモールで観察。
7	〔グループ作業〕フィールドワーク演習	フィールドノーツを作成(データ収集)、出来事が起こっている最中のメモを取る
8	〔グループ作業〕フィールドワーク	暗黙知獲得の方法論、創造のプロセス 第2ステップ(仮説の一般化)、コーディング作業
9	〔グループ作業〕フィールドワーク	コーディング作業、カテゴリー化、GTAの演習
10	〔グループ作業〕フィールドワークについて(1)	都市型創造クラスター研究

11	〔グループ作業〕フィールドワークについて（２）	都市型創造クラスター研究、ディスカッション
12	〔グループ作業〕シナリオシンキングについて（１）	グランデッド・セオリー・アプローチ方法論の演習を実施
13	〔グループ作業〕シナリオシンキングについて（２）	シナリオロジックの明示、メタファ
14	〔グループ作業〕シナリオシンキングについて（３）	比喩（メタファー）、シナリオ作り（４つの世界の想定）
15	前期のまとめ	発表会
16	観察企業〔組織〕参加挨拶（目的理解期間）	会社〔組織〕紹介
17	ワークショップ（１）（目的理解期間）	イノベーションを起こそう！
18	テーマ紹介、調査テーマの決定、スケジュールの組み方	仮説構成について、量的調査の方法、理論仮説（概念化）と作業仮説
19	情報収集（グループワーク）	グループで調査テーマを決める、問題（群）を決める、テーマに沿って必要な情報収集
20	調査企画書の作成（１）（グループワーク）	調査テーマ・仮説構成について、量的調査の方法、理論仮説（概念化）と作業仮説
21	調査企画書の作成（２）（グループワーク）	情報収集結果に基づきワーディング、選択肢作成、ヒアリング項目の洗い出し
22	調査の実施（１）（グループワーク）	質問紙調査、ヒアリング調査、観察調査
23	調査の実施（２）（グループワーク）	質問紙調査、ヒアリング調査、観察調査
24	調査データの整理（グループワーク）	単純集計表・クロス集計確認、平均、分散、分位数、標準偏差、調査結果の大きな傾向の把握
25	調査全体の分析（１）（グループワーク）	発表の方向性確認、不足情報の収集
26	調査全体の分析（２）（グループワーク）	中間発表資料の作成
27	中間発表（最終プレゼン準備）	全体討議、意見交換、不足情報の確認
28	最終発表会に向けた修正、追加情報収集、追加調査、追加資料作成（最終プレゼン準備）	グループ討議、仮説の確認作業、発表資料の作成
29	最終資料完成作業（最終プレゼン準備）	プレゼン準備、リハ
30		

科目コード	53063				区 分	キャリア形成科目			
授業 科目名	整復臨床実習Ⅲ 《通年》				担当者名	簗戸 崇史			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

附属臨床実習施設および臨地実習施設において患者施術の補助をする。また、掃除、洗濯、湿布作りなどの業務に付帯する各種業務も行う。柔道整復師に必要な教養や判断力、技術などの修得を目標とし総合的な臨床能力を養う。必要に応じて、ケーススタディー実習・附属臨床実習施設の患者情報を元に傷病は何であるか、さらに今後の施術方針などを検討する。ロールプレー実習・附属臨床実習施設の患者情報を元に、患者様入室から施術開始までの流れを 柔道整復師役、患者役に分けてそれぞれ実施することを行う。

#### <授業の到達目標>

柔道整復師として必要条件となる接骨院での評価、評価に基づく患者様への説明、施術の組み立てが出来る。整復・固定・施療とともに後療法をプログラミングし、リスクマネジメントが実行できる。

#### <授業の方法>

基本的に接骨院でのフィールドワークとするが、導入講義等は講義室・実技室を使用する。・白衣の乱れ、服装、頭髮、装飾品など患者様から見て不適切な印象を与えらる場合には実習の参加を認めないことがある。・また、実習中の態度が悪く患者様に迷惑をかける恐れがある場合は実習を中止することがある。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本科目は、積極性、主体性を持った学びが主になる科目である。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

症例（担当患者）・実習内容（実技・講義・討論）をふりかえり、「評価・後療法プログラム・ゴール設定。管理など」また、「何を学んだか、何を学べなかったのか」についてレポート（A4-1枚程度）を作成し、期日までにデータで担当教員にDropboxを用い送信する。（1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習レポート70%および実習現場での受講態度・学習意欲30%で評価する。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	臨床実習のガイダンス
2	接骨院実習・柔道整復師の施術	業務範囲について
3	接骨院実習・施術所について	関係法規に記載されている施術所を理解
4	接骨院実習	臨床実習施設で実施
5	接骨院実習	臨床実習施設で実施
6	接骨院実習	臨床実習施設で実施
7	接骨院実習	臨床実習施設で実施
8	接骨院実習	臨床実習施設で実施
9	接骨院実習	臨床実習施設で実施
10	接骨院実習	臨床実習施設で実施
11	接骨院実習	臨床実習施設で実施
12	接骨院実習	臨床実習施設で実施
13	接骨院実習	臨床実習施設で実施
14	接骨院実習	臨床実習施設で実施
15	接骨院実習	臨床実習施設で実施
16	接骨院実習	臨床実習施設で実施
17	接骨院実習	臨床実習施設で実施
18	接骨院実習	臨床実習施設で実施
19	接骨院実習	臨床実習施設で実施
20	接骨院実習	臨床実習施設で実施

21	接骨院実習	臨床実習施設で実施
22	接骨院実習	臨床実習施設で実施
23	接骨院実習	臨床実習施設で実施
24	接骨院実習	臨床実習施設で実施
25	接骨院実習	臨床実習施設で実施
26	接骨院実習	臨床実習施設で実施
27	接骨院実習	臨床実習施設で実施
28	接骨院実習	臨床実習施設で実施
29	接骨院実習	臨床実習施設で実施
30		

科目コード	53064				区 分	キャリア形成科目			
授業 科目名	整復臨床実習Ⅳ 《通年》				担当者名	簗戸 崇史			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

整復臨床実習Ⅲで得た実習経験をもとに、更なる柔道整復業務の研鑽に務める。臨床実習施設および臨地実習施設において患者施術の補助をする。実習指導者のもとで、将来柔道整復師を目指す学生として対象者の検査・測定評価を実施し、それにより障害構造の理解を深め、問題点の把握、目標の設定、治療計画の立案・実施、再評価ができるようにする。

#### <授業の到達目標>

整復臨床実習Ⅲで得られた到達目標を理解し、以下8つの到達目標の更なる研鑽に努める。①専門職としての適性を培いふさわしい態度をとることができる。②対象者のリスク管理に配慮できる。③柔道整復の施術を施行するための情報収集・検査測定ができる。④得られた情報を整理し、疾患と障害の構造を把握することができる。⑤目標を設定し、治療・援助計画を立案することができる。⑥対象者の再評価、治療計画の変更ができる。⑦患者との良好なコミュニケーションが取れる。⑧他の職種間との良好な連携が取れる。

#### <授業の方法>

整復臨床実習Ⅲを了した者が本実習を受講することが出来る。臨床実習施設において4月～9月の期間中に1週間の現場実習を行う。実習指導者に従い、初診患者に対する医療面接および検査・測定の一部を実施する。後療法においては、実習指導者に従い、手技療法、物理療法、運動療法の一部を実施する。担当患者について実習指導者とともに対応し、その疾患についてレポート作成およびプレゼンテーションを実施する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本科目は、積極性、主体性が主となる科目である。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

症例（担当患者）・実習内容（実技・講義・討論）をふりかえり、「評価・後療法プログラム・ゴール設定。管理など」また、「何を学んだか、何を学べなかったのか」についてレポート（A4-1枚程度）を作成し、期日までにデータで担当教員にDropboxを用い送信する。（1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習レポート80%および実習現場での受講態度・学習意欲20%で評価する。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	臨床実習のガイダンス
2	接骨院実習・柔道整復師の施術	業務範囲について
3	接骨院実習・施術所について	関係法規に記載されている施術所を理解
4	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
5	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
6	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
7	接骨院実習・後療法について	本学臨床実習施設内で実施施術から課題抽出
8	接骨院実習・研究課題についてのロールプレー	施術者としてチェックポイントをクリアしているか1
9	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
10	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
11	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
12	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
13	到達目標の確認 1	到達目標の確認 3
14	接骨院実習・研究課題によるケーススタディー	本学臨床実習施設内で実施施術から課題抽出
15	接骨院実習	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
16	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
17	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
18	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施

19	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
20	接骨院実習	到達目標の確認 4
21	接骨院実習・研究課題についてのロール プレー	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
22	接骨院実習・研究課題についてのロール プレー	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
23	接骨院実習	施術者としてチェックポイントをクリアしているか2
24	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
25	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
26	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
27	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
28	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
29	接骨院実習	到達目標の確認 5
30		

科目コード	53079				区 分	コア科目キャリア形成			
授業科目名	インターンシップ(企業) [BC]				担当者名	赤木 邦江			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習（ロールプレイング等）、実習（インターンシップ：就業体験）	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目では、汎用的能力活用型では短期（5日間以上）、専門的活用型では長期（2週間以上・実質10日以上）のインターンシップ（就業体験）をもとに、学生が組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）で働くうえで、獲得すべき職場文化や業務に求められる知識について理解することを目的とする。併せて、学生の学びたいこと・学ばせたいことをプログラム設計して、産官学連携の協力のもとコーオプ教育を推進しているので、積極的に、より具体的に就業先で実習できるプログラム（内容、目標、課題等）を定める必要がある。事前学習では演習（ロールプ

### <授業の到達目標>

「実際の職場や組織で働く」を通して、「働く」こと、「仕事をする」こと、さらには大学を卒業して「社会人」になることなどに対する理解を深めることを目的とする。興味・関心のある業界・職業・職務等を理解・体験することにより、学生から社会人に移行する際のマッチングの重要性（情報の対称性）を知り、自身の期待との大きなギャップ（リアリティ・ショック）がないように有益な就業体験にする。

### <授業の方法>

組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）でのインターンシップ実習に加えて、事前・事後の学内講義（座学および演習：ロールプレイング）を行う。いずれも重要だが、特にインターンシップ実習は、遅刻・欠席をせず、まじめに取り組まなければならない。また、実習終了後には、成果報告レポートの提出が必要である。特段の理由がある場合を除き、座学・演習、実習、レポートのすべてを完了しなければ単位は認められない。受講者数によっては、成果報告会でのプレゼンテーションを追加する場合がある。短期インターンシップでは、実習の受入先と覚書と

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有り：演習（ロールプレイング、グループワーク）、プレゼンテーションなど

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

受講許可に際しては、前年度出席率85%以上、GPA2.0以上を基本条件とする。また、留学生の場合は原則として、上記2点に加えて、日本語能力検定試験N3相当が望ましい。インターンシップ（就業体験・夏期休暇期間）の期間中は、すべての日程に参加することを原則とする（特にその期間のアルバイトは原則禁止）。このほかの条件については、ガイダンスを実施して説明を行う。また事前・事後の学内講義は、集中講義（前期：隔週8コマ、後期：10月2コマ×2回）として実施する。予習：実習先の企業等について包括的に調べ、理解を深めてお

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

インターンシップ先からの評価 40%、授業への取り組み態度 30%、レポート課題・報告書及び報告（プレゼンテーション） 30%

### <教科書>

松高 政 インターンシップの教科書 ナカニシヤ出版

### <参考書>

指定しない。授業で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス「インターンシップ」とは	授業・実施の進め方、諸注意、各種手続き、履修条件について
2	インターンシップ事前準備（1） 参加申込書（エントリーシート）、誓約書、肖像権使用許諾書等必要書類組織（企業、団	インターンシップの存在理由と意義

	体、官公庁等の行政職等)の研究・検討	
3	インターンシップ事前準備(2)	学生と社会人の違い、「働く」とはどういうことか? 組織(企業、団体、官公庁等の行政職等)の研究・検討
4	インターンシップ事前準備(3)	就職活動とインターンシップの関係
5	インターンシップに必要なマナー(1)	ビジネスマナーの理解と実践 面談・面接のマナー、ビジネスマナー(ロールプレイング)
6	インターンシップに必要なマナー(2)	エントリーシート、履歴書などの書類の書き方、機密保持について
7	決定就業体験先の組織(企業、団体、官公庁等の行政職等)研究	組織研究の基本的な考え方、就業体験先についての調査・分析
8	インターンシップ実習前準備	個別面談、インターンシップ先面談、プログラム設計(内容・目標・課題等)
9	インターンシップ実習(1)	各実習先での就業体験
10	インターンシップ実習(2)	各実習先での就業体験
11	インターンシップ実習(3)	各実習先での就業体験
12	インターンシップ実習(4)	各実習先での就業体験
13	インターンシップ実習(5)	各実習先での就業体験
14	インターンシップ実習(6) ※専門活用型(長期)の履修の場合	各実習先での就業体験
15	インターンシップ実習(7) ※専門活用型(長期)の履修の場合	各実習先での就業体験
16	インターンシップ実習(8) ※専門活用型(長期)の履修の場合	各実習先での就業体験
17	インターンシップ実習(9) ※専門活用型(長期)の履修の場合	各実習先での就業体験
18	インターンシップ実習(10) ※専門活用型(長期)の履修の場合	各実習先での就業体験
19	インターンシップ実習体験のまとめ体験報告書等の確認	インターンシップ実習体験の振り返り(プログラムの達成確認)レポート・プレゼン資料の作成
20	インターンシップ体験・成果報告会	インターンシップ就業体験の成果報告とフィードバック
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	53080				区 分	コア科目キャリア形成			
授業科目名	インターンシップ（公務員） [BC]				担当者名	赤木 邦江			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習（ロールプレイング等）、実習（インターンシップ：就業体験）	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目では、汎用的能力活用型では短期（5日間以上）、専門的活用型では長期（2週間以上・実質10日以上）のインターンシップ（就業体験）をもとに、学生が組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）で働くうえで、獲得すべき職場文化や業務に求められる知識について理解することを目的とする。併せて、学生の学びたいこと・学ばせたいことをプログラム設計して、産官学連携の協力のもとコーオブ教育を推進しているので、積極的に、より具体的に就業先で実習できるプログラム（内容、目標、課題等）を定める必要がある。事前学習では演習（ロールプ

### <授業の到達目標>

「実際の職場や組織で働く」を通して、「働く」こと、「仕事をする」こと、さらには大学を卒業して「社会人」になることなどに対する理解を深めることを目的とする。興味・関心のある業界・職業・職務等を理解・体験することにより、学生から社会人に移行する際のマッチングの重要性（情報の対称性）を知り、自身の期待との大きなギャップ（リアリティ・ショック）がないように有益な就業体験にする。

### <授業の方法>

組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）でのインターンシップ実習に加えて、事前・事後の学内講義（座学および演習：ロールプレイング）を行う。いずれも重要だが、特にインターンシップ実習は、遅刻・欠席をせず、まじめに取り組まなければならない。また、実習終了後には、成果報告レポートの提出が必要である。特段の理由がある場合を除き、座学・演習、実習、レポートのすべてを完了しなければ単位は認められない。受講者数によっては、成果報告会でのプレゼンテーションを追加する場合がある。短期インターンシップでは、実習の受入先と覚書と

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有り：演習（ロールプレイング、グループワーク）、プレゼンテーションなど

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

受講許可に際しては、前年度出席率85%以上、GPA2.0以上を基本条件とする。また、留学生の場合は原則として、上記2点に加えて、日本語能力検定試験N3相当が望ましい。インターンシップ（就業体験・夏期休暇期間）の期間中は、すべての日程に参加することを原則とする（特にその期間のアルバイトは原則禁止）。このほかの条件については、ガイダンスを実施して説明を行う。また事前・事後の学内講義は、集中講義（前期：隔週8コマ、後期：10月2コマ×2回）として実施する。予習：実習先の企業等について包括的に調べ、理解を深めてお

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

インターンシップ先からの評価 40%、授業への取り組み態度 30%、レポート課題・報告書及び報告（プレゼンテーション） 30%

### <教科書>

松高 政 インターンシップの教科書 ナカニシヤ出版

### <参考書>

指定しない。授業で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス「インターンシップ」とは	授業・実施の進め方、諸注意、各種手続き、履修条件について
2	インターンシップ事前準備（1） 参加申込書（エントリーシート）、誓約書、肖像権使用許諾書等必要書類組織（企業、団	インターンシップの存在理由と意義

	体、官公庁等の行政職等)の研究・検討	
3	インターンシップ事前準備(2)	学生と社会人の違い、「働く」とはどういうことか? 組織(企業、団体、官公庁等の行政職等)の研究・検討
4	インターンシップ事前準備(3)	就職活動とインターンシップの関係
5	インターンシップに必要なマナー(1)	ビジネスマナーの理解と実践 面談・面接のマナー、ビジネスマナー(ロールプレイング)
6	インターンシップに必要なマナー(2)	エントリーシート、履歴書などの書類の書き方、機密保持について
7	決定就業体験先の組織(企業、団体、官公庁等の行政職等)研究	組織研究の基本的な考え方、就業体験先についての調査・分析
8	インターンシップ実習前準備	個別面談、インターンシップ先面談、プログラム設計(内容・目標・課題等)
9	インターンシップ実習(1)	各実習先での就業体験
10	インターンシップ実習(2)	各実習先での就業体験
11	インターンシップ実習(3)	各実習先での就業体験
12	インターンシップ実習(4)	各実習先での就業体験
13	インターンシップ実習(5)	各実習先での就業体験
14	インターンシップ実習(6) ※専門活用型(長期)の履修の場合	各実習先での就業体験
15	インターンシップ実習(7) ※専門活用型(長期)の履修の場合	各実習先での就業体験
16	インターンシップ実習(8) ※専門活用型(長期)の履修の場合	各実習先での就業体験
17	インターンシップ実習(9) ※専門活用型(長期)の履修の場合	各実習先での就業体験
18	インターンシップ実習(10) ※専門活用型(長期)の履修の場合	各実習先での就業体験
19	インターンシップ実習体験のまとめ体験報告書等の確認	インターンシップ実習体験の振り返り(プログラムの達成確認)レポート・プレゼン資料の作成
20	インターンシップ体験・成果報告会	インターンシップ就業体験の成果報告とフィードバック
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	53081				区 分	コア科目キャリア形成			
授業科目名	インターンシップ（スポーツビジネス） [BC]				担当者名	赤木 邦江			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習（ロールプレイング等）、実習（インターンシップ：就業体験）	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目では、汎用的能力活用型では短期（5日間以上）、専門的活用型では長期（2週間以上・実質10日以上）のインターンシップ（就業体験）をもとに、学生が組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）で働くうえで、獲得すべき職場文化や業務に求められる知識について理解することを目的とする。併せて、学生の学びたいこと・学ばせたいことをプログラム設計して、産官学連携の協力のもとコーオプ教育を推進しているので、積極的に、より具体的に就業先で実習できるプログラム（内容、目標、課題等）を定める必要がある。事前学習では演習（ロールプ

### <授業の到達目標>

「実際の職場や組織で働く」を通して、「働く」こと、「仕事をする」こと、さらには大学を卒業して「社会人」になることなどに対する理解を深めることを目的とする。興味・関心のある業界・職業・職務等を理解・体験することにより、学生から社会人に移行する際のマッチングの重要性（情報の対称性）を知り、自身の期待との大きなギャップ（リアリティ・ショック）がないように有益な就業体験にする。

### <授業の方法>

組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）でのインターンシップ実習に加えて、事前・事後の学内講義（座学および演習：ロールプレイング）を行う。いずれも重要だが、特にインターンシップ実習は、遅刻・欠席をせず、まじめに取り組まなければならない。また、実習終了後には、成果報告レポートの提出が必要である。特段の理由がある場合を除き、座学・演習、実習、レポートのすべてを完了しなければ単位は認められない。受講者数によっては、成果報告会でのプレゼンテーションを追加する場合がある。短期インターンシップでは、実習の受入先と覚書と

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有り：演習（ロールプレイング、グループワーク）、プレゼンテーションなど

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

受講許可に際しては、前年度出席率85%以上、GPA2.0以上を基本条件とする。また、留学生の場合は原則として、上記2点に加えて、日本語能力検定試験N3相当が望ましい。インターンシップ（就業体験・夏期休暇期間）の期間中は、すべての日程に参加することを原則とする（特にその期間のアルバイトは原則禁止）。このほかの条件については、ガイダンスを実施して説明を行う。また事前・事後の学内講義は、集中講義（前期：隔週8コマ、後期：10月2コマ×2回）として実施する。予習：実習先の企業等について包括的に調べ、理解を深めてお

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

インターンシップ先からの評価 40%、授業への取り組み態度 30%、レポート課題・報告書及び報告（プレゼンテーション） 30%

### <教科書>

松高 政 インターンシップの教科書 ナカニシヤ出版

### <参考書>

指定しない。授業で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス「インターンシップ」とは	授業・実施の進め方、諸注意、各種手続き、履修条件について
2	インターンシップ事前準備（1） 参加申込書（エントリーシート）、誓約書、肖像権使用許諾書等必要書類組織（企業、団	インターンシップの存在理由と意義

	体、官公庁等の行政職等)の研究・検討	
3	インターンシップ事前準備(2)	学生と社会人の違い、「働く」とはどういうことか? 組織(企業、団体、官公庁等の行政職等)の研究・検討
4	インターンシップ事前準備(3)	就職活動とインターンシップの関係
5	インターンシップに必要なマナー(1)	ビジネスマナーの理解と実践 面談・面接のマナー、ビジネスマナー(ロールプレイング)
6	インターンシップに必要なマナー(2)	エントリーシート、履歴書などの書類の書き方、機密保持について
7	決定就業体験先の組織(企業、団体、官公庁等の行政職等)研究	組織研究の基本的な考え方、就業体験先についての調査・分析
8	インターンシップ実習前準備	個別面談、インターンシップ先面談、プログラム設計(内容・目標・課題等)
9	インターンシップ実習(1)	各実習先での就業体験
10	インターンシップ実習(2)	各実習先での就業体験
11	インターンシップ実習(3)	各実習先での就業体験
12	インターンシップ実習(4)	各実習先での就業体験
13	インターンシップ実習(5)	各実習先での就業体験
14	インターンシップ実習(6) ※専門活用型(長期)の履修の場合	各実習先での就業体験
15	インターンシップ実習(7) ※専門活用型(長期)の履修の場合	各実習先での就業体験
16	インターンシップ実習(8) ※専門活用型(長期)の履修の場合	各実習先での就業体験
17	インターンシップ実習(9) ※専門活用型(長期)の履修の場合	各実習先での就業体験
18	インターンシップ実習(10) ※専門活用型(長期)の履修の場合	各実習先での就業体験
19	インターンシップ実習体験のまとめ体験報告書等の確認	インターンシップ実習体験の振り返り(プログラムの達成確認)レポート・プレゼン資料の作成
20	インターンシップ体験・成果報告会	インターンシップ就業体験の成果報告とフィードバック
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FC]				担当者名	高崎 展好			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

こども発達学科での学習の総まとめとして、卒業論文または卒業制作に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

#### <授業の到達目標>

こども発達学科での学習を踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づく卒業論文または卒業制作を完成させる。

#### <授業の方法>

授業は、各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行うが、基本的には個別指導を展開する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

ゼミナールⅡ（応用）演奏制作研究及び作品制作研究発表にに基づく

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究または卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業研究または卒業制作の成果物（100％）

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究・制作の進め方、スケジュール、単位認定方法など
2	先輩の卒論研究・制作の概要	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業研究の概観
3	先輩の卒業研究・制作の分析	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析
4	先輩の卒業研究・制作の分析結果発表	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析した結果をゼミ内発表
5	卒業研究・制作のテーマ構想	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、卒業研究・制作の方向性を構想
6	先行研究の分析1	先行研究・制作の論文・作品集などを量的に収集
7	先行研究の分析2	先行研究・制作の論文・作品集などを質的に分析（目的・方法・内容・結果の吟味）
8	先行研究の分析3	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作の一つを選び目的、方法、内容、結果を分析しゼミ内発表
9	テーマの決定	卒業研究・制作のテーマを決定
10	研究目的の明確化	研究目的と研究対象の吟味
11	研究計画の作成	研究活動スケジュールの確定
12	研究倫理の確認	該当する研究領域の研究倫理規程を確認
13	調査研究・文献研究・制作の開始	研究計画に沿った研究活動の展開
14	調査研究・文献研究・制作の吟味	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
15	調査研究・文献研究・制作の修正	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正（夏季休業中の研究計画の決定）
16	研究・制作の結果の考察	これまでの研究・制作活動の中間まとめ
17	研究テーマの最終決定	研究テーマと副題の決定（変更可能性あり）
18	序論の執筆（卒業研究の場合）	研究テーマ設定の動機、理由、意義
19	問題の所在	先行研究のレビューと研究目的の執筆
20	研究方法の執筆	研究の方法の振り返りと整理
21	研究過程の執筆	調査研究・文献研究のプロセスを確認
22	結果の概観	研究結果の全体像を概観
23	結果の吟味	研究結果を分析的に吟味
24	結果と考察の執筆	結果の事実から論証できる考察を執筆
25	結果と考察の確認	結果の事実から論証できる考察の確認
26	結果と考察の修正	指導教員を吟味し結果と考察の修正

27	結論の確認	論文全体の結論まとめ
28	序論・問題設定の再吟味	結論に基づく問題所在・仮説の再吟味
29	論文全体の推敲	論文全体の確認修正
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FC]				担当者名	本庄 慶樹			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

こども発達学科での学習の総まとめとして、卒業論文または卒業制作に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

#### <授業の到達目標>

こども発達学科での学習を踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づく卒業論文または卒業制作を完成させる。

#### <授業の方法>

授業は、各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行いが、基本的には個別指導を展開する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究または卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業研究または卒業制作の成果物（100％）

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究・制作の進め方、スケジュール、単位認定方法など
2	先輩の卒論研究・制作の概要	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業研究の概観
3	先輩の卒業研究・制作の分析	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析
4	先輩の卒業研究・制作の分析結果発表	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析した結果をゼミ内発表
5	卒業研究・制作のテーマ構想	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、卒業研究・制作の方向性を構想
6	先行研究の分析1	先行研究・制作の論文・作品集などを量的に収集
7	先行研究の分析2	先行研究・制作の論文・作品集などを質的に分析（目的・方法・内容・結果の吟味）
8	先行研究の分析3	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作の一つを選び目的、方法、内容、結果を分析しゼミ内発表
9	テーマの決定	卒業研究・制作のテーマを決定
10	研究目的の明確化	研究目的と研究対象の吟味
11	研究計画の作成	研究活動スケジュールの確定
12	研究倫理の確認	該当する研究領域の研究倫理規程を確認
13	調査研究・文献研究・制作の開始	研究計画に沿った研究活動の展開
14	調査研究・文献研究・制作の吟味	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
15	調査研究・文献研究・制作の修正	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正（夏季休業中の研究計画の決定）
16	研究・制作の結果の考察	これまでの研究・制作活動の中間まとめ
17	研究テーマの最終決定	研究テーマと副題の決定（変更可能性あり）
18	序論の執筆（卒業研究の場合）	研究テーマ設定の動機、理由、意義
19	問題の所在	先行研究のレビューと研究目的の執筆
20	研究方法の執筆	研究の方法の振り返りと整理
21	研究過程の執筆	調査研究・文献研究のプロセスを確認
22	結果の概観	研究結果の全体像を概観
23	結果の吟味	研究結果を分析的に吟味
24	結果と考察の執筆	結果の事実から論証できる考察を執筆
25	結果と考察の確認	結果の事実から論証できる考察の確認
26	結果と考察の修正	指導教員を吟味し結果と考察の修正
27	結論の確認	論文全体の結論まとめ

28	序論・問題設定の再吟味	結論に基づく問題所在・仮説の再吟味
29	論文全体の推敲	論文全体の確認修正
30		

科目コード	55000				区 分	コア			
授業 科目名	卒業研究 [FC]				担当者名	大久保 諒			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

こども発達学科での学習の総まとめとして、卒業論文または卒業制作に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

### <授業の到達目標>

こども発達学科での学習を踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づく卒業論文または卒業制作を完成させる。

### <授業の方法>

授業は、各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行いが、基本的には個別指導を展開する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：受講生自身の手で実際に卒業研究を進める。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究または卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業研究または卒業制作の成果物（100％）

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究・制作の進め方、スケジュール、単位認定方法など
2	先輩の卒論研究・制作の概要	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業研究の概観
3	先輩の卒業研究・制作の分析	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析
4	先輩の卒業研究・制作の分析結果発表	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析した結果をゼミ内発表
5	卒業研究・制作のテーマ構想	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、卒業研究・制作の方向性を構想
6	先行研究の分析1	先行研究・制作の論文・作品集などを量的に収集
7	先行研究の分析2	先行研究・制作の論文・作品集などを質的に分析（目的・方法・内容・結果の吟味）
8	先行研究の分析3	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作の一つを選び目的、方法、内容、結果を分析しゼミ内発表
9	テーマの決定	卒業研究・制作のテーマを決定
10	研究目的の明確化	研究目的と研究対象の吟味
11	研究計画の作成	研究活動スケジュールの確定
12	研究倫理の確認	該当する研究領域の研究倫理規程を確認
13	調査研究・文献研究・制作の開始	研究計画に沿った研究活動の展開
14	調査研究・文献研究・制作の吟味	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
15	調査研究・文献研究・制作の修正	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正（夏季休業中の研究計画の決定）
16	研究・制作の結果の考察	これまでの研究・制作活動の中間まとめ
17	研究テーマの最終決定	研究テーマと副題の決定（変更可能性あり）
18	序論の執筆（卒業研究の場合）	研究テーマ設定の動機、理由、意義
19	問題の所在	先行研究のレビューと研究目的の執筆
20	研究方法の執筆	研究の方法の振り返りと整理
21	研究過程の執筆	調査研究・文献研究のプロセスを確認
22	結果の概観	研究結果の全体像を概観
23	結果の吟味	研究結果を分析的に吟味
24	結果と考察の執筆	結果の事実から論証できる考察を執筆
25	結果と考察の確認	結果の事実から論証できる考察の確認
26	結果と考察の修正	指導教員を吟味し結果と考察の修正

27	結論の確認	論文全体の結論まとめ
28	序論・問題設定の再吟味	結論に基づく問題所在・仮説の再吟味
29	論文全体の推敲	論文全体の確認修正
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業 科目名	卒業研究 [FC]				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

こども発達学科での学習の総まとめとして、卒業論文または卒業制作に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

### <授業の到達目標>

こども発達学科での学習を踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づく卒業論文を完成させる。特に次世代教育学の学士を取得するということを踏まえ、テーマの設定を行う。

### <授業の方法>

授業は、各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行いが、基本的には個別指導を展開する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

文献の紹介や、中間報告などを用いる。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究または卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業研究への意欲(30%)卒業研究（70%）

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究・制作の進め方、スケジュール、単位認定方法など
2	先輩の卒論研究・制作の概要	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業研究の概観
3	先輩の卒業研究・制作の分析	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析
4	先輩の卒業研究・制作の分析結果発表	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析した結果をゼミ内発表
5	卒業研究・制作のテーマ構想	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、卒業研究・制作の方向性を構想
6	先行研究の分析1	先行研究・制作の論文・作品集などを量的に収集
7	先行研究の分析2	先行研究・制作の論文・作品集などを質的に分析（目的・方法・内容・結果の吟味）
8	先行研究の分析3	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作の一つを選び目的、方法、内容、結果を分析しゼミ内発表
9	テーマの決定	卒業研究・制作のテーマを決定
10	研究目的の明確化	研究目的と研究対象の吟味
11	研究計画の作成	研究活動スケジュールの確定
12	研究倫理の確認	該当する研究領域の研究倫理規程を確認
13	調査研究・文献研究・制作の開始	研究計画に沿った研究活動の展開
14	調査研究・文献研究・制作の吟味	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
15	調査研究・文献研究・制作の修正	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正(夏季休業中の研究計画の決定)
16	研究・制作の結果の考察	これまでの研究・制作活動の中間まとめ
17	研究テーマの最終決定	研究テーマと副題の決定（変更可能性あり）
18	序論の執筆（卒業研究の場合）	研究テーマ設定の動機、理由、意義
19	問題の所在	先行研究のレビューと研究目的の執筆
20	研究方法の執筆	研究の方法の振り返りと整理
21	研究過程の執筆	調査研究・文献研究のプロセスを確認
22	結果の概観	研究結果の全体像を概観
23	結果の吟味	研究結果を分析的に吟味
24	結果と考察の執筆	結果の事実から論証できる考察を執筆
25	結果と考察の確認	結果の事実から論証できる考察の確認

26	結果と考察の修正	指導教員を吟味し結果と考察の修正
27	結論の確認	論文全体の結論まとめ
28	序論・問題設定の再吟味	結論に基づく問題所在・仮説の再吟味
29	論文全体の推敲	論文全体の確認修正
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FC]				担当者名	宮原 舞			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

こども発達学科での学習の総まとめとして、卒業論文または卒業制作に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

### <授業の到達目標>

こども発達学科での学習を踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づく卒業論文または卒業制作を完成させる。

### <授業の方法>

授業は、各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行いが、基本的には個別指導を展開する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素無

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究または卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業研究または卒業制作の成果物（100％）

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究・制作の進め方、スケジュール、単位認定方法など
2	先輩の卒論研究・制作の概要	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業研究の概観
3	先輩の卒業研究・制作の分析	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析
4	先輩の卒業研究・制作の分析結果発表	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析した結果をゼミ内発表
5	卒業研究・制作のテーマ構想	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、卒業研究・制作の方向性を構想
6	先行研究の分析1	先行研究・制作の論文・作品集などを量的に収集
7	先行研究の分析2	先行研究・制作の論文・作品集などを質的に分析（目的・方法・内容・結果の吟味）
8	先行研究の分析3	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作の一つを選び目的、方法、内容、結果を分析しゼミ内発表
9	テーマの決定	卒業研究・制作のテーマを決定
10	研究目的の明確化	研究目的と研究対象の吟味
11	研究計画の作成	研究活動スケジュールの確定
12	研究倫理の確認	該当する研究領域の研究倫理規程を確認
13	調査研究・文献研究・制作の開始	研究計画に沿った研究活動の展開
14	調査研究・文献研究・制作の吟味	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
15	調査研究・文献研究・制作の修正	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正（夏季休業中の研究計画の決定）
16	研究・制作の結果の考察	これまでの研究・制作活動の中間まとめ
17	研究テーマの最終決定	研究テーマと副題の決定（変更可能性あり）
18	序論の執筆（卒業研究の場合）	研究テーマ設定の動機、理由、意義
19	問題の所在	先行研究のレビューと研究目的の執筆
20	研究方法の執筆	研究の方法の振り返りと整理
21	研究過程の執筆	調査研究・文献研究のプロセスを確認
22	結果の概観	研究結果の全体像を概観
23	結果の吟味	研究結果を分析的に吟味
24	結果と考察の執筆	結果の事実から論証できる考察を執筆
25	結果と考察の確認	結果の事実から論証できる考察の確認
26	結果と考察の修正	指導教員を吟味し結果と考察の修正

27	結論の確認	論文全体の結論まとめ
28	序論・問題設定の再吟味	結論に基づく問題所在・仮説の再吟味
29	論文全体の推敲	論文全体の確認修正
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業 科目名	卒業研究 [FC]				担当者名	後藤 由佳			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

こども発達学科での学習の総まとめとして、卒業論文または卒業制作に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

#### <授業の到達目標>

こども発達学科での学びを踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づき、卒業論文または卒業制作を完成させる。

#### <授業の方法>

授業は、各ゼミナール担当教員から演習・実技指導を受ける。研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行うが、その他は個別指導を展開する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素無

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究または卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業論文または卒業制作の成果物 100%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究・制作の進め方、スケジュール、単位認定方法など
2	先輩の卒論研究・制作の概要	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業研究の概観
3	先輩の卒業研究・制作の分析	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析
4	先輩の卒業研究・制作の分析結果発表	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析した結果をゼミ内発表
5	卒業研究・制作のテーマ構想	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、卒業研究・制作の方向性を構想
6	先行研究の分析 1	先行研究・制作の論文・作品集などを量的に収集
7	先行研究の分析 2	先行研究・制作の論文・作品集などを質的に分析（目的・方法・内容・結果の吟味）
8	先行研究の分析 3	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作を一つ選び目的、方法、内容、結果を分析しゼミ内発表
9	テーマの決定	卒業研究・制作のテーマを決定
10	研究目的の明確化	研究目的と研究対象の吟味
11	研究計画の作成	研究活動スケジュールの確定
12	研究倫理の確認	該当する研究領域の研究倫理規程を確認
13	調査研究・文献研究・制作の開始	研究計画に沿った研究活動の展開
14	調査研究・文献研究・制作の吟味	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
15	調査研究・文献研究・制作の修正	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正（夏季休業中の研究計画の決定）
16	研究・制作の結果の考察	これまでの研究・制作活動の中間まとめ
17	研究テーマの最終決定	研究テーマと副題の決定（変更可能性あり）
18	序論の執筆（卒業研究の場合）	研究テーマ設定の動機、理由、意義
19	問題の所在	先行研究のレビューと研究目的の執筆
20	研究方法の執筆	研究の方法の振り返りと整理
21	研究過程の執筆	調査研究・文献研究のプロセスを確認
22	結果の概観	研究結果の全体像を概観
23	結果の吟味	研究結果を分析的に吟味
24	結果と考察の執筆	結果の事実から論証できる考察を執筆
25	結果と考察の確認	結果の事実から論証できる考察の確認
26	結果と考察の修正	指導教員を吟味し結果と考察の修正
27	結論の確認	論文全体の結論まとめ
28	序論・問題設定の再吟味	結論に基づく問題所在・仮説の再吟味

29	論文全体の推敲	論文全体の確認修正
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FC]				担当者名	本庄 慶樹			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

こども発達学科での学習の総まとめとして、卒業論文または卒業制作に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

#### <授業の到達目標>

こども発達学科での学習を踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づく卒業論文または卒業制作を完成させる。

#### <授業の方法>

授業は、各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行いが、基本的には個別指導を展開する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究または卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業研究または卒業制作の成果物（100％）

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究・制作の進め方、スケジュール、単位認定方法など
2	先輩の卒論研究・制作の概要	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業研究の概観
3	先輩の卒業研究・制作の分析	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析
4	先輩の卒業研究・制作の分析結果発表	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析した結果をゼミ内発表
5	卒業研究・制作のテーマ構想	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、卒業研究・制作の方向性を構想
6	先行研究の分析1	先行研究・制作の論文・作品集などを量的に取集
7	先行研究の分析2	先行研究・制作の論文・作品集などを質的に分析（目的・方法・内容・結果の吟味）
8	先行研究の分析3	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作の一つ選び目的、方法、内容、結果を分析しゼミ内発表
9	テーマの決定	卒業研究・制作のテーマを決定
10	研究目的の明確化	研究目的と研究対象の吟味
11	研究計画の作成	研究活動スケジュールの確定
12	研究倫理の確認	該当する研究領域の研究倫理規程を確認
13	調査研究・文献研究・制作の開始	研究計画に沿った研究活動の展開
14	調査研究・文献研究・制作の吟味	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
15	調査研究・文献研究・制作の修正	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正（夏季休業中の研究計画の決定）
16	研究・制作の結果の考察	これまでの研究・制作活動の中間まとめ
17	研究テーマの最終決定	研究テーマと副題の決定（変更可能性あり）
18	序論の執筆（卒業研究の場合）	研究テーマ設定の動機、理由、意義
19	問題の所在	先行研究のレビューと研究目的の執筆
20	研究方法の執筆	研究の方法の振り返りと整理
21	研究過程の執筆	調査研究・文献研究のプロセスを確認
22	結果の概観	研究結果の全体像を概観
23	結果の吟味	研究結果を分析的に吟味
24	結果と考察の執筆	結果の事実から論証できる考察を執筆
25	結果と考察の確認	結果の事実から論証できる考察の確認
26	結果と考察の修正	指導教員を吟味し結果と考察の修正
27	結論の確認	論文全体の結論まとめ

28	序論・問題設定の再吟味	結論に基づく問題所在・仮説の再吟味
29	論文全体の推敲	論文全体の確認修正
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	田中 耕作			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

### <授業の到達目標>

卒業論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素：あり課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、ディスカッションを行う。

### <準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%、発表・課題50%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的と進め方
2	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
3	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
4	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
5	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
6	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
7	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
8	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
9	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
10	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
11	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
12	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
13	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
14	前期卒業論文進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期卒業論文進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
17	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
18	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
19	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
20	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
21	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
22	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
23	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。

24	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
25	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
26	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
27	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
28	後期ゼミ内発表①	最終論文発表準備
29	後期ゼミ内発表②	最終論文発表準備
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業 科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	梶谷 亮輔			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

#### <授業の到達目標>

卒業論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

#### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり必要に応じてディスカッションを行う

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%、発表・課題50%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的と進め方
2	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
3	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
4	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
5	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
6	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
7	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
8	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
9	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
10	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
11	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
12	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
13	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
14	前期卒業論文進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期卒業論文進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
17	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
18	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
19	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
20	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
21	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
22	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
23	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
24	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。

25	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
26	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
27	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
28	後期ゼミ内発表①	最終論文発表準備
29	後期ゼミ内発表②	最終論文発表準備
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

### <授業の到達目標>

卒業論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素：あり課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、ディスカッションを行う。

### <準備学習等（予習・復習）※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%、発表・課題50%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的と進め方
2	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
3	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
4	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
5	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
6	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
7	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
8	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
9	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
10	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
11	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
12	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
13	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
14	前期卒業論文進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期卒業論文進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
17	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
18	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
19	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
20	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
21	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
22	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
23	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。

24	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
25	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
26	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
27	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
28	後期ゼミ内発表①	最終論文発表準備
29	後期ゼミ内発表②	最終論文発表準備
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	小川 智勢子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本授業は、研究に関わる過程を体験し、卒業論文を執筆することを目的とする。論文執筆のための指導及び発表のためのプレゼンテーション指導を行う。

#### <授業の到達目標>

卒業論文の完成（本文12000字以上）と発表

#### <授業の方法>

論文執筆に向けての個別指導卒業論文中間発表卒業論文発表会（口頭試問）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等30％、中間発表20％、論文50％

#### <教科書>

特に指定しない

#### <参考書>

特に指定しない

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	卒業研究について	卒業研究の目的・内容・方法・評価等について理解する。
2	研究テーマの設定 1	各自が設定した研究テーマについて検討する。
3	研究テーマの設定 2	各自が設定した研究テーマについて検討する。
4	研究テーマの設定 3	各自が設定した研究テーマについて検討する。
5	研究テーマの設定 4	研究テーマを決定する。
6	研究計画書 1	各自が設定した研究テーマと研究方法に沿って、研究計画書を作成する。
7	研究計画書 2	各自が設定した研究テーマと研究方法に沿って、研究計画書を作成する。
8	研究計画書 3	各自が設定した研究テーマと研究方法に沿って、研究計画書を作成する。
9	情報収集 1	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
10	情報収集 2	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
11	情報収集 3	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
12	情報収集 4	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
13	情報収集 5	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
14	整理・分析 1	先行研究の整理及び分析をする。
15	整理・分析 2	先行研究の整理及び分析をする。
16	整理・分析 3	先行研究の整理及び分析をする。
17	論文の章立て	論文の章立ての検討をする。
18	卒業論文の執筆 1	各章ごと論文を執筆する。
19	卒業論文の執筆 2	各章ごと論文を執筆する。
20	卒業論文の執筆 3	各章ごと論文を執筆する。
21	卒業論文の執筆 4	各章ごと論文を執筆する。
22	卒業論文の執筆 5	各章ごと論文を執筆する。
23	卒業論文中間発表会 1	卒業論文の概要について発表する。
24	卒業論文中間発表会 2	卒業論文の概要について発表する。
25	卒業論文の執筆 6	中間発表会での指導を受けて、論文構成の修正及び執筆をする。
26	卒業論文の執筆 7	卒業論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備をする。
27	卒業論文の執筆 8	卒業論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備をする。
28	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表をする。

29	卒業論文の修正	卒業論文発表会での指導を受けて、論文を修正する。
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	濱嶋 幸司			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

卒業論文を作成し、発表するための論文指導及びプレゼンテーション指導を行う。

#### <授業の到達目標>

卒業論文の完成（本文12000字以上）

#### <授業の方法>

個別指導卒業論文中間発表会卒業論文発表会（口頭試問）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う 仮説に基づいた実証をするために先行研究の収集、具体的な実査を行う 研究進捗報告を行い、聞き手は報告者にフィードバックを行う

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究テーマの設定研究テーマに係る情報収集研究テーマに係る整理・分析研究テーマに係るまとめ方の検討

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

以下の点を総合して評価する①研究計画の適切性②先行研究のレビュー・独自性③論証④文章表現・文字数・誤字脱字

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	卒業研究について	研究の内容と方法について
2	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
3	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
4	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
5	研究テーマの設定	個人研究テーマの決定
6	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
7	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
8	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
9	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
10	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
11	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
12	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
13	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
14	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
15	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
16	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
17	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
18	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
19	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
20	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
21	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
22	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
23	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
24	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
25	卒業論文の執筆	中間発表会を受けての論文構成の修正及び必要な先行研究の収集
26	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
27	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
28	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表
29	卒業論文の修正	卒業論文発表会での指導を基に論文の修正
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	大野 呂 浩志			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

卒業論文を作成し、発表するための論文指導及びプレゼンテーション指導を行う。

#### <授業の到達目標>

卒業論文の完成（本文12000字以上）

#### <授業の方法>

個別指導卒業論文中間発表会卒業論文発表会（口頭試問）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・課題解決型授業／プレゼンテーション

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究テーマの設定研究テーマに係る情報収集研究テーマに係る整理・分析研究テーマに係るまとめ方の検討

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

以下の点を総合して評価する①研究計画の適切性②先行研究のレビュー・独自性③論証④文章表現・文字数・誤字脱字

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	卒業研究について	研究の内容と方法について
2	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
3	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
4	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
5	研究テーマの設定	個人研究テーマの決定
6	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
7	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
8	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
9	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
10	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
11	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
12	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
13	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
14	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
15	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
16	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
17	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
18	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
19	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
20	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
21	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
22	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
23	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
24	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
25	卒業論文の執筆	中間発表会を受けての論文構成の修正及び必要な先行研究の収集
26	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
27	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
28	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表
29	卒業論文の修正	卒業論文発表会での指導を基に論文の修正
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業 科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	三堀 仁			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

卒業論文を作成し、発表するための論文指導及びプレゼンテーション指導を行う。

#### <授業の到達目標>

卒業論文の完成（本文12000字以上）

#### <授業の方法>

個別指導卒業論文中間発表会卒業論文発表会（口頭試問）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

卒業論文中間発表会などの場面で他者の発表や教員の指導・助言を聞き、質問をしたり自分の研究に取り入れたりする。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究テーマの設定研究テーマに係る情報収集研究テーマに係る整理・分析研究テーマに係るまとめ方の検討

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

以下の点を総合して評価する①研究計画の適切性②先行研究のレビュー・独自性③論証④文章表現・文字数・誤字脱字

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	卒業研究について	研究の内容と方法について
2	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
3	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
4	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
5	研究テーマの設定	個人研究テーマの決定
6	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
7	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
8	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
9	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
10	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
11	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
12	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
13	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
14	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
15	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
16	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
17	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
18	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
19	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
20	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
21	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
22	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
23	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
24	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
25	卒業論文の執筆	中間発表会を受けての論文構成の修正及び必要な先行研究の収集
26	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
27	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
28	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表
29	卒業論文の修正	卒業論文発表会での指導を基に論文の修正
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業 科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	鉦 悠介			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

卒業論文を作成し、発表するための論文指導及びプレゼンテーション指導を行う。

#### <授業の到達目標>

卒業論文の完成（本文12000字以上）

#### <授業の方法>

個別指導卒業論文中間発表会卒業論文発表会（口頭試問）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有。進捗状況についてのプレゼン及び質疑応答。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究テーマの設定研究テーマに係る情報収集研究テーマに係る整理・分析研究テーマに係るまとめ方の検討

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

以下の点を総合して評価する①研究計画の適切性②先行研究のレビュー・独自性③論証④文章表現・文字数・誤字脱字

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	卒業研究について	研究の内容と方法について
2	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
3	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
4	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
5	研究テーマの設定	個人研究テーマの決定
6	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
7	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
8	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
9	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
10	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
11	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
12	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
13	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
14	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
15	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
16	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
17	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
18	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
19	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
20	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
21	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
22	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
23	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
24	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
25	卒業論文の執筆	中間発表会を受けての論文構成の修正及び必要な先行研究の収集
26	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
27	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
28	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表
29	卒業論文の修正	卒業論文発表会での指導を基に論文の修正
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業 科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

### <授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィールドワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有基本的に自身で調べてプレゼンテーションを用意し、ゼミ内で発表し、ディスカッションを行う。

### <準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組(グループへの貢献度含む)50%、課題 50%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方 目標設定
2	研究計画作成	仮説 背景
3	研究計画作成	目的 方法
4	進捗発表会①	研究テーマ発表 ディスカッション
5	進捗発表会②	研究テーマ発表 ディスカッション
6	進捗発表会③	研究テーマ発表 ディスカッション
7	予備実験①	データの採取、解析
8	予備実験②	データの採取、解析
9	予備実験③	データの採取、解析
10	予備実験 発表会①	予備実験データ発表 ディスカッション
11	予備実験 発表会②	予備実験データ発表 ディスカッション
12	予備実験 発表会③	予備実験データ発表 ディスカッション
13	予備実験 発表会④	予備実験データ発表 ディスカッション
14	後期研究に向けて計画	予備実験を参考に背景、目的、方法を再度作成
15	前期まとめ	前期まとめと後期向けの課題
16	卒業研究①	本実験
17	卒業研究②	本実験
18	卒業研究③	本実験
19	卒業研究④	本実験
20	卒業研究⑤	本実験
21	卒業研究⑥	進捗発表 ディスカッション
22	卒業研究⑦	進捗発表 ディスカッション
23	卒業研究⑧	進捗発表 ディスカッション
24	卒業研究⑨	卒業論文の書き方

25	卒業研究⑩	抄録の書き方
26	卒業研究⑪	論文作成
27	卒業研究⑫	論文作成
28	卒業研究⑬	発表資料作成
29	卒業研究⑭	発表資料作成
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業 科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	早田 剛			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

#### <授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

#### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィールドワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：有実験計画立案や実験実施、考察検討には、共同作業及びディスカッションを行なっていく。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組（グループへの貢献度含む）50%、課題 50%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方 目標設定
2	研究計画作成	仮説 背景
3	研究計画作成	目的 方法
4	進捗発表会①	研究テーマ発表 ディスカッション
5	進捗発表会②	研究テーマ発表 ディスカッション
6	進捗発表会③	研究テーマ発表 ディスカッション
7	予備実験①	データの採取、解析
8	予備実験②	データの採取、解析
9	予備実験③	データの採取、解析
10	予備実験 発表会①	予備実験データ発表 ディスカッション
11	予備実験 発表会②	予備実験データ発表 ディスカッション
12	予備実験 発表会③	予備実験データ発表 ディスカッション
13	予備実験 発表会④	予備実験データ発表 ディスカッション
14	後期研究に向けて計画	予備実験を参考に背景、目的、方法を再度作成
15	前期まとめ	前期まとめと後期向けの課題
16	卒業研究①	本実験
17	卒業研究②	本実験
18	卒業研究③	本実験
19	卒業研究④	本実験
20	卒業研究⑤	本実験
21	卒業研究⑥	進捗発表 ディスカッション
22	卒業研究⑦	進捗発表 ディスカッション
23	卒業研究⑧	進捗発表 ディスカッション
24	卒業研究⑨	卒業論文の書き方
25	卒業研究⑩	抄録の書き方

26	卒業研究⑪	論文作成
27	卒業研究⑫	論文作成
28	卒業研究⑬	発表資料作成
29	卒業研究⑭	発表資料作成
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	4年	配当学期	集中	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

### <授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：定期的な課題発表を行い、グループディスカッションを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組（グループへの貢献度含む）50%、課題 50%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方 目標設定
2	研究計画作成	仮説 背景
3	研究計画作成	目的 方法
4	進捗発表会①	研究テーマ発表 ディスカッション
5	進捗発表会②	研究テーマ発表 ディスカッション
6	進捗発表会③	研究テーマ発表 ディスカッション
7	予備実験①	データの採取、解析
8	予備実験②	データの採取、解析
9	予備実験③	データの採取、解析
10	予備実験 発表会①	予備実験データ発表 ディスカッション
11	予備実験 発表会②	予備実験データ発表 ディスカッション
12	予備実験 発表会③	予備実験データ発表 ディスカッション
13	予備実験 発表会④	予備実験データ発表 ディスカッション
14	後期研究に向けて計画	予備実験を参考に背景、目的、方法を再度作成
15	前期まとめ	前期まとめと後期向けの課題
16	卒業研究①	本実験
17	卒業研究②	本実験
18	卒業研究③	本実験
19	卒業研究④	本実験
20	卒業研究⑤	本実験
21	卒業研究⑥	進捗発表 ディスカッション
22	卒業研究⑦	進捗発表 ディスカッション
23	卒業研究⑧	進捗発表 ディスカッション
24	卒業研究⑨	卒業論文の書き方
25	卒業研究⑩	抄録の書き方

26	卒業研究⑪	論文作成
27	卒業研究⑫	論文作成
28	卒業研究⑬	発表資料作成
29	卒業研究⑭	発表資料作成
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	浦 佑大			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

### <授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有必要に応じてグループワークを取り入れる

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組（グループへの貢献度含む）50%、課題 50%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方 目標設定
2	研究計画作成	仮説 背景
3	研究計画作成	目的 方法
4	進捗発表会①	研究テーマ発表 ディスカッション
5	進捗発表会②	研究テーマ発表 ディスカッション
6	進捗発表会③	研究テーマ発表 ディスカッション
7	予備実験①	データの採取、解析
8	予備実験②	データの採取、解析
9	予備実験③	データの採取、解析
10	予備実験 発表会①	予備実験データ発表 ディスカッション
11	予備実験 発表会②	予備実験データ発表 ディスカッション
12	予備実験 発表会③	予備実験データ発表 ディスカッション
13	予備実験 発表会④	予備実験データ発表 ディスカッション
14	後期研究に向けて計画	予備実験を参考に背景、目的、方法を再度作成
15	前期まとめ	前期まとめと後期向けの課題
16	卒業研究①	本実験
17	卒業研究②	本実験
18	卒業研究③	本実験
19	卒業研究④	本実験
20	卒業研究⑤	本実験
21	卒業研究⑥	進捗発表 ディスカッション
22	卒業研究⑦	進捗発表 ディスカッション
23	卒業研究⑧	進捗発表 ディスカッション
24	卒業研究⑨	卒業論文の書き方
25	卒業研究⑩	抄録の書き方

26	卒業研究⑪	論文作成
27	卒業研究⑫	論文作成
28	卒業研究⑬	発表資料作成
29	卒業研究⑭	発表資料作成
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業 科目名	卒業研究 [PH]				担当者名	古山 喜一			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、柔道整復師として、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

### <授業の到達目標>

研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。

### <授業の方法>

ゼミナールⅡは日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付け、および修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける。ゼミナールにおいて明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ学習において双方向で理解度を確認する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し、研究仮説を立てること。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP4 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題達成度 70%、学習意欲30%（事前課題、レポート等）で評価する。

### <教科書>

### <参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意，評価方法，講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定（1）	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定（2）	研究テーマ発表と討議（2）
5	研究方法の決定（1）	シンスプリントの発生機序と予防方法
6	研究方法の決定（2）	研究方法の精査
7	研究方法の決定（3）	結果の検討
8	研究方法の決定（4）	統計処理の検討
9	卒業論文の模範（1）	良い例
10	卒業論文の模範（2）	悪い例
11	研究計画の立案（1）	実験被験者確保とヘルシ宣言に関する理解
12	研究計画の立案（2）	実験スケジュールの立案
13	予備実験（1）	予備実験（1）
14	予備実験（2）	予備実験（2）
15	中間報告（1）	中間報告（1）
16	論文の組み立て（1）	章立て検討
17	論文の組み立て（2）	章立て発表
18	実験（1）	実験準備
19	実験（2）	実験実施（1）
20	実験（3）	実験実施（2）
21	実験（4）	実験データ解析
22	個別指導（1）	課題研究の遂行と個別指導（1）
23	個別指導（2）	課題研究の遂行と個別指導（2）
24	個別指導（3）	課題研究の遂行と個別指導（3）

25	個別指導 (4)	課題研究の遂行と個別指導 (4)
26	個別指導 (5)	課題研究の遂行と個別指導 (5)
27	個別指導 (6)	プレゼンの理解
28	個別指導 (7)	プレゼン資料の作成
29	個別指導 (8)	プレゼン発表
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PH]				担当者名	河野 儀久			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、柔道整復師として、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

### <授業の到達目標>

研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。

### <授業の方法>

ゼミナールⅡは健康科学科のディプロマポリシー7（日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付ける）および8（修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける）と関連付けている。ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

研究プレゼンテーション

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し、研究仮説を立てること。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題達成度 70%、学習意欲30%で評価する。

### <教科書>

### <参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意，評価方法，講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定（1）	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定（2）	研究テーマ発表と討議（2）
5	研究方法の決定（1）	シンスプリントの発生機序と予防方法
6	研究方法の決定（2）	研究方法の精査
7	研究方法の決定（3）	結果の検討
8	研究方法の決定（4）	統計処理の検討
9	卒業論文の模範（1）	良い例
10	卒業論文の模範（2）	悪い例
11	研究計画の立案（1）	実験被験者確保とヘルシ宣言に関する理解
12	研究計画の立案（2）	実験スケジュールの立案
13	予備実験（1）	予備実験（1）
14	予備実験（2）	予備実験（2）
15	中間報告（1）	中間報告（1）
16	論文の組み立て（1）	章立て検討
17	論文の組み立て（2）	章立て発表
18	実験（1）	実験準備
19	実験（2）	実験実施（1）
20	実験（3）	実験実施（2）
21	実験（4）	実験データ解析
22	個別指導（1）	課題研究の遂行と個別指導（1）
23	個別指導（2）	課題研究の遂行と個別指導（2）

24	個別指導 (3)	課題研究の遂行と個別指導 (3)
25	個別指導 (4)	課題研究の遂行と個別指導 (4)
26	個別指導 (5)	課題研究の遂行と個別指導 (5)
27	個別指導 (6)	プレゼンの理解
28	個別指導 (7)	プレゼン資料の作成
29	個別指導 (8)	プレゼン発表
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PH]				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、柔道整復師として、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

#### <授業の到達目標>

研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。

#### <授業の方法>

ゼミナールⅡは健康科学科のディプロマポリシー7（日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付ける）および8（修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける）と関連付けている。ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

出現した課題に対してグループワークを実施する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し、研究仮説を立てること。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題達成度 70%、学習意欲30%で評価する。

#### <教科書>

#### <参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意，評価方法，講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定（1）	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定（2）	研究テーマ発表と討議（2）
5	研究方法の決定（1）	シンスプリントの発生機序と予防方法
6	研究方法の決定（2）	研究方法の精査
7	研究方法の決定（3）	結果の検討
8	研究方法の決定（4）	統計処理の検討
9	卒業論文の模範（1）	良い例
10	卒業論文の模範（2）	悪い例
11	研究計画の立案（1）	実験被験者確保とヘルシ宣言に関する理解
12	研究計画の立案（2）	実験スケジュールの立案
13	予備実験（1）	予備実験（1）
14	予備実験（2）	予備実験（2）
15	中間報告（1）	中間報告（1）
16	論文の組み立て（1）	章立て検討
17	論文の組み立て（2）	章立て発表
18	実験（1）	実験準備
19	実験（2）	実験実施（1）
20	実験（3）	実験実施（2）
21	実験（4）	実験データ解析
22	個別指導（1）	課題研究の遂行と個別指導（1）
23	個別指導（2）	課題研究の遂行と個別指導（2）

24	個別指導 (3)	課題研究の遂行と個別指導 (3)
25	個別指導 (4)	課題研究の遂行と個別指導 (4)
26	個別指導 (5)	課題研究の遂行と個別指導 (5)
27	個別指導 (6)	プレゼンの理解
28	個別指導 (7)	プレゼン資料の作成
29	個別指導 (8)	プレゼン発表
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PH]				担当者名	宮本 彩			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、柔道整復師として、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

### <授業の到達目標>

研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。

### <授業の方法>

ゼミナールⅡは健康科学科のディプロマポリシー7（日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付ける）および8（修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける）と関連付けている。ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有無；有り自ら設定した課題に対して探求し、その成果を発表する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し、研究仮説を立てること。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題達成度 70%、学習意欲30%（事前課題、レポート等）で評価する。

### <教科書>

### <参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意，評価方法，講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定（1）	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定（2）	研究テーマ発表と討議（2）
5	研究方法の決定（1）	シンスプリントの発生機序と予防方法
6	研究方法の決定（2）	研究方法の精査
7	研究方法の決定（3）	結果の検討
8	研究方法の決定（4）	統計処理の検討
9	卒業論文の模範（1）	良い例
10	卒業論文の模範（2）	悪い例
11	研究計画の立案（1）	実験被験者確保とヘルシ宣言に関する理解
12	研究計画の立案（2）	実験スケジュールの立案
13	予備実験（1）	予備実験（1）
14	予備実験（2）	予備実験（2）
15	中間報告（1）	中間報告（1）
16	論文の組み立て（1）	章立て検討
17	論文の組み立て（2）	章立て発表
18	実験（1）	実験準備
19	実験（2）	実験実施（1）
20	実験（3）	実験実施（2）
21	実験（4）	実験データ解析
22	個別指導（1）	課題研究の遂行と個別指導（1）
23	個別指導（2）	課題研究の遂行と個別指導（2）

24	個別指導 (3)	課題研究の遂行と個別指導 (3)
25	個別指導 (4)	課題研究の遂行と個別指導 (4)
26	個別指導 (5)	課題研究の遂行と個別指導 (5)
27	個別指導 (6)	プレゼンの理解
28	個別指導 (7)	プレゼン資料の作成
29	個別指導 (8)	プレゼン発表
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PH]				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、柔道整復師として、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

### <授業の到達目標>

研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。

### <授業の方法>

ゼミナールⅡは健康科学科のディプロマポリシー7（日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付ける）および8（修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける）と関連付けている。ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し、研究仮説を立てること。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題達成度 70%、学習意欲30%で評価する。

### <教科書>

### <参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

赤間高雄（2014年3月） はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ8 スポーツ医学【内科】 化学同人

Scott K. Powers., Edward T. Howley（2020年8月）日本語版監修 内藤久士 柳谷登志雄 小林裕幸 高澤祐治 パワーズ運動生理学 メディカル・サイエンス・インターナショナル

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意，評価方法，講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定（1）	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定（2）	研究テーマ発表と討議（2）
5	研究方法の決定（1）	心拍数・運動負荷試験・乳酸測定の方法
6	研究方法の決定（2）	研究方法の精査
7	研究方法の決定（3）	結果の検討
8	研究方法の決定（4）	統計処理の検討
9	卒業論文の模範（1）	良い例
10	卒業論文の模範（2）	悪い例
11	研究計画の立案（1）	実験被験者確保とヘルシ宣言に関する理解
12	研究計画の立案（2）	実験スケジュールの立案
13	予備実験（1）	予備実験（1）
14	予備実験（2）	予備実験（2）
15	中間報告（1）	中間報告（1）
16	論文の組み立て（1）	章立て検討
17	論文の組み立て（2）	章立て発表
18	実験（1）	実験準備
19	実験（2）	実験実施（1）
20	実験（3）	実験実施（2）

21	実験 (4)	実験データ解析
22	個別指導 (1)	課題研究の遂行と個別指導 (1)
23	個別指導 (2)	課題研究の遂行と個別指導 (2)
24	個別指導 (3)	課題研究の遂行と個別指導 (3)
25	個別指導 (4)	課題研究の遂行と個別指導 (4)
26	個別指導 (5)	課題研究の遂行と個別指導 (5)
27	個別指導 (6)	プレゼンの理解
28	個別指導 (7)	プレゼン資料の作成
29	個別指導 (8)	プレゼン発表
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PH]				担当者名	簗戸 崇史			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、柔道整復師として、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

### <授業の到達目標>

研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。

### <授業の方法>

ゼミナールⅡは健康科学科のディプロマポリシー7（日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付ける）および8（修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける）と関連付けている。ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

個々に課題をもって調査した内容を話し、まとめ、発表するなどの主体的かつ対話性を持った取り組みを実施する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し、研究仮説を立てること。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題達成度 70%、学習意欲30%で評価する。

### <教科書>

### <参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意，評価方法，講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定（1）	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定（2）	研究テーマ発表と討議（2）
5	研究方法の決定（1）	シンスプリントの発生機序と予防方法
6	研究方法の決定（2）	研究方法の精査
7	研究方法の決定（3）	結果の検討
8	研究方法の決定（4）	統計処理の検討
9	卒業論文の模範（1）	良い例
10	卒業論文の模範（2）	悪い例
11	研究計画の立案（1）	実験被験者確保とヘルシ宣言に関する理解
12	研究計画の立案（2）	実験スケジュールの立案
13	予備実験（1）	予備実験（1）
14	予備実験（2）	予備実験（2）
15	中間報告（1）	中間報告（1）
16	論文の組み立て（1）	章立て検討
17	論文の組み立て（2）	章立て発表
18	実験（1）	実験準備
19	実験（2）	実験実施（1）
20	実験（3）	実験実施（2）
21	実験（4）	実験データ解析
22	個別指導（1）	課題研究の遂行と個別指導（1）
23	個別指導（2）	課題研究の遂行と個別指導（2）

24	個別指導 (3)	課題研究の遂行と個別指導 (3)
25	個別指導 (4)	課題研究の遂行と個別指導 (4)
26	個別指導 (5)	課題研究の遂行と個別指導 (5)
27	個別指導 (6)	プレゼンの理解
28	個別指導 (7)	プレゼン資料の作成
29	個別指導 (8)	プレゼン発表
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。

#### <授業の到達目標>

研究を通して体育人としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。

#### <授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとり、基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、学生が自ら研究テーマを設定し、計画立案から発表までの過程を主体的に進める。演習形式による発表や討議、個別指導を通じて、課題発見力や論理的思考力を育む学習が展開され、アクティブラーニングの要素が含まれている。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

文献研究、プレゼンテーションの準備等

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 30%、研究論文 50%、プレゼンテーション能力 20%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意，評価方法，講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定（1）	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定（2）	研究テーマ発表と討議（2）
5	研究方法の決定（1）	研究方法の精査
6	研究方法の決定（2）	研究方法の精査
7	研究方法の決定（3）	結果の検討
8	研究方法の決定（4）	統計処理の検討
9	卒業論文の模範（1）	良い例
10	卒業論文の模範（2）	悪い例
11	研究計画の立案（1）	実験被験者確保とヘルシキ宣言に関する理解
12	研究計画の立案（2）	実験スケジュールの立案
13	予備実験（1）	予備実験（1）
14	予備実験（2）	予備実験（2）
15	中間報告（1）	中間報告（1）
16	論文の組み立て（1）	章立て検討
17	論文の組み立て（2）	章立て発表
18	実験（1）	実験準備
19	実験（2）	実験実施（1）
20	実験（3）	実験実施（2）
21	実験（4）	実験データ解析
22	個別指導（1）	課題研究の遂行と個別指導（1）
23	個別指導（2）	課題研究の遂行と個別指導（2）
24	個別指導（3）	課題研究の遂行と個別指導（3）
25	個別指導（4）	課題研究の遂行と個別指導（4）
26	個別指導（5）	課題研究の遂行と個別指導（5）

27	個別指導 (6)	プレゼンの理解
28	個別指導 (7)	プレゼン資料の作成
29	個別指導 (8)	プレゼン発表
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。

#### <授業の到達目標>

研究を通して体育人としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。

#### <授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとり、基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

受講生同士で課題を分析・議論し、解決策を導く「グループディスカッション」や「ケーススタディ」を通じて主体的な思考力と実践力を養う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

文献研究、プレゼンテーションの準備等

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 30%、研究論文 50%、プレゼンテーション能力 20%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意，評価方法，講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定（1）	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定（2）	研究テーマ発表と討議（2）
5	研究方法の決定（1）	研究方法の精査
6	研究方法の決定（2）	研究方法の精査
7	研究方法の決定（3）	結果の検討
8	研究方法の決定（4）	統計処理の検討
9	卒業論文の模範（1）	良い例
10	卒業論文の模範（2）	悪い例
11	研究計画の立案（1）	実験被験者確保とヘルシキ宣言に関する理解
12	研究計画の立案（2）	実験スケジュールの立案
13	予備実験（1）	予備実験（1）
14	予備実験（2）	予備実験（2）
15	中間報告（1）	中間報告（1）
16	論文の組み立て（1）	章立て検討
17	論文の組み立て（2）	章立て発表
18	実験（1）	実験準備
19	実験（2）	実験実施（1）
20	実験（3）	実験実施（2）
21	実験（4）	実験データ解析
22	個別指導（1）	課題研究の遂行と個別指導（1）
23	個別指導（2）	課題研究の遂行と個別指導（2）
24	個別指導（3）	課題研究の遂行と個別指導（3）
25	個別指導（4）	課題研究の遂行と個別指導（4）
26	個別指導（5）	課題研究の遂行と個別指導（5）

27	個別指導 (6)	プレゼンの理解
28	個別指導 (7)	プレゼン資料の作成
29	個別指導 (8)	プレゼン発表
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	木野 正一郎			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義、演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

ゼミナールⅡ（応用）では、3年生の『ゼミナールⅠ（基礎）』で深めてきた探究成果（社会人に求められる基礎的知識）を活用して、研究をより高度なレベルに深め、研究目的・研究方法・研究報告・考察・成果と課題を実践研究論文として卒業論文にまとめる。さらに、教育学の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識をさらに深め、より高度な問題意識の醸成と実践的な課題解決力の錬磨を目指す。

### <授業の到達目標>

3年生の『ゼミナールⅠ（基礎）』を発展的に継続して、教育職員に採用された後の皆さんの姿をイメージし、特にこのゼミナール出身者の中から各学校に設置されるミドルリーダー（「道德教育推進教諭」）になれるような資質・能力を形成することを目標としたい。「考え、議論する道德」のアクティブ・ラーニングについて授業設計や授業分析ができるようにテーマ探究をするのはもちろん、やがては道德教育の全体計画や年間指導計画、シラバスの作成等もできるように成長してもらいたい。

### <授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマ（3年生：『ゼミナールⅠ（基礎）』の個人テーマ）について、レポート（課題）作成、および、ディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（実践研究論文として卒業論文）へと集約させる。  
 <参考：3年生：『ゼミナールⅠ（基礎）』の内容>・前期は、道德的な観点から見た現代社会における教育的諸課題について、賛否両論を踏まえたディベートを行う。講義では2回を1セットにし、①情報収集（知識・技能の習得、ブレイン・ストーミング）→②ディベート（思考力・判断力・表現

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングあり・ディベート・ソクラテス的対話によるディスカッション・ブレイン・ストーミング（マトリックス法、SWOT分析、イメージマッピング等）・学習指導案制作・模擬授業と質的データの収集・成果の卒業論文（問題意識・研究方法・先行研究概観・開発した実践内容・データ分析・考察） 他

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い（情報探索）、その結果を事前にレポートにまとめたり（論点整理）、制作に取り組んだりする。研究の計画および方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度求める。（※連絡がとれる体制を教員と相談しておく。）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業態度等（関心・意欲・態度、課題意識と課題解決に向けた探究意識）：30％・研究成果（卒業論文）・レポート・課題の内容、到達度評価（知識・理解）：70％

### <教科書>

柳沼良太（2018年9月20日）『「現代的な課題」に取り組む道德授業』株式会社 図書文化社  
 柳沼良太編（2019年3月30日）『プラグマティズム、公共、道德』株式会社 あいり出版  
 柳沼良太著（2016年2月）『問題解決的な学習で創る 道德授業 超入門』明治図書出版株式会社

### <参考書>

田沼茂紀（2022年4月10日）『道德教育学の構想とその展開』株式会社 北樹出版  
 木野正一郎著（2025年3月31日）『教材学研究第36巻』「問題解決的で探究的なワークショップ型道德授業とその再検証」（注：講義にて配布します）日本教材学会研究紀要委員会  
 木野正一郎著（2016年3月31日）『早稲田大学大学院教職研究科紀要第8号』「『道德科』における問題解決ワークショップを用いた小単元構成の授業開発－『核心的価値（コア・バリュー）』に基づく補充・深化・統合の取り組みを通して－」（注：講義にて配布します）早稲田大学教職大学院紀要刊行委員会

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究指導Ⅰ－課題の探究活動①	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
3	研究指導Ⅰ－課題の探究活動②	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
4	研究指導Ⅰ－課題の探究活動③	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
5	研究指導Ⅰ－課題の探究活動④	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
6	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑤	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。

7	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑥	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
8	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑦	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
9	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑧	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
10	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑨	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
11	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑩	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
12	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑪	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
13	研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表（中間報告ないし学習指導案に基づく模擬授業）①	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表（中間報告、30分/人程度、うち10分は仲間から相互評価を受ける）をする。
14	研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表（中間報告ないし学習指導案に基づく模擬授業）②	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表（中間報告、30分/人程度、うち10分は仲間から相互評価を受ける）をする。
15	研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表（中間報告ないし学習指導案に基づく模擬授業）③	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表（中間報告、30分/人程度、うち10分は仲間から相互評価を受ける）をする。
16	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究①	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める。
17	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究②	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める。
18	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究③	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める。
19	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究④	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める。
20	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究⑤	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める。 実践研究論文（卒業論文）の書き方を学ぶ。・論文の構造づくり（章立てなどの「型」を教えます。）・文章の書き方（英語の五文型を意識した書き方。英語が苦手でも大丈夫です。文章の構造を教えます。）・接続詞の使い方（長文にならないように、上手に接続詞を使う方法を教えます。）・引用の方法（出典の明記と文中への投影方法を教えます。）
21	研究指導Ⅳ－実践研究論文（卒業論文）の書き方講座	実践研究論文（卒業論文）の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
22	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の卒業論文文化①	実践研究論文（卒業論文）の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
23	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の卒業論文文化②	実践研究論文（卒業論文）の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
24	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の卒業論文文化③	実践研究論文（卒業論文）の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
25	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の卒業論文文化④	実践研究論文（卒業論文）の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
26	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の卒業論文文化⑤	実践研究論文（卒業論文）の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
27	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の卒業論文文化⑥	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
28	研究指導Ⅵ－探究した研究成果の発表（最終報告）①	各人が探究してきた課題について、新たな問いも解明しつつ、論文化した成果と課題を含めて最終報告する（注：持ち時間は30分/人、うち10分は仲間からの相互評価を受ける）。
29	研究指導Ⅵ－探究した研究成果の発表（最終報告）②	各人が探究してきた課題について、新たな問いも解明しつつ、論文化した成果と課題を含めて最終報告する（注：持ち時間は30分/人、うち10分は仲間からの相互評価を受ける）。
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	浅田 栄里子			
配当年次	4年	配当学期	通期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業では、学生がそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究を本授業の構成員全体で支援する。

#### <授業の到達目標>

・ 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・ レポート発表及びディスカッションができる。・ 研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。・ 研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

#### <授業の方法>

各自の研究課題を明確化し、その課題について、実際に調査や実験等を行い、論文としてまとめていく。基本的に授業時間は学生による発表とそれについての討論とするが、個人の研究課題設定や発表資料の作成などにおいては、進捗状況 に応じて個別指導を行う。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有授業内において、各個人の研究テーマに沿って、研究の進捗状況を発表する。他のゼミ構成員による発表に対し、ディスカッションを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人が設定した課題に沿って研究を進め、その進捗状況の報告をレポートにまとめて、報告できるよう準備する。（2～3時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

教育経営学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に、DP8「修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取り組み、解決できる能力を身に付けている」に関連している。これまでに学修してきた内容をさらに深く探究し、教育学における追究課題の理論的・実践的な方略・方策の構築をめざす科目である。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、卒業論文70%

#### <教科書>

特に指定しない。

#### <参考書>

特に指定しない。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。

15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業では、学生がそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究を本授業の構成員全体で支援する。

#### <授業の到達目標>

1. 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。2. レポート発表及びディスカッションができる。3. 研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。4. 研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

#### <授業の方法>

各自の研究課題を明確化し、その課題について、実際に調査や実験等を行い、論文としてまとめていく。基本的に授業時間は学生による発表とそれについての討論とするが、個人の研究課題設定や発表資料の作成などにおいては、進捗状況 に応じて個別指導を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有調査の課題、フィールドワーク、グループディスカッション等

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人が設定した課題に沿って研究を進め、その進捗状況の報告をレポートにまとめて、報告できるよう準備する。（2～3時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。） と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、論文または卒業制作 70%

#### <教科書>

特に指定しない。

#### <参考書>

特に指定しない。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	竹下 厚志			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業では、学生がそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究を本授業の構成員全体で支援する。

#### <授業の到達目標>

・ 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・ レポート発表及びディスカッションができる。・ 研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。・ 研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

#### <授業の方法>

各自の研究課題を明確化し、その課題について、実際に調査や実験等を行い、論文としてまとめていく。基本的に授業時間は学生による発表とそれについての討論とするが、個人の研究課題設定や発表資料の作成などにおいては、進捗状況 に応じて個別指導を行う。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり。各自のテーマに関するグループ内での意見交換、プレゼンテーション

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人が設定した課題に沿って研究を進め、その進捗状況の報告をレポートにまとめて、報告できるよう準備する。（2～3時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。） と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、卒業論文・口頭発表70%

#### <教科書>

特に指定しない。

#### <参考書>

特に指定しない。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	清田 美紀			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方や研究計画の検討、研究の実施、論文の執筆など、履修者相互が議論を行うことで、研究に関わる手法に関する理解を深めていく。

### <授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

### <授業の方法>

研究課題の決定に関しては、履修者の学術的関心を引き出すため、議論を多用し、他者からの意見を参考にしながらテーマを設定する。論文作成の進捗は、個々の状況に応じて、調整する。その際、教員と履修者による話し合いにより、明確な目標が持てるようにしていく。履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の成果は論文としてまとめ、卒業論文発表会で報告させる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有(ペアやグループなど、メンバーが入れ替わりながら、テーマ設定のための討議や個々の課題解決に向けた話し合いを行う。)

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする(1時間程度)。進捗状況の報告準備をする(30分程度)。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%, 中間発表 20%, 論文 50%

### <教科書>

特に指定しない。

### <参考書>

安宅和人 2010/11/24 特に指定しない

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自、自己の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告する。報告内容に関する質疑応答を行い、研究内容をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自、自己の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告する。報告内容に関する質疑応答を行い、研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自、自己の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告する。報告内容に関する質疑応答を行い、研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自、自己の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告する。報告内容に関する質疑応答を行い、研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自、自己の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告する。報告内容に関する質疑応答を行い、研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自、自己の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告する。報告内容に関する質疑応答を行い、研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自、自己の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告する。報告内容に関する質疑応答を行い、研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自、自己の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告する。報告内容に関する質疑応答を行い、研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修

16	課題研究の遂行とその報告⑨	正をする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自、自己の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告する。報告内容に関する質疑応答を行い、研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自、自己の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告する。報告内容に関する質疑応答を行い、研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自、自己の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告する。報告内容に関する質疑応答を行い、研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、互いに検討し合うことで、完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、互いに検討し合うことで、完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告する。それぞれの研究内容について、ディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告する。それぞれの研究内容について、ディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告する。それぞれの研究内容について、ディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告する。それぞれの研究内容について、ディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告する。それぞれの研究内容について、ディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業 科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	4年	配当学期	集中	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

### <授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

### <授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有卒業論文の執筆に向けた研究討議の実施にあたり、先行研究の発表及びディスカッション、中間報告に関する質疑応答や意見交換会を実施します。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

### <教科書>

特に指定しない。

### <参考書>

特に指定しない。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	十河 直太			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

### <授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

### <授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：有卒業論文について担当教員や他の学生とディスカッションを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

### <教科書>

特に指定しない。

### <参考書>

特に指定しない。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究

17	課題研究の遂行とその報告⑩	をよりよいものにする。 各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業 科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	保科 圭汰			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

#### <授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

#### <授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素 有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 30%，中間発表 20%，論文 50%

#### <教科書>

特に指定しない。

#### <参考書>

特に指定しない。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

#### <授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

#### <授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

日頃から問題意識を持ち、自ら研究テーマを決め、卒業論文執筆に必要な基本的内容や統計処理について調べ、主体的に学ぶ姿勢を持つ。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

#### <教科書>

特に指定しない。

#### <参考書>

特に指定しない。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業 科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	眞鍋 芳江			
配当年次	4年	配当学期	集中	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

#### <授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

#### <授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素 有2～3人のグループに分かれ、テーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

#### <教科書>

特に指定しない。

#### <参考書>

特に指定しない。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究

17	課題研究の遂行とその報告⑩	をよりよいものにする。 各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	堀川 峻			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

#### <授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を卒業論文、またはゼミ論文としてまとめ、その発表ができる。

#### <授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング有個人の研究課題の進捗に関して、グループ間で議論を行うことで、よりよい研究の実施に向けて話し合いを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

#### <教科書>

特に指定しない。

#### <参考書>

特に指定しない。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業 科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	國友 亮佑			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

### <授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

### <授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

プレゼンテーション、ディスカッション

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 30%，中間発表 20%，論文 50%

### <教科書>

特に指定しない。

### <参考書>

特に指定しない。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究

17	課題研究の遂行とその報告⑩	をよりよいものにする。 各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業 科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	佐藤 伸之			
配当年次	4年	配当学期	集中	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

#### <授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

#### <授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有卒業論文の執筆に向けた研究討議の実施にあたり、先行研究の発表及びディスカッション、中間報告に関する質疑応答や意見交換会を実施します。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

#### <教科書>

特に指定しない。

#### <参考書>

特に指定しない。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業 科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	伊藤 仁美			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業では、学生がそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究を本授業の構成員全体で支援する。

### <授業の到達目標>

(1) 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解している(2) 研究を論文としてまとめ、その発表やディスカッションができる

### <授業の方法>

各自の研究課題を明確化し、その課題について、実際に調査や実験等を行い、論文としてまとめていく。基本的に授業時間は学生による発表とそれについての討論とするが、個人の研究課題設定や発表資料の作成などにおいては、進捗状況 に応じて個別指導を行う。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有 発表・討論

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人が設定した課題に沿って研究を進め、その進捗状況の報告をレポートにまとめて、報告できるよう準備する（2～3時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。） と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、卒業論文70%

### <教科書>

### <参考書>

浦野研ほか（2016） はじめての英語教育研究：押さえておきたいコツとポイント 研究社

APA（米国心理学会）（2022） APA論文作成マニュアル第7版

竹内理・水本篤ほか（2023） 外国語教育研究ハンドブック【増補版】－ 研究手法のより良い理解のために 松柏社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	仙波 慎平			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、自身が関心を持っている分野・内容など、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

### <授業の到達目標>

本科目における到達目標は、体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得するとともに、自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につけることとして、卒業論文を執筆することにある。

### <授業の方法>

論文作成の方法を学びながら、課題発表やディスカッションを展開し、それぞれ研究や調査を行う。必要に応じて、フィールドワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。その成果として学年末において卒業研究発表にてプレゼンテーションする。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング無

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実践的な態度50%、体育・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表50%をもって評価する。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	研究課題の検討	これまでの自身の経験知より、疑問に感じていることを明確にし、研究課題に昇華できないか検討していく。
2	研究課題の決定	研究課題を決定する。
3	文献調査①	自身の研究に関連する文献を収集し、精読する。
4	文献調査②・ディスカッション	自身の研究に関連する文献を議題としてディスカッションを行う。
5	文献調査③・ディスカッション	自身の研究に関連する文献を議題としてディスカッションを行う。
6	予備実験調査・実験Ⅰ	研究計画に記載した方法が適切であるか、予備調査・実験を実施する。
7	予備調査・実験Ⅰのデータ分析	算出予定のデータが正しく得られるか、予備実験Ⅰで取得したデータを分析し、調査方法やプロトコルの見直しを検討する。
8	予備調査・実験Ⅱ	予備実験Ⅰの結果をもとに、修正された調査方法や研究計画に記載した方法が適切であるか、予備実験Ⅱを実施する。
9	予備調査・実験Ⅱデータの分析	算出予定のデータが正しく得られるか、予備調査・実験Ⅱで取得したデータを分析し、プロトコルの見直しを検討する。
10	本調査・実験①	本調査・実験の実施し、データを取集する。
11	本調査・実験②	本調査・実験の実施し、データを取集する。
12	本調査・実験③	本調査・実験の実施し、データを取集する。
13	本調査・実験④	本調査・実験の実施し、データを取集する。
14	本調査・実験⑤	本調査・実験の実施し、データを取集する。
15	本調査・実験⑥	本調査・実験の実施し、データを取集する。
16	データ分析①	本調査・実験で取得したデータを分析する。
17	データ分析②	本調査・実験で取得したデータを分析する。
18	データ分析③	本調査・実験で取得したデータを分析する。
19	データ分析結果の検討①	本調査・実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。
20	データ分析結果の検討②	本調査・実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。

21	データ分析結果の検討③	本調査・実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。
22	統計分析①	得られた結果を統計学的に分析する。
23	統計分析②	得られた結果を統計学的に分析する。
24	結果の考察①	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察する。
25	結果の考察②	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察する。
26	結果の考察③	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察する。
27	プレゼンテーション準備①	研究成果報告会用にプレゼンテーション資料を作成する。
28	プレゼンテーション準備②	研究成果報告会用にプレゼンテーション資料を作成する。
29	研究成果報告会	研究成果をプレゼンテーションする。
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	大井 理緒			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、自身が関心を持っている分野・内容など、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

### <授業の到達目標>

本科目における到達目標は、体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得するとともに、自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につけることとして、卒業論文を執筆することにある。

### <授業の方法>

論文作成の方法を学びながら、課題発表やディスカッションを展開し、それぞれ研究や調査を行う。必要に応じて、フィールドワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。その成果として学年末において卒業研究発表にてプレゼンテーションする。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング無

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実践的な態度50%、体育・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表50%をもって評価する。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	研究課題の検討	これまでの自身の経験知より、疑問に感じていることを明確にし、研究課題に昇華できないか検討していく。
2	研究課題の決定	研究課題を決定する。
3	文献調査①	自身の研究に関連する文献を収集し、精読する。
4	文献調査②・ディスカッション	自身の研究に関連する文献を議題としてディスカッションを行う。
5	文献調査③・ディスカッション	自身の研究に関連する文献を議題としてディスカッションを行う。
6	予備実験調査・実験Ⅰ	研究計画に記載した方法が適切であるか、予備調査・実験を実施する。
7	予備調査・実験Ⅰのデータ分析	算出予定のデータが正しく得られるか、予備実験Ⅰで取得したデータを分析し、調査方法やプロトコルの見直しを検討する。
8	予備調査・実験Ⅱ	予備実験Ⅰの結果をもとに、修正された調査方法や研究計画に記載した方法が適切であるか、予備実験Ⅱを実施する。
9	予備調査・実験Ⅱデータの分析	算出予定のデータが正しく得られるか、予備調査・実験Ⅱで取得したデータを分析し、プロトコルの見直しを検討する。
10	本調査・実験①	本調査・実験の実施し、データを取集する。
11	本調査・実験②	本調査・実験の実施し、データを取集する。
12	本調査・実験③	本調査・実験の実施し、データを取集する。
13	本調査・実験④	本調査・実験の実施し、データを取集する。
14	本調査・実験⑤	本調査・実験の実施し、データを取集する。
15	本調査・実験⑥	本調査・実験の実施し、データを取集する。
16	データ分析①	本調査・実験で取得したデータを分析する。
17	データ分析②	本調査・実験で取得したデータを分析する。
18	データ分析③	本調査・実験で取得したデータを分析する。
19	データ分析結果の検討①	本調査・実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。
20	データ分析結果の検討②	本調査・実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。

21	データ分析結果の検討③	本調査・実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。
22	統計分析①	得られた結果を統計学的に分析する。
23	統計分析②	得られた結果を統計学的に分析する。
24	結果の考察①	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察する。
25	結果の考察②	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察する。
26	結果の考察③	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察する。
27	プレゼンテーション準備①	研究成果報告会用にプレゼンテーション資料を作成する。
28	プレゼンテーション準備②	研究成果報告会用にプレゼンテーション資料を作成する。
29	研究成果報告会	研究成果をプレゼンテーションする。
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	品田 直宏			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

### <授業の到達目標>

ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

実践的に身体を動かすことがある

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%、発表・課題50%

### <教科書>

### <参考書>

日本コーチング学会（2017/4/4） コーチング学への招待 ？大修館書店

福永 哲夫（著）、山本 正嘉（著）（2018/10/1） 体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方（体育・スポーツ・健康科学テキストブックシリーズ） 市村出版

高松 薫（2021/3/22） 競技スポーツにおけるコーチング・トレーニングの将来展望：実践と研究の場における知と技の好循環を求めて ？ 筑波大学出版会

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
3	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
4	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
5	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
6	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
7	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
8	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
9	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
10	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
11	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
12	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
13	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
14	前期ゼミ論中間発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期ゼミ論中間発表会	卒業論文に向けてのテーマ（仮）取り組みたい内容、方法を発表する。
16	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
17	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
18	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
19	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
20	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
21	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。

22	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
23	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
24	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
25	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
26	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
27	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
28	後期ゼミ内発表①	最終論文発表準備
29	後期ゼミ内発表②	最終論文発表準備
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	大野 呂 浩志			
配当年次	3年	配当学期	前期・後期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

3年次には、特別支援教育やインクルーシブ教育の観点から、特別な教育的ニーズのある児童生徒への指導・支援や、特別な教育的ニーズのある児童生徒とない児童生徒の双方を含んだ学級全体の指導・支援について、先行研究や関連する文献を渉猟することを授業の基調にする。文献を渉猟した結果得られた知見について、自分なりの指針をもって整理する能力の養成とともに、整理した内容をわかりやすく説明する能力や説明を聞いたり、事前に読んだ資料から、指針やテーマに沿った質問や意見を発表する能力も養成する。

#### <授業の到達目標>

(1) 文献の内容を精確に読解できる。(2) 他者の意見を十分に理解することができる。(3) 自身の理解したことを他者にわかりやすく伝えることができる。(4) 特別な教育的ニーズに関する広い知見を用いて現実的問題を整理し、次世代を展望しようとする態度を養うことができる。

#### <授業の方法>

自分の設定したテーマに関連する文献の講読を基調とする。講読した文献から得られた知見を資料としてまとめ、そのレジュメに基づいた自らの論文に関する議論を行うことで、論理的思考を鍛錬する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・課題解決型授業／グループディスカッション／ピアサポートラーニング／グループワーク／プレゼンテーション

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：毎回、自らの論文に関連するあらたな文献を講読し、得られた知見を論文に反映させ、全体としてどのような知見が得られたことになるか、今後の課題について、報告できるようにレジュメに整理する（3-4 時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

議論への積極的な参加等の授業内評価 50%、レポート 50%。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	特別支援教育の現状について整理し、その課題の具体について理解する。先行研究に関する調査の仕方や表記の基礎について理解する。
2	特別支援教育の現状と課題	特別支援教育の現状について、幼稚園・保育所、小学校、中学校、高等学校、大学における特別支援教育の現状と課題について報告し、内容について議論する。
3	研究の方向性の検討	特別支援教育の現状と課題及び自らの将来的な就労イメージを踏まえ、自らが2年間で深めようとする研究の方向性を定める。
4	研究の方向性発表準備	自分の研究の方向性について、仮テーマと仮の問題提起をもって、発表し、発表内容について議論する。
5	文献講読 1	知的障害特別支援学校における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
6	文献講読 2	肢体不自由特別支援学校における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
7	文献講読 3	病弱教育に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
8	文献講読 4	聾教育における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
9	文献講読 5	盲教育における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
10	文献講読 6	幼稚園・保育所における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
11	文献講読 7	小学校における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う

12	文献講読 8	う 中学校・高等学校における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジメを中心に議論を行う
13	文献講読 9	大学における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジメを中心に議論を行う
14	文献講読 1 0	社会人・就労場面の障害の認知やそれらへの対応について、担当者のレジメを中心に議論を行う
15	論文の中間発表	各自の論文の中間発表を行う
16	イントロダクション②	研究法について理解する
17	文献講読 1 3	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する①
18	文献講読 1 4	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する②
19	文献講読 1 5	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する③
20	文献講読 1 6	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する④
21	文献講読 1 7	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑤
22	文献講読 1 8	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑥
23	文献講読 1 9	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑦
24	文献講読 2 0	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑧
25	文献講読 2 1	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑨
26	文献講読 2 2	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑩
27	文献講読 2 3	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑪
28	文献講読 2 4	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑫
29	論文（ゼミ内）検討会	作成した論文について、レジメにまとめ、設定された時間内に発表し、内容や発表の仕方について議論する。
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	品田 直宏			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、スポーツコーチング・トレーニングの方法および研究について学ぶことで、課題解決への糸口を見出すことである。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養、非認知能力をグループワークを通じ高め、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求し、発表すると

### <授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求し発表する、論理的思考能力を力を身につける。

### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィールドワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

実践的に動くような授業を行なうことがある

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

体育・スポーツ科学・コーチングに関する調査・研究の課題発表 50%、レポート課題50%で評価する。

### <教科書>

必要に応じて

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	「スポーツコーチング」について	「コーチング」とは何かについて学ぶ
3	研究の種類、方法、事例研究について	研究の方法、実施手順説明、および論文の書き方
4	「スポーツパフォーマンス研究」について	スポーツパフォーマンス研究についての説明、および論文検索
5	「トレーニング」について	「トレーニング」について、原理原則に基づくトレーニング方法および文献紹介
6	「プライオメトリックトレーニング」について	「プライオメトリックトレーニング」の方法および文献紹介
7	文献研究①	文献の探し方
8	垂直跳躍能力の測定方法	マットスイッチを用いた垂直跳躍運動能力の測定方法および測定
9	文献研究②	論文抄読
10	「バネ」とはなにか	「バネ」とは何か、測定した垂直跳躍運動能力から討論および考察を行う
11	文献研究③	論文抄読
12	「コントロールテスト」について	「コントロールテスト」の意義および測定方法、論文紹介
13	文献研究④	論文抄読
14	討論	自身の興味のある研究テーマについて討論を行う
15	発表	自身の興味のある研究テーマについて、パワーポイントを用いた発表を行う
16	「性差」について	「性差」を考慮したコーチングについて学ぶ
17	文献研究⑤	論文抄読
18	「チームマネジメント」について	「チームマネジメント」の方法および事例の紹介を行う
19	文献研究⑥	論文抄読
20	測定データの取り扱い方	測定したデータの取り扱い方について、エクセルを用いたグラフの作成方法や統計について学ぶ

21	文献研究⑦	論文抄読
22	卒論に向けたテーマについて考える	卒論に向けたテーマについての討論を行う
23	文献研究⑧	論文抄読
24	文献研究発表準備①	これまで読んできた論文の内容に関する発表準備①
25	文献研究⑨	論文抄読
26	文献研究発表準備②	これまで読んできた論文の内容に関する発表準備②
27	文献研究⑩	論文抄読
28	文献研究発表準備③	これまで読んできた論文の内容に関する発表準備③
29	文献研究発表	これまで読んできた論文について、パワーポイントを用いた発表および討論を行う
30		

科目コード	55007				区 分	コア			
授業 科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	大久保 諒			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本ゼミナールでは、科学的な発達心理学の観点から、保育の実践に活きる研究（理論やデータ）について、その基本を学習する。より具体的には、次の4つの内容へ取り組む。① 保育の実践と科学的な発達心理学の研究のつながりを理解する。② 科学的な発達心理学の研究がどのように生み出されているか、第一歩目の部分を体験し、レポートにまとめる。③ 保育の実践に役立てられそうな研究知見について調べ、レジュメにまとめて発表する。④ 学習内容を進路へ活かす工夫を行う。

### <授業の到達目標>

① 保育の実践と科学的な発達心理学の研究のつながりを説明できるようになる。③ 自分でデータを整理し、レポートにまとめて発表できるようになる。② 自分で研究資料を整理し、レジュメにまとめて発表できるようになる。

### <授業の方法>

① 各回、教員の用意した研究資料について担当者がレジュメを作成・発表し、全員で議論を行う。② 教員の用意する研究資料は、いくつかのテーマに分かれている。テーマごとに類似の研究を全員で体験し、各自でレポートにまとめ、知見を深める。③ 研究資料に関するレジュメの制作・発表や、研究の実体験を通して学んだ内容について、保育の実践の場へ赴いて両者のつながりを実感することができるか確かめる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

### <準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前に担当者は研究資料をレジュメにまとめる責任を負い、担当者以外も研究資料へ予め目を通しておく責任を負う。各回、これらの学習に60分程度を要する。また、授業後には研究資料やレジュメの振り返り、実際に体験した研究についてレポートを書き進める課題へ取り組まなければならない。各回、これらの学習に60分程度を要する。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

議論の貢献度：30%、レジュメ課題の成績：35%、レポート課題の成績：35%を総合して最終的な成績を定める。

### <教科書>

### <参考書>

杉村伸一郎・坂田 陽子（編）（2004/4） 実験で学ぶ発達心理学 ナカニシヤ出版

村上香奈・山崎浩一（編）（2018/3） よくわかる心理学実験実習 ミネルヴァ書房

大出敦・直江健介（著）（2020/8） アカデミック・スキルズ プレゼンテーション入門：学生のためのプレゼン上達術 慶応義塾大学出版会

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの説明、研究資料の提示、役割分担
2	研究資料をレジュメにまとめる方法	研究資料の読み方、レジュメの作成の仕方、発表の仕方
3	研究と実践のつながり①	研究と実践の相互依存関係、ケース・スタディ
4	研究と実践のつながり②	現象の観察、不思議への気づき、理論とデータ、実践への応用
5	感情の発達に関する研究資料の検討①	恐怖や不安の発達に関する研究
6	感情の発達に関する研究資料の検討②	報酬的感情の発達に関する研究
7	保育の実践の場を体験する①	恐怖や不安、報酬的感情の役割を保育の実践の場面で確かめる
8	感情の発達に関する研究の体験①	報酬的感情の発達に関する研究を体験する
9	感情の発達に関する研究の体験②	研究データを整理・分析する
10	感情の発達に関する研究の体験③	研究をレポートとして発表する
11	感情の発達に関する研究資料の検討③	恐怖や不安、報酬的感情の問題の発達に関する研究
12	感情の発達に関する研究資料の検討④	アタッチメントの発達に関する研究
13	感情の発達に関する研究資料の検討⑤	アタッチメントの問題の発達に関する研究
14	保育の実践の場を体験する②	アタッチメントの役割を保育の実践の場で確かめる
15	前半のまとめ	前半の学習内容の振り返り、各研究テーマの関連性
16	認知の発達に関する研究資料の検討①	選択的注意の発達に関する研究
17	認知の発達に関する研究資料の検討②	抑制機能の発達に関する研究
18	認知の発達に関する研究資料の検討③	ワーキングメモリの発達に関する研究

19	認知の発達に関する研究資料の検討④	実行機能の問題の発達の研究
20	認知の発達に関する研究の体験①	抑制機能の発達に関する研究を体験し、研究データを整理・分析する
21	認知の発達に関する研究の体験②	研究をレポートとして発表する
22	保育の実践の場を体験する③	抑制機能の役割を保育の実践の場で確かめる
23	社会性の発達に関する研究資料の検討①	バイオロジカルモーションへの選好の発達に関する研究
24	社会性の発達に関する研究資料の検討②	社会的感染の発達に関する研究
25	社会性の発達に関する研究資料の検討③	共感性の発達に関する研究について
26	社会性の発達に関する研究資料の検討④	社会性の問題の発達に関する研究
27	社会性の発達に関する研究の体験①	社会的な選好の発達に関する研究を体験し、研究データを整理・分析する
28	社会性の発達に関する研究の体験②	研究をレポートとして発表する
29	保育の実践の場を体験する④	社会的な選好の役割を保育の実践の場で確かめる
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	宮原 舞			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

「人」と「音・音楽」のかかわりをテーマに、子どもの音楽的発達や音楽教育に対する理解を深める。

#### <授業の到達目標>

1. 人々の生活における「音・音楽」の位置づけについて理解する。2. 様々な音楽のかたちを知り、自分なりの見解を持ち、他者に説明することができる。

#### <授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとる。音・音楽を伴う遊びの体験・提案・創造などを取り入れるため、学生の主体的な参加を求める。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ペアワークやグループワークによって意見交流を行う。）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テーマに沿った事前学習を行い、演習に備える（1時間程度）。復習：授業で得た気づきや疑問をまとめ、自身の興味・関心を明確化していく（1時間程度）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題に対する取り組みと授業内での発表 50% レポート課題 50%

#### <教科書>

#### <参考書>

今泉明美・有村さやか 編著 子どものための音楽表現技術—感性と実践力豊かな保育者へー 萌文書林

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的、内容、進め方、評価方法について
2	子どもの音楽表現①	子どもの音楽的な表現
3	子どもの音楽表現②	身の回りのものに着目した表現活動
4	子どもの音楽表現③	歌唱・声による表現活動
5	子どもの音楽表現④	楽器による表現活動
6	私たちの生活と音・音楽①	サウンドスケープ
7	私たちの生活と音・音楽②	楽器づくり①
8	私たちの生活と音・音楽③	楽器づくり②
9	音楽活動・ワークショップ①	音楽活動の企画・提案①
10	音楽活動・ワークショップ②	音楽活動の企画・提案②
11	音楽活動・ワークショップ③	音楽活動の企画・提案③
12	音楽活動・ワークショップ④	音楽活動の企画・提案④
13	音楽活動・ワークショップ⑤	音楽活動の企画・提案⑤
14	音楽活動・ワークショップ⑥	音楽活動の企画・提案⑥
15	前期まとめ	前期の学習を振り返り、意見交流をする。
16	乳幼児期の遊びにおける音・音楽①	わらべうたについて考察する（唱え歌、絵かき歌）
17	乳幼児期の遊びにおける音・音楽②	わらべうたについて考察する（おはじき歌、おてだま）
18	乳幼児期の遊びにおける音・音楽③	わらべうたについて考察する（まりつき、縄跳び・ゴム跳び）
19	乳幼児期の遊びにおける音・音楽④	わらべうたについて考察する（じゃんけん、お手合わせ）
20	乳幼児期の遊びにおける音・音楽⑤	わらべうたについて考察する（身体遊び、鬼あそび）
21	乳幼児の音楽的行動①	映像資料から乳幼児の音楽的発達・音楽的行動を読み取る①
22	乳幼児の音楽的行動②	映像資料から乳幼児の音楽的発達・音楽的行動を読み取る②
23	乳幼児の音楽的行動③	映像資料から乳幼児の音楽的発達・音楽的行動を読み取る③
24	乳幼児の音楽的行動④	映像資料から乳幼児の音楽的発達・音楽的行動を読み取る④
25	乳幼児の音楽的行動⑤	映像資料から乳幼児の音楽的発達・音楽的行動を読み取る⑤
26	国内外の表現教育に学ぶ①	ダルクローズによるリトミック

27	国内外の表現教育に学ぶ②	オルフメソッド コダーイシステム 他
28	世界の音楽から学ぶ①	世界の諸民族の音楽①
29	世界の音楽から学ぶ②	世界の諸民族の音楽②
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目は保育内容健康分野についての探究を行う。社会人として求められる一般教養、知識、技能や態度を育成する。東岡山IPU子ども園との連携を通して、子どもの理解、保育実務を扱う。

### <授業の到達目標>

1. 運動・健康・安全の視点から研究資料を収集し、要約やプレゼンテーションができる。2. 研究テーマを決めその計画を立案し、運動・安全をはじめとした領域「健康」について考察できる。

### <授業の方法>

身体活動や運動能力といった測定などの体験をし、その前後に講義をする。測定したデータの発表とテーマにそったディスカッションを実施し、理解度や授業態度の確認を行う。教育現場での安全について学ぶ。また教育現場での安全教育、防災教育、応急処置などについて調査・検討を行う。学生には自ら学ぶ主体性が必要である。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

東岡山IPU子ども園との連携、ボランティア、各種遊びのワーク、運動

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマにそって資料を集めて整理する。授業内で指示する課題についてレポートを作成する（予習 1 時間）。授業内のディスカッションの要点をまとめる（復習 1 時間）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー 1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内での発表 50%、レポート 50%

### <教科書>

特になし

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	身体計測①	様々な身体組成の測定方法について学ぶ。
3	身体計測②	身体組成の測定をし評価する。
4	体力測定①	身体組成に関連する体力を挙げ測定する。
5	身体組成と体力の関連①	平均値等を利用して身体組成データを分析する。
6	身体組成と体力の関連②	相関関係等を利用して身体組成と体力との関連を分析する。
7	防災教育1	大学の防災教育を考える。
8	防災教育2	実習先などの防災教育を考える。
9	安全教育	生活安全・交通安全・災害安全
10	応急処置	幼児教育現場での応急処置
11	心肺蘇生法	幼児教育現場での心肺蘇生法
12	身体活動量の評価①	身体活動量の測定方法を知り、安静時と運動時を実測する。
13	身体活動量の評価②	安静時及び運動時の身体活動量について考察する。
14	身体活動量の評価③	身体活動強度とエネルギー代謝との関連を理解する。
15	身体活動量の評価④	食事、身体組成、体力、身体活動との関連について理解する。
16	運動遊び	運動遊びの実態調査
17	幼児教育現場の健康	現代の健康課題について考える
18	保護者と健康	幼児教育現場での保護者と子どもを取り巻く健康について考える
19	特別な配慮	健康における特別な配慮が必要な場合について考える。
20	睡眠と健康	乳幼児の睡眠について考える
21	文献研究①	文献の探し方と読み方について学ぶ。
22	文献研究②	論文抄読をする。
23	文献研究④	論文抄読をする。
24	文献研究⑤	論文抄読をする。

25	文献研究⑥	論文抄読をする。
26	研究計画①	研究計画を作成について学ぶ。
27	研究計画②	研究計画を作成する。
28	研究計画③	研究計画を発表する。
29	研究計画④	研究計画の推敲をする。
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	中安 翼			
配当年次	3年	配当学期	前期・後期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。基本的には小学校の体育科における内容を重点的に行う。

#### <授業の到達目標>

社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。

#### <授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、できるだけ実践を通して学べるようにする。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでのディスカッション、教材研究、教育現場での実践

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて研究を進める。適宜予習、復習を求める。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）50%、実践的スキル50%

#### <教科書>

特に指定しない。

#### <参考書>

特に指定しない。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	体験的活動・実践とその振り返り 1	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
3	体験的活動・実践とその振り返り 2	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
4	体験的活動・実践とその振り返り 3	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
5	体験的活動・実践とその振り返り 4	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
6	体験的活動・実践とその振り返り 5	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
7	体験的活動・実践とその振り返り 6	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
8	体験的活動・実践とその振り返り 7	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
9	体験的活動・実践とその振り返り 8	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
10	体験的活動・実践とその振り返り 9	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
11	体験的活動・実践とその振り返り 10	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
12	体験的活動・実践とその振り返り 11	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
13	体験的活動・実践とその振り返り 12	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
14	体験的活動・実践とその振り返り 13	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
15	体験的活動・実践とその振り返り 14	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
16	体験的活動・実践とその振り返り 15	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
17	体験的活動・実践とその振り返り 16	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
18	体験的活動・実践とその振り返り 17	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
19	体験的活動・実践とその振り返り 18	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
20	体験的活動・実践とその振り返り 19	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
21	体験的活動・実践とその振り返り 20	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
22	体験的活動・実践とその振り返り 21	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
23	体験的活動・実践とその振り返り 22	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
24	体験的活動・実践とその振り返り 23	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
25	体験的活動・実践とその振り返り 24	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
26	体験的活動・実践とその振り返り 25	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
27	体験的活動・実践とその振り返り 26	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る

28	まとめ 1	本年度の授業の成果と課題をまとめていく
29	まとめ 2	本年度の授業の成果と課題をまとめていく
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	田中 耕作			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本ゼミナールでは、運動生理学やトレーニングにおける文献の抄読会を中心に授業を展開し、スポーツパフォーマンス向上のための科学的知見について学ぶ。

#### <授業の到達目標>

本ゼミナールでは、スポーツパフォーマンス向上のための科学的知見について学ぶこと、そして実際に科学的なデータを取り扱い、自らの競技パフォーマンス向上のために科学的な視点を持つことを目指す。

#### <授業の方法>

文献研究、測定実習、データ分析、測定の結果を用いた討論を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素：あり自身が行っている競技のトレーニングやパフォーマンス構成についてグループでディスカッションを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

自身の興味ある分野について、授業内で紹介する方法で文献研究を行なってください。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲 30%、課題研究 70%。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミの指導計画、ゼミの概要、評価方法
2	研究の手順	研究の実施手順の説明
3	文献研究①	トレーニング科学領域の主なジャーナルの紹介
4	文献研究②	文献の探し方、読み方
5	文献研究③	論文抄読
6	文献研究④	論文抄読
7	討論	トレーニング科学に関する討論
8	文献研究⑤	論文抄読（トレーニング）
9	文献研究⑥	論文抄読（トレーニング）
10	討論	トレーニングに関する討論
11	文献研究⑦	論文抄読（専門競技）
12	文献研究⑧	論文抄読（専門競技）
13	討論	専門競技に関する討論
14	文献研究発表①	興味関心のあるテーマについて文献研究、発表
15	文献研究発表②	興味関心のあるテーマについて文献研究、発表
16	測定実習①	最大酸素摂取量の測定
17	データ分析①	ランニングエコノミーおよび乳酸性作業閾値の測定
18	討論①	測定結果に基づく討論
19	測定実習②	跳躍能力の測定
20	データ分析②	跳躍能力における測定結果の分析
21	討論②	測定結果に基づく討論
22	測定実習③	無酸素性作業能力の測定
23	データ分析③	無酸素性作業能力における測定結果の分析
24	討論③	測定結果に基づく討論
25	課題研究	研究計画の作成(1)
26	課題研究	研究計画の作成(2)
27	発表方法	プレゼンテーションの作成方法

28	課題研究	研究計画の作成(3)
29	課題研究	研究計画の作成(4)
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	秦 啓一郎			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本ゼミナールでは、トレーニングやバイオメカニクスにおける文献の抄読会を中心に授業を展開し、スポーツパフォーマンス向上のための科学的知見について学ぶ。また、バイオメカニクスの分析手法を用いて、動作を測定する技術の習得、科学的データを読み解く能力を育成する。また、スポーツバイオメカニクスの知見を活用し、各種競技スポーツにおける効率的な身体運動の習得を目指す。

#### <授業の到達目標>

本ゼミナールでは、スポーツパフォーマンス向上のための科学的知見について学ぶこと、そして実際に科学的なデータを取り扱い、自らの競技パフォーマンス向上のために科学的な視点を持つことを目指す。

#### <授業の方法>

文献研究、測定実習、データ分析、測定の結果を用いた討論を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有り各回のグループでディスカッションを行い、共同で課題を作成する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

自身の興味ある分野について、授業内で紹介する方法で文献研究を行なってください。※トレーニングやバイオメカニクス、または自分の専門分野に関する文献研究を1週間で1本行う。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲 30%、課題研究 70%。※文献研究発表および課題研究発表について、適時教員からフィードバック

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミの指導計画、ゼミの概要、評価方法
2	研究の手順	研究の実施手順の説明
3	文献研究①	バイオメカニクス領域の主なジャーナルの紹介
4	文献研究②	文献の探し方、読み方
5	文献研究③	論文抄読（バイオメカニクス）
6	文献研究④	論文抄読（バイオメカニクス）
7	討論	コーチングに関する討論
8	文献研究⑤	論文抄読（トレーニング）
9	文献研究⑥	論文抄読（トレーニング）
10	討論	トレーニングに関する討論
11	文献研究⑦	論文抄読（専門競技）
12	文献研究⑧	論文抄読（専門競技）
13	討論	専門競技に関する討論
14	文献研究発表①	興味関心のあるテーマについて文献研究、発表
15	文献研究発表②	興味関心のあるテーマについて文献研究、発表
16	測定実習①	走種目の動作測定
17	データ分析①	走種目の動作分析
18	討論①	測定結果に基づく討論
19	測定実習②	跳種目の動作測定
20	データ分析②	跳種目の動作分析
21	討論②	測定結果に基づく討論
22	測定実習③	投種目の動作測定
23	データ分析③	投種目の動作分析
24	討論③	測定結果に基づく討論
25	課題研究	研究計画の作成(1)
26	課題研究	研究計画の作成(2)

27	発表方法	プレゼンテーションの作成方法
28	課題研究	研究計画の作成(3)
29	課題研究	研究計画の作成(4)
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	梶谷 亮輔			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本ゼミナールでは、トレーニングやコーチングにおける文献の抄読会を中心に授業を展開し、スポーツパフォーマンス向上のための科学的知見について学ぶ。また、バイオメカニクスの分析手法を用いて、動作を測定する技術の習得、科学的データを読み解く能力を育成する。

### <授業の到達目標>

本ゼミナールでは、スポーツパフォーマンス向上のための科学的知見について学ぶこと、そして実際に科学的なデータを取り扱い、自らの競技パフォーマンス向上のために科学的な視点を持つことを目指す。

### <授業の方法>

文献研究、測定実習、データ分析、測定の結果を用いた討論を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有りに応じてディスカッションを実施

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

自身の興味ある分野について、授業内で紹介する方法で文献研究を行なってください。※トレーニングやコーチング、または自分の専門分野に関する文献研究を1週間で1本行う。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲 30%、課題研究 70%。※文献研究発表および課題研究発表について、適時教員からフィードバックなお、最終課題については、ゼミナールⅡにおけるゼミ論文を見据えた計画書を作成し提出する。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミの指導計画、ゼミの概要、評価方法
2	研究の手順	研究の実施手順の説明
3	文献研究①	コーチング・トレーニング領域の主なジャーナルの紹介
4	文献研究②	文献の探し方、読み方
5	文献研究③	論文抄読（コーチング）
6	文献研究④	論文抄読（コーチング）
7	討論	コーチングに関する討論
8	文献研究⑤	論文抄読（トレーニング）
9	文献研究⑥	論文抄読（トレーニング）
10	討論	トレーニングに関する討論
11	文献研究⑦	論文抄読（専門競技）
12	文献研究⑧	論文抄読（専門競技）
13	討論	専門競技に関する討論
14	文献研究発表①	興味関心のあるテーマについて文献研究、発表
15	文献研究発表②	興味関心のあるテーマについて文献研究、発表
16	測定実習①	走種目の動作測定
17	データ分析①	走種目の動作分析
18	討論①	測定結果に基づく討論
19	測定実習②	跳種目の動作測定
20	データ分析②	跳種目の動作分析
21	討論②	測定結果に基づく討論
22	測定実習③	投種目の動作測定
23	データ分析③	投種目の動作分析
24	討論③	測定結果に基づく討論
25	課題研究	研究計画の作成(1)

26	課題研究	研究計画の作成(2)
27	発表方法	プレゼンテーションの作成方法
28	課題研究	研究計画の作成(3)
29	課題研究	研究計画の作成(4)
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本ゼミナールは卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような 条件整備を行い、学生の研究を支援する。

#### <授業の到達目標>

本ゼミナールは3年次段階で実施することから、日本語論文を読み、理解できること、その内容をプレゼンテーションできること、および、その問題点を明らかにしたり、その内容からの発展系としての研究をイメージできることを目標とする。

#### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（プレゼンテーション・ディスカッション）先行研究をまとめてプレゼンテーションを行い、その内容についてディスカッションする

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、プレゼンテーションの準備等

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー 1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 50%、課題・レポート 30%、プレゼンテーション能力 20%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	体力学とは	受講上の注意、評価方法、講義の概要を説明した上で、これから研究を進める体力学について講義する。
2	文献研究 (1)	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
3	文献研究 (2)	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
4	文献研究 (3)	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
5	文献研究 (4)	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
6	文献研究 (5)	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
7	文献研究 (6)	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
8	文献研究 (7)	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
9	文献研究 (8)	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
10	文献研究 (9)	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
11	文献研究 (10)	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
12	文献研究 (11)	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
13	測定・分析実習 (1)	最大酸素摂取量の測定方法を学ぶ。

14	測定・分析実習 (2)	無酸素性作業閾値の測定方法を学ぶ。
15	測定・分析実習 (3)	乳酸の測定・分析方法を学ぶ。
16	測定・分析実習 (4)	等速性筋力測定器Cybexを用いた様々な筋力測定の方法を学ぶ。
17	測定・分析実習 (5)	等速性筋力測定器Cybexを用いた様々な筋力測定の方法を学ぶ。
18	測定・分析実習 (6)	各種ジャンプ能力の測定・分析方法を学ぶ。
19	測定・分析実習 (7)	動作分析の方法を学ぶ。
20	課題研究の進捗状況報告 (1)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
21	課題研究の進捗状況報告 (2)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
22	課題研究の進捗状況報告 (3)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
23	課題研究の進捗状況報告 (4)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
24	課題研究の進捗状況報告 (5)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
25	課題研究の進捗状況報告 (6)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
26	課題研究の進捗状況報告 (7)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
27	課題研究の進捗状況報告 (8)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
28	課題研究のまとめ (1)	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。
29	課題研究のまとめ (2)	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	後藤 由佳			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「ゼミナールⅠ(基礎)」は、本学卒業必修科目である。「子どもの心に寄り添う保育」について考えることのできる保育者の育成をねらいとしていく。そのためにはまず、自然やもの、人の面白さや不思議さ、美しさなどに感動する心を育むことをねらいとする。子ども達と製作を行い、よりよい造形活動の在り方とはどのようなものかを学んでほしい。子どもが瞳を輝かせて取り組めるような造形活動やその活動の具体的な援助方法を考えるという作業を通して、保育士や幼稚園教諭に必要な「心に寄り添う」表現や技術の養成をしたいと考えている。

### <授業の到達目標>

造形表現を中心とした保育・幼児教育に関する専門知識と技術を身に付けている。

### <授業の方法>

準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタルツール(Classroom)を活用する。アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク、フィールドワーク等)を取り入れ、作品制作、美術館鑑賞、子どもの行事企画運営、国際交流等の実践活動により授業を進める。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有(ディスカッション、グループワークの方法)4～5人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ発表を行う。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外に必要な資料や作品作りに取り組むなど、準備学習(60分程度)を求めます。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4(地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。)と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 50% (積極性・協調性・相互促進性など) 課題(作品・レポート)、発表等 50%

### <教科書>

特に指定なし

### <参考書>

村田夕紀 楽しい”造形”がいっぱい 2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ ひかりのくに  
村田夕紀 まずは絵あそびから始めよう! 3・4・5歳児の楽しく絵を描く実践ライブ ひかりのくに  
村田夕紀 低年齢児が夢中になる遊びがいっぱい! 0・1・2歳児の造形あそび実践ライブ ひかりのくに

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業内容、到達目標と注意事項、成績評価法、実践活動について説明する。
2	こども発達学科・ゼミナール理解	3年生一年間の履修確認を行い、目標設定をする。
3	こども発達学科・ゼミナール理解	クラス内の相互理解を図る。
4	造形表現の教材研究(1)	地域の美術館について調べる。
5	造形表現の教材研究(2)	美術館鑑賞①
6	造形表現の教材研究(3)	作品を制作する。
7	造形表現の教材研究(4)	作品を制作する。
8	造形表現の教材研究(5)	作品を制作する。
9	造形表現の教材研究(6)	作品を制作する。
10	造形表現の教材研究(7)	作品提出と鑑賞会
11	プレゼンテーションとは①	役割りとその具体的な内容の確認
12	プレゼンテーション作成①	発表内容のプレゼンテーション作成
13	プレゼンテーションに挑戦しよう①	ブレ発表
14	ゼミナール活動報告会(1)	報告会に出席し、発表する。
15	前期総括	前期の振り返りと夏季休暇、保育・教育実習について
16	後期の目標設定	後期の履修確認を行い、目標設定を行う。
17	造形表現の教材研究(8)	美術館鑑賞②
18	造形表現の教材研究(9)	作品を制作する。
19	造形表現の教材研究(10)	作品を制作する。
20	造形表現の教材研究(11)	作品を製作する。

21	造形表現の教材研究(12)	作品を制作する。
22	企画案の作成	実践内容について討議
23	事業企画の準備	行事の準備
24	事業運営の実践	子どもを対象とした事業の企画・運営の実際
25	造形表現の教材研究(13)	作品提出と鑑賞会
26	プレゼンテーションとは②	役割りとその具体的な内容の確認
27	プレゼンテーション作成②	発表内容のプレゼンテーション作成
28	プレゼンテーションに挑戦しよう②	ブレ発表
29	ゼミナール活動報告会(2)	報告会に出席し、発表する。
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、社会人としての適性や課題を見極め、課題解決への糸口を見出すことにある。本科目は、2つの内容によって構成される。①体育・スポーツ科学（特に担当教員嘉門の専門である体育・スポーツ社会学）をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした学習。②社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する学習。

### <授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。①自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。②体育・スポーツに関する専門的な研究領域に触れ、体育・スポーツに携わる専門家として必要な思考法や身体性を学び身に付ける。③自らの学習経験を自省的に考察し、課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

### <授業の方法>

受講者の興味関心に基づいた研究発表のプレゼンテーションと、全体でのディスカッションを中心に行なう。その他、受講生の興味関心に沿って、学術論文や学術書の輪読を行う。必要に応じて、現場実習を交えフィードバックを行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本ゼミナールでは、受講者が自身の関心に基づいて課題を設定し、発表やディスカッションを通じて主体的に学びを深める。知識の習得に加え、課題発見力や問題解決力の育成が図られている。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各自の研究関心に基づいた発表（40％）、ディスカッションへの参加と貢献（30％）、レポート課題（30％）

### <教科書>

特になし

### <参考書>

ピエール・ブルデュー（石崎晴己訳）1991/12/30 構造と実践 藤原書店

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	自分史を書く	スポーツ歴を中心軸に、自分史を作成する。自らを題材に人生観を展望するきっかけにする。
3	自分史（発表）①	各自で発表し、他者と比較する。自己の経験を客観的かつ論理的に説明可能なものにする。
4	自分史（発表）②	各自で発表し、他者と比較する。自己の経験を客観的かつ論理的に説明可能なものにする。
5	P.ブルデュー「スポーツ社会学のための計画表」『構造と実践』pp280-287.を読む	「スポーツ社会学」という学問の性質をブルデューから学ぶ。
6	自分の関心に沿った論文・資料の探し方、テーマ設定の仕方	キーワードの設定、検索方法、概略の把握など、資料検索について学ぶ。
7	論文紹介（発表）①	論文一本を選定し、内容を要約しコメントを付けて発表、議論する。
8	論文紹介（発表）②	論文一本を選定し、内容を要約しコメントを付けて発表、議論する。
9	論文紹介（発表）③	論文一本を選定し、内容を要約しコメントを付けて発表、議論する。
10	論文紹介（発表）④	論文一本を選定し、内容を要約しコメントを付けて発表、議論する。
11	論文紹介（発表）⑤	論文一本を選定し、内容を要約しコメントを付けて発表、議論する。全体を通しての討論
12	ゼミとしてのテーマ設定	受講者の興味関心を総合し、共通するテーマや議論の土台を確認し、全体で読み進めるべき書籍を選定する。
13	輪読・発表①	報告担当者が内容を報告しコメントする。それを基に全体でディスカッションす

14	輪読・発表②	る。
15	前期総括（ふりかえり）	報告担当者が内容を報告しコメントする。それを基に全体でディスカッションする。
16	輪読・発表③	前期の取り組みについてふりかえり、改善点や取り組むべき課題を再確認する。
17	輪読・発表④	報告担当者が内容を報告しコメントする。それを基に全体でディスカッションする。
18	輪読・発表⑤	報告担当者が内容を報告しコメントする。それを基に全体でディスカッションする。
19	総合討論	これまでの議論をふりかえり、いくつかのテーマに絞って討議を行い、より理解を深める。
20	論文の書き方①	論文の構成と種類について
21	論文の書き方②	問題関心の確認とテーマの設定、研究の意義について
22	論文の書き方③	先行研究の検討、研究方法、議論の土台の設定の仕方について
23	論文の書き方④	データの収集、調査の方法について
24	論文の書き方⑤	データの読み方、提示の仕方、データから導き出せる事実について
25	研究計画の立案、検討	各自の関心に沿って研究計画を立案してみる。
26	論文指導①	各自の関心に沿った先行研究を検討したミニ論文を作成する。
27	論文指導②	各自の関心に沿った先行研究を検討したミニ論文を作成する。
28	論文指導③	各自の関心に沿った先行研究を検討したミニ論文を作成する。
29	論文指導④	各自の関心に沿った先行研究を検討したミニ論文を作成する。
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目の目的は、体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

### <授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

### <授業の方法>

Googleクラスルームを用いて、課題の提出をするとともに、対面またはオンラインで、作成したレジュメを発表してもらう。発表した内容について全員で討論を行い、知識を深めていく。さらに研究に必要な基礎的知識を身につけ、体験や実践を取り入れていく。授業形態については、対面かオンラインかを事前に連絡して実施する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

日頃から問題意識を持ち、自分自身が研究したいテーマを追求し、主体的に授業に臨む。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取り組み50%、課題 50%

### <教科書>

### <参考書>

日本スポーツ心理学会 スポーツメンタルトレーニング指導教本(三訂版) 大修館書店  
日本スポーツ心理学会 スポーツ心理学事典 大修館書店

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	研究について	研究の種類や方法を理解し、研究テーマを考える
3	論文紹介	論文の構成内容を理解する
4	論文検索	論文の検索方法を理解し、興味ある分野の論文を調べる
5	研究テーマの探求	多くの論文を閲覧し、研究テーマを探求する
6	レジュメの書き方	検索した論文内容のまとめ方を理解する
7	先行研究の読解・レジュメ作成1	研究テーマに関する内容の論文を熟読し、レジュメを作成する
8	先行研究発表①	作成した先行研究レジュメを、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
9	先行研究発表②	作成した先行研究レジュメを、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
10	先行研究の読解・レジュメ作成2	研究テーマに関する内容の論文を熟読し、レジュメを作成する
11	先行研究発表③	作成した先行研究レジュメを、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
12	先行研究発表④	作成した先行研究レジュメを、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
13	先行研究の読解・レジュメ作成3	研究テーマに関する内容の論文を熟読し、レジュメを作成する
14	先行研究発表⑤	作成した先行研究レジュメを、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
15	先行研究発表⑥	作成した先行研究レジュメを、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
16	これまでの振り返りと今後の展望	これまでの研究活動を振り返り、今後の研究の方向性を検討する
17	心理技法	リラクセーショントレーニング、イメージトレーニングについて学び、実践する
18	思い込み、観念運動体験	人間の思い込みについて学び、シュブリエルの振り子を用いて観念運動を体験する
19	心理検査法1	性格、不安等に関する心理検査について学び、実践する
20	心理検査法2	気分、ストレス等に関する心理検査について学び、実践する
21	心理検査レジュメ作成	研究で使用したい、または興味のある心理検査について調べ、レジュメを作成する

22	心理検査レジюме発表	心理検査レジюмеを発表し、共有する
23	図書館での文献探し	本学附属図書館にて文献を探し、資料収集をする
24	図書文献レジюме作成	図書館で得られた資料をまとめ、レジюмеを作成する
25	図書文献レジюме発表①	調べた図書文献の内容を、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
26	図書文献レジюме発表②	調べた図書文献の内容を、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
27	Googleフォームの活用	Googleフォームについて学び、実際にアンケートを作り、実践する
28	アンケート集計作業	アンケート集計方法について学び、実践する
29	統計	研究に必要な統計について学び、実践する
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	浦 佑大			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目の目的は、体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

### <授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

### <授業の方法>

Googleクラスルームを用いて、課題の提出をするとともに、対面またはオンラインで、作成したレジュメを発表してもらう。発表した内容について全員で討論を行い、知識を深めていく。さらに研究に必要な基礎的知識を身につけ、体験や実践を取り入れていく。授業形態については、対面かオンラインかを事前に連絡して実施する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有必要に応じてグループワークを取り入れる

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取り組み50%、課題 50%

### <教科書>

### <参考書>

日本スポーツ心理学会 スポーツメンタルトレーニング指導教本(三訂版) 大修館書店  
日本スポーツ心理学会 スポーツ心理学事典 大修館書店

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	研究について	研究の種類や方法を理解し、研究テーマを考える
3	論文紹介	論文の構成内容を理解する
4	論文検索	論文の検索方法を理解し、興味ある分野の論文を調べる
5	研究テーマの探求	多くの論文を閲覧し、研究テーマを探求する
6	レジュメの書き方	検索した論文内容のまとめ方を理解する
7	先行研究の読解・レジュメ作成1	研究テーマに関する内容の論文を熟読し、レジュメを作成する
8	先行研究発表①	作成した先行研究レジュメを、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
9	先行研究発表②	作成した先行研究レジュメを、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
10	先行研究の読解・レジュメ作成2	研究テーマに関する内容の論文を熟読し、レジュメを作成する
11	先行研究発表③	作成した先行研究レジュメを、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
12	先行研究発表④	作成した先行研究レジュメを、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
13	先行研究の読解・レジュメ作成3	研究テーマに関する内容の論文を熟読し、レジュメを作成する
14	先行研究発表⑤	作成した先行研究レジュメを、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
15	先行研究発表⑥	作成した先行研究レジュメを、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
16	これまでの振り返りと今後の展望	これまでの研究活動を振り返り、今後の研究の方向性を検討する
17	心理技法	リラクセーショントレーニング、イメージトレーニングについて学び、実践する
18	思い込み、観念運動体験	人間の思い込みについて学び、シュブリエルの振り子を用いて観念運動を体験する
19	心理検査法1	性格、不安等に関する心理検査について学び、実践する
20	心理検査法2	気分、ストレス等に関する心理検査について学び、実践する
21	心理検査レジュメ作成	研究で使用したい、または興味のある心理検査について調べ、レジュメを作成する

22	心理検査レジюме発表	心理検査レジюмеを発表し、共有する
23	図書館での文献探し	本学附属図書館にて文献を探し、資料収集をする
24	図書文献レジюме作成	図書館で得られた資料をまとめ、レジюмеを作成する
25	図書文献レジюме発表①	調べた図書文献の内容を、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
26	図書文献レジюме発表②	調べた図書文献の内容を、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
27	Googleフォームの活用	Googleフォームについて学び、実際にアンケートを作り、実践する
28	アンケート集計作業	アンケート集計方法について学び、実践する
29	統計	研究に必要な統計について学び、実践する
30		

科目コード	55007				区 分	キャリア形成科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人になれるよう演習形式で実施する

#### <授業の到達目標>

専門領域の現状を理解し、課題を見出すことができる。課題に沿った論文の検索、精査をすることができる。精査した内容を客観的に評価し内容をプレゼンテーションすることができる。

#### <授業の方法>

グループワーク（専門とする領域内での興味関心をもつ内容に対する討論、調査）省察活動（課題に対するまとめ、プレゼンスライド作成、実践活動）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

必要に応じてグループワークを実施する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ（毎回、1時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題40%、プレゼンテーション・レポート 40%、取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	柔道整復師の衛生管理について①	柔道整復師の衛生管理の現状把握1
2	柔道整復師の衛生管理について②	柔道整復師の衛生管理の現状把握2
3	柔道整復師の衛生管理について③	柔道整復師の衛生管理の現状把握3
4	柔道整復師の衛生管理について④	柔道整復師の衛生管理の問題点1
5	柔道整復師の衛生管理について⑤	柔道整復師の衛生管理の問題点2
6	医療現場の衛生管理について①	医療現場の衛生管理について1
7	医療現場の衛生管理について②	医療現場の衛生管理について2
8	医療現場の衛生管理について③	医療現場の衛生管理について3
9	医療現場の衛生管理について④	柔道整復師と他の医療資格との比較1
10	医療現場の衛生管理について⑤	柔道整復師と他の医療資格との比較2
11	情報整理①	衛生管理について1
12	情報整理②	衛生管理について2
13	情報整理③	衛生管理について3
14	まとめ	前半のまとめ1
15	まとめ	前半のまとめ2
16	疑問・問題点の抽出及び整理①	疑問・問題点の抽出及び整理1
17	疑問・問題点の抽出及び整理②	疑問・問題点の抽出及び整理2
18	疑問・問題点の抽出及び整理③	疑問・問題点の抽出及び整理3
19	実験計画①	実験計画1
20	実験計画②	実験計画2
21	実験の実施①	実験の実施1
22	実験の実施②	実験の実施2
23	実験の実施③	実験の実施3
24	実験結果に対する考察①	考察1
25	実験結果に対する考察②	考察2

26	実験結果に対する考察③	考察3
27	実験結果に対する考察④	考察とまとめ1
28	実験結果に対する考察⑤	考察とまとめ2
29	プレゼンテーション①	プレゼンテーション1
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	三 堀 仁			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、社会人、とりわけ教職に就く人材を育成することを目的とする。学校現場では今即戦力が求められている。就職してすぐに指導者として活躍できるような実践力を学生の段階から身に付けることが必要である。高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けることができるように、演習等を中心とした授業を行う。

#### <授業の到達目標>

①教職につくための規範意識を身に付ける。②他者と協働して課題解決する力を身に付ける。③教師として必要な基本的な指導力を身に付ける。

#### <授業の方法>

講義及び演習の形態をとる。資料を事前に配付し、自分なりの考えをもってグループ協議にのぞみ、他者の意見を取り入れながらよりよい答えを導き出すような場面を設定する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回グループ協議を取り入れ、他者の考えを取り入れながら学びを深めていくようにする。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に与えられた課題に対する意見を持つ。また、自分なりに問題意識を持ち、質問や問題提起できるように準備しておく（1時間程度）。授業後は学んだことを模擬授業や日々の実践に生かすことができるようにする。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー 1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（40％）、課題提案内容・意見交換（30％）、レポート・提出物（30％）

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業づくりとは	授業づくりの必要性とポイント
2	授業づくりと学級経営①	学級目標の設定、学級経営案
3	授業づくりと学級経営②	学級担任がつくる安心の場、学級の雰囲気づくり
4	授業づくりと学級経営③	ほめ方、しかり方、居心地のよい環境づくり
5	児童理解と学級づくり①	児童理解の大切さ、日記指導
6	児童理解と学級づくり②	学年会の持ち方、保護者との信頼関係の構築
7	学級のルールづくり①	聞く・話す、授業準備、心構え
8	学級のルールづくり②	安全な生活、自立した学級
9	教材研究①	資料を教材化する、児童の実態から教材をつくる
10	教材研究②	教材研究を楽しむ
11	授業構想①	学習指導要領を押さえる、教材の価値から構想する
12	授業構想②	児童の経験から構想する、児童の意識の流れをつかむ
13	授業展開①	1時間の見通しを持つ、単元の導入
14	授業展開②	発問の仕方、音読・動作化
15	授業改善①	児童を見とる、授業分析
16	授業改善②	評価を指導に生かす、週案の活用
17	指導技術①	板書の仕方
18	指導技術②	ノート指導
19	指導技術③	話し合いのさせ方
20	指導技術④	新聞づくり
21	指導技術⑤	机間指導
22	指導技術⑥	振り返りカードの活用
23	指導技術⑦	個人差に応じた指導
24	研究論文に向けて①	個人研究論文のテーマ構想
25	研究論文に向けて②	研究仮説の設定

26	研究論文に向けて③	研究論文の組み立て
27	研究論文に向けて④	資料収集の仕方
28	研究論文に向けて⑤	研究論文概要の作成
29	授業の振り返り	1年間の反省と次年度へ向けての目標設定
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	堀川 峻			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、体育・スポーツを対象とする歴史的・文化的な基礎的知識と専門的知識を修得するとともに、各自が関心のある体育・スポーツの現代的な課題を見つけるとともに、その問題意識から研究課題を立案し、研究を計画・実行する。そのため本科目は、人文科学的な手法を主に用いながら体育・スポーツについての課題発見・問題解決を行い、また体育・スポーツにかかわる社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求していく。

### <授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、PPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング有適宜グループワークを行いながら、個人の研究課題に関するディスカッションを行っていく。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ディスカッションへの参加態度 20%、先行研究に関わるレポート 30%、体育・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表 50%提出物や発表内容に関するフィードバックは毎時間の授業内で実施する。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	体育・スポーツにかかわる人文科学について	体育・スポーツにかかわる人文科学の現状を学ぶ
3	体育・スポーツにかかわる人文科学について	体育・スポーツにかかわる人文科学の現状を学ぶ
4	体育・スポーツにかかわる人文科学について	体育・スポーツにかかわる人文科学の現状を学ぶ
5	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（1）
6	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（2）
7	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（3）
8	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（4）
9	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（5）
10	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（6）
11	研究テーマの絞り込み	各自の発表内容に関するディスカッションと研究テーマ決め（1）
12	研究テーマの絞り込み	各自の発表内容に関するディスカッションと研究テーマ決め（2）
13	研究テーマの絞り込み	各自の発表内容に関するディスカッションと研究テーマ決め（3）

14	研究テーマの絞り込み	各自の発表内容に関するディスカッションと研究テーマ決め (4)
15	研究テーマの仮決定	仮テーマに基づいて長期休暇中の研究計画立案
16	研究方法の理解	研究を進めるにあたっての方法論の模索 (1)
17	研究方法の理解	研究を進めるにあたっての方法論の模索 (2)
18	研究方法の理解	研究を進めるにあたっての方法論の模索 (3)
19	研究方法の理解	研究を進めるにあたっての方法論の模索 (4)
20	文献資料の選定、予備調査の実施	文献研究の場合は、研究で使用する資料を選定する。調査研究の場合は、予備調査を進める。
21	文献資料の選定、予備調査の実施	文献研究の場合は、研究で使用する資料を選定する。調査研究の場合は、予備調査を進める。
22	文献資料の選定、予備調査の実施	文献研究の場合は、研究で使用する資料を選定する。調査研究の場合は、予備調査を進める。
23	文献資料の選定、予備調査の実施	文献研究の場合は、研究で使用する資料を選定する。調査研究の場合は、予備調査を進める。
24	文献資料の選定、予備調査の実施	文献研究の場合は、研究で使用する資料を選定する。調査研究の場合は、予備調査を進める。
25	研究計画の立案	研究計画書の作成 (1)
26	研究計画の立案	研究計画書の作成 (2)
27	研究計画の立案	研究計画書の作成 (3)
28	研究計画の立案	研究計画書の読み合わせと協力体制の整備 (1)
29	研究計画の立案	研究計画書の読み合わせと協力体制の整備 (2)
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	浅田 栄里子			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

### <授業の到達目標>

１．社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを身に付ける。  
２．リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を身に付ける。

### <授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有授業内において、個人がそれぞれ関心興味にそったテーマからリサーチを行い、それをレポートにまとめ、発表する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

教育経営学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に、DP2「専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている」に関連している。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等 30%、レポート・課題 30%、最終レポート 40%

### <教科書>

特に指定しない。

### <参考書>

特に指定しない。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第6回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導 1－1	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導 1－2	研究テーマ、課題を仕ぼる。
18	研究指導 1－3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導 2－1	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導 2－2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導 2－3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3

22	研究指導 2－4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導 2－5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導 2－6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導 2－7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導 2－8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導 2－9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導 2－10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
29	研究指導 2－11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 11
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

#### <授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。  
2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

#### <授業の方法>

「AI（人工知能）」、「e-Learning」、「電子教科書」をキーワードとして、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有調査の課題、フィールドワーク、グループディスカッション等

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、レポート・課題の内容と到達度（知識・理解） 70%

#### <教科書>

特に指定しない。

#### <参考書>

特に指定しない。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎 1	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め 1	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第6回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導① 1	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導② 1	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導② 2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導② 3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3

22	研究指導② 4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導② 5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導② 6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導② 7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導② 8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導② 9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導② 10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
29	研究指導② 11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 11
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	西田 修斗			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本ゼミでは、「数学を学ぶ価値」について自分なりの考えを持つこと、そして自分の関心がある数学のテーマについて、「他者に楽しくわかりやすく伝えて、学ぶ意欲や興味関心を引き出す力」を身につけていく。指定された文献や自身の調査によって研究を進め、身の回りの生活や社会での数学の応用例と、中学校や高校で履修する数学の事柄を関連づけ、他者に伝わるような説明や表現方法についてプレゼンテーションを通して実践的に学ぶ。

### <授業の到達目標>

1. 相手の興味関心を引き出しながらわかりやすく伝える力を養う。 2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力）を養う。

### <授業の方法>

担当教員と相談のうえ、自分の関心がある数学（または算数）のテーマを設定する。それについて指定された文献や自身の調査によって研究を進める。その結果を発表し、発表に対する自己評価や他の学生の評価を共有する。より良い話し方や伝え方、表現方法について議論や意見交換を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

授業内の発表において内容だけではなく話し方や伝え方、表現方法について、学生が主体となって評価や議論、意見交換を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、指定された文献や自身の調査によって研究を進める。そして授業内での発表に向けて準備を行う。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、課題や発表の内容と到達度（知識・理解） 70%

### <教科書>

特に指定しない。

### <参考書>

特に指定しない。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナール I（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎 1	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め 1	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第6回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導① 1	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導② 1	研究テーマに沿った調査・課題制作、発表、ディスカッション
20	研究指導② 2	研究テーマに沿った調査・課題制作、発表、ディスカッション 2

21	研究指導② 3	研究テーマに沿った調査・課題制作、発表、ディスカッション 3
22	研究指導② 4	研究テーマに沿った調査・課題制作、発表、ディスカッション 4
23	研究指導② 5	研究テーマに沿った調査・課題制作、発表、ディスカッション 5
24	研究指導② 6	研究テーマに沿った調査・課題制作、発表、ディスカッション 6
25	研究指導② 7	研究テーマに沿った調査・課題制作、発表、ディスカッション 7
26	研究指導② 8	研究テーマに沿った調査・課題制作、発表、ディスカッション 8
27	研究指導② 9	研究テーマに沿った調査・課題制作、発表、ディスカッション 9
28	研究指導② 10	研究テーマに沿った調査・課題制作、発表、ディスカッション 10
29	研究指導② 11	研究テーマに沿った調査・課題制作、発表、ディスカッション 11
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	小川 智勢子			
配当年次	3年	配当学期	前期・後 期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

ゼミナール I（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

#### <授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。  
2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

#### <授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

パワーポイントなどの資料を作成しての発表テーマを設定しての話し合いの進行など

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価で（知識・理解）70%

#### <教科書>

特に指定しない。

#### <参考書>

特に指定しない。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナール I（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第6回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション

20	研究指導② 2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導② 3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
22	研究指導② 4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導② 5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導② 6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導② 7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導② 8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導② 9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導② 10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
29	研究指導② 11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 11
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	濱嶋 幸司			
配当年次	3年	配当学期	前期・後 期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

ゼミナール I（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

＜授業の到達目標＞

1．社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。  
2．リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

＜授業の方法＞

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニング有 各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）30％、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価で（知識・理解）70％

＜教科書＞

特に指定しない。

＜参考書＞

高野良子・武内清編著 『教育の基礎と展開 豊かな教育・保育のつながりをめざして』〔第3版〕 学文社  
2024年3月25日

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	ゼミの進め方・目的・内容	ゼミナール I（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第6回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。

19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導② 2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導② 3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
22	研究指導② 4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導② 5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導② 6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導② 7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導② 8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導② 9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導② 10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
29	研究指導② 11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 11
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	高橋 章二			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点(特別支援教育・インクルーシブ教育) から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

### <授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、教育の視点(特別支援教育・インクルーシブ教育) から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。 2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

### <授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎時間テーマに沿ったディスカッションを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミレポート・最終レポート、到達度評価で（知識・理解）70%

### <教科書>

特に指定しない。

### <参考書>

特に指定しない。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第6回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導② 2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2

21	研究指導② 3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
22	研究指導② 4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導② 5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導② 6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導② 7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導② 8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導② 9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導② 10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
29	研究指導② 11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 11
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	清田 美紀			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、体育科教育学やスポーツ教育学の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

### <授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識を習得する。2. 体育科教育学の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。3. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

### <授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（履修者が関心をもったテーマを全体に伝え、その内容について、履修者全員でセッションしたり、現代の体育科教育を取り巻く課題について、小グループで協議したりする。個々の設定したテーマに関して、ポスターを作成し、ポスターセッションを行う。）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：発表準備のレジュメ、プレゼン等（1時間程度）復習：発表内容の省察、修正（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

知識的領域50%については、自身が興味・関心をもった内容について、情報を収集し、整理した内容の理解に基づいて、自身の考えを深めること。レポートによる。態度的領域30%については、積極的な取り組み態度、出席状況。技能的領域20%については、情報収集・整理し、まとめた研究成果を発表する際のスキルを主に評価する。

### <教科書>

特に指定しない。

### <参考書>

特に指定しない。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第6回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション

20	研究指導② 2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導② 3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
22	研究指導② 4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導② 5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導② 6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導② 7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導② 8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導② 9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導② 10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
29	研究指導② 11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 11
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	竹下 厚志			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

ゼミナールⅠ（基礎）では、英語教育分野またはグローバル問題の分野について広く学び、自分の探究したいテーマを模索する。

### <授業の到達目標>

1. 研究テーマを絞り込むことができる。 2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を身につける。

### <授業の方法>

(1)講義（教員による解説と問いの提示） (2)グループワーク（学習内容に関する教え合い） (3)ディスカッション（模擬授業を対象とした問いに対する回答） (4)省察活動（まとめと発表）

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり。各自のテーマに関するグループ内での意見交換、プレゼンテーション（進捗情報に関する発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進めます。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめます。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定します。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求めます。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等 30%、レポート・課題の内容 40%、発表 30%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め2	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め3	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め4	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め5	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め6	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め7	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め8	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め9	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め10	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導①2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導①3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導②2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
21	研究指導②3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
22	研究指導②4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
23	研究指導②5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
24	研究指導②6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
25	研究指導②7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション

26	研究指導②8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
27	研究指導②9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
28	研究指導②10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
29	研究指導②11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	武 幸枝			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

異文化理解や異文化コミュニケーションについて広く学び、自分の探究したいテーマを模索する。

#### <授業の到達目標>

1. 研究テーマを絞り込むことができる。 2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を身につける。

#### <授業の方法>

(1)講義（教員による解説と問いの提示） (2)グループワーク（学習内容に関する教え合い） (3)ディスカッション（模擬授業を対象とした問いに対する回答） (4)省察活動（まとめと発表）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめる。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション30%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナール I（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導①2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導①3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導②2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
21	研究指導②3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
22	研究指導②4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
23	研究指導②5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
24	研究指導②6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
25	研究指導②7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
26	研究指導②8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
27	研究指導②9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション

28	研究指導⑩	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
29	研究指導⑪	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	高崎 展好			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本ゼミナールは、音楽表現の可能性、有効性について研究及び実践を行います。音楽表現及び演奏制作による学内外での表現活動を通して、専門性に裏付けられた豊かな創造性、音楽表現力、表現活動から生じるコミュニケーション力を養います。これらをどのように保育・教育現場で活用できるかを考察する。

#### <授業の到達目標>

ゼミナール学生全員で演奏制作研究及び研究発表（コンサート）を行います。企画・計画・運営に関する実践力を身につけ学内外での研究発表を以って研究作品を創り上げることを目標とする。上記目標を達成するために、ゼミナールⅠでは、基礎的な音楽基礎力の育成、合唱や合奏を通じた音楽表現力、専門的な知識と技術の修得を目指します。

#### <授業の方法>

学生が主体となって様々な音楽表現活動を行う。音楽を愛好する心情と積極的な活動の取組み、参加意欲が求められる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

音楽表現、演奏技能、作品制作に関わる演習を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究作品制作、研究発表に支障が出ないよう準備や練習などを授業時間外での取組みが必要とされる。配布された楽譜等の読譜の予習 60分以上、授業で取り組んだ研究作品の復習 60分以上（必要に応じて補講を行う場合もある）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、作品制作への取組み姿勢 30%、研究発表 40%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的、内容、授業方法、評価の仕方について理解する。
2	研究指導1	研究テーマの検討・設定研究作品制作指導
3	研究指導2	研究発表の企画、計画の立案研究作品制作指導
4	研究指導3	作品制作技術指導
5	研究指導4	作品制作技術指導
6	研究指導5	作品制作技術指導
7	研究指導6	作品制作技術指導
8	研究指導7	作品制作技術指導
9	研究指導8	研究発表に向けた研究指導
10	研究指導9	研究発表に向けた研究指導
11	研究指導10	研究発表に向けた研究指導
12	研究指導11	研究発表に向けた研究指導
13	研究指導12	研究発表に向けた研究指導
14	研究指導13	研究発表に向けた研究指導及び準備
15	前期研究発表	研究作品の学内外での発表（コンサート）
16	研究指導14	研究発表の企画、計画の立案研究作品制作指導
17	研究指導15	研究発表の企画、計画の立案研究作品制作指導
18	研究指導16	作品制作技術指導
19	研究指導17	作品制作技術指導
20	研究指導18	作品制作技術指導
21	研究指導19	作品制作技術指導
22	研究指導20	作品制作技術指導
23	研究指導21	研究発表に向けた研究指導

24	研究指導22	研究発表に向けた研究指導
25	研究指導23	研究発表に向けた研究指導
26	研究指導24	研究発表に向けた研究指導
27	研究指導25	研究発表に向けた研究指導
28	研究指導26	研究発表に向けた研究指導及び準備
29	後期研究発表	研究作品の学内外での発表（コンサート）
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	羽田 あずさ			
配当年次	3年	配当学期	前期・後 期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業では、リサーチ・リテラシー（研究を遂行するための必要な基礎的能力）として、課題発見力・情報収集力・情報整理力・読解力データ分析力・文章力・プレゼンテーション能力の育成をめざす。さらに教育の観点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識・技能の発達と批判的思考態度の向上を目指す。

#### <授業の到達目標>

1. 社会人に求められる汎用スキルとしてのリサーチ・リテラシーを身につけている。2. 英語教育において、自身の興味関心がある分野の専門的知識を身につけようとしている。

#### <授業の方法>

(1) 講義（教員による解説と問いの提示） (2) グループワーク (3) ディスカッション (4) 省察活動

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーション

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめる。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各界、予習（発表準備等）を1時間、復讐（内容の振り返り）を1時間程度する。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度、思考判断表現） 30%、課題（知識・理解、思考判断表現） 70%

#### <教科書>

#### <参考書>

竹内理・水本篤ほか（2023） 外国語教育研究ハンドブック（増補版）—研究手法のより良い理解のために— 松柏社

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する
2	研究法講話	卒業論文作成の手引きを確認する
3	研究の基礎（1）	論文の構成要素を知り、意識しながらAbstractを読む
4	研究の基礎（2）	剽窃を防ぐため、引用の種類と方法を知る
5	卒業研究手法（1）実践への理解・省察を促すアプローチ	アクションリサーチ；自己エスノグラフィー；フィールドワークなど
6	卒業研究手法（2）	PAC分析；研究倫理；研究同意書の構成要素
7	卒業研究手法（3）	ナラティブ分析（テーマ分析・構造分析）；半構造化インタビュー
8	基礎的なデータの分析・提示・解釈	統計分析；図表の提示方法を知る
9	文献レビューの書き方（1）	先行研究を網羅し、関心のあるテーマの全体像をつかむ：専門用語やキーワードを理解する
10	文献レビューの書き方（2）	すでに明らかになっていることとまだ明らかになっていないことを知る；自分の研究の位置づけを明確にする（研究課題設定）
11	先行研究及び研究課題の発表（1）	発表に関する質疑応答・ディスカッション
12	先行研究及び研究課題の発表（2）	発表に関する質疑応答・ディスカッション
13	先行研究及び研究課題の発表（3）	発表に関する質疑応答・ディスカッション
14	先行研究及び研究課題の発表（4）	発表に関する質疑応答・ディスカッション1
15	前期まとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める；後期授業への見通しを立てる
16	研究指導（1）	研究課題を再考する
17	研究指導（2）	研究課題を再考する
18	研究指導（3）	研究方法の計画、ディスカッション
19	研究指導（4）	研究方法の計画、ディスカッション
20	研究指導（5）	研究方法の計画、ディスカッション
21	研究指導（6）	研究方法の計画、ディスカッション
22	研究指導（7）	調査準備（アンケート・インタビュー・テストなどの作成）
23	研究指導（8）	調査準備（アンケート・インタビュー・テストなどの作成）

24	研究指導（ 9 ）	調査準備（アンケート・インタビュー・テストなどの作成）
25	研究指導（ 1 0 ）	調査準備（アンケート・インタビュー・テストなどの作成）
26	研究指導（ 1 1 ）	データの分析・提示・解釈、ディスカッション
27	研究指導（ 1 2 ）	データの分析・提示・解釈、ディスカッション
28	研究指導（ 1 3 ）	データの分析・提示・解釈、ディスカッション
29	研究指導（ 1 4 ）	データの分析・提示・解釈、ディスカッション
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	伊藤 仁美			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業では、リサーチ・リテラシー（研究を遂行するために必要な基礎的能力）として、聞く力・課題発見力・情報収集力・情報整理力・読解力・書く力・データ分析力・プレゼンテーション力の育成を目指す。さらに教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識・技能の発達と批判的思考態度の向上を目指す。

### <授業の到達目標>

1. 社会人に求められる汎用スキルとしてのリサーチ・リテラシーを身につけている。2. 英語教育において、自身の興味関心がある分野の専門的知識を身につけようとしている。

### <授業の方法>

(1)講義（教員による解説と問いの提示）(2)グループワーク（学習内容に関する教え合い）(3)ディスカッション（問いに対する考えの共有）(4)省察活動（まとめと発表）

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有 グループワーク（学習内容に関する教え合い）・ディスカッション（問いに対する考えの共有）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめる。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度要する。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、課題への取り組み70%

### <教科書>

### <参考書>

浦野研ほか（2016） はじめての英語教育研究：押さえておきたいコツとポイント 研究社

APA（米国心理学会）（2022） APA論文作成マニュアル第7版

竹内理・水本篤ほか（2023） 外国語教育研究ハンドブック【増補版】－ 研究手法のより良い理解のために 松柏社

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する
2	研究法講話	卒業論文作成の手引きを確認する
3	研究の基礎(1)	論文の構成要素を知り、意識しながらAbstractを読む；Google Scholarを用いて文献を検索する；検索した文献に応じて適切なAPA表記ができるようにする
4	研究の基礎(2)	剽窃を防ぐため、引用の種類と方法を知る（直接引用・間接引用・ブロック引用）；AIを搭載したリサーチアシスタントツールの使い方を知り、効率よく情報を収集できるようにする
5	ゼミの先輩の卒業研究手法（1）：実践への理解・省察を促すアプローチ	アクションリサーチ；自己エスノグラフィー；フィールドワーク；達人研究；アンケート；ジャーナルライティング
6	ゼミの先輩の卒業研究手法（2）：価値観・思考・態度などを可視化するアプローチ	PAC分析；研究倫理；研究同意書の構成要素
7	ゼミの先輩の卒業研究手法（3）：経験から意味を取り出し主観を客観化するアプローチ	ナラティブ分析（テーマ分析・構造分析）；半構造化インタビュー；コーディング
8	基礎的なデータの分析・提示・解釈	無料で統計分析ができるWebアプリケーションを試用する；図表の提示方法を知る（結果と考察を混同しない）
9	文献レビューの書き方（1）	先行研究を網羅し、関心のあるテーマの全体像をつかむ；専門用語やキーワードを理解する
10	文献レビューの書き方（2）	すでに明らかになっていることとまだ明らかになっていないことを知る；自分の研究の位置づけを明確にする（ニッチを見出し研究課題を設定する）
11	先行研究および研究課題の発表（1）	発表に関する質疑応答・ディスカッション1

12	先行研究および研究課題の発表 (2)	発表に関する質疑応答・ディスカッション 2
13	先行研究および研究課題の発表 (3)	発表に関する質疑応答・ディスカッション 3
14	先行研究および研究課題の発表 (4)	発表に関する質疑応答・ディスカッション 4
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める；後期授業への見通しを立てる
16	研究指導 (1)	研究課題を再考する 1
17	研究指導 (2)	研究課題を再考する 2
18	研究指導 (3)	研究方法の計画、ディスカッション 1
19	研究指導 (4)	研究方法の計画、ディスカッション 2
20	研究指導 (5)	研究方法の計画、ディスカッション 3
21	研究指導 (6)	研究方法の計画、ディスカッション 4
22	研究指導 (7)	調査準備 (アンケート・インタビュー・テストなどの作成) 1
23	研究指導 (8)	調査準備 (アンケート・インタビュー・テストなどの作成) 2
24	研究指導 (9)	調査準備 (アンケート・インタビュー・テストなどの作成) 3
25	研究指導 (10)	調査準備 (アンケート・インタビュー・テストなどの作成) 4
26	研究指導 (11)	データの分析・提示・解釈、ディスカッション 1
27	研究指導 (12)	データの分析・提示・解釈、ディスカッション 2
28	研究指導 (13)	データの分析・提示・解釈、ディスカッション 3
29	研究指導 (14)	データの分析・提示・解釈、ディスカッション 4
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	3年	配当学期	前期・後期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的・専門的知識や技能の修得を行う。また、各自、ゼミ論文作成に必要な基礎的能力を身に付けるとともに社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すために、本科目は、3つの内容によって構成される。①体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心とした内容。②社会人に求められる必要最低限の教養や専門的知識を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容。③ゼミ論文作成

### <授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、自己の進路を探究し、学び続けることができる。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得している。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につけている。

### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有研究分野に応じた分析方法の検討や先行研究の発表及びディスカッションを行います。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌や先行研究を調査する。（2時間）。実技活動など実践においてはデモンストレーションを行う（1時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（2時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・態度：20%調査・研究の課題発表：50%体育人の育成を目指したキャリア教育にかかわる課題：30%

### <教科書>

必要に応じて用意する。

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要・研究や調査の仕方について
2	文献の収集方法	図書館とインターネットを利用した文献収集方法の知る
3	体育・運動学の研究（1）	体育・スポーツに関する文献の講読（1）
4	体育・運動学の研究（2）	体育・スポーツに関する実技活動
5	体育・運動学の研究（3）	体育・スポーツに関する活動まとめ
6	研究テーマ（仮）の設定（1）	各自が関心を持った研究テーマの発表（1）
7	研究テーマ（仮）の設定（2）	各自が関心を持った研究テーマの発表（2）
8	研究テーマに沿った文献研究（1）	先行研究の要約と発表（1）
9	研究テーマに沿った文献研究（2）	先行研究の要約と発表（2）
10	研究テーマに沿った文献研究（3）	先行研究の要約と発表（3）
11	研究テーマに沿った文献研究（4）	先行研究の要約と発表（4）
12	研究テーマに沿った文献研究（5）	先行研究の要約と発表（5）
13	研究テーマに沿った文献研究（6）	先行研究の要約と発表（6）
14	研究テーマの決定	個人の研究テーマ策定
15	中間まとめ	前期の総括と夏季休暇中の課題設定
16	研究の方法（1）	予備調査に向けた方法論の検討（1）
17	研究の方法（2）	予備調査に向けた方法論の検討（2）

18	研究の方法 (3)	予備調査に向けた方法論の検討 (3)
19	研究の方法 (4)	予備調査に向けた方法論の検討 (4)
20	予備調査 (1)	調査・データ収集の実施 (1)
21	予備調査 (2)	調査・データ収集の実施 (2)
22	予備調査 (3)	調査・データ収集の実施 (3)
23	予備調査 (4)	結果の発表及び改善点についての討議 (1)
24	予備調査 (5)	結果の発表及び改善点についての討議 (2)
25	予備調査 (6)	結果の発表及び改善点についての討議 (3)
26	研究課題の設定	具体的な研究課題を設定し、研究計画を作成する
27	研究計画の立案 (1)	研究計画書の作成と発表 (1)
28	研究計画の立案 (2)	研究計画書の作成と発表 (2)
29	研究計画の立案 (3)	研究計画書の作成と発表 (3)
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	佐藤 伸之			
配当年次	3年	配当学期	前期・後期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的・専門的知識や技能の修得を行う。また、各自、ゼミ論文作成に必要な基礎的能力を身に付けるとともに社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すために、本科目は、3つの内容によって構成される。①体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心とした内容。②社会人に求められる必要最低限の教養や専門的知識を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容。③ゼミ論文作成

#### <授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、自己の進路を探究し、学び続けることができる。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得している。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につけている。

#### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有研究分野に応じた分析方法の検討や先行研究の発表及びディスカッションを行います。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌や先行研究を調査する。（2時間）。実技活動など実践においてはデモンストレーションを行う（1時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（2時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・態度：20%調査・研究の課題発表：50%体育人の育成を目指したキャリア教育にかかわる課題：30%

#### <教科書>

必要に応じて用意する。

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要・研究や調査の仕方について
2	文献の収集方法	図書館とインターネットを利用した文献収集方法の知る
3	体育・スポーツ科学の研究（1）	体育・スポーツ科学に関する文献の講読（1）
4	体育・スポーツ科学の研究（2）	体育・スポーツ科学に関する実技活動
5	体育・スポーツ科学の研究（3）	体育・スポーツに関する活動まとめ
6	研究テーマ（仮）の設定（1）	各自が関心を持った研究テーマの発表（1）
7	研究テーマ（仮）の設定（2）	各自が関心を持った研究テーマの発表（2）
8	研究テーマに沿った文献研究（1）	先行研究の要約と発表（1）
9	研究テーマに沿った文献研究（2）	先行研究の要約と発表（2）
10	研究テーマに沿った文献研究（3）	先行研究の要約と発表（3）
11	研究テーマに沿った文献研究（4）	先行研究の要約と発表（4）
12	研究テーマに沿った文献研究（5）	先行研究の要約と発表（5）
13	研究テーマに沿った文献研究（6）	先行研究の要約と発表（6）
14	研究テーマの決定	個人の研究テーマ策定
15	中間まとめ	前期の総括と夏季休暇中の課題設定
16	研究の方法（1）	予備調査に向けた方法論の検討（1）
17	研究の方法（2）	予備調査に向けた方法論の検討（2）

18	研究の方法 (3)	予備調査に向けた方法論の検討 (3)
19	研究の方法 (4)	予備調査に向けた方法論の検討 (4)
20	予備調査 (1)	調査・データ収集の実施 (1)
21	予備調査 (2)	調査・データ収集の実施 (2)
22	予備調査 (3)	調査・データ収集の実施 (3)
23	予備調査 (4)	結果の発表及び改善点についての討議 (1)
24	予備調査 (5)	結果の発表及び改善点についての討議 (2)
25	予備調査 (6)	結果の発表及び改善点についての討議 (3)
26	研究課題の設定	具体的な研究課題を設定し、研究計画を作成する
27	研究計画の立案 (1)	研究計画書の作成と発表 (1)
28	研究計画の立案 (2)	研究計画書の作成と発表 (2)
29	研究計画の立案 (3)	研究計画書の作成と発表 (3)
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

### <授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。4. ゼミナールⅡでの論文作成に向けての基礎を身に付ける。

### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：各自のテーマについて、定期的に発表を行いグループディスカッションを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

体育・スポーツに関する調査・研究の課題発表 50%、体育人の育成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%

### <教科書>

必要に応じて

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方について
2	文献の収集方法	図書館とインターネットを利用した文献収集方法の知る
3	体育・運動学の研究（1）	体育・スポーツ心理学に関する文献の講読（1）
4	体育・運動学の研究（2）	体育・スポーツ心理学に関する文献の講読（2）
5	体育・運動学の研究（3）	体育・スポーツ心理学に関する文献の講読（3）
6	研究テーマ（仮）の設定（1）	各自が関心を持った研究テーマの発表（1）
7	研究テーマ（仮）の設定（2）	各自が関心を持った研究テーマの発表（2）
8	研究テーマに沿った文献研究（1）	先行研究の要約と発表（1）
9	研究テーマに沿った文献研究（2）	先行研究の要約と発表（2）
10	研究テーマに沿った文献研究（3）	先行研究の要約と発表（3）
11	研究テーマに沿った文献研究（4）	先行研究の要約と発表（4）
12	研究テーマに沿った文献研究（5）	先行研究の要約と発表（5）
13	研究テーマに沿った文献研究（6）	先行研究の要約と発表（6）
14	研究テーマの決定	個人の研究テーマ策定
15	中間まとめ	前期の総括と夏季休暇中の課題設定
16	研究の方法（1）	予備調査に向けた方法論の検討（1）
17	研究の方法（2）	予備調査に向けた方法論の検討（2）
18	研究の方法（3）	予備調査に向けた方法論の検討（3）
19	研究の方法（4）	予備調査に向けた方法論の検討（4）
20	予備調査（1）	調査・データ収集の実施（1）

21	予備調査 (2)	調査・データ収集の実施 (2)
22	予備調査 (3)	調査・データ収集の実施 (3)
23	予備調査 (4)	結果の発表及び改善点についての討議 (1)
24	予備調査 (5)	結果の発表及び改善点についての討議 (2)
25	予備調査 (6)	結果の発表及び改善点についての討議 (3)
26	研究課題の設定	具体的な研究課題を設定し、研究計画を作成する
27	研究計画の立案 (1)	研究計画書の作成と発表 (1)
28	研究計画の立案 (2)	研究計画書の作成と発表 (2)
29	研究計画の立案 (3)	研究計画書の作成と発表 (3)
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	十河 直太			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ名は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

### <授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。これらを修得し、ゼミナールⅡでの論文作成に向けての基礎を身に付ける。

### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：有グループに分かれ、単元で学んだ内容についてディスカッションを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

体育・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表 50%、体育人の育成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%

### <教科書>

必要に応じて

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(1)	教師力養成に向けた講座(1)
3	スポーツ科学とは	スポーツ科学を勉強する意義を考える。
4	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(2)	教師力養成に向けた講座(2)
5	スポーツ科学センターの見学	スポーツ科学の研究施設を見学し、研究とは何かを学ぶ。
6	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(3)	教師力養成に向けた講座(3)
7	研究についてのディスカッション	スポーツ科学について興味のあることを発表し、ディスカッションを行う。
8	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(4)	教師力養成に向けた講座(4)
9	論文抄読1	興味を持った論文を読み、発表する。
10	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(5)	教師力養成に向けた講座(5)
11	論文抄読2	味を持った論文を読み、発表する。
12	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(6)	公務員養成に向けた講座(1)
13	実験機器を用いた測定1	スポーツ科学センターの機器を用いて測定法を学ぶ。
14	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育	公務員養成に向けた講座(2)

	リア教育(7)	
15	実験機器を用いた測定 2	スポーツ科学センターの実験機器を用いて測定法を学ぶ。
16	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(8)	公務員養成に向けた講座(3)
17	データ処理	測定データの処理法を学ぶ。
18	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(9)	公務員養成に向けた講座4)
19	研究テーマを探る 1	これまでの授業の内容を踏まえ、今後の研究テーマを決める。
20	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(10)	公務員養成に向けた講座(5)
21	研究テーマを探る 2	これまでの授業の内容を踏まえ、今後の研究テーマを決める。
22	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(11)	企業人養成に向けた講座(1)
23	研究計画を寝る	研究を実施するための計画を立てる。
24	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(12)	企業人養成に向けた講座(2)
25	実験・測定	実験または測定を行う。
26	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(13)	企業人養成に向けた講座(3)
27	測定結果のデータ処理・まとめ 1	研究成果をまとめる。
28	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(14)	企業人養成に向けた講座(4)
29	測定結果のデータ処理・まとめ 2	パワーポイントで発表用のスライドを作成する。
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	平林 大輔			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い学生の研究を支援する。したがって本ゼミナールは、学生の研究方向の拡散や広範囲な興味関心を肯定的に受け止め、なおかつ研究分野を一定程度に特定できるよう積極的な支援体制を取る。具体的には文献研究を始め、受講者が研究課題を設定できるよう様々なアドバイスや共同討議を取り入れたゼミナール形式とする。ゼミナールⅠ（基

### <授業の到達目標>

柔道整復師に必要な幅広い知識や技術に関して科学的思考を用いことによりアプローチが出来るように、各種の研究手法を学びながら研究テーマを設定し、研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的思考を修得することを目標とする。

### <授業の方法>

現段階において明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

（予習・復習等）研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し分析する。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【対面授業】課題達成度（50％）、学習意欲（30％）、レポート（20％）で評価する。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	文献研究1	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う1
3	文献研究2	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う2
4	文献研究3	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う3
5	文献研究4	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う4
6	文献研究5	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う5
7	研究テーマ発表1	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する1
8	研究テーマ発表2	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する2
9	研究テーマ発表3	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する3
10	研究テーマ発表4	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する4
11	研究計画の立案1	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性を発表する1
12	研究計画の立案2	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性を発表する2
13	研究計画の立案3	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性を発表する3
14	研究計画の立案4	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性を発表する4
15	研究計画の立案5	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性を発表する5
16	研究テーマについて実験・調査の実施1	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する1
17	研究テーマについて実験・調査の実施2	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する2
18	研究テーマについて実験・調査の実施3	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する3
19	研究テーマについて実験・調査の実施4	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する4
20	研究テーマについて実験・調査の実施5	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する5
21	研究内容について共同討議1	各自の研究内容について発表し共同討議する1
22	研究内容について共同討議2	各自の研究内容について発表し共同討議する2
23	研究内容について共同討議3	各自の研究内容について発表し共同討議する3

24	研究内容について共同討議4	各自の研究内容について発表し共同討議する4
25	研究内容について共同討議5	各自の研究内容について発表し共同討議する5
26	総括1	研究進捗状況発表会1
27	総括2	研究進捗状況発表会2
28	総括3	研究進捗状況発表会3
29	総括4	研究進捗状況発表会4
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	河野 儀久			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

スポーツ現場におけるストレングス&コンディショニングまたはアスレティックトレーニングの指導現場から見いだされた問題点や疑問点などについて、様々なエビデンスを根拠に答えを導き出す能力を身につける。また、自ら実験などの手法を用いて検証、考察し、見解を明らかにして行く能力を身につける。

#### <授業の到達目標>

スポーツ現場におけるストレングス&コンディショニングまたはアスレティックトレーニングの指導現場から見いだされた問題点や疑問点などについて、様々なエビデンスを根拠に答えを導き出す能力を身につける。

#### <授業の方法>

1. 講義および実技 2. 調査および発表

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

論文プレゼンテーション

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

自分自身の課題を解決するための根拠となる文献を検索し、ヒットした文献をわかりやすくまとめる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1. 文献検索プレゼンテーションの内容 2. 小テスト（国家試験問題等） 3. データの収集・処理・プレゼンまでの内容

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の方針および進め方の説明
2	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
3	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
4	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
5	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
6	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
7	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
8	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
9	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
10	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
11	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
12	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
13	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
14	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
15	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
16	オリエンテーション	後期の授業計画について説明する
17	解剖学	国家試験過去問演習
18	解剖学	国家試験過去問演習
19	解剖学	国家試験過去問演習
20	生理学	国家試験過去問演習
21	生理学	国家試験過去問演習
22	生理学	国家試験過去問演習
23	生理学	国家試験過去問演習
24	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
25	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
26	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
27	柔道整復学理論	国家試験過去問演習

28	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
29	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	早田 剛			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ名は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

### <授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表・ディスカッションを行う。

### <準備学習等（予習・復習）※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①授業態度：30%②課題提出・意見交換：50%③自主学習・積極性：20%

### <教科書>

特になし

### <参考書>

松橋・高岡 スポーツまちづくりの教科書 青弓社

畑・小野里 基本・スポーツマネジメント 大修館書店

柳沢・木村・清水 テキスト 体育・スポーツ経営学 大修館書店

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(1)	教師力養成に向けた講座(1)
3	テーマ設定	現在の体育・スポーツに関する課題・問題を探る
4	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(2)	教師力養成に向けた講座(2)
5	課題発表(1)	1回目の課題・問題に関する発表。次回の発表に向けた問題を討議する
6	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(3)	教師力養成に向けた講座(3)
7	課題発表(2)	2回目の課題・問題に関する発表。次回の発表に向けた問題を討議する
8	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(4)	教師力養成に向けた講座(4)
9	課題発表(3)	3回目の課題・問題に関する発表。次回の発表に向けた問題を討議する
10	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(5)	教師力養成に向けた講座(5)
11	これまでのまとめ	3回の報告内容について総括し、現在の課題・問題について整理する。
12	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(6)	公務員養成に向けた講座(1)

13	先行研究を調べる	整理された課題・問題をもとに、先行研究をレビューする。
14	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(7)	公務員養成に向けた講座(2)
15	課題発表(4)	先行研究のレビューし、新たな視点を検討する(1)。
16	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(8)	公務員養成に向けた講座(3)
17	課題発表(5)	先行研究のレビューをし、新たな視点を検討する(2)。
18	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(9)	公務員養成に向けた講座4)
19	課題発表(6)	先行研究のレビューをし、新たな視点を検討する(3)。
20	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(10)	公務員養成に向けた講座(5)
21	研究テーマの選定(1)	これまでの課題発表をまとめ、研究テーマを設定する。
22	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(11)	企業人養成に向けた講座(1)
23	研究テーマの選定(2)	研究テーマの発表をし、今後の方向性について討議する。
24	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(12)	企業人養成に向けた講座(2)
25	研究方法の検討	研究テーマに沿った研究方法について討議する。
26	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(13)	企業人養成に向けた講座(3)
27	調査対象の検討	研究テーマに沿った調査対象について討議する。
28	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(14)	企業人養成に向けた講座(4)
29	研究計画の作成	テーマを設定し、具体的な研究研究を作成する。
30		

科目コード	55007				区 分	コア			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	河端 隆志			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習形式	卒業要件	卒業研究としてまとめ提出をする

### <授業の概要>

“Moto, ergo sum”、“動く故に我あり”。私たちは、地球という重力のもとでくらしています。身体動作には、直立二足歩行を習慣化した動作の基本が存在します。そして、さまざまなスポーツの競技特性から要求される身体動作があります。アスリートは「主観」と「客観」のズレを少なくできるように日々研鑽を重ねていることと思います。また、パフォーマンスの抑制が起こる制限因子も気になるところでしょう。その昔、スポーツは「暴力反対」のムーブメントとして欧州で起こりました。スポーツを愉しむマインドとして“ No

### <授業の到達目標>

・スポーツを語れること。・それぞれの競技スポーツを通して何を学ぶことが出来き、社会人としても通用するものを自らの言葉で語れること。・卒業研究をゴールとした研究課題を見つけ、それを解明する技能・方法を身に付けること。

### <授業の方法>

本ゼミナールは、演習形式で行う。それぞれが、スポーツ現場で不思議に思ったこと、トレーニング方法などをテーマとして取り上げ、それを解明する手法についても学ぶ。卒業年度で卒業研究作成に繋がることを目標として、身体動作ならびにスポーツ動作に関する基礎的なものとして、からだのしくみについて機能解剖学的視点、人体生理学的視点および栄養学的視点からwhole bodyで捉えられることを学ぶ。こうした流れは、研究デザインの構築に繋がるものであり、スポーツのサイエンス・アイを養うことに通じるの。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

それぞれが、スポーツ現場における研究テーマを見つけ、それについてゼミで発表形式でディスカッションを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

卒業研究としてまとめることをゴールと考え、データの取得や解析の方法などをそれぞれに学ぶ（60分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎時間での研究発表やディスカッションへの積極的な学習態度およびその内容（前期：平常点15回×1点＋課題内容70点）（後期：平常点15回×1点＋課題内容70点）

### <教科書>

必要に応じて紹介する

### <参考書>

必要に応じて紹介する

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	各個人の将来の目標に向けてたゼミナールの目的と進め方
2	身体動作・スポーツ動作の科学を通した眼差しⅠ	スポーツ本来の在り方について考える・スポーツは暴力反対のムーブメントとして起こった
3	身体動作・スポーツ動作の科学を通した眼差しⅡ	エリート・アスリートの身体動作・主観と客観のズレを考える・二軸感覚のスポーツ動作
4	身体動作・スポーツ動作の科学を通した眼差しⅢ	身体動作の右と左・からだはシンメトリーではない
5	身体動作・スポーツ動作の科学を通した眼差しⅣ	・歩行および走行の正しい身体動作・投動作の正しい身体動作・外力を上手く利用できる身体動作機能解剖学的視点より考える
6	身体動作・スポーツ動作の科学を通した眼差しⅤ	・ステップ動作における外力の使い方
7	身体動作・スポーツ動作の科学を通した眼差しⅥ	・スポーツ動作におけるストップ・モーションを考える
8	健康および身体運動・スポーツに関する情報収集の仕方	・論文や情報検索の仕方
9	スポーツ・シーンにおける疑問を探るⅠ	・それぞれのスポーツ・シーンにおいて自らが不思議に思い、考えた事象をプレゼ

10	スポーツ・シーンにおける疑問を探るⅡ	ンテーションし、ディスカッションを展開する・二人がプレゼンテーションを行う
11	スポーツ・シーンにおける疑問を探るⅡ	・それぞれのスポーツ・シーンにおいて自らが不思議に思い、考えた事象をプレゼンテーションし、ディスカッションを展開する・二人がプレゼンテーションを行う
12	アスリートおよび指導者のための運動生理学トピックスⅠ	・運動と熱移動と体温上昇・体温調節のメカニズムと運動時の体温調節反応
13	アスリートおよび指導者のための運動生理学トピックスⅡ	・運動時の体温調節に影響する因子 運動トレーニング、暑熱順化と寒冷順化
14	アスリートおよび指導者のための運動生理学トピックスⅢ	・運動と体液バランス・熱中症・経口摂取による暑熱脱水回復と水・電解質バランス
15	前期のまとめ	・各自10分程度で前期のゼミを振り返り、今後の研究の進め方をプレゼンテーションする
16	トレーニングによる生体への影響因子を探るⅠートレーニングの生理学的原理ー	・トレーニングの生理学的原理を学ぶ
17	トレーニングによる生体への影響因子を探るⅡ	・トレーニング様式が体力要因に及ぼす影響 持続的運動と間欠的運動 筋力のトレーニング 無気的パワー 有気的パワー
18	トレーニングによる生体への影響因子を探るⅢ	・トレーニング様式が体力要因に及ぼす影響 年間を通じてのトレーニング 心理的側面
19	トレーニングによる生体への影響因子を探るⅣ	・生物学的な長期的効果 運動器官 酸素運搬系 機械的効率と技術 起立性反応 体組成 血中脂質
20	運動生理学に関する研究発表Ⅰ	Textbook of Work Physiology (P.O. Astrand & K. Rodahl)の翻訳書を紹介するそれぞれの競技スポーツと照らし、興味のある項目を選出してその項目について発表をする
21	運動生理学に関する研究発表Ⅱ	Textbook of Work Physiology (P.O. Astrand & K. Rodahl)より各自が項目を選びプレゼンテーションする
22	運動生理学に関する研究発表Ⅲ	Textbook of Work Physiology (P.O. Astrand & K. Rodahl)より各自が項目を選びプレゼンテーションする
23	運動生理学に関する研究発表Ⅳ	Textbook of Work Physiology (P.O. Astrand & K. Rodahl)より各自が項目を選びプレゼンテーションする
24	運動生理学に関する研究発表Ⅴ	Textbook of Work Physiology (P.O. Astrand & K. Rodahl)より各自が項目を選びプレゼンテーションする
25	運動生理学に関する研究発表Ⅵ	Textbook of Work Physiology (P.O. Astrand & K. Rodahl)より各自が項目を選びプレゼンテーションする
26	運動生理学に関する研究発表Ⅶ	Textbook of Work Physiology (P.O. Astrand & K. Rodahl)より各自が項目を選びプレゼンテーションする
27	スポーツ・シーンにおけるスポーツ科学に関するテーマを見つけるⅠ	・スポーツ科学の研究デザイン 観察 仮説を立てる 仮説の検証
28	スポーツ・シーンにおけるスポーツ科学に関するテーマを見つけるⅡ	・スポーツ科学の研究デザイン 観察 仮説を立てる 仮説の検証
29	スポーツ・シーンにおけるスポーツ科学に関するテーマを見つけるⅢ	・スポーツ科学の研究デザイン 観察 仮説を立てる 仮説の検証
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	保科 圭汰			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

### <授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素 有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 30%、課題達成度 70%

### <教科書>

特になし

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (1)	身体組成の測定
3	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (2)	身体組成の測定
4	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (3)	エネルギー消費量の測定
5	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (4)	エネルギー消費量の測定
6	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (5)	栄養調査の方法
7	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (6)	栄養調査の実践
8	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (7)	栄養調査の実践
9	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (8)	栄養調査の実践
10	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (9)	栄養調査の実践発表
11	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (10)	献立の作成

12	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (11)	献立の作成
13	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (12)	献立の作成
14	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (13)	調理実習
15	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (14)	献立作成・調理実習のまとめ
16	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究 (1)	文献の探し方・読み方
17	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(2)	論文抄読(1)
18	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(3)	論文抄読(2)
19	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(4)	論文抄読(3)
20	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(5)	論文抄読(4)
21	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(6)	文献研究のまとめ(1)
22	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(7)	文献研究のまとめ(2)
23	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測 定・調査(1)	研究計画の作成(1)
24	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測 定・調査(2)	研究計画の作成(2)
25	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測 定・調査(3)	研究計画の発表
26	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測 定・調査(4)	研究計画の考察
27	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測 定・調査(5)	実験・測定・調査の実施
28	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測 定・調査(6)	実験・測定・調査のデータ分析
29	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測 定・調査(7)	実験・測定・調査のデータ発表
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	眞鍋 芳江			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

### <授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素 有3、4人のグループに分かれ、テーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 30%、課題達成度 70%

### <教科書>

特になし

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (1)	身体組成の測定
3	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (2)	身体組成の測定
4	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (3)	エネルギー消費量の測定
5	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (4)	エネルギー消費量の測定
6	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (5)	栄養調査の方法
7	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (6)	栄養調査の実践
8	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (7)	栄養調査の実践
9	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (8)	栄養調査の実践
10	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (9)	栄養調査の実践発表
11	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (10)	献立の作成
12	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価	献立の作成

13	(11) スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (12)	献立の作成
14	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (13)	調理実習
15	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (14)	献立作成・調理実習のまとめ
16	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究 (1)	文献の探し方・読み方
17	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(2)	論文抄読(1)
18	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(3)	論文抄読(2)
19	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(4)	論文抄読(3)
20	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(5)	論文抄読(4)
21	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(6)	文献研究のまとめ(1)
22	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(7)	文献研究のまとめ(2)
23	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(1)	研究計画の作成(1)
24	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(2)	研究計画の作成(2)
25	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(3)	研究計画の発表
26	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(4)	研究計画の考察
27	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(5)	実験・測定・調査の実施
28	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(6)	実験・測定・調査のデータ分析
29	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(7)	実験・測定・調査のデータ発表
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人になれるよう演習形式で実施する。

### <授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること。論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

### <授業の方法>

ゼミナールⅠ（基礎）は、ディプロマポリシー4 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し、研究仮説を立てること。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲30% 課題レポート70%

### <教科書>

公益社団法人全国柔道整復学校協会 監修 彼末一之 編集 生理学 改訂第4版 南江堂

### <参考書>

編者 赤間高雄 発行者 曾根良介（2014年3月31日） はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ8 スポーツ医学【内科】（株）化学同人

編著者 藤本敏夫 大久保衛 発行者 前田茂（2020年9月30日） やさしいスチューデントトレーナーシリーズ 新スポーツ医学【改訂新版】 嵯峨野書院

著 Scott K. Powers Edward T. Howley（2020年8月25日発行 第1版第1刷）日本語版監修 内藤久士 柳谷登志雄 小林裕幸 高澤祐治 パワーズ運動生理学 株式会社 メディカル・サイエンス・インターナショナル

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠにおける年間の進行方法について
2	スポーツ医学とは	スポーツと医学について
3	スポーツ医学（内科）とは	内科系スポーツ障害について
4	メディカルチェック	メディカルチェックの内容について
5	アスリートの健康管理	アスリートの健康管理体制について
6	スポーツ医学（内科）（1）	循環器系および呼吸器系について
7	スポーツ医学（内科）（2）	消化器系と腎・泌尿器系について
8	スポーツ医学（内科）（3）	血液・免疫・アレルギーについて
9	スポーツ医学（内科）（4）	内分泌代謝系について
10	スポーツ医学（内科）（5）	熱中症について
11	測定と評価（1）	心拍数について
12	測定と評価（2）	乳酸について
13	測定と評価（3）	酸化ストレスについて
14	まとめ	前半まとめ（1）
15	まとめ	前半まとめ（2）
16	スポーツ医学（内科）（6）	スポーツ活動と疲労について

17	スポーツ医学（内科）（7）	女性スポーツ医学について
18	スポーツ医学（内科）（8）	スポーツ精神医学について
19	スポーツ医学（内科）（9）	アンチドーピングについて
20	スポーツ医学（内科）（10）	スポーツ活動による血液性状について
21	スポーツ医学（内科）（11）	運動強度について
22	測定と評価（4）	酸化ストレスおよび抗酸化力について
23	測定と評価（5）	心拍数からみた運動強度について
24	測定と評価（6）	運動負荷試験について
25	研究計画（1）	研究計画（1）
26	研究計画（2）	研究計画（2）
27	実験の実施	実験の実施
28	実験結果に対する考察（1）	考察（1）
29	実験結果に対する考察（2）	考察（2）
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。後期は主にゼミ論文作成に向けた準備を行っていく。

#### <授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

#### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有基本的に自身で調べてプレゼンテーションを用意し、ゼミ内で発表し、ディスカッションを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組(グループへの貢献度含む)50%、課題（ゼミ論文に向けた準備度合い） 50%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方 目標設定
2	課題発見・問題解決実習①	目標共有とグループワーク
3	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習①	コンディショニングとは 要因 グループワーク
4	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習②	運動能力・フィジカルパフォーマンスとは フィジカル・体力とは 要因
5	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習③	怪我とは 怪我予防のための要因
6	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習④	フィジカルパフォーマンスの階層
7	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習⑤	競技スポーツのパフォーマンスとは
8	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習⑥	競技スポーツのフィジカルパフォーマンスとは
9	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習⑦	リハビリ、リコンディショニングの階層
10	フィジカル測定評価実習①	フィールドテスト① パワー・スピード・アジリティ
11	フィジカル測定評価実習②	フィールドテスト② 持久力・スピード持久力
12	フィジカル測定評価実習③	ラボテスト① 動作分析
13	フィジカル測定評価実習④	ラボテスト② 筋電図
14	フィジカル測定評価実習⑤	ラボテスト③ 代謝系
15	前期まとめ	前期まとめと後期向けの課題
16	グループ研究①	テーマ・仮説設定

17	グループ研究②	文献考証
18	グループ研究③	仮説の設定
19	グループ研究④	予備実験
20	グループ研究⑤	本実験
21	グループ研究⑥	本実験②
22	グループ研究⑦	データの整理・解析
23	グループ研究⑧	データの整理・解析②
24	グループ研究⑨	考察
25	グループ研究⑩	発表資料作り
26	グループ研究発表	発表
27	個人研究演習①	ゼミ論のテーマ設定
28	個人研究演習②	進捗発表会
29	個人研究演習③	進捗発表会
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	大井 理緒			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

### <授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：グループワーク・ディスカッション・ディベート。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、体育学科ディプロマポリシー2「健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。」および5「科学的根拠や思考を持って、体育・スポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付けている」と関連付けられている。体育学科として求められる基礎的知識・技能を身につけ、4年次配当ゼミナールⅡに必要な資質・能力を育成する。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題40%、受講態度(グループワークへの貢献度含む)30%、プレゼン30%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方 目標設定
2	課題発見・問題解決実習①	目標共有とグループワーク
3	課題発見・問題解決実習②	フィジカルパフォーマンスの構成要素①（筋力・パワー）
4	課題発見・問題解決実習③	フィジカルパフォーマンスの構成要素②（スピード・アジリティ）
5	課題発見・問題解決実習④	フィジカルパフォーマンスの構成要素③（持久力）
6	課題発見・問題解決実習⑤	競技スキルとフィジカルパフォーマンス
7	課題発見・問題解決実習⑥	競技パフォーマンスの分解
8	課題発見・問題解決実習⑦	競技パフォーマンスを定量化する手法①
9	課題発見・問題解決実習⑧	競技パフォーマンスを定量化する手法②
10	分析・測定評価実習①	フィールドテスト① パワー・スピード・アジリティ
11	分析・測定評価実習②	フィールドテスト② 持久力・スピード持久力
12	分析・測定評価実習③	ラボテスト① 動作分析
13	分析・測定評価実習④	ラボテスト② 筋電図
14	分析・測定評価実習⑤	ラボテスト③ 代謝系
15	前期まとめ	前期まとめと後期向けの課題
16	グループ研究①	テーマ・仮説設定
17	グループ研究②	研究手法・文献考証
18	グループ研究③	仮説の設定
19	グループ研究④	予備実験
20	グループ研究⑤	本実験
21	グループ研究⑥	本実験②
22	グループ研究⑦	データの整理・解析
23	グループ研究⑧	データの整理・解析②
24	グループ研究⑨	考察

25	グループ研究⑩	発表資料作り
26	グループ研究発表	発表
27	個人研究演習①	ゼミ論のテーマ設定
28	個人研究演習②	進捗発表会
29	個人研究演習③	進捗発表会
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	仙波 慎平			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

### <授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有グループワーク（3～4人に分かれて、各テーマに対して、成果物の作成、プレゼンを行う）。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題40%、受講態度(グループワークへの貢献度含む)30%、プレゼン30%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方 目標設定
2	課題発見・問題解決実習①	目標共有とグループワーク
3	課題発見・問題解決実習②	フィジカルパフォーマンスの構成要素①（筋力・パワー）
4	課題発見・問題解決実習③	フィジカルパフォーマンスの構成要素②（スピード・アジリティ）
5	課題発見・問題解決実習④	フィジカルパフォーマンスの構成要素③（持久力）
6	課題発見・問題解決実習⑤	競技スキルとフィジカルパフォーマンス
7	課題発見・問題解決実習⑥	競技パフォーマンスの分解
8	課題発見・問題解決実習⑦	競技パフォーマンスを定量化する手法①
9	課題発見・問題解決実習⑧	競技パフォーマンスを定量化する手法②
10	分析・測定評価実習①	フィールドテスト① パワー・スピード・アジリティ
11	分析・測定評価実習②	フィールドテスト② 持久力・スピード持久力
12	分析・測定評価実習③	ラボテスト① 動作分析
13	分析・測定評価実習④	ラボテスト② 筋電図
14	分析・測定評価実習⑤	ラボテスト③ 代謝系
15	前期まとめ	前期まとめと後期向けの課題
16	グループ研究①	テーマ・仮説設定
17	グループ研究②	研究手法・文献考証
18	グループ研究③	仮説の設定
19	グループ研究④	予備実験
20	グループ研究⑤	本実験
21	グループ研究⑥	本実験②
22	グループ研究⑦	データの整理・解析
23	グループ研究⑧	データの整理・解析②
24	グループ研究⑨	考察

25	グループ研究⑩	発表資料作り
26	グループ研究発表	発表
27	個人研究演習①	ゼミ論のテーマ設定
28	個人研究演習②	進捗発表会
29	個人研究演習③	進捗発表会
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	國友 亮佑			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### ＜授業の概要＞

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

### ＜授業の到達目標＞

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

### ＜授業の方法＞

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

### ＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

グループワーク

### ＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（２～３時間）。調査・研究する課題の発表準備（３時間）。

### ＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### ＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題40%、受講態度(グループワークへの貢献度含む)30%、プレゼン30%

### ＜教科書＞

### ＜参考書＞

NSCAジャパン NSCA決定版ストレングストレーニング&コンディショニング 第4版 Book House HD

### ＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方 目標設定
2	課題発見・問題解決実習①	目標共有とグループワーク
3	課題発見・問題解決実習②	フィジカルパフォーマンスの構成要素①（筋力・パワー）
4	課題発見・問題解決実習③	フィジカルパフォーマンスの構成要素②（スピード・アジリティ）
5	課題発見・問題解決実習④	フィジカルパフォーマンスの構成要素③（持久力）
6	課題発見・問題解決実習⑤	競技スキルとフィジカルパフォーマンス
7	課題発見・問題解決実習⑥	競技パフォーマンスの分解
8	課題発見・問題解決実習⑦	競技パフォーマンスを定量化する手法①
9	課題発見・問題解決実習⑧	競技パフォーマンスを定量化する手法②
10	分析・測定評価実習①	フィールドテスト① パワー・スピード・アジリティ
11	分析・測定評価実習②	フィールドテスト② 持久力・スピード持久力
12	分析・測定評価実習③	ラボテスト① 動作分析
13	分析・測定評価実習④	ラボテスト② 筋電図
14	分析・測定評価実習⑤	ラボテスト③ 代謝系
15	前期まとめ	前期まとめと後期向けの課題
16	グループ研究①	テーマ・仮説設定
17	グループ研究②	研究手法・文献考証
18	グループ研究③	仮説の設定
19	グループ研究④	予備実験
20	グループ研究⑤	本実験
21	グループ研究⑥	本実験②
22	グループ研究⑦	データの整理・解析
23	グループ研究⑧	データの整理・解析②

24	グループ研究⑨	考察
25	グループ研究⑩	発表資料作り
26	グループ研究発表	発表
27	個人研究演習①	ゼミ論のテーマ設定
28	個人研究演習②	進捗発表会
29	個人研究演習③	進捗発表会
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

### <授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

受講生同士で課題を分析・議論し、解決策を導く「グループディスカッション」や「ケーススタディ」を通じて主体的な思考力と実践力を養う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

体育・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表 50%、体育人の育成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%

### <教科書>

必要に応じて

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(1)	教師力養成に向けた講座(1)
3	アスリートのコンディショニングに関する情報 (1)	研究テーマ及び文献収集方法の紹介
4	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(2)	教師力養成に向けた講座(2)
5	アスリートのコンディショニングに関する情報 (2)	研究テーマ及び文献収集方法の紹介
6	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(3)	教師力養成に向けた講座(3)
7	アスリートのコンディショニングに関する情報 (3)	収集した文献の発表及び内容の検討
8	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(4)	教師力養成に向けた講座(4)
9	アスリートのコンディショニングに関する情報 (4)	収集した文献の発表及び内容の検討
10	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(5)	教師力養成に向けた講座(5)
11	アスリートのコンディショニングに関する情報 (5)	収集した文献の発表及び内容の検討

12	る情報 (5) 体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(6)	公務員養成に向けた講座(1)
13	アスリートのコンディショニングに関する情報 (6)	収集した文献の発表及び内容の検討
14	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(7)	公務員養成に向けた講座(2)
15	アスリートのコンディショニングに関する情報 (7)	収集した文献の発表及び内容の検討
16	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(8)	公務員養成に向けた講座(3)
17	アスリートのコンディショニングに関する情報 (8)	収集した文献の発表及び内容の検討
18	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(9)	公務員養成に向けた講座4)
19	アスリートのコンディショニングに関する情報 (9)	収集した文献の発表及び内容の検討
20	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(10)	公務員養成に向けた講座(5)
21	アスリートのコンディショニングに関する情報 (10)	収集した文献の発表及び内容の検討
22	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(11)	企業人養成に向けた講座(1)
23	アスリートのコンディショニングに関する情報 (11)	課題研究テーマの策定
24	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(12)	企業人養成に向けた講座(2)
25	アスリートのコンディショニングに関する情報 (12)	課題研究テーマの策定
26	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(13)	企業人養成に向けた講座(3)
27	アスリートのコンディショニングに関する情報 (13)	課題研究テーマの策定
28	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(14)	企業人養成に向けた講座(4)
29	アスリートのコンディショニングに関する情報 (14)	課題研究テーマの策定
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	橘高 真紀子			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業（ゼミナール）では、幼児教育保育現場における様々な遊びについて体験的に学び、遊びの中で培われる子どもの力、また、保育教育現場で即時に活躍できる力量を身に着けていくことを目的とする。

#### <授業の到達目標>

1. 子どもが探求心、好奇心を持って取り組むことができる環境を整えるための実践力を身に着ける2. 遊びの意義や遊びの中で培われる力についての理解を深め、子どもの活動を読み解く力量を身に着けていく。

#### <授業の方法>

・実践的活動体験・ディスカッション

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

活動準備を行っておく

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

活動への参加態度等

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	・ゼミの年間計画について
2	・実践的活動体験・ディスカッション	
3	・実践的活動体験・ディスカッション	
4	・実践的活動体験・ディスカッション	
5	・実践的活動体験・ディスカッション	
6	・実践的活動体験・ディスカッション	
7	・実践的活動体験・ディスカッション	
8	・実践的活動体験・ディスカッション	
9	・実践的活動体験・ディスカッション	
10	・実践的活動体験・ディスカッション	
11	・実践的活動体験・ディスカッション	
12	・実践的活動体験・ディスカッション	
13	・実践的活動体験・ディスカッション	
14	・実践的活動体験・ディスカッション	
15	・実践的活動体験・ディスカッション	
16	・実践的活動体験・ディスカッション	
17	・実践的活動体験・ディスカッション	
18	・実践的活動体験・ディスカッション	
19	・実践的活動体験・ディスカッション	
20	・実践的活動体験・ディスカッション	
21	・実践的活動体験・ディスカッション	
22	・実践的活動体験・ディスカッション	
23	・実践的活動体験・ディスカッション	
24	・実践的活動体験・ディスカッション	
25	・実践的活動体験・ディスカッション	
26	・実践的活動体験・ディスカッション	
27	・実践的活動体験・ディスカッション	
28	・実践的活動体験・ディスカッション	

29	・1年間の振り返り	
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅠ（基礎）				担当者名	木野 正一郎			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義、演 習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、道德教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

＜授業の到達目標＞

教育職員に採用された後の皆さんの姿をイメージし、特にこのゼミナール出身者の中から各学校に設置されるミドルリーダー（「道德教育推進教諭」）になれるような資質・能力を形成することができるようになる。尚、「考え、議論する道德」のアクティブ・ラーニングについて授業設計や授業分析ができるようにテーマ探究をするのはもちろん、やがては道德教育の全体計画や年間指導計画、シラバスの作成等もできるように成長してもらいたいと考える。

＜授業の方法＞

・前期は、道德的な観点から見た現代社会における教育的諸課題について、賛否両論を踏まえたディベートを行う。講義では2回を1セットにし、①情報収集（知識・技能の習得、ブレイン・ストーミング）→②ディベート（思考力・判断力・表現力等、討議）→③まとめ（学びに向かう力、人間性等）の探究学習のサイクルを回す。・後期は、前期に課題検討し、皆さんが獲得・蓄積した様々な諸課題の中から、自分が深めたいと思った問い（課題）を集中的に探究し、研究成果（レポート、ポスター等）をまとめる。その際、ICT機器を活用して、先行実践研究

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

・ディベート・ソクラテスの対話によるディスカッション・ブレインストーミング(マトリックス法・SWOT分析・イメージマッピング等) ・学習指導案の作成・模擬授業の実施と質的データの収集・可能であれば、フィールドワーク 他

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前期は、毎回の授業で行うディベートの準備として、授業内でも情報探索する時間を設けるが、各自で情報を集める努力をしてほしい。賛否の両面から教育課題を多面的・多角的に考察し、「何が課題となっているのか」をとことん探究するように準備に当たること。後期は、各自が興味・関心を抱いたテーマを個々に深めていくので、雑誌や学会誌などに掲載された先行実践研究論文を読むなどして、自分なりの独創的なアイデアを論文にまとめるように準備を深めてほしい。テーマの決定や、探究の進め方、論文のまとめ方（研究計画）は担当教員が伴走的に指

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業態度等（関心・意欲・態度、課題意識と課題解決に向けた探究意識、研究計画の推進状況（レスポンス含む））：30％・論文・レポート・課題・制作物（学習指導案等）の内容、到達度評価（知識・理解）：70％

＜教科書＞

木野正一郎（2016年4月15日）『新発想！道德のアクティブ・ラーニング型授業はこれだ』 みくに出版株式会社  
押谷由夫・柳沼良太編（2014年7月7日）『道德の時代をつくる！－道德教科化への始動－』 教育出版株式会社  
田中博之編（2021年12月5日）『高等学校 探究授業の創り方－教科・科目別授業モデルの提案－』 学事出版株式会社

＜参考書＞

明治図書出版株式会社（月刊誌） 雑誌『道德教育』（月刊誌） 明治図書出版株式会社  
木野正一郎（2023年3月1日）『早稲田大学教職大学院紀要第15号』「高等学校『地理探究』を想定した小単元プログラムの開発と評価－『探究的な学習のための活動系列モデル』を援用した取組を通して－」（注：講義にて配布します） 早稲田大学教職大学院紀要刊行委員会  
木野正一郎（2024年3月1日）『早稲田大学教職大学院紀要第16号』「『包括的セクシュアリティ教育』を援用した小単元プログラムの実践と評価－『課題予防的生徒指導』に向けた取組を通して－」（注：講義にて配布します） 早稲田大学教職大学院紀要刊行委員会

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	・オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。 専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
2	・研究の基礎 ー解説編ー	
3	・研究の基礎 ー実践編Ⅰー①<ブレイン・ストーミングⅠ>	
		現代的な教育課題Ⅰの論争点について情報探索し、多様な意見をまとめる。

4	・研究の基礎 ー実践編Ⅰー②<ディベートⅠと総括Ⅰ>	現代的な教育課題Ⅰの論争点について探索した情報に基づき、司会役・審判役・推進派役・慎重派役に分担して討論する。
5	・研究の基礎 ー実践編Ⅱー①<ブレイン・ストーミングⅡ>	現代的な教育課題Ⅱの論争点について情報探索し、多様な意見をまとめる。
6	・研究の基礎 ー実践編Ⅱー②<ディベートⅡと総括Ⅱ>	現代的な教育課題Ⅱの論争点について探索した情報に基づき、司会役・審判役・推進派役・慎重派役に分担して討論する。
7	・研究の基礎 ー実践編Ⅲー①<ブレイン・ストーミングⅢ>	現代的な教育課題Ⅲの論争点について情報探索し、多様な意見をまとめる。
8	・研究の基礎 ー実践編Ⅲー②<ディベートⅢと総括Ⅲ>	現代的な教育課題Ⅲの論争点について探索した情報に基づき、司会役・審判役・推進派役・慎重派役に分担して討論する。
9	・研究の基礎固めⅠ	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	・研究の基礎固めⅡ	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	・研究の基礎固めⅢ	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	・研究の基礎固めⅣ	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	・研究の基礎固めⅤ	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	・研究の基礎固めⅥ	先行研究のレビュー・発表（第6回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	・前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。新たな問い、探究してみたい問いを持つてみる。
16	・研究指導Ⅰ ー研究計画づくり①	研究テーマ、課題を考える。
17	・研究指導Ⅰ ー指導計画づくり②	研究テーマ、課題をしぼる。
18	・研究指導Ⅰ ー指導計画づくり③	研究テーマ、課題を決める。
19	・研究指導Ⅱ ー課題の探究活動①	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション①
20	・研究指導Ⅱ ー課題の探究活動②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション②
21	・研究指導Ⅱ ー課題の探究活動③	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション③
22	・研究指導Ⅱ ー課題の探究活動④	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション④
23	・研究指導Ⅱ ー課題の探究活動⑤	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション⑤
24	・研究指導Ⅱ ー課題の探究活動⑥	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション⑥
25	・研究指導Ⅱ ー課題の探究活動⑦	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション⑦
26	・研究指導Ⅱ ー課題の探究活動⑧	・研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション⑧
27	・研究指導Ⅲ ー研究成果（論文ないし学習指導案）の発表①	探究した課題について、その研究発表（研究目的・研究方法・研究報告・考察・成果と課題）をする（注：発表は30分/人、うち10分は仲間との相互評価）。
28	・研究指導Ⅲ ー研究成果（論文ないし学習指導案）の発表②	探究した課題について、その研究発表（研究目的・研究方法・研究報告・考察・成果と課題）をする（注：発表は30分/人、うち10分は仲間との相互評価）。
29	・研究指導Ⅲ ー研究成果（論文ないし学習指導案）の発表③	探究した課題について、その研究発表（研究目的・研究方法・研究報告・考察・成果と課題）をする（注：発表は30分/人、うち10分は仲間との相互評価）。
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	古山 喜一			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。3年次に引き続き、研究とはなにか、研究の有用性、渉猟の方法等、研究へ結びつく課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。したがって本ゼミナールは4年次段階で実施することから、学生の研究方向の拡散や広範囲な興味関心を肯定的に受け止め、なおかつ研究分野を一定程度に特定できるよう積極的な支援体制を取る。具体的には文献研究を始め、受講者が研究課題を

#### <授業の到達目標>

柔道整復師に必要な幅広い知識や技術に関して科学的思考を用いることによりアプローチが出来るように、各種の研究手法を学びながら研究テーマを設定し、研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学研究思考を修得することを目標とする。

#### <授業の方法>

ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ学習、発表において、双方向で理解度を確認する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し分析する。事前の文献検索には2時間以上を必要とする。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP 4 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【対面授業】課題達成度（50％）、学習意欲（30％）、レポート（20％）で評価する。

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	内容 受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	論文抄読 1	抄読する論文分野の選択1
3	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査1
4	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査2
5	論文抄読2	抄読する論文分野の選択2
6	論文抄読3	抄読する論文分野の決定
7	論文抄読4	専門領域の論文抄読 1
8	論文抄読5	専門領域の論文抄読2
9	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査3
10	論文抄読6	個別発表と全体発表
11	論文抄読7	専門領域の論文抄読3
12	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査4
13	論文の書き方	論文の構成を確認する1
14	論文の書き方	個人発表と全体発表
15	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査5
16	論文の書き方	論文の構成を確認する2
17	論文の書き方	論文の構成を確認する3
18	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査6
19	論文抄読8	スポーツ医学分野論文抄読 1
20	論文抄読9	スポーツ医学分野論文抄読2
21	論文抄読10	スポーツ医学分野論文抄読3
22	柔道整復師に必要な知識の確認	ゼミ達成度調査1

23	論文抄読11	スポーツ医学分野論文抄読4
24	論文抄読12	スポーツ医学分野論文抄読5
25	柔道整復師に必要な知識の確認	ゼミ達成度調査2
26	論文抄読13	健康運動関連の論文抄読 1
27	論文抄読14	健康運動関連の論文抄読2
28	柔道整復師に必要な知識の確認	ゼミ達成度調査3
29	論文抄読15	健康運動関連の論文抄読3
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	簗戸 崇史			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。3年次に引き続き、研究とはなにか、研究の有用性、渉猟の方法等、研究へ結びつく課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。したがって本ゼミナールは4年次段階で実施することから、学生の研究方向の拡散や広範囲な興味関心を肯定的に受け止め、なおかつ研究分野を一定程度に特定できるよう積極的な支援体制を取る。具体的には文献研究を始め、受講者が研究課題を

### <授業の到達目標>

柔道整復師に必要な幅広い知識や技術に関して科学的思考を用いることによりアプローチが出来るように、各種の研究手法を学びながら研究テーマを設定し、研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学研究思考を修得することを目標とする。

### <授業の方法>

ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

それぞれの課題に対して調査してきた内容をゼミナールの小規模における取組の中で発表し、対話性を重視した学びを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し分析する。事前の文献検索には2時間以上を必要とする。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【Web授業】①課題提出50% ②意見交換50%【対面授業】課題達成度（50%）、学習意欲（30%）、レポート（20%）で評価する。

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	内容 受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	論文抄読1	抄読する論文分野の選択1
3	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査1
4	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査2
5	論文抄読2	抄読する論文分野の選択2
6	論文抄読3	抄読する論文分野の決定
7	論文抄読4	専門領域の論文抄読1
8	論文抄読5	専門領域の論文抄読2
9	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査3
10	論文抄読6	個別発表と全体発表
11	論文抄読7	専門領域の論文抄読3
12	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査4
13	論文の書き方	論文の構成を確認する1
14	論文の書き方	個人発表と全体発表
15	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査5
16	論文の書き方	論文の構成を確認する2
17	論文の書き方	論文の構成を確認する3
18	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査6
19	論文抄読8	スポーツ医学分野論文抄読1
20	論文抄読9	スポーツ医学分野論文抄読2

21	論文抄読10	スポーツ医学分野論文抄読3
22	柔道整復師に必要な知識の確認	ゼミ達成度調査1
23	論文抄読11	スポーツ医学分野論文抄読4
24	論文抄読12	スポーツ医学分野論文抄読5
25	柔道整復師に必要な知識の確認	ゼミ達成度調査2
26	論文抄読13	健康運動関連の論文抄読 1
27	論文抄読14	健康運動関連の論文抄読2
28	柔道整復師に必要な知識の確認	ゼミ達成度調査3
29	論文抄読15	健康運動関連の論文抄読3
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	後藤 由佳			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「ゼミナールⅡ(応用)」は、本学卒業必修科目である。「子どもの心に寄り添う保育」について考えることのできる保育者の育成をねらいとしていく。そのためにはまず、自然やもの、人の面白さや不思議さ、美しさなどに感動する心を育むことをねらいとする。子ども達と製作を行い、よりよい造形活動の在り方とはどのようなものかを学んでほしい。子どもが瞳を輝かせて取り組めるような造形活動やその活動の具体的な援助方法を考えるという作業を通して、保育士や幼稚園教諭に必要な「心に寄り添う」表現や技術の養成をしたいと考えている。

### <授業の到達目標>

造形表現を中心とした保育・幼児教育に関する専門知識と技術を身に付けている。

### <授業の方法>

準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタルツール(Classroom)を活用する。アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク、フィールドワーク等)を取り入れ、作品制作、美術館鑑賞、子どもの行事企画運営、学会参加等の実践活動により授業を進める。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有(ディスカッション、グループワークの方法)4～5人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ発表を行う。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外に必要な作品作りや論文作成等に取り組むなど、準備学習(90分程度)を求めます。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4(地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。)およびディプロマポリシー5(保育・教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 50% (積極性・協調性・相互促進性など) 課題(作品・ゼミ論文)、発表等 50%

### <教科書>

特に指定なし

### <参考書>

村田夕紀 楽しい”造形”がいっぱい 2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ ひかりのくに  
村田夕紀 まずは絵あそびから始めよう! 3・4・5歳児の楽しく絵を描く実践ライブ ひかりのくに  
村田夕紀 低年齢児が夢中になる遊びがいっぱい! 0・1・2歳児の造形あそび実践ライブ ひかりのくに

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業内容、到達目標と注意事項、成績評価法、実践活動について説明する。
2	こども発達学科・ゼミナール理解	4年生一年間の履修確認を行い、目標設定をする。
3	こども発達学科・ゼミナール理解	クラス内の相互理解を図る。
4	造形表現の教材研究(1)	地域の美術館について調べる。
5	造形表現の教材研究(2)	美術館鑑賞①
6	造形表現の教材研究(3)	作品を制作する。
7	造形表現の教材研究(4)	作品を制作する。
8	造形表現の教材研究(5)	作品を制作する。
9	造形表現の教材研究(6)	作品を制作する。
10	造形表現の教材研究(7)	作品提出と鑑賞会
11	プレゼンテーションとは	役割りとその具体的な内容の確認
12	プレゼンテーション作成	発表内容のプレゼンテーション作成
13	プレゼンテーションに挑戦しよう	ブレ発表
14	ゼミナール活動報告会	報告会に出席し、発表する。
15	前期総括	前期の振り返りと夏季休暇、保育・教育実習について
16	後期の目標設定	後期の履修確認を行い、目標設定を行う。
17	造形表現の教材研究(8)	美術館鑑賞②
18	論文の読み方(1)	先行研究論文を検索する。
19	論文の読み方(2)	先行研究論文の読み方

20	論文の書き方(1)	ゼミ論文の題目を決定する。
21	論文の書き方(2)	ゼミ論文を作成する。
22	論文の書き方(3)	ゼミ論文を作成する。
23	中間発表	ゼミ論文中間発表会に出席し、発表をするとともに、他の学生の発表には質問をしたり感想を述べたりする。
24	論文の書き方(4)	ゼミ論文を作成する。
25	論文の書き方(5)	ゼミ論文を作成する。
26	論文の書き方(6)	役割りとその具体的な内容の確認
27	論文の書き方(7)	発表内容のプレゼンテーション作成
28	ブレ発表会に挑戦しよう	ブレ発表
29	ゼミナール論文発表会	ゼミ論文発表会に出席し、発表する。
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	高橋 章二			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目の目的は教育経営学科で学ぶ者の意識を啓発し、ゼミナールⅠに引き続き、初等教育及び特別支援教育の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、ゼミナールⅠで発見した課題・問題の課題解決を図っていくことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、現代の教育の現状をもとにした課題発見・問題解決学習を中心に展開する。2つ目は、社会人に求められる教養と実践力を養成し、現代の課題・問題を自ら解決する内容である。

### <授業の到達目標>

本科目はゼミナールⅠに引き続き、社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 教育課題に関する調査・研究を通して、初等教育の専門家として必要な専門的知識を活用できるようになる。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題・問題を自ら解決できる力を身につける。

### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに実践力養成に向けた講座を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

各卒論テーマに基づく研究の進捗状況を毎時間発表し、でてきた課題についてゼミ参加者全員で協議、議論を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、初等教育、特別支援教育に関する専門的知識を獲得及び活用に必要な調査・研究時間（4時間）。実践力養成に必要な自主学習（7時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

取り組みの姿勢と受講態度・意欲40%、最終課題60%

### <教科書>

特になし

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	研究課題の設定①	研究課題の確認及び研究方法の検討
3	研究課題の設定②	研究課題の確認及び研究方法の検討
4	研究課題の設定③	研究課題の確認及び研究方法の検討
5	研究計画書の作成①	研究計画書のまとめと発表
6	研究計画書の作成②	研究計画書のまとめと発表
7	課題研究の遂行①	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
8	課題研究の遂行②	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
9	課題研究の遂行③	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
10	課題研究の遂行④	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
11	課題研究の遂行⑤	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
12	課題研究の遂行⑥	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
13	課題研究の遂行⑦	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
14	中間報告①	進捗状況の報告及び論文執筆に向けた課題整理
15	中間報告②	進捗状況の報告及び論文執筆に向けた課題整理
16	論文の作成①	研究背景・研究目的・研究方法の整理
17	論文の作成②	研究背景・研究目的・研究方法の整理
18	論文の作成③	論文の執筆と進捗状況の報告
19	論文の作成④	論文の執筆と進捗状況の報告
20	論文の作成⑤	論文の執筆と進捗状況の報告
21	論文作成の個別指導①	論文の構成・内容についての指導
22	論文作成の個別指導②	論文の構成・内容についての指導

23	論文作成の個別指導③	論文の構成・内容についての指導
24	論文作成の個別指導④	論文の構成・内容についての指導
25	論文作成の個別指導⑤	論文の構成・内容についての指導
26	論文作成の個別指導⑥	論文の構成・内容についての指導
27	論文作成の個別指導⑦	論文の体裁についての指導
28	研究成果の報告①	研究成果の発表と討議
29	研究成果の報告②	研究成果の発表と討議
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、ゼミナールⅠに引き続き、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、ゼミナールⅠで発見した課題・問題の課題解決を図っていくことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心に展開する。2つ目は、社会人に求められる教養と実践力を養成し、現代の課題・問題を自ら解決する内容である。

#### <授業の到達目標>

本科目はゼミナールⅠに引き続き、社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な専門的知識を活用できるようになる。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題・問題を自ら解決できる力を身につける。

#### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに実践力養成に向けた講座を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本科目は、課題発見・問題解決学習を中心に、グループワークや課題発表を通じて学生が主体的に学ぶ構成となっている。資料作成や実践的な講座も取り入れられ、自ら考え、発信し、他者と協働する活動が促されており、アクティブラーニングの要素が明確に含まれている。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツ科学の専門的知識を獲得及び活用に必要な調査・研究時間（4時間）。実践力養成に必要な自主学習（7時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

取り組みの姿勢と受講態度・意欲40%、最終課題60%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	研究課題の設定①	研究課題の確認及び研究方法の検討
3	研究課題の設定②	研究課題の確認及び研究方法の検討
4	研究課題の設定③	研究課題の確認及び研究方法の検討
5	研究計画書の作成①	研究計画書のまとめと発表
6	研究計画書の作成②	研究計画書のまとめと発表
7	課題研究の遂行①	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
8	課題研究の遂行②	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
9	課題研究の遂行③	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
10	課題研究の遂行④	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
11	課題研究の遂行⑤	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
12	課題研究の遂行⑥	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
13	課題研究の遂行⑦	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
14	中間報告①	進捗状況の報告及び論文執筆に向けた課題整理
15	中間報告②	進捗状況の報告及び論文執筆に向けた課題整理
16	論文の作成①	研究背景・研究目的・研究方法の整理
17	論文の作成②	研究背景・研究目的・研究方法の整理
18	論文の作成③	論文の執筆と進捗状況の報告
19	論文の作成④	論文の執筆と進捗状況の報告
20	論文の作成⑤	論文の執筆と進捗状況の報告

21	論文作成の個別指導①	論文の構成・内容についての指導
22	論文作成の個別指導②	論文の構成・内容についての指導
23	論文作成の個別指導③	論文の構成・内容についての指導
24	論文作成の個別指導④	論文の構成・内容についての指導
25	論文作成の個別指導⑤	論文の構成・内容についての指導
26	論文作成の個別指導⑥	論文の構成・内容についての指導
27	論文作成の個別指導⑦	論文の体裁についての指導
28	研究成果の報告①	研究成果の発表と討議
29	研究成果の報告②	研究成果の発表と討議
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	酒井 健太郎			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「哲学」と聞いてどのようなことを思い浮かべるだろうか? 「難しい」?あるいは「役に立ちそうもない」?哲学についてしばしば提出されるこの2つの見解(もちろんこれらだけには限らないのだが)は、哲学の持つ特質に依拠している。すなわち、哲学はあらゆる学問の中でも一二を争うほど抽象的な思考能力を必要とするのである。この抽象性のゆえに、たしかに哲学の議論はしばしば「難解」であり、また「役に立ちそうもない」という印象を持たれるのであろう。しかし、哲学が抽象的な思考能力を必要とすることは、必ずしも、その対象とするトピック

### <授業の到達目標>

①文献の内容を精確に読解できる②他者の意見を十全に理解することができる③自身の理解したことを他者にわかりやすく伝えることができる④哲学的思考力を用いて現実的問題を考察しようとする態度を持つことができる。

### <授業の方法>

オンラインによる同時双方向型授業で、主に文献の講読を行う。毎回1人の担当者を決めレジュメを切ってきてもらう。そのレジュメに基づき議論を行い、文献の内容についての理解を深めることを通じて哲学的思考力を養う。なお、使用する文献は参加者の興味関心に応じて初回の授業時に決定する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有。文献の購読、レジュメの作成、そしてレジュメに基づいた発表を行うが、この内のどれ一つとして、自分の興味関心に基づいた自発的な学習なしにはありえない。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習: 担当者がレジュメを切るための準備を行うのはもちろんであるが、担当者以外も文献を熟読し内容を理解したうえで質問等を考えておく。(1-2時間) 事後学習: 当日の議論の内容、その議論の結果さらに生じた疑問点などについて各自でまとめる。(1時間)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)およびディプロマポリシー1(体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

議論への積極的な参加等の授業内評価 50%、レポート 50%。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	哲学的思考と現実的問題の関係について考察するための準備を行う
2	文献講読1	教育と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
3	文献講読2	教育と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
4	文献講読3	保育と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
5	文献講読4	保育と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
6	文献講読5	こどもと哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
7	文献講読6	こどもと哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
8	ゼミ論文執筆講座(基礎)	成績評価に必要なゼミ論文の執筆方法の基礎的な部分の解説
9	文献講読7	美術と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
10	文献講読8	美術と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
11	文献講読9	音楽と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
12	文献講読10	音楽と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
13	文献講読11	法律と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
14	文献講読12	法律と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
15	ゼミ前半のまとめ	ゼミ前半のまとめを行う
16	文献講読13	キリスト教と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
17	文献講読14	キリスト教と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
18	文献講読15	ユダヤ教と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
19	文献講読16	ユダヤ教と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
20	文献講読17	イスラム教と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む

21	文献講読18	イスラム教と哲学の関係について、担当者のレジメを中心に議論を行う
22	文献講読19	仏教と哲学の関係について、担当者のレジメを中心に文献を読む
23	ゼミ論文執筆講座（応用）	仏教と哲学の関係について、担当者のレジメを中心に議論を行う
24	文献講読20	成績評価に必要なゼミ論文の執筆方法の応用的な部分の解説
25	文献講読21	道徳と哲学の関係について、担当者のレジメを中心に文献を読む
26	文献講読22	道徳と哲学の関係について、担当者のレジメを中心に議論を行う
27	文献講読23	倫理と哲学の関係について、担当者のレジメを中心に文献を読む
28	文献講読24	倫理と哲学の関係について、担当者のレジメを中心に議論を行う
29	文献講読25	これまで行ってきた文献購読について獲得した知見を、担当者ごとに発表する
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	大野 呂 浩志			
配当年次	4年	配当学期	前期・後期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

3年次には、特別支援教育やインクルーシブ教育の観点から、特別な教育的ニーズのある児童生徒への指導・支援や、特別な教育的ニーズのある児童生徒とない児童生徒の双方を含んだ学級全体の指導・支援について、先行研究や関連する文献を渉猟した。本ゼミナールでは、3年次に培われた基礎的知識を礎に、次世代の特別な教育的ニーズへの対応について、制度・施策や教育内容・方法等の観点から整理し、展望できる資料をまとめる。

#### <授業の到達目標>

(1) 文献の内容を精確に読解できる。(2) 他者の意見を十全に理解することができる。(3) 自身の理解したことを他者にわかりやすく伝えることができる。(4) 特別な教育的ニーズに関する広い知見を用いて現実的問題を整理し、次世代を展望しようとする態度を養うことができる。

#### <授業の方法>

自分の設定したテーマに関連する文献の講読を基調とする。講読した文献から得られた知見を資料としてまとめ、そのレジュメに基づいた自らの論文に関する議論を行うことで、論理的思考の深化・統合を図る。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・課題解決型授業／グループディスカッション／ピアサポートラーニング／グループワーク／プレゼンテーション

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：毎回、自らの論文に関連するあらたな文献を講読し、得られた知見を論文に反映させ、全体としてどのような知見が得られたことになるか、今後の課題について、報告できるようにレジュメに整理する（2-3時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

議論への積極的な参加等の授業内評価 50%、レポート 50%。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	3年次までの取り組みを振り返り、子どもの特別な教育的ニーズについて知見を整理する。さらに各自が整理した知見を元に、将来的に特別教育的ニーズに対応するために「何が必要か」「何ができるか」等の具体的な解決策を提案できる論文の構成を考える。
2	論文構成	将来、特別教育的ニーズに対応に関する各自の論文構成について発表し、論理性的の観点から議論する。
3	文献講読 1	知的障害に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
4	文献講読 2	幼児期の知的障害に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
5	文献講読 3	小学校における障害に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
6	文献講読 4	中学校・高等学校における知的障害に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
7	文献講読 5	肢体不自由に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
8	文献講読 6	保育園・幼稚園の肢体不自由に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
9	文献講読 7	小学校における肢体不自由に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
10	文献講読 8	中学校・高等学校における肢体不自由に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う

11	文献講読 9	病弱に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
12	文献講読10	保育所・幼稚園における病弱に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
13	文献講読 1 1	小学校における病弱に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
14	文献講読 1 2	中学校・高等学校における病弱に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
15	論文の中間発表	各自の論文の中間発表を行う
16	イントロダクション②	各自の論文中間発表における課題と今後の論文作成に関する展望の発表
17	文献講読 1 3	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する①
18	文献講読 1 4	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する②
19	文献講読 1 5	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する③
20	文献講読 1 6	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する④
21	文献講読 1 7	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑤
22	文献講読 1 8	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑥
23	文献講読 1 9	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑦
24	文献講読 2 0	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑧
25	文献講読 2 1	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑨
26	文献講読 2 2	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑩
27	文献講読 2 3	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑪
28	文献講読 2 4	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑫
29	論文（ゼミ内）検討会	作成した論文について、レジメにまとめ、設定された時間内に発表し、内容や発表の仕方について議論する。
30	まとめ	本授業のまとめ

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	品田 直宏			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目はスポーツにおけるコーチングを理解し、よりよいコーチになる為の基礎的知識と専門的知識の習得を行うと共に、自身が専門とする競技への理解を深めていく。また、得た知識を適切な方法で他者へと伝える方法を学んでいく。そのため、①『スポーツ科学をもとにした課題発見・知識の習得』②『それらを適切に伝え、実践力を養成する』内容とし、授業を展開する。

### <授業の到達目標>

本科目はゼミナールⅠに引き続き、スポーツコーチングにおける理解を深め、専門種目におけるパフォーマンス構造を理解すると共に、それらを高める方法、およびコーチング能力を高め、自身が実践できるだけではなく、他者に対して適切なコーチングを実践できるようになることを目標としている。

### <授業の方法>

専門誌や論文の抄読、グループワークを中心に展開する。専門的な機器を扱い、パフォーマンスの測定やデータの分析も行い、課題発表を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

実践的に身体を動かすこともある

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

自身の専門とする競技種目に関する専門的知識およびトレーニング方法やパフォーマンス構造を十分理解する為に、専門誌や論文を予習・復習として抄読すること。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲20%、中間課題 30%、ゼミ論文発表50%。

### <教科書>

特になし

### <参考書>

日本コーチング学会（2017/4/4） コーチング学への招待 大修館書店

福永 哲夫（著）、山本 正嘉（著）（2018/10/1） 体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方（体育・スポーツ・健康科学テキストブックシリーズ） 市村出版

高松 薫（2021/3/22） 競技スポーツにおけるコーチング・トレーニングの将来展望：実践と研究の場における知と技の好循環を求めて 筑波大学出版会

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツコーチングの理解	スポーツにおけるコーチング方法の理解と事例紹介
2	専門種目におけるパフォーマンス構造①	各々が専門とする競技におけるパフォーマンス構造の理解とそれらを高める為の方法を考える
3	専門種目におけるパフォーマンス構造②	各々が専門とする競技におけるパフォーマンス構造の理解とそれらを高める為の方法を考える
4	専門種目におけるパフォーマンス構造(発表)	各々が専門とする競技におけるパフォーマンス構造とそれらを高める方法を発表する
5	スポーツコーチングにおけるハラスメント	スポーツコーチングの現場における様々なハラスメントについて理解する
6	海外におけるスポーツコーチング	海外におけるスポーツコーチングの事例紹介
7	スポーツコーチングに関する先行研究	スポーツコーチングにおける事例研究のまとめ方
8	スポーツコーチングに関する先行研究	スポーツコーチングにおける横断的な研究のまとめ方
9	スポーツコーチングに関する先行研究	スポーツコーチングにおけるインタビュー形式の研究のまとめ方
10	ゼミ論（卒論）のテーマ決め・論文抄読	論文・専門誌の抄読、スライド作成
11	ゼミ論（卒論）のテーマ決め・論文抄読	論文・専門誌の抄読、スライド作成
12	ゼミ論（卒論）のテーマ決め・論文抄読	論文・専門誌の抄読、スライド作成
13	ゼミ論（卒論）のテーマ決め・論文抄読	論文・専門誌の抄読、スライド作成
14	ゼミ論（卒論）のテーマ決め・論文抄読	論文・専門誌の抄読、スライド作成
15	ゼミ論（卒論）中間発表	ゼミ論（卒論）のテーマの決定・発表
16	体組成の測定	BODPODを用いた体組成の測定方法の理解
17	動作分析①	ジャンプ運動における動作分析

18	動作分析②	疾走動作における動作分析
19	膝関節・股関節筋力の測定	バイオデックスを用いた膝関節・股関節筋力の測定
20	測定データの分析と処理	測定したデータの分析および適切な方法で提示する方法の理解
21	ゼミ論（卒論）の執筆	緒言・方法の執筆
22	ゼミ論（卒論）の執筆	緒言・方法の執筆
23	ゼミ論（卒論）の執筆	緒言・方法の執筆
24	ゼミ論の進捗状況確認	進捗状況の発表および質疑応答
25	ゼミ論（卒論）の作成・発表準備	本文執筆・論文抄読・スライド作成
26	ゼミ論（卒論）の作成・発表準備	本文執筆・論文抄読・スライド作成
27	ゼミ論（卒論）の作成・発表準備	本文執筆・論文抄読・スライド作成
28	ゼミ論（卒論）の作成・発表準備	本文執筆・論文抄読・スライド作成
29	ゼミ論（卒論）の作成・発表準備	本文執筆・論文抄読・スライド作成
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、ゼミナールⅠに引き続き、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、ゼミナールⅠで発見した課題・問題の課題解決を図っていくことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心に展開する。2つ目は、社会人に求められる教養と実践力を養成し、現代の課題・問題を自ら解決する内容である。

#### <授業の到達目標>

本科目はゼミナールⅠに引き続き、社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な専門的知識を活用できるようになる。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題・問題を自ら解決できる力を身につける。

#### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに実践力養成に向けた講座を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

受講生同士で課題を分析・議論し、解決策を導く「グループディスカッション」や「ケーススタディ」を通じて主体的な思考力と実践力を養う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツ科学の専門的知識を獲得及び活用に必要な調査・研究時間（4時間）。実践力養成に必要な自主学習（7時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実践力養成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%。最終課題 50%。

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(1)	教師力養成に向けた講座(1) 学校教育の現状と展望
2	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(2)	教師力養成に向けた講座(2) 体育を専門とする教員に求められる専門性とその可能性
3	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(3)	教師力養成に向けた講座(3) 国内外の授業方法の発展と現在（生徒指導を中心に）
4	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(4)	教師力養成に向けた講座(4) 国内外の授業方法の発展と現在（生徒指導を中心に）
5	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(5)	教師力養成に向けた講座(5) 教職のキャリア開発（養成・採用・研修の実際と課題）
6	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(6)	公務員養成に向けた講座(1) 一般行政系公務員の職務と専門性
7	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(7)	公務員養成に向けた講座(2) 一般行政系公務員の職務と専門性
8	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(8)	公務員養成に向けた講座(3) 公安系公務員（消防）の職務と専門性
9	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(9)	公務員養成に向けた講座(4) 公安系公務員（警察）の職務と専門性
10	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(10)	公務員養成に向けた講座(5) 公安系公務員（自衛官）の職務と専門性
11	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(11)	企業人養成に向けた講座(1) 業種・業界の研究

	リア教育(11)	
12	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(12)	企業人養成に向けた講座(2) 職種・職務の研究
13	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(13)	企業人養成に向けた講座(3) 外資系企業の研究
14	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(14)	企業人養成に向けた講座(4) 体育・スポーツ系の業種・業界の研究
15	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(15)	企業人養成に向けた講座(5) 体育・スポーツを学んだ者の強みと弱点
16	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(16)	実践力養成に向けた講座(1)
17	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(17)	実践力養成に向けた講座(2)
18	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(18)	実践力養成に向けた講座(3)
19	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(19)	実践力養成に向けた講座(4)
20	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(20)	実践力養成に向けた講座(5)
21	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(21)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(1) 一般企業での体験活動
22	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(22)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(2) 消防学校での体験活動
23	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(23)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(3) 中・高等学校教育の観察参与
24	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(24)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(4) スポーツ業界の学内インターンシップ
25	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(25)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(5) 体験活動の振り返りと総括
26	キャリア教育のまとめ(1)	2年間のキャリア教育を通じた総括(1) 2年間で実施した内容の振り返り
27	キャリア教育のまとめ(2)	2年間のキャリア教育を通じた総括(2) 卒業後の進路の現状と展望の確認
28	キャリア教育のまとめ(3)	2年間のキャリア教育を通じた総括(3) 体育・スポーツを学んだ意義と今後のキャリアの接点の確認
29	キャリア教育のまとめ(4)	2年間のキャリア教育を通じた総括(4) 将来のキャリアの展望と現在の課題の確認
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	秦 啓一郎			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、ゼミナールⅠに引き続き、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、ゼミナールⅠで発見した課題・問題の課題解決を図っていくことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心に展開する。2つ名は、社会人に求められる教養と実践力を養成し、現代の課題・問題を自ら解決する内容である。

### <授業の到達目標>

本科目はゼミナールⅠに引き続き、社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な専門的知識を活用できるようになる。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題・問題を自ら解決できる力を身につける。

### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに実践力養成に向けた講座を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有り各回のグループでディスカッションを行い、共同で課題を作成する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツ科学の専門的知識を獲得及び活用に必要な調査・研究時間（4時間）。実践力養成に必要な自主学習（7時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

体育・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表 50%、実践力養成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%。ただし、ゼミナール課題の提出を単位認定の必須条件とする。

### <教科書>

特に指定なし

### <参考書>

深代千之, 川本竜史, 石毛勇介, 若山章信（2010） バイオメカニクスで読み解くスポーツ動作の科学 東京大学出版会  
阿江通良, 藤井範久（2013） スポーツバイオメカニクス20講 朝倉書店  
深代千之, 桜井伸二, 平野裕一, 阿江通良（2012） スポーツバイオメカニクス 朝倉書店

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(1)	実践力養成に向けた講座(1)
2	研究課題の検討	これまでの自身の経験知より、疑問に感じていることを明確にし、研究課題に昇華できないか検討していく。
3	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(2)	実践力養成に向けた講座(2)
4	研究課題の決定	研究課題を決定する。
5	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(3)	実践力養成に向けた講座(3)
6	文献調査	自身の研究に関連する文献を収集し、精読する。
7	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(4)	実践力養成に向けた講座(4)
8	研究計画の立案	研究課題を解明するために適切な研究計画を立案する。
9	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(5)	実践力養成に向けた講座(5)
10	予備実験Ⅰ	研究計画に記載した方法が適切であるか、予備実験を実施する。
11	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(6)	実践力養成に向けた講座(6)

12	予備実験データの分析	算出予定のデータが正しく得られるか、予備実験で取得したデータを分析する。
13	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(7)	実践力養成に向けた講座(7)
14	本実験Ⅰ	本実験の実施。本実験がない受講生は、検者として参加する。
15	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(8)	実践力養成に向けた講座(8)
16	本実験Ⅱ	本実験の実施。本実験がない受講生は、検者として参加する。
17	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(9)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(1)
18	データ分析	本実験で取得したデータを分析する。
19	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(10)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(2)
20	データ分析結果の検討	本実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。
21	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(11)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(3)
22	統計分析	得られた結果を統計学的に分析する。
23	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(12)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(4)
24	結果の考察	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察していく。
25	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(13)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(5)
26	プレゼンテーション準備	研究成果報告会用にプレゼンテーション資料を作成する。
27	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(14)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(6)
28	研究成果報告会	研究成果をプレゼンテーションする。
29	キャリア教育のまとめ	2年間のキャリア教育を通じた総括
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

### <授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィールドワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有基本的に自身で調べてプレゼンテーションを用意し、ゼミ内で発表し、ディスカッションを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組(グループへの貢献度含む)50%、課題 50%なお、ゼミ論文を提出することを必須とする。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方 目標設定
2	研究計画作成	仮説 背景
3	研究計画作成	目的 方法
4	進捗発表会①	研究テーマ発表 ディスカッション
5	進捗発表会②	研究テーマ発表 ディスカッション
6	進捗発表会③	研究テーマ発表 ディスカッション
7	予備実験①	データの採取、解析
8	予備実験②	データの採取、解析
9	予備実験③	データの採取、解析
10	予備実験 発表会①	予備実験データ発表 ディスカッション
11	予備実験 発表会②	予備実験データ発表 ディスカッション
12	予備実験 発表会③	予備実験データ発表 ディスカッション
13	予備実験 発表会④	予備実験データ発表 ディスカッション
14	後期研究に向けて計画	予備実験を参考に背景、目的、方法を再度作成
15	前期まとめ	前期まとめと後期向けの課題
16	卒業研究① ゼミ論	本実験
17	卒業研究② ゼミ論	本実験
18	卒業研究③ ゼミ論	本実験
19	卒業研究④ ゼミ論	本実験
20	卒業研究⑤ ゼミ論	本実験
21	卒業研究⑥ ゼミ論	進捗発表 ディスカッション
22	卒業研究⑦ ゼミ論	進捗発表 ディスカッション
23	卒業研究⑧ ゼミ論	進捗発表 ディスカッション

24	卒業研究⑨	ゼミ論	卒業論文の書き方
25	卒業研究⑩	ゼミ論	抄録の書き方
26	卒業研究⑪	ゼミ論	論文作成
27	卒業研究⑫	ゼミ論	論文作成
28	卒業研究⑬	ゼミ論	発表資料作成
29	卒業研究⑭	ゼミ論	発表資料作成
30			

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	田中 耕作			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本ゼミナールは卒業研究へ結びつくテーマについて、体育学の知識を総合的に活用し、課題設定、解決、説明する能力を身につけることが出来るよう学生を支援する。

#### <授業の到達目標>

本ゼミナールではそれぞれの実験に関する専門的知識、測定技術、およびデータの評価法について理解できるようにする。実験結果を整理し、スポーツサイエンスの知見に基づいて、客観的、正確、かつ適切にデータを評価できるようにする。

#### <授業の方法>

原則として、講義・演習・実技等の形態をとる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素：あり自身が測定したの体力データについてグループでディスカッションを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、プレゼンテーションの準備等

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 50%、課題・レポート 30%、プレゼンテーション能力 20%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	体力学とは	受講上の注意、評価方法、講義の概要を説明した上で、これから研究を進める体力学について講義する。
2	文献研究 (1)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
3	文献研究 (2)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
4	文献研究 (3)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
5	文献研究 (4)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
6	文献研究 (5)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
7	文献研究 (6)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
8	文献研究 (7)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
9	文献研究 (8)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
10	文献研究 (9)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
11	文献研究 (10)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
12	文献研究 (11)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
13	測定・分析実習 (1)	最大酸素摂取量の測定方法を学ぶ。
14	測定・分析実習 (2)	無酸素性作業閾値の測定方法を学ぶ。

15	測定・分析実習 (3)	乳酸の測定・分析方法を学ぶ。
16	測定・分析実習 (4)	等速性筋力測定器Cybexを用いた様々な筋力測定の方法を学ぶ。
17	測定・分析実習 (5)	等速性筋力測定器Cybexを用いた様々な筋力測定の方法を学ぶ。
18	測定・分析実習 (6)	各種ジャンプ能力の測定・分析方法を学ぶ。
19	測定・分析実習 (7)	動作分析の方法を学ぶ。
20	課題研究の進捗状況報告 (1)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
21	課題研究の進捗状況報告 (2)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
22	課題研究の進捗状況報告 (3)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
23	課題研究の進捗状況報告 (4)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
24	課題研究の進捗状況報告 (5)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
25	課題研究の進捗状況報告 (6)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
26	課題研究の進捗状況報告 (7)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
27	課題研究の進捗状況報告 (8)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
28	課題研究のまとめ (1)	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。
29	課題研究のまとめ (2)	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本ゼミナールは卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。

#### <授業の到達目標>

本ゼミナールは4年次段階で実施することから、英語論文を読み、理解できること、その内容をプレゼンテーションできること、および、その問題点を明らかにしたり、その内容からの発展系としての研究をイメージできることを目標とする。

#### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（プレゼンテーション・ディスカッション）先行研究をまとめてプレゼンテーションを行い、その内容についてディスカッションする

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、プレゼンテーションの準備等

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 50%、課題・レポート 30%、プレゼンテーション能力 20%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	体力学とは	受講上の注意、評価方法、講義の概要を説明した上で、これから研究を進める体力学について講義する。
2	文献研究（1）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
3	文献研究（2）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
4	文献研究（3）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
5	文献研究（4）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
6	文献研究（5）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
7	文献研究（6）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
8	文献研究（7）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
9	文献研究（8）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
10	文献研究（9）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
11	文献研究（10）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
12	文献研究（11）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
13	測定・分析実習（1）	最大酸素摂取量の測定方法を学ぶ。

14	測定・分析実習 (2)	無酸素性作業閾値の測定方法を学ぶ。
15	測定・分析実習 (3)	乳酸の測定・分析方法を学ぶ。
16	測定・分析実習 (4)	等速性筋力測定器Cybexを用いた様々な筋力測定の方法を学ぶ。
17	測定・分析実習 (5)	等速性筋力測定器Cybexを用いた様々な筋力測定の方法を学ぶ。
18	測定・分析実習 (6)	各種ジャンプ能力の測定・分析方法を学ぶ。
19	測定・分析実習 (7)	動作分析の方法を学ぶ。
20	課題研究の進捗状況報告 (1)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
21	課題研究の進捗状況報告 (2)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
22	課題研究の進捗状況報告 (3)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
23	課題研究の進捗状況報告 (4)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
24	課題研究の進捗状況報告 (5)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
25	課題研究の進捗状況報告 (6)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
26	課題研究の進捗状況報告 (7)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
27	課題研究の進捗状況報告 (8)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
28	課題研究のまとめ (1)	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。
29	課題研究のまとめ (2)	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	木野 正一郎			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義、演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

ゼミナールⅡ（応用）では、3年生の『ゼミナールⅠ（基礎）』で深めてきた探究成果（社会人に求められる基礎的知識）を活用して、研究をより高度なレベルに深め、研究目的・研究方法・研究報告・考察・成果と課題を実践研究論文としてまとめる。さらに、教育学の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識をさらに深め、より高度な問題意識の醸成と実践的な課題解決力の錬磨を目指す。

### <授業の到達目標>

3年生の『ゼミナールⅠ（基礎）』を発展的に継続して、教育職員に採用された後の皆さんの姿をイメージし、特にこのゼミナール出身者の中から各学校に設置されるミドルリーダー（「道德教育推進教諭」）になれるような資質・能力を形成することを目標としたい。「考え、議論する道德」のアクティブ・ラーニングについて授業設計や授業分析ができるようにテーマ探究をするのはもちろん、やがては道德教育の全体計画や年間指導計画、シラバスの作成等もできるように成長してもらいたい。

### <授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマ（3年生：『ゼミナールⅠ（基礎）』の個人テーマ）について、レポート（課題）作成、および、ディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（実践研究論文）へと集約させる。＜参考：3年生：『ゼミナールⅠ（基礎）』の内容＞・前期は、道德的な観点から見た現代社会における教育的諸課題について、賛否両論を踏まえたディベートを行う。講義では2回を1セットにし、①情報収集（知識・技能の習得、ブレイン・ストーミング）→②ディベート（思考力・判断力・表現力等、討議）→③

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングあり・ディベート・ソクラテス的対話によるディスカッション・ブレイン・ストーミング（マトリックス法、SWOT分析、イメージマッピング等）・学習指導案制作・模擬授業と質的データの収集 他

### <準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い（情報探索）、その結果を事前にレポートにまとめたり（論点整理）、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度求める。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業態度等（関心・意欲・態度、課題意識と課題解決に向けた探究意識）：30％・研究成果（論文ないし学習指導案）・レポート・課題の内容、到達度評価（知識・理解）：70％

### <教科書>

柳沼良太（2018年9月20日）『「現代的な課題」に取り組む道德授業』株式会社 図書文化社  
柳沼良太編（2019年3月30日）『プラグマティズム、公共、道德』株式会社 あいり出版  
柳沼良太著（2016年2月）『問題解決的な学習で創る 道德授業 超入門』明治図書出版株式会社

### <参考書>

田沼茂紀（2022年4月10日）『道德教育学の構想とその展開』株式会社 北樹出版  
木野正一郎著（2025年3月31日）『教材学研究第36巻』「問題解決的で探究的なワークショップ型道德授業とその再検証」（注：講義にて配布します）日本教材学会研究紀要委員会  
木野正一郎著（2016年3月31日）『早稲田大学大学院教職研究科紀要第8号』「『道德科』における問題解決ワークショップを用いた小単元構成の授業開発－『核心的価値（コア・バリュー）』に基づく補充・深化・統合の取り組みを通して－」（注：講義にて配布します）早稲田大学教職大学院紀要刊行委員会

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究指導Ⅰ－課題の探究活動①	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
3	研究指導Ⅰ－課題の探究活動②	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
4	研究指導Ⅰ－課題の探究活動③	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
5	研究指導Ⅰ－課題の探究活動④	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
6	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑤	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。

7	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑥	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
8	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑦	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
9	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑧	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
10	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑨	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
11	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑩	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
12	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑪	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
13	研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表（中間報告ないし学習指導案に基づく模擬授業）①	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表（中間報告、30分/人程度、うち10分は仲間から相互評価を受ける）をする。
14	研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表（中間報告ないし学習指導案に基づく模擬授業）②	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表（中間報告、30分/人程度、うち10分は仲間から相互評価を受ける）をする。
15	研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表（中間報告ないし学習指導案に基づく模擬授業）③	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表（中間報告、30分/人程度、うち10分は仲間から相互評価を受ける）をする。
16	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究①	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める。
17	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究②	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める。
18	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究③	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める。
19	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究④	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める。
20	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究⑤	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める。
21	研究指導Ⅳ－実践研究論文の書き方講座	実践研究論文の書き方を学ぶ。・論文の構造づくり（章立てなどの「型」を教えます。）・文章の書き方（英語の五文型を意識した書き方。英語が苦手でも大丈夫です。文章の構造を教えます。）・接続詞の使い方（長文にならないように、上手に接続詞を使う方法を教えます。）・引用の方法（出典の明記と文中への投影方法を教えます。）
22	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化①	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
23	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化②	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
24	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化③	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
25	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化④	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
26	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化⑤	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
27	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化⑥	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
28	研究指導Ⅵ－探究した研究成果の発表（最終報告）①	各人が探究してきた課題について、新たな問いも解明しつつ、論文化した成果と課題を含めて最終報告する（注：持ち時間は30分/人、うち10分は仲間からの相互評価を受ける）。
29	研究指導Ⅵ－探究した研究成果の発表（最終報告）②	各人が探究してきた課題について、新たな問いも解明しつつ、論文化した成果と課題を含めて最終報告する（注：持ち時間は30分/人、うち10分は仲間からの相互評価を受ける）。
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	宮原 舞			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

「人」と「音・音楽」のかかわりをテーマに、子どもの音楽的発達や音楽教育などに関する研究を行う。各自が興味・関心をもつテーマを定めて文献研究・調査を行い、受講生同士で意見交流を行いながら論文を執筆する。

#### <授業の到達目標>

1. 「人」と「音・音楽」のかかわりについて自分なりの問題意識をもつ。2. 音楽教育や音楽表現に関する諸問題や先行研究に対して考察を深める。3. 自分なりの見解を文章にまとめ、他者に分かりやすく説明することができる。

#### <授業の方法>

各自が興味・関心をもつテーマについて文献研究や調査を行い、内容や進捗状況について受講生同士で意見交流・議論を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有（グループディスカッション）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テーマに沿って文献研究や調査を行う（2時間程度）。復習：ゼミ生同士の意見交流によって得た気づきや疑問、今後の課題をまとめる（1時間程度）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題に対する取り組みと授業内での発表 50%論文・研究発表 50%

#### <教科書>

#### <参考書>

日本音楽教育学会 編 音楽教育研究ハンドブック 音楽之友社

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的、内容、進め方、評価方法について
2	研究指導①	論文のかたちを学ぶ
3	研究指導②	論文を要約する
4	研究指導③	研究計画(1)：研究の進め方を学ぶ
5	研究指導④	研究計画(2)：研究テーマを探す
6	研究指導⑤	研究計画(3)：研究テーマを焦点化する
7	研究指導⑥	論文執筆計画を立てる
8	研究指導⑦	文献研究の方法を学ぶ
9	研究指導⑧	関連論文を探す
10	研究指導⑨	文献講読と意見交流①
11	研究指導⑩	文献講読と意見交流②
12	研究指導⑪	文献講読と意見交流③
13	研究指導⑫	文献講読と意見交流④
14	研究指導⑬	研究方法の検討・調査準備
15	中間発表	進捗状況と今後の研究計画について
16	研究指導⑭	データの収集
17	研究指導⑮	データの収集
18	研究指導⑯	データの分析と考察
19	研究指導⑰	データの分析と考察
20	研究指導⑱	データの分析と考察
21	研究指導⑲	データの分析と考察
22	研究指導⑳	論文執筆
23	研究指導㉑	論文執筆
24	研究指導㉒	論文執筆
25	研究指導㉓	論文執筆
26	研究指導㉔	論文執筆

27	研究指導②⑤	論文執筆
28	研究指導②⑥	研究発表に向けて
29	研究指導②⑦	研究発表に向けて
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	高崎 展好			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本ゼミナールは、音楽表現の可能性、有効性について研究及び実践を行います。音楽表現及び演奏制作による学内外での研究発表を通して、専門性に裏付けられた技能、技術はもとより、豊かな創造性、表現活動から生じる表現力やコミュニケーション力を養います。これらをどのように保育・教育現場で活用できるかを考察、研究を行う。

#### <授業の到達目標>

ゼミナール学生全員で演奏制作研究及び研究発表（アウトリーチ・コンサート）を行います。企画・計画・運営に関する実践力を身につけ学内外での研究発表を以って研究作品を創り上げることを目標とする。上記目標を達成するために、ゼミナールⅡ（応用）では、より専門性を追求した合唱や器楽合奏を通した演奏表現研究を行い、知識、技術、技能の修得及び、音楽表現の可能性、有効性を明らかにする。ゼミ論文、または、芸術制作研究発表を最終評価とする。

#### <授業の方法>

学生が主体となって様々な音楽表現研究、演奏表現活動を行う。音楽を愛好する心情と積極的な活動の取組み、参加意欲が求められる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

音楽表現、演奏技能、作品制作に関わる演習を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究作品制作、研究発表に支障が出ないよう準備や練習などを授業時間外での取組みが必要とされる。配布された楽譜等の読譜の予習 60分以上、授業で取り組んだ研究作品の復習 60分以上（必要に応じて補講を行う場合もある）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、作品制作への取組み姿勢 30%、ゼミ論文または芸術制作研究発表（ゼミ論発表含む） 40%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的、内容、授業方法、評価の仕方について理解する。
2	研究指導 1	研究テーマの検討・設定研究作品制作指導
3	研究指導 2	研究発表の企画、計画の立案研究作品制作指導
4	研究指導 3	研究作品制作技術指導
5	研究指導 4	研究作品制作技術指導
6	研究指導 5	研究作品制作技術指導
7	研究指導 6	研究作品制作技術指導
8	研究指導 7	研究作品制作技術指導
9	研究指導 8	研究発表に向けた研究指導
10	研究指導 9	研究発表に向けた研究指導
11	研究指導 10	研究発表に向けた研究指導
12	研究指導 11	研究発表に向けた研究指導
13	研究指導 12	研究発表に向けた研究指導
14	研究指導 13	研究発表に向けた研究指導及び準備
15	前期研究発表	研究作品の学内外での発表（コンサート）
16	研究指導 14	研究発表の企画、計画の立案研究作品制作指導
17	研究指導 15	研究発表の企画、計画の立案研究作品制作指導
18	研究指導 16	研究作品制作技術指導
19	研究指導 17	研究作品制作技術指導
20	研究指導 18	研究作品制作技術指導
21	研究指導 19	研究作品制作技術指導

22	研究指導 2 0	研究作品制作技術指導
23	研究指導 2 1	研究発表に向けた研究指導
24	研究指導 2 2	研究発表に向けた研究指導
25	研究指導 2 3	研究発表に向けた研究指導及び準備
26	研究指導 2 4	研究発表に向けた研究指導及び準備
27	研究指導 2 5	研究作品の学内外での発表（コンサート）
28	研究指導 2 6	ゼミ論及びゼミ論（制作作品）発表に向けたスライド資料作成
29	後期研究発表	ゼミ論提出及び、ゼミ論（制作作品）発表
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本ゼミナールでは、保育内容健康に関する分野の研究を行う。研究テーマについては、保育内容の中の、運動・睡眠・安全・ケガ・防災などを取り扱う。そのほかに関しては、教育学学士として相応しい研究テーマであれば認める。

#### <授業の到達目標>

幼児を取り巻く健康に関する課題に対して、科学的根拠等客観的な視点から調査検討を行い理解を深める。研究するための方法（資料の集め方やまとめ方、研究計画の立て方、調査や実験等の方法、分析、考察等）、論文の書き方の基本を学んだ後、テーマを決めて論文にまとめる。

#### <授業の方法>

学生が自分の関心によって研究テーマを決め、資料を集めて整理し発表する。授業は発表とテーマにそったディスカッションが中心となり、学生には自ら学ぶ主体性が必要である。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

プレゼン発表、中間報告

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマによって資料を集めて整理する。授業内で指示する課題についてレポートを作成する。（予習 1 時間） 授業内のディスカッションの要点をまとめる。（復習 1 時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー 1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題の提出と内容 50%、研究論文(ゼミ論文)の内容および発表50%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業のすすめ方
2	研究指導1	研究テーマの検討・設定
3	研究指導2	研究テーマの検討・設定
4	研究指導3	研究テーマの検討・設定
5	研究指導4	研究テーマの検討・設定
6	研究指導5	研究のための資料整理
7	研究指導6	研究のための資料整理
8	研究指導7	研究のための資料整理
9	研究指導8	研究のための資料整理
10	研究指導9	研究発表に向けた研究指導
11	研究指導10	研究発表に向けた研究指導
12	研究指導11	研究発表に向けた研究指導
13	研究指導12	研究発表に向けた研究指導
14	研究指導13	研究発表準備
15	中間研究発表	研究のアウトライン、研究の中間発表。
16	研究指導14	研究方法について
17	研究指導15	研究方法について
18	研究指導16	研究方法について
19	研究指導17	研究発表に向けた研究指導
20	研究指導18	研究発表に向けた研究指導
21	研究指導19	研究発表に向けた研究指導
22	研究指導20	研究発表に向けた研究指導
23	研究指導21	研究発表に向けた研究指導
24	研究指導22	研究発表に向けた研究指導
25	研究指導23	研究発表に向けた研究指導

26	研究指導24	研究発表に向けた研究指導
27	研究指導25	研究発表準備
28	研究指導26	研究発表準備
29	後期研究発表	研究結果を発表する
30	まとめ2	神経系（演習）

科目コード	55008				区 分	キャリア形成科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本ゼミナールでは日本語という言語の研究を通じて、科学的・論理的思考力を養う。学生それぞれが興味や関心のあるテーマを選び、実験・調査・文献研究等を通して考察し、レポートとしてまとめることを目標とする。さらに、学生自身で研究課題を見つけ、興味と関心を持って学問的に取り組むことができるような条件整備を行い、学生の研究を支援する。

### <授業の到達目標>

授業の到達目標は以下の通りである。１．日本語という言語についての知識を知る。２．文献を講読することで過去の研究について知る。３．論文・レジュメのまとめ方を知り、効果的に発表する方法を知る。

### <授業の方法>

前半は論文やレポートの書き方について学ぶ。後半では学生それぞれが自分の研究したいテーマに基づいて調査・研究を行い、論文にまとめる。授業の中では積極的に自分の意見を発言してほしい。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

自分でテーマを見つけ、調査・研究を実施する。グループやクラスでのディスカッションを実施する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前半の論文やレポートの書き方を知る授業については、授業後にそれに関連するレポート課題を出す。後半の文献講読の授業については、授業前に読んでおくこと、発表者はレジュメを作成することを課題とする。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度・発表 30，毎回の課題 50%，期末課題 20%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要
2	論文の書き方（１）	論文の構成（１）
3	論文の書き方（２）	論文の構成（２）
4	論文の書き方（３）	研究の目的（１）
5	論文の書き方（４）	研究の目的（２）
6	論文の書き方（５）	先行研究（１）
7	論文の書き方（６）	先行研究（２）
8	論文の書き方（７）	資料と方法（１）
9	論文の書き方（８）	資料と方法（２）
10	論文の書き方（９）	結果と分析（１）
11	論文の書き方（１０）	結果と分析（２）
12	論文の書き方（１１）	考察と結論
13	論文の書き方（１２）	今後の課題
14	論文の書き方（１３）	校正
15	前期まとめ	前期のまとめと後期への課題
16	後期オリエンテーション	後期テーマの検討
17	研究計画（１）	研究計画の立て方
18	研究計画（２）	研究計画の作成と検討
19	研究計画（３）	研究計画の確認
20	調査・研究（１）	各自のテーマに合わせた調査・研究（１）
21	調査・研究（２）	各自のテーマに合わせた調査・研究（２）
22	調査・研究（３）	各自のテーマに合わせた調査・研究（３）
23	調査・研究（４）	各自のテーマに合わせた調査・研究（４）
24	調査・研究（５）	各自のテーマに合わせた調査・研究（５）
25	中間発表	調査・研究の結果発表

26	論文作成と討論（１）	論文の執筆と進捗状況の発表（１）
27	論文作成と討論（２）	論文の執筆と進捗状況の発表（２）
28	論文作成と討論（３）	論文の執筆と進捗状況の発表（３）
29	期末発表（１）	論文発表（１）
30		

科目コード	55008				区 分	コア			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	大久保 諒			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本ゼミナールでは、科学的な発達心理学の観点から、保育の実践に役立つ文献研究・理論研究（研究資料の探索と活用）の基本を学習する。その上で、各自の興味・関心に基づき、1つの研究テーマを探究する課題の完遂を目指す。

### <授業の到達目標>

① 保育の実践と科学的な発達心理学の研究のつながりを説明できるようになる。② 保育の実践に活きる研究テーマを見つけ出せるようになる。③ 研究資料を調べて、レジュメへまとめ、発表できるようになる。④ 自らの作業の成果の有用性や改善点・修正点を保育の実践の場で検討できるようになる。

### <授業の方法>

前半は、教員の用意した研究資料について担当者がレジュメを作成・発表し、全員で議論を行う。また、保育の実践の場へ赴き、それらの学習内容の有用性や改善点・修正点を検討する。後半は、教員の指導の下、各自が研究テーマを設定し、研究資料を調べあげ、レポートにまとめて発表する。また、それらの成果の有用性や改善点・修正点について、保育の実践の場において検討する。  
※ なお、ゼミナールの進行においては、Google Classroomを利用する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：授業全般がアクティブラーニングを基礎として進められる。受講生は、研究計画の立案、研究データの収集、研究結果の分析、研究論文の執筆など、すべてのプロセスを自ら実際に行ってみることで学びを深めていく。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前に担当者は研究資料を発表に向けてまとめる責任を負い、担当者以外も研究資料へ予め目を通しておく責任を負う。各回、これらの学習に60分以上の時間を要する。また、授業後には研究資料の振り返りや更なる収集、自らの研究テーマについてレポートを継続的を書き進める課題へ取り組まなければならない。各回、これらの学習に60分以上の時間を要する。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

議論への貢献度 / 研究への積極性：50%、レジュメ等の課題の成績：50%を総合して最終的な成績を定める。

### <教科書>

### <参考書>

杉村伸一郎・坂田陽子（編）（2004/4） 実験で学ぶ発達心理学 ナカニシヤ出版  
村上香奈・山崎浩一（編）（2018/3） よくわかる心理学実験実習 ミネルヴァ書房  
大出敦・直江 健介（著）（2020/8） アカデミック・スキルズ プレゼンテーション入門：学生のためのプレゼン上達術 慶応義塾大学出版会

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの説明、研究資料の提示、役割分担
2	研究資料をレジュメにまとめる方法	研究資料の読み方、レジュメの作成の仕方、発表の仕方
3	研究と実践のつながり	現象の観察、不思議への気づき、理論とデータ、実践への応用、ケース・スタディ
4	感情の発達に関する研究資料の検討①	恐怖や不安の発達に関する研究
5	感情の発達に関する研究資料の検討②	報酬的感情の発達に関する研究
6	感情の発達に関する研究資料の検討③	アタッチメントの発達に関する研究
7	保育の実践の場を体験する①	保育の実践の場で、感情の発達に関する研究の学習成果の有用性を検討する
8	認知の発達に関する研究資料の検討①	選択的注意の発達に関する研究
9	認知の発達に関する研究資料の検討②	抑制機能の発達に関する研究
10	認知の発達に関する研究資料の検討③	ワーキングメモリの発達に関する研究
11	社会性の発達に関する研究資料の検討①	バイオロジカルモーションへの選好の発達に関する研究
12	社会性の発達に関する研究資料の検討②	社会的感染の発達に関する研究
13	社会性の発達に関する研究資料の検討③	共感性の発達に関する研究
14	保育の実践の場を体験する②	保育の実践の場で、認知と社会性の発達に関する研究の学習成果の有用性を検討する
15	前半のまとめ	前半の学習内容の振り返り、各研究テーマの関連性、後半に向けて
16	科学的な研究のレポート①	レポートの構成

17	科学的な研究のレポート②	レポートの書式
18	研究テーマの決定①	研究テーマを見つけ出すポイント
19	研究テーマの決定②	研究テーマを精緻化するポイント
20	研究テーマの決定③	研究テーマの発表・議論
21	保育の実践の場を体験する③	研究テーマの妥当性を保育の実践の場で確かめる
22	研究テーマの決定④	研究テーマの改良・修正
23	研究資料の収集と精査①	研究資料の調べ方、研究資料の整理の仕方
24	研究資料の収集と精査②	研究資料を調べあげる
25	研究資料の収集と精査③	研究資料を調べあげる（つづき）
26	研究資料の収集と精査④	研究資料を調べあげる（つづき）
27	研究資料の収集と精査⑤	研究成果の発表と議論
28	保育の実践の場を体験する④	研究成果の妥当性を保育の実践の場で確かめる
29	後半のまとめ①	研究成果の改善点・修正点を検討する
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	河野 儀久			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

スポーツ現場におけるストレングス&コンディショニングまたはアスレティックトレーニングの指導現場から見いだされた問題点や疑問点などについて、様々なエビデンスを根拠に答えを導き出す能力を身につける。また、自ら実験などの手法を用いて検証、考察し、見解を明らかにして行く能力を身につける。

#### <授業の到達目標>

スポーツ現場におけるストレングス&コンディショニングまたはアスレティックトレーニングの指導現場から見いだされた問題点や疑問点などについて、様々なエビデンスを根拠に答えを導き出す能力を身につける。

#### <授業の方法>

1. 講義および実技 2. 調査および発表

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

研究プレゼンテーション

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

自分自身の課題を解決するための根拠となる文献を検索し、ヒットした文献をわかりやすくまとめる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1. 文献検索プレゼンテーションの内容 2. 小テスト（国家試験問題等） 3. データの収集・処理・プレゼンまでの内容

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の方針および進め方の説明
2	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
3	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
4	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
5	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
6	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
7	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
8	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
9	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
10	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
11	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
12	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
13	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
14	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
15	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
16	オリエンテーション	後期の授業計画について説明する
17	解剖学	国家試験過去問演習
18	解剖学	国家試験過去問演習
19	解剖学	国家試験過去問演習
20	生理学	国家試験過去問演習
21	生理学	国家試験過去問演習
22	生理学	国家試験過去問演習
23	生理学	国家試験過去問演習
24	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
25	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
26	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
27	柔道整復学理論	国家試験過去問演習

28	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
29	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	眞鍋 芳江			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、卒業論文あるいはゼミ論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

### <授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

### <授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素 有3、4人のグループに分かれ、テーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の提出を義務付ける。

### <教科書>

特に指定しない。

### <参考書>

特に指定しない。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修

16	課題研究の遂行とその報告⑨	正をする。 各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	堀川 峻			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、問いの立て方や研究計画の検討、研究の実施、論文の執筆などを、履修者相互の議論を行いながら行っていく。

#### <授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

#### <授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング有研究成果をグループラーニングを通して発表し、今後の進め方について議論する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

#### <教科書>

特に指定しない。

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。

17	課題研究の遂行とその報告⑩	りよいものにする。 各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	4年	配当学期	前期・後 期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本科目では、卒業論文あるいはゼミ論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

#### <授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

#### <授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有研究分野に応じた分析方法の検討や先行研究の発表及びディスカッションを行います。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

#### <教科書>

特に指定しない。

#### <参考書>

特に指定しない。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修

16	課題研究の遂行とその報告⑨	正をする。 各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	浅田 栄里子			
配当年次	4年	配当学期	通期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本ゼミナールでは、学生が3年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究をゼミナールの構成員全体で支援する。

#### <授業の到達目標>

・関連資料の検索、収集、分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・レポート発表及びディスカッションができる。・研究レポート、論文作成の基本を身に付ける。・研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

#### <授業の方法>

ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、実際に調査や実験等を行い、論文としてまとめていく。基本的に講義時間は学生による発表とその準備とするが、個人の研究テーマや発表資料の作成などにおいては、進捗状況 に応じて個別指導を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有授業内において、各個人の研究テーマに沿って、研究の進捗状況を発表する。他のゼミ構成員による発表に対し、ディスカッションを行う。

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ3年次に設定したテーマに沿って研究を進め、その進ちょく状況の報告を授業の中で発表・討論する。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

教育経営学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に、DP8「修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取り組み、解決できる能力を身に付けている」に関連している。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度等(関心・意欲・態度) 40%、ゼミ論文 60%

#### <教科書>

特に指定しない。

#### <参考書>

特に指定しない。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ(応用)の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて①	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて②	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究テーマについて③	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	ゼミ論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	ゼミ論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	ゼミ論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	清田 美紀			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。研究課題の立案及び解決のための過程において、課題解決に向けた情報収集や相互に議論することを通して、研究の進め方について、その理解を図っていく。

### <授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法の基礎的事項について理解できる。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究内容を論文にまとめ、発表ができる。

### <授業の方法>

研究課題の決定に際しては、多様な視点をもてるようにするため議論を中心とする。研究の進捗状況を互いに情報交流しながら、その過程をポートフォリオとして記録させる。ICTを積極的に活用し、教員および履修者間で共有する。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有(ペアやグループを編成し、話し合い活動を毎時間、行う。各回の学習内容に応じて、課題解決のための話し合いを行ったり、グループで調査活動を行ったりする。)

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする(1時間程度)。進捗状況の報告準備をする(30分程度)。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)およびディプロマポリシー1(体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 40%, 中間発表(説明資料、発表内容) 30%, 論文 30%

### <教科書>

特に指定しない。

### <参考書>

特に指定しない。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修

16	課題研究の遂行とその報告⑨	正をする。 各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、互いに検討し合うことで、完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	佐藤 伸之			
配当年次	4年	配当学期	前期・後 期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、卒業論文あるいはゼミ論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

### <授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

### <授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有研究分野に応じた分析方法の検討や先行研究の発表及びディスカッションを行います。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

### <教科書>

特に指定しない。

### <参考書>

特に指定しない。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修

16	課題研究の遂行とその報告⑨	正をする。 各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、テーマに沿った研究あるいは論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

### <授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

### <授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：各自のテーマについて意見をまとめ、定期的に発表を行いグループディスカッションを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%、中間発表 20%、論文 50%卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の提出を義務付ける。

### <教科書>

特に指定しない。

### <参考書>

特に指定しない。

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修

16	課題研究の遂行とその報告⑨	正をする。 各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	浦 佑大			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方や研究計画の検討、研究の実施、論文の執筆などを、履修者相互の議論を行うことで理解を深めていく。

#### <授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

#### <授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有必要に応じてグループワークを取り入れる

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%, 中間発表 20%, 論文 50%

#### <教科書>

特に指定しない。

#### <参考書>

國部雅大 2023/3/7 これからの体育・スポーツ心理学 英治出版

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	伊藤 仁美			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業では、学生が3年次にそれぞれ設定した研究課題について研究を進めていくことを目的とする。

#### <授業の到達目標>

1. 社会人に求められる汎用スキルとして高度なリサーチ・リテラシーを身につけている 2. 英語教育において、自身の興味関心がある分野の専門的知識を身につけている 3. 自ら設定した研究課題に対する答えにたどりつき、研究成果を論文・制作物としてまとめ発表できている

#### <授業の方法>

(1) 発表（学生による説明と問いの提示）(2) ディスカッション（問いに対する回答）(3) 省察活動（まとめと発表）(4) 個別指導

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有 グループワーク（学習内容に関する教え合い）・ディスカッション（問いに対する考えの共有）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ3年次に設定したテーマに沿って研究を進め、その進捗状況の報告を授業の中で発表・討論する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、論文への取り組み 70%

#### <教科書>

#### <参考書>

浦野研ほか（2016） はじめての英語教育研究：押さえておきたいコツとポイント 研究社

APA（米国心理学会）（2022） APA論文作成マニュアル第7版

竹内理・水本篤ほか（2023） 外国語教育研究ハンドブック【増補版】－ 研究手法のより良い理解のために 松柏社

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて2	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告2	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告3	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告4	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告5	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告6	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告7	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）
14	課題研究の遂行とその報告8	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第8回目）
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。
17	課題研究の遂行とその報告2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
18	課題研究の遂行とその報告3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
19	課題研究の遂行とその報告4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
20	課題研究の遂行とその報告5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第5回目）
21	中間発表	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第2回）
23	中間発表3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第3回）
24	研究課題の遂行とその報告	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告2	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
26	研究課題の遂行とその報告3	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
27	研究課題の遂行とその報告4	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
28	最終確認	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。
29	最終確認2	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。（第2回目）
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	井上 聡			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業の目的は、研究力の育成を通して、社会人基礎力であるジェネリックスキルを習得することです。対面型授業だけでなく、JMOCやTV会議システム等を活用し、ゼミ生個々のキャリア形成に沿って、専門的知識の理解・活用、問題発見・課題解決能力を養成し、論理的思考力を高めます。学修成果としては、論理構成がとれた論文（はじめに、先行研究、研究の枠組み、結果と考察、おわりに）の水準で評価します。

#### <授業の到達目標>

1. 技術革新や価値創造の源となる飛躍血を発見・創造できる。2. 技術革新と社会課題をつなげ、プラットフォームを創造できる。3. データの力を最大限に活用・展開できる。4. 学内の教育課題の解決に貢献できる。5. 4年間の成果物として論文を作成・提出できる。

#### <授業の方法>

1. ディスカッション 2. プレゼンテーション 3. 相互評価 4. 論文の作成・提出・発表※授業中のデータの共有はすべてGoogle Classroomで行います。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

ピアレビュー

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

進捗状況の報告（2時間程度）※データの教諭はすべてGoogle Classroomで行います。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

協同学習 25%、進捗状況報告 25%、研究論文 50%

#### <教科書>

特に指定しない。

#### <参考書>

特に指定しない。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の目的・内容・授業方法・評価の仕方等
2	研究テーマについて 1	テーマの確認と研究方法の検討
3	研究テーマについて 2	テーマの確認と研究方法の検討
4	研究テーマについて 3	テーマの確認と研究方法の検討
5	研究計画書の作成 1	研究計画書の作成
6	研究計画書の作成 2	研究計画書のチェック
7	課題研究の遂行とその報告 1	進捗状況の報告と討論
8	課題研究の遂行とその報告 2	進捗状況の報告と討論
9	課題研究の遂行とその報告 3	進捗状況の報告と討論
10	課題研究の遂行とその報告 4	進捗状況の報告と討論
11	課題研究の遂行とその報告 5	進捗状況の報告と討論
12	課題研究の遂行とその報告 6	進捗状況の報告と討論
13	課題研究の遂行とその報告 7	進捗状況の報告と討論
14	課題研究の遂行とその報告 8	進捗状況の報告と討論
15	前期のまとめ	全員の進捗状況の確認と計画表の修正
16	課題研究の遂行とその報告 1	進捗状況の報告とディスカッション
17	課題研究の遂行とその報告 2	進捗状況の報告とディスカッション
18	課題研究の遂行とその報告 3	進捗状況の報告とディスカッション
19	課題研究の遂行とその報告 4	進捗状況の報告とディスカッション
20	課題研究の遂行とその報告 5	進捗状況の報告とディスカッション
21	中間発表 1	中間報告と相互評価
22	中間発表 2	中間報告と相互評価

23	中間発表 3	中間報告と相互評価
24	研究課題の遂行とその報告 1	論文に対する相互評価
25	研究課題の遂行とその報告 2	論文に対する相互評価
26	研究課題の遂行とその報告 3	論文に対する相互評価
27	研究課題の遂行とその報告 4	論文に対する相互評価
28	最終確認 1	最終の点検
29	最終確認 2	最終の点検
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	濱嶋 幸司			
配当年次	4年	配当学期	前期・後期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

ゼミナールⅡでは、学生が3年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする（なお、テーマ設定を再考してもらってもかまわない）。

#### <授業の到達目標>

1. 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。3. 研究を論文および制作物としてまとめ、その発表ができる。

#### <授業の方法>

ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、実際に調査・実験あるいは制作等を行い、論文あるいは制作物としてまとめていく。研究課題を変更する場合は、教員と相談しながら、ゼミナールⅠとの関連性を意識しながらおこなう。基本的に講義時間は学生による発表あるいはその準備とするが、進捗状況に応じて個別指導を行うこともある。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う 報告者の内容について、聞き手は質疑を行い、報告者は応答し、対話を通じて問いを深めていく

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自が設定したテーマに沿って研究を進め、適宜（できるだけ短い間隔で）経過報告を授業の中で発表・討論する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度） 30%（15×2）、期末課題（知識・理解） 70%（30×2）

#### <教科書>

特に指定しない。

#### <参考書>

特に指定しない。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ゼミの進め方・目的・内容	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告 7	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）

14	課題研究の遂行とその報告 8	各自の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第8回目）
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。
17	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
18	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
19	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
20	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第5回目）
21	中間発表	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表 2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第2回）
23	中間発表 3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第3回）
24	研究課題の遂行とその報告	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告 2	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
26	研究課題の遂行とその報告 3	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
27	研究課題の遂行とその報告 4	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
28	最終確認	仕上がりつつある研究成果の最終の点検を行う。
29	最終確認 2	仕上がりつつある研究成果の最終の点検を行う。（第2回目）
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

ゼミナールⅡでは、学生が3年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。

#### <授業の到達目標>

・関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。・研究を論文および制作物としてまとめ、その発表ができること。

#### <授業の方法>

ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、実際に調査・実験あるいは制作等を行い、論文あるいは制作物としてまとめていく。基本的に講義時間は学生による発表あるいはその準備とするが、進捗状況 に応じて個別指導を行うこともある。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有調査の課題、フィールドワーク、グループディスカッション等

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ3年次に設定したテーマに沿って研究を進め、その進ちょく状況の報告を授業の中で発表・討論する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、ゼミ論文の内容と到達度（知識・理解） 70%

#### <教科書>

特に指定しない。

#### <参考書>

特に指定しない。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて 1	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成 1	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告 1	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告 7	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）
14	課題研究の遂行とその報告 8	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第8回目）
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告 1	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。
17	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
18	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
19	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
20	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第5回目）
21	中間発表 1	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表 2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第2回）
23	中間発表 3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第3回）
24	研究課題の遂行とその報告 1	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告 2	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
26	研究課題の遂行とその報告 3	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
27	研究課題の遂行とその報告 4	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
28	最終確認 1	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。
29	最終確認 2	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。（第2回目）
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	竹下 厚志			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

ゼミナールⅡでは、学生が3年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とします。

#### <授業の到達目標>

(1) 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解できる。(2) リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を身につけている。(3) 研究を論文および制作物としてまとめ、発表できる。

#### <授業の方法>

(1) 発表（学生による説明と問いの提示） (2) ディスカッション（問いに対する回答） (3) 省察活動（まとめと発表） (4) 個別指導

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり。各自のテーマに関するグループ内での意見交換、プレゼンテーション（卒論に関する発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ3年次に設定したテーマに沿って研究を進め、その進捗状況の報告を授業の中で発表、討論をします。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求めます。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加度 30%、口頭発表 30%、論文 40%

#### <教科書>

特に指定しない。

#### <参考書>

特に指定しない。

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告 7	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）
14	課題研究の遂行とその報告 8	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第8回目）
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。
17	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
18	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
19	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
20	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第5回目）
21	中間発表	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表 2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第2回）
23	中間発表 3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第3回）
24	研究課題の遂行とその報告	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告 2	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
26	研究課題の遂行とその報告 3	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
27	研究課題の遂行とその報告 4	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
28	最終確認	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。
29	最終確認 2	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。（第2回目）
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	鉦 悠介			
配当年次	4年	配当学期	前期・後期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

ゼミナールⅡでは、学生が3年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、卒業論文を制作する。

#### <授業の到達目標>

1. 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。3. 研究を論文および制作物としてまとめ、その発表ができる。

#### <授業の方法>

ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、実際に調査・実験あるいは制作等を行い、論文あるいは制作物としてまとめていく。研究課題を変更する場合は、教員と相談しながら、ゼミナールⅠとの関連性を意識しながらおこなう。基本的に講義時間は学生による発表あるいはその準備とするが、進捗状況に応じて個別指導を行うこともある。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。卒業論文の進捗状況報告などのレジュメ作成およびディスカッション。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自が設定したテーマに沿って研究を進め、適宜（できるだけ短い間隔で）経過報告を授業の中で発表・討論する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の小レポート（70%）、ディスカッションへの参加の度合い（30%）

#### <教科書>

なし

#### <参考書>

なし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ゼミの進め方・目的・内容	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告 7	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）
14	課題研究の遂行とその報告 8	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第8回目）

15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。
17	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
18	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
19	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
20	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第5回目）
21	中間発表	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表 2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第2回）
23	中間発表 3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第3回）
24	研究課題の遂行とその報告	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告 2	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
26	研究課題の遂行とその報告 3	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
27	研究課題の遂行とその報告 4	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
28	最終確認	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。
29	最終確認 2	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。（第2回目）
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人になれるよう演習形式で実施する。

#### <授業の到達目標>

課題に対し研究計画を立てることができる。課題に対し客観的手法を用いて検討することができる。客観的手法を用いた内容をまとめ、論文作成することができる。

#### <授業の方法>

グループワーク（専門とする領域内での興味関心をもつ内容に対する討論、調査、研究計画立案、測定実施）省察活動（課題に対するまとめ、論文作成）

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

必要に応じてグループワークを実施する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ（毎回、1時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 30%、研究実践レポート 40%、学習意欲 30%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	情報整理1	ゼミナールⅠのまとめ
3	情報整理2	ゼミナールⅠのまとめ
4	疑問・問題点の抽出及び整理1	疑問・問題点の抽出及び整理
5	疑問・問題点の抽出及び整理2	疑問・問題点の抽出及び整理
6	疑問・問題点の抽出及び整理3	疑問・問題点の抽出及び整理
7	疑問・問題点の抽出及び整理4	疑問・問題点の抽出及び整理
8	疑問・問題点の抽出及び整理5	疑問・問題点の抽出及び整理
9	関連文献収集1	文献収集
10	関連文献収集2	文献収集
11	関連文献収集3	文献収集
12	関連文献収集4	文献収集
13	関連文献収集5	文献収集
14	まとめ	まとめ
15	まとめ	まとめ
16	課題確認を発展1	課題確認を発展
17	課題確認を発展2	課題確認を発展
18	課題確認を発展3	課題確認を発展
19	課題確認を発展4	課題確認を発展
20	課題確認を発展5	課題確認を発展
21	課題確認を発展6	課題確認を発展
22	課題確認を発展7	課題確認を発展
23	課題確認を発展8	課題確認を発展
24	課題確認を発展9	課題確認を発展
25	課題確認を発展10	課題確認を発展

26	課題確認を発展11	課題確認を発展
27	課題確認を発展12	課題確認を発展
28	プレゼンテーション1	プレゼンテーション
29	プレゼンテーション2	プレゼンテーション
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人になれるよう演習形式で実施する。

#### <授業の到達目標>

課題に対し研究計画を立てることができる。課題に対し客観的手法を用いて検討することができる。客観的手法を用いた内容をまとめ、論文作成することができる。

#### <授業の方法>

ゼミナールⅡ(応用)は、ディプロマポリシー4 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。グループワーク(専門とする領域内での興味関心をもつ内容に対する討論、調査、研究計画立案、測定実施)省察活動(課題に対するまとめ、論文作成)を行い能動的な課題解決を図る。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有(ディスカッション、ディベート、グループワークの方法)5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ(毎回、1時間程度)復習：振り返りレポート(毎回、1時間程度)

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)およびディプロマポリシー1(体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題 30% 研究実践レポート 40% 学習意欲 30%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	情報整理1	ゼミナールⅠのまとめ
3	情報整理2	ゼミナールⅠのまとめ
4	疑問・問題点の抽出及び整理1	疑問・問題点の抽出及び整理
5	疑問・問題点の抽出及び整理2	疑問・問題点の抽出及び整理
6	疑問・問題点の抽出及び整理3	疑問・問題点の抽出及び整理
7	疑問・問題点の抽出及び整理4	疑問・問題点の抽出及び整理
8	疑問・問題点の抽出及び整理5	疑問・問題点の抽出及び整理
9	関連文献収集1	文献収集
10	関連文献収集2	文献収集
11	関連文献収集3	文献収集
12	関連文献収集4	文献収集
13	関連文献収集5	文献収集
14	まとめ	まとめ
15	まとめ	まとめ
16	課題確認を発展1	課題確認を発展
17	課題確認を発展2	課題確認を発展
18	課題確認を発展3	課題確認を発展
19	課題確認を発展4	課題確認を発展
20	課題確認を発展5	課題確認を発展
21	課題確認を発展6	課題確認を発展
22	課題確認を発展7	課題確認を発展
23	課題確認を発展8	課題確認を発展

24	課題確認を発展9	課題確認を発展
25	課題確認を発展10	課題確認を発展
26	課題確認を発展11	課題確認を発展
27	課題確認を発展12	課題確認を発展
28	プレゼンテーション1	プレゼンテーション
29	プレゼンテーション2	プレゼンテーション
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	早田 剛			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本科目の目的は、体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

#### <授業の到達目標>

ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

#### <授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、仮説に対する研究を行い、ゼミ論文をまとめていく。その後、論文に対する分かりやすいプレゼンテーションを作成し準備していく。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行い、ディスカッションを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、各進捗を発表資料にまとめる（約2時間）。発表資料に対する今後の対策についてを自分の考えをまとめる（約30分）。最終的にはゼミ論文としてまとめる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実践的な態度：50%、自身の研究テーマに関する調査・研究発表・論文提出：50%をもって評価する。なお、卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の課題提出を義務付ける。

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

特に指定なし

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡにおける年間の進行方法について
2	健康増進活動（1）	理想の健康増進活動について
3	健康増進活動（2）	フレイル・サルコペニア
4	健康増進活動（3）	ロコモティブシンドローム
5	健康づくりに関する先行研究（1）	健康づくり教室の目的
6	健康づくりに関する先行研究（2）	健康づくり教室の実践①
7	健康づくりに関する先行研究（3）	健康づくり教室の実践②
8	健康づくりに関する先行研究（4）	筋力トレーニング
9	健康づくりに関する先行研究（5）	有酸素トレーニング
10	健康づくりに関する先行研究（6）	脳トレーニング
11	健康づくりに関する先行研究（7）	ニュースポーツによるトレーニング
12	測定と評価（1）	体格と筋力の関係について
13	測定と評価（2）	競技における傷害の特徴について
14	測定と評価（3）	傷害調査方法について
15	中間まとめ	中間発表
16	計測（1）	検査・測定演習（1）
17	計測（2）	検査・測定演習（2）
18	運動器疾患（1）	運動器疾患の概要について
19	運動器疾患（2）	運動器疾患（骨疾患）について

20	運動器疾患（３）	運動器疾患（筋疾患）について
21	運動器疾患（４）	運動器疾患（神経疾患、その他疾患）について
22	リハビリテーション（１）	リハビリテーションについて
23	リハビリテーション（２）	リハビリテーション計画作成について
24	運動器疾患に対する評価演習（１）	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する評価・測定の先行研究について調査報告
25	運動器疾患に対する評価演習（２）	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する評価・測定の実施計画について検討会
26	運動器疾患に対する評価演習（３）	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する評価・測定実習
27	運動器疾患に対する評価演習（４）	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する評価・測定実習データの処理方法について
28	運動器疾患に対する評価演習（５）	各種テーマに沿った運動器疾患のリハビリテーションに関する評価・測定結果と先行研究との比較
29	運動器疾患に対する評価演習（６）	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する調査発表（１）
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	十河 直太			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目の目的は、体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

### <授業の到達目標>

ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

### <授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、仮説に対する研究を行い、ゼミ論文をまとめていく。その後、論文に対する分かりやすいプレゼンテーションを作成し準備していく。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：有単元で学んだ内容についてディスカッションを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、各進捗を発表資料にまとめる（約2時間）。発表資料に対する今後の対策についてを自分の考えをまとめる（約30分）。最終的にはゼミ論文としてまとめる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実践的な態度50%、自身の研究テーマに関する調査・研究の課題発表50%をもって評価する。

### <教科書>

特に指定なし

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠの振り返りとゼミナールⅡにおける年間の進行方法について
2	健康増進活動（1）	理想の健康増進活動について
3	健康増進活動（2）	フレイル・サルコペニア
4	健康増進活動（3）	ロコモティブシンドローム
5	健康づくりに関する先行研究（1）	健康づくり教室の目的
6	健康づくりに関する先行研究（2）	健康づくり教室の実践①
7	健康づくりに関する先行研究（3）	健康づくり教室の実践②
8	健康づくりに関する先行研究（4）	筋力トレーニング
9	健康づくりに関する先行研究（5）	有酸素トレーニング
10	健康づくりに関する先行研究（6）	脳トレーニング
11	健康づくりに関する先行研究（7）	ニュースポーツによるトレーニング
12	測定と評価（1）	体格と筋力の関係について
13	測定と評価（2）	競技における傷害の特徴について
14	測定と評価（3）	傷害調査方法について
15	中間まとめ	中間発表
16	計測（1）	検査・測定演習（1）
17	計測（2）	検査・測定演習（2）
18	運動器疾患（1）	運動器疾患の概要について
19	運動器疾患（2）	運動器疾患（骨疾患）について
20	運動器疾患（3）	運動器疾患（筋疾患）について
21	運動器疾患（4）	運動器疾患（神経疾患、その他疾患）について

22	リハビリテーション（１）	リハビリテーションについて
23	リハビリテーション（２）	リハビリテーション計画作成について
24	運動器疾患に対する評価演習（１）	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する評価・測定の先行研究について調査報告
25	運動器疾患に対する評価演習（２）	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する評価・測定の実施計画について検討会
26	運動器疾患に対する評価演習（３）	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する評価・測定実習
27	運動器疾患に対する評価演習（４）	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する評価・測定実習データの処理方法について
28	運動器疾患に対する評価演習（５）	各種テーマに沿った運動器疾患のリハビリテーションに関する評価・測定結果と先行研究との比較
29	運動器疾患に対する評価演習（６）	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する調査発表（１）
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	本庄 慶樹			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業（ゼミナール）では、将来様々の形で子どもとの教育と発育に関わるときに子どもの自主的な発問を促し、問題解決に導く能力を育成することを目的とする。特にICTの利活用能力は不可欠であり、そのスキルを活かし方を探求していく。ICTを利活用して子どもに問題解決能力を養育する方法を研究する。

#### <授業の到達目標>

子どもの自主的な探究心を育み科学的な解答を持ちながら導いていく。子どもに「なぜ」の疑問を持たせ考えさせ正しい推論と正しい解答、問題解決能力を持つ子どもを育てることに必要なことを探求できる能力を身につけていく。

#### <授業の方法>

・情報の収集から現代の状況把握と未来の予想を行う。・先行研究から知見を深める。・ICTを利活用した実践的な制作。（音楽・映像メディア、CG、DTP、WEB、GAME、etc）・ICTの利活用スキルの更なる習得と指導する能力を身に付ける。・子どもへの実践活動

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

30コマ（1コマ90分）は、課題の整理と成果発表の場であり、それ以外に課題発表準備や成果物の制作時間が必要である。個人差はあるが、120分相当の取り組みを要する。また、これ以外にフィールドワークとして実践活動（IPUこども園等へ出向いての活動）の準備、実践、結果総括の時間が必要である。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

個人レポート課題 40% グループワークへの貢献度 30%、フィールドワークへの貢献度 30%、

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的・目標を理解する
2	研究テーマ決定①	個人発表プレゼンテーション
3	研究テーマ決定②	グループワーク・ディスカッション
4	研究計画	個人発表プレゼンテーション
5	先行研究調査①	文献調査
6	先行研究調査②	調査結果発表準備
7	先行研究調査報告	個人発表プレゼンテーション
8	課題の考察①	課題の考察グループワーク
9	課題の考察②	研究テーマの絞り込み（研究テーマと副題の決定）
10	研究計画①	コンテンツのプランニング
11	研究計画②	個人発表プレゼンテーション
12	研究計画③	グループワーク・ディスカッション
13	コンテンツ制作①	研究テーマに合わせたコンテンツ制作
14	コンテンツ制作②	研究テーマに合わせたコンテンツ制作
15	フィールドワーク（データ収集）①	制作したコンテンツについてのデータ収集
16	フィールドワーク（データ収集）②	制作したコンテンツについてのデータ収集
17	データ処理・分析①	データ処理分析の方法を検討
18	データ処理・分析②	データ結果について個人発表プレゼンテーション
19	データ処理・分析③	グループワーク・ディスカッション
20	序論制作①	序論の制作（研究テーマ設定の動機、理由、意義）
21	序論制作②	個人発表・フィードバック
22	概論制作①	論文の全体構成検討
23	概論制作②	個人発表・フィードバック
24	本論制作①	全体像、概要の構築
25	本論制作②	個人発表・フィードバック

26	本論制作③	グループワーク・ディスカッション
27	研究成果まとめ 1	発表シナリオ
28	研究成果まとめ 1	データ処理
29	研究成果まとめ 1	レポート制作
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目の目的は、体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

### <授業の到達目標>

ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

日頃から問題意識を持ち、自ら研究テーマを決め、ゼミ論文執筆に必要な基本的内容や統計処理について調べ、主体的に学ぶ姿勢を持つことが望まれる。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる(2～3時間)。調査・研究する課題の発表準備(3時間)。基礎的知識獲得に必要な自主学習(7時間)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)およびディプロマポリシー1(体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度50%、発表・課題50%卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の提出を義務付ける。

### <教科書>

### <参考書>

日本スポーツ心理学会 スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版 大修館書店

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
3	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
4	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
5	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
6	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
7	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
8	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
9	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
10	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
11	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
12	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
13	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
14	前期ゼミ論進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期ゼミ論進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
17	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
18	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
19	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
20	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
21	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。

22	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
23	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
24	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
25	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
26	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
27	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
28	後期ゼミ内発表①	最終論文発表準備
29	後期ゼミ内発表②	最終論文発表準備
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	仙波 慎平			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

### <授業の到達目標>

ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有グループワーク（3～4人のグループに分かれ、テーマに対して成果物の作成・プレゼンを行う）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%、発表・課題50%卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の提出を義務付ける。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
3	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
4	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
5	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
6	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
7	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
8	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
9	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
10	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
11	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
12	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
13	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
14	前期ゼミ論進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期ゼミ論進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
17	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
18	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
19	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
20	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
21	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
22	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
23	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。

24	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
25	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
26	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
27	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
28	後期ゼミ内発表①	最終論文発表準備
29	後期ゼミ内発表②	最終論文発表準備
30		

科目コード	55008				区 分	コア			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	大井 理緒			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

### <授業の到達目標>

ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（グループワーク・ディスカッション・ディベート）：テーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 50%、課題提出・プレゼン 50%※卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の提出を義務付ける

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
3	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
4	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
5	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
6	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
7	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
8	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
9	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
10	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
11	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
12	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
13	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
14	前期ゼミ論進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期ゼミ論進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
17	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
18	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
19	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
20	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
21	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
22	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
23	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。

24	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
25	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
26	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
27	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
28	後期ゼミ内発表①	最終論文発表準備
29	後期ゼミ内発表②	最終論文発表準備
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	國友 亮佑			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

#### <授業の到達目標>

ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

#### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

#### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題50%、プレゼン30%、受講態度20%、※ 卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の提出を義務付ける。

#### <教科書>

#### <参考書>

NSCAジャパン NSCA決定版ストレングストレーニング&コンディショニング 第4版 Book House HD

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
3	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
4	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
5	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
6	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
7	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
8	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
9	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
10	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
11	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
12	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
13	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
14	前期ゼミ論進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期ゼミ論進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
17	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
18	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
19	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
20	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
21	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
22	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。

23	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
24	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
25	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
26	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
27	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
28	後期ゼミ内発表①	最終論文発表準備
29	後期ゼミ内発表②	最終論文発表準備
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	梶谷 亮輔			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

### <授業の到達目標>

ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有る必要に応じてディスカッションを実施

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる(2～3時間)。調査・研究する課題の発表準備(3時間)。基礎的知識獲得に必要な自主学習(7時間)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)およびディプロマポリシー1(体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度50%、発表・課題(ゼミ論文または卒業論文)50%発表プレゼンテーションおよびゼミ論文について、文字数、発表の仕方、内容、発表時間等から評価しフィードバックする。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
3	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
4	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
5	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
6	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
7	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
8	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
9	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
10	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
11	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
12	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
13	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
14	前期ゼミ論進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期ゼミ論進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
17	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
18	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
19	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
20	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
21	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
22	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。

23	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
24	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
25	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
26	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
27	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
28	後期ゼミ内発表①	最終論文発表準備
29	後期ゼミ内発表②	最終論文発表準備
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	小川 智勢子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、前年度のゼミナールⅠ（基礎）を踏まえ、社会人（教職、公務員ほか）となる学生に実践力を身につけさせることをねらいとしている。とりわけ教職に就くことを目指す学生は、教師としての使命感と責任感をもち、現代の教育課題について思考を深め、ゼミの中での議論を通して、課題に積極的に取り組み解決できる力を身につけることも目指している。前半は演習を中心に行い、後半は個人研究（ゼミ論）を完成させるための活動を行う。

### <授業の到達目標>

1 社会人となるための規範意識、使命感、責任感をもち、2 他者と協働して課題を解決する力を身につける。3 教師として必要な指導力を身につける。4 論文の作成方法を理解する。5 形式を整えて論文を仕上げる。

### <授業の方法>

演習が中心となる。自分の考えをもち、グループで協議する。後半は個人研究について発表し合い、他者の意見を取り入れつつ、自分の研究をより深めていく。合同ゼミを設定し、個人研究について発表し合う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ協議と発表、パワーポイントを使用しての発表など

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ボランティアや実習、読書など様々な体験から自分なりに問題意識をもち、問題提起や質問ができるように準備する（1時間程度）。授業後は、学んだことを振り返り、模擬授業や日々の実践に生かすことができるようにする。個人研究については、随時取り組む。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（40％）、課題提案内容・意見交換（30％）、レポート・提出物（30％）

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ゼミ活動について	ゼミの活動について話し合う。
2	ゼミ論に向けて	個人研究についての日常の取り組みについて理解する。
3	教育課題をテーマにした場面指導	学級経営の「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
4	教育課題をテーマにした場面指導	学級経営の「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
5	教育課題をテーマにした場面指導	教科指導の「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
6	教育課題をテーマにした場面指導	教科指導の「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
7	教育課題をテーマにした場面指導	読書指導の「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
8	教育課題をテーマにした場面指導	保護者対応の「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
9	教育課題をテーマにした場面指導	積極的な生徒指導の「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
10	教育課題をテーマにした場面指導	学校行事の「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
11	教育課題をテーマにした場面指導	不登校児童に対する「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
12	ゼミ論の構想	ゼミ論文に向けて、研究テーマ、テーマ設定の理由、取り組み方法を発表する。
13	ゼミ論の構想	ゼミ論文に向けて、個人研究の取り組みの経過を発表する。
14	ゼミ論の構想	ゼミ論文に向けて、個人研究の取り組みの計画をまとめる。
15	ゼミ論の概要	ゼミ論文の概要を考える。
16	ゼミ論文の章立て	ゼミ論文の章立てを考える。
17	プレゼンテーションの準備	ゼミ論中間発表会に向けてプレゼンテーションの準備をする。
18	プレゼンテーションの準備	ゼミ論中間発表会に向けてプレゼンテーションの準備をする。
19	ゼミ論中間発表会	共同ゼミ論中間発表会で、ゼミ論の概要を発表する。他の人の発表を聞き感想を述べる。
20	ゼミ論中間発表会	共同ゼミ論中間発表会で、ゼミ論の概要を発表する。他の人の発表を聞き感想を述べる。

21	ゼミ論文への取り組み	中間発表会で指導された点に留意してゼミ論文を執筆する。
22	ゼミ論文への取り組み	ゼミ論文を執筆する。
23	ゼミ論文への取り組み	ゼミ論文を執筆する。
24	ゼミ論文への取り組み	ゼミ論文を執筆する。
25	ゼミ論文への取り組み	ゼミ論文を執筆する。
26	ゼミ論文への取り組み	ゼミ論文を執筆する。
27	ゼミ論文への取り組み	ゼミ論文を執筆する。ゼミ論発表会に向けて準備する。
28	ゼミ論発表会	ゼミ論文を発表する。
29	ゼミ論発表会	ゼミ論文を発表する。
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	三堀 仁			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、前年度のゼミナールⅠ（基礎）を踏まえ、社会人、とりわけ教職に就くことを目指す学生に実践力を身に付けさせることをねらいとしたものである。教師として、子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長を目指した生涯学習力を身に付けさせることを重視している。また、修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取り組み、解決できる力を身に付けることも目指している。授業は演習を中心に行う。後半は個人研究（ゼミ論）を完成させるための取組を行う。

### <授業の到達目標>

①教職につくための規範意識、使命感、責任感を持つ。②他者と協働して課題解決する力を身に付ける。③教師として必要な指導力を身に付ける。④論文の作成の仕方を理解する。

### <授業の方法>

基本的に演習の形態をとる。自分なりの考えをもってグループ協議にのぞみ、他者の意見を取り入れながらよりよい答えを導き出すような場面を設定する。後半は個人研究について発表し合う場面を設定する。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業の中で、グループ協議を通して自分の考えを深めたり模擬授業を通して自ら課題を見つけ改善したりすることができるようにする。

### <準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

自分なりに問題意識を持ち、質問や問題提起できるように準備しておく（1時間程度）。授業後は学んだことを模擬授業や日々の実践に生かすことができるようにする。個人研究は日常の中で随時取り組む。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（40％）、課題提案内容・意見交換（30％）、レポート・提出物（30％）

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ゼミの活動について	ゼミの活動について話し合い共有する。
2	ゼミ論に向けて	個人研究に関しての日常の取組について理解する。
3	場面指導について	学校現場で見られる「場面指導」をテーマにした話し合いの方法を理解する。
4	教育課題をテーマにした場面指導	学級経営の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
5	教育課題をテーマにした場面指導	学級経営の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
6	教育課題をテーマにした場面指導	保護者対応の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
7	教育課題をテーマにした場面指導	保護者対応の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
8	教育課題をテーマにした場面指導	緊急対応時の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
9	教育課題をテーマにした場面指導	緊急対応時の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
10	教育課題をテーマにした場面指導	職場内での「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
11	教育課題をテーマにした場面指導	職場内での「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
12	ゼミ論の構想	ゼミ論文へ向けての個人研究の取組を発表する。
13	ゼミ論の構想	ゼミ論文へ向けての個人研究の取組を発表する。
14	ゼミ論の構想	ゼミ論文作成に向けての論文構成を固める。
15	ゼミ論の構想	ゼミ論文作成に向けての論文構成を固める。
16	ゼミ論のテーマ設定	ゼミ論文のテーマと概要を考える。
17	ゼミ論の章立て	ゼミ論文の章立てを考える。
18	ゼミ論の概要執筆	ゼミ論文の各章の概要を執筆する。
19	ゼミ論の概要執筆	ゼミ論文の各章の概要を執筆する。
20	プレゼンテーションの準備	ゼミ論中間発表会に向けてプレゼンテーションの準備をする。
21	プレゼンテーションの準備	ゼミ論中間発表会に向けてプレゼンテーションの準備をする。
22	ゼミ論中間発表会	他のゼミと共同でのゼミ論中間発表会で、ゼミ論の概要を発表する。

23	ゼミ論中間発表会	他のゼミと共同でのゼミ論中間発表会で、ゼミ論の概要を発表する。
24	ゼミ論への取組	中間発表会で指導を受けた点に留意してゼミ論文を執筆する。
25	ゼミ論への取組	ゼミ論文を執筆する。
26	ゼミ論への取組	ゼミ論文を執筆する。
27	ゼミ論への取組	ゼミ論文を執筆する。ゼミ論発表会に向けて準備をする。
28	ゼミ論発表会	ゼミ論文を発表する。
29	ゼミ論発表会	ゼミ論文を発表する。
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	保科 圭汰			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

### <授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

### <授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素 有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、課題達成度 70%

### <教科書>

特になし

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (1)	身体組成の測定
3	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (2)	身体組成の測定
4	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (3)	エネルギー消費量の測定
5	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (4)	エネルギー消費量の測定
6	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (5)	栄養調査の方法
7	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (6)	栄養調査の実践
8	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (7)	栄養調査の実践
9	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (8)	栄養調査の実践
10	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (9)	栄養調査の実践発表
11	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (10)	献立の作成

12	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (11)	献立の作成
13	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (12)	献立の作成
14	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (13)	調理実習
15	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (14)	献立作成・調理実習のまとめ
16	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究 (1)	文献の探し方・読み方
17	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(2)	論文抄読(1)
18	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(3)	論文抄読(2)
19	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(4)	論文抄読(3)
20	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(5)	論文抄読(4)
21	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(6)	文献研究のまとめ(1)
22	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(7)	文献研究のまとめ(2)
23	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測 定・調査(1)	研究計画の作成(1)
24	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測 定・調査(2)	研究計画の作成(2)
25	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測 定・調査(3)	研究計画の発表
26	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測 定・調査(4)	研究計画の考察
27	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測 定・調査(5)	実験・測定・調査の実施
28	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測 定・調査(6)	実験・測定・調査のデータ分析
29	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測 定・調査(7)	実験・測定・調査のデータ発表
30		

科目コード	55009				区 分	キャリア形成科目			
授業 科目名	課題研究Ⅰ 《通年》				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする。課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう。そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう。

### <授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

### <授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

必要に応じてグループワークを実施する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する。各授業で指摘された課題を実施する（約1時間）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（レポート、事前課題等） 30%、発表内容 70%

### <教科書>

### <参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス①	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成、統計について学ぶ
3	研究論文の読み方①	研究論文の読み方について学ぶ
4	研究論文の読み方②	研究論文の読み方について学ぶ
5	文献検索①	論文検索方法、採択方法について学ぶ
6	文献検索②	論文検索方法、採択方法について学ぶ
7	文献検索③	論文検索方法、採択方法について学ぶ
8	課題研究-テーマに関する検討-①	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう
9	課題研究-テーマに関する検討-②	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう
10	課題研究-テーマに関する検討-③	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう
11	抄読発表①	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
12	抄読発表②	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
13	抄読発表③	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
14	抄読発表④	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
15	ガイダンス②	課題研究論文作成に関するガイダンス
16	研究テーマの再検討①	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
17	研究テーマの再検討②	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
18	研究テーマの再検討③	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
19	参考文献検索①	参考文献の検索方法を学ぶ
20	参考文献検索②	参考文献の検索方法を学ぶ
21	参考文献検索③	参考文献の検索方法を学ぶ
22	発表資料の作り方①	発表資料の作り方を学ぶ
23	発表資料の作り方②	発表資料の作り方を学ぶ
24	発表資料の作り方③	発表資料の作り方を学ぶ

25	課題研究を発表する①	背景・目的の書き方
26	課題研究を発表する②	背景・目的の書き方
27	課題研究を発表する③	方法，結果の書き方
28	課題研究を発表する④	方法，結果の書き方
29	課題研究を発表する⑤	考察，まとめ
30		

科目コード	55009				区 分	キャリア形成科目			
授業科目名	課題研究Ⅰ 《通年》				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする。課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう。そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう。

### <授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

### <授業の方法>

課題研究Ⅰは、ディプロマポリシー4 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。毎回進捗を確認しつつ、論文作成の基本を学ぶ。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する。各授業で指摘された課題を実施する（約1時間）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（レポート、事前課題等） 30%、発表内容 70%

### <教科書>

### <参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス①	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成、統計について学ぶ
3	研究論文の読み方①	研究論文の読み方について学ぶ
4	研究論文の読み方②	研究論文の読み方について学ぶ
5	文献検索①	論文検索方法、採択方法について学ぶ
6	文献検索②	論文検索方法、採択方法について学ぶ
7	文献検索③	論文検索方法、採択方法について学ぶ
8	課題研究-テーマに関する検討-①	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう
9	課題研究-テーマに関する検討-②	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう
10	課題研究-テーマに関する検討-③	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう
11	抄読発表①	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
12	抄読発表②	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
13	抄読発表③	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
14	抄読発表④	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
15	ガイダンス②	課題研究論文作成に関するガイダンス
16	研究テーマの再検討①	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
17	研究テーマの再検討②	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
18	研究テーマの再検討③	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
19	参考文献検索①	参考文献の検索方法を学ぶ
20	参考文献検索②	参考文献の検索方法を学ぶ
21	参考文献検索③	参考文献の検索方法を学ぶ
22	発表資料の作り方①	発表資料の作り方を学ぶ

23	発表資料の作り方②	発表資料の作り方を学ぶ
24	発表資料の作り方③	発表資料の作り方を学ぶ
25	課題研究を発表する①	背景・目的の書き方
26	課題研究を発表する②	背景・目的の書き方
27	課題研究を発表する③	方法，結果の書き方
28	課題研究を発表する④	方法，結果の書き方
29	課題研究を発表する⑤	考察，まとめ
30		

科目コード	55010				区 分	キャリア形成科目			
授業 科目名	課題研究Ⅱ 《通年》				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、仮説を立てる企画力を養い、科学的に検証することを目的とする。本講義では、グループにおいて、前半：調査・観測等の探索型研究を企画・立案・実施し、結果を科学的に解釈して評価する、後半：実験・試験等の検証型研究を企画・立案・実施し、結果を科学的に解釈し評価する。この過程を通じて、卒業研究を行なうための準備を行なう。

### <授業の到達目標>

1. 問題を提起して研究テーマを明確にすることができる。2. 科学的な理論やモデルを組み立て、仮説を設定することができる。3. 検証型研究で用いる評価項目や評価指標、そしてその要約値(代表値)を選択するために、なるべく多くの候補項目を観測できるようになる。4. データを要約するために、記述統計学的手法を用い、科学的に解釈し評価することができるようになる。

### <授業の方法>

1. グループワーク（ディスカッション、計測） 2. 省察活動（計測結果についてのプレゼンテーション）

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

必要に応じてグループワークを実施する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：設定したテーマについて下調べを行う（毎回、1時間程度）復習：毎講義で与えられた課題について調査し、実践できるように準備する（毎回、2時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、発表内容 70%

### <教科書>

### <参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

酒井 聡樹（2006/4） これから論文を書く若者のために 大改訂増補版 共立出版

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス①	ガイダンス，グループ決め，テーマの設定
2	課題研究テーマ検討	定したテーマについて内容を発表、評価
3	検証方法の検討①	検証方法を検討する
4	検証方法の検討②	検証方法を検討する
5	検証方法の検討③	検討した検証方法を発表，評価
6	検証方法の検討④	検討した検証方法を発表，評価
7	実験検証①	実験を行なう（被験者になる）
8	実験検証②	実験を行なう（被験者になる）
9	実験検証③	実験を行なう（検者になる）
10	実験検証④	実験を行なう（検者になる）
11	結果のまとめ方①	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
12	結果のまとめ方②	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
13	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ，発表する
14	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ，発表する
15	ガイダンス②	ガイダンス，新グループ決め，新テーマの設定
16	研究テーマの再検討	設定したテーマについて内容を発表、評価
17	検証方法の検討①	検証方法を検討する
18	検証方法の検討②	検証方法を検討する
19	検証方法の検討③	検討した検証方法を発表，評価
20	検証方法の検討④	検討した検証方法を発表，評価
21	実験検証①	実験を行なう
22	実験検証②	実験を行なう

23	実験検証③	実験を行なう
24	実験検証④	実験を行なう
25	結果まとめ①	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
26	結果まとめ②	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
27	結果まとめ③	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
28	課題研究発表①	今までの課題研究をまとめ，発表する
29	課題研究発表②	今までの課題研究をまとめ，発表する
30		

科目コード	55010				区 分	キャリア形成科目			
授業 科目名	課題研究Ⅱ 《通年》				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、仮説を立てる企画力を養い、科学的に検証することを目的とする。本講義では、グループにおいて、前半：調査・観測等の探索型研究を企画・立案・実施し、結果を科学的に解釈して評価する、後半：実験・試験等の検証型研究を企画・立案・実施し、結果を科学的に解釈し評価する。この過程を通じて、卒業研究を行なうための準備を行なう。

### <授業の到達目標>

1. 問題を提起して研究テーマを明確にすることができる。2. 科学的な理論やモデルを組み立て、仮説を設定することができる。3. 検証型研究で用いる評価項目や評価指標、そしてその要約値(代表値)を選択するために、なるべく多くの候補項目を観測できるようになる。4. データを要約するために、記述統計学的手法を用い、科学的に解釈し評価することができるようになる。

### <授業の方法>

課題研究Ⅱは、ディプロマポリシー4 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。1. グループワーク（ディスカッション、計測）2. 省察活動（計測結果についてのプレゼンテーション）を行い能動的に課題解決を図る。

### <アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：設定したテーマについて下調べを行う（毎回、1時間程度）復習：毎講義で与えられた課題について調査し、実践できるように準備する（毎回、2時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、発表内容 70%

### <教科書>

### <参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書  
酒井 聡樹（2006/4） これから論文を書く若者のために 大改訂増補版 共立出版

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス①	ガイダンス、グループ決め、テーマの設定
2	課題研究テーマ検討	定したテーマについて内容を発表、評価
3	検証方法の検討①	検証方法を検討する
4	検証方法の検討②	検証方法を検討する
5	検証方法の検討③	検討した検証方法を発表、評価
6	検証方法の検討④	検討した検証方法を発表、評価
7	実験検証①	実験を行なう(被験者になる)
8	実験検証②	実験を行なう(被験者になる)
9	実験検証③	実験を行なう(検者になる)
10	実験検証④	実験を行なう(検者になる)
11	結果のまとめ方①	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
12	結果のまとめ方②	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
13	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ、発表する
14	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ、発表する
15	ガイダンス②	ガイダンス、新グループ決め、新テーマの設定
16	研究テーマの再検討	設定したテーマについて内容を発表、評価
17	検証方法の検討①	検証方法を検討する
18	検証方法の検討②	検証方法を検討する
19	検証方法の検討③	検討した検証方法を発表、評価

20	検証方法の検討④	検討した検証方法を発表，評価
21	実験検証①	実験を行なう
22	実験検証②	実験を行なう
23	実験検証③	実験を行なう
24	実験検証④	実験を行なう
25	結果まとめ①	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
26	結果まとめ②	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
27	結果まとめ③	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
28	課題研究発表①	今までの課題研究をまとめ，発表する
29	課題研究発表②	今までの課題研究をまとめ，発表する
30		